續々群書類從

第十

續々群書類從第十

例言

一本篇には朝倉宗滴話記以下、凡二十四種を收む。

一朝倉宗滴話記一卷　一名宗滴物語といふ。宗滴は朝倉景敏の子にして、若年より父に隨ひ、所々の軍陣に從事したる其實驗談及意見等を述べ、子弟を誡しめたるを、萩原某これを筆記したるものなり。本書東京帝國大學史料編纂掛藏寫本を底本とし、黑川眞道氏藏本にて校合す。また二本共に異本として加筆せる條あり、皆採錄す。

一北條幻庵覺書一卷　北條幻庵は早雲の子にして、名を長綱法名宗哲といふ。神佛を敬ひ仁義を宗とし、文武を以て能く宗家を扶く。天正十七年卒す年九十七。本書は氏康の女、武州世田ケ谷の吉

良氏朝に嫁する時、彼の女に遣はしたる教訓書なり、當時武家に於る女子教育の一端を知るに足れり。原書千葉縣長生郡土睦村大字寺崎なる宮崎氏の所藏に係る。

一黑田家老士物語一卷　黑田如水長政父子の訓誡及武功談を家士某の筆記したるものなり。本書東京帝國大學史料編纂掛藏寫本を採收す。

一千代茂登草一卷　藤原惺窩の著にして、明德・誠・敬・五常・五倫及儒道と佛道とのかはり、天下傳授之辭等を掲げ、其母を諭したるものなり。書名は伊勢物語の在原業平の歌詞を採れり。蓋母の壽命を祈る意ならん。本書天明八年板を採收す。

一春鑑抄一卷　林道春の著にして、五常を記述したるものなり。本書內閣文庫藏慶安元年板を採收す。

一三德抄二卷　林道春の著にして、上卷に智仁勇の三德と、下卷に

は理氣辨・大學・仁・義・禮・智・信、とを記述したるものなり。本書内閣文庫藏古板本を採收す。

一敵戒說一卷　林道春・同春齋・同春德父子三人の著にして、敵戒の二字を取出て、國を安じ家を治め法度を失はざる事。敵に勝ちても始めて戰に臨むが如くせよ、戒は道の寳なりと教喩せしなり。本文漢文に記し之に和解を附し讀み易からしめたり。本書内閣文庫藏古板本を採收す。

一翁問答八卷　中江藤樹の門人躰充、師の傍に在りて學問道德、其の他種々なる事に就き、平日疑問論難に涉る事を質し之を記し、遺忘に備へたるものにして、藤樹の意見として見るべきものなり。本書慶安三年板を採收す。

一謫居童問六卷　山鹿素行の著なり。素行は兵學を以て一世に名高く、兼て名教を以て自から任ず。寛文六年罪を得て播州赤穗に

幽せらる。赤穗侯淺野長直之を優遇し、弟子の禮を執る。素行大に感激するところありといふ。本書は其謫居中道德及武士道に關することを記述したるものにして、寛文八年自記の奥書あり元祿中長直の孫長矩、吉良上野介の事により死を賜ひ國除かる。遺臣四十七人遂に復讐の擧ありしは、蓋素行の教化に基しならん。

本書は寫本にして頗る世に稀なるものなり。文學博士井上頼圀氏藏本を底本とし、松浦伯爵家藏本にて校合す。

一光圀卿教訓一卷　水戸光圀卿より子の綱條卿へ示されたる教訓を、家臣安積覺が筆記せられたるものなり。要するに人君の教育法を記したるなり。本書内閣文庫藏寫本を採收す。

一學問關鍵一卷　伊藤東涯の著にして、初學の者に學問の大旨を懇說したるものなり。本書帝國圖書館藏元文板を採收す。

一本朝學原浪華鈔七卷　本朝學原は松下見林の著にして、漢學の

傳來・漢呉音・倭訓・詩賦・學派・學校・釋奠等を列記したる文學史なり。然れども本書は言簡に事約にして淵源を詳にせず、よりて眞野時繩更に見林に就き其本據原由を質し敷衍したるなり。浪華の名は百濟王仁の歌の初句を採るといへり。蓋王仁は本朝の學源なりといへるならん。本書黑川眞道氏の藏正德六年板を採收す。

一荷田大人創學校啓一卷　荷田東麿、國學校創立を幕府へ請願したる書なり。古來文學の盛衰を述べ、古學復興は古語研究の必要にありと論じ、更に斯文の興廢は固より幕府の取捨にありと督促したるなり。本書は東麿の歌集春葉集附錄を底本とし、平田鐵胤校合板本によりて校訂す。

一和學大概一卷　村田春海の著なり。和學の紀源より立論し、和學は一家の學ならずして、皆儒生の兼學せし事を論じ、必竟儒者は經世治國を以て本旨とすれば、我國に在ては、古來建國の大體、制

度の沿革、人情世態の變遷を了解せずはあるべからずとし、これを講述するに三科とし、第一に國史實錄の學、第二に律令典故の學、第三に古言を解釋する學とし、科學に付ての書籍を列記し其順序を示したるなり。本書寫本を採收す。

一漢學紀源五卷　薩摩藩士伊地知季安の著なり。漢學の紀源より歷代の先哲及び足利氏の季世に於る桂菴和尙幷に其門人事蹟を列叙したるなり。本書は主として桂菴和尙の薩摩國に朱子學を唱へし事を掲け、附錄に伊地知氏桂菴和尙の頌德碑を撰し、佐藤一齋の添削を請ひたる往復書簡を掲けたり。本書島津侯爵家藏本を採收す。本書中「」印にて圍たる所は朱書せるものなり。（）印にて圍たる所は底本のまゝを存せり。

一古點譜一卷　高雄寺傳來に係るものにして、寬永十年僧顯證拔萃に成れる事與書に見ゆ。然して又元祿七年後人これに唯識論

の朱點を興福寺に於て追加したるものなり。本書黑川眞道氏藏寫本を採收す。

一乎古止點譜一卷　後深草院宸記・中右記・長秋記等に於ける御書始の點圖及び釋策彥所傳點圖・菅家點・江家點・紀傳明經點等を集錄したるもの、古點譜の參考に供すべきものなり。本書黑川眞道氏藏寫本を採收す。

一京都往來一卷　本書延寶二年鈴鹿定親の作と卷尾に記せり。年中行事より、京都市內の町名、及附近の名所舊蹟を記したるものなり。今古板本を採收す。

一自遺往來　一名江戶往來といふ。本書作者詳ならず幕府正月の規式・諸國土產の進物類、及江戶方角等を記せり。時代も亦知るべからずといへども、慶長以後元祿以前の作ならんと思考せらる。流布板本も二三種に止まらざるが如し。今古板本を採收す。

一源平往來二卷　本書作者詳ならず。源平盛衰記の文章を拔萃せしものなり。今元祿十四年板を採收す。本書白石正邦氏の藏本を採收す。

一商賣往來一卷　本書作者詳ならず。商賈普通通用の文字及一切の商品を列記したるものなり。時代も亦知るべからずといへども、寶永以後享保以前の作ならんと思考せらる。流布板本及註解本許多あり。

一名產諸色往來一卷　松葉軒龍水の著にして、工商普通通用文字品名等を列記したるものなり。松葉軒の時代今考得ずといへども、德川氏中世期の作ならん。本書鱗形屋開板の本にて採收す。

一諸職往來一卷　本書作者詳ならず。士農工商に涉り一般の敎訓を列記したるものなり。時代も亦知るべからずといへども、德川氏中世期の作ならんと思考せらる。流布板本も二三種に止まら

ざるが如し。今古板本を採收す。

一消息往來一卷　高井蘭山の著なり。書簡文に於る普通文字を列記して、初學の者に諭したるなり。時代は天保前後の作ならん。本書流布板本及註解本許多あり。維新以前に於ては、商賣往來・消息往來と並び、一般小學の習字手本に流行せし事は、普く世の知るところなり。

一本書編次に就ては、黑川眞道氏監修の勞を執られ、文學博士井上哲次郞・文學博士井上頼圀・文學博士萩野由之・文學士白石正邦の四氏は、或は指導、或は祕藏の諸本を貸與せられたり。茲に附記して一言其勞を謝す。

明治四十年二月

續々群書類從第十教育部

目錄

卷二……五七五

卷三

卷四

續々群書類從第十教育部目錄終

續々群書類從第十

教育部

朝倉宗滴話記

宗滴樣御雑談共はし〴〵萩原覺

一山城にても、平城にても、むたひに責べき事、大將のふかく也、其故は可ㇾ然兵共目之前にて見殺物にて候、是又分別之第一也、

一先年京陣之時、東寺に公方樣をはじめ、其外御近邊に、皆々御陣取候、當方之衆はにしの庄に、御大將陣西七條御所之内、せんしやう寺迄御陣取候、□□□□□□の國山崎よりにしのおかかいで迄もちつゞけられ候つる、然ば宗滴樣御異見に、南表をば打捨られ、北表京之方を本に要害堅固にさせられ候て然べきのよし被ㇾ仰候、其分にやうがい拵させられ候處に、道ゑひ樣六角殿をはじめ申、敵ある方をばうちすて、てきなき方を、要害堅固にさせられ候事いかゞの旨、おの〳〵御不審候ところに、程なくあんのごとく北の方江まわりとりより候間、北むきになり候へて御とりあわせ候、然ば前に入ざる北おもてのやうがい御用に立候間、さりとては奇特なるよし、天下の諸さぶらひ御取沙汰のこと、

一武邊の義に付て、一切成まじきといわぬ事也、心中の程見かぎられ候者也、

一敵のふまへたる所を取懸候者、敵こたへ間敷などといわぬ事也、取懸候へて、自然敵こたへ候へば、諸勢心かわるものなり、

一馬には時々堅大豆を水にふかして可ㇾ飼也、野陣などにて鍋釜無時之用也、

一仁不肖に不ㇾ寄、武者を心懸る者は、第一うそをつかぬ物也、聊もうろんなる事なく、不斷理致義を立、物耻を仕るが本にて候、其故は一度大事之用に立つ事は不斷うそをつきうろんなるものは、如何樣の實義を申候へども、例のうそつきにて候と、

かげにて指をさし、敵御方共に信用なき物にて候間、能々たしなみ可レ有事、

一惣別武者之時は、一切如何樣なる大事之儀をも、口上にて申付候間、少もうろんたる事にては無二勿體一事、

一先年加州湊川を被レ越御合戰候時、被二討捕一頸數五百餘に候、其内に一向幼少なる首をば撰び出され、彼取手を被二召寄一直に被二返遣一候事、但前々足輕合戰之時は御撰なき事、

一大事の合戰之時、又は大儀なるのき口などの時、大將之心持見んために、士卒として種々にためすものにて候、聊も弱々敷體を見せず、詞にも出すべからず、氣遣油斷有間敷候事、

一武者は犬ともいへ、畜生ともいへ、勝事が本にて候事、

一大將たる仁は不レ及レ申、似合の人數持候人覺悟の事、第一内の者能々なりたち候やうにと、不斷心懸看經すべき也、殊に久敷侍もとより新參當參の者にても、忠節奉公仕たる跡、幼少の子供あらば、いかにも大切に取立、人に成やうに懇にすべし、自然實子無レ之侍をば、親存生之時に似合の養子を仕候へと意見を申加へ、跡の不レ絶やうに申付候へば、無レ子ものも安堵の思をなし、忝存候て身命を輕んずるものにて候、如レ此懇に候へば、内の者其加にて聞及び見及び頼もしく存じ、内輪の者は不レ及レ申、他家より忠節奉公可レ仕とて、可レ然者共出來候事、

一主人は内の者の罰當り、又内の者は主之罰當る也、君臣共に油斷有べからず候事、

一内輪の者所持の馬鷹、其外太刀長刀繪讃唐物以下、無理に所望有間布事、惣別内輪に所持の重寶は、何も主の物同前也、但一旦所望あらば、相當一倍を以て所望有べし、無二其儀一候へば見たり聞たりして、内輪に物をたしなむものなくして、結句前々より所持之名物をも、他國へ出す事候、能々分別有べき事、

一人をつかふに、二人こらへ候者あれば、譜第の者を召仕れ候也、其故は先内之者不レ屆事を主人こらへ候、又主人に對し述懷を内之者こらへ候、如レ此互にこらへぬき候へば、子飼之もの餘多出來大事之

時用に立候、大犯三ヶ條之科は、更に主人之成敗にあらず、此段右衛門大夫殿、宗滴へ直に被ㇾ仰候事、

一召出す風情、又は聊の物をたべさせられ候とも、一人二人執分たるやうにはすべからず候事、

一内之者にはおぢられたるがわろく候、いかにも涙を流しいとをしまれたるが本にて候由、昔より申傳候、左様に候はでは、大事之時身命を捨用に難ㇾ立候事、

一内之者にあなどらるゝと、主人心持出來候はゞ、はや我心狂亂したるよとさとるべし、其故は敵にさへあなどられまじき身上を、何とて内之者にあなどられ候はんずるや、一段比興なる心中且は家之亂の基也、

一國郡を持つ大名、武者を心懸、器用の名執する人は、天下共に同物也、第一近く（本ノマヽ）輕也、まづ我身の不辨を闇き、内之者時宜調へ候やうに普く不便がり、公界（クガイ）へはゞをさせ、末々迄も威勢有やうに崇敬候へば、諸事に付て德多き也、執分いかなる長陣、又は俄の情役の時も、主人の雜作不ㇾ入候事、

一たうせい、人仕之手本は、六角少弼殿三好方家中眼前事、

一大名比興の名執をするかた〴〵是又一天下共に同前、いかにも重々敷あたりの人さけおし無禮にて第一狐疑之心有て萬事人疑をなし、内之者より隔心せしめ、或は家中之者有力にて人に參會し、物すきなどする事も小眼に懸け、或は世上へはゞをし、藝能など嗜事をきらひ、折々は女房衆小姓衆を近付、我身の無器用をかげにて呵候歟と立聞をさせ、やゝもすれは、毛を吹て疵を求め、理不盡に鼻をつかせ、其跡知行分多少によらず、屋內迄押執、米錢黃金を藏に積重ね、聊も絕事なく財寶持たるを滿足し、充滿無ㇾ極、雖ㇾ然一度不慮の凶事出來候はば、必積置たる財寶悉く無體に消失、其家共に滅亡候、此類古今共に聞及び候、執分畠山卜三以來數多有ㇾ之、當國には右衛門大夫殿眼前の事、

一惣別代物黃金充滿候へば、大名によらず末々の者迄も、一度凶事出來候て滅亡するものと相見へ候、

•近來は田屋善定幷上木覺勝など眼前之事、

一大名比興成きやうき氣□□□□□□□□其內輪には無㆓沙汰㆒候へ共、惡事千里とやらん、悉他國まで

聞ゆる物に候間、無二油斷一嗜あるべき事肝要也、

一英林樣御身上奇特に神變難レ計事多く候といへども、第一慇懃を以て國を治めさせらるゝ由、年寄共申候へる、諸侍への儀は不レ及レ申、百姓町人風情迄も、御懇切之御文言、宛所なども過分忝樣に被レ遊候に付て、悉身命を捨御みかた仕たるよしの事、

一英林樣御諚に、小太郎者隨意にてたち候間、我々以後は諸侍に對し可レ爲二無禮一候、よりより慇懃の事を御意見候へのよし被二仰出一候旨、桂室樣常に御物語候事、

一當世は上意に付て國持幷近侍之差別無レ之、雖レ然我々は不レ混、自餘書札之禮儀等少も本々に替まじきの由、堅萩原に被二仰含一、御狀等認させられ候事、

一爲二音信一の秘藏の馬鷹、其外重寶人に遣事候に、書札慮外に候へば、彼遣たる珍物盡く無になり、出さゞるには、おとりたる事に候、下手と上手との氣遣これほと違申物也、能々可レ有二分別一事、

一國を執人之扶持する事、濃州古持是院は何萬貫何千貫二百貫廿貫とつませ置、諸侍に相當扶持候、又英林樣御扶持候やうは、そんちやう誰々が跡々に御扶持候と御知行被レ下候、然ばらんふかうらんにて御知行一通にて五百石千石被レ下候も有り、又五通二通被レ下候得而も五十石百石なきも候へ候、如レ此傳被レ下候へば皆々忝存忠節奉公仕候に付て、至二于今一御國長久彌御繁昌候、貫數定り御扶持候へば、侍の高下相見へ候て無レ曲候、然間濃州は漸三十箇年はかり續候歟、其以後五十年に及び錯亂候事、

一人間として蓄なくては不レ叶物にて候、雖レ然餘に德人のごとく蓄を本として、代物黄金過分に集置仁體は、本々より武者はせざる由申傳候、但伊豆之相雲ははりをも藏に積べきほどの蓄仕候つる、雖レ然武者邊につかふ事は玉をも碎つべう見へたる仁に候由、宗長常に物語候事、

一主人內之者の覺悟よく見知らずして、執分召仕候事不覺也、其故は後難をも不レ辨、當座の得手方ばかり馳走仕候を、正直の奉公人と心得、別而目をかけ召仕候事、併家を滅亡候基也、

一番匠のすべき事を河原の者にさせ、又河原の者のする事を番匠に申付るごとくなる人、つかひ目き

かず下手の最上也、いかなる利根の中にも、得手不得手は有ものにて候、それ〴〵に隨ひ、似合ひ〳〵に召仕候へば、諸事打任せ主人の辛勞ゆかざるものに候事、

一朝夕の食は善惡面にて喰候はんずるが本にて候と、幼少の時より年寄衆申候つる、然間我等は一世の間內儀にてしたゝめたる事無レ之候、自然桂室樣御如木御出の時は御相伴したる事候、左候間、萬曲て皆共に申付直させ候事、

一我々子かたわに候とも、妻を執迎さいあい候はゞ、子共出來可二相續一候か、然者實子を止養子を仕候事、不レ知者は不審すべく候、天澤樣御代小次郎殿幼少之時、朔日節供出仕候體見及候に、諸侍のあひしらひ一向無レ曲體に候、彼方不肖には候へども、英林御孫と申、子春のさしつぎ次郎左衞門殿子に候、雖レ然末々に成候へは若レ期に候か、不レ及二是非一候、扨は我々子共、彌末々に可レ成候、もとより家來の者共可二下座一事、不便之至口惜次第と存きはめ、所詮實子を止め摠領へ近くなすべきためを申請家督に相定候、是も內の者共の爲、始終可レ然之樣にとの一儀迄に候、惣別家內の者共、何れも英林樣不斷召遣はれたる歷々の人數に候、我等は新座之主と存置、皆々行末能樣に候へかしと、旦夕念願ばかりに候事、

一英林男子八人候、合戰之時自身持道具に血を付候は、我等一人にて候、十八歲より七十九歲迄、自國他國の陣十二度、其內馬の前にてさせたる野合の合戰七度に候か、其內三度持道具に血を付候、三十の年大一揆伐崩刻、中江河原におゐて馬上より長刀にて討候、其首中村淸右衞門にとらせ候、三十一の年玄忍出候時、帝釋堂にて馬上より射付、其首古岩井宗左衞門にとらせ候、五十一歲京都におゐて泉乘寺合戰の時、敵三人射付首ども皆々にとらせ候、如レ此內之者同前に働候間、士卒よこふり有間敷之由、常々御雜談候事、

一十八歲（明應三年）豐原寺江日歸窂人出張之時、十月廿一日合戰有レ之、十九歲（明應四年）柳ヶ瀨合戰陣なし、廿七歲（文龜三年）敦賀城責、卯月三日合戰有レ之、廿八歲（永正元年）五郞殿出張に付て彌合戰有レ之、九月十九日金井殿父子討二執之一、三十（永正三年）の年に大一揆之時、七月十七日豐原より退口合戰有

レ之、同八月六日中江河を越し合戰有レ之、敵數多討ニ執之一、三十一（永正四年）歳玄忍出候時八月廿九日合戰有レ之、四十（永正十四年）の年、丹後陣足輕合戰幷城責有レ之、四十九歳江州北の郡大谷七月十六日城責有レ之、五十一歳京都泉乘寺十一月十九日合戰有レ之、五十五歳加州陣十月廿六日湊川を越し石河郡之内におゐて合戰有、其外度々足輕合戰有レ之、六十八（天文十三年）歳濃州陣九月廿二日井之口悉放火、七十九（弘治元年）歳加州陣七月廿三日山城三ヶ所落居、但二ヶ所にて合戰有レ之、八月十三日濱之手敷地口一日之中兩三度之合戰、何も馬之前にてさせ候、已上十二度之事、

一覺有レ之大將といふは、一度合戰之時持道具を自身執候はでは難レ成由、昔より申傳候事、

一我々一世之間、敦賀へ上下何時も一日懸に仕候、此儀は我等彼郡を預り申に付て、自然之時之用所迄に如レ此候事、

一我々七十に餘候迄、毎年川より北の道筋見候はんために、鷹野と號し細々下候、是又別義にあらず候、彼國より一度形入（カターン）仕候はでは不レ叶と存、其時の用所迄に候、惣別我々存命中は武者奉行可レ仕候間、何時も教景可レ罷向候、無案内にて繪圖などを以て、卽時の手遣は淺猿と存不斷の心懸無ニ他事一候事、

一惣別國中の道筋、かんしよ道、又順道、ふけ馬の沓打候所、又不レ打所、能々可レ知事肝要に候、

一武者を心に懸候仁は、隣國之儀は不レ及レ申、諸國之道のり、其外海山川難所等可ニ尋知一事專一に候事、

一合戰之勝は、大略あぶなき行仕候はでは難レ成之由、古今申傳候、但英林樣被レ仰候は、定之勝は敵の勢を知候はでは難義候由、被レ仰候由の事、

一侍は仁不肖によらず、まづ若年の時器用の名執をする事、弓矢の冥加果報の第一也、其故は若時無器用なる名執仕たる仁は、成人候て器用者に成候は稀に候、又若年之時、器用成仁は、成人候てたとひ無器用之樣子に候へども、暫は其沙汰不レ聞物に候間、嗜肝要候事、

一一度卒度の事に合候とて、久武者をも不レ見候はで功者ぶり仕候者ども、一段おかしき事に候、其故は古泉四郎右衞門常々語候つる、武者遠なり候へば、足輕に罷出候時、矢風おそろしく、細々打出、敵に合

候へば、少々の矢をばかりおとし候はんずるやうに存ずる物にて候と申候つる、さりとは無ニ餘儀一候、人數持候人も可レ爲ニ同前一候、我等は十八歳より七十九歳迄、諸陣之間十年と隔たりたる事は稀に候事、

一功者の大將と申は、一度大事の後に合たるを可レ申候、我々は一世之間勝合戰ばかりにて終におくれに不レ合候間、年寄候へども、功者にては有間敷候事、

一或は陣執、或は陣替、又は執出などの事、時により事により候物にて候へども、凡雨の降日用意候て、諸事を申付候へば必照日に合ふものにて候、是は鷹野風情一切之出行事普請以下に付て可レ有ニ覺悟一事也、惣別海上もあれ、のわきと申事候、物の下手は照日を見かけ用意候間、必出行普請等の時あれにあふものに候事、

一舟に醉事、向に敵候て心懸る事候へば、一圓に不レ醉ものにて候由、皆々被ニ仰含一候、先年丹後江(洲イ)舟手を以御勢遣候處、如レ案一人も醉たる者無候、打もどりさまには、皆醉たる由申候事、

一當代日本に國持の無器用、人つかひ下手の手本と可レ申人は、土岐殿・大内殿・細川晴元三人也、

一又日本に國持人つかひの上手よき手本と可レ申人は、今川殿義元・甲斐武田殿晴信・三好修理大夫殿・長尾殿・安藝毛利殿・織田上總介殿、關東には正木大膳亮殿、此等之事、

一讓持に持たる國持は、是非の沙汰に不レ及候事、

一義景樣の器用は、英林樣已來有間敷候か、其故は我々八拾歳に及候を加州武者奉行に被レ爲レ立候事、大丈夫成御心中難レ測候、但自今以後を守て肝要に候間、如何可レ有旨常々被レ仰候事、

一歩立は初心に候とも、弓の執扱、矢をはぐる所手に入候はゞ、武者に弓を持べく候、手元不辨に候はゞ、歩立は如レ形候とも、弓を置鑓を爲レ持可レ然候事、

一小兵なる射手は鑓の代に弓を持候間、ちやうね木ぼうは持まじく候事、根五つばかり細すやき五つ持候て可レ然候事、

一我々若時より天澤御恩は重々不レ及レ申候、殊更敦賀之郡之儀被ニ仰付一候、宗淳御恩は一向無ニ爲レ崇事一候、但天澤御恩にも劣間敷候事に候、其故は丹

後・近江・京都・加州・美濃如レ此諸國武者奉行として被二相立一候、御厚恩無二申計一之由常々被レ仰候事、

一不レ依二上下一此等式の事には、鼻をつき成敗に及まじきと心得、隨意緩怠比興を仕候事、一段未練至極なる心中成事、

一生付どん性たる者は、眞實無二如在一事候間、不便之至に候、如レ形心得たる者、我知慧ほど人は有間敷と身をゆるし、比興無理非道を仕候はゞ、一段おどけ者にくき心中可レ爲二重罪一事也、但上下によるべからざる事、

一人之恩は不斷不レ可レ忘候、又人に恩をしかけたるがよく候、それを忘れず候へば、結句述懷出來候て、前々しかけ候恩も無になり、必義絶になる物にて候事、

一人に媒申曖事(アツカツ)など我意見にて不二相果一候へば、失二面目一申候て不足に存、以後斟酌之事、近來我身を持上ゆるしたる事、比興の至に候、人を大切に存候はゞ、幾度も曖之馳走すべき事人之本にて候、隨分双方のため可レ然候樣に申候て、意見を不レ聞ものこそ恥にて候へ、更に曖人の恥不足には成まじく候事、

一賢き者の子におどけは次第に多出來る物也、おどけ者の子に賢きものは稀に候事、

一我々八十歳に及迄、惣領殿に對し申、不似合體の奉公馳走仕候事、へつらいたる樣にかげにて申曖由候、無二分別一申事おかしき儀に候、其故は我々百歳に成候とも、行步叶候はんずる間は、武者を捨まじく候、惣領殿趣向よく候へば、國中の諸侍いか樣にも申付たきまゝに召仕事に候、殊更に英林樣白髮頭に甲をめし、御辛勞を被レ成、被レ召たる國に候間、第一御國の爲に候、外聞はいか樣にも候へ、如二御主一何事も御意次第とはひつくばうべき心中に候由、常々被レ仰候事、

一尋常の落髮は主にをくれ、或は勘氣の身に候か、又は隨意の覺悟に候か、此等の外にはなきものにて候、一向發心出家の儀は不レ及二沙汰一候、先年性安寺殿御落髮之時、御相伴に落髮仕候へかしと、內々意見之族候つれども、存の旨候て相抱候、然者御西殿不慮の御進退に付て、彼御命のため頭を用に立候間、滿足之由被レ仰候事、

一我々十九歳の時、芳永色々武者雜談御沙汰候て、御聞かせ候つる事多き中に、合戰之時武者奉行たる人諸勢の跡に居たるは惡候、先に立たるが本にて候、其故は或は分捕仕たる者、或は手負たる者、大將に見せ候はんずるとて旗本へ集り候、然間序口之人數厚成候へて彌强候、跡にひかへ候へば、退事は得手方に候間、右のごとく旗本へ悉集り候とて、一口之人數すき候て、敵二三掛り候へば必後をとり候、其時大將けなげに候て、こらへ候へば、諸勢に踏ころさるゝ爲體、相構て〳〵能々可レ有二覺悟一事肝要候由御物語候間、我々一世之間合戰之時、一度にても跡に控たる事無レ之候、其隱れあるまじき由、常々被レ仰候事、

一諸勢を召連、何方へつかはれ候とも、我々などは武者奉行たるべく候間、重々敷候ては、一向不レ可レ叶候事、

一大將と申は、御屋形樣にて候間、かろ〳〵敷候ては、一向不レ可レ然候、扇の要のごとくたるべき由、芳永にも御雜談候事、

一大將すべき仁は、先とらざる弓矢に名を可レ執心懸肝要に候、無器用之名執仕候へば、縱合戰候時、働よく候共、まぐれ當と申候而、士卒一向下知をも不レ聞物に候、不斷嗜第一之由に候事

一芳永我々弓をすき候かと御尋候、其時御雜談之事多き中に、主人弓にすき自身步立仕候へば德多候、其故は內輪之者共、主人の御伽に弓可レ仕とて末々迄稽古仕候間、射手多出來候、主人步立不レ仕候とも、士卒に弓稽古仕候へと申付候へば、てんやく又は過怠之やうに存候て、一向射手不二出來一ものに候、殊更大將弓にすき候へば、不慮之合戰有レ之物に候、其故は或は野伏させ、或は射こみなどして見る物にて候、惣別敵味方相互にねらひあひ候物に候間、卒爾には合戰なきものにて候、自然野伏など仕候へば、不慮に合戰ある事に候、其上唐土日本共に、弓執とこそ申傳候へ、鑓取とは不レ申候、いかにも不レ叶候とも、弓に數寄自身可レ有二稽古一事肝要候由被レ仰候事、

一犬追物御射手組之衆、武者之時馬上に弓不レ持仁は一段不覺也、其故は造作を仕、稽古候は何之時の用所に候や、但一圓步立不辨に付ては不レ及二是非一

候歟、雖レ然馬上にて鑓長刀持候はんずるよりは、弓持たるはますべく候歟の事、

一天下に權柄を執たる仁體、細川常桓幷三好家、其外諸國之侍合戰に伐負候時、昔かゝりにて候哉、自害候事無念之至不覺也、其故は敵は仁不肖には不レ可レ依候間、いか樣なるものにても候へ、相手一人取可ニ討死一事に候、近年之權柄執しは、木澤左京亮大刀下において討死候、古今稀なる働無ニ比類一候事、

一尋常の年寄、夜は目いねられず、徒然なる由に候、我々は今徒然なる事一向なく候、其故はまづ國中におゐて北邊之儀は不レ及レ申、或は東を請南を請西を請可ニ合戰行一、或は不慮に御屋形樣と只二人になり、惣國を敵に請合戰切勝べき調儀又加州之儀は不レ及レ申、其上に隣國江執懸伐取べき調儀、又天下を執御屋形樣上京させ可レ申謀略、重々樣々思案候間に夜を明し候間、一段之慰心之嗜無ニ申計一候間、聊も徒然に無レ之候事、

一隣國之儀は不レ及レ申、諸國執合之趣、同合戰之勝負の行等、當世之諸國侍、一向不レ知ニ案内一と聞候、近來無ニ存寄一なる事也、存知たる者不レ依ニ僧俗一尋求懇に聞候へて、よく可ニ覺悟一事肝要に候、其故は諸事に付て、後學行掛になる事德多候也、

一武者遣に付て、大方さげすみつもりは有物に候、但眞之果所は、八幡も被レ知間敷由、常々被レ仰候事、

一我々無欲心なる由、世上に申族有レ之由候、一向相違おかしき事に候、其故は何時にても、加州之儀又は濃州邊可レ給之由候て、御人數被ニ仰付一候ば、聊辭退申まじく候、但ちりぢりとしたる道なき事の欲心、又は被官家來之者に不レ謂義申掛、つり貪可ニ押領一欲の所存、若時より努々無レ之候、然間扶持せざる陣衆被官人等我々代にて餘多出來候、大慾者いかなる仁體にも負まじき由、常々御ざれ言候事、

一惣別先祖之判形無體に破候仁體、其身一代は能樣に候へども、子孫に報ひ罰當り、跡も絕ものにて候と相見へ候、誠は天道おそろしき事也、我々兄弟の儀を申事は如何に候へども、孫五郎殿・孫七郎殿・英林樣之御判を被レ破子孫退轉之事眼前之事、

一猿樂道に蓮花を治ると申事、一段秘事にて候よし、善珍彌次郎申候、是は侍之上に專可レ入事は口傳有レ之候事、

一仁不肖に不レ依、又上下に不レ限、武者數寄たる侍は、天道之冥加候て、衆人愛敬福分之相也、又無數寄に候て、武者嫌の侍は、佛神の綱もきれ、第一人ににくまれ、ひんぼうの相也、其故は武者嫌は諸人に對し懇なる事なく、内の者には目を掛ず候へど、をのづからすいびするを常々御雜談候事、

一侍は信心肝要也、但餘に過たるはおどけ者の名執すると相見へ候、其故は少々の事をも、神佛のとがめぞと思なし、心のあやかりに成ものに候、惣別之看經には現世安隱後生善所第一弓矢冥加、此外は有まじく事に候、色々難題を神佛へ祈誓仕懸候へば、神は非禮をうけざる故に、諸事不レ叶事共に候、當世は布施をもしか〳〵と不レ出、剩神社佛寺領無體に落しとり、天役に祈禱をさせ候間、いかなる貴僧高僧も手柄不レ見、神佛納受なき事に候、英林樣毎日之御看經は、御書付を以て光明院に御布施にてさせ被レ申候、朝御手水參候て則彼御卷數御頂戴候、もとより毎月之御祈禱も過分之御布施を以て、貴僧高僧に被ニ仰付ニ候、御自身の御看經には、御公事を被ニ聞召ニ候て、御成敗嚴重に被ニ仰付ニ、其外に武藝を專に御沙汰候より、御子孫繁昌御國靜謐天下無雙の事、

一敵より夜討之時は、我々の陣所に踞居候て、敵のつきたる所能々聞すまし、弱き所へ助合戰候はんずる事肝要に候、惣別何時も敵執掛候はんずる時は、柵より外へ不レ可ニ罷出ニ、そのゝち柵をゆひ候間、其覺悟專一に候、敵執掛柵を切候はんずる時は、まづ射させつかせ強く相支、敵退かんずる時は、見合次第にて可レ然事、

一我々不斷之形儀隨分可レ嗜とは存候へども、毎々比興なる氣遣は出來安きものにて候、紫野の眞珠庵飯尾宗善とて、入道僧之一段耻敷大老に候、彼仁障子越に置申、不斷しやさう仕度念願之由、常々被レ仰候事、

一武者に聞逃は不レ苦候、見逃は大に惡敷候、悉被レ討候はでは不レ叶ものに候、聞逃は行にて候間、更に逃たるにては有まじく候、惣別大事之退口には込掛り候はでは、のかれざるものに候由、古今申傳候、然間耳は臆病にて、目之氣なげなるが本にて候由、申ならはし候事、

一惣別越前之諸侍上下不レ依、加州之儀心掛ざる者は、第一先祖に對し不孝、又は敵同前たるべき事、

一武者雜談は、いかにも功者之語を信仰せしめ、能く聞べき事肝要に候、但若時は自然手前におゐて功者ぶり仕候へば、惡敷名執をする事に候事、

一武者邊之儀に付て人を讃に、あれほど成るものは有まじきとはいはぬ事也、ならぶ者はありとも增ものは有まじきと譽たるがよく候由、芳永御物語候事、

一敵の行、知やう大事之秘事也、何時も敵之者に代物黃金をあたふれば、有のまゝにしらするもの也、隱密を以の故に、公界の人は不レ知候、其行をする間名大將とはいはるゝ者也、

一大川に舟橋を掛る方便習有レ之、まづ射手に川面を射させて、其つもりを以て我方の川際にくひを打、舟を橋に大綱を以てつなぎ、扨川上之舟にかい楯をかき、射手を置川上より向へながしかくれば懸ると也、

一義景樣御幼少にて大岫樣に御離被レ成候刻より、愚老を被二召寄一、萬事御異見をも申上候へ、何たる義をも可レ被二聞召一之由度々御意に候つる、誠に御器用奇特成御事と存、御奉公每々無二他事一心中に候、御成人已來加州之義は不レ申レ及、諸國隣國京都迄御加勢、又は御人數等被二仰付一候得共、武者邊之儀に當國へは一切其沙汰無レ之御長久彌增候、此上は唯今相果候ても毛頭存殘義なく、但今三年存命仕度候、知レ斯之儀不レ至者、老につれ命をおしみ候事、おどけ者に候由沙汰すべく、全命を惜候事にてはなく候、織田上總介方行末を聞屆度念望計の事、

朝倉太郎左衛門入道宗滴話記　萩原本書記之

朝倉宗滴話記終

北條幻庵覺書

おぼえ

一きら殿御屋かたと申されべし、こなた御やかたをばおだはら御屋かたと申てよく候、又は小田原殿とも樣とも申され候べし、

一御としうちにては、上さまと申候はん事、もちろんこなたかたへの文の上がき、せうがう候はでかなはぬ事にて候、なに殿といふ御名つけ候て、もつとものよしげんあん申候つると大かた殿へ申給ふべく候、これは正月の文より入候べく候、

一大かた殿をば御たいはうと申されべく候、たゞしこなたかたへの御文には、大かたとのとやわらげ御かき候てよく候、心は一つにて候、

大方（たいはう）こゑのよみ（ほうかた）よみ　これはひつきやうしてはおなじ事也
大上樣（ほうかみさま）ひくわんしゆのことは　とも申物也

一きら殿の御前（まへ）へまいり候はん物、上らふとりつぎ給ふべく候、又後々（ノチ）の事はあまりきやくしんもかへりてわるく候べく候、

一しうげんのときのもやう、あなたのしたてしたる人の申やうにせられ候べく候、大くさはなにと申などゝたづね申候とも、おぼへ候はぬと返たう候べく候、

一さだめてつねの三こんにて候べく候、たゞしくほなどまいり候はゞ、ほん〳〵のしき三こんにて候べく候、さやうに候はゞくほによくたづねられ候て、しだいちがはぬやうに候べく候、つねの三こんにて候はゞべちきなく候ほどに、やうがましく申されまじく候、

一さんこんの三さか月、しうげんのときは三ッにて御まいり候物にて候、せつく、ついたちにはさ候はねども、くるしからず候、いわれは御なりの時は上に候かわらけ一ッにて、三とまいり候、

一引わたしのとき、くはへの事、くはへはいで候へども、くはへ候はぬ物也、そのごとくに御さた候べく候、　しき三こんの時はもちろんにて候、

一みうち衆御れい申され候はんやうだいの事、せたがや殿の御いへにつきたるおとなしゆをば、一つれにそのしゆばかり御あひしらい候べく候、

御つぎのざしきの事

三のまへんにて、ひきわたしにて、上らふしやうばんしかるべく候、　御つぎと申てもしやうじひとへの所などはあしかるべく候、

一ほりこし殿の御いへよりつきてまいりたるおとなしゆをば、一どに御あひしらい候べく候、あひしらいはおなじ御事にて候、

一おとなしゆに御さか月給候はん時、しやく申候はん人なく候、上らふせんをおしやり給ふて、おくへ御たち、御さか月にちやうしそへて、御いでまいらせ候、これにてよく候べく候、

一きんじゆの衆御れい申候はんやうだい、おとなしゆとすこし引かへ候てよく候、これもざしきはおなじざしきにて候べく候、御さかづきばかり給候べく候、さか月のくきやうにくみ付候物候、

一おとなしゆ、きんじ衆、御返禮のありやうは、一兩日すぎ候て、御ひきよういちうもんそへ、高はしかうざへもんを御たのみ候て、つかはされ候べく候、

一高はしかうざへもんにこそで御やり候はんは、三日の御しうげんのうこ過候時ぶん、御とをりへめし候てつかはされ候はんか、これは大かたどのへよくたづね申され、御いけんのやうに候べく候、もしじよの人々おもふ所も候、もしむようと御いけん候はゞ、みづしむくのすけをつかゐとしてやどへ御おくり候べく候、さ候ともひろぶたには入候まじく候、つゞらなどふせいに入候てとりいだし、ひだりのてにすへ、右のてにうへををさへまいらせ候べく候、一さい下ての人に御つかい候こそてひろぶたにはすへ候はぬ物にて候、たとへて申候、くぼうさまより三くわんれいはじめ、めん／＼にくだされ候もひろぶたさた候はず候、御一ぞくの御かた、きら殿・石ばし殿・しぶ川殿などへ御ふくまいらせられ候事も候つる時も、ひろぶたはいで候はぬよし、いせのびつちう物がたり候、そうなどはきんじゆ候へば見および候つるとて候、くげ衆御けらいへも同事とて候、みのとき殿にてさるがくにいだされ候こそでを、れん中よりひろぶたにすへていで候時、ほうこうのきやう衆はらい候つると、そう一物がたり申候、ついでのさいかく御心へ候べく候、

一おだはら二御屋かたより御れいぎ候べく候、御つ

かゐおとなしゆ御あひしらいのごとく引わたしにて候べく候、　きんじゆの衆にて候とも、屋かたの御つかゐにて候は、　御あひしらいはおなじかるべく候、屋かたは今くわんれいにて候、その御つかゐは御ほんそう候はでかなはぬ事候、

一一ぞくのしゆげん三どの、しん三郎ごとき、いづれもれい申候はんつかゐ、　御屋かたの御つかいとはすこしかはり候べく候、　大かたどのへ御だんごう候て、あひしらゐ給ふべく候、

一水主むくのすけ、柴づしよ、すへ／＼までもまいりかよふべく候か、御ねんごろに候べく候、　大屋なかたなどもひくわん一ふんのものにて候、　御めかけ候て御ようをもおほせつけ候べく候、

一清水笠原御れいにまいり候はゞ、　おとな衆御あひしらいのごとくにて候べく候、

一御むかゐにまいりたるおとなしゆへは、　つぎの日みつしむくのすけつかゐとして、よべば御しんらうと上らふより仰とゞけよく候べく候、　たゞしいかゞ候はん哉らん、　かうざへもんに御だんがう候べく候、　御れい申され口後にもつかゐ御やり候はんか、かうざへもんに御まかせ候べく候、

一しん三郎かたへの御れいぎは春よく候べく候、　大かた殿へたづねあわせ申され候べく候、

一あき人しゆ御れいにまいり候べく候、　御あひしらい此ほど大かた殿になされつけたるやうにあるべく候、

以上　大りやく此ぶんか

一正月　ぐわんさんよりかゝみ、　子のひ、　七日、十五日いわゐ、　大かたどの此とし月なされつけたるごとくにて候べく候、　そのぶんげんあん申候つるよし、御ことわりよく候べく候、

三月三日、　五月五日、　みな月、　七月七日、　八さく、　九月九日、　いづれもおなじ、

一いのこのもちゐの事、　きんねんおだはらにしかじかと御いわゐ候はぬまゝ、　やうだい人わすれ候、されどもきゝおよび申候ぶんは、御まへへ參り候、四はうの上につみたるもちを、　一ッづゝ御はさみちやくざのめん／＼衆は、　三くわんれい山名一色以下のかた／＼へ被レ進候、其後たれにても御ともしゆ御ぜんをもちて御とをりへいでられ候て、　し

こうの御ともしゆきんじゆのしゆへいださるゝよし承候、國々にある大めいは、代官をのぼせはいりやう候、大裏の御やうだいをも西殿へ尋申候、當關白さいぜんにはいりやう候て、しだいに大なごんまではいりやう候、これは女房しゆのいださるゝとみへ候よし御物がたり、しか口は、御いわゐ候はん時は、上らふへはしきにはさみて參らせられ候べく候、中らうへは上らふはさみ候ていだされしかるべく候、おもてはおもてにての御いわゐにて候べく候まゝ、中事なく候、このいわゐは天りやくの御かどの御とき、康保年ぢうむらさきしきぶしいだしたると、ふるき物にはみへ候、大りの御まつりごとかづ／＼のうちにて候　ふ氣に御いわゐもたかうぢいらぬはくげに御なり候まゝ、御いわゐにて候べく候、ついでのなまさいかく申候、

一ざとうしゆ參候はゞ、御さか月給御ひき給候べく候、あなたかたに候はんずる、ざとうしゆ參候はゞ、御ねん比は候べく候、なれ／＼しくは御おき候まじく候、ついでに御心へ候へ、ざとうとてもおとこのめのくらきにて候、女中がたへあんないなしに立入物にてはなく候、てんかそのぶんにて候、やすき事やうしゆゐん殿の御とき、うぢつなくわ一と申候けんぎやう候つる、へいけ御きゝ候とて、われわれおほく候て、からかみのまへ一とめし候つる、その時もやうしゆゐんどのは、おくのまに御ざ候、きんねんざとうと申せば、いづれもおくがたへ參候、心へがたく候へども御國ぶりにて候まゝ、一人して申されず候、たゞしみん一など參候はゞ、御心やすく御よび候てもくるしからず候、おさなくより御しり候、又としよりぬるがふつゝかの物にて候、御ねんごろよく候べく候、さ一これ又おなじごときの物にて候、その外はなれ／＼とはめし候まじく候、さて候ともざとうしゆなど三こんなどのうちには、御しやうばんにはめし候まじく候、御つぎにて給候か、又御またせ候てのちに、御さかな給候て、くこん給候べく候、うこの時は、御しやうばんくるしからず候、てんじんどうぜんの事候、かやうの事は、へいぜいもかたきをめされつけにて御をき候べく候、きんねんこゝもとさだめかたに候て、きは／＼とも候はず候ずるかなとは、さやうの

事きはめてしきはう〳〵に候べく候、御かくご候べく候、

十二月十六日　　　そう哲（花押）

北條幻庵覺書終

黑田家老士物語序

爰にひとりの老士あり、歳八拾有餘なり、御當家御普代の筋目なれば、如水公長政公御物語、或御武功、或諸士の働、度々物語せられしが、予不根ゆへ大かた忘れたり、されども有増覺たる計を書留るもの也、御兩公御武功の事は、諸書に有と見へたれば是を略し、御物語端々耳に殘りしを取あつめ、又は諸士手柄覺たるを筆を染る者也、本より文筆つたなしといへども、其事の聞へ安き事を元として、世の嘲をかへり見ず書記し一冊とす、老士の物語を集るにより書の名とす、我にひとしき人は見給ふべし、文才あらん人は嗤片腹いたかるべけれども、恥をはぢと思はねば、恥かしき事なし、只心の覺ばかりに書集る物ならし、

黑田家老士物語

一如水公御物語に、惣じて一國を治る大將は、尋常にしては諸道成就し難し、先政道に私なく、其身の行儀作法を亂さずして、平生數寄好む道に心得あるべき事也、主の好む事をば、必諸士又は町人百姓に至まで願ふ物なれば大事儀也、文武は車の兩輪のごとし、一ツも闕ては有べからず、さるよし古人の語也、勿論治世には文を以し、亂世には武を以治るとは有ながら、治世には武を捨ず、亂世には文を忘れざるが肝要也、治りたる世とて、大將武を忘るゝ時は國の風俗あしく成行物なり、世間に智者は稀にして愚者多し、故に國中の諸士も武を忘れてをのづから心至弱に成行、武士道の吟味もなく、武藝もおこたり、尤武具等も疎にしてほこりに埋れ、手鑓の柄は蟲の住家と成、鐵炮は錆くさりて、中々物の用に不レ立、左樣の國に若一揆など起たる時は、平生の不心懸不詮儀故評定さだまらず、めづらしき事乃出來たる樣に驚き、鑓をとれば蟲穴より折れ、

弓も是に同じ、鐵炮は火を通さねばくさりて急の用に立ず、うろたへ廻る內に敵寄來れば、一戰にも不ㇾ及敗北して、家を亡し國を失ひみぐるしき有樣なり、第一先祖の家を亡し名を汚し、又後代の嘲となるものなれば、武の家に生れては寸の間も武を忘るべきにあらず、又亂世に文を捨時は軍理不ㇾ調、諸士血氣のみにして義死稀なり、因ㇾ玆制法不ㇾ定して必敗北と成ものなれば、兎角大將心根より、善とも惡とも成もの也、油斷しては成べからず、武を忘れて國を失ひし大將昔も聞ど、まのあたりにも有、能々可二得一（心脫カ）事也と仰られけるとなり、

右の御思案故、如水公長政公御一代、御防戰終に臆れを取給はずは御詮議厚故也、長政公御武用は不ㇾ及ㇾ申、儒之道にも御心をよせられ、林道春を召て聖賢の正敷道を聞給ひ、議論を遊ばし、諸事御工夫而已也、道春に命じて、巵書抄と云書を作せり、其後板行して世間に流布すと語られたりけり、

一如水公の御出語に、大將は威と云物なくては萬人の押へ成がたし、乍ㇾ去此威をあしく心得ぬれば、還而政道の妨と成物なり、其故いかんとなれば、只諸人にをぢらるゝ樣に身を持なすを威と心得、家老に逢ても威高ぶり、事もなきに目に角を立、言語物あらく、家老の諫を不ㇾ聞入、我非有時もかさをしに云まぎらかし、我意を振舞により家老も不ㇾ諫、をのづから身を退樣に成行もの也、家老さへ如ㇾ斯なれば、まして諸士末々に至まで、おぢをそれ身がまへをして、一日暮しの覺悟なれば忠貞の思ひをなす者一人もなし、右のごとくの大將は、物ごと手あらく、さまでの事にてもなきに、傍仕の者をしかり、むたひに手打を好むにより、傍仕を疎み仕樣なき內に身を退べき工夫而已也、をして實の奉公を働むるものなし、かく物ごとみだりに成故、かならず家を失ひ國亡ぶる物なれば、能々心得べき事也、誠の威と云は、政道を邪なく其身の行儀正敷臣をさとし、諫言を破らず、物每詮議を加へ理非を正し、賞罰明らかにして、諸士を手足のごとくにおもひ、町人百姓等を子のごとくになつけぬる時は、萬民したしみ敬ひ恥恐るゝにより、おのづから威備るもの也、我此事を朝暮心にこむるといへ

ども、萬民至りがたし、播磨姫路にありし時とは違ひ、今豐前を領知しぬれば、諸士をはじめ町人百姓に至る迄、大勢なるにより、猶以心及がたし、是のみ心をめぐらすもの也、況我まゝをふるもふのみにて、諸道成就しがたし、國民にうとまれる物なれば、油斷しては國家を失ふものなりと仰られけると也、

一或時、如水公長政公御一座にて、御家老衆をめされ、御仕置御詮議の序に、如水公仰られけるは、惣じて人に上に相口不相口といふ物あり、主君諸士を仕ふにも有之事也、諸士いづれをいづれと分難しといへども、其内に主の氣に應ずるものあり、是を名付て相口といふ、又出頭人ともいふ也、此者善人なれば國の重寶となり、惡人なる時は國家の妨となれば、大事の事也、主人道理に闇き時は惡人をしらずして、相口なる者まかせに成行もの也、本より佞奸なるにより、上部は善人のまなびをなし、主をたぶらかすにより、彼に心をうばはれ、なすほどの事を能と思ひ、次第に取立、後には家老となし、國の政を執行するにより、生得の佞奸彌つのり、邪なる仕置のみなれば、諸士彼をにくみ、士民うとみ果、還て主人に恨をふくみ、不實の奉公を勤ゆへ、國中一致せず、家老の中不和に成て亡びたる國古今多し、名主の下にはなき事なり、心明らかなれば人の善惡を能見知候が故也、各兼て知ごとく侍ども中にも相口の者有之、傍近く召仕ひ輕き用事をも辨さするといへども、彼に心を奪べき覺悟にあらず、乍去自然と相口なれば、品により君は惡事を見出す事も有ぬべければ、各隨分心を付見出し聞付、我を諫めよ、また彼者驕て諸行惡敷時は引付異見すべし、其上にも不改時は我に告よ、詮議の上一道に行べし、我心万人と及がたけれども、自然無理の行ひもあらば、遠慮なく早速知せよ、ただし改べし、扨又各が心根の善惡によつて國家の治（本ノマヽ）との二つ有り、心得大事の儀たり、是又相口あるを以贔負の心付惡を善と思ひ、或は賄に心まよひて惡と知りながら、をのづから親む者也、是より政道の邪出るものなれば、能々可心得事也、扨又家老たる者威高ぶりて諸士にする時は、諸人にくみしかり、上部はうやまふ體にもてなし、底意はそむき、惡事あらば

と聞耳を立そしり廻る、如レ此成ゆへ心實は下知に不レ順もの也、右之通下に遠きが故に諸士不レ親、上部のけいはくばかり勤るゆへ、人の賢愚を不レ知、不二吟味一を以、諸士に其身の得ざる役を勤さするによりて必仕損じ、品により其者身代を亡す事も有物也、常に親敷近き其もの丶氣質を見付て、相應の役を勤さすべし、是を人を能つかふといふ物なるべし、不詮議を以あたら侍を失ひ、其者も及二難儀一主も又損をするもの也、是皆愚知臣下の邪欲によつて起る儀なれば、大切の儀と仰られけると也、

一如水公御出語に、子の守りに付る侍の人柄を隨分吟味すべき事肝要也、其子幼少の時より彼守夜晝付添諸事を云教けるにより、其子平生の行諸大方守に似るもの也、上部のみにあらず、後々は氣質迄も守のごとくに成移る物なれば大事の儀也、此故に守に付べきと思ふ侍をば、幾重にも吟味をとくと遂、氣質を見定其上にて付べし、尤其子の生付によつて、差別可レ有事也、其故に生付靜にもの和かにて、上部大やうにして物毎に氣を付ず、手ぬるく見へて、内心はうつけにてなき生付の子有、左樣の子に付べき守は、先其身成程實貞にして、邪心なく驕なく智慮有てさし走り、隨分働き諸事油斷なく、辨舌も能ものを付てよし、又内心の利發を外にあらはし、物言歲に不レ應人を見侮り、物毎に小作にして延慮すくなく、利口めきて大氣なる生付の子あり、左樣の子・（に脱カ）つくべき守は、是又其身成程實直にして、智慮厚く内心働き、上部は成程靜にて物に不レ働、言語すくなく、延慮深く、立居輕からず手ぬるき程に見ゆる者を付置てよし、此兩樣肝要也、其外付置侍どもに此心得をすべし、扨又彼守に付候侍をば主人念比に仕置なし、位の付樣にしてよし、仕樣かろくして位うすき時は、其子心安くあいしらい、侮る心有に依て、いか樣に諫言しても不レ入レ聞、後は守をないがしろにして、主下の間滯邪魔出來る物なれば、大事儀也、扨又大名の子は生れ出て、段段生長に至迄、平生榮耀にそだち、難儀に不レ合によりて、人の辛苦を不レ知、此故に諸士の仕ひより惡敷、士民を不レ憐もの也、初小身にして次第に立身し大名に成ては、其時々の身代がらに應じたる思慮計にて、小身成時の辛苦・（艱脱カ）難不自由を忘れて、末

末の痛を不レ思もの也、まして大名の子に生れては、左樣の事曾て不レ知なれば、うかと心得ぬる時は、國主領主ともに、諸士又は士民に至迄、勞れ亡所すべし、能々思慮すべしと仰られけるとなり、

或時、如水公長政公出仕日に表に出給ひ、家老衆中老衆諸物頭、其外諸士御目見終て後、御一座にて大身小身共に諸事分限相應の身持、覺悟油斷すべからず、家作衣類諸道具等に至迄、身代より彌輕く調へ、跡下相續奉公無ニ懈怠一勤る分別肝要也、平生の食物猶以成程輕く、縦初にも美食を好むべからず、內證逼迫に及ぬれば、をのづから不奉公に成行、義理に違ひ、若自然の事有時は、出立べき手立もなく恥を得る者也、不レ行して不レ叶儀なれば、人並に出るといへども、中々見苦しき有樣也、其覺悟の善惡は兼ての仕樣によるべし、武具は武士第一の道具たりといへども、是も平生詮議を詰身代道具無用たるべし、其故はいかに武具を餘計所持するといふとも、身代相應の人を不ニ扶持一時は持せて行べき手立あるまじ、然時は費となる物也、此故に平生遂ニ吟味一用に立べき程の武具を考、念を入調べし、身代過分の武具を拵かざり置ば、皆是名聞にかゝる武士のなすわざ也、名聞は還て逼迫の本と成もの也、但かくいへばとて武具を疎にすべきにあらず、分限相應に拵置用に立分別肝要也、身代相應より多ても苦しかるまじきは下人也、乍レ去是養ひ可レ置手立あらば可レ然、左なくば無用たるべし、馬も相應に持べし、伊達馬風流の馬好むべからず、用に立べき馬肝要也、

如水公長政公、豐前御入國以後、御能有レ之、諸士不レ殘見物す、芝居には町人百姓みち／＼て是を見る、能四番すぎ如水公御中入被レ成、長政公はいまだ御座を立せたまはず、然所に芝居の者共赤飯を給るより、銘々にけす事成がたし、役人芝居に入込手より／＼に赤飯をなげてやりける、登なる處に年の比廿二三にも成らんと見へし男、一人赤飯をうばひ我前に來るは勿論、人の前にあるをも押へて取、其上子共の持たるをも奪ひ取などしける、諸人是をにくみ或はいかる者も有ける、然る所に長政公御座を立て芝居へをりさせ給ふにより、いかゞ成御用候やと思ひ、諸人御跡に付て芝居に下りけり、

長政公大勢の中をわけさせ給ふて、彼赤飯をうばひたる男の傍に行給ひ、何とも仰はなくて彼男のたぶさを御取引付給ひ、御脇差にて首を打落し投捨給ひて、本の座敷へ御歸、すぐに奥へ入せ給ふ、芝居のもの共立騒ぎければ、黒田兵庫殿高聲に申されけるは、汝等鳴をしづめて能きけ、只今若殿の立服御尤至極也、面々が見るごとく、彼者ばうじやく不仁なる振廻也、御前を不レ憚有樣偏に上を輕しむる某、彼者を成敗すべきとおもふ所に、若殿の御手にかけ申事、無二是非一次第也、我にかぎらず列座の諸士手ぬるき樣に思召らめと無念さ無レ限、汝等もよく心得よ、是にはかぎるべからず、何ものにてもあれ、我意を立邪道をなし、上輕しむるにおひては、卽時に罰科にて行ぞと申されけると也、其後如水公長政公御出座有て能三番あると也、都合七番にて事濟、何も退散せしと也、

長政公彼者を御手うち被レ成たるは、御心持有ての事也、豊前御入國の比迄は、西國とくと不レ治、町人百姓の心不敵にして上を敬ふ事なし、下知を不レ用、領主を輕しむる心有を、長政公兼て見付給て、右のごとくし給ふと也、兵庫殿も其御思慮を考て、申されけるとなり、

一或所にて、林田左門信田大和、其外四五人も寄合、四方山の物語又は兵法はなしゝけり、其中に若侍有けるが、其身力量餘程有血氣さかんにして、よろづ物強き事を好みけり、彼者云けるは、兵法は武士の可レ勤道とは云ながら、あながちに是を不レ勤ば、武儀不レ成と云にても有まじ、一心さへ不レ臆ば、縦令兵術不レ知といふとも、高名をば可レ懸ものをと、居丈高になつて云、左門是を聞、いかにも其方被レ申通一理聞へたり、乍レ去心剛なる上に兵術勝れなば鬼に鐵棒なるべしと云、かの侍血氣なれば一心さへ不レ働ば、たとへ木刀仕合なりとも無下にて劣とも覺へず、ちと仕合て見度ものなりと云、左門聞て夫はよき心指也、いざ參ふと云へば、心得たりと早座を立、庭へ飛下りあたりを見けるに、庭木の添木に結付置たる、長さ壹間計のすもと有、是を以仕らんとて引ぬき、土の付たるをぬぐひ、二ッ三ッ打振て持たり、左門も座敷を立て緣の（[illegible]カ）見ればゞ小木刀有、是をおつとつて引さげ庭におりていゝけるは、

隨分心の及程精を出し、何そと太刀を入てみられよと云、仰せまでもなしとて彼すもとを車にかまへてかゝる、左門も小木刀を引さげそろ〳〵と寄けるに、太刀間とゞく程に成て見へし時、彼者一打にてうちけるを、左門何とかしたりけん、引はづし飛違ざまに木刀のさきを以て、彼者の額を少うち、參つたりと聲をかければ、いかにも木刀あたつて覺たり、思ひしよりも太刀はやき事、中々成間敷と云て、すもとを投捨たり、其時左門殘多は今一仕合可ㇾ參といへば、いや〳〵成間敷と云て止ぬ、雙方座敷に上りて後左門いゝけるは、向後我をおられよといへば、いかにも心得たりと答ふ、一座の面々も笑ひけると也、見るうちに彼者額少はれ血もにじみければ、上部にはそしらぬ體にて居たりけれども、内心には餘程面目なく無念に思ひけれども、すべき樣なくて其座を立けり、右の次第其長政公聞召、彼ものを御用有とて召れければ何事やらんと急ぎ登城す、御前に召れ宣ひけるは、汝今日林田左門と木刀仕合をし負たりときく、其通りかと宣ひければ御意の通と申上る、長政公被ㇾ仰けるは、若き者には成程似合て能心ばせ也、左門成とも打べしと思ふは勇氣の勝れたる所なれば、若き其心ざしなくてはものゝ用に難ㇾ立、扨又仕合に負たりとて少も恥ならず、其故は左門事兵法の名人也、世擧てゆるしたり、汝はしらうとなれば何と働とも得勝たじ、負たるは道理也、しかりとて左門に武儀をば負べからず、兵術上手なればとて防戰におよび、必定勝べきにあらず、兵術不得とても高名をば遂べきなれば、爰は各別の詮議なり、しかりとて武藝を不ㇾ勤は、武の道に生れて道理にそむけり、汝今日左門に仕合負たりとて、必心にかくべからず、上手は勝下手は負るが定る所也、我柳生但州、疋田文五郎に兵術を習し時、我意を立てうたれし事度々ありしぞかし、汝も向後左門弟子に成て兵術を學べし、習得に於ては必人に可ㇾ勝、かならず稽古をこたる事なかれと仰られければ、彼の者難ㇾ有餘りに涙を流し、御前を立其夜直に左門所へ行、御意をかたりきかせ、弟子の契約なし、夫よりは晝夜怠らずつとめけるにより、後に上手に成しと也、

一或時、長政公猪狩に出給ふ時、石目あまりの手負猪かけ廻りけるにより、鐵炮にて打弓にて射けれどもあたらず、怒廻る所に御立目より四五拾間も先に、若侍壹人刀をぬき件の猪に向て懸るを、長政公見給ひ被レ仰けるは、只今猪に出向たるは侍と見へたり、甚無分別也、あれに見へたる松木楯に取てまちかけ、猪怒てかゝらばやり過して切留よといふべき由、被レ仰ければ、聲々によばゝりけれども、彼者耳に入ずや有けん、刀をかまへ居ける所へ、猪無二無三にかけ來りけるを、飛違て打と切けるに、大骨より腹半分過切付ければ、のつけに倒所を押へてさす、脇を一刀つき返し、難なく仕留仕つたりと高聲に訇りけるを、長政公御前に召れ、只今の仕方随分太刀はやき次第、見事なる振廻ひ若きものは尤似合たる仕方也、乍レ去無分別第一也、其故いかんとなれば、猪に逢ての高名さして益なき事也、若切損じぬる時は、猪にかけられ所によりて死する事も有べし、縦不レ死云とも、大分の疵を蒙り、一生難儀におよぶ事も可レ有なれば、あたら侍を一人せんなき事に失ふは、別ての損也、最前も云ごとく猪怒り懸る時は、あたり木か又は石にても有時は、夫を木楯に取てまちかけて仕留るがよし、木楯にとるべき物なくば、不レ及二是非一所也、逃はせられまじければ、待うけて切殺すべし、幸なる木楯あるに、汝いらざる高名だて也、合戰に及時、鐵炮弓に打血もかゝり、又は武士と武士の出合、鑓を合敵を突伏高名するものなれば、何ぞ畜類に負べきや、若切留得ずしてかけられなば、見苦敷事なれば、向後其心得すべきよし仰られけると也、

一或時、長政公御館の表へ出給ひけるに、刀懸に三尺餘りの刀ども懸ならべて有ければ、何者の刀ぞと尋に付、かるき侍の刀なる由申上ければ、扨もきみよき刀なり、若き者には似合たりと被レ仰けるを、御傍廻りの侍是を聞、扨は殿は長き刀を好み給ふと心得、三尺餘りの成程奇麗に拵置、或日の鷹野の供に右の刀をさし御目通をあちらこちらかけ廻り、いか様御意に可レ應ものをと自慢づらにて居ける、扨鷹野より歸らせ給ひて、其曉鷹野鳥料理被二仰付一、御家老中御相伴にて諸事御咄の次手に被レ仰けるは、惣て人たる者分限をわするゝといふ事、大

きなるあやまち也、縦ば知行をとらせ置侍は、假初に出にも鑓をもたせぬるは、自然の事もあれば鑓を以勝負を決すべき爲也、歩行の者ごときは鑓持、されば長き刀を好て德あるべし、然るに三千石を取侍の忰、三尺餘りの刀をさし廻るもの有と見へたり、定て手に相たればこそ持たるには有べけれ共、身體不相應成體たらく近比見苦し、皆是心得違なり、彼が親是ほどの事を不レ辨ものにてもなし、少は立走りの心ばせも有ものなるに、いかで異見もせざるや、かくいへばとて武士は鑓ならで勝負すべき道具なき様にあれども、左にはあらず、鑓の入べき所にては鑓、刀を可レ用所にては刀、脇差を以すべき所にては脇差、皆場によるべし、其外の道具も尤場によるべし、其内脇差は常住腰を不レ放道具なれば、手に相たるを差べけれども、分限不相應なれば徒の者めきたり、是皆不詮儀なる故也と甚笑せ給ふ、彼何某御次にて是を聞、思ひしに替ければ恥しく、無二是非一事に思ひ、右の刀二度さゝざりしとなり、

一長政公筑前御拜領御入國以後、或日鷹野に出給ふ道筋、御駕より二三十間程先の道端に、何と不レ知一人刀を一腰さしかざし畏居けるを見給ひ、あれは何者ぞ見て參れと被レ仰ければ、御侍衆一兩人かけ出し、何者なれば御通りの道に罷出居るぞ、尋て參れとの御意なりといへば、彼者いゝけるは某事何村の何と申百姓にて御座候、此二三夜つゞけて夢想の告を蒙り、此刀某先祖より代々相傳の所に、殿樣江差上べきよし兩夜つゞけて夢の告有といへ共、如何敷又は上をはゞかる心にて其分に致置所に、又夜前の夢想に今日殿樣此道筋を通らせ給ふ間、持出て指上我家に有べき刀・（に脱カ）あらずと慥に告あり、兩三度の夢想の告もだしがたし、乍レ恐如レ此候、可然御取成賴奉るよし謹で申ければ、立歸り其趣申上ければ、長政公被二聞召一、其者是へつれて參れと仰ければ、引立御前につれ來、長政公見給ひ、汝が夢の告聞べしと有ける時、彼者右之趣謹で申上る、長政公被レ仰けるは、不思儀の夢想見る者かな、我も夜前夢を見たり、汝今日此道筋出刀を我に與ふべし、其刀を以則汝が首を刎よと慥に夢想の告あり、汝が夢と相たり、是天よりの指圖なれば默止が

たし、只今首をはぬべし我を恨る事なかれ、あれはからへと仰有ければ御傍衆此男のもちたる刀を奪取、卽時に首をはねけると也、

一黒田兵庫殿は、如水公御一腹さし次の御舍弟也、生れ付實直にして平生柔和也、物に強動の心なくて智慮も厚人也、如水公長政公も不二大形一執し給ふにより、御家中の諸士末々に至まで敬ざるはなし、播州以來如水公の御左り備の先手として、高名も數度有し人也、如水公豊前拾貳萬石の內にて、壹萬貳千石の領地をつかはし置給ひけれども、少の驕もなく諸事兼退の心のみにて、下に近き人也、長政公の御後見なり、毎々諫言を被レ申けるに、其身佞奸邪欲の心なければ被二申上一事毎に理に叶けるにより、長政公別て御得心遊しければ、如水公御喜悅不二大形一と也、登城の時も長政公御座所より、敷居を防と兵庫殿座せられけるにより、御家老衆は猶末座也、長政公是非兵庫殿是へと再三仰られける時、漸敷居を越どつと末座に伺公し、成程敬ひたる體にて被レ居けるとなり、又道にても長政公に行逢れける時は馬より急飛下り、地に頭をつけ居られけるにより、長政公も御駕籠より下り給ひ、兵庫殿傍へよらせられ、別而めいはくに候、御通りあれと被レ仰けれども、猶頭をさげ被レ居けり、其後御舘にて人も不レ居時、ひそかに長政公に被二申上一けるは、先日路次にての御時宜さりとは不レ入儀にて候、御前恐れ候て頭をさげ敬申にてはさら〳〵無レ之候、未だ御年若の殿なれば、御家中の諸士若くは輕しめ申事も有べし、某敬ひ申體を見せ、御家中の諸士に兵庫殿さへ如レ此と心がけさせ、末々迄うやまはすべきため候得ば、向後は路次にて御逢申共、御構なく大ていに御言葉をかけられ、通り被レ成候得と申されたると也、その外何事によらず、如水公何かを取分敬ひ申されけるにより、御家中の諸士長政公を尊敬し奉ることなり、

黒田家老士物語終

千代茂登草序

有レ客袖ニ一册子一來覩ニ於予一曰、是惺窩藤先生述ニ儒學大意一、以諭ニ其母氏一者、藏ニ某家巾箱一久矣、僕乃乞得授レ梓、名曰ニ千代茂登草一、千代茂登者、在中郎所レ答ニ其母夫人一之詞、載在ニ勢語一、斷レ章取レ義、不レ知果協否乎、願予題ニ一言一以弘ニ其傳一、予繙閱喟歎曰、有レ是哉、後學之幸也、蓋先生爲ニ中興儒宗一有レ大ニ造本邦一、則以三其首ニ倡洛閩之學一也、斯書之出也、論者或謂、以ニ先生之道德一、於レ化ニ其母一乎何有、且也正學之行、二ニ百一年于レ茲、孰不レ與ニ聞明德誠敬之說一者、然區區國字之錄、間或混ニ乎佛意一、豈足レ傳歟、亦弗ニ深思一已、夫婦人之難レ化、固非ニ男子之比一、矧淩ニ淫浮屠一者乎、昔在尹彥明、以ニ程門高足一、日誦ニ金剛經一曰、是其母所レ訓、不ニ敢違一也、彼其平日、不レ能レ諭ニ母於道一之所レ致也、以ニ先生一方レ之、豈不レ優哉、此不ニ唯道德之純粹一、抑亦至誠之感化也已、若下夫解ニ明德一引ニ證竺典一、以ニ流轉後生一談上レ心、則所レ謂約牖之語、讀者逆ニ其意一、略ニ其辭一而可矣、

天明戊申秋八月　後學　岡山菱賓謹撰　印　印

千代もとくさ

惺窩藤先生著
難波人某校寫

としたちかへるあしたのそらのけしきものどかに、きのふにはやうかはりて、たにのうぐひすもあゆみをこゝろみ、のきばの梅のえならぬにほひにうつり來て、うひことのねも事あたらしくめづらし、人のこころもそゞろにのびて、おもふまゝなる友うちかたらひ、こゝの山、かしこの寺にたゞよひあるき、歌をよみ、文をつくりて、そのこころざしをのべ、其興をもよほす、あるはまた女どちわらはべのこゝちよげなるをあとさきにひきぐして、たかきいやしきをうちものかたらひて、わかくさねせりなどやうのものをとりつみ、ことなる興におもひて、世のうきわざをわすれて、けふはかひあるわが身かなと、こゝろおごりもせられ侍る、やよひなかばはよしのゝふもとはちりすぐれば、山の花いまをさかりといろめきたり、

宮古のも、こゝかしこちりもはじめず、さきもいこらず、人のこゝろもそらになりて、山のおく谷のそこまでまよひゆきて、くれゆく春の名殘ををしみ、春の風のおもてをふくには寒からねども、はなにふるゝころは、山賤のをのゝ音よりもはげしく、きのふまでは、にほやかにして、色に出でて香にほこりて、天下の人のこゝろをまよはせしむくひにや、一夜のほどになかばはちりてかつ〴〵殘りたるも、中々見しおもかげもなく、たとへばやめるをみなのにほひおとろへたるにことならず、又ころもがへの日は、こゝろもあらたまりて、内も外もみどりのいろ〳〵にそめなして、出仕のよそほひをひきつくろひ、又せちゑには、あやめふきわたし、あふひかけたるも、いとめづらし、ぼうたんは花の君なりと、もろこしの人はいひしも、げにことわりぞかし、うるふのとし（牡丹閏年ニ八十三葉）は花のやうもひとへにまさりて、ちしほの色にさきみだれ、柳はみどりに、山振は中央のいろをふくむ、又のきばも山もとりつくろひて緑のぬれ〳〵として、わかやかなるは、花よりもいみじくめづらし、ふづきのはじめごろはあやしきなほしきれども、ゆふべの風のこゝろもかはりて、いつとなくひとはちりそめて、野山の色色にそめわけて、にしきをはれる世界なるもいとになくすぐれて興ある見ものなりけり、月はいつもめでたしといへども、殊更まちうけたる十五夜のみねのこずゑよりこぼれかゝりたるやうにあでやかにさし出たる、こゝろもことばもおよびがたし、いにしへの人たちも、春秋のおとりまさりは、いづれをいづれとわきがたかりし、よべの月のまどかなりしも、けふのゆふべはすこしおもがはりして、ものゝかけたるやうにおぼえ侍る、神無月の朔日ごろより、露霜のおくての山田ふくかせも身にしみて、まがきのはなもしぼみおちて、もとあらの萩もかつちりて、そとものむしの聲もなきからし、世をすて人のはらわたをくだくたよりとなり、ゐなかの山はなかばもすぎて雪くだりあられまじりの風おちて、民のすみかもあはれなりけり、めにみえぬ、あめつちのこゝろばかりしりがたしといへども、四季のてんぺんして、うつりかはるしだいを、さつするに、さかむなれば、かならずおとろへ、みつればかくるならひは、みなこれ自然の理と見え侍る、いきとせいけるものゝうちに、さか

りひさしきはなけれども、よろこびきはまれば、かなしみ來りおごれるものはひさしからず、これまた自然の理なるべし、

齊の桓公の廟にあやしきうつはものあり、夫子見て、これは宥座の器なりとのたまふ、水なきときはかたぶき、又水中分なるときは直(ろく)なり、十分にみつるときは、此器かならずくつがへる、明君これをいましめとして、つねに其座のかたばらにおき給ふ、

子路問て曰、十分にみつるとも、かけぬ道あるべきなり、夫子の曰才智すぐれて君子のごとくなりとも、愚人のおもひをなすべし、天下に大なる功をなしたりとも、人にゆづりて、わが功にほこるべからず、勇の力世にすぐれたりとも、怯をもておもふべし、とめることは四海をたもつとも、謙をもてまもるべしといへり、あゝ聖人だもかくのごとし、諸人これをこゝろとせば、みてりともあやふからずかし、

天道とは天地の間の主人なり、かたちもなきゆゑに、めにみえず、しかれども春夏秋冬の次第にみだれぬごとくに、四時おこなひ、人間を生ずることも花さき實なることも、五穀を生ずることも、みな天道のしわざなり、人のこゝろはかたちもなくして、しかも一身の主人となり、爪のさき髮すぢのはづれまでも、此こころゆきわたらずといふ事なきがごとし、〔繪畧之〕

此人心天よりわかれ來りてわがこゝろとなる也、もとは天と一體のものなり、此天地の間に、あるとあらゆるものは、みな天道のはらのうちにはらまれあるなり、たとへば、大海のうちに魚のはらまれてあるとおなじ、魚のひれのうちまでも、水のゆきわたらぬといふことなし、人のこゝろのうちへも、天のこゝろのゆきわたらぬといふことなし、かるがゆゑに、一念慈悲をおもへば、其念天に通じ、一念惡をおもへば、其念天に通ずるがゆゑに、君子のひとりをつゝしむ、

古語曰、人々自性之内、有二一顆衣心玉一、出二靈智之光明一、爲二自性之法身一、出二瞋恚之猛火一、爲二煩惱之牢獄一、

明德とは、天よりわかれ來て、わがこゝろとなりて、いかにもあきらかにして、一もよこしまなるところなく、天道にかなふたるものを明德といふなり、天より生れつきたるごとく、此明德を明かにみがきたてたる人を聖人といふなり、又人間と生れ來てより後

に、人欲といふものあり、欲心ふかく、見ること聞く事にまよふをいふなり、此人欲さかむになれば、明德おとろへてかたちは人にして、心はとりけだものに一になるなり、たとへば、明德はかゞみの明かなるがごとし、人欲はかゞみのくもりなり、日々夜々に此明德のかゞみをみがゝざれば、人欲のちりつもりて、本心をうしなふ、明德と人欲とは、敵味方なり、一方かけては、かならずまくるなり、

誠とは、僞なきをいふ、是天の本體なり、春夏秋冬土用などの、毎年に毛頭次第のみだれぬも誠なり、人間は人間をうみ、梅は梅、櫻はさくらの花をさかするも誠なり、天のなすほどのわざにいつはりはすこしもなし、かるがゆゑに天の本體を誠といふ、わが心天よりわかれくるによりて、人もいつはりなければ、自然に天道にかなふ、僞あれば天に背きて子孫ほろぶるなり、君に忠節、親に孝行、人に慈悲をほどこすを、誠のみなもとゝするなり、

敬とは、君につかへるにも、親につかへるにも、一大事の客人をあひしらふごとくに、こゝろをしづめて大事にかけてつゝしむべきなり、又下人をつかふにもまして友にまじはるにも、よこしまのこゝろなきやうにつゝしむなり、するほどの所作を、おろそかにせぬごとくに、大事にするを敬といふなり、又君親に仕ふるに、あまりに、大事にかけてくすみすぐれば、隔心出來てこゝろへだつるものなり、このこゝろの誠をとりはなさぬやうにむねにおきて、かほかたちは、いかにもうらゝかにして、さすがきとして、つかへ奉るべきものなり、

右　明德、誠、敬、

此三はこゝろのつゝしみなり、

仁、義、禮、智、信、

これは人の日夜朝暮の所作なり、

仁は、人をあはれみ、慈悲をほどこす事なり、

義は、無理のなきやうに、萬事を理にかなふやうにするなり、

禮は、上の人をうやまひ、下となる人をも、それぞれにあひしらひをするなり、

智は、智慧なり、人をあはれむは、仁なれどもいらぬ所に、あはれみをすごすは仁にあらず、禮はたらぬも不禮なり、過るも不禮なり、よきほどの理

にかなふやうにするを智惠といふなり、
信は、いつはりなきを信といふ、仁をほどこすにも、信をそへ、義にも、禮にも、智にも、此信をくはへねば、みないたづらとなり、天も誠を體とし、人も信を骨とするなり、かくのごとくすれば、天も我も一體なり、
君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友、
これを五倫といふ、これ又人の日々夜々の所作なり、
君臣、君につかへ奉るに、一命ををしまず、忠節を盡すべし、
又君は臣を我身のごとくにあはれむべし、すこしもこゝろにいつはりあれば、天にそむくなり、
父子、子の親につかへるには、孝行をつくすべし、
親は子に道ををしへてあはれみをくはふべし
夫婦、この間は天地のごとし、夫は女をあはれみ、婦は夫をたふとみて、たがひにうらみなきやうにすべし、
兄弟、兄は弟をあはれみ、弟は兄を敬すべし、
朋友、友とまじはるには、すこしも僞あれば、心は

なるゝものなり、
右此五倫の人々日夜の所作たる、其所作に、心にいつはりありて、かたちばかりに行へば、其僞を天の知り給ふによりて、いたづらごとゝなるなり、此五常五倫を行ふて、其ひまあらば學文をすべし、此所作をつとめずして、學文するも人欲なり、まづ明德をあきらかにし、次にこゝろを誠にし、次にするほどの所作をつゝしみて、こゝろのうちをみがき、其上に五常五倫を僞なくおこなへば、わが身ながら、聖人となりて、天道と一體なり、かくのごとくなれば、天のあはれみをかうふりて、子孫かならずさかえ、後の世には、天の本土にかへるなり、天にそむきたるものは、子孫ほろび、後の世に此心流浪して、天にかへらず、鳥けだものとなるなり、かるがゆゑに、儒道には天をおそれて、道をおこなふ事を、一大事とするなり、
天の本心は、天地の間にあるほどの物を、さかえるやうにあはれみ給ふなり、かるがゆゑに、人となりては、人に慈悲をほどこすを肝要とする也、慈悲をほどこすに次第あり、まづ一門一類に、よりどころなき貧者あらば、するゞまでたづねもとめて、これにあは

れみをくはへ、そののち他人の親もなく、子もなく、たよりもなきものあらば、分々に應じて物をあたへべし、天の道には次第のみだれざるを肝要とするなり、まづわが家のうち、けんぞくをよくして、其後國ををさめ、天下へ慈悲をほどこすべきなり、かくのごとくすれば、人のうらみをうけぬものなり、人のうらみをおふものは、かならずそのむくひあるものなり、人に慈悲をほどこせば、又よくむくひあり、むくひをうけんとて、恣ひをするは慈悲にあらず、又富貴なるものに、物をあたへたるも、天の道にかなはず、慈悲にあらず、

家のうちに、五人十人百人にてもあれ、其わが分に應じたるほどに、とりまかなひをするが道なり、分に應ぜぬ花麗をするも道にあらず、又うちばにして、金銀をたくはへたるも道にあらず、いかにもつゞまやかに家ををさめて、人にじひをほどこしたらば、子孫に富貴の人あるべし、于公といふ人たかきもんをたてたる事をしるべし、財寶おほければこゝろけがるゝもの也、心ほど大事なるものはなし、此財寶ゆゑにのちの世までをとりはづす事おろかなる事なり、さうふ(巣父)といふものは、天下をゆづらむといへども、此心のけがれむ事をおもひてうけず、はんれい(范蠡)張良などといふものは、たからをすて、國をすてゝ、此こゝろをみがけるなり、いにしへの聖人賢人といはれて、國をひさしくたもちたる人に、たれか寶をこのみたるはあるべからず、又寶をこのみ、美女を愛し、たのしみをもはらとするもの、たかきいやしき、ほろびざるはあるべからず、

一國のあるじは、一國の父母と天道よりのたまふなり、父母となりて、其國の人民をくるしめぬれば、かならず天の罰をかうふりてあしゝ、はなはだしければ一代にほろび、惡ゆるやかなれば子孫ほろぶるなり、

一國に生ずるほどの米穀は、一國の人をやしなはんために、天より生じ給ふなり、しかるに一國の人民をしぼりとり、民の涙をあつめて、金銀珠玉となし、くらにたくはへおきて、其身の榮花とする事は、天道の物をぬすみて、わが榮花とするなり、其とがなにとしてのがれんや、其身一代のたのしみはいみじけれども、子々孫々天のせめをうくる事いたましきかな、

五百年已來、その身の功はなくして、富貴にほこり、けんへいをとり、人民をくるしめたるものゝ子どものゆくすゑをかんがへ見るべし、目前にあはれをもよほす事のみおほし、

天下を志る人を天子といふ、天子とは天の子と書り、これすなはち天道の名代に、此界へ出て、天下の萬民をあはれみ、天下の父母となり給ふなり、

天照太神は、日本のあるじなれども、宮作はかやぶきなり、御供は黑米なり、家居をかざり給はず、食にめづらしきものをとゝのへずして、天下の萬民をあはれみ給ふなり、神武天皇其おきてを守りて、道をおこなひ給ふによりて、後白河法皇まで、幾千年といふ數をしらず、代々子孫に天下をゆづりて、さかえ給ふなり、いにしへの天子は、みづから鍬をとりて、田のうちはじめをあそばして、民のくるしみを報じ給ふ、延喜の帝は、寒夜に御衣をぬぎて、國土の民どものいかにさむからんとなげき給ふ、神道には正しきをもはらとして、萬民をあはれむを極意とするなり、上一人正しからば、下萬民すぐなるものなり、上一人欲ふかければ、下萬民上のごとくなり、「こゝろだに誠の道にかなひなばいのらずとても神や守らん」、誠の道とは、天道の誠なり、神佛に金銀を進上して、我身のうへをいのる事、おろかなる事の第一なり、人さへすこし道の心あるものは、よこしまなるまひなひをうけず、惡人にちかづかず、まして民をくるしめず、被官一類をかつゑにおよばせて、神佛に音信申たるとてうけ給はんや、其身正直にして、慈悲を人にほどこしぬれば、いのらぬとても神守り給ふなり、叶はぬ事を神佛にいのりて叶ふといふ事はなき事なり、後白河法皇にて、天照太神のおきてやぶれきはまりて、賴朝天下をとりて、おもてには慈悲をほどこし、道をたつるまねをして、心には天下をとり、我身のたのしみをおもひたる、いんぐわによりて其身は、死するところさだかにも志れず、賴朝の子賴家は、おとうとの實朝にころされ、實朝は、をひにころされて、四十二年にて、子孫ほろび、天下をうしなふたり、道をしらず、天道をおそれず、民をくるしめ、一人えいぐわにほこる天罸なり、

北條時政、賴朝のしうとにて、自然に天下をとりて、九代百六十年をさまりたり、時政の孫泰時、又西明寺

といふ、此二人道をしりたる人にて、此二人の志まりをもて、百六十年をさまりたり、やすとき天照太神のおきてをまもり、天下の萬民をあはれみ、身のえいぐわをなさずして、家居もそさうにして、ついぢなどもくづれおちて、ゆきゝの人見入るばかり、ありさまなり、その時大名小名よりあひて、あまりにまばらにて候、御用心のためにて候ほどについぢのやぶれをつくろひ候はんと申ければ、やすときのいはく、われもさはぞんじ候へども、此ついぢの志ゆりなどといへども、いくほどの萬民のつひえたるべし、又泰時に忠節とぞんぜらるゝ上は、これにましたる用心はなし、くろがねのついぢをつきたりとも、おの〳〵こゝろかはり、民のうらみをうくるならば、我家かならずほろぶべし、たゞ御無用と返事せられたり、又西明寺殿あるとき、母の方へまゐり給はんとするとき、母やぶれたる障子を、ひとまづつみづからはり給ふ、けいめいする人のいはく、ひとまつゞくりたるは、まばらにてみぐるしく候、みなはりなほし候へかしといへば、母のいはく、いやさやうにはあらず、わかき人には、つゝまやかなる事を志らせたるがよく候と申されたり、此こゝろは、すこしのつひえをもいとひて、萬民のくるしみをたすけむためなり、いにしへは女なれども、かくありがたき、聖人のこゝろにかなひたる人ありつるぞかし、かうやうなる心の德つもり、民をあはれみ、天道にかなひ、百六十年をさめたり、〔繪畧之〕

九代目の相模守高時、西明寺のこゝろとらがひ、一人えいぐわをきはめ、美女を愛し、酒をこのみ、民のつひえをいとはずして、おごりをきはめたる天罰によりて、先祖の功をむなしうして、一門けんぞく鎌倉にてくびはねられたり、

堯と申は、もろこし四百餘州のあるじに一聖人なり、舜と申も天子にて聖人なり、孔子も此堯舜の道をひろめ給ふなり、堯舜の道を儒道といふ、儒道を學問するを儒者といふなり、堯四百餘州の天子なれども、家の地形高さ三尺にして、やねをばかやをもてふき、かやのこぐちをもそろへず、たるきをもけづらず、御服はやぶれざればめしかへず、食に珍物をとゝのへず、あかざのあへものなどにてすゝめ給ひて、天下の萬民を我子のごとくにし給ふ、此德によりて、幾萬年いく千年といふかぎりもなく、めでたき御代のためし

は堯舜の御代をあふぎたてまつる、堯舜の道とて、不思議神變なる事はなし、たゞ明德・新民・至善・誠敬・五常・五倫、是道の極意高上なり、此道をもて我こゝろを正し、萬民をあはれみ給ふときは、天下を久しくたもち、權謀をもてをさむるときは、一代二代にてほろび、五代六代をさむるといへども、合戰さらにやむ事なし、これををさめたる世とはいふべからず、もろこし四百餘州七國にわかれて、七王となりたる世あり、秦の始皇六國の主をほろぼして、一人四百餘州のあるじとなりたり、武道はすぐれたれども、文道をしらずして、四十里四方にやしきをかまへ、城を高くつきあげて、金銀珠玉をちりばめ、其内に、天下の財寶をあつめ、美女を愛し、榮花にほこる事、いにしへにも又末代にもためしなきありさまなり、法度をきびしくおきて、天下の人これにいきをつめ、萬民はつかれくたびれて、此天下のほろぶる事をまちかねたり、萬人のくるしみつもりて、十五年にして、天下ほろびたり、漢の高祖は、泗上といふ所六十町あり、在所のおとな（父老）や人をあはれみ、心ひろうして、秦の代をほろぼして、天下をとりて法度を定めていはく、人を殺すものは殺すべし、又人をやぶるものと盜人をば、つみをふかくすべし、此三の外の法度をばことごとくゆるすとなり、秦の世の法度にくるしみたるものども、心のびてまづ高祖におもひつきたり、此德によりて、四百年天下ををさめたり、秦の世十五年にしてほろぶる事は、法度にくるしくして、萬民をくるしめたると、萬民のつかれくたびれたるとのふたつなり、漢の世四百年天下をたもちたるは、人をあはれむと、法度のゆるかせなるとのふたつなり、此事ものゝ本にあきらかに見えたり、日本の神道も我心をたゞしうして、萬民をあはれみ、慈悲をほどこすを極意とし、堯舜の道もこれを極意とするなり、もろこしにては儒道といひ、日本にては神道といふ、名はかはり、心は一ツなり、神武天皇より三十代欽明天皇の御時に、天竺の佛法日本へわたりて、ふしぎぢんべむなる事をとき聞するによりて、人これにこゝろをよせて、神道おとろへたり、

釋迦佛は天竺の人なり、天竺國の人はこゝろすなほならずして、國をさまらず、佛、（檀特山）難行六年苦行六年、十二年のあひだ、だんとくせんといふ所へひきこもり、

國のをさめやうを工夫して、佛法といふ事を説給ふ、はじめは心といふものはあるものととき、又中比は心は空なるものととき、後には心はあるものにもあらず、なきものにもあらず、中道實相ととき給ふ、今淨土宗のごとく極樂地獄をたて丶、人のこ丶ろをすなほになすは、佛の心はあるものぞと、とかれたる所なり、禪宗のごとく心はなきもの、五體ある間のつきものぞとをしへたるは、佛の空ととかれたる所なり、又天台の法は佛の有にもあらず、無にもあらず、中道實相ととかれたる所なり、かくのごとく佛のいろいろにとき給ふは、其人々の氣に應じて、こ丶ろをすなほにして國ををさめ、萬民をやすくおかんためなり、佛のこ丶ろもちもありがたし、しかるに今の世の出家たち、身のすぎはひの中だちに佛法をとくによりて、みな人心まよふなり、釋迦如來のぢきの弟子、阿難迦葉をはじめて、欲にこ丶ろをけがされまじきために、一物をも身にたくはへずして、毎日乞食に出て其日々の食ばかりをもとめ給ふ、今時の出家たち財寶をつみたくはへ、堂寺に金銀をちりばめ、あやにしきを身にまとひて、いのりきたうをなして、後世をたすけむといひて、人のこ丶ろをまよはする事、佛の本意にもあらず、まして神道のこ丶ろにもかなはず、世のさまたげとなるものは、出家の道なり、

儒道と佛法とのかはり

釋迦佛一切經の中に、心はあるものなり、極樂地獄もあるものなりと、ときたる所も多し、又心もなし、極樂地獄もなしと、説れたる所もおほし、しかれば心はなきものぞと落著たり、心あるものならば、かりそめにも、心はなきものぞとは、とき給ふべからず、しからば後生はなきものに落著なり、ふかく思惟して、よくよく心得わけ給ふべし、

儒道には、此性は天の性をうけ得て生れ、又もとの天の性へかへると落著たり、しかれどもこ丶ろにいつはりて、人をそこなひ人をそねみ、こ丶ろよこしまにしておごりをきはめたるものは、此世にては、天の責をうけ、其身ほろぶるか、又子孫にいたりてほろび、又死して後、此心流浪して大にかへらざるなり、これによりて天をおそれ、明德を明らかにして、心を誠にし、五常五倫をおこなひ、慈悲をもはらにして、此性

の天の本土にかへる事をたのしむ、天にいのりきたうしてかへるにはあらず、

天下傳授之辭

人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執其中、堯・舜・禹の三聖人此十六字をもて、天下を治め給ふ、堯・舜・禹は大聖人なり、天下の大事はすなはち國をやすくし、天下を太平にをさむるより外はなし、其大事の授受は中の一字なり、堯・舜・禹・湯・文王・武王・伊尹・傅悅・周公・孔子・顏回・曾氏みな此中の一字をもて道統の傳をつぎ給ふ、中とは中庸なり、中庸の肝要は、誠の一字なり、まことゝは一毛も天理にたがはぬ所なり、孟子の遏人欲、存天理とのたまふも、此中の一字なり、此十六字、萬世聖人心學の傳授なり、

　此十六字のこゝろは、人心とは人のこゝろなり、道心とは天の心なり、我心のはじめは天の心と一體なり、しかれども人と生れ來りては、人心といふもの出來るもの也、上智の人といへども人心あり、又下愚の人といへども道心あり、此ふたつのもの、人の脳中にまじはりてあるものなり、これををさむるゆゑをしらざれば、人心主人となり、道心被官となりて、天理はほろぶるなり、此人心と道心とのふたつの間を、くはしくして察すべし、又かの本心を正しくして、胸中にはなさずして、一にする事すこしもたえぬ間なきやうにするときは、道心主人となり、人心被官となりて、天理日々に明かにして天心にかなふ、天照太神の正直は一旦の依怙にあらずといへども、終に日月のあはれみをかうふるとのたまふも道心なり、謀計は眼前の利潤たりといへども、かならず神明の罰にあたるとのたまふは人心也、正直にして我身のえいぐわをわすれ、財寶をちらし、人をあはれみ民を愛すれば、此世にては天のこゝろにかなひ、死して後は天の本土にかへり、子孫長久にしてさかえぬる事は、微妙にして見えがたし、民をしへたげ財寶をあつめ、榮花をたのしむ事は眼前の利潤なり、しかれども此世にては天命にそむき、死して後我こゝろ流浪して、天にかへらずして、子孫ほろぶる事はとほからずしてさとりがたし、かるがゆゑに、人心は長じやすく道心はほろびやすし、たとへばいばらからたちはし

げりやすし、牡丹芍藥はきえやすきがごとく、惡人はさかむにして、善人はまれなり、四書五經其外萬巻の書をまなぶも、此十六字のこころを知らんためなり、筆にあらはし、くちにいひほどきがたき妙處あり、しかれどもこれをもとゝして工夫をめぐらさば、聖人のさかひにも至るべし、欲ふかく、民をしへたげ、人をたらし(欺)、財寶をあつむる事人心の長上なり、又物知りと人にいはれんとおもふも人心なり、只心をみがかむための學問なり、又藝能にすぐれて、人にほめられんとおもふも人心なり、我職をみがくは道なり、武道をはげみて名をたかうせむとおもふも人心なり、まして所領をうけむなどとおもひてするぶんは、更に沙汰にもおよばず、たゞ君のためにいのちをすつる事道なりとおもふべし、鳥類ちくるゐだにも、其役々はつとむるならひなり、人となりて鳥にだもしかざるべけんや、又わが家のうちをもとゝのへず、けんぞくのすゑずゑのまづしきをみつがずして、他人にものをあたふるも人心なり、一類なりとも富貴なる人にたからをあたへべからず、他人のまづしき人をめぐむを仁といふなり、

惡人なれども、一代富貴にさかえたるあり、善人なれどもまづしきものあり、これにこゝろ二ッあり、先祖の人善人にて慈悲をほどこし人をめぐみぬれば、其子孫惡人なれども榮える事あり、又吉日良辰に生れて富貴なるものあり、しかれども其人惡人なれば、一代か又は子孫にむくひてほろぶるなり、夏の桀・殷の紂王・日本にて 頼朝又は 明智日向守 がたぐひのごとし、又惡日にうまれて貧人あり、

天はみてるをかくるといふ事あり、民をしへたげず、人をむさぼらずして、自然にあつまるといへども、財寶多き人はかならずあやまちあり、其一代に外聞をうしなふ歟、又死して後あまた子どもありて、たからをあらそひ、親のはぢをもあらはす歟、一人の子にあまたたからをあたへぬれば、ゆゑなき事につひえをいたし、結句惡名をかうふる事あり、二代三代とめるは千人に一人まれなる事なり、さかんなるものはおとろふる事自然の理なり、春さかむなれば夏來り、秋さかむなれば冬きたる、天道さへかくのごとし、〔繪畧之〕

湯王天下をとり給ひて、民のくさづとをもうけず、家居をかざらず、武王の天下をとりて、紂王が天下のたからをあつめおきたる藏をひらき、財寶米穀をことごとくちらし、漢の高祖天下をとりて、りさん(驪山)にいたりて、たからを愛し、美女を愛す、蕭何いさめていはく、秦の代のほろぶる事は、此たからと美女との故なりといふ、高祖これにしたがひて、たからと美女を愛せず、又漢の疏廣といふ人、太子の師匠となりて、年老て古郷にかへらん事を奏す、君と太子より金銀あまたたまはり、古郷にかへり、日々夜々に人をあつめてつひやし、人にほどこしたり、ある人のいはく、財寶をのこしおきて、子孫にあたへざる事はなんぞや、疏廣のいはく、賢人にしてたからおほきときは、其こゝろざしを損じ、愚人にしてたからおほきときは、其あやまちをますものなり、われとし老て子孫のゆくすゑをおもふ事かぎりなし、このゆゑに財寶をちらしたるぞとこたへたり、賢人君子此語をたふとみはうびの言葉多し、聖人賢人みなたからを散して道を行ふ、これを天欲といふなり、道をもはらとして、慈悲ある人なりとも寶をこのむこゝろあらば愚人としるべし、おごり又しわき人ならば、周公旦ほどのさえありとも、其人を見るべからずと聖人ものたまひたり、少しも欲のこゝろあらば、學問の妙處にも至るべからず、又大きなる智恵もめぐりがたし、さありとてたからをすて、其身のほろぶる事も道にあらず、諸葛孔明は死してのちに、財寶の藏にいこらぬやうにとねがひたり、ねがひのごとく死して後にたからのこらざれども、其子亦天下にほまれありたり、たらぬにもあらず、殘るにもあらず、是今の世の人のおこなふべき所なり、天下國家をたもちても、たからをちらし萬人をあはれむこゝろあれば、十分にみつるにあらず、家をたもちてもたから身にあまらば、十分にみてりとしるべし、これ子孫をうしなふ中だちなり、聖人愚人のわかれ、是よりはじまる、つゝしむべし、

儒道の眞理かなにうつしがたしといへども、六十にあまれる母のいはく、われをさなきより、佛のみちにあゆみをはこび、日の出て月のかたぶくをもおぼえず、あけくれ心のいとまなく後の世のわざのみいとなみ侍りしが、ちかきころは

ひ、なんぢがもろこしの人につたへをうけし、儒道とやらんにみゝなれて、こゝろふたつに別れ、のちの世のつとめにおこたり出來侍る、よはひかたぶいて、ものゝおぼえさだかならず、いかにも見るにたよりあるやうに、志るしてたべとのたまふ、やむ事を得ずして、かくかたはしをかきつけ侍るなり、

北肉山人藤肅志るす

千代もとくさ終

春鑑抄

林道春著

○五常

仁義禮智信ノ五ヲ、五常ト云ゾ、常ハツ子トヨムゾ、常ト云ハ物ノ常ニアリテ、カハラザルヲ云ゾ、カハルナラバ常ト云マヒゾ、此仁義禮智信之五ツノ道ハ、ツ子ニシテカハラヌゾ、人ト云モノダニアラバ、天地開闢ヨリ以來、末代ニイタルマデニ、此道ノカハルコトハアルマヒホドニ、常ト云ゾ、サルホドニ萬代不易之法ト云ゾ、不易トハカハラズト讀ゾ、夫天地造化ト云モノハ、タダ萬物ヲ生ズルヲモッテ心トシ、シハザトスルゾ、サルホドニ春夏秋冬ト、ハジマリテハ、ヲハリ、ヲハリテハハジムルゾ、ムカシヨリ今ニ至ルマデ、一息ノアヒダモタヘセズ、クルリ〳〵トシテ、メグリメグリテ、物ヲ生ズルヲ心トシ、シハザトスルゾ、サルホドニ春ハ草木モ花咲、夏ハシゲリ、秋ハ實ノリ、冬ハヲサマルゾ、コレニテ天地ノコヽロハ見ヘタリ、タダ平生物ヲ生ズルヲモッテ、天地ノワザトスルホドニ、草木・禽獸・萬物ニイタルマデ、天地ノ生意ノ中ヨリ出ルゾ、サルホドニ物々ミナ、天理ヲ具セヌモノハナヒゾ、ソノ内ニモ人ハ萬物ノ靈長ナルホドニ、ナヲモッテ、天理ヲ具セズト云事ハナヒゾ、天地物ヲ生ズルノ心ヲ以テ心トシテ、人ミナ仁義ノコヽロナクテハカナハヌゾ、故ニ仁義禮智ハ、ミナ天ノアタフルトコロゾ、仁ト云モノハ、天理ニアリテハ、物ヲ生ズルノコヽロゾ、人ニアリテハ慈愛ノコヽロゾ、慈愛ノコヽロハ仁ゾ、仁ハ五常ノハジメニシテ、義ト禮ト智ト信トノ四モ、仁ノ中ニコモルゾ、サルホドニ、人ニハ天理、自然ノ性ヲウケテ、仁義ノコヽロナキ人ハナケレドモ、人欲ノワタクシニ、陷溺セラレテ、仁心ヲウシナフゾ、人欲ニ陷溺セラレズバ、人ツ子ニコノ仁義ノ中ニアリテ、シバラクモ、ハナルベカラザルコト、天地物ヲ生ズルノ心ノ、一息ノアヒダニモ、タヘズシテ、草木萬物ヲ生ジ、雨露ノメグミヲ施スガ如クナランゾ、故ニ仁義禮智ハ、ミナ天理ゾ、聖人コレヲ天ノ道ニウケテ、五常ヲシナ〴〵ニワケテ、ヲシヘ

ラレタゾ、

○仁

夫人ト云モノハ、天ヨリ性ヲウミツクルニ、ソノ性ニ仁義禮智ノ四德ノソナハラヌモノハナヒゾ、性トハ、タトヘバ水ハシタヘナガル、性アリ、火ハホノホノウヘヘ、アガル性アルガ如キゾ、サルホドニ人ノ性ニハ、慈愛惻怛ノコ、ロアルヲ仁ト云ゾ、慈愛トハ慈悲ニシテ、愛敬アリテ、人ヲアハレムヲ云ゾ、惻怛トハ、イタミイタムトヨムゾ、人ノアシキコトヲ、ワガコ、ロニイタミイタンデ、タスケスクフゾ、コレハ天理ノマ、ニシテ、自然ノコトハリゾ、孟子ニ惻隱之心仁之端也ト云モ、コノコトゾ、惻隱トイフモ、イタミイタムトヨムゾ、人ノアシキコトヲイタムハ、仁ノ端也ト云ゾ、端者緒也ト云ヒテ、絲ノハシナドノ、卒度ミユル樣ナゾ、仁ノ全體デハナヒ、ハシヂヤト云心ゾ、タトヘバ二ツ三ツニナル、ワランベガ、井ノハタニ居テ、井ノ中ヘヲチントシテ、アブナキヲミテハ、タレガミテモ、アハヤカナシヤト、思ハヌモノハアルマヒゾ、コレハソノ子ノヲヤト、知音ニモアラ子ドモ、カヤウニ思フハ、天理ノマ、ニシテ、人欲ノワタクシノ、ソツトモマジハラヌニヨリテ、ヤレカナシヤトヲモハルルゾ、シカレバ人ニハ、惻隱ノ心ガ、性ニフクンデアルゾ、仁者ト云モノハ、ソノゴトクニ人ノウヘノ、ウキヲミテハ、タスケヒデハトヲモヒ、災難ニアフヲミテハ、救ハント思フゾ、不仁者ト云テモ、コノ性ハアレドモ、人欲ノ私ニヒキソコナハレテ、仁ノ心ヲ失ヒ、不仁ニナルゾ、サルホドニ仁ト云ハ、マヅ人ヲアハレムコ、ロアルヲ云ゾ、サレバ唐ノ韓退之ガ、博愛謂二之仁一ト云ヘルハ、ヒロク衆ヲ愛スルヲ仁ト云ゾ、宋ノ朱文公ハ、仁者心之德愛之理也ト云ゾ、仁ト云モノハ本心ノ全德ニシテ、人ヲ愛スル理也ト云ル心ゾ、孟子ハ仁人之心也ト云ルヲ、程子ガ註ニ、心譬如二穀種一、生之性便是仁ナリト云タゾ、心トイフモノハ、タトヘバ五穀ノタ子ノゴトキゾ、タ子ニハハヘ出ル理ヲフクンデアルハ、性ト云モノゾ、心ノタ子ノ、ハヘイデタルハ仁也、人ノ心ニ仁ヲフクンデアルヲ、ソレゾレニヲコナヒアラハスハ、タトヘバモノタ子ノ、ハヤハヘイデタヤウナゾ、中庸ニ仁者人也ト云ハ、仁字ハ人ト云字ノ心ゾ、イフコ、ロハ人ノ人タルハ、仁ノ

道アルヲ以テ云ゾ、仁ノ道アリテ、シカフシテノチニ、人ト名クルゾ、仁ナクンバ、人トハ云ベカラズ、カルガユヘニ仁者人也ト云ル心ゾ、マコトニ人ノ心ニ、人ヲアハレム心モナク、慳邪見ナラバ、人ニハアラズ、サレバ虎狼モ仁アリト云ヒテ、トラヲホカミモ、母乳ヲノムトキニ、ヒザマヅイテノムト云ゾ、獺モ魚ヲトル、ハツホヲマヅ天ニマツルト云ゾ、人トシテ仁アラズンバ、虎狼ニモヲトリタルコトゾ、烏ナドモ、巣ニアルトキハ、母ニ餌ヲフクメラル、ガ、巣ヲ出テハ、マタ母烏ヲヤシナヒ、餌ヲフクメカヘスト云ゾ、人トシテ、鳥ケダモノニヲトランハ、アサマシキコトナルベシ、仁ノ道ヲバ、アマタニ孔子聖人モ、イハレタレドモマヅ孝行ノ道ヲ、仁ノハジメ根本トスルゾ、論語ニハ、孝悌也者、其爲仁之本與ト云ヘルゾ、孝トハマヅ父母ニ奉公シテ、ソノ志ニシタガフヲ云ゾ、ナゼニト云ヘバ、父母ト云モノガナクテハ、コノ身ナシ、父母ガアレバコソ、コノ身ガアルホドニ、コノミノアルアヒダハ、孝行ニ力ヲツクサデハ、カナハヌ事ゾ、孝行ナル人ハ、マツロガ身ヲムサトモチテ、道ニタガヒワガ身モホロブルヤウニスルハ、父母ニモ耻ヲアタヘタ心ゾ、父母ノ名ヲモヨゴスゾ、ヲヤノ名マデモ、クタスナドト云レテハ、人ノミチデハナイゾ、モトヨリ父母ニ、イカヤウノ不足アリトモ、父母ヲバウラミヌ事ゾ、恨ルハ孝ノ道ニアラズ、昔大舜トマフスミカドマシ〳〵キ、ソノチヽ、瞽叟ト云、人タル人ニシタガフヲ云ト、孟子ノ云レタゾ、仁ハ愛ノ理ナリト云フナレバ、他人ヲサヘ愛スルガ仁ナルホドニ、マシテヤ父母兄弟ヲ、愛セザランヤ、中庸ニ仁者人也親レ親爲レ大ト云ハ、仁ト云ハ、父母ニ孝ヲ盡シ、一族親類ヲシタシムヲ、大キナル仁ト云ゾ、一族ヲシタシム中ニモ、差別アリ、ツヽトシタシキト、マタイトコ、ハトコノスヘトハ違ゾ、サルホドニ、親レ親之殺、尊レ賢之等トイヒテ、ソノシナジナガアルゾ、タヾシ一族兄弟ト云テ、惡人ニシテ分別モナク、無理非道ヲノミオモフ、イタヅラナルモノヲバ、シタシマヌ事ゾ、サレバ周ノ世ノ聖人タル、周公旦兄弟ノ、管叔蔡叔ハ、謀叛ヲシタホドニ、コロサレタゾ、唯仁者能好レ人、能惡レ人ト云テ、仁者ト云モノハ、人ヲ愛スルモノナルホドニ、能好レ人ト云ゾ、マタ惡人ヲバ、愛セマヒゾ、サルホドニ能惡レ人ト云ゾ、周公ノ管叔蔡叔ヲ

コロシ、大舜ノ四凶ヲナガシ、孔子ノ少正卯ヲコロサレタハ、能惡レ人ニテアルゾ、孟子ニ仁者無レ不レ愛也、急親レ賢之爲レ務ト云テ、仁義ノ道ハ、マヅ人ヲ愛シテ、アハレミヲカクルヲ云ゾ、ソノ中ニモケンジンヲ、アイシテシタシムヲ、スミヤカニ、ツトメトスルゾ、ワガウチノ臣下ニ、賢人君子タル、ヨキ人ヲアゲモチヒテ、アルヒハ師トシ、アルヒハ友トシテ、シタシマヒデハゾ、賢人君子ヲウチニモタヒデハ、天下國家ハヲサメラレマヒゾ、サルホドニ舜ハ皐陶ヲモチヒ、殷ノ湯王ハ伊尹ヲモチヒ、周ノ文王ハ、太公望ヲモチヒラレタゾ、仁ハ愛ノ理ニテ、國民ヲコト〳〵クアハレムガ仁ゾ、サレドモアマタノ人ヲ、一々ニ愛スル事ハ、ナラヌ事ゾ、サルホドニ孟子、堯舜之仁不ニ徧愛レ人、急レ親レ賢也ト云テ、堯舜ホドノ、仁聖ノ君モナケレドモ、ソレモ天下ノ人ヲ、一々ニアイスル事ハ、ナラヌホドニ、ヨキ賢人君子ヲ、シタシミモチヒテ、ソレ〳〵ニサバカセラレタゾ、禹ニハ水ヲオサメサセテ、天下ノ水道ヲアケラレタホドニ、民ガタスカリタゾ、稷ハ、五穀ヲツカサドラシメテ、五穀ガ天下ニ澤山ナホドニ、民ガタスカリタゾ、契ヲバ司徒ト云ツカサニナシテ、人倫ノ五常三綱ヲ、タヾサシメタホドニ、國モ大平ニ萬民ガタスカリタゾ、コレハ一々ニ人ヲ愛スルト同ジコトゾ、タトヘバ川ノアルニ、人ヲオキテ、ミチヲトヲル人ヲ、一々ニヲイコシ、マタコシニノセツナドシテ、川ヲワタスハ仁ニハ似タレドモ、一々ニ毎日ノ事ヲ、左樣ニハナラヌコトゾ、サテハシヲカケタラバ、ヲイコスニハ、ハルカニマシゾ、又トホル人モ辛勞モセズ、ヲイコス人モ辛勞セズシテ、ヨカランゾ、ソレト同ジコトゾ、賢人ニマカセテ、役々ヲサスルガ、萬民ヲ一々ニ愛スルト、ヲナジキゾ、橋ヲカケテトヲスコヽロゾ、サテ急レ親レ賢ト云タゾ、又曰省ニ刑罰、薄ニ稅斂、此二者仁政之大目也トイヒテ、仁アル君ハ、マヅトガ人ナドヲバ、ヲモキトガヲバカロクナシ、カロキトガヲバ、ユルス事ゾ、コレヲ省ニ刑罰ト云ゾ、仁者不レ嗜レ殺レ人ト云テ、ムサト人ヲコロスコトヲバセヌゾ、薄ニ稅斂ト云ハ、稅斂ハ年貢ノコトゾ、年貢ヲモ、キックハトラヌゾ、薄スルトハ、年貢ヲモ、ウスクトルゾ、民百姓モ其所ヲ安ジテ、國ノ富ルヤウニスルゾ、キックシテ、モノヲタメントスレバ、民百姓モ、ソノトコロニタマラズシテ、カナラズ

他國スルゾ、サヤウナレバ、仁ノ道ノ人ヲアハレム道ニテハナイホドニ、民百姓ノ他國ヲモセズ、ソノトコロヲタノシムヤウニスルガ、仁ノ道ノ大キナルコトデアルゾ、カヤウナルコトモ賢人ヲアゲモチヒテ、サスルゾ、サスレバ一々ニ人ニヲンシヤウヲアタヘテ、愛スルトヲナジコトゾ、サリナガラ賢人ニマカスルト云テモ、アマリニマカセスゴスモワルヒゾ、君モシラヒデハゾ、サレバ仁ノ道ハ、イロ〳〵サマ〴〵アルホドニ、カヾドラレスゾ、論語ニ克伐怨欲不レ行焉、可ニ以爲レ仁矣ト、孔子モイハレテアルゾ、克トハ、カツトヨムゾ、ナニ事ニモ人ヲヲシツケテ、我カタンマサラントスルヲ云ゾ、是ハ仁者ハセヌ事ゾ、ワガ師コノ克ノコトハリヲイハレシハ、克トハ人ニマサリ、心ノアリテ、サシモナキ事ヲモ、タヾ人ニカタン、マサラントスルヲ云ト云レシゾ、伐トハホコルトヨムゾ、ワガイサヽカナリトモ、功ヲナシタルコトノアレバ、ミヅカラホコリマハリテ、コレ〳〵御覧ゼヨ、ヲソラクハ、ワレラデナクテハナンド云マハル事ゾ、是モ仁者ハセヌ事ゾ、ワガ師ノカタラシムハ、伐トハ卒度シタル功ヲナシテ、世ノ中ニ人モナゲニ、ワレナレバコソト、ホコルヲ云ゾ、大功ヲナシテサヘ、ホコレバ必ズワロキ事ゾ、怨トハウラミトヨムゾ、コヽロノウチニアレバ、イカリヲホカニアラハスヲ云ゾ、是モ仁者ハセヌ事ゾ、胸中ハ洒々落々トシテ、イサギヨイホドニ、述懐シタリ、ウラミク子ル事ハ、ナニガアランゾ、ワガ師ノカタラレシハ、怨トハ小忌大怨ト云テ、ソツトノコトヲ、ク子リヒガミ、子タンデ人ヲウラミソ子ム事ゾ、ヲサナガマシキコヽロヲ云ゾ、欲トハモノヲホシガルコトゾ、利欲ヲホントシテ、人ノモノヲムサボルゾ、是モ仁者ハセヌ事ゾ、コノ四ツノアシキ覺悟ノナキハヨツボド仁ノ道ナレドモ、マタ向上ニハイタラヌゾ、論語、子張問レ仁、恭寛信敏惠ト云リ、恭トハウヤ〳〵シトヨムゾ、仁者ト云モノハ、人ヲウヤマヒ、インギンニアイシラフゾ、不遜ニシテ慮外ニハナヒゾ、サルホドニ人モ仁者ヲバアナドラヌゾ、故ニ恭則不レ侮ト云ゾ、寛トハユタカナリトヨムゾ、仁者ハ心ガユル〳〵トシテ、ユタカニアリテ、セハ〳〵シクハナヒゾ、心ガユタカナホドニ、スコシノトガヲバユルシ、キツクナヒホドニ、人ガヲモヒツイテ、コノ人ニ奉公セデハトオモフゾ、故ニ寛則得レ衆ト云ゾ、コ

レニヒキゴトアリ、ムカシ楚莊王ト云君アリ、アルトキ臣下ヲアツメテ、酒宴ヲセラレタゾ、夜ニ入火ヲトボスニラウソクキヘタホドニ、アル臣下ガソノクラミノマギレニ、上座ニイラル、美人ノソデヲヒイタゾ、ソノ美人ガ、ソノヒトヲトラヘテ、冠ノヲヲキリテカラ、莊王ニ云事ハ、タレヤラン、ワガソデヲヒイタホドニ、冠ノヲヲキリテヲイタゾ、イソギ火ヲ出シゴランゼヨ、冠ノヲノキレタルガアラバ、ワガソデヲヒキタル人ニテ、アラント云タゾ、ソコニテ莊王ノイハル、事ハ、酒ヲ各ニス、ムルハ、酔シメンガタメゾ、酔タラバ、マタサヤウノ事モアランゾ、火ヲ出シテ見タラバ、酒宴ノ興モサメンホドニ、サラバ火ヲ出サヌサキニ、座中ノ人々ミナ〳〵冠ノヲヲキラレヨトテ、キラセテカラ、サテ火ヲイダシ、マタモトノゴトク酒宴ヲシテ、各ヨロコビヲツクシテサラシムルゾ、ソノノチニ鄰國ト合戰アリテ、莊王イクサニマケテハヤ討死ヲセントセラレシ處ニ、一人アリテ、王ノマヘニタチフサガリ、アマタノテキヲキリクヅシテ、莊王モヒキトラレタゾ、莊王ノイハル、事ニハ、サテモソノ方ノカゲニテ、今日ノイクサニモマケズ、ワガ

命モタスカリタルガ、キドクニ忠節ヲツクサレタト云レタレバ、ソノ事ニテ侍フ、先年御酒宴ノアリシトキ、冠ノヲヲ美人ニキラレタルハ、ワレナリ、ソノゴヲンワスレガタキニ依テ、カクノ如シト云タゾ、コレゾ寛則得レ衆ト云ノコ、ロゾ、信トハ仁者ノコ、ロハ、マコトアリテイツハラヌゾ、信ニシテ律儀ナル程ニ、人ガタノムゾ、故ニ信則人任ト云タゾ、敏トハトシトヨムゾ、ハヤキコ、ロゾ、仁者ハモノガ利根ニシテ敏達ナゾ、スベキ事ナレバ、又タニナクヤガテハヤクスルゾ、サルホドニ萬事ニツイテ功ヲナスゾ、故ニ敏則有レ功ト云ゾ、惠トハメグミトヨムゾ、仁者ハ人ニメグミヲホドコシ、ナサケヲカクルゾ、人ニヲンシヤウヲアタユルホドニ、人ヲツカフニモ、ツカヒヤスヒゾ、故ニ惠則足ニ以使レ人ト云ゾ、此五ツノ事ガ、仁ト云モノゾト、孔子ノイハレタゾ、又曰、樊遲問レ仁、子曰、仁者先難而後獲、可レ謂レ仁矣ト云リ、仁者ト云モノハ、マヅ君ニヨク奉公ヲシテ、辛勞苦勞ヲシテ、忠節ヲツクシテノチ、祿ヲトルゾ、不仁者ハ、君ニ奉公ヲセズシテ、先祿ヲホシガルゾ、功ヲナヒテコソ君ノ祿ヲモトランズレ、功ヲモナサズシテ、祿ヲ取ハイタ

ヅラグイゾ、サルホドニ仁者ハサハナイゾ、君子タル人ハ、仁ノ道ナクテハ、名モトラレヌゾ、サルホドニ君子去レ仁惡乎成レ名ト云ゾ、タツニモイルニモ、仁ヲワスレヌゾ、又曰、顔淵問レ仁、子曰、克レ己復レ禮爲レ仁ト云リ、仁者ト云モノハ、禮儀ト私欲トヲ、二ツワガムネノウチニタ、カハセテミテ、ヲノレガ私欲ヲセメノケテ、タ、カヒカチテ、禮義ニカヘルトコロヲ仁トスルゾ、ヲノレガ欲ヲハナレズンバ、仁デハアルマイゾ、鏡モクモリヲミガヒテノケズンバ、アキラカニハナルマイゾ、私欲ヲノケテコソ、天理ノマ、性ノマ、ナルトコロニイタランズレ、人ト云モノハ、兎角ワタクシナル欲心ニヨリテ、ワザハヒガイデクルゾ、君ヲコロシ、父ヲコロスモ、ミナ欲ヨリヲコルコトゾ、サルホドニ仁者ハ、欲心ヲハラヒタテ、天理ノ公ニカナヘルゾ、天理ノ公トハ義ゾ、義ハ心ノ制事ノ宜也、制トハ法度ノ心ゾ、モ、ノ逆理ヲシワケ、タチワケスルカタゾ、私ニナキアリノマ、カメノミチガ、天理ノ公ゾ、人欲ノ私ト云ハ、マナコニ色ヲミテ、ヨクヲヲコシ、ミ、ニソノコヘヲキ、テソノヨクヲナシ、ハナニカヲカイデ、ヨクヲヲコシ、クチニアヂハヒヲナメ

テ、ホシキマ、ノヲモヒヲナス、手足ニツイテ、ホシキマ、ノラクヲヲモヒ、六根ノ境界、ソレ〴〵ニヒキソコナハレテ、道ナラヌヲモヒヲナス、コレミナ人欲ノ私ナルベキゾ、仁者樂レ山ト云モ、仁者ト云モノハ、山ノヤスクカタクシテ、自然トハタラキモセズシテ、草木萬物ノ、生ズルガゴトクナル事ヲタノシムゾ、仁者ハ丈夫ニヲチツキ、足實地ヲ踏デ、ケイハクニナク、シカモ德澤ノ物ニ及ブ事、山ノ草木ヲ生ズルガゴトクナルゾ、マタ仁者ハ靜ナリト云モ、仁者ハ第一ニ無欲ナルニヨツテ、コ、ロガシヅカナゾ、不仁者ハ名利ニフケルホドニ、コ、ロガサハガシイゾ、仁者ハ壽ト云モ性ガヲチツキテ、サワガシフナヒホドニ、氣ヲツカフコトモナク、仁者ハ不レ憂トモ云ヒテ、心ニカナシムコトモナケレバ、壽命モナガヒト云ゾ、不仁者ハ脅肩諂笑、巧言令色ヘツラヒマハルゾ、仁者ハサハナヒゾ、タヾアリヤウニスルホドニ、仁者ハシヅカナリ、マタ仁者ト云モノハ、ケナゲナモノゾ、ナゼニナレバ、義理ヲ知テスベキトコロナレバ、ヒトアシモヒカヌゾ、一命ヲハタシテモ、仁ヲナスゾ、故ニ仁者必有レ勇トモ云リ、マタ殺レ身成レ仁トモ云ルゾ、孟子

ニハ仁者無ㇾ敵ト云テ、仁者ハ人ノタメニ、忠アルモノナルホドニ、人ガニクマヌゾ、マタテキヲナサントモセヌゾ、イマ、デテキニテアリトモ、仁者ニハ歸服スルゾ、通鑑ニ、般湯王東面而征西夷怨、南面而征北狄怨、曰奚爲ㇾ後ㇾ我、徯ニ我后一后來其蘇矣ト云ゾ、般ノ湯王ノ東ノカタヘ、陣立ヲセラルレバ、西ノ國ノモノガウラミタゾ、南ノカタヘタヽルレバ、北ノ國ノモノガウラミタゾ、マヅワガクニヘ、ハヤク陣立ヲシテ、タマハラヒデ、ナゼニワガクニヘハ、ノチニトリカケラルヽゾ、マヅ我クニヲホロボシテ、タマハラヒデト云タゾ、コレハ夏ノ桀王ガ、惡王ナルニヨリテ、コレニアキハテ、アルホドニ、カフ云タゾ、湯王ノワガクニヘイラレタラバ、民百姓ハ、タスカランモノヲト云ゾ、コレヲバ仁者ニハ、無ㇾ敵ト云義ゾ、論語ニソレ仁者ハ、己欲ㇾ立而立ㇾ人、己欲ㇾ達而達ㇾ人、能近取ㇾ譬可ㇾ謂ニ仁之方一也已ト云テ、仁者ト云モノハ、マヅ人ヲソダツルゾ、サルホドニマタ人ガ、仁者ヲソダツルゾ、能近取ㇾ譬トハ、チカク我身ニタトヘヲトリタガヨヒゾ、ワガミヲツンデ人ノイタサヲシレト云ヤウニ、ワガイヤナコトハ、人モイヤニテアラントヽワガ

コヽロヲテホンニシテ、タトヘヲワガ身ニトリテ、ワガイヤナコトハ、人ニモサセマヒゾ、コレヲ己所ㇾ不ㇾ欲而勿ㇾ施ニ之於ㇾ人ト云ゾ、カフアレバ人ガウラミヌゾ、サルホドニ在ㇾ邦無ㇾ怨在ㇾ家無ㇾ怨ト、論語ニ云ルゾ、ワガイヤナコトヲバ、ヲモンハカリテ人ニサセヌハ、恕ノ字ノコヽロゾ、恕ヲモンハカルトヨムゾ、如ㇾ心トカヒタゾ、人ノコヽロモワガ心ノゴトクアラント、ヲモヒハカル心ゾ、仁者ト云モノハ、人ノウヘヲヨクヲモヒハカリテ、ムリナコトヲ人ガサセヌホドニ、クニヲヲサムルニモ、人ガウラミヌゾ、イヘヲヲサムルニモ、人ガウラミヌゾ、大學ニ一家仁、一國興ㇾ仁ト云テ、上タル人ガ一人、仁ノ道ヲヲコナハルレバ、一國ノモノガ、ミナ仁ノ道ヲオコナフゾ、サルホドニ人ニ君タル人ハ、仁ノ道ヲシラヒテハゾ、佛家ニハ仁ノ道ヲ、慈悲トコヽロヘテ、肝要トスルゾ、サレバ佛モ佛心者大慈悲コレナリト、トカレテ、モツハラ仁ノ道ヲ、ホリオコナフゾ、王龍舒ハ、以ニ佛家五戒一卽爲ニ儒者五常一不殺仁也、不盗義也、不邪婬ハ禮也、不妄語ハ信也、不飲酒ハ智也、苟自妄ㇾ人、亦爲ニ不仁一ト云ゾ、

○義

義トハ、說文曰、己之威儀也ト云リ、イギトハ行住坐臥ノ四威儀ゾ、行モ住モ坐スルモ臥モ威儀ノハッタトシタルヲ義ト云ゾ、釋名曰義ハ宜也、裁二制事物一使レ合レ宜也ト云テ、義ト云ハ宜也、義字ノコヽロハ、宜ト云字ノコヽロゾ、裁二制事物一使レ合レ宜ナリト云ハ萬事萬物ノヨロヅノコトヲ、ヨクコトハリテ、ソレゾレニヨロシキヤウニスルト云コトゾ、サルホドニ韓退之ハ、行而宜レ之之謂レ義ト云タゾ、朱文公ハ心之制事之宜也ト云タゾ、心ノ制トハ、コヽロニテヨクコトハリテ、コヽロノワキヘユクヲ、ヲサヘテ義ニスルト云心ゾ、事宜也トハ、萬事ノコトヲ、コヽロニコトハリテ、ヨロシキヤウニスルト云コヽロゾ、心ノ制ト云ヲ斧ニタトヘタゾ、タトヘバヨクモノヽキル、斧ノアルガ、竹ナリトモ木ナリトモアラバ、二ツニサットワルゾ、人ノ心ニ天理自然ノ性アリテヨロヅノコトノ義ト不義トヲワクルヤウナゾ、サルホドニ斧ノ竹ヲ二ツニワルヤウナゾ、サルホドニ人ゴコロノ公平正大ニシテ、毛ノサキホドモ、人欲ノ私ヲマジヘズシテ、義理ヲギリトスルハ義ゾ、ソノ義ノヨロシキトコロトハ、ナニゾナレバ、十義ト云テ、マヅ十ノ義アルゾ、父子兄弟夫婦長幼君臣ノ十ノ義ゾ、父タル人ハ慈悲アリテ、子ヲアハレムガヨロシキ處ゾ、アハレマズンバ、スデニ義ニアラズ、子タル人ハ、父母ニ孝行ナルガヨロシキ處ゾ、孝ナクンバ、子タルモノヽ義ニアラズ、兄タル人ハ、ヲトヲトニタイシ、ヤハラグガヨロシキ處ゾ、弟タルモノハ、兄ニシタガフハヨロシキ處ゾ、孟子ニ義之實從レ兄是也ト云テヲトヲトタルモノハ、兄ニシタガフモノゾ、サルホドニ義ト云モノノ眞實ハ兄ニシタガフヲ云ト、孟子ノイハレタゾ、夫タルモノハメニタイシテ義ヲマホルガ、宜キ處ゾ、婦タル人ハ貞心ニシテ、フタゴヽロナク、夫ニシタガフガ宜キ處ゾ、老タル人ハイトケナキヲメグムガ義ゾ、イトケナキモノハ、老タル人ニシタガフガ義ゾ、君タル人ハ、仁愛アリテ、臣下萬民ヲアハレムガ宜キ處ゾ、サナクンバ君タル人ノ、義理ガチガフタゾ、臣タル人ハ君ニ忠ヲツクシ、敬ヲツクスガ宜キ處ゾ、サナクンバ義ニアラズ、不忠不敬ナラバ、臣タル人ノ義理デナイゾ、サルホドニ君ノ一大事ニハ一命ヲモハタスハ、

臣ノ義ゾ、コレヲ十義ト云ゾ、孟子ニ生亦我所レ欲也、義亦我所レ欲也、二者不レ可レ得レ兼、舍レ生而取レ義者也ト云レタゾ、イフコ、ロハイキテイルモ、ワレガチガフトコロナリ、マタ義理ト云事モ、ワガチガフ處也、ヲナジクハイキテキテ、義理ニソムカヌハヨケレドモ、生ト義トノ二ツヲ、兼テ得事ガナラズンバ、死シテ義理ヲトランゾ、義理ニソムヒテハ、イキテモ詮ガナイホドニト、イフコ、ロゾ、豫讓ト云ル人、ワガ君ノタメニ、カタキヲトラントシテ、ワガ死シタルモリ命ハ依レ義輕ト云ル事ヲモヒテノコトゾ、豫讓ガコトハ、史記ノ列傳二十六ニアルゾ、タヅテミベシ、ムカシ魯ノクニニ、義婦ト云女アリ、子ヲフタリモチタゾ、兄ハ先バラノ子ゾ、弟ハワガウメル子ゾ、アルトキ齊ノ國ヨリ、魯國ヲセムルニ、魯ノ國ヤブレシカバ、先バラノ子ノ兄ヲバ、イダヒテニゲ、ヲトヲトヲバアヨマセタゾ、テキニ行逢タルニ、敵ガ問コトニハ、ヲヨソ人ノヲヤノクセトシテ、アニヨリモヲト、ヲアイスルモノナルニ、兄ヲバイダキテ、ヲト、ヲアヨマスルハ、ナニトシタルコトゾトトフタゾ、義婦コタヘテイハク、兄ハ先腹ノ子ニテ、ワガタメニハマ、

子ナリ、サルニヨリテ兄ヲバイダクゾ、弟ハワガ子ナルニヨリテ、カクノゴドシトイフタゾ、敵モコレヲ感ジテ、コロシモセズ、結句ホウビヲシタゾ、コレハ女ノ義理ヲマボリタルコトゾ、孟子羞惡之心義端也ト云ゾ、羞ハハヅルトヨムゾ、惡ハニクムトヨムゾ、ワガ不義不善ナルコトヲハヂテ、人ノ不善ナルコトヲニクムト云心ゾ、サルホドニ羞惡之心ハ義ノハシデアルゾ、論語ニ君子義以爲レ上、君子有レ勇而無レ義爲レ亂、小人有レ勇無レ義爲レ盜ト云テ、君子タル人ハ、義理ガ肝要ゾ、君タル人ガケナゲニシテ、ギリヲシラチバ、亂ヲナスゾ、亂トハ父ヲコロシ、君ヲコロスゾ、小人ガケナゲニテ、ギリヲシラチバ、ヌスミヲスルゾ、ケナゲモギリノケナゲガ肝要ゾ、血氣ノ勇バカリデ、ギリガナケレバ、亂ヲナスゾ、又イハク不義而富且貴、於レ我如二浮雲一ト云テ、富トハ金銀珠玉米穀ヲタントモツコトゾ、貴位ノタカキヲ云ゾ、不義ナルコトデ、分限ニナルハ、ヤガテホロブルモノゾ、アルヒハ父ヲコロシ、アルヒハ君ヲコロシ、ヌスミナドヲシテ、分限ニナルハ、ウキクモノ、イマハアルカトスレバ、ヤガテキエテ、ノクルヤウニ、久ハナヒゾ、貧賤富貴ハ、

ミナ天命也、ナニカ天命ニソムキ、ミダリニ富貴ヲモトメテモナラヌコトゾ、富タラバ禮ヲコノミ、貧クバ道ヲタノシンデコソアランズレ、不義ナルコトデ、財寶ヲモトメテモ、イラヌコトゾ、サルホドニ、見レ利思レ義ト云テ、利潤ナルコトガアリテ、モノヲトルコトアリテモ、コレハトラフズル義カ、トルマヒ義カト、ヨク〳〵思案シテトライデ、カナハザル義ナレバ、ドルモノゾ、トルマジキニトルハ不義ゾ、義然後取、人不レ厭二其取一トイ、テ、トルベキ義アリテトルハ、人ガソノトラル、ヲ、迷惑モセヌゾ、孟子、非二其有一取レ之非レ義トモ云リ、ワガモノデモナイ、人ノモノヲトルハ、義ニアラズト云心ゾ、論語、君子喩二於義一、小人喩二於利一ト、孔子ノイハレタゾ、君子タル人ハ、義理ノコトヲイヘバ、ヲモシロガルゾ、小人ハ利欲ノコトヲ云ヘバ、ヲモシロガルゾ、トスレバ得ガユクゾ、カウスレバ利ガユクナドトイヘバ、クチナメズリヲシテ、ウレシガルゾ、富而不レ驕、積而能施ト云テ、富デ分限ナレバ、大略ノ人ガヲゴルモノゾ、驕トハワガ身ニ、マンジテ、人ヲアナドルゾ、コレハ義ニアラザルゾ、サルホドニ大名ナリトモ、ワガ身ヲヒゲシテ、上ハ天ヲモヲソレ、下ハ萬民ヲモアナドラヌガ義ゾ、宮殿衣服ヲ華麗ニスルヲモ、ヲゴルト云ゾ、分ニスギテ、宮殿衣服ヲ結構ニハセヌコトゾ、堯舜ハ天下ノ王ニテマシマセドモ、カヤブキノ家ニ居タマヒタゾ、積而能施スト云ハ、金銀米穀ヲツミタクハヘテ、持タラバ、人ニホドコシテ、義理ヲ本トスルガ道ゾ、輕レ財尙レ義ト云テ、財寶ヲヲシマズ、義ヲモツハラニスベキナリ、孟子ニ義ハ人之正路也ト云ゾ、義ト云ハ、タトヘバタヾシキミチノゴトシ、人ノ正直正路ニシテ、一毫モ私曲ナキハ、イカニモ平ナル路ヲアルクヤウナゾ、又私曲アリテ、不義ナルハ、ケハシキ路ノ石タカク、ユガミスヂリタル路ヲ、アルクヤウナゾ、論語、上好レ義則民莫二敢不一レ服ト、孔子モ云レタゾ、君タル人ガ義ヲコノメバ、下萬民モ、盡ク歸服シテ、ソノ君ヲイタヾクコト、日月ノゴトクスルゾ、

○禮

孔子曰、禮先王所下以承二天之道一、以治中人之情上ト云テ、禮ト云モノハ、先代ノ帝王ノサダメヲカレタ事也、承二天之道一トハ、天ハ尊、地ハ卑シ、天ハタカク、

地ハヒクシ、上下差別アルゴトク、人ニモ又君ハタットク、臣ハイヤシキゾ、ソノ上下ノ次第ヲ分テ、禮義法度ト云フコトハ、定メテ人ノコヽロヲ、ヲサメラレタゾ、程子曰、禮ハ只是一箇序ト云タゾ、禮ハ序ノ一字ゾト云コヽロゾ、序ト云ハ次第ト云フコヽロゾ、禮ト云モノハ、尊卑有㆑序長幼有㆑序ゾ、尊ハ位ノタカキヲ云ゾ、卑ノ位ノヒキヽヲ云ゾ、コレニハ次第ガナフテハカナハヌゾ、君ハ尊ク臣ハイヤシキホドニ、ソノ差別ガナクバ、國ハヲサマルマヒ、君ニモ天子アリ、諸侯アリ、ソノ差別ガナニヽツケテモアルゾ、クルマニノレドモ、車ノカザリヤウガ、チガフゾ、臣下ニモ百官ノ位ニヨリ、クルマヤ衣裳、ナニヽツケテモ、ソノ差別アルゾ、座敷ニナヲレドモ、尊キハ上座ニキ、イヤシキハ下座ニアルゾ、カヤウナルコトガ、禮ト云モノゾ、長幼有㆑序ト云モ、ヲヒタル人トワカキ人ニ、差別次第ガアリテ、老タルハ上ニ居、ワカキハ下モニイルヤウニ、ナニヽツケテモ、ソノ法度アルヲ禮ト云ゾ、禮ト云コトガナクテ、君臣ワカチモナクンバ、臣下トシテ君ヲナイガシロニシ、君モ臣ヲツカフニ禮義ガナクンバ、國ハヲサマルマイゾ、カナラズミダレンゾ、ミダルレバホロブルゾ、故ニ周公旦ノ、周禮・儀禮ト云モノヲツクリテ、禮義ヲサダメラレタゾ、故ニ中庸序㆑爵所㆔以辨㆓貴賤㆒也ト云ハ、クラヒト云事ヲシテ、ヲカレタハ、貴キト賤キトヲ、辨フルイハレナリト云タゾ、又曰、燕毛所㆓以序㆑齒也ト云テ、酒宴ナドニ、人ノ髪ノイロヲ見テ、白キヲ上ニアグル事ハ、トシノヨハヒヲ次第シテ、老タルヲ敬フ故也ト云心ゾ、禮ハ敬フユヘデアルゾト云コヽロゾ、禮ハ敬ナリト云テ、禮ト云字ハ敬ト云字ノ心ゾ、故ニ曲禮毋㆑不㆑敬ト云ゾ、朱文公ハ、禮之本在㆓于敬㆒ト云タホドニ、敬ヲ禮ト云ゾ、ゲニモ君ヲ君トシ、父ヲ父トスルハ、敬デアルゾ、サキニ云トコロノ、程子ガ禮ハ、只是一箇序ト云ハ、事ニツイテ云ゾ、朱文公禮之本在㆑敬ト云ハ、心ニツイテ云ゾ、心ニ敬コトガナクンバ、君ヲタットビ、老タルヲ敬フ差別モアルマヒゾ、敬ニヨリテ物ニ次第ガアルゾ、畢竟同ジコヽロゾ、中庸、禮儀三百、威儀三千ト云テ、周公旦メサレタ、儀禮ト云モノニ、大ナル禮儀ガ三百箇條アルゾ、小ナル威儀ノタチキフルマヒガ、三千箇條アルゾ、禮儀三百ノウチニハ、冠禮・婚禮・喪禮・祭禮・朝覲・會同禮ナドヽ云テア

ルゾ、冠禮トハ、人ノ元服シテ、カフリキソムルニ、禮儀シツケガアルゾ、ソレニマタ中士ノ冠禮ト、諸侯ノ冠禮ト、天子ノ冠禮トノ、段々ニクラヒニヨリテカハルゾ、婚禮トハ、女ノヨメイリスルトキノ禮儀シツケガアルゾ、納幣(タウヘイ)親迎ノツレゾ、喪禮トハ父ノ死シタルトキニ、葬禮中陰等ニ、禮儀シツケガアルゾ、ソレニモクラヒニヨリテ、イロ〱カハルゾ、父ニハ斬衰(シサイ)ノイロヲキ、桐ノ木ノツエヲツキ、母ニハ齊衰ノイロヲキ、竹ノツエヲツキ、シンルイノヲヂ、ヲヤカタ、兄弟ニハ、總麻小功大功ノイロヲキ、コレモイロ〱、品品ノ禮義ガカハルゾ、祭禮トハ、マツリノトキノ禮義ゾ、コレモ天ヲ郊ニマツリ、地ヲ社ニマツリ、アルヒハ宗廟ニテハ、昭穆ヲタヾシ、先祖ヲマツリ、社稷ト云テ、土ヲマツリ、五穀ノ神ヲマツリ、父母ヲマツルアリ、コレニモイロ〱アリ、朝覲禮トハ、諸侯タル人ノ、天子ヘ出仕ヲメサル、時ノ、禮儀シツケガアルゾ、會同禮トハ、諸侯ト諸侯ノ寄合、主人ト客人トノ禮義シツケアリ、コノホカニ射禮トハ、弓ヲイルトキノ禮アリ、軍禮トハ軍陣ノ禮アリ、カクノゴトキノ禮義、三百條アルゾ、又威儀三千トハ、進退・升降・俯仰・揖遜ナドノ類ガ、三千アルゾ、進退トハ、君ノ前ヘススミイヅルト、又君ノ前ヲタチノクトノ、時義シツケガアルゾ、升降トハ、階ヲノボリクダルニシツケアリ、俯仰トハ、カヲモチノ、アホノクモワロシ、ウツムキスゴスモワロヒゾ、ソノカホモチノヨキホドナルガヨキゾ、揖遜トハ、手ヲ以テ、人ヲ揖シテ、マヅサキヘヲンイデアレナド云事ゾ、カヤウナル禮義ガ三千アルゾ、日本ニテハ、イセドノ、シツケカタナドガ、禮義ト云モノゾ、禮記、敖不レ可レ長、欲不レ可レ從、志不レ可レ滿、樂不レ可レ極ト云ハ、ヲゴリヲマシテ、ナヲモヲゴレバ、スヘガワルイゾ、欲ヲホシヒマヽニスレバ、末ハホロブルゾ、志ヲ十分ニシテ、ワガヲモフマヽナレバ、後ハカナラズ、ウチコボスゾ、タノシミヲキハムレバ、スヘハカナシミガキタルゾ、ヨクツヽシメバダイジナヒゾ、ツヽシメト云コヽロゾ、賢者狎而敬レ之、畏而愛レ之ト云ハ賢人ノシカルベキ人ヲバ、平生狎レタリトモ敬ヘ、畏テ愛セヌハ、禮ニアラズ、禮聞ニ來學ニ不レ聞ニ往敎ニト云ハ學問スル人ハ師ノ所ヘ來習ゾ、師ガ學者ノ處ヘ往テ敎ル事ハナイゾ、愛而知ニ其惡ヲ、憎而知ニ其善ヲト云ハ、我イトヲシキ人ナリトモ、

ワルキ事アラバ、アシキトシリテ、退ケヨ、我ガヒイキナル人ト云テ、非ヲ理ニハセマヒゾ、又ニクキ人ナリトモ、ヨキコトアラバ、ヨキト知テ、ホウビヲモセヨ、ニクキ人ト云テ理ヲ非ニハセマヒト云心ゾ、禮ハ尙ニ往來一往而不レ來非レ禮也、來而不レ往非レ禮也ト云モノハ、人ノ處ヘ我ユキテ、禮ヲ云ニアチカラ來ヌハ、禮デハナヒゾ、アチ來テ禮アルニ、我ユヒテ禮ヲ云ヌハ、禮ヲソムクゾ、不レ登レ高、不レ臨レ深、不ニ苟訾一、不ニ苟笑一、孝子不レ服(ツカ)レ闇ト云ハ、人ノ子タルモノ、孝行ナル人ハ、我身ヲ聊爾ニモタヌゾ、サルホドニタカキ處ヘモノボラヌゾ、ヲチタラバ、父母ニキヅカヒヲサスルホドニゾ、フカキ淵ナドヲモノゾカヌゾ、コレモマタ父母ニキヅカヒヲサセヌヤウニスルゾ、不ニ苟訾一トハ人ノコトヲムザトハソシラヌ事ゾ、ソシレバササエニナルゾ、不ニ苟笑一トハ、ムザト笑モセヌ事ゾ、ヲモシロキ事モナヒニ笑ハ、人ヲヘツヘラフニ似タゾ、孝子不レ服レ闇トハ、クラガリニヲラヌゾ、クラガリニイレバ、人ヲダマスニ似タゾ、毋ニ側(ソバダチ)聽一毋ニ噭(サケンデ)應一ト云ハヲヤカタノ前ニテハ、耳ヲソバダテ、頭ヲカタブケテ人ノサヽヤクヲキカヌ事ゾ、人ガ疑フゾ、毋ニ噭應一トハ、人ノ物ヲ云ニ、コヘダカニコタユル事ナシ、シトヤカニセヨト云心ゾ、安ニ定辭一ト云、人ノモノヲ云ニハ、イカニモコトバヲシヅカニイヽテ、サダカニ云ベシト云コトゾ、イソガハシクイヽテ、ラチモアカヌヤウニイヒテハ、スマヌコトゾ、君子タル人ハ、イカニモコトバヲシトヤカニナフテハゾ、不レ問不ニ敢對一ト云ハ、モノヲトヒモセヌニ、トハズガタリヲスルナト云コトゾ、長者不レ及毋ニ儳言一ト云ハ、ヲヤカタノ樣ナル人ノ、モノヲ云ニ、マダ云モトラヌニ、中カラトリテ、別ノコトヲイハヌモノゾ、毋ニ淫視一ト云ハ、人ヲシリメニミルナト云コトゾ、立毋レ跛ト云ハ、人ノ前ニ立テイルニ、カタアシニテタチテイルナト云ゾ、坐毋レ箕ト云ハ、人ノ前ニ居ルニ、箕ノ手ニ足ヲ、ハタカリテハイヌモノゾト云事ゾ、寢毋レ伏ト云ハ、イヌルトキニ、ウツムキニハ子ヌコトゾ、死シタル人ニ似タルホドニゾ、寢不レ言ト云ハ、イヌルトキニ、モノヲ云ヘバ、ソバナル人ノ子ムリヲヲドロカスホドニ、子テカラハモノヲ云ヌ事ゾ、食スルトキニ不レ語ト云ハ、モノヲクフトキニ、モノガタリヲセヌコトゾ、口ノ中ノ食物モ、ミグルシク、又人ノ物ヲ口

ニフクンデアルニ、物ヲ云カクレバ、コタユルコトモナラヌゾ、又食物ノ味モヲボヘヌゾ、先生書策、琴瑟在レ前、坐而遷レ之、戒勿レ越ト云ハ、物ノ本ヤ、琴ナドヲ、足ニテコヘテ、トホラヌ事ゾ、物ノ本ノアル處ヲトホルナラバ、ソットヒザマヅキ、ワキヘヨセテトヲルゾ、尊客之前不レ叱レ狗ト云ハ、貴人ノ客ノ前ニテ、狗ヲモシカラヌ事ゾ、イヤシキ事ヲ云テ、貴人ノ聽ヲヲドロカスホドニゾ、燭ハ不レ見レ跋ト云ハ、蠟燭ノモトマデモユルヲ見テハ、客人ガ見テ、夜ノフケタリト思ヒ、タヽントスルホドニ、モトマデハ、トボサヌゾ、冠毋レ免トハ、カンフリヲバ、イツモハナタズキル事ゾ、勞ニモ毋レ袒ト云ハ、辛勞ヲシテクタビレタリトモ、キルモノヲカタハダヌグコトヲ、スルナト云事ゾ、暑毋レ褰レ裳ト云ハ、夏ニナリテ、アツクトモ、ヒトナカニテキルモノヽスソヲ、カヽグルナト云事ゾ、男女不二雜坐一、不レ同二椸架一、不レ同二巾櫛一ト云ハ、男ト女ト一ツニウチマジハリテヲラヌ事ゾ、椸架トハキルモノヲカクル、衣桁ノ樣ナルモノゾ、男ノキルモノト、女ノキルモノヲ、一ツニハカケヌモノト云事、又巾トハ手ノゴヒゾ、櫛ハクシゾ、コレモ男女ノヲ、一ニハ

ヲカヌゾト云事ゾ、諸母不レ漱レ裳ト云ハ、父ノメカケモ、我タメニマ、母ナルホドニ、裳ヲアラハスル樣ナルコトハセヌゾ、裳ヲアラハスルハ、慮外ナルコト、云心ゾ、コレモ父ヲ敬フゾ、父母存、不二許レ友以レ死ト云ハ、父母ノイキテイラル、ニ、我ガ傍輩ニタノモシヅクヲシテ、ソチガ一大事ノトキニハ、我モノガレハセマヒ、ソチガシナバ、ワレモ死ナンナド、云事云ヌモノゾ、父母ノアルアイダハ、ワガ身ヲ聊爾ニモタヌコトゾ、父母ニキヅカヒヲカクルホドニゾ、幼子常視毋レ誑ト云ハ、イトケナキ子ニ、常ニモノヲ云ニモ、タラスコトヲタラシツクレバ、ソノ子ガノチニハイツハリテ、人ヲタラスゾ、ワランベハ、父母ノシツケガ大事ゾ、孟子ノイトケナカリシトキニ、母ニ問コトニハ、ヒガシドナリノ家ニ、猪ヲコロセル事ハ、ナニノタメニスルゾト云ヘバ、母タハブレニイハル、事ニハ、アレコソナンヂニクラハシメンタメゾト云ヘリ、コ、ニ母コノタハブレゴトヲ、クイカナシミテ思ヤウハ、ワレキク古ニハ胎内ニアリト云テ、胎内ニ子ノアルウチニサヘ、ソノ母ツヽシミヲナシテ、耳ニ惡事ヲキカズ、メニアシキイロヲミズ、ソノカタチヲタ

ダシクシテ、ツ子ニ聖賢ノ美言ヲキクコトヲスルト、イママサニソノシルコトアリテ、ワガコヲアザムクハ、コレ我子ニ信アラザル事ヲ、ヲシフルゾト、クヒオモヒテ、卽猪肉ヲカイテ、クラハシメテ、サキニタハブレニ云ル處ヲ、誠トスルゾ、サルホドニ孟子ヒトトナリテ、學ニツイテ、終ニ大儒トナリ、後代ノ師トナルゾ、貧者不㆘以㆓貨財㆒爲㆖禮トイフハ、貧ナルモノハ財寶ノタカキモノイルモノナド、モチテ人ノ處ヘユキテ、禮ニハセヌゾ、老者不㆘以㆓筋力㆒爲㆖禮ト云ハ、トシノヨリタル人ハ、チカラワザヲシテ、ホ子ヲオルシゴトヲシテ、禮トハセヌゾ、禮ニハ似合々々ノ事ガアルト云心ゾ、毋㆓咤食㆒毋㆑嚙㆑骨ト云ハ、物ヲ食スルトキニ、シタヲウチナラシテハクハヌゾ、食物ガアヂナキヤウニシテハラヲタテタニ似ルゾ、ウヲトリノホ子ヲカムナト云事ゾ、ホ子ヲカメバ、ナルコヘアリテワルイゾ、ソツトウツハモノヘイレヨト云事ゾ、濡肉齒決、乾肉不㆓齒決㆒ト云ハ、無鹽ノ肉ヲバ、齒ニテクイキルゾ、乾物ノホシタル肉ヲバ、齒ヲ以テクイキラズ、手ヲ以テサイテクヘト云コヽロゾ、賜㆓果於君前㆒其核者懷㆓其核㆒ト云ハ、コノミヲ君ノマヘニテ、

タマハルトキハ、サ子アルモノハ、ソノサ子ヲフトコロニイル、ゾト云コヽロゾ、コレハ已上ミナ禮義シツケト云モノゾ、カヤウナル禮ガ、曲禮トマフス、禮記ノハジメノ篇ノウチニハ、イカホドモアルゾ、カミニカフ云タル處ノ事ハ、禮ノ目ニミヘテ、事ニアラハレタル事ヲ云タゾ、禮ト云ハ根本ハ心ニ敬ヲ云ゾ、心ニ敬ニヨリテ、萬事ニツイテ、シツケト云モノガアルゾ、シツケト云モ、兎角人ヲサキダテ、己ヲノチニスルガ、シツケ也禮也、論語、禮云禮云玉帛云乎哉ト云ハ、禮ハ敬フガホンデアルゾ、アナガチニ御禮ニマイルトキニ、玉ヤ帛ヤ、或ハ金銀ノツレヲモチテユクヲ、禮トハ云フマヒゾ、ソレハ心ニ敬フト云ノシルシニ、玉帛金銀ヲモチテユクゾ、マタ玉帛金銀等ソレゾレニヲウジテ、土産ヲモチテユカヌモ、ムカヒヲカロシムルニナルホドニ、サモナフテハ敬ノ心ガアラハレヌゾ、シカレドモマヅ禮ハウヤマウガホンデアルゾ、孟子、辭讓之心禮之端也ト云ハ、斟酌シテナニガ我等ハ、サヤウデハアランゾト云心ゾ、讓トハユヅルトヨムゾ、イヤコレハソナタノナサルヽ處ヂヤナド、云テ、ヨキコトヲ人ニユヅルゾ、タトヘバ、盃ヲイダシテ

ヒトツキコシメセト云ンニ、イヤナニガ我ハクダサル、處デハナヒ、マヅソナタニマヒレヨト云ヤフナ心ヲ辭讓之心ト云ゾ、サヤウニモノゴトニ、シンシヤクノ心ノアルハ、禮ノハシデアルゾ、コレハタトヘデコソアレ、諸事ニツキテ、加樣ニ心得テ、人ヲサキダテ、ワレヲ後ニスルヲ禮ト云ゾ、ムカシ虞ト芮トノ兩國ノ君ガ、サカヒメノ田地ヲアラソヒテ、ツイニ決セヌホドニ、文王ハ聖人ナレバ、文王ニ批判サセマイラセテ、決セント云テ、兩國ノ君ガツレダチテ、周ノクニヘユキケルニ、ソノアタリノ民ドモガ、ナニヤラン田ノ中ニテ、モノヲアラソフホドニ、タチヨリテキカレタレバ、コノ田ノ畔ハ、ソナタノヂヤ、コチノデハナイト云ゾ、マタアナタノモノハ、イヤ／＼コノ畔ハ、ソナタノニテコソアレ、コチノデハナイト云テ、互ニユヅリアフタゾ、此事ヲ兩國之君ガキカレテ、ア、サテ聖人文王ノオサメラル、處ハ民百姓マデ、カヤウニ結構ニシテ、畔ヲユヅルニ、ワレ／＼ハ一國ノ主トシテ、サカヒメヲアラソフコトハ、比與ナコトカナトヲモヒテ、イヤ／＼文王ノマヘニ出デ、決スルマデモナイト云テ、ソコヨリタチ歸リ、アラソヒヲヤメラレタゾ、加樣ナル事ヲ禮讓ト云ゾ、孔子モ能以二禮讓一爲レ國乎何有、不レ能下以二禮讓一爲上レ國如二禮何一ト云リ、禮讓ヲ以テ上下君臣之義ヲワカチ、人ヲサキダテ、ヲノレヲノチニスルコトナクバ、國ヲオサムル事ハナルマイト云レタゾ、禮ヲ以テ國ヲ治バ、コレヨリ上ノコトハナニカアランゾトナリ、又曰、君使レ臣以レ禮、臣事レ君以レ忠ト云テ、君タル人ガ臣下ヲ使フニ、禮義法度ヲタヾシテツカヘバ、臣下モマタ君ニ忠節ヲツクスモノゾ、又曰齊（トヽノフル）レ之以レ禮、有レ恥且格ト云テ、國ヲオサムルニハ、禮義法度ヲ以テシテ、尊卑ノ差別長幼ノ次第ヲ分チ、賢人ヲタツトミ、小人ヲ退ケテコソ、國ハオサマルモノゾ、サアレバ國民モ、ミナ恥ト云事ヲ知テタヾシクナルゾ、若又尊卑賢不肖ノ差別モナク、タカキ人ヲイヤシメ、イヤシキ人ヲタツトミテ、賢人ヲ退ケ、小人ヲ用ヒバ、ミナ禮ニソムクゾ、ソムクトキハミダル、ゾ、ミダル、トキハホロブルゾ、サルホドニ禮ト云モノナクテハ、國ハオサマルマヒゾ、道德仁義非レ禮不レ成ト云テ、禮ト云モノガナクバ、仁義之道モヲコナハレヌゾ、仁義之道ハ禮ト云モノガアレバコソ、ヲコナハルレバゾ、孔子曰、非レ禮勿レ言、非レ禮

勿レ視、非レ禮勿レ聽、非レ禮勿レ動ト云ヘリ、イフコ、ロハ非禮非義ナルコトヲバ、云モスルナ、見モスルナ、キ、モスルナ、ウゴキモスルナト云リ、タトヘバ僧ナドノ魚ヲ、ホシヒナド、云事ハ云ベカラズ、甚ダ非禮也、又僧ノ女猿樂ナドヲバ、ミルコトナカレ、非禮ナル事也、又僧ハ女舞ナドヲバキクコトナカレ、禮ニアラザルコトゾ、動ト云ハタチヰフルマイノ行迹ゾ、タチヰニモ道ニアラザル事ヲ、スベカラズト云事ゾ、コレハタトヘニテコソアレ、ヨロヅノコトニツキテ、禮ニハヅレタルコトヲバ、云モスルナ、見モスルナ、キ、モハタラキモスルナト云事ゾ、淳于髡曰、男女授受不レ親禮與、孟子曰、禮也ト云ハ、男ト女トモノヲワタシウケトルニ、直ニ手ト手トワタシハセヌ事ト云ガ、コレハ禮ニテバシアルカト問フタレバ、孟子ノ禮ナリト云レタゾ、禮記ニモ男女不二親授一トアルゾ、シカレドモアニヨメガ、水ニナガレバ、手ヲ以テヒキアゲヒデハト云ゾ、コレハ權ノ道ト云モノゾ、權ノ道ト云ハ、法度ヲヒトツハヅシテモ、ノチハスグナル道ヘイタルヲ云ゾ、アニヨメノ手ヲヒクハ、法度ヲハヅス樣ナレドモ、イノチヲタスクルハスグナル道ゾ、孟子

任人問曰、禮與レ食孰重、屋廬子曰、禮重、色與レ禮孰重、曰禮重、以レ禮食則飢而死、不二以レ禮食一則得レ食、必以レ禮乎、親迎則不レ得レ妻、不二親迎一則得レ妻、必親迎乎、イフコ、ロハ、禮ト食トハドチガ大切ナ事ゾトトヘバ、禮ガ大切ナ事ゾト云タゾ、色トハ女ノ事ゾ、コノ色ト禮トハ、ドチガタイセツナ事ゾト云ゾ、サアラバ禮義ヲアリヤウニヲコナハヾ、食物ヲエズシテ、カヘッテ死ナフズヨ、禮義ヲヤブリテナラバ、食物ヲエテイキテヲランゾ、サアリトモ禮義ヲモチヒンカ、マタ親迎ト云テ、人ノヨメイリスルトキニ、六ノ禮義アルヲ、ソノ一ツゾ、サヤウニヨメイリノ禮ヲシキ〲ニセバ、妻ヲエマジ、シキ〲ニセズシテ、禮ヲヤブリテナラバ、ツマヲエンゾ、サアリトモシキ〲ノヨメイリノ禮ヲセンカトトフタゾ、コレヲ孟子ノヲモシロクイハレタゾ、紾(モトラシテ)二兄之臂一而奪二之食一則得レ食、不レ紾則不レ得レ食、則將レ紾レ之乎、踰二東家牆一而摟二其處子一則得レ妻、不レ摟則不レ得レ妻、則將レ摟レ之乎、イフコ、ロハ、ワガアニノヒヂヲ子ヂテ、食物ヲウバヒトランナラバ、食ヲエンゾ、ヒヂヲ子ヂズンバ食ヲエマヒ、カヘッテシナント云ハヾ、アニノヒヂヲ子ヂテ、食物

ヲウバヒトランカト云タゾ、コレハナニガ禮義ニソムイテ、兄ノヒヂヲヂヂテハ、カヘツテ死ヌトモ、サウハセマヒホドニ、禮ハ死ヨリモヲモク、大切ナ事ト云事ゾ、マタワガ家ノヒガシドナリニ、エンニツカヌムスメノアルガ、カキヲコヘテコノムスメノソデヲヒカバ、妻ヲエン、サナクンバ妻ヲエマヒト云ハヾ、カキヲコヘテ行テ、ソデヲヒカント云タゾ、コレハナニガ父母モユルサヌ人ノムスメヲ、カキヲコヘテヌスムヤウナル、禮義ニハヅレタル事ヲバセフゾ、サアレバ禮ハ戀ノミチヨリモ、大切ナコトゾト云コトゾ、シカレバ萬事ニツイテ、禮ニハヅレタコトハセマヒ事ゾ、上好レ禮則民莫ニ敢不レ敬ト云ナレバ、上タル人ノ禮義法度ヲコノマルレバ、下萬民ハ君ヲウヤマハヌト云事ハナヒゾ、サレバ禮ハ、天理ノ節文、人事義規則ト云ヘリ、サシアタリテハ、モノ、ウハツラノヤウニヲモヘドモ、ミナ天理ノアラハル、トコロニシテ、人ノ上ニ通ジテ、タヾシキノ、ミチノ法度ナルホドニモツトモ禮ノ道ヲバ、肝要ト心得テ、ヲコナフベキコトナルベシ、

○智

智トハ増韵ニ心有レ所レ知也ト云テ、智者ト云モノハ、心ニヨロヅノコトヲシルゾ、説文ニ智者有レ言故於レ文白知爲レ智ト云ハ、智者ト云モノハ、ヨロヅノコトヲ知ルホドニ、ヨクモノヲ云テ、辨舌ガキクゾ、故ニ字ニモ知白トカクゾ、白ハマフストヨムゾ、智者ハ聰明睿智ト云テ、目ニミルコトモカシコクテ、チヤツトモノ、ヨシアシヲミテトルゾ、耳ニキクコトモカシコクテ、チヤツトモノ、ヨシアシヲミテトルゾ、サルホドニアキラカニシリ、洞ニ達シテ、理ニクラキコトナキゾ、マヘニイヽタル、仁ノ道モ義ノ道モ、禮ノ道モ、ヨクシリワケテ、ソレ〲ニ行フガ智者ゾ、智ニアラズンバ、イカニトシテ、仁義禮ノ道ヲシランヤ、智アルニヨリテ、仁義ノ道ヲシリテ、是非善惡ヲ分明ニ分ツゾ、故ニ孟子、是非之心智之端也ト云ゾ、是トハソノ善ナルコトヲシリテ、コレヲ是トス、是ハヨヒト云心ゾ、非トハワルヒト云心ゾ、サルホドニ是非之心智之端也ト云ゾ、孔子モ智者不レ惑ト云レタゾ、物ノ理非ヲ分明ニ分テ、是ハ理也、是ハ非ナリトシルコト、カヾミノ姸醜ヲ辨ズルガゴトクナルホドニ、物ニ

迷フ事ガナヒゾ、カヾミガアキラカナレバ、人ノ形ノカホヨキト、智惠ノヒカリヲ以テ、モノヲテラシテ、當レ理不レ擾達レ事無レ滯ゾ、人欲ノ私ニヒカレテ、一點モ私欲ナクバ、智モ明カニナランゾ、智者樂レ水ト云テ、智者ト云モノハ、智慧ヲメグラシテ、世ヲ治ルコトサツサト水ノ流テ、ヤマザルガ如シ、故ニ水ヲタノシムゾ、マタ智者動ト云ルハ、智者ト云モノハ、明徹ニシテ、萬事ノ理ニヨク達シテ、氣轉ガマハルホドニ、一方ムキニナク、チヤツチヤツト事ノ變ニ應ズルホドニ、動ト云ゾ、智者ト云ニモ、重々ガアルゾ、孔子ナドハ、聖人ナルホドニ、ムマレナガラシラルヽゾ、顏回ナドハ、學デシルゾ、コレハ一ヲ聞テ十ヲサトルホドナル賢人ゾ、子貢ナド、クルシンデ學ブルゾ、コレヲ一ヲキヒテ二ヲ知ルホドナル利根ゾ、學而不レ厭智也ト云テ、學問ヲシテ、古ヘノ道ヲマナンデ、アクコトナキハ、智者デアルゾ、イカニ智慧アリテモ、古今ノ事ヲマナンデ、シラザレバ、ミダレナルコトガアルゾ、サルホドニ、智者ハイニシヘノ道ヲマナンデ、五典・三墳・五經・六籍・十三經、ソノホカ諸子百家ノ語ニイタルマデ、ヨク學デ博學强記ニシテ物ヲボヘガツヨクナクテハゾ、又禮・樂・射・御・書・數ノ六藝ニモ、達セヒデハゾ、樊遲問レ知、子曰、知レ人ト云ハ、智者ト云モノハ、マヅ人ヲシラヒデハゾ、知レ人ト云ハ、賢人ナラバ、賢人ト知テ擧用、小人ナラバ、小人トシリテシリゾケヒデハゾ、又賢人ナラバ、友トセフゾ、舜ノ時モ、禹ニハ水ヲ治メシメ、后稷ニハ五穀ヲ司サドラシメ、契ニハ人倫ノ時ヲタヾサシメタゾ、ソレゾレニ人ヲ知テ、用ラレタゾ、其上、舜去二四凶一ト云テ、ソノ時ニ天下ニ四人ノ惡人アルヲ、ミナ流シ殺シツセラレタゾ、コレラハ人ヲシラヒデハナラヌコトゾ、漢高祖モ、張良・陳平・蕭何・韓信ナドヲヨクシリテ、張良・陳平ニハ、謀ヲサセ、蕭何ニハ兵粮ノキレヌヤウニサセツ、韓信ヲバ軍ノ大將トシテ、ミナソレゾレニ用ヒラレタゾ、ソレニヨリ、漢四百年ノ洪基ヲ開レタゾ、項羽ニ范增ト云モノアリタガ、漢ノ四傑ヨリモマシタルモノナレドモ、項羽ガ人ヲシラヌニヨリ、范增ヲモチキナンダゾ、サルホドニ己レガ身モホロビ、國モトラレテ、天下ノタメニ笑レタゾ、人ヲシルニハ、又人ノコトバヲシラデバ、人ガ知レヌゾ、サルホドニ論語ニ、不レ知レ言無二以知一レ人也ト云タゾ、人ノコトバノヨ

キコトヲ云モノカ、イツハリヲ云モノカヲ、シリワケヒデハ、人ハシラレヌゾ、昔晉叔向ト云人、鬷蔑ト云モノヽ、一言ヲキヽテアレバ、キヽヲヨビタル、鬷蔑ニテアランゾ、サナクンバアレホドノ事ヲバ、エイフマヒト云タレバ、アンノゴトク鬷蔑ニテアリタゾ、ソノ一言ト云ハナニ事ゾナレバ、ソノトキニ大勢、會席アリテ、大勢ノ給仕人ガ、ゼンヲスユルニ、膳ヲスヘテモドル者ト、膳ヲスヘニ出ルモノトガ、ハタ〳〵トユキアタリテ、膳ヲウチサラシ、ラッシガナカッタホドニ、鬷蔑ガ云事ハ、上者自ㇾ左、下者自ㇾ右ト云タゾ、膳ヲモチテ出ルモノハ、左ヨリユケ、膳ヲスヘテモドルモノハ、右ヨリモドレト云タトコロデ、ユキアタル事ガナカッタゾ、ソレヲ叔向ガキヽテ、シルヒトニテモナケレドモ、鬷蔑デアラント云タゾ、人ノコトバヲモッテ、人ノ善惡ハシルモノゾ、サレドモ又モノヲバ、ヨクイヘドモ、コトバトチガフモノガ、アルモノナルホドニ、又行迹ヲモヨクミイデハゾ、中庸、舜其大智也與、舜好ㇾ問而好ㇾ察二邇言一ト云テ、虞舜ハ大智ナ人ニテアルゾ、ナゼニナレバ人ニモノヲトフコトヲコノンデ、トハレタホドニ、イカナルイヤシキモノノ云コトナリトモ、ヨキコトナレバ用テキカレタゾ、サルホドニ大智デアルゾ、今ノ時ノ人ハ、人ニモノヲトヘバ、ハヂヤモノシラズニナルナド、ヲモヒテ、シラヌコトヲモ、シリタガホヲシテトハヌゾ、君子不ㇾ恥二下問一ト云テ、ワレヨリ下タル人ニモ、物ヲトフ事ヲハヂズゾ、シリタウヘニテモトフガ、智者ゾ、孔子入二大廟一毎ㇾ事問ト云テ、孔子聖人モ魯ノ宗廟ヲマツル、祭ニアヅカラレタルトキニ、廟中ニテ諸事ヲ悉クトハレタゾ、知テ問ハ禮ナリト云ホドニゾ、孟子、智者無ㇾ不ㇾ知也、當ㇾ務之爲ㇾ急ト云テ、智者ハ萬事ヲシリテ、三綱五常ノ道ヲタヾシ、善ヲツトムルコトヲ、速ニスルゾ、上タル人ガ智アリテ、ヨク國ヲ治メバ、ヲサマラヌ事ハアルマヒゾ、

○信

信トハ、説文曰、信誠也、於ㇾ文人言爲ㇾ信、言而不ㇾ信非ㇾ爲ㇾ人也、イフコヽロハ、信ハマコトナリ、イツハラヌヲ信ト云ゾ、字ニモ人篇ニ言ノ字ヲカクハ、人ノモノヲ云コトハ、必マコトガナフテハゾ、信ガナクハ人トスルニアラズト云心ゾ、增韵ニ慤實不ㇾ疑不ㇾ差

爽ニ也ト云テ、信トハ愨實ニシテ、ヨク物ヲツヽシミ、マコトアルヲ云ゾ、マコトアルホドニ不レ疑トハ、マコトアルホドニ物ヲウタガイモナイゾ、不ニ差爽ニトハ、信アル人ハモノヲ云ニモ、首尾ノ相違シテ、タガフコトナイゾ、コトバニイダシタラバ、是非ニヲコナハデハカナハヌコトゾ、口ニハマコトサフニ云テ、心ニハサモナフテ、口ト心ト違ハセヌゾ、信アル人ハ、マヅ心ヲ廉直ニモチテ、一毫モマガリスルコトナキゾ、又コトバモイカニモタヾシクテ、道ニアラザルコトハ云ヌゾ、ツトメテ善道ヲ行テ、足蹈ニ實地一輕薄ニナヒゾ、約信ト云ハ、人ト約束シタル事モ、時ハタガフトモ、日ハタガハヌヤウニ、今日約シタル事ガ、ハヤ明日ハ違フテハ、信デハアルマヒゾ、カリソメニモ人ヲモ欺ザルガ信ゾ、五常ニ信アルハ、五行ニ土アルガ如シ、土ト云モノガナクバ、金モアルマジ、木モアルマジ、水モアルマジ、火モアルマヒゾ、サルホドニ五行ニハ土ガ專ナルモノゾ、ソノゴトクニ、人ニ信ガナクバ、仁義禮智ノ道モ行ハルベカラズ、故ニ信ヲ土ニタトヘタゾ、晉文公ノ時ニ、原ト云處ガ、歸服セヌホドニ、コレヲカコミセメンホドニ、各々三日ノ兵粮ヲコシラヘヨ、三日ノ内ニハ攻ホサン程ニト、フレラレタゾ、サテ原ヘトリカケテ、トリマハヒタレドモ、三日ニモ落居セヌゾ、三日ノカクゴト、フレヲマハシテアルニ、ソレヨリモスギタラバ、信デナイホドニ、サラバカコミヲトイテ、歸ラント文公ノ云レタゾ、ソノトキアツカヒスルモノガ、イマスコシマタセラレヨ、ホドナク原ハ落居センホドニト云タレバ、文公ノイヤイヤ信ハ、國ノタカラナリ、民ノオホフ處ナリ、信ナクンバタヽジ、約束ヲチガヘテ、今スコシ逗留シテ、原ヲ得タリトモ、信ノ道ヲウシナハヾ、イラヌ物ナリト云テ、カコミヲトイテ、歸陣セラレタゾ、ソノコトヲ、原ニモキヽテ、サテモ信アル君カナト云テ、コノ君ニ降參セイデハト云テ、ヤガテ晉ヘ歸服シタゾ、是ハ君ノ信アル故ニ、敵ガ降參シタ事ゾ、サルホドニ信ガ肝要ゾ、信ガナクバ、アノ人ハ何ゴトヲ云テモ、正ハナイゾ、ミナ何事ヲセラルヽモ、イツハリニテアルホドニ、ドコヲトラヘテ、信ニセンゾナド、云ヘバ、國民モヲモヒツカヌゾ、サレバ信ヲ肝要トスル事ハ、儒道ニカギラズ、諸道ムネトスル事ゾ、釋敎ニハ、信ハ道ノミナモト、功德ノ母ナンド云リ、信ノ德

ノ多キ事ハ、勝テカゾフベカラズ、タヾシ信ヲヲコナフニ、義アルベシ、論語、有子曰、信近二於義一言可レ復也、イフコ、ロハ、信ハマコトナリ、人ト物ヲ約束シテ、イサ、カモチガハズ、トヾクルカタゾ、義ハ宜也風ヲミテ、帆ヲツカフガゴトクゾ、サテ信バカリヲ守テ、物ヲチガヘジトスレバ、カヘツテカタヲチニ、信ヲ失フコトガアルゾ、サルホドニ信ヲバ義ニ近フシテ行フベシ、一旦ハ胡亂ニキコユレドモ、終ニハソノ義ガ、信ニ歸スルゾ、昔尾生ト云モノアリ、アル女房トチギルニ、ハシノシタニ期シテ、ツチニアイヌ、アルトキ尾生サキニ行テ、マツトコロニ、ニハカニ大水イデタリ、コ、ニ尾生オモフニハ、橋ノシタニマツト云約束ヲチガヘテハ、信ニアラズトヲモヒテ、ソコヲシリゾクコトナクシテ、ツイニ大水ニヲボレテ死ス、コレハ信ヲシリテ、義ヲシラザルモノナリ、義ヲシラバ、ハシノホトリニシリゾキテ、女房キタラバ、サテモハシノ下トハ、約束シタレドモ、大水ガイデタル故ニコ、ニアルト云ハヾ、信モ義モアルベシ、信ヲバシリテ、義ヲシラヌ人ハ、モノゴトニアヤマチアルベキゾ、論語、人而無レ信不レ知二其可一、大車無レ輗、小車無レ軏、其何以行レ之哉、孔子モ云レタゾ、イフコ、ロハ、人トシテ信ガナクバ、他ノ才能伎藝アリト云トモ、ミナ不可也、信ハ五常ノ中ニシテハ、肝要ゾ、仁義禮智ノ四ツトモニ、信ヲ具足ス、信ガナクハ、仁義禮智ミナイツハリモノゾ、孟子ニモ仁義ト云テ、信ヲ云ハサルハ四ツニコモル故ゾトナリ、大車トハ、ヲモキモノヲノセテ、トヲクユク牛ノ車ゾ、輗ノカシラニ、木ヲヨコニヲキテ、輗ヲユイツクル木ゾ、小車トハ、四馬ノ車ゾ、中央ニ轅一ツアリ、軏トハ轅ノカシラノ上ニ、カギナドノヤウニ、マガリタルトコロヲ云ゾ、ソノマガルトコロニ、ヨコギヲユイツケテ、ソレニ馬ヲカケルゾ、轅ノ兩ノワキノ二匹ノ馬ヲバ、服馬ト云ゾ、ソノソトナル二匹ノ馬ヲバ、驂馬ト云ゾ、軏トハ轅ノカシラノ、マガリタルトコロゾ、肝要ゾ、サルホドニ大車モ小車モ、輗ト軏トノアルユヘニ、千里ヲモ行ゾ、人モ信アルユヘニ、身ヲタツルゾ、モシ信ガナクバ、車ノ輗軏ナキガゴトク、タヾイタヅラゴトナリト云ゾ、サルホドニ上好レ信則、民莫二敢不一レ用レ情也ト云テ、上タル人ガ信ヲコノメバ、下萬民モ、又マコトヲ用テ君ヲイタヾクゾ、五常ノ中ニテモ、信ガ肝要ナルホド

ニ、仁義禮智信ト次第シテ、一ノ石ヅキニヲイタゾ、

慶安元年大呂吉旦　　道春書

春鑑抄終

三德抄上

林　道　春　著

夫心ニ疑ナキハ智也、心ニヨク分別シテ、後悔ナキハ仁也、心剛ニシテツヨキハ勇也、此智ト仁ト勇トハ聖人ノ三德也、故ニ論語ニ孔子ノ、智者ハ不レ惑、仁者ハ不レ憂、勇者ハ不レ懼トイヘルハ是也、智者明ニ道理ヲキハメシリテ、ウタガヒナキユヘニ、物ニモ事ニモマドハヌナリ、仁者ハ私モナク、欲モナキユヘニ、貧賤ナレドモウラミズ、富貴ナレドモ道理ニカナヒテ、ホシヒマヽナラズ、ヲゴラズ、モノヲクユル事ナクシテウレヘズ、勇者ハ心ヅヨクシテ、モノヲ恐レズ、モノニカヾマズ、其氣スクヤカニ、義ヲ守リテ生死ニノゾミテモヲソル、事ナシ、如レ此三ツニワクトイヘドモ、皆一心ニアルモノナレバ、智ノ中ニモ仁ト勇トアリ、仁ト勇トナキハ大智ニアラズ、仁ノ中ニモ智ト勇トアリ、智ト勇トナキハ至仁ニアラズ、故ニ分レバ三ツトナリ、合スレバ只一心ナリ、學問ノ道ハ、先理ヲキハメテ、智ヲイタスヲハジメトス、理ニカナフハ善也、理ニソムクハ惡也、ヨク善惡ヲシリワクル事、水火ヲフメバ、身ヲソコナフ事、必定ナリトシリヌレバ、誰モ水火ヲフムモノナシ、ソノ如クニ、善惡ヲシル事眞實ナレバ、善ヲシテウタガハズ、惡ヲサリテウタガハズ、若シウタガヒアラバ、必問テハラスベシ、其ウタガヒノコル所ヲバシバラクカイデ、ヨク信ジテ疑ナキ所ヲ行フベシ、タトヘバ、小疑之下有二小悟一大疑之下有二大悟一ト云フ如ク、ソトノフシンアレバ、ソレヲハラシテ、ソトノ合點アル也、學問ニ志ナケレバ、フシンヲスベキ力モナシ、理ヲキハメント思ヒテ、疑ノアルハ學問ノス、ムシルシ也、其疑ナク其惑ナケレバ、心ヲノヅカラ明ニシテ、道理ニクラカラズ、若其疑ヲ決セズシテ、ソノマ、ヲク時ハ、一生是非ヲワキマヘズ、只イキタルモノヲ袋ニ入、動キハタラクモノヲ、ヲシツケテ箱ノフタヲヲホフ如シ、心カラヨクホドクル事アルベカラズ、今日モ一ツノ理ヲキハメ、明日モ一ツノ理ヲキハムレバ、ツモリツモリテウタガヒナカルベシ、只一ツノ理ヲキハ

メツクシテ、萬理皆通ズベシ、大方ニキハムルニアラズ、其一理ノ中ニ、又一ヨリ十マデノ次第アルヲヨクキハメテ、内外始終マンマルニ、クハシク合點スルトキハ、萬事ニワタル也、是外ヨリ内ニ入、ヲモテヨリウラニトヲリ、ハジメヨリヲハリニイタリ、アサキヨリフカキニイタリ、アラキヨリコマカナルニイタル、皆我心ノ理ヲキハメテ智ヲツクス、工夫ヨリ末ハアマタアレドモ、根本ハ只一ナルユヘニ、一理ヲ以テ萬事ヲツラヌキ、一心ヲ以テ諸事ニ通ズル也、其理ト云モノハ、即我心也、心ノ外ニ別ニ理アルニアラズ、理ヲキハムレバ、モノニフシンモナク、ウタガヒモナキナリ、又思案分別ト云事ハ如何スベキト云ニ、我心マヅタヒラカニシヅカナルトキニ思案スル事ハアシキ事ナシ、其時思ヒ出スヲ理ニカナフカ、カナハヌカトヨク分別シテスベシ、ソレヲナニカトアマリニクンニカヘリテヲモヘバ、必私ニヲホハレ、クラクラトマギレテ、アシキ分別トナルベシ、ソノ上カヘリテ、我心ヲワヅラハシテ、イヨ／＼ミダル、也、昔季文子ト云人ノ三タビ思案シテ、行ヒケレバ、孔子キ、テフ

タ、ビ思案セバヨカラントイヘリ、其詞ノ如ク、季文子ガ行フ事道理ニタガヒテ、心マドフユヘニ、私ヲスル事多カリケリ、程明道ト云賢人、アル時堂ニ入テ、柱ノ數ヲカズヘテ、ナン本ト云テ又カズヘケレバ、其數チガヘリ、イカガト思ヒテ、又カズヘケレバ、又其數チガヘリ、ウタガハシク思ヒテ人ヲヨビテ柱ニツイテ、一々カズヘサセケレバ、明道ガ初メカズヘタル數チガハザリケル、是モ心ニマギル、事アレバ、目モチガウ事アルユヘニ、柱ノ數サヘワキマヘサダメ難シ、マシテ大事ニノゾンデ、事ヲヲコナハンニ、心マギル、カ、タヾシカラザルカ、カネテヲモハヌ不慮ノ時ニ必アヤマリ有ベシ、サラバトテ、我一心ヲシヅカニ思按スルノミナレバ、天下ノ事千萬多キユヘニ、一心ヲチツカズシテ、定メガタシ、サラバ又古ノ事モ當代ノ事ヲモアマネクヒロクマナビシラントスレバ、萬事ニカ、ワリテ、一心ミダレテクラシ、故ニ論語ニ孔子ノ、學而不レ思則罔思而不レ學則殆トイヘルハ是也、マナベドモ思按セザルハ、心ニ合點ナクシテクラシ、又思按スレドモ學習ザレバ心ニフシンアリテヲダヤカナ

ラズ、故ニモノ、理ヲキハメシリテ心ニ分別スレバ、クラキ事モナクウタガヒモナキ也、此心ヲヨクヤシナイタテ、ツヨクスクヤカニスレバ、シテヨキホドノ事ハ何ホドモスル也、此心不斷ヲコタラネバ、一生ノ間イツマデモイサミス、ンデ行フナリ、只命ヲシマヌバカリヲ勇ト云ニハアラズ、ヨクモノゴラヘヲスルモ勇也、善ヲシテヲコタラヌモ勇也、道ヲシテヲコタラヌモ勇也、道ヲキ、テ其マヽ行フモ勇也、人ハ何トイハントマ、、ソノカマヒモナク、我ナスベキハザヲスルモ勇也、義理ヲ信ジテウタガヒモナク、ヲソル、事モナク、死ヲ守ルモ勇也、故ニ智仁勇ノ三德一ツモカグレバ、大キナル智仁勇ニアラズ、ヨク心ヲツケテ、見ルヲヨシトス、昔衞國ノ合戰ニ、子路出來ノ時ニ敵アマタ來向テ、冠ヲウチヲトス、子路君子ハ死ルマデ冠ヲヌガズト云テ、冠ノ緒ヲ結ビテ討死ス、曾子病急ナル時ニ、夜簀ノ上ニフシタリ、トモシビヲモチテソバニイタル童子、此簀ハヱヲカキタリ、大夫ノ位ニノボル人ノヲルベキ簀也ト云、曾子大夫ノ位ニアラズ、曾子首ヲアゲテ答ケルハ、是簀ハ季孫トイヘル大夫ノタマハリタルナリ、我タマ〳〵フセリ、早ク簀ヲカヘヨト云、曾子ガ子ドモ夜アケバカヘントン云、曾子我正シクシテ死ント云テ、ツイニ簀ヲカヘテネナヲルトキニスナハチ死ス、是皆心剛ナルシルシ也、仁義ノ勇アレバヲノヅカラ氣モ正ク心モツヨシ、子路モ曾子モミナ孔子ノ弟子也、又人ニヨリテ心ヅヨケレドモ氣ノヨハキ者アリ、陳不占ト云者、敵ノ大鼓金ヲタ、ク聲ヲ聞テハ、腰ノヌケタル如クニテ、立居セヌホドナリケルガ、アル時敵セメ來リテ、味方ノ軍マケタリト聞テ云ヤウハ、我ヲ輿ニ載セテフレテ行ケトテ、陣ニイタリテ一足モヒカズ打死ス、此故ニ孟子ノ勇ヲ論ズル時ニ、志ヲヨク守リタモチテ、氣ヲモ養フベシト云リ、志ト氣トヲ能クモチ養ヘバ、陳不占ガ如クナル病ナカルベシ、孟子養氣ノ論ハ、此末段ニミヘタリ、

子曰、舜其大知也與、舜好レ問而好察二邇言一、隱レ惡而揚レ善、執二其兩端一、用二其中於民一、其斯以爲レ舜乎、中庸

子トハ孔子ナリ、孔子ノ詞ニ曰ク、昔ノ舜ハ大ナル智者也、其智者タル故ハ、何トスルゾト云ニ、自ラ我智惠ヲ用ヒズシテ、天下ノ人々ノ智惠アマネク

トリテ我身ニ用ル也、聖人賢人ノ詞ハ中ニ及バズ、ウトキモノイヤシキ者ノ目ノ前ナル事ヲ云ヲモ聞テ懇ニ問タヅネテアキラメ、スコシナリトモ善事アレバ、アマサズモラサズトリテ用ルナリ、又惡事ヲバヲサヘテ、善事ヲバ施シヒロメテカクス事ナシ、舜ノ心如レ此、廣大ニシテ明カナレバ、天下ノ人人何ヲガナヨキ事ヲ申サントヨロコブ也、又其ヨキ事ノ中ニ諸人ノ云所不同アリ、其不同ノ至極スル所ヲトリテ用ルナリ、善事ニ大小輕重厚薄アリ、小ヲステ、大ヲトリ、輕ヲステ、重ヲトリ、薄ヲステ、厚ヲトル、是ヲ兩端ヲトルト云フ、又其兩端ノ中ニ、トリワキ道理ニ當ル所ヲトリテ、人々ニ用ル也、タトヘバ恩賞ヲアタエベキ者アリ、ナニホド、談合スルニ、金百アタフベシト云者アリ、金五十アタフベシト云者アリ、金十ト云者アリ、此諸人ノ云ヲハカリカンガヘテ、多クアタフルガヨクバ、多キニツクベシ、少キガヨクバ少キニツクベシ、多キト少キトノ間ヲハカリテアタフルガヨクバ、其中ニツイテアタフベシ、是ヲ兩端ヲ執テ中ヲ用ルト云也、中ヲモチユトハ理ニカナフヲ云也、如レ此スレバ、善ヲトリテ惡ヲステ、其行フ事アシキ事ナシ、是舜ノ大知アリテ、聖人ナルシルシナリ、

子曰、回之爲レ人也、擇二乎中庸一、得二一善一、則拳拳服膺、而弗レ失レ之矣、中庸

是モ孔子ノ詞也、回トハ顏回ナリ、顏淵トモ名ヅク、孔子ノ弟子也、顏回ガ人トナリハ中庸ヲ擇ベリ、中庸トハ、道理ノ至極スル處ヲ云フ、其ヲヨク擇ブトキハ少モ理ニソムカズ、少モ惡事ヲ思ハズ、中庸ヲ身ニ行ヒテ、又其上ニ一ツノ善ヲ得テモ、必ズ我胸ニタモチヱテイツマデモ失フ事ナシ、是スナハチ仁ノ道ナリ、如レ此工夫セバ、何ノ後悔カアランヤ、

子路問レ強、子曰南方之強與、北方之強與、抑而強與、寬柔以敎不レ報二無道一、南方之強也、君子居レ之、衽二金革一、死而不レ厭北方之強也、而強者居レ之、故君子和而不レ流強哉矯、中立而不レ倚強哉矯、國有レ道不レ變レ塞焉強哉矯、國無レ道至レ死不レ變強哉矯、中庸

子路強ト云事ヲ孔子ニ問リ、強ハツヨシトヨメリ、人ニ勝事也、孔子答テノタマウヤウハ、南方ノ強ヲトフカ、北方ノ強ヲ問カ、ナンヂガ用ユベキ強ヲ問

カ、强ニ三ツノ品アリ、南方ノ强ハユルクヤハラカニシテ、セハ〳〵シカラズ、物ニシタカビ人ヲヲシヘテミチビキ、又無道無禮ノモノ、來リテ、我ニワルクアタレドモコラヘテムクヒセントモ思ハズ、南方ノ國ハ風俗ヤハラカナルユヘニ、カンニンスル事人ニマサレルヲ强トス、是君子ノ道也、是ニ付テ思フニ、唐婁師德ガ子ニ物ヲラハヽヲセヨトヲシヘケレバ、其子人ノツバキヲハキカケタラバコラヘテノゴフベシヤト云ケレバ、師德モシノゴイタラバ、ハキカケタル人ナヲ腹立スル事モアルベシ、只其マヽヲキテツバキヲカハカスベシトイヘリ、師德ハ名アル者也、其子ハノ敎訓カク云心ハ、イカガ思ヒケルニヤ、モシ又アガリテイハバ、無道ノモノ愚ナル者、バカ者ナドノ无禮ヲシカケ、惡口ヲイヒカクル事アラバ、其人ニヨリテ、醉狂人トモ思フベシ、又ハ虻蜂蠅ノ飛來リテ、人ニアタルト思フベシ、カレスデニ无道ナレバ人倫ニアラズ、イカンゾコナタヨリ人倫ノアイシラヒヲセンヤ、是カンニンノ强也、シカレドモヲヤノカタキヲウチ、兄弟ノアダヲムクユル法アリ、直道ヲ以テウラミヲムク

ユル義アリ、シカレバ只カンニンヅヨキマデニテ耻ヲカクシ、スベキ事ヲムクヒザルハ理ニカナハズ、サルニヤ北方ノ國ハ、風俗キビシキユヘニ、干戈ヲ枕トシ、甲冑ヲシト子トスルゴトクニ、常ニ武ヲタテ、死ル事ヲ何トモ思ヌ也、タケクツヨキ事ヲシ、ハタス事人ニマサレルヲ强トス、是勇者ノワザ也、如何ニ死ヲカロンズトモシヌマジキトコロニテ死ンハ、是モ道理ニソムケルニヤ、故ニ今子路ニヲシヘ聞セン、强ハイカガスヽキトナラバ、諸人ニマジハルト云トモ、惡人ニ同類トナルベカラズ、我ガ身ノヲコナヒ人ニカハリテ、ヒトリ目ニタツヤウナリトモ、一概ニ心ヲ用ユベカラズ、國道アル時ニ用ラレテ、富貴ノイキヲヒアリトモ、ソノ志ヲミダリテホシイマヽニフルマウベカラズ、國道ナキ時ニ、世ヲノガレカクレテ、貧賤ニナリトモ身終ルマデ僻事セズ、ソノ心ヲタヾシクシテ、アラタムベカラズ、此四ツノ行ヒアル者ヲ眞實ノ强ト名ヅク、子路ガ今ヨリヲコナフベキ强也、强ハ人ニ勝ヲイヘドモ、先ミヅカラ我ニカチ私ニカチ欲ニカツヲ聖賢ノ强トス、我ガ私ニカツ時ハ其上ニ人ニ勝事

必定ナルベシ、此强ヲホメテ强哉矯トイヘリ、矯ハタケキ智ヲイフ也、

右ノ舜ノ段ハ、智ヲ云フ、回ガ段ハ仁ヲイフ、子路ガ段ハ勇ヲイフ、合セテ智仁勇之三德也、

天下之達道五、所ニ以行レ之者三、曰君臣也、父子也、夫婦也、昆弟也、朋友之交也、五者天下之達道也、智仁勇三者、天下之達德也、所ニ以行レ之者一也、 中庸

君臣ト、父子ト、夫婦ト、兄弟ト、友ダチト、此五ノ間ハ、古モ今モ、天地ノ間ニアルモノナリ、此道アラタマル事ナキユヘニ、達道トナヅク、人間ノシナヲカゾユルニ此五ノ間ヲスギズ、是ヲヨク行フヲ聖賢ノ學問トス、何ヲ以テ行フベキト云ニ、智仁勇ノ三德ヲ以テ行フ也、此三ハ、古モ今モ、人々ノ心ニウケヘテアルコトハリナレバ、達德ト名ヅク、君トシテハ天下ノ人ヲ愛シ、臣トシテハ君ニヨクツカヘ、父トシテハ子ヲアハレミ、夫ハ外ヲ治メ、婦ハ內ヲ治メ、兄ハ弟ヲ敎ヘ、弟ハ兄ニシタガウ、友達ハ禮義ヲ以テ交ル、是ミナ智仁勇ノ內ニアリ、此五ツノ人倫ノ道ヲヨクシルヲ智トス、此道ヲ心ニソナユルヲ仁トス、此道ヲヨク行フヲ勇トス、何モ皆ヲコナフ處ハ、只一ツノ眞實ナレドモ、モシマコトナケレバ、智モ智ニアラズ、仁モ仁ニアラズ、勇モ勇ニアラズ、實ナケレバ欲ニヘダテラレテ、理ニソムクユヘナリ、ソノマコト、云モノハ、又智仁勇ノ外ニアラズ、智仁勇ヲイツハラヌトコロヲ、スナハチマコト、名ヅク、ソノマコトハ我一心也、達德ヲ以テヨク達道ヲ行フ時ハ、我身ヲモ治メ、又人ヲモヲサムル也、若此外ニ道アリトイハヾ、聖賢ノ道ニアラズ、

智ハモノ、理ヲシル事、ウツクシク見事ナルモノヲ好ミ、キタナクムサキモノヲキラフ如クニ眞實ナラバ、必善ヲ好ミテ行ヒ、惡ヲニクミテキライ、セマジキモ又必眞實ノ智ト云也、生死一大事ノモノニテ、命ヲシキユヘニ、天下ノアリトアラユルモノニ、何カ命ニカユベキモノアリヤ、サレドモ生アルモノハ、必ズ一タビ死ルハ、ムカシヨリ定レル理也ト、イカナル愚人モシルユヘニ、イツカシナンヽトテナキカナシム人ナシ、此心ヲ萬事ニヲシヒロメテ合點セバウタガヒアルベカラズ、仁ハモノヲ愛スル事、我身ヲ思フ如クナラバ、必眞實ニシテ、私ナ

カルベシ、イカナル者モヲサナキ子ノ水ニヲチントスルヲ見テ、一目シラヌ者ナリトモ、アハレト思フベシ、引アゲントスベシ、サレドモ人ニヨリ、放埒邪見ノミノハ、態ト水ヘツキヲトスモノモアレドモ、其者ノ子ナラバサヤウニスベカラズ、若怒ニヨリテ我子ナリ共殺ス事モアリ、ソレモ又我身ノ勝手ノタメナドニスレバ後悔モアリ、ソコカラスイテスルニハアラズ、然レバ仁ト云モノハ、イカナル人ニモコト〴〵ク皆其心ニアルモノ也、此心ヲヒロクヲセバモノゴトニ私ナクシテ、悔モナクウラミモナカルベシ、我身ヨカレト思フゴトク、人ニヲヨボサバ何ノウラミカアランヤ、又モノヲイカスハ仁也、惡ヲノゾクハ義也、鼠ヲコロスニ、コロセバ仁ニアラズ、コロサデバ義ニアラズ、コロサンカタスケンカト思フ中ニ、仁義ソナハレリ、コロシテ惡ヲハラフトキハ、義ノ中ニ仁アリ、然レバ鼠ヲコロスモ仁也、盗賊ヲコロシ惡人ヲイマシムルモ、又此コヽロナリ、只慈悲ノアハレミアルノミヲ仁ト思ハチイサキ仁也、一人惡ヲイマシメテ、萬人善ニヲモムクハ大ナル仁也、故ニ仁ハ人ヲ愛スルヲイヘドモ、惡人ヲ愛スルハ仁ニアラズ、ヨキヲバ愛シ惡キヲバニクム是仁也、カクノゴトクホドコサバ、何ノ私カアランヤ、勇ハ心ノツヨキ事、義ニカナフテスルヲ云也、善ヲミテスミヤカニスルハ勇也、ヨキコト、シリナガラモセンカセマイカト、タメライテヲコタルハ、勇ニアラズ、又敵ニムカヒテ、死ントシリテタヽカウハ、カ子テ其心得アルユヘナリ、何事ナシトシリツヽ、クラキ所ヘ夜行トキ、ヲソル、心アルハマドヘル也、若何事カアラントキニ、スベキヤウヲ兼テ心ニモタバ、ヲソルベカラズ、虎狼トシリテハヲソレ子共、蜂ノ懐ノ中ニイルトキハアハツル事アリ、寳物ヲワザトウチワリスソレドモ、ソルキ鍋釜ノクダケソコナフヲオシム事アリ、是皆平生ニ心ヲソケテ用ヒザレバ、俄ノ時ニノゾミテ勇ナキ也、此義ヲツ子ニヤシナヒ得テ、ウタガハズヲソレズ、道理ノマヽニヨキ事ヲ思ヒキリテ、心ヲツヨクスルヲ勇トス、故ニ仁ヲモシリ、勇ヲモシルハ智也、智ヲモウシナハズ、勇ヲモタモツハ仁也、智ヲモ行ヒ仁ヲモ行フハ勇也、此智仁勇ノ三ツ一ツモ、カグベカラズ、モトヨリ一心ノ

誠也、

理氣辨

一陰一陽之謂レ道、繼レ之者善也、成レ之者性也、周易
夫天地ヒラケザルサキモ、開ケテ后モ、イツモ常ニアル理ヲ大極ト名ヅク、此大極ウゴイテ陽ヲ生ジ、靜ニシテ陰ヲ生ズ、此陰陽ハ元一氣ナレ共、ワカレテ二ツトナルナリ、又ワカレテ五行トナル、五行トハ木火土金水也、此五行支ワカレテ、ヨロヅノモノトナル也、此五行アヒアツマリテ、カタチヲナストキニ、人モ出来スル也、形ニヲイテハ土ヲ得テ肉身トシ、木ヲ得テ毛髪トシ、水ヲ得テ身ノ血ヤウルヲヒトナシ、金ヲ得テ筋骨トナシ、火ヲ得テ身ノ熱氣トナス、又五臓ニツイテ云フトキハ、火ノ精ハ心ノ臓也、木ノ精ハ肝ノ臓也、土ノ精ハ脾ノ臓也、金ノ精ハ肺ノ臓也、水ノ精ハ腎ノ臓也、如レ此相聚リテ人ノ形ヲナシテ、其ウゴキハタラクモノヲ氣トナヅク、此氣ノ中ニヲノヅカラソナハレルモノハ理也、是則大極也、コレヲ道トナヅク、此理ト氣ト相アフテ、形ノ主タルモノヲ心トナヅク、此心ト云モノハ元來大極ノ理ナレバ、天ト同ク虚空ノ如クシテ、色モナク聲モナシ、タヾ善バカリニシテ、スコシノ惡モナキ也、然ドモ氣ニハキヨキモアリ、ニゴルモアリ、善モアリ、惡モアリテ、モノ、マジハレル事アレバ、氣ヲウケテカタチヲナセバ、形ニツイテ私モアリ、欲モアリ、惡モ出來スル也、其シルシイカント云ニ、目ニ色ヲミテ善ヲ思フ事モアリ、口ニモノイヒ、手足ノモノニフル、ニツイテモ又如レ此シ、イヅレモ私ヲナシ欲ヲスルハ皆形ヨリスル也、其形ハ氣ヨリ出タレバ、萬事ニツイテウゴキハタラク所ミナ氣ノナスワザ也、心ハ元ヨリ惡ナケレドモ、氣ニヨラザレバウゴキハタラカズ、故ニ氣ノナスワザヲモ、善ナレバ善ト知リテスナハチヲコナヒ、若惡ナレバスナハチ惡トシリテセヌハ心ノシワザ也、タトヘバモノヲ食ハントハ願ハドモ、クウマジキ所ニテハ、クヒタキヲコラヘテ居ルハ心ヨリ氣ヲ制スル也、財寶ヲホシ、ト求レドモ無理ニトルハ、罪ナリトヲモイテ居ルハ、是モ心ヨリ氣ヲ制スルナリ、シカレバ氣ニハ善モ惡モアレドモ、心ニハ善バカリニテ惡ナキ事分明也、陰陽ヨリ人ヲ

生ズルノミナラズ、一切ノ草木モ鳥獸モアリトアラユルモノ盡クミナ生ズル也、如レ此ナルコトハリヲ道トナヅクルユヘニ、一陰一陽ヲ道トナヅクルトイヘリ、陰ト陽トメグリアフトコロヲ、一陰一陽ト申也、其陰陽ノウゴクトシヅカナルトノ間ハ、息ヲ一息ツクヒマモナシ、此所自然ノ道理ニシテ、至極セル處ナレバ、繼グモノハ善也ト云リ、其理スナハチ人ノ形ニソナハリテ、心ニアルモノヲ天命ノ性トナヅク、此性ハ道理ノ異名ニテウノ毛ノサキホドモアシキコトナシ、是ヲナスモノハ性也ト云リ、右ノ段ハ孔子ノ詞也、中庸ニ天命ヲ性ト云トアルモ、孟子ノ性ハ善ナリト云モミナ此義ナリ、サレバ古モ今モイカヤウノ者ナリトモ、ナンヂハ惡人ナリトイヘバ腹立スベシ、ナンヂハ善人ナリトイヘバ必ヨロコブベシ、然バ惡人ニテモ其心中ニ善ト惡トヲシルハ分明也、善トシリツヽ善ヲセズシテ惡ヲスルハ、氣ニヒカレテスルモアリ、世ノナラハシノアシキニツイテ、惡ヲアラタムル事ナラヌモアルベシ、上ヨリノ敎ヘヨケレバ、イツトモナク世ノナラハシモヨクナリテ、惡ヲアラタメテ、善ニウツルベキコト必定也、コノユヘニ、ヨロヅノ事ニツイテ善惡ヲイヘバ、善ヲサキトシ、惡ヲ後トス、是非ヲイヘバ、是ヲサキトシ、非ヲ後トス、此コトハリヲヨクワキマヘザレバ、氣サカンニシテ心ヲトロフユヘニ、惡ヲセントスル氣ハツヨクシテ、善ヲセントスル心ハヨハクナルナリ、是氣ヨリ心ヲツカフユヘ也、

四端出二於理一、七情出二於氣一ト云事アリ、四端トハ仁義禮智ノアラハル、處ヲ云也、七情トハ喜怒哀懼愛惡欲ヲイフ也、人ノ心ハ只道理マデニテアルユヘニ、仁義禮智ハ、ソノ理ヨリ出ルナリ、氣ニハ善惡アルユヘニ七情出來スル也、七情ニハ善ト惡トアリ、四端ニハ善バカリニシテ惡ナシ、此七情ヲ道理ノマヽニスレバ、仁義ニカナヒテヨケレドモ、血氣ノ私ニヒカサル、トキハ、七情ホシイマヽニナリテ、理ニソムキテ喜ブ故ニ、ヨク分別シテ、七情ヲ理ニカナヘテナセバ、イヅレモアシキコトナシ、理バカリニテハ、ウゴキハタラキガタシ、理ト氣トヲ合セテ心トスレバ、ヨクウゴキハタラク也、タトヘバヲモキモノヲ、一人シテモチアゲガタキトコロ

ニ、二人ノ力ヲ合セテアグレバ、必ズカルクナルゴトク、此理ト氣トヲ一ツニ合セテ、心ヨリ氣ヲ用ルトキハ、心ヅヨクナリテヲノヅカラ僻事アルベカラズ、親ニ孝行ヲスルハ心ノ理ナリ、若又親ニイカリヲアラハスハ、是血氣ノ私ナリ、是ニヨツテ理ト氣トノ差別ヲ知ルベキ也、シカレドモ理ト氣トハフタツナレドモ、氣アレバ必ズ理アリ、氣ナケレバ理ノヤドルベキトコロナシ、理ハ形ナキユヘナレバ也、理ト氣トハナル、事ナシ、今日氣アリテ後、明日理アルニアラズ、アレバ同時ニアルモノ也、理ヲヨクウゴカスモノハ氣ナリ、氣ヲヨク亂ラザルモノハ理ナリ、此二ツノモノハタシテ心トナル事ヲ知ルトキハ、心ヨリ氣ヲ用ルヤウニ工夫アルベシ、

程子曰、論レ性不レ論レ氣不レ備、論レ氣不レ論レ性不レ明、二レ之外則不レ是、程子遺書

道理バカリノ沙汰ヲシテ、氣ト云モノヲ辨ヘザレバ、道理ソナハリガタシ、氣バカリノ沙汰ヲシテ、道理ヲシラザレバ、萬事ガ分明ナラズ、此性ト云ハ則チ理也、性ト氣トヲ合テ論ズベシ、若二ツニ分ツメントスルトキハシカルベカラズ、人ノ性ハ元ヨリ善ナルニ、何トテ又惡ハアルゾト云ニ、タトヘバ性ハ水ノゴトシ、清キモノ也、奇麗ナルモノニ入レバスナハチ清シ、汚タルモノニ入レバスナハチキタナシ、泥土ニ入レバスナハチ濁ル、氣ハ性ノ入レモノナリ、氣ニ清キアリ濁レルアリ、明ナルトキアリ、暗キトキアリ、厚キ時アリ、薄キアリ、開ク時アリ、塞ルトキアリ、如レ此種々ニ變ズルユヘニ、此氣ヲウケテ形トナストキニ、又其品々アリ、故ニ性モ氣ノウケヤウニヨリテ、根本善ナレドモ、形ニヲホハレ欲ニヘダテラレテ心ヲクラマス也、氣モ又水ニタトフレバ、水ハ元平ナレドモ、風ニアフテ波トナリ、地形ノ高下ニヨリテ、アフレ流ル事モアリ、水ハ又元ヨリヒキ、所ヘ流ルモノナレドモ、水車ニテハ高キ所ヘヒキアグル事モアリ、又水ハ元ヨリ清ケレドモ、泥塵ニ流レ入バ濁ル事モアリ、又ヨク船ヲ浮ブレドモ、又船ヲ沈ル事モアリ、サレドモ本ニカヘレバ、水ノ本性ニナリテ清ク平ナルベシ、如レ此氣ニ不同アリ、コノ氣ハ天地ノ間ニ充滿シテアルヲ、ウケヘテ人ノ形トナス、是ヲ氣質トナヅ

ク、此氣質ニ種々ノ不同アルユヘニ聖人アリ、賢人アリ、智者アリ、君子アリ、是ハ皆氣ノ清明ナルヲウケタル人也、又小人アリ、惡人アリ、愚者アリ、コレハ氣ノ濁リテアラキ所ヲ稟タル人也、又或ハ律義ニテ信アレ共、ヲロカナル者アリ、是ハ氣ノ濁ルト厚キトヲウケタル人也、又或ハ智惠才覺アレドモ、ヲソロシキ所アリテ、心ユルサレヌモノアリ、是ハ氣ノスメルトアラキトヲウケタル人也、如レ此アルユヘニ善人ハスクナク、愚者ハヲホク、君子ハスクナク、小人ハ多キナリ、サレドモヨクマナビ習ヘバ此氣質ノアシキヲアラタメテ、善ニナルベシ、必シモ生レツキヨリ、定レルモノナリト云テ、其ママウチステ、ヲクベカラズ、ヨク學ベバ濁ルモ清クナル事水ノ性ニ歸ルガ如シ、人モ又クラキハ明ニナリ、愚ハ智ニナリ、ヨハキハツヨクナリ、惡モ善ニカヘルベキ也、是ヲ有レ敎無レ類トイヘリ、サレバ程子ノ性ト氣トヲ分テ、沙汰セザルモヨカラズ、又性ト氣トヲ二ツニスルモヨカラズト云ヘル、ヨクワケテ見テ二ツナキ所ヲシリ、又一ツニ合セテ其スヂメノマギレザル所ヲシラバ、理ト氣トノ工夫アルベシ、

韓子曰、性有二上中下三品一、

是ハ漢書ノ古今人表ノ說ヲモテ云ヘリ、人ノ生レツキニ上中下ノ三ノ品アリ、上々ノ者ハ惡人ニ交レドモ、惡ニヒカル、事ナクシテ、却テソノ惡人ヲ善ヲスルヤウニヲサムル也、下々ノ者ハ生レツキ愚ニ暗キユヘニ、賢人ニ交リテモ、惡ヲ改ル事ナク、却テ賢人ヲキラヒ、君子ヲニクミテ、イヨ〱惡ヲマスユヘニ、果シテ其身ヲホロボス也、シカレバ惡ヲスルハ、スナハチ大ナル愚人也、中ノ生レツキノ人ハ、賢人ニ交レバ善ヲナシ、小人ニ交レバ惡ヲシテ、善ニモウツリ、又惡ニモウツルナリ、タトヘバ朱ニ近ケバ赤クナリ、墨ニチカヅケバ黑クナルガ如シ、サレバ其近ヅキ交ル人ヲヱラブベキ事也、如レ此性ニ三ノ品ヲ分タレドモ、其根本ヲ云ヘバ性ハ元ヨリ一理ナリ、イカンゾ三ツノ品ヲ分タンヤ、三ノ品アリト見ルハ、性ノ本ヲ知ラズシテ氣ニ不同アル事ヲ云ナルベシ、氣ノ不同ノ品々ヲ分テ云バ、上ニモ上中下アリ、中ニモ上中下アリ、下ニモ上中下アレバ九ノ品ヲモ分クベキ也、シカレバ上

ノ上ハ聖人也、其次ハ賢人也、其次ニ品々アリテ下ノ下ハ大惡人ナルベシ、是ミナ氣ノ善惡アル不同ニツイテ如レ此沙汰スル也、天命ノ性ト云モノハ、タカキモイヤシキモ、古モ今モ東西南北ノ人々モ、不同アルベカラズ、是又理ハ善ニシテ、氣ハ善惡アルシルシナリ、

人莫レ不ニ飲食一也、鮮ニ能知レ味也、 中庸

人ゴトニモノヲ飲ミ食ヘ共、能其味知ルコトスクナシ、是ハタトヘナリ、ヨロヅノ事ニヨキホドノ道理アリ、是ヲスグレバ僻事トナリ、是ニイタラズバ又僻事トナルナリ、凡ヨキホドニモノヲ飲ミクラフ事ハ、定レルノ道理也、アシキ事ナシ、タヾ食フコトゾト知リテ、多ク食ヒスゴセバ脾胃ヲヤブリテ病トナル、サラバ食フマジキトテ食ハズシテヲレバ、必ズカツヱニノゾム也、ヨキホドノ道理ハ過ル事モナク、又至ラヌ事モナシ、是ヲ過不及ナキノ中庸ト云ヒテ則善也、故ニヨロヅノ惡ハ過不及ノ二ツヨリ出來スル也、此物ヲ飲ミ食フタトヘヲ以テ人ノ身ニ行フ處ノ善ト惡トヲ分別スベシ、モノヲノミクラン事ノミニ限ラズ、目ニ見ル道理アリ、耳ニ聞ク道理アリ、見聞クマジキ所ヲ見聞クハ過也、シカラバ見モセズ聞モセマジキトスルハ、不レ及ナリ、是皆血氣ニヲカサレ、本心ヲ失フ故ニ、過ニシテ惡トナリ、不及ニシテ惡トナリテ、共ニヨキホドニ見聞クベキノ道理ヲ失フ也、理ハ元ヨリ善ナレバ惡ハイヅクヨリ出ルゾト云ヘバ、此過ト不及トノ處ヨリ出來スル也、是ニテモ又理ハ善ニシテ氣ニハ善ト惡トアル事ヲ知ルベシ、只ヨク心ヲ治レバ此アヤマチナシ、若心ヲタヾシクセザレバ、見ルニツキテモ聞ニツキテモ、飲食ニツキテモ道理ヲクラマス也、大學ニ心不レ在レ焉、視而不レ見、聽而不レ聞、食不レ知ニ其味一ト云ヘルモ此義也、

或問、心有ニ善惡一否、程子曰、在レ天爲レ命、在レ義爲レ理、在レ人爲レ性、主ニ於身一爲レ心、其實一也、心本善、發ニ於思慮一則有レ善有ニ不善一、若既發則可レ謂ニ之情一、不レ可レ謂ニ之心一、譬如レ水、至下於流而爲レ派或行ニ於東一、或行中於西上、却謂ニ之流一也、

心ニ善惡アリヤト云ニ、心ハ元ヨリ善也、天命ト云モ、義理ト云モ、性ト云モ心ト云モ皆一也、イカンゾ心ニ惡アランヤ、シカレドモ若念々ノ發ルトキ

ニイタツテハ、善アリ惡アリ、其念ノ起ル所ヲバ情ト云ベシ、是則七情也、心ト云ベカラズ、タトヘバ水ノ如シ、水ハ元ヨリ平ラカナリ、流レテ東西ニ分ル所ヲバ波ト云ヒ流レト云ガ如シ、故ニ聖人之心如ニ止水一ト云ヘリ、止水ハシヅカニ平ナル水也、

人胸中常若レ有ニ兩人一焉、欲レ爲レ善如レ有三惡以爲ニ之間一、欲レ爲ニ不善一又若下有ニ羞惡之心一者上、本無ニ二人一、此正交戰之驗也、持ニ其志一使ニ氣不レ能レ亂、此文可レ驗、

是モ程子ノ詞也、凡ソ人ノ胸中ニ兩人アルガ如シ、善ヲセントスル心アレバ、又惡念アリテ、其サ、ワリヲナス、若惡ヲセントスレバ又惡ヲ羞ル心アリテ惡ヲシハタサズ、胸ニ兩人アルヤウナレドモ、元ヨリ兩人ナシ、只コレ善ト惡ト我ガ胸ノ中ニ相戰フ驗也、ヨク心ヲタモチテ氣ニ亂サレザルトキハ、惡ヲヤムルノ工夫ナルベシ、昔子夏富貴ヲ見テハ、其願ヲ發シ、孔子ニ見ヘテ、仁義ヲ聞時ニ富貴ノ願ト仁義ノ心ト、其胸中ニ相戰フト云ルモ此義也、善ト惡トノ戰フトキニ、惡ニカタントナラバ、ヨク心ヲ保チテ氣ヲ亂ルベカラズ、

人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執ニ厥中一、

是ハ、大禹謨ノ詞也、心ハ一ナレドモ、其ウゴキ働ク所ヲバ人ノ心ト云フ、其義理ニヲコル處ヲバ、道ノ心ト云フ、寒ケレバ衣ヲ思ヒ、飢テハ食ヲ思ヒ、目ニウツクシキ色ヲ見ント思ヒ、耳ニ面白キ聲ヲ聞ント思ヒ、鼻ニヨキニヲヒヲカヾント思フ、ヨロヅ子ガヒホツスル處ハ、皆是人ノ心也、此心ハ私ヲヲクシテ、ヲ、ヤケスクナク、惡ニナリヤスキ故ニ、人ノ心アヤウシトイヘリ、アヤウシト云ハ、善惡邪正ノ間ハ、マコトニアブナキモノナレバ危ト云也、若其義理ニアル時ハ、衣食ヲ思ヘドモ、飢寒ヲコラヘテウケザルコトアリ、惡聲惡色ナレバ見モセズ、聞モセザル事アリ、非禮ノ子ガヒヲバセザル事アリ、不義ノ富貴ヲバモトメザル事アリ、是ヲ道心ト云フ、此コ、ロハ人ゴトニ元來アルモノナレドモ、アキラメガタフシテ、カクレテクラキユヘニ、道ノ心微也ト云也、能クハシク明ニシテ、其私ヲマジヘザルヲ惟精ト云フ、專ニマモツテ正シキヲ惟一ト云、如レ此ナレバ、道心主トナツテ、人心ソレニシタガフユヘニ、危モノハヤスクナリ、微ナルモノハ明ニナリテ、ヨロヅナス所ノモノ、ヲノヅカラ理ニ

叶、此理ヲ中トナヅク、是ヲ守得テ不レ失ヲ中ヲ執ト云也、中ハ我本心ノ體用ヲソナヘタル道理ノ異名也ト知ベシ、此段ハ舜ノ禹ニ位ヲ讓ンガタメニ、シメサル、ヲシヘナリ、中庸ノ序ニモ見タリ、王陽明ガ説ニハ、精ト云字ハシラゲトヨメリ、米ノナカニシラゲノアルヲ、人ノ心ノ中ニ道心ノアルニタトフ、ハジメハ黒米多フシテ、白米スクナケレドモ、日々ニヱラブトキハ、黒米スクナフシテ白米ヲヲシ、イヨ〳〵タヘズヱラブトキハ、皆白米トナリテ黒米ナシ、此タトヘノ如ク人ノ心ヲヨクヲサメテ悪ヲサル時ハ、道ノ心ノ微ナルモ廣大ニナリ、カスカナルモアラハレアキラカニナル也、シカレバ善バカリニシテ悪ナカルベシ、是ヲ惟精惟一ト云也、其善ヲタモチテ失ナハザルヲ中ヲ執ト云也、心ハ一ニシテ二ツナキヲ、道ノ心ト人ノ心トノ差別ヲ云ハ、道ノ心ハ理也、人ノ心ハ氣也、是又心ハ善ニシテ氣ニハ、善悪アルノ本據ナリ、

性相近也、習相遠、論語

コ、ニ云性ハ、人ノ生レツキノ氣質ノ性也、生レツキノ始ハ大方相似タレドモ、善ニナルレバ善トナリ、悪ニナルレバ悪トナル也、タトヘバ絲ヲソムルガ如シ、黒クソムレバ黒クナリ、赤クソムレバ赤クナル如ク、人モヨキモノニナルレバヨクナリ、悪キモノニナルレバアシクナル也、サレバ本心ヲタモチテ、血氣ヲ制スルウヘニ、其ナレマジハル所ノ人ノ善悪ヲモヱラブベキ也、

誠ハ無爲、幾ハ善悪、周子中書

誠トハ、眞實自然ノ理也、無爲無事ニシテアシキ事ナシ、是本心ノ動ザル所也、幾ハ一念ノワヅカニ動ク處也、一念ウゴク處ニヨッテ、スナハチ善アリ悪アリ、善ト悪トハ相對スト云ヘドモ、タトヘバ客人ト主人トノ如シ、其根本ヨリ正シキハ主人也、ソノワキヨリ出ル者ハ客人ナリ、是ハ又心ニ善悪アルヲ、主人ト客人トニタトフル也、又一ツノタトヘアリ、親ノ家ヲツグモノハ嫡子也、其次ノワキヨリ出ル者ハ庶子ナリ、此二ツトモニ相對ストイヘドモヨクソノ差別ヲ知ルトキハ、本末ヲワキマヘテ、善悪ニマドフベカラズ、

由二大虚一有二天之名一、由二氣化一有二道之名一、合二虚與一レ氣有二性之名一、合三性與二知覺一有二心之名一、正蒙

大虛ハスナハチ天也、ソノ限ナクキハマリナキユヘニ大虛トナヅク、是ヨリ理モ出テ氣モ出ル也、コレスナハチ自然ナルユヘニ天トイヘリ、天ニ陰陽ノ氣アリテ、寒クナリアツクナリ、晝トナリ夜トナリ、風フキ雨フリ、人ヲ生ジ萬物ヲ生ズル事、ミナ此道理也ト云ヘドモ、陰陽ノ氣ヲハナレザルユヘニ氣トハ云ナリ、氣化ヨリ道ト云名ハアル也、コヽニヲヒテ人ノ生ズルトキニ、大虛ト氣化トヲ合セテ、形ニソナフルトキハ性ト云名ハアルナリ、コノ性ヲソナヘテ、形ノウゴキハタラクトキニ、心ト云名ハアル也、右ノ大虛ト道ト性ト心ト四ツノモノノ名ハアレドモ、其理ハ元來一也、

三德抄上終

三德抄下

大學

大學トハ大人ノ學也、大人トハ聖人賢人ノ事也、昔大唐全盛ノ世ニ小學大學ト云テ、二ツノ學問所ノ名アリ、人生テ八ノ年ヨリ十五マデ、小學ニテザシキノハキサウジスル事、問フツ答ヘツノ物ノ云ヤウト、立フルマイノシツケト、物ノヨミカキト、算用ノシヤウト、又弓馬禮樂ノ道ヲシルセル物ノ本ナドヲナラヒマナブ也、是小學ノ法也、サテ十五ヨリ大學ニ入テ、聖賢ノ道ヲマナブ也、此小學大學ノ學問所ハ、帝王ノマシマス都ニモ、其外ノ國々郡々村村里々イヅクニモ、其所ノ相應ニヨリテタテ、似合敷師匠ヲスヱテ、人々ニシメシヲシユル也、其大學ノ道ハ、物ノ理ヲキハメシリ、心ヲ正シクシ、吾身ヲヲサメ、又身ヲモヲシヘヲサムル也、君ヨリ此ヲキテ有ユヘニ、人ヲシタテ、ヨキ者ドモ多ク出來スル也、如此ナレバ人々善ヲシテ惡ヲセズ、タヾシ

クシテヨコシマナク、君ニハ忠ヲツクスベシ、父ニハ孝ヲイタシテ、ヲノヅカラ僻事ナキユヘニ、家國モヲサマリ天下モ平ナリ、其事ヲシルセル書ヲ大學ト名ヅク、

大學之道、在レ明二明德一、在レ親レ民、在レ止二於至善一、

明德トハ本心ヲ云也、人ノ生レ出タルヨリ、自然ニ天ヨリウケヱテ、吾身ニアリテソナハレル物也、心ハカタチナシ、色ナシ、聲ナシ、音ナシ、然バ心ハ本來ナキモノカト思ヘバ、本來アル物也、物ヲ見物ヲ聞ハ、耳目ナリトイヘドモ、其見キクユヘノモトハ心ナリ、我身ニ寒キ溫(アツ)キイタキカユキヲ覺ルハ、カタチアリト云ドモ、是ヲ覺ルユヘノ本ハ心也、鼻ニカギ口ニ物イヒ、手足ノ動キ働クモ、又皆如レ此、タトヘバアキラカナル鏡ノゴトシ、鏡ノ內ハ空ニシテ、何モナキユヘニ、五色ノカゲヲウツセバ、其青モ赤モウツリテ分明也、女ハ女ノカタチヲウツシ、男ハ男ノ形ヲウツス、老タル者若キモ、ミメヨキモミメアシキモ、鏡ニムカヘバカクレナシ、其ムカウモノシリゾク時ハ、鏡ノウチニ其カゲヲトドムル事ナクシテ、又モトノ如ク空也、是ヲ人ノ本心ニタトフル也、鏡ニヨロヅノ形ヲウツス如ク、一心ニアリトアラユル物ノ理ヲソナフル也、仁義禮智信モ忠孝モ皆盡ク一心ニアリ、此理アキラカナルユヘニ、心ヲ明德トナヅク、君ニツカヘテ忠ヲスルハ、吾心ニ二心ナキノシルシ也、父母ニ對シテ孝ヲスルハ、吾心ニ恩愛ノコトハリアルシルシナリ、物ヲミテアハレミ、人ヲ愛スルハ、心ニ位アルノアラハル、シルシナリ、吾ガアシキ事ヲバ耻テ、人ノアシキ事ヲニクミキラフハ、心ニ義アルノアラハル、シルシナリ、老タルヲウヤマイ、貴人ヲタツトビ、我身ヲヘリクダルハ、心ニ禮アルノアラハル、シルシ也、是非ヲワキマヘ、善惡ヲシルハ、心ニ智アルノアラハル、シルシ也、此理皆眞實ニシテ、少モ僞ナク行フハ、心ニ信アルノアラハル、シルシ也、此仁義禮智信ノ五ツハ、人ゴトニ、イツモツ子ニ心ニアルモノナレバ、五常ト名ヅク、五常モ忠モ孝モ、只一心也、ソノ名ノカハリタル事、タトヘバ水ハ一ツナレドモ、波ト云、流ト云、火ハ一ツナレドモ、ホノヲト云、烟ト云ガ如シ、又一年トイヘバ、春夏秋冬土用コモレルゴトシ、一心ノ內ニ五常モソノ外ヨロヅ

ノ理コモレル也、又喜怒哀懼愛惡欲ノ七情トテ七ツノ心アリ、此七ツモ本ヨリ一心ニソナハルトイヘドモ、其念ノヲコル處ヲヨクアキラカニスベシ、道理ニカナヒテヨロコブベキ時ハヨロコビ、イカルベキ時ハイカリ、悲ムベキ時ハカナシミ、懼ルベキ時ハヲソレ、イトヲシムベキ時ハイトヲシミ、ニクムベキ時ハニクミ、欲スベキ時ハホッスベシ、イトヲシムトハカハユガル義也、欲トハネガヒ思フ義也、此七情ハ聖人ニモアリ、其外ノ人ハ云ニヲヨバズ、ナクテハカナハヌ也、ヨク理ニアタリテ七情ヲ用フベシ、七情ノ念ヲコラザルサキハ、一心平ニシテ明ニスル事、靑天虛空ノ如シ、虛空物ナシトイヘドモ、風雨雲霧雷電スル事アリ、是ヲ七情ノヲコルニタトフ、天氣ハルレバ又本ノ靑天ニテ、虛空ニサ、ハリナシ、七情ノ念ヲサマル時ハ、又一心常ノ如、シヅカニ平ニシテ心ノサ、ハリトナスベカラズ、是聖人賢人ノヨロコブベキ時ハ、悅ビ怒ルベキ時ハイカリテ、ヨク七情ヲ用フルノ工夫也、常ノ人ハシカラズ、私ニヲホハレ、欲ニカ、ハリテ、ヨロコブマジキ時ニ悅ビ、怒ルマジキ時ニイカリ、悲マジキ時ニカナシミ、懼マジキ時ニヲソレ、愛スマジキ時ニアイシ、惡ムマジキ時ニニクミ、ネガフマジキヲネガヒテ、心ノワヅラヒトナシ、義理ニソムキ、僻事スル故ニ、此七情皆惡事ト成ナリ、尤イマシムベシ、凡天地ノ間ニ生ル、者、皆陰陽五行ヲウクル也、其氣ニ不同アルユヘニ、草木アリ、鳥獸アリ、人倫アリ、草木ハサカサマニ生レテ、根ヲカシラトシ、枝ヲ末トス、鳥獸ハヨコサマニ生レテ、橫ニ走リアリクナリ、人ハ正氣ヲウケタルユヘニ、カシラノマルキハ、天ノ圓ニカタドリ、足ノケタルハ地ノ形ニカタドリ、兩眼ハ日月ニカタドリ、頂ノ百會ハ北斗ノ星ニカタドリ、五臟モ五ツノユビモ、五行ニカタドル、五行ハ木火土金水ヲ云也、天地ノ間ニイキトシイケルモノ、人ヨリ貴キモノハナシ、去レバ其心中ニ萬物ノ理ヲソナヘテ、天地ノ氣ヲソノ氣トシ、天地ノ心ヲ其心トシテ、道理ト心ト一ツニシテカハリナシ、此心アキラカニシヲ、思フ所モ、云フ所モ、行フ所モ、クラカラヌヲ、明德ヲ明ニスト云也、シカルヲ利欲ニヲボレテ私アルモノハ、此明德ヲクラマス也、ソレヲ明ニセン事ハ、欲スク

ナク私ヲヤメテ、道理ニシタガヘト也、タトヘクラキモノナリトモ、其本心ニ明德ナキニアラズ、タトヘバ天氣アシクシテ雲霧アレバ、日月ノ光ヲミズトモ、スコシノハレマヨリ、日月ノヒカリヲミルゴトク、人ノ明德ハイカナル人ニモ本ヨリ有テ、ホロビザルモノ也、ソレヲ明カニスルト、クラクスルトハ、人ニヨリテノ事ナレバ、明德ノトガニアラズ、此明德ヲ明ニスルヲ、大學第一ノヲシヘトス、大學ノミニアラズ、論語・孟子・五經モ皆此理ヲノベタリ、或ハ眼ニ見テ欲ヲ發シ、耳ニ聞テ聲ニマドイ、口ニ味ヲ子ガヒ、鼻ニニホヒヲ求メ、身ニフレ形ノウゴクニシタカビ、道理ヲソムケバ必ズ明德ヲソコナフ也、此明德ヲ吾身ニヨクアキラカニシテ、其上ニ人ヲモヲシヘサトラシムルヲ親民ト云ナリ、今マデ私欲ニケガレテ、久シクフルク、キタナキヲス、ギアライテ、アタラシクナス故ニ、民ヲアラタニスト云ナリ、身ノアカヲアライキヨムル如ク、ケフモ湯アビ、アスモ湯アビ、毎日ヲモテヲ洗ヒ、手水ヲツカウゴトクニ、心ノセンダクヲスレバ、私欲サリテキヨクナルヲ、アラタニスト云也、是モ元來ナキモノヲカクスルニハアラズ、今マデ明德ヲサトラザル者ニ、吾ゴトク明ラカニセシムル事也、タトヘバ子イリタルヲ其モノ、名ヲヨビサマセバ、ソノ名ノ元來アル故ニ、キ、テ目ヲサマス也、明德ヲクラマシテ、物欲ニヲボレテイルヲ、人ノ明德コソソレヨトヲシヘシメテ、明ラカニスルホドニ、クラキハアキラカニナリ、ケガレタルハイサギヨクナリ、フルキハアタラシクナル也、是親民ノ義也、明德ヲ明ニスルハ、吾身ヲ治ル也、親民ハ人ヲ治ルナリ、大學ハ身ヲ治メ人ヲ治ル、是二ツヲカンヨウトスル也、天下ヒロシトイヘドモ、人倫ヲホシト云ヘドモ、身ヲヲサムルト人ヲヲサムルトノ、二ツニスグル事ナシ、親ニヨク孝ヲツクシテ、人ノ子ニ孝ヲセヨトヲシヘ、君ニヨク忠ヲイタシテハウバイニモホウコウセヨトス、メ、我身善ヲナシテ人ニモ善ヲセヨトミチビクタグヒハ、親民ノ次第也、サテ明德ヲアキラカニスルニモ、親民ニモ、ヲノヅカラサダマレルコトハリアル處ヲ至善トイフ也、惣ジテ理ト云モノハ、至極ノ善ニ少モアシキ事ナキユヘニ、理ヲ名ケテ至善トス、道理ト善トハ一ツ也、

吾ガ親ニ孝ヲセンニ十分ニナスト思フトモ、ソレヨリマシテヨキ孝アラバイヨ／＼ナスベシ、君ニツカヘテ十分ニ忠ヲツクスト思フトモ、ソレヨリマシテヨキ忠アラバ、ナヲ／＼奉公ヲツトムベシ、仁義禮智ヲナサンニモ、又如此シ、仁義ニモ大小輕重淺深アラン時ハ、小ヲステ、大ニツキ、カルキヲステ、ヲモキニツキ、アサキヲステ、フカキニツクベシ、イヅレモソレ／＼ノ道理ニカナヒテ、至極スル所ヲ至善ニトドマルト云ナリ、大事小事ニツイテ、毎日人ノ行フ所、萬事ニワタリテ、至善ノ道理アラズト云事ナシ、衣ヲキルニモ物ヲクウニモ、物ヲ云ニモ身ノヲコナヒニモ、立ニモイルニモ、晝夜朝暮ミナ此道理アリ、其理ノキハメニイタルヲ、至善ニトドマルト云也、明德ハ吾心ヲアキラカニシテ、身ヲ治ル根本也、サテソノヽチニ人ヲヲシヘミチビキテ善ニヒキ人ヲ親民ト云、民トハ一切ノ人ヲ云ナリ、農人ヲ云ニハアラズ、吾身ヲオサムルモ、人ヲオサムルモ、道理ニカナフトコロニイタルヲ、至善トイフ、此明德・親民・至善ヲ大學ノ三綱領ト申ス也、三ツノカンヨウナリト云義也、堯舜ハ此德ヲアキラカニシテ、天下ヲオサメ、殷湯王ハ此德ヲアキラカニシテ、天下ヲトリ、周文王ハ此德ヲアキラカニシテ、天下ヲマモル、イヅレモミナワレトミヅカラアキラカニシテ、心ヲタダシクセルナリ、是明德ハ心ノ外ニアラズシテ、モトヨリ吾心ニソナハレル故也、仁義禮智信ヲワケテイハバ、仁トハ、人ノ心ニ生レヱタル德ニシテ、物ヲ愛スルコトハザナリ、二歲三歲ノヲサナキ子、誰ノシユル事ナケレドモ父母ヲミテニツコト笑フハ、生レナガラ仁ヲソナヘタル故也、又イカナルモノモ、ミドリ子ノ井ヘヲチナントスルヲ見テハ、アハレト思ハヌ事ナシ、其子ヲモトヨリシリタルニアラズ、其ノ子ノ親ヲシリタルニモアラズ、タダナニトナクヲノヅカラ、アレヤ、井ヘヲチン事ハ、アハレト思フ也、是私ナク吾心マツスグニ物ヲアハレミ、アイスル處也、是ノミナラズ、草木ノシゲクサカユルヲ見テハ、ヲモシロク思フ、ソノカレヲル、ヲミテハヲシミ、鳥獸ノトビカケルヲ見テハナグサミ、其死ヲ見テハアハレムモ仁也、此心ヲヒロクヨロヅニヲシヒロメテ、用ル時ハ萬民ヲ愛セズト云事ナシ、人ヲアハ

レミ人ヲ愛スル内ニハ、先父母ヲアイスルヲサキトスルユヘニ、孝行モ仁ノ内ニアリ、父母ヲ愛シテノチニ、妻子兄弟ヲアイシ、其後ニ一族ヲ愛シ、ソノヽチ萬民ヲ愛シ、其上ニ鳥獸草木ヲモ愛スル也、是仁ヲオシヒロムルノ次第也、心ヲ目ニミヘズトイヘドモ、春ノハジメヨリヨロヅノ物ヲ生ズル處ニテ、天地ノ心ヲシルナリ、人ノ心モ天地ノ心ト一體ナレバ、ソノ心ノイキハタラキテ、廣大ニシテ私モナクヨクモナクシテ、物ヲソコナヒヤブラヌヲ、仁ノ道トス、

一義トハ、人ノ心ニ思ヒキル所也、時ニ隨ヒ、事ニシタガヒテヨロシキヲ云フ也、人ノ命ハヲシキモノナレドモ、吾ム子ニアタハヌ時ハ、一ハイノ食物ヲモウケズシテカツヘ死、一衣ヲウケズシテコゴヘ死、是ハウケテイキンカ、ウケズシテシナンカト、二ツノ間ヲ思フトキハ、ウケテイキンヨリハ、ウケズシテ死ルガマサレルコトハリアレバ也、又軍陣ニノゾミテ、イサミタヽカヘバ必ズ死ス、ニグレバシナズ、カヽヲンカ、ヒカンカト思フ處ニ死スベキトキナラバ、スヽミテウチ死スルヲヨシトス、是ミナ義ナリ、又吾身ニヒガ事アルヲ、ハヂヲソレテハヤクアラタメテ善ヲスルモ義ナリ、人ノ身ニ惡事アルヲニクミテキライテ、其惡ヲシリゾケスツルモ義ナリ、又君ニツカヘテ忠ヲスルモ義ナリ、友ダチニマジハリテ、互ニ異見スルモ義也、其友ダチアシキ事アルヲイサムレドモ、キカザルトキハ、ナカヲウタガウモ義也、此義ノ心ヲ天下ノ人ニヲシヒロメルトキハ、人皆善ニスヽミテ惡ヲセズ、臣トシテ君ヲウヤマイ、下トシテ上ヲアガメテ、國ノ風俗ヲノヅカラアシキコトナシ、

一禮トハ人ニツヽシミアリテ、事ノ次第ノ亂レザルヲ云也、若キハ老タルヲウヤマヒ、イヤシキハ位タカキヲタットブ禮也、坐シキニテハ人ヨリ下ニヲリ、ミナユク時ハ人ヨリアトニアユムモ禮也、官位ノ品々ニシタガイテ、冠裝束ノカハリアルモ禮也、元服シ、ヨメヲムカヘ、ムコヲトリ、ソノ作法アルモ禮ナリ、葬禮ヲヲコナヒ、祭ヲスルニ其義式アルモ禮也、是ミナ人間ノヲコナフクサニシテ其コトハリハ、人ノ心ノ中次第ソナハル處ヨリイデタリ、又我ガタメニ勝手ナル事ヲバ辭退シテ、人ノタメ

ニヨキ事ヲバ人ニアタフルモ禮也、天ハ上ニアリ地ハ下ニアルハ天地ノ禮也、此天地ノ禮ヲ人ムマレナガラ心ニヱタルモノナレバ、萬事ニ付テ上下前後ノ次第アリ、此心ヲ天地ニヲシヒロムレバ、君臣上下人間ミダルベカラズ、

一智トハ人ノ心ノ鏡ニシテ、明カニサトリシルコトハリヲ云也、タレニナラハネドモ生レツキテ、目アレバ色ヲミ、耳アレバ聲ヲキクモ智也、我身ノイタキ、カユキヲオボユルモ智也、水ト湯トヲノミ、ヒヘタルトアツキトヲシルモ智ナリ、善ト惡トヲ分別シ、是ト非トヲワキマヘ、スグナルトマガレルトヲワカツモ智也、ヨロヅノコトハリヲキハメントナラバ、天ハ何ユヘニタカキゾ、地ハ何ユヘニアツキゾ、火ハ何ユヘニ物ヲヤクゾ、水ハ何ユヘニ物ヲヌラスゾ、晝ハ何ユヘニアカキゾ、夜ハ何ユヘニクラキゾ、人イケルハ何ユヘゾ、死ルハ何ユヘゾ、親ニ孝ヲスルハ何ユヘゾ、親ノ子ヲ思フハ何ユヘゾ、ナンド思フ時ニミナ自然ノコトハリアリ、ソノコトハリヲコト〴〵クキハメシル時ハ、萬物シナ〴〵多シトイヘドモ、其コトハリト人ノ心ト又元來一ツ也、一ツノ理ヲミナキワムレバ、ヨロヅノ理カヨイテ不同ナシ、此コトハリニカナフヲ善トシ、此理ニタガウヲ惡トス、此理アキラカナレバ善惡ヲノヅカラシル也、ヨク善惡ヲシリキワメテ善トシテ、惡ヲセヌヲ智トス、

一信トハ、人ノ心イツワリナクシテ、定リタルコトワリナリ、右ノ仁ト義ト禮ト智トノ四ツナガラ、皆眞實ノコトワリニシテ行フトコロ、身モ心モ僞リナキヲ信トス、タトヘバ一年ノ内ニテイハバ、仁ハ春也、義ハ秋也、禮ハ夏也、智ハ冬也、信ハ土用也、四季トモニ十八日ヅツ土用アル如クニ、仁ニモ義ニモ禮ニモ智ニモ信アルナリ、又方角ニテイハバ、仁ハ東方、義ハ西方、禮ハ南、智ハ北方、信ハ中央也、人ノ身ハ家ノ如シ、心ハ主人ノ如シ、心ニカタチナクシテ手ニトリガタキユヘニ、信ヲ以テ心ノ主トス、ヲヨソ天地ノ間イヅレカ信ナラザラン、二百六十日ヲ一年トシテ、春アタヽカニ夏アツク、秋スズシク、冬サムク、日月ノ出入晝夜ノカハリ、古モ今モミナ僞ナシ、草木ノタネヲウユレバ、草木ヲ生ジ、鳥獸ハ又鳥獸ヲウミ、人ハ又人ヲウム、鳥ハソラヲ

カケリ、獸ハ野山ヲハシリ、魚ハ水ニスム、是又イツハリナシ、ツラ〳〵ヨロヅノ物ヲミルニ、一ツトシテ眞實ノ理ニアラズト云事ナシ、此眞實ノ理ヲ大極ト名ヅケテ、天地ヒラケヌサキヨリ、天地ノヲハリニイタルマデ、常ニアルモノヲ、人ノ心ニウケエテ、眞實ノ理トシテ、ウシナハザルヲ信トス、

右ノ仁義禮智信、五ノ名アリトイヘドモ只一心ナリ、心ハ人ノ身ニソナワルトイヘドモ、手ニトルヤウニヲシヘシメガタキユヘニ、此五ツノ名ヲタテテヲシヘトスル也、喜怒哀懼愛惡欲ヲワケテイハバ凡ソ人ノ心ハ廣大ニシテカギリナシ、天ノ如ク虛空ノ如シ、千年萬年ノ久シキ、昔ヲ思フモ心ナリ、千里萬里ノ遠キ所ヲ思フモ心也、アラユルヨロヅノ物ノ理ヲシルモ心ナリ、如レ此廣大ナレドモ、人ノ身ニソナハリテ、外ニアラズ、此心一念モヲコラザルサキハ、シヅカニタダシク、平ニシテアキラカナリ、ヨロゴフベキコトキタレバ、スナハチヨロコビ、イカルベキコトイタレバ、スナハチイカリ、カナシムベキ事アレバスナハチカナシミ、ヲソルベキトキハスナハチヲソレ、アイスベキモノヲバスナハチアイシ、ニクムベキモノヲバスナハチニクミ、子ガイノゾムベキ事ナラバスナハチ子ガウ、コレ人ノコヽロノ用ナリ、又父母兄弟妻子以下マデ、ナニゴトナクメデタキヲタノシムハ喜也、又善ヲシテ惡ヲセヌ事ヲ好ムモ喜也、國家ヲサマリ天下タイラカナルヲイハフモ喜也、此類ハヨロコブベキノ道理ナリ、若人ノクルシム事ヲヨロコビ、アルイハ吾身ニ惡ヲスル事ヲコノミナンドスルハ、皆道理ニソムキテヨロコブナリ、ヨロコブベキ道ニ非ズ、惡人ヲノゾキ、小人ヲシリゾケ、盗賊ヲコロシ、謀叛野心ヲスルモノヲ誅罰シ、罪アル者ヲ法ニヲコナフ類ハ、ミナ怒ベキ道理ナリ、若罪ナキ者ヲ罪ニヲコナヒ、イケン敎訓スル事ヲ腹立スルハ、怒ルベキ道ニアラズ、又怒ヲタクバヘテ咎ナキ人ニムカヒテ、ナヲモ怒ルハイカルベキ理ニ非ズ、人ノ病アルヲアハレミ、人ノ死ルヲイタミ、諸人ノメイワクスルヲウレフルハ、カナシムベキノ道理也、盗賊ヲアハレミ、惡人ノホロブルヲイタミ思フハ、鼠ノシヌルヲカナシムガゴトシ、悲ムベキ道ニ非ズ、

臣トシテハ君ヲオソレ、子トシテハ父ヲオソレ、君トシテハ天道ヲオソレナンドスルハヲソルベキ道理也、懼(ケウ)トハ臆スルヲ云ニハアラズ、大事也トツヽシミテ思フヲ云也、我身ニ僻事アランカトヲモヒ、アヤマチアランカトヲモヒ、事ヲオコナハンニケガノアランカトヲモフハ、皆ヲソルベキ道理也、若軍陣ニノゾミテ義ヲ以テ死テカナハザル所ヲオソレ、惡ヲシテ其事ノ成就セマジキ事ヲオソル、タグイハ、道理ニアラズ、

父母ヲ愛シ、主人ヲシタイ、賢人君子ヲナツカシクヲモイ、妻子兄弟ヲムツマシクスルハ、愛スベキノ道理也、若小人ヲシタシミ、惡人ヲナツケントスルハ、愛スベキ道ニアラズ、我トマジハルモノニハ、ワルキモノニテモヒイキヲシ、我子ノアシキコトハ親ノ目ニミヘヌ類ハ、理ニソムキテ愛スル也、愛スベキ道ニアラズ、惡ヲニクミ無禮不義ヲニクミ、不孝不忠ヲニクミ、無道ヲニクミ、イツハリヲニクムハ、ミナニクムベキ道也、ヨキ事ヲニクミ、賢人ヲニクミ、我ガ爲ニ私ノウラミアレバ、善人ヲモニクミ、又我ヨリマサレル智藝能アル者ヲソネミネタムハ、皆是理ニソムキテ、ニクム也、欲トハネガイヲモフ心也、人ノネガフテナル事トナラヌ事トノ二ノ道アリ、親ニ孝ヲセントネガイ、君ニ忠ヲセントネガフハ、イカホドモナル事也、善ヲセントネガヒ惡ヲセヌヤウトネガヒ、仁義ヲセントネガヒ、偽ヲイハヌヤウニトネガフハ、ネガフテイカホドモナル事也、是ネガヒ思フベキ道理也、若生レツカヌ富貴ヲネガヒ、生レツカヌ壽命ヲネガヒナンドスルハネガフベキ理ニアラズ、其生レツク所モトヨリサダマレル天命ナレバ、ノゾムトモカナイガタシ、タトヘバ、タケヒキ、モノヽ、タケタカクナラントシ、ミメアシキ人ノミメヨクナラントシ、ヤセタルモノヽ、俄ニコヱントスルガ如シ、ネガフトモカナフベカラズ、ナラヌネガヒヲクワダテ、カナハヌノゾミヲナスハ、惡人愚人ノワザナルユヘニ、アラヌ事ヲヽモイカケテ、僻事ヲシ罪ヲツクリテ、ソノハテ〳〵ハ身ヲホロボスナリ、是皆ネガウマジキ道理ナル故也、

右ノ喜怒哀懼愛惡欲ノ七情ハ、心ノ用ニシテ、モトヨリナクテカナハヌモノナレドモ、七ツノ内一ツ

ナリトモ、理ニソムキテナス時ハ、本心ノサ、ハリトナリテ、心カナラズタダシカラザルナリ、心タダシカラ子バ、身モヲサマラズ、身ヲサマラ子バ、國家モヲサマラズ、此七情ヨク理ニ叶ヒテ用ル時ハ、一心ノ本體ヲノヅカラタダシクアキラカ也、心タダシケレバ身ヲサマル、身ヲサマレバ家ヲサマル、家ヲサマレバ國ヲサマル、國ヲサマレバ天下アキラカナリ、サレバ聖人ノ道ハ其心ヲタダシクスルヲ根本トス、此タダシクアキラカナル心ヲ名ヅケテ、明德ト云ナリ、

視聽言動ト云事アリ、目ニ見ルト、耳ニキクト、口ニモノ云フト、身ノウゴキハタラクトノ四ツヲ云ナリ、此四ツハ形ニアラハル、モノナリ、上ノ五常ト七情トハ心ノ中ヨリ出ルモノナリ、ヨク心ノ中ヲヲサメテ、又外ノ形ヲモ必ズ正シクスベシ、是心ト形トヲヲサムルノ道也、目ニアシキ色ヲ見ズ、耳ニアシキ聲ヲキカズ、非禮非義ナル事ヲキカズ口ニアシキ事ヲイハズ、邪ナル事ヲイハズ、イツハリヲイハズ、身ニアシキハタラキヲセズ、ミダレガハシキ事ヲオコナハズ、是理ニカナヒテ、視聽言動スルナリ、目ニアシキ事ヲミ、耳ニ邪ナル聲ヲキ、、口ニウソヲイ、、身ニワルキ行ヒアルハ、皆理ニソムキテ視聽言動スルナリ、動ト云ニモロ〳〵ノヲコナヒハコモレリ、手足ノハタラキモ身ノタチイスルモミナ是ナリ、若生レツキテ形ノアル者ナレバ、目ハミルガヤク、耳ハキクガヤク、口ハイフガヤクナリトテ、善惡ヲヱラバズ、道理ト無理トヲ論ゼズ、是非ヲワキマヱズ、只我マ、ニ見ツ、キイツ、イフツ、行ヒツセンハ、耳口ノ道理ニアラズ、如レ此セン人ハ、形モ心モ亂レテ、盜ミ惡事ヲシテ、必罪ツクルベキ也、タトヘバ火ハモノヲヤクモノ也、モノヲニツ、ヤイツセンタメニ、カマド爐中ニモユルハ、火ノ道理也、家ヲヤキ、財寶ヲヤカンハ、火ノ道理ニアラズ、刀ハモノヲキルモノナリ、惡人盜賊ヲキリ、大逆無道ノ敵ヲキルハ、刀ノ道理也、善人ヲコロシ、罪ナキモノヲキルハ、刀ノ道理ニアラズ、此タトヘノ如ク、見ルベク、キクベク、イフベク、ウゴクベキノ道理アリ、又見ルベカラズキクベカラズ、イフベカラズ、ウゴクベカラザルノ道理アリ、ヨク此義ヲ分別スベシ、若シ又萬事ニツイテ、ミザレ、

キカザレ、イハザレ、ウゴカザレト云テ、目アレドモメクラノ如ク、耳アレドモツンボノゴトク、口アレドモヲシノ如ク、形アレドモ木像ノゴトクニシテ、タダ我心バカリヲヨクサトランナンド云ハ、オホキナル僻事ナリ、必ズ人ヲアヤマルベシ、タトヘバ鏡ヲウラガヘシテ物ノ形ヲ見ントスルガ如シ、イカンゾ其影ヲモ色ヲモウツサンヤ、イカンゾ其心バカリヲ守テ萬ヅノコトハリニ通ゼンヤ、サレバ聖人ノ道ハ見ルベキヲバミテ、ミマジキ事ヲバミズ、キクベキ事ヲバキ、テ、キクマジキ事ヲキカズ、云フベキ事ヲバイヒテ、云フマジキ事ヲバイハズ、一ツモ道理ニタガフ事ナシ、故ニイフベキ事ヲイハザルモ、云フマジキコトヲ云フモ、ナスベキ事ヲナサザルモ、スマジキコトヲスルモ、ミルベキ事ヲミザルモ、ミマジキ事ヲミルモ、キクベキ事ヲキカザルモ、キクマジキ事ヲキクモ、ミナ道理ニソムキテ、非禮トナルナリ、是故ニ心ノ中ニアル五常七情ヲ、ヨクオサメタダシクシテ、外ノ形ニアラハルル、視聽言動ヲコマカニツ、シムヲ、聖賢ノ學問トシテ、我身ヲ治メ人ヲモヲサメ、國家ヲモヲサムルハ、大學ノ法ナリ、

三德抄下終

敵戒説

民部卿法印　林道春夕顔巷

或人擧敵戒二字請余爲之説、雖未詳其所撰、而參之武書則有虞氏戒於國中者、大司馬法制之所據也、三軍以戒爲固者太公望敎也、由不虞之道攻其所不戒、安國家之道以戒爲寶、戒者雖克如始戰皆是孫呉法也、故知亂生於治危生於安、而常能戒預自警、則國家可永、有其備則諸侯受命、故曰天子無敵、有其道則百姓心服、故云仁者無敵、所謂道者卽是仁義也、若夫不仁不義則親戚叛之、肘腋之變可畏也、所謂舟中之人皆爲敵國亦此意也、不可不戒也、若就日用之際推類言之、鬲縣之內爛不知厭、而青州之援兵來叛爲寇、卽是腐腸之潰也、噬臍不及也、專諸之截肉蘭京之膳盤可不懼乎、西子乳之鏌鋣魚之乙、梟雁之翠、鵠之胖、雞之肝、鹿之胃可不愼乎、尋常飮食倘且飽傷則有恙、況如此者乎、凶賊之饕餮誠可憎焉、一金兩戈是人之所爭取也、爲政者雖不可不貯儲、而鉅橋鹿臺瓊林大盈禍于其身、困于其民而無益于國、何不致思乎、夫飮食男女人之大欲存焉、於是有禮有法、然蛾眉之斧嬋娟之刄劇於殘賊、是古人所以有酒味色之諫也、且風寒暑濕之浸於外、淫於內則生疾病、故以敵國喩疥癬與腹心、若能禁之、則國之無憂患猶身之無疾病、謂之醫國、故常不忘其敎戒、則何敵之有、孟子不曰乎、入則無法家拂士、出則無敵國外患者國恒亡、是以有敵戒則竟至于可以無敵、文章亦然、李白萬夫之雄、青萍之價不可謂無戒也、所以杜甫稱白也詩無敵也、蘇洵讀書鏖戰一陣、方其下筆屬文也、所以歐公稱之曰似荀況也、若無其戒則學奕者射鴻鵠之類也、不可必進、凡百枝藝終身不可成焉、就此兩字以小推大、以大喩小、丁寧反覆既如此、豈唯軍政而已哉、呂藍田作克己銘曰、昔爲寇讎今則臣僕、是克私欲之寇讎、而復天理之本然、則道心爲帥而人心每聽命、豈有不服之敵哉、嗚呼克己是爲仁、仁者無敵、再三言之、書曰、戒哉、儆戒無虞、罔失法度、惟夫戒之嚴哉、而今依請其喩說、遂撰

柳子厚之所レ不レ足耳、

同和抄

敵戒トイフ事ヲトキノベヨトアリケレバ、其ノ廣キ事ヲバシラザレドモ、兵書ニ考ルニ帝舜ノ世、太平ノ時ニ國中ニイマシムトイヘリ、戒トハ用心油斷ナキ事ナリ、惡キ事ナキヤウニト、敎ルモイマシメナリ、此ノ心ヲウケテ、周ノ武王周公ノ大司馬ノ軍法ニ證據トスル所ナリ、大軍ニ戒ヲ以テカタメトスルコトハ太公望ガヲシヘナリ、敵ノヲモイヨラザル所ハ、イマシメナキ所ナリ、ソコヲセムルハ孫子ガ法ナリ、國ヲヤスンジ家ヲヤスンズル道ハ戒ヲ以テ寶トス、敵ニ勝トイヘドモ、ハジメテ戰ヒニ望ガ如クスルヲイマシメストスルハ吳子ガ術ナリ、コノ故ニ亂ハ治ヨリナリ、アヤウキ事ハヤスキヨリナル事ヲシリテ、常ニ兼テ能イマシムルトキハ國家長久ナリ、主君其ソナヘアル時ハ、諸侯其命ヲウク、故ニ天子ハ無レ敵ト云ヘリ、又ソノ道アル時ハ萬民皆心カラ歸服ス、故ニ仁者ハ無レ敵ト云ヘリ、ソノ道ト云ハ則仁義ナリ、若シ不仁義ナル時ハ親類タリトイヘドモ叛キタガフ、故況ヤ他人敵國ヲヤ、一座ノ內遊興ノ間ニテモ不慮ノコトアルベシ、イマシムベキ事ナリ、昔シ魏國ノ君、舟ニ乘テ其國ノ要害ヨキ事ヲホコリケレバ、吳子コレヲ聞テ君モシ無道ナラバ、此船中ノ人皆敵トナラント云フトキ、君ゲニモトヲモヘリ、コレニヨリテ國ヲヨクタモテリ、若每日ノ事ニツイテタトヘテ云バ、鬲縣ノ酒、ムネニシメドモ猶アク事ナクシテ、靑州ノ酒臍ノ下エトホリテ肉ヲソコナウ、後悔スレドモ及ガタシ、酒ハウマクシテヨロコビアレドモ、過レバ必ズ敵トナル、鬲縣ハ胸ニトドコヲル酒ナリ、靑州ハ臍下エトドクヨキ酒ナリ、酒ノミニアラズ、專諸ガ大ニキリタル肉ノ內蘭京ガ配膳ノ下、皆刀ヲカクシ置テ人ヲ殺ス事アリ、西子乳ノ鏌鎁トハ河豚ノ調味アシケレバ、ノンドニ入テ鏌鎁トナルト、梅聖兪ガ詩ニ作レリ、鏌鎁ハ劍ノ名ナリ、西子乳ハ河豚ノコトナリ、其外魚鳥獸ウマキ味アルモ、スグレバ必タヽリアリ、況ヤ品々ノ毒甚キモノヲヤ、古ノ惡人寶ヲムサボリ食物ヲムサボルモノヲ饕餮(タウテツ)ト名付テ大賊トス、然バ飲食モ敵トナル事アリ、一金兩戈ハ錢ノ事ナリ、人

人ノホシガルモノナレバ必ズアラソウ處アリ、コノ故ニ金篇ニ、フタツノ戈アリ、コレ錢ノ字ノカタチナリ金ヲトラント兩人戈ヲ持テ爭フ形チナリ、コレヲ一金兩戈ト云フナリ、錢ノコトヲ云ヘバ金銀財寶ヲ兼ヌルナリ、政ヲスルモノ財寶ナクテハカナワズ、其タクワフルニ分限アルベシ、甚シク多クアツメテ、殷ノ紂ガ天下ノ財寶米穀ヲ、鉅橋鹿臺ノ大キナル藏ニ納メタリシモ武王ノタメニホロボサル、唐ノ德宗ノ瓊林大盈ノ藏ニ、アラユル粟ヲタクワヘヲキタリシモ、天下ノ亂ヲスクフ事アタワズ空シク民ヲ苦シメ、イタヅラニ國ニ益ナクシテ、終ニソノ身ニワザワイアリ、イマシムベキ事ナリ、禮記ニイヘル意ハ飮食ト男女ノ道トハ、人々ノ欲ニテ皆ナクテハカナワヌ事ナリ、爰ニ禮アリ法アリテ用ユル道アリ、然ドモ色コノムモノハ、ツ、シミナシ、カホヨキ蛾眉ノ一物ヲ切テヤブル、ヲノマサカリノゴトク、ウルワシキ嬋娟ハモノヲツキサク乃ノ如シ、イカンゾ人ノ心ヲソコナハザラン、蛾眉嬋娟ハ美女ノ形ヲ云ナリ、魯國ノ君ノ酒ト味ト色トヲ以テ楚國ノ王ヲ諫タル事ハ此ユヘナリ、然バ財寶モ色モ皆敵トナル事アリ、又風ニアタリ寒ニヲカサレ暑氣溫氣ニフレテ外ヲヤブル時ハ、必ズ内ニシミ入テ病ヲ受ク、故(カルガユエ)ニ敵ヲ以テ疥癬ト腹心ノ疾トニタトフ、疥癬ハ小瘡ノ類ナリ、小敵ノヨワキニタトフ、腹心ノ疾ハ深シテ平愈シガタキユヘニ大敵ニタトフ、無事ノ時コレヲイマシムレバ國ノ患ナキ事身ニ病ナキガゴトシ、コレヲ醫スト云フナリ、又國治リテ長久ナルヲ國ヲモ醫ストイフ、此戒ヲワスレザレバ、何ノ敵トイフ事カアランヤ、司馬溫公宰相トナリテ政ヲスルヲ、人參甘草ノゴトシトホメタルハ國ヲ醫ス故ナリ、サレバ張良ガ忠言耳ニサカフヲ良藥ニタトヘタリ、孟子ニ國ノ内ニ法家拂士ナク、外ニ敵國ノ患ナケレバソノ國亡ブトイヘリ、法家ハ禮法ヲ守ル大臣ノ事ナリ、拂士ハ君ノ心ヲタダシテヒガ事ナキヤウニ諫ムル臣ナリ、如レ此常ニ敵ノイマシメアル時ハ、果シテイマシメナカルベキニイタル、學問モ文字モ又同クカクノゴトシ、唐李白千萬人ノ英雄タルベキ志アリテ用ラレバ、青萍ノ劍ノ價ヲマスベキイマシメトアルニヨリテ、杜子美コレヲホメテ、李白ガ詩ニハ無レ敵云ヘリ、東坡ガ父蘇洵書ヲ讀學事始終本末内外縱橫ヨク通ズル事、タトヘバ合戰シテ敵

一人モ殘ズ一度ニ討チ亡スガコトシ、コレヲ鏖戰一陣ト云ヘリ、故ニ蘇洵ガ文章作ルヲ、歐陽公コレヲ見テ荀況ガ文ニ似タリト云ヘリ、荀況ハ古ノ才智アル人ナリ、若戒ナキ時ハ其道ス、ムベカラズ、昔二人奕ヲ學ブモノアリ、一人ハ師ニシタガヒテ專ラツトメケレバ上手トナル、一人ハ鴻鵠ノ飛ヲ見テ弓ヲヒク此ヲ射ントヲモフ、奕ヲ習ノイマシメナシ、奕ハ圍碁ノ事ナリ、奕ニカギラズ鴻鵠ヲ射ント思フ心アラバ、譬諸藝ヲ學ブトイフトモ一生ノ間、成就スベカラズ、敵戒ノ二字ニツイテ、小ヨリ大ヲ推ヒロメ、大ヨリ小ニタトヘクラベテ念比ニクリカヘシイフ事旣ニカクノゴトシ、何ゾ軍法ノミナランヤ、宋朝ノ呂藍田ト云ヘル名儒、克己ノ銘ヲ作リテ、昔爲ニ寇讐ニ今則臣僕トイヘリ、寇讐ハアダカタキノ事ナリ、臣僕ハツカヒモノ、事ナリ、私欲ヲ寇讐ニタトフ、ヲノレガ私欲ノアダニカチテ天理自然ノ根本ニカヘル時ハ、道心則主トナリテ人心其命ニシタガフ、命ニシタガフモノハ臣僕ナリ、己ハ我欲ナリ、私欲ヲ斷然スル事敵ニ勝、敵ヲ亡シテ亂ヲ治ルニタトフ、何ゾ歸服セザル敵アランヤ、己ニ克ハ仁ヲスルナリ、此故ニ仁者ハ敵ナシト云フコトヲ再三コレヲ云ナリ、尙書ニイマシメヨヤ無虞ヲイマシメテ、法度ヲ失フ事ナカレト云ヘリ、無虞ハハカルコトナシトヨメリ、不慮ノ義ナリ、何時何事カ俄ニアランモハカリガタキヲイフナリ、此ヲ戒テ國家ノ法度ヲ失フ事ナカレトナリ、誠ニ此戒ノ義尤モヲゴソカナル事ナリ、今ソノタトヘヲ以テトカン事ヲ請フニヨリテ、柳子厚ガ敵戒文ノタラザル處ヲ推廣ムト云云、

林　道春

敵戒說

弘文院林學士春齋　向陽軒

敵者何相當也、戒者何警愼也、何爲揭二此二字一、曰、有レ說二于此一、曰、其說以爲レ何、曰、蔓草不レ可レ除、蜂蠆有レ毒、困獸猶鬪、況於レ人乎、愚夫愚婦能勝レ予、況於二相當者一乎、不レ可レ不レ戒焉、其所レ敵在レ彼、其所レ戒在レ此也、不レ戒則爲レ彼被レ覘、戒レ之則雖二千萬人一吾往矣、凡人隨レ時知レ戒、則以レ理勝レ之、不レ然則爲二血氣所一レ使也、周郞之向二赤壁一、其年猶少、忽立二捷功一、然惑二于小喬一、所謂血氣未レ定戒レ之在レ色也、關羽之鎭二荊州一壯而有レ威、然擒二于呂蒙一、所謂血氣方剛戒レ之在レ鬪也、仲達之拒二孔明一善謀而待レ時、然及二其老一而遂營二家事一、所謂血氣既衰戒レ之在レ得也、吳子顏之興二漢室一方修二戰攻之具一、故云、隱如二一敵國一、果以二功名一終也、細柳者眞大將、而霸上棘門者爲二兒戲一、無レ他唯戒與レ不レ戒耳、小可二以敵一レ大、所下以昆陽破二尋邑一、淝水克中苻堅上也、純剛純强者亡、所下以秦皇幷二六國一而山東亂、典午統二三國一而骨肉居上也、故曰、敵存而懼、敵去而舞、可レ不レ思乎、且夫人無レ不二飲食一、然厚味腊毒制レ之可二以養一レ生也、無レ不二晤語一、然一言僨レ事喪レ邦、謹レ之可二以顧一レ行也、無レ不レ好レ色、然亂生レ自二婦女一、惡レ之可二以免一レ禍也、然則敵豈遠乎哉、可レ無二時而不一レ戒焉、其制二戒字一有二手持一レ戈之象一者良有レ以也、苟注二意於此一、士庶人可二以修一レ身、大夫可二以齊一レ家、王侯可三以治二邦國一、古稱、防レ意如レ城、守レ口如レ瓶、謂下防二私意一愼二言語一又節中飲食上也、善哉、書曰、洚水儆レ予、然則匪二啻軍旅而已一、後世天示レ災以戒レ君、亦此類也、天地之於レ人既然、凡事物皆可レ有二警戒一也、敵戒之詞出二於柳河東一、方今我郞罷應二人之求一、而件々言レ之、余所レ云雖レ似二贅疣一、然其所レ請不レ能二默止一、遂記以塞焉、

同和抄

敵トハ我トヒトシク相手ニナル者ヲイフナリ、戒トハイマシメツヽシミテ用心シ油斷ナキヲ云フナリ、此二字ヲアゲタルイワレヲイカニト云フニ、草ハ微小ノモノナレドモシゲリハビコルトキハ拂ヒ盡シガ

タシ、蜂ハチイサキ蟲ナレドモ尾ニ毒アリテ人ヲサス、獸ハ人ヲ見テヲソルレドモ、ニグル所ナク苦ム時ハ死ニイタルマデタ、カフ、又人ノ上ニツイテモ何樣ノ愚ナル、賤男賤女モソノワザ人ニスグレタルコトアリ、マジテ我ト相手トナルホドノ者ニハ其戒ナクテハカナワザル事ナリ、若イマシメザレバ、敵ニスキマヲウカガワル、能戒ムルトキハタトヒ大勢ノ敵ニ向トイヘドモ、ヲソルベカラズ、凡ソ人タルモノ其時々ニツイテ戒ムルコトヲ知トキハ、道理ヲマモリテ私欲ニカツベシ、イマシメヲ知ラザレバ血氣ニツカワレテアヤマル事多シ、周郎トイヒシ人、歲二十餘ニテ吳國ノ大將トナリテ赤壁ト云フ所ニテ合戰シ、曹操ト云大敵ヲ破リ、周郎イヨ／＼心ヲ軍ノ事ニツクサバ、猶モ國ヲヒロゲ名ヲ顯スベカリシヲ、小喬ト云ル美女ニマドヒテ幾程モナク病死セリ、其ノ年ワカキトキハ血氣イマダサダマラズ、色ヲ好ム事ヲ戒ベキナリ、關羽ト云ヘル人ハ蜀ノ國ノ大將ニテ、度々武勇ヲ顯スニヨリテ世人鬼神ノゴトクニヲソレタリ、荊州ト云大國ヲ討取リ、卽チ其所ノヲサヘトナリテ勢サカンナリシガ、敵ヲアナドル心アリテ戒メタラザル故ニ、呂蒙ト云ヘル吳國ノ兵ニ生擒レタリ、其年サカンナル時ハ血氣マサニコハケレバ戰ニ臨デイマシムベキ事ナリ、司馬仲達ト云ヘル人ハ魏ノ國ノ大將ナリ、蜀ノ國ノ大將諸葛孔明ヲ拒グコト度々ニ及ブ、孔明ハ古今ニスグレタル文武備ル名將ナリ、仲達自ラ其武略ノ孔明ニ及ザル事ヲ知リテ戰バ危カルベシト思ヒ數年對陣シ己ガ手前ノ用心ノミシテ、敢テ進マズ、孔明ガ方ヨリ樣々仲達ヲ耻シメケレドモ仲達少モ戰フ心ナシ、カクテ年ヲ歷テ孔明氣力ツキ病死シテ、仲達ツイニ勝事ヲ得タリ、其後仲達威勢ツヨク欲心キザシテ其主君魏ノ帝ヲタヲシ、己ガ子孫ヲ繁昌セシメントセリ、人年老ヌレバ血氣ヲトロフルユヘニ、道理ヲ守ルコトアタワズ、物ヲムサボリ得ルノ心ナキヤウニ戒ベキナリ、仲達ガ孔明ニ逢テ己ガ耻ヲカキタルヲモカマワズ、時節ヲ待シハ思慮深クヨキ臣下ノヨウナレドモ、其老後ニ逆心ノキザスハ欲フカクシテ惡ヲ戒ルノ心ナキユヘナリ、サレバ此ワカキ時ノ戒メト壯ナル時ノ戒ト老タル時ノ戒トヲ君子ノ三ノ戒トテ、孔子ノ說タマフ事論語ニ見タリ、今周郎關羽仲達ガコトヲ引テ其證トス、後漢ノ

光武ノ臣ニ呉子顔ト云ヘル大將アリ、數度軍功アリテタマ〳〵イトマアリテ休息スルトキモ、武具ヲトトノヘ軍陣ノ用意ヲコタラズ、コレニヨリテ子顔ガ威名只一人ニテ敵ノ一箇國ニ對スルガゴトシトイヘリ、如レ此弓斷(ユダン)ナキユヘ一代ノ間武勇ノ功名ヲ全シテ身ヲ終タリ、又前漢ノ文帝ノ時ニ韃靼人亂レイルヨシ風聞スルユヘ、其ヲサヘノタメニ周亞夫ト云ル大將ヲシテ細柳營ヲ守ラシメ、又二人ノ大將ヲ分テ覇上ト云フ所ト棘門ト云フ所ニ居シム、或時文帝自ラ三人ノ大將ノ陣場エ見廻ニ行幸アリ、先覇上ト棘門トエ至リタマヘバ、二人ノ大將門ヲヒラキ天子ヲ迎奉ル、其後ニ細柳エ赴キタマヘバ軍門キビシク閉テ開カズ、先驅ノ人行幸ナリ急ギ門ヲアケヨトイヘドモ番ノ者敢テ聞入ズ、漸アリテ周亞夫子細ヲ聞届ケテ門ヲ開カシム、周亞夫ハ本陣ニアリテ出テ迎エ奉ラズ、帝本陣エ入リ給ヘバ、周亞夫甲冑ヲ著シ軍中ノ禮ヲ以テ對面ス、帝還御アリテ周亞夫ハ眞ニヨキ大將ナリ、覇上棘門ノ者共ハ兒ワラハベノタハムレノゴトシ、敵モシ不慮ニ來ラバアワテサワグベシトテ、周亞夫ヲ譽テ二人ヲバアザケリ給ヒシハ、只是戒アルト戒ナキトニヨリテナリ、戒アルトキハ小勢ナリトモ大勢ニカツベシ、後漢ノ光武ハ昆陽ト云フ所ニテ僅ニ八千ノ兵ヲ以テ王莽ガ大將王尋王邑ガ百萬人ヲ破リ、謝玄ト云ヘル晉ノ代ノ大將ハ淝水ト云所ニテ、八萬ノ兵ヲ以テ苻堅ガ百萬人ニ克タリ、又甚剛ク强ケレドモ戒ノ心ナキトキハ滅ブ、昔秦始皇大敵六箇國ト戰テ皆伐滅シ、一統シテ天下ニ敵ナシトテ奢リケルガ、イクホドナク東方ヨリ亂起テ秦ノ世亡タリ、又魏ノ國蜀ノ國呉ノ國相爭ヒテ天下三ツニ分レ五十年バカリ勝負決セザリシヲ、晉ノ武帝ニイタリテ三國ヲ平テ天下ヲ幷セタリ、其後政ヲコタリ戒メ足ザル故ニ武帝ノ子孫一族中惡クナリテ大亂止ズ、晉ノ世早ク衰タリ、昔ノ人ノ辭ニ敵アル時ハ、ヲソレヲノヽキ、敵去トキハウタヒ舞ト云ヘルハ此等ヲ戒ルナルベシ、且ツ人タルモノ飮ミ食ハズト云フコトナシ、然ドモムマキ味アル者ハカヘリテ毒トナレバ、食物ニ心ヲツケテ養生ヲスベシ、人モノイワズト云フ事ナシ、然ドモ一言ニテ事ヲ破リ國ヲ失フ事アレバ、一言ノコトヲモ謹デ己ガ行跡ヲ顧ルベシ、人トシテ男女ノ道アラズト云フコトナシ、然ドモ淫亂ナ

レバ身ヲソコナヒ國ヲ傾ク、此ヲサケテ禍ヲマヌカルベシ、如レ此ノ事々ニツイテ戒ナケレバマノアタリニ敵アルベシ、遠クヨリ來タルニアラズ、實ニ片時モ弓斷スベカラズ、戒ノ字ヲ手ニ戈ヲ持タルニカタドリテ作レルモ誠ニイワレアルコト也、此心ヲ會得セバ士庶人ノ位卑キハ其身ヲ脩ムベク、大夫タル人ハ其家ヲ齊フベク、帝王諸侯ノ位貴ハ國ヲ治メ天下ヲ平ニスベシ、又古ノ人ノ意ヲ防コトハ城ノゴトク、口ヲ守ルコトハ瓶ノゴトシト云ヘルハ我ガ私ノ意ノキザスヲ防グコトハ、己ガ城ヲ守ルガゴトクニシ、口アレドモ瓶ノゴトクニシテ多ク言ハズ多食ハズト云フ義ナリ、是平生ノ戒ナルベシ、尙書ニ降水予ヲイマシムト云ヘルハ、堯舜ノ時天下泰平ナリ、然ドモ大水ノ出ケルヲ帝王ノ戒トセル事也、然バ戒ハ軍陣ニカギルベカラズ、或ハアヤシキ星出テ或ハ旱シ或ハ饑饉シ、其外天災アルハ皆人君ノ戒ナリ、天地ノ人ニヲケル既ニ如レ此ナレバ、事々物々ニツイテ皆戒アルベシ、敵戒ト云フ辭ハ、柳河東ト云ヘル人始テ云出セリ、柳河東ガ名ヲ柳宗元ト云フ、柳子厚トモ云、唐ノ世ニテ名高キ人ナリ、今我父、人ノ求ニヨリテ、敵戒ノコトヲ長々ト云ヒノベタレバ、我ガ云フトコロハイヤコトナレバ、イカヾト思ヒナガラ、默止ガタクテ聊カ記シ侍ル、

林　春齋

敵戒說

禮部卿　法眼　林春德函三子

唯聖人能外内無レ怠、然不レ能レ無レ戒、黃帝之涿鹿阪泉、堯之崇膾胥敖、舜之三苗、禹之塗山、陽之十一征、文王之崇墉、武王之牧野、周公之流言、皆是非レ有二敵患一乎、其能戒二警之一、故外内無レ患、夫戒二愼乎其所一レ未レ睹、况於レ臨レ事乎、自非二聖人一、外寧必有二内患一、何則國家有二寇難一之日、非レ無二防嚴一、幸而得レ克之後非レ無二怠侈一、故蕭墻之憂乘レ時而起、遂使下外寇亦伺中其釁上可レ不レ戒乎、范匄之言不二固然一乎、古今之安危治亂歷代史籍之所レ錄可二考知一而已、我與レ彼其强弱多寡相敵則誡可レ有二戒心一、况於レ不二相敵一乎、且又敵二王所レ愾者不レ戒則何獻二勤王之功一乎、思レ之嗚呼人者天地之德陰陽之交也、故靈臺丹府昭々明々外物何侵二其内一乎、然不二戒愼一則七情之慾熾而三才之名爲二虛設一、於レ是志爲レ氣使、心爲二形役一、目專愛二奇色一、鼻專齅二異香一、口專嗜二酒肉一、耳專耽二邪聲一、手容不レ恭、足容不レ重、其言行不レ足レ云也、譬下諸全軍失レ備敗績狼狽摧二我城壘一棄中我輜重上、是不レ戒之所レ致也可レ懼哉、苟能治二本心一拂二物慾一則五常明而一以貫レ之、志以使レ氣心以帥レ形、七竅四肢各無レ不レ得二其正一、言行可三以爲二樞機一、既而四勿存養三省不レ懈則靈臺永以昭明矣、譬下諸義軍奮進靖レ難得レ雋復二侵地一拓二境宇一國富兵勁而仇敵遠逃上焉、是警戒之所レ致也、揚推如レ此則敵戒二字亦可レ注レ意焉、蓋小而言レ之是非得失在二我一身一、大而言レ之闔國之政萬人命懸三于人君與二宰相一可レ不レ愼歟、曾子曰戒レ之戒レ之出二乎爾一者反二乎爾一者也、方今依二人之求一郎罷丁寧告戒、阿兄亦製二一篇一、余亦被レ促而不レ得レ不レ言云々、

同和抄

聖人ハ外ニモ内ニモ患ルコトナシ、此ハ昔范匄ト云フモノ、語ニテ左傳ニ見タリ、サレドモ聖人モイマシメツ、シムコトナクテ叶ザルナリ、黃帝ハ涿鹿ト云フ所ニテ蚩尤ト云フ强敵ヲウチ殺シ、阪泉ト云フ所ニテ楡罔ト云人ニ戰ヒ勝タマフ、帝堯ハ崇膾胥敖ト云フ國々ヲセメラル、帝舜ハ三苗トイフ、謀叛セル國ヲタビ／＼ウチ平ゲラル、夏ノ禹王ハ塗山ト云フ

處ニテ天下ノ大小名ヲメシアツムルトキニ、防風氏遲參シカバ其罪ヲタヾシテ此ヲ殺(コロサ)ル、殷ノ湯王ハ諸國ヲセメラル、事十一度、遂ニ夏桀ヲナガシテ天子トナリ給フ、周ノ文王ハ殷ノ紂ガ臣下崇侯虎ト云フモノ惡人ナルニヨツテ彼ガ居城ヲ攻ラル也、其外多ノ諸國ヲ討タマフ、武王ハ牧野ニテ殷ノ紂ト合戰シ紂ヲコロシ天子ト成タマフ、周公ハ武王ノ弟ナリ、武王崩御マシ〳〵テ御子成王即位周公攝政セラル、トキニ、成王ノ年ワカキ故ニ周公二心アリト管叔等流言ス、管叔ハ周公ノ兄ナリ、此言ニヨリテ周公シバラク周ノ都ヲタチノカル、幾ホドナク管叔等ガ謀叛アラハレケレバ、成王即チ周公ヲ迎テ彼ノ輩ヲウタシム、流言ハ根モナキソラゴトヲ云ナリ、此人々ハ皆聖人ナレドモ何モ敵對スルコトアリ、其戒ツヽシマルル事テンゴロナル故ニ內外トモニ患ナシ、聖人君子ハイマダ物ヲミズ一念ヲコラザルトキニスデニ戒愼シム、マシテコトニノゾミ物ニマヂハルトキヲヤ、凡世間ノ人ハ聖人ニアラザレバ外ノ患ナケレバ必內ノ患ヲウク、イカントナレバ一國ニ謀叛ノ敵アル時ハ手前用心ヲコタラズ、若仕合ヨク敵ニ討勝テバ、ハヤ敵ナシト思フニヨリ、必ズヲゴリホシイマヽナリ、故ニ一家ノ內ヨリ亂出來テ國中騷動スルニヨツテ、又所々ノ一揆蜂起ス、誠ニイマシムベキコトナリ、范召ガ云シ語尤其コトハリアリ、古ヨリ今マデ治亂ノ前蹤、カヤウノタメシ代々ノ記錄ヲ考ヘシルベシ、御方ノ人數ト敵軍ト其强キモ弱キモ大モ少モ等分ナリトモ、タガヒニ用心スベシ、若御方弱人モスクナクバ彌用心スベシ、又天子ノ勅ヲウケテ朝敵ヲ退治セン人ハ殊ニ戒ノ心ナクテハ官軍ノ勝利ヲ得ンヤ、夫レ人ハ天地ノ德ヲウケテ陰陽ノ和合ナリ、靈臺丹府ハ心ノ事ナリ、心中キヨクアキラカニシテ少モケガレズ、イカデカ外ヨリノ事物ニヲカサレケガレンヤ、人ハ天地ノ理備ユルニヨリテ、天地人ヲ三才トナヅク、七情ハ喜ト怒ト哀ト懼ト愛ト惡ト欲トナリ、此七ハ聖人トイヘドモコレナキニアラズ、サレドモ皆理ニ叶ニヨリテ道ニソムカズ、常ノ人ハ濁レル氣ニヲホハレ、私ノ心ニフサガレテ彼七情皆正理ニ違ヒ背ク、然バ天地トナラビ言フ事カナハザレバ、三才ノ名空クナリヌ、シカル故ニ志ハカヘリテ氣ノタメニツカワレ、心ハ形ニツカワレ、目ニハアヤシキ色ヲミ悅ビ、

鼻ハ專ラコトナルニホヒヲノミカギ、口ニハ酒肴ヲノミ喰ヒ、耳ニハミダリナル音聲ヲノミコノム、手足ノ立居振舞神妙ナラズ、其言語ト身ノヲコナヒハ、トカク云フニヲヨバズ、コレヲ軍陣ニタトヘテ云バ、諸軍ノ備アシクシテ不レ殘敗北シテ散々迯サリテ、御方ノ城ヲウバワレ堀ヲウメラレ、兵粮荷物モコトゴトク敵ニ取ル、ガ如シ、此(コレ)敵戒ノ心ナキユヘナリ、外物ト七情ノ邪慾ハ我心ノ敵ニアラズヤ、人若コレヲヲソレツ、シミ、本心ヲオサメ私慾ヲハラヒシリゾクレバ、仁義禮智信モトヨリ、アキラカニ一理ニツラヌク、然ルトキハ志ツカサトナッテ氣ヲツカヒ、心主人トナッテ形ヲ下知ス、目鼻耳口手足ノウゴク處イヅレモ心ヨリヲコリテ正理ニカナフ、其言モ行モ人ノ手本トナルベシ、樞ハ戶ノクロ、ナリ、機ハ張弓ノキザシナリ、コ、ニヲイテ顏子ノ四勿ノ學問ヲ養ヒ守リ、曾子ノ三省ノ工夫ヲコタラザルトキハ、此心イツマデモ明ニシテクラマサレズ、四勿三省ノコトハ論語ニアリ、委クシルサズ、此ヲ軍ニタトヘ云フ時ハ、先度ノ敗軍口惜トヲモヒ、クッキヤウノ軍兵ヲ聚メイサミス、ミ、敵ト合戰シ討勝テ大將ヲ生捕、今マデウバワレシ地ヲ取返シ、其外國々ヲ打合セ、一國富盛ンニ軍兵猛ク强シテ、數多ノ敵皆歸服シ、餘黨ハ遠方エ迯散ガゴトシ、コレヨク敵戒ノ心アル故ナリ、カクノゴトクヲシヒロメ譬ヲ擧テ云フ時ハ敵戒ノ二字フカク心得ベシ、小ナルニ付テ云バ一人ノ善惡ハ我身ニアリ、人ニモトムベカラズ、大ナルニツイテ云バ國々ノ政千萬人ノイノチハ、人主ト宰相トノシヲキニアリ、人主ト宰相トノ法度ノ善惡ニヨッテ、國家安穩萬民喜悅シ、又國家大ニ亂萬民ノ迷惑スルコトモアリ愼シムベシ、高モ賤モ人ヲムニクミ害スル時ハ遂ニハ其身モワザハイヲウクルコト必定ナリ、上ヨリ常ニ民ヲ苦ムレバ、上ノ危キ時ニ當テ民見ステ、救コトナシ、日比ノムクヒナリ、是ヲ爾ニ出テ爾ニ反ルト云フナリ、曾子ノ子ンゴロニ戒メラル、語常ニ忘ルベカラズ、爾ハ世人ヲサシテ云フナリ、今我父、人ノ所望ニヨッテ、敵戒ノ文ヲ作リ、詳ニ告サトス、我兄モ又同作ル、我モ彼ニ促サル、ニヨッテ如レ此也、

林　春德

敵戒說終

翁問答序

志學のとしより心にまもり、身におこなふべき道をもとめ得まくおもひ立て、禪門敎門のをしへをとしへてまなぶといへども、其議論詖遁にしてそのみち偏僻なり、その法また人倫日用の受用にたよりあらざるゆへに、儒門に入て四書五經の眞敎をうけ、切磋琢磨をはげますといへども、三偶を反せざるほどの下愚なれば、開悟の自得をよびがたく、すでに道にたつべきとしをもむなしくうちすぎぬ、愚者のあやまるならひなれば、性のつたなきことをわすれ、却て師範の其人にあらざるかとうたがひ、明哲の先覺もがなと寤寐にわすれざるおりから、天君とて先覺とおぼしき老翁ありけると、友のかたりしまゝ訪たづね几杖をとりてまみえける、我眼力伯樂ならねば、騏驥のわかちはしらざれども、威儀いとけだかく人あい和厚にして謙遜なれば、俗儒の傲氣はなはだしく口氣高るにちがひ、心ならずしたはしくうやまはれて、暇の日はつねに傍に侍りぬ、門下に躰充とて俊秀なる人ありて、平日疑問論難やむときなし、かたはらにてこれをきくといへども、我心のをよばぬ際は記憶することあたはず、間に心の粗通ずるところあれば、しりぞひて倭語にて書つけ遺忘にそなへぬ、斯してとしをつもりぬれば、箇條もあまたになり、心にまもり身におこなふべき道もすこし開悟に似たる様にあれば、もしまた我ごときの愚者あらば、萬一工夫のたすけにもなるべきかとあらためうつし、翁問答と題號して、巾笥にかくしをきける、ことばいやしくことはりきこえがたけれ共、君子の删正をもとむべきほどの事ならねば、只愚者のかきつけたるまゝにして、翁の本意にたがふところなんおほかるべし、若よむ人あらば、辭にて志をそこなはずば、吾人の大幸たるべきか、

翁問答は我藤樹先生の撰ぶ處なり、先師嘗て仕を豫州に致して江陽に歸る、豫方の同志先覺に離て刑儀をうしなひ、又文學につたなければ、經書の觸發をも得べからずとなげきて、惑を辨へ徳に入べき方を假名書にして與へたまへと希ぬ、師是に於て終に此問答上下を著したまふ、時に寛永十八年辛巳の歳、雖ㇾ然師の學愈新なるにしたがつて、此問答愈其心にかなはず、改正の志ありければ廣く門人にだに授けたまはず、爰に癸未の年梓人の手にもれて、既に梓にちりばめしを幸に早く知て是をやぶりぬ、

或人曰、翁問答其文正明にして其論快活也、吾人の愚なるがごとき是を讀て益をうること多かるべし、何がゆへにかたく祕してあまねく授けたまずや、

師の曰、吾此問答を書せし時、今に比すれば學いまだ精到ならず、且聖道の行はれざるをうれひ、末學の弊を救ふに心あり、故に其議論抑揚甚しく、終に圭角の累をまぬかれず、讀人吾本意をさとらずんば、却て或は勝心を助けんか、恐は世に益なふして損あらん、吾これを改正せんと欲す、故に今ひろく傳ゑん事を欲せず、

丙戌の年、下卷一二篇を正したまふ、丁亥の年又これを改めんとす、病をもつての故にや少きにして終に不ㇾ成、同年上卷を改め書せんと欲す、わづかにして又果さず、

先師嘗曰、問答の中儒佛を論ずる處のごとき、今これを讀に其理精當を得ざる事を覺ふ、

又曰、問答上卷吾孝經に觸發して筆を下す、故に頗孝字を播弄す、孝經の旨におゐては敢たがふ事あらずといへども、今これを撰ば又しからじ、

又曰、此書志氣あつて世を憤り弊を憂る的の人讀ば、或は觸發興起あらんか、心術の精微用功下手の實地のごときはいまだ委く論じ及ばず、夫先師の意かくのごとし、是をもつて問答を出す事其本旨にあらず、故に師卒して後愈これを藏す、然るに今年春又梓家に洩て終に板行す、驚取て讀に乃草稿の本にして、舊本の淸書にだもあらず、其隱しうつせるをもつてにや、誤字脫簡も亦間多し、故に今やむことを得ずしてこれを考訂し、且前後改正の篇を編入し、幷に其事を敘して聊以て師の志をあらはし、重てこれを梓に刻しむ、讀者これをもつて其學の日々に新なる事を

考へ、終に此問答をもつて了手とせずして、精微中庸を希ひなば、此書乃入德の階級ともなりぬべし、もしなをざりに讀去て、滴血の實なく致知の功をろそかならば、却て先師のおそれし弊に陥んか、吾黨欽哉、

慶安三年庚寅夏六月既望　　門人識

翁問答卷一〔原本、上卷之本〕

○躰充問曰、人間の心だてさまざまありて、をこなふところその品おほし、其うちに是非混亂していづれにしたがふべしともおぼえず、人間一生涯いづれの道をか受用の業と仕るべく候や、

師の曰、われ人の身のうちに至德要道といへる天下無雙の靈寶あり、このたからを用て心にまもり身におこなふ要領とする也、此寶は上天道に通じ、下四海にあきらかなるもの也、しかるゆへに此たからをもちいて五倫にまじはりぬれば、五倫みな和睦してうらみなし、神明につかふまつれば、神明納受したまふ、天下をおさむればてんかたいらかになり、國をおさむれば國おさまり、家を齊れば家とゝのをり、身にをこなへば身おさまり、心にまもれば心あきらかなり、をしひろむれば天地のほかにわたり、とりおさむればわが心の密にかくる、まことに神妙至極の靈寶也、しかるゆへに此寶をよくまもれば、天子はながく四海の富をたもち、諸侯はながく一國の榮花をうけ、

卿大夫はその家をおこし、士は名をあらはし位をあがり、庶人は財穀をつみたくはへて其樂をたのしむもの也、此寶をすてゝは人間の道たゝず、にんげんのみちたゝざるのみならず、天地の道もたゝず、天地のみちたゝざるのみならず、太虛の神化もおこなはれず、太虛三才宇宙鬼神造化生死ことごとく此たからにて包括する也、このたからをもとめまなぶを儒者の學問といふ、生れながらにして此たからを保合し給ふを聖人と云、がくもんによつて保合してよくまもりおこなふを賢人といふなり、孔子萬世のやみを照さんために、此たからをもとめまなぶ鏡に、孝經をつくりたまふといへども、秦の代よりこのかた千八百餘年のあひだ、十分によくまなび得たる人まれなり、今大明の代にいたつて此經をよく尊信表章する人おほし、大舜は此たからを保合したまひて庶人の中より天子のくらゐにのぼり給ふ、文王はこのたからを保合し給ひて天帝の左右にまします、董永はこのたからをまもりて天の織女をつまとなし、吳二は此寶をまもりて宿惡の天刑をまぬかれたり、古來靈驗かたりつくしがたし、よくよく信仰して受用すべきことなり、

○躰充曰、さやうのたからはまことにもとめまほしき事にて御座候へども、あまり廣大なる道なれば、われわれが分にてはをよびがたくおぼえ候、

師の曰、それはあしき心得也、廣大なるゆへに我人のをよぶことにて候、たとへば日月のひかりは廣大なるによつて、目あるほどのものあまねくもちい得がごとし、このたからも廣大なるゆへに、貴賤男女をえらばす、おさなきも老たるも本心のあるほどの人は、あまねくまもりおこなふみちなり、このたからは天にありてはてんの道となり、地にありては地のみちとなり、人にありては人のみちとなるもの也、元來名はなけれども衆生にをしへしめさんために、むかしの聖人その光景をかたどりて孝となづけ給ふ、それより此かた愚癡不肖の賤男賤女にいたるまで、その名をばしるといへども、その眞實の道理をば老師宿儒知見拔群の人さへさとり得事稀なり、然るゆへに世俗、孝は親につかふる一事となして、淺近の道理なりとおもへり、孔子なげかしくおぼしめして、萬世の心盲をひらかんために、孝德神妙不測廣大深遠にし

て、はじめなくおはりなき神道を孝經に發明したまふ、孝德の感通をてぢかくなづけいへば、愛敬の二字につゞまれり、愛はねんごろにしたしむ意なり、敬は上をうやまひ下をかろしめあなどらざる義也、孝はたとへば明なる鏡のごとし、むかふもの丶形と色によつて、かゞみのうちの影はしなぐ\かはれども、あきらかにうつす鏡の體はおなじもの也、そのごとく父子君臣の人倫にあひまじはる事は、千々よろづにしなかはれども、愛敬の至德は通ぜざるところなし、あらまし大概を論ずるに、先五倫をもていへば、親を愛敬するが感通の根本なる故に、本分の名をあらためず孝行と名づく、さてそれより感通の景象によつて、名をたてをしへをしめしたまふ也、二心なく君を愛敬するを忠となづく、禮義たゞしく臣下をあいけいするを仁となづく、よくをしへて子を愛敬するを慈となづく、和順にして兄を愛敬するを悌となづく、善をせめて弟をあいけいするを惠となづく、正しき節をまもりて夫をあいけいするを順となづく、義をまもりて妻をあいけいするを和となづく、僞なく朋友を愛敬するを信となづく、一身をもつていへば耳目の聰明、四肢の恭重、行住坐臥の法則、皆孝德愛敬の感通ならざるはなし、かくのごとく親切なる道德なれば、いかなる愚癡不肖のしづのお、しづのめ、膝下の赤子までもよくしり、よくおこなひ、さてまた至極の全體は、聖人といへどもつくしがたきもの也、まことに不二の要道、無雙の重寶なれども、卞和が壁となりて世俗の闇をてらさゞる事なげかしきことなるべし、

○躰充曰、今まではおやをよくやしなふをのみ孝行なりと存候、あまねく世俗さやうに心得たるとみえたり、いま先生のをしへをうけ給り候へば、孝といへるものは、外もなく内もなき無上の妙理なる、まもりおこなふべき術をくわしく承たく候、

師の曰、元來、孝は太虛をもつて全體として、萬劫をへてもおはりなく始なし、孝のなき時なく孝のなきものなし、全孝圖には太虛を孝の體段となして、てんちばんぶつをそのうちの萠芽となせり、かくのごとく廣大無邊なる至德なれば、萬事萬物のうちに孝の道理そなはらざるはなし、就中、人は天地の德萬物の靈なるゆへに、人の心と身に孝の實體みなそなはり

たるにより、身をたて道をおこなふをもつて功夫の要領とす、身をはなれて孝なく、孝をはなれて身なきゆへに、身をたてみちをおこなふが孝行の綱領なり、おやによくつかふるも則身をたて道をおこなふ一事なり、身をたつると云は、我身はぐわんらい父母にうけたるものなれば、わが身を父母の身と思ひさだめて、かりそめにも不義無道をおこなはず、父母の身を我身とおもひさだめて、いかにも大切に愛敬して、物我のへだてなき大通一貫の身をたつる也、さて元來をよくおしきはめてみれば、わが身は父母にうけ、父母の身は天地にうけ、てんちは太虛にうけたる者なれば、本來わが身は太虛神明の分身變化なるゆへに、太虛神明の本體をあきらかにしてうしなはざるを身をたつると云也、太虛神明のほんたいをあきらめたてたる身をもつて人倫にまじはり、萬事に應ずるを道をおこなふといふ、かくのごとく身をたて道をおこなふを孝行の綱領とす、親には愛敬の誠をつくし、君には忠をつくし、兄には悌をおこなひ、弟には惠をほどこし、朋友には信にとゞまり、妻には義をほどこし、夫には順をまもり、かりそめにもいつはりをいはず、すこしの事も不義を働かず、視聽言動みな道にあたるを孝行の條目とする也、しかるゆへに一たび手をあげ一たびあしをはこぶにも孝行の道理あり、人間千々よろづのまよひみな私よりおこれり、わたくしは我身をわが物と思ふよりおこれり、孝はその私をやぶりすつる主人公なるゆへに、孝德の本然をさとり得ざるときは、博學多才なりとも眞實の儒者にあらず、まして愚不肖は禽獸にちかき人なるべし、

○躰充曰、孝行に五等の差別あるは、いかなる故にて御座候や、

師の曰、人間尊卑の位に五だんあり、天子一等諸侯一等卿大夫一等士一等庶人一等すべて五等也、てんしは天下をしろしめす御門の御くらゐなり、諸侯は國をおさむる大名のくらゐ也、卿大夫はてんし諸侯の下知をうけて國天下のまつりごとをする位也、士は卿大夫につきそひて政の諸役をつとむるさふらひのくらゐ也、物作を農といひ、しよくにんを工と云、あき人を商と云、この農工商の三はおしなべて、庶人のくらゐなり、孝德は同一體なれども、位によつて事に大小高下あるゆへに、そのくらゐ〳〵の分際相應

の道理を、後世凡夫のために分辨をときあきらめ給ふ、たとへば孝德は大海のごとし、五等のくらゐは器のごとし、器にて水を汲に、大小方圓のもようはかはれども、水はおなじ水なるがごとし、むかし聖人の御代には、人間のくらゐ五等のほかはなきゆへに、五等の孝を發明し給ふ、

○躰充曰、孝經發端の章に餘の人倫をばあげ給はで、中ニ於事ㇾ君と、忠の一典を說たまふは、いかなるゆへにて御座候や、

師の曰、君父は恩ひとしきものなり、父生ㇾ之、君食ㇾ之と云て、皆いのちをたもつ恩也、親は始なるゆへに孝のこんほんとす、恩ひとしきゆへに中ニ於事ㇾ君と第二にとき、孝德萬事ばんぶつに感通する例となして、兄弟夫婦朋友の道をそのうちにふくみかね給ふ、孝經の篇末に、ひとり事君の一義を發明し給ふも此こゝろ也、

○躰充曰、天子の孝行はいかゞ、

師の曰、愛敬の孝德を天下に明にするを天子の孝行とす、先みづから其德を明にして萬化の大本をたてさだめ、賢人を愛敬して宰相となし、善人をあいけいして器量にしたがひ、それ〴〵の官職をさづけ、小國の臣下をもあなどりわすれず、禮樂刑政學校のをしへいとたゞしく、天下人ごとにその本心の孝德をおこし、その利を利とし、そのたのしみをたのしむやうに萬民を愛敬すれば、四海みなその德敎に化し、德澤にうるほひて、家ごとに孝子、國みな忠臣となり、天下一統におさまり、萬國のよろこぶ心を得てその先王につかへ給ふは、天子の孝の大概なり、

○躰充曰、諸侯の孝行は如何、

師の曰、愛敬の孝德をその國にあきらかにするが諸侯の孝行なり、先身もち心だてたゞしくしてすこしもおごることなく、そのおこなひ節にあたり、國持の作法をよくまもり、家老大臣をうやまひ、もろ〳〵の臣下を體にして情ふかく、かりそめにも無禮をなさず、しんかの心だて器量をよく試て、出頭諸奉行の職をさづけ、しをきを淳にして百姓をあはれみ、なかんづく鰥寡孤獨のたよりなきものをはぐくみ、國中臣民のよろこぶこゝろをえて國とみさかへ、ながく社稷をたもちてその先君につかへぬるは、諸侯の孝行のたいがいなり、

○躰充曰、卿大夫の孝行はいかゞ、
師の曰、其位の職分に愛敬の孝德をあきらかにするが卿大夫の孝行なり、心をたゞしうし、身をおさめ、假初の行跡も人の手本となり、ことばひとつもあだならぬ樣によくつゝしみ、君のため、てんかのため、くにのためのみ思ひいれ、我わたくしのいとなみ利害のはかりごとをば露ほども心にかけず、おさまりたる時は天下國家あんおんのまつりごとをなし、みだるゝ時は大將となりて軍兵をさしつかひ、軍法よくこゝろえ謀をめぐらし、百戰百勝の功をたて、よく彼くらゐをたもちてその宗廟をまもりぬるは、卿大夫の孝の大がいなり、
○躰充曰、士の孝行はいかゞ、
師の曰、かりそめにも二心なく、わが身をすてゝ君を愛敬する心をうしなはず、それ〳〵の職分をよくまもりつとめて、その長をうやまひ、傍輩にたのもしくいつはりなく、人あひやはらかにねんごろにして、たちふるまひことばつきいやしからず、心だて身もち義理にかなひ、簡要の禮法藝能などうと〳〵しからず、軍陣にのぞむか、または君長の難にあふ時は、樊噲をもあざむくほどの武勇をいだし、武功をたて、その祿位をたもちて祭祀をまもりぬるは、さふらいの孝行の大がいなり、
○躰充曰、庶人の孝行はいかゞ、
師の曰、農工商いづれもその所作をよくつとめおこたらず、財穀をたくはへ、むざとつかひ費さず、身もち心だてよくつゝしみ、公儀をおそれて法度にそむかず、我身妻子のことをば第二とし、父母の衣服食物を第一におもひ入、心力をつくしてをよばぬきはをも調て、父母のうけよろこばるゝ樣にもてなし、よくやしなふは庶人の孝行なり、
○躰充曰、五等の孝のうち、只庶人にばかり父母をやしなふと說たまふは、いかなるゆへにておはしまし候や、
師の曰、士よりうへは財ともしからざればやしなふ事は云にをよばず、庶人は財ともしうして十分に心をくるしみ、ちからをつくさゞれば、衣服食物たらざるゆへに、庶人にばかり養をとき給ふ、五等みなそのくらゐのうちにて、第一おもきところをとりて說給ふ、道理はみな相通ずる也、よく〳〵體認すべし、

○躰充曰、五等の孝の說をうけ給り候へば、親を愛敬するばかりが孝行にてはなく、その德をあきらかにしてそれ〴〵のすぎはひの所作を精に入てつとむるが、かう〳〵の本意にて御座候也、

師の曰、さやうにて候、畢竟は明德をあきらかにするがかう〳〵のほんいにて候、ゆへに心にむさとしたる一念をおこし、あるひはいかるまじき事にはらをたて、よろこぶまじき事をよろこび、ねがふまじき事をねがひ、悔まじきことをくやみ、をそれまじき事をおそるゝもみな不孝なり、一言のいつはりも不孝なり、まして不義無道を身におこなひ死すべきところにてしせず、しぬまじき所にていぬ死をなし、とるまじき物をむさぼり、とるべき物をとらずして飢寒にをよびなどするは、みなもつてのほか大ひなる不孝なり、心にかけてつゝしみまもるべきことなり、此道理をしりあきらめて、心にまもり身におこなふを儒者のがくもんと云也、世間にがくもんする人はたくさんなれども、此ほんいをさとり得たる人まれなり、

○躰充問曰、五倫のみち、その名をばうけたまはり候へども、くはしきことはりをば不レ存候、至孝の心法日用の急務にて候へば、つまびらかに承はりたく候、

師の曰、倫は次第なり、にんげんの次第差別五つあるゆへに五倫となづけたり、五りんのみちつねにありて、はじめなくおはりなきものなれば五典と云、典はつねとよむ字なり、五典を人に敎化するを五敎と云、五典の心のうちにそなはりたるを五常の性と云、親と子と一倫なり、君と臣下と一りんなり、夫と妻と一倫なり、兄と弟と一りんなり、ともだちのまじはり一りん也、これを五倫といふ、人間の次第差別この五つにきはまれり、世間に五倫にもれたるにんげんは一人もなきもの也、親は慈に、子はかう〳〵にして、よく相愛敬するを親の道と云、君は仁に、臣下は忠節をつくして、君臣よく交泰するを義のみちといふ、夫は義に、つまは順にして、夫婦よく和合するを別の道と云、兄は惠に、おとうとは悌にして、兄弟よく和睦するを序のみちといふ、友だちのまじはりたがひにいつはりなくたのもしく、よく相したしむを信のみちと云、此親義別序信の五つを五典といふ、人間のこゝろに仁義禮智信の五常の性そなはりて一身の主本たり、

この五常の性感通して五典のみちとなる、父子の親は仁なり、君臣の義はすなはち義なり、夫婦の別は智也、長幼の序は禮なり、朋友の信はすなはち信なり、五倫は外にあるゆへに至理をしらざる人は、五倫の道といへば皆ほかにありて、わが心の中になきものなりと思へり、あさましきまよひ也、天地ばんぶつみな神明靈光のうちに造化するものなるによつて、わが心の孝德あきらかなれば、神明に通じ四海にあきらかなるゆへに、てんちばんぶつみなわが本心孝德のうちにあるもの也、まよへる人は、心は身のうちにばかりあると思へども、根本は心の內に生れ出たる身なり、しかるゆへにさとりたる眼には內外幽明有無の差別なし、五りんのみちをほかとみていとひすて、內外幽明有無の二見をたつるはさとりに似たるまよひなり、五りんの道をこまかに分て論ずれば、五典十義となれり、先子の孝行と云は人間百行の源、人倫第一の急務なるゆへに、聖人の五教に父子有レ親と第一に說給へり、孝德をあきらかにせんと思ふには、まづ父母の恩德を觀念すべし、胎育のはじめより十箇月のあひだ、母は懷孕のくるしみをうけ、十病九死の身となり、父は孕子の保全產育のあんおんなるべき事をねがひうれひて、千辛萬苦をこゝろにわすれず、臨產の時にいたりては、母の身はきりさくほどの惱をうけ、ちゝの心は煩熱のくるしみをいだけり、幸にして母子あんおんなれば、一命再續のよろこびをなし、はゝはぬれたるねじきにふして、子をばかわける裀にふさしめ、子よくねぶりぬれば、母の身屈伸をなさず、身あかつきけがれても、ゆあびかみあらふべき暇もなく、衣裳身のつくろひなどいととりみだし、子の安穩を思ふよりほかは他念なし、若すこしにてもやみぬれば、醫をもとめ神にいのり、身をもてかはらんことをおもふ、乳哺三年のあひだ、父母の苦勞そのかずをしらず、入學のとしになりぬれば、師をもとめ、道ををしへ、藝をならはせ、才德の人にすぐれんことをねがひ、既に有室のとしにいたりぬれば、伉儷をもとめ、家業を立て、とみさかへんことを謀ねがひ、その子才德人にまさり、しあわせもよく榮ぬれば、限なくよろこびの眉をひらき、もしまた才德も人に劣、しあわせもよからざれば、おきふしたえずなげきとなせり、ちゝはゝかくのごとくの慈愛、かくのごとくの

苦勞をつみて、子の身をやしなひそだてたれば、人の子の一身毛一すじにいたるまで、父母の千辛萬苦の厚恩ならざるはなし、父母のおんとくはてんよりもたかく、海よりもふかし、あまりに廣大無類の恩なるゆへに、ほんしんのくらき凡夫はむくゐんことをわすれ、かへつて恩ありともおんなし共おもはざるとみえたり、人間のかたちあるほどのものは、いかなる愚癡不肖のしづのお、しづのめにいたるまでも、一飯のおんをむくゐんと思はざるはあるまじ、恩をむくゐんと思ふは、孝德のほんしんあるゆへに、そのはづれのすこしあらはれたるものなり、本心の孝德ありて父母のおんをむくゐんことをわすれぬるは、じんよくの雲におほはれ、明德の日のひかりくらく、心の闇にまよふゆへ也、九牛の一毛をいひのぶる父母の厚恩をよく體認して、一飯のおんにくらべてみれば、じんよくのくもはれ、明德の日の光りあきらかにして、父母の厚恩をむくひんと思ふ本心の孝念かぎりなく開發すべし、この一念をもて孝行のはじめとなし、孝經の聖謨を鑑として身をたて道をおこなふの大孝を受用すべし、昊天罔極の厚恩をわすれ、心のやみいとくらきを迷といふ、このまよひふかきは、鳥けだものにもおとれり、鳥は反哺の報をおこなひ、羊は跪乳のうやまひをなせり、にんげんの形をうけたるもの耻おそるべきことなり、心のやみにまよひて孝德のくらきありさまをあらましかたりて、われ人のいましめとすべし、まよへる人のならひにて、富貴を無上のものとおもひ入、第一のねがひとすれば、富貴を求るたすけとなる人をばかぎりなくうやまひ追從し、惡言のいかりをうけても堪忍して辱めとせず、父母をばあるなしにあいしらひ、一言の惡口をうけてもはなはだいかりのゝしりてあさまし、あるひは父母にそむきて妻妾を寵愛し、あるひは父母をすてゝわが子をやしなふもあり、もしまた親の慈悲あさく、不義無道のあてがひあれば、恨みをふくみあだかたきの思ひをなせり、富貴をもとむるたよりとなれる人をうやまひ大切に思ふは、我身をかざる恩あるによつてなり、妻妾を寵愛するは、わが身のよくをとげてたのしむゆへ也、子を愛するは、わが身をわけたるゆへ也、この身なければ富貴の外飾をかざるべきしたぢなし、また妻妾をたのしむべきものなし、また子

にわけあたふべき身なし、富貴もさいせうも子も、此身ありてのたのしみ也、この身をうみたる人は父母也、父母この身をうみたるゆへに、富貴の外飾をもうけ、さいせうのたのしみをもなし、子をそだてゝ老後のたすけ共すれば、富貴をさづくる人のおんも根本はふぼのおんなり、妻妾のたのしみをなすも、こんほんは父母の恩なり、子のやしないをうくるもこんほんは父母の恩なり、何事もみな父母の恩ならざるはなし、父母の恩は廣大無類にしておんの大根本也、しかるゆへに父母を愛敬するを本とし、おしひろめて餘の人倫を愛敬し、道をおこなふを孝と云、順德といふ、大こんほんのおんをわすれて父母をばあいけいせずして、枝葉のちいさきおんをむくゐんと他人をあいけいするを不孝といひ悖德と云、悖德の人は、たとひ才能人にすぐれたりとも眞實の人にあらず、かならず終には神明の罰にあたるもの也、親のいつくしみあさく、不義無道の擬作あるによつて、不孝なるをばまよへるぼんふは實もとおもひゆるすとみえたり、一しほまよひのうちのまよひなり、その子細は禮義ただしくなさけふかくあらば、一日もしらぬ道行づれなりとも骨肉のおもひをなし、われもまた恩をもつてむくふべし、しかるときは親の慈悲ふかくあてがひ、道あるに孝行なるはおこなひやすき境界なれば、さして孝行と云べきにもあらず、おやのいつくしみあさくあてがひ無道なるに、孝行なるこそまことにありがたき孝子なれ、大舜のおこなひ給ふ孝行にてよく體認すべし、昊天罔極のおんふかきおやと毛頭おんなきみちゆきづれの人と同じく思ひなすは、あさましきまよひ也、此まよひふかき人はかならず天罰をうくるもの也、おそれつゝしむべきことなり、孝行の條目あまたありといへども、畢竟は二箇條につゞまれり、第一には父母の心の安樂なるやうにするなり、第二には父母の身をよくうやまひやしなふなり、父母の心の安樂なるやうにするには、先わが身をおさめこゝろを正しくして好人となり、それぞれのすぎわひの所作をよくつとめ財用を節すれば、父母の心に子のわざわひにあひ、貧窮にをよぶべきおそれなし、さて妻子臣妾をよく敎化して、家內の人みな聲をやはらげ、氣を下して父母を愛敬し、かりそめの下知もそむきおこたらず、兄弟一族和睦するや

うにすれば、父母の目にふれ耳に入ことみな父母の心にかなひて、をのづから安樂になるもの也、又めんめんのちからにしたがひて、十分に心力をつくし苦勞をかへりみず、我身と妻子の私用を第二にして、一家のうちにての食物の滋味をそなへ、衣服の輕煖をさゝげ、いかにもよろこぶ色をつくし、父母のうけよろこばるゝやうにとりなし、もしまたやまひあるときは良醫の療治をもとめ、看病の勞をつくしぬるは、よくやしなふの大がい也、もしまた父母不義あらば、何となく父母の感悟ある樣にいさむべし、かんごなきときは是非利害をあきらかにかたりのべて諫べし、もし父母よろこばずしていかりをなさば、別して色をよろこばしめ孝をおこし敬を起して、おやのいかりにさからふべからず、かくのごとくいくたびもいさめ、あるひはおやのあいくちの友をたのみていさむべし、おやの道にいり、德のあきらかになるやうにするが、孝の第一なるゆへなり、父母の天年かぎりありて、ながきわかれのうれひにあたる時は、かなしびのまことをつくし、禮法をもつて葬をなし、喪にゐて哀戚をつくし、宗廟祠堂をたてゝ鬼神につかへ、四時俗節忌日の祭に誠敬をつくして合眞の孝をおしきはむるを子の孝と云なり、親の子を慈愛するには道藝ををしへて子の才德の成就するを本とす、當座の苦勞をいたはりて子のねがひのまゝに育てぬるを姑息の愛と云、姑息の愛をば舐犢の愛とて牛の子をそだつるにたとへたり、姑息の愛はさしあたりては慈愛に似たれども、その子氣隨になりて才もなく德もなくとりけだものにちかくなりぬれば、畢竟は子をにくみてあしき道へひきいるゝにおなじ、そのうへわがみはおやにうけたれば、すなはちおやの身なり、おやにうけたるわが身をわけて子の身となしたるものなれば、子の身もこんほんはおやの身なり、子をむさとそだてゝあしきみちへひきいるゝは、おやの身を惡道へおとしいるゝにことならざるゆへに、子によくをしへざるは大不孝の第一なり、さて又いゑをおこすも子孫なり、家をやぶるも子孫なり、子孫に道ををしへずして子孫の繁昌をもとむるは、あしなくて行ことをねがふにひとし、子孫のうまれつきさま〴〵ありて一概にをしへの法をろんじがたしといへども、まづ道ををしへて本心の孝德をあきらか

にするををしへの根本とす、才藝人にすぐれしあはせ無類にしてにんげんのほまれありと云とも、こゝろねじけてほんしんの孝德なきものは、てんち鬼神のにくみすてたまふところなれば、一旦えいぐわにほこるといへども、かならず一代二代のうちに子孫絶滅するもの也、たとひぜつめつせざれども、あるにかいなき人がらにて、先祖の生性この人にいたりて相續せざれば子なきにひとし、まよへる人は眼前一たんの富貴ほまれをのみ無上のものなりと思ひて、はじめなくおはりなき至德の靈寶をばゆめにもしらざるゆへに、たうざのしあはせだによければその外はなにもいらぬものなりとおもひ、本末是非を云みだして無上のたのしみある事をしらず、無下に淺まし、さて子孫にをしゆるには幼少のときを根本とす、むかしは胎敎とて胎内にあるあひだにも母德の敎化あり、いま時の人は至理をしらざるゆへにおさなきうちにはをしへはなきものなりと思へり、敎化の眞實をしらずしてただ口にていひをしへぬるばかりををしへと思ふよりおこりたるまよひ也、根本眞實の敎化は德敎なり、くちにてはをしへずして我身をたてみちをおこなひて人のをのづから變化するを德敎といふ、たとへば水の物をうるほし火のものをかはかすがごとし、國土の方角、水土の風氣によつて人間のむまれつきすこしづつかはりありといへども、詞つきにはぐわんらい京田舍の差別なきゆへに、赤子のときより京にてそだてぬれば、關東にて生れたるものも京ことばになり、くわんとうにてそだてぬれば、京にて生れたるものも關東ことばになるごとく、おさなきものゝこゝろだて身もちも、父母めのとなどの心だて身もちを見あやかり、きゝあやかるによつて、父母めのとの德敎を子孫にをしゆる根本とす、しかるゆへに乳母の人がらをえらび、父母の身をおさめ、心をただしくして全孝のみちをくちにかたり身におこなひて、をしへの根本を培養すべし、八つ九つにもなりぬる時はむまれつき利根なるものには、孝經をよませ、おり／＼孝經の大意をとききかせて道をさとるもといとなし、六藝のうち急用なる藝よりそろ／＼とならはし才德兼備のをしへを專とすべし、生れつき愚鈍にしてさいとく兼備ののぞみなりがたきには、孝經の義理をいつとなくかたりきか

せて、孝德の本心をうしなはずして、好人となるをしへをもつはらとすべし、成童の時よりのをしへは師匠と友をえらぶををしへの眼とす、さてすぎはいはそれ〴〵の器用にしたがひ、それ〴〵の運命をかんがへて、本分の生理士農工商のみちを謀りさだむべし、これ子にをしゆるの大方なり、親の慈も子の孝も天命の本然をのづからあるしたしみなるゆへに、聖人五教のはじめに父子有レ親と說給へり、君は仁と禮とをもつて臣下をさしつかふ道とす、仁は義理にしたがひて人を愛する德也、禮はくらゐ〴〵の道理にしたがひて人をうやまひあなどらざる德なり、臣下に貴賤大小のくらゐさま〴〵ありて、さしつかふだうりきはまりなしといへども、畢竟は仁禮の二德よりほかはなし、惟天地萬物父母、惟人萬物之靈とのたまふ時は、ばんみんはこと〴〵く天地の子なれば、われも人も人間のかたちあるほどのものはみな兄弟なり、しかるゆへに聖人は四海を一家中國を一人とおぼしめすと也、われと人のへだてをたてゝけはしくうとみあなどりぬるはまよへるぼんふの心なり、稟賦の厚薄高下によつて君となり臣下とはなれ、ぐはんらい骨肉同胞のことはりあれば、たとひわが扶持せぬものなりとも、にくみあなどるべきことにあらず、ましてわがふちするものをばいかにも情ふかく禮義ただしくして、あなどりかろしむべからざる道理あきらかなり、大臣は家のおもせ君の腹心なれば、高位大祿をあたへ、おほかたのことをばうちまかせてはからはせ禮義ただしくうやまひてなさけふかくあるべし、ただし刑賞威恵の權柄をばかりそめにもかしあづけぬものなり、大臣より下の諸士は其くらゐ〴〵ぶん〴〵相應のほど〳〵をよくふんべつして、眞實になさけふかくあなどりかろしめず、それ〴〵の器量をよく見わけてさしつかい、忠節あるにはその大小輕重にしたがひて、或は褒美をあたへ位をあげ、或は知行を加增して群臣のすゝめとす、士は國の幹、きみの爪牙なれば、その心をうしなふべからざる事勿論なり、さて農工商はくにの寶なれば、一しほあはれみはごくみて、其利を利としてその樂をたのしむやうに政をなすは、君の仁禮をおこなふ大がいなり、臣下は忠をもつて君につかふまつる道とす、忠は二心なくひとすじに君のためのみ思ひ

入、それ〴〵の職分をよくつとめてわが身をすてゝ奉公する德なり、それ〴〵の位によつて奉公の事には大小の差別あれ共忠の心法はおなじものなり、君のおんはおやの恩にひとしくおもき厚恩なれば、おやにつかふるごとく心をつくしてつかふまつる也、親は此かたちをうみ育たるおんなり、君はこの身をやしなひたまふおんなり、おやなければ此身なし、君なければこの身のやしなひなし、みないのちをたもつおんなるゆへに、おやにも君にもいのちをすてゝ奉公する道理なり、大臣の忠節は其事大なるゆへに大忠と云、小臣の忠節はそのことちいさきゆへに小忠といふ、主君のきらふ事にても君のためくにのため家中のためによき事なれば、しゆくんのかならずおこなひ給ふやうによくいさめをなし、主君のすきこのむ事にても、あしき事なればかならずやめたまふやうによくいさめて、しゆくんの心だて身もちみちにかなひ、國とみゆたかにするながくさかえ給ふやうにと一心におもひ入、わが身のためをばすこしもかへりみず、龍逢比干のいさめて死せる心をまもり、わが身をすてゝ君のためのみ第一にするを大忠といふ、是は家老出頭の忠節なり、是非善惡をえらばず、主君の下知にしたがひ一心に君をうやまひ身をすてゝそのくらゐ〴〵の職分を勤仕するを小忠と云、これは小身なる臣下の忠節なり、軍忠をもつて論ずれば、二心なく身をすてゝ、禮義ただしくして、なさけふかく、英雄の心をとり軍兵をなづけ、はかりごとを帷幄のうちにめぐらし勝ことを千里のほかに決し、百戰百勝の功をたつるを大忠といふ、是は軍大將の忠節なり、ふたごころなく身をすてゝさきがけをし、鎗をつき首をとるを小忠と云、これは半武者(はむしや)のちうせつなり、さてまた庶人をば刺草(しやくさう)の臣といふ、そのくにゝ居て產業をつとめ生理をとぐるは、主君の恩德なるゆへにふちをかうぶらざれどもしんかと云なり、その國のしをき法度をよくまもり、そのしよくしよくをよくつとめて、年貢公役を懈怠せず、一心に國君をおそれうやまひぬるは、庶人の忠節なり、君は仁禮の德にしたがひて臣下をつかひ、臣下は忠敬のみちをまもりて君につかふまつり、君臣交泰する道理、天命の本然をのづからある義なるゆへに、五教の第二に君臣有レ義とときたまへり、

夫は、和義をもて妻をいざなふ道とす、和はしたしみ和合する德なり、義は道理にしたがひて裁判し非道をえらびすつる德なり、大抵夫婦のあひだは愛欲のわたくしにおぼれ、義理のさいばんなきによつて、あるひは親子兄弟骨肉のしたしびをも云へだてられ、うらみをむすび、あるひは家をやぶり國をうしなふもの、古來そのかずをしらず、また閨に夫婦のまじはりそむき〱にして、作法みぐるしきもあり、これみな人心のまよひなり、それ妻は先妣の嗣、祭祀のたすけ子孫相續の寓する所、人倫生々の本始なれば、したしび和合すべき事勿論なり、しかれども義理のさいばんなければ、愛欲のわたくしにおぼれ、家道みだれ別道のつねをうしなふゆへに、和と義とのふたつをあはせて、夫のつまをいざなふ道とす、妻は順正の二德をもて夫につかふる道とす、順は心だて柔懦に、ものいひかほぶりたちふるまひまでも、やはらかにしたがふ德なり、正は義理さほうをただしくまもる德なり、妻は夫を天とたのみ夫の家をわが家となし、夫婦一體のことはりなるゆへに、わが本生の父母をば父母とせずして、おつとの父母を父母とする事、聖人のさだめたまふところにして、不易の天則なり、しかるゆへに先舅姑に孝行なるを順正の第一とす、さて貞烈の德をまもり、女事をよくつとめさほうただしく、おつとの下知にしたがひ、家をとゝのへ子孫をそだて宗族を和睦し、家人におんをほどこすは婦德の大がいなり、夫は陽德にしたがひ、外をおさめ和義のとくをあきらかにして、つまをいざなひ、妻は陰德にしたがひ、內をおさめ順正の德をあきらかにしておつとにしたがひ、男女陰陽內外の差別かくのごとくただしければ、父子兄弟子孫臣妾みな相和睦して和氣合同するゆへに、夫婦のみち別を本とす、此道理天命の本然をのづからあるゆへに、五教の第三に夫婦有レ別と說給へり、

弟は、悌をもて兄につかふる道とす、悌は敬ひしたがふとくなり、他人のとしおい、くらゐたかきにつかふるも、おなじことはりなり、他人にても老たるをうやまふは道理の當然なり、ましておやの身をわけて我にさきだちてうまれたる兄(このかみ)をうやまひ、したがふべきこともちろんなり、兄は惠をもつて弟をひきゆる道とす、惠は友愛の二義をかねたり、愛はおやの子を

愛するごとくにねんごろに親を云、友はともだちのたがひに切磋琢磨するごとく、道ををしへあやまちをいましめ、至德をあきらかにする樣に善をせむるを云、他人のとしわかきくらゐいやしきにまじはるもおなじことはりなり、他人にてもいとけなきに惠をほどこし、賤になさけふかくするは道理の當然なり、まして弟はおやの身をわけて分形連氣の人なれば、友愛の惠をほどこすべき事勿論の義也、この道理あきらかにしておこなひがたき事ならねども、世上のまよへる人をみれば、多分兄弟のあひだ他人よりもおろそかなり、わづかのよくのあらそひにて、かたきの思ひをむすぶもあり、分形連氣のことはりをしらず、わが身にて我身をそこなふありさま、愚癡の至極あさましき事なるべし、おなじくおやの身を分て生れたるものなれども、先後の序によつて兄はたつとく、弟はいやしき次第ありて、惠悌の道序を本としておこなふことはり天のさだめ給ふ次第にて、をのづからある道なるゆへに、五敎の第四に長幼有レ序と說給へり、

朋友は、たがひに信をもて相まじはる道とす、信はいつはりなく義理にかなふ德なり、友達のまじはりに心友面友の差別、情義の親疎さま〳〵ありといへども、畢竟はみな信のみちを本とす、たがひのこゝろざしおなじくまじはりしたしむを心友といふ、こゝろざしはちがひぬれども筋目あるか、或は同鄕隣家、あるひは同官同職などにて、さい〳〵相まじはりてしたしきを面友といふ、一目しる人も面友のうちなり、心友面友ともに情義の親疎おなじからず、そのほどほどの義理にしたがびて、威義うや〳〵しく挨拶和厚にしていつはりなく、もちろん約束などのすこしも違變なきが信のみちの大がいなり、世俗はわが心に眞實におもひ入たることをば是非善惡をわかたず信なりと思へり、大きなる心得ぞこなひなり、たとひ眞實におもひいれざることにても、義理にかなふを信といふ、眞實に思ひいれたる事にても道にそむきたるをば人欲のいつはりと云ものなり、世上の人のまじはりを見るに、信のみちにかなひたるはまれなり、信のみちにだにかなひぬれば、たがひにいのちの用にもたつものなり、まして通財の義あれば、財寶の用にたつこと勿論也、しかるゆへにともだちのかた

きをもうつ法あり、さて心友のまじはりは、善をせめてたがひに至德の靈寶をみがきあきらむるが肝要なり、朋友たるもの、われも人もみな眞實無妄の天道を大父母としてうまれたるものなれば、かたちをもつてみれば他人なれども、道よりみれば同胞のことはりあれば、眞實無妄の信のみちをまもりて、骨肉のおもひをなす、これすなはち天命の本然をのづからある道理なれば、五敎の第五に朋友有ㇾ信と說たまへり、

○軆充曰、聖人五敎を論じたまふ次第にも、意もち御座候や、

師の曰、ふかき意御入候父子の親は、萬化のみなもと天叙の本なり、君臣の義は立極の大義明倫の主本なり、夫婦の別は人倫化生のもと、子孫相續のはじめなり、この三つのものは、五倫のうちにての綱要なるゆへに三綱となづけたり、しかるゆへに三綱を先はじめに論じたまふ、さて三綱のうちにて父子のみちは天性にて君臣の義を包たり、そのうへ五りんのみちみな孝行の條目なれば、孝は人極の第一義なるによつて、一番に父子有ㇾ親とをしへ給ふ、君はおやの恩にひとしきゆへに、おやにつかふる孝をうつして君につかふまつる忠節となす、其うへ明倫の主本なるによつて、第二ばんに君臣有ㇾ義とをしへ給ふ、夫婦の別もおもしといへども、君父よりはいやしきによつて、第三番に夫婦有ㇾ別とをしへたまふ、兄弟は、天倫のしたしび骨肉同胞の愛おもきゆへに、第四番に長幼有ㇾ序とをしへたまふ、朋友は異親同氣の兄弟なれども、天倫同胞のしたしみよりはかろきによつて、第五番に朋友有ㇾ信とをしへ給ふ、さてまた父子の親をはじめにおき給ひて、朋友の信を終にをきたまふこゝろは、孝は三極の至要百行のみなもとにして、五典みな孝行なることをしめさんために、父子の親をはじめにをしへ給て、さて孝德をあきらかにするには、朋友の善をせむるをたすけとする事をしめさんために、朋友の信をおはりにをしへ給ふ、曾子の以ㇾ友輔ㇾ仁といへるもこのこゝろなり、畢竟五敎みな孝行のをしへなり、ただ凡夫のために五典十義をわけてしめしたまふなり、至德要道三才一貫の心法よく〳〵受用あるべし、

○軆充問曰、今生はかりの住居にて、五倫のまじはり夢幻のごとくなれば、五典をよくおこなふもゆめの

うちのいとなみにて候へば、さして至德要道と云べきにもあらず、五典のほかに別に向上の道あるべしとぞんじ候はいかが、

師の曰、それは狂者の議論をきゝならひておこるうたがひにて候、狂者は道の皮膚をみていまだ骨髓をよくさとらざるゆへに、生死幽明有無の差別をわけてをしへを立たり、その破裂の見を聖人異端と名づけたまひて、是に似たる非と云ものなり、ぼんふの見所にくらべぬれば、ことの外たかく候へども、聖人のみちよりみればあさきことにて候、妄念の起滅をゆめのごとしまぼろしのごとしなどいはんは尤にて候、五倫のみちは至誠無息の孝德なるを妄念とおなじく、夢幻のごとしといはんはあさましきあやまり物體なき事なり、夫孝德は中和を體段とし愛敬を本實とす、方寸のうちにそなはりて、太虛に充塞し六合を包羅し、上は無始の往古に達し、下は無窮の未來に徹し、生死幽明有無のしやべつなく、上もなく外もなき神道なるゆへに、至德要道となづけたまふ、しかるゆへに五倫のみちすなはち向上のみち、向上のみちすなはち五倫のみちとたてさだめ、素二其位一而行不レ願二乎其外一下學而上達する一貫の心法不貳の妙理なり、現在當然の五典をほかにして、別に向上の一路をもとむるは、たとへば日月をそむきて灯をもちゆるにことならず、聖人のみち世にあきらかならざるによつて、異教にならひそまり、さやうにあさましきうたがひあり、儒門に入てまよひを辨べきこと、人間第一の急務にて候、

○躰充問曰、世間のがくもんする人を見るに、さして學問のしるしといふべき益なし、かへつて形氣あしく異風になる人ありとみえたり、所詮がくもんはせぬがましかとぞんじ候はいかが、

師の曰、にんげんの生れつきさま〴〵ありといへども、大體のおふわけは五品につゞまれり、聖人一品、賢人一品、知者一ひん、愚者一品、不肖者一品、凡て五品なり、この五品のうち聖人は生知安行とてがくもんせずして德をしり道をおこなひたまふ人なり、聖人より下はがくもんせざれば德をしり道をおこなふ事あたはず、人間に生れて德をしり道をおこなはざれば、人面獸心とて、かたちはにんげんなれども、心はけだものとおなじことにて、至誠無息の神理をと

りうしなひ、世俗の諺に人の皮をかぶりたる犬といへるごとく、いとあさましきことなれば、がくもんは人間第一の急務にして、なさでかなはぬことにて候へども、正眞のがくもんはよく知てをしゆる人まれなれば、まなぶ人もすくなし、世間にとりはやす學問は多分にせにて候、にせのがくもんをすればなにの益もなく、かへつて形氣（かたぎ）あしく異風になるものなり、がくもんに正眞贋のわかちあることをわきまへざる人は、不審も尤にて候、

○躰充曰、がくもんはみなひとつなりとこそ存候へ、しかるに正眞と贋と二色ありとおほせられ候は、いかなる差別にて御座候や、

師の曰、正眞のがくもんは伏犧のをしへはじめ給ふ儒道なり、むかしはをしへもがくもんも、此しやうじんの外はなかりしに、世のすゑになりていつとなくもろこしにもえびすぐにゝも、學問のにせあまた出來てより、贋がちになりて、正眞は衰微するなり、もろこしにも一たびはにせものばかり時めきて、正眞をばとりうしなひたる事あり、正眞をまなびてさへまなびぞこなひあるものなれば、ましてにせの學問をしては、心だてさほうあしくなりぬる事尤にて候、

○躰充曰、にせのがくもんとやらんは、刀わきざしなどににせあるごとく、正眞の名をかり、もようをにせて人をたぶらかす事にて御座候や、

師の曰、さやうにきたなき心あるにてはなく候、こんほんはみな正眞を信仰しまなびて、名をかり摸樣をにせ利よくをもとむる心は露もなけれども、生れつきと習ひと志とにさまゞ〱かはりあるによつて心ならず得がたへかたむきになりて、その心にはわがまなび得たるところを正眞なりと眞實に思ひぬれども、正眞をまなびえたる人のまなこよりみれば、似てにぬことにて候ゆへに、にせとは申候、正眞をまなびても志しにすこしちがひあれば、おぼえずわきみちへゆきてにせとなり候へば、にせをまなびて千萬里のちがひとなり候事、おしあきらめらるべし、

○躰充曰、にせのがくもんは、なに〱にておはしまし候や、

師の曰、先をしへとがくもんのほんいをよくわきまへて、正眞にせのさたをあきらむべし、をしへもがくもんもみな天道を根本準的とするゆへに、もろこし

にても夷國にても、世界のうちにてをしへまなぶところのみち、天道の神理にかなひぬるを正眞のをしへとし、學もんとし儒教となづけ儒學といふなり、天道の神理にそむきぬるはにせのがくもんなり、そのうちにてよく似たるにせは、俗儒・墨家・楊氏・老氏・佛氏などにて候、俗儒は儒道の書物をよみ訓詁をおぼえ、記誦詞章をもつはらとし、耳にきゝ口に說ばかりにて德をしり道をおこなはざるものなり、墨家は儒道の至公博愛の仁をまなびそこなひて、本末先後の序をみだるもの也、楊氏は、爲己愼獨の密をまなびそこなひて、一貫の眞をうしなふものなり、老氏佛氏は、無方無體の神易の皮膚をみて、中和の骨髓をうしなふもの也、このうちにて日本へ流傳してひろまりたるは、俗儒と佛氏と二いろなり、ふたつのうちにて世ぞくのもつはらがくもんといへるは、俗儒の記誦詞章也、俗儒のがくもんは、正眞のがくもんにことのほかちかく候へども、志しの立やうとがくもんの仕樣にて、千萬里のあやまりとなれり、つゝしみゑらぶべきことにて候、

○躰充曰、記誦詞章のがくもんとは、いかやうなる學問にて御座候や、

師の曰、四書五經そのほか諸子百家の書をのこらずよみおぼえ、文をかき詩をつくり、口耳をかざり利祿のもとめとのみして、心の驕慢いとふかきを俗儒の記誦詞章のがくもんといふなり、

○躰充曰、正眞のがくもんは、いかやうなるがくもんにて御座候や、

師の曰、まづ明德をあきらかにするをこゝろざしの根本とたてさだめ、四書五經の心を師とし、應事接物の境界を礪石となして、明德の寶珠をみがき、五等の孝行五倫のみちの至善をよくおこなひ、太和を保合して利貞なれば、時に逢てもちいらるゝときは、四海をただし天下をおさめ、伊尹太公の事業をなし、時にあはずして窮する時は、ひとりその身をよくし性を盡し、命にいたりて孔孟の敎化をなす、かくのごとくまなぶを正眞のがくもんと云なり、

○躰充曰、俗儒のよむ書も四書五經、眞儒のよむ書も四書五經にて候はば、がくもんにさのみちがひはあるまじきことにて候、よむ書物がおなじものにて候あひだ、俗儒のがくもんにて益なく候はば、眞儒の

がくもんにても忍きあるまじくと存候、

師の曰、神理の精微をきわめずしては、心迹の差別しりわけがたく候へば、ふしんも尤にて候、四書五經に心と迹と訓詁とみつのしやべつあり、聖賢の口にのべたまふ辭と身におこなひたまふ事との二つを迹と云、その口にのべ身におこなひたまふところの本意の至善を心といふ也、心は無方無體、無聲無臭にして、書付る事あたはざるゆへに、只あとばかりをかきつけて、そのあとのうちにふくみそなへて、後世のをしへとなせり、そのあとのうちにそなはりたる心を、四書五經のこゝろといふなり、そのあとをかきのせたる四書五經の文字のことはりを訓詁と云なり、其訓詁をまなび、其あとをよくわきまへ、その心をよくとりもちひて、わが心の師範となし、意を誠にし心をただしくすれば、聖賢の心すなはちわが心となり、我心すなはちせいけんの心にたがはず、心聖賢の心にたがはざれば、言行すなはち聖賢時中の言行にそむかず、かやうにまなぶを正眞のがくもんと云なり、聖賢四書五經の心をかがみとして、我心をただしくするは始終ことぐく心のうへの學なれば、心學とも云なり、此心學をよくつとめぬれば、凡人より聖人のくらゐにいたるものにて候ゆへに、また聖學とも云なり、俗儒は訓詁ばかりを耳に聞おぼえ口に云までにて、迹の精義をさへわきまへざれば、まして心をとりて師とすることは、ゆめにも見ざるゆへに、四書五經をよむといへども、訓詁を記誦して口耳のかざりとなすばかりにて、心はもとの木椀に自滿の垢のしみつきたるものなれば、益はなくて却てあしくなり候事尤にて候、聖賢四書五經の心を師として、我心をただしうすることをば、いさゝか心がけずして博學にほこるをのみつとめとし、耳にきゝ口に云ばかりにて口耳のあひだのがくもんなれば、心學とはいはずして口耳の學とも云なり、此口耳の學にてはなにほど博學多才にても、心だて身もちは世ぞくの凡夫にかはる事なければ、また俗學とも云なり、四書五經に心迹訓詁のしやべつあることをよく辨へぬれば、おなじ書物をよみて正眞贋のかはりある事いはずして分明に候、

○躰充曰、正眞のがくもんをつかまつり候ては、いかやうなる益おはしまし候や、くはしくうけたまはり

たくぞんじ候、

師の曰、正眞の學問をして成就すれば、心あきらかに身おさまりて、人間のねがふ程の事にかなはぬ事はなく候、これほどに益のある事はまたとよにあるべしともおぼえず、すこしまなび候ても、それほどの益あるものにて候、

○躰充曰、おほせ候ところまことしからず存候、にんげんのねがひ品あまたおはしまし候へども、つゞまるところは、才德功業の人にすぐれ、富貴長生の心のまゝならんことをねがふよりほかはなし、がくもんにて才德功業の人にすぐれ候はんことはげにもにて御座候、富貴長生をねがひのまゝに得候はんことはなり申まじきとぞんじ候、孔子はくらゐをえたまはず、顏子は簞瓢陋巷、不幸短命なりとうけたまはりおよび候へば、古來聖賢にんげんのねがひを、おもひのまゝに得たまはず候こと分明に御座候へば、おほせ候ところ信をとりがたく候、

師の曰、これにも心迹の差別あり、迹ばかりをみてはうたがひも尤にて候、心にて見候へばふしんはすこしもなく候、聖賢の心は富貴をねがはず、貧賤をいとはず、生をこのまず、死をにくまず、福をもとめず、禍をさけず、唯身をたて道をおこなひたまふばかりにて、ぼんふのねがひは毛頭なければ、をのづからねがひのまゝにて、凡夫のねがひをおもひのまゝにもとめ得たるよりは、一くらゐまさりたる心のたのしみ有、そのうへ凡夫のねがふ富貴は小富貴と云てちいさき富貴也、小富貴のほかに至富貴とて廣大無類なる富貴あり、此大富貴はぼんふの目にはみえぬゆへにもとめねがふことなし、聖賢は此大富貴をおもひのまゝに得たまふによつて、小富貴をばわすれたまひて、求めねがひたまはねば、疏食飲水、簞瓢陋巷の貧賤に居たまひても、無上の眞樂つねに泰然とありて、凡夫の小富貴を得たるたのしみとおなじ、口にもかたるべき事にあらず、これおもひのまゝなる富貴にあらずや、聖人の明德は、至誠無息、長在不滅にして、かたち死してもほろびず、天地おはつても壽おはらざるものなれば、彭祖が七百歲、喬松が千年も長生とするにたらず、これおもひのまゝなる長生にあらずや、ぼんぶはあとになづみてろんずるによつて、まよひたるうたがひばかりなり、こゝろのうへにてろん

ずれば、なにのふしんもなく候、
○躰充曰、眞儒のすぎはひには、なにたる所作をつかまつるものにて御座候や、
師の曰、儒道をおこなふ人は、天子・諸侯・卿大夫・士・庶人なり、此五等の人のよく至德要道を保合するを眞儒と云なり、しかるゆへに天子・諸侯・卿大夫・士・庶人のしよさがすなはち眞儒のすぎはひにて候、五等の所作のほかのすぎはひは天命本然の生理にあらず、至德要道を保合する眞儒は、五等のうちにて貴賤貧富をえらばず、運命のほどにまかせて、無逸のつとめをはげまし、外のねがひ毛頭なきゆへに、富貴にてもおごらず、貧賤にても諂はず、ただ天理の眞樂をたのしむほかは他事なく候、
○躰充曰、左候はば俗儒のがくもんををしへてすぎはひにするは、ひが事にておはしまし候や、
師の曰、敎をすぎはひとするは、司徒、敎官の屬にてさふらいのなすわざなれば、僻事にてはなく候へども、ただ其心もち身のおこなひとをしへやうにひがごとあるなり、をしへやうだによく候へば、有難眞儒にて候、其心もち身のおこなひ道なきうへに、又敎やうあしきによつて俗儒の譏あるなれば、産業にするはよく候へども、敎やうにひがことありと知べし、

翁問答卷一終

翁問答卷二（原本、上卷之末）

○躰充問曰、文武は車の兩輪鳥の兩翼のごとしと申ならはし候へば、文と武とは二色にて御座候や、さて又いかやうなるものを文武とは申候や、

師の曰、文の武に世ぞく大きなる心得そこなひ候、世ぞくは、うたをよみ詩をつくり、文筆に達し氣だてものやはらかに花車なるを文といひ、弓馬兵法軍法をならひしり、氣だてたけくいかつなるを武と云ならはせり、みな似たる事のにぬことにて候、元來文武は一德にして各別なるものにてはなく候、天地の造化一氣にして陰陽のしやべつあるごとく、人性の感通一德にして文武の差別あれば、武なき文は眞實の文にあらず、文なき武は眞實の武にあらず、陰は陽の根となり、陽は陰の根となるごとく、文は武の根となり、武は文の根となるなり、天を經とし地を緯として天下國家をよくおさめて五倫のみちをただしうするを文といふ、天命をおそれざるあくぎやく無道のものありて、文道をさまたぐる時は、あるひは刑罰にて懲し、あるひは軍をおこし征伐して、天下一統の治をなすを武と云、しかる故に戈を止といふ二字をあはせて武の字をつくりたり、文道をおこなはんための武道なれば、武道の根は文なり、武道の威をもちいておさむる文道なれば、文道の根は武なり、そのほか萬事に文武の二ははなれざるものなり、孝悌忠信の道をただしくおこなふは文なり、孝悌忠信のさはりとなるものを退治して、つとめおこなふは武なり、たとへば春夏の陽ばかりにて秋冬の陰なく、秋冬の陰ばかりにて春夏の陽なければ、萬物を生成する造化成就する事なし、陰陽二氣しやべつありといへども、本來同一元氣の流行なるごとく、元來文武同一明德なれば、武ばかりにて文なきは秋冬の陰のみにして春夏の陽なきがごとし、文ばかりにて武なきは春夏の陽のみにして秋冬の陰なきがごとし、文は仁道の異名、武は義道の異名なり、仁と義はおなじく人性の一德なるによつて、文武もおなじく一德にして各別なるものにあらず、仁義の德をよくさとりて文武のさたをあきらむべし、仁にそむきたる文は、名は文なれども實は文にあらず、義にそむきたる武は、名は武なれ

ども實は武にあらず、文武の正味をよくかみわけざれば、心の闇いとくらく萬事のさばりおほかるべし、さてまた文武に德と藝との本末あり、仁は文の德にして文藝の根本なり、文學・禮樂・書數は藝にして文德の枝葉なり、義は武の德にして武藝の根本なり、軍法・射・御・兵法などは藝にして武德の枝葉なり、根本の德を第一につとめまなび、枝葉の藝を第二にならひ、本末かねそなはり、文武合一なるを眞實の文武といひ、眞實の儒者といふ也、文藝ありて文德なきは武道の役にたゝず、たとへば根なき草木の實をむすぶことあたはざるがごとし、氣だてやはらかにたちふるまひ花車なるを文といひ、たけくいかつなるを武用にかひ〴〵しかるべきなどいへるは、あさましき鼻のさきなる目論なり、見かけはやはらかにうわだるみし、ぬかりたるものに武用かひ〴〵しき人あり、これを沈勇となづけたり、世間の武功ある人を見るに大概この沈勇おほし、見かけはおにがみのやうにたけくいかつにして拔群に臆病なる人あり、これを羊質虎皮とたとへたり、ひつじはむしもふみころさざるやはらかなるけだもの也、虎は人をもけだものをもくいころすたけき獸なり、ひつじにとらの皮をきせてみれば、みかけはたけくすさまじけれども、したちがひつじなるによつて、見かけにちがひていとあさましきふるまひなりと云こゝろなり、かくのごとくのためしは眼前にたくさんなれども、目明する人世にまれなりとみえたり、

○躰充曰、左候はば武藝文藝はいらぬものにて御座候や、

師の曰、それはあしき心得にて候、本をすてゝするばかりをもとめまなぶがひがことなりといふことにて候、根本の仁義を立てのうへに文藝武藝に長じぬるは、本末かねそなはる多能の君子にて、せぞくのことわざにいへる花も實もある人なり、本たつての上には文藝武藝ことのほか重寶なり、本末先後のこゝろへ簡要にて候、

○躰充曰、ほんまつかねそなはる事ならざるものは、いかがつかまつり候はんや、

師の曰、末をすてゝ本をまなびたるがよく候、文藝をしらずして文道をよくおこなひ、武藝をしらずして武功をたてたる人古來おほし、これみな本を第一に

つとめたるゆへにて候、よく〳〵こゝろうべき事なり、

○躰充曰、沈勇が世けんにおほしとおほせられ候へば、見かけのぬるきものを武用にかい〴〵しかるべきと見たて候はんや、

師の曰、それもはなのさきなる心得にて候、沈勇がせけんにおほしといふは、見かけはなのさきのもくろみにてはしれぬものなりといふことなり、見かけのぬるきものに臆病なるもあるべし、またけなげなるもあるべし、みかけのたけきにおくびやうなるもあるべし、又かい〴〵しきもあるべし、たゞみかけに泥まず、そのこゝろの勇怯を察するが目明のまなこにて候、

○躰充問曰、勇に仁義の勇血氣の勇とて二つありとうけたまはり候、いかやうなる差別にておはしまし候や、

師の曰、明德のあきらかなる君子は、義理をまほり道をおこなふほかには毛頭ねがふことなく、欲心のまよひすこしもなきゆへに、義理をたて道をおこなひ、主親のために命をおしまざること、やぶれたる履をすつるがごとくなれば、毛頭死をおそれ生をむさぶる心なし、しかるゆへに天地のあひだに何にてもおそるべきものなし、千萬人の敵にあひても虎狼の狐狸にむかへるがごとく、すこしもおそるゝ心なし、おそるゝことなきがけなげの至極にて候、明德の仁義あきらかなれば、この勇仁義のうちにをのづからそなはりてあるものなるによつて仁義の勇といふ也、かくのごとく天下に敵なき至大なる勇なれば、また大勇ともなづけたり、まへに論ずる眞實の武がすなはち此大勇なり、血氣の勇は道理無理義不義のわきまへなく、只かたむきに猛くして人にかち物をおそれざるばかりなれば、虎狼のけなげにひとしく、かへつて人道の碍ともなれり、けなげにして死をおそれざることは仁義の勇に似たれども、道理無理義不義のわきまへなく、たゞ血氣にまかせてかたむきなれば、虎狼のふるまひとあさましく、位あるものは亂をおこし、貧ものはぬす人をなす、さてまたよく心ふかきゆへに、よくのためにおそるゝ心おくびやうなるものゝ死をおそるゝにことならず、血氣の勇者は畢竟よくを本とするゆへに、勝いくさには武勇をは

げみ忠節のふり一段みごとなれ共、敗軍の時はその主君をすてヽあさましきふるまいある武編者古來おほし、かくのごとくなればたゞ血氣ばかりの勇にして、義理の用にたヽざれば血氣の勇といふ、血氣のたけきばかりにて、よくのおそれふかければ、三才一貫の大道をおこなふ用にはたヽずして、小體血氣の役に立ばかりなれば、また小勇ともなづけたり、

○躰充曰、大勇小勇にもちひやう御座候や、

師の曰、大勇はもちひてあしきところなく、またもちひてあしき時なし、行住坐臥五倫のまじはり、大勇なくては道をおこなふことあたはず、軍陣にては大將にしてもはむしやにしてもよろしく候、小勇の人は武用ばかりの役にたつまでにて、はむしやにはよく候へども、大將にはよろしからず、むかしより倭漢ともに小勇の大將勝利をうしなふ事あげてかぞふべからず、つゝしむへき事なり、

○躰充問曰、軍法にはいろ〳〵ならひありて、其流おほしとうけたまはり候、大將たる人のしらでかなはぬ事にて御座候や、

師の曰、軍法は大將のしらでかなはぬ事にて候、大將の軍法をしらざるは、たとへば矢はぎの矢をはぐほうをしらざるがごとし、軍法を人のかたちにたとへていへば、仁は心なり、覘覺用間はまなこなり、奇正は手足なり、旌旗・金鼓・兵具のこしらへ、もちひやうのさほう、日どりなどは、皮膚毛髮なり、しかるにおほかたの人の心得には、皮膚毛髮ばかりを軍法なりとおもへり、しかるゆへに其流おほしといへり、旌旗・金鼓・兵具のこしらへ、もちいやうの作法日どりなどは、その家々の制度ありて其流あまた候、これは皮膚毛髮なれば、いづれをよしともあしヽともさだむからべず、所により時により人によりて考へさだめたるがよく候、むかしよりつたへきたる流をくまずして、その大將の作分にてあたらしくさだめたるもよろし、さして勝負のかまひにならざるゆへにその流あまたありと知べし、覘覺用間奇正は勝負の眼目手足なれば、只おなじく一術にして、流によつてかはると云ことはなく候、此眼目あきらかに手足達者なれば、百戰百勝の功をたつるゆへに名大將と云なり、此眼目くらく手足かなはざれば、敗軍のをくれをとるばかりなるゆへにあしき大將と云なり、しかるに

此眼目手足をば夢もさとせず、たゞ皮膚毛髪ばかりを軍法なりとこゝろへたらんは無下にあさまし、夫軍法陣圖は、本來易よりおこり黄帝の御代にまつたくそなはり、太公諸葛など代々の諸賢傳受したれり、日本にてかながきになをしたるにはあやまりおほし、たゞ本書をよくまなびたるがよく候、軍法陣圖をありのまゝに心得たるぶんにては、馬のめきゝを段の繪圖にてならひおぼえたるとおなじこと也、愚かにして物のまにあはぬことを按レ圖索レ驥とたとへたり、むかしもろこしに名大將あり、その子よくちゝの書をよみならひぬれども、臨機應變の覺悟なきによつて、おや死してのち大將となる、大敗軍して天下のわらひぐさとなれり、これすなはち眼目手足の工夫なく、徒に皮膚毛髪ばかりをもつはらとつとめまなぶゆへなり、軍法をまなばんとおもふ人は、先眞儒の門に入て文武合一の明德をあきらかにして、根本を立て後に軍法の本書をまなび、眼目手足の工夫をもつはらとすべき事簡要なり、これはまことに武家第一の急務にて候、

○躰充曰、儒門の心學をきはめずしても、軍法に達し軍功をたてゝその名たかき大將、倭漢ともに古來おほく御座候へば、心學のみがきなくても軍法のまなびはなり申べく候、しかるにまづ儒門の心學をきはめてのちに、軍法をまなびたるがよしとおほせられ候は不審にぞんじ候、

師の曰、よきうたがひにて候、大將の才を逞しくうまれつきたる人は、心學のみがきなくても軍法に達し軍功をば立るといへども、その德なきゆへに、才のたくましきにまよひ、かならず人をころす事をこのみ、不義無道のふるまひあれば、萬民その毒にあたりなげきかなしむによつて、終には天罰をかうぶり、其身もほろび國もかならず絶滅するものなり、その證據はもろこしにてもわが朝にても、其德なくて才のみ逞しき大將に、其身難なく子孫繁昌したる人まれ也、倭漢の史書にて考へ見るべし、夫軍法のほむいは國家安穩武運長久にして、萬民をめぐまんためなるに、かへつてばんみんもその毒にあたり、其身のうんもつき國家も絶滅する基となれば、軍法に達しぐんこうをたつるも、畢竟は無益のいたづら事なり、其上陰謀をのみもつはらとし、詐力に任して仁義の德な

きは、たとひ韓信項羽の才ありといふとも、節制の敵にさへ盾つくことあたはず、まして仁義の師に敵せんこと立車にむかへる蟷螂にことならず、太白陰經に齊の伎擊は魏の武卒にあふべからず、魏の武卒は秦の鋭士に勝ことあたはず、秦の鋭子は桓文の節制にあたるべからず、桓文の節制は湯武の仁義に敵すべからずといへるこゝろよく玩味あるべし、しかるゆへに孫子の五事はみちを第一とし、呉子の兵法は和をもつて先とす、道といへるも和といへるもみな仁義の德のことなり、儒門の心學の外に此德をあきらかにすべき道なければ、心學をつとめその德をあきらかにして、のちに軍法をまなびたるがよしと云事分明なり、とても軍法を學ばんとならば、天下に敵なき仁者の軍法をまなびたるがよろしかるべきか、

○躰充問曰、士のぎんみはいかやうにつかまつるものにて御座候や、世間の諸侯の諸士をかゝへ給ふをみるに、吟味ある樣には候へども、ぎんみのさほうさだまりたる事ありとはみえ申さず候、我々の見および候は只よきひいき、つてのあるものが、よきさぶらいと、もてなされて、たかちぎやうをとり申かとぞんじ候は如何、

師の曰、それはわがぐちと云ものにて、道の議論にてはなく候、君たるほどの人は、よく〳〵ぎんみして、よき士をかゝへたくはおもひ給ひ候へども、せけんの風俗あしくぎんみのさほうあきらかならざるゆへに、心ならずぶぎんみになりもてゆくとみえたり、根本さふらいの品上中下の三だんあり、明德十分にあきらかに、名利私欲のわづらひなく、仁義の大勇ありて文武かねそなはりたるを上とす、十分に明德はあきらかならねども、財寶利欲の迷なく、功名節義を身にかへて守りぬるを中とす、おもてむきばかり義理だてをして、心には財寶利欲立身をのみむさぶりぬるを下とす、此下品のくせもの澤山にときめくとみえたり、君たる人の御用心あるべきことにて候、さて諸士をぎんみするかなめ三つあり、德と才能と功となり、三つのうちいづれにも上中下有、德は文武合一の明德なり、才能はてんか國家の萬事をとりおこなふ文藝武藝の才智藝能なり、功は或は天下國家のしをきの功をつみ、或は奉公奔走の功をなし、或は天

下國家の難をはらい、或は天下國家のためになる事を始てつくり出し、あるひは大敵をほろぼし武功をたつるなど皆功なり、德と才と功と三つをぎんみの柱とさだめ、上中下のしなによつて、その分際相應の知行をあたへ官職をさづくるが、古來さぶらいのぎんみをする掟にて候、今も才と功とのとりざたは候へども、德のさたしる人まれなりとみえたり、

○躰充曰、いま時の功と才とのぎんみは、むかしの掟によくかなひ申候や、

師の曰、功と才との名はむかしとひとつにて候へども、ぎんみのしやうあしきゆへか、人のてくろ上手になりたるゆへか、むかしのおきてにかなふ事はすくなく候、

○躰充曰、むかしのおきてはいかゞおはしまし候や、

師の曰、むかしのおきては才も功も德を根本とし、德は中和をもつて大本とす、才も功も義理にかなはねば眞實の才功にあらず、さて君たる人の心がおきての鏡にて候、此鏡くもり候ては何のぎんみもあやまるばかりなれば、人君のこゝろをあきらかにして、おきてのかゞみとさだめ、才と功と德の正眞贋、上中下のしなさだめ、鏡のかげをてらすごとく毛頭あやまりなければ、諸士のてくろをのづからなくなり、眞實の德と才と功にちからをはげまし、正眞のちうせつをつくすものなり、これむかしのおきての眼なり、なにほどよきおきてありても、主君のこゝろくらければ、其おきて用にたゝぬ物にて候へば、君たる人はぢおそるべき事也、

○躰充問曰、臣下をばいかやうにつかいたるがよく御座候や、

師の曰、主君の臣下をさしつかふ本意は、公明博愛の心をもとゝして、かりそめにも人をえらびすてず、賢智愚不肖その分々相應の用捨にわたくしなく、道德才智ある賢人をば高位にあげ、しをき萬事の談合ばしらとし、才德なき愚不肖にもかならず得たることあるものなり、そのえたる所をよく見しり、ぶんぐ相應のくらゐにおきてさしつかひぬれば、人間に用にたゝぬものはなきものにて候、つかひやうあしきによつてよきものも用にたゝぬと心得べし、大工の家をたつる材木のつかひやうにて合點あるべし、また才智拔群の人にも無得てなることかならずあるも

のなり、それも見分てえぬことにはさしつかはぬがよろしく候、氣に入たる出頭人なれば、得たることえざることのぎんみなく、また人もなげにさしつかひ、あひくちあしければ、その人のえたることにもさしつかはざるは、みなひがことにて候、君のまへちかくさしつかふべきほどのさふらいをば、いづれをも直にさしつかひてこそ人がらをも心だてをも見しるべけれ、たゞ人づてにいひつぎてさしつかひたる分にては、よきもあしきもしるべきやうなし、しかるゆへに出頭のものゝとりなしにのみ聞あやかるばかりなり、かやうのあやまりみな主君の心くらきまよひよりおこれり、主君の臣下をさしつかふは、たとへば磁石のはりをすふがごとし、火はかはけるにつき水はうるおへるにながるゝことわりなれば、磁石のくろがねならではすはざるごとく、しゆくんの心とおなじき人ならではつかいたまはぬものなり、心のくらきしゆくんは何ほどよきさぶらいをあつめをきてもそれをばもちひず、只君の心にひとしくくらきくせものばかりをさしつかひたまふものなり、しかるゆへによきさぶらいその家中にありてもなきにおなじ、主君の心あきらかなれば、その心によくかなひたるよき士ならでは、さしつかいたまはぬゆへに、くせものもよくにふけり、悪をはぢていつとなくよくなるものなれば、あしきくせもの其家中にありてもなきにひとし、臣下のよきもあしきも國のみだるゝも、おさまるも、畢竟主君のこゝろひとつにあり、まことにこゝろざしあるべき事にて候、

○躰充問曰、法度はかずおほくきびしくしたるがよく御座候や、

師の曰、しをき法度の箇條はところによりときによりてさだむるものなれば、おほきがよきともすくなきがよきともさだむべからず、またきびしくしてよきこともあり、緩してよきこともあれば、きびしきがよしともゆるきがよしともさだむべからず、たゞ時とところとくらゐとに相おうじたる道理にしたがひたるがよく候、しをき法度にも本末あり、君のこゝろあきらかにして道をおこなひ、國中の手本かゞみとさだめたまふが政の根本なり、法度の箇條はまつりごとの枝葉なり、君のこのむことをばその下々みなまねをするものなれば、君の心あきらかに道をおこ

なひたまひぬれば、法度はなくてもをのづから人のこゝろよくなるものなり、まして法度をよくさだめ、そむくものをば刑罰にてこらし、本も末もたゞしくしてよくおこなひぬれば、國とみさかへ長久にあるものなり、本をすてゝ末ばかりにておさむるを法治といひてよろしからず、法治はかならず箇條あまたありてきびしきものなり、秦の始皇のしをきが法治の至極したるものなり、法治はきびしきほどみだるるものなり、始皇の代をかゞみとしてみるべし、本來まつりごとはかずすくなく、時相應の至善にかなひおほやうなるを本とす、今時のやうにくらくまよひたる人の心をおさむるを、混水(にごり)をすますにたとへたり、なにかといろふほど濁がますものなり、いろはずにしづめてをけば、そのごみをのづからしづみてうへよりすむがごとし、德治法治の分別よく〳〵得心あるべし、德治は先我心を正くして人の心をただしくするもの也、たとへば大工のすみがね、その體ろくにしてものゝゆがみをなをすがごとし、法治は我心はたゞしからずして人の心をたゞしくせんとするものなり、たとへば諺にいへるしやくし繩規なるべし、君の心あきらかなれば、ぎんみたゞしく法度道あるゆへに、末ながくかはらず、君の心くらければ萬事ぶぎんみなるによつて、その法度さい〳〵あらためかはるものなり、

○躰充曰、しをきのがくもんはいかやうにしたるがよくおはしまし候や、またさだまりたるよき法度も御座候や、

師の曰、しをきの學問はすなはち儒學なり、眞儒にしたがひてまなびたるがよく候、よき法度は活法とて事をさしてさだめぬものにて候、一偏にさだまりたるをば死法といひて用にたゝぬものなり、法度にも心迹の差別あり、周禮などに記したる事は聖人天時地利人情の至善をはかりて、さだめたまふ法度のあとなり、其あとのうちにそなはりたるところの本意を心と云、そのあとによつて立法の本意をよくさとり、當代の法度をさだむるかゞみとし、その事のあとになづまず、聖人の心によくかなふを至善の活法とす、其こゝろをばわきまへずして、事の跡ばかりを手本としてまねをするを膠柱の死法と云て、おろかにして用にたゝず、それしをき法度は主君の明德をあ

きらかにして根本をさだめ、周禮などにしるしをきたる聖人の成法をかんがへて、その本意をさとりまつりごとのかゞみとし、時と所と位と三才相應の至善をよく分別して萬古不易の中庸をおこなふを眼とす、義理にて論じては合點ゆきがたければ、目のまへなることにたとへて體認したるがよく候、しかるゆへに禮記にしをきの仕樣を耕作の事をかりて議論發明あれば、耕作にたとへて見たるがよく候、時とは天の時、春夏秋冬運命の否泰をいふなり、たとへばふゆ田をうち種をふせ、耕作のさほうをよくつとめても用にたゝぬものなり、これは耕作のしやうあしきによつて用にたゝぬにてはなく候、たゞ時のちがひたるにて勞して功なく候、これにて學問もまつりごとも、運命氣數の時の宜をしるが第一なる事をあきらむべし、耕作の時いたりても畠に稻をうへ、田に豆を蒔ては、なにほど精にいれ糞をし、修理をしてもそだたぬものにて候、これは時もよく耕作のしやうもよけれども、ところのちがひたるにて用にたゝぬにて候、これにてがくもんもしをきも水土の地利をしるが肝要なることをあきらむべし、耕作の時いたり田に稻をうへ、畠に菽をうへて天時地利みなよくかなひ候ても、他人の田畠にうへつけぬれば、我用にたゝぬうへにかへつてぬす人のとがめあるべし、これは時もところもよけれども、わがくらゐの分際になきことをするゆへなり、これにてがくもんも政も人位のぶんを知るが大事なることを體認すべし、耕作時いたり我田に稻をうへ、我畠にまめをうへ、ところも時もくらゐもよくかなひても、かれたる苗をうへ碎けたる種をうへては、はへそだゝぬものなり、これは天時地利人位みなよくかなひても苗と種に生理なきゆへなり、これにてがくもんも政も苗と成種となる、明德の生理あきらかならざれば時と所と位とにかなひて、聖人の法をもちひても益なきことを體認すべし、時も所も位もよくかなひ苗も種もよく候ても、糞をし、くさをとる修理のしやう惡ければ、秋のとりみなきものなり、これは時所位苗いづれもよくても、人事のつとめたらざるゆへなり、これにて學問も政も人事のつとめをはげますを本とすることをわきまへしるべし、時もところも位もよくかなひ、苗も種もよく人事のつとめをよくはげましても、あるひは大旱

にやけ、あるひは長雨にくさり、あるひは大風にそこね、あるひは虫くひて秋のとりみなきことあり、これは天災といひて運命のなすところなり、ときところくらゐのよくかなふやうに分別し、人事のつとめをはげますは皆人間のちからにてなすわざなるによつて、おしなべて人事と云、人事をよくつとめて、わざはひにおふは運命にして人力のをよぶきはにあらざれば、天災と云也、人事をつとめずしてわざはひにあふは、天災にはあらず、自作の孽と云て、われとつくる禍なり、耕作をあしくしてとりみなきがごとし、人事のつとめにおこたりて、天道次第よなどいへるは以外なる僻言なり、これにてあるひは家をおこし、國をひらき、あるひは家をうしなひ、國をほろぼす運命の端的をよく體認すべし、かやうに論ずればしなおほくむつかしきやうに候へども、つゞまるところは明德をあきらかにする一つにきわまれり、明德だにあきらかに候へば、時處位のふんべつ人事のつとめ運命のさだめ、みなかゞみのかげをうつすがごとし、

○躰充曰、學問とまつりごとゝは、各別なるものと存候へばひとつものにて御座候や、

師の曰、惣じて世けんにがくもんにはづれたるものはひとつもなく候、正眞のがくもんあきらかならざるゆへに、いろ〳〵まよひたるうたがひある事にて候、がくもんは明德をあきらかにするを全體根本とす、明德は天地有形のほかへ通じ、上もなく外もなく、神明不測なるものなれば、天下國家をおさむる政は明德神通妙用の要領にて候、ゆへにまつりごとは明德をあきらかにする學問、がくもんは天下國家をおさむる政なり、本來一にして二、二にして一なるものと心得べし、そのうへ法度の箇條ばかりがまつりごとにてはなく候、天子諸侯の身におこなひたまふ一事、くちにのたまふ一言、みなしをきの根本なれば、まつりごとゝ學問と本來同一理なることをあきらかに得心すべし、

○躰充問曰、至德と明德とはひとつにて御座候や、ただしまたかくべつなるものにて御座候や、

師の曰、一體にして名のかはりたるものにて候、たとへば大きなる鏡をなづくるに、そのあきらかなるところをもつていへば、明鏡と云、おほきなるところをもていへば、大鏡といふがごとし、德性のあきらかな

るところにつゐて明德と號し、德性の外もなく、うへもなく、廣大無邊なるところにつゐて至德となづくるなり、至の字に極善大達四字の意をふくめり、
○躰充問曰、よこめといふものいまゝ時のはやり物にて候、なくてかなはぬものにて御座候や、
師の曰、よくおさまりたる代にはさのみいらざるもの也、風俗あしく人の心みだれたる代にはあるがよく候、その子細はよこめあれば、人ごとに法度をおそれいましむる心ありて治道のたすけとなりぬべし、しかれどもよこめのいふことを聞入て、むざとせはしくあらばなきにおとるべし、よこめは下々の心をいましむるそなへなりと得心して、むざとよこめの云事を承引すべからず、惣じて君たる人は大惡逆のほかはなに事もきかぬふりしらぬふりにて大やうなるを本とす、利根だてにてせはしくしきは國をうしなふ基と知べし、
○躰充問曰、がくもんはさとらんためなり、さとらねばがくもんと云にたらざるよし、うけたまはりをよび候、さとりとはいかやうなる事にて御座候や、
師の曰、さとりのさたは言語道斷のことはりなれば、なかなかことばにのべがたく候、その皮膚のもやうをすこしばかりたとへにてあかすべし、そのそのわれらごときのくらくまよひたる者の、心に仁義の神理をしりわきまへざるは、盲目の色かたちを見わけざるがごとし、しかるゆへにまよひて理にくらきものを心盲となづけたり、盲目は青黄赤白黑の五色、禽獸草木のかたちなど耳にはきくといへども、其さだかなるいろかたちを見わけざれば、うたがひのはるゝ事なし、そのごとくかのまよひたる心盲は、仁義禮智信の五常、天道神道運命生死などのことはりほぼ耳にはきくといへども、心にてその道理をしりあきらむることならざるゆへに、いづれの神理にもうたがひまよふのみなり、かの盲目、希代の目くすしにあひ、療治して兩眼つねのごとく見ひらきぬれば、今までうたがひありつる色かたち一々に見あきらめて、兎角のうたがひをたつべきところなし、そのごとく心盲のぼんふも、希代の明師にあひ、がくもんの功をつみて、本心のまなこひらきぬれば、今までうたがひまよひたる、五常天道神道運命生死のことはり、ことごとく見ひらきて、白晝に黑白をわかつごとくな

るをさとりとなづけたり、悟のことはり言語道斷ぼんふのおよびがたきところなれば、まづめくらのまなこをひらきたるところにたとへて、よく〳〵體認すべし、大覺明悟の人は現世のことは申にをよばず、生前死後のことはり天地のほかの道理まで、黑白のいろをわかつごとく、あきらかに知たまふゆへに、孝悌忠信の神道をおこなひたまふこと、飢て食し渇してのむごとくにして、人のほむるをもよろこばず、そしるをもうれひず、富貴にも淫せず、貧賤にもたのしみ、わざはひをもさけず、福をももとめず、生をもこのまず、死をもにくまず、たゞひたすらに仁義五常三才一貫の神道をおこなひたまふ事、水のひきゝへながれ盤針の南北をさすがごとし、かくさとりたる大人は天地と其德をあはせ、日月とその明をあはせ、鬼神とその吉凶をあはせて至誠無息なり、人間にむまれて盲目にてくらさんこと、最あさましく口おしき事なるべし、

○躰充問曰、つら〳〵人物のありさまをかんがへ見るに、よきものはすくなくあしきものはおほし、よきものはそだちがたく、あしきものはそだちやすし、人間には賢人君子まれなり、たま〳〵あれども或は不幸短命なり、愚癡不肖は世界にみち〳〵て澤山なり、盜賊などをばいづれの代にもさがしもとめてころせどもたらず、鳥には鳳凰はまれにして鳶鴉は雲霞のごとし、獸には麒麟は世にまれにして狐狸は其かずをしらず、草木に靈草名木はすくなくして、名もなき雜木野草は山野にみてり、天道は純粹至善なりとうけたまはりをよび候へば、よきものはおほくあしきものはすくなきはずにてこそ候へ、かへつてあしきものゝたくさんなるは何たる道理にて御座候や、

師の曰、よきふしんにて候、それは易學をよくきはめざれば合點ゆきかぬるところにて候へども、大かたをかたり候はん、夫賢人・君子・鳳凰・麒麟などを善とさだめ、愚癡・不肖・鳶・鴉・狐・狸などを惡とさだめ、善惡の二字にてさたし、それをそのまゝ天道におしあがふによつて、一しほうたがひまし候、先根本をよく考へ見て、さて枝葉をぎんみしたるがよく候、天道を根本として生れいでたる萬物なれば、天道は人物の大父母にして根本なり、人物はてんたうの子孫にして枝葉なり、根本の天道純粹至善なれば、そのえだ

葉の人物もみな善にして惡なしと得心すべし、瓜づるに茄はならぬといへることわざのごとし、しかれども其善にして惡なき枝葉に精粗の差別あり、其うちのすぐれたる極上を精と云、そのうちのくずを粗といふ、精粗の二字にて君子・小人・鳳凰・鳶・鵄などのかたちの高下をさだめ、さて精粗の人物のおこなふところを天命の本然、神理のかゞみにうつして善惡のさたをきはむるなり、本來あくと云ものはなきものなれども、粗なるかたちの偏よりいできたるものなれば、惡を諸木の寄生にたとへたり、太虚のうちかたちあるほどのものに、精粗のわかちなきものはなし、日と月と星は天の精なり、辰は天の粗なり、物を生ずる山と田畠は地の精なり、磽と不毛の野原は地の粗なり、聖賢君子は人の精なり、愚癡不肖は人の粗なり、鸞鳳は鳥の精なり、とびからすは鳥の粗なり、麒麟は獸の精なり、きつねたぬきは獸の粗なり、芝蘭はくさの精なり、名もなき野草は草の粗なり、沈香栴檀は木の精なり、雜木は木の粗なり、惣じててんちばんぶつみな精はすくなく、粗はおほきことはりにて候、人のかたちにてみるに、眼はかたちの精なればただふたつあり、毛髮はかたちの粗なればそのかずおほし、これにて精粗の多寡をおしあきらめらるべし、さていづれのものもその物のうちにて精なるものは、その物のかなめとなり主たり、粗はその精にしたがふものなり、しかるによつて、にんげんの精をうけたる聖賢君子は、愚癡不肖の主君として愚不肖をおさめて敎給ふ、粗をうけたる愚不肖は聖賢君子の臣下として聖賢の下知にしたがふ、天命の本然なり、本來君はすくなく臣下はおほきものなれば、主君となるせいけんはすくなく、臣下となる愚不肖は多きことはりわきまへずして分明なり、精をうけたるせいけん君子は氣きよく質たゞしきゆへに、をのづから根本の善をうしなはず、粗をうけたる愚不肖は氣にごり質偏なるによつて、國のしをき道あれば根本の善をうしなはず、しをき無道なれば、それにあやかりて根本の善をうしなひ惡をなすものなり、たとへばくせなき馬をも下手がのり候へば、いろ〳〵くせのいでくるがごとし、むかし堯舜の御代には聖人は天子のくらゐにのぼりたまふ、其つぎの大賢人は宰相となり、その次の賢人は諸侯となり、その次の君子は

卿大夫士となり、愚癡不肖なるものは農工商の庶人となり、上てんしより下庶人にいたるまで、分々相應のくらゐに居てそれ〴〵の所作をつとめ、孝悌忠信五倫のみちにひたすらにちからをつくし、毛頭邪欲の惡念なく、すこしの不義をもおこなふことなくて、天下に一人もあくにんなし、堯舜の民は比屋可レ封といへるは此こと也、根本は愚癡不肖の人もあくにんにあらざれば、聖賢も愚不肖もみな善人なり、その善人のうちに精粗大小貴賤の差別あり、せいけんは善のうちの精にしてたつとく、愚不肖は善のうちの粗にしていやしきものなり、たとへば金も銀も銅もくろがねも本來みなかねなれども、其うちに精粗貴賤の差別ありて、金銀はかねのうちの精にしてたつとく、銅鐵は金のうちの粗にしていやしきがごとし、かやうのたとへをよく體認して、にんげんはみな善ばかりにて惡なき本來の面目をよく觀念すべし、

○躰充曰、愚癡不肖もあくにんにあらずとおほせられ候は、信をとりがたくおはしまし候、左候はゞいかやうなるものを惡人とは申候はんや、

師の曰、聖賢のごとくに智惠のあきらかならざるを愚癡とす、せいけんのごとくに才能の達せざるを不肖とす、愚癡不肖といへども良知良能あり、その良知良能をうしなはざれば、愚癡不肖も善人の徒なり、愚癡不肖をそのまゝあくにんと云べきことはりなし、才あるも才なきも知あるも知なきも、形氣の邪欲におぼれ本心の良知をうしなふものを、おしなべて惡人とは云なれば、たとひ才智藝能すぐれたりとも、邪欲ふかくして良知くらきはあくにんなり、孔子曰、如有二周公之才之美一、使二驕且吝一、其餘不レ足レ觀也已、此聖語にてよく體認すべし、しかれども世ぞくは才智藝能だに達しぬれば、其心の邪正をばわきまへずして君子とゆるし、才知藝能に拙なければ小人とおとしめぬれば、愚不肖を惡人とおもへるあやまりもまたむべなりとも云べきにや、

○躰充曰、易學とおほせられ候は、著本卦など云うらなひの事にて御座候や、

師の曰、それも易學の一品にては候へども、たゞ今われらがいへるはその事にてはなく候、易經の神道をさとり、我身の受用となす事にて候、この易學は孔子さへ韋編三絶と申つたへ候へば、よく〳〵觀察の功

をつまざれば、その皮膚の會得もなりがたく候、儒書の事は申におよばず、天地のあひだに何にても易經の神理にもれたる事なし、又易理よりいでぬ事は一つもなく候、

○躰充問曰、天道は禍善福淫とて、善をなす人には福をあたへ、あくをなすものには禍をあたへたまふとうけたまはりをよび候に、善人も仕合あしくあるひはわざはひにあふ事あり、惡人も或は仕合よくかへつてさいはひをうるものおほく候は、なにたる道理にておはしまし候や、

師の曰、よきうたがひにて候、是も易理をよくしらざればわきまへがたき理にて候、天道流行して造化發育したまふ、その賦予の分數を命となづく、天地のあひだにみち〳〵て聲色貌象あるもの、みな天然一定の分數あり、しかるゆへに人間一生涯のあひだ、あふところの境界・吉凶・禍福・一飮・一食にいたるまで、ことごとく命にあらざるはなし、みなこれ天道の流行なりといへども、此命に本末正變あり、正變に虛實の勝負あり、夫にんげんの貧富貴賤壽夭の分數は、みな資生のはじめ胎育十箇月のあひだにさだまるところなり、その胎育のあひだ歲月日時にをの〳〵陰陽五行ありて、生長・化收・藏王・相死・囚老の氣・絪溫・雜操して造化するによつて、運命ひとしからず、そのうへにまた善惡報應の感化までいりまじるゆへに、運命のよきところばかりそろへて、生れつくことはならぬいきをひにて候、然るによつて人間世のありさま德ありて才なきものあり、才ありてとくなきもあり、才德ありて貧賤なるもあり、富貴にして才德なきもあり、貧賤にしてうれいなき有、富貴にして憂おほきあり、わかきとき仕合よくてをひておとろふるあり、若き時ひんせんにして老て富貴になるあり、いやしき位にうまれて貴人のくらゐに經あがるあり、貴きくらゐに生れていやしく成さがるあり、貧賤にしていのちながきあり、富貴にしていのちみじかきあり、まことにいろ〳〵さま〴〵のありさま、中々かたりつくしがたし、此運命はかたちに生れつくによつて實なり、五福六極はその形體成長してのち、そのこゝろもち身のおこなひの善惡によつて嚮威(きやうい)したまふ命なれば、氣の變化にて虛なり、まづ此虛實の理をよく體認あるべし、さて福善のさいはひを五福といひて五

つあり、天道この五福をもつて善人にあたへたまふ、一曰壽、これはいのちのながきをいふ、二に曰富、是は財寶の澤山なるを云、三に曰康寧、これはうれひもなく疾もなくやすらかなるをいふ、四曰攸好德、是は明德あきらかにして天理の眞樂つねに泰然とあるを云、すなはち孔顔のたのしみこれなり、五曰考終命、これは天道のさだめたまふいのちのかずを皆つくして、正理にしたがひて死するを云、已上この五つを五福と云なり、さて又禍淫のわざはひを六極といひて六つあり、天道この六極をもて惡人をこらしめ給ふ、一曰凶短折、凶はあくぎやく無道にして犬死するを云、短折は天道のさだめたまふいのちのかずよりまへかどに死するをいふ、二曰疾、三曰憂、四曰貧、五曰惡、これは自暴とてうまれつき剛强にして欲ふかく、仁孝の儒道をそしり悶し、或は惡逆をこのみおこなふを云、六曰弱、これは自棄とて生れつき柔弱にして、仁孝の儒道をよしとは思へどもおこなふ事あたはず、或は臆病にて欲ふかく、不義無道のふるまひのみ畜生にもをとれる有樣なる柔惡の人を云、以上此六つを六極と云なり、この五福六極のさたは書經の洪範にみえたり、天道この五福六極をもて善惡をたゞし給ふ事、春はあたゝかに、夏はあつく、秋はすゞしく、冬はさむきがごとく、むかしも今も末代もいつもかはらぬ妙理なり、しかるに間に善人も五福をうけず、惡人も六極をのがるゝことあるは、天の時は地の利にしかずといひて、虚は實にかたぬものなれば、五福六極の命は氣に屬して虚なり、胎育のはじめにうけたる運命は、形に屬して實なるゆへに、虚なる福極かたずして一旦かくのごとし、たとへば六月の土用はきはめて熱く、かたびらさへ身にかゝらねども、惡寒のやまひある人は、わたいりをかさねきても猶さむし、また極月の大寒にはきる物をかさねきて火にあたりてもあつからぬに、大發熱の病人ははだぬぎてもなをあつし、つねの人にあたるあつささむさも、かの病人にあたる暑さ寒さもおなじことなれども、暑寒は氣に屬して虚なり、惡寒發熱のやまひは形につきて實なるゆへに、虚なる暑寒の氣實する病邪にかたざるがごとし、此たとへにてよく／＼體認あるべし、むかしもろこしに盗跖とてもろこし一番の盗賊あり、あまりにあくぎやく無道がこうじて、人の膾をく

ひぬれども無病息災にながいきして、もとよりぬすみとれば財寶たくさんにて難なく暮したり、また其ころ孔子の御弟子に顔子と申人あり、三千人の御弟子のうちにて抜群に無類なる大賢人なれども、簞瓢陋巷、不幸短命なり、此二つのうたがひにまよひて、古來いろ〳〵の臆說どもおほく候、運命の勢によつて聞にかくのごとくの大ちがひあるを見て、萬古不易の天道にうたがひをなし、福善禍淫のさたも信仰じがたしなど云るは、六月の土用にかさねぎする病人をみて、夏のあつきといふはいつはりなりといひ、極月の大寒にはだぬぎてもあつかる病人を見て、冬のさむきと云はまことならずと云がごとし、いとあさましきまよひなり、この寒暑の道理はあさくて知やすきゆへにまよふものなし、すこしもちがはぬことはりなれ共、福善禍淫のことはりはふかくして、しりがたきによつてまよふなり、知やすきところにてよく〳〵體認觀念して、ふかき神理をさとるべし、かの病人惡寒發熱の病勢おとろへ、本腹しぬれば、つねの人のごとくにあつささむさをおぼゆるものなり、そのごとく運命のいきをひおとろへて、其分數きはまりぬれば、かならず惡人は六極のがれがたく、善人は五福をうくるものなり、しかるゆへに盜跖は無病息災に難なくながいきしてくらしぬるやうなれども、おのれと六極の剛惡におちいりて、至誠無息の神理をうしなひ、萬世不朽の惡名をながしぬれば、六極の報應さだかならずや、また顔子は簞瓢陋巷、不幸短命なれども、五福の攸好德をうけ、眞樂の介福めでたく、長在不滅の神理あきらかにして萬世きはまりなく、公爵の追贈、四配の祭祀をうけたまひぬれば、五福の嚮命あきらかならずや、運命のいきをひによつて、一たん見かけは福善禍淫のつねにたがふやうなれども、畢竟しんじつの端的終には天命本然のつねにたちかへるものなり、是を人衆則勝レ天、天定亦能勝レ人といふなり、そのうへ五福のうちの攸好德だにうけぬれば、のこりの四つは其うちにそなはれり、明德すでにあきらかなれば、至誠無息長在不滅なり、これ無上のながいきなり、大富貴を得て小富貴をわすれぬれば、これまた無上の富貴なり、一朝のうれひ心のくるしびとならざれば、心上の康寧は事上のかうねいにまさりたり、考終命の事は德あるうへは云に

をよばず、是にて福善の極意を得心すべし、六極のうちにて惡弱の凶德をうけぬれば、のこり四つはみなそのうちにそなはれり、至誠無息の神理をうしなひぬれば、たとひ幸にしてまぬかれながいきしても、凶短折にことならず、欲にいたゞきなく、たゞむさぶりおしむばかりなれば、財寶ありても心は貧者なり、心くらくまよひぬれば、目にふれ耳にきくことみなくるしびとなれば、無病にてもかたちやすからず、欲心のくるしみつねにたらざれば、憂なくても心やすからず、是にて禍淫の極意を得心すべし、五福の第四に攸好德をとき、六極の終に惡弱をときたまふ極意よくよく體察すべし、

翁問答卷二終

翁問答卷三〔原本、下卷之本〕

○躰充問曰、世俗のとりざたに、學問は物よみ坊主衆、あるひは出家などのわざにして、士のしわざにあらず、がくもんすぎたる人は、ぬるくて武用の役に立がたしなど云て、士のうちにがくもんする人あれば、却てそしり候ぬ、かやうのあやまりはいづれのまよひよりをこりたることにておはしまし候や、

師の曰、それは贋のがくもんばかり時めきて、風俗あしく衆生の心汚濁にとまりて、書物をよむばかりをがくもんと思ふよりまよひたる評判なり、それ學問は、心のけがれをきよめ身のおこなひをよくするを本實とす、文字なき大むかしにはもとよりよむべき書物なければ、只聖人の言行を手本としてがくもんせしなり、代のすへになりて、學問の本實をとりうしなはんことをうれひて、物の本にしるしてがくもんの鏡とさだめしよりこのかた、物のほんをよむを、がくもんの初門とする也、しかる故に其心をいさぎよく、行跡をたゞしくする思案工夫ある人は、物の本を

よまずして一文不通なりとも學問する人也、その心をあきらかにし、身をおさむる思案工夫なき人は、四書五經をよるひる手をはなさずよむと云とも、學問する人にあらず、かくのごとく眞實の道理をよくわきまへぬれば、さやうのあやまりはかたはらいたきことなるべし、心きたなくけがれて身のおこなひよこしまなるをば、凡夫の口にも犬畜生など云ていやしみぬれば、正眞のがくもんに志なき人は、まことの人にあらざれば、其はぢを知べし、學問はせぬがよしといへる人にむかひて、わどのは犬畜生のごとき惡人なりとそしらば、必さしちがふべくいかりをなすべし、又心いさぎよく行儀たゞしき君子なりとほめたらんは、必ずえみをふくみてよろこぶべし、然るときはがくもんせぬがよしといへるは、其人の本意にあらず、只がくもんの本然をしらず、書物をよむばかりをがくもんとわきまへたるあやまり也、さて又學問はさふらひのしわざにあらずといへるは、一しほ愚なる評判まよひの中のまよひ也、子細は心あきらかに行儀たゞしく、文武かねそなわるやうに思按工夫するを正眞のがくもんとす、かくのごとく心あきらかに行儀たゞしく、文武かねそなはる人をよきさふらいとゆるす事は、あまねく人のわきまへたることなれば、學問はさふらいのしわざにして、なさでかなはぬことといわずして明白也、さてまたがくもんする人は、ぬるくて武用の役にたちがたかるべきなどいへるは、がくもんのほんいを辨へざるまよひのみにあらず、文盲なる諸士他人の文藝あるをそねみ、おのれが文盲なる耻をかくさんとの衒ざたなるべし、誠に分もなきひがことなり、たとひ正眞のがくもんに志しなく、徒に文藝ばかりをならふと云とも、武篇のさわりになるべき理なし、その子細は源義經公辨慶君臣ともに、文藝その時分の諸士にすぐれたまひぬれども、終に一度もおくれをとりたまはず、末代にいたるまで、犬うつ童も武篇のためしには、義經公辨慶と聞つたへて、いひならはせり、文盲に御自滿のさふらひ衆、せめて義經公辨慶などの爪のさき程なりとも、眞似をめされ候はゞ、其譽あるべし、たゞもんまう一偏の御自滿にては、よき士とは云がたし、もんまうなるものがかならず武篇よくば、田をうち草をかる田夫野人、薪とる山がつ路頭にさすらふ乞食な

ど、文盲第一のものども也、かやうの者どもみなよき武篇者にてありなんや、かやうのたとへあまりけわしくきこえぬれども、今時分此まよひふかく大かたのたとへにては、心盲のねぶりさめがたき故に、聲をはげましてよびさますなり、前かども論ずるごとく、いかやうなるものが、武篇よき、いかやうなるものが武篇あしきなどいへるは、皆得がたのひがこと、あるひは株(くひぜ)をまもる愚癡よりおこるまよひ也、文藝ある人に義經公辨慶などのごとく武篇よきもあり、又臆病なるもあるべし、文盲なる人に臆病なるも有べし、またけなげなるもありなん、只勇なるもの武篇よきと知べし、むかし今のためしをよく考て、學問が武篇のさまたげになるといへる、きたなき心根を察すべし、まへかどにも論ずるごとく、正眞のがくもんをよくつとめてさとりぬれば、仁義の勇あきらかになりて、必ぶへんよくなるなり、それも師匠と學問のしやうとによく吟味あるべきこと也、中庸曰、人一能レ之己百レ之、人十能レ之己千レ之、果能二此道一矣、雖レ愚必明、雖レ柔必强、この聖謨の意は篤く天地の神道に志し、明德をあきらかにする工夫をはげまし、つとめおこなへば、必さとりをひらき、うまれつき愚癡にして、迷ひふかきものも、本心の良知あきらかになれり、生れつきぬるく、にかたなる人も、かならず本心仁義の勇あきらかになりて、武篇よきとの義なり、論語曰、仁者必有レ勇、勇者不二必有一レ仁と、この聖謨のこころは、儒道をよくまなびて、仁者の位にいたりぬれば、人欲きよくつきて天理流行し、なにほどすさまじき妖魔、あるひは虎狼などにあひても、常の人の狗猫などに逢たるごとくに、心にをどろきおそるゝ事いさゝかなし、もとより百萬人の敵にあひ、劔の中あるひは猛火のうちへとび入とても、平生の心もちにすこしもちがふことなく、毛頭おどろきおそるゝ心なく、必ず十分無類のけなげあり、明德あきらかになけれども、生れつきて勇なるを勇者と云、この勇者ももとより死をおそれず、物におびへおどろかざることは、仁者の勇に似たれども、人欲のまよひふかき故に、明德の良知くらければ、不義無道のはたらき、畜生にひとしくて、天德の仁をうしなふもの也、うまれつき勇あるものは、正眞の儒學をつとめて、其勇を仁義の勇となし、生れつき勇なきものも、又正眞の儒學

をつとめて、本心に具有したる仁義の勇をあきらかにせよと敎たまふ義也、此等の聖謨をよく〳〵體認して、武篇をたしなまんとおもふ士は、志しあるべき事也、本來軍法軍禮武篇のたしなみ、諸士の作法のおきて、みな儒道の一色にして、聖人のさだめ給ふ天理なれば、さふらいたるものが儒道をそしり、儒學をするは士のわざならずなどいへるは、まことに無下に無案内なることなれば、其はぢをしるべし、

○躰充曰、心を明かにし身を修むる思案工夫ある人は、一文不通にても學問する人なりと被レ仰候へば、論語よまずの論語よみと申ならはす世話も、道理にかなひたる言葉にて候や、

師の曰、それも心得やう大事なり、論語よまずの論語よみと云は、聖人の事也、孔子はろんごをよみたまはねども、論語一部始終こと〴〵く孔子の言行なれば、正眞の論語よまずの論語よみは孔子なり、聖人より下ざまのうまれつきには、必ず氣習の偏あるによつて書をよまずして道德の室にいることはなりがだければ、大賢より下つかたなる人をかく取さたすべき理なけれども、世間に論語よみの論語よまずがたくさんなる故に、それをいましめんための假説也と心得べし、心を明かにし身をおさむる思案工夫ある人は、一文不通にてもがくもんする人也といふも、學問の本意をあきらかにし、にせのがくもんをしりぞけんための假説也、もし眞實の格言也と認て、氣習の汚れある心をもつて、心を明かにし身をおさむる工夫をなして、聖學也と心得なんは、千萬里のあやまり也、心をたゞしうし、身をおさめ文武兼備のこゝろざしあらん士は、たとひ書物をよまずとも、儒門の先覺にしたがひ、本心の端的を明辨して、氣習のけがれをあらひて、工夫のまなこをひらくべし、

○躰充曰、株を守るとのたまふは、なにたることにて候や、

師の曰、道理の眞實をしらず、うはつらはなのさきばかりの目論おろかに、あさましきおもひ入を株をまもると寓言のたとへ也、むかし山がつ山田をうちていたる所へ、峯より兎ひとつはしりくだり、かの山がつのいたるあたりの木のかぶにはなをつきて死したり、彼山がつこれを見ておもふやうは、さても希代不思議なることかな、此木のかぶは兎とりの逸物なり

と心得て、かの兎をとりてかへり、それより隙のおりおりには、かの木のかぶのもとにゆきて、木のかぶのとりたる兎をひろはんと、終日まもりいたるとなん、此山がつのまよひに似たること世間におほきによつて、寓言して凡夫のまよひをわらひはぢしめたり、就中これに似たる大きなる迷は、仕合よく富貴になりぬれば、我智惠才覺にてかくのごとしとおもひ、又しあはせあしく貧賤になりては、わがわざとはおもはずして、親をかこち人をとがめ、天をうらむること人ごとの迷也、しあはせよく富貴になるも、運命の生れつきにして、わがちからのなすところにあらず、仕合あしく貧賤になるも、運命のうまれつきにして、親の咎にもあらず、人のなすわざにもあらず、もとより天道のあやまり給ふところにもあらず、また藝あるも藝なきも、ぬるきみかけなるも、いかつなる見かけなるも、武篇するものにてはなく、只心のけなげが武篇するにて候へども、心まよひてくらき故に、藝あるものが武篇をすれば、藝が武篇するとおもひ、藝なき者が武篇をすれば、無藝文盲が武篇するとおもひ、見かけぬるきものが武篇すれば、ぬるきが武篇するとおもひ、見かけいかつなる者が武篇すればいかつが武篇するとおもひて、とりさたさまぐ〳〵也、株のうさぎをとらざることは知やすきことはりなれば、誰もしりてまよはず、富貴貧賤勇怯の道理はわきまへがたきことはりなるによつて、隨分の歷々まよふばかりきまよひをいましめ、あきらめたり、大唐の諸士には也、しかる故に知やすきことを寓言にして、辨へがたき無藝文盲なるもの、百人に一人もまれなり、しかる故に大功をたつる、大將軍武篇つよきさふらいみな藝能あり、日本の諸士には無藝文盲なるものおほし、しかる故に武篇つよき士、おほかたは文學藝能なし、また藝能にて身をたつる人は、武篇のいひたてなきによつて、藝をいひたてとし、物よみ坊主衆は出家ながそでのまねをして、武道はその所作にあらずとも てなす風俗也、かくのごとくなる風俗を見ならふばかりにて、もろこしの事をしらざれば、無藝文盲が武篇すると、株をまもるとりさたむべなりとも云べきにや、

○躰充問曰、學問はよきもの也、しかれどもおほくはいらざることゝ云人おほし、是はきこえたるやうに

存候はいかが、

師の曰、それはにせのがくもんをすきて、心だて行儀むざとなる人あるを見て、さやうのあやまりたるとりざたせり、それはたとへば家のやけたるを見て、火はよきものなれども、すこしもちいたるがよし、おほくはいらざるもの也といふがごとし、正眞の學問は食物をにる火燈のごとくなれば、すこしにては用に立がたし、にせの學問は家をやく火のごとくなれば、少にてもわざわひになるものなり、贋のがくもんをしてあしくなる人を見て、正眞のがくもんをきらふは、家をやく火を見て食物を烹火ともしびをきらふにことならず、此譬にてよく〳〵得心あるべし、

○躰充曰、學問の名はひとつにて、さやうにおほちがひの御座候、子細はいかに、

師の曰、正眞のがくもんは、私をすて義理をもつはらとし、自滿の心なきやうにたしなむを工夫のまなことし、親には孝行をつくし、主君に忠節をいたし、兄弟のあいだは悌惠をきはめ、友だちのまじはりはいつわりなくたのもしく、五典を第一のつとめとする故に、おほくしてよくとり入ほど、心だて行義よくなりゆけり、うはのそらにすこしまなびてとり入なければ、用にたちがたし、にせの學問は博學のほまれを專とし、まされる人をねたみ、おのれが名をたかくせんとのみ高滿の心をまなことし、孝行にも忠節にも心がけず、只ひたすらに記誦詞章の藝ばかりをつとむる故に、おほくするほど心だて行儀あしくなれり、聖賢より下の生れつきに高滿の邪心なき人はなし、天下の惡逆無道をなし、或はきちがひ或は異相になる人みな此滿心のなすわざなり、この自滿の邪心が魔境畜生道へおちいる道すぢ也といましめおそるべきこと也、然るをにせのがくもんには、此滿心をかさむたよりは、おほくすつる工夫は心がけざれば、覺えず邪路にいる事あきらめやすし、

○躰充曰、魔境へおち入とは、いかやうなるを申候や、

師の曰、あるひは贋のがくもんにふけり、或は學問せざれども暗處に魔を來しぬれば、自滿の心根かたくなり、枝葉しげりて異風になり、人をば生るむしともおもはず、天下にわれをこすべきものなしと人もゆるさぬ高滿をはなにあて、親おやかたの愚癡な

るをさげしみ、おかしくおもひ、主君をそしり朋友をあざけりて、孝悌忠信の生道をさまたげ、邪魔に相通じ、惡魔と作法をあはするを魔境におちいると云也、うまれつき利根無欲けなげなる人、此やまひおほし、

○躰充曰、にせの學問をする人に、世けんのまじはりをむつかしがり、閑居をこのみ、或は心氣やみなどのごとく引こもるなどするものあるは、何としたることにて候や、

師の曰、それがすなはち魔境におち入たるにて候、高滿の魔心ふかきゆへに、本來非もなき世けんを非にみて、おやのする事も兄弟のする事も、主君のあてがひも、朋友のなすわざも、皆わけもなき妄作也と得心するによつて、右を見るも左を見るも、皆おのれが心にかなはぬ事ばかりなる故に、世けんの交をいとひ、ひとり居ることをこのむと知べし、

○躰充問曰、正眞の學問は書物をよまずしてもなるものなりと承候へば、おぼえにくき書物をよみ、講釋を聞申ことはむつかしきに、いらぬ事かとぞんじ候、

師の曰、大むかしの文字なき代には、書物なきによつて只聖人の言行を手本として、學問をつとめたり、伏犧易書をつくりたまひ、文字はじまりてよりのちは、書物をよみその本意を講明し、わが心のかゞみとしてがくもんをつとむる也、次第に書物おほくなりて、孔子の時には六經みなそなはりたり、孔門のをしへ文と行と忠と信との四也、文は六經の文也、行は性にしたがふ道のおこなひ也、忠信は自滿の心根をたちすてて、誠の道を求め明德をあきらかにする工夫なり、此四に本末衡鑑の差別あり、忠信は根本也、行は幹梢なり、文は忠信と行との鑑なり、六經の文をよみその本意を講明して、かゞみとさだめ、根本幹梢の工夫をよくつとめて、明德の寶珠をみがくもの也、聖人のまし〳〵て直におしへたまふにさへかくのごとし、まして末代聖賢のましまさぬ時に鑑とさだむる聖經賢傳をすてゝ講ぜず、くらくまよひたる心まかせにて、學問したるがよきなどいへるは、燈をすてゝ暗室に物をたづぬるがごとし、

○躰充曰、上天子より下庶人にいたるまで、皆學問なさではかなはぬとうけたまわり候、愚癡不肖の賤の男賤の女の書をよみ申ことのならざるものはいか

が、
師の曰、むかし聖人の御代には、閭巷とて家二十五間ある小里にも學校ありて、其里の奉行代官すなはち師匠となりて、耕作のひまに書物を講じ、道をおしゆるによつて、愚癡不肖のしづのおしづのめにいたるまで、書物のほんいをよく得心する也、文字をまなこにみしることはならざれども、心に書物の本意をがてんして、身のおこなひ心もちの鏡となすことは、なかなか今時の俗儒のおよばぬところなり、文字を目に見おぼゆることはならざれども、聖人の書の本意をよく得心して、わが心の鏡とするを心にて心をよむと云て、眞實の讀書也、心の會得なく只目にて文字を見おぼゆるばかりなるをば、眼にて文字をよむと云て、眞實の讀書にはあらず、我まなこにて書物をよむことならざれども、聖經賢傳をふかく信仰してよみおぼへたる人に講釋させ、その本意をよく得心して、我心もち身のおこなひのかゞみとするは、俗學の書物をよみぬるより一きわまさりたる書物よみなれば、賤の男しづのめも書物をよまずしてよむにて候、今時はやる俗學は、書物をよみてよまぬなり、かやうの極意よく〳〵體認あるべし、

○躰充曰、もろこしよりわたりたる書物さいげんなし、かたはじ皆よまでかなはぬことにて候や、

師の曰、それはおほきなる心得そこなひなり、よまでかなはぬといふ書物は十三經のことなり、十三經のとりいりのはしごになるべき名儒の書、あるいは七書などの外の書物はよみて益なし、然るをつとめよみぬるは目たるく心つかるゝあだごとなりと思ふべし、史書は古今の事變を考へ、福善禍淫の印證とするものなれば、餘力のなぐさみによむものなりと知べし、

○躰充曰、十三經はなに〳〵にて候や、

師の曰、孝經・論語・孟子・周易・尙書・周禮・儀禮・詩經・禮記・左傳・穀梁傳・公羊傳・爾雅、以上十三部を、十三經とさだめたり、

○躰充曰、十三經も書かずおほく候て、凡夫の分にて皆までまなび候ことおよびがたくおぼへ候、そのうちにて一二卷まなび候て、大綱の得心なりやすき書は、おはしまさず候や、

師の曰、本來易經一部をおしひろめたる十三經なれ

ば、易經をよくまなびたるがよろし、しかれども易經は簡奥玄妙にして、凡夫のとりいりなりがたきによつて、孝經・大學・中庸を心にて心をよみ、よくまなびぬれば、大綱の得心なりやすし、三書をまなびて餘力あるものは、其力とひまにしたがひて、語孟をまなぶべし、さてまた餘力あるものは十三經をみなまなびたるよし、十三經をみなまなび候はねばならぬとおもへば、退屈して却ておこたるもの也、また三書の外はいらぬものなりとおもへばせばくかたづまりて、明德活潑々地の妙用かえつて、枯滯のわづらひあるもの也、たゞ三書をまなことさだめ、其餘の書は面々のちから次第にまなぶと得心して、いかにも志をかたくたて、心學をわが所作とおもひさだめ、忠臣を主とし行住坐臥の時に習ひ、そのしるしをもとめ、いそがず心もちをひろくゆるやかにして、懈怠なければ、必ずさとりを開くべし、そのおそきとはやきは、生れつきの明暗、習の淺深によるべし、

○躰充曰、孝經・大學・中庸には武篇のおしへも御座候や、

師の曰、三經の中に孝行を說、忠節を說、勇强を說給ふところ、正眞の武篇の敎也、されば孝行忠節のためにかせぎはたらく勇を、武篇とはなづけたり、孝行忠節にそむきたるはたらきのけなげは、むほん人または盜と云ものなり、此ことはりは知やすきことなれども、わきまへたる人まれなるにや、むほんにんをも武篇者なりとも、ほむる風俗あさましくなげかし、曾子曰、戰陣無レ勇非レ孝也、このこゝろは恩にむくひ義理をたつるが孝德の感通なり、君の恩は親のおんにひとしき廣大なる恩德なり、忠臣はかならず孝子の門よりいづるものなれば、孝德あきらかなるものは、必ず戰陣において武篇をはげみ、武功をたつるもの也、もしつね／＼孝行節のふりありても、戰陣においてぶへんのはげみなきは、眞實の孝行にあらずといましめはげます義なり、程子武學制に、孝經を添いれめされたり、此こゝろ恩をむくひ、義理をたつることをしらざるものは、生れつきけなげにても、主君の用に立がたし、却て味方のわざわひにもなるものなり、しかるによつて孝經をおしへ、恩にむくい義理をたつる本心をあきらかにさせ、血氣の勇を化して仁義の勇となすべきため也、よく／＼體認して孝

行の端的を得心あるべし、

○躰充曰、衛靈公問ニ陣於孔子一、孔子對曰、爼豆之事則嘗聞レ之矣、軍旅之事未ニ之學一也、明日遂行と論語におはしまし候へば、孔子は軍法をばしろしめさずと存候はいかゞ、

師の曰、それは以の外おほきなる心得そこなひなり、何もといひながら、就レ中軍をおこし武をもちふるには、心根と時が大事にて候、仁義の心を根として順應の時にかなひて用るを仁義の師と云て、正眞の軍法武篇なり、邪心欲心を本として、順應の時にそむきてもちふる武篇は、強剛暴逆の師といひて、盜賊おひはぎの類なり、しかるに靈公無道にして、戰伐をこのみ強剛暴逆のいくさをたくましくせんために陣をとはれたり、かくのごとくの人に軍法をおしへたまふは、ぬす人に道をおしゆるにことならず、君子は人の惡をば成たまはぬによつて、其惡心をいましめ本心をとりたてたくおぼしめして、禮をばまなびたるが軍法はしらずとこたへ給ふなり、夫爼豆の事は禮法なり、禮法の大目五つあり、吉禮・凶禮・軍禮・賓禮・嘉禮これなり、此うちの軍禮すなはち軍法也、すでに禮法をまなびたるとのたまふ時は、軍法をよくしろしめすことはいはずして明白なり、爼豆の事と軍旅の事とを相對してかくのたまふは、仁を本とする軍法をばまなびたれども、殺伐をもつはらとつとめて本なき軍旅の事は盜賊のわざなれば、いまだまなびぬとのたまふ心なり、聖人は寛裕溫柔にしてことば迫切ならざる故に、凡耳にはきゝわきまへざるものなり、靈公この聖言をきゝしりて、禮をとひ道をまなび、邪心をひるがへし、明德をあきらかにしてのち軍法をとはれ候はば、必定千聖心傳の軍法の秘妙をつたへ給ふべけれども、聞しらざるによつて、そのあけの日さらせたまふ也、明德十分にあきらかにして、地とその德をあはせ、日月と其明をあはせ、文武かねそなはりたる人を聖人と云、孔子はもとより聖人にてましませば、文武かねそなはりたまふ事は云におよばざることなり、將鑑篇曰、孔子用レ兵萬世之師也、又曰、孔子夾谷之師堂々正々、依然五帝三王之風、かくのごとくの格言をよく玩味して、孔子の神武軍法の秘妙を考へしるべし、

○躰充問曰、紙の上にて軍法をならひたる分にては、

鞍懸のけいことやらん、用にたち申まじく候、たゞさいさい軍になれたる功者にましたる事はあるまじきと存候いかが、

師の曰、それもかたむきなる評判にて候、もとより變通の機轉なく法になづむものは、まなびてもならはぬ人におなじかるべし、學びてさへぶてぎわならば、習はぬ時はなをもつてなるべし、たとへば手習をするがごとし、十人に九人までは、てならひして、文のよみかき自由にせざるはなし、あいだに一人無器用にて、無逹者なるあり、そのごとく軍法をならふに手すじよく、極意をきはめたる師匠によくまなびて、得心熟し手にいるならば、十人に九人は軍のまはし逹者なるべし、間に其器にあたらぬものはならひても益なかるべし、九人をすて一人を證據とする評判者は、すなはちならひても益なき人と、對の人なり、軍法をならはずしても、本心の武德感通して、暗にしあつる人あり、ましてその上にぐんほうをまなび、用武の神妙を得心あらば、鬼にかなざいぼうといへる諺のごとし、もろこしにても日本にても、名將とひゞくほどの人に軍法まなびざるはなし、陣かずの功者ばかりにては大軍を自由自在にとりまはし、武略をめぐらし、大敵强敵にあひて、百戰百勝の功をたつる事、中々およばぬことなり、大將のぐんほうをしらざるは、闇の夜に灯なくてふみなれぬ道をゆくがごとし、軍法をしらずしても、仕合よくて敵にかち、國をとり威をふるふ人あいだにあり、これは運命のちからと敵のさせる功名なり、かくのごとくなる人を見て、何のぎんみもなく軍法はしらでもくるしからずなどおもへるは、株をまもるなるべし、運命のちからつよければ、わけもなき暗將にても、威勢をふるふは、たとへば矢はかれたる竹にてとぶものにてはなけれども、射手のちからにて三町も四町もとび、玉は鉛にて人をころすものにてはなけれども、火と藥とのちからにて楯をも介をもうちぬきて人をころすがごとし、また敵のさせる高名は碁象棋の勝負にて考へしるべし、下手にあひては、かちてぎわ一だん見事なれども、上手にあひては見ぐるしくまくるがごとし、大かた合戰の勝負かくのごとし、大唐の名大將はかぞふるにいとまなきほど數おほけれども、あまねく人のしりてとりざたするは、太公望・張良・韓信・項羽・諸葛孔

明などなり、此五人の衆みなわかき時ゑあわせあしく、いやしきすぎわひをいとなみ、苦勞めさる丶うちに、紙のうへにてがくもんめされたるま丶にて、陣かずの功なかりしかども、時にあひてのち陣はじめより勝利を得て、末代に手本とする比類なき名大將なり、もろこしの名大將は皆かくのごとし、日本にても源義經公は幼少のとき鞍馬にて、軍法をまなびたまひたるま丶にて、陣かずの功なけれども、木曾殿または平家の一族と度々のかせん、みな勝利を得、日本にての比類なき名大將也、かくのごとくなる倭漢のふるきためしをよく／＼かんがへて、誠の道理をあきらむべし、また一のたとへあり、大將はくすしなり、敵は病なり、士卒は藥味也、備の法は藥方なり、覘覹用間の武略は四診の醫術也、奇正のそなへ敵によつて轉化するは、攻補の藥方やまひによつてほどこすがごとし、軍法をすこしも玄らざる大將は、醫道をすこしも玄らぬものが療治するがごとし、あやうきことなるべし、陣かずの功にて備のたてやう、かせんの手だてをすこし見ならいたる大將は、藥方すこしならひおぼえ、病功のいりたるやぶくすしのごとし、軍法のがくもんなき大將運命のいきおひつよくよはき敵ばかりにあひて、勝利を得國をとり威をふるふはしあはせよきやぶくすし、見かけははなはだしくて、なをりやすき病人に取かゝり、手柄をして藥代過分にとり、その名たかきがごとし、太公望・張良・韓信・項羽・諸葛孔明・義經などのごとく、がくもんをきはめ軍法の妙理をよく得心して、百戰百勝の功をたつるは、醫學よくきはめ、四診の妙術を鍛錬して百病を療治し、起死回生の功をたてたる、扁鵲・倉公・東垣・丹溪などごときの名醫のごとし、軍法をまなびても變通の機轉なく、武用にぶき大將は、醫書をひろくまなびても、變通の醫按にぶく、療治はたらかざる醫者のごとし、むかしより今にいたるまで、扁鵲ほど醫學して療治はたらかざるはあるべし、やぶくすしの療治の扁鵲のごとく起死回生のはたらきあるは一人もあるまじ、太公望の云をまなびて武功にぶきはありなん、軍法まなびざる大將のいくさをして、太公望のごとく百戰百勝の功をたつるは、一人もあるべからず、よくよく觀察あるべし、

○躰充曰、運命だにつよく候へば、いづれの敵にもか

ち申候はんか、

師の曰、合戰の勝負に德のかち、才のかち、方のかち、運のかちとて、四いろの差別あり、德と云は、文武合一の明德のこと也、才とは武畧かしこく人數を自由自在にとりまはし、敵の情をよくさとり、九天の上にうごき、九地の下にかくれて、百戰百勝の功をたつる才能の事也、ちからと云は、人數の勢のことなり、運といふは、主將のうまれつきたる運命の事なり、あいてむかひのきりあひは、運のつよき方かつもの也、大軍の合戰は、德は才にかち、才はちからにかち、力は運にかつなり、才德牛角なれば、運のつよきかたかつべし、合戰のかちは才德勢力のつよきが運にかちぬれども、後途のつまりの國をとることは、運のつよき方へかたづくもの也、むかし大唐に蜀の國と魏の國とてんかをあらそふ事あり、蜀のくには後漢のすへにて運命はよはかりしかども、諸葛孔明と云才德かねそなわりたる名大將あり、魏のくには運命はつよけれど、孔明に楯つくほどなる大將なし、しかるによつて度々のかせんみな蜀の國方勝利を得て、天下に威勢をふるふといへども、元來蜀の運よはき故、孔明の天年かずつきて、魏の大將仲達と對陣のうちに、孔明病死めされたり、孔明の死後には仲達にたてつくほどなる大將蜀の國方になく、そのうへ魏のくにの運つよき故、終に蜀をほろぼして魏のてんかとなりたり、又項羽高祖のかせんのことあまねく人の知たる事也、項羽高祖の運命牛角なり、才は高祖おとりたまへども、高祖の大將韓信と云人、項羽と牛角なるゆへ才も牛角なり、力ははじめのあいだ項羽の方つよし、然る故にはじめは度々のかせんみな項羽のかち也、しかれども項羽は慓悍猾賊にして德なく、高祖は寛仁大度の德ある上に張良と云才德かねそなはりたる名將あるゆへに、項羽のちから次第におとろへ、終に項羽垓下に敗軍して、烏江にて自害し、ついに高祖のてんかとなりたり、かくのごとくのためしをもつて、德才勢力運命の勝負差別をよく／＼鍛錬工夫あるべし、

○躰充曰、才德勢力運命みな牛角に候はば、勝負いかが候はんや、

師の曰、それは相碁の勝負のごとし、かくのごとく成かせんには、天時地利の勝負あり、嘿識心通すべし、

○躰充問曰、聖人賢人英雄奸雄の差別、くはしく承度候、

師の曰、文武合一の明德十分にあきらかにして、才德千萬人にすぐれ、神明不測の妙用あるを聖人といふ、三皇・五帝・禹・湯・文・武・周公・孔子これなり、聖人に一等おとりたるを賢人と云、伊尹・傅說・太公・召公・顏子・曾子・子思・孟子・孔明・王陽明など是なり、德と餘の才は賢人に一等おとりぬれども、大將の才は賢人と牛角なるを英雄といふ、管仲・樂毅・孫子・范蠡・張良など是なり、大將の才ばかり逞しく、よの才はみじかく明德のくらきを奸雄といふ、項羽韓信などこれ也、義經正成などは日本にての英雄なるべし、聖人の才德天地神明とおなじき故に、神妙不測、廣大周備、言語道斷なり、賢人のさいとくも大かた聖人の體段そなはりぬれども、神明不測のくらゐにいたらず、英雄は大將のさいとくは賢人とおなじことなれども、餘の才と德とは賢人より一位おとりて英氣のかどある也、聖人賢人英雄この三人は、才德の高下大小ありといへども、いづれも君子なれば、治世にも亂世にも天下無雙の重寶なる人なり、奸雄は敵を退治する一科の用にたつことは賢人英雄にもおとらねども、明德くらく邪欲ふかき故、むほん逆心のうたがひありて、味方のたのみあやうし、さて國おさまりてしをきなどまかせぬれば、國をみだり亂をおこすもの也、聖人はもろこしにならではうまれたまはず、賢人英雄もまた世にまれなれば、世俗の心くらく奸雄の才にまよひ、心の奸賊を察することあたはず、英雄なりともてはやし、國をぬすまれ天下をうばわれたまふ天子諸侯古來おほし、よく／＼めのさやをはづして、御用心あるべきことなり、かくいへばとて奸雄をすつるはひがことなり、つかいやうが大事なりといふことにて候、奸雄はたとへば砒霜巴豆などの毒藥のごとし、毒藥にてせむべき實症の痼疾にもちゆれば、其病をいやすしるしすみやか也、そのしるしのすみやかなるを見て、よき藥味なりと心得て、虛症の病者にあたへぬれば、卽時に死するもの也、そのごとく此奸雄も敵をやぶり、賊を擒にする才のたくましきを見て、よき臣下なりと心得て、大官大國をあたへ、あるひは國天下をあづけなどする故に、くにをぬすまれ天下をうばはれ給ふなり、明醫の砒霜・巴豆の能毒をよくしり

て卒爾にもちひざるがごとく、姦雄をもその才と心とをよく看辨して、金銀たから物そのほかそのもののすきこのむものをとらせ、情ふかく禮義たゞしくして、奸賊の心をとげざる様におさむること肝要也、もし大國をあたへ權柄をあづけぬれば、必わざはひをおこすもの也、天子諸侯よく御用心ましますべきことなり、

○躰充問曰、棄用としわきとは、いづれがよくおはしまし候や、

師の曰、きようとしわきとは、財寶をもちゆる大過不及のあやまりにて、いづれもわろし、たゞ棄用にもしわくもなく、中庸適當の用にあたるをよしとす、上てんしより下庶人にいたるまで、財用の工夫一大事なり、つかふべき義理なきにも、むざとつかひついやしあたふべき道なきにもみだりにあたへ、すこしの褒美あるべき忠功に過分の知行を加恩し、家作諸道具以下なにゝつきても分過をこのみ、財寶をおしみたくはへざるを世俗きようといへり、君子淸白廉直の行跡に似たるによつて、凡夫見まがひてよしとほむる也、又つかふべき道あるにもおしみてつかはず、あたふべき義理ありてもあたへず、過分に知行加增あるべき忠功にもすこしの褒美をとらせ、家作諸道具已下分際より見ぐるしく、物たらわずむざとつがひ費さゞるを、世ぞく鄙嗇と云、君子儉約朴素の行跡に似たるによつて、なまがくもんしたる人見まがひてよしとゆるすもの也、しわきもきようなるも、皆明德のくらきところよりおこりたる病にて、天下をうしなひ國をほろぼし家をやぶる根本なり、よくつゝしみて工夫分別あるべし、

○躰充曰、しわくもなく棄用にもなき様には、いかゞ工夫つかまつり候はんや、

師の曰、時と所と位とによくかなひて、相應したる義理を中庸となづけたり、此中庸適當のみを目あて繩規として財寶をもちひぬれば、大過不及のわたくしなきによつて、きようともしわきとも名づけいふべきやうなし、さて工夫の仕様はまづ私欲のけがれをすてゝ天道の義理を鑑とし、時と處とくらゐとによくかなひて、相應するところを分別して、財用の節をかんがへしるなり、さてまた財寶をつかふに公用私用妄費の三事あり、公用は天下のため國のためにな

る道ある軍役公役の造用なり、私用は飲食衣服宮室妻妾、てまわりにさしつかふ臣僕などのざうようなり、妄費はなにの用にもたゝぬなぐさみ一偏の造用なり、此妄費は凡夫ばかりのわざにて君子の上にはなきこと也、中庸不倚の心法をまもりてざいほうをもちゆれば、私欲のけがれすこしもなきによつて、清白廉直にして私用も公用と變じ、同一天理となれり、中庸不倚の心法をしらず、ぼんふの心まかせに財寶をもちゆれば、或はきよう、あるひはしわく、私欲のけがれふかきによつて、公用も私用も皆妄費と變じて同一人欲となれり、よく〳〵體認あるべき事なり、

○躰充問曰、國大名あるひはその家老たる人の第一にあしき疵は、いづれにておはしまし候や、

師の曰、私の一字なり、私なる人はかならず氣隨なり、氣隨なる人は必人の異見をきゝいれず、世のそしりをかへりみず、偏に我心まかせにしてすぎたる事をばあしきことにてもよしととりなし、夜も日もあけざる樣にこのみふけり、わがすかざる事なればよきことをもそしりをとしめて取あげず、あいくちよきものをば小人佞人をもちかずけしたしみ、功なきに知行を加恩し、罪あるにも刑をほどこさず、あいくちあしければ久功忠節のものをもうとみちかづけず、功ありても賞をあたへず、罪なきに刑をくはふるごときの不義不道の作法しをき、みな私の心根よりはびこりいでたる枝葉なり、かくのごとくあれば、國法軍法みなみだれて終にその國ほろぶるもの也、かりそめにも氣隨の念おこる時は、我身をうしなひ國をほろぼし、家をやぶる魔心なりとおそれつゝしむべし、

○躰充問曰、諸侯卿大夫の第一に守りおこなひてよき事はいかゞ、

師の曰、謙の一字なり、我くらゐたかきにおごり、自滿する魔心の根をたちすて、義理の本心をあきらかにし、かりそめにも人をあなどりかろしめず、慈悲ふかく萬民をあはれみ、諸士に無禮をなさず、家老出頭のいさめをよく聞入、我智恵をさきだてず、善をこのむ事は好色をこのむごとく、惡をにくむことは惡臭をにくむごとくなるを謙と云也、大舜は大聖人なれどもかりそめの事をも人にとひたづね、賤きものゝ云ことをもきゝいれて吟味まし〳〵て、中庸にかな

はぬをば隱してもちいたまはず、中庸にかなひぬるをばとりあげてをこなひたまふ、孔子このことを擧てかくのごとくなるによつて、大舜を聖神と尊崇したてまつると賛美したまふ、又周公旦はその御子伯禽魯國の主となりて、はじめて國入したまふ時、周公旦戒二伯禽一曰、我文王之子、武王之弟、成王之叔父、我於二天下一亦不レ賤矣、然我一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺、起以待レ士、猶恐レ失二天下之賢人一、子之レ魯愼無三以レ國驕二人一、この聖戒のこゝろは我親は文王なり、我兄は武王なり、當今の天子はわが甥なり、我位は攝政家宰なり、天下に我をこすべきものなく類すくなき尊位也、しかれども一たび髮をあらふうちには、みたびあらひさして髮をにぎりて目見えにきたる諸士をあいしらひ、一たび飯を食するうちには三度くちにくゝみたる食物をはきいだして諸士をあいしらひぬれども、なを天下の諸さふらいにをごりたる無禮のあいしらひありて、賢人のうらみあらんことをおそれつゝしむばかり也、なんぢ魯國へゆきて國をはなにあてゝおごり、無禮にして人をあなどりかろしむる事なかれ、我ごとく愼むべしとおしへいましめたまふ

なり、始に文王・武王・成王をあげて位のたつときことをのたまふは、凡夫のをごりて謙德をうしなふはそのくらゐ貴きゆへなり、しかる故にくらゐの至極たつとき事をあげて、をごるべきところをあらはしたまふ、かほどたぐひなきたつとき位にても謙德いよいよふかく、おごることすこしもましまさねば、ましてこれより下なる位におるものはいふにおよばずといましめたまふ意ふくめり、さて一沐三握レ髮、一飯三吐レ哺、此二句は假說のことばとて、かりにたとへまふくる語なり、謙德はなはだしく至極しておごりの心毛頭なきところをあきらめんため也、眞實にいつも一沐に三たび髮をにぎり、御膳をあがりたまふごとに哺をはきたまふにはあらず、大舜周公その才德は聖人、そのくらゐは天子家宰にてかくのごとくにましませば、末代の天子諸侯まほりおこなひたまふところ謙より大きなるはなき事をあきらかに辨まふべし、しかるゆへに國をおさめ天下を平かにする要領、謙の一字にきはまれり、謙德はたとへば海なり、萬民はたとへば水也、海は卑下なるによつて天下の萬水みなあつまり歸するごとく、天子諸侯謙德を

まほりたまひぬれば、國天下の萬民みな心を歸してよろこびしたがふもの也、天下の賢智愚不肖、ことごとくよろこびしたがふときは、天下はをのづからおさめざるに平か也、されば易經に、天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙とときたまふ、聖謨よく／＼尊信あるべし、

〇躰充問曰、今時の諸士の主君をあまたとりて知行をとりあぐるを立身といひて、手柄にいたし候はいかに、

師の曰、それは士道のぎんみ無案内なるあやまり也、才德ありて忠節をつくし、軍功をはげみて位をあがり知行をとりあぐるが眞實の立身にて士のてがらなり、才德もなく忠節もなく軍功もなくて、よき最負をかさにきて術を上手にもてなし、主かずをかぞへて身上をしあぐるをば、商立身と云て、あき人の門をかぞへて直をたかくうりつくるにたとへたり、士道をすこしにても心得たる人は、はぢにくむべき事なれば、てがらとは云がたし、立身の心がけ商人の利心のごとく、貪りきたなく義理をまほらざる心にては、何の用にもたちがたかるべし、かやうの士を崇敬ありて用にたちたるためし、もろこしにも我朝にても古來なき事なり、しかるに諸大名衆かの商立身のてだて上手なる人をよき士と心得て、過分の知行にて拘たまふは、さだめて國をおさめ軍を行たすけとせんとの思ひ入にて候はんか、左樣の御こゝろざしにてましませば、諸葛孔明のくさぶきの陋巷へ蜀の先主の自身三たびまで幸なりてよびいだし給ふに似て、その御心根は一段殊勝に候へども、人品のぎんみおろかにして、過分の知行をすてたまふのみならず、士道のさまたげとなり諸士の風これによつて日々にきたなくなりゆくこと、あさましくなげかし、

〇躰充曰、諸大名衆道なきわたり、奉公人を崇敬ましますにより、士の風きたなくなりゆく子細はいかに、

師の曰、心學をよくきわめたる士は、義理をかたくまもりて邪欲なければ、世間の作法にあやかる事なし、心學のみがきなき士はよこしまなる名利にふけるもの也、今時のさふらい心學のみがきなきものばかりなれば、商立身の上手なる士の時めくを見きゝてうらやみあやかり、我も／＼とまねをするにより、次第に風きたなくけがれて、士道のぎんみをば古風にて

時にあはずなど云て心がけず、あさましき作法となりゆきぬるは、むざとしたる手くろ士を大名衆の崇敬したまふ故なり、主君の政だによろしければ、その國の諸士人ごとにみな義士勇士となる事倭漢ともにそのためしおほし、しかるに久功の諸士をば疎略にもてなし、故なき術士をいまめかしく崇敬したまふは、物體なきことなるべし、

○躰充曰、左候はゞ忠臣二君につかへずといへるごとく、主君一人にならでは奉公せざるが正しき士道にて候や、百里奚は虞の國をさつて秦の穆公につかへられたり、しかるを孟子賢者なりとゆるしめされたれば、主君をかへて奉公するを士道にあらずと被レ仰候は、かたむきなる評判にて候はんか、

師の曰、それはもつてのほかなる心得ぞこなひにて候、百里奚のごとく心いさぎよく身おさまりて、名利の欲心なく其境遇の勢やむことを得ずして、主君をかへて奉公するは、古來たゞしき士道なり、只その心けがれて身おさまらず、立身の欲心をのみ宗として何のすじ道もなく、事勢のやむことを得ざるにもあらで、主君をかぞへて貪りまわるは、士道にあらずとの評判にて候、百里奚はもと虞の國の臣下なり、虞の君不義のおこないありて、たちのかでかなはざる事ある故に、已ことを得ずして虞を去て秦の國へゆかれたり、この時とし既に七十になりぬ、秦の穆公その賢をきゝおよびて、よびいだしめされたるによつて事へめされたり、主君をかへて奉公するところは、わたり奉公に似たれども、その心と作法とは、天地懸隔なり、しかるをおなじ口にてとりさたせんは、無下にあさまし、主君をかへたるを必たゞしき士道と定めたるも、また主君をあまたかゆるを正しき士道とさだむるも、皆跡に泥みたる僻事也、心いさぎよく、義理にかなひぬれば、二君につかへざるもまた主君をかえてつかふるも、皆正しき士道也、そのをこなふ事はともあれかくもあれ、只その心いさぎよく義理にかなふをたゞしき士道也と得心あるべし、

○躰充問曰、士道のぎんみは、いかゞ仕りたるがよく候や、

師の曰、むかし齊王の子墊と云人孟子にあふていはく、四民のうち農工商賈をの〳〵みなその所作あり、今の士を見るに酒嚢飯袋といへるごとく、輕暖の衣

服をきて甘美の酒食にあけるのみにて、さしてつとめはげます所作は見えず、士たるものは何事を所作とするものにて候やとゝはれたり、孟子の曰、農工商賈はちからを勞して人をやしなふを事とし、士より上は心を勞して人をおさむるを事とする故に、明德をあきらかにして仁義をおこなふが士の所作なりとこたへたまひけり、しかる時は、儒道がすなはち士道なれば、眞儒の心學にてぎんみしたるがよろしく候、さなくては吟味正眞の義理にあたらぬものなり、近代甲斐の信玄は文學をもめされて、隨分ぎんみつよき大將なり、しかども眞儒の心學なきによつて、軍鑑のぎんみ正眞の義理にあたるはすくなし、よく〱體認あるべし、

○躰充曰、武篇のたしなみばかりを士道なりとこそぞんじ候へ、明德をあきらかにして仁義をおこなふを士道なりとおほせられ候へば、世けんに士道を心得たるさふらいは古來まれなるべし、しかはあれどむかしも今も士の道も立、くにもおさまり候へば、むかつしき心學は、さしていらざる事にて御座候はんか、

師の曰、盜跖といへる盜は、世けんにぬすみにましたるよき事なし、堯・舜・禹・湯の仁義だては無益の事なりと高言せしとかたりつたへしもあれば、まよへる凡夫はさやうの心得も尤なり、しかれどもそれは明德といひ仁義と云名になずみて實にまよひたるふしんなり、明德仁義はわれ人の本心の異名也、此本心はいのちの根なればいきとしいける人げんに、明德仁義の心なきは一人もなし、親を愛するは仁なり、君に忠節をつくすは義也、此孝忠の心をあきらかにして、正しくおこなふを明德をあきらかにし、仁義をおこなふといふ、これをまなぶを心學と云也、武篇は孝忠の一色にして、孝忠の心眞實なれば、必ぶへんつよきものなり、此ことわりをわきまへぬれば、武篇のたしなみばかり士道にして、仁義をおこなふは士道にあらずといへるまよひあきらめやすし、そのうへ親にそむき君に謀叛して惡逆をもつはらとして、士の道もたち國もおさまりぬる事、むかしも今もそのためしなければ、仁義の道をすてゝ士の道もたち世もおさまりたるなどいへるも片腹いたきことなるべし、さてまた仁義の道にそむきて、欲のためにはたら

く勇はむほん人ぬす人にしてぶへんにあらず、しかるを何の吟味もなく、いかつにたけく腕だてをして人をころす事をこのむを、ぶへんのたしなみと心得ぬるは、あさましくなげかしきことなるべし、

○躰充曰、おほせ候理り尤にては御座候へども、つねづねいかつにたけく腕だてのたしなみなく候はゞ、武用ぬるく候はんかと存候はいかん、

師の曰、あるひは合戰の場、あるひはぶへんをはたらくべき時には、たけきふるまひなくてかなはぬ事なれども、平生無事の時は詮なき事也、戰陳のためにとて平生無事の時、つねぐ〵たけきふるまいをたしなみぬるは、湯の丶みをきとやらんおろかなるたしなみなるべし、たとへば軍陳のたしなみにとて、平生はなさず具足冑をきるがごとし、そのうへ武藝をならひ軍法をまなぶは、ぶへんのたすけなれば常のたしなみ尤なり、いかつにたけくうでだてをたしなみ、人をころす事をこのむは、武篇のたすけになるものにあらず、却てぶへんのさまたげとなるべし、その子細はいかつにたけく腕だてをたしなむ人は、必人をあなどりかろしめて、あらそふ心はなはだしきによつて、必喧嘩の犬死をなし、親にうれひをかけ主君の知行をぬすみて淺まし、たとひ喧嘩のはたらきけなげなりとも、かみあひのつよき犬にことならず、心あらん士ははぢおそるべき事なり、つねぐ〵ものやはらかにして、いかつにたけくうでだてのたしなみなくても、孝忠の心だに眞實なれば、必ぶへんつよき證據は、むかし楊豐といへる人のむすめ、楊香とし十四の時、父にしたがひて山田を刈いけるところへ、虎ひとつきたりて、楊豐をくひころさんとせしを、湯香はしりかゝり、彼虎の頭にいだきつきて、父のいのちをたすけたり、この楊香はとし十四になれる女なれば、いかつにたけく腕だてのたしなみなく、柔輭なる事勿論なり、しかれどもとらを手うちにしたるは、樊噲にもおとらぬ武篇なれば、いかつうでだてのたしなみはせんなくして、孝忠仁義のたしなみ簡要なる事をわきまへ知べし、されば楊香かくのごとくの武勇は、ただ父をふかく愛する一念の仁よりはたらくところなれば、孝行忠節の心だに眞實なれば、たれ人も必ぶへんつよき理りあきらめやすし、是にて仁義の勇の端的をよく體認あるべし、

翁問答卷三終

翁問答卷四（原本、下卷之末）

○躰充曰、狂者と申はいかやうなる人にて候や、
師の曰、狂者は道體の廣大高明なる所をば悟といへども、いまだ精微中庸の密に悟入せざるによりて、見性成道の心術粗糲迂濶にして、修行異相に逸狂なるものなり、大唐にては許由・巣父・牧皮・曾晳子・桑戸・莊子、天竺にては釋迦達磨など勝れたる狂者なり、人の生付しなかはるによりて、道學して見性成道する位に上中下の三段あり、中行は聖人の下亞聖の大賢なり、これは三段のうちにて第一段上の位也、狂者は中行の下第二段中の位なり、第三段下の位は狷者なり、學問しても此三段の位にいたらざるは俗學といふものなり、よく／＼體認すべし、
○躰充曰、おなじく狂者にても巣父・許由・曾晳などは、その敎の世につたはらざるに、釋迦達磨の敎はその生國のみならず、大唐日本まで流布仕は、何たる故にて候や、
師の曰、よきふしんにて候、古來此ことはりを分明に

ときあきらめたる人まれなり、たとへば聖人は日のごとし、狂者は星のごとし、ひるは日の光つよきによつて、星ありといへどもその光見えず、夜に入て日光てらしたまはねば星の光あきらかなり、そのごとく許由曾晳などの時代には、堯・舜・孔子の日の光午時と輝故に、狂者の敎ありても白晝の星のごとくなれば、信仰して受用する人なきによつて、狂者も敎をひろめんと思ふ意なくて、敎の法をたてず、しかる故に末代へ傳ふべき法なし、すでに聖人の日の光かくれたまひ、やみの夜となりたる戰國にいでられたる莊子は、その狂見をたくましくふるまひ、人におしえ書をあらはして、大唐の狂者の敎の始となれり、しかれども聖人の日の光かくれたまひていまだほどゝをからぬ故に、その星の光甚しからず、これにて聖人の日の光なきやみのよには、狂者のほしのひかり輝ことを考しるべし、大唐には聖人あまた出たまひて、三才一貫、中庸精微の敎さかんにおこなはれたるさへ、その日の光かくれたまひたる後は、莊子のごとくなり、まして天竺には終に聖人一人も出たまはず、開闢より釋尊の時分までやみのよの戎國なれば、釋尊狂見の敎を衆生信仰すること尤なり、天竺に聖人の至敎なきによつて、三才一貫、中庸精微の密に悟入することあたはず、只その廣大高明一偏の悟を大覺明悟なりとおもひ定、天竺戎の風俗によつて敎の法を立て、衆生を敎化めされたり、さてまた大唐も戰國の後は氣運否塞によつて、聖人大賢出たまはず、とこやみのよとまよひたる時節に、天竺の狂者釋迦の法始て大唐へ入てひろまりたり、聖人の日の光午の時と輝時節ならば、中々ひろまるまじ、その證據は許由曾晳にて考知べし、さてまた日本より大唐へ通路初りたる時分、大唐に佛法ひろまりたる最中なれば、うけきたりて日本にも流布したり、元來釋迦達磨の法を立めされたる心根は、衆生のまよひてあさましきていをあはれみかなしびて、色々さまぐ\の寓言を立、勸善懲惡のためなれば、一段殊勝なれども、その德狂者なる上に、天竺戎の風俗をもとゝして立たる敎の法なるによつて、逸狂偏僻なることばかりなり、その上すゝむるところの善、眞實無妄の至善にあらず、三才一貫、中庸精微の至道にそむきて、人極のさまたげとなること多し、聖人中庸の法さへ迹になづみぬれば、人極の

さはりとなるものなれば、まして狂者偏僻の法を迹ばかりを專らと取おこなふによつて、元來釋迦・達磨の心ねは勸善懲惡のためなるべけれども、末流には善をやぶり惡をすゝめ、人の心をまよはしぬること淫聲美色のごとし、これみな末代その流をくむ比丘のあやまりと云ながら、本來狂者の見ル所純熟せざるによつて、その敎法粗糲迂濶なる故なり、釋迦も達磨もすぐれたる狂者なれば、聖人にあひめされたらばかならず中庸精微の密に悟入して、中行の位に至めさるべし、たとひ中行にいたりめされずとも、許由曾晳などのごとくにありて、かく世をまどはす敎の法をば立めさるまじ、聖人出世ましまさぬ戎國に生出て、その法のひろまりたること幸に似たる不幸なり、

○躰充曰、大唐と天竺とは十萬里隔りたりと承候、そのうへ釋尊の作法と大唐の狂者の作法とはちがひたる所おゝく候へば、おなじく狂者とは申がたく存候いかが、

師の曰、ことばと作法とにて吟味評判するは、心盲の凡夫のわざにていとあさましきまよひなり、國のちがひ作法ことばになずむ心のくらさにては、中々道の得心儒道佛道の差別を辨らるゝ事は成べからず、先あとに泥ずして心をよく觀察する理をあきらめらるべし、國所世界の差別いろ〳〵樣々ありといへ共、本來みな太虚神道のみちに開闢したる國土なれば、神道は十方世界みなひとつなり、しかるによりて國隔りぬればことば風俗はかはるといへども、その心のくらゐは本來同一體の神道なるによりて、唐土も天竺も我朝も、またその外あるとあらゆる國土のうち、毛頭ちがふことなし、かくあるゆへに、本心の眼あきらかなる哲人は、所によりて品かはる迹をすてて、何國もかはらず同一體なる心をもて評判するなり、惣じて聖人も賢人も狂者も狷者も一心にての見性成道なれば、その心をよく觀察してその位を定なり、莊子と釋迦達磨とことば作法はちがひたれ共、その心の見性成道はおなじくらゐなるによつて、狂者と云佛と云名はちがひぬれども、見性成道の心の位はひとつなり、天竺にて佛如來とあがめ貴ぶ人の心の位は、大唐にて狂者となづくる中行より下の人の心の位なり、難波のあしは伊勢のはまをぎといへる諺の意なりと得心有べし、

○躰充曰、見性成道の心の位を觀察すること、中々凡夫のおよびがたき所なり。いか樣なる學問にてわきまへ知べく候や、

師の曰、目にて物を見るに、高ところより下を見おろすことは見易して分明なり、ひきゝ所より上を見あぐることは見えがたくして分明ならざるものなり、心にて心を觀察するもかくのごとし、聖賢の心より狂者・狷者・凡夫の心を見たまふは、日月の萬物をてらしたまふごとくなり、狂者・狷者・凡夫の心にて聖賢の心をうかがひ見るは、谷にとぼせるたひまつにて峯を見るにことならず、しかる故に眞儒の心學の外の學問にては、中々わきまへ知ことなるべからず、唯眞儒の心學をよく切磋琢磨して、大覺明悟の位に至りぬれば、莊子・釋迦・達磨などの心を觀察すること、白晝に黑白をわかつごとくなるべし、莊佛の學問をきはめたる分にては、聖賢の心をわきまへしること、富士のふもとよりその巓を仰見るがごとくなり、しかる故に釋尊の流をくむ人に隨分聰明なる人あまたあれ共、偏に我堂の佛たうとしとまよひて、或は佛法小乘のあさき敎が儒道の極上のふかき說にこへましたると云、或は釋尊は大聖、孔子は小賢なりと云、或は佛法は內典聖敎なり、儒敎は外典俗書なりと云、或は儒敎は外道なりなど云て、世をまどはし人をたぶらかしぬ、まことにめくら蛇におぢざるまよひふかき心にて、あたまに口のあきたるまゝに、世に人もなげに議するはその道の元祖、釋迦達磨の心にもそむきたる理をしらず、いとあさましく、我慢邪慢なるたはことかたはらいたきと云ながら、あはれになげかしき事なるべし、歷々聰明なる人のかく道をとりまがふことは、敎の法中庸にそむきたるによりて、其立法の心根はよしといへども、末流をくめる學者理味をかみちがへて、皆峯へのぼるとて谷へ入ごとくなる故なり、物我をあらそひかたんとおもふ我慢の魔心をはらひすて、儒と云佛と云名をわすれて、本來至誠無息不貳一貫の心學をつとめて、太虛廖廓の神道をさとりぬれば、何のうたがひもなきものなり、

○躰充曰、先生の敎を承候へば、佛は聖人より二位ほどしたなる見性成道なり、しかるに佛者曰、我遣三聖化彼眞丹と云經文あり、此文の意は、釋尊の佛力をもて佛弟子三人を大唐へつかはし、老子・孔子・顏子三聖

人と化身させて、大唐の衆生を化度したまふと云儀なり、此經文にて見れば、孔子顔子も皆釋尊の御弟子なり、加樣の因縁をわきまへずして、孔門の儒者みだりに佛法をしりぞくるは、さたのかぎりなりと高ぶりてあざけり候、何とぞ加樣なる因縁もあることにて候や、

師の曰、それはかたいぢにひがみたる沙門、佛學ばかりをきはめて、井のうちの蛙大海をしらずといへる諺のごとく、佛道より上なる道なしと自滿十分なるによつて、儒者の佛法を斥るをいかりて、我慢の邪心甚しけれ共、道理のさたにて云かつべき覺悟なきによつて、つくりごとをして釋迦におふせて、儒者の斥るをふせぐものなり、釋尊はすぐれたる狂者なれば、かやうにきたなびれてあらそひそねむ心は中々あるまじきに、淺ましきつくりごとをして、釋尊を、へをい比丘とすること、誠に釋尊の罪人なるべし、さてそのつくり言のすじなき子細は、人間の生出こと父母のわざのごとくなれども、父母のわざになることにあらず、太虛皇上帝の命をうけて、天神地祇の化育したまふところなり、しかるに此神理をわきまへずして釋尊の佛力をもて佛弟子を大唐へ遣し、孔子と化身させめされたるなどといへるは、片腹いたきつくりごとなるべし、佛者のうちに佛像をつゝる細工のたくみなる人古來多ければ、釋尊の御作の木像ありなど云はさもありなむとも云べきが、釋尊の佛力にて生身の人をうみいだせるなどいへるは水にて物をやくと云にことならず、その上釋尊妙覺の位は、大唐の狂者の位にて、孔子よりはるかにをとりたる見性成道なれば、釋迦の弟子の化身とは云がたし、惣じて佛書は皆寓言にてかきたるものなり、その愚民をたぶらかす寓言の筆法をならゐて、儒道をしりぞけんとおもへる沙門の心根、おろかにいと淺まし、これのみにあらず、我慢の邪心ふかくて種々のつくりごとをなし、或は儒書の文義の皮膚ばかりをまなび、骨髓の理味をば露もさとせずして、妄に儒佛の淺深高下、權實内外の差別を立、佛を尊信し儒をそしりいやしむ沙門、古來そのかずをしらず、これ皆他人を貴び愛してその親をいやしみにくむにひとしき凡心のまよひにて、天に唾はくよりもおろかに淺ましきことなり、その子細は天神地祇は萬物の父母なれば、太虛の

皇上帝は、人倫の太祖にてまします、此神理にて觀ば、聖人も賢人も釋迦も達磨も儒者も佛者も我も人も、世界のうちにあるとあらゆるほどの人の形有ものは、皆皇上帝・天神・地祇の子孫なり、さてまた儒道はすなはち皇上帝・天神・地祇の神道なれば人間の形有て儒道をそしりそむくは、其先祖父母の道をそしりて其命をそむくなり、まへにも論ずるごとく、我人の大始祖の皇上帝大父母の天神地祇の命をおそれうやまひ、其神道を欽崇して受用するを孝行と名づけ、又至德要道と名づけ、また儒道と名くこれを敎を儒敎と云、これを學を儒學と云、これをよく學て心にまもり身におこなふを儒者と云なり、もとより釋尊は道の大意をさとりたる狂者にて、すでにみづから其父淨飯の棺をになひ、梵網經には孝順至道之法と說ぬされて、孝行にくらき人にあらざれ共、孝德の全體精微の密には悟入なきによつて、中行の位にのぼりめさるゝことあたはず、もし儒道を聞めされたらば、かならず尊信受用有べきこと、孝順至道之法と說、その父の棺をになひめされたるにておしはかるべし、しかるにその流をくむ末代の比丘、我慢の邪心たくましくてその親をそしるよりも物體なき理をわきまへず、くちにまかせて儒道をそしりゐるは、無下にあさましきまよひなるべし、

○縣充曰、巢父許由は狂者なれ共、堯舜これをしりぞけたまはず、曾晳原壤も狂者なれ共、孔子これをしりぞけたまはず候間、釋尊も狂者にて候はゞ、佛法をもしりぞけひらくべき理なし、しかるに程子曰、老佛皆是正路之蓁蕪、聖門之蔽塞、闢レ之而後可二以入一レ道、又曰、佛氏之言比二之楊墨一、尤爲レ近レ理、所三以其害爲二尤甚一、學者當下如二淫聲美色一遠上レ之、不レ爾則駸々然入二於其中一矣、朱子曰、異端虛無寂滅之敎、其高過二於大學一而無レ實、又曰、至二於老佛之徒出一、則彌近レ理而大亂レ眞、又曰、程夫子兄弟者出、得三有レ所レ考以續二夫千載不傳之緒一、得三有レ所レ據以斥二夫二家似レ是之非一、かくのごとく甚しくしりぞけひらきめされたるは、何たる故にて候や、

師の曰、巢父・許由・曾晳・原壤などは、堯・舜・孔子の日のひかりつよきによつて、その狂見の敎をひろめて世敎のさまたげとならず、其上惟狂克念作レ聖の人なるによつてしりぞけたまはざるなり、程子朱子の時に

は儒道くらくて佛法盛にひろまり、末流の比丘みだりに意見にまかせくちにまかせて、釋尊の本意にもそむきたる造言をなし、法をたてゝ世をまどはし人を誑し、すゝむるによつて、やむことをゑずしてかくのごとくしりぞけひらきて、天下後世のまよひを解あきらめめされたり、すなはち孔子原壤の脛を叩て爲ㇾ賊と責たまふ意を祖述して、擯退めされたれば據どころなきにあらず、佛氏の流をくむもの許由曾晳などのごとく、我心にのみ狂見をまもりて世敎をさまたげずば、程子朱子もさのみしりぞけひらきめさるまじ、君子は仁孝の心切なる故に天下を汚濁におぼらし、人倫を禽獸の域にひきいれぬるをあはれみなげきて、はなはだしく擯斥めされたり、佛者の勝むことをこのむ邪心にて、儒道をそねむがごとくなるにはあらず、

○翀充曰、釋尊の敎の法を立めされたる本意は、勸善懲惡のためなり、其上道の大意を悟たる人なれば、其敎の法さほどに世をまどはし人を誑し、禽域におとしいるゝことは有まじきと存候いかゞ、

師の曰、不審尤に候、易學をよくきはめざれば、合點成がたき處なれども、その皮膚の大意をかたり候べし、子曰、差ㇾ之毫釐、謬以二千里一との聖謨の意は、心法の立やう毛頭たがひぬれば、その議論行跡のあやまり千里のちがひとなると云義なり、しかる故に先悟をひらく精粗生熟高下心法の立やうの差別を明に辨ざれば、儒佛眞妄のわかち知がたし、夫人間は迷悟の二にきはまれり、迷ときは凡夫なり、悟ときは聖賢君子佛菩薩なり、その迷と悟は一心にあり人欲ふかく無明の雲あつく、心月のひかりかすかにして、やみの夜のごとくなるを迷の心と云なり、學問修行の功つもりて人欲きよくつきて、無明の雲はれ心月の靈光あきらかにてらすを悟の心と云、此悟の心を佛經に無心・無本佛・妙覺佛・化身佛などゝ名く、また無礙淸淨位と云、前かどに論ずる高明廣大の道體をさとる狂者の心の位これなり、かくのごとく悟たる心の無欲無爲自然の靈覺を眞心と定、眞性と定靈性と定、佛心と定佛性と定、これすなはち釋尊達磨の心法の端的なり、三大乘の觀念千七百則の公案、皆この端的に約れり、此無礙淸淨位無心無念の本佛は、不思議の體にして、毫髪の按排をいれざる處なれども、儒敎には

此無礙清淨の位の上に不思議神通の力をもて、神理靈氣不二の二、不一の一を明辨して、一段向上精一の神化あり、此神化の後を聖人と名く、至極天眞艮背敵應の位なり、此神化の結胎純熟半なるを亞欲の大賢と名く中行位なり、中行は無欲無爲自然の眞心無礙清淨の位の上にて、至妙天眞艮背敵應の聖胎をむすぶによつて、その議論行迹聖人にたがはず、これを大一天眞の神道と名く、許由・巣父・曾晳・莊子・釋迦・達磨などは、無欲無爲自然の眞心をあきらかにし、無礙清淨の位に至てこれを至極の中道山頂なりと定、至妙天眞艮背敵應の聖胎をむすばざるによつて、その心無欲無爲清淨自然なれ共、その應事接物の議論行跡猖狂妄行にして、聖人艮背敵應の天眞にそむきたり、天眞にそむくといへども、無欲無爲清淨自然の心なるによつて、惡と云べきにもあらず、惡にあらざれども天理にかなはざれば、天眞にもあらず、無欲の妄行と云ものなり、聖人これを狂者と名けたまふ、狂の字に眼をつけて觀察すれば、無欲の妄行の義いはずして分明なり、つら〳〵體察するに、佛者は元氣の靈覺をさとりて至極と思、元神の靈覺をさとらず、唯無欲無爲自然を心法として、元氣の靈覺に任する故に、其心粗濶にしてその行跡狂妄なり、儒者は理を窮性を盡し、命に至を心法とすれば、無欲清淨無爲自然無礙のことは云におよばず、專元神の靈覺に率ふ故に、其心精妙にしてその行跡中正なり、儒者悟レ道則其心愈細、禪家悟レ道則其心愈粗と、樂軒の發明めされたるも此意なり、元神元氣は不二の二不一の一にしてまことに毫釐のたがひなれども、其議論行跡のあやまりは千里よりもとをし、しかるによつて其敎法勸善懲惡のためなれども、そのすゝむるところの善、皇極の至善にあらず、こらしいましむる所の惡と名くる惡のうちに、眞實の惡にあらざるあり、不婬の類これなり、釋尊十九にて天子の位をすて山に入、三十成道の後人間本分の生理をいとなまず、或時は乞食し人倫を外にし人事をいとひすて、種々の權敎方便說をときて愚民を誑誘めされたること、皆これ無欲無爲自然清淨の位を極上と定、元氣の靈覺にまかせたる毫髮の差よりおこりたる無欲妄行の誤なり、その流をくめる末代の比丘、釋尊妙覺の眞性、無礙清淨の位をその心地に悟得ことをば務ずして、徒に釋

尊無欲妄行のあとをにせたるばかりなれば、我慢の邪心凡夫よりもふかく、高言をたくみにし辨舌をたくましくして、かりそめにも勝ことをこのみ愚民を誑し、すゝむるをもて務とし、おなじながれをくみながら我慢の偏執を立て互にそしり爭こと、貪夫の畔を爭よりも淺まし、しかる故に佛者は太虚を超出すれば、貴ことならびなきによつて、父母兄長をも崇恭する理なしなど云て、其父母を拜せず、父兄をうやまはず、黄檗禪師の母をころせるを眞實の大孝なりとほめ、或は三綱五常の道は今生幻の間のいとなみにして、菩提の種とならずなど〻誑誘し、或は主親をころしたる極重の惡人にても、念佛の功力にては必極樂淨土へ往生するなど〻敎誨せり、其外いろ〳〵さまざまにことばを巧にし、寓言をつくりて人心をまどはし、禽域へひき入、世敎のさまたげとなる事擧てかぞへがたし、かくのごとくなるはよくまなばざるの過、末流の比丘の罪なりといへども、根本は釋尊無欲の妄行よりおこりたるものなり、釋尊の心地無礙清淨の位はよしといへども其妄行の天眞のさはりとなる法をばしりぞけひらかで、かなはぬ事なり、むかし原壤といへる狂者は孔子の舊友なり、後に原壤狂見たくましくしてしりぞくべき妄行あり、孔門の諸賢絶交ましますべきことなりと疑ありけれ共、孔子故者毋レ失二其爲レ故也とのたまひて、終に交を絶たまはず、交をば絶たまはざれ共、原壤夷俟ときは爲レ賊とのたまひて、つきたまへる杖にて原壤の脛をたゝきいましめ責たまふ、此聖行の御本意を愼て考見るに交を絶たまはざるは、吾不下得二中行一而與上レ之必也狂狷乎とのたまふ意なるべし、脛をたゝきたまふは妄行のあやまりをさとらしめ、中行の位へ誘掖なされんとの不屑の敎誨なるべし、されば洙泗の流をくめる眞儒は此聖謨を憲章して、釋尊の心をば好し、其妄行をばしりぞけひらきて、靈山の糟粕に醉てたはことつける沙門を敎化して、儒門艮背敵應の學者となすべきこと仁民の一端成べし、

○躰充曰、元神元氣通一不二の端的にて候はゞ、狂者もすでに無礙清淨の位に至たる心なれば、元神の端的をもさとりめるさべき事と存候いかゞ、

師の曰、聖人は生知安行天と同體なるゆへに、をのづから元神元氣一貫の妙用活潑々地なり、大賢より下

の人は、學問修行をもて悟をひらくものなれば、その見性成道の段々階級のごとく次第あるによつて、中行の悟ところをば、狂者はいまださとり得ず、狂者のさとるところをば狷者はいまだ悟得ざるものなり、たとへば山へのぼるがごとし、ふもとより峯頭まで皆山の一體なれ共、其巓へのぼり得ざれば、峯頭の草木を明細に見分ことあたはず、そのごとく、元神元氣皆おなじく一心なれ共、兼山の頂上に止得せざれば、元神の靈覺をさとり得ことあたはず候、

○躰充曰、左様に候はゞ中行にいたらざるうちに、儒門の學者も佛家の學者もおなじことにて候や、

師の曰、その心の位意馬の奔走は、初學の間はおなじけれ共、その修行の道は眞妄各別なり、たとへば山にのぼるがごとし、儒門の學者の力行する道は、峯まてよく通じぬる定たる道をのぼるがごとし、平常不易の道なる故に是を天眞と云なり、佛家の學者の修行する道は、山八分にきれとありて、峯頭まで通せざるすじののぼるべき道なき所を、木かやをわけてのぼるがごとし、嶮岨にして道なく人間のとをらざる所なる故に、これを妄行と云なり、初學の間心の位のちがはざるは、山をのぼるみちのほどおなじければ、その高下のろくなるがごとし、しかれ共あし下の道、眞にしてのぼりやすきと、妄にしてのぼりがたきとは各別なり、よく〳〵體認あるべし、

○躰充曰、五戒と五常と名はちがひたれ共、心はおなじものなりと佛者のいへるは、きこえたる樣に存候いかゞ、

師の曰、それはしらぬ京物がたりと云ものなり、夫五常は天神地祇の大德、人生の天性にて、佛氏の極上と尊ぶ妙覺の佛性よりも一位ましたる無上無外の天德なり、しかるを一事になづみて、偏にひがみたる五戒の法とおなじことゝ云は、金と鉛は名はちがひたれ共おなじかねなりと爭ごとくなれば、その分辨は論ずるにおよばぬ事なれ共、心學をよくしらぬ人はまよへることもあるべし、仁者の人を殺ことを嗜ざるを見て、天理眞妄の差別をわきまへず、不殺を仁の全體なりと心得て殺生戒を仁なりといふ、是に似たる非と云ものなり、夫仁は天神地祇の人物を發育したまふ神道にして、人間慈愛の神理なり、もとより親レ親仁レ民愛レ物生理の時にそむきては、一草一木をも

きらざるは仁者の常なれ共、天道をおそれず惡逆をして生理をそこなふ科人をばころすをもて仁とするなり、殺と不殺との事になずみて仁不仁を論ずるは愚癡なる凡夫の心得なり、殺べき罪科なくてころすは本より不仁なり、殺べき罪科ありてころさゞれば神道の生理をそこなふによつて、科なき者をころすとひとしき不仁なり、しかるに今佛氏の殺生戒は、のみしらみをもころさゞる法なれば、まして人間をば主親をころせる惡人にても宥て不レ殺を本とす、これを仁に似たる不仁、善に似たる惡、是に似たる非と云なり、かやうのにせものをもて正眞の神理にくらべられ候はんや、偸盜戒を義なりといへるは可なり、しかれ共義は天德の利にして、人間果斷の神理天下の故に感通して天下の務をなす本なれば、不盜の粗迹一いろをもて高明廣大の義なりと云は、みかみ山を富士山なりと云にことならず、邪婬戒を禮なりと云に似たり、しかれども禮は天德の亨にして、人間恭敬樽節の神理天下の故に通じて、上宗廟朝廷より下民間に至まで、人倫の交冠昏喪祭飮食軍陳等、萬事の天理儀則を履をこなふ主宰なれば、不邪婬一色を禮なりと云は、一勺の水を大海なりと云がごとし、その上いましむるところの邪婬天理の眞にかなひがたし、子細はその妻一人の外をば、おしなべて邪婬とするは、死法と云てかたつまりたることなり、儒道の法には庶人ばかり妻一人の定なり、天子より士まではその位々分々相應によつて后夫人世婦妻妾の員數自然の天則ありて、妻一人の定にあらず、子細は根本子孫相續の道なれば、婦人に子のなきものある故也、もとよりその位々の員數の外は邪婬なり、その員數に定たる妻妾にても、交まじき時に交をば邪婬と戒むるなり、時に相應したる義理にしたがふを法の眼とするなり、これを活法と云なり、さてまた出家は不婬と戒たり、これはすじもなき妄法と云ものにて候、飢渴の人に飮食を戒むるにことならず、しかる故に末流の比丘婬欲こらへがたきによつて、男女和合のとなりなればにや、大便道をほり出して無陰陽の地不和合の處にて、執著の煩惱なしと例の家のへりことを巧にし、旦那を罔して色欲のかはりとし、おさなき人を女の形に似せて、兒喝食など云て和尙上人の妻となせり、まことに淺ましきとも中々言語道斷なり、元

來不婬戒の法、天理にそむきたる法なるによつて、末流かくのごとく畜生にもおとりたる作法となるなり、文殊の始て此道を開闢めされたるなど、佛者の言ならはすことなれ共、文殊はすでに菩薩の果を得たる人なれば、かくあさましき欲心はあるまじき分明なり、例の家の造言なるべし、夫婦の別は本來智に属したるものなり、しかるを禮なりといへるは、儒道無案内なる故か、または飲酒戒のあて所なき故かなるべし、妄語戒を信なりと云るは可也、しかれども信は天德の至誠人間眞實無妄の神理、五常百行の根本にして、自レ古皆有レ死、民無レ信不レ立とのたまふほど、廣大親切無類なる天性に、不妄語一色をおしあつるは、九牛の一毛を全牛に當るにことならず、飲酒戒を智なりといへるは心得がたきことなり、さだめて凡夫の酒に酣醉して心くらく、威儀亂たるを見て戒たるにて候はんか、それは飲者の誤にして酒のとがにはあらず、たとへば食にむせたる人の食をいむにことならず、不レ及レ亂の儒法に從て酒を用なば、賓主の歡を合肌膚をうるをし氣血を活し、百藥の長とも云べし、その上祭祀必用のものなれば、偏に禁制すべきものにあらず、事の是非をよくわきまへしるを智とす、かやうに偏にひがみたる戒をたもちて、智者と云べけんや、その上智は天德の貞にして、人間是非の靈明衆理を妙にして、萬物を宰する神理なれば、飲酒戒を智なりと云は、石を玉なりと云にひとし、かくのごとく似て似ぬことをおなじものなりといひて、眞妄をみだるは愚癡なりといわんや、我慢ふかきとやいはん、惣じて佛者の法は大かたは邪僻なり、間に道理にかなひたるもあれど、かたくとりとゞこをりて泥によつて、死法となりて受用するもの、皆其法に繫縛せられて無下に淺まし、

○躰充問曰、佞人とはいかやうなるものを申候や、

師の曰、心ねぢけてくろの上手なる者を佞人と云、才智たくましく藝能文學人にすぐれ、辨舌達し邪欲ふかく義理をまもらず、人をばかすこと野狐のごとく、人をそこなふこと虎狼のごとくなる心根ある者が、佞人の棟梁なり、その虎狼野狐のごとくなる邪心をよくかくして、才智藝能文學辨舌をもて君子のふりにばけなし、人をばかすこと狐の及ぶきはにあらず、しかるによつて凡夫みなばかされて君子なりと

もてはやすものなり、古來此佞人ぎつねにばかされて、天下を亡し國をうしなふ人多し、世間にもてはやす名高き出家諸士其外藝にて身を立るさふらひ、俗儒の中より此佞人狐おゝくばけ出ると見えたり、天子諸侯の御用心ましますべき事也、

○躰充問曰、郷原とはいか樣なる人を申候や、

師の曰、世俗のめくちかはきといへる人を郷原と云、此郷原は機轉利根にして才覺人にすぐれ、何事を裁判してもうとからず、孝悌忠信をつとめ、行廉直無欲をたしなみ、殘所なき樣に見ゆれども、その志唯當世の人のほむる所の名と、其主君に獲られて立身する利とをもとむることを專として、義理をも法をもかへりみず、名利の欲泥にきたなくけがれたる心根なるによつて、孝悌忠信の行廉直無欲のたしなみ、輕薄にして根にいらず、ひよりを見てわるければ、孝悌に似て眞實の孝悌にあらず、廉直無欲に似て眞實の廉直無欲にあらず、心に義理を守らずして利害の分別利根なるによつて、多分武道にぶきものなり、利根なる者は必臆病なるなどゝ世俗のいへるは、此郷原のにかたなるをみて云ならはしたるものなり、郷原は名利の欲心を本として利害の分別利根なるによつて、かげひなたの目利上手にて、義理をかくことをはぢざる故に、たとひその生付けなげなるも所によりてかならず二かたなり、君子はもとより利根なれども、郷原の利根とは利根の品かはれり、郷原の利根なる名利の欲には鈍にして、義理の是非に利根にて、利害の分別毛頭なきによつて、かげひなたの目明なく、ひたすらに義理を立ゆへに、かりそめにも二かたなることなし、しかれ共郷原は世間に多、君子はまれなれば、郷原の利根ばかりを見なれてかく云ならはすもまた宜なりとも云べきにや、此郷原機轉利根にして迹になずまず物に滯らず、その上面のふり聊中行の君子の光景に似て、道德のそこなひとなる故に、孔子ことの外にくみたまひて、郷原は德の賊なりとしりぞけたまふ、今の世に此郷原のなりぞこなひ澤山なりと見えたり、志あらん士はよくわきまへて、したしみともなふまじきことなり、

○躰充問曰、つねの禮法にちがひて道にかなふは權の道なりと承及候、さやうにておはしまし候や、

師の曰、權は聖人の妙用神道の惣名なり、大にしては

堯舜の禪授湯武の放伐、小にしては周公の吐握孔子の恂々便々一言一動の微に至まで皆權の道なり、しかるを經に反して道にかなふを權といへるは大なる誤也、程子すでにその誤を正しめされたり、權ははかりのおもりなり、神道を權となづくる名義は、聖人は天と同體至誠無息、物に凝滯せず跡によらず、獨往獨來活潑々地にしておこなひたまふ所、こと〳〵く天道の神理に適當恰好なる景象秤のおもりの定ところなく、往來滯ずして物の輕重をはかりて、適當恰好なるに似たる意あるによつて象をとれり、大賢以下の人は氣質の累ありて明德くらく、權をおこなふことあたはざる故に、聖人天下のために禮法を定たまふ、此禮法もすなはち權の道なれ共、すでに法に定ぬれば、迹ありて變通の活潑なきによつて、權といはずして禮法といふなり、此意をしらず徒に禮法の迹を眞實の道なりと心得て、聖人立法の本意權道の妙をさとらずして、禮法になずみて專にとりおこなひ、時中の神理にそむくをば非禮の禮となづけて、君子のせざる所なり、此非禮の禮をも眞實の禮なりとまよひたる人、聖賢の行跡禮法にちがひたるを見てうたがひをなし、禮と權は各別なりなど、得心するなり、此權の字の精義をしらざれば、心學に志ありて致知力行をはげますと云ども、必欣眞落法の地にまよふべし、大學の能慮は此權を詳に分別する工夫なり、能得は此權を得心受用するものなり、法ありて法におちず、在ゆるところなくして在ざる所なく、定ところなくして定らざる處なき、權字の理味をよく〳〵體認すべし、

○躰充曰、さやうに候はゞ、初學の人も權をおこなひ候はんや、

師の曰、權は聖人の妙用にして、初學の人受用することあたはずといへども、工夫の準的はかならず權を目あてとすべし、たとへば鐵炮を打がごとし、いなどみがねらふ所も初心の人のねらふ所も、まとにちがひはなけれども、いなどみはうつごとにきりもみにあたり、初心の人はかくをもうちはづすばかりなり、そのあたるとあたらざるとは天地懸隔なれ共、めあてのねらひ所をちがへてはうち習べき理なし、そのごとく初心の受用と聖人の妙用とは天地懸隔なれ共、權を準的として工夫せざれば、明德を明にすべき

道なし、

○躰充曰、子曰、可ニ與共レ學、未レ可ニ與適レ道、可ニ與適レ道、未レ可ニ與立一、可ニ與立一、未レ可ニ與權一、此聖謨をもて見れば、權は初學の取ざたすべきことにあらずと存候はいかゞ、

師の曰、此聖謨は學者の面々のいたるところの位をよしと畫して、上達の志あづからざるをいましめ、引たてたまふ主意なり、初學の者權を取ざたすべからずとのたまふにはあらず、可ニ與共一の學はすなはち此權の道をまなぶ學なり、可ニ與適一の道もすなはち此權の道なり、可ニ與立一の道もすなはち此權の道なり、權の外に道なし道の外に權なし、權の外に學なく學の外に權なし、但その受用に生熟大小精粗の差別あるのみ、しかる故に此聖謨の主意は工夫成就の次第をあかして、至極無上の神道を指出して、學者の準的を示たまふものなり、孟子道ニ性善一、言必稱ニ堯舜一、公明儀曰、文王我師也、周公豈欺レ我哉、かくのごときの賢範をよく體驗して、明に辨しるべし、若この準的をしらざるときは心學の徒なりとも、欣眞落法の地に執滯して非禮の禮多あるべし、

○躰充曰、洪氏曰、權者聖人之大用、未レ能レ立而言レ權、猶ニ人未レ能レ立而欲レ行、鮮レ不レ仆矣、此格言にて見申候へば、先生の教等をこゆる弊あるべしと存候いかゞ、

師の曰、此格言は權を工夫のめあてとすることをいましむるにあらず、權の理味を心得ちがへて道のそこなひとなる人をいましめたる主意なり、權の理味を心得そこなひて、道のさはりとなる人二しなあり、一には狂見に入たる人權道の法におちず、迹になづまざる面影を見付、中庸精微の矩をわきまへず、無欲の心にまかせてあとになづまず、法におちざるを至極の道として、神道の權にそむけり、禪を學ぶ人此心地にまよへり、これは權の體段徹頭徹尾、こと〴〵く中庸精微の神理にして法におちず、迹になづまざるは權の景象なることをさとらず、影を認て形とする誤なり、又一には俗儒の學をひろくして禮法になづまざるを權なりとばかり心得て、時中の適當をわきまへず、欲心に任て禮法をそむき、その心にも不義なりとはわずかにしれ共、高滿の傲氣はなはだしき故に、權の名をかりてのがれことばを巧にして、その門

人を罔し世を惑し道のさまたげとなる人あり、此ふたしなの權の贋ものをいましめんために、洪氏の格言を集註に引用ひめされたり、よく〳〵明辨すべし、

○躰充曰、淳于髡曰、男女授受不ㇾ親禮與、孟子曰、禮也、曰、嫂溺則援ㇾ之以ㇾ手乎、曰、嫂溺不ㇾ援、是豺狼也、男女授受不ㇾ親禮也、嫂溺援ㇾ之、以ㇾ手者權也、曰、今天下溺矣、夫子之不ㇾ援何也、曰、天下溺援ㇾ之以ㇾ道、嫂溺援ㇾ之以ㇾ手、子欲三手援二天下一乎、孟子の此章を考見れば、經と權と差別あるべきと存候はいかゞ、

師の曰、漢儒反ㇾ經合ㇾ道爲ㇾ權の說は、此章を見あやまりたるものなり、此章の禮は禮法を指ていへり、禮法は天下萬民日用通行のために、平生急務の事ばかりを定たまふものなれば、非常の變事には禮法なし、道は大虛に充滿して身をはなれざるものなれば、もとより平生日用の禮法も道なり、また非常の變に處する義も道なり、權は此道の摠名なる故に、禮法も本權なれ共、事の模様定りて迹あるによつて權と名けがたき故に、法となづけたり、嫂溺は非常の變にして、これをすくふ禮法なければ、嫂溺援ㇾ之以ㇾ手者禮也といはずして權なりといへり、權は道の摠名なれば、權すなはち道、道すなはち權なる故に、道也といはんために權也といへるなり、此章男女授受不ㇾ親禮也、嫂溺援ㇾ之以ㇾ手者道也とあらば、反ㇾ經合ㇾ道の見あやまりあるまじ、權也といへるによつて權の字になずみてうたがひあるなり、此章の主意禮と權との辨をあかすにあらず、儒者の道は法におちずあとになづまず、上天時に律(のつと)り下水土に襲(よつ)て、至善に止を本とすることを開示するものなり、淳于髡をのれが私心をもて孟子をうかゞひ、孟子の當時の諸侯の無禮をにくみつかへめされざるを見て、禮法になずみたる人なりと思ふによつて、嫂溺の事を寓言して孟子を諷したり、しかる故に孟子儒者の道は則權をもて主本として、物に凝滯せず迹になづまず、活潑々地なることをしらしめて、そのまよひをとかんために、道とはいはずして權也と論じめされたり、孝經曰、夫孝天之經也、地之義也 民之行也、天地之經而民是則(こゝに)ㇾ之とあれば、經も權もおなじく道の摠名なれば、經と權と辨ありと云は不可なり、禮法と權とすこし辨ありといはんは可なり、しかれ共禮法は本權道の節文なるによつて、時中にかなひて用れば、禮法すなはち

權なり、時中にたがひて用ゆれば、權にそむきて非禮の禮となれば、畢竟禮の外に權なし、權の外に禮なし、權と禮と名義はすこし辨あれども、實は一理なり、よく〳〵玩味あるべし、

翁問答卷四終

翁問答卷五〔原本、下卷之末之末〕

○躰充問曰、神信仰をば仕たるがよく候や、

師の曰、神明を信仰するは儒道の本意にて候、しかる故に祖を天に配し父を上帝に配し、神名に通ずるを孝行の至極なりと孝經に說たまへり、周禮曰、大宗伯之職掌レ建ニ邦之天神人鬼地祇之禮一、以佐レ王、建ニ保邦國一、以ニ吉禮一事ニ邦國之鬼神祇一、以ニ禋祀一祀ニ昊天上帝一、以ニ實柴一祀ニ日月星辰一、以ニ槱燎一祀ニ司中司命飌師雨師一、以ニ血祭一祭ニ社稷五祀五嶽一、以ニ貍沈一祭ニ山林川澤一、以ニ疈辜一祭ニ四方百物一、又曰、若大師則師ニ有司一、而立ニ軍社一、奉ニ主車一、若軍將レ有レ事則與レ祭、有司將ニ事于四望一、又曰、凡師甸用ニ牲于社宗一則爲レ位、類ニ造上帝一、封ニ于太神一、祭ニ兵于山川一、亦如レ之、祭法曰、燔ニ柴於泰壇一祭レ天也、瘞ニ埋於泰折一祭レ地也、用ニ騂犢一埋ニ少牢於泰昭一祭レ時也、相ニ迎於坎壇一祭ニ寒暑一也、王宮祭レ日也、夜明祭レ月也、幽宗祭レ星也、雩宗祭ニ水旱一也、四坎壇祭ニ四方一也、山林川谷丘陵、能出レ雲爲ニ風雨一、見ニ怪物一、皆曰レ神、有ニ天下一者祭ニ百神一、諸侯在ニ其地一

則祭レ之、亡ニ其地一則不レ祭、王爲ニ群姓一立レ社曰ニ大社一、王自爲立レ社曰ニ王社一、諸侯爲ニ百姓一立レ社曰ニ國社一、諸侯自爲立レ社曰ニ侯社一、大夫以下成レ群立レ社曰ニ置社一、王爲ニ群姓一立ニ七祀一、曰司命、曰中霤、曰國門、曰國行、曰泰厲、曰戶、曰竈、王自爲立ニ七祀一、諸侯爲レ國立ニ五祀一、曰司命、曰中霤、曰國門、曰國行、曰公厲、諸侯自爲立ニ五祀一、大夫立ニ三祀一、曰族厲、曰門、曰行、適士立ニ二祀一、曰門、曰行、庶士庶人立ニ一祀一、或立レ戶或立レ竈、夫聖王之制ニ祭祀一也、法施ニ於民一則祀レ之以レ死、勤レ事則祀レ之以レ勞、定レ國則祀レ之、能禦ニ大菑一則祀レ之、能捍ニ大患一則祀レ之、及ニ夫日月星辰一民所ニ瞻仰一也、山林川谷丘陵民所レ取ニ財用一也、非ニ此族一也不レ在ニ祀典一、論語曰、祭レ神如ニ神在一、以上の聖謨をよく考て、儒教に專神明を信仰する事を得心すべし、これは外神につかふまつる大法なり、先祖の鬼神を祭は此外なり、日本の神道の禮法に、儒道祭祀の禮にあひかなひたることあり、其上三社の神託の意義、儒者の神明につかふまつる心もちによくかなひぬれば、本朝は后稷之裔なりといへる説、まことに意義あることなり、さて神明につかふまつるには、その位々のおきて作法あれば、その國の風俗を本とし、天秩の祭祀の禮に考あはせて、よく齋戒して信仰すべき事誠に第一なり、しかるに佛者は神明を信仰するを雜行雜修といとひ、佛は六通、神は五通などいへるは、物體なきこと、

○躰充問曰、先生の教を承屆候へば、儒道は道理の至極したることばかりなり、まことに我人取をこなはでかなはぬ事にて候へども、日本は風俗あしく候間、おこなひがたく候はんと存候いかゝ、

師の曰、それは道の道たる本意をわきまへず、儒教の禮法をもて專眞實の道なりと得心するあやまりなり、本來儒道は大虛の神道なる故に、世界の內舟車のいたる所、人力の通ずるところ、天の覆ところ、地の載ところ、日月のてらす所、露霜のおつる所、血氣ある者の住ほどの所にて、儒道のおこなれぬと云ことはなし、儒書にのする所の禮義作法は、時により所により人によりてそのまゝはおこなはれぬものにて候、儒書にのする所の禮義作法は大方周の代の制作なり、此禮義作法をすこしもちがへず、只今日本にて位なきものが取おこなふ事は成がたし、たとひ位有人の取おこなひたまふとても、ありのまゝに少も

たがはず、取おこなひたまふことはならざるなり、大唐にて取おこなふとても、すこしづゝ損益せずしてはおこなはれぬ道理なり、伏犧より周の代まで代々の聖人制作したまふ、禮義作法その時代にはよく相應して中庸の儒法なれ共、代かはり時うつりては、大過不及の弊ありて損益なくてはかなはぬ事なり、しかる故に萬世通用の定法はすくなし、前かどにも論ずるごとく、禮義作法は時により處により人によりてかはるものなれば、一しなの禮法になづむをば、欣眞落法とて大にきらふ事なり、殷の代には夏の代の禮義作法をあらため損益し、周の代にはまた殷の代の禮義作法をあらため損益したまふにて得心あるべし、初學より權の道を目あてにせざれば、此あやまりうたがひあるものなり、儒書にのする所の禮義作法をすこしもちがへず、殘所なく取おこなふを儒道をおこなふとおもへるは、大なるあやまりなり、たとひ儒書にのする所の禮法をすこしもちがはず、皆とりおこなふといふとも、其おこなふ所時と處と位とに相應適當恰好の道理なくば、儒道をおこなふにはあらず、異端なり、そのおこなふ所時に相應適當しても、その心に名利の私あるは、にせものゝ小人と云ものにて、君子の儒にあらず、たとひまたその行ところ儒書にのする所の禮義作法にちがひても、その事中庸の天理にあたり、その心私なく聖賢の心法にかなひぬれば、儒道を行ふ君子なり、かくのごとく禮義作法になづまず、眞實の儒道をおこなふには、何國にてもおこなひがたき事はなきものなり、素夷狄行乎夷狄、素患難行乎患難、君子無入而不自得焉とのたまふは、此意なり、

○躰充曰、さやうに眞實の儒道をおこなふ工夫は、いかやうに仕たるがよく候や、

師の曰、その工夫には先自滿の浮氣、名利の欲心をすて、間思雜慮の妄をのぞき明德の心源をすまし、至孝の心法を受用するを根本第一とす、さて世間にまじはる禮義作法は其國其處の風俗を本とし、何事も圭角なく目にたゝぬ樣に取なし、いかにも作法うやうやしく謙德を守り、かりそめにも人にまさらんとあらそふ魔心なく、孝悌忠信の道を根に入てつとめおこなひ、親には孝行をつくし、君につかへては忠節をはげまし、よりをや、位高人、年老たる人、德たかき人

などをよくうやまひ、友だちにたのもしく義理をたて、兄弟の間には友恭をおこなひ、妻子には義慈をほどこすべし、かくのごとくにおこなふを、儒道をおこなふとは云なり、加樣におこなひてさはりある所は、世界のうちにはあるまじく候、よく〳〵體認して、つとめおこなはるべき事なり、

○躰充曰、さやうに候はゞ、今時の物よみ坊主衆のかみをそりて、出家のまねをめさるゝも、道理にかなひたることにて候や、

師の曰、俗儒の作法は無案內なれば、何とも了簡に及がたし、定て日本にての俗儒はかみをそらではかなはぬ子細ありての事ならんが、眞儒の道にて論ずれば、中庸の神理にだにかなひぬれば、かみをそりてもくるしからず、泰伯は孝行のために髪を斷身を文にしたまひたり、しかるを孔子其可レ謂二至德一也已矣と嘆美したまふ、かみをたち身を文にしたまふをほめたまふにあらず、その孝德十分に明にして、そのおこなひたまふ事の道理、中庸にかなひたるところをほめたまふなり、此意をしらざるにや、泰伯の孝德もなく中庸にかなふべき義理もなくて、かみをそりて我剃髪は泰伯の斷髪とをなじことなりなどいへる人あり、これは舟に刻て劍をもとむるの愚癡にあらずば、烏を鷺と云などはす佞人なるべし、心に仁義の守なくまた何のもとむるすじもなくて、かみをそり身を文にして、走まはらば、氣ちがひと云ものなり、心に利欲ふかく知行をむさぶらんため、座敷かみになをらんためにかみをそりて、中庸の神理にそむくものをば欲ふかき人とやいはん、まいす坊主とやいひなまし、そのかみをそりたるところばかりにて吟味しては、是非の眞實しれぬものなり、そのかみをそるところの心根は、遁世のためか何のためぞと考みて評判あるべし、只そのうはつらの事ばかりにて、吟味評判するはまよへる凡夫の取さたなり、これのみにあらず、何事の評判にても、其心根にて吟味せざれば是非のあやまりあるものなり、これに付て分明にわきまへやすきたとへあり、むかし大唐に盜跖と云ぬすびとあり、同類數千人を引率し、みづから將軍と號し、あまたの里をやぶり強盜し、人を殺事そのかずをしらず、その武勇のてがら比類なけれども、名大將とはいはずして大盜と云ていやしみにくみたり、我朝

のくまさかも盗跖ほどこそなけれ、隨分剛强達者なるものなれ共、武篇者とはいはずしてぬす人と云おとしめり、そのけなげのふるまひは、名大將武篇者のふるまひにもおとるまじけれ共、その心根ぬすみを本とする故に、その心をもて盗賊と云なり、萬事皆かくのごとし、よく／＼體認あるべし、

○躰充曰、眞實の儒道を行には、名利の欲をすつるが第一の工夫なりと被レ仰候、尤欲心はきたなきものなれば、すてたき事にて候へども、欲をすてゝは世の中のすまひ成申まじきと存候いかゞ、

師の曰、それは佛氏偏僻の敎に釋尊の天子の位をすて、龐居士が家財をすてしごときを、無欲なりと云を聞ならひてあやまる疑なり、儒道にはそのやうにすじもなくて、位をすて財寶をすつるをこそ氣ちがひの欲なきにたとへて大にきらへり、位にあるを欲とし位をすつるを無欲とし、財寶をたくはふるを欲とし、財寶をすつるを無欲なりとおもふは、いまだ明德くらくして位をこのみ財寶を貪心根のこりて、外物に凝滯して便利揀擇の私ある故なり、聖人の心は艮背敵應にして、意必固我の私なきによつて、富貴貧賤死生禍福、その外天下の萬事大小高下淸濁美惡におゐて、毛頭好惡揀擇の情なく、只滿腔滿目一貫皇極の神理ばかりなり、しかる故に位にのぼるをも財寶をたくはふるをも、欲ともせず、また無欲ともせず、位をすて財寶をすつるをも、無欲ともせずまた欲ともせず、只天道の神理にそむくを欲とし妄とす、天道の神理にかなふを無欲とし無妄とす、神理にかなひぬれば、天子の位にのぼるも財寶をたくはふるも、位をすつるも財寶をすつるも、皆無欲なり無妄なり、神理にそむきぬれば、天子の位をすつるも財寶をすつるも、位にのぼるも財寶を蓄ふるも、皆欲なり妄なり、欲と無欲と妄と無妄とは、おこなふ事の品にはあらず、只その心根にあるものなれば、如何樣なる事は無欲なり、如何樣なる事は欲なりと、事にて指さだむるはまよひたる凡夫の心得、または異端偏僻の法なり、釋尊この心をさとりめされたらば、王宮を擅特靈山とし寂光土とし、天子の位を摩尼輪の位とし、袞衣玉殿を麻衣草坐とし、禮樂刑政を説法として、衆生を濟度めさるべきに、王宮をいとひ山に入、袞衣玉殿をいとひて麻衣草坐をこのみめされたるは何たる心ぞ

や、艮背敵應不ニ相與一ときは、王宮帝位何ぞ我をけがさんや、山中の靜坐何ぞ我をまさんや、衮衣玉殿何ぞ我を損せんや、麻衣草坐何ぞ我をいさぎよくせんや、王氏詩曰、

曾是巢由淺　始知堯舜深
蒼生豈有レ物　黃屋如ニ喬林一

此詩艮背敵應不ニ相與一の意味を能巧にあかしたり、堯舜の禪授、湯武の放伐みな此心なり、おこなふところの事はともあれかくもあれ、その心に欲なく潔靜精微の神理明淨にして、其事時中の天理にかなふを無欲とし無妄とす、たとひをこなふ所義理にあたりても、その心に欲あれば無欲にあらず、まして心に欲あるうへにその事義理にあたらざるは大欲と云ものなり、されば心に欲なく潔靜精微の神理明淨にして、その事時中の天理にあたりぬれば、帝堯の天下を舜にゆづりたまふも、帝舜の天下をうけたふも、また湯王の桀を放たまふも、武王の紂を伐て天下を救たまふも皆無欲の德行なり、もしまた堯・舜・湯・武に欲心有てかくおこなひたまはゞ、皆貪欲の妄行なり、天下の授所取予は至極廣大なる事なり、其外萬事みなかくのごとし、一錢を人にあたへ一錢を人にうくるも、此心もちはおなじことなり、儒者の心法は艮背敵應不ニ相與一の聖心を鏡とする故に、天子より下庶人に至まで、分々相應の本分のすぎはひをいとなみ、財寶をたくはふるを欲とはいはず、一錢にても義理にそむきてとりたくはへ、またあたふべきものをおしみてあたへざるを欲とす、此欲をすつることはやすき事にて、世の中の住居のさはりとはならず、學問せぬ人も生付廉直なるものは、不義のたくはへをばいやしみきらふものなり、まして心學に志ある人をや、利欲に財欲と形氣の欲とのすこしかはりあり、財欲は金銀財寶を澤山にほしきとおもひ、分もなき高知行をむさぶること也、此欲はすてやすきものなり、形氣の欲は酒色にふけりおぼれ、又は形の便利を求すごす事なり、此欲はすてがたきものなり、惣じて欲をすつる工夫我心の一念おこる所にて、省察してかちさるが簡要なり、此工夫を愼レ獨と云なり、よく〳〵體認あるべし、

○躰充曰、先生の敎を承屆候へば、利欲をすつることは成易く候はんが、名の欲をすて丶世間の外聞をな

にともおもはず候はゞ、氣隨になりて作法あしく候はんと存候いかゞ、

師の曰、よきふしんにて候、名の欲は利欲にくらぶれば一位ましていさぎよし、子細は名をこのむものは財寶をむさぶらず、命をおしまず、きたなき利欲はすこしもなき故に、功名の士をば中の位と定たり、性命の學に志なく義理を專に守らざる人は、せめて名の欲ありて利欲のなきがよし、眞儒性命の學に志なく義理を守らざる人、外聞を何とも思はぬときは、必氣隨になりて作法あしく、其心潔人は狂者の風に入、その心きたなきは市井の風に入ぬべし、吟味あるべき事なり、しかれどもこれは心學に志なき凡夫の上の吟味なり、心學に志ぬる上の吟味はまた各別なり、夫名は實の賓と云て、其心に思ひ身におこなふ實あればゝ、すなはち其名あるものなり、たとへば實は形なり名は影なり、善をおもひ善をおこなへば善の名あり、堯・舜・孔・顔など是なり、惡をおもひ惡をおこなへば惡の名あり、桀・紂・盜跖などこれなり、善をこのみ惡をにくむは人心秉彝の本然なる故に、善名をほめたつとび惡名をにくみきらふは萬古のつねなり、しかるによつて生付いさぎよき士は、其名たかくあらはし譽をとらんことをこのめり、其心根善をこのみ惡をにくむ秉彝の本然にちかくて、利欲にけがれてきたなき凡夫にくらぶれば、一位まさりたれ共、其明德明ならず、眞妄本末のわきまへをしらず、風俗のあやまりに習ひそまりて、或は本をすてゝ末を專とし、或は眞をそむきて妄をとる故に、その心根の始は善をこのみ惡をにくむ秉彝の本性に似たれ共、却本心をくらまし性命をそこなふ人欲のわづらひとなれり、利欲と名の欲とは淸濁かはりありといへども、天性をそこなひやぶり、不孝莫大の罪におちいる事はかはりなきによつて、名と利の欲を牛角にきらひてかちさるものなり、さて名の譽に眞妄本末の差別あることをよくわきまへざれば、名の欲をすてんとおもふ志ありても、工夫はげましがたし、聖賢・君子・英雄・孝子・忠臣の名の譽、其外一事の譽にても義理にかなひたるを天理眞實の名と云なり、異端曲學の名の譽、その外一事の譽にても義理にかなはぬを汚俗妖妄の名と云て、君子のたつとばざる所なり、妖妄の名をこのむ意はすてやすけれども、眞實の名をこのむ意は

本末をよくわきまへざればすてがたくて、人不レ知而不レ慍の位にいたりがたし、聖賢・君子・英雄・孝子・忠臣の名譽、その外一事にても義理にかなひたるほまれは皆末と影となり、その名譽の根本と形とはその心と行跡となり、聖賢の心を心にまもらず、聖賢の行跡を身におこなはずして、聖賢のほまれをとらんことを求め、心に孝德なく身に孝行をおこなはずして、孝行の譽をもとむるは、たとへば形なきに影をもとむるがごとく、猿猴の水の月をつかむに似たり、其上我身のうちに連城の珠にもまさりて、王公の位にもかへざる名譽の眞樂あることをしらず、世間凡夫の理もなき俗談のほまれをもとめねがひて、むねをこがし身をくるしめて、楚女の寵愛をもとめて餓死したるごときのふるまひ無下に淺まし、名の欲をすつるには、先よせひ意虚夸の念をかちさるべし、かくのごとく吟味體認して名の欲をすつることは、根本天理の眞樂をもとめ、氣隨をわすれ作法を正くせんためなれば、心學に志あるものは、名をすつるほど氣隨のおごりなく、作法よくなりて、狂風にもいらず市井の風にもいらず、君子中行の風に入て、君子のほまれもとめずして至ものなり、名利の欲習染る心、間思雜慮を一念の微に省察して、獨を愼てのぞきさる事、第一の要法なり、

○躰充曰、楚女の寵愛をもとめて餓死したると云ことは、何たることにて候や、

師の曰、それは寓言の故事也、むかし大唐楚國の主こしのほそき女を寵愛めされたれば、禁中のこしのふとき宮女、楚王のおもひつき給ふまじき事をかなしび、食物をくはずしてやせなば、腰のほそくなるべきかと斷食してかつえ死したると云ことなり、世間の名をこのみ譽をもとむる人を見るに、その時代の天子諸侯のこのみたまふ事、世俗のほめてもてはやす事なれば、是非眞妄のえらびなく、その時に相應する樣に心をもち色をよくし、言を巧にして義理不義をわきまへず、一向に世人の譽をもとめて、德性の養をたちすて、混沌の死する事をしらざること、恰も楚女の寵愛をもとめて餓死したるに似たる故に、寓言の故事をかりて喩たり、心學に志ある人ははぢ戒むべき事なり、

○躰充曰、習染レ心とはいかやうなる心を申候や、

師の曰、習染レ心とは、生下てよりこのかた、見なれ聞なれておもはずしらずにいつとなくあやかりそまりたる心なり、たとへば水にて朱をとけば其色赤く、緑青をとけばその色青くなるがごとし、本來水の色は赤も青もなけれ共、朱と緑青とにまじはりあやかりてかくのごとし、そのごとく本來人心に好惡の事の定はなけれ共、その生そだつ國處の風俗、その家の所作所作にあやかりそまりて、好惡の品定色々にかはりあり、學問藝能にも習心あり、先本心の端的をよく考定、その上にて習心を吟味してかち去べし、朱をとき赤き色に變じたる水もよくすましぬれば、朱は下え沈て水の本色あらはるゝものなり、まして無聲無臭の心の水は、其にごりすましやすかるべきにや、體驗簡要に候、

○躰充曰、間思雜慮とはいかやうなる念慮にて御座候や、

師の曰、さしたる惡念にあらざれ共、思ひて益なく、わけもなき事をくり返しくり返し思出て、天眞のわずらひとなるを間思と云なり、應事接物の際至善のある所を分別思慮する時に、工夫專一ならず、他の念のとりませおこりて感通のさはりとなるを雜慮と云なり、此二はかろき病にて、却克治しがたきものなり、よく〳〵省察あるべし、

○躰充問曰、仙術を學ぶ人は、長生不死の益あり、佛道を修行する人は、成佛得脫の益ありと承及候、儒道を學候てもさやうなる身後の益も御座候や、

師の曰、さやうの疑も異端の說を聞あやまりておこることにて候、孝經易經をよく悟ぬれば、生前死後のことはり掌を指ごとく分明なれば、とかうの議論に及ばぬことなり、しかれども今時の人は、多分此疑あれば、しばらく仙佛の道によつてそのまよひをとき候べし、仙家の長生不死の術も、佛家の成佛得脫の修行も、皆畢竟は一心の工夫なり、仙家には修心煉性を宗旨とす、佛家には明心見性を宗旨とす、其工夫の十分成就する所の心性を長生不死と云、成佛得脫と云なり、二氏ともに元氣の靈覺を心性の端的として、元神の妙理をさとり得ず、しかる故にその見性成道中行の君子より一位下なり、儒家にも一心の工夫專とし、元神の神通を性の端的とし、窮レ理盡レ性至ニ於命一を宗旨とす、工夫十分成就する所の心性を聖神至誠

無息といふ、其宗旨の端的も明覺大悟の心性も、仙佛よりも一位ましたる所あれば、長生不死と指ところの益も、成佛得脱と指ところの益も、一位ましたる益ありと知べし、性理會通曰、易曰、保合大和乃利貞、愚謂大和者道體也、生物之本天地之根、一團眞理實氣充宇宙而無餘、歷浩刧而無改、鼓剛柔生造化、主萬象攝三財、冲漠絪縕融和純粹、若能保此氣而不失、合此理而不違、身同大道、如點雨之滴海渾滄溟而共存、心契天眞猶片雲之沒空攪太虛而同久、利通而無滯礙、貞固而無變遷、故天地終而壽不竟、日月晦而明不斷、故曰、至誠無息、無息則久、久則徵、徵則悠遠、善保大和者、誠道之至妙至妙者也、聞者疑之曰、性即理也、命即氣也、人之性天地之理也、人之命天地之氣也、誠能以性合天地之理、以命會天地之氣、即天地之理自性也、天地之氣自命也、理氣無終壞、此性命亦無終壞、譬以水投水、于何可竭、以火投火、于何可滅、由其體大造而超小刧、故不以天地之成毀而成毀、獲大身而忘小形、故不以軀殼之存亡而存亡、謂之盡性至命、謂之體道同天、謂之至德凝道、此中大有眞樂、盎然春融、凞然宇泰、既利且貞、活潑潑地、即易之黃中通理、正位居體美在其中、暢于四肢發于事業、美之至也、此乃儒教中不死之神方、長生之正術、不可與守空寂而坐枯禪弄精魂而希昇擧者同日而語也、この賢範をよく體察玩味して、儒家の聖神至誠無息の位には、仙佛の修行の分にては、梯しても及ばぬ所ある事を明にわきまへ、迷をはらしたまふべし、保合大和にする心法を他にもとむべからず、すなはち全孝の心法なり、

○躰充曰、全孝の心法をばいかやうに受用仕候はんや、

師の曰、孝經曰、夫孝天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民是則之、又曰、天地之性人爲貴、人之行莫大於孝、孝莫大於嚴父、嚴父莫大於配天、又曰、孝悌之至通於神明、光於四海、無所不通、詩曰、自西自東、自南自北、無思不服、曾子曰、夫孝置之而塞乎天地、溥之而橫乎四海、施諸後世而無朝夕、推而放諸東海而準、推而放諸西海而準、推而放諸南海而準、推而放諸北海而準、詩曰、自西自東、自南自北、無思不服、此之謂

也、又曰、衆之本敎曰レ孝、其行曰レ養、養可レ能也、敬爲レ難、敬可レ能也、安爲レ難、安可レ能也、卒爲レ難、父母旣沒、愼行ニ其身一、不レ遺ニ父母惡名一、可レ謂ニ能終一矣、仁者仁レ此者也、禮者履レ此者也、義者宜レ此者也、信者信レ此者也、强者强レ此者也、樂者自レ順レ此生、刑自レ反レ此作、孟子曰、仁之實事レ親是也、義之實從レ兄是也、智之實知ニ斯二者一弗レ去是也、禮之實節ニ文斯二者一是也、樂之實樂ニ此二者一、樂則生矣、生則惡可レ已也、惡可レ已則不レ知ニ足之蹈レ之手之舞一レ之、禮記曰、仁人不レ過ニ乎物一、孝子不レ過ニ乎物一、是故仁人之事レ親也、如レ事レ天、事レ天如レ事レ親、是故孝子成レ身、以上の聖謨賢範をよく熟讀して、孝德の親切眞實、廣大高明、無上無外、至尊無對にして、孝の外には德もなく、道もなき事を明に辨ふべし、たとひ其おこなふ所よしといふとも、孝德の天眞にそむきぬれば、天威のゆるさゞるところ、君子のたつとばざる所なり、しかる故に、孝經に、不レ愛ニ其親一而愛ニ他人一者、謂ニ之悖德一、不レ敬ニ其親一而敬ニ他人一者、謂ニ之悖禮一と戒たまへり、かくのごとくなる孝德全體の天眞を明にする工夫を全孝の心法と云たり、全孝の心法その廣大高明なること神明に通じ、六合にわたるといへども、約ところの本實は身をたて道を行にあり、身をたて道をおこなふ本は明德にあり、明德を明にする本は良知を鏡として獨を愼にあり、良知とは赤子孩提の時より、その親を愛敬する最初一念を根本として、善惡の分別是非を眞實に辨しる德性の知を云、この良知は、磨而不レ磷、涅而不レ緇の靈明なれば、いかなる愚癡不肖の凡夫ノ心にも明にあるものなり、しかる故に此良知を工夫の鏡とし種として工夫するなり、大學の致知格物の工夫これなり、獨を愼とは一念のすこしおこる時に良知を鏡とし、よく省察吟味して、名利の欲、習心、間思雜慮などの邪念おこるときは、我おやの身をそこなひやぶる不孝の罪人となりて、幽にしては六極莫重の鬼責をうけ、明にしては五刑莫大の肉刑を受べき魔心なりとおそれ愼、火急に克去て神明に相通ずる至德の獨樂をもとむる工夫を云なり、一念の惡心にておやの身をそこなひやぶると云子細は、孝經曰、身體髮膚受ニ之父母一、不ニ敢毀傷一孝之始也、この聖謨の心は我身にそなはるものは、心も性も身體も毛髮も皆親の心性身體毛髮を受たるものなれば、身體髮膚も本我

身體髮膚にあらず、親の身體髮膚なり、身體髮膚の主本たる心性も我心性にあらず、父母の心性なり、しかる故に我身體髮膚をそこなひやぶるは、卽父母の身體髮膚をそこなひやぶるなり、我德性をそこなひやぶるは、すなはち父母の德性をそこなひやぶるものなり、身體髮膚は器にしていやしく、德性は道にして貴ものなり、いやしき身體髮膚をそこなひやぶるも、大惡逆大凶德なり、身體髮膚の主本たる天の尊爵の德性をそこなひやぶるは、猶以大惡逆大凶德なり、此道理を明にわきまへて心によく守、不二敢毀傷一は孝德を受用する始なりと敎たまふなり、此聖謨をよく體察すれば、名利の欲、習心、間思雜慮などの邪念を克すてずして、我德性をそこなふときは、卽父母の德性をそこなひやぶること分明なり、孝經この節の終に、無レ念二爾祖一聿二修厥德一といへる詩を引て結たまふも、此意を示し給はんためなり、よく〳〵體認あるべし、

〇躰充曰、身體髮膚をそこなひやぶらざるが孝行にて御座候はゞ、軍陣にてきずを被ぶりうち死するは、不孝にて候はんや、

師の曰、それは大なる心得そこなひにて候、不義無道なる事にてそこなひやぶるが不孝なりと云義なり、孝經に身體髮膚受二之父母一、不二敢毀傷一孝之始也と示したまふ、此毀傷は、血肉の身體髮膚をそこなひやぶることにはあらず、孝德をそこなひやぶることなり、害レ仁とのたまふ害の字の意なり、血肉の身體髮膚のことにはあらず、孝德の形體のことなり、仁者人也とのたまふ、人の字の意、形色天性也、惟聖人然後可二以踐一レ形と、發明されたる形色の字の意なり、此聖謨賢範の心は、人間の身體髮膚は本來天性仁孝の凝聚なることを示たまふものなり、孝經に示したまふ身體髮膚これなり、しかる故に天性仁孝の道を心にまもり身におこなふときは、たとひ血肉の身體髮膚をばそこなひやぶるといふとも不孝にあらず孝行なり、血肉の身體髮膚をばそこなひやぶるといへども、天性仁孝の身體髮膚をそこなひやぶらざる故なり、殺レ身成レ仁とのたまふは此意なり、天性仁孝の道を心にまもらず身におこなはずして、惡逆無道なるときは、たとひ身を全して毛一すじそこなひやぶらずといふとも、孝行にあらず不孝なり、血肉の身體髮膚を

ばそこなひやぶらずといへども、天性仁孝の身體髮膚をそこなひやぶる故なり、曾子曰、戰陣無レ勇非レ孝也、此賢範の意は、軍陣戰場にて武勇をはげみ、さきがけをして軍功をなすときは、疵を被ぶり討死するが孝行なり、若武勇をはげまさず軍功をたてざるときは、縱たとひ臆病の惡名をうけずとも不孝なりといましめされたり、陳明卿曰、若有二曾子之心一、卽龍比之身首分裂、與レ啓レ手啓レ足一般、不レ然則老二死牖下一、亦與二刀鋸僇辱一何異、これは論語に曾子臨終のとき、門弟子を呼て啓二予手一啓二予足一と云て、詩を引て不レ敢毀傷一の心法を示しめされたることを記せり、曾子の本意は血肉の身體髮膚をそこなひやぶらざるところをもて、天性仁孝の身體髮膚をそこなひやぶらざることをあかしめされたる事、孝經の聖謨のごとし、しかるを章句の儒者、曾子の本意をさとらずして、只血肉の身體髮膚をそこなひやぶらざることなりと講說するによつて、陳氏此發明あり、此語の意は全孝の心法をよく受用すれば、龍逢比干の諫てしにめされて、身體髮膚をきりやぶり、身首分裂したるも、曾子手足を啓て一毛をもそこなひやぶらざることを示しめされたるもおなじ孝行なり、もしまた全孝の心法をよく受用せざる人は、八十九十まで年老て我家のうちにて病死して、毛一すじそこなはずといふとも、刀にてきられ鋸にてひかれぬる刑罰にあひたるはおなじ不孝なりと云義なり、よく〳〵體認あるべし、

○躰充問曰、全孝の心法をよく受用仕候はゞ、艮背敵應の聖域へもいたり候はんや、

師の曰、心學は凡夫より聖人に至みちなれば、全孝の心法がすなはち艮背敵應の心法なり、名はかはりて實はおなじ道理なり、これを本體工夫と云なり、心法の端的は同一貫なれ共、受用する人に善信美大聖神の差別ありと得心すべし、たとへば心法は大路なり、受用する人は路をゆく人なり、路をゆく人に貴賤老幼男女達者不達者の差別あれども、路はおなじ大路なるがごとし、全孝の心法をよく受用して得ことあれば、其心ひろく體胖に廣大高明精微中庸の神道を服膺して、人の子となりては孝に止り、人の臣下となりては忠に止り、人の親となりては慈に止り、人の君となりては仁に止り、人の兄となりては惠に止り、人の弟となりては恭に止り、人の朋友となりては信に

止り、富貴に素しては富貴を行ひ、貧賤に素しては貧賤をおこなひ、夷狄に素しては夷狄をおこなひ、患難に素しては患難をおこなひ、境遇に意必の累なきこと水のながるゝがごとく、心の安く靜なる事は山の定れるがごとく、暴君汚吏も志を奪ことあたはず、天災地妖も殺ことあたはざるものなり、もしまた聖胎純熟の時至り、脫胎神化して聖神の位に至ときは、天地と其德をあはせ、日月と其明をあはせ、四時と其序をあはせ、鬼神と其吉凶を合せ、四表に光被し上下に格る、しかる故に南面の位にありては帝堯の君たるなり、北面の位にありては帝舜の臣たる也、位を得ずして下にありては玄聖素王の道なり、孔子曰、夫聖人之德、又何以加二於孝一乎、

翁問答卷五終

翁問答卷六〔原本、翁問答下丙戌冬〕

○魯國の君、莊子にかたりて曰、魯國には儒者おほうして先生の道を學ものすくなし、莊子曰、魯國には儒者甚すくなし、君あやまりて多しとのたまふ、魯公の曰、魯國の人過半儒服をきたり、然るをすくなしといはんや、莊子曰、儒服は儒者の裝束なり、仁義は儒者の德なり、裝束は誰もきるべければ、儒服を著たる人にても仁義の心なきは儒者にあらず、只儒服を著たる凡夫なり、仁義は君子ばかりの受用する德なれば、たとひ夷國の裝束をきたる人にても、仁義の心あるは凡夫にはあらず、夷國の裝束きたる儒者なり、しかる故に伏犧神農は儒服をめさゞれども、儒德あきらかにましませば、天下一の儒者にてましますヽ魯國の人は儒服をきたるといふとも、多分儒德あるまじければ、儒者にはあらず、もし我ことをうたがひたまはば、儒德なくして儒服を著たる者をば死罪におこなふべしと、禁制を立て試みたまふべし、魯公莊子の言を用ひて、右のごとく法を下してけり、かくして五日

過ぬれば、國中に儒服の者みえず、たゞ一人儒服をあらためざるものあり、めして國事を問たまひぬれば、千轉萬變して究りなかりけり、

師の曰、魯國の君は儒服を著たる人をとめて儒者とあやまり、今の世間の人は儒書をよむ人をとめて儒者とあやまれり、そのあやまるところの品はかはりたれ共、實體をしらざることはおなじまよひなり、文學は藝なれば、物おぼへよく生れつきたる人は、たれも習ひしるべければ、文學ある人にても仁義の德なきは儒者にあらず、只文藝ある凡夫なり、一文不通の人なりとも、仁義の德明らかなるは凡夫にあらず、文學なき儒者なり、此理は分明なれどもいづれの時よりかあやまり來りけん、只儒書をよむばかりを學問とおもひ、文學ある人を儒者ともてなせり、此まよひ世人のこゝろにしみつきたるによつて、學問は物よみ坊主または出家などのわざにして、士のわざにあらずなどゝ取ざたまちく\なり、儒服の儒者にあらざる事をあかしたる莊子のごとき人なくて、學問の本意世間に明かならざること、天下の大不幸なるべし、

○躰充曰、學問の本意世に明らかならざること、天下の大不幸なることはいかゞ、

自レ此以下十三經も書數おほくて、文才なきものは云々の一段の終に至て、丁亥の本と小異大同故に删レ之、

○躰充曰、名利にこゝろありて學問する人のその益なきはもつともにて候、さのみ名利のけがれもなく、道にこゝろざして學問する人の益なきのみにあらず、かへつてこゝろだて行儀いなものになりゆきぬるはいかゞ、

師の曰、人心のわたくしを種として、知あるもをろかなるも、自滿のこゝろなきはまれなり、この滿心明德をくらまし、わざはひをまねくくせものにして、よろづのくるしびも又大かた是よりおこれり、されば易に、天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙、謙尊而光、卑而不レ可レ踰、君子之終也といへり、盈は高滿甚しく己れを是として自用ひ、萬事分過を好み、人をかろしめあなどる心なり、謙は溫恭自虛にして自反し、獨を愼み人をうらみず人をあなどらず、人に取て善をなす德也、盈は天地鬼神のそこなひ捨給ふ所にして、人も又是を惡み、

謙は天地鬼神の保祐し給ふ所にして、人も又是をこのみぬる實理を明して、後學の盈をすて謙を求めん事を示し給ふ聖謨なり、此ゆへに温恭自虚の四字を以て初學心法の第一義とす、此四字の法を用て滿心をのぞき捨ぬれば、そのまなぶところことく心のみがきとなりて、明德日々に明かになるものなり、若此法によらずして滿心をのぞかざれば、その學ぶところ皆滿心のかさみとなりて、明德日々に暗くなりぬ、かくのごときの滿心は天地鬼神の捨給ふところなる故に、其心だて行儀いなものになりゆき、人も又是を惡む、是を暗所に魔を來すといへり、すでに暗所に魔を來しぬれば、何事も異風をこのみ人をばいける虫とも思はず、天下に我をこすべき者なしと、人もゆるさぬ高滿を鼻にあて、親おやかたのぐちなるをさげしみ、友達をあなどり、かりそめにも己を是とし人を非とす、或は世間のまじはりをいとひ、獨り居ることをこのみ、或は甚はだしきときは氣のちがふかたもありと見えたり、かくのごときの人學問せざるかたにもあまたありといへども、とがを歸すべきかたなければ、只何となくそしるばかりなり、若學者にかくのごとき人あれば、學問にとがを歸して滿心のたゝりなる事をわきまへず、おろかなるかな、なげかしきかな、されば大禹は聖人なれば、毛頭の滿心は有まじけれ共、伯益禹を贊けて滿招レ損謙受レ益といへり、まして聖人より下ざまの人しばらくも此戒を忘るべけんや、周公の才ありても滿心あらば取にたらずと孔子ののたまふも、高滿の凶德の甚だ害ある事をいましめ給ふなり、學問に志しある人は云におよばず、無學の人も此魔障を能のぞき捨べき事第一の急務なる、名利のけがれなく道に志ありといへども、高滿の凶德をのぞきすつる心得なきによつて、暗所に魔を來し其身凶惡に落入のみならず、とがなき學問にきずを付る事淺間敷なげかし、我も人も能いましむべし能いましむべし、

〇齊人と魯人と郊に戰ふとき、魯軍の右手の大將は冉求也、管周父御たり、樊遲右たり、すでに戰合て魯の左手敗軍しぬれども、右手は少もしりぞかず、樊遲の謀を用ひ、冉求自身鑓を入て齊の軍を敗り、甲首八十を得たるゆへに、終に魯國の勝軍になりぬ、其後季康子冉求に問けるは、今度の軍功たぐひなき事なり、

軍法を學び得てかくありしや、但し又生れ付たる器用にやと、冉求答ていはく、生れながらにして能するに非ず、孔子に學び得たりといへり、季康子是に依て幣をもつて孔子をむかへ、孔子魯國に歸り給ひぬ、師の曰、冉求若季氏が大將となりぬされずば、此軍功有べからず、此軍功なくば、孔子の文武兼備り軍法に長じ給ふ事を、季氏うかゞひしる事あたはざるべし、聖人のいます時さへかくのごとくなれば、後世の文武をわけて、二つにするあやまりもさのみとがむまじき事にや、

○躰充曰、孔子かくのごとく軍法に長じたまひて、衞の靈公に傳へたまはざるはいかゞ、

師の曰、兵は凶器なりといへども、君子これを用れば天下の亂を定めて、凶器却てたからとなれり、小人是を用ふれば國をみだり天下にわざはひして、凶器ますます凶器となれり、然るを靈公小人にして戰伐をこのみ、強剛暴逆のいくさをたくましくせんために陳をとはれたり、

翁問答卷六終

翁問答卷七〔原本、翁問答下丁亥春〕

○問曰、今の世間には儒書をよみおぼゆる人をば德なけれども儒者とす、其身もまた儒者の名をうけて辭せず、大なるあやまりにあらずや、

答曰、然り、儒者の名は德にあつて藝にあらず、文學は藝なれば、もの覺よく生れ付たる人は、誰もなりがたき事にあらず、たとひ文學に長じたる人にても、仁義の德なきは儒者にあらず、たゞ文學に長じたる凡夫なり、一文不通の人なりとも、仁義の德明かなる人は凡夫にあらず、文學なき儒者なり、此理は本來分明にしてわきまへがたきことならねども、何の時よりかあやまり來りけむ、たゞ儒書を讀ばかりを學問と思ひ、文學ある人を儒者ともてなせり、此まよひ世人の心にしみ付たるによつて、學問はものよみ坊主、又は出家などのわざにして、士の所爲にあらずなどとりざたまちまちなり、學問の實義、世間に明かならざる事、天下の大不幸なるべし、

○問云、學問の本意世に明かならざる事、天下の大不

幸なる事いかゞ、

答曰、學問は明德を明かにするを主意頭腦とす、明德は我人の形の根本なり主人たり、此ぬしくらければ主君のうつけて下人のみだりがはしきごとく、其人の思ふところおこなふ事みな天理にそむき、ひとへに名利のよくふかく親をも親とせず、君をも君とせず、たゞ一向におのれを利し、人を損ずる所に利發才覺を用ひ、相あらそひ相うばひ、甚しき時は主親をも弑す惡逆をなせり、人間の萬苦は明德のくらきよりおこり、天下の兵亂も又明德のくらきよりおこれり、これ天下の大不幸にあらずや、聖人是をあはれみたまひ、明德を明かにする敎を立て、人の形あるほどのものには學問をすゝめたまへり、四書五經にのする所みな是なり、

○問曰、四書五經は世間に流布して讀もの澤山なれども、此實義明かならずして、世俗の學問をそしるはいかゞ、

答曰、世俗の學問をそしるは、世俗のあやまりにあらず、學問する人のあやまりなり、世間の學問をする人を見るに、學問の實義を知て學問に志す方はまれなり、多分ものよみ奉公の望か、または醫者のかざりか、或はだて道具か、此三つを志として學問するによつて、學問第一義の明德を明かにする事は、始終とりさたなき事なれば、心をたゞしくし身をおさむる益はなくて、文藝を高滿する病のかさむ計なり、間に志眞實なる方あれども、よき先覺に親炙なきによつて、道のわが心にある事をわきまへず、徒に先王の法賢人君子の迹を認て道とし、世間の好格套を善とさだめ、世間の理窟を認て道理とし、是をもつて心を正しくし、身を修むと伎倆をはげむによつて、本來活潑融通の心却てすくみ、自己心裏に固有したる明德の寬裕溫柔くらく、圭角日々にかさみ、次第々々に人と和睦せずいなものになりぬ、かくあれば學問の益といふものはたゞ文藝ばかりなり、世間の人是を見て、物よみ出家醫者などの外は、無益のことなりといへる取沙汰、そのいはれなきにあらず、若また世間の學者人ごとに凡情の習態をあらひすて、學問第一儀の明德を明かにして、孝悌忠信のまことあらば、親は子の學問せざるをなげき、君は臣下の學術なきをきらひ、學問をそしる口なきのみならず、士は云にをよばず農

人商人に至るまで、學問なくてはかなはぬ事なりともてはやすべし、さあれば世俗の學問をそしるにあらず、學者のそしるなり、學者のまねく所なり、しかるを我も人も學問するもの丶くせにて、世俗の學問をそしるを聞ては、或は腹を立、或はわらひおとしめて、そのあやまりの己より出る事をわきまへず、是をもつて見れば、學問の實義に志なき學者は、世俗の學問をそしるよりも、一きはまさりたる聖門のつみ人なるべし、

○問曰、一文不通にても仁義の明德明かなる人あるべしとならば、聖人以下の人も、學問なくして明德を明かにすることとなり申べきや、

答曰、それもはや文藝を學問とあやまりたる習心より起る疑なり、後學の先覺にしたがひて、性命の道を學び問ふを學問の實義とす、文學は只その一品なり、されば文學なき大昔には、もとより讀べき書物なければ、只聖人の言行を手本とし學問せしなり、世の末になりて學問の本義を取失ふべききざしあるによつて、聖賢これを憂ひて其道をもの丶本にしるして、學問の鏡と定め給ひてより此かた、書物をよむを學問の初門とするなり、人の生付さま〴〵なれば、文藝は極て器用にして心法の取入は無下に無器用なる人あり、此類の人多分俗儒となれり、又文藝は無下に無器用にして、心法の取入は極て器用なる人あり、かくのごとくなる人、よき先覺に從ひ、聖經賢傳の講明を聞時は、文藝無器用なれば文學訓詁をおぼゆる事はならざれども、心法のとりいりは器用なるによつて、必聖經賢傳の大意主意をよく聞とりて、其明德を明かにし君子となれり、かくあれば一文不通にても上々の學者なり、いかんとなれば文藝は道を求る筌なり、魚をうれば筌は無用のものなり、

○問曰、大學の道は上天子より下庶人に至までの敎なりと聞、愚癡不肖の賤男賤女は書をよむ事なるべからずいかゞ、

答曰、むかし聖人の御代には、わづかの小里にも學校あり、卽其里の奉行代官其師匠となりて、耕作のひまに聖經を講明し道を敎るによつて、愚癡不肖の賤男賤女にいたるまで、書物の本意をよく得心するなり、文字訓詁には通せざれども、聖經の主意を聞取、學問の實義をがつてんして、心を正しくし身を修る事は、

中々末代の俗儒のおよばざる所なり、文字訓詁にはよく通じぬれども心の會得なく、其心行凡俗にひとしきは眞實の讀書にあらず、諺にも論語よみの論語よまずといへり、たとへ文盲なりとも聖經賢傳をふかく信仰して、よみ覺たる人に講釋させ、其本意をよく得心して、我明德を明かにするは、俗儒の書物をよみぬるより一きはまさりたる書物よみなり、これをもつて見れば、心學をよくつとむる賤男賤女は、書物をよまずして讀なり、今時はやる俗學は、書物を讀てよまざるにひとし、

○問曰、唐土より渡たる書物際限なし、かたはしみなきかでかなはぬ事にや、

答曰、それは大なる心得そこなひなり、きかでかなはぬ書物は十三經なり、十三經の取入のはしごに成べき名儒の書、七書などの外はよみて益なし、然るにつとめて讀ぬるはめたるく心つかるゝあだことなり、史書は古今の事變を考へ、福善禍淫の印證とするものなれば、餘力のなぐさみに讀ものなりとしるべし、

○問曰、十三經は何々ぞや、

答曰、孝經・論語・孟子・周易・尙書・周禮・儀禮・詩經・禮記・左傳・穀梁傳・公羊傳・爾雅、以上十三部を十三經とさだめたり、

○問曰、十三經も書數おほくて、文才なきものはみなまでまなぶ事およびがたし、其內一二卷學びて道をしかるべき書は何れぞや、

答曰、本來易經一部をおしひろめたる十三經なれば、易經をよく學びたるがよし、然ども易經は簡奧玄妙にして、尋常の人の取入なりがたければ、孝經・大學・中庸をよき先覺にしたがひて學びたらば、人の明暗によりて遲速ありといふとも、志專らにしてつとめ油斷なければ、必眞をなすべし、三書を學びて餘力あらば、其力と隙にしたがひて語孟を學ぶべし、扨また餘力あらば、十三經を皆學ぶべし、十三經をみな學ばねば得道ならぬと思ふも大なる誤りなり、いかむとなれば、十三經そなはらざる時に成德の人卓散（たくさん）なり、十三經備て後却て得道の人すくなし、孝經・學・庸の外はいらぬと思ふもあやまりなり、いかんとなれば時に趣く教へ已事を得ざる勢にして、皆聖賢の遊したる書なれば無用の書にあらず、學ところの書物數の多少に心をとゞむべからず、たゞ一向に聖人となる

べきと志を勵まし迷ひをわきまへ、自己心裏の明德を明かにする益を求むべし、聖經賢傳をきくに明德を明かにする三益あり、觸發一つなり、栽培二つ也、印證三つ也、此三益はみな自己の憤りによつて得る所なり、平生體察の功を用ひずして憤りなくば、二六時中手に卷をすてずとも、其得所の益あるべからず、若此益なくば書をよみてもよまざるにをとれり、

翁問答卷七終

翁問答卷八〔原本、翁問答上丁亥冬〕

○問曰、人間世第一にねがひもとむべきものは、何事ぞや、

答曰、心の安樂に極れり、

○問曰、人間世第一にいとひ捨べきものは、何事ぞや、

答いはく、心の苦痛より外はなし、

○問曰、苦を去て樂を求る道はいかん、

答曰、學問なり、

○問曰、學問にて苦痛を除き安樂を得道理はいかゞ、

答曰、元來吾人の心の本體は安樂なるものなり、其證據は孩提より五六歲までの心を以見るべし、世俗も幼童の苦惱なきを見ては佛なりなどいへり、かくのごとく心の本體は安樂にして苦痛なきものなり、苦痛は只人々の惑にてみづから作る病なり、心はたとへば眼のごとし、眼の本體はたてあけ自由にして物を見ること分明快活なり、若塵砂など目の內へ入ときは、たてあけ自由ならず、物を見ることも明かなら

ず、苦痛こらへがたし、一旦苦痛こらへがたしといへども塵砂を除去ときは、本體にかへりて開閉自由にして分明快活なり、其ごとく心の本體は元來安樂なれども、惑の塵砂にて種々の苦痛こらへがたし、學問は此惑の塵砂をあらひすてゝ、本體の安樂にかへる道なる故に、學問をよくつとめ工夫受用すれば、本の心の安樂にかへる、

○問曰、皆人の心得には貧賤勤勞を苦とし、貴富安佚を安樂とす、然るに苦樂境界にはなくて唯心に有とはいかん、

答曰、左樣の心得ぞこなひを凡見と云て、あさましき惑なり、凡夫は外を願ふまよひふかく、實理を辨へざる意見にて、見かけばかりを以定むる心得なり、夫明德くらければ習に染り人欲に滯り、酒色財氣の惑ふかき故に、天下を得れば天下を憂ひ、國を得れば國をうれひ、家あれば家を憂、妻子あれば妻子を憂、牛馬あれば牛馬を憂、金銀財寶あれば金銀財寶憂となり、見こと聞こと大形苦みとならざるはなし、かくあれば天子となりても下庶人となりても、外相の見かけにはかはりありといへども、其心の苦は差別なし、されば古歌にも「うきことの品こそかはれ世の中に心やすくて住人はなし」とよめり、君子は明德あきらかにして習に染らず、人欲毛頭なし、勿論酒色財氣の惑なき故に天下を得ても與らず、國を得ても憂とならず、家を得ても煩らはず、妻子あれば妻孥を樂み、牛馬あれば牛馬に滯らず、金銀財寶あれば金銀財寶に溺れず、見こと聞こと皆樂となる故に、上天子となりても其樂ます所なく、下庶人となりても其樂減ずる所なし、されば御門の御位は富貴安佚の至極なれ共、和漢ともに歷代の帝王明德くらければ、酒色財氣の惱なきはなし、簞瓢陋巷蔬食をくらひ、水をのむは貧賤の至極なれども其樂比ひなし、又凡夫の上にても、禁中の宮女は其情欲怫鬱の苦みやるかたなし、農人の耕耘は勤勞の至極なれども、其心さのみ苦みなし、大禹水を治め給ふは勤勞の至極なれども其樂快活たり、如レ此よく實理を體察すれば、苦樂の心にあつて外相になきこと辨へがたきにあらず、

翁問答卷八大尾

諦居童問上本

學　問

○童子謹デ問テ云ク、學問トツ子〴〵ノ玉ヘルハ、如何ナルコトゾヤ、

答云、學ノ字ハマナブトヨメリ、我不レ知不ニ心得一コトヲソノシレル人ヨクセル人ニマナビナラフコト也、人生テ無レ不レ在レ學ト心得ベシ、先近ク人ノ幼少ノ時分ヨリヒトヽナルマデノ爲體ヲ考ベシ、タトヘバ其子智慧ツキ物ヲ云事ヲイタス時分ニナリテハ、田舍ニ居テハ田舍ノ音、ミヤコニ居テハミヤコノ音ニウツリ、其ツキ〴〵ノ者、父母乳母ノモノイイ、ナスワザヲナライ、飲食衣類モテアソビモノ、クルイタワムルル仕形、作法コト〴〵ク見聞スル處ニヲシウツリテ、ツイニ我本性トナルナリ、サレバ古ハ子スデニ母ノ胎内ニヤドル時、母ヲ別家ニ置テソバノモノドモミヤ仕ノ輩マデヲ撰、飲食衣服ヨリ初メ其ナスワザニ法則ヲ定メテ胎敎ヲ立、胎內ノ子生レテガラ形容端正ナランコトヲ求ム、皆是學ト云ベシ、然レドモ心ヲ不レ付エヘニ、是ヲ學ト不レ知也、況ヤスデニ生長ノ輩、其學ビナラフ處ニヨツテ、或ハ善人トナリ、惡人トナルコト也、故ニ學ブト云ノヲシヘ尤可レ愼義也、次ニ學問ト云ハ、學デハ問、問テハ學ブコト也、何事ヲモ心ヲ和ゲテ、其道々ニ明ナル人ニ學ビ、ソノウタガワシキ處ヲ尋問テ、ソノ用ヲ詳ニスベシ、不レ知事ヲ推シテイタスハ、タトヘ仕リアツル事アリトモ危シ、古ノ聖人皆問コトヲコノムトイヘリ、堯舜ノ眞(マサシ)キ聖帝タリシモ、事ヲ詳ニツクサントテハ、必大臣ニ尋其議ヲツクシテ而シテ後ニコレヲナシ玉フ、況ヤソノ下ヲヤ、シカレドモ問ニ心得タガフトキハ其道不レ正、堯舜ハイヤシキクサカリ薪コリニモ事ヲ問玉フト云ハ、彼ガ可レ存道ヲ尋子テ、ソノ品々ニ付テ、其要道ヲ考其品ヲ明ニセル、是ヲ察邇言ト云ヘル也、察スル處ナクシテ只問ニアリト心得テハ、大ニ相違シテ却テ人ニ誑惑セラルベシ、故ニ圃ノコトハ老圃ニ尋、農ノコトハ老農ニ尋ヌルゴトクイタサバ、皆學問トナリツベシ、次ニ學文トイヘル事ハ、我ニイトマヲ、シトイヘドモ、問尋子テ學ブベキ古キ師ナクバ、古ノ

聖人ノ書、賢人ノ言行、又ハ世々ノ記録ヲ考ヘテ身ヲ修メ人ヲ治メ天下國家ヲマツリゴチタル爲レ師トモヲ知テ、今日ノ身ノ上世ノ上ニ引及ボシ、日用ノ智惠タラシムル、コレヲ好レ古トモ學レ古トモイヘリ、是等ノ類皆學トイヘル敎也、如レ此云トキハ、ソノ古聖人ノ至極ハ不レ學不レ問シテ、自ラ後代ノ手本龜鏡トナルコトノ出來ゴトクアルナレバ、今日又ソノ本源ヲ了覺セバ、一々人ニ不レ學古ヲ不レ聞トモ通用ナリヌベキ事トモ云ベケレドモ、コヽニ心得アル事也、世々相カサナリ開闢ヨリコノカタ、大唐日本トモニ數千百歳ヲ經ヌレバ、ソノ内ニ聖賢相ヲコリテ、人民日用ノ作法コト〴〵クキワマリ、時ニツレ世ニ從テ、或ハ文章多ク、或ハ質素ニ過、サマ〴〵ニナリモテユキ、ソノ便リアラザル事ハ皆不用ニナリテ、便リアリツベキ事々相殘レルヲ、ウチツヾキ人民ノ間ニ用イ來リ、是ハ誰カ定メ誰カ致セルト云フ事ヲモ不レ知、此等ノゴトクナル風俗(ナラハシ)ニナレル日用多シ、是併聖人相定ムル處ノ用法多シ、是ヲ一々思慮シ出サント心得ルハ、知慮アルニ似テ至テ愚也、故ソノ本末ヲ考ヘ、其前後始終ヲ詳ニシテ、大概ハ世ト推ウツルニ不レ如也

次ニ何事モ學ビユクトイヘバ、コト〴〵ク外ヨリ習フコトニテ、我中ニアル事ニ非ザルト云ニ似タリ、凡人ハ天地ノ中ヲウケ、五行ノ秀氣ヲモチ出テケレバ、能人ニシタガフテ能學バ善人トナリ、賢人君子トモナリヌベシ、至テハ聖人ノ地位ニモ昇リツベシ、此下地我ニアリ、コレヲ智惠ト名ヅクル也、學ト云コトモ智ヨリ出テ智ヲミガクノ心得ナリ、故ニ至リ得レバ皆自己ニアルゴトク、不レ得レ至バ皆外ニアルニ同ジ、ヤサシク善惡トモニソノ學ブ處ヨリ入テ、己レガ智ノ明暗ニヨル事ナリトシルベキ也、次ニ如レ此云トキハ一生只學問ニノミ泥ミテ、イツコレヲ得心スルト云事モナク、又一時ニ脫體了覺シテ其道ヲ悟ルト云コトモナク、イツモ學問々々ト計云ニナリ、唯博文多識ヲ事トスルゴトクニキコユルナリ、全クコヽニ心得アリ、古ノ事ヲ覺エ文才多聞ヲ事トセンハ、一向ノ義ナレバ論ニ不レ及也、世間日用ノ事モ志立テ考問トキハ、大概知レザルコトナシ、此上ニ聖人ノ大道ヲ得心シテソノ知キワマルトキハ、ツイニ無レ不レ通ニイタルベシ、是悟道見性ノ類ニ非ズ、唯知ノ明ニシテ事物ニ不レ惑ノユヘナリ、而シテ學ブト云ヘル事ハ、日々夜々

ニ不ﾚ盡ノ道ニシテ學ブ處ヨリ、次第ニ知モ明ニナルベシ、夫子ハ生知ノ大聖人タリトイヘドモ、學デ不ﾚ厭トモ敏好ﾚ古トモ好ﾚ學トモノ玉ヘリ、次ニ學ハナラフト云事ニシテナラフニ二ツアリ、人ノ云コトイタス事ヲナラフハ、學ブト同意ニシテ效ノ字ヲ用、故ニ學ハ效也ト字訓セリ、習ノ字ノナラフト云ハ學ベル事ヲ今日日用ノ上ニナラハシヲコナフ事也、サレバ習ノ字ハカサヌルト云字心アリト可ﾚ知也、學而時習ト云、傳而不ﾚ習ト云、習トキハ相遠ト云字ノ心、皆モノニナレ、ナラワシニナル心ナルユヘニ、習ノ字ハ行(オコナイ)ニカヽルベシト可ﾚ知也、マナベル事モ行ニナラワシテ考ザレバ皆口耳ノ學ト云テ、實ノ學問ニアラザル也、

○問云、大方ノ世間ヲ承ルニ、何事モマナバザレドモソレ〴〵ノ生付ノマヽニイタシテ一生ヲ送リ、別ノ子細ナクテ過ルノミ也、然ルニ必ズ學ンデヨキ人ニナランコトヲマナビ願イワレアリヤ、

答云、マナブト云ハ、我乃人ナレバ人ノ道ヲナラフベシト云コト也、人ニ生レテモ能マナバズ、學トイヘドモ邪正ヲワキマヘザレバ人トミヘテ人ニ非ズ、故ニ遠キエビスノ作法ニヒトシク、ソノ至極セルハ鳥獸草木ニコトナルコトナク、人タルノ道ヲ失却シテ、ソノ樂トヲモフコトハ皆苦ナリ、ソノ安トヲモフコトハ皆危、其長カレト思フ事ハ却テ短ク、久シカレト思フコトハ、忽ニ滅亡ニ近ヅクヲ更ニ不ﾚ覺不ﾚ知也、是マナバザルノアヤマチニ非ズヤ、又世ノ中ニマナバザレバ、子細モナク一生無事ニヲクル人ノミ多、是不ﾚ學不ﾚ問トヲモヘドモ、世々ノ掟作法ニシタガフテ世ト推移ルユヘニ、ナマジイノ文字ノ學者ヨリ却テスナホニテ世ヲワタルモノ也、惣テ天下ノヲキテ古來ヨリ相定マリタル事ナレバ、是ヲ背トキハ人ユルサズ、人々身命ヲ大事ニ思フユヘニ、大法ノ掟ヲソムクモノハ非ザルユヘ、一生無二子細一送ルコト不審ニ非ズ、又法ヲソムキ惡事邪道ヲノミ事トシテモ、マヌカレテ別事ナキモノアリ、凡ソ天地ハ寛大ニシテセハシカラズ、聖人又溫柔ニシテハゲシカラズ、故ニ惡事邪道ヲ行スル輩、必滅亡スルト云ニ非ズ、近クタトヘヲ取ニ鳥獸魚蟲ハ父母兄弟トトツギ、父母ヲシラズ子孫ヲ害シ、社稷宗廟ノ神明ノ頭髮ニ巣ヲカケケガレヲナセドモ、天地ト、モニ長久ニシテソノトヲリ也、コレハ鳥獸ナレバサモアリヌベシ、南蠻・西戎・北狄・東

夷ノアラキヱビスノタヽズマイ、更ニ鳥獸ニコトナラズシテ、一向邪義邪道ヲ事トシテモ、往古ヨリソノ通リニ立來ル、シカレバ今邪義邪道ノモノニ必罸ノアタルベク必其身ノ亡ブベキト云ニアラズ、然ラバ天道ハ善ニクミセズト云ベキニ似タレドモ、亦然ルニ非ズ、唯今日ノマナブ處罸ヲ恐レテ、學ト云ニハアラザルト可レ知、コノユヘニ惡人ニテモ世ニ立テ子細ナキ事亦フシンニ不レ及也、次ニ人タルノ道ヲ學ブト云子細ハ、先今日我身ヲカヘリミルニ、四支百體具足ノ人ト生レ、物ノワカチヲモ可レ知年齡マデツヽガナク、コトニ天下長久ニシテ干戈ヲ荷事アラズ、イトマ多キ時節ニ逢ヒ、況ヤ本朝ノ地ニ生レ衣食居事足リ、何事ノワザヲツクストモナリヌベク、作法敎ヲウケツベキ師ニ乏カラズ、生質又至愚ナラザレバ、イカホドノ賢人君子ノ位ニモ至リヌベキ我身ナルニ、ステ措テ人トナラザランコトハ甚可レ惜ノユヘニ非ズヤ、サレバ先天地ノ間萬物ノ品アル中ニ人ヲ以テ萬物ノ長トセリ、凡陰陽五行ノ氣相合テ過不及アルトキハ、皆鳥獸魚蟲草木ノ偏氣トナレリ、故ニ鳥獸魚蟲草木ハ其形偏塞シテ、其知慮不レ明、是金木水火土、或過或不レ及シテ羽毛鱗介皮角花實マチ〳〵ノスガタヲ顯ス、其肉味アツテ其形貌人ノ用タリ、人ハ陰陽五行ノ中ヲ得タリ、中ト云ハ其宜シク秀デタル處ヲアツメテウルノコト也、故ニ形體正シクシテ、不ニ偏塞一身體四支五行ヲソナヘテ無ニ過不及一、コヽニヲイテ其知慮考テソノ全ヲ得無レ不レ通、サレバ形ニ過ルトキハ知不レ及、內全ケレバ形正シキノイヽ也、同ジク人倫ナリトイヘドモ、女ハ既ニ其容貌ニ過ガユヘニ男ノゴトクナラズ、況ヤ美麗絕色(タヘナルイロ)ハ必ズ惡ノアツマル處ナリトヤ、是叔向ガ母ノイヽシ深山大澤實生ニ龍蛇一也、コトサラ夷狄ノ人物容貌ソノ質ニ過テ形體不レ正、ホトンド禽獸ニ近シ、コレ道ヲ不レ能レ知ノユヘ也、今我正氣ヲウクル處ノ人タリ、尤モ道ヲマナブニ便アラズヤ、次本朝ハ異朝ト相並デ天地ノ中氣ヲウケ、神代ヨリコノカタ人倫ノ道明ナルコト異朝ニヲトラズ、文物サカンニシテ世々ノ政道文武ノ敎戒タユルコトナシ、サレバ此國ニヲイテハ道ヲマナバザル輩禍ヲ得罪ニ入ヌベシ、是本朝ニ出生スルコト道ヲマナブノ便アルコトニ非ヤ、次ニ內ニ身體四支アリ、外ニ君臣父子夫婦兄弟朋友アリ、況ヤ飮食衣服居宅諸

色ノ用具アツテ、其品々ニマナブ事ナクンバアラズ、コトニ朝暮起居動静家ヲト、ノヘ國ヲ治メ、文ヲ用武ヲ行ノワザアリ、諸事物ニ古法古例アリ、天下ノ法令國家ノ仕置、古今ノ通例當時ノ新法、ソノ教戒省察ノ道、詳ニ思慮セズンバアルベカラズ、次ニ大槩ノアラマシハ、人ニ問ソレニマカセテ事タリヌベシ、君臣父子ノ大義朋友ノ間ノ出入、夫婦ノ大綱又ハ天下ノ大事、國家ノ制法ニイタリテ、自己ノ細工工夫ニカナワザルコトアリ、此時ハ我信實ノ心得發見シテカクレザル事也、スベテ此品々ヲ考自ラハカルトキ、不レ學シテハ推量ニ及ブベキ事ニ非ズ、故ニ人ノ人タル道ヲナラワズシテ不レ叶子細ナリトハ云ヘル也、

○問云、人トシテ不レ學アルベカラザル事承知ス、當代ノ學レ文者ヲ見聞仕ルニ、其身ノ言行皆不レ正、古ヲ引テ今ヲソシリ高慢多シ、是ニ世事ヲ諸六ケ布事ヲ談合スルトキハ、更ニ一事モ不レ通シテ不レ學モノヨリヲトレル類多シ、ソノ失イヅクニアルゾヤ、

答云、文學讀書シテ實學ナキ輩ト、當代ノ世上ニナレ事物ヲ學習シテ知恵アル人トハ、比校スルニ不レ及、文學ノ學者日用ヲ不レ可レ知也、是各ソノ失アリトイヘドモ、當時ニナラヘル人ハ、當用ニクラカラズ、文字ノ學者ハ今ヲシラザルユヘ時義ニ不レ可レ通、又古ヲモ不レ詳也、凡實學ニアラザレバ、文書却テ日用ノ害トナル事歴然タリ、ソノユヘハ古今相隔リ、風俗大ニ違フ、大槩百年ニ世間大變ス、五十年三十年ニ中變ス、コレヲ不レ考シテ數十歳已前ノ事ヲ取テ今日ニ合セントスル事大ナル誤也、但シ變ゼザル事ト變ズルコト、損益ノ道アルコトナリ、是實習キワマラザレバ不レ可レ知、次ニ文字ノ學者ハ異國ヲ以テ師トス、大唐ト日本トハ同ジク一天下ナリトイヘドモ、國ノ大小有所人品萬物ノ次第不レ同也、シカルヲ必ズ異國ノ風俗ニナサンコトヲ云、大唐ノ事ヲ以テ本朝ヲ評シ本朝ニ居テ異國ヲチガフ、故ニ更ニ日本ノ風俗ニ不レ可二相應一也、次ニ古キ書物ニカキシルセル古ノ賢人君子ノ言行ハ、ソノ時ニモ世間ニマレナル人ノ、其言行ノ尤感心イタス事ヲエラビノセタル事多シ、シカレバ上代ト當時ト人ノ根氣モ不同ニ、ソノワカチモ不レ考、古人以テ當時ノ人ヲ評シ、聖人君子ノワカチヲシラザルユヘニ、小人惡人佞奸ノ輩ヲモワカタザル也、次ニ衣服飲食ノ禮節家宅器用ノ作法ソノ道ヲツ

クサヾルユヘニ、或ハ異朝ノ衣服ヲマナビ家宅ヲニセ、器物ヲアツメテ古様ヲ事トシ、或ハ倹約質素ニ過テ時宜禮節ヲカクコトヲ不レ知、是文書ニナヅムノユヘ也、次ニ本朝ノワザヲ詳ニ不レ知ユヘニ、平生ノ事アシモトナル小事、サラニ不案内ニシテツトムル事アタワズ、況ヤ大義大事ノサタニ及ブト云ドモ、實學アラザルユヘニ、コレヲ取テサシ引スル事アタワズ、忠ト云孝ト云道徳ト云仁義ト云モ、カキ付テアル字義文義ニマカセテ、自思慮スルコト不レ能ガ故ニ、或ハ無欲ニシテ財寶ヲ手ニトラズ口ニ不レ云、人ノヌスミトルヲモ不レ考、主人ヨリ祿ヲ得テモアトヨリ一錢ノタクワヘナクナリ、朋友ノタスケヲウケテモ不日ニマドシクナル類、コレヲ無欲ナル高潔ナルト心得、或ハ慈悲ヲ仁ト心得ソコナイテ、人ニ物ヲアタヘトラセ、可レ殺モコロサズ可レ戒ヲ不レ戒、家ニ盜アレバ我仕置アシキユヘナリトテ是ヲ赦シ、人ノ無作法ナルヲバ、我徳ノタラザルユヘナリトテ不レ改ノ類、似テ不レ似マコトノ小人ノイタスワザヲヨキ言行ト思フ、是皆實ノ知クラク其ノリヲ不レ知ガユヘ也、次ニ此文學者ハ人ヲヲシヘ立ルモ、子孫ヲ敎戒スルコトモ唯物讀學文計ニナリテ、智者モコレニナラヘバ愚者ニナリ、勇者モコレニナラヘバ怯者トナルベシ、況ヤ民ノ長侍ノ司トナリテソノ下ヲ下知センコトハサタニ不レ及コト也、次ニ文書ヲヒロク覺ユルホド自身ノ智ウスクナリテ思慮ノイトマナク、何事モ皆文書ニアリト心得ルユヘニ、實知必虛シテ外ヨリ入ル處ノ學文ノ知バカリナルヲ以テ、大道ノ實ツイニ不レ可レ得也、大槩文字ノ學者此失アルヲ以テ日用大ニクラシ、世間ヲヨク知テソノワザヲツマビラカニスル人ハ、時宜ノ學者ナレバ文字ノ學者何ゾコレニ及ンヤ、古ヲ考ルニ異朝ノ五帝三王ノ政ハ、聖人ノ敎ニシテ萬代ノ鏡ナレバサテヲキヌ、秦ヨリコノカタ近クハ大明ニ至ルマデ、天下ノ政道ヲ司ル宰相文學ヲ心トシテケルハマレナリ、唯世ニナラヒ事ヲ詳ニシテ人情事變ヲ考其政ヲヲコナヘルノミニテ國治天下シバラク太平也、又文學ヲ心得ソコナイテ世ノ亂ヲマチキ、民ヲクルシメ天下ヲ失ヘル輩甚多シ、尤モ至テ無學ナレバ事義ノ大綱ニタガイアルモノナリ、シカレドモ至テ俗學ニ長ゼルヨリハ又害アラザルベシ、凡周ノ末ヲ戰國ト云、コノコロマデハ大聖周公旦

天下ノ政法禮義ヲ定メ立玉フ處相殘テ、天下ノ諸侯陪臣マデ皆日用ヲ以テ學トス、故ニ戰國ニアル處ノ國々ノ老臣、ソノ知ソノ言行ノ正シキニ至テハ、後代ノ學文者モ及ブベキニ非ズ、然ニ秦ニ至テ聖人ノ書ヲヤキ失、天下ノ禮義政道コト〴〵ク失却セルヨリコノカタ、或ハ壁中ノ書ト號シ、或ハ老人口授ノ傳書トナヅケテ世ニ書物ヲ祕シ、是ヲ覺ヱシレルモノヲ、文學ノ輩トテ人々崇敬セリ、是ヨリ日用ヲバサシ置テ專文書ヲ事トス、シカレドモイマダ宋明ノゴトクニハアラズ、ソノ後宋朝ニイタリテ道學心學ノサタ初マリテ、學文高尙ニイタリ日用ノ實知日々ニ昧(クラク)、學者山水ヲ樂シミ文書ヲ事トシ世ヲソシリ、人ノ非ヲアラタメ出テ可レ事(ツカユ)主人ナシトヲモヒ、皆山林ニ蟄居ス、サシモ才知アルベキ輩モ、學ノタメニマドフテ其知ヲ忘失シ、君ヲタスケ世ヲ政スルコトアラズ、コレヲ傳ヘ學デ俗學皆如レ此、故ニ俗學ノ輩多ハ浮屠釋氏ノ妻子魚肉ヲイトナミテ山林ニサマヨフニ不レ異、尤可二嘆息一也、

○問云、然バ聖人ノ學其敎ヘ玉フ道ハイカヾ仕レルニヤ、

答云、以前ニ云處ノゴトク、既ニ母ノ胎內ニアル時ニ胎敎アリ、況ヤ出生シテハ其撫育敎導詳ナラズンバアルベカラズ、大槩先養ヲ本トシテ其敎ヲクワシクスルニアリ、凡ソ人ノ形體幼弱ノ間ハ、日々夜々ニ生長シ一年ヲ以テ大變ス、形體變長スルニ隨テ、心智亦氣質トトモニ變化ス、聖人其時節ヲ考ヘテ、詳ニ其養敎ヲナセリ、人幼少ノ時ハ元氣最モ微也、初メテ母ノ胎內ヲ出デ寒風尤ヲソルベシ、故ニ乳母ヲヱラビテ飲食ヲタクマシクス、飲食快トキハ元氣日々ニ長ズ、是木生レ火ノユヘ也、元氣長スレバ身體肉付テユタカニ逞シク、骨節次第ニカタシ、此間驚動セシメズ大笑セシメザル事、品々ノ考ヘ敎育アルベシ、而シテスデニ一歲ヲフレバ、漸人トナリテ視聽言動ヲナシ口中ニ歯生ズ、是火ヨリ土ヲ生ジ土ヨリ金ヲ生ズル也、木火土金アッテ水亦潤、五行ハジメテ其形アラハル、トキ、言ヲヨクシ行歩ヲナス、內ニ心智ハタラキテ、乳母カシヅキ、父母ノ言行ヲマナビナラフ、此間敎育更ニ怠ルベカラズ、其品々多シトイヘドモ、唯時々ノ省察ヲツマビラカニイタシ、童子ノ寢ル處居ル處アソブ處、往來ノ道カシヅキ乳母朋トスル小兒、其衣

服飲食モテアソビノ器物、遊ビタワムル、シワザ、形儀作法、メノトカシヅキノ敎育ノ體ヲ考、其嬰兒ノ志邪義無道僞詐ニイタラシメザル如ク可レ仕也、コ、ニヲイテ既ニ七八歲ニナレル時ハ、齒初メテカワリソムベシ、是金ノ至クナル相也、金至キハ木火土ノ三ツト、ノヘルユヘ也、故ニ齒カワル時分ヲマコトノ敎戒ノ初メトス、金至ガユヘニ齒スデニカワル、金至キトキハ水既ニアツマリテ、成人ノハジメタルヲ以テ、男子ハ外ニ居所ヲマフケテ、男女ノ別ヲ定メ師ヲエラビテコレニツカヘシメ、朋ヲカンガヘテ交ワラシメ、カシヅキヲエラビテ是ニ付、武具文具諸器ヲサダメ、衣服食物家宅ノ制ヲ正シ、六藝ノワザヲマナバシメ、父祖兄母ニ給仕セシメツベシ、幼少ノ時ヨリ耳目ノ欲ヲホシイマ、ニセシメズ、分ヲ守リ職ヲ專トスル事ヲ知ラシメ、云マ、ナスマ、ニ事ヲイタサセズ、朝夕トモニ朋ヲアツメ師ニユカシメテ、ツタヘナラフコトヲ忘失セシメザル如クニ敎戒セシメ、自ラ其忠孝仁義ノヲコナイアルゴトクナラシムル是其大法ナリ、スベテ幼弱ノ間ハ只事物ノワザヲヲボヘシメ、四支骨節ヲナラワシ、形體ノ懈怠ナキゴトクツトメナラワスモノ也、既ニ十五六歲ニナランズルトキハ、木火土金水トモニ逞(タクマシ)ク、形體肥大ニシテ骨節甚ツヨク、容貌以前ニ變ズ、コ、ニヲイテ金盛ニシテ水アフレ、腎水ユタカニ音聲自ラ變ス、此節ヲ以テ敎戒ノ極トスベシ、故ニ義ヲ正シ道ヲ明ニシテ、天地ノ大義人物ノシナ〴〵、出テハ悌アリ入テハ孝アルベキワザ、忠信仁義ノノリ日々省察敎戒シテ、人倫ノ大道至誠無レ息ノコトワリニイタラシムベシ、是ヲ小學大學ノ敎ヘト名ヅケタリ、聖人ノ敎更ニ他事ナシト可レ知、而後ニ二十歲三十歲四十歲段々ニツ、シミ守ルベキ次第、古ノ書ニクワシトイヘドモ、先小學大學ノ敎ヲ本トシテ、ソノ已後一生ノ學ハ只日用ノ間、知ヲ明ニイタシテ邪正明白ニマドワシメザルマデノコトナリ、如レ此ツトメテ不レ已バ、人ノ人タル道ニ至ルベシ、不レ然バヲシユルニソノ道ヲ以テセザルユヘニ、不レ得二人道之正一也、

○問云、學文敎戒ハイヅレモ善ヲナシテ惡ヲヤムルニアルベシ、シカラバ皆人ノ人タルベキ道ナリ、然ルニ俗學ハ人タルノ道ニアラザル子細ハイカヾイタセル事ゾヤ、

答云、聖人ノ敎ハ人ノ道ヲツクスヲ以テス、シカルニ後世ノ學者ハ人ヲ以テ草木鳥獸魚虫ニ至ラシムルノ敎ナリ、是善惡是非ヲ明辨セザルユヘナリ、人々大槩ノ善惡是非ヲバシルト云ヘドモ、眞ノ大義大事ニ及ンデハ善惡是非シリ難キモノ也、衆好ンズトモ是ヲ察シ、衆惡ンズトモ是ヲ察セヨトハ此心ナルベシ、周武王ノ殷ノ紂ヲ伐シヲ伯夷ハコレヲ非ナリト云、太公ハ是ヲ是ナリト云、老子ハ仁義大道ノスタレタル處ヨリ出タリト云、易ニハ仁義ヲ人ノ道ト云ヘリ、況ヤソノスヘ〴〵ノ數ニタラザル學者、サマ〴〵ノ異論アツテ善惡是非カツテ不ニ分明一、コレ皆自ノ是非ヲ是非トシテ、天地人物ノ公是公非ヲシラザレバナリ、サテ敎ヲ立ル輩古ニハ楊朱・墨翟・老・莊・韓非・申不害ガ類、近クハ佛氏禪法囘々(ウイ〳〵)ノ敎、儒ニ荀子・董子・賈誼・文仲子・韓退之・周茂叔・陸象山・朱子・陽明各一流ノ說一家ノ學ヲナシ、仙家道流忌部(インベ)卜部(ウラベ)ノ神道又神仙ノ事ヲノブ、然レドモ其敎意大槩左ニシルス、先天地開闢混沌未分ノ說ヲ本トシテ、空寂無物ヲ事トシ、一念未レ生以前ニ工夫ヲ付、我乃天地天地乃我萬物本一體也ト觀ジテ天地ノサキヲウツシ、一氣未レ起所ヲ覺リ、

神明鬼神ノ妙所ヲ云、權化奇獨ノ事ヲ立ルノ敎アリ、又三世不レ可レ得ヲ論ジ、三界ヲ立六道ヲ云テ、生ヌサキ死シテ後地獄淨土ヲ建立シ、或ハ仙境ノ長生不死佛菩薩ノ身トナラン事ヲ敎トスルノ說アリ、或ハ男女ノ情ヲ絕、飮食ノ欲ヲ戒、金ヲ山ニステ、玉ヲ海ニ沈メ、麻ノ衣アカザノアツモノ、一鉢ノマフケハ世ノツイヘニアラズト思ヒ、色ヲ見テ色トミズ、聲ヲキイテ聲トキカズ、況ヤ一切ノ器物用具一ツモマコトノコトニ非ズ、コレヲ手ニモトリ心ニモイレンハ道ニ非ズト思ヘル敎ヘアリ、或ハ山林ニ入テ世ヲイトイ、ツカユベキ君父ニツカヘズ、アワレムベキ類親ヲステ、山上入海シテ、ツ子ニ座禪觀法シ、身ヲ捨心ヲコラスヲ以テ敎トスルノ輩アリ、或ハ行住坐臥ヲ心ニマカセ、情ノマヽニフルマフテ禮義ヲヤブリ、律令ヲ不レ立心ノマヽニイタスヲ、安樂ナリ自由ナリ殊勝ナリトイタスアリ、或ハ刑法ヲタヾシ戒律ヲ守リ、文書ヲ以テワザトシテ朝夕ノ作法カタクナニ一向形ヲ專トイタスノ敎アリ、或ハ心性ヲ味ヘ何事モ一心ヨリ出デケレバ、此心性ヲ了覺悟道イタセバ、天地ノ間通ゼザル事ハナシト心得、無欲清淨ノ地ヲトシテ

聖人ノ仁中庸ノ中ナリトヲボエ、脫然洒落ヲ事トシ、一點ノ人欲ナキ所ヲ味ワユル輩アリ、然ルニ此敎ハ各ヲノレガ說ヲ是トシテ人ノ說ヲ不レ入、見聞ノ輩本ヨリ善惡ニクラケレバ、己レガ氣質ノコノム處ニヒカレ、己レガナリニクキ事ヲツトメヲコナフ人ヲ殊勝ナリト心得テ、コレニ從マナブ、一タビ學ブトキハ又外ニウツルコトヲ不レ得、蓼ノ虫ノ辛ヲ忘ガ如キ故ニ、其末々コトぐく相違テ、互ニ相是非スル也、若聖人ノ道ヲ以テ論ゼントナラバ、如レ此敎戒ハ皆邪道ニシテ人ノ人タル道ヲトリウシナワシムルト云ベシ、ソノ故ハ我元來人倫ナレバ人ニ交リ、人ニツカヘ人ヲツカイテ一生ヲスナホニ送ルベキニ、山林ニカクレ樹下石上ヲスマイトイタシ、海ニウカビ木ニスクフテ鳥獸ヲ愛シ魚虫ヲトモナフ、是聖人ノ玉ヘル鳥獸ト群ヲナスニ非ズヤ、又色ヲミテ色トセズ、聲ヲキイテ不レ聲、財寶ヲ土塊ニタグイ無欲淸淨ヲ事トシテ、利祿ヲタチ欲心ヲ廢スルハ、是死灰槁木ノ地位草木瓦石ノ非情ニシテ差別ナキニ異ナラズ、況ヤ書籍文義ノ一事ニ取ツキテ他念ヲヤメ、形式ノ摸樣ヲ立テ格ヲ定ムル類ハ、楷板漢ニシテ知ヲ失シ、世事日々ニクラシ、賈逵ガ大學ニ入リ、書ノミ知リテ不レ通二人間ノ事一ニコトナラズ、又性心ノサタヲ事トシテ、氷ヲヱリ水ニヱガキ取ル處ナキ荒唐ノ言ヲ以テシ、默識心通ヲ云テ靜坐持敬ノ事トシ、事物ニワタルトキハ、德ヲ以テコレヲ化スベシト云テ其用ヲシラズ、知慮スベキ事アレバ、是術ナリ伯業ナリト號シテ、專ラ高尙ヲ事トスルコト、是日々ニ知ヲ失却シ世間ヲ忘却シ至愚至鈍ニイタル、サレバ如レ此ノ敎誨ハ人倫ニ生レテ鳥獸草木ニナリ、タマぐくアル所ノ知惠ヲ失テ、愚昧黑暗ノ者トナルノ事ナレバ、甚可レ畏ノイゝニアラズヤ、古ヲ以テコレヲ證スルニ、七賢ガ淸淨虛無ヲ事トシ、終日淸談シテ世事ヲステ、中ニモ嵇康ガ山澤ヲ弄デ七不堪ノ說ヲ云ヘルハ、マサシク鳥獸魚虫ノタヽズマイニ不レ異、コヽニ於テ晉ノ風俗頹廢ス、王衍ガ風鑒叔寶ガ玉潤ハ人ノ尊敬セシ處也、黃憲ガ無欲ナルハ、時月ノ間不レ見二黃生一則鄙吝之萌復存二于心一ト稱セラレ、元魯山ガ風物ハ見二紫芝眉宇一使二人名利之心都盡一ト嘆ゼラル、其胷中一點モケガレザルコトハ瑤林瓊樹ノゴトクニシテ、此世ノ者トハミヘザリシモ、世ノタメ人ノタメニ一事ノ益ナク、或ハ

怯レテ殞殺セラレ、或ハ酒ニヤブラレ、或ハ隱レテ不レ出、其行ヲ稱スベキニアラズ、コヽヲ以考フルニ、世間ノ大欲無道ニシテ、淫亂不義ノ輩ニ比セバ、是等ノ學者シバラク可ナリトスベシ、サテ世ニナレ事ヲ心得知慮アツテ君ニ事ヘ民ヲ使フ無ニ文學一ノ人ニハ遙ニヲトリテ益ナカルベシ、中庸ニ知者賢者ハ過、愚不肖者ハ不レ及、ユヘニ道ヲコナワレザルトハカヽル事ニヤ有ベケン、唯善惡ノ不レ明自ノ心ヲ以テ師トスルガユヘノアヤマリナルベシ、

○問云、然ラバ學問ノ術師ヲトル事ヲ以テ二本ト可レ仕、師ヲ考ヘ知ルノ道ハイカヾイタシテ可レ然コトゾヤ、

答云、師ニワザノ師アリ、是ヲ事物師ト云、道ノ師アリ、是ヲ知德ノ師ト云、事物ノ師ハ古ノ小學ナリ、知德ノ師ハ古ノ大學ナリ、事物ノ師ト云ハ、天文ヲ考地理ヲシリ、六藝ヲナライ、文武ノ事物ヲ學デ、身體骨節ヲナラハシ、古今ノワザヲシルコト也、知德ノ師ト云ハ、人タルユヘンヲ開テ其知識ヲ明ニイタス、是其事物ノ至極ヲ盡ス也、凡ソ師ヲエラブ事一藝ノ師ト云トモ、ユルカセニ致スベカラザル也、タトヘ事物ノ師タリトモ、當時ノ上手ナリト賢知ノ人々崇敬アルモノ、或ハ古來傳義ノタシカナル據アル、此兩樣ヲエラブベシ、尤時ニアワズ凡下ノ者ニ沈淪イタセル輩ニ能者アル事古今不レ珍トイヘドモ、事物ノ藝ハ私ヲ以テ推量仕リニクキユヘニ、世ノ其事物ニナレタル人ノ是非スルヲ以テ、大概コレヲ批判スベシ、次ニ其師ノ年齡ニヨルベシ、尤生國本國今マデ居住ノ國所當分ノ居所人品朋友弟子ノ體、其身ノ祿貧富、不斷之言行作法禮義、弟子ドモヘノ敎法、其本意ヲ詳ニ聞定メテ而後ニマコトノ師弟トナルベシ、只一事一藝ヲキヽテ當座ノ學習スルハ此外也、師弟トチギリテハ始終見放タレザルコト多ケレバ、詳ニスルニ不レ如也、コトサラ知德ノ師ハ我ガ君父ニ仕フルノ本末ヲ知、子孫ニノコスベキ敎戒ヲナライ、我身ノ一生ヲ建立スル事、此師ノ敎ニヨルナレバ最詳ニツクスベシ、是又其撰法大概右ニコトナラズ、時ヲ得テ人ノ崇敬ニアヅカリ仕官奉公ノ人アリ、不幸ニシテ世ニ沈淪シ、或ハ配所ノ月ヲ罪ナクテミルアリ、或山林ニ居ヲシメ田舍ニスマイテ貧ヲタノシム輩アリ、其人之出生前後ノ居所、尤言行・人品・家宅・衣服・飲食・諸具

ノ體、朝夕ノツトメ、文學ノ多少其人ノノリトイタス處、手本ト存シテ道德仁義忠孝ノコトヲ記タル文書ヲ見ベシ、又其教ヲツタヘタル門人弟子ノ言行幷何事ヲ本トナシ末トスルノ敎戒、次ニ其人ノ志所本意知慮ノ考、大概是等ヲ以テ察スベキ也、シカレドモ是ハ其形ノ定法ヲ云ヘルニシテ、ワザノ師ヲ撰トカハリテ、我知惠ヲ以テ其是非ヲハカルコトナレバ、大方ニ心得テハ一生ノ相違出來リヌベシ、

○問云、道ノ師ヲ撰ハ我ニアル事ナレバ、其知慮ヲ詳ニセザレバタガイアルベキノ旨承知セシメ、猶其大概ヲ示諭セシメ玉フコトヲ願、

答云、道ノ師ノ實ヲシラントナラバ、先聖人ト云人ヲ詳ニ可レ知也、凡ソ聖人ヲ俗學世上ヨリ推量シテ云モシ思モスルハ、德義優長ノ體顏色ニアラハレ、芝蘭ノ匂自身ニ薫ジ、相好人ニカワリテ千萬人ノ中ニ居テモマサシクカクレナク、殊勝自然ニアラワレテ直人ニハアラザルトシラル、モノナリト思ヘリ、尤權化奇特多シテ天地ヲウゴカシ、其言行人ニカワリ聲色ヲ見聞シテ、槁木死灰ノ無レ情コトナラズ、マシテ財寶利祿ノコトハ紅爐一點ノ雪ヨリモ猶イサギヨク、其博學多聞ナルコトハ通セズ不レ知ト云事ナク、是ヲ以テ天下ヲヲサメシムレバ多年ノ邪惡一時ニ滅却シテ、甘露下リ麟鳳常ニカケリ、萬民皆道德仁義ヲ行、是ニ一タビマミエレバ白地ノ凡夫モニワカニ光輝出來リ、心身忽ニ無欲淸淨ニナルモノ也ト思フ、是聖人ノ實ヲ不レ知ガユヘ也、サレバ周公孔子ノ大聖人ノ言行幷ニ天下ノ政令ヲ考ニ、更ニ如レ此ノ事アラズ、蓋聖人ト云人ハ只人倫ノ至極ニシテ、全ク人ニカワレル事ナシ、人ノ人タル道ヲツクシテ能事物ニクラカラズ、更ニ惑コトナシ、其人品ヲ云トキハ溫恭謙讓ナリ、君ニツカヘテハ能禮ヲツクシ、父ニツカヘテハ能孝ヲツクシ、文事ニハ文章明ニ、武義ニハ武備全ク、溫ニシテ勵シカラズ威アツテ不レ猛、ツトムベキ時ハツトメ休ムベキハ休、可レ取モノヲトリ可レ與モノヲ與ヘ、施スベキトキハ惠ミ、オシムベキ時ハヲシム、其言行更ニ形ノ名クベキ處ナシ、故ニ其實ヲ不レ知モノハ施ヲ見テ無欲ト稱シ、ヲシムヲ見テ貪ト疑ヒ、禮ヲツクスヲ見テ諂ト思、不レ諂ヲ見テ奢ト思フ、是皆己ノ眼ノ了簡ニシテ、聖人ヲシラザルガユヘ也、能天命ヲシレルガユヘニ求ムベキ事ヲ求メ、謀ルベキ事ヲ謀リ、貯ベキ時ニ貯テ成敗更ニ疑コトナシ、能分ヲ

安ズルヲ以テ職分更ニタガワズ、司ドル處ヨク治リテ其謀不レ出レ位、此ニ事物ノ禮ヲ尋テハ本立テ道生、是ニ國家ノ大義ヲ談ゼシムレバ事ニ滯ル處ナシ、平生ノ衣服家宅器用ニ至ルマデ、カザルベキヲカザリ質素ナルベキヲ質素ニシ、或ハ美ヲ盡シ或ハ力ヲ出シテイトナム事アリ、又不レ盡不レ出處アリ、凡人ノイタスシワザニ大概コトナルコトアラズ、コレニ親ンデ其敎ヲツクセバ、質自然ニ變ジテ知日々ニ新ナリ、其敎ヲツクサヾレバシイテ是ヲ引道セズ、只人ノタメ世ノタメニナルベキ、其事物アルトキハ詳ニ示サズト云事ナシ、其聰明睿知ニシテ至聖無レ息ノ道萬物ヲテラシテ萬代ノ龜鏡タリ、故ニ無欲トモ有欲トモ清淨トモ穢濁トモ、イヅカタヲサシテ名ヲナスベキ形ナシ、此ヲ無レ可無レ不可トハ云ベキニヤ、サテ聖人ヲシテ天下ヲ治メシメバ、萬民今日ニ替事ナク、法度ツヨキト、ヲソレヲノヽク仕置モナク、慈悲深重也ト辱カルメグミモナク、ツヨカルベキヲツヨクシ愛スベキヲ愛ス、訟獄(ウツタヘ)アレバ明ニ辨ジテカクルヽ處ナキガ故ニ、民奸曲ヲ不レ構、事ノ滯ル事アルヲ問注處ニ尋ヌル時ハ、明ニ裁許シテ結ル事ナシ、制法條目煩(ワヅラ)ハシカラズ、四民ノ禮節正シク疑惑スル事アラズ、故ニ四民各其處ヲ得テ君子小人皆安ンズ、國ニハ國ノ敎ヲ詳ニシテ諸侯ニ命ジ、郡ニハ郡ノ敎ヲ以テ郡主ニ命ジ、卿大夫士ハ家ノ敎ヲ以テ事トス、コヽヲ以テ其政令日久シク年重ナレバ、萬民自化シテ是上ノ德タルコトヲ不レ知、四時自順テ土地自墾ル、是併時ニシタガツテ政ヲ出シ、地ニヨツテ令ヲシキテ更ニ設ヲツクロフ政ニアラズ、古ノ堯舜禹湯文武周公ノ天下ニオケル如レ此ノ外書傳ニ不レ出也、聖人ノ世ニモ天變地變ナキニ非ズ、惡人無道ノモノ盜賊非義ノ族、尤モ錦繡ノ粧翫好ノ器、鄙曲ノ淫聲風流ノ游女(タワムレメ)、公事訴訟人、法ヲ背ク謀叛人、又ハ異端ノヲシヘ邪說暴行佞奸ノツクリモノ、巧言令色ノヘツライモノトモニ世ニ多シ、故ニ聖人常ニコレヲ戒シム、サレバ天地ノ變アリテモ聖人ノ治ヲ妨グルニ不レ足、亂逆ノ戰ヲコリテモ民ヲ惱(ナヤマスニ)不レ及、惡人無道ノモノ位ヲエザルユヘニ、ソノ惡ヲ施トコロナク、物皆ソノ處ヲ得テソレゾレノ利ヲ利トシテ風俗自然ニ化シ、人ノ邪惡施コトヲ不レ得ニ及ベシ、是聖人ノ治レ人修レ身ノ用法ナリ、コレヲ詳ニツトメ、其ノリヲ立テ以テ學ノ師ヲ立ベ

キ也、
○問云、承ル所ノノリヲ立テ學ノ師ヲ求メントセバ、當代ニアルベカラザルカ、
答云、ノリヲ立ルハ我心ニ準則トスルノイ、也、然レバ文學ヲヨク心得タル輩ヲ師トシテ、其文義字義ヲ心得、直ニ聖人ノ書ヲ詳ニ讀習シ、コレヲ我心ニヨク思フベキ也、思ト云ハ思慮スルノ義也、思慮スル處詳ナラザルガユヘニ、見聞ニナヅミテ實ヲ失却ス、思慮スル事正シクバ無レ不ニ明白一也、サレドモ學バズシテ思慮ヲ事トスレバ、己レガ心ヲ師トスルユヘニ、皆私ニナルコトヲ不レ知ナリ、故古ノ文書ヲ學ビ今ノ世事ヲナラヒテ、以テ我心ニ思慮イタサバ、善惡是非ウタガイアルベカラザル也、
○問云、今承ル處ノ思慮ノ道ハイカヾ仕ルベキヤ、
答云、思慮イタスト云ハ、何事ヲモ詳ニ考ヘ思フラ、輕卒ニイタサヾル事也、凡ソ天地ノ間ニ出生スル有情非情ノ萬物、皆ソレ〴〵ノ形ヲアラワシ、其精ヲ以テ性心トイタシ、相應ノ知惠ヲモツト云ドモ、人間ノ知ニ及ブ物ナシ、是人ノ萬物ニ長タルユヘンニシテ、陰陽五行ノ中ヲ得タル證據ナリ、サレバ萬物ハ皆天地ニ制セラレテ、自ラ其道ヲ立ル事ヲ不レ得、只自然ニマカスル也、人ハ天地ヲ佑ケテ天地ニ制セラレズ、天地ノ天地タル事ヲ工夫シテ、天地ノ大德ヲ天下ニアラワシ萬代ニ示ス、是人ノ天地ヲタスクルナリ、殊ニ家宅ヲカマヘテ風雨ヲフセギ、堤ヲツキ池ヲカマヘテ旱水ヲマホリ、五穀ヲウヱ衣服ヲコシラヘ、國郡ヲ定メ山林ヲマフケ、器物用具ヲコシラヘ、尊卑上下ノ制ヲ立、日用ヲ定四民ノ敎ヲキワメテ、其智ヲ全クスル事、是天地ニモ制セラレズ、各當然ノ道ヲ建立スルニ非ズヤ、如レ此ノ知惠アリトイヘドモ、マナバザレバ光ナシ、學ブニ其正道ヲ以テセザレバ明ナラズ、光明ナラザレバ是非ヲワキマヘズ、善惡ニマドフテ五倫ノ道ニクラク、邪義ヲカマヘ佞奸ヲタクミ、或ハ金銀ヲ貪テ吝嗇ヲ事トシ、或泰奢テ財寶ヲ泥土ニ比シ、或器物ヲ愛シ、酒色ニ溺、或無欲淸淨ヲ立テ山林ヲ居所トシ、奇異ノ作法ヲ立テ此ヲ是ナリトシ、時節ヲ考ヘズ、位ヲシラズ、家財ヲ失、百姓ニ物ヲヨマセ、武士ニ長袖ノマチヲ致サシメテ、各ソノ知惠ヲ失却セシメテ、人ノ人タル道ヲ絶滅セシム、是何方ノアヤマリナリト云トキハ、思慮クラキガユヘ也、次ニ思慮

アリテモ不レ學トキハ、己レガ情ノマヽニ行テ不レ止、ソノユヘハ人ノ情ソノ氣質ニ因テ品々ノ差アリ、故ニ其心色々ノヲモワクアリ、タトヘバ酒ヲ好ムモノノアルニ酒ヲ嫌モノアリ、病者アレバ無病ノ者アリ、其氣質ニ過不及ナクンバ非ズ、サレバソノ生レ付ノマヽノ心ヲ以テ思慮セバ、皆自己ノ心上ニノミ落ツベシ、シカラバ無欲ナルモノハ無欲ヲ以テ本體トヲモイ、惡心深重ノモノハ人ノ性ハ惡ナリト思イ、善惡交ルモノハ善惡アリト思フ、是一家ノ說ヲナシテ一理ヲトクノユヘ也、是ヲ心ヲ師トスルト云也、故ニ古ノ聖人ノ立置處其言行ヲ知、當時世上ノカシコキ人ノ行ヲ考ヘ、其上ニ我心ヲ引合セテ思慮イタサバ不レ中ト云トモ遠カラザラ（衍カ）ジト可レ知也、

○問云、往古聖賢何レヲ以テ手本トナシ、イヅレノ書ヲ本トセンヤ、

答云、ソノ敎家ノ先師ヲバ皆ソノ家々ニテ聖人ト云ヘリ、釋氏ハ釋尊ヲ大聖世尊ト號シ、道家ハ老氏ヲ元聖李老君ト云ヘリ、此外ニモ定メテ一家ノ敎ヲ立ツル輩皆シカラン、是自身ノ稱美ニシテマコトノ人倫ノ大聖人トハ云難シ、サレバ只今日々用ノ道明ニシテ四民所ヲ得、人ノ人タル道ヲツクス是ヲ聖人ト云、此ヲ下段ノ事ナリトシテ飛越テ以前ノ事ヲ云、目ニミヘヌ長生不死ノ事ヲ論ゼンハ、取テノリト致シガタシ、故ニ大唐ニハ三皇五帝三王ノ敎、本朝ニハ神代ヨリ人皇最初ノ作法皆人倫ノ常ニシテ更ニ異說ナシ、是ヲ詳ニツクセル人ハ、周公孔子ノ外ニアラズ、唯周公孔子ノ敎ヲ以テ聖敎トシ、ソノ書ヲ以テ師トスベシ、賢者トイヘルハ一事一行ノ人ニスグレタルヲモ、又智識サカシキヲモ云ヘルナリ、故ニ一事一行又ハソノ智識ノ博クワタランコトニハ、我ヨリマサレル人皆我師ナリ、況ヤ上古中古近代ノ賢人君子皆執テ師トスベシ、大道大義ノ所知惠深重ノ極所ハ、聖人ヲ以テ則トイタサヾレバ其志必相違アリ、往古ノ伯夷・太公・伊尹・傅說・柳下惠弁ニ孔門ノ顏子・曾子・子思・孟子ト云ヘルモ、周公孔子ニアワセテハ、肩ヲナラベ口ヲ一ツニシテ云難シ、況ヤ其下其末々ハ皆自流ノ學者ニテ五十步百步ノタガイナレバ、唯願フ處ハ聖人ノ大意ニシテ、取用ユル處ハ我ヨリマサレル人及我ヨリクダレル者、皆師資タルベキ也、次ニ書籍之事大學ノ經一章、中庸論語次ニ孟子ヲ讀ベシ、六經ハ其後ニアリ、事ヲクワシクセンニハ春秋アリ、其

本ヲ正サンニハ周易アリ、禮ヲ詳ニセンニハ禮書アリ、サテ四代ノ風俗嘉言善行ハ書ニ出タリ、天下ノ人情風俗ハ詩三百篇ニツクセリ、此外代々ノ盛衰人品、其作畧ハ世々ノ紀錄ニ出、ソノ評論ハ先儒綱目綱鑑ノ類ニ多シ、皆以テ致知ノ一端タリ、シカレドモ聖經ヲ以テソノ本ヲキワメズシテ、只世知ニワタラバ知マチ〳〵ニシテ、明ナルベカラザル也、

○問云、學者學キワマリテ既ニ聖賢ノ地位ニ至リテハ、學問ト云コトアラザルヤ、

答云、聖人ハ聖人ノ學アリ、賢者ハ賢者ノ學アリ、愚者ハ愚者ノ學アリ、人ノ一生ノ間無レ不レ學ト心得ベキ也、夫子ハ生民アツテヨリコノカタ無レ之、大聖人タリトイヘドモ學テ不レ倦トノ玉フ、又敏而好レ古トモ、不レ如ニ丘之好一レ學也トノ玉ヘリ、コヽヲ以テ案ズルニ大聖人トイヘドモ、學ブ處ノツキザルコト如レ此トキハ、末世ノ愚民タレカコレコソ學ノ極ナリト云コトアランヤ、若コレヲ以テキワマレリトセバ、天地ノ無レ疆無レ息ノイヽニ非ズトシルベキ也、易ニ乾々不レ息ヲ以テ天ノ德トス、天道下濟而光明也、地道卑而上行、天道虧レ盈而益レ謙、地道變レ盈而流レ謙、鬼神害レ盈而福レ謙、人道惡レ盈而好レ謙、謙尊而光、卑而不レ可レ踰、仲虺之誥志自滿九族乃離ト出タリ、我ハ學ブニ不レ及トヲモフ心ノ出ルハ皆盈トスル也、ミテリト思フトキハ乃クラキヨリクラキニ入ルニナルベシ、學ト云事文字ニ不レ可レ限ナレバ、ソレ〳〵ノ職司ニ居ルト云ドモ、又ソレ〳〵ノ學ブベキ道アリ、規考フベキノ品アルベケレバ、コレヲ盡タリト云ハ宴安ノ出ル處ナリ、蘭芷變而不レ芳兮、荃蕙化而爲レ茀、何昔日之芳草兮、今直爲ニ此蕭艾一也、豈其有ニ他故一兮、莫ニ好修之害一（無レ有レ如ニ好一レ修之爲レ害也）ト離騷ニ出セリ、タトヘ一度ハ蘭蕙ノ芳香ヲフクメリト云ドモ、コレヲステヲクトキハツイニチガヤトナリテ、ソノ跡ナクナルコトハ修スル處アラザレバナリト云ヘル心ナリ、聖人ト云ドモコレニテ事ノトヾマルト云コトハアラザルタメシナレバ、唯修レ之學レ之デ日々ニ新ナランニアリ、コレ日新之謂ニ盛德一ノ義ナルベシ、若積ニ藥鏡上一而不レ加ニ磨治一、未ニ必不一レ及レ爲ニ鏡累一ト潘默成ガ磨鏡帖ニカケルモコトワリアリ、

○問云、人ノ善惡全ク敎ニアリト云トキハ、道ハ外ヨリ來ルニ同ジキカ、

答曰、人物敎ニヨラズト云コトナキ義前ニ說ガ如シ、タトヘバ草木ハ非情ノ物ナリトイヘドモ、風寒ニタヘタル松柏ハ棟梁ノ用アリ、シカラザレバ松柏棟梁ノ用ヲナサズ、況ヤ枝ノ出ヤウ木ノ形皆コレヲタメ直セバ直シ、麻ノ中ノヨモギハ自直ナルタメシモアリ、殊ニ鳥獸ハ人ノ敎ニ順テ其能ヲアラワス事世以テシカリ、サレバ人ノナライニヨルベキ事不審ニ不レ及ナリ、夫子モ習相近也トノ玉フ、伊尹モ習與レ性成ト云、召公モ節レ性惟日邁(スヽム)ト說ケリ、次ニ習ヲ以テ云トキハ道外ヨリ來ルニ同ジト思フコト尤其イワレアリ、告子ガ仁義ヲ外ニシテ杞柳桮棬ノ說アレバ、性ヲメテ善ヲナサシムルト云ヘル不審、古ヨリ有レ之事也、人ノ性物ノ性同ガ如シ、シカレドモ人ハ二氣五行ノ精秀ヲ得テ人タルユヘニ、ソノ心性モ亦萬物ニスグレテ、善ヲコノミ惡ヲニクムノ心フカク、是非邪正ヨク思慮スルトキハ、ワキマヘツベキ知アリ、ユヘニ其性心知識ニシタガッテ其道ヲ立テ、其ノリヲマナバシメ敎ヘシム、是率性コレヲ道ト云ヘルノ心ニシテ、好ニ好色ニ惡ニ惡臭ニノ至誠、人々萬物ニスグレテ秀精ナル所也、鳥獸草木ハ好色惡臭ヲシラズ、邪正善惡ノ知クラキヲ以テ、タマ〳〵コレニ其ワザヲヲシヘ、コレヲタメテ直ナラシメテ、ソノ用ヲナストイヘドモ是レカレガ不レ好處ナルユヘ、アトヨリ本ノ如クニナレル也、サテ道ノ準則事物ノ禮節ハ聖人ノ立玉フ敎ナレバ、是外ナリト云ニ近シ、コヽヲ考ユレバ內外相因テ而后ニコノ道成就スト可レ知也、唯內ニ向テ求メ外ニ走テ力ヲ勞セバ、トモニ聖人ノ道ニ非ザル也、

○問云、學問ノ道イヅレヲ以テ先トシテ、ソノ實ニ至リ侍ランヤ、

答云、學者各ソノ心知ノ物ニマドフ處アッテ不レ通(ルセ)コトアルユヘンヲ不レ知、コレユヘニ事物ニ相アタッテ是非邪正ヲワキマヘザルナリ、コヽヲ以テ案ズルニ學者ノ先務惑ヲワキマフルニアルベシ、シカルニ惑ト云ハ過ト不レ及トノ二ツニ出ルコト也、サダマレル誠ノノリヨリ厚ク過ストキハ、泥著シテ必ズ附益助長スルニ至ル、コレヲ過ト云、附益助長ト云ハ本ナキ事ヲ付テ大ニ云ナシ仕ナスト、宋人ノ苗ヲヌキアゲテ長ゼシムルゴトク、シイテ是ヲ助ケマスハ皆惑也、サレバワガヒイキノモノ、愛著ノ切ナルモノヲバ少ノコトヲ大ニイヽナシ、ナキコトヲモ有ト云テ、人ノ

前ニテ稱美シ、人ニモ稱美セシメタキゴトキ、皆是附益助長ナリ、況ヤ喜怒哀樂ノ情ニマカセテソノ節ヲ失シテ、ソノ本ヲ失フコトハ過ルトコロノ惑也、次ニ不レ及トキハ疎畧輕忽ニシテ大箇ニヲチ入ルノ惑アリ、大箇ト云ハ詳ニ不レ考、敬テ不レ思シテ先後ノツモリナク始終ヲハカラズ、當座ノ思出ス處ニマカセテ徑タチニ行フ事ナリ、過ト不レ及トノ失ニヨツテ其本ヲ忘ル、ニ至ルガ故ニ惑ト云也、此惑ヲ知ラザル故ニ是ヲ修スル事ヲ不レ得シテ、或ハ惑ヲ以テ正トシ、或ハ誠ヲ以テマドイトス、異端ノ邪説暴行全ク惑ヲワキマヘザルヨリ起レリ、惑ヲワキマヘザレバ是ヲ取テ非トシ、非ヲトラヘテ是トシテ惑ヲ以テ惑ヲヲサムルガ故、遂ニ至大至公ニ至ル事ヲ不レ得也、聖人ノ敎辨レ惑ヲ以テ要トス、惑ヲ不レ知トキハ學ノ標準タツベカラザル也、次ニ去レ惑ト不レ惑トノ心得アリ、去レ惑ト云ハ可レ惑モノヲ捨去ル心也、是聖人ノ敎ニアラズ、多ハ異端ノ沙汰スルコトナリ、聖人ハ不レ惑ト敎ヘタマフテ惑ヲ去ルニ不レ及、唯惑ヲワキマヘテ不レ惑ノミ也、惑モ亦人ノ情ニシテ人々未ミ嘗無ニ此惑一、唯惑ノ中ニヲイテ不レ惑ゴトク可レ修也、次ニ辨レ惑ノ説論語ニ詳レ之、論語ニノ玉フ處ハ樊遲子張ガ疾ニアタツテノ玉ヘリトイヘドモ、其言ノ切ナル處皆惑ヲワキマフルノ上ニアルコト也、後儒唯惑ヲサルコトヲ詳ニ説テ辨レ惑、學者ノ要タルコトヲ不レ盡、夫子ハ只惑ト云モノ、ワザヲツクシ玉フテ、コレヲ去ノ事ヲ不レ曰、コレ惑ヲヨクシレバ惑フベカラザルガユヘ也、惑ト云モノヲ詳ニワキマヘ不レ知バ、惑ト云モ正ト云モ、トモニ惑ニシテ實地ニ不レ有也、

○問云、惑ヲワキマフルニ道アリヤ、

答云、學コレ惑ヲワキマフベキタメ也、學ブトキハ惑自ワキマヘツベシ、學問ハ自己ノ知ヲミガイテコレヲ明ナラシムルニアリ、知惠明ナルトキハ邪正是非マドフベカラズ、知惠不レ明ユヘニソノマドイヲ不レ知也、タトヘバ怒ハ七情ノ一ツニシテ人情ノ必ズナクンバアルベカラザルモノ也、而シテ其身ヲ失フニイタルハ怒ノ過テ妄動スル也、愛惡ハ人ノ情ニシテ、愛惡ニ因テ附益助長スルハ是愛惡ノ妄動ナリ、サレバ怒ニモ大小アリ、可レ怒ニ怒テ其義不レ顧レ身トキハ不レ顧ヲ正トス、一旦ノ怒ハ怒ルコトノ小ニシテ忘レ身及ニ其親一ハソノ失ノ大ナルガユヘニ、夫子コレヲ

惑トノ玉ヘル也、如レ此事々皆詳ニソノ道ヲツクサバ
レバ不レ通コト也、
○問云、我性心ヲ明ニイタサバ知惠自ラ發明ナルベシ、唯知惠ヲ明ニセントイタサバ、利口ニワタッテ實知ノ明ニ及ブベカラザルカ、
答云、明ナリト云コトヲ能覺了スル、是學者辨レ惑ノ第一義也、物不レ明トキハ惑フ、惑フトキハ不レ正、人心不レ明トキハ邪正不レ分、邪正不レ分トキハ不レ通、サレバ人ノ兩眼盲スルトキハ象ヲトラヘテ異端ヲ說ノマドイアリ、暗夜ニ闇室ニイレバ手足ヲヲク所ナシ、況ヤ一心ノ盲暗センニハ、是非何ヲ以テカワキマヘンヤ、故ニ大學ノ敎ハ明德ヲ明ニスルヲ以テ先トシ、誠レ身ノ道ハ明レ善ヲ以テ初トス、人ノ人タルコトヲシランニハ先學問ヲ以テスル、皆明ナル處ヲ本トスルガユヘ也、所レ問ノ如ク我性心ノ明ナランニハ、所レ向發明センコト尤可ナリ、シカルニ性心ヲ明ニスルハ格物致知ヨリ入ルベシ、格物致知ト云ハ物ヲツクシテ、ソノ知ヲ致ムルノ言ナレバ、是知ヲ明ニスルニアラズヤ、知ト心性ト更ニ差別ナシ、性心ハ乃知識ナリ、別ニ性心アルニアラズ、故ニ致知スレバ誠意正心ナリトハイヘル也、樂記ニ血氣心知之性トイヘルモ是也、宋儒以二虛靈不昧一解二明德一、虛靈不昧ハ知ニアラズシテナンゾ、然ルヲ知ヲ以テ性心ト別タンコトヲ欲ス、是惑テ不レ明ナルガユヘ也、利口ト云ハ不レ知コトヲ知レリトイヽ、不二心得一コトヲ心得タリト云テ佞奸ヲカマヘ、辨ヲマフケ言ヲ巧ニシテ我非ヲカザル、是ニ似テ眞ニ非ル也、故ニ夫子利口ヲキライ玉イ、覆(クツガヘス)二邦家一ト戒メ玉ヘリ、是商俗靡々利口惟賢、無下以二利口一亂中厥官上トモイヘル也、知クラキガユヘニ利口ニワタル、知惠明ニシテ利口ニワタルコト不レ可レ有也、學者唯聖人ノ言ヲスナホニ心得テ不レ入意見ヲ不レ加、ソノマヽニ見得スルトキハ不二相違一、若分別ヲ加ヘ意見ヲマフクルトキハ、聖經不レ明シテ實意カクレヤスシ、後世ノ明德ノ註解明善ノサタ、皆本意ヲ失却シテ惑ヲ以テ惑ヲセムルニナレル也、
○問云、今日ノツトムル處、專我心ノ物ニ動スル處ヨリ起テ、ソノ知ヲクラマシ物ニアフテ煩勞スルニ至レリ、コヽヲ以テ云バ孟子ノ不レ動レ心ノ心得第一ノ敎タルベキヤ、
答云、孟子不レ動レ心ノヲシヘハ知レ言養レ氣ノ執行ヨ

リ入ル、故ニ唯ニ不動心ト云ヘルニ非ズ、知レ言養レ氣トキハ義内ニアツマリテ、事物ニ不レ惑ノ心ナリ、シカレドモ孔子四十不レ惑トノ玉フ、孟子ハ四十不レ動レ心トイヘリ、聖賢ノ量其コトナルコト如レ此ナリ、凡ソ不レ惑トキハ心ヲノヅカラ不レ動也、不動心ト云ハイマダツトメテイタス處ナリ、是ヲ伎倆ト云、伎倆アルハ心ヲツケテ致シ、困勉イタス處アルニヨッテ、ツイニハ其實ニタガフコトアルモノ也、不レ惑ト云ハ事物ノ格致明辨ナルヲ以テ、ウゴクベキニウゴキ、不レ可レ動處ニ不レ動、更ニ意必固我スル處アラズ、コヽヲ以テ學者ノ執行ハ只格物致知ヲ事トスルニアリト云ヘル也、告子ニ不レ限心ノ不レ動底ヲ事トシ、生死ヲ脱落シ、塵ニ視世事一シテ就レ死ヲ易ンズルノ輩、異端ニ甚多シ、是一事ノ不動心ト可レ云シテ、コレヲ以テ是ト定ムルコトニ不レ有也、當時ノ俗學底ハ異端ノ靜寂無物不動心等ニ及ンデハ、ソノ足ガタマデモ不レ可レ及、シカレバトテ異端ノ學モノニ不レ惑ヤト云トキハ又不レ是也、サレバ只聖人ノ敎ニシタガイテ、高キ所ヲステ卑ヨリ修シ、遠キ處ヲサグラズシテ近處ヲヨクタヾシ、カタクナヽルコトヲヤメテ、今日日用ノ事物ヲ詳ニツクシ、ソノ知ヲキワメンニハ、心自定テ靜ニ安クシテ、ソノ道ニツイテ其慮アリヌベシト可レ知也、但シ孟子ノ所謂不動心ハ、異端ノ不動心ト同キニアラザルナリ、

○問云、古ノ聖賢世事ニヲイテ豪傑ニシテ、サラニ不レ屈處アリ、是心ノ卓爾トシテ物ニ不レ動ノ地ナルベシ、然バ不動心亦學者ノ可レ守地ナランカ、

答云、古ノ聖人ハヨク事物ニ不レ惑、故ニ不レ可レ動ニヲイテ不レ動ナリ、不レ動ヲコトヽスルニアラズ、不レ動ヲ事トスレバ却テ大ニ動スル處アルコトヲ不レ知也、然レバトテ不レ動ヲ非ナリト云ニハアラズ、蘇武在ニ匈奴一十九年ニシテ漢ノ節ヲ不レ失、魏ノ于付門在レ燕二二十一年、宋ノ洪忠宣在レ金亦幾二二十年、イヅレモ其義ヲ不レ變コトマコトニ不レ動ト云ベシ、是皆一事ノ不動ナリ、若道ヲ不レ盡シテ只伎倆ヲ立テ不動トセバ、ソノツトムル處ハ不レ動トイヘドモ、ソノタユム處ハ一毛ニモウゴクベシ、サレバ唐ノ韓退之ハ佛骨表ヲ奉テ身心ヲ輕ジ、潮州ニウツサレテ其守ル處ヲ不レ變ト云ドモ、登ニ華嶽之巓一度不レ能レ下、發狂慟哭シテ遺レ書ハ是伎倆ノ有レ盡也、宋ノ胡澹菴欲レ斬ニ秦檜一之

奏狀ヲ奉テ、一身ヲ輕ズトイヘドモ、梨頰生二微渦一ノ句アリ、蘇子卿嚙レ雪咬レ氈ノ不動底アリシモ、爲二胡婦一生レ子、洪邁ガ博文ナリシモ、奉レ使金ノタメニタシナメラレテ易二表章一、是皆一事ノ不動底アルモ、マコトノ道ヲ不レ盡、輕處ニヲイテ必動スルコト出來ル也、聖人ノ不動底ハ不動ヲ事トセズシテ、其不動心銀山鐵壁ヨリ堅シ、コレマコトノ大英雄ニ非ズヤ、コ、ヲ以テ案ズルニ唯事物ヲツクシテ、我心ノマドウ處ヲワキマフルコト、聖人ノ敎ト云ベキ也、但シ初學ノ間我氣質ノ流蕩スル所ヲ、自警ニハ不動底ナクンバアラザル也、

○問曰、人ノマドフ處第一欲心ヨリ出來リ、少ノコトニモ利心出來シテ本道ヲ害スル事多シ、是惑ノ大本タルベシヤ、

答云、欲ハ情ノ發而感レ外ワザナリ、コノ心ナキトキハ人ニ非ズ、凡ソ知識アルモノ皆欲心アリ、コトニ人ノ知ハ萬物ニ過ルヲ以テソノ欲心モ又萬物ニコユ、コノ欲心アルヨリ聖人ノ道ニモ可レ至、更ニ欲心ヲキラフモノニ非ズ、欲ノ過ルヲ惑ト云、不レ足ヲモ惑ト云也、但飮食男女ハ人ゴトニ大欲アルモノナルニ、タマタマソノ欲ウスクシテ其志不欲ナランハ、宜シキ氣質ト云ベシ、コレ聖人不欲ヲ稱シ玉フユヘ也、サレバ聖人以レ欲惑トノ玉フコトナシ、只先レ難後レ得、先レ事後レ得、已欲レ立人ヲ立、又後レ祿不レ計二其食一ナドノ玉フマデナリ、後世ニ至テ其論甚高ニ過テ其言皆無欲ヲ以テセリ、前漢董仲舒ガ仁人者正二其誼一不レ謀二其利一、明二其道一不レ計二其功一ト云ヘルモ、言ノ過テ實ヲ不レ得ニ至ルナリ、コトニ利ハ易ノ四德ノ一ツ、書ノ三事ノ一ツニシテ、是ヲキラフベキニ非ズ、人ノ心皆好レ利惡レ害二ツアリ、是ヲ好惡ノ心ト云、コノ心ニタヨリテ敎ヲ立テ、ツイニ聖人ノ極リヲノベ玉フ、大學ニ好二好色一惡二惡臭一ヲ誠レ意ノ章ニヒイテ、人ノ心ノ好惡天下一ナルコトヲイヘルモコノユヘ也、コノ利害ノ心アラザレバ死灰槁木ニシテ人ニ非ズ、人情ハ古今コトナラズ、四海トモニ同ジ、故ニ孟子性ノアトヲ論ジテ、以レ利爲レ本トイヘリ、唯其利ヲ私シテ利ニ惑ガユヘニ是ヲ戒シメ、人必ズ利ニ過ルヲ以テ聖人罕ニノ玉フ也、當時ノ學者ヤ、モスレバ利害ノ心ナリトテ、コノ心ヲ絶セントスルコト尤モアヤマレリ、皆ソノ知ヲキワメザルユヘノ惑ナリ、

古ノ王衍ハ一生口ニ不レ言レ錢ヲ以テ自高ブレリ、許由巣父ハ天下ヲユヅラントアル言ヲキイテ、或ハ耳ヲ洗、或ハ牛ニ水カワズ、元魯山ハ六十年女色ヲ不レ知トイヘリ、人ノ生質ニヨッテ利祿女色ノ大欲トイヘドモ、猶如レ此蔑如シテコレガタメニ心ヲソメザルモノ世々ニ多シ、況ヤ老莊釋氏ノ敎ヲキケル輩、尤世間ヲ輕ズルヲ以テ第一ノ敎トス、然レドモ本コレ人情ノ定レル道ヲナミスルナレバ、コレヲ以テ聖敎トハイタサズ、什ガ一ヨリ多ク取ルモノハ大桀小桀ナリ、什ガ一ヨリ少クトルモノハ大貉小貉ナリト、孟子コレヲ節セルハ聖人ノ敎其過不及ヲ節スルノミ也、子産云君子有二四時一朝以聽レ政、晝以訪問、夕以脩レ令、夜以安レ身、於レ是乎節宣二其氣一トハ晉平公ノ女色ニ過ルコトヲ戒ムルノ言也、サレバ古ノ聖人賢人ノ欲ヲ節スルノミニシテ此欲ヲ止メコレヲ絶スルノ敎アラズ、是欲ハ人ノ性情ノ動テ物ニ感ズル處ニシテ、非レ無レ之ヲ以テナリ、異端ノ敎ハ過テコレヲ斷ズルニ及ブ、コレ身ニコ、ロミ庶人ニコ、ロムル處アラザルユヘナリ、聖人ノ學豈シカランヤ、唯ツマビラカニ盡スニアルノミ也、今天下ノ人情ヲ以テハカルニ、人ノ性以レ利本トセザルハナシ、利ヲ本トスルガユヘニ此道立テ行ハレ、君君タリ臣臣タリ、若レ此利心ヲ失却セバ君臣上下ノ道タ、ズ、善惡邪正ワキマフル人ナク、天地忽ニクツガヘリ、日月忽ニ地ニ落ベシ、四夷ハ利ノ小ヲ事トシ、中國ハ利ノ極ヲ事トシ、コトゴトク此利ニヨッテ萬物立、萬事ヲコナワル、也、學者只其實ヲシラズ其知ヲキワメザルユヘニ、此惑アリトシルベキ也、

○問云、人ノ性以レ利爲レ本ノユヘイカナルコトゾヤ、

答云、人ノ知萬物ニコユルヲ以テ、其欲心利心又萬物ニコユ、故ニ色ヲコノムモノハ天下ノ美人ヲ求メ、聲ヲコノムモノハ天下ノ美聲ヲ求ム、是美ノ至極ヲツクサヾレバアクコトナシ、是乃人ノ性ノ本ニシテ、知識ノ萬物ニ秀タルガユヘ也、シカレバ色ヲコノミ聲ヲコノム計ニアラズ、父母ニツカヘ君ニツカヘテハ、其至極ヲツクサヾランハマコトノツクスニ非ズ、故ニ聖人忠孝ノ說ヲ立テ臣子ニヲシヘ、仁義ノ道ヲ立テ人倫ノ極道トス、コレ美人ハ色ノ至善、八音調ハ聲ノ至善、忠孝ハ君父ニ仕ルノ至善、仁義ハ人道ノ至善ナレバナリ、人ノ性本利ヲ好ミ害ヲサクルコトアラ

ザレバ、此道立ト云ドモ、ツイニ不レ可レ行、タトヘバ鳥獸ニ情アリトイヘドモ、ソノ實至善ヲシルノ欲ナキガユヘニ、道ノ立コトナキガ如シ、人々好レ善ユヘニ惡人ハツイニ亡ビ、善人ハツイニ興ル、ソノ好惡ノ心シイテ致ス處ニ非ズ、人皆好ニ好色ニ惡ニ惡臭ニノ實ヤムコトヲ不レ得ノ誠アルガユヘナリ、孟子性善ノ說モ亦コノ好レ善心ヲ推シテ、ソノ性本善ニイタリツベキヲ以テイヘルナリ、

○問云、敎戒ハ皆人ノ邪ヲ矯テ正ニイタラシムルノ義也、然ラバ其言ニ過ル處アリト云ドモ、誤リトハ不レ可レ言、然ラバ利心欲心等ノ人心ノ惑ヲ深クセン者ハ無欲ト戒、無利心ト戒ムル事モアルベキナラズヤ、

答云、竹ヲ矯テ直ナラシメントテハ、コナタヘツヨク引マゲテソノマガレル處カヘリテ直トナルゴトクスルコトアリ、故ニ聖人ソノ人ニヨリテノ玉フ言ニハ、惣テノ敎ニナリニクキ事ナキニ非ズ、喪欲ニ速貧ニ死欲ニ速朽ニトノ玉ヘル類是也、コレタメニスルコトアツテノ言ニシテ敎ノ實ニアラザル也、無欲無利心等ノ言クルシカラズトセバ、異端ノ絕ニ色情欲心ニモ皆クルシカラズトセンヤ、凡敎ユルト矯ルト云ハ其心得似テ大ニ異也、矯ト云ハ本アラザルコトヲ當分シイテ致ス皆タムル也、故ニ矯ルト云トキハ僞ノ心ヲフクメリ、杞柳ヲ以テ桮棬ヲツクルハ是矯也、敎ト云ハ我ニ本ヨリソレニ至ベキ下質アリトイヘドモ、不レ學不レ習ガユヘニソノ情ナキガゴトクナレルヲ、今日コレニ敎ヲ立テ其善ニ至ラシムル是敎也、サレバ木竹金鉄土石ハ皆コレヲタメテ天下ノ用トス、竹ヲタメテ弓トシ、鉄ヲキタフテ劍戟鉄炮トナシ、金銀ヲキタフテ財用トシ、木石ヲタメテ器用トスルガゴトシ、其功久シキトキハ久シク用ニ立、其功ヲロソカナレバホドナク破ル、シカレドモ本木竹金石ニソノ情ナキガユヘ、竹ハ本ノ竹ニカヘリ、鉄ハヤブレテ本ノ鉄トナル、是シイテ致スノユヘ也、鳥獸ハ情アリトイヘドモ、コレ又ソノ是非ヲ知ルノ知惠ウスキユヘニ、當座ハ人ニタメラレテソノワザヲナスコトアリトイヘドモ、ホドナク是ヲナサズ、皆是シイテ矯ルユヘナリ、但矯ルニモ少シ其情ナキモノハタメラレザル也、竹木金石トモニ其柔順ノ質アラザレバ曲テタムベカラズ、コヽヲ以テ案ズルニ人ノ道ヲ行フコトソノヤムコトヲ不レ得ノ誠ヲ本トシ、以レ利爲レ好ノ性ニタヨ

リテ、聖人コノ道ヲ建テコノ敎トス、故ニ聖人ノ敎ハ過不及サラニナシ、異端ノ敎ハ過テ性ヲタメ不レ及シテ徑ニ行ニ至ルコト多シトシルベキ也、

○問云、異端ハ自然ヲ貴ビ、聖人ノ敎ハ當然ヲ貴トイヘリ、自然ハタメズシテ自ニマカセ、當然ハコシラヘテ是ヲイダスニ似タリ、

答云、自然ト云ハ老子ノイヘル言也、所謂人法レ地、地法レ天、天法レ道、道法ニ自然一ト云ヘル是也、當然ト云ハ宋儒ノ言ニ出タリ、而シテ自然ト云モ當然ト云モ、少ノ差異ニシテ本同一義也、タトヘバ暗ガ故ニ燭ヲ立、夜明日出レバタレモ燭ヲ置モノナク、自ラコレヲ取滅ス、コレヲ自然ト云ベシ、シカレドモ是燭ヲ取テ當然ノコトワリナレバ當然ニコトナラズ、人ノ死スルト疾ヲウクルト子ヲウムトハ、コシラヘナクテ機嫌ヲハカラヌ自然ナリトイヘドモ、死ノ期疾ノ入ル子ヲウム、トモニ内ニソノ當然アツテシカリ、サレバ自然トモ當然トモ云ベシ、子ノ致レ孝臣ノ致レ忠ハ當然ト云ベケレドモ、忠孝トモニ臣子自可レ盡可レ致ノマコトアツテ、コレヲ盡シコレヲ致ス、コレ自然ニアラズヤ、シカレバ自然當然相因テソノ中ニ天則アツテ其極ヲ建テ、萬世ヨツテ行トコロトス、是聖人ノ道也、自然當然トモニイヅレヲ邪正ト云コトナシ、次ニ聖人所レ建ノ道ハコシラヘイダスニ似レルト云コト、尤能可ニ心得一、天地ノマコトヲ考、人物ノ性情ヲツクシテ、而シテ聖人ソノ至誠無息ヲ本トシ、其至善ノ極ヲ建ル、コレ聖人ノ道ナリ、天作ト人作ト相因テ萬物其性ヲツクスノイヽ也、サレバ天地ノ化育ヲタスクルヲ聖人トイヘリ、凡ソ天ト人ト相因テ萬物相ヲコナハル、淸濁相聚テ萬事ナル、天命氣質相トモニシテ人物ソノ生ヲトグト可ニ心得一也、コノユヘニヲノヅカラナルモノハ天作也、人ノコシラヘイダスハ人作也、五穀ノ自生ズルハ天作ト云ベシ、農民是ヲシキマキ、耕耨シテ生長收藏スルハ人作也、聖人天作ノ實ヲツクシテ、人作ノ至善ヲ建テ敎トシテ、五穀各盡ニ其性一、コレヲ建レ極ト云ベキ也、聖人ノコシラヘ立ツル處ノ道ハ、皆人々無レ息ノ誠ニヨツテ致スコトナレバ、タメテ致スト不レ可ニ心得一也、異端ノ敎トスル處ハ、身ニコヽロミズ人ニコヽロミズシテ、其意見ヲ以テ立ル敎ナル故ニ、ソノ人ニヨツテタマ／＼ソノ行ヲ遂ルアリトイヘドモ、人々行テ得ルノ道ニア

ラズ、是タメテコシラフルユヘ也、

○問云、天地ハコシラヘイダス事アラザレドモ、自然ニ運行シテ日月自然ニ明ナリ、シカラバ人モ亦自ラ然ル處ナクンバアラズ、是率レ性之謂レ道ノ心ニアラズヤ、

答云、天地ハコシラフル處ナクシテ自然ニ運行シ、日月自然ニ明ナリト云ハ、今ミル處バカリニテ云ノ言ニシテ實地ニアラズ、天地ノ天地タル日月ノ日月タルハ、ソクバクノ陰陽五行ノ氣相聚テ、コノ天地タリ、此日月タリ、ユヘニ天地ノ運行無レ息、日月ノ往來ツクルコトナシ、何ゾコレヲ不レ分ト云ベケン、陰陽五行ノ相生相尅順逆スル事ナクシテ、天地カクノゴトク日月カクノゴトシト云ハ、世俗ノ不思議怪妖ノ説ニチカシ、タトヘ變災妖物タリト云ドモ、不レ然シテシカルコトサラニナシ、唯微妙恍惚タルノ間、人コレヲツクスコトヲ不レ得ノ妙アルノミ也、凡ソ率性ノ道先儒コレヲ論ジテ、寒月ニハ自然ニ火アル處ニ向去、暑月ニハ自然ニスヾシキ處ニ出去ル、是性ニシタガフノイヽナリトス、尤心得アルコト也、盛暑ニハ水ヲノミ、涼處ニ出、扇ヲツカイ、ウスキ衣ヲ著シ、隆冬ニハ湯ヲノミ、密室ニ入テ、ワタイレノ衣ヲ著シ、火爐ヲ擁スルハ是當然ノ義也、コノ間ニ品二節其性一セザルトキハ、從レ情テ徑行ニ至ルベシ、率レ性ト云ハ、天下ノ人ノ同ジク然ル處ノ性ニシタガフコト也、己ガ情ニ如レ此ト云トモ、人々ノ性ニ如レ此シテヨキトキハイタシ、惡トキハ不レ致、コレ率レ性ノ道ナリ、故盛暑ニモ扇ヲツカワズ服ヲ盛ニスルノ時アリ、極寒ニモ火ニアタラズ衣ヲ重ネザルトキアリ、トモニコレ道ナリ、今云トコロハ皆己レガ性ヲ以テサダムル言ナレバ、天下ノ公論ニ非ナリ、

○問云、性ヲ品節セルト云ハ、性ヲタムルノ言ニ非ズヤ、

答云、節スルト云ハ過不及ナカラシムルノイヽ也、我性ヨク修行シツクサヾレバ、必ズ欲スル處ニ過テ流蕩シ、不レ好處ニ不レ及、是ヲ節スルヲ節レ性ト云也、書ノ召誥ニ節レ性惟日其邁ト云、禮ニ司徒修二六禮一以節二民性一ト云モコノ心ナリ、所レ問ハ俗儒ノ性善ヲトメテ性ヲ以テ本來明白ナリトスルノ心ヨリ出ル不審ナリ、詳ニ自試テ人ニコレヲコヽロミ、古今ニ相通ジテ然後ニ可レ知也、

○問云、學者ノ志立ツル處、イヅレヲ以テ標準トセンヤ、

答云、ソノ志處ハ聖人ノ道ヲ標準トスルニアリ、其志氣ハ治國平天下ノ用ニアリ、其行處ハ身ヲヲサムルニ始マリ、其學ブ處ハ格物致知ニアル也、聖人ヲ立テ標準トセザレバ、學ニマドフ處アルヲ不レ知、治國平天下ノ用ヲ志氣トセザレバ、至大至公ノ實ヲ不レ盡、其行處修身ヨリ始ラザレバ、近ヲ忘レテ遠ヲハカルノ失アリ、學ブ處ニ格致ヲ以テセザレバ、其手ヲ下ス處不レ正ナリ、

○問云、學者ノ志氣治國平天下ノ功業ニアリト云ハンハ、分ヲ踰タルニ似タリ、

答云、當時ノ學者ハ名利ヲ捨ルコトヲ要トシテ、一點ノ利害ナカランコトヲ欲ス、故ニ治國平天下ノ事ニ及ンデハ、更ニコレヲサタセズ、是學ノ實ヲ不レ盡ガユヘ也、學ハ何ノタメゾ、天下ニ立テ政ヲ正シ、人ノ朝廷ニ立テ人民ヲスクワンガタメ也、サレバ博施濟レ衆ヲ以、何事於レ仁必也聖乎トノ玉ヘリ、博施濟レ衆コト、治國平天下ノ極ニイタラズシテハ不レ可レ得、コレ學者ノ極功ナリ、大學ノ道ハ明德ヲ天下ニ明ニシテ、天下平ナリト云ニキワマリ、中庸ノ極功ハ天地位シ、萬物育スルニ至レリ、何ゾコレヲ分テ踰タリトセンヤ、シカラザレバ本身徵二庶民一、考二三王一、建二天地一、質二鬼神一ノ道ニアラズ、言必信アリ行必果ス、硜々然タル小人ノ學ニシテ、士ノ志氣ニアラザル也、予往昔當テ疑フ、當時性心道德ノ論三尺ノ童子モコレヲ以テ事トス、國家ノ治平朝廷ノ政事コレヲ云モノハ、名利ニ奔走シテ實學ナシト論ズ、而シテ孔門ノ弟子各其志ヲイフトキハ、皆朝廷政事ノ用也、夫子コレヲ稱シ玉フニモ、亦治二其國一立レ朝ノ事ヲ以テ今ヨリコレヲミルトキハ、孔門ノ高弟モ名利ニヲイテ汲々タルニ似タリト、此疑尤久シテ不レ息キ、是聖學ノ實ヲ不レ知ガユヘニ、只異端ノ清淨虛無無欲無物ヲトメテ、我儒ノ實體トナセルアヤマリアルヲ以テ也、今問處モ亦然リ、サレバ治國平天下ノ用タラズシテ自己自身ノ工夫タランコトハ、其量セバクシテ、必ズ我意我見ニ陷ルモノナリト可レ知也、

○問云、古ノ大舜ハ天下ヲスツルコトヲ、ヤブレタルワラグツト同ジゴトクナラント、孟子ノ論ゼルハアヤマリナリヤ、

答云、舜ノ天下ヲワラグツノ如ク思イタマフトアルコトハ、父ノ瞽瞍ニ對シテ言アリ、天下ヲ輕ンジ麁畧シ玉フト云ニハ非ズ、且舜禹ノ有二天下一不レ與(アヅカラ)レ焉ト云ヘルモ、天下ヲ何トモ不レ思ト云コトニハアラズ、天下ハ神器ニシテ力ヲ持テコレヲ治ムルモノニ非ズ、故ニ天下ヲ持チ玉ヲト云ヘドモ、更ニホコリ悅デ我コソ天下ノアルジナリト驕ヲ究コトナキ、コレヲ不レ與ト云也、是天下ヲ重ジ玉フコト深重ナレバ也、易ニ聖人之大寶曰レ位、崇高莫レ大二乎富貴一トイヘリ、是天地四時日月聖人ト富貴ヲ以テ相ナラベ論ズ、サレバ聖人ノ大德アリト云ドモ、不レ得二其位一バ禮樂ヲ制シ博ク衆ヲ濟コト不レ合ガユヘ也、舜ヲ稱シテ德爲二聖人一、尊爲二天子一、富有二四海一トノ玉フモ、此心ナルベシ、何ゾ天下ヲ以テカロンズベケンヤ、

○問云、易ニ樂レ天知レ命故不レ憂ト云ヘリ、又遯レ世无レ悶、不レ見レ是而无レ悶トモ出タリ、論語ニ人不レ知而不レ慍、不二亦君子一乎トイヘリ、又不レ在二其位一不レ謀二其政一トモ出タリ、曾子モ君子思不レ出二其位一トモイヘリ、如レ此ノ語意各分外ヲチガフハ道ニアラザルニ似レリ、

答云、必ズ時アリ、故ニ世ニ用ラレズ時ニ不レ遇トキハ、ヒソマツテカクル、是時也、易ニ潛龍勿レ用ト云ハ是ナリ、コヽヲ以テ或ハノガレ或ハ不レ見レ是シテ更ニ悶ルコトナシ、コレヲ悅ビ樂ムト云ニハ非ズ、今示ス處ハ治國平天下ノ事ヲ以テ學者ノ志氣規模トセヨト云ヘルコト也、夫子戰國ニ生レ玉フテ國々ヲ往來シ、一タビ道ヲ立テ百姓ノ塗炭ニヲチイルヲ救ヒ玉ハント深厚ノ志ヤマズ、六十八歲マデ偏テク考ヘ玉ヘドモ、終ニ天下ニ道ノ行ナワレマジキ事ヲハカリ、ツイニ退テ後世ノタメ叙レ書傳二禮記一刪レ詩正レ樂序レ易玉フト史記ニコレヲノセタリ、且臨終ニヲイテ子貢ニ云テ曰、夫明王不レ興而天下其孰能宗レ予、予殆將レ死也、是聖人ノ志瞬息モ不レ忘下救二天下一之志上ナリ、故ニ世ノソシリヲカヘリミズ、人ノアザケリヲ不レ用シテ、身ヲクルシメ體ヲツカラカシテ、以テ天下ノタメナラン事ヲ志トシ玉フ事、尤難レ有大聖德ノ仁ニアラズヤ、愚者ハコレヲ不レ知シテ只己ガ身ヲ安ジテ人ヲ不レ救、四體ヲユタカニシテ世ノ事ヲ不レ思、只一身ヲ事トス、其大小淺深ノ量、輕重厚薄ノタガイ、サタニ不レ及コト也、サレバ如レ此ニソノ道ヲキワメテ

時ニアワザルトキハ、悶モナクウラムコトモナシ、是不レ怨レ天不レ尤レ人ト云ツベシ、本此志億兆ノ民ノタメ、天下國家萬世ノ利ヲ思ニシテ、一身ノ威勢富貴ヲ必ト期スルニ非ズ、故ニソノ國ニ居テハソノ大夫ヲモソシラズ、況ヤソノ國政ノ是非ヲ論ジテアザケルコトナシ、是正レ己而不レ求ニ於人一、在ニ下位ニ不レ援レ上ノエヘナルベシ、コレヲ不レ在ニ其位ニ不レ謀ニ其政一トハ云ヘルナリ、思不レ出ニ其位一ト云ハ、我分限相應ノ事ヲ思案シテ、當時相應セザルコトニ思ヲツイヤサザル也、學問ノコトヲ云ニ非ル也、俗學ハ思フコトハ分ヲコヘテ、學ハ固陋ニシテセハ〳〵シ、故ニタマタマ位ヲ得テモソノ道ヲ不レ得レ行、不レ得レ位バ思コトコト〳〵ク出ニ其位一テ、高慢我慢ヲサキダテ、シキリニ堯・舜・湯・武ノ思ヲナス、是古ノ聖賢ノ敎示スル處ニ大ニ相タガヘル也、

○問云、聖門ノ敎ニ秘事シテ、相傳スル事アリヤ、

答云、カクス事モアリ、アラハスコトモアルハ、天地ノ道也、故ニ潛龍勿レ用ト云ハカクシテアラハサヾル也、飛龍在レ天ハ位ニ平天德一アラハル、ノイ、ナリ、用則行捨則藏ト云、皆コレ見隱顯微ノ言ナリ、所謂書ハ明ニシテ夜ハクラク、陰ハ暗ヲ體ニシテ陽ハ明ヲ體トス、有若レ無盈若レ虚ト云ハ顏子ガ行ニアラズヤ、シカレバカクシテ不レ顯コト尤モ聖人ノ敎ニ多シ、但シ俗學技藝ノ輩ノ、秘傳ト云秘事ト云トハ事カワリヌベシ、聖人ハカクスベキ時ニカクシテ可レ顯トキニ顯ス、カクスモ顯スモ共ニ天下ノ用タリ、更ニ一己ノ秘藏ニアラズ、是顯密ヲ天地トトモニスルノ心也、古來敎ヲ立ル時必ズ齋戒ヲ以テス、武王丹書ヲキ、玉ハンコトヲ宣ヘレバ、太公欲レ聞レ之則齋矣トイヘリ、武王乃三日齋シテコレヲ傳ヘ玉フハ秘セルニ非ズヤ、シカレバカクシテ不レ顯ノ敎モ亦不ニ嘗(シバアラ)無一レ焉、

○問云、シカラバ吾爾ニカクス事ナシトノ玉フハ、イカヾ可ニ心得一ヤ、

答云、人ノ情專ラ奇ヲ好ミ怪ヲ求ムルニアリ、故ニ聖人ト云ヘドモ、朝夕コレニ親炙スルトキハ、平生ノ事ニ存シテ、崇敬戒愼スルコト薄シ、況ヤ日用ノ言行コトゴトクソノ戒示ナルコトヲ忘レテ、外ニ敎アリヤ、事アリヤト疑ヲナシ、別ニ捷徑ノ敎アッテ、是ヲキクトキハ忽聖知ニ同スルコトモアリト存ズルコト人情ノ常ナリ、故ニ夫子直ニコレヲ戒シメテ、吾無レ隱ニ乎

爾一吾無下行而不レ與二二三子一者上是丘也トノ玉ヘル也、シカレバカクシ玉フコトハナキト、又一片ニ存スルコトコレアヤマリ也、中人以上ニ語レ上、中人以下不レ可二以語一レ上トノ玉イ、一貫ヲ曾子子貢ニ告玉イ、コトニ恒ニノ玉フコト、恒ニ敎ヘ玉フコト、、語リ玉ハザルコト、、罕ニ言コト、、不レ可レ得レ聞コト、アリ、何ゾ位階志氣ヲハカラズシテ、一途ニ言ヲナシ玉ハンヤ、後世コノ聖敎ヲ取用テ心得ソコナイ、聖人ハカクス事ナシト思フニ至レリ、甚相アヤマレリ、昔有レ人問二話於一僧一、僧指二面前花一示レ之曰、是甚麼、其人云花也、僧云、吾無レ隱二於爾一、又黃龍寺晦堂嘗問二山谷一以下吾無レ隱二乎爾一之義上、山谷詮釋再三、晦堂終不レ然二其説一、時暑退涼生、秋香滿レ院、晦堂因問云、聞二木犀香一乎、山谷曰、聞、晦堂曰、吾無レ隱二乎爾一、山谷乃服、今案ズルニ是等ノ語意無レ隱二于爾一ノ言ヲ偸用ユルノミニシテ、夫子ノ無レ隱二乎爾一ノ敎ノ意ニ非ズ、コレヲ聞テソノ理ニ服セリト思フ心、皆道ノ實地ヲ不レ蹈ガユヘナリ、聖人ノ敎ハ葉ニ置ク露ノゴトクニシテ、ソノ大小方圓ニ從テ各其形ヲアラハス、ソノ大ナルヲ秘スルニ非ズ、ソノ小ナルヲアラハスニ非ズ、只所レ學ノ高下ニ因テ其用ヲナスノミ也、シカルヲ我心ノヲロカナルニマカセテ、彼ニハ秘事ヲ相傳アリテケル、我ニハソノ敎ナキト人ヲセメテ不レ顧コトハ學者ノ通病也、朱子云、聖人之言好如二荷葉上水珠一顆々圓也ト、尤説得好出二朱子語類三十四ノ廿一枚一又先儒ノ言ニ萬物各露呈無レ隱、鶩寒入レ水、鷄必時レ晨、皆是自然之露呈無レ隱トイヘル、是等ノ説マサシク異端ノ性心直入ノ沙汰也、鶩ハ鴨ノ氣質ヲソノフルエヘニ、寒シテ入レ水コトヲコノミ、鷄ノ形氣ニヨツテ晨ヲトキナフ、コ、ニ無レ隱ノ言ヲ不レ可レ人也、唯各ノ氣質ニヨツテ其得失ヲ呈スノミナリ、夫子無レ隱トノ玉フ處ハ、如レ此ノ義ヲ指ニアラザル也、

謫居童問上本終

謫居童問上末

○問云、今日日用ノ交際何レヲ以テノリトスベキヤ、

答云、聖人ノ言行禮ヲ出ルコトナシ、故ニ顏子ニ仁ノ條目ヲ示シ玉フニハ四勿ヲ以シテ非禮ヲ戒シメ、克己復禮相對シテ論ジ玉ヘリ、鄕黨ノ一篇ニ夫子ノ言行宛然トシテ知レ存、ソノ全體不レ出レ禮、コヽヲ以テ夫子ヲ稱スルニ知レ禮トス、然レバ聖人ノ敎禮ニモルルコトアラザルユヘニ、日用ノ交際皆在レ禮也ト可レ知、

○問云、禮ヲ定ムルノ心得イカン、

答云、人ノ禮ヲ定ニハ通二人情一ジテ以テ其過不及ヲ制シ、或ハ事ノ品ヲワケ、或ハ物ノ大小高下文質ヲキワメテ、コレヲ以テ心ヲ制スル也、シカレバ人情ノ好惡天下ノ通情ヲハカツテ其人之尊卑親疎年齡男女ノ位ヲキワメ、事ト物トノ美惡大小コト〴〵其道ヲツクシ、其至善至美ノ物ヲ上ト定メ、其中美中善ヲ中ト定メ、小善小美ヲ下トキワム、其内ニ上ニ三段中ニ三段下ニ三段アツテ、大概九品ノワケヲ立テ而シテ其禮ヲキワムルトキハ不レ可レ違也、コレ禮也者物之致也ト云ヘルナルベシ、サレバ禮行ハレザルトキハ上下位ヲタガヘ、尊卑品ヲコヘテ天下ノ時宜一ツナラズ、皆人情ノユク處ニマカス、豈不レ越レ距コトワリアランヤ、禮既ニ定ルトキハ事物ノ品節ソナワリテ、人ノ情ニマカセテ加減損益アルベカラズ、コヽニヲイテ天下ノ人情一ツニキワマリテ風俗ツイニ定マル、禮ノ用マコトニ大ナリト云ベキ也、禮樂ハ位アツテ德ソナワレル聖人ニアラズシテハ不レ可レ制、因二人情一考二風土一以テソノ通禮ヲナスコトナレバ、位德相ソナワラザレバ不レ可レ得也、若事トシ二一事一ヲ制二一曲一シテ、コレニ泥トキハ非レ禮也、莊子ガ曰、三皇五帝之禮義法度ハ、其猶二樝梨橘柚一耶、其味相反而皆可二于口一、故禮義法度應レ時而變也、コノ故ニ衣食家宅用器ノ諸物、進退動靜ノ作法、其人ノ位ニ從、其時宜ヲハカツテ、其文質委曲ヲキワメテ、人ノノリトイタス也、シカレドモ其品節ニ子細多コトナレバ、學者ノ學ブ處更ニ此法ノ外不レ有可レ知也、先ヅ人ニ親疎ノタガイアリテ、親ニモ尊卑アリ、疎ニモ尊卑アリ、又我ト相對シテ親疎ノ分アリ、以上五等ノ品ニ付テ、禮ノ用ソ

ノ品節ヲナスベシ、又時ニ古今アリ盛衰アリ、其所ニ依テ其用ヲナス、是乃ソノ禮法ニシテソノワカチ一一格致セザレバ不レ可レ通也、ソノ上鬼神ノ靈ニ通ジ、男女ノ道ヲタヾス事、ヒロク事物ニイタリ、其情變ヲキワメズシテハ不レ可レ稱也、禮云、禮有二以レ多爲レ貴者一、有二以レ少爲レ貴者一、有二以レ大爲レ貴者一、有二以レ小爲レ貴者一、有二以レ高爲レ貴者一、有二以レ下爲レ敬者一、有二以レ文爲レ貴者一、有二以レ素爲レ貴者一、有二直而行一也、有二曲(ツブサニ)而殺(ソグ)一也、有二經而等一也、有二順而討一也、有二推而進一也、有二效而文一也、有二放而不レ致也、有二順而摭(トロフ)一、有二插(カリテ)而播一也トイヘリ、コレソノ品節ナレバ一樣ニコヽロヱガタシ、只詳ニ格物致知スルニアリト可レ知也、出法則章可幷案

○問云、禮ノ用アシク心得バ、皆外ヲ飾ルゴトクニナルベシ、

答云、禮ハ聖人人ノ情ヲ節シテ過タルヲヲサヘテ、不レ及モノハ其事物ヲカリテ、コレヲ中セシムルノ敎ニシテ、人生日用ノ間、禮ニモルヽコトナシ、禮ヲヨクツクセル人ヲ聖人ト云、禮ヲ不レ知トキハ鳥獸山木ニ不レ異、心得アシケレバ又諂ニモナリ、ニセモノト云ベシ、老子ハ禮者忠信之薄、而亂之首也ト云、聖人ハ人之所二以爲一レ人者禮義也、使四人以レ有レ禮知三自別二於禽獸一、無レ禮則手足無レ所レ措、耳目無レ所レ加トノ玉ヘリ、禮ノ說ハ詳ニ三禮ニ出タレバ今コレヲ略ス、大概禮ハ內ノ誠ヲ表ス、過ルヲバヲサヘテソノ中ニ至ラシメ、不レ及ヲバ是ヲ引アゲテソノ節ニ當ラシムルノ心得也、日用乃人ノ至誠ナレバ日用ヲ節スルコト是禮也、天地人物ノ用法禮ニアラザレバ定ラズ、況ヤ視聽言動ノ發、禮ヲ以テセザレバ不レ正、尊卑親踈及ビ人倫ノ大禮、禮ニヨラザレバ不レ明、コトニ法ヲ立令ヲ下シ、律令格式ヲ立コト禮ヲ以テ本トスル也、次ニ禮ヲ定ムルコトハ、古今ノ例ニ通ジテ時變ヲ詳ニシ、我ソノ位ニ居テ人物ノ情、土地ノ風俗ヲ察シ、天下ノ事ヲシリ、其法令敎戒ノ實ヲツクストモ、我ニ聖知道德アラザレバ、コレヲ定メガタシ、雖レ有二其位一、苟無二其德一、則不三敢作二禮樂一、雖レ有二其德一、苟無二其位一、亦不三敢作二禮樂一焉トハコノコトナルベシ、夫先王之制レ禮也、不レ可レ多也、不レ可レ寡也、唯其稱也ト云ヘリ、凡ソ禮ヲ制スル事、尊高ノ人ハ寬大ニシテ其養ヲユタカニシ、其事ヲユルヤカニシテ其器用ニ文飾ヲナスヲ禮ト云、卑下ノ者ハ此ニ反ス、富有ノ人ハ財ヲ散ジテ

乏ニハブキ、ソノ不レ足ヲ救ヲ禮トス、貧モノハ財ヲ施ヲ以テ不禮トス、高老年長ノ人ハ安ジテツカレズ、言行ヲ以テ子弟ニ敎トスルヲ禮トス、子弟ハ力ヲ出シテ勞シ、奔走經營スルヲ禮トス、男子ハ女子ニ遠テ言ヲ不レ通、衣裳ヲカラズ、手ニ物ヲワタサズ、書ヲ通ゼザルヲ以テ禮トス、晴ノ所ニテハ敬跪屈曲スルヲ以テ禮トス、燕居ノ所ニハ申々天々トシテ以テ相安ズルヲ禮トス、親シキ間ニハカザラズ、アリテイニイタスヲ禮ト云、疎キモノニハトリツクラフテ事ヲナスヲ禮ト云、文事ニハ温和ヲ禮トシ、武事ニハ剛猛ヲ禮トス、法令ハ正ク立ヲ事トシテ不レ立ヲ禮トセズ、鬼神ハ遠ザカツテ敬スルヲ禮トシ、シバ〳〵シテナルヽヲ不禮トス、管仲ガヲゴリ晏平仲ガ儉約ハ、トモニ君子不レ知レ禮トス、昔孝節先生ト云ヘル人、母ニツカヘテ孝アリ、孝節ヲモイケルハ、貴人ニツカフルトキハ必衣裳ヲ正シ、ソノ服ヲアラタム、我母ニマミユルニハ平生ノ衣服ヲ用ユ、甚不レ可レ然トテ、毎日衣服ヲ正シ、束帶シテ母ニマミヘケリトイヘリ、是禮ニ似タルノミニシテ禮ニ非ズ、父ノ黨ニハ無レ容ト云テ、親シキ人ニハアリノマヽノスガタニテ、其禮ヲ行ヲ以テ禮トス、有ニ以レ素爲レ貴者一トハ此心ナリ、朝夕マミエ奉ル母ニ主君ニツカフベキ衣服ヲ以テスルコト、母ノ心豈安ゼンヤ、禮ヲ以テ考フレバ孝節ガ衣服節ニ中ルベガラザル也、禮ノ事物ニヲケルコト如レ此、ソノ思イチガイニヨツテ相違多シ、孔子大廟ニ入テ毎レ事ニ問玉フヲ、或人ハ不レ知レ禮トイヘレバ、夫子ハ是禮也トノ玉フガゴトシ、尤詳ニ可レ盡ナリ、

○問云、器物ニカザリヲナシヱヨウヲナスコト、皆實義ナキニ似タリ、又内外不ニ相應一コトアリ、是禮ノ失ナリヤ、

答云、器物ニ華美繪樣ヲナスコト是ヲ文章ト云、其位其祿ニヨツテ必此文章ヲ用テ君子ノ威ヲマシ、莊嚴ヲ明ニスルコト也、草木鳥獸魚蟲ニイタルマデ、其文章アラザルハ少ナシ、況ヤ天地山川文章悉ク燦然タリ、シカレドモ文章ニソノ位アルコト也、其位ニアラズシテ文章ヲナスハ禮ノ所レ戒也、凡ソ衣服家宅飮食ノ器諸用ノ具、ソノ物ニ品々アランニハカザラズト云トモ、ソノ物ヲ以テ品ヲ定ム、若物ノ品スクナクシテ、ソノ位ノ品々ニワカチニクキトキハ、其文章ノヱヨウ・ホリモノ・カザリ・五色・金・銀・銅・鍮ノ類ヲ以テ其

品ヲ位ニアワセテコレヲキワム、コレ文章ノ禮也、衣食居用レ文事ニ武備一スベテ文章アラザレバ禮ニアタラズ、煥乎有ニ文章一ハ、堯ノ爲レ君也、五服五采ノ品アルハ、舜ノ命ズル處也、文レ之以ニ禮樂一ヲ成人トシ、莊以涖レ之ヲ道トス、皆是禮ノ文章也、次ニ内外不ニ相應一ニモ又禮アリ、タトヘバ貴人ヘ獻ゼシムル音物ニ、外ノ筥ハ文章アリテ筥ノアタイニ不レ及類アリ、是華實不ニ相應一ガゴトシトイヘドモ、ソノ禮ヲ守テ致ストキハ、外ノ内ニマサレルモ不レ苦、ソノユヘハ此音物ノスガタ見テ不レ宜カ、或ハコレヲソノマヽ出シテハ座ニ塵落ケガレアルベキカ、或ハ持參ノ人ノ手ヲヨゴシ、臭ヲウツシケガルベキノ恐レアルカ、或數多シテミダレヤスキノ類ハ、皆コレヲ筥ニ入籠ニ入テ獻ズ、是禮ナリ、若内ヲイヤシクシテ外ヲ見事ニイタシ、上ヲ僞リ人ヲタブラカスノ心アランハ、尤小人ノ所レ致ニシテ不レ及レ論也、又祭禮喪禮ニ外ヲ見事ニイタシテ内ニカマワザル器アルモノ也、是又禮ナリ、神ヲマツリ鬼ヲ弔ニ、鬼神ハナキモノナリト致スヲ不仁ト云、又アルモノナリトテ生ルモノニ事ルガゴトク致スヲ不知ト云、シカレバ牲ヲソナヘ羹ヲナスニモ、其禮ノ誠ヲツクシテ、其味ノトヽノホリ鹽梅ノ相和スルヲ不レ事、コレ大羹ハ不レ和ト云ヘルノ心ナルベシ、明器ト號シテワラクサヲ以テ牛馬ノ形ヲコシラヘ、色々ノイロドリヲイタシテ死者ニ殉セシム、皆外ヲカザリテ内ヲ輕クス、是皆聖人過不及ヲハカリテ其中ヲ節セル也、一々其事物ニ因テ不レ詳バソノ禮不レ正ナリ、

○問云、禮ヲ專トスルトキハ、儉ヲ以テ德トスルノ道アラザルニ似タリ、

答云、儉ハ儉約ノイヽニ非、奢ト云モノニ對シタル言也、サルユヘ奢ランヨリハ儉セヨトノ玉ヘリ、奢トキハ盛ニシテ消シ易ク忽害來ル、火ノ物ヲソコナフガ如シ、儉約ナルトキハツヾマヤカニシテ固シ、害ヲマヌクコト速ナラズ、水ノ下ニツイテツイニハ内ヲソコナフガゴトシ、儉ヲ以テスレバ失スクナシト云ヘル故ニ、儉約ヲ世々ノ戒トイタセリ、是ヲ聖人ノ道ト云ニハ非ズ、聖人ノ道ハ儉モナク奢モナク、唯禮ノ節ニ當レルマヽ也、故ニ堯舜ノ聖德マシマス、既ニ此禮ヲ立テ衣裳ニ十二章ヲ表シ、五玉三帛ヲマフケ、八音ヲトヽノヘリ、況ヤ周ノ文質彬々タルハ、夫子ノ從イタマフ處也、シカレドモ禮ノ節ヲツックス

事アタワザルヲ以テ、必ズ人皆奢ニ至リヤスケレバ、ソノ禮ノ定レル所ヨリハ、儉約ニイタスベキ、是又聖人ノ戒也、易云、君子以行過ニ乎恭一、喪過ニ乎哀一、用過ニ乎儉一トハコノ心ナルベシ、次ニ上古三代ノ禮損益多シテ世々ニ貴ブ處コト也、先三皇五帝ノ時マデハ人物ノ最初ナルガ故ニ、物々ノ用法クワシカラズ、穴居シテ野處シ、地ヲ掘テ臼トシ、葉ヲアツメテ衣トス、況ヤ繩ヲムスビテ書契ヲカナヘ、木ヲケヅリテ耜(スキ)トス、伏羲・神農・黃帝・堯・舜作リテ其品々ヲ改メテ、漸ク事物ヲ利セリ、故ニ今ヨリコレヲミレバ天下自儉約ナルガ、三王ヲ經テ周ニ至テ初テ文質相ト、ノヘリ、周ニ至ルマデハイマダ文華ユタカナラズ、尤ソノ貴レ用處モ虞夏商トモニ各コトナリ、周ニ至テ文章ト、ノホリ、品節相應ズ、コ、ヲ以テ考ルニ周以前ハ天下儉ニ過、周以後ハ文華日々ニ盛ニシテ、人民工匠ノタクミ次第ニ上手多ヲ以テ文ニ過ヌベキ也、然レバ治世安民ノ輩、コ、ニ心ヲ付テ用捨アルベキ也、白虎通云、禮者盛ニ不足一節ニ有餘一使ニ凶年不レ儉豐年不レ奢ト云ヘリ、昔シ唐ノ國甚儉ヲ用テ民コレヲクルシミ、コレガタメニ詩ツクリテ儉ノ不レ中レ禮コトヲソシレリ、又魏ノ曹操專儉ヲ事トシテ、毛玠崔琰等淸潔ノ行ヲ立テ、國ノ政ヲナシケル故、天下ノ風俗コトぐ\クコレニナビキ、新衣ヲ著、ヨキ馬ニノリ、形容ヲタヾスモノアレバ、是ヲ不淸ノモノト號シテ、奢リモノナリト笑フ、フルキ衣裳ニヤブレタル車ニノリ、形ヲトリツクロワズ、垢ツキケガレタル體ノモノハ、廉潔ナリト稱ス、コレニヨッテ士大夫、皆ワザト衣裳ヲケガラワシクシ、白錢ヲツカミ、自飯ヲカシグノ類ニイタルヲ以テ和洽ト云、臣下コレヲ諫ケルハ夫立レ敎觀レ俗、貴レ處ニ中庸一爲レ可レ繼也、今崇ニ一槩難レ堪之行一以レ儉殊レ塗勉而爲レ之必有ニ疲瘁一トイヘリ、

○問云、禹ノ宮室ヲ卑クシ、飲食ヲウスクシ玉フハ、夫子コレヲ稱美シ玉ハズヤ、然ラバ儉ハ聖人モ亦是ヲユルシ玉フニ非ズヤ、

答云、論語ニ禹ヲ論ジ玉フハ今問處ノ心ニ非ズ、菲ニ飲食一惡ニ衣服一卑ニ宮室一コトハ、天子ノ禮ニ不レ叶事ナレバ、コ、ニヲイテハ聖人ソシリノ入ルベキ處ナリトイヘドモ、禹ニヲイテハ此三ノモノ、儉ニ過ルコト更ニソシル處アラザル也、ソノユヘハ鬼神ニ孝ヲツクス處、大ニユタカナルヲ以テ、我身ヲツヾマヤカニイタシ、禮服ヲナスニ美ヲ專トシテ、ツ子ノ衣服ヲ

ヲロソカニシ、民ノ溝洫田制イマダ不レ至、ユヘニ民ノイトマアラザルユヘ、民ノ勤ヲ第一ニ力ヲ出サシムルユヘニ、宮室ハイマダイヤシクヒキクシテ、是ヲナスニ不レ及ナリ、是禹ノ儉ニ過ルイワレナレバ、禹ノ儉ニヲイテハソシリヲ可レ入處アラザルト、兩度禹無ニ間然ニ矣トノ玉ヘルナリ、然レバ無ニ其故ニシテソノ儉ニ過ルハ禮ニ非ザルコト明也、禮記ニ管仲ガ奢ハ而難レ爲レ上ト評シ、晏平仲ガ儉ナルハ而モ難レ爲レ下トノ玉ヘリ、又晏子祀ニ其先人ニ豚肩不レ揜レ豆、澣レ衣濯レ冠以朝、君子以爲レ隘トモ出タリ、有若ハ晏子ガ儉ヲ不レ知レ禮トイヘリ、コヽヲ以テ云トキハ子細モナキニ、儉ヲ事トセバ豈聖人ノ敎ナランヤ、曾子曰、國奢則示レ之以レ儉、國儉則示レ之以レ禮トイヘリ、次ニ晏子ハ齊ノ賢大夫ニシテ、此儉ヲ專トイタスコトハ、晏子聖敎ヲシラズシテ墨子ノ道ヲ學ガユヘ也、墨子モ亦堯舜ノ道ヲ尙トイヘドモ、堯舜ノ儉ナル處計ヲトリ用イテ禮ヲ捨ツ、是墨子反ニ天下之心ニ、天下不レ任ニ墨子ニ、雖ニ獨能任ニ、奈ニ天下ニ何、離ニ於天下ニ其去レ王也遠シト云ヘル論マコトニ當レリ、太史公墨者亦尙ニ堯舜道ニ、言ニ其德行ニ曰、堂高三尺、土階三等、茅茨不レ翦、采椽不レ刮(ケヅラ)、食ニ土簋ニ、啜ニ土刑ニ、糲粱之食、藜藿之羹、夏日葛衣、冬日鹿裘、其送レ死桐棺三寸、擧音不レ盡ニ其哀ニ、敎ニ喪禮ニ必以レ此、爲ニ萬民之率(ノリ)ニ、使ニ天下法若ニ此、則尊卑無レ別也トイヘリ、後世堯舜ノ德ヲ云テ茅茨不レ翦、采椽不レ刮ト云コトハ、皆墨子ガ論ヨリ出タリ、コヽヲ以テ考フルニ、聖人ノ敎ハ禮ニ不レ出シテ、儉ト奢トハトモニ不レ明レ禮モノヽ致スコトナリ、禮ヨリ是ヲ制スレバ皆道ニカナフ、禮ヨリコレヲ節セザレバ、コトゴトク違フトシルベキ也、

○問云、專禮用ヲ事トセバ、國費テ財乏シカランカ、

答云、禮行ナワルヽトキハ分定ル、故ニ豐ナルモノハ財ヲ施シ、貧モノハ財ヲ不レ施、禮ヲ背モノハ法ニ罪ス、故ニ天下ノ俗ニ習テ天下ノ財用トゞコホラザルナリ、太史公墨子ヲ論ジテ彊レ本節レ用、則人給家足之道也、此墨子之所レ長、雖ニ百家ニ弗レ能レ廢也ト云ヘルハ、未ダ聖敎ノ禮ヲ不レ詳ガユヘ也、聖人ノ節レ用ト云ハ富貴ナルモノハ、財用ヲ多ク施シテソノ節ニカナイ、貧賤ナルモノハ財用ヲ不レ施ヲ以テ節ヲ定ムル是節レ用也、墨子ガ節レ用ト云ハヒタスラ儉約ヲ事トシテ、富貴ノ輩ハ財寶ヲ府庫ニミチ、貧賤ノ輩ハ日々ニ

クルシミテ不レ安ノ術也、サレバ節レ用ハ同ジ言ニシテ、ソノ心得大ニタガヘリ、國費財乏ハ禮ノ不レ正シテ、財寶一方ニトヾコホル故ナリ、コレ上ニ禮ナクシテ、奢儉ノ道不レ正、下ニ知クラクシテ專奢專儉スルガイタス所ト可レ知、曲禮曰、貧者不下以二貨財一爲上レ禮、老者不下以二筋力一爲上レ禮トイヘリ、禮ハ聖人ノ大經ナレバ、禮ニ因トキハ事物ノ害イヅルコト不レ可レ有也、

○問云、敬ハ禮ノ要ナリヤ、

答云、敬ハモノヲツヽシミテ詳ニ思慮イタスノ心ナリ、故ニ禮ハ毋レ不レ敬ト云ヘリ、敬スル處アレバ禮ノ用詳ナリ、敬セザレバ禮ヲ用ユル處ナシ、凡ソ禮ト云トキハ事物ノ中ニカナワシメテ、ソノ用ヲ節スルノ義ナリ、五常ノ禮ト云ハ辭讓謙退ノ心ニシテ、恭敬ヲ以テ專トス、聖人ノ敎ニ禮ヲ專トイタシ、又禮樂トノ玉ヘル言ハ、ソノ用甚大ニシテ、唯辭讓謙退ノミニ非ズ、故ニ夫禮ハ天地之經而民實則レ之、則二天之明一因二地之利一トイヘリ、是與二天地一並テ以諧二萬民一ノ道也、敬ハ其事物ヲツヽシムノ言也、宋朝ニ至テ敬ノ字義甚高尙ニイタリ、朱子既ニ持敬ノ工風ヲ示セリ、持敬ト云ハ心中ニ敬ヲ存シテ不レ失ノイヽ也、是說イヅレヨリヲコルトイヘバ、心性ヲ弄スルヨリ出タリ、心性ニ形體ナシ、內ニ敬ヲヽクトキハ心常ニ存シテ、放心スル事ナシ、一箇ノ敬ヲ以テ我心ヲヨビヲコシ、ツネニ心ノ身中ニ存セシムル事、敬ニアラザレバ不レ叶ト云ヘルノ心也、サレバ易ニ敬以直レ內ト云、論語ニ修レ己以レ敬トイヘル類ヲ以テ證トス、是ヨリ持敬ノ說ヲコナワレテ、元明ノ學者皆是ニヨレリ、凡聖人ノ敬ヲノ玉フコトハ、ツヽシミテ思フノ心ナリ、敬ニトリ付テ工風イタサバ、是敬ヲ以テ心中ノ病トスル也、易ニ敬以直レ內ト云ハ、敬デ內ヲ直スルノ心也、修レ己以レ敬ト子路ニ示シ玉イ、居所恭、執レ事敬スト樊遲ニ敎ヘ玉ヘルハ、トモニ子路ガ率爾、樊遲ガ固陋ノ病ヲ砭箴セシムルノ言也、敬ト云ヘル事所々ニ用イズシテ不レ叶ト云ヘドモ、專敬ヲ事トシテ致レ知コト明ナラザレバ、愼而無レ禮則葸、恭而無レ禮則勞ノ心也、又敬而不レ中レ禮謂二之野一、恭而不レ中レ禮謂二之給一トモ出タリ、學ハ日用事物ヲツクシテ、其知ヲキワメ敬恭スベキトキハ敬恭ス、別ニ敬ヲ持スルコトナシ、專持敬ヲ事トスルハ、暗夜ニ燭ヲトラズシテ行ガ如シ、手ツヽシミ足ヲソレテ寸歩ヲスヽムルモ危シ、マカセ

テ行トキハ必他路ニ陷ルベシ、不レ如只燭ヲ取テ行コトノ安シテ不レ危ニハ、況ヤ日中ニ行歩セバ四方サラニ疑アルベカラズ、聖人ノ敬ヲノ玉フコトハ後儒ノ説トコロニ非ズ、故ニ事ハ思レ敬敬レ事而信アリトノ玉ヘルハ、皆其事ノ道ヲツマビラカニツクシテ、輕卒ニイタスベカラザルトノ心得也、

○問云、禮ハ節目甚多シテ禮儀三百威儀三千トイヘリ、足ノアユミ手ノカタチ容貌ノ動靜、コトぐク節目ヲツクサン事ハ、尤煩多ニシテツクシ難カラン、然レバ只敬ヲ以テ本トシ、持敬イタサバ其容貌ハコトゴトク不レ叶トモ禮ノ本意ハ不レ可レ失也、

答云、禮儀三百威儀三千トハ、其大數ヲ擧ルノ言ニシテ、人ノ日用朝晝暮夜行住座臥少壯老死ノ間、一事一物トシテ禮ヲ出ルコトナシ、故ニ人禮ヲハナル、トキハ乃禽獸也、禽獸禮ヲハナル、トキハ乃死、鼠ヲミルニ有レ體、人而無レ禮、人而無レ禮、胡不ニ遄死一トハコノ心ナリ、コ、ヲ以テ人既ニ知識アルトキハ、師ヲ立傳保ヲヲキテ人タルノ禮ヲマナバシメ、既ニ知識長ズレバ小學ニ入テマコトノ師ニ從テ六藝ヲナラフ、皆コレ曲禮ノ威儀ナリ、豈其品節三千三萬ト云ニカギランヤ、而シテ大禮ヲマナビ大學ヲ知ニ及ビテ、經禮又三百三千ニカギランヤ、視聽言動コレヲソムクトキハ非禮タリ、禮ト云トキハ恭敬シテ慇懃ヲツクス計ヲ禮ト云、是小節目ニシテ禮ノ大綱ニ非ズ、サレバ、禮ヲ詳ニツクサヾレバ、必ズ人々究屈困勞シテツイニコレヲツトメウベカラズ、故ニ禮之失煩、恭儉莊敬、而不レ煩則深ニ于禮一者也トハイヘリ、專敬ヲ事トシテソノ禮用ヲツクサヾランハ、野シテ其實ヲ不レ可レ得也、禮ハ優々トシテ大ナルヲ貴ブ、優々トシテ不レ大トキハセハシクシテ不レ正、豈聖人ノ禮ナランヤ、

○問云、學者ノ事ヲ考フルニ、世上ノ學者多ハ事ヲハブイテ易簡ナルヲ以テ用トス、イカサマ事多トキハ心性モミダレ、言行モトリミダスコトアレバ、事ソギテ靜ナランニハ、禮ノ用モ道ニアタリツベキコトナリヤ、

答云、コレハ俗儒ノ説ニシテ聖學ノ敎ニ非ズ、學ハ何ノ爲ゾヤ、是ヲ日用事物ニ及シテ、以テ道ヲ覘サンガ爲也、世我ヲ不レ知時ワレニ不レ遇ト云ドモ、年齡未レ及ニ老衰一時、宜亦可レ救ノ便アラバ、少ラクモ世ヲノガレ身ヲ安ズルコトナクシテ、人ヲ救世ヲ憂是孔孟ノ

徳トスル所也、文學讀書ハ皆餘力ノ所レ致也、古ノ聖人國ヲ治メ世ヲ知ノ外、讀書ヲ事トイタシ玉フコト舊記ニアラワレズ、況ヤ治世安民ノワザノ外ニ別ニ道アリト云テ、一冊一行ノ書ヲナシ玉ヘルコトナシ、是日用ヲ以テ道トシテ別ニ書ヲ味卷ヲ友トスルコトアラザレバ也、聖人若時ニ不レ遇世ヲタヾシ玉フコトアラザレバ、セメテ後世ノタメニ書ヲノコシ玉フ、是又日用人倫ノ學習也、シカルニ文書ニナヅミ道徳ヲ弄シテ山林ヲ樂、鳥獸ト群ヲナサンコトヲ好ムハ、或ハ詩文讀書シテ遣ニ其情一或ハ性心靜寂ヲ事トシテ世ヲ悶ルコトフカケレバ也、禮ニ男子生、桑弧蓬矢六、以射ニ天地四方一天地四方者、男子之所レ有レ事也、故必先有レ志ニ於其所一レ有レ事、然後敢用レ穀也、飯食之謂也、使ニ其母食一レ之也、故曰飯食之謂也飯食食子也コヽヲ以テ案ズルニ、男子スデニ生ルヽヨリ所レ有レ事ヲコソ貴ブナレ、何ゾ事ヲソグヲヨシトセンヤ、次ニ事煩トキハ禮容タガフベキト云ヘルコト、又似テ不レ同也、煩シキトキハ煩シキ禮容アリ、急速ノトキハ急速ノ禮容アリ、禮ハ宜ヲ以テ人ノ情ヲ定ムルモノ也、父母急事アランニハ、履ノ地ニツカザルハ古人ノ法也、君命ジテ召トキハ不レ待レ駕トモイヘリ、況ヤ室中ノ闘ニハカミヲツカンデコレヲスクフコト、孟子ノ詞的論ナレバ學者ノ禮イヅカタトテモハナル、コトアラザルト可レ知也、

○問云、事ノアルトキニ心得べキ樣、イカヾ侍ルヤ、

答云、事ニ大小輕重アリ、ソノ人ニ親疎上下アリ、文事アリ武備アリ、當用急務アリ、後代ニノコシ萬民ニ示スアリ、時代土地ソノ本末アルナレバ、一色ニツイテモヲロソカニ云ガタシ、シカレドモ何事ナリトモ、先卒忽ナルコトナク詳ニ思慮スベシ、コレヲ敬テ思ト云也、敬テ思フトキハ其身ノ知慮學習ノ淵底ノコラズ發見ス、學習ノ不レ及シテ知慮ノ不レ足ハ、不レ及ニ是非一了簡ニコト也、我分際ノ知ヲツクスナリ、サレバコノ心得ナキ輩ハ輕卒ニシテツヽシマズ、思慮ヲツクサザルユヘニ常ニ後悔スルトモ不レ及ナリ、次ニ敬思テイマダ落著仕リガタキ事ハ、ソノ道々ノ功者又ハ我ヨリ先覺ノ學者、又ハ古今ノ事ヲシレルモノニ相談イタシテコレニ了簡セシメ、我又察シテキワムべシ、此相談人ナクンバ彌我知ヲツクシ、古今ノコトヲ思慮シテソノ通ニキワムべキ也、未熟未練ノ知ニシテ我意ヲ立べカラザルナリ、必相違多カルべシ、

凡ソ其愼デ思フベキ品々ハ、常時新規ニ可ニ立行一事ニシテ、人ノタメ家ノタメ國ノタメナラン事ハ、聊ニモ疎畧ニ不レ可レ仕ナリ、大概ヲ詳ニ云バ、家人子弟男女ノ賓客・財寶・器物・衣食・音物・書札、尤モ平生何事ニモ作法アリトイヘドモ、是ニハ必ズ法ノアルベキト存ズルワザアリ、又制法・禮節・風雨・時變・往辰・令節・晝夜ノワザ、知行・方城・屋敷・家宅、況ヤ家人子弟ノ教戒四民ノヲシヘ、其至誠ヲツクサシムル事、皆愼デ思フベシ、乍レ然以前ヨリ有來レル事ヲ新法ヨシト云テモ、俄ニ改制スルニハ中ニモ思慮スル事アルベキ也、

○問云、世上多ハ無學ニシテ無知ノ輩多シ、コレヲ除テ益友ヲ招カントセバ、人ヲ嫌ニナリヌベシ、シカリトテ又是ニ交バ學ノ暇ナカランカ、

答云、世上ノモノヲ無學ト云事甚アヤマリ也、是我ニ道ヲ立學ヲ別ニ思フガユヘ也、我ニ志アラントキハ善人惡人トモニ我師資タリ、コトニ世上ニ惡人ト云モノ又珍シ、大抵人ナミノモノ、ミ多シ、是ニ交際センコトヲ嫌バ人倫自ラ絕ヌベシ、其上志フカキトキハツトメニ暇ナシト云コトアラズ、何ノ遠コトカコレアラントイヘル言ノ心也、我志次第ニ道ニアツクナランニハ、惡人非義ノ輩ハ自ラ去テ近ヅクベカラズ、此方ヨリ是ヲ嫌ニ不レ及ナリ、凡朋友ニ敬ベキ輩アリ、親シク談論スルノ輩アリ、又我家ニ出入セシメテ見棄ザル友アリ、是ハソノ位ニモヨリソノ人ノ品ニモヨルコト也、サレバ崇敬イタスベキ友ハ、父ノ友ニシテ我ヨリ年齡高キ者、尤モ大身官祿アル人、德義武功ヲツトメ才知優長ノ人也、親シク談論スベキ輩ハ學文同志ノ相手自他互ニイサメ互ニ佑テ底イナキ間、コレ講習討論ノ友也、又見棄ザル者ト云ハ、時ニアワズ貧シテ我助長ヲ待モノ、又ハ志不レ同ト云ヘドモ、我家ニ由緒アル輩ハ不學ニテワケモナキ事多ク、貪欲ニシテ諂驕アルト云ドモ、是ヲ不レ棄シテ心付ヲイタシ、ソノ大ナルアヤマリナカラシムル如ク可レ仕ナリ、此三段ニ因テ其交際ノ禮各コトナリ、尤モ一事一物ノ付屆ヲイタストモ、皆其品ニ從テ心得替ルコトナレバ、コト〲ク愼デ思ハヾ日用ノ學ナラズト云コト無レ之也、次ニ我家ヲミルニ父母聖人ニアラズ兄弟子孫賢者ナラズ、況ヤ家人婦妻イヅレカ道ヲシレル輩アリテ、益トナルコトアリヤ、シカレバ

手前ヲサシヲイテ、他人ヲヱラバント云コト本意ニアラズ、必ズコレヲ事トスレバ伯夷ガツクレルアワヲクライ、伯夷ガツクレル家ニ居ント云ニ異ナルコトナシ、

○問云、世ノ中ノ交際不レ可レ嫌トイヘドモ、ヨリ合テ談ズル事、月見花見遊山翫水鵜鷹川ガリ、男女ノ好色酒宴飲食器物ノサタ、損得利買驕吝ノ二事、サテハ世上政道ノ是非、教戒法度ノ善悪ヲイタシ、其實皆イツワリヲカマヘテタテヲナスヲ以テス、是ニ交ヲヨクセントナラバ、我學元ヨリ薄キガユヘニ、忽ニソノ内ニ流レ入リヌベキ也、此心得承知センコトヲ願フ、

答云、今聞所ノ事條々皆人倫ノ日用ニシテ、聖人ノ言行ニ是ヲノゾクト云事ナシ、唯是節ニアタルノミ也、是ヲ過トキハ悪タリ、是ニ不レ及トキハ隱士タリ、當時ノ人少モ學ニ志アルトキハ、ユクサキ〲ニテ四書六經ノセンギ議論、道德仁義ノサタイタサヾレバ、其人學問ニ志ウスキ怠アリト云ヘリ、全ク是俗學ノ偏見ナリ、文學ノ同志相交テ切磋イタシ講習ヲトゲン輩、其會日ニハソノワザ可レ然、平生ノ振舞寄合テ物語トアランニハ、ソノ時相應ノ談論ヲイタシ、優長ニシテ安樂スルニタレリ、コヽニヲイテ四書ヲ出シ、六經ヲヒロゲン事ハ其道ニ非ナリ、故ニ當代少々學術ノ輩ハ、世事皆不案内ニナリテ、鵜鷹川狩モ不仁ニ近シ、歌舞音樂モ鄙曲ノ淫聲ナリト心得テ、文章日々ニクラク、才カクレテ碌々タル小人トナレル類、コレ俗學ノ弊ナリ、次ニ我ニ志アランニハ、人ノ物語ヲキケルトテソレニマドフベキ義ナシ、桀紂ニ直ニツカワレテ聖賢ハ聖賢ノ行ニテトヲレリ、コトニ古ノ文書ニ美人ハ楊妃西施ガフルマイヲツクシ、酒宴ハ劉伯倫王無功ガ醉鄕麹世界ヲツマビラカニシ、石崇ガ驕和嶠ガ癖ノセズト云コトアラザレトモ、是ヲ見是ヲキイテコレニマドフモノアラズ、豈實學ノツトメアラン輩、何ゾ是ニ陷溺スベケンヤ、我ニ實立トキハ志同ジカラザラン輩ハ、自然ニ遠ザカルベキ也、

○問云、朋友ノ交際ハ已ニ承知ス、仕官奉公ノ輩ハ君命家風ヤムコトヲ不レ得シテ、ソノ道ナラヌコトヲモイタシ、可レ諫コトヲモイサメズ、我亦無道ノ行ニシヅム事アルベシ、如レ此心得イカヾ執行イタスベキヤ、

答云、是俗學ノマドイ也、俗學ノ輩人ノ非ヲセムル事

ツヨキヲ以テ事トス、故ソノ心得ヨリ考ユルトキハ、當代主人ニ可レ仕家ナシト存ジ、ツイニ山林ニサマヨイ道路ニタ、ズマイテ、實ハ乞丐人ニコトナラズ、是併愼デ思慮セザルガユヘナリ、先仕官ト云ニソノ品多シ、當時諸侯郡主ノ陪臣幷御家人ノ重代アリ、又重代ノ主ノ家絶テ新ニ仕官ヲ望ムアリ、又家貧シフシテ父母妻子ヲ養ガタメニ仕ルアリ、又道ノタメ人ノタメヲ存ジテ仕フルアリ、惣ジテ士タランモノハ主人ヲトツテ奉公仕官イタス事、是職分ナリト可レ存、田ヲ耕工商シテ世ヲワタランハ士ノ業ヲ失ナヘル也、サレバ農工商ヨリ選マレテ士ニアガルヲバ、幽谷ヨリ喬木ニウツルニタトヘ、士ヨリ農工商ニイタルハ、喬木ヨリ幽谷ニ入ニタトフベシ、次ニ士ノ官ニ高下尊卑文武ノ品々サマ〴〵多シ、一樣ニ論ジガタシ、出テ仕フルノ新久出ルトキノ約束禮義、是又人人ニテ替ルベケレバ、ソノ品ヲキワメザルトキハ、其用法知レザルモノ也、其大概ヲ云バ、世トトモニヲシウツリテ、我ガ知ヲカクシ、君ノタメ人ノタメナルベキ事ノ我ワザニカナヘルコトヲ詳ニツクスベシ、又我ニ無道ノ役義ヲ命ゼラレタルトキノ心得ノ事、其無道ノ役義ト今云コト何事ト品ヲキカザレバ用法辨ジガタシ、タトヘバ父兄ヲ弑スル事アリト云ドモ、君命ハ辭スルニ不レ及、我ニ知慮アランニハ其時宜時ニ因テ無道ヲヒルガヘスノ道モアルベシ、不レ得レ已トキハ又ソレニ從テノ作略用法イクバクモアルベケレバ、左樣ノ事ヲ命ゼラレンニハ猶以學習ノ功アラハルベシ、況ヤ其外ハ云ニ不レ足事也、又ソノ家風ノ事ハ家々ノナラワシ、國々ノ風俗ナレバコレヲ改メント思イ、心ニカクルコトハ聊アルベカラズ、但不レ致シテモ不レ苦コトハコレヲノゾクベシ、不レ致シテハ害ノアランコトニハ皆世ニ從フニアリ、サレバ無道ニ居テハ知ヲカクシテ愚トナルコト、聖人モカヘスガヘスノ玉ヘリ、委シク聖人ノ言論ヲ考ユベシ、

○問云、然ラバ不義無道ノ人ノ祿ヲウケ、食ヲハミテ不レ苦ニヤ、

答云、好デ不義無道ノ人ノ國ニ居祿ヲウケンコトハ本意ニ不レ在、ソレトテモ其時宜ヲ詳ニセザレバ一樣ニ云ガタシ、マコトニ其家ニ重代ノ輩コレヲ不義無道ノ主人ナリトテ退去ルコトハ善ト不レ可レ定也、般

ノ湯王ハ夏ノ祿ヲウケ、周ノ文王ハ殷ノ祿ヲウク、夏殷ノ末ノ不義無道甚大ナリトイヘドモ、コノ祿ヲウクルヲ非ナリト不レ爲、衞ノ靈公ヲバ孔子直ニ靈公ノ無道ナルトノ玉ヘレドモ、衞ニ行テ旣ニ南子ニモ對面アリ、況ヤ出公輙ガ父ヲ追出セルハ、キク耳モ可レ洗ニ似タリトイヘドモ、衞ノ君ヲタスケバ名ヲ正サントノ玉イテ、衞ノ政ニハ不レ可レ預トハノ玉ワズ、魯ノ三桓ガ君ヲ蔑如シテナキガ如クイタスハ、以前ヨリノ事ナリトイヘドモ、夫子魯ノ定公ニツカヱ玉イヌ、若俗學ノ偏見ヨリ云トキハ、孔孟ハ戰國ノ食ヲ不レ可レ食ト云ニ同ジ、此心ヲ推シテ行トキハ、却テ君ヲアザケリ父ノ非ヲソシルノ罪人タリ、故ニ能思慮シテソノ道ヲ詳ニツクスベキ也、

○問云、道ヲ立功ヲナサン輩ハ、其器量拔群ニアラズンバ不レ可レ得、シカルニ人ナミノ中ニ交テソノ分別モアラザラン輩ハ、愚者ニコトナルベカラズヤ、

答云、道ヲ立功業ヲ大ニイタスモノハ、必ズ愚者ノ如クイタスコト、コレ聖人ノ戒也、サレバ甯武子ガ衞ノ君ヲタテ、難ヲ救ヒ事ヲトゲタルハ、夫子以テ其知ニハ可レ及也、其愚ニハ不レ可レ及也トノ玉ヘリ、魯ノ子家羈ガ、昭公ト季氏トガ云ヘランコトヲヨシト思ニハアラザレドモ、コレト議論ヲコトニセズシテ昭公ノ難ヲ救ハントス、是季氏ニ黨スルニ非ズ、陳平周勃ガ呂氏ニ黨スルニ非ズシテ呂氏ノ云コトヲソムカズ、唐ノ狄仁傑則天ノ云ヘルニ黨スルニ非ズシテ、只則天ノ云ニ從フ、如レ此ノ事賢者ノ言行ニヲヽシ、是時勢粧ヲ考ヘテイタスコト也、必コレヲ咎必コレヲ諫ムレバ、却テ其害ノ出來テ大義忽ニヤブル、事アルベシ、故ニコレト異議ヲ不レ立シテ、ソノマヽ立置テシカフシテ功ヲ遂ニ立、業ヲ遂ニ不レ失コトヲ君子ノ道トス、古ノ晏子伯玉ガ齊衞ニツカヱテ君臣ノ大義大難アルニ及デ、各其言行如レ愚トイヘドモ、其齊衞ノ社稷ヲ不レ失コト可二以見一也、スコシノ事ニ我意ヲ立テ議論ヲタケクシ、利口ヲ專トスル事ハ大臣ノ致ス處ニアラズ、但ソノ事ニヨツテ必ズ議ヲ立論ヲツヨクシテ、大義ヲ決スルコトアリ、コレソノ事物ヲ詳ニ格物セザレバ難レ定、夫子ノ大言シテ齊ノ師ヲシリゾケ玉イ、少正卯ヲ誅シ三都ヲ隳(コボタン)コトヲ命ジ玉フ、皆コレ也、サレバ易ニ賢人在二下位一而無レ輔、是以動而有レ悔ト、亢龍ノ義ヲ論ゼルハコノ心ナルベシ、處ニ

事變一者須レ識二此意一也、

○問云、然ラバ五倫ノ間不レ可レ然コトアリトモカマワズ諫ヲモ不レ云、ソノマヽニイタシ置、人ハ人我ハ我トセン事不仁ニモイタリ、又道ノシルシモナキト同ジカランニヤ、

答云、大抵人情ノ常平易ナラン事ハ勿論也、既ニ身ヲ害シ家ヲヤブラン事ハ、君ニツカヘテハ其職分ヲ考ヘテ、或ハ直諫シ或ハ諷諫シ、或ハ我タヨリアル家長出頭人ニシラシメツベシ、尤父子ノ間ノ義ニ諫ルノ道、敎ユルノ道、古傳ニ明ナリ、朋友ノ間互ニ是非ヲ糺(タヽス)ノ道アリトイヘドモ、是又ソノ交際ノ位ニヨルベシ、兄弟ハ父子ノ外ニハ親切ナリトイヘドモ、是又シバ〳〵イサメテハ却テ親ヲ失ニ至リ、後ニハ大事大義ヲ我ニカクシ、害ノ忽ニ至コトヲ我不レ知コトアルモノナレバ、只親シンジテソノ時宜ヲ以テ諷諫スベシ、我婦妻家人ハ我下知ニ必ズ隨心イタスモノナリトイヘドモ、朝夕敎戒諷諫イタシテモ、猶得心イタシ難キモノナリ、然レバ大方ノアラマシ、別事ナクバソレニマカセテ自然ト敎化セシムルニアリ、若道ト云一物ヲ立言行ヲ一々ニ糾シ、人々之性心ヲ正シカラシメント欲セバ、生々ヲツクストモ竟ニ不レ可レ得ナリ、是乃愼デ思フ處ニアリ、愼デ不レ思ガユヘニセワシク煩シクナリテ、人ノ非ヲアラタメ、他ノ惡ヲ悔ニイタルナリ、近ク身ニ體スルニ我親シキ者ハ妻女ナリトイヘドモ、伯夷伊尹ガ如クナル賢烈ノ者ノ女ヲ求メテ、是ヲ妻女ニ定メントイタサバ、ツイニ妻トナルコトカナフベカラズ、家人ニ仁義忠直ノ輩ヲ求メテツカワントセバ、ツイニ家人アルベカラズ、世ノ中ノ男女天下ノ人々ノ妻室下人幾千萬人トカゾフベカラザレドモ、主人ヲ殺シ夫ヲタブラカシ、國家ノ大事イタセル惡人モ亦マレナリ、シカレバ人ヲ責ル心ヲ薄シテ我言行ヲ正シ、知慮ヲ明ナラシメテ、愚者邪惡ノ者モ不レ得レ止シテ道ニ入、ソノ家ニツカフレバソノ法ヲツトムル如クナラシムベキ也、

○問云、少モ學習イタシ聖人ノ道ヲタヅヌルニ從テ、他人ノ非ミヘヤスク、彼ニ道ヲキカシメンコトヲ欲ス、此心ハ不レ苦コトニヤ、

答云、是學者ノ通病ナリ、學術進ニ從テ此心自退クベシ、タトヘバ劍術ヲマナブニ、少シ心得ルトキハ勝負ヲ欲スルコト甚シ、久シテ其心シリゾキ、人ニ勝事ノ

ナリガタキ事ヲ知ル、道ヲ學ノ學者モ亦然リ、我ニ志深ク立ルトイヘドモ身ノアヤマリタヾシガタク、知惠昏シテ通ジ難コトヲ知バ、不學ノ人ノソレ〴〵ニイタシテ五倫ノ交際スナホニ、事物トヾコホラザルハ不思議ノコト、可レ存、何ヲソシルニ及バンヤ、次ニ人ニ道ヲキカシメント云志ハ尤ナレドモ、キカセ度トテ人キクモノニアラズ、近ク父母ノ大切ナル子孫ノ愛惠スベキ、婦妻ノシタシムベキ、家人ノ我ニシタガフ、イヅレモ道ヲシラセ、聖人ノ敎ヲキカセタシト存ジテモ、更ニ通ズベカラズ、況ヤ他人ハ云ニ不レ及コトナリ、唯我ト相シタシマシメテ何事ヲモ我ニカクサヾル如クイタシ、自然ト大義ヲタガワザラシムベシ、凡ソ人信ズルモノ、云コトヲバ、コレヲ貴ガユヘニコノ言皆用テ利タリ、不レ信トキハ嘉言善行モトツテ不レ用モノナリ、人ノ信ゼンコトハ我言行ノ正シクシテ、其知慮ノシルシアルニ從テ、自然ニ信ズベシ、

○問云、君父兄弟朋友ノ間和順ヲ以テシテ、自化スルノ義承知セリ、家人ハ我下知ヲ以テ進退賞罰セシムルモノナレバ、道ヲ立テ敎ヲ詳ニセン事、又ナリヌベキワザ也、

答云、皐陶云、臨レ下以レ簡、御レ衆以レ寛トイヘル也、タトヘバ道ノ道タルワカチヲ末ガ末マデモツトメシメ、是ヲス、メ是ヲ戒メンハ、マコトニ仁心ト云ベキニ似テ、思慮ノクラキガユヘニナルマジキコトヲ思也、人ノ年齡ニ少壯老アツテ、コノ志タガイ位ニ尊卑アリ、祿ニ高下財ニ貧富一ツナラズ、形氣サマ〴〵ニカワリテ、其好惡所業別ナリ、コトサラ數年ノナラワシニヨツテ、我心ニ一筋ノ思入出來リテ、其本ヲトリ失テ、世ニモマレ是ゾ一生ノ樂ト志ス所タガヘリ、此品々ノ人ヲ一樣ニイタサンコト速ナルベカラズ、故ニ先家ノ老臣司サ奉行タルモノヲ常ニシタシミ近ヅケテ、自ノ言行ヲシメシ、事物ノ詮義ヲ詳ニイタサシメ、イツトナク化セシムベシ、道ノ形ヲ立シナヲ定メバ奸人又コレニタヨツテ、僞言僞術ヲナスベシ、凡ソ敎戒ヲナスコト、必時節アルモノ也、尤其年齡ヲ考ヘテ其敎其戒アリ、其位其祿其職分ヲハカリ、其人品ヲ詳ニシテ、先ソノ所作役義ヲ定メシメ、法度ヲスクナクイタシテ、法ノ必立ゴトクイタシ、時々ノ省察敎令ヲコマカニシテ、其内外ヲ察シ、其志ヲ誠アラシ

ムベシ、次ニソノ下々ノ事、只制令ヲ詳ニシテ、惡ニヲチイラズ、死地ニイタラザラシムルノミ也、必ズ品々ノ法度多キトキハ、下コレニ惑テ干要ノ事不レ立モノ也、下僕ハ利ヲ利トシテ安ンゼシムルニタレリ、彼ガ言行トルニ不レ及ナリ、スベテ弛ルコトアリ、弛時アリ、弛所アリ、ユルムル人アリ、又ツトメシムル人アリ、ツトムル時アリ、ツトムル所アリ、ツトムルワザアリ、是皆愼デ思ワザレバソノ用法ヲ失スル也、一張一弛ハ聖人ノ道ナリト、可二心得一ナリ、

○問云、承ワル處ハ甚易簡ナレバ、人々皆聖人ノ敎ヲシルベキニ、古來ヨリコレヲトリ失テ日用ヲ不レ存アヤマリハ、何クニカアルヤ、

答云、聖人ノ敎ニ形名ナシ、形名ナキガユヘニ人是ヲシラズ、萬卷ノ書モヨム人世ニ多シ、詩作文章ヲ著述スル人乏シカラズ、大願ヲ起シテアラキ行ヲナス輩世ニタヘズ、無欲淸淨ヲ本トシテ木ノ實ヲクライ、塊ヲ枕ニシテ一衣一鉢ノ隱者木ノハシノ如キ、法師イヅレカ世ニナカラン、皆聖人ノ敎ニ不レ同、聖人ハ世ト推ウツリテ言行時ト共ニ消長シテ、ソノ道自明ニ其知事物ニワタリテ不レ惑、是乾坤ノ易簡ナルニ同ジ、然レドモ何ノ造作モナキコトヽマデ思フトキハ、又大ニ相違アルベシ、ソノユヘハ萬物ニワタリ萬事ニ通ジトヾコフル處ナクシテ、一ノ形名ナキ事、是天地ノ廣大ヲ以テ容レ之載レ之ニ同ジク、日用ノ縣象著明ニシテ無レ不レ照ニコトナラズ、是ヲ子細モナク心得ベキト思フコト、甚輕踈ナリ、次ニ世ノ學者ノマドフコトハ形名ノシルベクミルベキナキガユヘ也、故ニ日用乃チ道ナリ心性ナリト云コトヲ不二了覺一シテ、道學心學ノ名義ヲ立ル故ニ、聖敎ハ日ニカクレテ皆私意我見ニ落在スル也、凡乾坤ノ易簡ナルハ陰陽五行ノ運行循環相因テ其悠久積累ヲフル、ソノ所ヨリ出タルコレマコトノ易簡也、聖人ノ易簡モ亦コレニ同ジ、仲弓ガ所謂居レ敬行レ簡トイヘル心ニ近シ、コレヲ心得ソコナッテ只易簡ナリトノミ心得レバ、居レ簡行レ簡ノイヽニシテ、簡ニ過ルガユヘ易簡ノ實ヲ不レ得、世事言行只無造作ナルヲコトヽシ、其本ハ麤略ナラシムルノイヽナリ、何ゴトモ深重積累シテ出ル所ノ易簡ヲ以テ聖人ノ易簡ト云ベキ也、サレバ舜ノ無事ノ治モ亦コレナルユヘニ、末世ノ治ノ及ブ所ニアラザルト云ヘルナルベシ、

○問云、今日日用ノ行事コト〴〵ク、聖賢ノイタシヲク處ヲ學ビ行ナフニアリヤ、

答云、コト〴〵ク聖賢ノ行事ヲナサバ則是聖賢也、但シ聖賢ノ行事ハ皆事物ニ隨テ、ソレ〴〵ノ品節アリシ事ナレバ、ソノワキマヘナクテコレヲ致サンコトハマコトノ道ニアラズ、論語ニ、見レ賢思レ齊焉、見ニ不賢一而内自省、孟子ニ、子服ニ堯之服一、誦ニ堯之言一、行ニ堯之行一、是堯而已矣、子服ニ桀之服一、誦ニ桀之言一、行ニ桀之行一、是桀而已矣ト出セリ、シカレバ古ノ聖人ノ行ヲキイテ今日コレヲシタイ、ソレニ隨テコトヲイタサンニハ、相違アルマジキ事ナレドモ、聖人ノ行ニ必トスル範ナシ、又必トスルイカタアリ、是コソ學者ノ盡レ性盡レ心トコロナリト可レ知、ソノユヘハ學ビタルマヽニ何事モ行イユクモノナラバ、古人ノ行跡ヲ能覺ヘタルモノハ、皆聖賢ノ地位ニモ至ルベケレドモ、内ニカヘリミテ是ヲ思慮イタシテ不レ行バ、却テワケモナキコトニナルコト多シ、是レ學而不レ思則罔ト云ノ心也、シカレバ聖人ノ行ト聖人ノ言トヲ比校シテ、而後ニ己レガ知ヲキワメテ、ソレニ因テ行フトキハ違フコトスクナカルベシ、尤モ狂人ノマネトテ大路ヲワシラバ則狂人ナリ、惡人ノマネトテ人ヲコロサバ乃惡人ナリ、コレ狂人惡人ノ狂惡ヲマナブユヘニシテ、只マネイタスト云ニハアラズ、聖人賢人ヲマナブモ亦如レ此、只ソノマネ計ヲイタシテ其聖賢ノ實ヲマナバサレバ、サラニ用ニ不レ立、燕子噲ハ堯舜ノ行ヲマナビテ國ヲ失、徐君宋ノ襄公ハ仁義ノマネヲイタシテ、或ハ亡或ハ敗レヌ、コヽヲ以テ考フルニ、有ニ天地之德一而後有ニ天地之行一、有ニ聖人之知一而后有ニ聖人事一、唯不レ學ニ其知德一而專ニ其事一、則不レ害ニ其物一少矣也、ソノ故ハ事ト行トハ時代ニヨリ土地ニシタガイ、ソノ人ニ因テ同ジゴトクニテ事々相違スルコト多シ、シカルヲ聖人ノ行ナレバ、コレゾヨカラントー片ニ存ジテ、其思慮ウスキトキハ國君ハ國ヲ失フコトヲ不レ知、匹夫ハ身ヲ保コトヲ不レ可レ得、イカントナレバ、聖人ハ本ヲ正シ謀ヲサダメテ而シテ後ニ寛大易簡ヲ以テ行トス、愚者本ヲシラズ謀ヲ不レ盡シテ、只寛大易簡ヲコトヽセバ忽ニヤブレズト云コトアルベカラズ、今川ヲヲヨグ者ノ、水上ニ浮ンデ游優寛順ナルヲミテ、川ノコトヲ不レ知者、コレヲ學バントテ川ニ入ラバ、忽ニ溺死スベシ、水上ニヲイテ自由ヲイタ

ス者ハ、兼テ水ヲヨク學ンデ、其水ニ付テノ知究マレルガユヘニ、今水上ノ自由寛大ヲ得ルナリ、サレバ世上人欲ノ險、人情反覆之變、巫峽之水、太行之路モ亦コレニアワセバ坦途安流ナルベシ、シカルヲ只聖人ノ行跡ナリト存ジテ、ソノ一事ソノ一行ヲ行ナハントセバ、コトゴトク相違出來テ害ヲノガルベカラズ、禹・稷・顏回ソノ志ハ一ツニシテ其行ハ不レ同、伯夷・伊尹・柳下惠ソノ本ハ一ツニシテ其行ハカワレリ、堯舜ハ性レ之也、湯武ハ身レ之也、コヽヲ以テ孟子モ有ニ伊尹之志一則可、無ニ伊尹之志一則簒(ウバヘル)也トイヘルナリ、

○問云、答ヘ玉フゴトクナランニハ、ヨキ人ノマネヲ致スコト、皆アヤマリトナルベシヤ、

答云、イカタアラン事ハ皆コレヲ學ビニセテ致スモノ也、イカタナキ事ヲニセントイタス時ハ大ニ相違アルコト也、惣ジテ學ト云ト似(マネヲス)爲ト云トハ大ニカワレリ、學ブト云ハ實ニ是ヲ師トシテコレニナラフコト也、マネヲイタスト云ハ、內ニソノ志ナクシテソノ事ヲニスル事也、當時ノニセモノナド云皆是也、故ニ徼(ムカヘテ)以爲レ知、不孫以爲レ勇、訐(アバイテ)以爲レ直ハ子貢ガニクム所也、鄕原ヲ德ノ賊タリト戒シメ、似テ非ナルヲニクムトノ玉フハ孔子ノ言ナリ、紫ノアケヲ奪、鄭聲ノ雅樂ヲミダル、トモニニセモノナリ、凡ソ人善惡トモニ自立テソノコトヲナスモノハ、ソノ善ソノシルシアリ、其惡モ亦變ズレバ必ズ善タリ、是志氣ノ一定セルガユヘナリ、彼ニセモノハ柔弱ニシテ卓爾タルコトナキガユヘニ一定ノ志氣ナシ、人又コレヲミソコナイテ善人ナリト思フニ至ル、然バ學者カリニモ實ナクシテ、事ヲニセントイタスベカラズ、ソノ事當座ハアラハレザレドモ、ツイニハカクル、事アラザル也、人ノ行跡物ニタヨラズ、獨立シテ無レ傾ハ古人コレヲ稱ス、ツヽシマザルベケンヤ、

○問云、學問ヲナスノ行跡專信實ヲ以テ根トイタシ、物ゴトニ僞ナキゴトク守ルヲ第一ト可レ致ヤ、

答云、ソノ志實ナリト云ハソノ思入ノ切ニシテ、不レ傾ヲイヘリ、信ハ朋友ニ交ルノ道ナリ、カリニモ僞ヲカマヘテ彼ヲタバカリ、虛ヲ以テ人ノ志ヲウバフコトヲ不レ致コト、マコトノ朋友ノ交際ト云ベシ、但是又心得アルコト也、學思ノ志ヨリ信ヲ不レ立トキハ、ソノマコト却テ害トナルコト多シ、聖人禮ヲ立テ人ノ情ヲ品節セシメ玉フニハ、其志薄トイヘドモ其

事ヲ以テ厚カラシメ、其志厚ニ過ルハソノ事ヲ以テ節セシムル、是ソノ過ルヲ抑ヘ不レ及ヲソダテ、トモニ其道ヲ得セシメ、文章アッテ品節セシムルノ謂ナリ、故ニ聖人ノ禮ハマコトアラザルニ似タルコトアリトイヘドモ、イツワリノ中ニ自カラ誠ノ道ソナワレルナリ、サレバ父ノ羊ヲヌスメルヲバ、子コレヲカクシテ直在ニ其中一、夫子ハ陽貨ニアフテ然諾シ玉フテ不レ屈コトソノ中ニアリ、コヽヲ以テ必ズスグニ心ニヲモフゴトクニマデ致スト存ズルトキハ、却テ戎狄禽獸ノ行ニナルコトアリト可レ知也、コレ皆學ニヨラザレバソノ知キワメ難シ、古ヘヨリスグニマコトアル輩世ニ多クシテ、却テ道ニ不レ至タメシアリ、彼ノ葉公ガソノ父羊ヲヌスメルヲ、子アラハシタルヲ直ナリトヲモフガ如シ、論語ニ、十室之邑必有ニ忠信如レ丘者一焉、不レ如ニ丘之好一レ學也ト出タリ、コヽヲ以テ學ヲ好ム處ヨリ用ザル忠信ハ、忠信トモニ其實ヲ不レ得也、昔魯ノ悼公之喪ニ、季昭子問ニ於孟敬子一ケルハ、君ノ喪ノ中ニハ何ヲカ食スベキト云ケレバ、孟敬子コタヘケルハ、主君ノ喪ニハカユヲ食フコト是天下ノ達禮ナリ、シカレドモワレラ三人ノモノドモ、魯君ニツカヱテ君ヲ君トセザルコトハ四方ニ不レ聞モノナシ、今悼公ノ喪ニカユヲクラフテ愁色ヲアラワシ、身ノヤセヲイタサバ人皆マコト、思フベカラズ、ツクリゴトヲ以テ人ニ示サンコトハ實義ニ非ズ、我ハアリノマヽニ不斷ノ食ヲクラフテ喪ヲトクベシト云ヘリケルト禮記ニ出タリ、マコトニ孟敬子ガコタヘスナホニアリノマヽナルコト、却テ殊勝ナリト世人ハコレヲ思フベケレドモ、甚道ニソムイテ實儀ヲ失ヘリ、禮ハ有ニ微レ情者一、有ニ以レ故興レ物者一ト云ヘリ、君子ノ情ヨリイハヾ、君父ノ喪ヲバ一生モトゲ行フテアキタラズト思フベケレドモ、コレニマカセテハ無究ヲ以テソノ情ヲソイデ、過タルヲ、サヘテ節ヲキワムル、コレ有ニ微レ情者一也、又邪淫ノ小人ヨリイハヾ君父朝ニ死シテダニコレヲ忘ル、輩アリヌベシ、是ニ従テマカセヲカバ鳥獸ニモヲトレルコトアリヌベキヲ以テ、ソノ情ノ不レ及ヲヲコシタテンタメニ、食物衣類居所ノ制法ヲ立テ、ソノ形體居處ニテハ邪義惡心出テモ、ソノワザヲナスコト不レ可レ叶シテ、コレヲ見コレヲキクモノ自哀愁ノ情ヲ生ゼシムルゴトクスル、コレ有ニ以レ故興レ物者一也、サレバ父母ニ三

年ノ喪、君師ニ方喪心喪ノ制ハ、聖人稱レ情而立レ文、弗レ可二損益一ノ道ナリ、心ニ不レ思コト也、人ノウタガフベキトテ不レ遂二其禮一バ皆情ノマヽニシテ、徑ニ行ト可レ言ナリ、告朔ノ餼羊ナヲノコリテソノ禮又ヲコランコトヲ以テ、夫子ソノ羊ヲ惜ミタマヘリ、孟敬子ガ云ヘル處、只自ノ利口ニシテ是ゾ邦家ヲ覆スノ基タルベシ、如レ此ノ處ヲヨク考ヘ味ヘバ、道ノ實義ツイニ會得スベキ也、サレバ舜ノ不レ告シテ娶リ玉フハ、告タルコトハリソノ中ニアリ可レ知也、如レ此云トキハ時ニトツテノ僞ハ不レ苦ニ似タレドモ、微生高ハ鄰ニ酢ヲコフテ直道ニ非ズト夫子イマシメ、父ノ羊ヲヌスメルハ、其子コレヲカクシテ直在二其中一ノ玉フ、其事物ノ格致ツマビラカナラズンバ、必ズマドフコトアリヌベケレバ、能學デ有道ニツイテ尋ヌベキ也、

○問云、マコトノ道モ學ヨリ不レ入バ實ヲ不レ得コト詳ニ承知ス、但シ實ノ過タランハ虛ヨリマサルベキニヤ、然ラバ不學ナリトモ、實ニ厚クイタス心得アラバ、道ニ近カランカ、

答云、學習格致ノ實不レ正バ實モ虛モトニモ損益アツテ相同ジ、イヅレヲ甲乙ト定メ難シ、シカレバ鄕原利口兩ナガラ聖人ノ責ヲノガレズ、謹厚ノ人ハ實ニアツシトイヘドモ、必ズ知惠クラクシテ碌々タル小人ナリ、虛夸ノ人ハ虛ニスグレドモ、時ノ才知ハタライテ一旦ノ用事ヲトグルニ利アリ、君子コレヲ用ユルトキハフタツトモニ所ヲ得、小人コレヲ用トキハ兩トモニ利ヲ失、コレ損益互ニアツテ一定ノ論ナシ、凡ソ君父ノ事ヲ存シテ厚ニ過タルハ道ニ近ニ似タリトイヘドモ、禮ヲ以テコレヲ正ストキハソノ道ヲ不レ得也、伯魚ガ母死シテ一周期過テモ猶愁哭ス、夫子以テ甚シト戒シメ玉ヘリ、子路姉ノ喪既ニノゾクベクシテ猶ノゾカザリケルヲバ、孔子禮ヲ以テ正シ玉ヘリ、是聖人ソノ中ヲ考ヘテ制ヲ立玉フナルヲ、己レガ情ニマカセテ厚ニ過ルコトハ道ニアラザレバ也、コヽヲ以テ論ゼバ、子貢唯廬二於家上一凡六年ト出タルモ亦夫子ノ志ニ不レ可レ合也、聖人ノ道ハ禮ニカナフヲ以テ本トス、ヒタスラ實ヲ立テソノ直ヲ立ンコト道ニ近シト難レ言也、且實ニアツキトキハ必ズ情偏塞シテ、他ニ通ズルコトヲ不レ得ノ失尤大ナリ、

○問云、古ノ道ヲ師トセンエハ、タガイアリト承ル、

又當時ニ從テ行ハヾコト〲ク凡俗ノ輩タルベシ、此間ノ工夫イカヾ可二心得一ニヤ、

答云、古ノ道ヲ師トシテ今ノ俗ヲ考、其日用事物ニ相當ノノリヲ以テ行フ、コレ學者ノ格物致知ノ道也、サレバ正シキ道明ナルワザハ、イツトテモ世ニ行ナワルベキコトナレドモ、人情必ズ一途シガタキヲ以テ、古今トモニ明ナル世ハマレニ、賢人朝ニ立事少ナシ、シカルヲ我ハ道ヲ尙ブ古ヲシタヘリトテ、事變ヲハカラズ、人情ニ不レ通シテ言ヲタカクシ、行ヲ正シクセバ必ズ災ノ來ル基也、災來リテモ道ノ立ナンコトハ、君子ノハヾカル處ニ非ズ、所謂殺レ身シテ仁ヲナスノイ、也、災ニ逢テ道モ不レ立コトハ君子コレヲトラズ、是生二乎今之世一、反二古之道一者、烖及二其身一也、夫子宋ニユイテハ章甫ノ冠ヲナシ、魯ニ居タマフトテハ縫腋ノ衣ヲ服シ玉フモ、時俗ニシタガフノ故ナルベシ、衞ノ甯武子ハ國無レ道トキハ愚ナリ、蘧伯玉ハ卷テコレヲ懷ニス、顏子ハ行藏時ニマカス、皆古ノ道ノ必トスルニ非ズ、サテ當時ノ俗ニ從フコトアリ不レ從事アリ、凡ソ夫子ノ魯ニツカヱ玉イ、國ニ往來シ玉フ、言行ヲ考フルニ唯平生ノ儀則ニカワルコトナク、在二宗廟朝廷一便々トシテ言唯謹、與二下大夫一言侃々如也、與二上大夫一言誾々如也、是朝廷ニ立テ言ノタカキ處ナク、行ノ稱スベキ處ナク、自ラソノ分限ヲ守テ禮ヲ厚クシ、儀ヲツヽシメルノミナリ、コノトキ若シ別ニ聖人ノ異樣アランニハ、マコトノ聖人ト云ベカラズ、詳ニ鄕黨ノ一篇ニコレヲ盡セリ、コレニ因テ云バ學者ノ日用只平生ノ俗ニマカセテ、別ニコトヤウナルベカラズ、ソノ間ソノ志實ニ道ニシタガハヾ、彼ノ流俗ノ邪義非道無禮淫亂、豈コレニ隨從スベケンヤ、コレマタコナタヨリ不レ防トモ我コレヲ不レ好ヲシラバ、彼ナンゾコレト、モタランコトヲ欲センヤ、シカレバスベテ世トトモニ推ウツリテ、ソノ間ニ禮ヲ立儀ヲ敎、時ト、モニ消息スルニアリト可レ知也、我ニ志ノ立事確爾タルコトナキユヘニ、和スレバ必ズ流ス、我ニ人ヲ責ルノ厚キ所アルガエヘニ、節スレバ必ズハゲシ、和而不レ流以レ禮節レ之トキハ、不レ行ト云所アルベカラザル也、

○問云、道ハ聖人ノ人ノ情ヲ考、其中ヲキワメテ其制ヲ定メ玉ヘバ、イツトテモ世ニ可レ行、人皆可レ服シテ世必ズ道アラズ、人必ズ行ニ不レ從ハイヅレノユヘゾ

ヤ、

答云、人コト〴〵ク惡ニナレ無道ヲ以テナラワシトスルガユヘニ、ナラフ處ヲ改タメ、舊染ノケガレヲサル事タヤスカラザルユヘト可レ知、少ノ事モナル、コトニナヅミテ自ラ是ヲナラワシト致ス事人情ノ常也、聖人專ラ學習ヲ專トシテ、幼孩ノ古ヨリ是ヲナラワスハ此ユヘナルベシ、異變ノコトモ目ニナレ耳ニナレテ後ハ異變ト不レ思、正道明敎モ常ニナキコトナレバ、却テ異樣ニ思フハ世ノナラワシナルヲ以テ、無道ノ世ニ有道ノコトハ皆コトヤウナルト人々不レ可レ存、コレ人ノ信服セザルユヘ也、ソノ上人ノ氣質人人ニヨツテ過不及アリ、時運又盛衰循環シ、地氣又剛柔ノ變アリ、故ニ必善ハ立、不善ハ不レ立ナリト計思フベカラザル也、天地ノ間四時ノ運行モ、春ニノドカナル天氣スクナクシテ、花ヲ見テクラスコトマレナリ、秋ニサヤケキ夜マレニシテ月ヲ友トスルコトスクナシ、是天地ノ氣トイヘドモ、ソノ中和ヲウルコトマレナルガユヘ也、ソノユヘハ氣候ノ順逆不レ定、コトニ國土地ノ氣偏塞多ヲ以テ風雲時ヲ不レ得ナリ、但中國ハ水土ノ中ナレバ花ノ時月ノ夕モ、マコトニ風物コトナル事多カルベシ、シカレバ又中華ハ四夷ヨリ治敎モヲコナハレ、文物モ盛ナラン事勿論ナリ、コ、ヲ以テ上ニ文德ノ行ナハレバ、下ノ化ニ應ゼンコトハ速ナルベキ也、

○問云、マコトノ道ナランニハ、人ノ疑フベキ事ナキニコトヤウニ思フハ、道ニタガフ處アルユヘモアランカ、

答云、不レ然、人情ノ惑サラニ辨ジ難コト以前ニ論ズルガ如シ、惑ヲ以テ事ヲ定ムルヲ以テ十ニ一ツモ是非分明ナラズ、衆口同音ニ非ヲ是トスルトキハ、タマタマ是ヲ是トシル輩モ、口ヲツグミ言ヲ默スベシ、サレバ衆口銷レ金ト云テ、コ、ニ黃金アルヲ大勢、皆ニセ金也ト云トキハ、一人二人タシカニ金ナリト云トモ、人更ニ不レ可レ信、故ニツイニ、此金ヲヤキカヘシテミセザレバ、人信ゼザルト云ヘリ、古ヨリ宗廟ヲ祭ニハ、必ズ犧牲ヲソナヘテ、牛ヲコロシケダモノヲサイテ祭ル、是ヲ血祭ト號、是イケルトキソノ父祖ヲ馳走イタシ、大饗ヲマフケシ如ク、死シ玉フ後モ、血食ノ用ヲ盛ニスルコト、尤其イワレアリ、コ、ニ梁ノ武帝專佛道ヲ信ジテ牲ヲサキ、生ルヲコロスコト冥道ニ

サ、ワリアリト號シテ、天監十六年、初メテ蔬菜ヲソナヘ麪類ヲ以テ祭ル、コ、ニヲイテ群臣大ニアヤシミ驚テ、宗廟ノ祭祀ニ血食ヲヤメ玉ハンコトハ、古今ニ其タメシナシト、議ヲ立論ヲ上ルヲ以テ、シカラバセメテ生ナル肉ヨリハ、ホシジ、ヲ可レ用ニナリテ用ニ脯脩代レ之、後ニハ皆蔬食ヲ用ユトナリ、今本朝ノ風儀久シク浮屠ニ入テ、宗廟ノ祭祀皆蔬食ヲ用ユルヲ以テ俗トス、然ルニ古ノ道不レ然トテ牛ヲサキ鳥ヲ殺シ、魚ヲ献ゼバ天下ノ人、皆大ニアヤシミテ、必ズ耶蘇ノ宗門ノ如ク思フベシ、是梁ノ武帝ノ蔬食ニテ祭レルヲ不レ可レ然トイヘルニコトナラズ、只見聞知覺スルコトノナル、トナレザルトノカハリナリ、我コソマコトノ道ナリト思ヘドモ、人ハ更ニ見聞セザルコトナレバ、コトヤウニ思アヤシムコトコトワリト可レ云也、シカレドモコレ又久シク相行テヤマザレバ、人コレニ目ナレ耳ナレ、且ソノ人ノ言行事實ノ知德シルシアルニ感心シテ、ツイニハ是ヲマコトノ道ト知ベシ、人衆者勝レ天、天定亦能破レ人ト云ヘルハ、コノ心ナリ、

○問云、人ノ信仰思通スル行跡アランヲ、マコトノ行德ト云ベキヤ、

答云、所レ問ノゴトキハ衆人皆ソシラバ惡トシ、衆人皆ホメバ善人トスルノイ、也、孔孟詳ニ是ヲ辨説シ玉ヘリ、人ノ至テ信仰感通スルニハ、必狐媚ノ心アツテ腥ガ、蟻ヲキタスタグイナリト可レ知、是郷原ヲ德ノ賊ト云ヘル也、聖人ノ道人ヲシキリニ感通セシムルコトナシ、其志至テ切ナレバ至テ感ズ、其信至テ厚ケレバソノ知コ、ニキワマル、別ニ妙不思議ヲ立ツルコト更ニナシ、故ニ多クハ聖人ヲミシラズシテ信仰スルモノナク、却テコレヲソシルノ類アマタアルモノ也、是衆人ハ皆愚ニシテ、感多キヲ以テカレヲ悦バシメ感ゼシメント求ムルトキハ、我ニ狐媚ノ心アラザレバ不レ叶ガユヘ也、夫子ハ古今傑出ノ大聖人タリトイヘドモ、四海ノ間コレヲ信ズル輩ワヅカニ三千人ニシテ、ソノ中ニモ七十子ソノ中ヲエラビテ十哲、猶ツマビラカニエラマバ顏子曾子ナリト云ヘリ、四海ノ內大聖人ヲ信仰感通スルモノワヅカニ一兩人ナリ、然ラバ孔子ハ聖人ニハアラザランヤ、今本朝ノ俗都鄙ノ男女、コト〴〵ク釋氏ヲ信ジテ萬分ノ一モ孔子ヲシラズ、コレ孔子ノ非ニシテ釋氏ハ是ナリト

センヤ、故ニ信ズルニモ信ズル人アリ、信ズル事アリ、信ズル時アリ、信ズル處アリ、信ズル物アリ、ソシルモ亦然リ、コノユヘニ天下信レ之ト云トモ多ト云ベカラズ一人信レ之トモ少ナシト不レ可レ云也、君子ハ不レ見レ是而無レ悶、人不レ知シテコレヲ不レ怨、孔子ノ世ニアリシニハ人皆以テ諂モノト云佞人ナリトソシリ、知ニ其不可一而爲レ之者歟トアザケリ、東家ノ丘トアナドラレ、因テコロサントニクマレ玉フコトヤマザレドモ、大聖徳ハカグルコト更ニナシ、是人々知ノクラクシテマコトノ道ハ却テ知リガタキガユヘナリト可レ知也、昔楚襄王問ニ於宋玉一曰、先生其有ニ遺行一與、何士民衆庶不レ譽之甚也、宋玉對曰、唯然有レ之、願大王寛ニ其罪一、使レ得レ畢ニ其辭一、客有下歌ニ於郢中一者上、其始曰ニ下里巴人一、國中屬而和者數千人、其爲ニ陽阿薤露一、國中屬而和者數百人、其爲ニ陽春白雪一、國中屬而和者數十人、引レ商刻レ羽雜以ニ流徵一、國中屬而和者不レ過ニ數十一而已、是其曲彌高其和彌寡ト、尤説得テ好シ、只毀譽信疑トモニ詳ニ、ソノ道ヲツクスニアルベキ也、

○問云、天下ノ人是ニクミスレバ天コレニクミスルも也、孟子ニ天與レ之人與レ之ト云ヘルニ同ジ、故人皆信用セバ天ノユルセル聖徳ト可レ謂、人クミセザレバソノ道不レ可レ行ナレバ、人ノシタガフゴトク道ノ立ヤウアルベキ事乎、

答云、聖人人ノクミスルコトヲ不レ欲ニハ非ズ、クミスルニ不レ以ニ其道一トキハコレヲ姦黨ト號ス、君子ハ不レ黨ナンゾ只黨シ比スルコトヲ以テ道トセンヤ、今云所ノ人皆クミシテ事業功名ノ立ヲ事トセバ、國ヲヒラキ世ヲ保ツ人君ハ皆明聖大德ノ人ト可レ謂ヤ、孟子ノ天與レ之トハ天ノ命コヽニアツマルヲ云ヘリ、人與レ之ト云ハ事治テ百姓安ズルノイヽ也、姦黨ヲ云ニ非ズ、又道ヲマゲテ人ノ氣ニ入テ利ヲ遑シクセンコトハ、聖人ノ所レ致ニ非ザル也、シカレバトテ聖人ノ道ニ權謀ナキニ非ズ、コレヲ用ニ道ヲ以テス、故ニ聖人ハ天命ヲシリテ人ヲ德ニ化セシムルノミ也、子貢曰、夫子之道至大、故天下莫ニ能容一、夫子蓋ニ少貶一焉、子曰、賜良農能稼不ニ必能穡一（種レ之爲レ稼、斂レ之爲レ穡、言良農能種レ之、未ニ必能斂獲レ之也哉、）良工能不レ能ニ巧爲一順（言良工能巧不レ能ニ每順ニ人意一也、）君子能修ニ其道一綱而紀レ之、不ニ必其能容一、今不レ修ニ其道一、而求ニ其容一、賜爾志不レ廣矣、思不レ遠矣、孟子モ大匠不下爲ニ拙工一改中廢繩

墨ヒ羿不下爲二拙射一變中其彀率上トイヘリ、

○問云、聖人ノ行人以不レ知コトハアリヌベシ、コレヲソシルマデノ事ハアルベカラザルニ、其ソシリアルハイカン、

答云、世人只一方一片ノ事ヲ見テコレヲクワシクセズ、故ニソノ謗(ソシリ)アルコト也、夫子大廟ニ入テハ毎レ事ニ問タマフヲ、不レ知レ禮トソシルガ如シ、昔孔子陳蔡ノ間ニタシナメラレ玉フテ七日不レ食、子貢自圍ヲ出、一石ノ米ヲ得テカヘリ、顏回仲由コレヲカシグリ、顏回取テ先クラヘリ、子貢カタワラヨリコレヲ見テ大ニ不レ悅、顏子變レ節トス、コヽヲ以テコノコトヲ孔子ニ告、孔子キヽ玉イテ顏回道ヲ行フコト久シ、豈ソレ然ランヤ、但シ汝ガミタル處、又實ナレバ必子細アリテノコトナルベシ、吾コレヲトワントノ玉フテ、顏子ヲ召シテ予昨夜夢ニ先祖ヲミタリコノタビ災ヲ補ケ玉ハントノコトナルベシ、今カシグ所ノ飯ヲ以テ先祭ルベシトアリケレバ、顏子答ヘケルハ、サキニ上ヨリ埃墨落テ飯中ヲケガセルガユヘニ、ソノマヽヲカンニハ不レ潔、ステナンニハ子貢ガ勞シテ求メツル米ナレバ、可レ惜シテ回コレヲクラヘリ、然レバコレヲ以テ祭ニソナヘンコトイカヾアラント答ケルユヘニ、孔子シカラバ祭ルベカラズトテ顏子モ立ニキ、ソノアトニテ二三子ニ此事ヲ告タマヘリトナリ、一事ノ末ヲ取テ云トキハ似タリトイヘドモ、詳ニ不レ盡トキハ其識ハカルベカラズ、孔門高弟ノ間ニモ此タガイアリ、況ヤ凡人ノ聖人ヲソシラン事ウタガフベカラザルナリ、

○問云、然ラバ世俗ノ毀譽トモニ心ニサシハサムベカラザルヤ、

答云、樂レ道二人之善一、惡レ稱二人之惡一ハ聖人ノ毀譽也、吾之於レ人也、誰毀誰譽、如有二所レ譽者一其有レ所レ試トノ玉ヘリ、是聖人毀譽アリ豈毀譽ヲ以テ無レ之トセンヤ、若擧レ世而譽レ之而不レ加レ勸、擧レ世而非レ之而不レ加レ沮シテ榮辱之境ヲ事トセザランハ、宋ノ榮子ガ得ル處、荒唐ノ言ニシテ君子ノトル處ニアラズ、故ニ聖人ハヨク毀譽ヲ事トス、只ソノ毀譽ヲ詳ニシテ可レ動ニハ動シ、不レ可レ動ニハ動ザル也、巫馬期ガ亦黨スヤトイヘルヲ苟有レ過人必知レ之トノ玉フ、或不レ知レ禮トソシルヲバ是禮也トノ玉ヘリ、サレバ知者賢者ノ實ヲ以テタヾスハ、皆世ノ諷諫ナレバ取テコレヲ守リ、

衆愚ノ謂々トシテ謝々屑々タルハ内ニ容ル、ニ不
レ足アリ、君子ト云ドモ時ニトツテ過ナクンバアラ
ズ、過アランニハナドカ蝕ノ來ラザラン、コレヲ以テ
改メバ日月ノ食ニヒトシカルベシ、シカラバ讃譽ト
モニ心ニサシハサマザラント云ハ、聖人ノ心ニアラ
ズト可レ知ナリ、

○問云、今日ノ日用ヲ詳ニツクサント致ストキハ、ツ
クロイコシラヘニナル事多シ、ツクロイコシラヘバ
皆實ヲ失シテ詐僞ヲ事トスルニ似レリ、以前ニ禮ハ
ツクロフ處アリト承知ストイヘドモ、倘心ニ不レ安處
アリ、

答云、凡天下ノ間ノ事物用法ヲヘザレバ天下ノ用タ
ラズ、用法ニハコシラフル事アリ、造作スルコトア
リ、然ルニ是ヲイツワリナリト云ハ、人倫ノ用事タル
ベカラズ、サレバ衣服ハ桑麻ノコシラヘ、織紡ノツク
ロイ、練染ノワザヲ經テ、猶裁縫シテソノ用タリ、飲
食家宅皆シカリ、鉄ハキリテ用ヲナシ、木ハケヅリテ
用タリ、唯鳥獸草木ノミ自ラ皮毛鱗介ヲ生ジ、枝葉草
實ヲナシテツクロフコトナシ、然レドモ鳥獸ハ飛走
シテ物ヲモトメ、草木ハ暖處ニ枝葉ヲ出スルトキハ、
ソノ造意ナキニ非ズ、コヽヲ以テ考フルニ、草木ヨリ
魚虫ハ造作云爲シ、魚虫ヨリ鳥獸ハ又構走鳴動ス、況
ヤ人ヲヤ、サレバ有ニ血氣一之屬者、莫レ知ニ於人一ヲ以
テ、萬物ヲ陶鑄シテ人間ノ用タラシム、是詐僞ナリト
センヤ、以前ニ所謂聖人立レ中制レ節ノ禮、ソノ過不及
ヲ正スノミ也、何ゾ是詐僞ナランヤ、只其マコトヲ考
ヘテソノ性ヲツクサシムルノ敎ナリ、サルガユヘニ
人又敎ヲ以テ修造イタサヾレバ、日用ヲ不レ盡シテ人
タルノ道ヲ失ニ至リヌベシ、人倫ノ大道修敎ニ因テ
立、コレヲコシラヘナリ、ツクロイナリト云テ廢スベ
ケンヤ、尤可レ愼レ思也、但其誠ヨリ不レ究コトハ、皆用
法トヲモフコトモ、細工ニナリテ實理ヲ不レ可レ得也、
コヽヲ以テ有道ニ就テコレヲ正スニアリトイヘリ、
譬ヘバ鯉鯛ゴトキ嘉肴、鶴白鳥ゴトキ美鳥アリトイ
ヘドモ、是ヲ造作料理スルコトヲ不レ得バクラフコト
ヲ不レ可レ得、シカレバトテ面々ノ心得細工次第ニコ
レヲトヽノヘバ、其用法タガイテ、嘉肴モ嘉肴ニアラ
ズ、美鳥モ美鳥ノ能ヲ失スベシ、コレ過不及ノ論ニ非
ズヤ、造作云動ヲキヲフヲ、コレコソ無事ナリ易簡ナ
リト思フモノハ、嘉肴美鳥ヲモクラワザル也、皆用

法ナリト思フテ、有道ニ就テ不レ正トキハ細工ノ料理ニシテ、ソノ實ヲ取失ニ至リヌベシ、其間細工ニモコレヲ料理イタサント思フ輩ハ、用法ヲツクシ〳〵テツイニハマコトノ料理ヲモ可レ得也、易簡ニシカザルトテ料理ヲ心ニカケザルハ、國政家法トモニ皆滯テソレヲ裁許スルコトヲ不レ得ガユヘニ、遂ニ山林ニ入リ世ヲノガル、ノ外ハアラズ、是其害ノ大ナルナリ、聖人甚戒シメ玉フ也、

○問云、人ノ言行一事ヨシトイヘドモ、全體道ニ不レ通バ取テ用ユルニタラザルヤ、

答云、一事ノヨキハ一事ノ善也、一言ノヨキハ一言ノ善ナリ、トモニコレヲ取テ用、コレ揚レ善也、但一事ヲ以テ全體ヲ是非センコトハ用捨アルベシ、サレドモ一事ニモ大小精粗アリ、ソノ事ソノ道ヲ不レ詳トキハ具ニ論ジガタシ、陣文子令尹子文ハ一事ヲ以テ清トシ忠トシ玉フ、子張ハコノ一事ヲ以テ仁ヲユルサンコトヲ疑ヘリ、管仲ハ仁ヲユルシ玉フテ、三歸反坫ノ一事ハ不レ知レ禮コトヲソシリ玉ヘリ、彼此比校シミルトキハ人ノ言行ハ一事ノ善タリトモ取テコレヲ用ユルニタレリ、コレヲ以テ道ニ達セル人ナリト云ベラカザルナリ、サレバ蒭蕘ノコトヲモ取テ察二邇言一トイヘル也、

○問云、道ハ日用ニ不レ出、シカラバ平生道ヲ行ハントナラバ、イカヾイタシテ可レ行乎、

答云、道ハ須臾モ不レ可レ離ナリ、平生道ヲ行ント云トキハ、平生ノ外ニ道アルニ似タリ、只日用平生是道ナリ、道ヲ行フノ人ハ日用平生各別ナリト不レ可レ思也、各別ナラバ是人ノ道ニアラズ、須臾モ不レ可レ離ノ道ニアラザル也、但シ如レ此云トキハ、マナバザルモノモ不レ習モノモ、皆道ナリ仁ナリト云ニ似タリ、シカルニハアラズ、日用ノ間何事モアラザルトキハ無爲無事ト號シテ、子細モナクテスナホナリ、若七情ノ發シテ或ハ過、或不レ及ノトキアリ、或ハ內外ノ事ニ付テ是ハイカヾアラント一節ノワザ出來ルトキ、コレヲソレゾレニタヾシワキマユル是乃道也、道ノ志ナキ輩ハ過不及ヲ心得ズ、內外ノ事ニ小ヨリ大ニナリヌベキ事、イカボトアリテモ不レ知、シレリトイヘドモ、ステ、サシヲクユヘニ、先ニテ行當ルコト出來ルナリ、譬ヘバ座敷ヲヨクコシラヘテ塵出レバハキステ、人來テ用事アラバ、サマ〳〵ノモノヲ取出シ用事ス

メバ本ノゴトク取ノケテ又本ノ座敷ニ成ガ如クナルベシ、俗學ハ座敷ヲ立テソノ中央ニ我コノム見事ナル器ヲ取ナラベ、コレヲツ子ニ弄デ樂ムニ同ジ、器ミゴトナリト云ヘドモ座敷ノ中央ニコレヲナラベ置トキハ、皆座敷ノ邪魔也、故ニ餘ノ器用ノトキニ可レ置所ナシ、人來テモコノ器ニセバメラレテ著座スル處アラズ、タマ〳〵入來ル人アリテモ我コノム處ノ器ヲホメズ、ソレニツイタル物語ヲイタサヾレバ亭主ノ氣色不レ宜、是本何モアラザル座敷ニ、一物ヲ弄デ取出ヲクユヘニ、却テ無事ヲ失却シ、道ヲ別ニ味テツイニソノ惑ヲトクコトモアタワザルノユヘニアラズヤ、故ニ唯入テハ孝出テハ弟アルノミ、行餘力アラバ可レ學レ文ト也、

○問云、不レ愧二于屋漏一トイヘルトキハ、內ニ少モカクス處アランハ、マコトノ行ニ不レ可レ有ナリヤ、

答云、不レ愧二于屋漏一ト云ハ我ニ邪義非禮ノ行アラザルガユヘニ、ソノ心ツ子ニ天ニ對越シテハヅルコトナキコト也、カクスコトノアラザルト云ニハ非ズ、天地鬼神ノ幽冥ナル我心ノヲクマデ無レ不レ通、故ニカクスニ所ナシト云ヘル心ナリ、コレヲ心得ソコナイテ、何事モカクスコトナキコソ道ノ明白ナル處也ト思フハ、尤モ相違アルコト也、以前ニ云ヘルゴトク天地ニ晝夜アリ、日月ニ明暗アリ、晝夜明暗アリト云ドモ、夜暗ハ必ズアシキ事アリト云ニハアラズ、カクスベキ事ハ隱シテアラワサヾルヲ禮ト云也、愚者ハカクスマジキコトヲカクシ、可レ密コトヲ顯ハス、故ニソノ志道ニタガフコト多シテ、カクストモカクレアラザルコトノミ也、唯其事ノ節ニ中ルヲ以テ君子ノ道ト可レ致也、サレバ家ノ內ニモ座敷客殿ハ掃除ヲモイタシ、潔コシラヘテ人來テアラワス處トス、中門ノ內物置厨所ナドイワンハ雜掌奴婢ノ往來ニ塵アクタモ多クデケレバ、コレハ戶ヲタテ障屏ヲカマヘテ、外人ノ不レ見ゴトク致スコレ禮也、カクス處アリトテソノ內ニ不義無道ノ仕形仕業アリト云ニハ非ズ、サレバ外人ニハコレヲ不レ顯トモ親類心友ニハ又コレヲ不レ藏、況ヤ父母兄弟ニハ閨門帳內ノ中ヲモカクス事ナシ、シカレバ外人ニハコレヲカクスヲ禮トシ、父母親戚ニハコレヲ不レ藏ヲ禮トス、此ワカチヲ不レ知ユヘニ、カクスコトナキモノナリト思フテハ外人ニモカクサズ、カクシテヨシト心得テハ親戚ニモカクスユヘ、用法コト〴〵ク相違也、タトヘバ師ニ對シテ

道ヲ尋テ、弟子ニ對シテ道ヲノブルニモ、心ノ思フコトヲコト〴〵ク問フベキ敎ユベキト云ニ非ズ、問コトアリ不レ問コトアリ、人ノ所ニテ尋ヌルコトアリ、ヒマヲ伺テヒソカニ問コトアリ、師ノ敎亦然リ、故ニ子貢・伯夷・叔齊ヲ問テ、夫子ノ衞君ヲ助ケ玉ハザランコトヲ知リ、宰予問二喪事一不二敢自隱一ハ非二正意一ト論ゼリ、子貢ガ顏子ヲ疑シトキハ、夫子僞ヲマフケテ顏子ニ問テソノ實ヲ知、退テ其私ヲ見玉フ、皆時ニ取テノ用法也、カクスコトナキヲ以テ必トスベカラズ、

○問云、父子兄弟親戚ノ間ニ、不レ可レ然コトノアランヲバ明ニコレヲイサメ、ソノ事承引ナカランニヲイテハ、或ハ義絶シ或ハソノ人ト不通イタスコト世ニ多シ、其用法イカヾ心得ベキヤ、

答云、父子兄弟ハ天倫ノ大ナルナリ、故ニコレト義絶センコトハ國家ノ大事ニアラズシテハ不レ可レ有レ之也、但子不肖ニシテ父母ノ義絶ヲ以テ戒メザランニハヤミ難キユヘアランニハ、義絶イタスコトモ亦子ノタメ慈愛ナレバクルシカラザル也、親戚ト云トキハ親類ナリ、緣者ナレバソノ親疎ニ品アルベキガユヘニ、一樣ニ云ベカラズ、コトニ父母ノアヤマチハ子コレヲイサムルノ法古典ニ詳ナリ、兄ノアヤマル處モ又父母ニツイテ其諫心得アルベシ、弟ノ非義アランニハ兄コレヲ戒シメテ、非道ニイラシメザルコト勿論也、但シ我ニ道ヲ立ルコトツヨク、彼ガ非ヲ改ムルコト甚トキハ、必ズ父子兄弟ノ間不レ宜、六親不和ノコト出來ルモノナレバ、能心ヲツクシテ可二格致一ス、必竟上タル人ハ寛厚ノ心ヲ以テシ、下タルモノハ敬切ノ心ヲ不レ失トキハ、親戚不和ニイタルベカラザルナリ、如レ此子弟ヲモチテハ我名ヲモクダシツベシ、我日比ノ義モタヽズ、世間ヘノイヽワケモナキナドト存ジテ、少ノコトニ義絶不通セシメ、子弟ヲ以テ他人ノ思ヲナス事世俗ニ多シ、是欲レ潔二其身一而亂二大倫一ト云ヘル也、云心ハ君臣父子夫婦兄弟朋友ハ皆人ノ大倫也、シカルニ臣トシテ君ヲ非ナリトシ、子トシテ父母ヲアナドリ、夫婦兄弟朋友トモニ我身ヲイサギヨクイタサントテ、彼ヲ非ニヲトシイレ、義絶絶交センコトハ、身ヲ立ンタメニ大倫ヲ亂ルト云ヘルナリ、是皆自ノ是ヲ立テ、人ヲ責ルノ志フカキヨリ事ヲコレリ、君子ノ甚不レ爲コト也、衣レ錦尙レ絅惡二其文之著一也、故君子之道闇然而日章、小人之道的然而日亡

トハ、此事ヲ戒シメシ言也、君子ノ道ハ淡而不レ厭、簡而文、溫而理ト云ヘル、是ハグシカラズキビシカラズ不レ煩シテ、自ラ人ヲ化スルノ云也、學者ノ心寛厚ナラズシテ、人ヲ責ルコトフカキハ大ナルアヤマリ也、唐太宗問二給侍中孔穎達一曰、論語以レ能問二不能一、以レ多問二於寡一、有若レ無、實若レ虛、何謂也、穎達具釋二其義一以對、且曰、非二獨匹夫如一レ是、帝王內蘊二神明一外當二玄默一若二位居レ尊、極二炫燿聰明一以レ才凌レ人、飾レ非拒レ諫、則下情不レ通、取レ亡之道也、

○問云、國家ノ大義ニヲイテハ、父ヲ父トセズ子ヲ子トセズ、兄弟ノ道不レ立事アリヤ、

答云、父天下國家之大儀ニ及ブベキ無道ヲ企テンニハ、子シイテ是ヲ諫、諫ツイニ不レ可レ行トキハ、或ハコレヲ上ニ訴、或父ノ無道ナリガタキワザヲカマヘテ、其不義興盛ナラシメズ、サテ吾身ノ收メヤウアルベシ、子又如レ此ノ不義アランニハ、自コレヲ害シテ其難ヲ施コサシメザルモ可也、況ヤ義絶センコトハ不レ及レ論也、兄弟ノ間ハ父子ノ道ヨリ又輕シ、故ニ兄無道ニシテ國家ノ大儀ヲソムカバ、弟コレヲ戒メンコト勿論也、弟ノ不義ハ子ヨリ一階寛裕ナルベシ、サレバ禹ハ鯀ノ變ニ處シテカヘリミズ、周公ハ管蔡ガ變ヲ處シ、石碏ハ子ノ石厚ガ變ヲ處ス、皆天倫ニ咈ルトイヘドモ、ソノ害ヲ國家ニ及バシメテ萬民ヲクルシメ、不義無道ヲ興盛セシメテ、家ヲ失イ恩ヲ廢センコトハ君子ノ非レ所レ致ガユヘ也、凡ソ門內之治恩掩レ義、門外之治義掩レ恩ト云コトアリ、門內ト云ハ一門親戚ノ事也、門外トハ他人ノ事也、云心ハ親シキ間ニハ義ヨリハ恩ヲ重ジテ事ヲ行ヒ、他人ノ間ニハ恩ヨリハ義ヲ先ニイタス事也、サレバ親戚ノマジハリハ義ヲ先ニイタサズ、何事モ親キ處ヲ本トイタシテ執行フトキハ情ニ咈ルコトナシ、他人ノ間ハ何ホド親キ交アリト云トモ、義ヲ先トシテ事ヲ可二執行一ト云ヘルコト也、コヽヲ以テイハヾ、父子兄弟ノ間ナニホド遺恨アリト云ドモ、私ノウラミヲ立ルトキハ、義ヲ以テ恩ヲ忘ルヽト云ベシ、シカレドモ國家ニ對シ萬民ニヲイテ不義無道ノコトアッテ、大義大變アランニハ又一片ニ處シ難也、昔周公旦管叔ヲツカワシテ、殷ノ奉行タラシム、管叔ヤガテ謀叛ヲ起シテ周ノ天下ヲクツガヘサントス、周公ツイニコレヲ討シテ管叔ヲコロセリ、周公ハ聖人也トイヘドモ、兄ノ無道ヲ見

知玉ハザルヤ、シカラバ知者トハイ、ガタシ、又知テワザトコレヲツカワシ、其身ヲ亡ニイタラシムルハ、不仁ト云ベシトイヘルコトヲ、孟子ニ尋タルコトアリ、是世上ノ利口ト云ヘル輩ノ申沙汰イタス事也、是門內ニ義ヲ先トシテ論ズルユヘノ不審ナリ、弟トシテ兄ヲサゲスミ、不レ起レ惡ヲヲコラントテ戒スツルコト、豈聖人ノ道ナランヤ、舜之弟象ガ無道ハ舜マコトニヨク知玉ヘドモ、猶愛レ之シテ欲二其富一國ノ主トイタシ玉フ、是皆聖人兄弟ノ交際其親愛ノ實ナリ、サレバ人トシテ五倫ノ交際內外親疎ノ差別共ニ心ヲ不レ付シテハ、是非邪正必ズタガイアルベキ也、

○問云、子弟ノ父兄ニツカフル事、專バラ敬ヲ以テスルコトアリ、又親ヲ第一トシテ禮義ヲ急ト不レ致コトモアリ、イヅレヲ是トスベキヤ、

答云、父母ニツカフルノ道敬ニ過ルトキハ親愛淺シ、不レ敬トキハ犬馬ノ養ノ戒アリ、故ニ一片ニ難レ言コト也、ソノ上其身ノ階級分限ニ因テ、次第アルベキコトナリ、但父子兄弟ノ間ノ禮義ト云ヘルハ、他人ニイタス禮義トハ事カワルベシ、シカレバ親シキ間ハ何事ヲモ修飾イタシ、コシラヘカザルコトヲ禮トセズ、唯親切ヲ深クイタスコト古ノ禮ナリ、コ、ヲ以テ云トキハ、父母ヲ養飲食ソノ味ノコノミヲ考ヘテ、能トトノヘ、コレニ切形、モリカタノカザリ、不レ入葅醢ヲ不レ華、コレ實ノ禮ナリ、但賀儀祝儀等ノコトアランニハ又樣カワルベシトイヘドモ、此心得ヲ以テ禮トスル也、是有二以レ素爲レ禮者一ト云ヘル心也、此心ヲ以テ推トキハ、衣裳器物ニ至ルマデ、禮節ノ用他人ニイタストハコトカワリヌベキ也、昔孝節先生ガ禰襆揖シテレ母ハ禮ニ過タルノ評前ニ云ヘルガ如シ、蓋父母ニツカエルノ道敬スベキ所アリ、敬スベキ時アリ、親ベキ所アリ、親シムベキ時アリ、各其時宜ヲ詳ニシテ其實ヲ以テコレヲ用ユルトキハ不レ違、コレヲマコトノ孝ト可レ謂也、其上父母ノ位我位ニヨッテ、ソノ制法サマ〲次第ノアルコトナレバ、一樣ニ心得テ、或ハ敬ニ過テ親ヲ失、或ハ親ニ過テ敬ヲ失、皆其實ヲキワメザルノユヘ也、親ト云ニモ敬スト云ニモ、其品アルコトナレバ、其格致ヲ以テ盡スベシ、敬ハ禮ナリト云ヘドモ、父母ヲ敬スルト主人ヲ敬スルトハ似テ不レ同、父母ヲ敬スルハ親愛ヲ先トシテ敬跪屈曲ヲ事トセズ、主人ヲ敬スルハ敬跪屈曲ヲ先トシテ親愛ヲ以テ必ト

セズ、故ニ君ニマミユル衣服ヲ以テス、父母ニ日夜マミユルコトハ、人々相繼ディタスベキ禮ニ非ズ、禮ハ古今相續シテ可ニ以行一ノ道ヲ立ニアリト可レ知也、
○問云、他人ノ交際親疎ノ差別ヲ立ハ、ヱコヒイキト云ノ類ニ可レ似カ、
答云、親疎ヲ立新舊ヲ論ズル是人倫交際ノ禮也、皆同コト、云ハンハ、四海皆兄弟ナリト云ヘル類ニシテ、聖門ノ敎ニ非ズ、サレバ貴賤ヲワカチ上下ヲ明ニシテ、ソノ人ソノ位ニ從テ其用法ヲ詳ニスル事、君子ノ道ナリ、
○問云、タトヘバ貴人高位ノ人ナリト云ドモ、是ニ屈シテ事ヲ致サンハ、本意ヲ失ニ似タリ、然レバトテ不レ屈ハ禮ヲ失ノソシリアルベキカ、
答云、主君又ハ貴人ニ對シテノ禮ハ、詳ニ曲禮少儀內則弟子職ノ諸篇ニ出ダレバ、是ヲ本トシテソレニ從テ用捨可レ有レ之也、凡ソ貴人高位ニ對シテハ屈曲シテ禮ヲ盡ス事定レル道也、形屈スルトキハ心氣モ亦屈ス、故ニ言論辭氣トモニ屈スルコト是禮ナリ、夫子魯ニツカヱ玉フテ、君臣ノ威儀鄕黨ノ一篇以テ考ユベキ也、サレバ顏色ハ勃如タリ、ソノ足ハ躩如タリ、ソノ身ハ鞠躬如タリ、升レ堂トキハ屏レ氣似ニ不レ息者一ト出タリ、是皆君臣上下ノ禮ニシテ大聖ノ所ニ執行一也、俗ノ人形ハ禮ニ屈シ心ハコレニ不レ屈ト云コトアリ、甚アヤマレリ、形屈スルトキハ心屈ス、形ノ外ニ心ナシ、心ノ外ニ無レ形、只惑フコトナキガ故ニ屈スト云ドモ不レ違也、但君コレニ道ヲ尋テ師トシ、事ヲ問テコレヲ臣友トアランニハ、其ユルサレヲウケテ、形體ヲモ不レ屈コト、古ヘヨリノ禮也、聖人ノ言行經ニ詳ナリト云ヘドモ、學者是ヲ不レ盡ガユヘニ、其道ヲ不レ得也、サレバ君ニツカヱテ其禮ヲ盡シ玉フヲバ諂ナリト、時ノ人コレヲソシレルコト論語ニ出タリ、
○問云、今日ノ日用小事ヲバサシ置、其大義ヲカクマジキ心得ヲ、本トイタスベキコトニヤ、
答云、事物ノ大小ト云コトハ、我ニ格致ノ功スクナキトキハ、以レ小爲レ大、以レ大爲レ小テ大小輕重ノ思入タガフモノ也、初學ノ輩ハ先大段ヲ以テ改メ、小節ヲユルスコトアリトイヘドモ小積テ大タリ、故ニ小ヲツクサヾレバ大ハ通ゼザルモノ也、[illegible]コトニ大事ニ及ビテ其道ヲカクトキハ、人コレヲユルサヾルヲ以テ、道ヲ不レ知輩モ大ニタガフコトハ不レ致モノ也、小事ハ

人モ心ヲ不レ付、我モカヘリミザルガ故ニ、小事ニ必ズアヤマリ積ルモノ也、聖人ノ教ハ專日用ノ事トス、日用ハ小事ナリ、近キ事ナリ、ヒキヽコト也、下學也、コレヲツクスヲ聖門ノ教ト云ヘル也、中庸ニ天下國家可レ均也、爵祿可レ辭也、白刃可レ蹈也、中庸不レ可レ能也ト出タリ、中庸ヲ能スルト云ハ、日用事物ノ間、中庸ニ相カナフノ心也、天下國家ヲ均シ、爵祿ヲ辭シ、白刃ヲフムハ、ソノ事甚大ナリトイヘドモ、世ニコレヲイタス輩スクナカラズ、シテ、日用事物ノ、リヲ心得、コレニ相合如ク仕ル人ハ古今ニ多カラズ、コヽヲ以テ云バ君ニツカヘテ忠ヲナシ、父母ニツカヘテ孝ヲツクシナンハ、人倫ノ大義ナリトイヘドモ、是又世々ニトボシカラズ、事物ニ中庸ヲヨクセンコトハ、ツイニ難レ叶コト、云ベキナリ、サレバ學者ハ小事タリト云ドモ、コレヲコマカニ格致シテ、ソノノリニ合ガゴトク可ニ心得一コト第一ノツトメナリ、苟子不苟篇ニ君子行不レ貴ニ苟難一、唯其當レ之爲レ貴ト出タリ、コレモ難義ナランコトヲ行フコトヲヨシトスルニ非ズ、禮義ニアタルヲ貴ト云ノ言也、先儒云、慷慨殺レ身者易、從容就レ義者難、又云、死ニ於禍難一是易事、死ニ於不レ可レ奪之節一是難事トモ云ヘリ、コヽヲ以テ云トキハ、一郡一邑ノ奉行タルモノ盜賊等ノ急難アラントキ、不レ能レ死レ難、ノガレサツテ其事ヲスツルモノハ昔ヨリマレナリ、ユヘニソノ難ニハ死スルコト易クシテ義ニ就テ事ヲナシ、節ヲ正シテ謀ルコトハナリニク、マレ也、然レドモ節ニ死ニ、義ニ死スルコトモ、一旦ノ死ナル故ニナリニクカラズ、只日用事物ノ事々ヲ道ヲ以テ行コトハナリガタキコト也、コノユヘニ夫子ノ子路冉求ヲ弑ニ父與レ君一亦不レ從トノ玉ヘルモ、大事ヲバワカツベキトノ言ナルニヤ、

○問云、小事ヲツマビラカニ盡サントイタサバ、鎖細ニシテセハ〳〵シカルベシ、君子ノ道ハ簡ニシテ不レ煩ト云トキハ、其心得イカヾ可レ仕ヤ、

答云、コレヲ盡スニ其道ヲ以テ不レ爲ガユヘニ、煩勞シテ無レ益ナリ、道ヲ以テ格致スルトキハ至テ微小ナル事マデ、其ワケ明白ニシテ更ニ疑滯スベカラズ、疑滯スルコトナキトキハ何ノ煩勞アランヤ、人ノ非ヲトガムル事ツマビラカニ、奴婢僕從マデ聖賢ニ至ラシメンコトヲ事トシテ、毛ヲ吹テ疵ヲ求メ、スミカラスミマデ、一筋ノ塵ナキ如クセンナド思フ志ヨリ事

物セハ〳〵シクシテ、其道ヲ不レ得コトアリ、是格物ノ教ニクラクシテワカチヲ不レ知ガユヘ也、サレバ學者易簡ヲコト、スルトイヘバ、何事ニモカマワズ、悠寛トシテ事ニヲコタルニ至リ、事物ヲツマビラカニ致トイヘバ、セハ〳〵シク勞シテ下民却テクルシミ、ソノ身モ安ンズルコトナキニ至ル、トモニ聖門ノ教ヲ不二心得一ノ失也、聖人ノ易簡ハ事物ヲ盡シテトドコホルコトナキガユヘニ、悠然トシテイタヅガワシカラズ、事物ヲ盡ス時ハ能人情事變ニ通ズルガユヘニ、本末前後明白也、サレバ國政家法トモニ其禮正シク、キワマリテ紛擾スルコトナシ、コノユヘニ小事ヲツマビラカニ盡サントイタシテ、鎖細ノ事アラバ是道ヲ不レ得ト知テ、其道ヲ得コトヲ可レ省也、

○問云、財寶ノ事心ニヲモイハカランハアサマシキワザ也、唯アルニマカセテイタサンコト、君子ノ道タルベシヤ、

答云、君子ハヨク財寶ヲ思イハカル、故ニ或ハコレヲ與ヘテ不レ吝、或ハ是ヲ不レ與、トモニ道ノ明ナルニマカセテ財寶ニ不レ惑、古ノ人ハ財寶ヲ海ニ捨タルモアリ、コレヲ手ニモトラズ口ニモ不レ言アリ、陳文子ハ馬十乘棄テ違レ之、令尹子文ハ三爲二令尹一無二喜色一、三已レ之無二慍色一、イヅレモ皆或清淨ノ行ヲハゲマシ、其操ヲ立テケレドモ、是財寶ヲ心ニヲモイハカラザルヲヨシト云ニハ非ズ、サレバ夫子爲二委吏一テ料量平ニ、子華使レ齊シテハ爲二其母一與レ釜、又與レ庾タマフ、原思ニ粟九百ヲ與ヘ玉ヘル、皆是聖人ノ財寶ヲ用ユル道ナリ、更ニ財寶ヲスツルコトナク、又コレヲ麁略セシムルコトアラザルユヘニ、其用法ヲ詳ニシ、可レ與ヲアタヘ、可レ受ヲ受ルニアリ、若其與受ノ道ノリニタガフトキハ、惠而費多ク與傷レ惠ト云ニ至ルベシ、夫子舊館人ノタメニソヘムマヲ以テ弔シ、顏子ガ葬ニ槨ツクランコトヲ不レ與、聖人ノ行可二以考一レ之ナリ、サレバ人ノシキリニ財寶ヲ好デ厭コトナク、金ヲ北斗マデサ、ヘンコトヲ思フテ、府庫ニ富サンコト、尤其知クラキガ所レ致ニシテ、惑ヲ不レ辨也、又金銀財寶ヲ泥沙ノ如クナラシメテ、金ヲ山ニステ玉ヲ海ニナグルハ、其惑吝嗇ノ輩ニハコトヤウナリトイヘドモ、同是知ノ不レ明ガイタス所ト可レ知也、

○問云、富貴ハ天命ノ致ス處ナリト云ヘルトキハ、コレヲ求ムルハ皆天命ニタガフト云ベシ、然ルニ國有

レ道ニ貧シテ且賤ハ恥ナリト云トキハ、又命ヲマタズシテ是ヲ求ムルニ似レリ、此問ノ心得會得イタシ難シ、

答云、聖人ノ世間ニヲケル、求ムルニ道ヲ以テシテ不レ得トキハヤム、是乃知二天命一也、求ザレドモ富貴自來リ、求ニ以レ道トイヘドモ不レ得二其位一バ、是トモニ天命ト云ベシ、國ニ有レ道トキハ君子賢人ノ可レ出ノ時ナリ、此時ニ當テ世ニ用ラレズシテ空シク山林ニ蟄居センコトハ、君子ノ志ニアラズ、故ニ位ニアタラズ富コトヲ不レ得バ、ソノ時ニ當テ時ニ不レ合ガユヘ、可レ恥ノ道トスル也、是乃天命ヲシルノユヘナリ、サレバ今五穀ヲ種ルニ其ワザヲツクシ、其道ヲ得トイヘドモ水旱時ヲ失テ、災害是ヲソコナフトキハ天命ト云ベシ、種耕道ヲ不レ得耨(クサギ)ルコトナク省コトアラズシテ、ソノ功ヲ待テ天命ヲ以テ論ゼンコトハ、君子ノ所謂天命ニ非ナリ、世ノ人天命ヲ不レ知シテ事ノ究マレルヲ以テ天命トス、シカレバ天ノ道ヲ不レ盡シテ天命ヲ談ズ、豈是眞ノ天命ナランヤ、

○問云、聖人ニ貯二貨財一コトハアルベカラザルコト也、

答云、是世俗ノマナブ處ナリ、貯ルモ散ルモ共ニ天地ノ道ニシテ、人物コレニノツトルノコトワリ也、サレバ秋冬ハ收藏シテ春夏ニコレヲ生長ス、陰氣ハ閉テカクレ、陽氣ハ開テ分散ス、是皆聚散分合ノ道也、故ニ國ニハ國ノ貯ヲマフケ、天下ニハ天下ノ貯ヲマフケテ、以テ不虞ノ備トス、シカラザレバ水旱災難ニ及ンデ、コレヲ救ヒコレヲ補ノ道アラザル也、コレ國無二九年之蓄一曰二不足一、無二六年之蓄一曰レ急、無二三年之蓄一曰二國非一其國一也、三年耕必有二一年之食一、九年耕必有二三年之食一、以二三十年之通一、雖レ有二凶旱水溢一、民無二菜色一、然後天子食日擧以レ樂ト云々、夫子失二魯司寇一、將レ之荊蓋先レ之以二子貢一、又申レ之以二冉有一、コレ不レ欲二速貧一也ト、有子コレヲイヘリ、只君子賢德ノ人ハ貯ルニモ其ノリヲ以テシテ、以テ人ヲ救、以テ人ヲ安ズルヲ本トス、小人愚者ハ貯ルニ其ノリヲ不レ知ガユヘニ、財貨ヲ好デ難レ得ノ寶ヲアツメ、コレヲ以テ樂トス、又財ヲ散ズルコトヲ云ヘバ、其ノリヲ不レ知ガユヘニ、家ヲヤブリ身ヲ苦、人ヲタヲシテ借レ貨取レ彼テ以テ人ニ與ユ、トモニ過不及ノ間ニシテ禮ニ不レ中也、サレバ聖人ハ知惠明ニシテ物ニ不レ惑、イカ

ンゾ財寳ニ惑ハンヤ、シカレバトテ財寳ヲイヤシンズルニ不レ在、只ソノ道ニマカセ其禮ニシタガフノミ也、世俗久異端ノ說ニ習テ、財寳ヲイヤシンズル處ヨリ、貯ルト云コトアラザラント思ニナレル也、老子貴ニ難レ得之寳一以テマドハス、我聖人ノ敎ハ否、不レ惑ニ難レ得之寳一ノミニシテ、難レ得ノ寳ヲ不レ貴ニハアラザル也、凡ソ器寳ハ皆難レ得不レ貴トキハ非レ寳、惑ガユヘニ寳ヲ失、不レ惑トキハ寳ツ子ニ寳タリト可レ知也、

○問云、器物諸事多ハ古ヨリ文飾多シテ巧ナルコトアリ、コレ皆道ノ衰テ智ノ過ルユヘナルベシヤ、

答云、今ノ器物ハ古ヨリ却テ文飾スクナク踈草ナル也、コレハ禮ノ不レ行ユヘト可レ知、禮行ル、トキハ其位祿ニ因テ器械用具ノ制、文飾不レ備アラズ、故ニ金木ノ器、其鏤飾甚細密ニシテ、後世ノ及ブ處ニアラザル也、所々ニ相ノコレル器制ヲ以テ可レ知レ之也、次ニ物ノ巧ナルコトハ天下久シク承平ナルガユヘニ、事物ノ制ハジメハ形計アリトイヘドモ、今是ヲ備ワラシム、コレヲ道ノ衰タルト云ハ、異端ノ意見ニシテ質朴ヲ專トシ、自然ヲ貴ブノ故ニコノ沙汰アリ、全クコレアヤマリ也、タトヘバ古ハ穴居野處シ、犬羊ノ皮ヲ衣トシ、土ヲクボメテナベトシ、手ヲクボメテ物ヲクラフノ器トス、コレヲ次第々々ニ制作シテ、家宅衣服食物用器ニ至ルマデ、人ノ巧ミナラザルコトナシ、是皆タクミナリト云テ棄ベシヤ、コトニ異國ノ制法ハ本朝ニ用イガタキコト多ク、異朝ニテモ古トカワリテ今コレヲ用テ利トスルコト多シ、タトヘバ車戰乘車ノ制、古ハ良法ニシテ今コレヲ用ユルニ不レ足、井田ノ制ハ三代ノ良法タリト云ドモ、今コレヲ用ントスルニヨシナシ、サレバ漢・王莽井田ヲ制シテツイニ不レ行、唐房琯車戰ヲ用テ大ニ敗、共ニ萬代ノアザケリヲノコシヌ、是皆古今ノ時不レ同ガユヘ也、六朝以前梅花不レ賞、唐以前牡丹ヲ不レ翫ノ類世以テ多シ、是其事物時ニアラズトイヘドモ、今世ニ用ユルコト甚利アッテ、道ニ近カラン事亦多シ、本朝ニモ其類一一不レ遑ニ枚擧一、近頃マデ京中ノ公家各車ニ乘テ徘徊ス、今ハ便輿ヲ用テ事ズクナニ用タレリ、便輿ノコト王荆公程伊川トモニ以レ人代レ畜トイヘリ、是ソノ時ニハメヅラシク、ソノワザニツクモノクルシムコト多ヲ以テ此論アリ、ソノ施行ヤ、久シキヲ以テ、今コレヲ俗トス、故ニ以レ人代レ畜ノ論アルベカラズ、但不レ可レ乘ノ徒コレニノランコトハ不レ可レ用、凡ソ衣服飲食家具ノ制マデ古來アラザリシ事、近代コ

レヲ巧ミ用テ甚便利ノ多ク、道ニ近キ事一々不レ遑レ枚擧、其制作タクミナラズト云コトナシ、タトヘバ古來ハ皆火炬(タイマツ)ヲ用ト云テ、家々ニモタイマツヲ立テ行レ事、今ハ油ヲ用蠟ヲ取テ燭トス、油ヲシボリテ火ヲトボシ、蠟ヲ取テ燭トスルコト無レ不レ巧、古來ハ人自水ヲ汲ム、今ハ桔槔(ハネツルベ)ヲ以テ汲ニ利アラシム、古ハ弓弩ノ外ニ武器ノ用ナシ、近代ハ鳥銃火器ヲ用ユ、其カラクリ機巧ノ極ヲ得タリ、是等ノ器物サラニ可レ棄ユヘンニ非ズ、古ハ廟ヲ立テバ必ズ牲ヲコロシテ其血ヲチヌル、宗廟ノ器ニソノ名アルモノハ、皆牲ノ血ヲ用テコレヲヌレリト云、ソノコトワリアルコトナリトイヘドモ、今本朝ニヲイテハ是ヲ用ユルニ不レ宜、シカレバ異國ノ制法亦本朝ニ取用ユルコトカタク、古來實ニ過ルコト多クシテ、用ソノ利アラザルコト不レ少、コヽヲ以テ云トキハ下愚末儒時宜ノ禮タルコトヲ不レ知、偏ニ古法ニ泥マンコトハ必ズ人ヲアヤマルノ道タルベシ、又世俗ノ佞姦ノモノ時宜ニ不レ合ト云テ、古ヲ不レ師トキハ、必小人ノ利ニ喩(サトル)ニ至ル、トモニ君子ノ道ヲ失ベシ、

○問云、イヅレノ教ニモ心ヲ修メ心ヲ正スル事ヲ專トス、心正シキトキハ知惠明ナルトイヘリ、然ラバ先ヅ心ヲ正シクヲサムルヲ以テ、初トセン事ニヤ、

答云、正レ心ト云ハ大學ノ教也、率レ性ト云ハ中庸ノ教ナリ、其放心ヲ求メテ心ヲ存スルハ、孟子ノイヘル言也、心正シキ時ハ身修マリ、知明ナラン事勿論ナリ、凡ソ心性ハ形象ハカリ難シ、故ニ目ニミルベカラズ、耳ニキクベカラズ、手ニトリ口ニ言ベカラズシテ、又目ニ見耳ニ聽口ニ云、手足動靜ニ發見スル事、心ニアラズト云事ナシ、シカレバ心ノ全體日用ヲ不レ出ガユヘニ、心ヲ正センコトヲ欲スルトキハ、先日用ノ事物ヲツクシテ、其知ヲ致(キハ)ムルニアリ、知キワマレバソノ情意自誠ニイタリテ、心性コヽニヲイテ正、是知至而后意誠、意誠而后心正ト云ヘルナルベシ、コノユヘニ聖人ノ教、唯日用ヲ詳ニスルニアリ、學而時習亦不レ說乎トイヘルハコノ心也、學習ハ知ヲイタスノ道ニシテ學習スルトキハ、ソノ心正シクナリテ、自悅喜ノ所出來ス、コレ道ヲ修ムルヲ教ト云ニモ相合ヘリ、不レ學不レ修シテ上達センコトヲ欲シ、心ヲ直ニ正シクセント云ハ、アユマズシテ至ランコトヲ子ガイ、不レ炊シテ飯ヲマツニ同ジ、一生コレヲ求ムト云ドモ只

空言ニシテ實所アルベカラザル也、若日用事物ヲ措テ只心性ヲ云、シキリニ是ヲ求メ工夫スレバ、內ニ一ツノ意見出來スルモノ也、是ヲトメテ性心ノ本體也、聖人ノ仁未發ノ中、無息ノ至誠ト思テコレヨリ出ル所ヲ良知ナリ、良能ナリト究ルトキハ、工夫次第ニ高尙シテ、知惠日ニクラシ、スベテ我心ノ一向ニムカフ處ノゴトクニ、聖人ノ書ヲモ見ナシトリナシテ、是ヲ以テ四民ヲ治メ事物ヲ辨ジテモ大槩替ラザルモノナレバ、是ニテ事ナルト存ジ、我不二心得一事物ノ滯ルコトアレバ、世事ハ又別ノコトナリト、ステ、世事ニナラヘルモノニ取アツカワシメ、或ハ我性心ノ工夫未熟ユヘト身ヲカヘリミル、皆是日用ト二ツニナリテ聖人ノ大學ノ敎ヲ不レ知ガユヘ也、次ニ心正トキハ、知明ナルト云ニ生知安行ノ人ヲ云コトアリ、人ノ氣質上品上知ノ人ハ、天性發明ニシテ事物ニワタラザレトモ、乃通ズルノ人アルベシ、コレヲ生知ト云、如レ此輩ハ末ノ世ニ未二會有一也、周公孔子ノ大聖モ不レ學シテ至ルト云ヘルコトヲ不レ論、況ヤ其他ヲヤ、況ヤ末世ヲヤ、況ヤ凡愚ノ吾儕ハ沙汰イタスニ不レ足事ナレバ、心ヲ正シクセントナラバ、先日用事物ヲ詳ニシテ、其知ヲ明ニキワムルヲ敎トスベキ也、

○問云、心ハ體ニシテ知ハ用ナルベシ、體ヨリ用ヘウツルベキ事ト、古人ノ敎ニモミヘ侍レバ、體ヲ第一ト心付クルコト可レ爲レ本乎、ソノ上事物ハキワマリナシ、一生ヲカサヌトモ終ニ不レ可レ盡乎、

答云、ヒキヽヨリ高ニ至リ、近ヨリ遠キニイタリ、下學シテ上達ス、是學ノ階級ナリ、上達シテ下學スト云コトハアルベキ道ニ非ナリ、右ニ云生知上知ノ人ト云ヘドモ、知ノキワマル處、凡愚ノモノヨリ速ナルガユヘニ、學ノ成就ハヤキ也、タトヘバ生レ出テ年月ヲ經テ而後ニ成人ノ道アリ、元日ヨリメグリ〳〵テ、一年ノ成功ヲナスニコトナラズ、孟子ニ心ノ官ハ思ナリトイヘリ、知ヲ措テ心性ヲ云ハ心ヲステ、心ヲ求ムルナリ、體ハ用ヨリ立ツ、體用元來二ツアラザルナリ、サレバ能思フトキハ、心ソノ職ヲ得、不レ思トキハ心ソノ職ヲ不レ得也、次ニ事物ハキワマリナシ、一生ヲカサヌトモ終ニ不レ可レ盡トノ事全ク不レ然、心性ノ智識ハ萬物ニワタッテ更ニ究リナク盡クル事アラズ、事物ハ天下古今ノ間ヲコナワレシ事アリ、物アリトテモカギリアル事ナリ、惣ジテ形象ナキモノハツ

ノ用無レ盡、形象アルモノハ千變萬化ストモ限リアルモノ也、故ニ大唐ノ文書ニ上古ヨリ今日マデノ事物コトゴトク盡テソノ書又多カラズ、心知ノ作用ハタトヘバハマノマサゴヲツクシ、蒼海ヲ筆ニシタテタリトモ、イカデカ可レ盡ヤ、次ニ學者日用ノツトメ一生ノ間、是ゾツトメザルト云事ハアラザル也、サレバ孔子モ學デ不レ厭トノ玉ヘリ、曾子ハ任重シテ道遠シトイヘリ、コヽヲ以テ學ベバ日々是學也、如レ此心ヲ付テ思慮セバ、キワマリナキ所ニキワマリ出來ベキ也、

○問云、心ト云性ト云、其大概ヲ承知センコトヲ欲ス、

答云、形氣アルモノヲ萬物ト云ヘリ、萬物ハ陰陽コモゴモニマジハリ、五行相ヨッテ其形體ヲナスユヘニ、形シテ下ナルモノナリ、サレバ人モ萬物ノソノ一ツナレバ、地ニ屬シテ重ク濁レルノコトワリアリ、形氣ノ精分ヲ性心ト號ス、氣ノ精ハ性、形ノ精ハ心ナリ、サレバトテ本二ツニワカルモノニアラズ、推シテ云トキハ如レ此也、形氣ハ地ニ屬シテ重ク濁ルトイヘドモ、其精分ハニゴルトモ清トモ名ヲ付ベキニ非ズ、ソノ形氣ノ過不及ニ從テソノ性心ノ用アリ、故ニ形氣多ク濁ルトキハ、ソノ感動知識モ亦ソレニ應ジ、形氣多ク清トキハ、感動知識モ亦然リ、人倫バカリニアラズ、鳥獸魚虫草木トモニ皆如レ此、サレバソノ生質ノマヽニイタストキハ、形氣ニヒカレテ其用ヲナシテ、或過或不レ及ガユヘニ、マナブト云習ト云ノ敎ヲ立テ、ソノ形氣ノ質ヲ自然ニ變化セシムルヲ以テ、聖人ノノリト云ヘルナリ、氣質ノ至清至濁ニ因テ或ハ習ハズトイヘドモ善ニ不レ移、或ハ不レ學トイヘドモヨク通ズルアリ、コレヲ上知下愚ト號ス、シカレドモ我身ノ上知下愚吾ナガラ知ベキニ非ズ、故ニ常習ノ道ヲ盡ニアリ、

○問云、人ノ性心ハ本來明白ニシテ只善而已ナリ、シカレドモ氣質ニヨッテ此濁リ出來ル、コレヲシリゾケテ本ノ明善ニカヘルヲ聖人ノ敎トスト、先儒ノ說ニ出タリ、今承知スル處ニ不レ同、

答云、凡ソ善惡ト云明暗ト云ハ、皆ソノ物ト事トニ付テイヘル名義也、事物イマダアラワレザルトキハ、明暗善惡云ベキ處ナシ、故ニ人ノ性心ハ只感動知識ヲ以テ名ヅクル也、天下ノ人々形氣アルノ類、感動知識ナキモノアラズ、是ヲ性ハ相近シト云ヘル

ナルベシ、シカルニ性心本來明白ナリ、只善ノミナリト云ハ、中庸ニ天命之謂レ性トアリ、孟子ニ性善ト出タルコトヲ心得チガエ、又ハ異端ノ說ニ惑ヘルト可レ知也、天命之謂レ性トハ、人ノ生死ハ天ノ命ニシテ、二氣ノ五行アツマリテ、此形氣出來性心相具スル事、全ク天ノ命ナリト云ヘル心也、コヽニ善惡ノサタアルベカラズ、又孟子ノ性善ト云ヘルハ堯舜ノ性ハ善ナリト云ヘル言也、右云所ノ形氣上知ノ人ノ性心ハ、能事物ニ通ズルト云コレ也、コトサラ孟子ノイヘル言皆人ハ萬物ノ長ニシテ、二氣五行ノ秀精ヲウケ出タレバ、ソノ性心モ萬物ニスグレタル所アル、善ヲ好ミ惡ヲニクム所アルナレバ、學ブトキハ聖賢ニ不レ至ト云コトアラザルト云ヘル教誨ナリ、サレバ孔子ノ性相近トノ玉フハアヤマリナルベシヤ、今詳ニ性心ヲツクストキハ、蓋二氣五行相アツマリテ、陽ハ氣トナリ陰ハ形トナリ、陰陽乃五行ニアラワレ、相交テ一體ノ人倫ト生ズ、コノ形氣ノ精性ト云、心ト云、是人倫ノ建立也、サテ人ニ耳目鼻口身體アリ、故ニ視聽言動ノワザアリ、聲色香味ノ用ヲ爲、喜怒哀樂愛惡欲ノ情アラワレ、惻隱羞惡辭讓是非信實ノ端ヲナセリ、是乃陰陽五行內ニソナワリテ、ソノ用外ニアラワルルニアラズヤ、是ヲスベテ云トキハ性心ノ知識ト云、是天下ノ萬民同ジク然ル所ナリ、コヽニ善惡モ明暗モアラザル也、只各ソノ氣稟ノマヽ感應ス、然ルニ人ハ万物ニ長タルノ精アルガ故ニ、思慮尤モ深クシテ、情ノハタラクマヽニ應ズル事ヲイタサズ、教ヲナシテ其情ヲ節シテコノ性心ヲ全シテ身體ヲ修ム、サレバ思フ事ヲシエルコト鳥獸ニモアラズト云コトナシ、鳥獸ソノ氣草木ヨリ偏塞スクナケレバ思慮亦アリ、故ニ性ハ形氣ノ精ニシテソノ應用思慮コト〴〵ク心性ノ用所也、コヽヲ以テ一身皆性心ノ作用ニシテ、作用ヲトヾメテ又性心トスベカラザル也、次ニ先儒氣質ノ性天命ノ性ヲ立テ論ズル事甚タガヘリ、性ハ形氣ノ間ニナレリ、氣質ノ外ニ性アルト云ベカラズ、氣質ナキトキハ性ヲ云ベキ處ナシ、人ノ外ニ道ナキガ如シ、性ヲ善ナリ明白ナリトシイテ說コトヲ欲スルガ故ニ、此說ヲ立テ孔子ノ性相近トノ玉フハ氣質ノ性ヲ云、孟子ノ性善ハ天命ノ性ナリト云ワクル、皆大ニ學者ヲ惑ワシムルノ義也、

○問云、我性心ニ善トキワマレル處ナク、明白ナル處

アラサレバ、全ク是非善惡ハ心中ニ定メ難シ、心中ニ定ムル處ナキトキハ、彌マドフベキニ似タリ、

答云、我心ヲ以テ是非ヲ定ムルヲ私ト云己ト云、意見臆説ト云ナリ、世々ノ學者自ラ一家ノ敎ヲ立、異端ニヲチ入ルコト是ヨリ出ル事ナリ、人ノ性心イヅレカ善ヲコノミ惡ヲニクマザラン、善惡ヲ好惡イタスノ知ハ人々皆一ツニシテコトナラズ、コノ一同セル知コレ善ニ入リ道ヲ修ムルノ下地ナリ、然レドモマナバズナラハザレバ、善惡ノ實キワマラザルユヘニ、似タル事ヲトラヘテ、是ト思ヒ非トヲモヒテ其至善ニ不留ナリ、至善ニ不止トキハ知慮イカンゾ其道ヲ可得ヤ、サレバ知止テ其道定リ、安ンジ靜ニシテ其慮ハ得ベキ也、コヽヲ以テ云トキハ下地一同ナリトテ、我心ヲ聖人ニ比シ剩天地ニタクラブル事、甚アヤマリ也、

○問云、大學ニ明德ト出タルナレバ、元來ソノ性心ハ明ナルト云ヘルニ同ジキ乎、

答云、大學ノ明德ト云ヘルハ、至大至公ニシテ私ナキ道ヲサシテ云ヘリ、性心ヲカギリテ云ニ非ズ、尤モ性心至善ニ止ルトキハ乃明德ナリ、日用ノ間事物ニクラカラズシテ、此ヲ天下ニ用ヒ萬代ニヲコナフテ、タガワザルノ德ヲ明德ト云ヘリ、古來明德ト云ヘル言アリトミヘタリ、敢不承君之明德、傲狠明德以亂天常、昭明德而懲無禮、選建明德以蕃屛周、以昭周公之明德、晉君宣其明德於諸侯、明德惟馨ナト、云ヘル、明德ノ字義皆至大至公ノ道ヲシメスノ言也、シカルニ宋明ノ諸儒自己ノ意見ニナラツテ、以テ性心ノ虚靈不昧ヲサストスルコト甚不正也、

○問云、花ニ鳴鶯水ニスム蛙、犬ノ自家ヲ守リ、雞ノ自トキナフヲ考フルニ、更ニ敎學スル事アラズシテ、自然ニ其能ヲアラワスヲ以テ云バ、人ノ性心本明善ナルニ似タル乎、

答云、鶯蛙雞犬ニ不限、其ノ形氣ニシタガツテ其用ヲナスハ定レル事也、コレ明善ノ説ニ類スベカラザル也、此類ヲ以テセバ人ノ視聽言動スル事モ、皆明善ノユヘナリト可言哉、

○問云、人ノ性心ハ水中ニ玉ヲ置ガゴトシ、玉ハ元來清白ナリト云ヘドモ、所容ノ水ノ清濁ニ因テ水中ノ玉ソノ光ヲ發スルガ如シトイヘリ、此心得イカン、

答云、朱子因指前面灯籠曰、且如此燈乃本性也、未

レ有下不二光明一者上、氣質不レ同、便如下灯籠用二厚紙一糊灯便不二甚明一、用二薄紙一糊灯便明上、出二朱子語類六十四一コノタトヘ水中ニ玉ヲ入タルノイ、ニ相同ジ、其言尤ナルニ似テ未レ詳也、ソノユヘハ人ノ性ハ血氣相聚テソノ中ニ相生ズ、血氣ノ外ニ性アルニ非ズ、サレバ血氣ノ過不及ニ因テソノ性ニ品々アリ、タトヘバ灯籠ノ火ノ油ト灯心トニ因テ明暗不同アルニコトナラズ、油ヨク灯心ヨキトキハ火ノアカリ明也、油不レ宜灯心モ不レ宜トキハ、火ハモユルト云ドモ光暗シ、コレ油灯心ヲ以テ氣質トシ、此火ヲ以テ光リトス、紙ヲオホフテソノ光ヲモラサヾルハ灯ノ養也敎ナリ、敎アシキトキハ光ヨシトイヘドモ不レ通コト、灯籠ヲ厚紙ニテ張ルガゴトシ、敎宜シキトキハ光クラキトイヘドモ分限ヨリ明ヲ遠クス、是薄キ紙ニテハレル灯ノゴトク也、サレバ紙ヲ以テ氣質ニタトヘンコトハ其コトハリタチガタシ、今水中ニ玉ヲ入ル、モ亦如レ此、玉ハ水ノ氣質ヨリ相ナレルモノニアラズ、水トハ別物也、コレヲ水中ニ入テ性ニタトフルハ性ト氣質トヲ別ニイタシテタトフルノユヘナリ、形氣相聚テコソ性ソノ中ニアリ、形氣ノ外ニ性アルベキニ非ズ、後世誤リテ天命ノ性氣質ノ性ヲワカツ處ヨリ此アヤマリ出來テ、性ト氣質トヲ別ニ相ヘダツル也、コ、ヲ以テ考フルニ天命ノ性ニ非ト云コトナク、氣質ノ性ニ非ト云コトナシ、ソノユヘハ人ノ性皆天ノ命ズル處ニシテ人作ニ非ズ、氣質ニ因テ生ジテ氣質ヲ離ル、ニ非ズ、故人々ノ性皆天ノ命ズル也、氣質ノ妙用也ト可レ知ナリ、

○問云、人ハ天地ノ氣ヲ以テ人タリ、故ニ天地ヲ以テ論ズルニタガフコトナシ、シカレバ天ノ日月ツイニ暗キコトナシ、唯浮雲ニ因テ一旦ノクラキコト出來トイヘドモ、ツイニカクレザルニ同ジカランヤ、

答云天地相因テ日月ノ精アリ、マコトニ人ノ氣質ニヨッテ性心アルニコトナラズ、然レバ其地氣ニヨッテ雲霧ノ多少厚薄アッテ日月ノ光輝不レ同、寒國ニハ十月ヨリ雪降雲ヲ、フテ翌年ノ仲春マデ日月ノ光ヲミル事スクナシ、山中ニハ地氣常ニ盛ンニシテ雲霧コレヲヲ、イ、日中マデ日ノ光ヲ見ルコトナシ、是ソノ地ノ寒暖高下平ニ從テ日月ノ光不レ同、況ヤ南蠻北狄東夷西戎ノハルカニヘダ、レル處ハ、日月ノ光輝豈一ツナランヤ、サレバ何レノ國何レノ處ニモ常ニ光晴ノ處ナシ、唯中國ノミ風雲寒霧ソノ中ヲ得ル也、

コヽヲ以テ案ズルニ日月モ地氣ヲ離ルヽコト不レ能、日月コレ天地ノ精ナレバ也、故ニ雲霧ヲステヽ日月ヲ論ズベカラザルコト、人ノ性ノ氣質ヲ不レ離ニ不レ異也、コレ日月性心ノ論更ニヘダツルコトアラザル也、後世コレヲ詳ニ不レ盡ガユヘニ、日月ヲ云テ雲霧ヲステントスルニ至ルコト、天命ノ性ヲ云テ氣質ノ性ヲ不レ云ニ同也、

○問云、人ノ性ハ定形ナシ、只胸中ヲ以テ座トストシカリヤ、

答云、人ノ性ニ形ナシ、形ナキガ故ニコレヲ求ムルニ處ナシ、人ノ性バカリニ不レ限、萬物トモニ其精性ト云トキハ、形體アルベカラザル也、人ノ一體皆性ナリ、故ニ全體ヲサシテコレヲ性ト云ベシ、但シソノ處ニ輕重アリ、一體ソノ中ヲ云トキハ腹心ノ間胷臆ノ處ヲ重シトシテ、心ノ臟ノ座トスルガユヘニ、コレヲ性心ノ居處トサス也、タトヘバ手足ノ末マデイタム處カユキ處アルヲ、此心性ムネニアツテ知ト云ニ非ズ、ソノサワル處皆速ニコレヲ知ル、是一體皆性心ノイヽ也、ソノ内ニ人ノ身ノ中央ハ頭ヨリ尻ニ至ルマデ、左右相合ノ中ヲ以テ中道トス、故ニ此中道ヲソコナイヤブルトキハ一身ノ害アリ、ソノ中ニモ胷臆ハ中道ノ極ナルヲ以テ大事ノ場トスルガユヘニ、心性コヽニ坐スト云ヘル也、タトヘバ天ハ赤道ヲ以テ中道トシ、日月ソノ左右ヲメグルヲ黄道ト云ヘルガ如シ、四支ハ一體ノ枝葉ニコトナラズト可レ知也、

○問云、田ニアル水モ、山ニアル水モ、川ノ水モ、皆一水ニシテ、更ニ精粗アルベカラズ、是非アルベカラザルニ似タリ、シカレバ性ハ皆同ジ事ナラン乎、

答云、水ニ精粗ナシト云コトハ、朱子ノ説ニ出タリ、是又水ノ實ヲ不レ盡ガユヘナリ、水ハ同ク水ニシテ、因ニ其所レ有ソノ性不レ同、トヾマル水流ル、水ソノ性コトニシテ、土ノ性ニ從テ其輕重別ナリ、水土コトナルニ因テ、草木鳥獸其形氣カワリ、其精味不レ同、サレバ水ハ遠ク流レテ其性ヲ和順シ、土石ヲコスコトシバ／＼ニシテ其精其實ヲ得ル也、サレバ水ノ名ハ一ツニシテ其風土ニヨッテ其品ヲコトニスルコト、人ノ性ハ一ツニシテ、氣質ニ從テ厚薄淸濁コトナルガゴトシ、以前ニ云ヘル處ノ灯籠ノタトヘニ不レ異也、米ハ同ク米ニシテ或ハ酒トナリ成ハ酢トナリ、或

ハ飯トナリ粥トナリ、或ハムシテ餅トナリ、或ハハタイテ粉トシ、或ハ水ニサラシ、或ハ日ニ乾シテ其性コトゴトク異也、是同米ニシテ其用法ニ因テ其性ヲ變ズ、況ヤ其生ズル處ノ水土ニ從テ其性必ズコトナランコトハ、不レ及ニ沙汰一ト可レ知、シカルヲ天下同一生ノ思ヲナサンコト尤アヤマリ也、

○問云、賤シキ士民物ノワカチヲ不レ知類ニモ、自然ト義理ヲ立テ、父母ヲ孝養シテ、賓ヲツクス輩アリ、コレ人ノ性本善ナル處アルヨリコト起レリト云人アリ、

答云、民間ニ天然ト美質ノ輩有レ之事不審ニ不レ及コト也、同ジ口ニ云ハンモイカヾナレドモ、虞舜ハ民間ヨリ出玉フ生知ノ聖人ナリ、コレ民間ニ善人アルマジキニ非ズ、コレヲ以テ天下ノ人ノ性ハ皆善ナリトハ難レ言、シカラバ民間ニ美質ノモノアルハ萬分之一ニシテ、ノコル處ハ皆邪欲非道ノ者ナレバ、人ノ性ハ皆惡ナリトイハンヤ、是荀卿ガ性惡ノ說ノ出ル處ナリ、民間計ニアラズ、蜂ニ君臣ノ義アリ、猿ニ父子ノ恩アリト云テ、鳥獸ノ性皆善ナリト云ガゴトシ、豈ソレシカランヤ、次ニ民間ノシヅノヲシヅノメノワカチシラザル輩ニモ、善ヲヲシヘ惡ヲシラシムレバ、皆善ハ善惡ハ惡ト知ル、是人々此知識イタス性心ヲソナフルユヘ也、以前ニタトフル處ノ米ハ同米ニシテ、皆ソノ用法ニヨッテソノ性タガフトイヘリ、サレドモ米ヲ以テ致セル物ハ、元氣ヲ養ノ氣味必アリ、コレ其大小厚薄ハソノ用法ニ因テ違ヘドモ、元氣ヲ養處ノ性米ノ一致ナル處ナリ、人ノ性氣質ニ因テサマザマ相違テ知識ノ大小厚薄不レ同シテ、人タルモノ必此知識ナクンバアラザルニ相同也、

○問云、學問ノ工夫ハ思知ヲ以テ先トスベシ、性心ヲ以テ知識ニアリトセンコトイブカシ、

答云、易ニ天地ノ性心ヲサシテ反復シテ不レ息ヲ以テス、人ノ性心モ亦感通知識シテ無レ息ヲ以テソノ體トス、サレバ我性心シバラクモ不レ住、瞬息ノ間モヤムコトナク、能融通變化スルコト往來消長ノ云ニアラズヤ、是性心ノ全體也、天地ハ至誠無レ息ヲ以テ日月ノ明生ズ、人ハ性心ノ融通無レ息ヲ以テ此思慮出來テヨク知識ス、サレバ天地ノ性心人ハ人ノ性心マデニシテ名ヅクベキ字ナシ、是ヲ推シテ云トキハ感通知識ノ外ニアラズ、性心ハ體ニシテ感通知識ハ用也、

故ニ古ノ人性心ヲ指テ云ニハ、皆以二思慮知識一、洪範ニ思曰レ睿、睿作レ聖、易何思何慮トアリ、孟子心之官則思ト出、禮ニ心知ト云、皆是性ヲ以テ知識トスレバナリ、如レ此義聖人ノ言ヲ師トシテ、タシカニ我身ニコヽロミテ初メテコレヲ可レ知也、

○問云、今ノ玉フ處ヲ以テ云バ、性心ノ用感通知識ナリトセバ用ハ末也、ソノ體ヲ以テ云バ、イヅレヲ性心ノ體トサヽンヤ、

答云、性心ノ體ハ性心ナリ、別ニ無二名字一、シイテ云バ生々無レ息ト可レ謂也、生々無レ息ト云ハ既ニ形氣相ソナワリ、此性心アルトキハ元氣ノ周流サラニヤムコトナク、一生ノ間唯生々無レ息ノミ也、若一息モコヽニトヾマル處アレバ、乃性心クルシミテ、遂ニ形氣滅却スト可レ知也、

○問云、宋儒ノ所謂生々無レ息ハ仁ノ體ニシテ、萬物皆此生氣ヲソナヘ、草木ノ實核ニ此仁ヲフクムガ如シトイヘリ、此心ナリヤ、

答云、宋儒ハ仁ノ實ヲ不レ盡、ユヘニ生々無レ息ノ本意ニアラズ、只萬物發生ノ氣ヲサシテ生々ト云、天地ノ仁滿腔子ノ仁ト云ヘリ、生々無レ息ト云ヘルハコノ心ニアラズ、凡ソ天ノメグリテ不レ已、日月ノ往來陰陽ノ消長瞬息モヤムコトナシ、コレ天ノ大德ニアラズヤ、スベテ形セルモノハコト〲ク地ニヲチ地ニアツマリテ、幾千世ヲ經テモコレヲノセ、コレヲウケテサラニ無レ弃、コレ地ノ大德ト云ベシ、山ハ土ヲカサ子水ハ東ニ流レテ、トモニヤムコトナシ、故ニ寶藏ヲコリ蛟龍生ズ、人ノ一生ノ間元氣ノ周流シテ、トヾマルコトナキモ亦同ジ、此生々ヤムトキハ此性心サル、コノユヘニ往來消長ノ去來ヤマザルヲ以テ生々無レ息ト云ベシ、是反復スルヲ以テ天地ノ心ヲ知リ、水ノ流ルヽヲ以テ、逝者如レ斯トノ玉ヘル歎アリ、コヽヲ聖人ノツトリテ、此敎ヲ立テ、ツトメテヤムコトナキヲ道ノ本トス、易天行健、君子以自彊不レ息、詩云維天之命於穆不レ已トハコノ心ヲイヘルナルベシ、サレバ大義大道モ一旦ノワザハ愚者モツトムルニヤスカルベシ、悠久ニシテ不レ息ノツトメニアラザレバ、君子以テツトメトセズ、天地之道悠久ナルガユヘニ天地タリ、聖人學不レ厭敎不レ倦ガユヘニ道ノ化育立ツ、コレ文王之所二以爲一レ文也、純亦不レ已ト云ヘル也、此純トシテ止ザル處ヨリ此發育生物ノ道行ル

ルト可レ知也、然ルヲ後儒不レ入トコロニ味ヲ付テ、意見ヲ加フルユヘニ、甚易簡ナル聖教煩勞スルニ至レル也、聖人ノ道悠久ヲ貴ブコトハ此性心ノ生々無レ息ニノットリ、性心ノ生々無息ナルハ至誠無息ナルガユヘナリト可レ知也、中庸二十六章可二考合一也

○問云、性心靜寂ノ時ニ、性心ノ體露顯セズヤ、

答云、性心靜寂ノトキハ、生々無レ息ノミニシテ只靜寂ノミ也、故ニ易ニ无レ思也无レ爲也、寂然不レ動、感而遂通二天下之故一トイヘリ、禮ニ人生而靜天之性也、感二於物一而動性之欲也ト出タリ、是靜寂ノトキハソノ性心物ニ不レ感ヲ以テ、性心全クシテ生々無レ息ナリ、然ルヲコノ時ニ性心ノ本體ヲ了覺セント云ハ、皆是非二無レ思无レ爲之義一、シバラクモコヽニ味ヲツクレバ、乃是感ズル也、動スルナリト可レ知也、

○問云、然乃存養省察ノ工夫不レ足レ用乎、

答云、存養ハコレヲツトメテ不レ息ノ云ナリ、省察ト云ハ常ニ言行ヲタヾシ内ニ省テソノ非ヲ改、其誤ヲ規シテ其道ニ入ノ謂也、凡ソ存養ト云ハ孟子ノ言ヨリ出タリ、盡二其心一者知二其性一也、知二其性一則知レ天矣、存二其心一養二其性一、所二以事レ天也、コレ存養ノ説也、シカレバ日ニツトメテ不レ息、學テ不レ厭、誨不レ倦トキハ、此心常ニ存シ、コノ性常ニヤシナハレ、恒久ニシテ無レ息、以悠久高博ニ至ルノ心ナルベシ、若不レ然シテ別ニ心性ノ存養アリトセバ、是乃性心ヲ弄スルニ至ルベシ、後世ニ及デ専靜坐ノ工夫ヲ立持敬ノ説ヲ云テ以テ、心ヲ涵養スルノ言アルハ、皆是惑ニシテ異端ノ説ニ近シ、蓋萬物存養セズシテ、ソノ功ヲアラワスコトアラズ、一旦一夕大功大義ヲナスト云ドモ、コレヲ存養スルコトアラザレバ、其實ヲ不レ得也、存養スルニ道アリ、詳ニ其用法ヲ盡シテ助長スベカラズ、彼性心ヲ弄ハ皆宋人ノ苗ヲ拔ニ至ベキ也、存ハ乃省察也、養ハ古ハヒタスト訓ス、乃涵字ニ相通ズ、是物ヲ水ニヒタシテ、ソノ中外皆コレニヒタルガ如ノ心也、シカレバ存養ヲ以テスレバ、ソノ内自涵養アリ省察アリト可レ知、孟子ノ所謂盡レ心知レ性ハ、コレ乃格致ニシテ存レ心養レ性ハ日彊不レ息以誠正ニイタレルト云ベキ也、

○問云、易ニ太極ノ説アリ、是道ノ大原ナリヤ、

答云、太極ト云ハ乃其極致セルノ言也、故ニ格致ノ極功其至善ニ止マレルコレ太極也、外ニ太極ノ説アル

ニアラザル也、格致至善ニ止マル處ヨリ、天下ノ道行レテ數千萬條タリト云ヘドモ、其條々皆コノ太極ヲ不レ出、是太極ヨリ陰陽四象相生ジ、六十四卦三百八十四爻ニ至リ、ソノ變ハ數ヲカサネテモ不レ可レ盡ノコトワリニナレル也、伏羲・文王・周公・孔子ハ皆人ノ太極ナリ、天地ハ萬物ノ太極也、故太極ヲ以テ太極ト云ヘル也、外ニ太極ト云ヘル工夫アルトキハ、乃是聖人ノ太極ニアラザル也、周茂叔ソノ學高ニ過テ、太極ノ上ニ一層ヲナシテ無極ヲ云ヘリ、是聖人ノ道ニ非ズ、聖人ノ道ハ太極ニシテ無レ究無レ盡、外ニ無極ヲ云所アラズ、凡ソ伏羲・神農・黃帝・堯・舜・禹・湯・文・武ヨリ周公孔子ニ至ルマデ、皆日用ノ間天下國家人物ノ道ヲ論ズ、是乃太極ナリ、天地ノ外萬物ノ太素天地未分ノ說、死後ノ沙汰ハ聖人ノ論ズル所ニアラズ、シカルニ無極而太極ナリト云ハ、太極ノ外ヲ一段立テ云ヘルナリ、豈是聖人ノ敎ナランヤ、若太極モ無極ニシテ別ナラズト云ハ、無極ノ言コレ何ノ用ゾヤ、一タビ無極ノ說出テ宋明ノ諸儒皆コレヲ師トシ、ソノ說所空渺ニサカノボルトキハ、無極ノ言其害大ナラズヤ、故吾聖人之罪人後學之異端也ト云ヘル也、大學ニ格致ヨリ平天下ヲ論ジ、易ニ太極ヨリ卦爻ノ變ヲ生ズルコトヲ詳ニス、是乃聖學ノ一統ニアラズヤ、

謫居童問上末終

諭居童問中本

學問

○問云、聖人ノ教形ナクイカタナシト云ドモ、既ニ其教アルトキハ又形ナキニシモアラズ、其教ノ手本ト致スベキ處イカヾ侍ルヤ、

答云、形ナシイカタナシト云ハ、只日用事物ノ間ニシテ外ノ形ナキト云ヘル事也、其教トスル處仁ニ不レ過、仁ト云ハ人ノ人タル道ヲ盡シテ人ノ上ニテ至極ヨキ處ヲキワメ、其至善ニ止レル事ヲサシテ仁ト云、サレバコレ仁ハ人也ト言ヘリ、其言行ノ至レルガ上ニ事物ニ通ジテクラカラズ、天地化育ヲタスケ人物ヲシテ其處ヲ得セシムルヲ聖人ト云ヘル也、人ノ上ニテ能ト、ノイ能サトキ言行知徳ト云ハ、君ニ仕ヘテ忠ノ至レルヲキワメ、父ニ仕ヘテ孝ノキワマリヲツクシ、下ヲツカフテ其禮ヲツクシ、子孫ヲ愛シテ其慈教ヲ不レ殘、朋友夫婦兄弟人倫ヲ正シ、國家天下ヲ治平セシメ、天地ヲキワメ事物ヲツクシ、悉ク其制法ヲ詳ニシテ其道ノ至誠ヲキワメシムル、是人ノ至極ト云ベシ、此人タル道ヲ不レ盡バ聖人ト云ベカラズ、如レ此ニ教ヘ示サヾレバ聖人ノ教ト不レ可レ言也、是乃聖教ノ手本トイタシ目付所トサシタル也、是我天地ノ命ヲウケテ人トナリ、其性心知識相ソナワレルトコロ無レ殘所ニツクシ得タルト云ヘルモノ也、卽中庸ニ天下ノ至誠爲ニ能盡ニ其性一ト云ヘル心ナルベシ、不レ然トキハ性ヲ盡スコト不レ叶、ソノ一事一行一才一知ノカタハシ迄ヲキワメテ、全ク盡スニアラザルトシルベキ也、仁ハ人也、道ハ不レ遠レ人ト云、以レ人治レ人ト云、施ニ諸己一而不レ願亦勿レ施ニ於人一トアルモ、皆此仁ノ道ナリ、

○問云、聖人ノノリトスル處、今是ヲツトムルニハ、イヅレヲ以テ先トイタスコトニヤ、

答云、事物ニ大小輕重本末前後始終ノ差別アリ、先天下國家ヲ以テ大ナリトシ、其政令ニカ、ルベキ事ヲ以テ重トス、君父ヲ以テ本トシ、急務ヲ以テ前トシ、近所ヲ以テ始トス、シカレバ天下國家君父政事イヅレモ重大ニシテソノ本ナリトイヘドモ、コレヲ行フコトハ我身ヨリ始マリ、我身ノ行ハ急務ヲ以テ前トスベシ、是ハ遠ク外ニツイテイヘルナリ、一身亦如

レ此、性心ハ一身ノ主宰也、重大也ト云ベク、本也ト云ベケレドモ、近ク日用ヨリ始マリテ日用ノ內其ツカエテ滯ル處ヲタヾストキハ、自ラ性心化スベシ、天下ノ人民數千億萬ニシテキワメテミルトキハ一、人ヲ能修ムル處明ナルトキハ、億萬亦コトナル事ナシ、故ニ格物致知ヨリシテ正心修身ニ至テ、治國平天下タリ、是乃物有ニ本末一、事有ニ終始一ト云ヘル心ナランカ、

○問云、仁ト云ト仁義ト云トハ、其心得ニ差アリヤ、

答曰、仁ハ聖人ノ大敎ニシテ人タル道ノ全體ヲ論ズルノ言也、故ニ克レ己復レ禮ヲ以テ顏子ニ答ヘ玉フ、是仁ノ道也、仁義ト云ハ人ノ道ヲイハヾ仁義ノ二ツニアリト云ル義也、天ハ凡テ陰陽ニキワマリ、地ハ剛柔ニキワマリ、人ノ道ヲ行コトハ仁義ニキワマレリ、サレバ五行アリテ天地タツトイヘドモ、其綱領陰陽ニ不レ出、五常七情ノ別アリトイヘドモ、其本仁義ニ不レ出、是夫子ノ立ニ人之道一曰ニ仁與レ義トノ玉ヘル心也、仁義ノ二ツハ此ヲ愛シテソダテ是ヲニクンデスツルノ道ナレバ、好惡損益賞罰抑揚褒貶皆仁義ノ用ナリ、凡ソ事物ノ作略其用或コレヲソダテ、或ハコレヲノゾクニ不レ過、日用又過タルヲバヲサヘ、不レ及ヲバクワダテ望マシム、是進退消息屈伸往來ノ義ナレバ、修レ身ヨリ治國平天下ニ至ルマデ此間ヲ不レ出、ソノ節ニ當リ道ニカナフヲ名付テ仁義ト云也、愛スルコトスグレバ人ヲコタリ、コラス事多ケレバ人畏ル、故ニ仁ハ義ヲ以テ行レ、義ハ仁ヲ以テ立、仁以愛レ之、義以正レ之トハ此心也、親レ親ハ仁ニシテ賢レ賢ハ義也、敬恭ハ義ヨリ出、慈愛ハ仁ヨリ立、仁義禮智信五常アリトイヘドモ、其本皆仁義ヨリ出タリ、五行ノ陰陽ヲ本トスルガ如也、仁義ヲ以テ人ノ道トスルコト又其ユヘアリ、シカレドモ仁義本日用ニ不レ出シテ、只ニ仁義ト計キイテ詳ニ此名義ヲアヂワヘズ、其用法ヲ不レ致トキハ、仁義ヲ知テモ仁義ヲコナワレズ、故ニ聖人人ニ敎ルニ仁義ノ名ヲ不レ立シテ其日用ヲ以テ敎トス、日用ヲ不レ詳シテ仁義ヲ云バ、日用ノ外別ニ仁義ト云モノアルニ似タリ、コレヨリ老子ノ大道廢而仁義出ト云ソシリアルコト也、既ニ孟子ニ至テ人ニ逢テハ必ズ仁義ヲ提携シテ、一公案トイタセルユヘニ、儒ハ仁義ニ落在セリト莊子コレヲ難說セリ、是孔孟聖賢ノタガヒニモアランカ、周禮ニ六德ヲ論ジテ知仁聖義中和ト仁義ノ名ヲ立トイヘドモ、是司徒

民ニ敎ノ名ニシテ、必此名ヲ立シテ道ト云ニアラザル也、シカレバ日用ノ間取捨違順ノ事、ソノ道ニカナフヲ名付テ、仁義ト云トシルベキ也、

○問云、人倫ノ大綱君父ニ不レ出シテ、君父ニ仕フルニ忠孝ト云ヘル事、其心得イカナル義ナルヤ、

答云、忠ト云モ孝ト云モ、其心得ニ二ツアルニアラズシテ君父ニ因テ其名カワレリ、其名コトナレバ其用法亦コトナリ、忠ハ主人ノタメニ事ヲツトメテ身ヲサキニイタサヾルコト也、何事ヲカ主人ノタメト云バ、第一其主人ノ國ノタメ家ノタメ人ノタメナランコトヲ考、サテ當主人ノ氣ニ不レ違如ク致スベキ也、身ヲ先ニイタサヾルト云ハ、主君國家人民ノタメニヨキ事ヲ第一トシテ、我身ノ立ツベキ事ヲサキダツルコト勿レト云コト也、我身ヲ弃家ヲ失テモ國家ノタメニハ不レ顧コト也トイヘドモ、ソレニハ段々ノ思慮子細アルコトナリ、只身ヲサキダテズ、君ノタメノ宜キヲ本トイタシ、サテ我家モ安穩ニ立ゴトク工夫イタス、是ヲ忠ト云也、乍レ去奉公勤仕ノ位品々多キコトナレバ、ソノ人ソノ位等ヲキワメテ、此位此職ニテノ忠ハイカヾト不レ論トキハ、詳ニ得心ナリガタキ也、

只其大抵ヲ云ノミ也、孝ニ大孝アリ、大孝ハ家ヲヲコシ先祖ヲウヤマヒ、父祖ヲ以テ天ニ配ス、コレ大孝ハ不レ匱(トボシカラ)ト云ヘル也、サレバ德爲二聖人一尊爲二天子一富有二四海之内一宗廟饗レ之、子孫保レ之ヲ以テ大孝ト云ヘルコト中庸ニ出タリ、次ニ我言行ヲ正シ、道ニ不レ違シテ父母ノ名ヲアゲテハツカシメザル是、其次ハ弗レ辱ト云ヘル也、次ニ小孝ハ用レ力ト云テ、朝夕父母ニマミヘテ其養ヲ省、或父母ノタメニ自耕自ツカレテ不レ苦、コレヲ力孝ト云、力孝ハツトメヤスクシテ大孝中孝ハツトメガタシ、顏子家貧シテモ父母ノカタハラニ不二安居一夫子ニ従テ天下ヲ周流ス、コレ大小ノ辨明ナルガユヘ也、只臣子ノ志國家ト君父トノ事ニ身ヲセメテ、自ノ身ヲ後トスルニアリ、父ニツカヘテ不レ顧レ身トイヘドモ、亦家ノ亡ビ子孫ノ絶ンコトハ其思慮アルコト也、コレ諫不レ逆、居レ喪不レ瘠、舜ノ不レ告シテ娶リ玉フナルベシ、必竟大小ノ辨ニマドフヲ以テ忠孝ノ實ヲ失也、

○問云、中ノ義如何、

答云、中ノ字義後世ノ學者ノ云處更ニ是トスルニ不レ足也、唯聖賢ノノ玉フ處詳ニ中庸幷經書ニ出ル處ヲ

以テ可ニ心得一也、凡ソ日用ノ間無事ナルトキハ無事ニ安ジ、タクミハカル事ナク、事アルトキハ其事ニ應ジテ其節ニアタル、是ヲ中ト云、七情ノ未發ノトキ、コノ中ヲ咏ヘヨト云ヘル義ニハ非ズ、又物ノ中分ナルヲサシテ必ズ中ト云ニモ非ズ、唯其事物ノ道ヲツクシテ、其ノリニアタルヲ以テ中トスル也、然レバ過ルモ不レ及モ其物ニ對シテソノノリタルトキハ、乃コレヲ中ト云ヘリ、コノ中ト云モノヲ本ト定メテ、日用事物ノ間其コト〴〵ニ相對シテ、其品々ノヨクノリニアタル如ナラシムルコトハ、其事トヘダ、リテハ不レ可レ合、カルガユヘニヨク相和シテ其流セザル處ノ節ヲナス、是ヲ和ト云ヘル也、故ニ中ハ天下之大本也、和ハ天下ノ達道也トハ云ル也、中庸ト云ヘルハ日用平生ノ言行コノ中ヲノリトシテ、コレニ相カナワシムルノ名ニシテ、中ノ外ニ別ノ庸ノ字義アルニアラザル也、後學ニ至テ易ノ寂然不レ動、樂記ノ人生而靜天之性也ト云ヲ引合セテ、喜怒哀樂未發ノ地ヲ寂靜ノ工夫中ノ地ト定ム、尤異端ノ說不レ足レ用也、七情未發ノ時ハ情ノ物ニ奪ル、處ナシ、此處乃是率レ性ノ道ナレバ中トサスベシ、然リトテ七情ヲノゾクニアラザルガユヘニ、七情ニ相和シテ其ノリヲタガヘズ、節ニ中ラシムルハ是中ノ和アリト可レ知也、コ、ヲ以テ中ハ體ニシテアタルトヨムトキハ、中ノ物ニ相應スルノ名也ト可レ知也、此中和兩字ノ外ニ聖人ノ敎ヘ非レバ、學者始終此一句ニ落在スト可レ知也、詳ニ出ニ句讀ニ、

○問云、知德イヅレヲカ先トスルヤ、

答云、天下ノ間不レ思シテウルモノナシ、コレ性心ノ全體知識ヲ以テ本トスルガユヘ也、洪範ニ思曰レ睿睿作レ聖ト出タリ、又多方ノ篇ニ惟聖罔レ念作レ狂、惟狂克念作レ聖トイヘリ、大學ノ道明ニ明德ニトイヘリ、中庸ニハ誠レ身ニハ明レ善トイヘリ、孟子思則得レ之、不レ思則不レ得ト出タリ、コ、ヲ以テ案ズルニ我性心ニヨク心得ルコトヲ以テ德トス、其心得ンコトハ知識セザレバ不レ可レ通、聖ノ字ヲサトシトヨミ、聖人ヲ上知ト云、三德ヲ論ズルニ知ヲ先トシ、聰明睿知達ニ天德ニトイヘル、イヅレモコレヲ知テ而後ニ得ルノイ、也、夫子曰知及レ之仁不レ能レ守レ之、雖レ得レ之必失レ之トノ玉フ、サレバ學デコソ德ヲモシルベケレ、不レ學シテ德ト云コトヲ知ルベキヤ、孟子知皆擴而充レ之トイヘル皆知ヲ以テ先トスル也、

○問云、知ト德トノ差別イカン、
答云、知ハコレヲ明ニスルノ言也、德ハ止ニ至善ニノ心ナレバ、知テコレヲ身ニ修行シ、内ニ守テ得ル處アルノ名也、得處アリト云ハ自證自悟ノイヽニ非ズ、知テコレヲ守リ、久シテ其言行ニウツリ得タルコト也、玉ヲミガク事久シキハ終ニ溫潤ノ和氣發スルガ如シコレヲ得ト云也、サレバ知テコレヲ明カニストイヘドモ、悠久ニシテ不レ息ニイタラザレバマコトノ德ナシ、マコトノ德アラザレバマコトノ知ニ非ズ、易ニ聖人久於ニ其道ニ而天下化成スト出、中庸ニ至誠無レ息ヲ以テ大德ヲイヘル、是德ノ悠久ナルニ非ズヤ、

○問云、知德優劣アリヤ、
答云、大知ノ人ハ大德アリ、故ニ夫子舜ヲ稱スルニ、或ハ大知ヲ以テシ、或ハ大德ヲ以テス、但シ日用ノ學知ヲキワメザレバ德トサス處大ニタガフ、老莊モ德ヲ專トシ釋氏モ德ヲ要トシテ、其德トスル處不レ正バソノ失何レノ處ニカアル、知ヲキワムルコト不レ明ガユヘ也、サレバ聖人人ヲ論ジ玉フニ、其功業ヲ成就スルヲサシテハ德ヲ稱シ玉フ、其日用事物ノ間ニヲイテハコト〴〵ク知ヲ以テ稱ス、コトサラ學者ノ急務ハ致レ知ヲ以テ本トス、故ニ夫子ツ子ニ上知下愚ヲ以テ對シ、門人又知レ十知レ二ヲ以テ論ズ、孟子曰知譬則巧也、聖譬則力也トイヘリ、學者只知ヲキワムルヲ以テ本トセバ、ツイニ學不レ厭ニイタリテ、仁コヽニ可レ得也、仁ハコレ力行ノ名乃德ノ至善也、

○問云、聖人ハ德知イヅレモ兼備セリヤ、
答云、聖人ト云トキハ、知德トモニ兼備セザレバ聖人ニ非ズ、コノユヘニ聖人ト云コト異國ニモ孔子ノ後ニ其名アラザル也、但舜ハ匹夫ヨリ帝位ニノボリ玉フテ、能事物ノ苦樂ニ通ジ玉ヒ、周公ハ周ノ大業ヲコシテ武王成王ニ輔佐シ、天下ノ艱難ヲシリ玉フガユヘニ、品物ノ制節マデ無レ不レ盡、孔子ハ素王ニ位シテ天下ヲ周流セシメ玉フガユヘニ、鄙事トイヘドモ多能也、コヽヲ以テ自餘ノ大聖人ヨリ言置仕置玉フコト多クシテ、後世コレヲ以テ師範トスルニタレリ、シカレバ聖人各地ヲカヘバ一ツナルベキ也、ソノ内ニモ舜ノ明ニ庶物、周公ノ才ノ美ナルコトハ、孔孟ノトモニ慕フ處アレバ、各一揆ノ間ニモ大英雄ト可レ稱也、

○問云、聖人ニ勇ヲ稱スルコトアラズヤ、

答云、知アレバマドフコトナシ、不レ惑バ勇自ソナワリテ勇ノ可レ出處ニハ大豪傑ノ氣象甚猛シテ不レ可レ犯也、世上ノ勇猛ト稱スルハ皆伎倆底ナルガユヘニ、マコトノ小勇ニシテ天下ヲ安ズルノ大勇ニ非ズ、故ニ大道ヲ我任トシテ、千歳ニ沈淪セル聖道ヲカ、ゲ萬人ニ指示スルコト、是大勇ニアラズシテ不レ可レ稱也、彼ノ軍ヲヤブリ人ヲ殺シ命ヲ輕ジ死ヲ守ノ勇ハ、平士イヅレモソノ分々ニ應ジテ無レ不レ致レ之、サレバ古今ノ勇士毛擧ニ遑ザル也、世人コノ勇ヲ勇トスル事ヲ知テ、聖人ノ勇ハ甚大勇ナルガ故ニ、人以テ勇ヲシラザル也、古人云、如下周公兼二夷狄一驅二猛獸一滅レ國者五十、孔子却二萊人一墮二三都一誅中少正卯上、是甚手段、非二大豪傑一乎トイヘリ、シカラバ聖人ニ匹夫ノ戰勇アラザルニ非ス、孔子曰、我戰則克、祭則受レ福トノ玉ヘリ、後世ニ及デ聖人ノ道甚クラク、儒ハ仁慈ヲ專トスルニアリト心得テ、勇猛ノ事ヲサシテ伯術トス、尤可レ笑、孔門ノ高弟子路ハ戰死シ、冉求ハ能レ兵、曾子ハ戰陣無レ勇非レ孝トイヘリ、是皆其勇ヲアラハス也、況ヤ勇ハ三德ノ一也、聖人ノ大勇ハ學者ノ必ツトムル處ニアリ、詳ニ可レ致レ之也、

○問云、當時知ト云ト才ト云ハ、其タガイアリヤ、

答云、知ハ體也、才ハ用也、知ヨリ發スル處ノ廣ヲ才ト云也、木ノ堪レ用者曰レ材、材ト才ト通ズ、故ニ其知能ヨクモノニワタリテ、ツマヅカザルヲ以テ才トスル也、周公ノ才ヲ夫子稱シ玉ヘリ、又才難トノ玉フ、コレ才ノ人ノ用タルコト尤明也トイヘドモ、才ヲツクスノ道明ナラザルヲ以テ、大木ヲケヅリテ小材トシ、曲木ヲケヅリテスグナランコトヲノミ求ムルニ至テ、ツイニ材ノ用ヲ失却ス、是知ノ致ムルコト不レ盡ガユヘト可レ知、俗學コレヲ以テ材ハ人ノ害タリト云フコトアリ、尤可レ笑也、只聖學不レ明ガユヘニ德ト云、知ト云才ト云、トモニ其害ヲ不レ知也、

○問云、知行二ツナリヤ、一ツナリヤ、

答云、子曰好レ學近二乎知一、力行近二乎仁一、知レ耻近二乎勇一トアリ、シカレバ知テコレヲ行フ事古ヨリノ道ナレバ、知行二ツナラザルニ非ズヤ、然レドモ知テヲコナワザレバ、マコトノ知ニアラズ、行トイヘドモシラザレバ暗夜ニユクガ如シ、行トイヘドモ甚危、コレ又知行合一トモ可レ知也、如レ此ノ義論云ニイワレザル事アラザレバ、只ソノ議ヲサシテイテ直ニ聖人ノ

致ヲコト、シ、知ヲヒラキヲシヒロメテ、ソノ知ル處ヨリ力行イタスニアリ、ソノ知ヲ擴メントナラバ、事事ヨク相學バザレバ竟ニ不レ可レ至也、自二耕稼陶漁一以至レ爲レ帝、無下非レ取二於人一者上ト、舜ノ大德ヲイヘルモ、皆ソノ知ヲ擴ノイヽ也、

○問云、人欲コト〴〵ク去テ、天理明ナリト云ハ、德ニ非ヤ、

答云、天理人欲ノ字ハ樂記ニ出タリ、天理トハ率二性道一其條理不レ亂ヲ云也、人生而靜天之性也ト云ヘル也、人欲ト去ハ情欲也、乃惑二於物一而動性之欲也トイヘル也、人欲ヲ去モノハ人ニアラズ、瓦石ニ同ジ、瓦石皆天理明ナリトイワンヤ、サレバ樂記所レ云ハ好惡無レ節二於內一、知誘二於外一不レ能レ反レ躬天理滅矣、人化レ物也者滅二天理一而究二人欲一者也ト出タリ、コレ情欲ニヒカレテ性道ヲ失スルモノ、サタ也、然ルニ宋明ノ學者異端ノ說ニ習テ、德ノ心得ヲ以テ異端ノ說ヲ附益ス、故去二人欲一ノ說アル也、

○問云、夫子各ソノ志ヲイワシメ玉フテ、曾點ガ言ヲキイテユルシ玉フハ、是天理ノ流行一點ノ私ナキ處ニ非ヤ、

答云、曾點ハ老莊ノ學ヲ事トシ、心ヲ虛無恬淡ニアソバシメテ、世路ノワザ人間ノ事ヲコト〴〵ク塵視スルノ徒ナリ、豈聖人コレヲ以テ是トスベケンヤ、只時ニ至テ風景ヲノベ、サモアリツベキ悠游然タル處ヲ以テ、當時夫子モユルシ玉ヘル也、シカルヲ宋儒コトゴトク附會助長シテ、程子ハ以爲下與二聖人之志一同上、便是堯舜氣象、朱子ハ以爲曾點見二得事々物々上皆是天理流行一、又曰其胸次悠然直與二天地萬物一上下同レ流、各得二其處一之妙隱然自見二於言外一ト、是各老釋異端ノ氣味ヲ相嗜デ以テ極則トスル心ヨリ誘引シ來レル說ナルコトヲ自說テ不二自知一也、凡ソ天地ノ形體アツテ天地ノ氣象アリ、聖人ノ知德アツテ聖人ノ氣象アリ、曾點何ノ故ニ天地聖人ノ氣象アランヤ、サレバ朱子答二或問一云、聖賢之心所三以異二於佛老一、正以レ無二意必固我之累一、而所レ謂天地生物之心、對レ時育レ時之事者、未三始一息之停一ト云々、是等ノ說甚差了セリ、コレ良辰美景ヲ稱スル中ニ暮春ノ時生物ノ妙ヲ感ジテ樂ミ去ト云ル心ヲ附會ス、聖人唯浴風詠歸之心耳、何ゾ一草一木ニヲイテ、シイテ天地ノ生々ヲ感得セン、聖人ハ全體ソノ德之究知之盡ルナレバ、今日

ソノ物ヲ見テ天地ヲ感ズルニ非ズ、又無レ不レ感、シカルヲ一事一行マデ、天地ノ生々ヲ比校センコトハ、皆後儒ノ意見ニシテ甚ムツカシク造作シ來レリト可レ言、必ズ天理充滿ノ意見不レ可レ用也、

○問云、天地ハ一點ノ滓査アラズト可レ知、是乃聖人ノハダヘナリト云義如何、

答云、天地ノ道ヲツクサヾルガユヘニ天地ノハダヘヲ不レ知、天地ノハダヘヲ不レ知ガユヘニ、人ノ本體ヲ不レ知也、凡ソ天地ハ陰陽ノ二氣ヲ本トス、陽ハアガリテ不レ滯、陰ハクダリテ形ス、陰ハ陽ヲハナレズ、陽ハ陰ヲハナレズ、互ニ相循環シテ獨陽獨陰更ニ立コトナシ、故ニ陽ハ常ニアガリ上テ不レ留ノ中ニ、陰モ亦相サソワレテアガルト云ヘドモ、陰聚レバ形スルガユヘニ忽下テアガルコトヲ不レ得、ソノ濁リ形チスルソノ查滓ヲナヅケテ土ト云也、陰クダルトキニ陽又サソハレテトモニ下ル、是陰陽水火ハナレズ、メグリメグリテ無レ息ノコトハリ也、コヽヲ以テ云トキハ二氣五行清濁輕重相トモニソナワリテ、一箇モコレヲ捨ルコトナク、處ニ隨テ主トナル、是乃天地ノハダヘナリ、人モ亦如レ此、人欲ト天理ト形氣理氣相因テ而シテ此人身立世ノ事行ル、人欲キラフニアラズ天理秘藏スルニ處ナシ、サレバ形氣ノタメニ出ル情ヲ朱子サシテ人心ト云、道理ノタメニ出ル情ヲ道心トサセル、ソノコトワリアルニ似テ尤不レ正、形氣ノタメニ出ル情ヲキラハヾ、飢寒痛痒飲食男女ノ情皆不レ可レ用乎、此情ノ節ニ當ルヲサシテ道ト云、節ニ過不及アルヲサシテ惑ト云ベシ、一點ノ查滓ナシト云ハコノ情欲斷滅シ來ランヤ、故ニ嫌フコトモ取ルコトモナク、只其節ニ中テマドワザルノコトハリノミト可レ知也、サレバ天地ノ道ヲシラントナラバ、天地ノ物タルヲツクサヾランニハ不レ可レ得ニ其實一也、

○問云、聖人ハ天ト一體ナリヤ、

答云、聖人ハ賛ニ天地之化育一ヲ以テ與ニ天地一參也、是マコトノ三才ト相ナラベル也、禮ニ天地之心ヲ人ナリトス、天地ノ化育ヲ考ヘテ萬物ヲシテ其性ヲツクサシムルハ聖人ノワザナレバ、マコトニ聖人ヲ以テ天地ノ心トモ可レ云也、但シ天ト一體也トハ難レ云、天地ハ天地ノ氣質アッテ天地タリ、人ハ人ノ氣質アッテ人タリ、聖人ト云ドモ人ノ氣質ヲウクルガユヘニ人類ヲ不レ可レ離、スデニ人類タルトキハ天地ト一體

トハ云ベカラザル也、唯與ニ天地一參タルノコトワリ也、後世ニ至テ天地一枚ノ說ヲ立、我乃天地天地乃我ト云ニイタルハ、皆其詞ノ過チ空虛ヲヱルニ至ル也、サレバ聖人ハ則レ天對レ天ナルベシ、是乃道源ヲ天ニ準則シテ私ヲ不レ以ノイ、ト可レ知也、子夏云、三王之德參ニ於天地一ト云モコノ心ナルベシ、

○問云、然バ善惡相混リ清濁相合ヲ以テ道トスルヤ、

答云、善惡ノ中道有無ノ中間ニ心ヲヤルハ異端ノ敎ニ近シ、人欲ヲ去テ天理ニ歸ルハ宋儒ノ學トスル處也、共ニ聖人ノ道ト不レ可レ云、聖人ノ道ハ善惡邪正明ニシテ、此ニ不レ惑、ソノ宜ニ順テ意必我固スル處ナシト可レ知也、善惡ト定ムル事不レ正、邪正ト思フコト不レ得ニ其道一ガユヘニ、惡ナラザル事ヲ惡トサシ、邪ナラザルコトヲ邪トス、タトヘバ情欲物ニ感ジテ動クコレ惡ニ非ズ、ソノ惑フ處ヲサシテ惡トス、情欲恬淡無事ニシテ靜ナリ、靜ナルヲ善ト云ニ非ズ、可レ靜シテ靜ナルヲ中レ節トスベシ、可レ動シテ靜ナル時ハ不レ通、豈是ヲ道トセンヤ、サレバ家ヲ立ルニハ直木曲木、節アル木節ナキ木、大木小木長短ノ木、相聚テ而後ニ一家ヲ立、良匠ノ木ヲツカフ事、更ニスタル事ナシ、無レ節無レ曲ノ上木ナリトモ、此ヲ用ルニ其處ヲ失トキハソノ用ヲ全クセズ、今雜掌治具ヲカマヘンニ、嘉肴美鳥アリト云ドモ、又蔬菜塩醬相アツマラザレバ其用ヲ全クセズ、鯛・鯉・鶴・雁計ヲ用テ、諸色ニイタサント調味セバ、塩梅ツイニ其宜ヲ不レ可レ得、故ニ五味相合テ其用處ヲ得ヲ味ノ上トス、天下ノ事皆如レ此、何ゾ只一事ヲノミ必トセン、是善ノ末ヲ知テ善ノ實ヲ不レ知也、善ノ實ハ其家ヲ立其味ヲ調ニアリ、一物一本ノ義ヲ必トスルコトナシト可レ知也、

○問云、此說ニヨルトキハ、物ノ美惡ハコト〴〵ク其用法ニアリト可ニ心得一乎、

答云、物ニ美惡ナキニ非ズ、美惡ヲ能ワキマヘテ其用法ヲ詳ニスルヲ聖人ノ敎トスル也、サレバ大學ノ道ハ明德ヲ明ニスルニアリトイヘドモ、其用法ハ格物致知ヲ以テス、格物致知セザレバ明德ヲ明ニスルコトヲ不レ得也、異端俗學各其志處ハ、明德ヲ明ニスルヲ以テ本トストイヘドモ、格物致知ノ用法タガフヲ以テ、明德トサス處明ニスルノ道、共ニ其實ヲ不レ得バ、是用法相タガフガユヘ也、コヽヲ以テ良木良材相アツマルト云ドモ、良匠コレヲ用ヒザレバ、勞而無

レ功、嘉肴美味相ソナワルト云トモ、庖丁ソノ術ヲ不レ盡トキハ、コト〳〵ク用ヲ失フニ至ル也、俗學ハコレヲ不レ知シテヨキコトハイヅカタニテモ立コト也、道ハ必ズ無道ヲ制スルモノナリト意必スルニヨッテ、却テ善立コトナク道明ナルコトナシ、用法ト、ノワザレバ善モ善ナラズ、道モ道タラザル事也、世以然リ、俗人ハ善惡ヲワキマヘザレドモ、用法ヲツクスガユヘニソノコト行ハレ、俗儒ハ善ヲ志シテ用法ヲ不レ知、故ニ學却テ害トナッテ、事物ニ不レ通コト皆然、是俗人ノ用法道ニアタレリト云ニハ非ズ、サレバ天下ノ間人物ノ用、其用法ヲ盡スヲ以テ天下國家人物ノ用相通ズ、一物一事トイヘドモ、用法ヲハナレテ性心計ニテ其事ノ通ズルコトアラズ、性心アリトイヘドモ、耳目アラザレバ見聞ノ用ナシ、四支アラザレバ執捉運奔ノ用ナシ、見聞執走其用法ヲ以テ無禮トナリ禮容トナル、學ハ其用法ヲ詳ニキワムルヲ以テ學トス也、

○問云、用法ヲキワムルノ道イカヾ心得侍ルニヤ、

答云、用法アル事ヲ知トイヘドモ、是ヲ盡スニ道ヲ知ザレバ、ヨキ事必アシクナルコト勿論也、サレバ米ヲカモシテ酒ヲ作ルトイヘドモ、作ルノ道ヲ不レ得バ却テ腐臭ス、人參ハ元氣ヲ養フ藥ナリトイヘドモ、用法不レ得二其道一トキハ病ヲ生ズ、シカレバ道ハ同ジク道ニシテ、用法ヲ不レ知モノ、道トサス處ハ却テ人ノ害タリ、異端ノ致コト〳〵ク用法タガヘリ、俗學尙然リ、コヽヲ以テ有道ニ就テ正ストハ云ヘル也、有道ノ人ニ非バ、或權謀ヲ事トシテ用法トシ、或ハ利口ヲ以テ用法トス、タトヘバ酒ハ同ク酒ナリト云ドモ、味ヲ詳ニセザレバ美惡厚薄ヲ不レ知、只外ノミヘタル所ヲ以テ論ズルトキ、コト〳〵ク正味ヲタガフニ同ジ、酒ヲシラントナラバ、酒ヲシレル人ニ此ヲ學ビ、コレヲ正ストキハ、明ニシテカクルヽコトナシ、酒ヲシラザラン輩ニ酒ヲ考ヘバ、酒ノ道竟ニ不レ可レ明、コレ有道ニ就テ正スト云ヘル心也、今ノ世ニ有道ノ人ナシトイヘドモ、幸ニ聖人ノ言行相ノコリテコレヲ正スニ不レ可レ違、コトサラ大學ノ致格物致知ヲ以テ極トス、格物致知是聖人ノ用法也、故ニ天下ノ間、遠大ニシテハ天地、近小ニシテハ人物、トモニ格致シテ其用法キワマラズト云コトナシ、學者ノ力ヲ竭スコト、此間ニアリト可レ知也、

○問云、人必夢アリ、夢ハ形體ニ付ト云ガタシ、形體睡眠シテ不レ動トイヘドモ、夢裏分明ニモロコシマデモ往來スル事アルナレバ、是心性ハ形體ヲハナレテ別ナルベシ、

答云、人常ニ閑思雜慮アリ、閑思雜慮ト云ハ、閑ニヤスンズレバ心中ニ色々事ウカミ出テ雜念ヤムコトナシ、是心知ノシバラクモ止ルコトナキガユヘ也、故ニコノ體睡眠スレバ、心モ亦ヤスンズト云ヘドモ、思慮常ニ融通シテ止ムコトナキヲ以テ、夢中ト云ドモ、思慮感通シテ色々ノ思ヲナス、是皆心性知識ノワザナリト可レ知、心性ハ形體ヲハナレズ、故ニ其思慮コト〴〵ク身外ノ事ニワタラズ、常ニ相思フコトノ諸緣ニシタガッテソノ夢ヲナス也、夢ニ五夢ノ說周禮ニ出タリ、只夢ハ心ノ閑思雜慮ナリト可レ知也、世俗皆云、形體睡トイヘドモ心ハ不レ睡ト、此說尤非也、形體睡ルトキハ心性モ亦睡ル、ネブルモノ形體ニアラズ心性也、心性ハ感通知識シバラクモ不レ留ガユヘニ、睡ルトイヘドモヨク感通ス、但シ詳ニ云トキハ形體ハクタビレテ逸トイヘドモ、心性未レ睡、コノ間ニ思慮ワタルモノ皆夢也、心性モ睡レルトキハ夢モナシト可レ知也、

○問云、閑思雜慮ノ間色々ノ妄念アリ、コレヲ斷ゼンコトハイカン、

答云、閑思雜慮ノ妄念ヲサラントイタスベカラズ、平生ノ志ホドニソノ思慮アラワル、モノナリ、故ニ平生ノ志ヲヨク正シカラシムレバ、閑思雜慮モ正シキ也、心性ハ活物ナルガユヘニ、暫モ住ルコトナシ、住メント欲スレバ彌不レ住、故ニ思慮スル處ニ更ニトガナシ、唯思慮マデニシテ紅爐上ノ一點ノ雪ニコトナルナシ、是閑思雜慮ノ用法ナリ、學者閑思雜慮ヲ斷ゼンコトヲ欲ス、尤アヤマリナリト可レ知也、

○問云、夢中ノ事ニ平生ヨリ邪義ヲ見、又正道ヲミルコトアリ、是心ノ邪正ニヨルコトニヤ、

答云、是又閑思雜慮同意也、平生ノ志ホドニ夢ヲモミルベシ、夢中ニ我心ノ實必ズアラワル、モノ也、尤愼シムベシ、古人モ夢裏ノ工夫ヲ論ゼルコト多シ、サレバ夢中ノコト、イヘドモ、我工夫ノ位ヲ不レ出ナレバ、夢裏ノ惑ヲ以テ平日ノ惑ヲ知テ修スベキ也、邪正ノ相感ズルコト、悉クソノ時ノ思慮ニ從テ感通スルナリト可レ知也、

○問云、世俗ニ念力ト云テ思イツメタルコトハ、能物ヲ感ゼシムルト云ヘルハ、左モアルコトカ、

答云、至誠ハ不レ通ト云コトナシトイヘリ、然レバ我ニソノマコトアランニハ、天地ヲ感ゼシムベシ、況ヤ鬼神ヲ感ゼシメ、人物ヲ感ゼシムルコトハ、不レ及ニ沙汰一コトナリ、凡ソ物皆氣アリ、氣アルトキハ感セズト云コトナシ、故ニ一事一物モソノ誠ニ因テソノ物ヲ感ズルコト古來ヨリ然リ、武王伐レ紂渡ニ于孟津一、陽侯之波逆流、而疾風晦冥シケルニ、武王瞋レ目而撝レ之ケレバ、風ヤミ波靜ナリトカヤ、魯陽公韓ト戰テ援レ戈而撝レ日ケレバ、日爲レ之反三舍ナリト云ヘリ、賤臣叩レ心飛レ霜擊ニ于燕地一、庶女告レ天振レ風襲ニ于齊臺一トモ出タリ、各ソノ一事ノ誠ヨク物ヲ感ゼシムル事如レ此、サレバ楚ノ熊渠子夜行石ヲミテ虎ナリト思テ射ケレバ、其矢アヤマタズ石ニ立テハブクラヲセメケリ、能ミレバ石ナリケリトテ、重テコレヲ射ルニヲドリカヘリテ跡モツカズトゾ、漢李廣モ亦シカリ、又後漢光武夜趙州ニ至テ路ニマヨエリ、人ノ物云ゴトクナルヲトノシテソノ形イブカシケレバ、劔ヲ拔テコレヲキツテ兩斷シテケリ、ツラ〳〵ミレバ石ナリト云ヘル事モアリ、如レ此ノ物語世ニ多シ、案ニ石モ亦物ナレバ、其氣ナクンバアラズ、其氣アルトキハ必ズ人ヲ惑ワシ人ヲヲソレシムルノ精アルモノ也、故ニ切テキレズト云コトナシ、射テ無レ不レ通也、ソノ氣ナキモノハ是ヲ射是ヲキルトモ、敢テ入ルベカラザル也、我誠ニ感ズルアイテアレバ感ズルコト得也、アイテナキトキハ感ズルコトヲ不レ得、下ニ九二ノ德アツテモ、上ニ九五ノ應アラザランニハ、無レ可レ通ト可レ知也、

○問云、ソノ誠ヨク人ヲ感ゼバ、聖人ノ道ノ人心ヲ感ズルコトハ猶可レ速シテ、夫子ノ時ニ不レ合コトハ何ゾヤ、

答云、聖人ノ道ハ至誠ノ全體ナリ、故ニ一人一物ヲ感ズベカラズ、能萬代萬物ヲ感ズ、コヽヲ以テ夫子ノ道古今地ニ不レ落、人々皆コレヲ非ナリトスルモノナシ、是大道ノ物ヲ感ズルコト遠大寬厚ナルニアラズヤ、一事一物ノ誠モ無レ不レ感、況ヤ聖人ノ大道無レ不レ感ト可レ知也、聖人ハモノニ不レ惑、コヽヲ以テ物コレヲ惑ハスコトヲ不レ得ガユヘニ、石ヲ射石ヲキルベキノ用ナシ、聖人ハ物ニ安ンズ、故ニ患難ニ處シテ

行ニ患難一ヲ以テ、飛レ霜振レ風ノクルシミナシト可レ知ナリ、愚者ハコレヲ不レ知シテ、或ハ其不思議ヲ感ジテコレヲ信ジ、或ハ不思議ハ皆イツワリナリト思ドモ不レ得ニ其實一也、サレバ淮南子ニ夫瞽師（師曠奏ニ白雪之音一而神物爲降レ之下）庶女位賤ニ尚葈一（葈耳菜名主是官者至微賤也）權輕ニ飛羽一、然而專レ精厲レ意、委レ務積レ神上通ニ九天一、激ニ勵至精一ト云リ、又曹子建求レ通レ親レ親、表ニ、臣伏而以爲犬馬之誠不レ能レ動レ人、譬人之誠不レ能ニ動レ天崩レ城（列女傳曰杞梁妻就ニ夫屍ニ於ニ城下一而哭レ之十日而城爲レ之崩云々）隕レ霜臣初信レ之、以ニ臣心一況徒虛語耳、

○問云、世間ニ不思議ノコト多キモノ也、其ワカチヲキイテモ不レ通コトアリ、天地ノ變又ハ人ノ變化ニモ言語道斷ノコトアルハイカヾ、

答云、凡ソ我不ニ心得ニ不レ知コトヲ不思議ニ存ズルハツネノコト也、タトヘバ幻術ノ輩ヲノレハ是ヲ不思議トサラニ不レ思シテ、人ハコレヲ不思議トス、サレバ人ノミナレズ聞ナレザルコトヲバ、皆奇怪ニ思フトイヘドモ、天下ノ間ソノ道ナクソノユヘナクテアラハル、物、更ニ無レ之ガユヘニ不思議ナリト云ベカラズ、但シ不思議ハナキモノナリト云ニハ非ズ、不思議モアルモノナレドモ、コレヲ詳ニ盡ストキハ、不思議ニハアラザルト可レ知也、或ハ人ノ目ニミヘズシテワザヲナス鳥獸鬼類アリ、或ハ夜ヲウカヾヒ、或ハ朝暮ヲマチ、或ハ閑處ヲウカヾヒ、或ハ山林ヲウカゴフ、各其得タル道アッテ、人ヲ僞リマドワシ事ヲハカルノ類甚多シ、是皆人ノ不レ知コトナレバ、人以テ不思議トス、シカレドモ是又天地ノ間ノ一物ニシテ、別ノ子細ナキコト、知テ、或ハ敬シテ遠レ之、或ハ信ジテ畏レ之、トモニ君子ノ道也、不レ知コトヲ推テスツルモ、專ラ信ジテ惑レ之モ、トモニ其不レ知レ量ト云ベシ、コヽヲ以テ鬼神者上レ焉者、雖レ善無レ徵、無レ徵民不レ信、妖變者下レ焉者、雖レ善不レ尊、不レ尊民不レ信ト心得ベキ也、

○問云、不思議妖怪ノ事アルニ、コレニ惑ハサルヽト、マドハサレバカサレザルトハ、心ノ正ト不正トニアリヤ、

答云、能人ニバカサレザルモノハ、物ニバカサレズト可レ知也、凡ソ不思議妖怪ヲナス處ノ鬼魅ハ、只變化ノ一術ヲ得ルノミニシテ、人ノ知ニ及ブベカラズ、人ノ人ヲバカシ、不思議ヲナス事、ソノ知鬼魅モ亦不レ可レ及、故ニ巧言令色ノ小人、佞姦利口ノ奸人君ヲマ

、ワシ人ヲ誣テ、ツイニ國家ノ滅亡ヲ致シ、身ヲ失家ヲヤブル事ヲ不レ知、是大ナルバケモノナリ、サレバ德ヲマナブニハ鄙頑ノバケモノアリ、道ヲコノフニハ異教ノ妖術アリ、天下ノ人多クハ是ニマドハサル、況ヤ色ノ人ヲバカシ、財ノ人ヲマドワスコト、白樂天ガ古塚ノ狐、久米ノ仙人ノ通ヲ失ヘルタメシ、財ヲツミテ世ヲ亡コト、皆是世ヲマドハスバケ物也、サレバ人心反覆ノ險ハ、山ヨリモサカシク海ヨリモケハシ、一日風波十二時トイヘリ、コノ中間ニ卓立シテ奸人ニバカサレズ、色財ニマドワズ、世上人欲ノ險ヲ事トセザル人ハ、鬼魅幻怪ヲナスト云ドモ、豈コレニマドワサレンヤ、故ニ人ニマドワサレザルトキハ、鬼魅コレヲマドワスコトヲ不レ得ト可レ知也、亦鬼魅ニマドワサレザルヲ以テ正シキ人トハ不レ可レ云、世ニ鬼魅ヲヨクシタガフル輩甚以テ多シ、是豈正明ノ人ナランヤ、唯一事ノ不動底アッテ、物ノタメニ役セラレザルノミト可レ知也、コレヲ以テ大知大德ノ人々物ニマドワサレザルニ比校スベカラザル也、コヽヲ以テ云トキハ、妖物以二人變一爲レ大ト可レ知、外ニ妖怪ノ物アリトテモワヅカ一小物也、唯人ノ人ヲバカス事、人君大臣至誠ニ至ラズシテハ不レ可レ知コト也、

○問云、世上ニ山伏女巫ノ類術ヲナシテ、バケモノヲシヅメ、コノ靈ヲ制スル事多シ、ソノ人不動心ノ修行アリトモミヘズシテ、ソノ術相叶コトハイカン、

答云、鬼魅ニ鬼魅ノ道アリ、コレヲ制スルコトソノ道ニヨルトキハ安シ、彼山伏女巫ノ類ハ、久シクコレヲ制スルコトヲ得ルガユヘヱ術必ズ通ズ、彼何ゾ不動心不動知ノ地ニ至ランヤ、凡ソ人ソノ道ヲ久シク修スルトキハ、ソノ道ニツイテ其用法ヲ詳ニス、故ニソノ術皆相叶フモノ也、禹水ヲ治メ玉フ時、淮水神無支祁ガ力、九象ニコヱテ制シガタク人ノ目ニミヘザリシヲバ、命二庚辰一ジテ制セシム、庚辰ヨク木魅・水靈・山妖・水怪ヲ制スルコトヲ得、遂ニ無支祁ヲ龜山ノ下ニ、クサリニテツナギ付テ置タル事舊紀ニミヘタリ、本朝役ノ小角入二葛木山一驅二逐鬼神一シテツカイモノト致シ、自二葛木嶺一金峰山ノ間ニ石橋ヲカクルコトヲ鬼神ニ命ジテナサシム、一言主神形醜シテ出ザリシヲ怒テ、深谷ノ間ニツナギケルコト舊紀ニ出レ之、シカレバ其人其ワザヲ致シヲボヱタランニハ、鬼魅ヲヨク制スルコト甚コトワリアルコト也、鬼魅ノヲ

ソル、事物ヲソル、文字ヲソル、言ヲソル、實アルヘケレバ、是ヲ盡シテ其用タルト可レ知也、

○問云、妖怪類多ハ浮屠佛者無欲清淨ノ人ヲ稱シ、コレヲソル、ト云ヘリ、是何ノユヘゾヤ、

答云、鬼魅妖怪ハコト〴〵ク陰氣陽氣過不及ノ間ニ生ズルガユヘニ、尤モ無知妄作貪欲淫亂ノ物也、故ニ無欲清淨ノ地ハ彼ガ尤モ難トスルノ道也、コノユヘニコレヲ以テ敬恭ヲナスコト古來然リ、彼イカンゾ聖人ノ大道ヲ知ンヤ、人ノ知カレニマサルモ猶不レ知レ之也、

○問云、誠ト云ヘル事ノ心得、イカヾ仕レル事ニヤ、

答云、誠ハ中庸ニ詳ニ論ゼリ、先虚僞ナク篤實ナルヲ誠ト云、コレ誠ノ一端也、至誠ト云トキハ不レ得レ已ノ道、天地ノ天地タルユヱン、人物ノ爲二人物一ユヱン也、至誠ニ相カナヘル人ハ聖人也、聖人萬物ノ道ヲワカチ禮ヲ定ムル事、此至誠ヨリ出タリ、至誠ヲキワムルトキハ無レ不レ通、則中庸ノ中ト云ヘルニ不レ異也、後儒誠ノ字ニ付テ工夫ヲ立テ、意味ヲ深長ニ致ストイヘドモ、亦弄二性心一ノイ、ニシテ、至誠ノ實ヲ不レ得也、天下ノ至誠ハ能盡二其性一ト云テ、我性心ノ性心タルユヱンヲ知テ、ソノ性ノゴトクニ人ノ道ヲツクシ得タル、コレヲ盡レ性ト云也、我性心ヲヨク盡セバ道ヲ立禮ヲツクス事明ナルガユヘニ、天下ノ人ノ性ヲツクサシメテ、ソレ〴〵ノ用ヲトゲ、其材其德ヲ全セシム、天下ノ人性ヲ盡スユヘニ、萬物ヲノ〳〵其性ヲ盡スコトヲエテ、五穀ヨクミノリ、草木ヨクサカヘ、山川ヨク處ヲ得、是人物ノ性ヲツクスト云ヘル也、如レ此ナル至誠敎アツテ、人物處ヲ得テコソ天地ノ化育ヲタスクルトハ云ベケレ、天地ノ化育ヲタスクル人ヲ天地ニナラベテ三才ト云也、若我性ヲ盡スコトヲ不レ得トキハ、人ヲシラス用ヲ詳ニ不レ致ユヘニ、人々其選ミ正シカラズシテ、其能ヲツクシ才ヲフルフコトヲ不レ得、人ソノ性ヲ盡スコトヲ不レ得バ、山川ノ制草木ノ生成、鳥獸魚蟲ノ用捨所ヲ失テ五穀ミノラズ、花實時ヲ不レ得、コレ性ヲツクサヾルト云也、次ニ盡レ性ト云ハ、人ハ天地ニ並ビ萬物ニ長トシテ、其至善ヲウベキ所アリ、コレヲ自得シテソノ性ノゴトク道ヲタテノリヲ定ムル、是ヲ性ヲ盡スト云也、タトヘバ此花ハ如レ此大ニ如レ此見ゴトニ開發スベキ下地アレドモ、手入ナク養ウスク、其制ヲ不レ盡ユヘニ、ソノ性

分ホドニ開カザルハ性ヲ盡スト云ニ非ズ、制法ヲ詳ニイタシ、手入養ノコル所ナクシテ、其花一バイノ精ヲアラワス、是性ヲ盡ス也、人ノ性ヲ盡スト云モ、如レ此也ト可レ知、シカレバ天下ノ至誠ハ能盡ニ其性一トイヘルユヘニ、至誠ノ人ハ性ヲツクセル人也ト可レ知、性ヲツクセバ聖人也、聖人ハ人ノ天ナリ、故ニ誠ハ天道ナリトモ云ル也、此誠アルトキハ何事ニテモ無レ不レ通、コレ至誠之道可ニ以前知一トイヘル也、又自レ誠明ナリトモイヘリ、心正トキハ知至ト云ト同義也、ソノ誠ハトイヘバ、知ヲ明ニイタサヾレバ、ツイニ不レ可レ得、コレ自レ明誠アルト云也、生知上知ノ人ハ、自誠アツテ明ナルベシ、學者ハ皆明ヨリ誠ニ可レ入也、必竟心正ケレバ知至リ、知至レバ心正シ、誠則明也、明ナレバ則誠アリ、コレ上ヨリ説テ下ニ至ルヿ、下ヨリトキノボセテ上ニ至ルトノ言ニシテ、別々ノコトニアラズ、我ニ生知ナク上知ナケレバ、唯自レ明誠ニ至ルヲ下學上達ノ功トスベシ、誠レ身有レ道、不レ明ニ乎善一不レ誠ニ乎身一矣ト出タリ、誠ハイタレル道ナリトテモ、格物致知イタシテ至ラザレバ不レ可レ得ト云心也、是大學ノ物格而后知至、知至而后意誠也、

○問云、聖人以ニ天地一爲ニ萬物本一、人物ノ則トナシ玉フコト如何、

答云、陰陽五行相交テ萬物ノ用アリ、陰陽五行ハ天地ニヲイテ全シ、故ニ形氣アル者、皆戴レ天蹈レ地デ天地ノ外ニ不レ出、是天地ヲ父母トシ、乾坤ヲ本トイタスノユヘン也、凡天ハ氣也、故ニ昇テ不レ息、其象圓大ニシテ覆ニ萬物一、地ハ形也、故ニ降無レ疆、其形厚博ニシテ戴ニ萬物一、ソノ中精ノ氣ハ人物ヲ生ジ、偏塞ハ土石トナル、而シテ天ニ日月星辰ヲアラハシ、地ニ山嶽江海ヲ顯、人ニ賢愚男女ノ品、物ニ草木鳥獸魚蟲ヲナシ、風雨寒暑往來消長シテ晝夜ヲ正シ、或ハ順ニシテ四時ト、ノヒ、或ハ震動雷鳴シテ風雨ヲ起シ、山ヲクヅシ川ヲソコナイ、人物ヲイタメ、疫癘火事、亂逆鬪諍ヲイタシテ、天下コレガタメニ苦シミ、天變アラワレ地妖生ジ、人性アツテ不思議ヲナス、然レドモ晝夜四時日月ノ盈虧氣候ノ消息ツイニ變ズルコトアラズ、是天地ノ至誠天地ノ天地タルユヘニシテ生々無レ息、造物者無盡藏悠久ニシテ無レ疆ノ道也、聖人コレヲノツトツテ天下萬世ノ皇極ヲ立、人民ヲシテコレニヨラシムルユヘン也、哀公天ノ道ヲ問テ夫子コレニ答へ、

子夏三王之德參ニ於天地一、敢問何如斯可レ謂レ參ニ天地一矣ト問テ、夫子コレニ天地日月ノ三ノ無私ナルコトヲ答ヘ玉フハコノコ、ロナルベシ、次ニ天地陰陽ノ氣ハ皆和シテ過不及アルマジキ事ナルニ、風雨寒暑モ時ヲウシナヒ、人物モコレニクルシム事、是凡人不審ナクテ不レ叶コト也、如レ此義ヲ不レ詳トキハ、人物ノ道ヲ不レ可レ知也、天ノ四時三百六十旬ノ中ニ晝夜相ヒトシク、寒暑相中スルノ日ハワヅカ春分秋分ノ二日也、天地ノ日月ソノ中ヲウルコト如レ此ニマレナリ、ソノマレナル子細ハ形氣アルモノハ運動シテ不レ留、天ハ形氣ノ極日月ハ形氣ノ精ナルガユヘ也、右秋分春分ハ日月晝夜長短ノ形相中スルヲ云ヘリ、サテ四時ニ四ノ中月アリ、一月ニ又一月ノ中アリ、一日一夜ニ其中アリ、コレハ時ニトッテ詳ニ中ノ義ヲツクセルナリ、一日一夜ニ日中夜半ノ二ノ中アルハ、四時ニ春秋ノ二分アルガ如シ、晝夜十二時ニ又十二ノ中アリ、是十二月ニ十二ノ中アルニ同ジ、然シテ右ノ中ト云ヘルソノ刻限ワヅカ瞬息ノ間ニシテ、間不レ容レ髮、シバラクスレバ日退テ中ニアラズ、物ノ中スルコト日月トイヘドモ久シカラザル也、是天地日月ノ中タヤスカラザルワカチ也、故ニ四時ノ氣候モ順ナル事マレニシテ、風寒暑濕ノタガイアリ、凡ソ天ハ氣ナリ、地ハ形也、天ノ氣地ノ形、淸濁相交テ風雨雪霜ヲ生ズ、然ニ天ノ運日月ノ往來日々ニタガイ、地ノ行氣亦日々ニ變ズルガユヘニ、所々ノ風寒暑濕皆不レ同也、是天地ノ氣淸濁通塞アルコト不レ得レ已ユヘ也、次不レ得レ已シテ淸濁通塞アルガユヘニ、人物トモニ立テソノ生々ヲトグル也ト可レ知、ソノ故ハ唯中精ノ氣ノミアッテ濁塞ノ氣ナクンバ、草木鳥獸不レ生萬物不レ出、シカラバ人アリトモ五穀ナク衣服ナクシテ人倫立ベカラズ、萬物ニ因テ人倫立、人倫ニ因テ萬物其性ヲ盡スト可ニ心得一也、サレバ人倫内ニテモコトゴトク皆中淸氣ヲ得タル人計ナランニハ、タレカ耕シテ民トナリ、タレカ力ヲ盡シテ工商トナリ、タレカ奴婢僕從トナッテツカユベキ、是小人アッテ君子立チ、君子立テ小人全ト云ノ心也、貧賤貪愚共ニ不レ得レ已ノ氣質ニシテ、共ニ天下ノ用タリ、コ、ヲ以テ考ユルトキハ、右ノ春分秋分ノ二中ハ天地四時ノ中ヲ云テマコトノ中ニハ非ズ、其日用ノ中ト云ハ三百六十日皆中ナリ、一日十二時皆中也、ソノ故ハ日ノ長ヲ悅

デ用ヲナスモアリ、日ノ短ヲ悦デ其用ヲナスモアリ、晝ヲ悦モアリ夜ヲ悦モアリ、タトヘバ西ヨリ吹風ハ西ヘ行舟ヲ利シ、東ヨリ吹風ハ東行ノ舟ヲ利スルニ同ジ、故ニ五穀ヲマイテソノ生長收藏セシムルコト、三百六十日ヲツミテ皆ソノ用トス、是四時日々皆中ナルニ非ズヤ、サレバ四民ソノ處ヲ得、萬物其性ヲツクスハ是聖人ノ盡二人之性一盡二物之性一、君子小人萬物トモニソノ中ヲ得ルノイヽ、天下ニ明德ヲ明ニイタセルトイヘルナルベシ、次ニ淸濁通塞ハ不レ得レ已シテアリ、カルガユヘニ萬物又各生ヲトグルトイヘドモ、大旱暴風霖雨地震等ノ變ヲ以テ人物ヲソコナウコトハ、天地ノ仁ニ不レ有ニ似タリ、是又其マコト不レ得レ已ノコトワリアリ、今地ニ東西南北中央遠近アツテ、山川海陸其ツカサドルコトコトナリ、コノユヘニ南方ハ暖ニシテ北方ハ寒シ、南方ハ雪ヲ不レ見シテ、北方ハ冬日ヲ不レ見、是其地ノ形粧タガフトキハ天ノ氣其ニ隨ガユヘ也、天地ノ氣如レ此變ズルヲ以テ、其地ニ出生スル萬物コト〴〵ク其精ヲ異ニス、四方ノ國土ソノ差別如レ此コトハ、陰陽ノ相交ルニ因テ其用ヲナセル也、水旱風震皆氣ノ偏塞ヨリ起ルコトニシテ、天地ノ變ハワヅカナレドモ、其人間ニ及ブ處ハ大ナリトシル也、人シバラク怒ル時ハ其形相タガフ、況ヤ天地陰陽ノ不和ヲヤ、サレバ一人怒レバ一家動、國君怒ルトキハ一國動、天子怒ルトキハ天下動、天地ノ變ハ天地ノ怒リ、陰陽不和ナレバ事物ヲ害スル事コトワリ也、人物ヲソコナフハ仁ニ非ルニ似タリト思フ事仁ノ實ヲ不レ知ガユヘ也、近ク譬ヲトルニ、國君怒テ兵ヲヲコシテ敵ヲコロス、ソノ敵ノ軍兵我兵トモ何ノ咎カアツテコレヲ殺スヤ、ソノ國ノ山林田野何ノアヤマリアツテコレヲサル又コレヲ荒スヤ、況ヤ天地陰陽ノ不和シテ洪水大旱大風地震ヲコリテ、其山川田野コレガタメニ崩壞スルニ、コレヲバノゾキコレヲバ散ズト云コトアルベキヤ、若コレヲ用捨ニ心アラバ天地ノ私ト云ツベシ、故ニ聖人ハヨク天命ヲ知テ危邦亂邦ニ不レ居、巖墻ノ可レ崩トコロ危險ノ可レ恐地ヲ不レ通、コレ身ヲ愛シ身ヲ愼ムガユヘ也、俗語ニ時ノ大難ハ大權ノ聖者モノガレガタシト云ヘルハコトハリ也、殷ノ湯王ノ夏臺ニトラワレ、周ノ文王ノ羑里ニコメラレ、周公ノ三年ノ遠流、孔子ノ七日ノ絕レ粒、皆是天地人物變ニ逢テソノ苦ヲ受タマヘルニ

非ヤ、コヽヲ以テ天地ノ變ハ人物ノ敎トナレルトイヘリ、夫子迅雷風烈必變ズトノ玉フハコノ心ナリ、古ノ王者變ヲミルトキハ自戒テ天下ニ直言ヲ求メ、自省スルヲ本トス、易ニ天下有レ風姤也、后以施レ命、誥二四方一ト出タルハ風ヲ以テ號令ニ比セル也、洊雷震、君子以恐懼、修省ト云ハ、コレ自省ノ心ナリ、孔子曰、天有二四時一春秋冬夏、風雨霜露無レ非レ敎也、地載二神氣一神氣風霆、風霆流レ形、庶物露生、無レ非レ敎也、次ニ天地ノ長久ニシテ無レ彊、日月寒暑往來消息シテ無レ息ノユヘハ、氣ハノボリテ無レ息形ハ降テ無レ息氣ニ形アリ、形ニ氣アツテ昇降シテ降昇シ、生々無レ息ガユヘ也、ソノ中間ニ日月アラハレテ陰陽ノ精ヲ示ス、是又形氣昇降ノ二ツニシテ、人ヲ以テ云バ知至リ德明ナルト云ヘルナルベシ、日月天ニカヽツテ萬物明ニ、天地ノ間ノ人物コト〴〵クコレニ因テ消息屈伸ス、天地ノ形氣アレバ日月ノ精明アツテ萬物立、タマタマ雲ヲコリ、霧サヘギツテシバラク其光ヲ失スラ人民諸物コレヲ仰グ、況ヤ天地アリトモ日月ノ明ナクンバ天地立ベカラザル也、サレバ人ハ人ノ形氣アツテ、ソノ性心ソナワル、性心若明ナラズンバ事物皆然トシテ盲目ノ杖ヲウシナイ、暗夜ニ燭ノ消タルゴトクナルベシ、是學ヲ以テ知ヲキワムルニアリトスルユヘン也、日月ノ用ヲ云ニ光明無レ息ヲ德トス、人心ノ用又睿知無レ彊ヲ德トス、日月明ナリト云ドモ雲霧サラニハナレズ、雲霧ヲハナレテ日月ヲミント云ハ非也、人心知アリト云ドモ氣質ニ因テ其用ヲ異ニス、況ヤ日月ハ天地ノ形氣ニツヽマル、スラシカリ、人ノ形氣ニツヽマレテ其精ヲアラワセルナレバ、不レ學シテハツイニ不レ可レ得也、後世ノ學者此心得ヲ不レ詳シテ、人ノ性心ヲ以テ天地ノ日月ニ比シテ、常ニ光明ナリトスル事尤不レ得二其實一也、次ニ天地日月ノ道瞬息ノ間モトヾマルコトナシ、是求メテ運動スルニ非ズ、陰陽ノ道昇降不レ得レ已シテシカル也、詩云、維天之命、於穆不レ已、蓋曰三天之所二以爲一レ天也トイヘリ、易ニ天行健、君子以自彊不レ息ト出タリ、コヽヲ以テ考ルニ君子天地日月ノ不レ息ノコトワリヲハカリテ、人生日用ノツトメモ亦自ツトメテ、更ニ不レ可レ怠、怠トキハ必道ニタカビ、天地ノノリニ不レ合也、天ハ覆テ無レ外、地ハノセテアツシ、皆フカクツヽミ、アツク學デ至ルノ象ニシテ、一朝一夕ノユヘニ非ズ、四時各

氣候ヲツムコト久シ、故ニソノ間寒暑不レ順トイヘドモ、ツイニハ其氣候ヲ不レ失也、人倫日用ノツトメ、其積累多クンバ其功疑ナシト知ベキ也、是聖人ノ天地ヲ以テノツトルアラマシ也、

○問云、人ヲ以テ三才トイタセルハ、人天地ノ形氣ヲカタドリウクルユヘニ侍ルヤ、

答云、天地ノ間ニ出生スル物イキトセイケル類、天地ノ形氣ヲカタドラズト云事ナシ、コヽヲ以テ天地人物ト相並ンデコレヲイヘル也、人ヲ必ズ三才ニ比スルコトハ、聖人人ノ性ヲ盡シテ人タル道ヲキワムヽ、ココニヲイテ聖人ヲ天地ニナゾラヘテ參二天地一ト云也、愚昧黒昏ノ輩我乃天地ニナラヘリト云ンコトハ甚ソノ道ヲ不レ知也、中庸ニ贊二天地之化育一モノヲ可下以與二天地一參上矣トイヘリ、化育ノ贊ト云ハ天地ハ廣大博厚ニシテ唯大綱ノタガワザルマデ也、聖人世ニ生レテ四時閏月ヲ立テ、氣候ヲ考國郡山川海野ヲハカリテ度量ヲ制シ、其用法ヲ詳ニシテ四時ヲヲギナイ、萬物ノ生ヲトグシムルコトヲハカリテ、人物各ソノ處ヲ得、故ニ天ニ因テ德ヲアラハシ、地ニ因テソノ能ヲアラワス、是聖人天地ヲ觀察シテ天地ノ言ニカワリテ云、天地ノワザニカワリテ動、天地ノ耳目ニカワリテ視聽シテ、以テ法ヲ立敎ヲノコシ、其マコトヲ示シテ萬世萬々世ニ至ルマデ、天地ヲ貴ブコトヲシラシムルハ、天地ノ性ヲツクスト云ベキ也、況ヤ人物ノ性ハ云ニ不レ及也、カルガユヘニ聖人ハ天ニ先テ天弗レ違、後レ天而奉二天ノ時一ト云ヘル也、如レ此人ヲナヅケテ天地ノ化育ヲ贊トハ云ベシ、故大人者與二天地一合二其德一、與二日月一合二其明一、與二四時一合二其序一、與二鬼神一合二其吉凶一ト云リ、又禮ニ奉二三無私一可レ謂レ參二天地一トモイヘリ、凡愚ノ人ヲ云ニアラズ、但シ人皆聖人ニ至ルベキノ質アレバ、其本ハ天地ニモナラブベキ所アリト可レ云也、

○問云、天道トハ何レヲサシテ云ベキヤ、

答云、天道ハ天ノ道也、天ノ道ト云ハ天地ノ間、二氣五行相メグリテ、往來消息更ニヤム事ナキノコトワリヲノツトリテ、聖人ノ道ヲ立ツ、サレバ四時ノヲシウツリ日月ノ運行シテ、萬物各其利ヲ利トスルノ道、明白ニシテカクスベキ處ナシ、天地ノ道ヲ日用ニウツシ、道ノ大原ヲ天ニ象ル事ナレバ、聖人天道ヲ貴玉フコト尤其故アリ、凡ソ萬物ハ陰陽五行ヲ不レ出シ

テ、天地ハ陰陽五行ノ根元ナレバ、人物ノ父母天地ニ不レ出、是ヲ天道ト云也、クワシク易ノ繫辭ニ出タリ、孔子天生ニ德於我一トノ玉ヒ、天之未レ喪ニ斯文一也トノ玉フハ、天ヲ以テ聖人ノ父母トシ玉ヘバ也、知ニ天命一トノ玉ヒ天何言也トノ玉ヘルハ、道ヲ以テ天ヲ證スレバナリ、天道カル〴〵シク語ルベカラズ、故ニ子貢モ不可ニ得聞一トイヘリ、哀公問、君子何貴乎、天道也、孔子對曰、貴ニ其不レ已如ニ日月東西相從而不レ已也、是天道也、不レ閉ニ其久一是天道也、無レ爲而物成、是天道也、已成而明、是天道也ト出タリ、

○問云、天地亦心アリヤ、

答云、天地ハ乾々トシテ無レ息ノ誠ヲ以テ心トス、君子コレヲカタドリテ自彊テヤマザルトハ云ヘリ、コノユヘニ易ニ天行健也、君子以自彊不レ息ト云ヘリ、又曰終日乾々反復道也トモイヘリ、乃復ノ卦ニヲイテ復其見ニ天地之心一乎ト論ジ玉フハ、往來消長反復シテヤマズ、始終サラニ無究ノイ、ナレバ是ヲ天地ノ心ト云ベシ、中庸ニ天地ヲ論ズルニ至誠無レ息ヲ以テスルモ是也、聖人コレヲ以テ日用トシ、學不レ厭敎不レ倦トハ云ヘル也、禮ニ人者天地之心也、五行之端也ト云、左傳ニ哀樂不レ失、乃能協ニ天地之性一ト云、易ニ正大而天地之情可レ見矣トモ云リ、然バ天地性心トサス處一ツニアラズトイヘドモ、聖人易ニヲイテ天地ノ道ヲ盡シ玉フニ、唯反復無レ息ノ誠ヲ以テ心トスルニアリ、コノ誠アルガユヘニ日月以アラワレ、四時以テ正シ、コレ誠ヨリ明ナルノコトワリト可レ知也、コ、ヲ以テ案ズルニ天地無レ息ノ誠ヨリ此明ナル處アッテ天地以テ立ツ、人ノ誠アッテ此知識相發スルニコトナラザルナリ、

○問云、易書禮詩ニ多ク天ヲ稱シテ、地ヲ不レ言日月ヲ不レ言ハイカナルユヘゾヤ、

答云、天ハ全體ヲサス、天ヲ云トキハ地コレニツギ、日月コレニシタガフガユヘニ天ヲ稱スルコト多シ、人ヲアゲテ其中ニ性心形體アルガ如シ、天ハ地外ヲカコンデ萬物天ノ中ニアリ、故ニ天ハ其全體ナリト可レ知也、ソノウヘ陰ハ陽ニシタガフモノナリ、陰ノ先ダツコトナシ、天ハ陽ナルガユヘニ萬物ヲツ、ムデ、陰ソノ中ニアリ、天ハ陽ニシテ一家ヲ統テ、妻妾コレニシタガフニ不レ異トシルベシ、サレバ天ヲ云トキハソノ中ニ地ヲ含、天地ヲ云トキハ四時日月コレ

ニ屬スル也、六經ニ君道ヲ詳ニシテ、臣道ヲイワザルモ亦此心也、

○問云、天地ト云陰陽ト云本一體ナレバ、天地ト云ベキヲ、陰陽ト云テモクルシカラザルコトニヤ、

答云、陰陽ト云トキハ天地ノ本ナリ、故ニ陰ト陽トハ相對シテ尊卑高下ノ差別無レ之也、天地ト云トキハ既ニ其形體相定ルヲ以テ天尊地卑也、世界ノ間コトゴトク天ノ氣ニシテ、地ハ天ニアワスレバ百分ノ一モ無レ之モノト可レ知也、ソノユヘハ萬物生々シテ己レ己レガ姿ヲアラワスト云ドモ、其形體ノ運動皆氣ノナスワザ也、氣息去トキハ形體云爲セズ、形體日々ニ腐穢シテ、骨肉コト〲クニ氣トナッテ去、ソノヽコレルモノワヅカノ査滓トナッテ土ニ留マル、萬類皆如レ此ガ故ニ、氣ニナッテノボルモノ、査滓相留テコノ土トナレリ、少モ氣アレバコト〲ク炎上ス、サレバ一滴ノ露生長シテ此形體出テ、終レバ又一芥ノ纖塵相ノコルノミ也、コヽヲ以テ天地間只此一氣ノミニシテ、形體ハ芥子微塵ノ如シ、サレバ天ハ上下四方相メグリテソノ中央ニ一點ノ査滓コリテ土タリ、コレ天ハ大ニシテ尊ク、地ハ小ニシテ卑シキ也、故ニ陰陽天地一體ナルガ如シトイヘドモ、陰陽ト云トキハ相對シテ上下ナシ、天地ト云トキハ相ヘダヽリテ高下尊卑ノ位アキラカナリ、是繫辭ニ天尊地卑乾坤定矣、卑高以陳貴賤位矣トイヘル也、

○問云、古來ヨリ天地ヲ祭ルコトハ、禮義ヲ以テ本ヲワスレザルノ心ナリヤ、又不レ祭シテカナワザルノコトワリアリヤ、

答云、天地ハ人物ノ父母タリトイヘドモ、マサシク天地ノ大命ヲウケテ天地ヲ掌ニ握レル人ハ天子ナリ、サレバ萬乘ノ君ヲ號シ天子トス、コヽヲ以テ天子ハ天地ヲ祭ルコト定レル法ナリ、禮記ニ云ク、萬物本ニ乎天一、人生本ニ乎祖一、此所三以配ニ上帝一也、郊之祭也、大報レ本反レ始也、又云、郊之祭大報レ天、而主レ日配以レ月ト出タリ、凡ソ天ヲ祭ヲ郊ト云、地ヲ祭ヲ社ト云、虞書ニ肆類ニ于上帝一ト云ハ天ヲ祭ルノ言也、祭ルニ品々ノ制法アリ、後世コレヲ封禪ト云ヘリ、コヽヲ以テ案ズルニ天子ニシテ天地ヲ不レ祭トキハ、人ノ父祖ヲ不レ祭ニコトナラズ、故ニ上帝ヲ祭ルニ圓丘ヲ以テシ、后土ヲ祭ル方丘ヲ以テスルコト舊記ニ明也、但天地合祭ノ説、分祭ノ説アリ、詳ニ文獻通考大學衍義補ニ

出タリ、次ニ天ヲ祭ルコトハ天子ノワザニシテ、三公諸侯モ天地ヲ祭ルコトヲ不レ得、只封內ノ山川ヲ祭ルノミ也、丘文莊曰、蓋以三萬國同在二一天之下一、凡天所レ覆者皆天子有也、萬國同戴二乎一天一以事二天子之一人一、故惟天子獨得レ祭レ天、

○問云、世ニ鬼神ニ祈禱シテソノ願ヲ告祭スルコトアリ、其說アルコトニヤ、

答云、祈禱モ亦祭祀ノ一也、サレバ周禮六祈ニ祈二福祥一トイヘルコトアリ、禮ノ郊特牲ニ祭有レ祈焉ト云ヘリ、皆祈禱ノ義也、人情ノ誠ネガヒ思コトナクテ不レ叶、ネガフ處アルトキハ必鬼神ノ助佑ヲタノムコト是人情ノ常ナリ、聖人禮ヲ定メ玉フ事、皆人情ニ從フガユヘニ、此制法ヲ立テコレヲ節文シ、其祈禱イタスノ道ヲサダメ、其可二祈禱一ノ神ヲ定メ、祈禱ノ役人ヲ定ム、シカレバ祈禱ノ道自ノ利ヲ私シテ人ノ利ヲ利トセザランハ、祈テ神コレヲ不レ可レ受、故ニ禮器ニ君子曰、祭祀不レ祈ト是私ノ福ヲ專トスルコトヲ戒シムル也、君父ノタメニ祈禱シ、家國ノタメニ祈リ、人民ノタメニ祈ランコトハ、尤モ祈禱ノ道也、而祀禱スル處ノ神各其所レ司アリ、禮ニ天子祭二天地一祭二四方一、祭二山川一祭二五祀一歲徧、諸侯方祀祭二山川一、祭二五祀一歲々徧、大夫祭二五祀一士祭二其先一ト也、非二其所レ祭而祭レ之、名曰二淫祀一、淫祀無レ福ト出タリ、詳ニ曲禮五制ニ出タルナリ、丘文莊云、祭祀之禮在レ上者可三以兼レ下、在レ下者不レ可二以僭レ上、荀卿曰、郊止二乎天子一、社止二乎諸侯一、道及二乎大夫一是也ト云ヘリ、昔楚ノ昭王有レ疾ウラカタニ河ト云ヘル河ノタ、リ也、是ヲ祭ハ可レ愈ト出タリ、昭王キイテ弗レ祭レ之シテ曰、三代命二祀祭一不レ越レ望、江漢睢漳（四水在二楚界一）楚之望也、禍福之至不二是過一也、我不德ナリト云トモ、分外ノ河ワレヲ罪スベカラズトテ遂ニ不レ祭、孔子曰、楚昭王知二大道一矣、其不レ失レ國也宜哉ト左傳ニ出タリ、論語ニモ非二其鬼一而祭レ之諂也トハコノ心ナルベシ、祈禱ノ道アルトキハ神ニツカフルノ役人アツテ是ヲ執行スベシ、是男巫女巫ノ制アツテコレヲ司、周禮ノ司巫ノ官是也、商書ニスデニ有二巫風之說一テ、周公又巽卦ノ爻ノ辭ニ有二史巫之占一ト出、論語ニモ巫醫トナラベイヘリ、トモニ神祇ヲ司ドルモノ、義ナリ、サレバ祈禱ノ道古ヨリ有レ之コトナレバ、其說タシカナリト可レ知也、

○問云、論語ニ子路請レ禱ケレバ孔子有レ諸トノ玉フヲ考レバ、禱ルト云コトヲ不レ用ニ似レリ、

答云、父母疾病ニヲカサレテ人ノ子コレヲ祈ルハ、切迫ノ實ナレバ祈ルト云コトサダマレルコト也、儀禮ニ疾病乃行禱二五祀一トハコレナルベシ、武王有レ病、周公以二王室未一レ安、請二命三王一、欲三以レ身代二武王之死一玉フ、ソノ一篇ヲ金縢ノ匱ニヲサメラレタルコトハ周書ニ明文アリ、マコトニ臣子ノ誠聖人ト云トモソノ祈禱アリ、孔子疾病ニシテ子路コレヲ祈ラント請フコトハ、請テ禱ベキノ道ニ非ズ、夫子豈コレヲ禱コトヲ許シ玉ハンヤ、故ニ子路ガ暴卒ヲ戒メテ有レ諸トノ玉ヒ、丘之禱久矣トノ玉ヘリ、凡ソ祈禱ハ悔レ過遷レ善以祈二神之祐一也、聖人常省日新也、故ニ決シテ天命ニマカセテ更ニ疑ナキノ戒也、祈禱ノ道ナキトノ玉フニハ非ズ、

○問云、古來ヨリ祈禱成就スルモアリ、又否モアルハ何ゾヤ、

答云、祈禱ノ道不レ正トキハツイニ福アルベカラズ、祈ルニ誠ヲ不レ以トキハ遂ニ福ナシ、禮曰、賢者之祭也必受二其福一、非二世所謂福一也、福者備也、備者百順之名也トイヘリ、コヽヲ以テ案ズルニ世ノイヤシキ匹夫匹婦ト云ドモ、一念ノ誠アル時ハ、目ニミヘヌ鬼神ヲモ感ジ、天地ノ遠大ナルヲモウゴカシツベシ、況ヤ聖賢ノ誠アランニハ天地ノ神祇ヲモ感格センコト疑ナシ、サレバ聖賢ノ祈禱無レ不レ通、次ニ天子國君ハ其寄異二于他一、天子ハ四海ノ間日月星辰ノ高、山川丘陵ノ大ナルコレヲ制スルコトヲ放ニス、況ヤ先代ノ聖賢名臣烈士ト云トモ、コレヲ升降浮沉セシメン事、ホシイマヽ、ナラズト云コトナシ、諸侯ハ我封内ノ山川丘陵、我ニ屬スル處ノ神祇又コレヲ司、故ニ其精神氣魄トモニ流通貫徹シテ、人君ノ思ニ感ゼズト云コトナシ、コヽヲ以テ周禮ノ太宰ニ八則ノ制ヲ立テ、一曰祭祀以馭二其神一ト云リ、云心ハ民人官人コソ人君ノ下知ヲウクベキニ、目ニミヘヌ鬼神ヲ下知スベキコトモナク、下知ヲ可レ受ワケモ不レ有ニ似タリトイヘドモ、既ニ天下國家ノ人民土地天ノ時マデモ、人君ノ下知ニ不レ從ト云コトナキナレバ幽ニシテ無レ迹、鬼神ト云トモ下知ヲ不レ受ト云コトナシ、サレバ犧牲既成、粢盛既備、然而旱乾水溢則變二置社稷一ト云ハ古制也、コノユヘニ國ニ可レ祭ノ社ヲ立テ、祭祀ノ禮ヲ

定メ、淫祠ヲコボシ、廢祠ヲアグル、皆人君ノワザニアルヲ以テ、人君一念ノ誠アルトキハ、天下ノ神祇コレヲ加護シ、速ヲソヘズト云コトナシ、是天子國君ノ祈禱必シルシアルユヘン也、

○問云、聖人ハ祈ルコトナクシテ、周公ノ祈玉フハイカナルコトニヤ、

答云、或人問ニ程伊川ー、周公欲ㇾ代ニ武王死ー、其知ㇾ命乎、伊川云、只是要ㇾ代ㇾ兄、豈更問ㇾ命、或問ニ朱子ー亦有ニ此理ー否、朱子曰、聖人爲ㇾ之亦須ㇾ有ニ此理ー、楊龜山曰、聖人固知ニ天理ー、然只爲ニ情切ー猶於ㇾ此僥倖萬一也、故至誠爲ㇾ之ト、コレ先儒ノ所ㇾ論也、愚謂聖人無ㇾ祈ト云コト大ナルアヤマリ也、無ㇾ祈ハナニノユヘニ祭祀アルベキヤ、凡ソ人君卽ㇾ位トキハ、必ズ天地山川群神ニ告テ受命ノカシコキコトヲマフシ、寶祚ノ長久ヲ祈リ、巡狩ノトキハ名山大川ヲ祭テ是ヲ告ルコト、舜典・大禹謨・王制等ノ諸書ニアラハル、コレヲ告祭祈禱之禮ト云ヘルナリ、是皆其事ヲハジムルニヲイテ其誠ヲアラワシ、天神地祇ニ告祈テ神ノ從ハンコトヲ欲スレバナリ、シカレバ此禮皆往古ノ聖人天ニツイデ極ヲ建玉フノ道也、豈不ニ祈禱ーヤ、コトニ周公以ㇾ身代ニ武王ート祈ル、不ㇾ得ㇾ已ノ誠ナレバ、是ノ間ニ末儒ノ議擬ヲ入ル、處ナシト可ㇾ知也、後世ニ至テ人々道ニクラクシテ、必ー事ニ泥著スルガユヘニ、他ノコトワリニ不ㇾ通、祈ルコトアリト云ヘバ專神社ヲコトトシテ、却テ神ヲアナドリ、祀ヲケガス事ヲ不ㇾ知、況ヤ老君ガ傳ニ星ヲ祭リ、北斗ヲ敬スルノ事アッテ、其後浮屠ノ輩コレヲ學ビ福得ヲコト、ス、コレヨリ祈禱ノ禮ケガレテソノ祈ルコト不ㇾ得ㇾ道、ソノ祭ルコト分ヲ不ㇾ知、ツイニ幻誕矯誣ノ說ヲコト、ス、是祭禮ノ道不ㇾ明ガイタス處也、或又利口佞姦ノ輩ヲノレガ意見ヲ立テ、祀テ無ㇾ益トコ、ロヘ、神祇ヲ蔑如シテコレヲ廢壞ス、共ニ其道ヲ不ㇾ知ガイタス處ナレバ、二ツトモニ君子ノ道ニ不ㇾ在ト可ㇾ知也、論語祭ㇾ神如ニ神在ートノ玉ヘリ、聖人既ニ祭ㇾ神ノ言アリ、又無ㇾ所ㇾ禱トモノ玉ヘリ、可ニ幷考ー也、

○問云、鬼神非ニ人實親ー惟德是依トイヘリ、然レバソノ道タヾシキ人ハイノラズトモ神ノ守リアルベキ也、

答云、ソノ道正シキ人ハ能祈ル、祈テ無ㇾ不ㇾ受ㇾ福也、シカルニ周書ニ皇天無ㇾ親、惟德是輔、又曰黍稷非

レ馨、明德惟馨ト云ヘルハ、人主ソノ身ヲ正サズシテシキリニ福ヲ神明ニイノルヲ戒ルノ言ナリ、サレバ無レ祈ト云ヘルニハ非ズト可レ知也、

○問云、非ニ其鬼ニ而祭レ之ハ古ノ道ニ非ズ、シカルニ先聖先師ヲ釋典シ、功臣名士ヲ祭祀スルコト、其イワレナキニ似タリ、タトヘ祭ルトモ鬼神コレヲ不レ可レ饗ニ同ジ、

答云、其功德アッテコレヲ以テ祖トシ、コレヲ以テ師トスル時ハ、其ノ傳來ノ輩、此ノ功德ヲ蒙テ身ヲ立道ヲ行テ、名ヲ後世ニノコスガユヘニ、其鬼神血氣ノ脈流アラズト云ヘドモ、其心力ヲツクセル道ヲ相續スルヲ以テ、乃コレヲ祭祀スルコト非ニ其鬼ニト云ニ非ズ、コレ祭ニ有レ報レ焉ト云ニ同ジ、周禮ノ大司樂ニ、掌ニ成均(五帝學名)之灋ニ以治ニ建國之學政ニ而合ニ國之子弟ニ焉、凡有レ道者、有レ德者、使レ敎レ焉、死則以爲ニ樂祖ニ祭ニ於瞽宗ニ出タリ、又禮ニ聖王之制ニ祭祀ニ也、法施ニ於民ニ則祀レ之、以レ死勤レ事則祀レ之、以レ勞定レ國則祀レ之、能禦ニ大菑ニ則祀レ之、能捍ニ大患ニ則祀レ之トアリ、コ、ヲ以テ云トキハ、其功德シバラクモ民人ニ蒙ルコトナラン輩ハ祭ルコト古ノ法也、コトニ道ノ師學ノ德アラン、人ヲ祭ルコトハ天下ノ人民ノ崇敬シ、ソノ德ヲ以テ君々タリ、臣々タルノユヘナレバ、人タルモノ是ヲ敬恭セズト云コトナシ、史趙曰、盛德必百世祀ト云ヘルハコノコト也、文王世子篇ニ凡學春官(官謂ニ禮樂詩書之官ニ)釋ニ奠于其先師ニト云ヘリ、又凡始立レ學者、必釋ニ奠于先聖先師ニトモ出タリ、是古來ノ道德アル人、又ハ聖賢ノ類ヲ祭ルノ心也、孔子ヲ祀ルコトハ漢ノ高祖過レ魯、以ニ大牢ニ祀ニ孔子ニト云ヘリ、是ナン孔子ヲ釋奠イタスノ初也、唐ノ太宗ニ至テ周公ヲ先聖ト云テ孔子ヲ配享シ、ソノ後以ニ孔子ニ爲ニ先聖ニ顏子爲ニ先師ニ定リ、周公ヲ停メタリト也、次ニ忠臣義士孝婦烈士ヲ祭ルコトハ、唐ノ玄宗天寶七年ヨリ事起レリ、古ニ其例ナシトイヘドモ、忠孝仁義ヲ崇玉フヲ以テ、其一事一行ノ功德アランアランニハ、其本國生國居處ヲ詳ニシテ、其處ニ命ジテ日ヲ擇デ祭祀アランコトハ、マコトニ甚深ノ德政ナレバ、幽冥ノ鬼魄モコレニ感動シ、見聞ノ士庶モソノ志ヲハゲマサズト云コト不レ可レ有レ之也、

○問云、古ヘヨリ淫祠ヲ以テ戒トス、今ノ玉フゴトクンバ、天下ノ神社年々ニ增益シテ、國政ノワヅライタ

ルベシヤ、
答云、徧二于群神一ト云ハ、舜典ノ言也、懷二柔百神一トハ、周頌ニ出タル明文也、周禮ニ祭二四方百物一トイヘルハ、祭祀必ズ天地人ニ不レ限也、サレバ祭法云、四坎壇祭二四方一也、山川林谷丘陵、能出レ雲爲二風雨一、見二怪物一、皆曰レ神、有二天下一者、祭二百神一トアリ、コヽヲ以テ考フルニ功德アルトキハ神位スルコト、古來ノ法ナリト云ヘドモ、功德ヲタヾスコト不レ得二其道一トキハ、コト〴〵ク淫祠タランコト疑ナシ、然レバ聖人ノ定法ヲ本トシテ其功德ヲハカリ、或ハ廟ヲ立神官ヲ置、或ハ配享シテ廟ヲ不レ立、或ハ閭ニ表シ門ニシルシテ祀奉ニ不レ及コト、其品節尤詳ナラバ、ナンゾ淫祠ノ說ニ及バンヤ、凡ソ淫祠ト云ハ民間ノ私ニシテ公官ノ命ニアラザル也、公官ノ命アラザルトキハ人コレヲ可レ除コトナレドモ、世俗崇二尙神怪之事一スルヲ以テ、神ヲヲソレ禍ヲヲソレテ、必ズコレヲ直スコトヲ不レ得シテ、年月フリ山林シゲリテ、マコトニ神サビタル地トナルコト世以テ多シ、コレヲ淫祠ト號スベシ、昔漢ノ成帝ノトキ、秦匡衡奏シテ淫祀ヲ毀ランコトヲ請フ、ソノコロ凡所レ祠六百八十三所ニシテ、其二百八所ハ所レ可レ祠ニシテ、四百七十五所ハ禮ニ非ト告シケレバ、命ジテコレヲヤメシム、其明年匡衡罪アッテ咎ニ行ハレケレバ、世人皆神明ノ罰ナリトイヘリ、天子コレヲアヤシミ、劉向ニ諄玉ヘバ、劉向對テ申シケルハ、家人（謂二庶人之家一）不レ欲レ絕二種祠一（謂淫祠所二傳祭一者）況ヤ於レ國乎ト對ヘケリ、匡衡ガ云處ハ淫祠ヲコボツノコトワリニシテ、劉向ハ又コレヲソシレリ、皆是ソノマコトヲ不レ得ヲ以テソノ實ヲ不レ盡也、朱子曰、後世有二箇生的神道一、人心邪向レ他、他便盛、如二狄仁傑一只留二泰伯伍子胥廟一、壞二了許多廟一、其鬼亦不レ能レ爲レ害、這是他見得無二這物事一了、上蔡云、可者欲二人致一レ生之故、其鬼神不可者欲二人致一レ死之故、其鬼不レ神可レ見、鬼神不レ能二自神一、所二以神不神一、由二人心向背一也トイヘリ、愚按神因レ人顯二其功一、其人正則惡鬼不レ得レ爲レ怪、其人邪則妖鬼亦顯二其靈一ノコトワリナレバ、唯聖人所レ定祭祠ノ禮ヲ以テ天下ノ鬼神ヲタヾスニアルベキ也、然レバ其邪正ヲ明ニシテ民間ニホシイマヽニ神祀ヲ立ルコトヲ禁ズルコト風俗ノ要政也、

○問云、祭祀ノ禮古來ヨリ其制アリトイヘドモ、未レ盡二其實理一ガユヘニ、只古典ニマカセテ其ユヘンヲ

不レ知、若人ノ靈相ノコリテアリト云バ、性心ハ氣質ノ外ナリト可レ云也、性心ハ氣質ニ屬ストイワバ、形氣既ニヤブル、何レノ處ニカ此鬼神アツテ祭祀ヲ可レ饗ヤ、シカレバ唯本ヲ報ジ、遠ヲ追ノ道其シカタ計ノコトナルニ似タリ、

答云、丘文莊云、按祖考精神自レ有レ生以來、禪續承傳以至ニ於今日一、子孫之精神卽祖考之精神、而祖考之精神又卽其所レ承ニ祖考一之精神也、先儒謂、人之精神萃ニ於廟一、先王設ニ爲廟祧一以聚ニ祖考於其間一而子孫致ニ其孝享之誠一、上以承ニ祖考氣脈之傳一、下以爲ニ子孫嗣續之地一、使ニ其精神萃聚凝結而常不レ散、繼承而永不レ絕也トイヘリ、マコトニ子孫ノ先祖ヲ祭祀センコト其コトワリアルコト也、凡ソ天地ノ形氣ヲカリテ今日此生アリ、スデニ死スルトキハ形氣散ジテ氣ハ昇リ、質ハ降テ各天地ノ陰陽タリ、コヽニヲイテ廟ヲカマヘ主ヲ立テ、祖考ノ神ヲコヽニアツメテ以テ子孫祭祀ノ實トス、故周易ノ萃ノ卦ニ王假有レ廟、致ニ孝享一也ト出タリ、シカレドモ祭祀ノ子細ハ學者格致ノ功ツミ、其至誠ヲ以テコレヲ論ゼザレバタヤスク通ズルコトニ非ズ、聖人ノ敎ハ引テ不レ發處アリ、學者自省テ其實ヲ得ンコトヲ欲スレバナリ、サレバ祭祀ノ實ハ學者格致ノ功ニヨツテ一尺ニハ一尺ノ誠、一寸ニハ一寸ノ誠ヲ可レ得也、今ソノ大槪ヲ記スノミ也、禮ニ孔子曰、之レ死而致レ死レ之、不仁而不レ可レ爲レ之也、之レ死而致レ生レ之不知而不レ可レ爲也、是故竹不レ成レ用、瓦不レ成レ味、木不レ成レ斲、琴瑟張而不レ平、竽笙備而不レ和、有ニ鐘磬一而無ニ簨虡一ト出タリ、又謂下爲ニ明器一者知中喪道上矣備レ物而不レ可レ用也、哀哉死者而用ニ生者之器一也、不レ殆ニ於用一レ殉乎哉、其曰ニ明器一神ニ明之一也、塗車芻靈自レ古有レ之トナリ、コヽヲ以テ考ルニ死セリトスルハ、孝子ノ心ニアラズ、又生リトセバ甚不知シテツイニ殉死ヲ用ユルゴトクニ至ルベシ、是聖人禮ヲ定メテ其過不及ヲ節シテツイニ祭祀ノ禮ヲ定ム、人死シテ喪ヲ行ノ閒死者ノ氣未レ散ヲスラ生ケリトスルヲ不知トス、況ヤ祖考形氣去テ久シキヲ、必ズ祭祀ニ享ル處アリト、生ルヲモイヲナサンコトハ、聖人ノ道ニアラズ、然レバトテナキコトナリト云ハ、甚不仁ノ至リ君子大ニ戒シムル處也、故ニ夫子モ祭如レ在トノ玉フ、中庸ニ事レ死如レ事レ生、事レ亡如レ事レ存トモ云リ、祭義曰、霜露既降君子履レ之、必有ニ悽

愴之心一、非三其寒之謂一也、春雨露既濡、君子履レ之、必有二怵惕之心一、如レ將レ見レ之（先儒云霜露既降上脱二一秋字一乎）亦曰、致二齋於内一散二齋於外一、齋之日思二其居處一、思二其笑語一、思二其志意一、思二其所一レ樂、思二其所一レ嗜、齋三日乃見下其所二爲齋一者上、祭之日入レ室、僾然必有レ見二乎其位一、周還出レ戸、肅然必有レ聞二乎其容聲一、出レ戸而聽愾然必有レ聞二乎其歎息之聲一ト出タリ、是皆其誠ヲ以テスルガユヘニ如レ在ノコトワリナリト可レ知也、

○問云、祭祀スルトキノ心得イカヾ可レ仕ニヤ、

答云、コレ乃如レ在ノコトワリナレバ、直ニ祖考ノ神靈ニ相對スルノ心ヲ以テスベシ、シカラザレバ孝子孝孫ノ實ニアラズシテ、人心相アツマル事ナシ、人心アツマラザレバ鬼神コレヲウクベカラズ、廟ト云神ノ主ト云、皆鬼神ノ散離スルヲアツムルノコトワリナレバ、人心モ亦コヽニヲイテ不二紛亂一、サレバ益曰、至誠感レ神、又商書ニ伊尹曰、鬼神無二常享一、享二于克誠一トイヘリ、神ヲ感ゼシムルニハ此誠ヲ以テ本トス、誠ソナワルトキハ神無レ不レ感ト可レ知也、祭義云、唯孝子爲二能饗一レ親、祭統ニ、夫祭者非三物自レ外至者一也、自レ中出生二於心一者也、必怵而奉レ之以レ禮、是故唯賢者能盡ク二祭之義一ト出タリ、コヽヲ以テ祭ルニ誠ヲ以テシ、ソノ法禮ヲ詳カニセバ、内外一致シテ神ノ感格ウタガフベカラザル也、

○問云、祖考祭祀ノ禮、當時ノ通法ヲ承知センコトヲ願フ、

答云、禮云、凡治ツレ人之道、莫レ急二於禮一、禮有二五經一、莫レ重二於祭一ト出タリ、周禮太宰以二八則一治二都鄙一、一曰、祭祀以馭二其神一、又太宗伯之職掌二邦之天神人鬼地示（與祇同）之禮一、以佐レ王建二保邦國一、以二吉禮一（祭二鬼神一曰二吉禮一、凡其別十有二）事二邦國之鬼神一、是各祭祀ヲ重ズルノユヘ也、凡ソ祭ルニ其誠ヲ以スルトキハ、犧牲玉帛ソナワラズ、籩豆簠簋ヲマフケズトモ鬼神コレヲウクベシ、苟有レ明信澗谿沼沚之毛、蘋蘩薀藻之菜、筐筥錡釜之器、潢汙行潦之水、可レ薦（スヽメツ）二於鬼神一、可レ羞（スヽメツ）二於王公一トハコノ心ナルベシ、シカレドモ祭祀ニソノ道ヲツクサヾレバ、亦聖教ノ至ニ非ズ、凡古ノ禮ハ、今ノ世ニ用ガタキコト多シト、先儒是ヲ論ズ、況ヤ中華ノ古例ヲ以テ、本朝ノ今ヲ準擬スベキコトハ君子ノ致ス處ニ非也、シカレ共三代ノ聖王人情ニ因テ、制作アリシ禮儀之深意二ヲ不レ詳トキハ、祭禮ノ實ヲ不レ可レ得ナレバ、時異

勢殊ニシテ風土甚不レ同ト云ドモ、斟酌參挹セバ其ノリナクンバアラザル也、祭ト云ヘルハ四時ノ仲月ニ日ヲトシテ祭器祭服ヲト、ノヘ、有司諸役人ヲアツメテ、犧牲玉帛ヲマウケ、コレヲ祭祀スルコト也、穀梁傳云、宮室謂二齋宮一不レ設不レ可二以祭一、衣服不レ備不レ可二以祭一、車馬器械不レ備不レ可二以祭一、有司一人不レ備二其職一不レ可二以祭一トハコノコト也、コ、ヲ以テ大夫士宗廟之祭有レ田則祭、無レ田則薦トイヘリ、薦トハ時ニトツテ新物ヲ奉ルコト也、祭ニハトレ日而薦レ新、不レ擇レ日ノ法也、コ、ヲ以テイワバ士庶人ノ食祿マデニシテ菜地アラザラン輩ハ、祭ルト云ハルニ不レ可レ及コト也トイヘ共、子孫ノ身トシテ其分限相應ノ祭薦アランコト、亦人情ノ不レ可レ已道ナレバ、此禮ヲロソカニ不レ可レ究、近クハ伊川ノ程子斟酌シテ大概ヲ論ジテ曰、家必有レ廟、廟必有レ主、月朔必薦レ新、時祭用二仲月一、冬至祭二始祖一、立春祭二先祖ヲ一季秋祭レ禰、忌日遷レ主祭二于正寢一、凡事レ死之禮、當レ厚二于奉二生者一ト、是士庶人ノ常祭也、コ、ヲ以案ズルニ異朝ノ忌日ト云ハ、一年ニ一日ヲ用テ每月其日ヲ不レ用、本朝ニモ古ハ國忌ト號シテ、一日ヲ用トイヘドモ、今每月其日ヲ以テ祖考忌日トス、是近代ノ風俗也トイヘドモ、尤モ孝子慈孫是ヲ用ユルニタルベシ、マコトノ正忌ニ非トイヘドモ、既ニ其日ノ數相ノレルトキハ子孫是ヲ忍ニタヘズ、是亦人情思レ親ノ實ナレバ、祭祀ニ日ヲトスルニ不レ及、四時各此日ヲ以テコレヲ祭ランコト禮ニ近カルベシ、中ニモ仲月首月ハソノ心得アルコト也、コトニ忌日ニヲイテヲヤ、是祭祀ノ時也、尤朔望ニハ只奠茶燒香シテ禮拜スルコト謁レ親ノ道也、年中ノ五節句等ニハ新菓新物ヲ獻ジ、ソノ時ヲ告奉ルベシ、彼祭二始祖一祭二先祖一等ノコトハ士庶人ノ禮ニアラズ、此禮朱子既ニ立テ爲二二祭一載二于家禮時祭之後一、其門人楊復乃謂、朱子初年亦嘗行レ之、後覺二其似一レ僭不二敢祭一ト云ヘリ、古者宗廟之制大夫三士二庶人祭二于寢一ト云レバ、士庶人トシテ始祖先祖ノ祭祀ハ禮ニ中ルベカラザル也、王父母ヲ祀ルコト唯ソノ忌日ノミヲ以テスベキ也、凡ソ祭不レ欲レ數、數則煩、煩則不敬也、祭不レ欲レ疏、疏則怠、怠則忘トイヘルハ、孝子ノ心ニ亡親ヲ思フコト日トシテ忘ルベキニ非ザレドモ、思ヒ出スタビゴトニ廟ニ至リ、拜禮謁告セントセバ必ズ煩縟シテケガサズンバ非ズ、故ニ天ノ時一月ニ朔望ノ

小變アリ、一時ニ二月ノ大變アリ、此時ヲ以テ此禮ヲ行フコトコレ天道ニノツトツテ、コノ則ヲ立ルノ禮也、次ニ廟ノ事古來其說アリトイヘドモ、士庶人コヲ用ユルニ不レ及、只祠堂ヲマフクルニ有、曲禮ニ君子將レ營ニ宮室一宗廟爲レ先ト出タリ、虞書ニ正月上日受ニ終于文祖一ト云ヘルハ、萬世人君祭廟ノ初也、サレバ小宗伯之職掌レ建ニ國之神位一、右ニ社稷一左ニ宗廟一、コレ人君宗廟ヲ崇ノ道ナリ、若祠堂ヲ安置スルコト不レ能トキハ、一間ナル淸潔ナラン、閑處ニ神主ヲ安ゼンコトモ可也、次ニ祭器祭服ノコトハ古來其說多シ、曲禮凡家造ニ祭器一爲レ先（家造謂ニ大夫始造レ家事一也）又曰、無ニ田祿一者不レ設ニ祭器一、有ニ田祿一者先爲ニ祭服一、君子雖レ貧不レ粥ニ祭器一、雖レ寒不レ衣ニ祭服一、爲ニ宮室一不レ斬ニ于丘木一ト出タリ、朱子曰、籩豆簠簋之器、乃古人所レ用、故當時祭享ニ皆用レ之、今以ニ燕器一代ニ祭器一、常饌代ニ俎肉一、楮錢代ニ幣帛一、是亦以ニ平生所一レ用、是謂レ從レ宜也、丘文莊曰、人子之事レ親、當ニ事レ死如レ事レ生、事レ亡如レ事レ存、吾之祖考平日所レ用之器皿如レ此、所レ被之衣服如レ此、及ニ其死亡一也、而亦別爲ニ器與一レ服以事レ之、豈不レ駭ニ其見聞一哉、古人生用ニ几筵俎豆一、則死亦用レ之以事レ之、今人之生所レ用者、卓倚杯盤、死所レ用者亦當レ以ニ卓倚杯盤一、是則朱子所謂從レ宜者也ト、是亦先儒ノ所レ謂也、今案ニ祭器ノコト異朝ニハ色々ソノ制アリトイヘドモ、後世用レ之ガタシト也、況ヤ本朝ハ風俗又コトナレバ、異朝ノ制用ユベキニ非ズ、然レバトテ今用ル處ノ俗器ヲ用ンコト、又道ニ不レ可レ叶、幸今陶瓷ノ器皿、イサギヨキ多ク、其形亦ソノ制宜シキアレバ、是ヲ以テ器皿トシ、卓倚ヲ新シクカマヘ、槃臺高潔ナラシメバ、時宜相應ノ用タルベシ、必ズ古制ヲ以スルモ亦駭ニ其見聞一コトヲヲソルトイハンモ、トモニ過不及タルベシ、唯家ノ尊卑財ノ有無ヲ以テ時勢ニシタガウノ用捨アラン事也、次ニ祭祀ニハ古來血食義アリ、故ニ牛羊ヲソナヘテイケニエトシ、鷄豚ヲコロシテコレヲ奉ズルハ異朝ノ制也、本朝ノ今ハ牛羊鷄豚ヲ用ユルコトナシ、コトニ世俗久シク浮屠ニナラフテ、蔬食素饌ヲ具ヘ奉ル事又當時ノ例也、士庶人タラン輩俗ヲ背テ事ヲナシ難シ、公卿大夫ニイタラン人ハ、珍味嘉肴ヲ以テ祭祀センコトモ時宜ニヨルベシ、珍味嘉肴ヲソナフルハソノユワレアルコト也、第一生ケルトキニ馳走セシムルノ饗應コレヲ用ヒ來レ

リ、コトニ血祭ハ血氣ヲ以テ神ヲ來ラシムルノ道アリ、神明ニ交ワルノユヘアレバ、古來ヨリ作法アリトイヘドモ、絶テ久シキ義ニシテ俗ノ不レ通コトナリ、又蔬食ヲ用ト云トモ害アルベキコト不レ在バ、唯下トシテハ俗ニソムカザルヲ以テ道トスベキ也、蔬食タリト云トモ珍味ヲヱラビ清潔ナラシムベシ、不レ事ニ鹽梅一禮ニ大羹ハ不レ致トテ天ヲ祭ニハ肉汁計ニテ不レ致ニ五味一ト云リ、然バ祖考祭ルニモ唯其清淨ノ誠ヲ事トスベシ、鹽梅ヲ事トスルハ生ル人ノワザ也、其氣ヲ以テ祭ノ用トスベキ也、汁甇（シルサイ）ノ禮平日ノ禮饗用ユベシ、尤我尊卑ニ従テ饗應ノ禮アルコト平日ヲ以テ準據トスベシ、酒茶菓餅亦常ニコトナルコトナシ、唯燒香ヲ以テ事ス、是其氣ヲサカンナラシムルユヘ也、次ニ祭祀ニハソノ身ヲ主人ト定メソノ妻ヲ主婦ト云、兄弟子孫相アツマッテ主人主婦之禮ヲ相タスク、他人ハコレニ不レ交也、次ニ祭ルベキ前三日ニ齋戒シテ不レ茹レ葷、不レ弔レ喪、不レ聽レ樂、凡ソ觸穢ノ義ヲ忌衆會大笑歌嘯スルコトヲ禁ズ、魚味ヲユルシ酒ヲノマシムルコトアリトイヘドモ、實ハ酒肉ヲ禁ズベシ、齋戒ノ禮シナ〴〵アルコトアリ、然シテ祠堂ノ掃除自ラ是ヲ省、祭器祭物ヲ出シテ、主人主婦自コレヲ洗拭シテケガラハシカラシメザルベシ、尤蔬菜ノ具自コレヲ省テコレヲ調切ルモノドモ皆沐浴禮服セシムベシ、ソノ前日ニ至テハ再祠堂、并祭器祭物蔬菓酒饌ヲ省リミ料シ、再沐浴明衣シテアクルヲ待、アケボノニ及デ禮服ヲソナヘ、盥漱ヲツクシテ事ヲ行ベシ、次ニ未明奉レ主ジテ就レ位、降レ神燒レ香、具レ茶而後進レ饌、初献二獻三獻（二獻曰亞獻三獻曰終獻）アッテ而シテ撤レ饌、菓茶ヲ新ニス、午刻ヲ過ルトキ又晩炊ヲ獻ズルコト如レ朝、三獻ノ禮アリ菓茶又新ニス、此間珍味珍餅（羹イ）ヲタテマツリテ日既ニ晩景ニ及バントキ、以レ日入爲レ期撤レ饌、各燒香拜禮稽首シテ、而シテ後ニ辭レ神納レ主テ、ソノアトニヲイテ受レ胙ノ禮ヲナス、若朝夕ノ間久シカラントキハ暫降レ簾闔レ戸テ神主ヲ安ンズルコトアリ、禮既終テ各退出ス、若祖考ノ親友等ハ次ニ至テマツリヲ助クルコトアリ、燒香拜禮スルコトアリ、時宜ニヨルコト也、次ニ祭祀ハ夜ニ至ルマデハ不レ仕モノ也、祭祀ヲワルトキハ自禮服ヲユルメ、猶祠堂ノ中ニアッテ追遠懷舊シ、給仕ノ男女ヲイコヘ、自省テ而後ニ祠堂ヲカタメ、休處ニ入ルベシ、コ

トヾク其誠ヲツクサヾレバ祖考神ヲ安ズルコト不レ能ト可レ知也、是通禮ノ大概ナリ詳ニ文公ノ家禮ニ出タレバ、コレヲ考テ其用捨アルベキ也、凡ソ仕官ノ輩家職アル庶人如レ此ノ大義毎月ツトムルコト不レ可レ叶、ツトメントセバ公用ニイトマナカルベシ、故ニ只一年一日ノ忌日ヲ用ユ、イトマアラン人ハ四時ノ仲月ニ可レ仕也、毎月ノ忌日ニハ唯正祭ヲ省テ時宜ニ可レ從也、父母ノ方ニツイテモ父母ノ忌一年ニ四日、是ハ正祭タルベシ、若忌日ヲ不レ知バ日ヲ選テ可レ用、月ヲ不レ知バ四時ノ仲月タルベシ、古來ノ祭禮ハ以前ニ云ゴトク、四時ニコレヲ用テ祭ノ日ハ高祖ヨリ先考ニ至ルマデ、其位ヲマフケテコレヲ祭ルコト先例ナリトイヘドモ、本朝ノ今コレヲ用ヒガタシ、故ニ此說ヲマフクル也、

○問云、今キクトコロノ如キハ、祖考各其忌日ヲ用ヒテ合祭ノ義ナキニ似タリ、

答云、祖考ヲ合祭ノ義凡ソ祫ト云、祫ハ於ニ太祖廟ニ合ニ群廟之主ニマツルヲ云也、前ニ云ヘル如ク、高祖ヨリ考妣マデハ四時ツチニ祭レリ、高祖以前數十代トモニコレヲ祧ト云、祭法ニ遠廟ヲ祧トスト出タリ、天子諸侯トモニ高祖ノ外廟ハ皆コボツテ主ヲ一處ニアツメヲクコレ祧也、コノ祧ノ主コトヾク奉レ出ニ大祖ノ廟ニマツルヲ祫ト云、則合祭也、然バ凡人ノ仕ルコトニ非也、本朝ニハ浮屠ノ說ニチナミ、七月中旬上下各靈祭ト號シテ、先祖ノ靈鬼ヲ吊慰、是乃合祭ノ心ナルベシ、コレニチナミテ考ニ、七月ハ秋ノ初陰氣旣長ジ、其意蕭條トシテ悽愴之心アリヌベキ時也、中旬ハ陰ノ盛ナル節ナレバ、コノ時ヲ幸ニ孝子孝孫ノ志高祖マデヲ合祭可レ仕ニソノ時勢アリ、故ニ此時必四世ノ親ヲ合祭シテ孝ヲ盡サンコトマコトニ難レ有コト也、今ノ人祖父ヲ知ルノ外曾祖高祖ヲシルモノ殆希也、タトヘ其名字ヲシラザルト云トモ、祖考氣脈今日傳來スル處我ニアレバ、一年ニ一度ノ祭禮ソノマコトヲ不レ盡バアラザル也、但祭祀ノ厚薄ハ親ノ遠近ニ可レ從也、問今人不レ祭ニ高祖ニ如何、程子曰、高祖自有レ服不レ祭甚非、某家却祭ニ高祖ニ、又曰、自ニ天子ニ至ニ於庶人ニ、五服未ニ嘗有レ異、皆至ニ高祖ニ服旣如レ是、祭祀亦須レ如レ此、朱子曰、考ニ諸程子之言ニ則以ニ高祖有レ服不レ可レ不レ祭、雖ニ七廟五廟ニ亦止ニ於高祖ニ、雖ニ三廟十廟ニ、以至レ祭レ寢、亦必及ニ於高祖ニ、但有ニ疏數不レ同耳、此最

為レ得ニ祭祀之本意一今以ニ祭法一考レ之、雖レ未レ見下祭必及ニ高祖一之文上、然有ニ月祭享嘗之別一、則古者祭祀以ニ遠近一為ニ疏數一、亦可レ見矣、今案程朱所レ論如レ此、シカレドモ大傳ニ所レ出ヲ考ルニ諸侯及ニ其太祖一、大夫士有ニ大事一、省ニ於其君一、干祫シテ及ニ其高祖一ト出タリ、コヽヲ以テ云トキハ大夫士ハ高祖ヲ祭ルコトヲ不レ得、君ニ尋子問テユルサレヲ蒙トキハ高祖マデ祭ルトアルナレバ、ワレニ有レ服ト云トモ不レ得レ祭コト又聖人ノ禮也、然レバ大夫士ハ只曾祖ニトドマリテ高祖ニハ及ブベカラザル也、況ヤ庶人ハ又遠慮仕ルベキナレバ如レ此ノ處ニ詳ナラザレバ、禮用ヲ得ルニ非ズト云ベシ、

○問云、墓祭ノコトイカガ仕レルコトニヤ、

答云、墓祭ハ古ノ道ニアラズ、禮經ニ無ニ墓祭之文一、シカレドモ墓ハ先人ノ遺骸ヲヲサメタル地也、愛敬甚深、祖考ソノ遺骸ヲ廣原野外ニヲサメ、世ト間隔セシメテ、風寒暑濕ノ變年月ノ推移ニシタガヒ、孝子慈孫コレニ參詣セバ、其時ヲ思ノ志不レ得レ已ノコトワリナリ、コヽヲ以テ云トキハ古無レ之ト云トモ、其道不レ得レ已ノユヘアレバ墳墓ニイタッテ自饋奠ノソナヘナクンバアラズ、コレ人情ノ常也、故ニ朱子家禮ヲ定ムルニ墓祭ノ説ヲ出セリ、是程子ノ志ヲツイデアラハス處也、然ルニ墓祭ノ事異朝ニハ三月寒食ノ節ヲ用ユ、コレサシテ子細アラザレドモ風俗コレヲ用ヒ來レリ、本朝ニハ浮屠ノ説ニヨッテ七月十四五日ヲ以テ上下ノ男女祖考ノ墳墓ニ至リ、掃灑ノ手向アルコト中古ヨリシカリ、コヽヲ以テ云トキハ墓祭乃七月中旬ヲ用ヒテ可也、此日拜掃ノ禮ナクンバアラズ、コヽヲ以テ兼日ニ墳墓ヲ掃灑修複セシメ其日ニ至テ參詣セシメ、燒香ヲイタシ菓茶ヲソナヘテ追レ遠懷レ舊コト、人ノ子タランモノ不レ忍ノ誠ト云ベシ、但シ文公家禮ニ出ル處ハ於ニ墓上一具レ饌祝辭ヲナスコトアリト云ヘドモ、本朝ノ墳墓皆釋氏ノ寺裏ニ屬シテ、此事ヲ行フベカラズ、故ニ大夫士庶人ハ時宜ニ可レ從、若原廟上陵ノサタニ於テハ各別タルベキ也、原廟ト云ハ本廟ノ外ニ陵ニ又廟ヲタテ、是ニ亡者ノ衣冠等ヲ、サメ置、コレヲ陵寢ト云ヘル也、原ハ再也ト註セリ此禮古ニハ無レ之、廟ニツイテ寢殿アリ前ヲ廟ト云、後ヲ寢ト云、コヽニ亡者ノ衣冠諸器ヲ、サム、周禮守ノ祧掌守ニ先王先公之廟祧一トハコノコトナリ、

コ、ニ漢明帝永平元年ニ自率ニ公卿以下ー朝ニ于原陵ートイヘリ、コレヨリ前ハ原廟計アッテ、サシテ祭モアラザリシカドモ、明帝哀慕ノ餘リ此禮ヲ行ヒ玉フ、是ヲ上陵ト云、乃墓祭ノ義也（前叔孫通傳、惠帝詔ニ有司ニ重立ニ原廟、注原重也、先有レ廟今ニ更立レ之、故曰レ重也、詳出ニ朱子語類五十四之二葉ー）宋志云、古者無ニ墓祭ー、秦漢以降始有ニ其儀ー、至レ唐有ニ清明設レ祭、朔望時節之祀、進食薦衣之式ー、丘文莊曰、禮經無ニ墓祭之文ー、然自ニ漢明帝昔有ニ上陵禮ー、自時厥後、遂以成レ俗、柳宗元謂、近世禮重ニ拜掃ー、毎レ遇ニ寒食ー、田野道路士女、徧滿阜顯庸丐、皆得レ上ニ父母丘墓ー馬醫夏畦之鬼、無下不レ受ニ子孫追養ニ者上、唐人亦有レ詩、墳上無ニ新土ー、此中白骨應レ無レ主之句、是寒食墓祭、吾祖宗父母其生時、固已行ニ之子其祖宗父母ー、而爲ニ祖宗之後父母之嗣ー者、乃舍ニ其丘隴ー而歲不ニ一展省ー、棄ニ其留骨ー而時不ニ一奠薦ー、乃諉レ之曰ニ墓祭非レ古也、可乎、又曰、上陵之禮三代以前雖レ不ニ經見ー、然自レ漢以後歷代相承、莫レ不ニ敢廢ー非レ不レ敢也、蓋不レ忍也、在ニ漢初ー天子雖レ不ニ躬行ー、然奉常屬官有ニ寢園令長丞ー、又有ニ園郎寢郎ー、園中各有ニ寢便殿ー、日祭ニ於寢ー、時祭ニ於便殿ー、寢日四上レ食、丞相以ニ四時ー行レ園、光武自ニ建武六年ー至ニ二十二年ー、凡三幸ニ長安ー、皆有レ事ニ于十一陵ー、則固躬詣レ陵行レ禮也、但未レ立ニ定制ー爾、唐開元禮有ニ天子上陵儀注ー、又歲有ニ清明設レ祭朔望時節之祀ー、宋又行ニ於春秋ー、歲以爲レ常、我朝上陵之禮、歲凡三擧レ焉、清明也、中元也、冬至也、毎レ遇レ行レ禮、文武諸司各遣ニ官一員ー、而以ニ親王或駙馬都尉ー、主ニ祀事ー、天下無レ事、天子於ニ清明日ー、亦時或一行其忌日則惟遣ニ駙馬ー、而百官不レ與焉、其或藩主有ニ來朝者ー、亦許ニ拜謁ー、孝陵在ニ南京ー、內外臣僚有レ事、經過者必先拜謁、否則有レ罪、

○問云、墳墓ト廟ト、何レヲ貴トセンヤ、

答云、墳墓ハ形體ヲヲサムル處ナリ、神既ニ去故ニ形體タヲレテ主ナシ、コレヲ貴處ナシトイヘドモ、コレ又孝子孝孫ノ不レ可レ忍處ナルガユヘニ、コレヲ藏ニ墳墓ヲ以テス廟ヲ立テ主ヲ置テ鬼神ヲコヽニ寄セアツム、故ニ墳墓ハ體魄ノ宅トシ、廟ハ靈神ノアツマル處トス、コヽヲ以テ祭祀スルコト、皆廟ニアッテ墳墓ニ於テセズシカレドモ、祖考ノ體魄コヽニ宅セルノ地、孝子孝孫コレヲ何心ナクステ置ベキコトワリニ非ズ、コノユヘニ周禮ニ家人ノ官アッテ以テ墳墓ノコトヲ司ドル、シカレバ墳墓又ヲロソカニスベキニ非

ズ、既ニ大歛小歛ノ義アリ、棺槨ノ制明器ノコト、コト〲ク是體魄ヲ以テ死セリトイタスニ不レ忍ノ用法也、シカレドモ廟ハ靈神ノアツマル處ナレバ、廟ノ神主ヲバヲイテ墳墓ヲコト、スルハ禮ニ非ズ、本朝ニハ廟制中絶シテ祭祀ノ道不レ明ガユヘニ、唯墳墓ヲ貴デ廟祐ヲ事トセズ、墳墓ヘ往來遠ガユヘニ祠堂ヲマフケテコトヲ執行ト心得ル、是本末ヲトリチガヘタル也、必竟聖教不レ明ガユヘナリト可レ知也、朱子曰、蔡邕謂、上陵亦古禮、明帝猶有ニ古之餘意一、然此等議論、皆是他講レ學不レ明之故也、他只是偶見ニ明帝之事一、故爲ニ是說一、然何不レ使三人君移ニ此意於宗廟中一耶、胡寅亦云、明帝此擧蓋生ニ於原廟一、蔡邕不三折衷以ニ聖人之制一、而直論ニ其情一、情豈有レ既哉、

○問云、古來祭祀ニ尸ヲ用ユルハイカン、

答云、尸ヲ用ユルコトハ古ノ禮也、禮曰、君子抱レ孫不レ抱レ子、此言孫可三以爲ニ王父尸一、子不レ可ニ以尸一、曾子問曰、祭必有レ尸乎、孔子曰、祭成レ喪者必有レ尸、尸以レ孫孫幼則使ニ人抱一レ之、無レ孫則取ニ於同姓一可也、公羊傳何休註曰、禮天子以レ卿爲レ尸、諸侯以ニ大夫一爲レ尸、卿大夫以下以レ孫爲レ尸トイヘリ、只始死之奠釋奠殤祭ニハ尸ヲ不レ用也、朱子曰、神主之位東向、尸在ニ神主之北一、又曰、古人用レ尸本與レ死者、是一氣云々、シカレバ尸ハ神ノ靈ヲコ、ニアツメテ祭ルモノ、心ヲ一ナラシムルノ道也、祭ルニ其所レ向ニ物ナキトキハ、祭ルモノ、心不レ萃、アツマラザレバソノ誠不レ至、故ニ尸ヲマフクル也、尸ヲマフケントナラバ、孫ヲ立ルコト昭穆ノツイデ宜シ、（昭穆之義出ニ下章一）シカモ同一氣ニシテ神氣相ヨルニ便リアレバナリ、唐ノ杜佑ガ說ニ、上古ノ時、中國與ニ夷狄一一般、後世聖人改レ之、有ニ未レ盡者一、尸其一也、蓋今蠻夷洞中亦有レ此、但擇ニ美丈夫一爲レ之、不レ問ニ族類一トイヘリ、案ズルニ聖人ノ教祭祀ヲ以テ大禮トス、シカラバ此尸ハ祭祀ノ第一ナレバ、聖人未レ盡ト云ベカラズ、杜佑ガ說尤アヤマリ也、蠻夷モ亦人情ノマコトナクンバアラズ、誠アルトキハ祭祀アルベシ、祭祀スルトキハ神ナクンバアラズ、故ニ此尸ヲマフクトイヘドモ其道ヲ不レ知ガユヘニ、立レ尸ノ禮ヲ不レ盡ノミ也、シカレバ尸ヲ立ル事神ヲ寄託シテ祭ルモノ、其誠ヲ以テスルノ道尤明也、後世ニ及テ尸ヲステ多ハ塑像ヲマフケ、泥土木銅ヲアツメテ膠漆采色ノ形ヲナシ、傳神ノ圖ヲマフクルコト古

ニ非ズ、シカリトイヘドモ祭ルモノ、心ヲ主一ナラシメンノタメニハ其道ナキニ非ズ、但木主ノ清潔ニシテ觸穢ナキニハシカザル也、昔伊川程子論㆓人家祖宗影㆓云、有㆓一毛不㆑類、則非㆓其人㆒、彼親見㆓其人㆒、而貌之有㆔毫髪不㆑肖、似㆔尚非㆓其人㆒トイヘリ、シカレバ工匠ノ心ニマカセ手ニシタガッテ其像ヲツクランコトハ尤タガヒ多カルベシトイヘドモ、必ズ形體似ト不㆑似トニアラズ、只木主ヲ立テモ神コレニ寄託ス、況ヤシバラクモ其容貌ノ似タル所ニアランニハ、孝子順孫哀慕ノ誠切ナラン事甚重ナルベシ、コヽヲ以テ云バ天子諸侯ハソノ像ヲ用ユルニモタリヌベシ、大夫士庶人ハコレヲ用ユベカラス、是乃禮タルベシ、程子一毛不㆑類ノ論コレヲトルニ不㆑足也、先儒云、塑像之設中國無㆑之、至㆔佛教入㆓中國㆒始有也、三代以前祀㆑神、皆以㆑主無㆑有㆓所謂像設㆒也トナリ、三代以前ナキコトニシテ今有㆑之コト尤多シ、佛教ヨリ事ヲコリテモ今日用㆑之テ害ナキコトアルベシ、必後世ノ事物不㆑可㆑用ニアラズ、異教ノサタ不㆑可㆑取ニ非ズ、唯詳ニ格致イタシ、聖教ヲ本トシテ今日ノ時宜相合、人情ノ相通ズル處ヲ以テ定制トスベキ也、

○問云、孝子ノ心事㆑死如㆑事㆑生スベシ、シカラバ日日奉㆑饌拜㆓謁廟㆒センコトモクルシカルベカラズヤ、

答云、日祭月享ト云ヘルコトハ國語ニ出タリ、楚語云、古者先王日祭月享時類、（韋昭云、日、祭㆓於祖考㆒、月祭㆓於曾高㆒、時類及㆓二祧㆒、歳祀㆓於壇墠㆒、）又祭法ニ天子諸侯月祭ノ説アリ、朱子曰、左氏云、時祀㆓於寢㆒而國語有㆓日祭之文㆒、是主㆓復寢猶日上㆑食矣、又曰、國語日祭月祀、時享既、與㆘周禮祀㆓天神㆒祭㆓地祇㆒、享㆓人鬼㆒之名㆖不㆑合、韋昭又謂、日上㆓食於祖禰㆒、月祀㆓於高曾㆒、時享㆓於二祧㆒、亦但於㆓祭法㆒略相表裏、而不㆑見㆓於他經㆒トナリ、コヽヲ以テ案ズルニ、天子諸侯ハ祭祀ニ其官人ヲ定、其祝（ハフリ）祠ヲソナフヲ以テ日々ニ平日ノ如ク禮ヲ盡シ玉ハンコト尤モ可㆑然、シカレドモ是原廟ニヲイテソノ寢所ニテコトヲ行ハルルコト古ノ禮ニテ正廟ニ事アルニ非ズ、唯毎日奉㆑饌テ生ルトキノ如クナラシムルノミ也、士庶人ハコレニ不㆑同、朔望月忌（毎月之亡者日）一年ノ忌日ヲ以テソノマコトヲ可㆑盡、朝夕ノ拜謁進饌生ルトキノ如クナラントト云コトハ、事㆑死ノ道ニ非ズ、事㆑死如㆑事㆑生トハ如㆑此コトヲ云ニ非ズ、祭ルコトシバ〱スルトキ

ハ、却テ神ヲケガスノコトワリナレバ、タトヘ我情其厚ニ過ル處アリト云トモ、コレヲ正スニ禮ヲ以シテ、ソノ情ニマカセザルコト是聖人ノ道也、坊記云、喪禮毎レ加以遠、浴二於中霤一、飯二於牖下一、小三斂於二戸内一、大二斂於阼一、殯二於客位一、祖二於庭一、葬二於墓一、所二以示レ遠也、云心ハ喪ハイマダ死者ヲサルコト近トイヘドモ、コレヲ孝子ノ情ニマカセテ形體ヲモ傍ヲ離タジトセバ、ソノ情厚シトイヘドモツイニサテアルベキニ非ズ、却テ氣疎スサマジクナルコトノ出來テソノ情ノ實ヲ失ニモ至リヌベケレバ、一事々々ヲイトナム度ゴトニ死者ヲ遠ザケ、ツイニケウトキ原野ニステ葬ルニナレルハ聖人ノ教也、サレバ禮因二人之情一而節文ヲナスト云ヘリ、先儒ノ論ニ毎日奠祭ハ三禮ノ正文ニ無二其義一只月祭ノ説出二祭法一ノミアリ、コレヲヤムベキ由、唐ノ景龍ニ其沙汰アリ、詳ニ文獻通考ニ出タリ、シカレドモ天子諸侯ハ其禮又大夫士庶人ニ同ジカルベカラザレバ、祝史祠部ソナワリテ日祭月祭ノ禮アランコト禮ニヲイテ可レ然コト也、古來禮書宗廟祭祀ノ禮タヘテ無レ之ガユヘニ、三禮説ト云トモ難二信用一、只時宜ヲ考ヘテ古今ヲ斟酌シ人情ニ由テ其禮ヲ立ルニアリ、只ソノ輕重ヲ詳ニスルニアルベキ也、本朝ニハ久ク浮屠ノ説ニナラヒテ祭祀ノ禮アラズ、舊記シバラクコレアリトイヘドモ、諒闇ノ事ハ憚テコレヲ詳ニセズ、故ニ其實儀不レ可レ知、況ヤ喪祭コトゴトク今浮屠ノ例ヲ事トシテ聖人ノ教ヲツクサズ、コヽヲ以テ情ノ厚ニ過ル輩ハ晝夜持佛堂ニ看經拜謁シテ日供ヲ事トスルニ至テ、其祭祀ヲケガラワスコトヲ不レ知、或ハ情ノ薄ニマカセテハ卒哭ニイタラズシテ酒宴游興ヲ事トシ、日夜ノ淫樂ヤムコトナシ、コレ厚キモノハ過テケガシ薄キモノハ鳥獸ニコトナラズ、此弊既ニ久シク人々以テ俗トスルガユヘニ、時宜コレヲ可ナリトス、末學ノ腐儒シバラクコレヲ志トスト云トモ、天命ツイニ定マリガタキコト也、

○問云、古來ノ廟制昭穆ノサタアラマシ承知センコトヲ欲也、

答云、古來ヨリ七廟昭穆ノサタハ異説多シ、詳ニ馬端臨文獻通考、又ハ丘瓊山大學衍義補等ニ出タリ、今其アラマシヲ論ズルニ尚書ノ大傳廟者貌也トイヘリ、云心ハ祖考ノ形貌ヲカタドリテ、此處ニ安置イタシ奉ルノ心ナリ、經書ニ廟ヲイヘルコトハ、周易ニ王

假ニ有廟ートト出タリ、虞書正月上日受ニ終于文祖ートアルハ人君祭レ廟始ナリ、商書ニ七世之廟可ニ以觀レ德トイヘルハ、伊尹ガ言ナレバ七廟ノ制スデニ殷ノ世ニアリ、周ニ始メテイタセル禮ニアラザル也、凡ソ天子ノ宮門ハ右ニ社稷ニ左ニ宗廟ニ天子三昭三穆、與ニ太祖之廟ニ而七、諸侯五廟二昭二穆與ニ太祖之廟ニ而五、大夫三廟一昭一穆與ニ太祖之廟ニ而三、士二廟、庶人祭ニ于寢ニト王制ニ出タリ、周禮小宗伯辨ニ廟祧之昭穆ートアリ、廟ノ飾リノ事、明堂位曰、山レ節藻レ梲、復廟重檐、刮楹達鄉、反坫出レ尊、崇坫康レ圭、疏屏、天子之廟飾也、穀梁傳、禮天子諸侯黝堊、大夫蒼、士黈、丹ニ桓公楹ー非レ禮也、刻ニ桓公桷ー禮也、天子之桷、斲レ之礱レ之加ニ密石ニ焉、諸侯之桷斲レ之礱レ之、大夫之桷斲レ之、士斲レ本刻レ桷非レ正也ト出タリ、然ドモ夏殷ノ制各異ニシテ周ノ明堂ノ制又不レ同、左傳ニ淸廟ノ茅屋ハ昭ニ其儉ー也トモ出タレバ、世々ノ聖主ニヨッテ損益不レ同トシルベシ、凡廟ト云トキハ禰廟ナリト云ヘリ、シカレバ外ハ祖廟ト云ル也、出ニ儀禮注ー月令ニ寢廟ト云ハ、前ヲ曰レ廟、後ヲ曰レ寢、廟ハ神主ノ座也、寢ハ衣冠ヲ所レ藏ニシテ以ニ人道ー事レ之、則有レ寢以ニ神道ー事レ之則有レ廟ト云ヘリ、祭ハ神道也、薦ハ人道也、コレツ子ニ心易ク拜謁ノ禮ヲナスノ地ヲ寢ト云、正祭ノ地ヲ廟ト云ヘルナリ、爾雅ニ廟寢ト云ハ又別也、廟ニ名アルコトハ漢ノ世ニ事起レリ、文帝自ノ廟ヲアラカジメ作ラシム、其制甚卑狹ニシテソノマヽ出來ル、顧望テ而成ナレバ自コレヲ名テ顧成ト云、コレヨリ歷代皆廟號アリ、祀ニ文王之廟ニ曰ニ淸廟ー出詩周之太廟ヲ曰ニ明堂ーコト古ヨリシカリ、周公ノ廟ヲ太廟ト稱シ伯禽ノ廟ヲ世室ト云、群公ノ廟ヲ宮ト稱スルハ魯國ノ禮ナリト公羊傳ニ出タリ、次ニ七廟ノコト漢儒ノ說不レ同トイヘドモ、大槩不レ出ニ兩義ー周ヲ以テ論ズルニ后稷ハ太祖ナリ文王武王ハ受命ノ君ナレバ、三世ノ廟ヲ立テソノ時親廟四以上是ヲ七廟ト云ハ、韋玄成等ガ說也、七者其正數可ニ常數ー者、宗不レ在ニ此數中ー苟有ニ功德ー則宗レ之、不レ可ニ預爲レ設レ數ト云ハ劉歆ガ說ニシテ荀卿・班固・王肅モコレヲ是トス。朱子又コレニ從フ、シカレバ七廟ハ定リノ三昭三穆ニシテ、文武ノ二廟ハ世室タリ、合セテ周ニハ九廟ヲ立ベシトイヘル議也、右兩說ノ內宋朝ノ大儒朱子スデニ劉歆ガ說ニ從テ此說ヲ是ナリトスルガユヘニ、諸儒一決シテ今以テ九廟

ヲツクルコトヲユルストイヘリ、末代淺見固陋ノ學者、禮家ノ細說ヲモ不レ究シテ此際ノ議論ヲ可レ入處ナシトイヘドモ、愚竊ニ按ニ兩義モ心得ガタシ、文武ヲ加テ七廟ヲ立ルコトハソノユハレアリトイヘドモ、必文武ヲ加ユルト計イヘバ、殷ノ七世廟ト云コトワキマヘ難シ、又文武ヲノゾイテ七廟ナリト云ハ有功有德ノ人ヲ、キトキハ十廟十餘廟ニモ至ルベシヤ、コトニ九廟ト云ヘルコト禮經ニ其文無レ之、シカレバ今王制ノ七廟說ト祭法七廟說トヲ合考フルニ、タトヘ天子タリトモ、太祖ノ廟親廟四ト合テ五ヲ立ツルコトハ必定ナリ、コノ上ニ天子ハ功德アラン先王大業受レ命、德功子孫可レ稱人ヲ兩人相立テ以上七廟マデアラシムベシ、天子タリト云トモ七廟ノ外ニ廟ヲマフケ玉ハンコトハ禮ニ中ラザル也、諸侯ハ親廟四太祖ノ廟一ツ合テ五ノ外ハ功德アルノ先祖タリトモコレヲ祭ルコトヲ許サズ、若天子命レ之トキハコレヲ立、乃魯ノ太廟世室等コレナリ、然レバ周ノ七廟ハ后稷ト四世ノ親廟ノ外ニ文武ノ二廟ヲ立テ七廟トスル也、武王成王ノトキハ后稷ト四世ノ親廟ノ外ニ功業アツテ可ニ配享一ヲ二廟相加ユルコトワリ也、乃祭法ノ

七廟ニ遠廟爲レ祧有二二祧一トイヘルニ相合ヘリ、功德ノ人トイヘドモ親盡ルトキハ皆遠廟也、遠廟ハ祧ト云ヘルナレバ文武ノ廟ヲサシテ祧ト云コト勿論也、故天子亦廟數ハ五而外ニ二廟ヲ立ルコト天子ノ禮也ト可レ知也、コレ三昭三穆ニ太祖ノ廟ヲ加ヘテ七廟トスルノイ、也、祖有レ功宗有レ德ト云ハ古ノ法ナレバ功アラン、人ヲバ太祖トシ德行子孫ニ蒙ルヲバ宗トシテコレヲ世室トス、トモニ百世不レ遷ノ廟也、シカレバ天子ハ五廟ノ外ニ其德行功業大ナラン人ヲ二廟立テ七廟ト可ニ心得一、只高祖ノ父祖ヲ二廟立テ七廟ト云ニハ非トシルベキ也、次ニ昭穆ノ事二ノ心得有レ之廟ニ付テ云ト祫祭ニツイテ云ト也、廟ニ付テ云トキハ太祖ノ廟北ノ中央ニアツテ左右ニ三廟ヅヽ南ノ方ヘナラブ、以上七廟也、左ヲ昭ト云右ヲ穆ト云、三昭三穆コレ也、太祖ノ廟トソノ次ノ左右二廟合テ三廟ヲ百世不レ遷也、相ノコル二昭二穆ノ四親廟ハ親盡ルトキハコレヲ毀テ祧トス、然レバ廟ニテハ左ヲ昭トス、是左ハ陽明ノ方ナレバ也、右ヲ穆トス、是右ハ陰穆ノ心也、又祫祭ト云テ太祖ノ廟ヘ昭穆ノ主ヲ入テ合セ祭ルコトアリ、此時ニ太祖ハ初ヨリ東向ノ尊アリ、群

昭ハコノ廟ニ入テ皆北方ニ座シテ南ニ向フ、群穆ハコ、ニ入テ皆南方ニ座シテ北ニ向、南ニ向ハ陽明ニ向フガユヘニ是ヲ昭トス、北ニ向ハ其ノ深遠ニ向ヲ以テ穆ト云也、シカレバ廟ハ座スル方ヲ以テ昭穆ヲ定メ、祫祭ニハ向ヘル方ヲ以テ昭穆ヲ定也、昭穆ハ尊卑上下ト云コトニハアラズ、其座ヲ名クルノ言也、サテ昭ハ常ニ爲ニ昭穆ーハ常ニ爲レ穆ト云コトアリ、昭ヲ父トシ穆ヲ子トス、故ニ父ノ兄弟ハ皆昭也、子ノ兄弟ハ皆穆也タトヘバ文王ヲ穆トシ、武王ヲ昭トスルトキ周公・管叔・蔡叔等ノ兄弟ハ皆昭ノ列也、武王ヲ昭トシ成王ヲ穆トスルトキハ唐叔等ノ兄弟ハ皆穆ノ列也、コレ春秋傳ニ以ニ管蔡郕霍ー爲ニ文之昭ー邢晉應韓爲ニ武之穆ートニ云ハコレ也、コレヲ以テ子孫ノ序ヲ定ムルコト也、中庸ニ宗廟之禮所ミ以序ニ昭穆ー也ト出タルハコノコト也、次ニ四世ノ親廟ト云ハ高祖ヨリ先考マデノ廟也、コレ高祖マデハ服アリ、高祖以上ハ服盡コ、ヲ以テ高祖マデハ廟アリ、高祖以上親ツクレバ其主ヲ祧ト云、祧ハ太廟ノ夾室ニウツス也、夾室ト云ハ太祖ノ廟左右ニヒサシノ如クアル室ヲナシテ、左ハ左ノ夾室、右ハ右ノ夾室ニウツス、是儀禮ニ以ニ

諸班ー祔ト出、檀弓ニ祔ニ于祖父ートニ云コレ也、サレバ天子諸侯共ニ四世ノ親ヲ祭ルコト古今ノ通禮也、五世ニシテ親盡ク、服ノ制五服ヲ不レ出ハコノコト也、次ニ太祖東向ノ位ト云ハ都宮ノ左ニ廟ヲ立ルニ太祖ノ廟三昭三穆トモニ各南ニ向フ、廟ゴトニ門ト堂ト寢ト室トアリ、牆守四ニメグル也、廟ノ戸各自レ東入テ西ヲ座トス、故ニ室ノ西北ヲ屋漏ト云ヘリ、主ハ東ニ向フ也、シカレバ太祖昭穆ノ七廟トモニ廟ノ内ニテハ主ハ東向也、祫祭ノトキハ昭穆ハ南北ヘ向テ太祖ノミ東向、自如トシテ不レ動、コレ太祖東向ノ尊位ト云也、朱子曰、以ニ諸侯之廟ー明レ之、太祖在レ北、二昭二穆以レ次而南、太祖之廟、始封レ之君居レ之、昭之北廟二世之君居レ之、穆之北廟三世之君居レ之、昭之南廟四世之君居レ之、穆之南廟五世之君居レ之、廟皆南向、各有ニ門堂寢室ー而牆宇四周焉、太祖之廟百世不レ遷、自餘四廟則六世之後每ニ一易レ世而一遷、其遷レ之也、新主祔ニ于其班之南廟ー南廟之主遷ニ於北廟ー北廟親盡則遷ニ其主于太廟之西夾室ー而謂ニ之祧ー、凡廟主在ニ本廟之室中ー皆東向及ミ其祫ニ于太廟之室中ー則惟太祖東向、自如而爲ニ最尊之位ー群昭之入ニ于此ー者、皆列ニ於

北牖下一而南向群穆之入二乎此一者、皆列二於南牖下一而北向、南向者取二其嚮レ明、故謂二之昭一、北向者取二其深遠一、故謂二之穆一、蓋群廟之列則、左爲レ昭而右爲レ穆、祫祭之位則北爲レ昭而南爲レ穆也、六世之後、昭常爲レ昭、穆常爲レ穆、二世祧則四世遷二昭之北廟一、六世祔二昭之南廟一矣、三世祧則五世遷二穆之北廟一、七世祔二穆之南廟一矣、昭者祔則穆者不レ遷、穆者祔則昭者不レ動、此所三以祔必以レ班尸必以レ孫、而子孫之列亦以爲レ序、若武王謂二文王一爲二穆考一、成王稱二武王一爲二昭考一則自二其始一祔而已然矣、

○問曰、帝王歷代相續セバ七世ノ廟モ立ルニヤスカルベシ、艸業ノ主ハ先祖詳ニシレガタカラン乎、又功德ノ祖モシレガタキトキ如何、

答云、其名字雖レ不二分明一高祖マデハ其服ノ不レ盡コトナレバ、四世ノ廟ハ無レ疑コト也、太祖幷ニ功德ノ宗不レ知ト云トモ、此身自二太祖一續來コトナレバ、我不レ知ト云トモ天命明也、功德ノ祖アラズハ遠廟二祧ノ祭ナクンバアラズ、コレ乃祭法ノ心得アリト可レ知也、漢ハ上皇ヨリ以前ハシレズ、只上皇一世ノミ也、魏ハ處士君ヨリ上ハシレズ、故ニ明帝五世ヲマツルトイヘリ、皆是時ノ學者ノ議論不レ明、只ソノ名字ヲシラザレバ祭ルコトナシト心得ル也、既ニ遠祧親廟ノ名アル上ハ、別ニ子細アルベカラザルコト也、名字不レ知トイヘドモ、天命不レ可レ疑ノコトワリアルコト也、

○問云、七廟五廟ノ祭禮ノ禮アリヤ、

答云、王制ニ天子諸侯宗廟ノ祭ヲ出セリ、春ノ祭ヲ祠ト云、夏ノ祭ヲ禴ト云、秋ノ祭ヲ嘗ト云、冬ノ祭ヲ蒸ト云、コレ時祭也、春祭ハ各ソノ廟ニテコレヲ祭、夏秋冬ノ三時ハ大廟ニヲイテ合祭アリ、是三時ノ大禮也、以上四時ノ祭ノ外ニ五年ニ一禘アリ、禘ハ禘下其所二自出一之帝上爲二東向之尊一、其餘ハ皆合二食於前一、此之謂レ禘三年ニ一祫アリ、祫者於二太祖之廟一、合二群廟之主一、以食レ此之謂レ祫ナリ、周禮ノ大宗伯ニコレヲ出セリ、シカレバ祫ハ有二三年之祫一、有二時祭之祫一可レ知也、春物初生、未レ有二以享一以レ祠爲レ主、故曰レ祠、夏物未レ成、用二薄物一以祭、故曰レ禴、秋物漸成、以レ薦レ新爲レ主、故曰レ嘗、冬物畢成、可レ進者衆、故曰レ蒸、コレ其大概ニシテツマビラカナルコトハ舊記ニクワシ、但儀禮ニ無二天子宗廟之禮一、雖二諸侯之禮一亦亡所レ存者、

特牲饋食、少牢饋食、乃大夫士之禮而已、然儀禮雖レ無ニ其禮一而散ヨリ見於戴記之禮運・禮器・郊特牲・祭義・祭統諸篇一者、其儀文名物之義、猶有レ存者、雖ニ其參錯不レ一渙散無一レ統、然因ニ其言一繹タヅチテニ其義一、而尋ニ其脉絡之所レ自部分之所レ屬、分折而條ニ理之一、使レ有レ所ニ歸宿一、又酌下取周禮及儀禮所レ載士大夫之禮與中夫諸儒註疏有レ及ニ於禮一者上、推レ類而求レ之、則墜緒可ニ得而尋一、古禮可ニ得而復一矣、

○問云、神號幷贈官贈位ノ説古來有レ之事ニヤ、

答云、ヲクリ號ハ諡ノコト也、上代ニハ無レ之シテ周ノ世ヨリ事ヲコレリ、ソノユヘハ死シテ後ニ亡者ノ名ヲ云ベキコトハイムベキコトナリ、亡者ヲイケルモノ同前ニ平日ノ名ヲ呼コトイマ〳〵シキコトニシテ鬼神ノ道ニ非ズ、コレヨリ其人ノ言行ニ從テ諡ヲ奉テ神ヲ神タラシムル是周ノ禮也、シカレバ其功業德行ノ是ナルニノミ諡アルニ非ズ、各以テ諡アリ、史記諡法解ニ惟周公旦太公望、開ニ嗣王業一建ニ功于牧野一、終將レ葬乃制レ諡、遂叙ニ諡法一、諡者行之迹、號者功之表、車服者位之章也、是以大行受ニ大名一、細行受ニ細名一、行出ニ於己一名生ニ於人一ト出タリ、表記云、子曰、先王諡以尊レ名、節以壹專也惠善也、耻ヨ名之浮ニ於行一也、郊特牲云、死而諡今也、古者生無レ爵死無レ諡トアリ、シカレバ諡ノコト臣ノ諡ハコレヲ君ニ請、君ノ諡ハ臣ニコフ、是定法也、追號ト云ハ後ニコレヲ諡ヲ奉ルコト也、孔子ノ追諡ヲ漢ノ平帝褒成宣尼公ト奉レルガ如シ、凡周禮小宗伯ニ六號ヲ辨ズル次第アリ、一ニ神號ト云ハ尊レ天曰ニ皇天上帝一類也、二ニ鬼號ト云ハ尊レ祖曰ニ皇祖伯某一コレ也、三ニ示號ト云ハ尊レ地曰ニ后土地祇一タグヒナリ、コレ常ノ名ヲカヘテ以テ爲ニ美稱一ヲ號トイヘリ、先儒云、周公作ニ諡法一、豈使ニ子議レ父臣議レ君哉、合ニ天下之公一奉ニ君父一、以ニ天道一耳、孝愛不ニ亦深一乎、所下以訓中後世爲ニ君父一者以立レ身之本上也トイヘリ、父ノ諡ハ子コレヲ奉リ、夫ノ諡ハ妻コレヲ奉ルモ古ノ道也、曲禮ニ不ニ爲レ父作レ諡ト云ハ、父ニ爵ナクシテ諡ナキヲ、我ニ爵アリトテ諡ヲイタスハアヤマリナリト云コト也、臣已ニ君ニ諡ヲ奉ル、子亦父ニ諡センコト豈アヤマリナリトセンヤ、贈官贈位ノコト其人ノ德行ヲアラハシ、子孫ノ忠義ヲ明ナラシメンガタメニ是ヲ用、周書畢命ニ旌ニ別淑ヨシアシ慝一表ニ厥宅里一、彰レ善癉レ惡、樹ニ之風聲一、弗レ率ニ訓典一、殊ニ厥井疆一、

俾ニ克提慕一ト出タルノ心也、又緇衣子曰有ニ國家一者、彰レ善癉レ惡以示ニ民厚一、則民情不レ貳トモイヘリ、コヽヲ以テ案ズルニ明ニ好惡一正ニ賞罰一コトハ人君ノ要政ナレバ、孝子順孫列女節婦ニハソノ門ニ旌表シテ其志ヲアラワシ、不義無道ノ輩ハ其家宅ヲヤブリ、戒テ以テ人ノ戒トセンコト人君ノ道ナリ、贈爵ノコトハ武王周公・太王・王季・文王ヲ追王イタシ玉フガ如シ、サレバ唐ノ開元ニ孔子ヲ追王シテ爲ニ文宣王一、贈ニ顏子ニ爲ニ兗國公一、閔損等凡九人爲レ侯、曾參等爲レ伯、コレ皆贈位ト云ベシ、宋元豐六年、太常寺言請、自レ今諸神封加レ封、無ニ爵號一者賜レ廟、額已賜レ額者、加レ封爵云々從レ之トアレバ、前代ノ鬼神ニ封號贈謚アルコト勿論也、本朝贈官ノ初ハ、大寶元年大伴御行宿禰ニ贈官位アリシヨリヲコレリ、諡號ハ不比等ヲ淡海公ト號セシニ起レリ、但シ生テ功德アル人ハ、周禮ノ司勳ノ禮ニマカセテコレヲ賞シ、鑄レ器銘レ勳コトマコトノ賞功ナリ、コレニ猶アキタラザルユヘニ此贈追ノ沙汰ニ及ブ也、其德アラズシテソノ勢ニ媚、ソノ神威ニヨツテヲクルマジキ官位神號ノアルコトハ、禮ノ正シカラザルガユヘナリト可レ知也、

○問云、異朝ニハ猶此制アリヤ、

答云、周ノ末ニ至テ禮經皆紛失シ、秦ニ至テ書コトゴトクスタレリ、漢ノ時コレヲ考フベキ旨アリトイヘドモ、諸議マチ〳〵ニシテ古ノ制ニ不レ合、コヽニ後漢ノ明帝自遺詔アツテ別ニ廟ヲ立シメズ、其主ヲ光武ノ廟ニヲサムベシトアリシヨリ、唯一廟ヲ用テソノ中ニ室ヲカマヘテ七廟ノ心ヲナス、是ヲ同レ堂異レ室ト云ヘリ、其後千百餘年コレニ從テ宋元明トモニシカリ、故ニタマ〳〵古ヲ思フノ人アリトイヘドモ、一旦コレヲ革ムルニヨシナクナレリト、丘瓊山甚歎息セルコトアリ、乃自酌ニ古今之制一時宜ヲハカリテ、宗廟祭祀ノ禮ヲイヘルコト彼ガ說ニ詳也、今畧レ之、

謫居童問中本終

諦居童問中末

○問云、聖人不ㇾ踰ㇾ矩トノ玉フトキハ、聖人ノ敎ニモ亦其ノリトスル處アツテ、タトヘバ工匠ノ規矩ヲ以テ方圓ヲイタス如クナルコトワリ有ㇾ之コトニヤ、

答云、凡ソ天下ノ萬物其規矩ヲハナル丶コトナシ、故ニ器物ハ規矩準繩ヲ立テ此ガノリトス、人ハ君父兄師ヲ立テ以テコレガ規矩トス、其則アラザルトキハ必ズ其正コトヲ不ㇾ得、サレバ國ニ君長ナキトキハ人人心ニマカセ口ニシタガフテ一致スルコトアラズ、家ニ父兄アラザレバ子弟ノ業ヲホシイマヽニシテ、箕裘ヲ嗣事ヲ不ㇾ得、人師ヲ以テ學ビザレバ、馬牛ニシテ襟裾セルノコトワリナレバ、天下ハ天子ヲ以テノリトシ、國郡ハ諸侯ヲ以テノリトシ、家ハ父兄ヲ以テノリトシ、人ハ師ヲ以テノリトシ、物ハ其司ヲ以テノリトスベキ也、是乃箕子洪範ノ九疇ヲノベテ、第五ニアタツテ皇極ヲ云ルユヘ也、五ニ皇極皇建二其有極一、歛二時五福一、用敷二錫厥庶民一、惟時厥庶民于二汝極一、錫ㇾ汝保ㇾ極、曰、皇極之敷言是彝是訓、于ㇾ帝其訓ト出タルハ乃天子ヲ以テ天下ノ、リトシ、君又其極ヲ建テ萬民ノ守ルベキ訓トスルノ心也、サレバ極ハ如二北極之極一、至極之義標準之名ニシテ、中立而四方之所ㇾ取正焉者也ト註セリ、聖人ノ道キワメテ云ベキニ非ズ、サレバ物ノイカタニ成ルコトハ雖ㇾ不ㇾ可ㇾ有ㇾ之、夫子既ニ不ㇾ踰ㇾ矩トノ玉ヘリ、曾子ハ有二絜矩之道一、子夏ハ大德不ㇾ踰ㇾ閑ト云ヘリ、中庸伐ㇾ柯伐ㇾ柯、其則不ㇾ遠、又行而世爲二天下法一、言而世爲二天下則一トイヘリ、孟子ニ及デ直ニ以二聖人之道一比二規矩六律一、而シテ告子ノ篇ニ及デ情則ノ義ヲ述ブ、サレバ大匠誨ㇾ人必以二規矩一、學匠者亦必以二規矩一トイヘルハ、其ノリアランコトヲ云ヘル也、其則トイヘル物ハコレヲ以テ其曲直方圓ヲタヾス時ニアタラズト云コトナシ、工匠ノ規矩ヲ以テ大伽藍ヲ建立スルニ不ㇾ異、コヽニ人ノノリトサス處ハ、イヅ方ニアラントナラバ、唯聖人ヲ以テ規矩トスベシ、能聖人ノ道ヲ盡シ、其道ヲ以テ人ヲ察スルトキハ、曲直順逆無ㇾ不ㇾ明ト可二心得一、コレ人之視ㇾ己如ㇾ見二其肺肝一トイヘルナルベシ、我ニ舊習意必ノ臆念フカクシテ、聖人ヲ知コトアタワザルヲ以テ、各聖門ニ入トイヘドモ聖人ヲ不ㇾ知、コノユ

ヘニ規矩遂ニ不レ正シテ、コレヲ以テ人ヲタメ、コレヲ以テ國家天下ヲ評議ス、故ニ似テ大ニ相違ヘリ、孟子曰、規矩方圓之至也、聖人人倫之至也トハ、此心ナルベキ也、然ルニ聖人ハ人倫ノ規矩ニシテ、聖人又ナニヲ以テノリトストイワバ、聖人ハ天地ヲ以テ規矩トスルナリ、サレバ堯ハ欽若ニ昊天曆象日月星辰一、敬授ニ人時一玉フトノ玉フ、孔子ノ巍巍乎、唯天爲レ大、唯堯則レ之トノ玉フハ此心ナルベシ、舜ハ事レ天璿璣玉衡ヲ以テ七政ヲ齊玉フトナリ、禹ニハ天乃錫ニ洪範九疇一、彝倫攸レ叙トナリ、伊尹作ニ太甲一曰、先王顧ニ諟天之明命一、是成湯ノ天ヲ則トシ玉フ也、大雅ニ不レ識不レ知順ニ帝之則一トハ文王ヲサシテイヘル也、帝則トイフハ是天地ノ則ナレバナリ、惟天地萬物父母惟辟奉レ天トノ玉ヘルハ武王ノ誓師ノ言也、況ヤ周公ノ成王ヲ輔佐シテ天下ノ政ヲ立、官ヲ制シ玉フ事、各天地ニノットリ玉ハザルコトアラズ、夫子ハ五十知ニ天命一、自證ニ以ニ天何言哉一ス、故ニ子思仲尼ノ道ヲ稱シテ、上律ニ天時一下襲ニ水土一ト云ヘリ、是皆聖人ノ天地ヲ以テノリトシ玉フ也、サレバ易ニ夫大人者與ニ天地一合ニ其德一、與ニ日月一合ニ其明一、與ニ四時一合ニ其序一、與ニ鬼神一合ニ其吉凶一、先レ天而弗レ違、後レ天奉ニ天時一、天且弗レ違而況於レ人乎、況於ニ鬼神一乎、禮曰、聖人作則必以ニ天地一爲レ本、以ニ陰陽一爲レ端、以ニ四時一爲レ柄、以ニ日星一爲レ紀、日月以爲レ量、鬼神以爲レ徒、五行以爲レ質、禮義以爲レ器、人情以爲レ田、四靈以爲レ畜ト出タレバ、以ニ天地一ツノ、リヲ立玉ハザレバ、聖人ノ則モ亦私ニ可レ落也、

○問云、人ハ以ニ聖人一爲レ則、聖人ハ以ニ天地一爲レ則ノコト、世々ノ大聖コレヲノ玉ヘルコト尤明白也、シカフシテ天地ハ又何ヲ以テ則ヲ立玉フヤ、

答云、是尤聖學ノ要道ナレバタヤスク是ヲ著シ難シ、アラハスト云トモ其志ニ徹ス不レ可也、凡天地ノ天地タルユヱンハ、陰陽ノ道相近ヅキ相遠テ以テ高明悠久也、是乃至誠無レ息コトワリナレバ、不レ息時ハ久シクシテ無レ疆、故終則有レ始天行也、反復亦天行ナリト云リ、君子以自彊不レ息ノ則トス、此マコトニ本ヅイテ聖人仰則觀ニ象於天一、俯則觀ニ法於地一、觀ニ鳥獸之文與ニ地之宜一、近取ニ諸身一、遠取ニ諸物一、於レ是始作ニ八卦一、以通ニ神明之德一、以類ニ萬物之情一トハイヘル也、然レバ其誠ヲツクストキハ乃萬物規矩顯然ト明ニシ

テ、コレヲカクスニ處ナシ、是天地ノマコトアルガユヘニ、日月ノ明自然ニ發シテ、一物モカクル、處ナキニ同ジ、サレバ日月得レ天而久照、又日月麗ニ乎天一トモ云ヘリ、中庸ニ自レ誠明ナルト云ハコノ心ナルベシ、

○問云、天地ハ至誠ヲ以テ其則ノ明ナル處ヲ承知ス、今日日用ノ間コレヲ以テ則トスルノ用法ヲ承ランコトヲ欲、

答云、今日ノ則ヲ立ンコトハ聖人ニアラズシテハ不レ可レ得レ之、サレバ左傳ニ逸書ノ言ヲノセテ聖作レ則トイヘリ、中庸ニ唯天下至誠爲能經ニ綸天下之大經一、立ニ天下之大本一トハコノ心ナルベシ、今竊ニ其藩籬ヲ窺テ凡天下ノ事物各ソノソナワル誠アリテ、ソレゾレノ則トスベキ處ナクンバアラズ、是ヲ有レ物有レ則ト云也、故ニ其事物ヲ詳ニ致ストキハ、其則トスベキ道明ナルベシ、更ニマギル、コトアラズ、其誠ヲ不レ盡ガユヘニ皆無理ヲ以テ則トスルニナルナリ、

○問云、然ラバ則トスル處ハ、外ヲ詳ニ盡ニアッテ內ニアラザルヤ、

答云、聖人ノ立ル處皆天地ヲ本トス、天地コレ內ニアリヤ、サレバ繫辭ニ云處ノ仰觀俯察ト云ヘル言、賁之象ニ觀ニ乎天文一以察ニ時變一、觀ニ乎人文一以化ニ成天下一ト云ヘル皆是內ニ考フルノミヲ云ニ非ズ、天地ハ外ニシテ觀察ハ心ニアリ、彼ヲ盡シテ內ニ察スルヲ聖人ノ道ト云、內外相合テ其中ニ其則自立處アルベキ也、

○問云、天ヲ觀地ヲ察シ人物ヲ考フルニ道アリヤ、

答云、是乃則也、天ト云地ト云人物ト云テ、其マヽノスガタ計リヲ觀察イタサバ觀察トハ云ベカラズ、天ノ始終地ノ始終人物ノ始終ヲ詳ニ觀察スルトキハ、自其用法明ニシテカクス處ナシ、コヽニヲイテ天ニ四時ヲ立、廿四節ヲマフケテ十二月ノ法ヲ立、盈虧ヲハカッテ、氣盈朔虛ノ則ヲ考フ、土地人物一ツトシテ不レ然ト云コトナシ、コレヨリ天地人物ノ則明ニシテ、天地人物各得ニ其道一ト云ベシ、易ニ觀ニ其所レ恒而天地萬物之情可レ見矣、又曰、觀ニ其所レ感而天地萬物之情可レ見矣、是天地人物ノ情ヲ考フルコト一朝一夕ノ事ヲ不レ以シテ、其恒久ニシテ不レ息處ト、其情ノ物ニ感ズル處ヲ考ヘテ、其則ヲ立ルノイヽ也、

○問云、然ラバ皆一心ヨリコレヲ制シテ其則ト定ム

ルコトハアラズヤ、
答云、一心ヲ明メテ一心ノ作略ニマカスルト云ハ、皆異端ノ敎ナリ、近ク天地ノ道ヲ盡トキニ聖人ト云ドモ、其象法ヲ觀察セザルトキハ、其微ヲ盡スコトヲ不レ可レ得也、人物ノ用亦然リ、但シ天地ハ萬物ノ父母タレバ、天地ノ象法ヲ立ルトキハ、人物ノ用其中ニ無レ不ニ包藏一ト可レ知也、只ニ一心ヲ師トセバコト〴〵ク私意臆說ニ陷テ、豈コレヲ則ト可レ定乎、故ニ易ニ无妄剛自レ外來而爲レ主ニ於內一、動而健剛中而應、大亨以正天之命也トアリ、外ヲ考テ內ニ主ヲ立ルコト是乃聖人ノ敎也、

○問云、今日日用ノ則イカヾ心得ベキヤ、
答云、孔子七十從ニ心所レ欲不レ踰レ矩トアリ、コヽヲ以テ案ニ從ニ心所レ欲ハ必ノリヲヤブルト可レ知也、人皆有ニ情欲一コトハ天ノ道也、其節ヲ過ルトキハ必則ヲ失フ、尤不レ及モ亦然リ、故ニ情欲ヲ考ヘテ其過不及ヲ節スルヲ則ト云也、シカレバ其過不及イヅレヲ以テ過トサダメ不及ト定メントナラバ、人々ノ恒ノ情トスル處ト、其感ズル處トヲ知テコレヲキワムベシ、凡ソ天下ノ情ソノ感ズル處アルヲバ其欲ヲキラフベカラズ、是人ノ情也、シカルニ其好ム處惡ム處、又天下ノ人情ニアワセテ、其好マン事過ル所ヲ其マヽニイタシヲカバ、必ズ身ヲ失人ヲソコナフニ至ルベキナレバ、過ルコト皆ノリニアワズ、又天下ノ人々其情欲アルニ、此人ニ此情ノ欲アラザレバ不レ及也、是又非レ則也、聖人道ヲ立テ人ノ則トスル事モ亦コノ心ナリ、天下ノ人ノ情イヅレモ善ヲ欲ス、シカレバ善ヲ好ハ天下ノ人情ナレバ、此則ヲ以テ道ヲ立ツ、コレ率レ性之謂レ道ノコヽロニシテ、說卦ニ所謂立ニ人之道一曰ニ仁與一レ義也、コヽヲ以テ天下ノ人情ヲ以テソノ道ヲハカラザルハ、皆異端ノ私見也、孟子性ノ善ヲトイテ心所レ同、然ルトイヘルモ、人皆好ニ仁義一而惡ニ邪暴一ノイヽ也、コノ處ヲノリト定メテ道ノ至善ヲ立テ、人々ヲ至善ノ地ニ止ラシメントノコト也、

○問云、事物ノ則イカヾ心得ベキコトニヤ、
答云、物ニ付テ事アリ、事ハ物ヨリ出デ、物ハ事ニアレバ、物之字ヲコトヽモヨメル也、サレバ有レ物有レ則ト云ハ、蒸民ノ詩ノ言也、凡ソ事物イヅレモ其始終ヲ詳ニシテ、以テ其則ヲ定ムルトキハ其則サラニ不レ違、タトヘバ父子間ノ事ヲ以テ云バ、其父子タルノ

道ヲ詳ニ盡セバ必孝慈ノ則出ヅ、君臣ノ間モ亦然リ、サレバ事物トモニ品多キコトナレドモ、ソノ一品ニツイテ其本末ヲ詳ニシテ、其則ヲ工夫イタシソノ類ヲ以テ他ヲハカルコト、聖人ノ天地ヲ以テ則トシテ、萬物ノ規範ヲ制スルガ如シ、

○問云、大學ノ綱領中庸ノ中和イヅレモ則ト云コトナシ、

答云、大學ニ止二於至善一ト云、中庸ニ率レ性中レ節ト云、是聖人ノ則也、止二於至善一ト云ハ事物其極レル處ヲ立テ則トシテ、ソレヨリ次第ヲ論ズル也、タトヘバ一年ハ三百六旬日トキワメタルコレソノ極也、此ヲキワメテ其中ニ十二月廿四節ノ小目ヲ立テ則トスルニ同ジ、父ニツカヘ君ニ奉公イタスニモ、其大綱大義ノ實ヲ定メ、コレヲ至極ノ則ト致シテ、而シテ其小目ヲ詳ニス、故ニ善ノ至レル處ヲキワメ、コレニトヾマルヲ則トス、故ニ止二於至善一ヲ以テ則トス、況ヤ八條目ノ次第コト〴〵ク小條目ノノリアリ、中庸ニヲイテハ既ニ中ノ一字聖門ノ大規矩也、中ト云モノハ率レ性處ヨリ立テ、中レ節ニイタルハ皆是則ト云べキ也、

○問云、天則ト云ヘルコトハ、古來ヨリアル言ナリヤ、

答云、易ノ文言ニ乾元用九、乃見二天則一トアリ、詩ノ皇矣ニ順二帝之則一ト云モ天則也、書ニ有レ典有レ則、詩ノ有レ物有レ則ト云、イヅレモ則ヲ以テ言トス、易ニ法象莫レ大二乎天地一トアリ、コヽヲ以テ案ズルニ聖人ノ則ハ天地ヲ以テ本トスルガユヘニ、天則帝則ト云ヘル也、

○或問、法ト則ト同異アリヤ、

答云、則ハ制度品節ノコト也、法モ亦コレニ類ス、故ニ法則トモニ通用ス、易ニ形乃謂二之器一、制而用レ之謂二之法一、又成レ象之謂レ乾、效レ法之謂レ坤トモ出タリ、又ノツトルト云義ニ兩字トモニ用レ之、（易聖人則レ之又云卑法レ地）周禮ニ八則アリ八法アリ、イヅレモ相通ズ、但法ハ必定レル形アルノ義ニ通ズルガユヘ、多ハ制法刑法ノ義タリト可レ知也、

○或問、則トサス處ト禮ト云ヘルト、其タガイアル事ニヤ、

答云、則ト云ハ其道ノ本末ヲ立ル事也、禮ト云ハ其事物ニ付テ品節シ、文章アラシムルコト也、タトヘバ父子ノ則ハ孝慈ニシテ、ソノ事物ニ節文ヲナスヲ禮

ト云ルナリ、所ニヨリ禮ヲ以テ則トシ、則ヲ以テ禮トスルモアリ、シカレバ內其則ヲ定メ外其禮ヲ正ス、是內外ノイヽニシテ其實ハ一也、內ニ則アリト云ヘドモ、外ニ禮ヲ以テ此ヲ立ザレバ則アキラカナラザル也、サレバ心ヲ制スルニハ則アリ、形ヲ制スルニハ禮アル也、禮ニ凡禮之大體、體二天地一、法二四時一、則二陰陽一、順二人情一、故謂二之禮一、又云、禮之正二于國一也、猶下衡之于二輕重一也、繩墨之于二曲直一也、規矩之于中方圓上也、周禮太宰掌二典禮一以諧二萬民一、子産曰、夫禮天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民實則レ之ト出タレバ、禮ト則ト相去不レ遠トシルベキナリ、サレドモ內ニ則ナキハ禮アリトモ皆虛也、禮器云、先王立レ禮也、有レ本有レ文、忠信禮之本也、義理禮之文也、無レ本不レ立、無レ文不レ行、又曰、甘受レ和白受レ采、忠信之人可二以學一レ禮、苟無二忠信一之人、則禮不二虛道一、是以得二其人一之爲レ貴也ト出タリ、コレ則ト禮ト相合テ、二ツナガラ行ル、ナリ、

○問云、先儒當然ノ則トイヘルコトハ、今ノ玉フ處ト同異アリヤ、

答云、當然之則ト云ヘルコトハ、朱子ハジメテコレヲ云リ、乃蒸民ノ詩ニ出タル有レ物有レ則ト云ヘル心ヲ取テ是ヲイヘルコト、大學第五章ノ補闕或問ニ出セリ、而シテ其所レ指ノ則ハ、乃吾性心ニソナワレル仁義禮智ノ性コレナリトイヘドモ、氣稟ニヨツテ其則ヲ失トイヘルノ心ヲ本トシテ、此性心天地古今一塵一息ノ頃マデモノコサヾルモノニシテ、天下萬物ノ理ヲソナヘルト云ル說也、是周子以來、程子張氏邵氏トモニ、コト〳〵ク一揆ニシテ、聖學ノ實ニトヲザカルユヘン也、性心ハ因二形氣一相ソナワルモノナレバ、天地ニハ天地ノ性心アリ、物ハ物ノ性心アリ、人ハ人ノ性心アリ、天地人物各有二性心一トハ云ベシ、天地人物ノ性一ツ也トハ不レ可レ謂、人ノ性心ハ只性心マデニシテ別ニ名ヲ付ベキ所ナシ、仁義禮智ト云モ物ニ感ズルノ名ニシテ、內ニ仁義禮智ノ名アルニアラズ、ソノ物ニ感ズルユヘンハ、五行ノ精中ニアツマリテ性心トナレルヲ以テ、外又此五ノ品ニ感ジテ、惻隱・羞惡・辭讓・是非ノ四端相アラハル、ノミ也、コ、ニヲイテ聖人天地人物ノ始終ヲツクシ、其同ジクシカル處ヲ考フルニ、人ノ性無レ不下好二好色一惡中惡臭上、コレ天下ノ性情同ジクシカリ、コノ性ノ善ヲ欲スル處ヨ

リ考テ、事物ノ至善ヲ立、其善ヲヲコナワシメ其道ニヨラシム、是率レ性之謂レ道ノ心ナリ、サレバ惻隱ノ情其道ニ至善ナルヲ仁ト云、羞惡ノ情ソノ道ニ至善セルヲ義ト名付、辭讓是非ノ情ソノ道ニ至善セルヲ禮智ト名付、是聖人當然ノ則ヲ立玉フ也、乃易ニ立二人之道一曰二仁義一トイヘル、コノ心ナルベシ、シカレバトテ仁義禮智コト〲ク外ヨリ至レルト云ニ非ズ、内其四端アルニマカセ、其性ノ所レ好ニシタガフテ此名ヲ立テ則トスル也、コレ内外相持シ天地相對、人物相具、水火相因、君臣相守テ事ソノ間ニ行ハル、天地設レ位而易行二乎其中一矣ト云ル心也、

○問云、率レ性ト云トキハ則スナハチ内ニアルニ同ジ、況ヤ有レ物有レ則ト云ヘルモ則内ニアルニ同乎、

答云、率レ性ト云率ノ字從ノ字ト同ニ似テ、其コヽロヘアリ、凡天下ノ人ノ性ヲ論ゼザレバ、マコトノ性ニアラズ、今天下ノ人ノ性ヲ以テ考ルニ道ヲ以テ則トセザレバ、人々安ンズル處ナシ、サレバ堯舜ノ政ヲバ人々コレヲ慕、桀紂ガ政ト云トキハ、人々コレヲ惡ム、コレ内ニ善ヲ好ミ惡ヲニクム處アルガユヘ也、ココヲ以テ聖人其性ニ率テ道ヲ立タルナリ、是率レ性之謂レ道ノ心也、一人ノ性心ヲ以テ云バ、桀紂ガ同心ヲ得テ桀紂ニ親シム、同氣ノモノハ桀紂ヲヨシトモ思フベシ、コレ桀犬吠レ堯トイヘルタトヘノ如シ、堯舜ノニクミヲウクル輩ハ、定メテ堯舜ヲ惡ムベシ、コレ四凶ガ堯舜ニソムキ、象ガ舜ヲ殺サントスルノ心ナリ、コレヲ以テ云トキハ一人一己ノ私ノ思ハ、皆天下ノ通情ニアラズトシルベシ、一家ニヲコナワレ一國ニ用イ、一世ヲヲサメテ、コレコソ能法令政罰ヨト云ハンハ天下ニ用萬世ニツタフルノ明德ニ非ズ、コノユヘニ天下ノ性ニ率ノイヽナリト可レ知ナリ、次ニ天下ノ人ノ性ニ率ト云ベキコトニシテ、率レ性トアルコトハ、聖賢ノサス處ノ性トイヒ、道ト云ハ、皆指二天下一云ト可レ知也、サレバ聖人以二天下之性一爲レ性ガユヘニ、小人ノ性ヲ性トスルニ非ズ、コレ孟子以二堯舜一人ノ手本トイタセルユヘ也、次ニ有レ物有レ則ト云ハ、物ニ其則アリト云ヘルコト也、内ニ此則アリト云ニハ非也、凡ソ經書ノ内ニ人ノ則内ニアリト云コトナシ、又則外ニアリト云コトアラズ、書湯誥ニ上帝降二衷于下民一トイヘルハ、聖人天ノ衷ヲ考ヘテ此則ヲ立ルノ言也、蒸民ノ詩ニ民之秉レ彜ト云ハ、人々コノ則

ヲ好スルノ心アルコトヲイヘリ、是等ノ言ヲ附會シテ、程子ハ天然自有之中ト立。張氏ハ萬物之一原ト云、朱子ハ事物當然之則、得ニ於天之所レ賦、而非ニ人之所ニ能爲一トイヘル也、然レバ聖人ノ言ニ則内ニアリトノ玉ヘルコトアラズ、易ハ伏羲・文王・周公・孔子ノ大聖相アツマリテ、天下萬世ノ準則ヲ立、六十四卦三百八十四爻ニアラワシ、夫子其象ヲ君子先王大人人君ノ可ニ以則一コトヲノ玉フテ、既ニ仰觀ニ象於天一、俯觀ニ法於地一、觀ニ鳥獸之文與ニ地之宜一、近取ニ諸身一、遠取ニ諸物一、於レ是始作ニ八卦一、以通ニ神明之德一、以類ニ萬物之情一トノ玉フ、是天下萬世象法準則ノ大龜鏡ナリ、サレバ又不レ可ニ以私一レ之、今日不レ可ニ以用一レ之、用ニ諸天下一、施ニ諸萬世一、而終不レ可ニ變易一、是聖人之天則而至正之公論ト可レ云也。末世ノ俗儒意見ニマカセテ云處ハ、其易レ見ノ近情ナレバ實理定メガタキ也、次ニ奉ノ字從ノ字ト不レ同ト云ハ、從ハ皆我情ニマカスルノイ、也、故ニ心ノ所レ欲ニ從ヲバ則ヲコユルノ心トス、從レ情テ徑ニ行フハ戎狄之道ナリトモイヘリ、コ、ヲ以テ云トキハ從ノ字ト同異アルベキ也、學者尤可ニ心付一也、今左ニ朱子當然之則ノ說ヲノセタリ、可ニ幷案一也、

朱子云、天道流行造化發育、凡有ニ聲色貌象一、而盈ニ於天地之間一者皆物也、既有ニ是物一則其所ニ以爲ニ是物一者、莫レ不ニ各有ニ當然之則一、而自不レ容レ已、是皆得ニ於天之所レ賦、而非ニ人之所ニ能爲一、今且以ニ其至切而近者一言レ之、則心之爲レ物實主ニ於身一、其體則有ニ仁義禮智之性一、其用則有ニ惻隱羞惡恭敬是非之情一、渾然在レ中隨レ感而應、各有レ攸レ主而不レ可レ亂也、次而及ニ於身之所一レ具、則有ニ口鼻耳目四肢之用一、又次而及ニ於身之所一レ接、則有ニ君臣父子夫婦長幼朋友之常一、是皆必有ニ當然之則一而自不レ容レ已、所謂理也、外而至ニ於人一則人之理、不レ異ニ於己一也、遠而至ニ於物一則物之理不レ異ニ於人一也、極ニ其大一則天地之運、古今之變不レ能レ外也、盡ニ於小一、則一塵之微一息之頃不レ能レ遺也、是乃上帝所レ降之衷、蒸民所レ秉之彝、列子所謂天地之中、夫子所謂性與ニ天道一、子思所謂天命之性、孟子所謂仁義之心、程子所謂天然自有之中、張子所謂萬物之一原、邵子所謂道之形體者、但其氣質有ニ清濁偏正之殊一、物欲有ニ深淺厚薄之異一、是以人之與レ物、賢之與レ愚、相與懸絕而不レ能レ同耳、以ニ其理之同一、故以ニ一人之心一而於ニ

天下萬物之理、無レ不レ能レ知以二其稟之異一、故於二其理一或有レ所レ不レ能レ窮也、理有レ未レ窮、故其知有レ不レ盡、知有レ不レ盡則其心之所レ發、必不レ能下純二於義理一而無上レ雜二乎物欲之私一、此其所下以意有レ不レ誠、心有レ不レ正、身有レ不レ脩、而天下國家不上レ可二得而治一也、昔者聖人蓋有レ憂レ之、是以於二其始教一爲二之小學一、而使三之習二於誠敬一、則所下以收二其放心一養中其德性上者、已無レ所レ不レ用二其至一矣、及三其進二乎大學一、則又使下之卽二夫事物之中一因二其所レ知之理一推而究レ之以各到中乎其極上、則吾之知識亦得以周遍精功而無レ不レ盡也、若二其用レ力之方一、則或考二之事爲之著一、或察二之念慮之微一、或求二之文字之中一、或索二之講論之際一、使下於身心性情之德、人倫日用之常、以至二天地鬼神之變、鳥獸草木之宜一、自其一物之中莫上レ不レ有下以見丙其所レ當レ然而不レ容レ已、與乙其所二以然一而不レ可レ易者甲、必其表裏精粗無レ所レ不レ盡、而又益推二其類一以通レ之、至二於一日脫然而貫通一焉、則於二天下之物一皆有下以究中其義理精微之所上レ極、而吾之聰明睿智亦皆有三以極二其心之本體一、而無レ不レ盡矣、此愚之所三以補二乎本傳闕文之意一、雖レ不レ能三盡用二程子之言一、然其指趣要歸則不レ合者鮮矣、讀者其亦深考而實識レ之哉、

○問云、善レ弓者師レ弓不レ師レ羿、善レ舟者師レ舟不レ師レ奡トイヘリ、然レバ弓ノ則ハ弓ヨリ出、舟ノ則ハ舟ヨリ出、コレ各其則內ヨリ出ニアラズヤ、

答云、弓ヲ師トシ舟ヲ師トスルノ言尤味アリ、但弓ハイカヾシテ出ルトナラバ、物ヲ射ルト我コレヲ引ベキノツモリトヲ考ヘテ、而シテ弓ヲイダシ出セリ、舟ヲコシラフルニハ水ト載乘スル人物ヲ考ヘテ此舟ヲ出ス、弓ト云舟ト云、旣一物ニ一ノ則ヲソナヘタル器ナレバ、是ヲ用ルモノ此物タルヲ詳ニシテ、此則ヲ立ザレバ、羿奡ガ立ル處ノ則、是後人ノ則トスル處ニシテ、人ノ性ニ率テ聖人コノ道ヲ則トスルヱコトナラザル也、コレヲ內ニアリト不レ可二心得一也、サレバ格物致知ノ教ヨリソノ天則自アラワル、處アリ、コヽヲ以テ云トキハ善レ弓者師レ羿反求二之弓一、善レ舟者師レ奡反求二之舟一ト云ノ心ナルベシ、此問處闕令尹ガ書ニ出タリトイヘレバ、彼老子ノ求レ本テ棄レ末ノ言ノ弊ナリト可レ云也、

○問云、聖人ノ道ハ仁義ニアッテ權謀ヲ不レ用、若權謀ヲ用ルトキハ伯者ノ道ナリト云ヘルハ然リヤ、

答云、物ニ方圓アツテコレヲタヾスノ則ニ規矩アリ、圓ハ天ニカタドリ、方平ナルハ地ニカタドル、仁義ハ方ニシテ平也、權謀ハ圓ニシテ曲ル、仁ハ圓ニシテ義ハ方也、水ハ平ニシテ火ハ鋭也、コヽヲ以テ云トキハ、仁義權謀トモニ用テ其處ニ因テ其用ヲナス、是聖人ノ道也、必ズ仁義バカリヲ以テシテ權謀ヲ不レ用トキハ、偏見ノ俗學ニシテトモニハカルニ不レ足、又權謀ニアツテ仁義ニ不レ因ト云ハ、僞詐幻術ノ人ヲ惑スハカリゴトナレバ、尤モ不レ足レ用也、サレバ仁義ニモ權謀ニモ其用法ニ則アリ、規矩ノ方圓ノ則トナルガ如シ、經書ニ權ヲノベ謀ヲナシタルコト甚多シ、聖人又コレヲ用テ事ヲ行事ヲヽシ、豈聖人權謀ヲ不レ用トセンヤ、但シ人倫ノ道權謀ニ及バズ、只常住ノ道ヲ以テナスコト多シ、是仁義ナリ、コヽヲ以テ先ンジ事トスルハ仁義ナリト可レ知也、

王伯ノ事經書ニタシカニ是ヲ不レ述、孟子詳ニ論ジテ戰國ノ弊ヲトヽケル也、王者ノ道伯者ノ道ト云テ二ツワカルベキニアラズ、道ハ一筋ニシテコレヲフミチガフルハ皆異端也、五伯ノ諸侯聖人ヲ貴ブゴトク致シテ、コレヲ以テ身ヲ利ス、是聖人ノ道ヲ不レ知ガユヘ也、シカレバ俗學ノ末流聖人ノ道ヲ心得ソコナイ、文字ニハシリ格式ヲ事トシ性心ヲ弄スル、トモニ是聖人ノ貴トイヘドモ、聖人ノ道ニハアラズ、甚品タガフト云ヘドモ、必竟楊朱墨翟ガ仁義ヲ心得ソコナフニコトナラズ、故ニ五伯ノ是トスル處モ、皆聖人ノ道ニアラザルユヘニ異端俗學ト云べシ、王伯ト云ヘルハ王者ハ天下一同ノ敎ヲ立テ、風俗ヲ一ニイタシ、三王ノ政令ヲ旨トスルコレ也、伯者ト云ハ方伯ノ道ニシテ、上ニ天子アレドモコレヲナミシテ不レ用、各一方ノ諸侯ヲ下知シ、コレヲシタガヘテ一家ノ法ヲ立ル、コレ伯業伯道ト云、齊ノ桓公、晋ノ文公コレ也、シカレバトテ齊ノ桓公晋ノ文公ノ政令コト〳〵ク惡ニハアラズ、唯聖人ノ大道ニ不レ通ヲ以テ、シバラク大業ヲナスト云ヘドモ、天下ノ風俗ニカヽラズ、萬代ノ龜鑑ニソナワラズ、コレ管仲ガ器ヲ以テ小也トノ玉ヘルナリ、孟子王覇ノ義ヲ詳ニ論ゼル、ソノ言ニナヅミテ後世ノ學者シキリニ王伯ノ事ヲ辨ズルニ至ル、是又實ニ王伯ノワカチヲ不レ盡ガユヘナリト可レ知也、

○問云、孟子專王伯ノ事ヲ辨ズルハアヤマリアリヤ、

答云、孟子專王伯ヲ辨ズルコトハ、時ニ取リテノ宜也、其ユヘハ周ノ世衰ヘテ諸侯各一家ノ志ヲ立、中ニモ齊桓公晋文公王業ヲ重ジテ、コレヲ以テ天下ノ諸侯ヲ下知シ、天下ノ諸侯ノ司タリ、其威四海ヲカタブケ其勢天下ニナラブナキヲ以テ、國々ノ諸侯コレヲ羨ザル人ナシ、故ニ孟子コレヲ辨ジテ伯業ノタノムニ不レ足處ヲ諸侯ニ談ジテ、聖人ノ道ハシカラザルト云ヘルコトヲトケル也、時ニ伯業サカンニシテ聖人ノ道不レ明ヲ以テ、コレヲ闢クノ敎ナレバ、孟子コレヲ辨ズルコト尤其ユヘナキニ非ズ、シカルニ後世ニ及ンデ王伯ノ時ニアラズ、天下一統シテ唯聖人ノ道不レ明トキモ、伯者ノコトヲ云ンハ時ニ相應ニアラズ、俗儒專ラ世間ヲサミシテ以伯者ノ法ナリト云テアシキコトヽス、伯者ノ法ハ管仲晏子ヲ以テ本トスベシ、管仲ハ夫子コレニ仁ヲユルシ、晏子ハ夫子久交テ敬ノフカキコトヲ稱ス、今ノ學者彼等ガ足下ニモ豈至ルコトヲ可レ得ヤ、然シテ孟子ニナラヒ薰子ガ言ヲキヽヲボヘテ不レ知道ノコトヲソシランハ、又管晏ガ徒ノ笑ワレナルベシ、

○問云、易ニ人ノ道ヲ仁義ト云トキハ、權謀ハ道ニアラザルニ似タリ、

答云、是仁義ノ實ヲ不レ盡ユヘ也、仁ハ圓ニシテ義ハ方也、仁ハ愛シテ義ハ惡也、仁ハ人ノ道ニシテ義ハ時宜ニ通ズル也、コノユヘニ方圓曲直平トモニ並行テ天下ノ道立ベシ、凡ッ仁義ト權謀トハ順逆也、曲直也、左右也、往來也、明暗也、サレバ天ハ左旋シテ日月五星ハ右行ス、地天ハ逆ニシテ萬物泰通ス、晝夜ハ明暗ニシテ萬物利ス、陰陽消長往來アリ、君ハ南面シテ臣ハ北面ス、左右前後アリ、尊卑上下アリ、萬物ニ縱橫大小高下死生榮枯アッテ、而シテ天下ノ人物コトゴトク其利ヲ利トス、コヽヲ以テ幷セ案ズルニ、天地人物如レ此ナラザレバ不レ叶ノ道コレ乃誠ナリ、コノ誠ヲ則トシテ今日ノ道ヲ立テ則トイタセルコトナレバ、聖人ノ敎コノ二ツヲ全シテ、ソノ時ニ從テ其道ヲナスニアリト可レ心得也、只學者格致ノ實薄シテ、舊習フカキガユヘニ、マコトノ道ニ入コト不レ叶ナリ、自ノ臆見ヲヤメテ聖人ノ言行ヲ以テ言行ノ則トスベキ也、

○問云、世ノ兵ヲ論ズルモノ多ハ權ヲ用ユ、シカレドモ權謀コレヲ不レ嫌トキハ、兵ノ道亦可レ用乎、

答云、是何ノ言ゾヤ、武ハ文ノ對ニシテ、文武互ニ根コト陰陽五行ノ相待相生ニコトナラズ、文ニ武ヲハナタズ、武ニ文ヲ忘レザル事、古ノ聖人皆然リ、專文專武ハトモニ不㆑可㆑行ノ道也、文ニモ仁義權謀アリ、武ニモ仁義權謀アリ、仁義權謀ハ文武ノ用タリ、用ユルト不㆑用ノ論コヽニヲイテ不㆑可㆑言也、コレ又人ニコヽロミ身ニコヽロミ、天地ニ考古ニノツトラバ不㆑言トモ其則可㆑明也、夫子衛ノ靈公陳ヲ問ニ對ヘ玉ワズ、孟子能㆑兵モノヲ上刑ニツクベキト云ル、皆其趣向アツテノ言也、後世末學コレヲ不㆑詳シテ、口ニマカセテ湯武之兵伯者之兵ヲ云テ、武ヲ以テ伯者ノ業トスルコト、皆不知愚蒙ノ說也、其ユヘハ兵ニ王伯ノ差別アラズ、王者コレヲ用レバ王者ノ兵也、伯者コレヲ用ユレバ伯者ノ兵トナル、湯武ノ兵ノ用ト云テ別ニ兵ノ法アルベカラズ、湯武コレヲ用ユルトモ武ハ武ノ用アリ、伯者コレヲ用トモ武ニ別法ナシ、唯其用ル人ニ從テ其用ヲナス、故ニ武ニ無㆓王者伯者之別㆒也、文モ亦然リ、堯舜モコノ文ヲ用イ、桀紂モコノ文ヲ用テ興亡治亂ハ其人ニアルコト也、次ニ文武先後ノ事是又時代ニヨツテ先後所ヲカヱ、撥㆑亂除㆑暴ニハ先㆑武セザレバ不㆑可㆑行、安㆑民順㆑人ニハ文ヲ以テ先トス、シカレドモ武ヲ用ニハ文ヲフクミ、文ヲ用ニハ武ヲフクム、是互㆑根コトナルコトアラズ、剛柔強弱カ子備テ天地人物相立ノコトワリ也、古ノ聖人異朝本朝トモニ天下ヲ艸業シテ、除㆓亂逆㆒平㆓暴惡㆒コト先㆑武ヲ以テセザルコトナシ、而シテコヽニ治平スルトキハ、文道ヲ正シテ禮ヲ制ス、禮ヲ制スルトキハ軍禮兵制コレヲ以要トスルコト、伏羲・神農・黃帝・堯・舜・禹・湯・文・武皆然リ、本朝開闢ヨリ天ノ瓊矛ヲ用テ日神既備㆓威武之設㆒タマイケルヨリコノ方、天孫人皇トモニ武威ヲ以テ用ノ本トナシ玉フコト舊紀ニ明白也、コレ乃聖人文武ノ用一日モカクルコトナキノユヘナラズヤ、

○問云、異端ト指處ハ何レノ處ノアヤマリヲ以テ云ヘルヤ、古來ノ說多トイヘドモ其實未㆑會、

答云、聖學ヨリ異端トサス處尤其ワカチ分明ナリ、凡天地ヲ不㆑則人物ノ情ニ戾リ、事業ヲ廢シ法禮ヲステテ敎ヲ不㆑立、性心ヲ弄スル輩ハ皆異端ト云也、學敎ニ此內一ケ條モアルトキハ、異端ト號シテ必ズ堅ク制シツヨク禁ズ、タトヘバ天下ノ政道一ニ歸シテ人君

ノ命四海ニ相行ル、若諸侯大夫自一家ノ仕置ヲ立テ天下ノ定法ニソムキ、大禁大令ヲ事トセザルトキハ、必ズ天下ノ害アルベシ、人君速ニコレヲ制シ、是ヲ罰スルニ同ジ、聖人ノ道ハ天地ヲ本トシテ、人物ノノリヲ立ヲ以テ、敎ハコレ天地ノ道、ウクル處ハ天地ノ則也、今聖人代レ天此道ヲ人物ニ明ニシテ、人物ヲシテ其性ヲツクサシメ、天地ノ化育ヲタスク、故ニ聖人繼テレ天建レ極ト云ヘリ、シカルニ天地ヲ父母トシテ天地ニソムキ、人物ニツラナリテ人物ヲナイガシロニシ、己レガ意見ニマカセ法禮事業ヲステ、自證自悟ヲ事トシ、性心ヲ弄、冲漠無朕ヲ味ルコト、コト〲ク聖人ノ敎ニソムクユヘニ、異端ハ聖人之徒也トイヘル也、漢董仲舒對策云、春秋大一統者、天地之常經、古今之通誼也、（春秋公羊傳、隱元年春王正月何言乎、王正月大一統也、仲舒借レ此、而言以明ニ天下道術當レ統レ於レ一也、）今師異レ道、人異レ論、百家殊レ方、指意不レ同、是以上亡ニ以持ニ一統一、法制數變、下不レ知レ所レ守、臣愚以爲、諸不レ在ニ六藝之科孔子之術一者、皆絶ニ其道一勿レ使ニ復進一、邪辟之說滅息、然後統紀可レ一而法度可レ明、民知レ所レ從矣ト云ヘリ、此說尤モ得タリ、サレバ聖人則ニ天地一、異端游ニ六合之外一、以ニ乾坤未判冲漠無朕一、立ニ其說一、聖人從ニ人情一而設レ道、異端矯ニ人情一拂ニ人情一縱ニ人情一、聖人以ニ萬物一爲ニ萬物一、使ニ各盡ニ其性一、異端以ニ萬物一爲ニ一體一、或放ニ下萬物一、聖人ハ節レ欲シテ異端ハ絶レ欲或任レ欲、聖人體用文質共ニ用テ、異端ハ體ヲ事トシ質ヲ旨トス、聖人ハ學敎ヲ示シテ異端ハ自悟自證ヲ事トス、聖人ハ日用ヲ論ジテ、異端ハ性心ヲ弄ス、是聖敎異端差異スル處ノ大概也、

○問云、能通ニ天地之外一ハ天地ヲ則トスルト云ベシ、人物ヲソコナハズ、不レ害ハ人物ノ性ヲ盡スト云ベシ、欲アルガユヘニ萬境ニ轉ズ、無レ所レ欲トキハ應ニ無レ所レ住而生ニ其心一ナルベシ、體ヲツクサバ用ハ明ナルベシ、自ラ覺セバ德自正シカルベシ、性心自正ハ日用自立ベシ、然ルヲ異端ノアヤマリトノ玉フコト、其惑イヅレノ處ニカアルヤ、

答云、天地ノ道ヲツクサズシテ六合ノ外イカンゾ可レ知、生ヲ不レ知シテ死ヲ知ントシ、不レ事レ人シテ求レ事ニ鬼神一ニコトナラズ、只高說テ不レ蹈ニ實地一、雖レ尊無レ徵ト云ベシ、人物ノコト可レ害ヲバ害シ、可レ除ヲバ除テ、ハジメテ人物生、ソノ處ヲ得ル也、只コレヲ不レ殺不レ傷ヲ以テ生ヲ全クストス不レ可レ言、サレバ莠

ヲトラザレバ苗ノ生ズルコト不レ全、孽（カビ）ヲノゾキ枝葉ヲ不レ制バ其大本不レ立、鳥獸ヲカラザレバ却テ人ヲ害シ五穀ヲヤブル、邪惡ノ輩ヲ退放シテ正道立、コレ聖人ノ道也、欲アルヲ以テ人タリ、無レ欲トキハ草木瓦石ニ同ジ、草木瓦石何ノ心アツテ可レ生ニ其心一乎、用ヲシラザルユヘニ體ト思フコト皆邪僻也、自了覺ヲ事トスルヲ以テ其德トスル處、私ニシテ德ニ非ズ、性心ヲ事トスルユヘニ日用日々ニクラシ、サレバ聖人ハ太極ヨリ道ヲ論ズ、異端ハ無極ヲ以テ道ノ本トス、其所レ指大ニタガフコト如レ此シテ、必竟公論ニアラズ、只自見ノ私說ナリト可レ知也、

○問云、公論私見ノワカチ如何、

答云、公論ト云ハ天下ノ人々コレヲ用テ行ニ利アリ、天下ノ善知ノ人コレヲ是トシ、上古ノ聖人コレヲ行鬼神コレニ通ズルヲ公義公論公是ト云也、其身一人ノ是トシ、一人ノ行フコトニシテ、一人ノ樂シムコトハ、皆私見臆脫孤議獨樂也、異端ハ身ヲ利シテ人ヲ不レ用、身ヲ樂シマシメテ大倫ヲステ、身ヲ潔シテ世間ヲ不レ顧、是其利トスル處所レ樂所レ潔（スル）トモニ一人己身ノ私ニシテ、大道公共底ニ非ズ、聖人ノ道ハ樂トキハ人ト、モニ樂、患トキハ人ト共ニ患、人ヲ立テ己ヲ後ニシ、人ヲ利シテ身ヲ後ニス、是異端聖敎公私大小ノ論明白ニシテ不レ可レ掩、サレバ異端ノ道ハ一己ノ道人コレヲ以テ自樂ベクシテ、若此ヲ家ニ施ハ家不レ齊、況ヤ國天下ニ及スニタランヤ、コ、ヲ以テ世々ノ政道聖人ノ道ニチナムトキハ天下安ク、異端ニヨル時ハ國ヤブレ天下亡ブ、タトヘバ異端ヲ信ズル主將アリト云トモ、天下國家ノ政道ニ異端ヲ用ユルト云事不レ有、只一人ノ安樂ヲ云ノミナリ、又主將聖學ニ志アリトイヘドモ、其道ヲキワメズシテ專性心ヲ弄シ、公義公論ヲコト、セザレバ、異端ヲ不レ學シテ其政道異端也、コ、ヲ以テ國亡天下亂ル、是秦晉ノ亡ブルユヘン也、コ、ヲ以テ云時ハ國家ノ治亂コトゴトク聖學異端ニ不レ出、國家ノ敗亡ハ異端ノ制アレバナリ、國家ノ治平ハ聖學ノ趣向アレバ也ト可レ知、世世ノ人君聖學ヲ好ト云ヘドモ、國亡家敗ル、アリ、異端ヲ學トイヘドモ、國治天下平ナルコトアリ、是皆聖學ト思ノ內ニ異端多ク、異端ト云中ニ自聖學ニチナムコトヲ不レ知ガユヘナリト可レ知也、實ニ異端ヲ用テハ無レ不レ亡、聖學ヲ立テハ無レ不レ治ト可レ知也、

○問云、天下ノ人是トスル處コレ道ナリトセバ、天下ノ人無レ不レ好レ色、無レ不レ好レ利、無レ不二以奢一、是ヲ以テ道トセンヤ、

答云、天下ノ人ノ是トスル處ト云ハ、天下ノ人コレヲキ、コレヲナシテ尤ナリト感心セシムルコト也、色ト云利ト云奢ト云、トモニ天下ノ人々ノ好ム所ニシテ聖人ノ道コレヲ禁ズルニアラズ、コレ乃公義也公論也、サレバ好レ色ベクシテ色ヲコノミ、財ヲ好ムベクシテ財ヲコノミ、可レ奢シテ奢ハ皆禮也、若不レ可レ好コトヲコノミ其惑所アランニヲイテハ、聖人コレヲ戒、タトヘバ色ヲ好テ淫亂ニ陷、財ヲ好デ己ガ利ヲ逞クシ、盡二錙銖一シテ如二泥土一ニイタシ、國民コレガタメニ苦ツカル、トキハ、是天下ノ人々以テ是トセザル處ナルガユヘニ、コレヲ禁ジテ節ヲ正ス、コレ又公是公論也、是ト定ムルモ非トキワルモ、天下ニコレヲ用テ其タガイアルベカラザランコト、コレヲ公ト云也、人ハ苦シミタシナメラレ、國ハツカレ家ハ亡ブルトモ、我好ム處コレナリト云ヲ以テ私ト名付也、コレ其私ヲ立行ナワシメバ、君臣父子ノ道敗レテ天下國家ノ滅亡立ドコロニ可レ得、豈コレ人々ニ施行スルノ道ナランヤ、コ、ヲ以テ人々ノ好ム處ナリト云ヘドモ、ツイニ天下ノモノ、コレヲ用ニ不レ足コトハ公ト不レ可レ言也、

○問云、異端ノ道ヲ以テ異國ノヲサマレルコト、釋氏ノ經典ニ明ナレバ、コレヲ以テ亂道トハ難レ言乎、

答云、釋迦ハ迦維國王ノ嫡子ニシテ王位ヲ舍テ入レ山學二佛道一、ツイニ國土安全ナルコト尤可レ然、其故ハ天竺國ハ西戎也、西戎ニヲイテハ佛道ヲ用イテ國土安全ノワケアルベジ、凡ソ五方民各ソノ性ヲ異ニシテ國々ニ敎アリト云リ、然レバ南蠻ニハ囘々ノ敎ヲ用テ國レ治、北狄ハ北狄ノ道ニテ世々立來ルトミヘタレバ、天竺ニテヨク行ル、コト勿論ナリ、シカレバトテコレヲ中華ニ行ナワント云ヘルコト甚愚昧タリ、聖人ノ敎ニ事タラザル處アラバ、又異敎トモ云ベシ、何事ノ不足アリテ又別傳ヲ可レ尋、只コレ奇ヲ弄シ怪ヲ好ム處ヨリ起レリ、昔石勒之於二佛圖澄一、苻堅之於二沙門道安一、姚興之於二鳩摩羅什一、皆奇怪ニヨツテコレヲ賞スルナリ、

○問云、孟子ノ時分モ異端多シテ、專楊墨ヲサシ玉フハ如何、

答云、西山眞氏曰、孔子既沒ニ異端遂作ル、至ニ孟子時一盛矣、以ニ司馬遷所レ記、自ニ鄒衍・淳于髡・田駢之徒一、各、著レ書言ニ治亂之事一、以干ニ世主一者不レ可ニ勝數一、若ニ申不害商鞅輩一、其害尤甚焉、而孟子所ニ深距一者、惟楊墨二氏何哉、程子伊川曰、楊墨之害甚ニ於申韓一、楊氏爲レ我疑ニ於義一、墨氏兼愛疑ニ於仁一、申韓則陋而易レ見、故孟子止タダニ闢ニ楊墨一、爲ニ其惑レ世之甚一也トイヘリ、コ、ヲ以テ案ズルニ楊墨ハ聖人ノ道ヲ見チガヘテ、同ジク聖人ヲ貴トイヘドモ、聖學ニ遠ク却テ邪僻ニ陷ガユヘニ、孟子深ク是ヲ辨ジコレヲ距也、コレ似テ非ナルモノニシテ、利口ノ邦家ヲクツガヘシ、紫ノ朱ヲ奪ニ不レ異ト可レ知、夫子鄉原ヲ以テ德ノ賊トノ玉フモコノ心ナルベシ、鄒衍・淳于髡・田駢ガ徒ハ、只術枝ヲコト、シ辨舌ヲ本ト云、コレ聖門ノ徒ニ非ズ、況ヤ其道トサス處ニ標準ナシ、何ゾコレヲ事トセンヤ、是孟子ノ楊墨ヲフセグユヘナリ、

○問云、老莊ノ敎イヅレノ世ニ盛ナリヤ、

答云、戰國ヨリ秦漢三國晉南北朝ニ至ルマデハ、コトゴトク道家ノ學ヲ旨トス、楊墨ガ說ハ孟子ヨリ以後其ノ沙汰不レ明シテ、專老莊ノ道ヲ事トス、況ヤ漢ノ初ハ道學ノ輩ニ人傑多シ、是秦ニ書ヲヤキ神仙ヲ事トスルガユヘナルベシ、サレバ漢ノ曹參ガ天所レ致、張子房ガ所レ遁、皆道家ノ一術也、コトニ商山ノ四皓ガ類、全クコレ道術ヲコト、ス、文帝又道家ヲ信ジ、武帝尤敬ニ鬼神之祀一、コ、ヲ以テ司馬遷ガゴトキ博知ノモノモ、其ノ所レ貴ハ老子ノ敎ニアツテ、史記ノ論コトゴトク其旨老子ニ歸ス、楊雄ガ博覽ナリシモ太玄經ハ老子ノ學ヲ旨トセリ、殊ニ魏ニ何晏アリ、晉ニ王衍ガ徒アツテ、祖ニ尙虛無一、宅ニ心事外一ノミ也、サレバ曹參以レ之相レ漢、收ニ寧一之效一、文帝以レ之成ニ富庶之功一トイヘドモ、只其一事ニシテ曹參ガ相タル道明ナリト云ベカラス、文帝ノ治正ト云ベカラズ、戰國ノ齊桓・晉文・管仲・晏子・叔向・子產ガ輩ニモ不レ可レ及也、晉ハコレヲ以テ風俗ツイニ頹廢スルニ至レリ、漢ニハ儒學ノ輩モ皆老莊ノ意見ヲ以テ本トス、故ニ載記ノ禮書所々ニ、道家ノ意味アリ、宋明諸儒々書ヲ解スルニ釋氏ノ意味ヲ以テスルニ同ジ、

○問云、釋氏ノ說流布スルノ始終如何、

答云、佛敎ノ異國ニソタルコトハ、後漢ノ明帝ノ時ナリ、シカレドモ只佛敎ノ經論佛等沙門少々來レルノ

ミニシテ、人未ニ尊信一、佛圖澄・鳩摩羅什ガ輩、晋ニアリトイヘドモ、性心ノ教ヲ事トセズ、コヽニ梁ノ武帝ノ時、初祖達磨釋氏ノ人傑トシテ、帝コレヲ信ズ、是ヨリ六祖ニ至ルマデ、相續シテ六祖惠能、甚釋氏ノ達人タリ、是ヨリ佛祖ノ教盛ニシテ、唐宋ノ帝皆信用ス、信用ニ從テ佛氏ニ達人又多ク出來テ、腐儒末學コレガタメニ拱ㇾ手噤ㇾ口ニタヘタリ、是古人ノ所謂唐以後ハ佛氏ニ有二聖人一トイヘルナルベシ、聖人アリト云ハ其人聖人ヲ不ㇾ知ガユヘニ佛者ニ有二聖人一ト云ヘル也、只人傑多出ルナルベシ、コノユヘニ宋元明ノ諸儒ハ儒書ヲ解スルニ以二釋氏説一ス、コレ周子ガ無極ノ説、邵子ガ冲膜無朕ノサタ、程子ノ靜座、朱子ノ復ㇾ初等、コトゞゝク佛祖ノ意見ヲ借ル處ナリ、況ヤ陸象山ガ自他ノ辨、王陽明ガ良知ノ工夫ハ、全ク釋氏ニ不ㇾ異也、

〇問云、周子・程子・朱子ノ學、何レノ處ヨリ誤來レルヤ、

答云、漢唐ノ諸儒コトゞゝク訓詁ニナヅンデ、文字ノ間ニ屈居ス、コレヲアヤマリト見ル處ヨリ、其見處甚高ニ過テ、コトゞゝク聖學ヲ以テ老莊佛氏ノ味ニ陥レズ、コレ周子ガ無極ノサタヨリ始レリ、聖人ハ太極ヲコソ本トシ玉ヘリ、太極已上ニ何ノ工夫アラン、太極ヲ超出セント云ハ既ニ聖人ノ學ニタガフ、是游ニ六合之外一也、無極モ亦太極ト一事トイワバ、何ゾ此無益ノ二字ヲ加ヘン、既ニ無極ト云トキハ太極ト同カランヤ、是皆聖人ノ書ノ實ヲ不ㇾ盡シテ、意見ヲ以テ深長ヲ加フ、マコトニ宋人ノ助長ニ不ㇾ異、明道ノ程子コレニ慣テ、胸中ノ洒落光風霽月ヲ事トス、其門人廣平游氏・龜山楊氏・藍田呂氏等、イヅレモ聖學ノ旨ヲ失スル事、朱子コレヲ辨説スルコト詳也、出二中庸或問一伊川ノ程子シバラク日用ヲ事トストイヘドモ、學流不ㇾ全シテ專性心ヲ弄ス、朱子ニ至テ頻ニ日用ヲ以テ教トスル事、先覺ノ及ブ處ニ非トイヘドモ、是又性心ノ自悟ヲ事トシ、一旦豁然ノ功ヲ待、其所ㇾ言專性心ノ上ニ執著シテ、其所ㇾ行ハ武夷ノ九曲ヲ樂デ、隱逸ノ志ヲ九詩ニアラハシ、曾點ガ氣象ヲ味、虚靈不昧ヲ不ㇾ見テ、持敬ノ學ヲ要トス、サレバ南宋ニ及デ朱子ノ學ヲ旨トストイヘドモ、格物致知ノ用法不ㇾ明ガユヘニ、學者昧シテ物ヲサグリ、暗室ニ足ヲウゴカスニ似タリ、欲ㇾ行シテ手足ヲ措ニ處ナシ、コレヨリ元明ノ學者、コトゞゝク程朱ノ學ヲ宗トシテ聖人ノ教殆廢ス、

ソノユヘハ程朱ノ解ヲ本トスルガユヘニ、聖人ノ言行ヲコトゞヽク程朱ノ私見ニ落在ス、コレ乃聖人ヲシテ塗炭ニ坐セシムルノイヽ也、

○問云、陸象山・王陽明ガ學ハ、マサシク佛見也、程朱ハコレニ異ナレバ、少シタガフ所アリト云トモ、學者コレヲ宗トスルコト可乎、

答云、學ノ道スヂハ異也トイヘドモ、程朱・陸王トモニ聖人ノ學ヲ失却スルハ同ジコト也、唯五十歩百歩ノ間タルベシ、其ユヘハトモニ性心ヲ了覺スルノ工夫ヲ事トシテ、格物致知ノ用ヲ不レ知、故ニ其了覺スル處コトゴトク、異端ノ所レ指也、コヽヲ以テツイニハ三教ヲ一致トイタスニ及ブ也、コヽヲ以テ云トキハ三致一教ナルヲ三教一致トイタセリ、儒釋道ノ教イヅレモ善ヲスヽメテ惡ヲコラス、是教ハ一ツスヂ也、サテ致トサス處ハ各コトニシテ、其タガイアリト可レ知、其致タガフヲ以テ其教モ又不同ニナリヌベシ、然ルヲ世儒ハ一致ト云ヘル、コレ聖人ノ旨ヲ不レ知也、

○問云、程朱・陸王之學イヅレモ、賢者ノ旨ヨリ出レバ、不レ可二拂棄一乎、

答云、不レ然、道釋ハ其宗トスル處異ナレドモ、其教聖人ノ教ニ似テ非ナルヲ以テコレヲ正戒ス、況ヤ儒門ニ居テ聖人ノ宗トスル處ニ相違アランヲバ、キビシク是ヲ禁戒セザレバ、紫ノ朱ヲ奪ニ不レ異、晉ノ范甯（字武子）以爲二王弼何晏二人之罪深二於桀紂一トシテ其論ヲ著シヌ、云心ハ桀紂ガ惡ハ其身一代一世ニトヾマレリ、六經ノ注解ヲイタシ違ヘテ人々ヲシテ道ヲトリウシナワセ、萬世迄其流レ相傳テ人ヲソコナフニ至レリ、是王弼・何晏ガ罪ノ桀紂ヨリ大ナル故也、王弼・何晏ハイマダ老莊虛無恬淡ニトヾマリテ其根ヲ深クセズ、宋明ノ諸儒道學心學ノサタニ至リテハ、マサシク浮屠ノ學佛祖ノ教、外ニシテ淫聲美色ノ人ヲ惑コト甚重ナルニコトナラズ、コノ故ニ漢唐ノ諸儒ハ事物ノ弊アラズシテ、宋明ノ諸儒ハ皆ソノ事ヲ高尙ニシ、隱逸ヲ以テ大倫ヲミダルニイタレリ、シカレバ深コレヲ闢ンコト孟子ノ距二楊墨一ニ類スミシ、予昔シ程朱ノ說ヲ尊信シ、其文義ヲ深ク味此ヲ身ニコヽロミ、人ニ試ムルコト久シクシテ、初メテ程朱ノ學聖道ニ不レ同コトヲ知ル、是全ク程朱ノ教ニヨッテ今此宗ヲ得、故ニ程朱ノ學ヲ毀排センコトハ、更ニ本意ニ非ズ、且程

朱ノ學世ニ行レテ、中華既ニ千年ニ近シ、本朝ニハ百年ヲ不レ出トイヘドモ、末儒ノ某甲等如レ此ノ説ヲナサンコト、人ノ感心スベキニ非ズ、一旦コノ言以出ハ天下ノ人相議シテ、不レ知レ量ノ誹謗、高慢我慢ノアザケリ、狂言綺語ノ説トセン事、豫ジメ此ヲ不レ知ニ非ズ、然レドモ聖人ノ道ハ天地ノ公共底ニシテ、吾人共ニ得テ私スベキニ非ズ、今コレヲタヾサズンバ、彌聖道異端ニ陷テ、コノ道地ニヲチツベキ事、既ニ此志明ナルノ上ニツヽミテカクスベキニ非ズ、又此説ヲ闡テ其旨ヲ發揮シ、予ガ志ヲ改ムル人、世ニアルマジキニ非ズ、シカレバ人ノ非笑ヲキラヒ、病レ狂喪レ心ノ誹ヲハバカリテ、以テ此ヲ不レ言トセバ、上堯・舜・禹・湯・文・武ノ道、下周公・孔子ノ大教、コヽニ沈淪センコトヲ歎ジテモ猶アマリアルコト也、昔陽明自一家ノ説ヲ立ケルトキ人々以テ非笑ス、コヽニヲイテ陽明作レ説曰、蓋不レ忍レ牴ニ牾朱子一者、其本心也、不レ得レ已而與レ之牴牾者、道固如レ此不レ直則道不レ見也、又曰、昔者孔子在當時有下議ニ其爲レ諂者上、有下譏ニ其爲レ佞者上、有下毀ニ其未レ賢詆レ其爲レ不レ知レ禮、而侮レ之以爲ニ東家丘一者上、有ニ嫉而沮レ之者一、有ニ惡而欲レ殺レ之者一、晨門荷レ蕢之徒、皆當時之賢士、且日是知ニ其不可一而爲レ之者歟、鄙哉硜々乎、莫ニ己知一也、斯已而已矣、雖ニ子路在ニ升レ堂之列一、尚不レ能レ無下疑ニ於其所レ見、不レ悅ニ於其所レ欲レ往、而且以レ之爲上迂、則當時之不レ信ニ夫子一者、豈特十之二三而已乎、然而夫子汲々遑々、若レ求ニ亡子於道路一、而不レ暇ニ於暖レ席者、寧以蘄ニ人之知レ我信一レ我而已哉ト云リ、其道ヲ立ル處ニハ、必世ノ非笑ナクンバアラザレドモ、不レ得レ已ノユヘニ、今朱子・程子ノ説ヲソムク也、

（一）問云、宋儒ノ心學理學ノ説ヲアヤマリトイヘリ、學者ノ志處ハ心學理學ニシテ、聖人モ存心ノ工夫ヲノベ玉ヒ、孟子モ求ニ放心一トアルトキハ、古來ヨリ心學ヲ用ユルニ非ヤ、

答云、聖人ノ教ヲ學ト云、學ハ人タルノ道ヲ學ブ也、人ノ司ドル處ハ心ニアリトイヘドモ、心性ニ形體ナシ、形體ナキガユヘニ見聞執捉スベカラズ、シカレバ心ハ人ノ全體ニ充滿シテ、全體ノ作用皆性心ナラズト云事ナシ、故ニ形體ニアラソレテ視聽言動イタスワザヲ能修ムルトキハ、性心自在ニ其中一、視聽言動思ヲ離レテ、心性ヲ云ベキモノナシ、大學ノ教正レ心ス

ルニハ其發動スル意ヲ誠ニシ、意ヲマコトニスルニハ知コトヲキワメ、知ヲ致ニハ格レ物ト出タリ、コレ心性ニ形體アラザルユヘニ心性ヲウツスモノヲ意ト號、意又無レ所ニ指示一ガユヘニ知トコレヲ云、知又物ニヨツテ不レ格バカナワザレバ、格物ヲ以テ極トス、然レバ學ト云ハヒキク近クタシカニ跡アル處ヨリ此ヲツトムルヲ以テ本トス、如レ此ツトムレドモ猶學者空虛ヲヨヂ、清談ヲ事トシテ下學上達ノワキマヘナシ、若心ヲサシ理ヲ立テ學トセバ、皆水ニ畫キ影ヲ捉ニヒトシカルベシ、是異端ノ所レ教ナリ、堯・舜・禹三代ノ相傳アル處モ中ヲ以テ敎トス、夫子ノ高門顏子・仲弓ニ仁ヲ示シ玉フニ心學ノサタナシ、經書ニ學ヲ以テ心上ノ工夫ト云ル言ツイニ不レ見レ焉、易ハ六十四卦ニソタリ、洪範ハ九疇ニ至レリ、存心ト云求ニ放心一ト云モ、存ト求トハトモニ皆學ノイヽ也、シカルヲ宋元明ノ諸儒心學理學ノ名ヲ立ツ、學皆心ノ學ナラズト云コトアラザルニ、別ニ心理ノ字ヲ加テ、學ニ名字ヲアラワシムルコトハ、是心性ヲ弄スルニ非ヤ、コヽヲ以テ心學理學ハ宋儒ノ意見ナリト云也、

○問云、天下ヲ治ムルニハ君ノ一心ヲ以テ本トス、天下ハ人ノ一體、君ハ人ノ心ノ如シ、然ラバ先心性ヲ事トセン事アヤマリト云ベカラザル也、

答云、心ヲ本トスルノユヘアレバ、心ヲ以テ工夫ノ第一トセンコトマコトニサモアルベシ、是ヨリ諸儒ノ意見相ヲコルコト也、似タル處ニ必タガヒアルモノナレバ、似テ不レ是コトヲ以テ是トスルヨリ、人々ノ惑ハ出來ル也、サレバ聖人ノ敎ハ公論公義ニシテ私ナシト云ハコレ也、今天下ノ異端皆心性ノ味ヲ弄ス、心性ヲ味フル輩ニ日用四民國家ノ事ヲアタヘテ是ヲ行ナワシムベシ、更ニ會得スベカラズ、コレ心性ノ工夫マデニテ事ニイタラザレバ、不レ可レ成ノ證也、又世間ニナレ世事ヲ詳ニイタセル輩ニ、此ヲ尋コレヲナサシムレバ、大方ニ皆トヽノフモノ也、コレ下學アルユヘ也、コヽヲ以テ心ノ作略マデヲ事トスル輩ハ、コトゴトク相違多カルベシ、又人君ノタトヘノ事、コレ其心得タガヘリ、天下ヲ治平セシムルモ、一心ノ一體ヲツカフニ相同トハ可レ言、一心ノ全體ヲヲサムルコト天下ヲ君ノヲサメ玉フニ同トハ不レ可レ言、尤處ニヨツテ一事ノタトヘハコレヲ比校スルコトアリトモ皆實譬ニアラズ、ソノユヘハ一體ハ皆一ツモノ、品々

ニワカレテ、四支百骸トソノ名ヲカヘタル也、天下ハコトナルモノヲ合セテ二ツニイタセルモノ也、茲ヲ以テ似テ不レ似事アリト可レ知也、タトヘバ人君ノ法タリト云トモ、心計ヲ、サメ玉フテ天下治平スト云コトハ不レ可レ有レ之、故ニ堯舜ノ政モ十六相ヲアゲ、事事ヲ人々ニ命ジテソレ〴〵ノ役事ヲタヾサシメ、其道々ヲ明ニシテサテコソ天下平ナリト云ヘリ、虞書ニ堯舜ノ政ヲ論ジ、其德ヲ稱スルニ心性ヲ以テ言トスルコトナシ、唯學者自ノ意見ヲヤメテ、直ニ聖人ノ經書ニ出ル處ノ言行ヲ以テ本トスベキ也、

○問云、孔子孟子ノ說、同異幷其ノ聖賢ノ量如何、

答云、孔孟ノ量ハ末學ノ徒コレヲ論ゼンコト甚憚多シ、唯其書ヲ詳ニ講習セバ自ラ得ツベシ、今其大概ヲ云テ學者ノ工夫トス、凡ソ孟子ハ口ニ必仁義ヲ以テシ、性心養氣ヲ以テ敎トス、夫子ノ所レ敎ソノ必トスル處ナシ、孟子ハ自高テ以ニ韓魏之家一如ニ其自視欿然一、故ニ王驩ガ徒太甚行迹アリ。夫子鄕黨ノ一篇唯禮容ノ實ノミト可レ云、孟子ハ心ヲ不動ノ地ニ立ス、是伎倆アリト可レ謂、夫子ハ無レ可無ニ不可一、孟子ハ其言甚圭角アリ、臣視レ君如ニ寇讎一、舜視レ棄ニ天下一、猶レ棄ニ敝屣一猶ニ草芥一ナリトイヘル事多シ、夫子ノ言論ツイニ如レ此ニイタラズ、其門人皆シイテ論ヲ立ルコト萬章ガ徒ノ如シ、夫子ノ門ニアソブモノ如レ此ニ不レ至、其書ヲ讀トキハ驩虞如トシテ、人ノ志ヲヨロコバシムルニ至ハ孟子ノ書ニシテ、久シキトキハ人ヲシテ倦シム、論語ノ一經ノ如キヨム時ハ彌高ク、味レバ彌深シテ不レ覺、春ノ臺ニ游デ渾然タルニコトナラズ、サレバ孟子ハ大英才ノ人ナルガユヘニ、言行コト〴〵ク大英氣ヲ以テス、七篇ノ文章詳ニ味而后ニコレヲ可レ知也、夫子沒シテ後曾子・子思聖學ノ大義ニ通ジ、孟子學ヲ子思ノ門ニウケテ孔子ヲ尊信シ楊墨ヲ距グ、其功甚重ナリト可レ謂、夫子ノ門ニ學ヲウクル輩多トイヘドモ、夫子ノ沒後ソノ統ヲ正シクイタス輩ナシ、荀子所謂第作ニ其冠一、神ニ禫其辭一、禹行而舜趨、是又子張氏之賤儒也、正ニ其衣冠一齊ニ其顏色一、嗛然而終日不レ言、是子夏氏賤儒也、偸レ儒憚レ事、無ニ廉耻一而耆ニ飮食一、必曰、君子固不レ用レ力、是子游氏之賤儒也トイヘル、コレ門人ノ學流次第ニタガフユヘ也、然ルニ孟子ヒトリ聖學ノ統ヲ正スルコト、マコトニ萬世ノ所ニ因知一ト云ベシ、孟子ヨリ后戰國ニ荀子アッテ夫子

ヲバ尊信ストイヘドモ、學ノ道不レ正、漢ニ董子楊子アッテ文學ニ名アリ、董子ハ漢ノ大儒ナリトイヘドモ、其宗未レ得レ實、況ヤ楊雄ガ學ハ老莊ニ根シ、其行大ニタガヘリ、其後隋ノ初文仲子自聖人ノ思ヲナシテ道ヲ立ツ、唐ニ韓退之出テ聖學ノ統ヲツガントス、是等諸子各ソノ志アリトイヘドモ、聖學ノ實ハ未レ明、シカレドモ戰國ヨリ唐マデノ學術ハ心性ヲ弃スルニ不レ及ガユヘニ、事物ニ通ジ世道ニクワシ、サレバシバラク學ヲ以テ國家ノ用トスルニタレリ、其後宋ニ及デ周子ノ工夫ヲ貴、專性心ヲ以テ事トス、コレヨリ學者事物ニクラクシテ心學理學ヲ事トシ、聖學大ニ乖戾ス、サレバ古ヲ以テ今ヲ考フレニ孔孟ノ時ハ老莊ノ學未レ盛シテ唯日用ヲ事トス、秦漢ヨリ老莊盛ニシテ儒者皆コレヲ根トス、故ニ學者自事物ヲハブクニ至レリ、唐ノ末ヨリ宋ノ初ニ及デ、佛學世ニ多シテ俗儒又コレヲ根ザシトス、コレヨリ聖學日々ニソムイテ學者心性ヲコトヽスルニ至レルナリ、シカレバ孟子ノ後今ニ至ルマデ聖人ノ道ツイニ不レ明ト云ベキ也、

○問云、程朱ノ説ヲ棄テ今直聖人ノ道ナリトサシ言コトヲソラクハ私ノ見ニシテ、自ノ心ヲ以テ示ノイ、ナラン歟、

答曰、古ノ聖人ハ上ニ可レ學ノ人ナシトイヘドモ、天地ヲ則ト立人物ノ情事ノ變ニ通ジテ、而後ニ天下ニ皇極ヲ建ル也、況ヤ今聖々相續シテ其道ヲ建玉フ、經書相ノコリ大聖夫子ノ言行明ニシテ、孟子以テコレヲ尊信註解スルコト正シ、コレヲ以テ聖人ヲ證トシ天地ノ文明未レ落レ地ヲ以テ本トナシ、近クコレヲ身ニ徵ミ遠コレヲ人ニコヽロミバ、千萬歲ト云トモ聖人ノ道ニタガフコトアルベカラザル也、昔伊川以爲、明道先生生二乎千四百年之後一、得二不傳之學於遺經一、以レ興二起斯文一爲二己任一、孟子之後一人而已ト、案ズルニ只遺經ニコレヲ得タリト云コト既ニ聖學ノ實ニアラズ、聖人書ヲ考テ天地人物ヲ以テコレヲタヾシ徵ザレバ必私見ニ落在ス、是程子之學タヾシカラザルユヘン也、況ヤ孟子以後泛々ノ學者ノ説ヲ師トシ、此ヲ以テ道トセバ偏見ニ陷テ大道ヲ得ベカラズ、故ニ程朱ノ説ヲ師トスルハ悉ク惑ノ本タルベシ、唯已ガ好ムトコロヲヤメ、勝心ヲオイテ聖人ノ道ヲ窺ガフベシ、

○問云、自ノ心ヲ以テ自試ミバ、自證自悟タランカ、

答云、自證自悟ト云ハ、心ヲ以テ心ヲサトリ、自我心ヲ證據トスルノ心ニシテ、是俗學異端ノ工夫心ヲ師トスルノイヽ也、今云所ハ不レ然、伏羲近取二諸身一遠取二諸物一トノ玉フ處、中庸ノ本二諸身一徵二諸庶民一ト云ヘル也、サレバ心ヲ以テ心ヲ求ムルハイツマデモ我心ニテ心ヲタヅヌルユヘニ、ツイニシルベカラズ、不レ可レ知ヲ以テ心ニ證據ヲ立ツ、コレ空虛ヲエリ水ニ印ヲナスニヒトシ、聖人ノ道ハタシカニコレヲ身ニ行テ其可否安苦ヲ考、性心ノ安ズル處ヲ知テ其ノシルシトス、然レドモ我身又氣質ノ厚薄ハカリガタキヲ以テ、此ヲ天下ノ人ニコヽロミ、人々以テ可レ安可レ利ノシルシアルトキハ是乃道ナリ、シカリトイヘドモ猶萬物ニアワセ天地ニコヽロミ、サテ三王鬼神マデニタヾスガユヘニ、更ニタガフコトアラザル也、宋明ノ末儒多異端ノ說ニ惑フガユヘニ、其道トサス處モ只心性ノ間ヲ了覺シテ、異端ノ性心ヲ練ニダモ亦不レ及、コヽヲ以テ事物ヲ詳ニツクサヾルノミニ非ズ、又性心ノ作用ヲモ不レ詳、コノユヘニ口ニ周公孔子ヲ以テ證、性心ノ理ヲ飽マデニスト云ドモ、實行更ニワキマヘナシ、是程朱ノ學ヲ信ズレドモ程朱ノ道ヲモ亦不レ知也、況ヤ周孔ノ大道イカンシテカ可レ得ヤ、古人云、蓋至二于今士一、非二堯・舜・文王・周・孔一不レ談、非二論語・中庸・大學一不レ觀、言必稱二周・程・張・朱一、學必曰二致知格物一、此自二三代一而後所レ未レ有可レ謂レ盛也、然豪傑之士不レ出、禮義之俗不レ成、士風日陋二於一日一、人才歲衰二於一歲一、而學校之所レ講、逢掖之所レ談、幾有下不レ若二屠兒之禮レ佛娼家之讀一レ禮者上、是可レ嘆也トイヘリ、今案ズルニ學者ノ失、是格物致知ヲステ、性心ノ自證自悟ヲコトヽスルユヘニ、事物ニアウトキ更ニコレヲワキマヘズ、儒ノ敎ハ事物ヲ以テ本トス、治國平天下ノ用コレ也、異端ハ恬淡無事ヲ以テ敎トス、故ニ儒ノ任ハ事物ニアツテ今ノ儒學其志處恬淡ヲ要トス、此ヲ以テ末學ノ輩此ソシリヲ免レズ、其流如レ此ハ其源ニタガフ處アルガユヘト可レ知也、宋史陳同父傳、今世之儒士自以爲レ得二正心誠意之學一者、皆風痺而不レ知二痛癢一之人也、擧二世一安二於君父之讎一、而方低レ頭拱レ手、以談二性命一、不レ知何者謂二之性命一乎、今世之才臣自以爲レ得二富國彊兵之術一者、皆狂惑以肆叫呼之人也、不下以二暇時一講中究立國之本末上、而方揚レ眉伸レ氣、以論二富强一、不レ知何者謂二之富

疆一ト、コレ陳亮南宋孝宗朝ニ在テ、朱子呂東萊ヲサシテイヘル也、サレバトテ陳亮亦聖學ヲ會セシニハアラズ、唯學ノ空虛ニ驚テ事物ニウツラザルヲ云ヘル也、當時ノ學者周孔ノ正經ヲサシヲイテ、宋明ノ儒ノ言ヲ宗トスル者皆然リ、コレ又舍レ禘而宗レ兒、買レ櫝而棄レ珠トイヘルタトヘニコトナラズ、サレバ國家ノ大經大倫ニ不レ通トキハ、其言論玉ヲヱリ、其一行鬼神ヲ感ゼシムト云トモ、只上レ焉者下レ焉者ノ間ニシテ、聖人ノ敎ニ非ルガ故ニ、我ハ信ズルニ不レ足也、

○問云、本朝ハ往古ヨリ神道ヲ以テ貴トス、是大異ニ聖敎ニ乎、

答云、本朝往古ノ道ハ天子コレヲ以テ身ヲ修人ヲ治、人臣コレヲ以テ君ヲ輔政レ國、乃神代ノ遺勅マサシク天照太神至誠ノ神道也、當時ノ神道トサス處ハ皆事レ神ノ道ニシテ神職ノ所レ知也、上古ハ神職ヲ司ル人乃朝廷ノ政ヲシルガ故ニ神職ト云朝政ト云二ツアラズ、シカレバ神人一事ニシテ更ニワキマヘナシ、コノユヘニ神ニツカフルコトヲ得ル人ハ乃天地ノ理ニ通ゼザレバ不レ合、ユヘニ神職ヲ甚重ジテ大臣コレヲカチタリ、コレ知ニ禘之説一者之於ニ天下一也其如レ示ニ諸斯一乎指ニ其掌一トハコノ心ナルベシ、禘ハ乃祭レ天ノ名天下ノ大祭也、易ニ聖人以ニ神道一設レ敎而天下服矣ト云ヘルモ是也、中古ヨリ以前朝政ト神道職ト二ツニワカレテ、既ニ天照太神伊勢ニ鎭座以後ハ神職家相定リ、神事祭禮ノ役義ヲ知ルノミナレバ、コノ家流乃事レ神ノ道ヲシレルニシテ、マコトノ神道トサス處ハ代々ノ天子三公ノ家ニ相傳ハレリト可レ知也、往古ノ神勅ト云ヘルコトアリ、天照太神・高皇產靈尊、崇ニ養皇孫一、欲三降以爲ニ葦原中國主一、卽勅曰、吾兒視ニ此寶鏡一、當レ猶レ視レ吾、可ニ與同レ床共レ殿以爲ニ齋鏡一ト、コレマコトニ萬代寶祚ヲフマシメ玉フ、帝王受授傳法唯一ノ神道ナルベシ、サレバ寶鏡ヲ與ヘ玉フ時ノ當レ猶レ視レ吾ノ四字ハ、孝子順孫不レ改ニ父祖之道一ノマコトシテ、乃大學ノ敎在レ明ニ明德一四字、堯舜禹相傳玉フ、允執ニ厥中一四字ニコトナルベカラズ、コレ聖人ノ大敎ナリ、コ、ヲ以テ案ニ本朝又東方ノ君子國ニシテ異國ノ聖々相續ニコトナルコトアラズ、順德院ノ御記ニモ禁中ノ作法先ニ神事一後ニ他事一、旦暮敬レ神之叡慮無ニ懈怠一、白地以ニ神宮幷内侍所方一不レ爲ニ御跡一ト出タリ、諸宮ヲ立ラル、ニ以ニ神祇

宮ヲ爲レ上コト、皆宗廟社稷ヲ重ジ玉フユヘ也、サレバ都宮制右ニ社稷ヲ左ニ宗廟ヲ、君子將レ營ニ宮室ヲ、宗廟爲レ先、凡家造祭器爲レ先ト云ヘルニ同ジ、周公制シ官ヲ春官ヲ立テ大宗伯ニ禮ヲ司シム、禮五ツアツテ吉禮ヲ以テ先トス、吉禮ハ事ニ邦國之鬼神示ヲトハ此心ナレバ、本朝ノ制異朝大聖ノ立玉フ處ニ異ナラズ、今神道ヲトリチガヘテ尤怪異甚深ノサタヲナスコトハマコトノ神道ニ非ズ、サレバ忌部廣成ガ古語拾遺、卜部兼延ガ名法要集等ニ家々傳來相承ヲイヘリ、皆是奉レ仕ニ主神事ニ之宗源也ト云ヘル、神書ノ言ニヨツテ唯一宗源ノ神道ト云ヘルトイヘドモ、異說多シテ一決シガタシ、只事レ神ノワザヲシルト遺勅ノ神道ト此二ツニキワマレリ、トモニ聖人ノ道ヲ以セザレバ難ニ信用シ也、昔嘗問ニ神道ヲ人アリ、是ニ與ヘシ處ノ書ヲココニ記ス、可ニ幷考ス也、

按神書曰、于レ時天照太神入ニ于天石窟ニ之時、高皇產靈神會ニ八十萬神於天八湍河原ニ議ニ奉レ謝之方ヲ令下太玉命齋部宿禰祖也捧ニ持和幣ヲ稱讚上、亦令ニ天兒屋命相副祈禱ヲ、于レ時天照太神開レ戸而窺レ之、爰令ニ手力雄神引ニ啓其扉ヲ遷ニ坐新殿ニ、則天兒屋命太玉命、以ニ日御綱ヲ廻ニ懸其殿ニ、既而天照太神、高皇產靈尊、崇ニ養皇孫ヲ欲ニ降爲ニ豐葦原中國主ト、即勅曰、吾兒視ニ此寶鏡ヲ當下猶レ視レ吾、同レ床共レ殿、以爲中齋鏡上、仍以ニ天兒屋命・太玉命・天鈿女命ヲ使ニ配侍ニ焉、因又勅曰、吾則起ニ樹天津神籬及天津磐境ヲ、當下爲ニ吾孫ノ奉上レ齋矣、汝天兒屋命太玉命二神宜レ持ニ天津神籬ヲ、神降ニ於葦原中國ニ、亦爲下示ニ吾孫ニ奉上レ齋焉、惟爾二神共侍ニ殿內ニ能爲ニ防護ヲ、凡神書非ニ一流ニ而大中臣・忌部・卜部三姓之所レ傳、大同而小異、其以ニ天兒屋命太玉命ヲ、爲レ供ニ奉神職ヲ也、竊按天孫天降時二神爲ニ左右之扶翼ヲ、是乃同ニ後世左右相ニ、故神武東征之後天下一統、二神之孫大種子命天富命、又爲ニ左右ニ、此時皇居神宮無ニ差別ニ、是如ニ往古神勅ニ、而天種子命專主ニ祭祀事ヲ、是乃朝政之儀也、第十代崇神天皇、畏ニ神威ヲ鑄ニ改鏡劍ヲ、奉レ安ニ置神代之靈器於別所ニ、是皇居神宮相分之初也、自レ是神職朝政相分、垂仁朝、天照太神鎭ニ坐伊勢國度會郡五十河上ニ之時、命ニ中臣祖大鹿島命ヲ爲ニ祭主ト、其後代々爲ニ祭主ト、景行朝始朝廷置ニ神祇官ヲ與ニ伊勢神官祭主ト各別而其職掌爲ニ祭主ト、伊勢祭主大中臣・忌部・卜部三姓任レ之、而帶ニ神祇大副ヲ、又按上古之神道者、乃國家之朝政、故

執ニ朝政一之大臣乃帶レ之、皇居神宮相異之後、既立ニ神祇官祭主一、則神祇官祭主者主ニ神事一之職掌、而非レ知ニ朝政一、故彼流所レ傳、是神事祭禮祝詞祓等之祈禱奉幣之義也、又按上古之神道者、順ニ天照太神之神勅一、安ニ置御靈八咫鏡及草薙劔於大殿一、而修ニ仁德一、比ニ之玉之溫潤含蓄一、明致ニ其智一、比ニ諸鏡之照レ姸、醜由レ義權中比ニ諸劔之制斷宜果一、故仁以守レ之、德以修レ之、智以致レ之、義以由レ之、則天下之大小精粗無レ不レ通、是乃上古之神道、而乃聖人之道、易所謂觀ニ天之神道一、而四時不レ忒、聖人以ニ神道一設レ敎、而天下服矣也、愚謂易所謂神道者、天地之妙陰陽不レ測之神道也、聖人觀レ之法ニ天地一、以立ニ此敎一、是於レ觀卦所ニ以言レ觀ニ神道一也、又按夫如ニ祭祀職掌一、神道之一事而以不レ可レ傳ニ庸人民間一之道也、若傳ニ諸於民間一、則狎而易レ之、故人々必事ニ奇怪一、是索レ陰行レ怪、而聖人所レ不レ言也、凡正道廢而人不レ知レ之、故民間必設ニ淫祠一、以ニ鳥獸草木之精一爲レ神、以ニ鬼魅罔兩一爲レ神、故鰐魚得レ勢、虵已得レ力祈レ之則驗、汚レ之則禍、或登ニ高山之上一、或入ニ澗壑之深一、以崇ニ鬼魅之精一、爲ニ土地之神一、四時時月相會以祭レ之、人民如レ此則鬼魅得レ力、乘ニ其虛一是乃上無ニ道揆一下無ニ法守一、家々殊レ俗、邪說暴行之相承也、

○問云、本朝ニハ儒釋イヅレノ時ニヲコレルヤ、

答云、前ニ出ルゴトク本朝往古神勅是乃聖人繼レ天而建極之道也、儒師ハ聖人ノ道ヲ敎ル人ノ名周禮ニ出ル處ナリ、シカレバ儒ト云名ハアラザレドモ、本朝ノ往古ヨリ天下ヲ平ニシ國ヲ治メ來ルハ皆是儒ノ敎也、道釋ノ敎ハ治國平天下ヲ以テ任トスルニ非ズ、サレバ種子命神ヲ祭ノ禮ヲ司テ、神武帝ヲ輔佐セシメシハ孝悌ノ道ヲ敎ノイヽ也、道臣命忠勇ヲ以功ヲアラハスハ武德ヲ明ニスルノイヽ也、其後孝靈ノ御宇ニ至テ徐福三墳五典ノ書ヲモツテ本朝ニ至リ、垂仁ノ時後漢ノ光武善隣ノ交ヲナセシトカヤ、應神ノ朝ニ至テ王子菟道稚郎子師ニ阿直岐一トシテ文ノ學ビ玉フ、王仁トイヘル博士ヲスヽメ奉ル、王子コレヲ召シテ諸ノ典籍ヲ習玉ヘリト也、阿直岐王仁トモニ百濟ノ人也、此前書籍ノサタアリトイヘドモ、タシカニ日本紀ニ出セル處ハコレゾ經籍流布ノ初也、此後入鹿臣鞍作ガ惡逆ニヨツテ本朝ノ文明スデニ晦昧ス、ココニ中大兄幷大職官鎌子連南淵先生ニ從テ、周公孔子ノ道ヲ學デ再朝廷ノ禮ヲタヾシ、鞍作ガ難ヲ除セ

リ、南淵先生トイヘルハ南淵漢人請安ガ事也、コレハ推古ノ帝唐國ニツカワシテ、周公孔子ノ道ヲマナバシメ玉フ漢人ナリトゾキコエシ、コレヨリ官位律令ノ制正クシテ文明ノ治サカンナリキ、近江ノ朝ニ内大臣藤原鎌子春秋五十有六ニシテ薨ゼラレテ後、文武大寶元年ニ鎌子ノ子淡海公不比等、奉レ勅テ諸ノ博士ヲアツメ律令ヲ撰セラル、以二淨御原朝廷一準正トシ、唐ノ開元ノ禮ニシタガヘリ、而シテ諸國ニ明法博士ヲツカワシ新令ヲ講ジテ天下ノ俗ヲ一ツニス、ソノ後慶雲ニ粟田眞人入唐シテ本朝ヲ君子國ト稱セラレ、天平ニ下道眞備入唐シテ唐禮百卅卷ヲ得、故ニ大學ノ設釋奠ノ式、進士及弟ノ法アダカモ中華ニコトナラズ、故ニ舍人眞道ノ博識、繼繩・良香之記問、江師之博聞、道長之麗藻ヨ、更ニ不レ乏、是我道ノ相傳フル所以也、コヽニ人皇三十代欽明ノ朝、十三年冬十月百濟ノ聖明王使者ヲ奉リ、釋迦佛ノ金銅ノ像幷幡蓋、經論ヲワタシテ是法於二諸法中一最爲二殊勝一、周公孔子尚不レ能レ知二此法一ト云ヘル表ヲ奉レリ、コヽニヲイテ諸卿詮義アッテ此法可レ信ヤ否ヤノコトアリシニ、時ノ大臣蘇我稲目コレヲ執奏シテ禮拜センコトヲ申ス、物部ノ大連尾輿中臣ノ連鎌子、同ジク奏シケルハ、我國神勅ニヨッテ天地社稷ヲ崇敬スルヲ以テ爲レ事、今異國ノ神ハ信ズルニタラズト、固ク奏聞申スニ付、ツイニ佛體ヲ王宮ニ不レ奉レ入、只稲目宿禰ガ小墾田ノ家ニ安置リ向原ノ家ヲ寺トシテケル、ソノ年國ニ疫癘サカンニ興テ、家々ニ病人多ク療治ニカヽワラザリケル、サレバ尾輿鎌子執奏シケルハ、サキ臣ガ奏聞ヲモチヰ玉ハザルニ因テ、天地ノ神靈コレヲトガメ此不祥ノ侍ルナリトテ、ツカサ〴〵ニ命ジテ、佛體ヲ難波堀江ニステテ向原ノ伽藍ヲヤキステテケリ、イカヾイタセルニヤ、此時天ニ無二風雲一禁中ニ火災アリケレバ、是併佛體ノ咎メニコソト人々思フトコロニ、同十四年五月河内國ヨリ海中ニ梵音ノアッテ、毎夜テリカヾヤクコトヲビタヾシトアリケレバ、佛像ノ神光ナルベシトテ、乃佛像ヲツクラシメ玉フ、コレヨリ佛法ノサタ世ニ廣リケルト云ドモ、未ダ人々此ヲ不レ知、卅一代敏達ノ朝十三年ニ百濟ノ鹿深臣佐伯連各佛像ヲ奉ル、蘇我馬子コレヲ信ジテ、ツイニ最愛ノ女島御前トイヘルヲ、十一歳ノトキ出家セシメ、コレヲ善信尼ト名付ケ、其コロ播磨國ニ高麗惠便トイヘ

ル佛者アリケルヲ、ノリノ師トシテ佛法ヲ歸依シ、馬子ガ石川ノ家ニ佛殿ヲ立テ大齋會ヲ設ケル時ノ大臣如レ此ノ故ニ、天下ノ男女コト〴〵ク佛敎ヲ信ジヌ、是佛法天下ニ流布ノ初也、同十四年天下又大ニ疫癘アッテ馬子モ大病ニヲカサレヌ、又時ノト者コレ乃天神地祇ノタヽリナリト云ケレバ、守屋大連中臣勝海ト心ヲアワセ、奏聞シテ佛像佛殿コト〴〵クヤキテ難波堀江ニステケレバ、ソノ日無レ雲ニ風雨甚シ、コトニ天下ニ瘡ヲヤムモノ無二際限一、是燒二佛像一ノ罪ナリトイヘリ、馬子ノ宿禰病氣未レ快ニ因テ、シキリニ佛法再興ノ奏聞不レ止、故ニ勅許アッテ馬子ノ宿禰一人佛法ヲ執行アリ、ソノ八月天皇崩御マシ〳〵ケレハ、彌佛法ノ咎メニモヤト沙汰シケレバ、佛法ヲ誹謗スル輩忽ニ災害アルニナレリ、茲ニ用明ノ王子聖德太子生質不レ凡、聰明類少カリシガ、專佛法ヲ信用アサカラズ、コヽヲ以テ佛者ノ方人多ナリケレバ、崇峻ノ朝ニ及デ蘇我馬子幷太子群臣相ハカッテ佛法ヲサミスル輩、物部ノ守屋大連ヲ滅セリ、此亂屬二無事一ノ後攝州ニ天王寺ヲ立、所々ニ本願ノ寺ヲ建立シ、佛法甚盛ニシテ蘇我馬子威ヲ四海ニフルフ、崇峻ノ帝コレヲニクンデ馬子ヲ害シ玉ハントノ思召アリケルヲ、大臣知テヤガテ帝ヲ弑シ奉テ、欽明帝ノ皇女ヲ天子ニソナヘ奉ル、是ヲ推古天皇ト申シ奉ル、是レ併ラ馬子釋敎ヲ信ジテ大綱ヲ不レ知ガユヘニ、無双ノ大逆ヲ企君ヲ弑奉ルコト、本佛法執行ノスグル處ヨリ起レリ、推古ハ女帝ニシテ聖德太子ノ伯母ニテワタラセ玉ヘバ、乃天下ノ政道ヲ攝シメ玉ヒ、皇太子ノ位ニソナヘ玉フ、本ヨリ佛法歸依アサカラズ、太子ノ聖德アメガ下ニ幷ブベキニ非レバ天下大ニ治レリ、推古帝十二年太子憲法十七ケ條ヲ作リ玉フテ天下ノ式目タラシム、其言コト〴〵ク聖經ヲ以テ本トシ玉ヘリ、是ヨリ朝廷ノ政コト〴〵ク佛敎ヲ重ズ、然レドモ其行フ處ハ皆往古聖人ノ制法也、聖德太子美質聰明ノ君子ナレバ、此時若聖經ニクワシキ輩アラバ、忽ニ天下聖人ノ道ニ歸スベシト云ドモ、時ニ聖經ノ大義世ニ不明ナレバ、太子異敎ヲ崇敬アリトミヘタリ、太子馬子ガ謀ニマカセテ崇峻帝ヲ殺シマイラセ玉フコト、尤大義ノアヤマリアレバ、史臣ニ董狐アラバ弑レ帝ノ名遁レ玉フベカラズ、是併異敎ニ因テ大綱ノ不レ正ガユヘ也、シカレドモ太子天下ノ政ヲ輔ケ玉フテ、憲法ヲ

立テ禮ヲ以テ天下治民ノ本トシ玉イ、四海悉風化ニ順テケレバ、推古二十九年太子薨御マシ〳〵ケル、萬民如レ亡ニ父母一、耕夫止レ耕舂女不レ杵、日月失レ耀、天地既崩ト、國史ニコレヲ記ストキハ、其大功業萬民ニ蒙シメ玉フコト、本朝中古ノ名太子ト可レ云也、カクテ文武ノ朝ニ道照入唐シ、聖武帝ノ時行基大ニ道場ヲマフケ、桓武帝ニ及デ空海最澄ノ二大師、顯密ノ權化ヲアラワシ、コレヨリ釋流彌盛ニシテ、コレヲ以テ王化ノ佑助タラシムル主將尤多シ、

○問云、老釋ノ道ニ秀タリトモ、王化ノ助力トハ不レ可レ成コトニシテ、太子ヲ以テ稱美シ玉ヒ、王化ノ佑助アリト云ヘルハ如何、

答云、主將ニ其明知アッテ、國家ノ政道ニ志深トキハ技藝疎術ヲ考ヘ玉フテモ、治道ノ佑助タラズト云コトナシ、古人筆畫ヲマナンデ或ハ劍ヲツカフヲ見テ筆ノ妙ヲ得、或ハ鵞ノ體ヲ考ヘテ以テ其妙ヲ得、コレ張旭・王義之皆然リ、劍鵞ニ筆法ノ妙アルベキニ非トイヘドモ、其道ニ志深シテ知明ナレバ、見聞覺知スル處皆ソノ術ヲ祐ク、況ヤ釋氏李老君トモニ一道ノ祖トシテ、一家ノ法ヲ建立シテ其道ヲ要トシ、コレヲ以テ治世安民ノ極ト謂傳タルナレバ、其道ニ志深ンバ王化ヲ佑ケンコト非ニ不審一也、コレ大聖ノ道ニアラザルユヘニ、大義大綱タガイ五倫不レ明トイヘドモ、主將ノ知明ナルハ其內ノヨカラン所ヲ執テコレヲ行玉フベキガユヘニ、無知妄作ノ輩トチガイテ、王化宜シカルベシ、サレバ晏子伯玉トモニ夫子ノ道ト志ヲ一ツニセズト云ヘドモ、夫子皆コレヲ賢大夫ト稱シ玉フテ、管仲ニハ仁ヲユルシ、晏子久而敬ノ怠ザルコトヲノ玉ヘリ、聖人ノ量太廣シト可レ云也、

○問云、蘇我馬子崇峻帝ヲ弑セシトキ、聖德太子コレト密談アランニハ、太子ノ不義不レ可レ言、シカラバ大功アリト云トモ、コノ不義ヲ掩ホドノ大功ハアルベカラザルコトニヤ、

答云、弑レ君ノ不義マコトニ天地ニモ不レ可レ入、馬子弑ニ崇峻帝一時、太子此ニアヅカリ玉フコト、日本紀ニ不レ出、シカレバ推シテ云ヘルノ言也、太子コノ謀ヲ知玉フヤ否、コノ處不レ可レ知也、不レ知處ヲ推テ太子ノ善ヲ掩ハ、君子ノイタス處ニ非ズ、昔齊晏子衞伯玉トモニ弑レ君ノ謀ヲ知テ、ソノ賊ヲ不レ討トイヘドモ、夫子此二字ヲ賢者トス、管仲其君ヲコロス所ノ桓公

ニツカヘテ仁ヲユルシ玉フ、春秋ハ亂臣賊子ヲ懲シ玉フ書ニシテ、楚穆王弑二其君一（父靈王也）而立、春秋コレヲ惡デ、書三楚世子商臣弑二其君頵（キン）一玉フ、シカレドモ後ニ過ヲ悔善ニ遷テ中國ヲ慕ケレバ、春秋書三楚子使二椒來聘一、其臣書レ名、稱レ使書二其爵一ハ春秋コレヲ稱美スルノユヘン也、コ、ヲ以テ案ニ太子ノ言行正シテ、天下ノ化大ニ行ル、ニ至テ、憲法立禮義行、ソノ薨ズルニ及デ、天下如レ亡二父母一トキハ、其善非レ不二稱美一也、佛法釋敎ハ異敎ナリト云ヘドモ、太子ノ行玉フ憲法ハ、コレ乃聖人ノ敎ニ近シト可レ云也、其後歷代ノ賢臣、又コレニ從テ王化ヲツトメ、武家ニ及デ平泰時時賴專三寶ニ歸依シテ、其政道ノ補助トスルコト舊紀ニ出タリ、如レ此諸賢異敎ヲ貴ユヘニ非ズトセンヤ、是皆自ノ知明ナルガユヘニ、彼ヲ以テコノ助ト致セルト可レ知也、唯其器小シテ天下ノ化不レ可レ比二聖敎一ハ、是主將ノ不幸也、

謫居童問中末終

謫居童問下本

治平

○問云、聖學治國平天下ヲ以テ要トスルコトハ如何、

答云、聖人ノ道天下ノ人民ヲシテ其所ヲ安ゼシムルニアリ、コレ乃天地至誠ノ實ニシテ聖人私ヲ立テシガ云ニ非ズ、一人一己ノ安ジ樂シマン事ハ君子ノ是トスル處ニ非ズ、唯天下ノ萬民ヲシテ、各其安ズル處ニ安ゼシムルヲ以テ大道ト云也、子貢、博ク施シ濟レ衆ヲ以テ仁ト可レ謂ヤト問ケレバ、夫子曰、何事ニ於仁ニ、必也聖乎、堯舜其猶病レ諸トヲシヘ玉ヘリ、大學ノ敎ハ明德ヲ天下ニ明ニスルヲ以テ本トシ、以ニ天下平ニ極功トス、仁ハ天下歸レ仁ヲ以テ要トス、サレバ鳥獸ト、モニ群ヲ同シ、其身潔シテ大倫ヲ亂リナン事ハ、君子達人ノ好ム處ニアラズ、隱士逸民ノ事トスル處也、不幸ニシテ時ニ遇コトナク、世ニ不レ用ト云ドモ猶憂レ國輔レ世ノ志ハ胷襟ニ忘ルベカラズ、夫子衰周ニ出玉フテ不レ暇ニ於煖レ席コト可ニ幷案ニ也、其身ニ大德大知アリト云ドモ、不レ得ニ其位ニトキハ禮樂ヲ制スル事不レ能、禮樂ヲ制セザレバ萬民ノ規模タルコトナシ、萬民ヲ救テ其道ニヲラシメザレバ、其仁ヲ仁トスルニアラズ、故ニ聖人ノ大寶ヲ曰レ位、大德ノ者ハ必天命ヲ受トモイヘリ、末學ノ俗儒コノワカチヲ不レ知、閑居獨處シテ性心ヲ味山水ヲ樂デ遣レ情、コレヲ以テ遯レ世不レ悶ノイ、也トス、易ニ所謂遯レ世无レ悶、不レ見レ是而无レ悶、樂レ天知レ命ハ、潛龍ノ時ニアタッテ動トキハ咎アルベキヲ知レバ也、乾坤以レ利ニ天下ニ、コレ大哉至哉ト賛シ玉フユヘナリ、飛龍在レ天ヲ大人トシ、君得ニ尊位ニヲ大有トシ、富有レ之謂ニ大業ニ、皆ソノ德ノヒロク下ニ通ズルコトヲ可レ得ケレバナリ、小人愉ニ自閑ニハ皆獨樂コトヲ知テ、ソノ道ノ衆ニ可レ施アラザルガユヘ也ト可レ知也、古士生ル、トキハ必ズ桑弧蓬矢ヲ以テ天地四方ヲ射ルコト、コレ士ハ志在ニ四方ニコトヲ不レ可レ忘ノ戒ナリ、近世人ノ氣象自然ニ沈淪シテ豪傑ノ機ヲトリヒシギ、唯靜坐默識ヲ事トシ、ツミナクテ配所ノ月ヲミル事ヲ思フ、サレバ學者ニ豪傑英雄ノ士不レ出、風俗日ニ衰テ國家輔佐ノ器ニアタルベキ輩、中華ニモスクナシ、是學ヲ以テ志ヲ養、

オヲ厚クスルコト不レ能ガユヘト可レ謂也、コノユヘニ今ノ學者ハ皆聖人ノ徒ニアラズ、口ニ聖經ヲ唱トイヘドモ、心ニ隱逸ヲ以テ本トスルコト、皆宋明ノ儒性心ヲ弄スルノ誤ヨリヲコレリ、故ニ戰國秦漢三國ニハ、人ニ豪傑ノ大丈夫多シテ、叔向・子產・晏子・伯玉・范蠡・魯仲連・孔明ガ類世ニ不レ乏、晉ニ老莊ノ學ヲ衒テ後人品一等ヲクダリ、陶潛謝安ガ輩トモニ隱逸ヲ事トス、シカレドモ猶唐ニ文學盛ニシテ、魏徵・房玄齡・杜如晦ガ類、甚世務ニ大業ヲツクス、宋以後理學心學ノ說出テ、人品又一等ヲクレタリ、唯洒落脫然ヲ事トス、コレヨリ豪傑ノ士不レ出、日々月々ニ風俗ヲトロヘテ人々小成ニ安ンズ、故ニ宋朝ノ金ニクルシメラル、ヲ救コトヲ不レ得、學者皆手ヲツクネテ讎ニツカヘ、ツイニ元ノタメニ滅サル、コト、併上ニ學ノ根ザシ不レ正、下ニ風俗頹廢スルヲ以也ト可レ知ナリ、

○問云、國郡ヲモタズシテ國郡ノ政ヲ云コトハ、ヲソラクハ其實ニ不レ可レ當也、

答云、國郡ヲ領スル人自國郡ヲメグリテ政ヲナスニ非ズ、人ヲヱランデ其政ヲマカス、政ヲナスノ人國郡ヲモツト云ニハ非ズ、今家ヲ造作スルニ家主コレヲ立ルニ非ズ、上手ノ大匠ヲ得テコレニ命ズルニ同ジ、コ、ヲ以云トキハ國郡ヲ領スルハ、ソノ人ノ天命コレニアツマルユヘニシテ、我ニ天命アリトテ道ヲシラズ、其準ヲ不レ尋シテ國家ヲ治ムルハ我家ナリト云テ、自細工ニ造作ヲナスニコトナラズ、シカラバ大小ノ材木コトゞゝク其用ヲ不レ得、曲直皆タガッテ勞スルトモ功不レ可レ有也、孟子見ニ齊宣王一曰、爲ニ巨室一則必使ニ工師求ニ大木一、工師得ニ大木一則王喜、以爲ニ能勝ニ其任一也、匠人斲而小レ之則王怒、以爲レ不レ勝ニ其任一矣、夫人幼而學レ之、壯而欲レ行レ之、王曰下姑舍ニ女所レ學而從上我則何如、今有レ璞ニ玉於レ此、雖ニ萬鎰一必使ニ玉人彫ニ琢之一、至ニ於治ニ國家一則曰下姑舍ニ女所レ學而從上我則、何以異ニ於敎ニ玉人彫ニ琢玉一哉、又曰、昔楊朱見ニ梁惠王一、言下治ニ天下一如上運ニ諸掌一、王曰、先生有ニ一妻一妾一而不レ能レ治、三畝之園而不レ能レ耘、言レ治ニ天下一何也、曰、君見ニ夫牧レ羊者一乎、百羊爲レ群使ニ五尺童子荷レ箠而隨レ之、欲レ東而東、欲レ西而西、使下堯牽ニ一羊一舜荷レ箠而隨上則不レ能レ前也ト、列子ニ出タリ、或所ノ亡將弓ヲヨク射ル者ニ弓ノ兵ヲアヅケ、鎗ヲヨクツカフ者ニ士ヲアヅケ、鐵炮ヲヨクウツモノニ鐵炮ノ

兵ヲアヅケ、ル、是ニ因テ國家ノ人ノヱラビ不ㇾ正シテ、其家滅亡スト云ヘリ、武田ノ家ニ南部下野ト云ル侍大將アリ、此者山本勘介ガ兵法ヲヲボヘタルトアツテ、武田ノ家ニ崇敬イタサル、ヲソチミテイ、ケルハ、山本勘介小身ナル者ノ城取陣所備立、マコトシカラザルトアルコトヲツチニ云ヘリ、此事信玄キ、玉フテ南部コト作法ヲ不ㇾ知褒貶也、周ノ文王崇敬アリシ太公望コトハ國取城持ノサタナシ、甚アヤマリナル沙汰ナリトテ、是ヲ第一ノ咎ニイタサレ、改易アリシコト彼家ノ書ニ顯然タリ、歌人ハミザレドモ名所ヲシリ數寄ノ人ハ分ニ不ㇾ應、器物ヲモ用意スルコト古ヘヨリシカリ、

○問云、此說ニヨルトキハ隱逸ノ輩ハ皆非ニシテ、利世濟民ヲ事トスルニ志ヲ專トセン、然ラバ末世ノ風俗コト〴〵ク相違ヲ、イトハ、人皆利ニツキ勢ニ趣クニ至ランカ、

答云、大利ヲ云トキハ大害必相ノゾムモノナリ、故ニ利ㇾ世安ㇾ民ヲ要ト云トキハ、諛諂面諛ノモノ巧言令色シテ權門ニハシリ、利勢ヲ事トスルニ似タルノ失ナキニ非トイヘドモ、學ノ本源立ツ處不ㇾ正トキハ、其流大ニタガフヲ以テ、唯本ヲ固クシ根ヲ深クスルコトヲ論ズル也、サレバ隱逸ヲコト、スル人ヲ貴トキハ、人皆隱逸ヲ以テ利トス、終南ヲ仕官ノ捷徑トシ、北山移ヲ山庭ニ勒シテ曉ノ猿ヲ驚カシ、夜ノ鶴ヲシテ怨ミシメ、皇甫希之ヲ充隱タラシメシ爲師アリ、儉ヲ事トシ靜默ヲ貴トキハ、ナレタル衣裳ヲ著シ、ヤブレタル車ニノッテ沈默靜座ヲイタシテ、勢利ノ媒トイタス輩又多シ、利ㇾ世安ㇾ民ヲ貴トキハ鐘鳴漏盡テ夜行ノ輩アリ、イヅレモ其失ナキニ非トイヘドモ、人臣君ニツカヘテ其材ヲフルイ、其能ヲアラワシ、愛ㇾ君憂ㇾ世ハ士ノ實ナレバ過ト云ドモ君子ノアヤマチ也、速ニ退テ閑居獨樂ヲ事トセンコトハ、世ノソシリヲ知ッテ身ヲ安ズルノコトワリナレバ、愛ㇾ身慕ㇾ名ニ陷ルベキ也、

○問云、然ラバ世ニ節ヲ立義ヲ守ル輩アラズシテ、只出世ヲ事トシ忠純ノ臣少カラン乎、

答云、ソレ學ハヨク是非ヲワキマフルニアリ、故ニ可ㇾ出ニ出、處スベキニ處ス、出處更ニ必トスルコトナシ、是非ノ辨不ㇾ明ヲ以テ出處トモニ不ㇾ得ニ其道ニ也、昔管仲公子糾ガ難ニ不ㇾ死シテツイニ桓公ヲタスケ、

魏徵・王珪・建成ガ難ニ不レ死シテ貞觀ノ治ヲ致ス、若不レ事二二君一ノ一事ヲ以テ云バ、是純臣ニ非ズシテ功ヲ立、治ヲ大ニスルヨリ出トキハ仁ヲ可レ與ノコトワリアリ、三子若カノ難ニ死ナバ荀息孔父執牧ガ君ノ難死セシニ不レ異、マコトニ溝瀆ニクビレテ、爲レ諒ノセメマヌカルベカラズ、伊尹五タビ就レ湯五タビ桀ニ就モ純臣ニ非ト可レ謂乎、コヽヲ以テ案ズルニ人ノ功業德達ハ天下ヲ治平セシムルニ不レ過也、天下ヲ治平セシメテ其君ヲ堯舜ニイタシ、人々安二其處一ニイタラシメシ輩ハ、純臣義士ノ一事論ズルニ不レ足シテ、忠純モ亦可レ在二其中一、サレバ湯ハ放レ桀、武王ハ伐レ紂トイヘドモ、タレカコレニ議擬ヲ可レ入乎、若其治聖人ノ道ヲ不レ究、其業齊桓貞觀ノ功ニモ不レ及、又忠臣純士ノ志ヲ不レ事ノ輩ハ、誠ニ天下ノ罪人ト云ベシ、昔宋ノ王荊公世ヲ憂ヘ時ヲ救ノ志フカシ、王介ト同志ノ友ニシテ、同ジク天子ノ召ニモ不レ就ケルガ、後ニ神宗翰林學士ヲ可レ賜ノ旨アツテ、忽ニ出テ任ユ、王介乃一聯ヲ寄テ諷シケル、草廬三顧動二春蟄一、蕙帳一空生二夜寒一、荊公コレヲ見テ大ニ笑テケル、後ニ丈夫出處非レ無レ意、猿鶴從來自不レ知、ト作レルトゾ、カクテ荊公宋ノ世ヲ輔天下ノ制法ヲアラタメ、新法ヲ立テ執行シケレバ、萬民ヲクルシメ天下ノ毀ヤムトキナシ、荊公ツイニ退テ老ヲ鍾山ニ投ゼリ、荊公ガ志アシキニ非トイヘドモ、學術不レ正聖人ノ道ヲ不レ知ヲ以テ、其所レ致コト〱クタガヘリ、荊公五代ノ馮道ヲ評シテ云ク、屈レ己利レ人有二諸佛菩薩之行一ト、馮道ハ四世ヲ經テ十君ニツカヘ、何レモ國政ヲタスクトイヘドモ、功業不レ高德義不レ立シテ官祿ヲ厚スルコト君子ノ所レ耻、マコトニ江鳥モ背レ人テ飛ヌベシ、荊公コレヲ以テ諸佛菩薩ノ行トスル事其器其志ノ卑劣狹隘可二以考一也、故出處トモニ聖人ノ道ヲ以テイタサヾレバ、忠純功德ノ名ハ似テ其實大ニ相違ト可レ知也、

○問云、此身ヲ修ムルコトヲ不レ得トキハ、天下國家治平論ズルニ不レ及コトナカランカ、

答云、此身ヲ修ムルコトハ聖學ノ初ナリ、天下ヲ治平ハ聖學ノ終ナリ、コレ天子ヨリ庶人ニ至ルマデ、修身ヲ以テ本トスル也、中庸ノ九經修身ヲ以テ初トス、故ニ天下ヲ治メンコト修身ヨリ初マルト可レ知也、但シ身修トキハ天下ノ治平忽ニコレアリトミル事、是又宋明ノ諸儒學ノ意見ユヘナリ、身修一事ヲ以テ天下

ノ事ヲ論ゼンニハ事タルベカラズ、大學ニ身修而后家齊、家齊而后國治、國治而后天下平トイヘリ、コヽヲ以テ案ズルニ先後ノ次第ヲ云トキハ、身家國天下ニシテ身ト天下ノ間ニ家ト國アリ、而后二字ヲ以テスルトキハ修身ニキワマルニアラズ、唯修身ハ本也基也初也ト可ニ心得一也、凡ソ天下ハ大器ニシテ一日ニ萬幾ノ政アリ、蕞爾タル此一身ハ甚輕シテ事スクナシ、故ニ身ヲ修メンコトハ志アルトキハ可レ安、古來一身ヲツトメテ言行ヲ正シ、信果ヲ事トイタセル輩世々ニ不レ少、夫子ハ是ヲ硜々乎小人トノ玉フ、孟子ハ大人者言不ニ必信一、行不ニ必果一、惟義所レ在トイヘリ、然レバ修身ヲ以テ本トス、ハタシテ國家天下ノ齊治平ヲ詳ニ格致イタスベシ、中庸ノ九經ハ爲ニ天下國家一ノユヘンニシテ、修身ヲ本トスト云ドモ、修身ニテ萬端明ナリト云ヘルニハ非也、近ク是ヲ人ニコヽロミ、身ニカンガヘ遠ク往古ヲタヅヌルニ、身ヲヽサメ心ヲ安ズルノ輩、儒釋道之學流ニ甚多シ、又文字ニ不レ通トイヘドモ、美質ノ者アツテ言行正シク、非義無道ヲ聊イタサヾル輩世ニイカホドモアリトイヘドモ、國郡ハ云ニ不レ及、一家ノ間ニヲイテモ六親不和ノ義出來カ、一家ノ浮沈コノトキニ在トイヘルゴトキコトアランニハ、事ノ所置明辨スルコト不レ可レ得也、況ヤ天下ノ政事イカンゾ可レ明乎、

○問云、家ヲ齊コトヲ得バ、治レ國平ニ天下一ノ用明ナラン乎、

答云、家ヲ齊ト云ドモ、而后二字ヲ以テ考フレバ、速ニ治國ノ功カナフベカラズ、治國ト云ドモ又其功久シカラズンバ、天下平ナラン事難レ信也、且大學ニ出ル處ノ修身齊家治國平天下ト云ハ、人君ノ身家國ヲサシテ云ヘル言ナレバ、家ト指處甚廣シ、一家ノ間親戚アリ、大臣群臣アリ、諸士庶人アリ、其用事尤多ク國ニモ天下ニモ可レ及、故ニ家齊トキハ國自治テ國治トキハ天下自平ナルニ至ルベシ、若人々ノ家ヲ以テ云トキハ、甚狹シテ所レ及尤スクナシ、其ウヘ家ヲ齊ニハ、以レ恩爲レ本シテ義ヲ先ンズル事少シ、匹夫ノ家僕ヲ治メンニハ、刑賞ノ用カケテ唯志ヲ以テス、故ニ國ト天下トヲ治ムルニ事カワリテ難易不レ同也、家ハ小ニシテ其人皆親シ、郡ハ野地廣シテ人民既多ク、民間ノ雜政土地庶物ノ制尤多シ、國ハ群ヲ重子タレバ四民悉ソナワリ、山川海野邊鄙都城ノ制アリ、兵革武

備ノマフケ、吉凶ノ禮朝聘賓客ノワザ無レ不レ備、天下ハ國ヲカサチ人物無レ不レ盡、四夷ノ化ヲ兼天地鬼神道ヲキワム、故ニ只家ヲ齊タルノミニシテ其用ヲ天下ニ及ボサン事ハ不レ可レ合、ヨク格物致知スルニアルベキ也、

○問云、國ヲアツメテ天下ノ名アリ、シカラバ國治マランニハ天下ノ治云ニ不レ及乎、

答云、右ニ云處ノゴトク、大學ノシルス處ハ、人君ノ上ニツイテ論レ之也、其ウヘ人アツマリテ家トナルガユヘニ、人々ノ身ヲサマラバ家齊ベシ、家アツマリテ國トナレバ、家々齊トテハ國ヲサマリヌベシ、國ヲカチテ天下トスレバ國々ヲサマレバ天下平也、シカレドモ人々ヲ、サメ家々ヲト、ノヘ、國々ヲ平均センコトハ、唯其道理ヲ云ノミニシテ、堯舜ト云ドモ猶コレヲヤメリトシツベシ、故ニ大學ニ云處ハ、人君ノ身修マレバソノ家門枝族群臣諸士ト、ノフベシ、家如レ此トキハ邦畿千里ノ間治ルベシ、邦畿千里ハ天下ノ人ノ所レ止ナレバ、遠近ノ諸侯モコレヲ以テ則トス、タトヘ國ニ逆亂ノ臣アリトモ宗子之固若レ城、封コ建親戚一シテ天下ノ蕃屏依賴タラシメバ、外國ノ侮リ入ルベカラズ、諸侯ノ禮ヲ定メ郡國ノ制ヲ明ニセバ、亂臣豈ホシイマ、ナルコトヲ得ンヤ、コレ家ト、ノイ國治ルトキハ天下平ナルノユヘン也、若只平士一家ノ上ヲ以テ云バ、古來二千石ノ任ヲ以テ大守刺史トナリ、五馬ノ榮ヲナシ百里ノ治ヲ致ス輩、民コレヲ慕フルコト父母ノ如ク、コレヲソル、コト神明ノ如ク、其清潔ナルコト氷雪ノ如ク、天地ノ瑞クダリ鳥獸コレニ感動セシ類、舊史ニアラハル、所尤モ多シトイヘドモ、天下ノ輔佐ニイタラン事ハ、又タヤスカル不レ可トミヘタル也、

○問云、天下ノ政道古ト今ト同異アルヤ、

答云、時代ニ因テ損益アルコトハ聖人ノ敎ナリ、故古ノ明君賢相ノ政事ヲ歸トシテ、今日ノ人情事變ヲ考テ以テ禮樂刑政ヲナスヲ聖人ノ敎ト云ナリ、唯古來ノタメシヲ必トシ、又當時ノ作法ヲ事トスルハ、トモニ聖人之道ニ非ザルト可レ知也、凡人物ノ體、事業ノ品、古ニ様カハリテ或ハ此ヲ損シ、或ハコレヲ增コト多シ、人ヲ以テ云バ、古ハ四民ノ制アツテ下ノ人民ヲ四ニ分テリ、今ハ上ニ公武ノ兩家立ヲコナワレテ、下ニ士農工商僧社人品々アリ、故ニ其風俗モ亦不レ同、

各其宗トスル處アツテ、人々皆一意見ヲ立テ是非不レ一ガ故、ソノ致政モコトナリ、サレバ衣服飲食家宅用具ノ制、又古ニ事カワリテケリ、コヽヲ以テ政事ヲ出スニモ品々ヲツクサザレバ、其事シレガタキコトアツテ、上ヨリ出ス處ノ令下ニ用ガタキ事、出來ル事物ノ俗禮多シテ、一擧仕難シ、シカレバ古來ノ禮樂刑政ト云ドモ、時宜ヲ不レ詳トキハ難ニ決定一ト可レ知也、大槩古ハ事物皆易簡ニシテマコト深シ、後世ニ及ンデハ事物日々ニカサナリ、時代ニツレテナキモノモ出、アルマジキ事モアルガユヘニ、宰相執權ノ職モシキリニ事多シテ紛擾タリ、是ソノ失何方ニアルゾト云ニ、人君自事ヲ決シ玉フ事ナク、奉行ソノ撰不レ正ニ可レ依也、其故ハ奉行自裁許スル處、私アラザルコトヲ示サンガタメニ、一事トイヘドモコレヲ諸奉行ニ訴ヘシラシメテ、身ハレヲナスコト多也、又奉行才ニ過不及アルガユヘニ、易簡ナル事ヲ泄シテ不レ詳察ニ過テ念ヲ入スゴセバ、裁許スマジキコトヲモ取扱ガユヘニ、奸曲ノ輩コレニ利ヲ得テ、少ノコトヲモ品ヲ付テ訟ヲナシ事ヲ望ム、是皆人君大方ノ格致ニテ不レ通コト也、

○問云、本朝代々ノ治平其大槩イカン、

答云、神代ノ儀ハクワシク神書ニ出タリ、凡ソ本朝ハ久シク神代ノ事アリテ後、天照太神ノ皇孫瓊瓊杵尊ヲ此地ノアルジト定マシ〳〵テ、三種ノ神器ヲワタシマイヲセ玉テ、中ニモ天照太神手持ニ寶鏡一授ニ天孫一曰、吾兒視ニ此寶鏡一當レ猶レ視レ吾トノ神勅アリテ、天兒屋根命天太玉命ヲ以テ左右ノ扶翼トシ、葦原中國アマクダラシメ玉フノ後、人皇ノ最初神武帝ニ至テ初メテ天下ヲ一統アレマシ、往古ノ神勅ヲ守リ玉フテケル、故ニ都ヲ大和國畝傍山ノ東南橿原ニ定メ玉フテ、乃三種ノ寶器ヲ大殿ニ安置マシ〳〵テ、同ジ床ニ座ヲ玉ヘリ、コノ時ハ皇居モ神宮モ無ニ差別一シテ天兒屋根命孫天種子命、專ラ祭禮ノ事ヲ司玉フ、是乃朝政ヲ執行玉フノ儀ト同ジ、神武帝ニ至テ天下始メテ治ト云ドモ、未ダ禮ヲ立事ヲ制シ玉フノ暇アラズ、帝且テ曰、夫大人立レ制義必隨レ時ト、マコトニ此一言天下政禮ノ大統意ト仰ギ奉ルベキ也、カクテ第十代崇神天皇ノ時人ノ心ヤウヤクヲトロヘテ、ツイニ鏡劒ヲ鑄改テ、神代ノ靈器ヲバ別所ニ安置セラル、然レドモ神勅ヲ敬テ更ニヲゴタリ玉ハズ、始

テ四道將軍ヲ天下ニ分チツカワシ、天下ノ人民ヲ按ヘテ其數ヲ立、河內狹山ノ池依網ノ池等ヲ開テ農ヲ勸メ、船舶ヲ、シヘテ運送ヲ利シ、大社國社及神地神戶ヲ定、長幼ノ禮ヲシラシメ、租稅ノ法ヲ正ス、コ、ニ於テ天神地祇モコレニ和享アツテ風雨時ニシタガイ、百穀ユタカニ天下大ニ平ナレバ、天下ノ民コレヲ稱美シ奉テ、謂二御肇國天王一也、第十一代垂仁天王相ツイテ天下ノ治ヲ正シタマイ、池ヲ開農ヲ勸メ玉フテ、天下大平ナリケレバ、異國ニ其キコヘアツテ日本國ニ有二聖皇一トキ、奉レルトテ、任那新羅トモニ使ヲ奉ル、第十二代景行帝親征二筑紫一玉イ、日本武尊ヲ以テ東征セシメテ、コ、ニヲイテ東西皆治マリ、南北風ニナビク草ノ如シ、仲哀神功ノ兩帝異國ヲ制シ玉イテ、新羅・百濟・高麗トモニ長ク與二乾坤一伏シテ爲二飼部一、不レ乾二船柁一、春秋ニミツギ物ヲ奉ラン事ヲ盟、コレヨリ應仁仁德ニ至テ文明尤盛ナリ、コレ併上ハ神武帝ニコトヲコリ、崇神・垂仁・景行三帝ノ功德ニヨツテ也、其後推仁帝ノ時聖德太子攝政アツテ、天下ニ禮ヲ立憲法ヲ行ナワル、孝德帝ニ及デ官位禮制殆ツマビラカニシテ、イサメノ鐘及筐ヲ朝廷ニマフケラル、文武帝藤原不比等ニ命ジ玉フテ律令ヲ撰セシメ玉フ、コレ中古本朝ノ政道治法ノ要令也、カクテ弘仁ニ格式アリ貞觀延喜ニモ格式アツテ、本朝ノ律令格式コ、ニ於テ相備リ、公家ノ政務コト〴〵クコレニヨツテ行ル、コ、ヲ以テ案ニ、推古以前ハ往古神勅ニマカセ、天神地祇ヲ尊崇シテ天下ノ治ヲナシ玉フ、推古以後ハ十七箇條ノ憲法ヲ宗トシテ、神道佛道相合フテ天下ヲ治、不比等律令ヲ選セラレテ、天下ノ治コト〴〵ク律令ヲ以テヨリドコロトシ、相ツヾイテ格式出、コトニ延喜ノ帝、德ヲ盛ニテラシ上律令ニヨツテ下格式ヲ行玉フガユヘニ、天下文明ノ治コ、ニヲイテ相キワマリヌ、人王七十七代後白河院ニ及デ、朝政漸衰テ保元ノ亂出來ル、二條院ニ至テ平治ノ亂相續ス、ココニ平清盛コノ時ノ功大ナルニマカセ、武臣ヲ以テ相國ノ任ヲウケ、子孫コト〴〵ク官祿ニ昇テ天下ノ治亂ヲ一心ニマカセリ、コレヨリ朝儀コト〴〵ク衰、王政ナキガ如クニナレリ、凡清盛利觜長距、終得二擅場一、思レ專二其侈一、其過レ民也、若下薙氏芟レ草、既蘊二崇之一、又行上火ト云ベシ、マコトニ周ノ世ヲトロヘテ、秦ノ暴ヲ以テ天下ヲ草業スルニ不レ異、シカリトイヘドモ天

タガイ人ソムイテケレバ、ワヅカ廿餘年ノ榮華ヲキワメ、元曆年中ニ源賴朝卿ニ亡サル、賴朝卿此大功ニヨッテ、後白河院叡感ノアマリ、六十六箇國ノ總追捕使ニ補セラル、コレヨリ武家始テ公家ニ替テ天下ノ政務ヲ沙汰シ、諸國ニ守護ヲ立、庄園ニ地頭ヲ置テケル、シカレバ天下ノ政道是非コトゞゝク武德ノ善惡ニヨレリ、賴朝卿寬仁ノ量大ニシテ、文明ノ志不レ淺トイヘドモ、治敎未レ全シテ五十三歲ニテ逝去アリ、長男賴家次男實朝右大臣相ツヾイテ征夷將軍タリトイヘドモ、トモニ治敎ニ心ヲトメ玉ハズ、父子三代僅ニ四十二年ニシテ盡ヌ、コノ比マデ未王朝ノ威ノコリ、鎌倉ヨリ京都ヲ崇敬尤モ深シ、シカルニ遠江守時政ノ長男前陸奥守義時ノ時ニ至テ、天下ノ威北條ニ歸ス、後鳥羽院コレヲニクミ玉フテ義時ヲ亡サント思シ立ケル、コレヲ承久ノ亂ト云、官軍敗テ後鳥羽院隱岐國ヘウツサセ玉フ、コレヨリ義時彌天下ノ政ヲ執テ、朝家ノ威永ク衰ヘヌ、コヽニ平泰時身ニ私ナク政ヲ立シ、禮ヲアツクシテ初テ武家ノ式條ヲ立テ天下ノ法ヲ定ム、是貞永ノ式目武家制法ノ始也、ソレヨリ代々ノ武將コノ法ヲ損益シテ、鎌倉ノ政務ヲナセリ、故ニ威萬人ノ上ニ被ルトイヘドモ、位四品ノ際ヲ不レ出、謙ニ居テ禮ヲ高クシ、民ヲ惠ミ士ヲ擧テ、尤モ武臣ノ德ヲサカンニスト云ドモ、代々天下ノ權ヲトリ威ヲホシイマヽニフルマヘル餘勢人物ニワタリテ、ツイニ高時ニ至テ天地命ヲ革九代ノ平氏滅絕ス、而シテ源尊氏卿又天下ノ權ヲ執テ建武ニ十七箇條ノ式目ヲ出シ、是ヲ以テ天下ノ制法トス、ソレヨリ代々ノ追加有テ京都ノ公方天下ノ政務ヲ專トシ玉ヘリ、然レドモ其治未ダ鎌倉九代ノ治ニハ不レ及、是ソノ失何クニアリトナラバ、ワヅカニモ禮法ノ制タツト不レ立トノユヘン也、國ヲ治ムルニ禮讓ノ道不レ立トキハ、君臣ノ名分不レ明シテ尊卑上下ノ制不レ正ガユヘニ、人人皆侈奢ヲ專トシテ、僣上ノ亂必ズ無レ不レ起、サレバ泰時式目ヲ立テ謙ニ居、時賴政ヲ正シテ身ヲ勞ス、上ニ賴朝卿ノ寬仁アリ、中ニ泰時ノ禮制、下時宗貞時ガ志アッテ九代ノ靜謐ヲナセリ、尊氏卿以來聊モ政道ニ志アラズ、唯細川常久顧託ヲウケテ義滿卿ヲ輔佐セシメ、政務ヲ專要ト致セシ餘德ニヨッテ、漸此治ヲナセルト可レ謂、是ヲ以テ云トキハ武家ノ治敎ソノ準據唯貞永之式目建武ノ十七箇條ノミ也、而シテ平信

長卿尾州ニ勃起シテ勤二公兵一、永祿十一年戊辰三好ガ逆亂ヲシヅメ、義昭公ヲ京都ニ還住セシメ征夷將軍タラシム。而シテ天下ノ威ヲ蒙テ四海ヲ平均セシメントシ玉ヘドモ、未ダ四邊無爲ニ屬セズ、故ニ治平ノ大化ニ不レ及シテ、天正十年惟任ガタメニ弑セラル、ワヅカ十五年ノ治世タリ、豐臣秀吉卿ソノアトヲ追テ、ツイニ天下ノ權ヲ握リ、四邊コトゴトク平均ス、剩兵ヲ弄シテ朝鮮ヲ征伐セシメ、天下ニ奉行職ヲ立、五老ヲ置テ制ヲ立玉フトイヘドモ、興盛スルニ不レ及シテ僅十六年ヲ經テ薨ゼラル、其後四海コトゴトク大權現ノ掌握ニ落テケレバ、慶長庚子ニ三成ヲ罰セラレ、同甲寅大坂ヲ征セラレテ、遂ニ天下ノ禮樂ヲタヾサン事ヲ思召、先禁裏ノ制法ヲ立玉イ、王化ヲ仰ガンコトヲ事トシ玉フ、コレ乃勤レ王玉フノ本タルベシ、是慶長ノ式目以二勤王一爲レ要也、カクテ大權現元和丙辰四月薨御マシマシケレバ、禮樂未ダ首尾セザリシヲ、寛永ニ及デ天下ノ制法格式ヲキワメ玉フテ、天下ノ郡國ニ武家諸法度ヲ立テ據トナシ、御家人ノ輩ハ條目ノ制令ヲ守ラシメ玉フ、京大坂ニ奉行ヲ立テ制法ヲ詳ニシ、驛路ニ制ヲ立テ往來ヲ安シ、市町ノ辻ニ辻札ヲ立テ見聞ノ輩ニ其令ヲ敎シメ玉フ、此乃寛永ノ式目ニシテ、世々ノ規範タリ、コヽニヲイテ天下ノ士民其敎ヲ知風ニ從テ人々自化シ、禮儀相トヽノツテ人更ニ不レ惑、コレ慶長ノ式目ニ準據アツテ寛永ニ相調、其首尾悠久ニシテ事自ナルノイヽト云ベキ也、コヽヲ以テ云トキハ、武家ノ治平鎌倉京兩家ヲ鑑テ今日ニ及ビ、文質彬々トシテ禮樂相ソナワルト可レ言也、

○問云、異朝ノ政令古今ノ治如何、

答云、異朝ノ治モ世コトニ時殊ナレバ、損益不レ同ガユヘニ一樣ニ難レ言、然レドモ文質器物制度ハ時宜ニヨルコトニシテ、大綱大義ハツイニ變ズベカラズ、大綱大義ノ立世ヲマコトノ治世ト云、文儉制度ノ風流ニ至ルヲ末世澆季トスル也、凡ソ秦以前ノ治ト秦以後ノ治ト、治敎大ニカワレリ、秦以前ハ王者ノ禮明ニシテ天下コレニヨル、秦以後ハ禮ノ行ルヽ、アラザルガユヘニ、其治皆利口ニワタリテ不レ正ト可レ知也、竊案三皇五帝ノ時ハ詳ニコレヲ知ガタシ、ソノ後夏・殷・周ノ三王何レモトリヾ〜聖賢ノ治ニシテ、周ニ至テ文質トモニ兼備、天下ノ禮樂刑政無レ不レ盡、コレ乃周公旦王三ヲ兼思テ天下ノ至治ヲナシ玉フ處、夫子是

ヲオノ美ナリトノ玉ヘルユヘン也、サレバ周ノ末天下瓜ノ如クニワカツト云ヘドモ、治國平天下ノ維持蕃屏相ノコツテ八百年ノ悠久ヲ經タル也、コヽニ秦興テ天下ヲ草業スト云ドモ、ワヅカ三世ニ及ビ漢相ツヾイテ天下ヲ定ム、凡ソ三皇五帝三王マデハ、聖人或ハ揖讓シ或ハ征伐シテ天下ヲ治平ス、聖德ニ不レ有シテ天下ヲ草業スルコトアラズ、シカルニ秦ニ至テ武ヲ盛ニシ暴ヲキワメテツイニ天下ヲ平均ス、是ヨリ以來天下ノ艸創必ズ聖德ヲ事トス、多クハ武義ヲ以テコレヲ定メ、寬仁ヲ以テコレヲ治ム、然レバ天下ヲ凡人ノ大度ニ定メシムルコトハ、是秦ヲ以テ艸創トスベキ也、サテ兩漢合テ四百年、此時文武ノ朝臣出テ人才尤多シ、故ニ天下ノ禮制シバラクコレヲ得ントスト云ドモ、上ニコレヲ定ムルノ主ナク、下ニ其實知ヲキワムル輩アラザレバコソ漢ノ禮樂刑政定範アラズ、其後代々相襲テ天下ヲ得トイヘドモ、治平ノ要ヲウルコトナシ、唐ニ至テ太宗帝範ヲ制シ弘文館ヲマフケ、名儒賢臣ヲアツメテ言路ヲヒロクシ、直諫ヲ入テ治ヲ正シ、天下ヲ十道ニワケテ俗ヲ一ツニ歸セシム、シカレドモ禮樂ノ法未レ立、玄帝治世ノ始開元太平幾ンド其美ヲキワメントス、コヽニヲイテ儒臣ニ命ジテ五禮ヲ定メテ、一百五十卷ノ書ヲナシ、律令格式ヲ立ツ、コレヲ大唐開元禮ト云、ソレヨリ後世コレヲ用テ以テ天下治平ノ準據トス、故ニソノ後代々ノ損益アリトイヘドモ、其功尤モ大ナリト可レ謂、唐廿代武氏ヲ合テ廿一代、年暦二百九十年也、五代相ツヾイテ宋ニ及、宋ニ心學道學流布スルコト盛ナリトイヘドモ、治平ノ要タラズ、禮樂盛ナラズシテ夷狄ノ禍日ニヲコリ、ツイニ南宋ノヲチブレ出來ル、學ノ盛ナルコトハ三代ニモ不レ及シテ人物ノ衰フルコトハ、漢唐ニモ不レ及ガユヘニ、金遼元ニカスメラレヌ、コヽニ大明ノ大祖天下ヲ艸業アツテ、大ニ天下ノ政ヲ定メ律令ヲ出シテ漢唐ノアトヲ追、三代ノ道ヲ慕フトイヘリ、然レバ異朝歷代多トイヘドモ、三代ノ後ワヅカ漢唐二代ノ治敎以テ可二考見一也、而シテ其禮樂ノ準據スベキハ上ニ周ノ禮アリ、下ニ唐ノ制アリ、是異朝ハ文明盛ナル地トイヘドモ、天下ノ治平禮樂刑政ヲ立テ、萬代ノ制タランコトハアリガタカルベキ也、コレ其大槩ヲ論ゼリ、クハシク四代ノ書春秋ノ三傳、後世ノ史書通鑑綱鑒ニ出タル也、

○問云、ノ玉フ處ノ如キハ徳ヲ以テ民ヲ化スルノイイニ非シテ、只律令格式ヲ立テ制ヲ詳ニスルヲ治道ノ手本トスル也、律令格式ノ類ハ博學宏才ノ輩ニ命ゼラレバ、イツトテモ可レ成事ナレバ、是ヲ以テ治法ノ要トハ云ガタカランヤ、

答云、徳ヲ以テ民ヲ化スルト云ハ、禮樂刑政ト、ノ本ツテ、善ヲ盡シ美ヲ盡ス也、コレ北辰ノ其所ニ居テ衆星ノコレニ拱スルノイ、也、禮樂刑政不レ明トキハ徳何ヲ以テ行レンヤ、是徳ノ化スルコトヲ不レ知ガユヘ也、サレバ堯舜ノ政トイヘドモ、禮樂刑政ノ明ナルニアリ、故ニ命ニ義和ニシテ昊天ノ禮ヲ定メ、契ニ命ジテ五教ヲ敷、伯夷ニ命ジテ三禮ヲ興シメ、夔ニ命ジテ樂ヲ興シメ、皐陶ニ命ジテ五刑ヲ制シ、蠻夷猾夏武備ヲマフク、凡二十有二人ノ大賢德ヲ用テ三載考レ績、三考黜ニ陟幽明ニシ、五載ニ一タビ巡守シテ明ニ試、十有二州ヲダテ、天下ノ法ヲタヾシ上帝ヲマツリ六宗山川群神ヲ祭リ、天下ノ禮ヲ明ニス、コレ孟子所謂、堯舜之治ニ天下一豈無レ所レ用ニ其心一哉トイヘル也、コ、ヲ以テ案ズルニ、易ハ伏羲・文王・周公・孔子萬世ニノコシ玉フ處ノ式目也、九疇ハ天ノ禹ニ玉フ式目也、天ニ廿八宿分布シ、南北極黃赤道アッテ、日月五星代相旋リ、地ニ山川海野アッテ國郡村里ノ制ヲワカチ、人ニ五倫五等四民男女ノ分アリ、物ニ鳥獸草木器械用具ノ制アリ、天地人物各ソノ式目如レ此トキハ、ソレニ相應ズル處ノ用法必ズ相當ノ禮樂刑政ナクンバアルベカラザル也、故ニ律令格式ノ制其名ハ唐ニ至テ備トイヘドモ、其ワザハ天地人物不レ得レ止ノ道ニシテ、聖代スデニ是ヲ以テ準據トス、況ヤ末代ニヲイテハ是ニヨラズンバ非ズ、故ニ唐虞ノ禮ヲ以テ三代損益シ用レ之トイヘドモ、周ニ及デ上堯舜ヲ去コト遠ク、四海九州人物古ニ事カワレルヲ以テ、古今ヲ比校斟酌シテ周公コレガ中ヲ制シ玉テ、以テ禮樂刑政ノ準據ナシ玉ヘリ　ソノ後天下ノ諸侯禮樂刑政ノ書式ヲ次第々々ニ棄去、其書ヲ僞失テツイニ諸侯自禮ヲタガイ僭上ヲ事トシ、上下ノ分尊卑ノ品ヲタガフテ君臣ノ道タヘ、秦ノ世相起ル、是禮書不レ行、式目失却スルノユヘ也、代々ノ天子世ヲ早ク失、天下ノ亂出來ル、其機皆禮制不レ明、上下ノ分不レ立ガユヘヨリ事ヲコルト可レ知也、但シ禮ノ行ハレ法ノ明ナランコトハ、只悠久ニイタラザレバ人コレニ不レ知可レ知也、

○問云、昔鄭ノ子產國ノ常法ヲサダメ、コレヲ鼎ニ鑄ケレバ、晉ノ叔向書ヲ、クリテ是ヲソシレルトイヘリ、此心如何、

答云、叔向ガイ、シハソノ本ヲ以テスルノイ、也、凡ソ大聖大知ノ人天下ヲ治ムルニハ法ヲ立事ヲキワムル事ナシ、人民來テ訴來テ問トキハ其人ニ從テソノ用ヲ示ス、必トスルコト更ニナシ、若法定リ事究ルトキハ、一定シテ變ジガタキヲ以テ也、是上ニ聖德大ニシテ下ニ大知ノ賢臣アルガユヘニ、天下ノ訴訟刑獄コト〴〵ク君自コレヲ改正ス、コノユヘニ謗木ヲ立諫鼓ヲマフケ、三吐レ哺テ民ノ情ヲ通ゼシム、シカレバ人法ヲ聞令ヲ問ニ不レ及、皆自天子大臣ノ前ニイタツテ、其決斷ヲ受ク、若法キワマリ令定レバコレハ可レ赦可レ生コトモ、法ニ可レ殺可レ囚トアルニマカセテ變ズルコト不レ得、コレヨリ人法ヲ重ンジテ民不レ畏レ上ノ失出來レルノ失アリ、サレバ鄭人鑄ニ刑書一(鑄ニ刑書於レ鼎以爲ニ國之常法一)叔向使レ詒ニ子產書一曰、昔先王議レ事以制、不レ爲ニ刑辟一、懼ニ民之有ニ爭心一也、民知レ有レ辟、則不レ忌ニ於上一、並有ニ爭心一、以徵ニ於書一、而徼幸以成レ之、弗レ可レ爲矣、夏有ニ亂政一而作ニ禹刑一、商有ニ亂政一而作ニ湯刑一、周有ニ亂政一而作ニ九刑一、三辟之興、皆叔世也、今吾子相ニ鄭國一、制ニ參辟一鑄ニ刑書一、將ニ以靖一レ民、不ニ亦難一乎、民知ニ爭端一矣、將ニ棄レ禮而徵ニ於書一、錐刀之末將ニ盡爭レ之、亂獄滋豐賄賂竝行、終ニ子之世一鄭其敗乎、肸聞レ之國將レ亡、必多レ制、其此之謂乎ト出セル是也、今案叔向ガ論只言レ一而遺レ貳也、其故ハ大聖大人ノ政ハ、不レ言シテ化四海ニ行ルベシ、是上ニ文明ノ德正シク下ニ賢良ノ佐アツテ、動靜云爲無レ不レ通、天何言乎トイヘルニ同、是法ヲ立令ヲ行ナワザルニハ非ズ、其道其化不レ滯ガ故ニ、垂ニ衣裳一テ天下治ザレバ後世ヨリコレヲ見ルトキハ、一事一言ノ詳ニ末世ノタメニノコレルコトアラザレバ、不言不敎ノ敎化ノ如シ、シカレバ上德ノ君世ニマレニシテ、上知ノ臣又不レ易レ得、コヽニヲイテ周公旦末世澆季ノ輩、必心ニマカセテ事ヲ行、令ヲシイテ天下ノ人民ヲクルシメ、國ヲ失世ヲ亡サンコトヲ考、周禮ヲ定メテ天下ノ政事ヲ示シ、司寇三典ヲ立テ正月ニ萬民ニ國ノ常刑ヲ示シ、每歲國々都鄙ノ間ニコレヲ布、是民ヲシテコレニヨラシメ諸侯ノ邦國コレニ本ヅイテ、其俗ヲ一ニシ朝政ヲ明ニシ玉フノ心ナルベシ、然レバ上德上知ノ人ハ一ヨリ十ニ至

ル迄、其可レ繼可レ因ノ政ヲ制シ天下ノ人民ヲ教ヘ、君臣コレニシタガツテ治道ノ政令ヲ損益セシムル、是國家ノ全政ト可レ云也、晉鑄ニ刑鼎一著ニ范宣子所レ爲刑書ニ焉、仲尼曰、晉其亡乎、失ニ其度一矣、夫晉國將下守ニ唐叔之所レ受法度一以經ニ緯其民一、卿大夫以レ序守上之、民是以能尊ニ其貴一、貴是以能守ニ其業一、貴賤不レ愆、所謂度也、今棄ニ是度一也、而爲ニ刑鼎一矣ト、夫子ノ此説先儒皆叔向ガ論ト同トス、愚謂否、晉既有ニ唐叔之度一而范宣子所レ著ノ刑書ヲ宗トスルコト甚私ナリ、故ニ晉唐叔ノ度ヲ上ニ不レ行シテ此刑ヲ事トセンコトハ、晉ノ可レ亡ユヘンナリトノ玉ヘリ、叔向ガ所レ論ト不レ一也、況ヤ子產范宣子ガ所レ著ハ皆刑書也、子所謂禮樂謂刑政之其一ツナレバ比挍シテ不レ足レ論レ焉也、

○問云、古來治國平天下ノ政道イヅレヲ以テ要トシテ、天下國家ヲ治ムルヤ、

答云、我薄知淺識ニシテ古ヲ具ニ不レ盡ガ故ニ、一々今論ジ難シ、シカレドモ其見聞スル處ニマカセテ云バ、郡ヲ治ムルコトハ易クシテ國ヲ治コトハ難シ、國ヲ治コトハ易シテ天下ヲ治ルコトハ難シ、凡ソ人王十三代成務帝天下ヲ分玉テ國々ニ國ノ造ヲ定メ玉フ、是國司ノ義也、後世ハコレヲ守ト云、乃異朝ノ二千石太守刺史牧宰ナド云ヘルニ同ジ、此國司ヲ撰コト尤重レ之ジテ以テ國ノ政務司ナラシム、一任凡四年此間其國ニ居テ其政ヲタヾシ、租稅ヲアラタメ民ヲ化ス、守ノ下ニ介・掾・目アッテ、各別ノ命ヲ蒙テ郡縣ヲ分チ治ム、七箇國ノ國ノ受領ヲ歷テアヤマリナキ輩ヲ以テ參議ニ任ズルコト古來ノ例也、合格ノ考詳ニ令ニコレヲ出ス、乃異朝ノ政法ニ準據ス、シカルニ國郡ヲ治メシニ、仁惠アッテ民コレヲ思イ慕輩不レ少、邵信臣杜詩ガ治ハ民コレニナツイテ邵父杜母ト號シ、邵曄陳世卿ガ政ヲモ邵父陳母ト稱シ、余崇龜ガ九江ヲ治メシヲバ民皆佛菩薩ノ思ヲナシテ余佛ト稱シ、徐申ガ治ハ民コレガタメニ生ル內ヨリ祠ヲ立、陸雲ガ政ハ民像ヲ圖シテコレヲ崇、劉德威ガ綿州ノ刺史タルヲバ、百姓石ヲ立テ、頌レ德、羊祜ハ死シテ墮淚ノ碑アリ、後漢ノ寇恂潁川ヲオサメテ任ハテ、代ルニ民上ニ訴テ又一年ヲユルシ玉イ、耿純ガ東郡ヲヲサメシ後、其所ヲ過ルニ民數千、出テコレヲサヘギリシタフ、郭伋ガ幷州ノ牧タルトキハ國中ノ兒童竹馬ニノッテ路ニ迎ヘ、李姚元崇ガ荊州ノ牧タルニハ、任ハテ、ケレ

バ民シタフテ去シメズ、李元紘惠政アツテ去トキ、民コレヲ慕テ遮リトヾメ心ナキ、烏鵲モ群飛シテ車ヲ擁ス、鄧攸ハヒケドモ不レ留トシタワレ、侯伯ハ百姓ニ車ヲトメラレ別ヲ惜デ不レ待レ去、賈彪ハ民ノ子ヲ殺スベキヲトヾメテ、男女ツイニ賈ノ字ヲ以テ姓トス、鄭草モ亦民ノ子ヲソダツル事ヲ敎テ、一國ノ民鄭ヲ以テ名トス、王質ガ政ハ鄭ノ子產ニ比シ、宋璟ガ政ハ有脚ノ陽春トヨバレ、薛班ハ民間ノ疾病患難ヲ自問テヤシナイ、劉寬崔伯謙ハ蒲鞭皮鞭ヲ以テ刑ヲ行ヘリ、是皆惠政ヲ以テ名稱セラル、又威ヲタケクシテ民ヲ治メシハ、前漢郅都民ヲ殺コト一二百餘家、嚴延年强ヲクシキ民ノ殺セル事甚多、范曄ガ天水ノ太守タル宋登ガ潁川ヲ治メタル、甚威ヲハゲシクシテケル、彼等ガ治ニヲソレテ、各其民路不レ拾レ遺ニイタレリ、後漢賈琮車ニ升テシタスダレヲマカセ、民ノ是非ヲ明ニ察スルコトヲ事トシテ、百姓震慄ストイヘリ、西門豹ハ巫ヲ水中ニ投ジテ民俗ヲ正セリ、又清廉ヲ以テ聞ヘタル楊震ガ東萊ノ太守タルトキ四知ノ戒アリ、胡威ガ父ノ質ハ清畏二人知一トイヘリ、魏ノ令狐邵ハ清如二氷雪一ト民コレヲ稱シ、朱世良ガ治ハ清徹レ底トヨバレ、合浦ノ珠ハ孟嘗ガ清廉ニ立カヘリ、一錢ノ太守ハ其廟今ニアリト也、田元均ハ照天ノ蠟燭ノゴトク、張中庸ハ氷精ノ燈籠ノゴトシ、張清獻ハ一鶴ヲトモトシ、包拯ハ一硯ヲ不レ持、羊續ハ遺レ魚不レ食、鄭善果ハ至ル處號二清吏一、李恒ハ清簡二千石ノ最タリト云、是等ハ郡國ヲ治メテ清潔ニシテ私ナシト可レ云也、韓延壽ガ東都ヲ治メシメバツイニ郡ニ出ルコトナシ、汲黯ガ淮陽ノ太守タルハ閉レ閤臥理、顧愷之ハ垂レ簾テ不レ出、歐陽公ハ寬簡ヲ心トス、是皆以二清簡一爲レ要ノ治也、楚相孫叔敖ハツトメテ民ニ業ヲ敎、蜀文翁ハ學校ヲ立テ文ヲヒロメ、郡國ニ學校ヲ置ノ初トナリ、列寬ハ孝弟農業ヲ詳ニツトメシメ、黄覇・龔遂・伏恭・廉范各ツトメ敎ヲ以テ事トス、龔遂渤海ノ盜ヲサメ、張覇會稽ノ賊ヲヤメ、張敞顏斐各治ヲ以盜ヲヤメシタメシアリ、尹翁歸ハ清淨ヲ崇デ東海ヲ、サメ、曹參又コレヲ貴デ天下ヲ安ズ、是等ハ只民ヲ治メ其心ヲ感ゼシムルノミ也、彼馬稜宋均ガ治ニハ蝗虫飛去、王方翼ガ肅州ニ治タル、蝗不レ入レ境、黄覇ガ潁川ノ守タル嘉禾生ジ鳳凰至、岑彭ガ治ニハ甘露アツマリ鳳凰麒麟出、王阜ガ幽州ヲ治シニハ白鳥神馬ア

ラハレ、劉琨叔庠群ニイタレバ暴虎河ヲサリ、韓愈潮州ニ至テ鱷魚遠クサリ、百里嵩ガ徐州ヲ治メシニハ、雨ヲコヘバ雨隨レ車而注、陳戩ガ處州ニ至ルニハ國ニ至レバ雨ソツテ旱ヲヤム、如レ此ノ神治又ナキニ非ズ、サレバ循吏傳云、漢世良吏爲レ盛、若ニ趙廣漢・韓延壽・尹翁歸・嚴壽・張敞之屬ニ皆稱ニ其位一、王成・黃覇・朱邑・龔遂・鄭弘・召信臣等、所レ居民富、所レ去見レ思、生有ニ榮號一、死有ニ奉祀一ト出タリ、凡天下ノ國司ノ治ヲエラミテ天下第一ノ治ト稱セラレシハ、潁川大守黃覇・河南大守吳公・北海大守朱邑也、天下ノ長者ト稱セラレシハ孟叔ナリ、今愚ガ見聞ニマカセテ詳スルトキハ、此等ノ治政威愛清簡（清淨亦可レ闕レ簡）敎ノ五治也、神治ハ不レ可レ言不レ可レ期也、而シテ郡國ノ治如レ此ト云ヘドモ、此人ヲ以テ畿內ヲ、サメ京兆ノ尹タラシムレバ、其治又古ニ不レ似輩アリ、是郡州ハ遠人純樸ニ、事少シテ不レ煩、守令能行ル、畿內ハ人ノ心不レ樸事甚多ク、守ノ令行ハレ難ク、權門豪俠ノ輩多クシテ奉行ヲ蔑如シ、ソノコトヲ不レ用コトアレバ也、故ニ古人所謂輦轂ノ下彈壓爲レ先トハコノ心ナルベシ、京兆尹既ニ治ヤスカラズ、況ヤコレヲ天下ニ及ボサンニハ、サレバ堯舜ノ二十有二人ノ後、殷ニ伊尹仲虺左右ノ相タリ、傳說岩築ヨリ出テ武丁ヲ佐ケマイラセ、周ニ周公召公左右ノ相タラシメ、畢公四世ノ輔佐トナリ、仲山甫補レ闕、ソノ後漢ニ蕭何・曹參・陳平・周勃・霍光、唐ニ杜如晦・魏徵、宋ニ文彥博ガ相將ノ任ヲ五十年ツカサドリ、四世ノ師表トナレル、世々ノ名臣アリトイヘドモ、天下ノ治平ヲキハメ、萬世ノ表式ヲ立シ輩ハ、三代ノ後只唐ノ魏杜ノミナルベシ、ソノ外ハ一代ノ名臣ト仰ガレタルノミ也、サレバ天下ノ治平ハ一郡一國ノ治ニ似ベカラズ、郡國ヲ治ルトイフトモ、天下ノ治ニ及ビ難シ、次ニ本朝ノ最初天孫天降給時、天兒屋根命天太玉命左右ノ扶翼トナッテ、天下ノ政ヲタスケ玉フヨリ、人王ノ始神武帝ノトキ、二神ノ孫天種子命天富命左右ノ大臣ト成テ國政ヲ執玉フ、其後景行朝ニ武內宿禰棟梁ノ臣トシテ六代ノ輔佐タリ、大伴大連金村武烈帝ノ逆政ニ居テ天下ヲ正シ、繼體帝ヲ立マイラセ、中臣鎌子內臣トナッテ天智帝ヲ輔佐シ、廐戸王子推古帝ニ替テ攝政タリ、マコトニ世々政務ヲ輔クル大臣不レ乏、コヽニ文武帝ニ至テ淡海公大ニ才德優長ニシテ天下ノ律令ヲ定メ、コヽニ子孫

相續多シテ四家ノ門流コレヨリ出テ、ツイニ天下ノ大臣此門葉ニアラザレバ不レ知コトニナレリ、歴代ニ才學優長ノ大臣不レ乏トイヘドモ、大ニ知德ヲアラワシテ天下萬世ノ規模ニイタラン事ハカリガタシ、武家ニ及デ平重盛優才ノ人タリ、泰時時賴尤モ治世安民ヲ事トシ、此時ニ至テ武家ノ政敗大ニ定マリヌ、況ヤ細川賴之幼君ヲ輔佐シテ天下ノ危ヲ扶ク、其功尤大也、ソノ外靑砥藤綱・多賀高忠各評定所司ノ職ニ居テ、ソノ儉ソノ譽ヲナセリ、代々ノ諸奉行ソノ人ニ不レ乏トイヘドモ、多ハ一事一行ノ名譽ニシテ聖教ノ治鏡トハ云ガタカランカ、然レドモ本朝ハ又本朝ノ治アリ、故ニ能本朝ノ制古今ノ義ヲ盡サバ、ソノ才學ユタカナルベキ也、

○問云、古ハ公家一統シテ天下平也、賴朝卿以來ハ武家一統シテ又天下平也、其優劣是非善惡イヅレヲ以テ定メンヤ、

答云、公家一統シテ天下平ナルトキハ、朝廷歌舞ヲ事トシ遊宴ヲ弄玉フガユヘニ、政事次第ニ衰、國家ノ時宜不レ明、亂臣世ヲ亂ルコトヤマザルヲ以テ、武臣是ヲ靜謐シテ政ヲ朝廷ニカヘストイヘドモ、朝家遂ニ不レ正、コノユヘニ武臣政ヲ執テ天下ノ權ヲ握ルナリ、凡ソ天下ノ治亂ハ公家武家ニヨラズ、唯道ヲ行亂ヲ定ムル人ニ天クミス、天クミスルトキハ天下ノ神器自ヲサマル、シカレバ公家コレヲ治ルトモ武家コレヲ治ムルトモ、治平ノ道コトナルベカラズ、優劣是非一定スベカラザル也、サレバ鎌倉滅亡ノ後尊氏義貞天下ヲ後醍醐帝ニ歸シ奉テ、天下一タビ公家ノ一統ニ及トイヘドモ、朝家ノ政道不レ正ガユヘニ、賢臣世ヲ遁讒者道ヲ塞、內奏ノ秘計ヤマズ、諸國ノ蜂起遂レ日盛ナリケルガユヘニ、又朝廷天下ヲ失テ武家得レ之ニイタレリ、シカリシヨリ以來次第ニ朝廷ハ衰テ、詩歌管絃、優長ノ技藝ヲ家トシ、武家ハ政道ヲ宗トシ、道ヲタヾシ義ヲ本トシ、天下ノ安否ヲ以テ任トス、故ニ天下ノ治平日々ニ新ナリ、サレバ武家イヅレモ勤レ王崇二朝廷一トイヘドモ、王々タラズ、朝廷々々タラザルガ故ニ、宗廟社稷ノ神モコトゴトク武家ヨリコレヲ祭祀ナリ、萬機ノ政トモニ武家コレヲ奉行スルニ至レルナリ、中ニモ大權現天下ヲシロシメスヨリ、朝家ノ崇敬他ニ異ニシテ、カシコクモ公家ノ政道天子ノ御作法古ニカヘランコトヲ欲シ玉フテ、其

制法ヲ奉リ玉フトイヘドモ、朝家ノ勢萬牛ヲ以テ挽トモ古ニカヘリガタシ、シカレドモ武家ノ崇敬猶怠リ玉フコトナク、勤二王事一尊二朝儀一コト、頼朝卿以來如レ此コトアラズトイヘリ、サレバ朝家ノ勢ハ日々ニ衰テ武家ノ成敗ハ日々ニ正シ、是天ノ與タル處武家ニアツテ公家ニ非ズ、天下ノ是非ハ公論ニシテ、私ヲ以テスベカラザレバ也、

○問云、武家ノ政道古今ノ宗トスル處アリヤ、

答云、平清盛一旦武威ヲ振玉フトイヘドモ、政道ニ心ナク身ヲ朝臣ニツラネテ宮位ヲ心ノマヽニ行故ニ、ワヅカ廿餘年之間ニ武家ノ式法ヲ失テ、弓馬ノ道武略ノワザコトぐく失却シ、唯歌ヲ詠ジ絃ヲナラスヲ以テ宗トス、是衰朝ノ式ヲ以テ己レガ任トスル也、サレバ元暦ノ戰ニ議ニ不レ及シテ敗北ス、源頼朝卿前鑑未レ遠ヲ以テ神營ヲ鎌倉ニマフケ、朝家ヲ渇仰シ奉リテ朝臣ニ列セズ、武家ノ儀式ヲ立行政道ノタメニハ大江廣元三善善信等ヲ招テ、擧レ賢用レ能居レ謙行レ事玉フガユヘニ、ソノ身ハワヅカニ三代ヲ經トイヘドモ、北條家コレニ慣テ九代ノ執權ヲ相續ス、サレバ武家王朝ノタメニ方伯タリ、且三公ノ任タルヲ以テ公方ノ稱號アリ、コレ三公ノ官ヲ以テ方伯ノ職ヲ司ドルガユヘ也、（世ニ公方ト稱スルコトハ義滿公ヨリ也）武家如レ此トイヘドモ、猶ソノ職ニヲコタリテ奢ヲキワメ、私ヲ行テ遂ニ平氏滅亡ス、尊氏又頼朝卿ノ例ヲ追テ朝臣ニ不レ列トイヘドモ、其居所京都ニアツテ常ニ朝家ニ進退セルヲ以テ、子孫忽ニ風流ヲ事トス、故ニ東西ノ亂逆ヤムトキナク、畿内近國ノ鬪諍サラニ戰國ニコトナラズ、是勤二王事一守二朝家一ノコトヲコトヽセズ、自ミテルニ居テ、己ガ職ヲ忘レ政務ヲ忽如スルガ故也、コヽヲ以テ子孫ツイニ絶滅ス、平信長卿又不レ知二朝廷一政務ニ心アラズ、秀吉卿淸盛ニナラツテ、其身ヲ朝臣ニツラネ、關白ヲ攝シ門葉皆大臣大將ヲカリ、然シテ武ヲ黷シ兵ヲ弄シ天下ヲ縱橫ニス、シカレドモ、大豪傑ノ雄才一世ニナラビナケレバ、一代ノ榮華ヲキワメ玉フノミ也、コヽニ大權現ノ時ニ至テ遠クハ頼朝ノ例ヲ追玉イ、近クハ前代傾覆ノ戒ヲ鑑玉フテ、ツイニ柳營ヲ武州江戸ニ定メ玉イ、勤二王事一尊二朝廷一武職ヲ専トシ、政務ヲ事トシ玉フテ、公方ノ禮義初テ全シ、コレニ由テ天下ノ治平前代ニ未レ聞レ之、四夷八蠻モ重レ譯テ來朝ス、竊案ズルニ武家ハ右レ武シテ左レ文、故ニ宮

位モ征夷將軍ヲ以テ先トス、稱號モ大樹柳營ヲ以テス、シカレバ王家朝廷ヲ守護シ、天下ノ非常ヲ戒、難易有レ備テ四海ノ政務不レ滯、コレ乃武家ノ制法也、

〇問云、武家武ヲ以テ天下ヲ靜謐スト云ドモ、治國平天下ノ要治ハ文ニアラズンバアルベカラズ、然ルニ古來ノ公方家武ヲ守ル人長久ナリト云コトイカン、

答云、馬上ヲ以テ天下ヲ得ルト云ドモ、馬上ヲ以テ天下ヲ治ルコトハ不レ可レ叶ト云ハ、陸賈ガ漢高祖ヲ諫メシ言也、今草創之難ハ既已往矣、守成之難者當レ思トノ玉フハ唐太宗ノ格言也、サレバ武ヲ以テ草創ヲ遂ルト云ドモ、守文ノ功ヲナスコトハ文ヲ以テスルニアルベキニ似タリ、凡ソ武ハ文ト相並コト天地陰陽水火仁義ニ同ジ、時ニヨツテ文ヲ右トシ武ヲ左トシ、武ヲ右トシ文ヲ左トストイヘドモ、文アルトキハ武ヲ用、武アルトキハ文ヲ用、是二ツノモノ二ツニシテ一ツ、一ニシテ二更ニハナル、コトナラズ、古朝廷ノ政ハ武ヲ後ニス、今武家ノ政道ハ武ヲ先ニスルコト、乃當然之則タルベシ、竊案ズルニ本朝ノ古天照太神欲レ降ニ天孫於豐葦原中國一シテ、先經津主神健雷神ヲツカワシ玉イ、諸ノ不レ順者ヲタイラゲシメ玉フ、カクテ大物主神帥ニ八百萬神一昇レ天ケレバ、天神勅シテ永爲(ヒタブルニ)ニ皇孫一奉レ護ヨト神勅アリケレバ、經津主神健雷神ハ香取神鹿嶋神トアラソレテ東海ヲ守リ、大物主神ハ出雲國ニ垂迹シテ西方ヲ守リ玉フ、コヽニヲイテ天孫天降玉フトキ、大伴連遠祖天忍日命帥ニ來目部遠祖天槵津大來目一背負ニ天磐靫一臂著ニ稜威高鞆一手提ニ天梔弓天羽羽矢一及副ニ持八目鳴鏑一又帶ニ頭槌劒一而立ニ天孫之前一玉フトナリ、而シテ神武帝ハ道臣命ガ功ニヨリ、崇神帝ハ四道ニ將軍ヲ命ジ玉イ、景行帝ハ日本武尊・武日命・武彦命ヲ將軍タラシメ玉フテケリ、天下ノ草業ハ天孫ニアツテ人王ノ最初ハ神武帝ニシテ、天下ノ靜謐ハ垂仁景行ノ朝ニアリ、共ニ武ヲ以テ先トシ玉フ事是本朝ノ例也、天下久シク平ナルヲ以テ朝廷ニ武備ヲトロヘ、ツイニ武臣威ヲ盛ニシテ武臣シバラクモ威ヲホシイマヽニシテ武ヲ忘ル、時ハ必ズ敗亡ス、前鑑可レ見、コヽヲ以テ考フレバ、本朝ノ俗武ヲ先ニシテ備マフクルコトヲ本トス、況ヤ近代俗コトゞゝク武威ニ化シ、服ハ戎服ヲ宗トシ、居ハ武家ノ宅ヲ本トシ、食ハ武家ノ禮ヲコトヽス、動靜進退皆在レ備レ武、コノ時文ヲ右トシテ武ヲ退

ケントセバ、人心ノ傾覆不レ可レ疑ト可レ知也、

○問云、武ヲ先トセバ人心ヲダヤカナラズ、人ノ風俗タケクシテ、寛仁ノ體ニアラザランヤ、

答云、武ニ品多シ、武備ト云ハ事ノアラハレザル以前ニ、其ノ機ヲ察シテ其設ヲナスヲ云、其設アルトキハ事ニノゾンデヅツマヅクコトアラズ、故ニ文事行ル、時ハ武備ヲ設テ非常ヲ制ス、是天險地險ノ道更ニハナル、事アラザル也、若弄レ兵黷レ武バ武却テヤブル、弄レ兵黷レ武ト云ハ合戰弓馬ノ事ヲ宗トシテ、コレヲ好ミコレヲ弄ブ事也、タトヘバ劍刀ハコレ武ノ器也、コレヲ能制シ能ト、ノヘテコレヲ鞘ニヲサメ、コレヲ腰ニヨコタフルニ、其道ヲキワメテ而シテ後ニ武備ヲ正シクスト云也、若劍刀ヲ好テ常ニコレヲ拔テモテアソビ、鞘ニヲサメズシテ腰ニコレヲ帶ントセバ、必自ラ過ヲナシテ害ヲウク、是ヲ弄レ兵ト云ベシ、シカレバコレ兵ヲ好ニ似テ實ハ武ヲ麁略ニイタシ、コレヲ尊ノ道ヲ失ナフ、コレ黷レ武也、コノ故ニ兵猶レ火弗レ戢自燒ト云ヘリ、サレバ武ヲソナヘ武ヲ守ル人ハ更ニタケカラズハゲシカラズ、能錬能備ヘテサラニ不レ怠、コレ未然ノ機ヲ防ギ非常ノ事ヲ戒シム、マコトニ難易有ハ備可レ謂レ吉トイヘル言ニ相カナヘリ、

○問云、異朝ノ政道本朝ノ政事コトナルコトアルベカラズヤ、

答云、其水土ニ従テ人物各コトナリ、人物コトナルトキハ事ノ用皆不レ同、何ゾ異域本朝ヲ以一ツニ論ゼンヤ、サレバ夫子モ下襲ニ水土一トノ玉ヘリ、本朝ノ内ニヲイテモ五畿七道ノ風俗其水土ニヨッテ相コトナリ、況ヤ異國ト本朝トハ既ニ二千里ヲヘダテ東西ニワカテリ、一同ニ論ズベカラズ、王制ニ云中國戎夷五方之民、皆有レ性也、不レ可ニ推移一、又曰、中國夷蠻戎狄、皆有ニ安居・和味・宜服・利用・備器一、五方之民言語不レ通、嗜欲不レ同トモ出タリ、聖人ノ制如レ此、然レバ異朝ハ異朝ノ政アリ、本朝ハ本朝ノ政アッテ、異朝ノ制ヨシト云ドモ異朝ニシテハ可レ用、本朝ニハ用イガタキコト多シ、今其一二ヲ以テ云バ、異朝ニハ専ラ皮衣ヲ著シ、鳥獸ノ羽毛ヲ以テ衣冠ヲ制スルコトアリ、魚鳥ヲイヤシンジテ牛羊ノ肉ヲ食トス、蚔・醢・麋・兎ノ醓ヲ賞ス、家ニ板ヲ不レ布シテ席ヲマフケテタ、ミナシ、衣食居如レ此ノタガイアルトキハ、其用法亦コトナルベシ、是乃水土ノ異ニシテ異朝コレヲ以テ人皆

安ズル故ナルベシ、然レバトテ本朝ニ用ユベキニ非ズ、次ニ異朝ニハ代々草業ノ君乃天子ト成テ天下ヲ成敗ス、本朝ニハ武家天下ヲ縦ニスルコト、清盛秀吉卿ノ如トイヘドモ、正統ヲ崇敬シ王代ヲ尊テハ宗廟ノ元祖天照太神ノ御苗裔今ニ天子タリ、コレ異朝ノ例ニ比シ難ク、勤レ王崇レ朝ノ道明ナリト可レ謂也、冠昏喪祭ハ人ノ大禮ニシテ異朝ニハ必トツグニ、女ノ姉妹ヲ相ソヘテ其國ニユカシム、既ニ舜ニメアワセ玉フニ娥皇・女英ヲ以テスルガ如シ、本朝ニテハ如レ此コトヲ嫌フ、喪ニ亡者ノ口ヲヒライテ、中ニ玉ヲフクメ食ヲ入、大斂小斂ト號シテ亡者ノ身ヲ布ヲ以テコレヲツヽム、コレ含斂ノ二大禮ニシテ本朝ノ今ヲ以云バ、孝子順孫コレヲ致ニ不レ忍ノコトワリアランカ、而シテ其棺ヲ收ル所ノ墳墓ヲバ棄テ是ヲ祭ラズ不レ脩、本朝又コレニ異也、異朝ニハ父母ノ忌日ト云ハ、一年一度ヲ用テ四時ニ其祭ヲナシ、毎月ノソノ日ハ素食ヲダニ不レ致、本朝今ハコレ又孝子順孫ソノ同日ヲ聞ニ不レ忍ノコトワリアリ、故ニ近代浮居ノ説ニチナムトイヘドモ人々墓祭月忌日ヲツトム、異朝ニハ廟出來トキハ牛羊ヲ殺シテ其血ヲ廟ニヌリ、祭祠ノ器ニチヌルト云ヘリ、是又本朝ハ不レ用コト也、シカレバ異朝ノ制世々ノ聖人コレヲ考テ此制アルコトハ、彼國ニハ如レ此シテ可ナルガユヘナラントイヘドモ、本朝用テハ時宜不二相應一ノコトナルベシ、シカレバ毎事一樣ニサダメ難コトナレバ、只本朝ハ本朝ノ禮ニヨリ、異朝ノ禮ヲ斟酌スベキ也、

○問云、若周公孔子本朝ニ出玉ハヾ、異朝ノ禮ヲ行ナワレンヤ、

答云、我周公孔子ニアラザレバ、其制法ヲ如レ此アラント云コト尤難レ知也、シカレドモ其文獻ノコリテ徴トスルニタレルヲ以テ云バ、禮ニ脩ニ其敎一不レ易ニ其俗一、齊ニ其政一不レ易ニ其宜一ト出タリ、サレバ周ハ殷ノ紂ガ惡政惡俗ヲウケ、衰世ノ政ヲ蒙タル世ヲ革テ周ノ天下トナシ玉ヘドモ、天下ノ人民事物トモニ皆殷ノ天下人民事物ニヨツテコレヲアラタメ玉フト云コトヲ不レ聞、詩云、商之子孫、其麗不レ億、上帝既命、侯ニ于周服一トイヘリ、孔子宋ニヲイテハ章甫ノ冠ヲナシ、魯ニヲイテハ縫掖ノ衣ヲ著シ玉フト也、サレバ生ニ乎今之世一友ニ古之道一、如レ此者裁及ニ其身一者也トナリ、ソノ國ニ居テスラ古今ノ風俗コトナレバ裁必

ズ及、況ヤ異國本朝水土遙ニコトナレバ、聖人コヽニ來リ玉フトモ、不レ易二其俗一シテ其敎ヲ立玉ハン事不レ及レ論也、

○問云、衣服飮食家宅ニ道アルベカラザレバ、聖人何方ニユクトモコレニカマイ玉フコトハ不レ可レ有、然レドモツイニコレヲ道ニ入玉ハヾ異國ノ俗ト同ジカラシメ玉ハンカ、

答云、衣食居ニ道ナシト云コトコレ甚アヤマレリ、衣食居ヲハナレテ道ナシ、衣食居用器事物皆道ノ寓スル處也、聖人ソノ水土ヲ考テ其水土ニ相應ノ衣食居ヲ定メ玉フベシ、久シク治平セシメ玉ハヾ異國ノ俗ニシナシ處モアルベシ、然レドモ本朝ノ俗ヲ以テ本トナシ玉ハン間、何ゾ必ズシモ異俗ヲ事トシ玉ハンヤ、コトニ今本朝久シク治平ニ屬シテ、代々ノ式禮立文明ノ用多シ、唯大義大禮ノ間少シ宛ノ用捨ニヨッテ、忽聖人ノ化ニ及ブベシ、シカラバ何ゾ必ニ異樣ニセンヤ、俗儒ハコレヲ不レ知ヲ以テ、異國ノ書ヲヨミテハ異國ニ泥ミ、事ヲ新ニシテ人ノ目ヲヲドロカシ、人ノ心ヲ悅バシメントス、故ニ却テ聖道クラク人コレヲ以テ道ニトヲザカリ、學ヲイトフニナレル也、

○問云、異國本朝聖人ノ道ヲ崇敬シテ、四夷ハコレヲ不レ知ハ水土カワリアルユヘナリヤ、

答云、大唐・朝鮮・本朝此三國天地ノ中道ニ當レリ、故ニ水土他ニ異ニシテ人物其美ヲツクシ、其用法其善ヲ盡スト也、凡ソ天ニ中道アリコレヲ赤道ト號ス、此左右四十八度ヲ黃道ト號シテ、日月五星トモニ此黃道ヲ運行ス、日月赤道ヲメグルトキヲ晝夜ヒトシキ時トシテ春分秋分トイフ、赤道ノ北ヲメグル時ヲ春夏トシ、赤道ノ南ヲメグル時ヲ秋冬トシテ、四時相序三國此度ニアタリ、此道ヲウクルヲ以テ四時トコシナヘニ不レ違、人物其用ヲ施シテ生長收藏ノ時ヲ不レ失、三國ノ外ハ或ハ寒ニ過、或ハ暑ニ過或ハ二季アッテ二季ナク、或ハ三季ナクシテ一季アリ、或ハ晝夜トコシナヘニ同ジク、或ハ晝多シテ夜常ニ短、或ハ夜長ク晝ツネニ短シ、コヽヲ以テ人物其氣ヲ不レ全シテ人人ニ不レ似物々ニ不レ類、五穀ソナワラザルガユヘニ粒食セザルアリ、禮記ノ王制ニ五方ノ人物不レ同コトヲ詳ニセルガ如シ、而赤道ニアタレル國ハ南蠻耶蘇宗門ノ國ナリトイヘリ、故彼宗門我國天ノ中ニアタッテケレバ、天ヲ宗トシ敎ヲ立ト云ヘルト也、彼ガ云

ゴトク赤道ノ下ニアタレル國ハ天ノ中ニアタレルト云ベシ、三國ハ皆赤道ヲ南ニヒツミテウケタリ、然レバ彼ガ國天ノ中ニアタリテ三國ハ中ニ不レ中ニ似タリ、是彼邪道ヲ以テ正道ヲ誣ル也、聖人天地ノ中ヲハカツテ中國トノ玉フハ、天地之道ト、ノホツテ過不及ナク、能タガフ事アラザルヲ以テ中トス、彼ガ云所ノ中ハ物ノ尺寸ヲ考テコレヲサシテ中ト云、是其名ハ一ツニシテ其道不レ同、サレバ國ノ中ト云ハ國ノ廣狹ヲ考テ其中ヲサシテ中ト云ハ、形ノ中ニシテ國中ニハ非ズ、國ノ中ハ人民相聚庶物コヽニ止テ其宜ヲウルヲ中トス、故ニ國府ヲ立府中ヲ定ムルコト、土地ノ中ヲ以テスルニ非ズト可レ知也、彼南蠻天ノ中ニアタルト云ドモ、四時ト、ナフベカラズ、萬物時ヲ不レ可レ得、何ゾ是ヲ中トスルニタランヤ、只此三國ノミ水土ノ氣脈一ツニシテ、天地ノ中ヲウケ人物所ヲ得ルガ故ニ、人ニ聖神アリ物ニ神龍神馬神草ヲ生ジ、大道正義ヲ以テ用トシ、德ヲ天地日月四時ニ合テ、更ニ違コトアラザル也、四夷八蠻ハ奇人異物アツテ、異事怪說ヲ以テ用トス、故ニ東海黃公ガ幻術、天竺ノ佛圖澄・鳩摩羅什ガ妖通、呑レ刀吐レ火ノ方術、其奇特ナキニ非ト云ドモ、皆正道ニ非ザルハ水土相違イ氣脈不レ正ヲ以テ也、サレバ天地ノ正氣ヲ不レ得バ萬物ノ聲色モ不レ正シテ、可レ翫可レ觀シテ敎トシ俗トスベカラズ、唯三國ノ地脈ノミ其中ヲ得ル也、凡國中ニ此度ニ則可レ知ニ人亦爲ニ人

○問云、天ノ中ハ赤道又ハ北極南極タルベクシテ、此三國ハ皆コレヲソムイテ氣脈正事クワシキ子細猶イブカシ、

答云、陽明ヲ前ニウケテ陰幽ヲ後ニス、人物ノ形躰各然リ、今北極地上ニ出ルコト三十六度ナルガユヘニ、赤道南ニ傾事凡三十六度、故ニ日月五星皆南ヲ運行ス、シカレバ人物ノ形躰自相應ズ、聖人南面シテ天下ヲ政、群臣北ニ向テ手ヲ拱、聖人立玉フ處ノ則今天地ノ形ニ不レ違、サレバ孔子曰、爲レ政以レ德、譬如下北辰居ニ其所一而衆星共上レ之、易曰、離萬物皆相ニ見南一之卦也ト、是乃天地ノ形體ヲ今日ニ用ユルノイヽナルベシ、今三國此ノリニ當ルヲ以テ、水土地脈ノ氣他邦ニ準ズベカラザル也、昔唐虞ノ世帝都ヲ冀州ニ定メ玉フ、此國ノ形粧北ヲ後トシテ南ヲ前トス、水土ノ氣甚盛ニシテ天下ノ文物相成レリ、天下ヲ九州ニワカツテ冀州ハ中國ノ北ニヨツテ天下ヲ南ニウク、古今建都

之地、皆莫レ有レ過レ此ト舊記ニ出タリ、是乃天地ノ正氣ヲ考テ其都ヲ立玉フナルベシ、サレバ三國水土ノ氣脈天地ノ正ヲウルコト不レ可レ疑也、凡萬物直ニソノ氣ヲウクルトキハ、却テ其物不レ正ト云ヘリ、火ハアタヽカナリトイヘドモ、直ニ是ニ中ルトキハ却テ害生ズルガ如シ、コヽヲ以テ考フレバ直ニ天ノ中ニアタリ、北極ヲ戴赤道ヲ上ニ蒙ルトキハ、寒暑節ヲ過テ人物ソノ宜ヲ不レ可レ得、サレバ北極赤道三十六度ノヒツミアツテ、コノ地ニ其氣ヲ承ルコト正シキナルベシ、君臣父子ノ間朋友ノ交際、皆コレ節ニアラザレバ過不及ス、況ヤ衣服家宅食物、皆以レ節爲レ用也、

○問云、本朝ト異朝ト人物水土ニヨツテ優劣アリヤ、

答云、大唐ハ甚大ニシテ南東ノ方少シ海ヲウク、其外コトヾヽク陸地ニ相ツヾケリ、其國土大ナルヲ以テ其生ズル處ノ人物モ大ニシテ其氣其性モ亦大ナリ、故ニ人ニ聖人出、物ニ麟鳳龜龍ヲ出ストイヘドモ、亦人ニ大惡大暴アツテ殷紂・夏桀・盗跖・陽貨ガ類、世世ニ不レ乏、春秋ノ時ハ未ダ上代ニ近シトイヘドモ、春秋一經ニ君ヲ弑セル大逆ヲシルス事二十有五、其中子トシテ父君ヲ弑セル甚多シ、況ヤ魯惠公、子ノ爲ニ宋ニ娶テ甚カホヨシトテ奪テ自メトリ、衞宣公、子ノ爲ニ齊ニメトツテ美ナリトテ自コレヲ奪フ、楚平王蔡景公モ亦然リ、晉獻公ハ父ノ妾ニ通ジ、衞昭伯ハ父宣公ノ妾ニ通、晉惠公ハ父獻公ノ妾賈君ニ通ジ、齊襄公ハ姊ニ相通ジ、晉祁勝與ニ鄔臧ニ酒ヲ弄テ室ヲ易、鄭伯有ハ窟室ヲカマヘテ長夜ノ飲ヲナシ、魯ノ穆伯ハ色ニ惑テ莒ニ奔リ、楚ノ申公巫申ハ夏姬ニヲボレテ晉ニ走ル、晉范宣子ハ鄭ニ行テ玉ヲ求メ、楚襄尾ハ玉ト裘トヲ蔡ノ昭公ニノゾミ、宋襄公楚子魯ノ季平子各人ヲ以テ牲トシテ神ヲ祭ル、是等ハサシモ名アル君臣トイヘドモ、其不義無道ノ書ニアラワルヽコト可レ見、ソレ春秋ハワヅカニ百四十二年ノ間ヲシルシテ如レ此、況ヤ開闢ヨリ大明マデノ間天下姓ヲ替三十姓ニ垂トス、ソノ間君臣ノ無道、男女ノ無禮、財寶利祿ノ私、酒宴遊興ノ流荒アゲテ云ベカラズ、サレバ又賢人君子忠臣義士勇夫烈婦文人博學ノ輩モ甚多シ、是大國ニシテ其善惡モ亦甚大ナルコトアリ、然レドモ大綱大義ハ君臣父子ニアツテ多ハ子トシテ父ヲ弑シ、臣トシテ君ヲ弑セシコト多ク、剩戎狄ニ天下ヲ奪レテコレヲ君ト仰グコト度々ナレバ、正

統明ナリト云ベカラズ、次ニ朝鮮ハ昔武王箕子ヲ封ゼシ地也、ソノ國始ハワヅカノ土地ニシテ、人民モ少ク風俗スナホナリケル、箕子制八條之教玉ヘリト也、其後燕人衞滿朝鮮近燕ニ奪レテケル、漢ノ武帝朝鮮ヲ割テ四郡ニ定メコレニ王ヲ不レ立、コヽニ扶餘國ノ朱蒙トイヘルモノ來テ朝鮮ノ地ニ居テ高氏ト稱シ、國ヲ高麗ト號ス、コノ者漢ノ比ヨリ朝鮮ヲ從テ後ニ王號ヲ稱シ、高璉ガ時平壤ニ都ヲ立テ長安城ト號シ、相續デ王タリ、唐攻ニ高麗ニ平壤城ヤブレケレバ、コノトキ高麗ノ王孫高氏タヘケルヲ、五代ノ時王建ト云モノ又ノコレル高氏ヲタイラゲテ此國ニ王タリ、而シテ新羅百濟ヲモアワセ、都ヲ松岳ニウツシ平壤ヲ以テ西京トス、大明洪武ノ比ソノ臣李成桂ト云ヘルモノ、主人ヲ弑シテ立テ高麗ニ王トシテ、大明ニコフテ國號ヲ改、コレヨリ今ニ至マデ朝鮮ト稱セリ、シカレバ其國亡ブルコト二度姓ヲ替ルコト四度也、ソノ俗其陰陋ニシテ尤モ釋氏ヲ信ジ、王ノ子弟必僧トナル、鬼人巫史ヲ信ジテ聖經ヲシラズ、唐ノ武德中ニ高麗ヨリ使ヲ奉テ道經ヲ習故ニ、ソノ國政不レ明、サレバ大明ノ洪武帝、問ニ高麗使者ニ曰、王居レ國何爲、城郭修乎、甲兵利乎、宮室壯乎、使者頓首云、東海之波臣、朝夕禮ニ覺王ニ甚恭也、他未レ皇也、璽書諭レ王、佛法非レ所ニ以治レ國、梁武後世之前車也、王其毋レ惑云々、其後文學々書アリトイヘドモ、更ニ聖教ヲ不レ知、況ヤ武義ヲコヽロヱザルガ故ニ、兵器弓馬モ不レ宜トイヘリ、或ハ契丹ニ從、或大明ニ屬ス、其國八道ニワカツトイヘドモ其兵三十萬ニ不レ出也、大唐ニモ外夷ノ來聘使高麗ヲ以テ大ナリトス、コノ外ニ新羅ハ唐ノ玄宗コレヲ號ニ君子國、百濟ハ以ニ百家濟ノ小國也、各本朝ニ從テ命ヲウク、トモニ本朝ノ人物ニシカズ、皆釋氏ヲ貴テ道ノ道タル事ヲ不レ知也、本朝ハ海中ニ獨立シテ四時ツイニ不レ違、五穀ツチニ豐饒也、往古ノ聖神此國ヲ國中柱ト定メ、豐葦原ノ中國ト稱シ玉フハ、是其天地ノ中精ヲ本朝ニウレバ也、又千足國トモ秀眞國トモ瑞穗國トモ云ルハ、萬物生々シテカクルコトナケレバ也、其形獨立シテ四邊ニ地ツヾカズ、外國襲來ノヲソレナキガユヘニ、玉墻內國・浦安國ト云ヘリ、水土用レ武ニタリテ、礮馭盧嶋（矛鋒滴瀝之潮凝之名）細戈ノ國トモ云ヘリ、コヽニ天神地神ト崇メ玉ヘルハ、乃マサシク聖神ニシテ天御中主命・國常立尊・天照太神ト稱シ奉ル、

其名號自聖人ノ道ヲ備ヘ奉ルナリ、而シテ人皇ノ最初、神武帝天下ヲ平均マシ〳〵テ天神地祇ノ宗廟ヲ祭、萬々世政ヲ示シ玉フノ後、今ニ至ルマデ二千五百歲ニ及ブ、ソノ間人皇ノ正統相續シテ姓ヲ替ルコトアラズ、君々タラザレドモ臣々ノ道ヲ不レ失ト云ベシ、而シテ神功帝三韓ヲ征シ玉フテ高麗・新羅・百濟各服從シテ三國毎年八十艘ノミツギモノヲ奉テ、不レ乾二船檝一ト誓ヘリ、況ヤ任那・安羅・加羅等ノ屬國ハアゲテ不レ可レ數、應神帝七年三國幷任那ノ使來朝イタセルヲ、武內宿禰ニ命ゼラレテ、諸ノ韓人ヲアツメテ以テ池ヲホラセ玉フ、コレヲ韓人池ト號シテ今ニアリト也、コレハ外國ノ降參イタセルトキ、長ク與二乾坤一伏爲二飼部一ト住吉天王ニ誓タリシ、ルシノワザコト、也、其後雄略朝、筑紫安致臣等、伐二高麗一、欽明朝、大伴狹手彥伐二高麗一、乘レ勝テ五城ヲセメヲトシ、瑞寶ヲ取シコト各舊記ニ明也、況ヤ新羅百濟少モ本朝ニシタガワザレバ兵ヲ發シテコレヲ征ス、征シテ三國無レ不レ從、應神帝ノトキ高麗ノ表無禮ナリト云テ、太子稚郎子コレヲ引破テ使者ヲトガメ、仁德帝ノ朝本朝ノ勇ヲハカランガ爲、高麗ヨリ鐵ノ盾ヲ獻ゼシヲ盾人宿禰ニ命ジテコレヲ射ヌカセ玉フ、高麗ノ使者色ヲ失テヲソレ服セリ、敏達ノ朝日本ノ文才ヲハカランガ爲ニ、表ヲ烏ノ羽ニカイテ奉リケレバ、楊震爾コレヲヨンデ不レ惑、サレバ高麗文武トモニ本朝ニ及ベカラズ、況ヤ豐臣家ノ朝鮮征伐ヲヤ、コヽヲ以テ案ズルニ四海廣シテ國々多シトイヘドモ、本朝ニ相比スベキ水土アラズ、大唐ト云ヘドモ本朝ノゴトク全キコトアラザル也、只文才ハ異朝ヲ以テ準據トス、文才ハ外ノ用ニシテ實義ニ非ズ、本朝ハ本朝ノ言語文字ニシテ、古今事タラズト云事ナシ、凡ソ上古聖神敎爾ノ道、中古武將ノ制法、多クハ異朝ノ聖人立玉フ處ノ、リニ無レ不レ應、サレバ歌曲ハ鬼神ヲ感ゼシメ、風俗催馬樂ハ天下ノ國俗ヲタヾシ、祭祀ハ天地宗廟ヲ本トス、況ヤ忠臣義士文才博學ノ類不レ可二枚擧一也、コトニ和漢相通ズルノ後ハ、漢ノ文才ヲウツシテ以テ我國ノ才トスルコト、又大ナル道ナリ、故ニ阿倍仲滿ハ、盛唐ノ詩人李白王維ニ交テ其才ヲ稱セラレ、唐朝ニ仕ヘテ北海郡開國公ニ封ゼラレ、食邑三千戶ニ及ビシト也、仲滿本朝ヨリ行テソノ才如レ此、シカレバ彼國ノ文才習學ニタヤスカルベシ、サレバ中

古ニ及デ詩作文章又異朝ニヲトルベキニ非ズ、コレ皆其習俗ニヨルコト也、本朝ノ人物禮用自ラ聖人ノ道ニ相合テ、而シテ異朝ノ聖經スデニ往古ヨリ相ワタリ、コレヲ考ヘアワセテ以テ其道ヲ立玉ヘル代々ノ政教ナレバマコトニ本朝ノ風化甚大ナリト可レ謂、末代ニ及デ本朝ノ風儀古今ノ事實ニ通ズルモノ少キガユヘニ、耳ヲ信ジテ目ヲ賤ンジ、奇ヲ好デ常ヲ忘レ、少シ文才ヲ弄トキハ大唐ヲ稱美スルコト甚過テ、本朝ヲ以テ異國ノ風俗タラシメンコトヲ欲スルニ至ル事尤可ニ嘆咲一也、唯文學ニ便テ以テ異朝ノ聖人大道ノ極ヲ立玉フ處ヲ考ヘテ、以テ本朝治化ノ輔佐トスルニタヘタリ、彼ノ詩作文章ハマコトニ學者ノ風流ニシテ、以テ本朝ノ俗ニアラズトイヘドモ、是又兼知テ事物ノ用ヲタラシムルノミ也、更ニコレヲ必トスル事ニ非ズ、況ヤ講レ武用レ兵ノ道ハ四海ノ間本朝ニ相并ブ處アラズ、異國尤モ本朝ヲヲソレテ、邊戍ノ戒以レ防レ我第一トス、大明ノ洪武帝祖訓ヲ末代ニタレテ、大明ノ政戒トスルニ日本也、日本ト通ズベカラズトアルハ、勇武ヲ恐レテノ事也、コレ西海未レ靜ノ間、日本邊鄙商船彼國ニアタスルニシテ、兵士ノナス事ニ非ズトイヘドモ、是ヲ、ソレテ大明ツイニ勘合ヲナサヾル也、然レバ四海ニナラビナキ大唐ト云ドモ、文物武備更ニヲトルベカラズ、コトニ高麗ノ季氏ハ本我天神ヨリ住吉天王ニ賜フ處ノ國也、コレヲ征スルニヤスシ、故ニ云本朝ノ人物四海ニ長タリト也、

○問云、古來遣唐使ヲ以テ日本コレニ臣ト稱セシト云ヘルハイカン、

答云、凡ソ本朝ノ孝靈帝ノ時、秦ノ徐福本朝ニワタリテ、五帝三墳ノ書ヲ持來ル、乃今ノ秦氏ハ徐福ノ末ナリト云傳ヘタリ、サテ後漢光武中元二年本朝垂仁帝八十八年ニ始テ兩國相通ジ、推古帝ノ時ニ書簡ノ往來相始、此時聖德太子自書シテ曰、日出處天子致ニ書日沒處天子一ト、是隣交ノ儀ニシテ大唐ニ屬スルニ非ズ、此時隋煬帝大業四年ニ當、煬帝此書簡無禮ナリト怒リ玉ヘドモ、亦其氣象高遠ナルコトヲアヤシミ、裴世清等十三人ヲ本朝ニ至ラシム、其書ニ皇帝問ニ倭王一トアリ、聖德太子コレヲ見テ天子ノ號ヲ黜ルコトヲ怒リ、ソノ使ヲ不レ賞シテ報書ニ又東天皇曰ニ西皇帝一トカ、シメ玉ヘリ、其後代々相續テ隣交ノ義アリトイヘドモ、日本遂ニ不レ稱レ臣、故ニ代々ノ書簡ニ臣

ノ字アラズ、其後大明ノ大祖洪武六年本朝ノ應安六年ニアタッテ、大明ノ天寧寺ノ住持仲猷諱祖闡瓦官教寺ノ長老無逸諱克勤、使ヲ奉テ筑紫ニ至テ日本ノ天台座主ニ書ヲ寄ケル中ノ言ニ、是ヨリ先三度マデ使ヲ以テ書ヲ通ゼラレケレドモ、關西ニサヘヘラレテ不レ通ガ故ニ、此兩僧ヲ以テ使タラシムトノ事、是本朝西海ノ賊舟彼地ニ至テ邊境ヲナヤマス事ヲ苦デ、隣交ノ義ヲ繼ントノ事ナリ、應永ニ至テ源義滿卿ノ時、大明國ヘ好ヲ通ゼラレシ時、日本國王ト書シ、臣聞ト云字ヲ加、是古例ニ非ズ、本朝ツイニ臣ト稱スルコトアラズト、其比コレヲ評セリ、其後文明七年大明國ヘ遣ス書ノ端書ニ、日本國王臣源義政トシルス、書ノ末ニ又臣源義政トシルセリ、是僧横川製スル處ナリ、甚以本朝ノ通例ニ非ズ、五典三墳ノ書ヲ得、周公孔子大聖德ノ文書ヲ考ヘテ、以テ本朝ノ治化ノ輔ケトス、異朝隣交ノ義甚重トイヘドモ、本朝ノ水土ニヲイテハ異朝ノ制ニ專準據ナリガタシ、故ニ年號ヲ別ニ立天子ヲソナヘ奉テ又四海ノ風俗ヲ立、シカレバ異朝ニ對シテ臣ト可レ稱ノ道アラザル也、コヽニ永樂ノ比ヨリ勘合ノ事出來テ緇素ミダリニ渡唐スルコトアラズ、唯彼國ノ商船往來シテ近比ハ隣交ノ好ヲ修スルニモ不レ及ナレリ、

○問云、本朝水土ニ因テ治國ノ要アリヤ、

答云、禮ニ云、凡居二民材一必因二天地寒暖燥濕一廣谷大川異レ制、民生二其間一者異レ俗、剛柔輕重遲速異レ齊、五味異レ和、器械異レ制、衣服異レ宜、脩二其敎一不レ易二其俗一、齊二其政一不レ易二其宜一ト出タリ、サレバ能其土地ノ水土ヲ考ヘテ其治ヲナス事聖人ノ戒也、凡ソ遠ク云トキハ四夷八蠻中國合テ五方八方ノ末々、皆ソノ風土コトニシテ其俗大ニコトナリ、其地ノ俗古ヨリアリキタリ、ナシ來レル事ヲ一旦ニ替ステンコトハ、ツイニ不レ可レ叶コト也、ソノ上ソノ俗ヲ以テ其土地相應ノコトアルモノナレバ、其ワカチヲ詳ニ格物致知セザレバ其用タラズ、其用タラザレバ民コレヲ安ゼザル也、近ク本朝ノ内ニテ考フルニ、北國東奥ハ十月ヨリ霜雪盛ニシテ日月ヲ不レ見、來二月マデ然リ、南西中國ハ雪ヲミルコトマレニシテ、暴風陰寒マレナリ、タトヘバ五畿ノ中國トイヘドモ、ソノ國中十里廿里三十里ヲ隔ルトキハ、寒暖カワリ燥濕不レ同、シカレバ少ノ所ト云ドモ是ヲ詳ニキワメズシテ、一樣ニ沙

汰センコトハ、政ノ正ニアラザルト可レ知也、
○問云、水土ト云ヘルコトハ何ノイヽゾヤ、
答云、水土ト云ヘルハ人ノ生土ト水トヲ以テ生長ス、豈人バカリナランヤ、草木鳥獸魚蟲玉石ニイタルマデ、水土ニヨラズト云コトナシ、水ハ物ヲウルヲシ、土ハ物ヲヤシナフ、人一生ノ養、水ヲノミテ渇ヲヤメ、食ヲクラッテ飢ヲタスク、其ノム所ノ水四支百骸ヲウルヲシ、ソノ食所ノモノ一身ヲヤシナフ、是水土ヲ貴ブユヘン也、シカルニ水善惡アッテ輕重清濁甚相タガフ、土ニ九品アッテ所二其生一ノ物コト〴〵ク別也、コレニ因テ相生々スル人物各其性ヲコトニス、サレバ生二平易之地一モノハ、有二平易之氣質一而有二平易之性一、生二險岨之地一者、有二險岨之氣質一而有二險岨之性一、生二國中一者、其氣質性情寛大也、生二邊鄙一者、其氣質性情陋險也、萬物カクノ如シ、雪國險岨ニ生ズル牛馬ハ、ヨク險ヲシノイデ寒ヲ忍ブ、草木甚堅牢ニシテ而其材重ヲノセツヨキニタユル也、暖國平易ニ生ズル牛馬ハ寒ヲシノグ事不レ能、險ヲユクコト不レ快、草木甚懦柔ニシテ堅牢ナラズ、故材木棟梁ハ必ズ寒險ノ地ニ生ズルヲ用、花葉菜根ハ皆暖國ニ宜シ、コレ水土ノカワレルガユヘ也、マコトニ五方之民皆有レ性也、不レ可二推移一也、古ノ大舜ハ東夷ノ人也、文王ハ西夷之人也、地之相去也千有餘里、世之相後也千有餘歲、得レ志行二乎中國一若レ合二符節一、先聖後聖其揆一也トイヘリ、然レバ邊鄙ト云ドモ豪傑大英雄ニ於テハ不レ可レ異トイヘドモ、江南ノ橘江北ニウツサレテ枳トナリ、南枝北枝之梅開落既ニ異ナレバ、水土ノ替リ不レ可レ疑也、次ニ水土ト云ヘルコト仲尼上律二天時一、下襲二水土一トノ玉ヘル言也、後世ニ及デ郭璞ガ風水之說アリ、無二風以散一レ之、有二水以界一レ之也ト云ヘル義ニシテ、卜二其宅兆一コトニイヘリ、朱子又冀州ノ都タル事ヲ論ジテ天地ノ中間好風水ト云ヘリ、風水ノ義ハ後世ノ意見ニシテ甚アヤマレリ、郭璞ガ說不レ足二信用一也、凡ソ萬物皆水土ヲ以テ美惡剛柔ヲサスト云コトナシ、是水土ニヨラザレバ事ヲコナワレザルユヘン也、昔仲雍大伯ニ嗣デ吳ヲ治メシ時斷レ髮文レ身羸以爲レ飾トイヘリ、是吳ノ水土シカラザレバ不レ可レ治ヲ以テナリ、夫子水土ニ襲トノ玉フコト、甚萬世ノ敎ト可レ云也、
○問云、水土ノ說ヲ聞トキハ、帝都王城ノ考アルベキ

コト也、其說ヲ承ランコトヲ願、

答云、帝都王城ハ萬民ノ止マル處、四方ノ諸侯來會シ萬物コヽニ相聚ルノ地ナレバ、コレ天下ノヽリトスル地也、サレバ詩ニ王都ヲサシテ四方之極ト云、周禮ニ以爲二民極一也、極ハ北極之義、檀準之名ニシテ四方コレヲノツトツテ郡國ヲ正スノ心也、然レバ先水土ノ中ヲ考フベシ、水土ノ中ト云ハ以前ニ所謂人物ノ宜シテ、其精秀ノ氣アラン處ヲイヘリ、周禮ニ大司徒土圭ヲ立テ國ノ中ヲハカリ日ノ景ヲツモリテ、天地之所レ合、四時之所レ交、風雨之所レ會、陰陽之所レ和、以テ王國ヲ建、畿方千里ヲキワムルト云ハコノ事也、凡ソ一民一夫ノ家宅ヲ制スルニモ、水ニタヨリ山林ヲカタドリテ、所ノ風濕寒暖運送ヲ利セズト云コトナシ、若シカラザレバ人ツイニ不二聚居一ツイニ不レ安ハ當然ノ道ナレバ、水土ヲ詳ニ考フルコト是都城ヲ建ルノ第一也、シカレバ水氣地脈ヲ考ヘ、而シテ土地ノ廣狹ヲハカリ、要害ヲツモリ蕃屛維持スルユヘンヲ考、四方參勤朝貢運送驛路ヲ詳ニハカルコト也、古人云、必辨二其方東西南北前後左右一於レ此而取レ正也ト云ハコノ心ナルベシ、次ニ都邑ノエラビハ險固ヲ要トイタスト、平易ヲ要トイタスト、此二ツ古來ノ制ナリ、分内廣シテ後ハ山ニ便リ前後左右ニ河海ヲ帶タル地、コレソノ撰ニ相カナヘル所也、如レ此トキハ都城ノ繁榮日々ニサカンニシテ、人民居ニクルシマズ、運送ソノ利ヲ得テ用レ武致レ兵ニタヨリアリ、文武相兼テ德厚ク世盛ナルニモ德薄シテ世衰フルトモ、兩ナガラ其利ヲ可レ得也、コレ古人ノ四神相應トイヘルナルベシ、

○問云、古來土圭ヲ以テ地ノ中ヲ考フルノ制イカン、

答云、土圭ヲ以テ地ノ中ヲ考フルコトハ、周禮大司徒土方氏ノ職ニ出ヅ、則周書ノ洛誥ニ所謂自服二于土中一トイヘルハコノコト也、土圭ハ四時日月ノ景ヲハカルノ表也、詳ニ舊記ニ出タレバ其法コヽニ略レ之、（出二周禮大司徒土方氏匠人之職一）土地ノ中ハ以前ニ論スル如ク、水土ノ善惡ヲ考ヘ、其精秀ヲトツテ中ト云也、タトヘ地ノ形ハ中ニカナヘリト云トモ、人物ノ氣ソノ中ニアタラザレバコレヲ中ト云ベカラズ、コヽヲ以テ考フルニ天下ノ土地四時人物ヲ詳ニ考ヘ、其精秀ヲ以テ圻內ヲ定メ都城ヲキワメ、而シテソノ中ニヲイテ其土中ヲエラミ、險易ヲ計テ王宮城郭ヲ搆フベキ也、周ノ洛

邑ヲ土中ト云ヘルモ此心ナルベシ、サレバ三代ノ時ハ洛邑ヲ中國ノ中トサダムトイヘドモ、既ニ宋明ニ及ンデハ天下ノ勢タガッテ荊襄ノ間ヲ以中國ノ中ト定ム、朱子曰、豈非㆔天旋地轉閩浙反爲㆓天地之中㆒先儒云、閩浙在㆓東南海盡處㆒、難㆔以爲㆑中、朱子蓋以㆓聲明文物㆒通㆓論天下㆒、非㆑論㆓地勢㆒也トイヘリ、故自㆑古天地ノ中ヲ論ズル事ハ、上ハ天ノ時ヲ考、下ハ地ノ利ヲハカリ、而シテ人物ノ實ヲ不㆑計ハマコトノ中ト不㆑可㆑言也、本朝ノ王圻内昔ハコレヲ中國ノ中トス、今ハ關東ヲ東都ト定ムルガ故ニ、甲・相・總・武・房・常、以テ圻内ノ蕃屏ヲナシ、江城コレ天地ノ中ニ相カナッテ、水土人物處ヲ得ニイタレリ、唯ソノ時宜ニ從テ天地ノ道ヲ考フルコトマコトノ格致タリ、一事ニツイテソノ論ヲキワムベカラザルナリ、

○問云、古來王城ヲヱラムニハ其中國ヲ以テ本トシテ、險固ノ沙汰ヲ不㆑聞、マコトニ險ハ在㆑德ト云ヘルノコトワリナカランカ、

答云、文武ニツナガラ全シテ而シテ後ニソノ道ヲ得ベシ、故ニ文德ヲ修シテ武備ヲ全クスルハ聖人ノ教也、昔周公旦周王ニ輔佐シ玉フテケルトキ、成王ノ都ハ鎬京ト號ス、コレ天下ヲ重ジ宗トスル地ナレバトテ宗周ト號シヌ、此地至テ堅固ニシテ四方ノ參向ツカレ多ヲ以テ、周公洛陽ヲミタテ、東都ヲ立、コレヲ成周ト號シ、周ノ德コヽニナレルトノ心也、而シテ實ハ鎬京ニ都シ玉フテ、清廟ヲ洛邑ニ立、天下ノ諸侯相會シテ、周ノ政ヲウクル地ト定メ玉ヘリ、是居㆑險而行㆓事於易㆒玉フニアラズヤ、サレバ周ノ八百年ノ天下コノ兩都ヲ基トセル也、人君ノ德常ニカヾヤク事ナシ、必ズ時ニトツテ衰ル事ナクンバアラズ、只盛德ヲタノンデ險ヲ不㆑事ハ、險ヲ恃デ德ヲ事トセザルニ相同ジ、君子曰、古之王者知㆓命之不㆒㆑長、（有㆑生必有㆑死）是以竝建㆓聖哲㆒、樹㆓之風聲㆒、（因㆓土地之風俗㆒爲㆑立㆓聲教之法㆒）分㆓之采物㆒、（旌旗衣服各有㆑分）著㆓之話言㆒、（善言也）爲㆓之律度㆒、陳㆓之藝極㆒、（藝準也極中也）引㆓之表儀㆒、予㆓之法制㆒、告㆓之訓典㆒、敎㆓之防利㆒、委㆓之常秩㆒、道㆑之以㆑禮、則使㆑毋㆑失㆓其土宜㆒、衆隷賴㆑之、而後卽㆑命、（雖㆑死無㆑憾）聖王同㆑之トイヘリ、サレバ明君ハ違㆑世詒㆓之法㆒ト云事アリ、唯當時ノ靜謐ヲ思テ子孫ノ衰世ヲハカラザルハ道ニ非ト可㆑知也、次ニ險ハ在㆑德ト云事、吳起魏ノ武侯ニ答曰、在㆑德不㆑在㆑險ト云ハ、武侯專山川ノ險ヲ恃デ修㆑德コトヲイタシ玉ハザルヲ

シ言ニシテ、非ニ通論一也、晋平公曰、晋有ニ三不殆一其何敵之有、國險馬多國無ニ虞弑之難一司馬侯曰、恃ニ險與馬ニ而虞ニ鄰國之難一、是三殆也、四嶽・三塗・陽城・大室・荊山・中南、九州之險也、是不ニ一姓、無レ德則滅亡冀之北土馬之所レ生無レ興レ國焉、恃ニ險與馬ニ不レ可ニ以爲レ固也、從レ古以然、是以先王務修ニ德音一以享ニ神人一、不レ聞ニ其務ニ險與馬一也、是皆ソノ君險ヲ必トスル事ヲ戒テ、務ニ險固一却テ害トナル事ヲイヘリ、サレバ呉起ガ言ハ不レ在レ險ト云、女叔齊ハ不レ聞ニ其務レ險ト云、是呉氏ガ言ニ失アッテ女叔齊ガ言ニ失ナシ、唯修レ德設レ險テ體用一致ニソナワルト云ベシ、次ニ三王ノ後ハ人皆武ヲ以テ天下ヲ草創ス、故都邑ノ撰又古ニ大ニ同シテ小シコトナリ、サレバ漢ノ高祖天下一統ノ後、洛陽都セントノ玉ヘリ、コヽニ齊人婁敬諫ヲ奉リケルハ、洛陽ハ周ノ都セシ地ニシテ薄德ノ人ノ都スル地ニ非ズ、若上ニ文武成王ノ德アッテ、周公召公ノ政ヲイタス臣アランニハ洛陽可レ然、ソレトテモ後代ニ及デハ天下ノ亂ヲ制スベキ地ニ非ズ、德薄形勢弱也、唯秦ノ故地長安四方ノ固アッテ、若有レ急バ百萬ノ衆可ニ立具一ト云ケル、帝コレニヨッテ都邑ヲ立玉フ事ヲ群臣ニ尋玉フ、群臣皆云、洛陽ハ周ノ代數百年相續ノ吉地、秦ハワヅカ三世ニシテ亡、尤モ凶地ナリト申ス、シカレドモ張良申シケルハ、洛陽雖レ有レ固東有ニ成皐一西有ニ殽澠一倍レ河鄉ニ伊洛一其中小不レ過ニ數百里一、田地薄四面受レ敵、非ニ用レ武之國一也、關中左ニ殽函一右ニ隴蜀一、沃野千里、南有ニ巴蜀之饒一、北有ニ胡苑之利一、阻ニ三面一而守、獨以ニ一面一東制ニ諸侯一、諸侯安定、河渭漕輓、天下西給ニ京師一諸侯有レ變順レ流而下、足ニ以委輸一、此所謂金城千里天府之國也ト、コヽニヲイテ郎西都ニ關中一トナリ、コレ古來專土地風氣計ヲ專トス、漢ヨリ以來用レ武ノ利地ヲ考フル也、凡大唐ノ都方々ニアリトイヘドモ、キワメテ四箇處也、洛陽ハ周ノ都ニシテ、其土地甚廣平也、後漢ノ光武コレニ都アリ、長安ハ張良ガ稱美スルノ地、乃秦ノ都前漢幷ニ唐コレニ都アリ、汴梁ハ宋ノ都、幽燕ハ大明ノ都也、コノ外鄴臺・金陵・錢唐ニモ都アリトイヘドモ、右ノ四都ニ不レ出、而シテ古ノ四都又在ニ險與易一、然レバ古今ヲ考水土ヲハカリ、時宜ヲ以テ不レ論バ不レ得ニ其實一也、次ニ本朝ノ帝都ハ本日向ヨリ和州ヲ以テ初トシ、後ニ此京ヲ四神相應ト定メテ、是ヲ平安城ト號シ、遂ニ今ノ都ヲ以テ周ノ都ニ比ス、武家ニ至テ源頼朝

卿、相州鎌倉ニ武館ヲマフケ柳營ヲ建、此地殆ド關中ニ不レ異、北條數代因循シテ相守リ、高時ニ及デ敗亡ストイヘドモ、四方ノ要害固シテ、暫ク外ヲ防ニ利アツテケリ、源尊氏卿、建武ノ一統ノ時群臣相聚テ柳營ヲ京鎌倉ノ間ニ可レ建ノ評アリシ時、居處之興廢可レ依ニ政道之善惡一、是人凶非ニ宅凶之謂一也ト一決シ、ツイニ京都ニ柳營ヲサダメ玉ヘリ、竊案ズルニ五畿內ハ文治ニ宜シト云ドモ、用レ武ノ地ニ非ズ、サレバ公家一統ノ政務ノ時ハ、長久ナリトイヘドモ、柳營コヽニマフケラレテハ、必ズ武ヲ忘游宴風流ヲコトヽスルニ至テ、ツイニ終ヲ全クスルコトヲ不レ得、公父文伯ガ沃土之民、不材淫也、瘠土之民莫レ不ニ嚮レ義勞一也ト云ヘルハコトワリ也、昔晋都ヲウツサント議シケル時、諸大夫皆曰、必居ニ郇瑕氏之地一、沃饒而近レ鹽、國利君樂不レ可レ失也、韓獻子韓厥也曰、郇瑕氏土薄水淺、其惡易レ覯、不レ如ニ新田一、土厚水深、居レ之不レ疾、高燥也有ニ汾澮一以流ニ其惡一、且民從レ敎、十世之利也、夫山澤林鹽、國之寶也、國饒則民驕佚、近レ寶公室乃貧、不レ可レ謂レ樂、公說從レ之、マコトニ古人水土ニ因テ、人ノ機ヲ察スルコト如レ此、サレバ京家ノ公方竝豐臣家ノ終、皆可ニ幷案一也、是只其サシアタレル安居ヲ專トシ、其居所ヲ去コトヲ不レ得シテ、長久ノ謀アラザレバナリ、大權現柳營ヲ武ノ江都ニ定メ玉フ、此地險ヲ遠クマフケ易ヲ近シテ異朝ノ洛陽長安ヲ一所ニアツメシニ不レ異、故ニ永祚長久ノ基、マコトニ本末體用兼備スト云ツベキ也、次ニ、遷都ノ事土地狹ク人民日々ニ衆シテ、都ヲ他ニウツスハ、マコトノ遷都ニシテ、次第ニ永久ノ道アリ、コレ成王ノ洛邑ヲヱランデ、清廟ヲ立玉フユヘン也、若勢衰ヘテ敵ニ氣ヲノマレ、都ヲ他ニウツサンコトハ衰世ノ政ナレバ、沙汰ニ不レ及也、是周幽王犬戎ニ殺サレテ、平王洛陽ニウツリ、コレヲ東周ト云ノ類也、ソノ後東晋南宋皆遷都アツテ衰フ、楚ハ都ヲ鄀ニウツシテ衆心堅クシ、郗ハ澤ニウツリテ民和、光武ハ洛陽ニウツリテ都ヲ立玉フハ、勢大ニ人衆ナレバナリ、本朝遷都古來ヨリ多シ、洛陽ノ遷都以後ハ福原ノ遷都ノ沙汰アリシ外無レ之、凡ソ都ヲウツサンコト、天下ノ騷動人民ノクルシミナレバ、水土險易ノ考、人民ノ利甚深カラズシテハ、必衰政ノ政タルベシト可レ知也、次ニ、兩都ノ事周ニ鎬京ノ本トシテ、洛邑ニ清廟ヲ立ラレシヨリ、異朝

各兩都ノサタアリ、シカレドモ其間不ニ遠去一、本朝ニモ離宮行宮アリテ以爲ニ兩都一ノコト多シ、武家天下ノ權ヲ取テ後鎌倉ヲ東都トシ、洛陽ヲ西都トス、洛陽六波羅ハ是武家マフケト致ス處也、源尊氏卿ノ時ハ、京鎌倉兩家ノカマヘ兩都ニ不レ異、豐臣家ニモ伏見難波ヲ以テ兩都ニ比ス、大權現御治世ニ及デ、江都難波ヲ兩都ニマフケ玉テ、東西ヲ幷呑シ、京都ニ別館ヲマフケテ、王城ヲ守護セシメ玉フ、是古今都邑ノ制ト云ベキナリ、

○問云、帝都柳營ハ城郭ヲカマヘズト云ヘリ、禮記ニ今大道隱、天下爲レ家、各親ニ其親一、各子ニ其子一、貨力爲レ己、大人世（父傳レ子爲レ世）及（兄傳レ弟爲レ及）以爲レ禮、城郭溝池以爲レ固ト出タルハシカリヤ、

答云、險ヲマフケ阻ニヨルハ聖人ノ敎也、サレバ易ニ天險不レ可レ升也、地險山川丘陵也、王公設レ險以守ニ其國一、險之時用大矣哉ト出タリ、周禮ニ司險ノ職ヲ立テ、掌ニ九州之圖一以周、知ニ其山林川澤之阻一、掌固之職ヲマフケ、修ニ城郭溝池樹渠之固一、コレ王公設レ險ノイヽニアラズヤ、故ニ人君本ニ乎內治之修一而、亦致ニ外患之禦一、コレ體用本末ヲカヌルノイヽ也、コヽヲ以テ云トキハ、內文德ヲ修テ衆ノ心ヲ安ジ、城郭溝池ヲカマヘテ外ノ守ヲナシ、外ニ公侯ノ五等ヲ立テ、天下ノ守ヲ堅クシ、丘陵山澤ヲカギリテ未然ノ防ヲナス、コレ天險地險人險ノイヽナルベシ、何ゾ城郭ヲカマフルヲ衰世ノ政ト可レ爲乎、世ニ城郭ヲカマフルヲ以テ衰世ノ政ト云ヘルハ、禮ノ言ト楚ノ沈尹伐ガイヘル言ニタヨッテ學者以テ利口ヲナス、尤アヤマレリ、今所レ問ノ禮ノ言ハ、禮運ニ出タリトイヘドモ、聖人ノ言ニアラズ、漢儒老莊ノ言ヲ以テ附會スル也、ソノユヘハ既ニ易ニ王公設レ險守レ固コトヲアラワシ、周禮ニ先王封疆司險制ヲ出ス、夫子春秋ヲ筆作シ玉フニ、城ヲ築ニ時ヲ失コトヲ譏リ玉ヘドモ、城ノ險ヲ設コトヲ譏リ玉フコトナシ、然レバ親レ親子レ子貨力爲レ利、或世、或及、或設レ險テ其不レ失ニ其道一大道ト云ベシ、大道既隱ト云ヘル所ノ大道ハ、是何ノ大道ゾヤ、乃老莊ガサス處タルベシ、故ニ其語不ニ通論一也、孟子謂域民不レ以ニ封疆一、固レ國不レ以ニ山谿一、威ニ天下一不レ以ニ兵革一トイヘルハ、時ノ人君恃レ險專レ兵戒ノ言也、又囊瓦城レ郢討ト云ハ楚王郢ニ都ヲウツシテ、未レ搆ニ城郭一ノ內ニ令尹子囊卒ス、ソノ時子ノ囊瓦遺言

イタシ置ケルハ、必郢ニ城ヲ取立テ、險ヲマフケテ國ノ守ヲナスベシトイヘリ、時ノ君子謂子囊忠將レ死、不レ忘レ衛ニ社稷一也、カクテ囊瓦令尹トナリケレバ、父ノ遺言ニマカセ城レ郢、コノ比吳トアタヲ結デ、度々ノ合戰不レ已、コヽニヲイテ、沈尹戌曰、子常必亡レ郢、苟不レ能レ衛、城無レ益也、古者天子守在ニ四夷一、天子卑守在ニ諸侯一、諸侯守在ニ四鄰一、諸侯卑守在ニ四竟一、愼ニ其四竟一、結ニ其四援一、民狎ニ其野一、三務成レ功、民無ニ內憂一、而又無ニ外懼一、國焉用レ城、今吳是懼而城ニ於郢一、守已小矣、卑之不レ獲能無レ亡乎、昔梁伯溝ニ其公宮一而民潰、民棄ニ其上一、不レ亡何待、夫正ニ其疆場一、修ニ其土田一、險ニ其走集一、（邊竟之壘壁也）親ニ其民人一、明ニ其伍候一、信ニ其鄰國一、愼ニ其官守一、守ニ其交禮一、不レ僭不レ貪、不レ懦不レ耆、完ニ其守備一、以待ニ不虞一、又何畏矣、詩曰無レ念ニ爾祖一、聿ニ脩厥德一、無四亦監三乎若敖蚡冒至二于武文一、（四君楚賢君也）土不レ過レ同、（方百里）愼ニ其四竟一、猶レ不レ城レ郢、今土數圻、（方千里曰レ圻）而郢是城、不ニ亦難一乎ト云フ、此時楚王政ニ怠テ讒ヲ信ジ、父子ノ大綱ヲミダリ、大臣ヲ失、子常又賄ヲ事トシテ知ニクラシ、吳大ニ盛ニシテ謀臣アリ、故ニ司馬戌コノ諫アリ、囊瓦ガ父衰世ノ政ヲハカツテ城レ郢コトヲ

戒トイヘドモ、コレヲ怠コト卅餘年ニシテ、國勢衰テ初メテ城レ郢、ツイニ後十三年ヲ過テ吳ノ兵郢ニ入テケリ、竊案司馬戌ガ此言唯詳ニ其本一而未レ盡ニ其時宜一也、楚王君臣怠而上效ニ四君之勢一、豈可レ得乎、然バ又時ニ取テ衰世ノ政ヲ盡スヲ當然ノ計ト可レ爲、猶三疾病而言ニ平日之養一、コレ司馬戌囊瓦各不和ナルガユヘト可レ知、サレバ後ニ吳ノ兵楚ニ入トキ、謀遂ニ不レ成シテ司馬戌モ、唯死ヲ潔シテ溝瀆ニ縊ル、ノソシリヲ免ル、コトヲ不レ得キ、コヽヲ以テ案ズルニ城郭ヲマフクルコト尤人君ノ守ナリ、コレ近ハ盜賊ノ急ヲ防、遠クハ國家ノ不虞ヲ戒シムベシ、コヽニヲイテ本末兼備ノ政法ト可レ言也、後世ノ俗儒コレヲ詳ニセザルガ故ニ、ヤヽモスレバ囊瓦城レ郢コトヲ云テ、在レ德不レ在レ險コトヲ稱ス、サレバ宋ノ范文正公（仲淹）洛陽ニ城ヲマフケテ、急難ニソナヘ若北京ニコトアツテ、俄ノコトアランニハ、乃洛陽ヲ行宮ニナシ玉ワンコトヲ、仁宗ニ諫ケレバ、時ノ俗學囊瓦城レ郢計也、失ニ政體一トサミシテ仁宗コレヲ不ニ用玉一ケルガ、果シテ八十餘年ヲスギテ金ノ賊ニヲカサレテシバラクモサヽヘス、錢唐ニ引退ケルヽ、是范文正公遠慮ノ至ト云ベシ、

マコトニ利口覆レ國ノコトワリ也、本朝ノ朝廷ハ往古ヨリ城レ郢ノカマヘナシ、武家ニ至テ平相國末ソノ沙汰ニ不レ及、故壽永ノ亂ニ平氏居ヲ守ルコトヲ不レ得シテ西海ニ漂泊ス、是貞能ガ所ニ悲歎一也、鎌倉ノ柳營ハ直ニ以ニ鎌倉一爲レ城トイヘドモ、度々回祿ニヲカサレ、又騷動ヤムコトナク、高時滅亡ニ望デ居ヲ守ルコトヲ不レ得、東勝寺ニヲイテ自害ス、是安藤ガ所ニ悲歎一也、京家柳營亦不レ及レ城、故ニ度々ノ兵亂ニ居ヲ失ヲ洛中ノ騷劇不レ斜、ツイニ三好ガ惡逆又室町ノ亭不ニ堅固一ノユヘト可レ言、平信長卿又惟任ガ難アリ、コレニ由テ豐臣家先聚洛ノ壁壘ヲカマヘテ後伏見難波ノ城ヲ營築アリ、コレヨリ以後公方家皆城郭ノカマヘ不ニ怠玉一、マコトニ文武內外ノ守護甚重ノ至ト可レ謂、武田信玄長尾謙信、各城ヲマフケズ、是其武威盛ニシテ戰國イマダ城ヲイトナムノ暇アラズ、子息景勝勝賴ニ及デ城ヲカマヘテ彌衰滅スルコトハ罪城ニアラズ、武威衰レバ也、若甲州ニ城アランニハ、勝賴居ヲ失テ田野ノ自害ナルベカラザル也、サレバ宋范仲淹上言ニ、天有ニ九閣一、帝居ニ九重一、是以王公法レ天設レ險、以安ニ萬國一也、臣請陛下倚ニ東京一高レ城深レ池、軍

民百萬足三以爲ニ九重之備一、乘輿不レ出則聖人坐、鎭ニ四海一而無ニ煩動之勞一、鑾輿或出則大臣守ニ九重一而無ニ回顧之憂一矣云々、左傳晉巫臣至レ莒、與ニ莒子一立ニ池上一曰、城已惡、莒子曰、辟陋在レ夷其孰以我爲レ虞、對曰、夫狡焉（狡猾之人）思下啓ニ封疆一以利中社稷上者、何國蔑有、唯然、故多ニ大國一矣、（井呑之國）唯或思或縱也、（有ニ思而止者一又有ニ縱レ欲者一）勇夫重レ閉況國乎、後楚人圍レ莒、莒城亦惡潰、君子曰、恃レ陋而不レ備、罪之大者也、備ニ豫不虞一、善之大者也、莒恃ニ其陋一而不レ修ニ城郭一、浹辰十二日之間而楚克ニ其三都一、無レ備也、夫詩云、雖レ有ニ絲麻一、無レ棄ニ菅蒯一、雖レ有ニ姫姜一、無レ棄ニ蕉萃一、凡百君子、莫レ不レ代レ遺、言備之不レ可ニ以已一也、（逸詩姫姜大國之女蕉萃陋賤之人也）又成周ニ城ヲ取立テ計ニ丈數一コトアリ、各歷代因循ノ制ナレバ、唯一方ニ泥デ其說ヲ不レ可レ爲也、學者先人ノ言語ニ堅クナヅム處アルガユヘニ、今古ノ例ヲモ不レ考、專意見ニマカスルヲ以テ更ニ時宜ニ不レ通コトノミ多シ、以前ニ云ヘルゴトク本朝ハ中古ヨリ武ヲ先シテ天下靜謐シ來レルガユヘニ、ソノ國郡ヲヱラマンニモ用レ武ノ地ヲ事トシ、柳營ヲマフケンニモ用レ武ノ備ヲ事トスベシ、異朝モ漢以來ハ皆武ヲ先トシテ天下ヲ治平セルガ故

ニ、萬ノ禮式多ハ漢ヲ以テ準據トイタセルト舊紀ニ出タリ、唯詳ニ格致イタサバ其ワカチシルベキ也、

○問云、本朝水土ニ因テ四邊ノタカメヲナシ、國ヲ守リ玉フ制イカン、

答云、本朝國土ノ制舊紀ヲ考フルニ、往古 神武帝神代ノアトヲツガセ玉フテ、日向國宮崎ノ宮ニ都アリ、マシテハ未ダ天下ノ封域モサダカナラザリシニ、既ニ東征アツテ中州ヲ平ゲ、都ヲ大和國橿原ノ宮ニ定メ玉フヨリ、コノカタ本朝ノ都鄙ヤ、定テケリ、本朝ハ往昔ヨリ大八洲ノ號アリトイヘドモ、未レ詳ニ諸道ヲワカタズ、第十代崇神帝ノ時四道ニワカツテケリ、第十三代成務帝初テ國ノ境ヲワケ、國造ヲ置玉フテ諸道ヲ分ツコレヨリ、以後代々損益アツテ今六十餘州タリトイヘドモ、諸道ハ七道(東海道十五ヶ國、東山道八ヶ國、北陸道七ヶ國、山陰道八ヶ國、山陽道八ヶ國、南海道六ヶ國、西海道十一ヶ國、)幾內五ヶ國ヲ合テ八洲タリ、コレ水土ヲ考驛路山川海野ヲハカツテ所レ致制也、然レバ古ハ王城ニ京式ヲ置テ王畿京中ヲ司、西國ニ太宰府ヲ置、コレ乃聖武帝天平十五年ニ鎭西府ヲオカレ、石川朝臣加美ヲ以テ將軍トナシ、大伴百世ヲ爲ニ副將軍ト玉フ也、太宰府タル人、必筑前ヲ領シテ西海道ヲ司リ、異國ノ襲來ヲ戒守ソノ任甚重シ、以テ太宰ノ帥ハ親王コレニ任ジ玉フ、是封ニ建親戚ヲシテ蕃ニ屏王室ノ心ナルベシ、又奥州ニ鎭守府ヲ立テ邊要ヲカタメシム、代々將軍ト稱スルハコノ鎭守府ノ將軍ノコト也、建武三年ニ別勅アツテ加ニ大字ヲ大中納言ニ位三位ニ至テ任レ之大將軍ト號ス、是又東夷ノ守リニシテ邊要ノ中陸奥ヲ以テ第一トセラル、故ニ昔ハ此國ニ五千ノ兵ヲオカレテ、國司ト將軍ト相並デ文武ノ職ヲ守ル、中古以來國司乃將軍ヲ兼タリ、又陸奥出羽ニ按察使ヲ置レ、秋田ニ城介ヲ任ジテ東方ノ守リタラシム、カクテモ未ダ東夷ノヲソレ多キヲ以テ、東海道ニ上總常陸、東山道ニ上野、此三ヶ國ハ太守ヲ置テ親王コレヲ兼玉フ、コヽニヲイテ天下ノ邊要蕃屏相並デ王城ヲ守護シ三關(伊勢鈴鹿・美濃不破・越前愛發ナリ)ニ鼓吹ヲ設テ兵士ヲソナヘ、國司每年孟冬ニ軍器ヲシラベ兵ヲ閱シ、諸國參勤ノ期ヲ定メ交代ヲ正シフス、是乃水土ニ襲テ所レ建ノ法也、源賴朝卿天下ノ權ヲ執玉フ、後ハ公家ノ政令不レ行、既ニ柳營ヲ鎌倉ニマフケ、先勝長壽院ヲ立、鶴岡ノ八幡宮ヲ小林ノ郷ニウツシ、宗廟ヲ立是ヲ崇、建久二年ニ天下ノ奉行ヲ定メラル、乃京都

ノ守護職ヲバ左兵衛督能保ニ命ジテ六波羅ヲ司、天野遠景ヲ鎭西ニ奉行タラシメ、葛西清重ヲ奥州ノ奉行トシ玉フ、カクテ三代將軍ノ後、元仁元年ニ時盛時房子時氏泰時子上洛シテ六波羅ノ南北ニ居テ、京都ノ成敗ヲ司トイヘドモ、西海ノ儀不審トテ、永仁元年三月北條兼時時頼孫鎭西ニ下テ筑前ニ居テ九州ヲ奉行シ、又長門ニ一人ノ奉行ヲ置ル、是中國ノ守護ノタメナリ、是ヲ兩探題ト號シテ中國西國ヲ司ドル、而シテ建武ノ初公家一統シテ、鎌倉ニハ後醍醐帝第八宮ヲ探題トシテ置マイラセラレ、足利直義ヲ以テ執權トシ、奥州國司ハ北畠源大納言顯家也、顯家乃鎭守府ノ大將軍ト號、後醍醐帝時、親房爲奥州按察使、同院重祚時、顯家爲國司、西國ハ少貳・大伴・菊地・嶋津アッテ未探題ノ沙汰ニ不及、カクテ建武三年源尊氏卿天下ヲ一統シ玉フテ群臣ヲアツメ、鎌倉京兩所ノ間柳營ヲ定メラルベキ水土ヲ撰フベキ旨アリケレバ、京都可然ノ由評定一決シケルノ後、ツイニ柳營ヲ京都ニ定メ、ソノ十一月ニ式目ヲ定ラル、而シテ子息義詮ヲ鎌倉ニヲキ玉ヒ、直冬ヲ西國ノ探題タラシメ、舍弟直義ニ政務ヲ司ドラシメ、高家ヲ以テ執事トス、其後義詮上洛アッテ直義ニ代テ政ヲキ、

玉フ時、基氏關東ノ管領トシテ上杉ヲ執事トシ、畠山國清法名道誓ヲ以テ傅タラシム、延文元年八月ニ斯波直持奥州ノ管領タリ、弟ノ兼頼出羽ノ國司トシテ最上山形ノ城ニ居ス、是乃古ノ鎭守府城介ニナゾラヘリ、ココニ觀應元年直冬亂ヲ起、太宰少貳ガ聟ニナリテ西國中國ヲ蠶食シケレバ、探題トシテ一色直氏弟範光ヲサシ下サル、延文四年ニ兩探題菊地ガタメニ追出サル、故ニ細川繁氏九州ノ探題ヲ蒙テ下向シ道ニテ死、康安ニ京都ノ執事斯波道朝ガ子氏經、探題ヲ承テ西國ニ下、菊池ト大ニ戰テ高崎城ニ楯籠、カクテ關西ハ未ニ靜謐、菊池將軍宮懷良親王ヲ仰テ筑紫ノ主トナシ奉ル、義滿ノ時應安五年ニ今川了俊九州ニ探題タリトイヘドモ、菊池未ダ威ヲフルフ、同七年ニ將軍家御動座西國アッテ菊池モ降參シ、九州退治アッテ靜謐ス、凡ソ關東ハ悉ク鎌倉ノ命ニシタガヒ、關西ハコトゴトク京家ノ下知ニシタガフ、奥州出羽ニ奉行ヲ置、鎭西ニ探題ヲ下シ、周防山口ニ大内家アッテ既ニ執事ノ職ヲカヌ、是京家一代ノ制法其水土ニヨリ古例ニ從フ所也、平信長卿未ダ四海靜謐ヲ得ズト云ドモ瀧川一益ヲ以テ關東ノ管領トシ、柴田勝家ヲ以

テ北陸道ヲ司ドラシメ、四國ヲ信孝ニ與テ、信雄ニ伊世ヲ與ヘ、中國ヲ羽柴ニ與ヘ、西國ヲ惟任ニ與テ、畿内ノ守護ヲナサシメントス、豐臣卿天下一統ノ後、城ヲ京・伏見・難波ニカマヘ玉ヒ、關東ノ管領ヲ大權現ニマカセ奉ラレ、奧州ニ蒲生氏鄕ヲ置テ古ノ鎭府ニ比シ、關西ニハ清正行長ヲ置、筑前守隆景ニ金吾秀秋ヲ以テ養子タラシメテ太宰ノ府ニ準ジ、大江輝元字喜多秀家ヲ藝備ニ居セシメ、前田利家ヲ北國ニヲラシム、コヽニ於テ天下ニ五老ヲ定ム、大權現・加賀大納言利家・備前中納言秀家・會津中納言景勝（蒲生氏鄕死去ノ後ヨリ景勝居ニ會津ニ）安藝中納言輝元也、此五老ヲ天下ニ配テ四海ヲ維持シ玉フユヘン也、シカレバ古今水土ヲ考ヘテ國家ノ蕃屛維持ヲナス事可レ併ニ見之一也、本朝ノ土地東西ニ長クシテ南北ハ短シ、昔坂上田村丸東夷ヲ征伐ノタメ、奧州ニ下向シテ奧州信夫郡ヲ日本ノ中央タラント云テ、石ニシルシヌ、コヽヲ坪ノ石フミト云ヘリ、然レバ土地ノ行程ヲ以テセバ關東ヲ以テ中國ト云ベケレドモ、水土ノ體人物ノ品、五畿内ニシカザレバ、コレ王城ノ邦畿タルコト疑ナシ、シカレドモ東ニ蝦夷相ツヾイテ度々中國ノナヤミヲナスヲ以テ奧州ヲ邊要ノ第一トス、鎭西ハ朝鮮大唐ニトナリニテ、古ヨリ隣交ノ使節往來シ、又蒙古ノ襲來モアリ、異國ノ商船相ツドフテ交易ヲ利スルニ足ルナレバ、東西ヲ以テ本朝ノ邊要トシ、屯戍ノ守ヲカタクシ、蕃屛ノマフケヲ嚴センコトハ古今ノ道法也、サレバ西海道ハ對馬ヲ以テ邊要トシ、筑前肥前ヲ以テ異國往來ノ船ヲ征シ、豐前豐後ヲ以テ九州ノ惣括ヲカタメ、播州姫路ヲ以テ五畿ノ蕃屛トス、奧州ハ會津ヲ以テ蕃屛トシ、出羽ハ山形ヲ以テ鎭府トス、岩代白川ハ關東八州ノ内蕃ナリ、而シテ北國ハ佐渡越前南方ハ紀州ヲ外蕃トシテ、難波坂本ヲ内蕃トス、是近代水土ニヨルノ制、豐臣秀吉公以來天下ノ維持皆コレニヨラズト云コトナケレハ、五畿七道ヲ考ヘ當時ノ都鄙城池ヲハカツテ、而シテコレニ相應スルノ制ヲ立ルヲ水土ニ襲ト云ベキ也、

○問云、本朝ノ邊要必ズ東西ヲ以テスルハ何ゾヤ、

答云、本朝天下ノ形粧東西ヘ長クシテ南北ニ短シ、南ヲ前トシテ北ヲ後トス、五畿内ヲ上トシテ東西南北ヲ下トス、北ハ洋中ニシテ船ノ著所少シ、南ハ四國ヲウケ西海ノ嶋ヲイダイテ異賊ノ恐アラズ、故ニ東西

ニ邊要ヲ設ケテ要トス、古ハ佐渡多褹ヲ以テ邊要ノ中ニ入ルト云ドモ、今ハコレヲ要トスルニアラザルナリ、異朝ノ今ハ南北ヘ長ク東西ニチヾマレリト彼書ニ出タリ、是四方地ツヾキナルガユヘニ、或ハ時ニ取テ東西ツヾマリ、南北チヾマルコトナリト相ミヘタリ、サレバ漢ハ北ヲ邊要トシ、唐ハ西ヲ以テ邊要トス、其時ニトツテ邊要不レ同也、

○問云、諸侯ヲ立、國郡ヲワカツニ制アリヤ、

答云、諸侯ヲ四方ニ立テ國ヲ與ヘテ治ヲナサシメ、王城ヲ守護セシムルヲ封建ト云、是唐虞三代ノ制也、天下ニ諸侯ヲ不レ立シテ天下ヲ以テ郡縣トシ、所々ニソノ司ヲ立テ政ヲナシ、租税コトゞゝク上一人ニ收納アツテ功臣祿士ニ上ヨリ是ヲ玉フ、是ヲ郡縣ノ法ト云フ、秦始皇帝天下ヲ取テ李斯ノ諫ニヨツテ天下ヲ三十六郡ニ分、毎レ郡ニ守尉監ヲオカレテケルコレナリ、凡ソ封建郡縣トモニ其得失ナキニ非ズ、封建ハ末大ニナリテ亂必ズ出來ル事、周ノ末ノ戰國ノ如シ、郡縣ハ盜賊カクル、コトヤスクシテ守監尉コレヲ制スルコトヲ不レ得コト、秦ノ末ニ戍卒亂ヲナスガ如シ、故ニ古今其異儀多シ、サレバ始皇帝ノ時丞相王綰ハ封建ヲス、メ、廷尉李斯ハ郡縣ヲス、ム、ソレヨリ晉ノ陸士衡、魏ノ曹元首ハ封建ヲ是トシ、唐ノ李白樂柳宗元、宋ノ蘇子瞻ハ郡縣ヲ是トス、サレバ三代之制ヲ漢ニハ用、秦ノ制ヲ魏晉ニハ用、コレニ由テ唐ノ大宗群臣ヲアツメテ議セラルトイヘドモ不二一決一ケリ、後儒各封建ヲ以テ利トス、ソノユヘハ封建ハ天下ヲ天下ノ天下トス、故天下利二其利一、郡縣ハ天下ヲ以テ一人ノ利トス、君子ノ所レ致ニ非ト也、是先儒ノ通論也、竊案ニ天下ノ形勢ヲ考ヘテ、或封建シテ諸侯公族ヲ立テ蕃屏トシ、或ハ其國其所ニ郡縣ノ制ヲ建テ、守尉監ヲ以テ國ヲ治メ租税ヲ入ル、是其國郡ノ水土形勢ヲ詳ニシテ其宜ニ從フ、是ヲマコトノ國制ト云ベシ、專封建郡縣シテ一方ニイタス時ハ、必ズ其失ナクンバアラザル也、本朝ノ制ヲ尋ルニ後白河院迄ハ皆郡縣ノ法ヲ行ハル、故ニ天下ニ諸侯ナク、國司トイヘルハ皆任限四年ニ究テ必ズ改補セシメ、租税ヲ上封シテ天子ニヲサメ玉フ、三公九卿ノ封戸職田年給ト云モワヅカノ事ニシテソノ俸不レ豐ナリ、後白河院源頼朝卿ヲ六十六箇國ノ地頭職ニ補セラレテヨリ、封建ノ法初メテ行ル、故ニ國司ヲヤメテ守護ト號シ、

郡縣ヲ賜テ地頭ト號シ、守護地頭直ニ其所ノ租税ヲ收納ス、シカレドモ未公家ノ國司職モヤマザルガユヘニ、國郡庄園コト〴〵ク國司・領家・守護・地頭兩所ヘ租税ヲ收ム、コノユヘニ守護地頭ノ得分不レ全ヲ以テ、未ダ天下郡縣ノ法タリ、唯鎌倉殿天下ノ惣追捕使トシテ六十六箇國ノ守護地頭ヲ得玉フ計ナリ、サレバ其幕下和田・畠山・秩父等トイヘドモ其得分少シ、唯北條時政七箇國ノ管領ヲ得テ守護職ヲホシイマヽニシ、得分天下ニ並ナキヲ以テ、ツイニ柳營ヲ進退シ威勢ヲ一人ニ歸ス、其後建武ニ源尊氏卿天下ヲ一統ノ時、同四年細川和氏天下ノ租税ノ事ヲ司テ、初メテ公家ノ國司領家ノ得分ヲ、サヘテ、國司領家ハ其名ノミアリ、コレヨリ封建ヲ行テ諸國ニ大名ヲ立テ、各二箇國三箇國ヲ領ス、此後天下姓ヲ代テ代々ノ公方皆因準シテ封建ノ法行ル、唯大權現御治世ノ後封建郡縣トモニコレヲ行ヒ玉フテ、諸國ニ封建アレバ又郡縣ノ治アルガユヘニ、互ニ相維持シテ政道一ニ化シ風俗不レ異、誠ニ聖神ノ知慮凡慮ノ及ブベカラザル處也、愚案ズルニ封建郡縣ノ兩事先儒皆以ニ公私一コレヲ論ズ、是未レ盡ニ其實一事也、凡人ヲヱランデ其賢德

才能萬民ノ司サナラン者ヲ得ルコトハ尤難レ得コト也、シカルニ天下ノ私スベカラズト云テ、下德無才ノ輩ヲ六國ノ主トサダメンコトハ、ソノ國ノ人民ヲクルシマシメ、土地封域ヲ害スルニ非ズヤ、是錦ヲ以學ビガテラニ製ニコトナラズ、甚先賢ノ戒ムル言ニシテ、夫子賊ニ夫人之子一トノ玉フユヘン也、シカレバ下レ論ニ其人一シテ、專封建ヲ聖人ノ心也大公也トイハンハ甚アヤマレリ、古ノ聖王封ニ建親戚一シテ天下ノ蕃屏トシテ大臣ヲ封侯セシムル事ハ、世ニ賢德ノ人多シテ國ヲ治メ民ヲ懷ニ利多ヲ以テ天下ノ大ナルヲ上一人トシテ、支配セシメンコト尤大ナル憂アレバ、乃親戚重臣ノ其賢德ナルヲ封建シテ、分憂ノ職タラシム、シカレドモ國ノ制城ノ制皆其ノリヲ定メテ、後世不德ノ封君ツグニ至テ國家ノ害ナカラン謀ヲノコシ玉ヘリ、末世ニ及ンデ君々タラザルガユヘニ臣モ亦臣タラズ、如何ゾ天下ノ國郡ヲコト〴〵ク封建シテ、ソノ失政ナキガゴトキ賢知ノ人ヲ可レ得ヤ、シカレバ郡縣ノ制ヲ以テ國司職ヲサダメ、四分ノ人ヲ宜テ互ニ是非ヲ正シ、任限ヲ定メテコレヲ交代セシメ、任滿テ後其可否ヲ改メ、其政道ヲ詳ニイタシテ賞罰ヲ明ニ

致サバ、天下ノ政務コト〴〵ク上一人ノ心ヨリ出、風俗敎化ト、ナフコトヤスカルベシ、是郡縣ノ制後世ノ美談トシ衰世ノ規模タルベキユヘン也、始皇ノ時李斯ガ論ズル處治亂ヲ以テ要トス、コレニ由テ後儒皆郡縣ノ制ハ伯者ノサタナリトイヘリ、李斯只一端ヲ云、始皇又亂ヲ厭フ、故ニ封建郡縣皆治亂ノ説ニヲチ入ルコト甚アヤマリ也、サレバ秦以前ハ時宜封建ヲ以テスベシ、秦以後ハ時宜郡縣ヲ行バ天下ノ政道ミダルベカラザル也、又治亂ヲ以テ云バ、封建ノ天下ハ亂遂ニ治マルベカラズ、郡縣ノ天下ハ亂ヲコルトモ治ルニヤスカルベシ、其故ハ封建ノトキハヲコル處ノ亂大敵ニシテ一時ニ治ルベカラズ、郡縣ノトキハヲコル處ノ兵皆盜賊一揆ノ沙汰ニシテ、一國ノ蜂起アルベカラズ、是亂ヲ制スルコト亦易シ、サレバ本朝ノ公家一統皆郡縣ヲ事トシテ天下ニ大亂ヲコラズ、鎌倉家亦コレニ因テ郡縣ヲ用テ天下久シク鬪亂ナシ、京家ニ封建ヲ用テ後天下ノ亂ヤムコトナクシテ、遂ニ國々ノ諸侯各一家ノ思ヲナシ、近國ヲ蠶食シテケレバ、大永天文ノ間ニ至テハアタカモ戰國ノ七雄ニコトナラズ、コレ山名ガ一族十一箇國ヲ領シテ明德ノ亂ヲナシ、赤松ガ一族中國ヲ領シテ嘉吉ノ亂ヲナシ、細川山名應仁ノ亂ヲナス事、併封建ノ失ニヨルコト也今ニ及デハ、其人ヲ選デ封建ヲ制シ、ソノ人ニヨッテ郡縣ヲ用イ玉フガユヘニ、天下ニ盜賊ヲコルトイヘドモ、其所ニ封侯ノ大名アッテコレヲ制スルニ便リアリ、諸侯不義アランニハ隣ニ郡縣ノ地アッテコレヲ正ス、相互ニ維持スルコト、全ク封建郡縣兼備テ、其人ニ因テ行ル、ユヘン也、私曰、封建ハ守護地頭職ヲ賜ルコレ也、郡縣ハ代官ヲ立テ收納アル是也、今也陪臣之祿、皆在二郡縣一、主人悉以二代官一納二其租稅一、群臣以二廩給一分二與其祿一是也、

○問云、人君ノ行何ヲ以テ稅トスルヤ、

答云、人君ノ道古來典謨ニノスル處、幷舊紀ニ先賢是ヲ詳ニスレバ、今是ヲイハンモ甚贅言剩語ノソシリアルベシ、シカレドモ愚ヲ以テ是ヲ案ズルニ、聖賢ノ言ハ易簡ニシテ後人コレニ通ジガタシ、先儒ノ説ハ汎乎トシテ如二不レ繫船一、故ニコレヲ會得スルコト又不レ約、愚案ニ人君ノ行甚多トイヘドモ、其先ンズル處ハ必身ヲ明正スルニ不レ過也、凡爲二天下ノ主一者天也、繼レ天者君也ト穀梁傳ニ出タリ、又天子者與二天地一參ト禮記ニコレヲ出セリ、コヽヲ以テ考ニ天地ソノ德正シテ其行無レ息、故ニ萬物自順正ナリ、シカラ

バ人君亦心身ヲ先トシテ心ヲ明ニシ、身ヲツトメバ天下國家自治平不レ可レ疑也、サレバ明レ心ト云ハ我知ヲキワメテ能物ニ通ズルノ義也、勤レ身ト云ハ行テヤマズ不レ怠ノ儀也、古來賢君ヲバ明君ト稱シ、愚主ヲバ暗君ト號ス、コノ明暗ハ心ノ明暗也、心ハ知ヲ以テ用トス、知暗ケレバ心暗シ、知明ナレバ心明也、心暗トキハ是非善惡ヲワカタザル故ニ、不レ入所ニ勞シテ無レ功、可レ勤コトヲ不レ勤、此ユヘニ皆相違テ用捨不レ得レ處也、心明トキハ萬物無レ不レ通、故ニ大唐貞觀ノ初、魏徵先明君暗君ノ説ヲ詳ニ奏スルユヘン也、心ヲ明スルニ有レ道、人ノ心必智識ナクンバアラズ、コレヲ思慮ト名付、此思慮ヲ俗ニ思案分別ト號ス、サレバ小事タリト云ドモ思慮ナクコレヲ致スベカラズ、先我心ニコレヲ思慮シテ如レ此ナシテ是カ非カト考フル、是心ノ明ナルベキ基也、如レ此思慮スト云ドモ、我心ノ思慮ノマヽニ致スヲ心ヲ師トスト號シテ、往古ノ聖神甚コレヲ戒シメ玉フ、本朝ノ雄略帝ヲ天皇以レ心爲レ師、誤殺レ人衆ト日本紀ニシルセルハコノコト也、サレバ思慮ノ趣ヲ其道ニ才德アラン輩ヲ召シテ、其可否ヲ前方ニタヾシ、或ハ後ニ評議セシメ玉フテ、其可ナラン方ヲ執行シ後ノ戒トナシ玉フ、コレヲ學問ト云也、タトヘバ古ノ聖賢ノ書ヲ學ビタマフテ、是ハマサシク古來ヨリノ格言善行ナリトキコヘンコトヲモ、先心ニ思慮アツテソノ人ニヨク正シ玉ワザレバ明ニナリガタシ、夫子曰、敏二於事一而愼二於言一、就二有道一而正レ焉可レ謂レ好レ學也已トハコノ心ナルベシ、其思慮ヲ尋玉ハンコトソノ人ヲ不レ得バ却テ不レ明、タトヘバ鷹ノ事ヲ尋ルニハ鷹ノ事ニ鍛錬ノ人ヲ求メテコレヲ尋ザレバ其道不レ詳、骨法物ノイ、サモアリヌベキ人體ナリト云ドモ、有道ニアラザルトキハソノ思慮タヅネ玉フテ益ナシ、有道ノ人ト云バ、才ノ入ルコトハ才ニ長ゼル者、行ノ入ルコトハ行ヲツトメタル者ヲ云ベシ、此輩ニ詳問玉フテ、又自ノ思慮ニ引アハセ其是否ヲ考ヘ、コレヲ人ニ施シ行テ、其シルシイカヾナラント詳ニハカリ玉ヘバ、無レ程諸事ノ道筋明ニナリヌベシ、人ノ申處ノ思慮自ノ思慮ノ是非ハイカヾサダメントナラバ、公私ノ二ツタルベシ、公ト云ハ天下國家人民ノタメ後世ノ道トナリナンコトヲ云、私ト云ハ唯我身ノタメ計ニシテ、ソノ及ブ處セバク時ニ取テ一度ノハカリゴトニ

シテ、長久ナルマジキコトハ皆私ト云ベシ、段々子細アリト云ドモ、先此一通ヲ以テ心ノ明ニナルベキ道トシテ、コレヨリ類ヲ推ワカチヲノベテ可レ考也、次ニ身ノ勤ノコト、夙起夜寢、終日衣冠裳束シテ、ヒザヲクミ足ヲ屈メテ身ノ行儀宜シキハ、是大人ノ必トスルツトメニ非ズ、又弓馬ヲコト、シテ劍戟ヲツカイ、歌舞・音曲・能書・能畫・諸藝・多能ノコトハ匹夫ノ用ニシテ人君ノツトメニ非ズ、孟子ニ有二大人之事一有二小人之事一トハコノ心ナルベシ、又言ヲ信ニシ行ヲ實ニシテ必トシテ固ク守、是硜々乎トシテ大人ノ不レ爲所ナリ、サレバ君タルノ勤メアリ、臣ハ臣タルノ勤メアリ、コレヲ君々タリ臣々タリトハ云ヘル也、イカナルヲカ人君ノ勤レ身ト云バ、内七情ノ欲ニ因テ其節ヲ過シテ、外事ヲソコナフアリ、外酒食貨財聲色ノ惑ニ因テ心身ツカラカシ心ヲクラマス、此二ツ皆外ソノ物ニ感ジテ此心ソノ節ヲ失コトヲ不レ知、故ニ專コレヲツトメテ其節ニ中ランコトヲ力行ス、七情キラフニアラズ、三物亦人情ノ常也、唯其節ニアタルコトヲ忘ル、ガユヘニコレニ迷動ス、サレバ一朝一夕ノ怒ヲ以テ災ヲ國家ニ及ボシ、一事一行ノ樂ニマカセテ身ヲ傷人ヲ苦シメン事ハ、甚是私ヲ以テ道ニ暗ト可レ言也、コ、ニ力ヲツクシテ能ツトムル時ハ、人君内物ニ不レ溺ノツトメアリト可レ云、而シテ内コノツトメアリト云トモ、外ニ八思八勤アリ、ソレトハ天下・國・郡・家・諸侯・群臣・民・身コレヲ八思ト云ベシ、先此八ヲツ子ニ思フテ八ノタメナラン事ヲツトメ行フベシ、八勤ト云ハ一ニ畏々トハ天地ヲオソレ、先祖ノ鬼神ヲオソル、事也、天地鬼神ヲオソレザレバ、只眼前ノ利潤ヲコト、シ、追レ遠慕レ古本レ本トスルコトアラザルガユヘニ、弱ヲシノギ小ヲクルシメ、遠ヲステ新ニ付、今ヲ今トシテ古ヲ古トセズ、臣ハ君ヲ弑シ子ハ父ヲナミシツベシ、古人事レ天畏レ天テ不レ虐二幼殘一ト云ヘリ、故ニ社稷宗廟ヲ立テ天子自コレヲ祭祀シテ、其道ヲツトムルコレ畏ル、ガユヘ也、二ニ尊レ尊トハ我尊ンデコレヲ敬ノコト也、コレ乃父母及太師也、父母ハ人君ノ本也、太師ハ人君學問ノ師也、是人中ノ必所レ尊ナリ、天子ニ上ナシト云ヘドモ、太上皇ヘ事ヘ奉リ玉ハン事ハ、聊ヲコタラセ玉フベキニ非ズ、況ヤ太師ノ職ハ一人ニ師範タレバ天子自コレヲ送迎シ、北面シテ道ヲウケ玉フ事、古來ノ例皆然

リ、人君此尊レタノ道アラザレバ本立コトナシ、三ニ敬レタトハ人君執シウヤマイ玉フベキモノアリ、是執政ノ大臣也、天下ノ大臣トシテ執政ノ臣ヲバコレヲ敬シテ天下ノ戒トシ、政事ヲツカサドラシメザレバ下其德ニ化セザル也、コレ乃有德ヲ擧テ道ヲ崇ブノ心也、四ニ禮レタトハ正レ禮ノ臣アリ、コレハ諸侯有功ノ大臣末タノ有司ニ至ルマデ、既ニ官ヲ任ジ職ヲアタヘ玉ハンヲバ、皆禮ヲ正シクシテ其分ヲ守ラシムベキ也、五ニ親レタトノ親族閨門ノ閤及外戚近臣ヲバ、親ミ睦テコレヲ疎ズベカラズ、タトヘ人君ト同志同意ノ處ウスクトモ、我ヲ不レ立シテ是ヲ親ムツマシク致スコト親レタノ道也、六ニ矜レタトハ群臣ノコト也、群臣ハアハレミヲ垂玉フテ、是ニ敎ヲ立法ヲツマビラカナラシメ、其言行ヲ不道ニヲチイレシメザル如クイタス、是矜ニ不能一ノ心ト云ベシ、七ニ愛レタトハ庶民ノ事也、萬民ハ天下ノ政ニシタガッテ安否ヲナス、シカレバ人君ノ政カラキトキハ民苦レ政、ユルヤカナレバ民安ンズ、民自耕シテ皆上ノ用タリ、工商自ツトメテ天下ヲ利ス、是親レ民ノ道ナレバ必ズコレヲ愛シテ民ノ父母タリト云ベシ、八ニ惠レタトハ老臣・病臣・舊臣・鰥・寡・孤・獨ノ類及民間ノ老疾ハ、コレヲメグミ不レ給バ仁政ニ非ズ、惠ト云ハ時ニフレテ其服ヲアタヘ食ヲ賜リ、其養ヲナサシメテ飢寒ニ不レ及シムル是ヲ惠ト云也、以上八ツノツトメヲツトムルコト、是八思ヲ以テ本トス也、八思八勤ヲコナハレテ外ノツトメト　ノフベシ、人君內外ノツトメヲ力行スルヲ身ノ勤トハ云也、必ズ朝夕ノ興寢身ノ進退作法ノ格ヲ守ルヲ勤ト云ベカラズ、昔魯昭公如レ晉、自二郊勞一（往有二郊勞一）至二于贈賄一（去有二贈賄一）無レ失レ禮、晉侯謂二女叔齊一曰、魯侯不二亦善一於禮一乎、對云、魯侯焉智レ禮、公曰、何爲自二郊勞一至二于贈賄一、禮無二違者一、何故不レ知、對曰、是儀也、不レ可レ謂レ禮、禮所下以守二其國一、行二其政令一、無占失二其民一者也、今政令在レ家、（在二大夫一）不レ能レ取也、云々、爲二國君一難將レ及レ身、不レ恤二其所一、禮之本末、將於レ此乎在、而屑々焉習レ儀以亟、言レ善二於禮一、不二亦遠一乎、君子謂叔侯於レ是乎知レ禮、然レバ國君ノツトムル所八思ヲ以テ八勤ヲナスニアリ、或ハ山水之游宴或ハ歌舞之嬉戲コレ等ノ有無ヲ以テ其ツトメトセン事ハ小節也、小人之事也、但シ時宜之風流ト云ドモ、不レ得二其時一非二其所一非二其人物一トキハスコシノ

事モ其道ヲ失ス、タトヘ禮ヲナシ敬ヲ行テ善ナリト云ドモ、不レ在二其人一バコレヲ非禮トス、故ニ八思ヲ以テ八勤ヲ行、コレ乃仁義ノ行ト云ベシ、コヽヲ以テ云バ思慮ハ知ニシテ身ノ勤ハ行也、シラザレバ勤メラレズ、ツトメザレバ知ノ致ニアラズ、知行並行レテ而後ニ可レ得二其實一也、次ニ人君ノ思勤自コレヲタヾシ玉フ事可レ難レ合ガユヘニ、有德ノ臣ニタヾサシメ、其過不及ヲ言上奏問シテ、其過チヲ補シムル職ヲ定ム、コレ仲山甫補レ之ノ心ナルベシ、古來諫議ノ官ヲ立テ言責ノ任アルハ皆人君ノアヤマリヲタヾスノ職也、コノ職アラザレバ人君日用當否非二分明一也、人誰無レ過、過而能改、善莫レ大レ焉、詩云、靡レ不レ有レ初、鮮二克有一レ終トハコノ心ヲイヘル也、仲虺之誥云、好レ問則裕、日用則小、又曰、能自得レ師者王、謂三人莫二己若一者亡ト、マコトニ古ノ聖賢ノ格言可二幷考一也、

○問云、人君身ノ勤アツテ而後ニ義イヅレヲカ先ニスルヤ、

答云、身ニコレヲツトムト云ドモ、コレヲ外ニ及ボサザレバ不レ正、外ニ及ボスコト先親レ々ヨリ始マレリ、親レ々ト云ハ、人君ノ宗室公族ヲ立テ、以テ國家ノ維持ヲナスコト也、人君其身天下ノ富ヲ受玉ヒ、天下ノ寶祚ニツナハリ玉フテ、御門葉只人ニテヲハシマサンコトハ本意ニ非ズ、且又親族ヲステ、他人ヲ封侯大祿ニイタサンコトモ順政ニアラズ、故ニ先親戚ヲ先ニシテ其政ヲオコナハル、但子孫及兄弟タリト云ドモ不德ニシテ民ヲ治ムルニ不レ及トキハ、唯財ヲ豐ニシテ封國ノ義ナキ、又古禮ナリ、サレバ周富辰ガ襄王ヲ諫シ言ニ云、臣聞レ之、太上以レ德撫レ民、其次ハ親レ々以相及也、昔周公弔二二叔之不一レ咸、故封二建親戚一以蕃二屛周一、召穆公思二周德之不一レ類、故糾二合宗族于成周一、而作レ詩曰、棠棣之華、鄂不二韡々一、凡今之人、莫レ如二兄弟一、其四章曰、兄弟鬩二于牆一、外禦二其侮一、如レ此則兄弟雖レ有二小忿一、不レ廢二懿親一、周之有二懿德一也、猶曰、莫レ如二兄弟一、故封二建之一、其懷二柔天下一也、猶懼レ有二外侮一扞二禦侮一者、莫レ如レ親レ々、故以レ親屛レ周、召穆公亦云フト、コレ皆親ヲ親スルノ道也、マコトニ宗室ヲ立テ國家守護セシメン事ハ、コレニマサレル國ノ城郭アルベカラズ、詩大邦維屛、大宗維翰、宗子維城ト云ヘリ、シカレドモ愛ニマカセ私ヲ用テ其法ヲ不レ詳トキハ、却テ親ヲ害ニヲトシイル、ニ成事ナ

リ、尤可レ愼、周公ノ聖知トイヘドモ、管蔡ガ亂ナキニ非也、武家ニハ親族ヲナヅケテ公達御一族家門ノ歷々ト號ス、乃春秋ノ公族ト云ヘルコレ也、次ニ外戚ノコト古來其權ヲ戒シム、內奏ノ秘計ヲマナバレ垂簾ノ政ニヨッテ、ツイニ天下姓ヲカヘントスルコト、漢ノ呂氏唐ノ武氏是也、況ヤ王莽ガ漢ヲ簒コト可レ監レ之也、本朝武家ニ至テ源頼朝卿、親族家門ヲ封建セズ、專外戚マカセ玉フテ、ワヅカ三代ニ源家斷絕シ、北條權ヲ執ニ至ル、其前鑒可二幷考一也、コレニ因テ京家ニ至テハ皆公家ヲ以テ外戚トシ玉フガユヘニ、外家ノ權遂ニ不レ盛也、

○問云、諸侯大臣ヲ立テ國ヲ封ジ玉フ制イカン、

答云、ソノ德民ヲオサムベク、其功世ニヲホフトキハ、異姓モ亦封侯アッテ大國ヲ玉フコト三代ノ例也、周公ハ至親ニシテ太公ハ異姓ナリ、イヅレモ封國周有二天下一、封國七十而同姓居二五十一焉トイヘリ、サレバ先王建二明德一、祚レ之以レ土、分レ之以レ民トアレバ、其德ニシタガッテ諸侯タラシメンコト勿論ナリ、詳ニ周禮ニ其制ヲ出ス、凡ソ封國ノ制異朝ノ例、諸侯ノ國千乘ヲ出ス、國ヲ以テノリトス、其方百里ヲ以テ制トス、坊記云、制レ國不レ過二千乘一、子產曰、天子之地一圻方千里列國一同方百里也自レ是以衰ト云タリ、又城レ々ノ制坊記ニ所レ出ハ都城不レ過二百雉一、又鄭祭仲云、都城過二百雉一國之害也、先王之制大都不レ過二參レ國之一一、中五之一、小九之一邑有二宗廟先君之主一曰二都城一、方丈曰レ堵、三堵曰レ雉、一雉之牆長三丈高一丈、侯伯之城方五里、徑三百雉、故其大都不レ得レ過二百雉一、コレソノ大槩ニシテ、周禮王制孟子等ノ書ニソノ異同アッテ不二一決一、必竟國ニ大中小アリ、諸侯ニ公・侯・伯・子・男ノ五等アルヲ以テ、其制一定セズトイヘドモ、詳ニ制ヲ立法ヲキワメテ後代ノ害ヲハカリ、非禮ヲ考フルニアリ、サレバ國家之立也、本大而末小、是以固、又曰、鄭京櫟實殺二曼伯一、宋蕭亳實殺二子游一、齊渠丘實殺二無知一、若由レ是觀レ之則害二於國一、末大必折、尾大不レ掉ト云ハ、皆ソノ終ヲ不レ考ノ失ヲ論ズル也、コノユヘニ大國ニハ三卿ヲオク、三人トモニ人君ヨリコレヲ命ゼラレテ、國君コレヲ私スルコトヲ不レ得、次國ハ三卿ノ內二卿天子ヨリ命ゼラル、小國ハ一卿ニシテ皆國君コレヲ命ズ、而シテ方伯ノ國ニハ三監ヲ立テソノ國君ノ政令ヲ監ス、是封君ノ太守國政ヲ私スルコトヲ不レ得ノ戒也、次ニ諸侯朝聘ノ禮每年聘使ヲ奉テ年々ノ政事ヲ奏シ、朝廷ノ

政ヲウケ、三年ニ諸侯自朝シテ禮ヲ行、六年ニ二タビ朝シテ各相會シ、國々ノ禮ヲタヾシ、十二年目ニハ必諸侯ヲアツメテ盟ヲナシ、天下ノ風俗ヲ正シ玉フ、コレ先王ノ定制也、是晋叔向所ㇾ言、出二左傳廿三一、王制云、比年一小聘、三年一大聘、五年一朝二天子一、五年一巡守、與二周禮一不ㇾ同、如ㇾ此ソノツリアイヲ考、其風俗ヲ正トイヘドモ、後ニハ大ハ小ヲシノギ、強ハ弱ヲセバメテ國ヲヒラキ土ヲ廣メ、ツイニ戰奪ノ義ヲコレリ、尤可ㇾ愼也、次ニ諸侯大勳功アリト云ドモ、ソノ賞禮ヲコユルコトヲ戒シム、周公周ニ大勳功アルヲ以テ、魯ニ天子ノ禮樂ヲユルシ玉フコトアリ、定メテ周公ノ時ハソノ制法文明ナルベキヲ、後ニ至テ季氏八佾ヲ庭ニマワシメシガ如クナルコト世以テ多シ、シカレバ周魯至親ノ國、周公大聖人ノ後トイヘドモ不ㇾ克ㇾ終コトアリ、況ヤソノ下ハ可二戒守一コト也、次ニ同姓ノ諸侯異姓ノ諸侯、尊卑ノコト外事ニハ異姓ヲ以テ先トシ、內事ニハ同姓ヲ以テ先トス、是其大法也、シカレドモ國家ノ大事ハ會盟ヨリ大ナルハアラズシテ、會盟ニ必以二同姓一爲ㇾ先、同姓ノ諸侯ハ文武ノ德功アル家ヲ以テ先トス、故ニ周之宗盟ハ異姓ヲ爲ㇾ後ト云ハ、魯ノ羽夫ガ言也、非二徇ㇾ年徇一ㇾ德也ト云ハ衞ノ子魚ガ言也、本朝ノ古、景行帝王子七十人ヲ國郡ニ封ジ玉フコト舊紀ニミヘタリ、ソノ後王代專郡縣ヲ用、唯親王家ト號スルハ位階ノ高マデニシテ封建ニ不ㇾ及、多ハ門跡ト號シテ浮屠ノ寺院ヲ領セラル、而シテソノ位親王ノ宣下アルトキハ、必ズ在二大臣之上一而其禮ハ等同也、一世二世トイヘドモ未ㇾ給ㇾ姓トキハ、人臣ノ列ニコトナラズシテ、守二其位一テ著座、コレ先例也、武家ニ至テハ猶同姓ヲ重ジテ、異姓ノ上ニツカシムルコト尤古例也、

○問云、諸侯各人質ヲ奉リ誓盟ヲナスコトハ、古ニ非トイヘリ、然リヤ、

答云、質ト云ハ古來人臣我志ヲアラハスマコトノシルシヲ君ヘ奉ル、コレヲ質ト云也、贄摯字相通、摯者致也、所三以致二其志一也トハコノ心也、サレバ天子ハ天ヲ祭ニ鬯ヲ以テ摯トシ、諸侯ハ天子ニマミユルニ玉ヲ以テ摯トス、卿ハ羔ヲ用、大夫ハ鴈ヲ用、士ハ雉ヲ用、臣必見二于君一執ㇾ摯音至コト古ノ禮ニシテ、儀禮ノ臣禮、士相見禮及白虎通ニ出タリ、孟子ニモ出ㇾ疆必載ㇾ質、庶人不三傳ㇾ贄爲二臣ト出、舜典ニ五玉三帛二生一死贄トシルセルハコノコト也、シカレバ、臣ト

シテ君ニツカヘ奉ルニ致二其志一ガタメニ、各ソノ志所ヲ信物ニアラワシテ禮ヲトグル是贄ニシテ、既ニ其身ヲ君ニマカセ仕ヘ奉ル、コレ又我身ヲ以テ贄トスル也、コレヲ委レ身ト云ヘリ、若我國ニカヘリ事ニノゾムトキハ、乃我子弟ヲ以テ我身ノ代トシテ其實ヲ示ス、コレ後世ニ及デ人質ト云、人ヲ以テ質トシテ我實ノ志ヲアラワス也、春秋戰國ニ及デ天下大亂テ古ノ禮ヲアツク結ブトイヘドモ、必變ジテタノムニ不レ足ヲ以テ、國々皆子弟ヲ以テ質トス、左傳ニ周鄭交質トアルハ周ノ王子來テ鄭ニ質トナリ、鄭ノ公子行テ周ノ質タルコト也、又萱狐突曰、策レ名委レ質貳乃辟レ世トモ出タリ、コヽヲ以テ案ズルニ諸侯ノ國ニ三卿ヲ立テ政ヲ監セシメ、方伯ニ三監ヲ置テ守ヲカタクシ、親戚ヲ蕃屏シテ王室ヲカタムトイヘドモ、諸侯猶志ヲアラワシ、其子弟ヲ以テ王室ニツカエシメ、我身自王城ニ居ルコト不レ能トモ、其實ヲアラワス道トス、三代以來ノ通法就レ中戰國ニ及ンデハ、此禮ナクンバアルベカラズ、是ヲ以テ諸侯ノ心ヲフセグト云ヘドモ、猶質ヲ棄テ亂ヲナス輩世々ニ多シ、坊記云、制レ國不レ過二千乘一、都城不レ過二百雉一、家富不レ過二百乘一、以レ此坊レ民、諸侯猶有二畔者一ト云ヘリ、若道ヲ以テ下ヲ、サメズシテ專人質ヲ事トシ、誓盟ヲ事トセンニヲイテハ、甚人君ノ道ニアラズ、故君子曰、信不レ由レ中質無レ益也、明恕而行、要レ之以レ禮、雖レ無レ有レ質、唯能間レ之ト云ヘリ、古ノ明王ノ政事皆内外體用ヲカヌ、明恕ハ内文德ヲ修也、要レ之以レ禮ハ外君臣上下ノ分ヲ正シクスル也、德明禮行レバマコトニ子弟ヲ以テ質トスルニ不レ可レ及ニ似タリトイヘドモ、是乃禮ノ大義ニシテ人臣信ヲアラワスノ第一ナレバ、身ヲ委ルノ代ニ子弟ヲ以テスルコト也、堯舜ヲコヽロムルニ九男二女ヲ以テス、コレ堯ノ二心ナキ所ヲ舜ニアラワシ玉フノ道ナラズヤ、堯典云、觀二厥刑于二女一トハコノコト也、コトサラ秦ヨリ已後ノ天下皆貴二此質一コト舊紀ニ明也、本朝ノ古天孫天降玉フトキ大物主神、其子事代主神ヲ出シマイラセテケルヨリコノカタ、朝廷ノ大臣子弟ヲ以テ委レ質、コトニ三韓征伐アリテケレバ、三韓王子ヲ以テ質トスルコト舊紀ニ顯然タリ、武家ニ及ンデ義仲ソノ子ヲ鎌倉ニ質タラシムルヨリ以降、連綿シテ此事タヘズ、是屬國附庸ノ輩、其信ヲアラワス

ノ實ナリ、豈コレヲエルカセニセンヤ、次ニ誓盟之事聖代ヨリスデニソノサタアリ、物ノ約束ヲ定メ疑ヲ決スルコト誓約ニアラザレバ不レ立、舜五載一巡守、群后四朝、敷奏以言ト、舜典ニ出タルハ乃天下ノ諸侯相アツマリテ其政令法則ヲ約シ、俗ヲ一ニスルノ言也、況ヤ甘誓・湯誓・泰誓・牧誓ノ書、夏・殷・周ノ誓也、周禮ニ司盟職ヲ立、掌ニ盟載之法一ト出、曲禮ニ約レ信曰レ誓、涖レ牲曰レ盟、皆三代ノ制也、愚者ハコレヲ不レ知シテ聖人ニハ誓盟ノコトアラズト思ヘリ、我身聖德アリト云ドモ人々コレニ化スベカラズ、唐虞三代イヅレノ世ニモ、人君ノ命ヲソムク無道ノ輩アラズト云コトナシ、シカレバコレガタメニ其誓盟ヲマフケテ、禮ヲ立テ人ノ無道ヲフセギ、未然ヲ正スコト聖人ノ政也、昔晉人以尋ニ馬陵之盟一、季文子謂ニ范文子一曰、德則不レ競、尋レ盟何爲、范文子曰、勤以撫レ之、寬以待レ之、堅疆以御レ之、明神以要レ之、柔レ服伐レ貳、德之次也、又子貢曰、盟所ニ以周一レ信也、故心以制レ之、玉帛以奉レ之、言以結レ之、明神以要レ之ト云ヘリ、大聖夫子モ天厭レ之ノ言アリ、況ヤ晏子向ニ子家一テ盟ヲコイ、子產叔向皆盟ヲ以テ信ヲ立シコト、春秋ニ出ル處也、禮記ニ魯人周豐ガ言ヲノセテ云、殷人作レ誓而民始畔、周人作レ會而民始疑、周豐ガ云處ハ、老莊ノ說ニシテ聖人ノ敎ニ非ズ、但シバ〱盟テ道ヲコト、セズ、禮ヲ必ト不レ致ハ神ヲケガスノイ、ナリ、詩云、君子屢盟、亂是以長トナリ、サレバ春秋ノ末年々月々ニ盟誓多シテ、其言煩ク約多ヲ以テ、諸侯口ノ血カワカザルニ盟ヲソムク輩多シ、コレ盟ノアヤマリニアラズ盟ノ禮不レ正ガユヘ也、コトサラ彼ガ請引イタサザルコトヲシイテ、コレヲ誓ヲ要盟ト云、乞索壓狀ト云コレ也、サレバ要盟無レ質神弗レ臨也、所レ臨唯信明神不レ蠲ニ要盟一ト云ヘリ、本朝ノ古天照太神巳ニ素盞烏トチカイ玉イシヨリコノカタ、代々誓盟ノコト日本紀ニ出タリ、ソノ後起請文ト云ヘルハ皆約束ヲ立ルコト也、白河鳥羽ノ帝ノ御宇ヨリ誓盟ヲ以テ起請トス、貞永ノ式目起請文ノウラガキ、各連判ノ狀可レ見也、起請トハウケヲタツルト言也、ウケハ誓約ヲウケイトヨメレバ、約束ヲナス心ヲウケト云ヘルナルベシ、請ノ字ハ乞也祈也ト註ス、人ノ各同心シテコレヲ申シ乞コトナリ、シカレバ請ノ字ヲウクルトモコフトモヨメリ、此誓壓狀ニアラズ、各申ウケテイダスノ誓

ナレバ、コレヲ起請ト云ナルベシ、今ノ俗下人ヲ我家ニ置トキ先ウケヲタツルト云ヘルコトアリ、是又起請ノ字ノ心ト可レ知也、而シテ起請文ヲカクニ神明ヲ請ジテ、ウラガキニ血判ヲナス事、既ニ孝德帝群臣ヲ召集テ盟玉フ言ニ、告二天神地祇一曰、天覆地載、帝道唯一、而末代澆淳、君臣失レ序、皇天假二手於我一、誅二殄暴逆一、今共瀝二心血一、而自レ今以後、君無二二致一、臣無二貳朝一、若貳二此盟一、天災地妖、鬼誅人代、皎如二日月一也ト出タリ、楚王割二子期之心一以盟ト左傳ニモ出タレバ、血ヲ瀝ルコト其至心ヲ示ストノコト也、春秋傳ニ載書トイヘルモ乃コノコト也、亳城ノ盟載書云、或閒二茲命一、司愼司盟二司天神一名山・大川・羣神・羣祀、詳記者在二禮典一者先王先公先王諸侯之大祖先公始封君七姓十二國之祖、明神殛レ之、俾レ失二其民一、隊レ命亡レ氏、踣二其國家一ト、乃本朝今ノ起請文ニ神明ノ名ヲアラワシテマコトヲ正ス也、本朝異朝トモニ明王賢將ノ用玉フ誓盟ナレバ、事ノ實否嫌疑ヲ正スコト後世ノ要法ナリ、豈コレヲ捨ルイ、ナランヤ、

○問云、諸侯ヲナヅケ法ヲ正シフスルノ次、又何レヲカ先トスルヤ、

答云、諸侯ノ外ニ大臣・有司・士ノ三等アリ、大臣ニ文臣アリ武臣アリ、師アリ諫臣アリ、舊臣老臣アリ、各其品多シ、有司ハ諸事庶物ノ奉行司ヲ云、士ハ平士祿士ニシテ官職至テ卑シ、此内上中下アリ、近臣アリ遠臣アルコト也、サレバ異朝ノ三公・九卿・諸司・百士、皆其次第舊紀ニ出タリ、中庸九經敬二大臣一體二群臣一ト云ヘルヲ擧テ、敬二大臣一則不レ眩、體二群臣一士之報禮重トハ云ヘリ、本朝ニヲイテ三公ヲ立、內大臣准大臣ヲ置、攝政關白ノ職ヲカ子シムル、是乃大臣ト號シテ其任甚重、其寄異レ他、故ニ太政大臣ハ師二範一人一儀二形四海一、無二其人一則闕、無二職掌一之官ニシテ、太政大臣行二公事一コトハ希有ノ義タリ、是一人ニ太師トシテ天下ノ、リトナシ玉フノユヘ也、マコトニ敬二大臣一ノ道タルベシ、コノ外ニ納言・參議・八省・百官・諸臣・侍等、段々古來ソノ制尤詳也、武家ニ至テ鎌倉家ニ執權ハ天下ノ政ヲ執、別當ハ侍所ヲ司テ天下ノ侍ヲ進退ス、多ハ執權コレヲ兼、コノ外ニ諸司ノ奉行アリトイヘドモ執權ヲ重臣トシ、六波羅並兩探題ヲ以テ人ノ望職トスル也、京家ニ至テハ執權職ト號ス、コレ鎌倉ノ執權也、凡ソ執事ハ國家ニヲイテ事ヲ執ノ名ナリ、必ズ天下ノコトヲトルニカギラザルコト

春秋傳ニ出タリ、是乃後ニ管領職ト號セル也、管領ハ執權ノ下ニテ事ヲ取行ノ名ニシテ、高時長崎圓喜ヲ以テ管領トスト云是ナリ、後ニ執權ヲ直ニ管領ト號スルコト、細川頼之斯波義將ニ執事職ヲ讓ルトキ改レ之也、而シテ管領ニ三家アリ、次ニ四職家アリ、コレヲ京ノ七大名ト號シテ、管領ハ天下ノ儀刑トシ、京職ヲ司ドル人政務ヲ事トス、イヅレモ武家ノ重職尤他ニコトナリ、シカレドモ管領ハ斯波・細川・畠山、四職ハ山名・一色・京極・赤松ノ四家コレヲ司テ所司ト號シ、七家ノ外コレニ任ズルナカリキ、コノ外ニ御一族・御相伴衆・御供衆・申次奉行、皆大名有司ノ歴々也、而シテ豐臣家ニ及デ五老五奉行ヲ立ラル、五老ハ天下ノ大老封國ノ牧伯四方ノ諸侯ヲ司ドル、五奉行ハ士・農・工・商・寺・社・財用ヲワカチテ相司ドル尤重臣タリ、凡ソ武家ハ大臣家ニ准ズ、ソノ後院司ニ準ジ、太上天皇之法ニシタガフトイヘドモ、亦武家ニ對シテ相應ノ官職ナクンバアルベカラザルヲ以テ、公方家ニ十一等ノ品ヲ定ムルコト中古ノ法也、コレ大臣ヲ敬スルノ道ト云ベシ、群臣ニ及デハ皆コレヲ侍ト稱ス、ソノ中譜代侍ト云ハ系圖代々斷絶イタサヾル輩ヲ云、重代ノ侍ト云ハソノ家々ニ世ヲ累テ仕ルノ侍ナリ、コレヲ鎌倉家ヨリコノカタ重代ノ侍トナヅケテ御家人ト號シ、新加ノ輩ニ不レ同、尤モコレヲ近習セシムル也、家ノ字ハ大夫ニカギル言ナリ、家臣ト云ハ大夫ノ臣ヲ云、魯ノ三家ト云、又ハ諸侯立レ家卿大夫ト云、又君侈而多レ民、大夫皆富政將レ在レ家、又政在ニ家門一大夫專レ政トコレ皆大夫ノ家ヲ云、シカレバ家字用ユルコトイサヽカナリトイヘドモ、代々公方將軍ニ任ゼラルヽガ故ニコレヲ將軍家ト號シ、公方家ト云、シカレバ此家ノ字ヲ用、コトニ御字ヲ加フルガユヘニ、御家門ハ御一族又ハ公達ヲサシテ云、御家人ハ重代恪勤ノ武士ヲサス也、國家官家ト云トキハ、又天子ヲサス、家ノ字計ナレバ大夫ニキワマルナルベシ、又老ノ字大夫自稱シテ老夫ト云、ソノ國ニ居テハ曰ニ寡君之老一、方伯自曰ニ天子之老一、卿大夫ヲサシテ國老トモ云、晉趙孟自寡君ノ老ト稱セリ、サレバ天下ノ執權ヲ稱シテ老ト云ハン事、尤モヨシアリ、大國ノ卿ハ當ニ小國之君一ノ例ナレバ、執權管領ノ職古ヨリ重ク、公族ノ兵士ハ國君ノ守護タレバ、御家人ヲ以テ體トシ玉ハン事、甚古ノ例ニアタレル也、サレバ大臣重

臣ハソノ人ニ從テ、或ハコレヲ師ト立、或ハコレニ政事ヲユダチ、或ハコレニ武義ヲマカセ、或ハ京職西東ノ探題奉行ヲサヅク、其德高ク知以物ニ及トキハ封國ノ命アリ、諸司ノ翟ソノ品ニ從テ禮ヲタヾシ、諸士ノ恪勤イタス輩ニハ頭人奉行ヲ立テ其職役ヲシラシメ、武義文事ノツトメヲナサシメ、コレヲ矜テ其不能ヲニクマズ、法ヲ詳ニシテ其身ヲ害ニイレザラシム、コレマコトノ敬ニ大臣一體ニ群臣一也、凡恪勤ノ侍ニ至テハ專武義ヲ習熟シ、弓馬ノ弛張懸控力量早業ヲ以テ先トス、扈從ノ近臣ハ進退周旋ヲ事トス、各コレガ師ヲ立其道々ヲ正ストキハ、風俗自化シテ天下ノ依賴タルベシ、昔建長ノ比鎌倉ノ御家人等天下ノ長久ニマカセテ游宴ヲ事トシ、家職ヲ失ケレバ同六年西明寺時賴執權ナリケレバ、將軍家ヘ申上ラル、ハ、近年武藝廢而自他門共好ニ非職才藝事一、已忘ニ吾家之禮一可レ謂ニ比興一、然者弓馬藝者、追可ニ試會一、先於ニ當座一被レ召ニ決相撲勝負一、將軍家從レ之、即有ニ相撲六番一、命ニ奉行諸人面々一、可レ爲ニ弓馬藝事一、マコトニ先賢ノ戒明ナリト可レ謂、人君ノ法令人ヲツカフヲ以テ第一ノ要トス、天下ハ諸侯大名コレヲ分司テ、其風俗ヲ正ス、王畿・都城ノ分國ハ大臣・近臣・群臣ノ能否ニヨッテ、民ノ安苦ヲナスベシ、若四夷變ヲ窺バ諸侯大名コレガ蕃屛トシテ以テフセグニタレリ、諸侯大名變ヲ存セバ大臣群臣恪勤ノ士コレヲフセイデ難ヲ止ム、故ニ諸侯大臣知德アリトモ、恪勤ノ武士ノ用タラズ、恪勤ノ武士アラザレバ全體ヲ保チガタシ、犛牛大ナリト云ヘドモ、鼠ヲトルトキハ猫ニヲトレルタトヘニ不レ異、ソノ人ニヨッテソノツトメコト也、君子勤レ禮小人盡レ力、忠爲ニ令德一、非ニ其人一猶不可也トイヘリ、敬ニ大臣一體ニ群臣一ト九經ニ出タルコト、尤ソノイワレアルコト也、

○問云、民ヲ治ルノ道イカン、

答云、農・工・商及庶人コレヲ民ト云、農ハ田畠ヲツカサドル、工ハ諸細工人、商ハアキ人也、庶人ハ奴婢僕從僧社人游民非人乞食等ニイタルマデ、士・農・工・商ノ外ヲ庶民ト云也、各コレヲ治ムルニ其道アリ、其制法アリ其敎令アリ、第一農民ノ事愛スルヲ以テ本トス、故ニ民之父母ト云、如レ保ニ赤子一ト云ヘリ、中庸ニ子ニ庶民一ト出タリ、イカナルヲカ愛シテ子ノ如クニスルト云バ、民ハ至テ無知ニシテアトサキノ考モナク、知

計謀慮ナキモノナリ、唯農業桑麻ノ家職ヲ事トシ、三時ニイトマアラザルガユヘニ、他ニ心ヲハコブ處ナケレバ、知慮ノタクミ生ズベキ間ナシ、自苦勞ヲツクシテ以テ上ニ收納セシム、而シテ上ノ政令ニ生死ヲマカス、コレ民ヲ愛スベキコトワリ也、如レ此民ナレバ四時トモニ上ヨリコレヲ敎導シ、是ヲ撫育スルコト薄ケレバ、害ヲウケ災ニ逢ヲ不レ知、タトヘバ小兒ノモノイワズワカチナクシテ、自ソノ井ニ落、火ヲツカムコトヲナスガ如シ、故ニソノ實ヲ考テ人君マコトヲ以テ民ノ情ヲサグルトキハ、雖レ不レ中不レ遠ノコトワリアルベシ、若親愛ノ實ヲ不レ知シテ、只父母ノ驕子ヲメグムゴトク、コレヲ睦撫姑息イタセト云ノ心ト存ゼバ、必ズ大ナル違アルベキ也、父母ノ子ヲ愛スルモ愛ノ實ヲ不レ知バ、必ズ驕逸ノ子トナレリ、況ヤ民ヲ以驕逸タラシメンコト、人主親愛ノ實ヲ不レ得ニアルベシ、大學ニ康誥ヲ引テ如レ保ニ赤子一ト云ヘレドモ、心誠ニコレヲ求ノ旨ヲノベ、學レ養レ子ノ事ヲノベリ、是皆愛ノ實ヲ示サンガタメ也、故ニ民ノ情ヲ考ヘテ四時ノヲシヘヲ不レ怠、民間ノ細事タリト云ドモ、クワシクコレヲ下知シテ久シキトキハ、ソノ俗トナサシムベシ、民初メハコレニ苦シミ煩シク存ズルト云ドモ、詳ニ法ヲ立制ヲナシテ彼ガ爲ナラン、誠ヲ盡ストキハ後ニ化シテ其俗自コレニ習モノ也、タトヘバ孩兒二三歲ノ間其起居飮食小大ノ便事マデモ乳母カシヅキ、ソノ心ヲハカツテコレヲ指引セシムルノ時、必ズ啼怒シテ始メハコレニ不レ從、マコトニ煩勞スルガ如シトイヘドモ、遂ニコレヲ俗トスルト同意也、小兒ノ道ヤシナイヲ全クシテ、コレニ敎導ヲ用ユ、是乃乳母ヲヱラビ傅保師ヲ置也、民間モ亦然リ、田畠山林桑麻其所ノ家業ノ利不利功者ノモノヲ撰デ、撿見撿地收納ノ義ヲ詳ナラシメテ、民ノ作得、男女家風、年中ノ養ヲ給シメ、代官奉行目付ヲ以テ四時ノ敎省ヲ詳ニスルコト、是如レ保ニ赤子一ト云ノ心ニ相叶ヘリ、七月ノ詩ハ周公ノ作リ玉フテ、晝爾于茅、宵爾索レ綯、亟其乘レ屋ノ敎可レ見、子產ハ民之父母ト稱セラレケレドモ、民不レ可レ逞ト云ヘリ、古人云、民生在レ勤、勤則不レ匱トハ皆民ヲヲシユルヲ以テ本トスレバナリ、子產ガ民ニヲケル其敎左傳ニ出ル處詳ナリトイヘドモ、猶惠ニ過テ敎ヲカクガユヘニ、不ニ以敎一ノソシリアリ、惠人世ノ戒アリ、古ノ聖賢愛

レ民コト、皆以二敎戒一爲レ先、孔子曰、古之爲レ政、愛レ人爲レ大、所二以治一レ愛レ人、禮爲レ大、子夏問下爲二民之父母一之道上、夫子答以レ達二於禮樂之原一、夫子自解二凱弟君子民之父母一曰、凱以レ强敎レ之、弟以レ說安レ之、使下民有二父之尊一有中母之親上、如レ此而后可三以爲二民之父母一矣ト、各可三以考二案之一、シカレバ四時ノ敎導ヲ立平生ノ養ヲナストキハ、民ノ父母タルベシ、或農田水利ヲナシ、或艸木ノ種藝ヲ敎トキハ、ソノ國土日々ニアラキハリ、年々豐ナランコト無レ疑、コレ代々ノ帝王民間ニ池ヲカマヘシメテ、其水旱ヲ利シ玉フコトヲ日本紀ニ表出シテ稱美シ奉リ、道君首名ガ農業ニ功アルハ、史官コレヲ史ニシルセリ、農ヲ重ズルコト甚盛ナレバ也、凡ソ農田ノ制ソノ地ニ古今ノ變アルガユヘニ、一國ノ土地ノ制ヲシルト云ドモ、天下ノ制タルベカラズ、令ニソノ制ヲ詳ニストイヘドモ、今ノ制ニ不レ可レ叶、況ヤ異朝井田等ノ論、王莽コレヲ用テ天下ノ嘲ヲウケ、今本朝ニヲイテ論ズルニ不レ及、聖人定メヲキ玉フ處ソノ本アルコトナレバ、コレヲ以テ田野ノ制法トシテ、其國々ノ先例ヲ考、當時ノ法ヲ立テ民ヲ安ズルニアリ、次ニ民ノ居ニ因テ其情必ズ不レ同、沃土ノ民瘠土ノ民異二其情一、況ヤ都鄙ノ遠近、國ノ大小、山林河海險岨平易廣狹ノ地ニ從テ其俗不レ一、其情コトナルモノ也、コトニ先々ノ地頭代官ノ交代、敎令庄屋名主ノ邪正ニ付テ、民情ニタガイ多シ、又ハ年ノ豐凶時ノ災難ニヨツテ其俗其情變ズルコト多シ、コレヲ察シテ恒例臨時ノ政聊ヲコタルベカラザル也、コレ心誠ニ求レ之ニアツテ人君ノ實ニ從フコト也、次ニ工商ハ市町ノアル所ニコレアリ、故ニ都城國府通會ノ地人ノ往來スル所ニ居住セズシテ不レ叶、コヽヲ以テヲヽクノ人ニモマレ、巧言令色ヲ事トシ、僞ヲ以テ眞トシ、似セモノヲコシラヘテマコトノ物トス、眞僞ヲマガヘ、曲ヲ直トスルコトハ、辨才ヲ以テタブラカサヾレバ不レ能ガユヘニ、ソノ人品悉違僞ヲ以テ俗トス、サレバ法令政事出トイヘドモ、己レガ僞ノ心ヲ以テコレヲハカルユヘ、上ヲ僞リ奉行ヲタブラカス事必ズ多シ、故ニ工商ヲ治ムルコト、尤心ヲ盡サヾレバ不レ叶、風俗ヲ一ツニシテ淳朴ニ歸スルコトアリニクキモノ也、況ヤ城都繁榮地ニヲイテハ、日々ニソノ俗ウスク僞ヲコトヽスルニ至ルモノ也、古來ヨリ市町ノ制、左京右京ノ職ニアツテ彈正

使廳ノ職尤コレヲ重トス、武家ニ及デハ所司ノ職奉
行ノ職ト號スルハ、皆コノ官職也、是農民ヲ治ルト事
カワッテ、制法モサマ〲品々アルコト也、ソノ富
人分限ナル輩、必ズ武家ノ士ニ相交テ豪俠ヲ企、結構
ヲナスコトアリ、專禮ヲ詳ニシテ其分ヲミダレザル
コトヲ要トスベキ也、次ニ庶民ノ制其一品一品ニ
付テソノ制ヲ立テ禮ヲ正スベシ、奴婢・僕從・重代・年
季・一年居・當座ノ雇モノ、罪奴男女ノ次第アルベシ、
尤若黨・中間・小者ソノ職掌アラタメ詳ナラザレバ、下
人ニ驕出來テ上ヲ僭ニイタル、サレバ禮ヲクワシク
定メテ下コレガタメニ安ジ、上コレガタメニ不レ凌ガ
ゴトクナラシムベシ、僧社人ハソノ本寺惣錄司ソノ
司トスル處ヲ以テ、度緣ノ定メソノ道々ノ執行ヲ專
トシ、游民・非人・乞丐ノ多ハ、國ノ政令不レ足、敎導不
レ詳、撫育カクルガユヘナリ、游民・非人・乞丐ツイニ盜
賊ノ基タリ、尤可レ愼也、如レ此人品、一々ニコヽニ記
シテ其制トキガタシ、實ニ心ヲ付テ唯禮ヲ詳ニ定ム
ルニアル也、コノ外ニ民ノ品アリトモ、此例ヲ以テコ
レヲ推スベシ、凡ソ政ヲナスノ本コレヲ親愛シテ禮
ヲ立、彼ヲ不義無道ニヲトシイレシメザルノ間ニア
ルノミ也ト可レ知也、

○問云、農民ハ國ノ本タリ、飢ニヨリテ亂ヲ發シ政ニ
ヨッテ一揆ヲ企ツ、シカレバ四民ノ間農民ノ政令ヲ
第一トスルト古來イヘルト也、此說イカン、

答云、民ハ國ノ本ナルコト不レ可レ疑、民アラザレバ國
國タラズ、故ニ民政ヲ要トスルコト勿論也、但シ古來
ノ民ヲ治ムルト、今ノ民ヲ治ムルトハ、ソノ心得コト
也、本朝ノ王代ハ郡縣ノ政ナルヲ以テ、民間ニ兵ヲヲ
ク、コレ古來ノ兵民農兵ノ心也、コノ故ニ所々ニ盜賊
カクレ、郡國ノナヤマシヲナスコト秦ノ世ニ近シ、武
家天下ノ執權ノ後ハ、封建ヲ用テ天下ノ國郡コトゴ
トク守護地頭ヲ補任シ、代官ヲ設ケ民ノツグノヒ
ヲ以テ、兵士ヲ守護地頭ノ家ニマフクルガユヘ民間
ニ兵士ヲ不レ置、民只農桑ヲ事トスルノミ也、シカレ
バ一揆ヲ企惡逆ヲイタス事、遂ニ不レ得レ之、唯草盜竊
賊ニシテ、當座ノ劫殺ヲ事トスルノミ也、然レバ民ノ
政一揆亂逆ノヲソレアラザル事也、只其親愛ヲ事ト
シ、彼ガ心情ヲ察シ、其ヤシナイ其敎ヲ詳ニスルニ
アルノミ也、若土地ノ俗ニ因テ剛强ヲコトヽスルコ
トアラバ、政令ノ制法ノ愼、ソノ水土ニ從テ敎化ノ心

得アルコト也、今ノ人其時宜ヲ不レ知ガユヘニ、古今ノ事ニ不レ通、前後本末ヲ失ナリ、武家ノ政守護地頭ヘノ政令ヲ第一トシ、御家人ノ敎矜ノ第二トス、而シテ工商而シテ農民コレ階級ナリ、守護地頭ソノ人其人タレバ、ソノ預所ノ國郡ノ四民各ソノ所ヲ得、御家人能治トキハ家ト、ノフ、工商ハコレニ次農士ハコノ下也、士工商ヲカロンジテ農民ヲ先トスルコト聖人ノ政ニアラズト可レ知也、

○問云、民ヲコト〳〵ク道ニ入ル、コレマコトノ政タルベシヤ、

答云、民ヲ道ニイレテ明德ヲ明ニスルノ說ハ、宋儒新レ民ノ說ニシテニ聖敎アラズ、博ク施シテ濟レ衆ハ及ブベキ事ナリトイヘドモ、堯舜スデニコレヲ病メリ、況ヤ天下ノ民イカンシテ人々明德ヲ明ニスルノ說アランヤ、コノ道其易簡ニシテ通ジヤスシトイヘドモ、父コレヲ子ニ傳ガタシ、サレバ堯舜ノ子ニ丹朱商均アリ、子又父ニ傳フル事不レ能、故ニ舜ニ瞽瞍禹ニ鯀アラズヤ、一家既ニ然リヤ、況ヤ國ヲヤ況ヤ天下ヲヤ、是宋儒明德ノ實ヲ不レ得ガユヘ也、明德ト云ハ天下ノ人民共ニ安テ樂ニ其樂ニ利ニ其利ニ、コレヲ明德ト云ヘリ、シカレバ聖人立ル處ノ政法禮樂コレヲ名付テ明德トス、政法禮樂天下ニ行ル、トキハ民自化シテ道ト云德ト云ノ名字ヲ不レ知トイヘドモ、各ソノ業ヲツトメテ不レ息、コレ乃明ニ明德於天下ニ也、コレヲ明ニスルコト本民ノ父母タル心ヨリ出レバ、親レ民トイヘリ、聖經ノ文字明ナルヲ改テ新レ民ト云ハ、宋儒ノ意見ヨリ出ト可レ知也、而シテ納ニ民於軌物ニト云ハ古ノ則也、云心ハ人君ノ政令ソノ道ヲ詳ニシ、時々ニ其事ヲチリ、民ヲコレニ化セシム、民何ゴト、云コトハシラザレドモ、其鎭撫ニマカセテソノ事ヲナセバ、ツイニ法則ノ内ニ入テ人君コレヲ以テ其利廣シ、

○問云、民ニ制法ヲ詳ニセントイタサバ民コレヲ煩ハシク思テ、其德ニ化スベカラズ、シカレバ唯上ニ德ヲ修メ、民自化スルノ敎アランカ、

答云、政ヲナスハ能時ヲ知テ其俗ニ通ジ、民ノ機ヲ察スルニアリ、故ニ時宜不ニ相合ニトキハ上古ノ格言善行ト云ドモ、急務先行ニアラズ、サレバ其道正ニ似タリト云ドモ、先後ノ序ヲ失トキハ正ト云ベカラズ、古ノ聖人無レ思無レ爲、寂然不レ動、垂ニ衣裳ニ天下治、コレ聖德ノ至大ナルユヘンニシテ、ソノ時宜如レ此シテ感

ズベキコトワリアルガユヘ也、禹稷當ニ平世ニ三過ニ其門ニ而不レ入、洪水ヲヲサメ民業ヲ勤ムレバ也、周公仰而思レ之、夜以繼レ日、兼ニ夷狄ニ驅ニ猛獸ニノットメアルガユヘナリ、往古ノ聖人皆時宜ヲ以テ急務トス、況ヤ末代ニヲイテハ上古ノ政ヲハカリ、ソノ先後ヲツクスニアリ、以前ニ論ズルゴトク、異朝ハ秦以後ノ天下三代ノ治ヲ以テ急務ト致シガタシ、本朝ハ武家ノ執政以後ハ王代ノ治ヲ先ズベカラズ、不レ可レ用ニアラズ、唯詳ニ先後ニ急緩ヲ知ベキ也、サルヲ以テ今ノ世民間ノ政事久シク法ヲナシ政ヲ詳ニセズ、只地頭ノ私意代官奉行ノ志ニマカセテ專一代ノ制ヲ逞シテ、始終公共ノ志アラズ、或ハ利口ヲ專シテ己ガ名ヲ要シ、或ハ聚歛ヲ厚フシテ媚ニ其主ニ、タトヘ善政ニ似タリト云ドモ、皆準則ヲシラズ、一旦人ノ譽レヲ用ユルノミ也、故ニ惠ムマジキニメグンデ傷レ惠々而費ノ類多ク、又僞ヲ以テ民ヲ仕置シ、鈎距ノ術ヲナシテ民ノ利ヲ貪ル、天下ノ民皆コレニ習コト若干年ナリ、コヽヲ以テ有ヲカクシテ無ト云、損ゼザルヲ亡スト云テ、加損賑恤ヲ事トシ、古ノ作法ニカワツテ雜穀ヲクラワズ、魚味ヲ好ミ衣服ヲカザリ、ワザト家宅ヲヤブツテ外ニ貧乏ヲ示シ、人ノ救ヲ要スルガ如キ、是今ノ風俗ナリ、此時ニ及ンデハ德ヲ施シ化ヲ事トセント欲ストモ、豈一紀二紀ノ間ニコレニ化センヤ、故ニ民政ヲ立ンコト夜ヲ以テ日ニツグバカリ工夫ヲメグラシ、三過テ不レ入レ門計ニ奉行役人身ヲクルシムトモ、政令施シガタカルベシ、サレバ彼ガワヅラハシキクルシムト云ノ毀、世ニ滿人口ニアマ子シトモ、少モ是ヲ取アゲズシテ切政ヲ正シ、制ヲ盡サン事民政ヲ要也、而シテツイニハ民コレニ化シ、俗コレニ習テマコトニ垂ニ衣裳ニ無レ爲無レ思ノ政令ニモ可レ及也、昔子產民間ニ政ヲシイテ都鄙上下ノワカチヲナシ、田畠ノサカイヲタヾシケル、ソノ時鄭ノ國中ノ民皆ウタヲツクリテ子產ガ政ヲ毀レリ、其歌云、取ニ我衣冠ニ而褚レ之、取ニ我田疇ニ而伍レ之、孰殺ニ子產ニ吾其與レ之ト、コレ子產ヲ殺サンコトヲ欲スルマデニ政ヲ立タルヲ毀レリ、間一年ヲヲイテ三年ニシテ子產ガ政ニ民化シテ、又歌ツクツテ云、我有ニ子弟ニ子產誨レ之、我有ニ田疇ニ子產殖レ之、子產死誰其嗣レ之ト、其コレヲ慕コト可レ見、子產ハ戰國ノ賢臣、天子以爲ニ國基ニ聞ニ其卒ニ出レ涕云、古之遺愛也ト、カクノゴトキ子產ナリトイ

ヘドモ、政ヲナシテ俗ヲ正スニハ其毀ヲマヌカレザル也ト可レ知也、

○問云、民ノ政ヲ能スト云ドモ、又工商ノ政ヲヨクスルコト不レ能、三民ノ政ヲ能スト云ドモ、士ノ政ニ及ビガタキハ其タガイ、何レノ處ニ有レ之乎、

答云、無知ヲ制スルコトハ易、滌レ習コトハ難シ、制レ形易而正レ心難、出ニ恒例一易而臨時制レ急難、サレバ今工匠ノ木竹ヲ制スルハ、シバラクコレガ墨曲尺ヲシルトキハ小童子トイヘドモ、コレヲ制スルコト易シ、コレ木竹ニ知ナク心ナシ、變ナケレバナリ、既ニ鷄犬牛羊ニ至テハ又竹木ニコトナリ、況ヤ馬ニヲイテヲヤ、況ヤ虎ニヲイテヲヤ、サレバ民ノ愚ナルコトハ木竹ニ不レ異、雞犬牛羊ニ近シ、只ソノツトメヲ敎ヘソノヤシナヒヲナシテ、外ニ志所アラザレバ也、コレ如レ保ニ赤子一ト云ヘルノ心也、既ニ工商ニ及テハ、内ニ巧言令色ノ根ザシナリ、舊習汚染ノケガレアルガユヘニ、古狸之妖怪睡猫之詐僞多シテ、訟獄闘爭ヤムコトナシ、既ニ士ニ及テハ身ニ劔戟ヲ横、早業ヲコト、シテ利器ヲソナヘ、祿ヲウケテ義ヲ重ンズ、況ヤ諸侯ニ至テハ文武ノ用無レ不レ備、故ニコレヲ制シコレヲ御スルニ道ヲ以テシ、禮ヲ以テセザレバ却テ借レ上起レ害ノ設アリ、況ヤ御レ馬養レ虎ノ類ナランヤ、サレバ知アリ習アリ形アリ心アリ恒アリ變アリ、是ヲ制シ是ヲ御センコト豈容易ナルベケンヤ、コノユヘニ古人民ノ仕置ヲ能ストイヘドモ、コレヲ用テ工商ノ制ヲイタサセテ不レ合、遠國ノ仕置ニ名聞譽聲人ヲドロカセシモ、都ニ出テ何ノ香モセヌ輩舊紀ニ多シ、凡ソ一樣ニシテタシナキハ天下ノ學者皆君子タルベシ、ソノ時宜ニ從テ格物セランニハ、其知不レ可レ致ト可レ知也、

○問云、人ノ品四民ヲ以テキワメトスルヤ、

答云、四民ト云ハ士・農・工・商也、周禮ニ司空四民ヲ司ドルト云、公羊傳ニ四民ノワカチヲ詳ニス、凡ソ四民ハ庶民ヲサシテ四ニワカテル言也、古人ノ書ヲ以テ考フベシ、但周禮ニ司士ノ職アッテ掌ニ群臣之版一ト云トキハ、士ヲ以テ群臣ノ惣稱トスルモアリ、蓋人ノ品古來ノ云處十等ニキワマレリ、是日之數十自レ甲至レ癸而時又十、

日中(午)王、食時(辰)公、平旦(寅)卿、鷄鳴(丑)士、夜半(子)皁、人定(亥)輿、黄昏(戌)隷、日入(酉)僚、晡時(申)僕、日昳(未)、隅中(巳)臺、日出(卯)闕、不

レ在レ第尊レ王公曠レ位ナレバ人ノ位モ亦十也、王・公・大夫・士・阜・輿・隸・僚・僕・臺コレヲ十位ト云、コレ古ヨリノ制ニシテ三代以下天下ノ惣位ヲ王・公・侯・伯・子男ト五ニワカチ、ソノ一家一國ニテノ位ヲ君・卿・大夫・士・庶人或以二王・公・侯・伯・子・男一爲レ六、以二君・卿・大夫。上士・中士・下士一爲レ六、合爲二十二位一、以上十等ト定ム、孟子ハコレヲ十一等トス、庶人自レ阜至レ臺之稱也然レバ十等ノ位ニ農工ト商庶民ヲ四トシテ、以上十四等ノ次第アルベキナリ、舜典ニハ四岳・九官・十二牧ノ次第ヲ立、四岳統二十二牧一商書ハ明王奉二若天道一建レ邦、設レ都樹二后王天子君公諸侯一、承以二大夫師長一トイヘリ、ソノ時代ニヨッテソノ品タガフトイヘドモ、右ノ十四等ヲ不レ出也、周禮ニハ民ニ九職ヲ立テヲケリ、シカレバ民ノ間ニモ又品アルベキコト也、而治政ノ品令ニ其分ヲ詳ニストイヘドモ、當世ノ用タラズ、今ヲ以云トキハ、王室・公室・諸侯・郡主・御家人・陪臣・庶人、コレ士ノ六等ニシテ、農・百工・商賈・儒醫・僧社人・庶民、コレ合テ十二等アリ、コノ外ニ四夷ノ制アリ、是乃庶民ノ内タルベシ、コレヲツヾマヤカニシテ心得ントナラバ、唯自ト他トヨクワカルベシ、自ノ身ヲ本トシテ、親戚ヲ立、ソノ親疎ヲワカチ、他ヲ又別テ賢レ賢而親疎遠近ヲハカラバ、ツイニ政ノ要タルベシ、サレバ中庸ニ天下ノ九經ヲワカッテ、身ヨリ推シテ賢親ニ大臣・群臣・庶民・百工・遠人・諸侯ニト九ニワカテルトイヘドモ、親レ親賢レ賢ヨリ出テ、品ヲナスニ及ベルト可レ知也、代々ノ制多トイヘドモ當用ニアラズ、唯今云所ノ制ヲ詳ニシルヲ以テ要トスル也、

謫居童問下本終

謫居童問下末

○問云、民ノ政ハ井田ニアラザレバ、實ニ利セズト云ヘルハ如何、

答云、昔唐太宗讀二周官一、慨然嘆曰、不二井田一、不二封建一、不レ足下以法二三代之治上ト、マコトニ井田ノ制、王者制レ民ノ大道ト可レ謂、シカレドモ其法孟子ノトキ既ニ不レ明、況ヤ後世其詳ナルコトヲ不レ可レ知也、タトヘバソノカタハシヲ知ト云ドモ、秦以前ノ勢ト秦以後ノ勢、天下ノ勢大ニ變ズ、コレヲ用ユルニ不レ可レ足、況ヤ本朝ニヲイテハ其制不レ可レ用也、而シテ聖人體レ國經レ野コトハ、必ズ其水土ニヨル事ナレバ、本朝ハ本朝ノ制ヲ詳ニシテ其經界ヲ正シ、收納ノ法ヲ明ニシテ、出入相及、守望相助、疾病相扶持シテ以テ百姓親安スルヲ井田ノ本トスベキナリ、夫子ノ門人出テ邑ノ宰タリトイヘドモ、必ズ井田ノ制ヲ專トスベキノ戒アラズ、唯賢ヲ擧テ政ヲ正シ、禮ヲ詳ニシテ民ヲ安ズルノ道ヲ以テスルノミ也、シカルニ後儒シキリニ民政ヲ云テ井田ノコトヲ先ズルコトハ、不レ盡二事實一ノアヤマリナリ、若コレヲ用バ王莽ガ井田ヲ用テ天下ノアザケリノコスニ不レ可レ異也、朱子曰、如下斑二爵祿一井田喪禮之類上、只是說二得大槩一、然亦是去レ古遠無二可レ考處一、但德大綱正制度雖レ有二不レ備處一、亦不レ妨、出二朱子語類三十四之三十七葉一コヽヲ以テ安ズルニ民政正シテ經界タガワズ、民親安ズルトキハ是井田ノ法也、ソノ形井田ニ似タリト云ドモ、其道不レ明バ井田ニ非トシルベキ也、

○問云、人君儉ヲ以テ天下ノノリヲ立玉フトイヘバ、タトヘ天子タリト云ドモ、土堦三尺ノ例ヲ守リ玉フニアリヤ、

答云、凡ソ天下ノ規範者天子ニアリ、天子ノ禮ヲ立テ以テ天下ヲ制ス、故ニ天子ノ衣食居用具コト〲ク禮ニヨッテコレヲ行玉フニアリ、儉ヲ以テスト云ハ天子タリト云ドモ、奢ヲキワメ耳目肢體ノ欲ニマカセ玉ハン事ハ、不レ可レ然ガ爲ニ儉ヲ以テ德トスルノ言也、舊紀ニ出ル處ヲ考ニ、天子ノ衣裳ハ天下ノ衣服ノ善ツクシ美ツクスヲ以テ禮服トサダム、故ニ繪アリヌイモノアリ、袞龍ノカザリアリテ周禮ノ司服コレヲ司ドリ、辨師ソノ冠冕ノ制ヲナシ司袞祀レ天之服

ヲナシ、履人王ノクツヲナス事ヲ司、夫子モ服ニ周之冕一ト顔子ニ示シ玉ヘリ、而堂ノ高ハ九尺九重五門ヲ制シ、明堂七席ヲ立席ヲ五重ニマフケ、宮殿闕觀樓閣臺沼池園囿ノ美無レ不レ設、周禮々記ニ出タリ、天子ノ食ハツネニ二十有六ノ調美アリ、必ズ天下ノ美鳥美魚ヲアツメテ其善ヲアツムルコト古ノ例也、況ヤ其用器用具美ヲキワメ善ヲツクス、是富四海ヲ有テ貴コト爲二天子一ハ其用所四海ノ善ヲツクシ、四海ノ美ヲアツムルマコトニ禮ノ至ト可レ謂也、而シテ諸臣各其位階ヲ守テ衣食居用共ニ至ルマデ、コレヲ分限ニ相應セシムルガユヘニ、分ヲ越テ事ヲイタスノヲコリナシ、如レ此トキハ天下ノ財用トヾコホラズ、萬民コレヲ利シテ下以テ安シ、若天子ニシテ下モ群臣用ヲナシ玉イ、諸侯ニシテ匹夫ノ具ヲ用ルトキハ、天子ノ財用滯テ下民必ズ飢ト可レ知也、

○問云、然ラバ堯舜土堦三尺ノ説用ユベカラザルヤ、

答云、堯舜ノコトハ唐虞ノ二典ニ出タリ、既ニ五禮ヲ修メ玉フトイヘレバ、天子ノ禮儀ニスグベカラズ、サレバ闢二四門一トハ王城ノ四方ニ門ヲ立、諸侯ヲ朝セシムルノイヽ也、以二五采一施二五色一、日月星辰ノ文章ヲ立テ衣裳ヲ制セシムルコトハ舜ノナシ玉フ處ナリ、コヽヲ以テ考フレバ袞龍ノ御衣ヲメサシメ、六律五聲八音ヲシラベテ、天子ノ諸侯ヲ朝セシメ玉フ、帝王豈カヤクサノサキソロエザル土ノキザハシノ濕潔キ地ニ御座ヲマフケラレンヤ、然レバ土堦三尺ノ説ハ墨子ガ書ニ出テ莊子ニコレヲシルシ、太史公ガ史記ニノセタル也、六韜ニコレヲ出ストイヘドモ、六韜ノ中僞作ノ書文相雜レリ、中ニモ堯ノ治コヲ論ズル處ノ一段ハ、老莊墨子ガ筆ヲカレル文章也、信用スルニ不レ足也、古ヨリ明王禮ヲ以テ天下ヲ制セズト云コトナシ、禮ヲ以テ云トキハ天子衣服宮殿魚味豈コレヲ儉ニ可レ過ヤ、昔前漢ノ文帝天下ノ富貴ニ位シテ專儉ヲ事トシ、身衣ニ弋綈一、履ニ革舃一、集ニ上書囊一以爲ニ殿帷一、所レ幸夫人幃無レ文、衣不レ曳レ地、百金之費亦不ニ苟用一ト云ヘリ、コレユヘニ先儒皆以テ爲ニ恭儉之主一、是ソノ實ヲ不レ盡ガユヘ也、文帝道ヲシラズ黄老ノ學ヲ好デ禮ヲシリ玉ハズ、天子トシテ如レ此ノ不義狹陋不遜アランヤ、是太平ノ天下ニ飢饉ノ政ヲナシ、歡樂ノ時ニヲイテ哀愁ヲ事トスル也、天子喪ニ居ザレバ麁服麁履ヲツケ玉ハズ、夫人后妃憂ニアラザ

レバ衣ヲ不レ短、無二文采一ヲ不レ用、文帝ノ政ハ天災憂患ノ地ニアルノ政ナリ、此故ニ大禮ヲコラズ道コ、ニスタリテ、太子景帝又コレニ従玉フヲ以テ太倉ノ粟クチテ陳フリ、府庫ノ錢ナハクチテケル、コ、ニ武帝コレヲ悔ミ玉テケレバ、奢侈ヲキワメ神仙ヲコノミ遊獵ヲコト、シ、窮レ兵黷レ武淫亂ヲコト、シテ、文帝景帝吝嗇ノ財寶一代ニ散ジ、ツイニ匈奴漢ヲヲビヤカシテ武ヲ用ニ力屈スルニ至レリ、是聚ルモノハ必散ジ、憂ナクシテ憂レバ必愁ノ來ルニアラズヤ、凡ソ天下ノ治平ト稱スルハ禮樂行レテ諸民ソノ所ヲウルニアリ、文帝ノ治平ハ上高帝ノ力ニシテ文帝ノ力ニ非ズ、文帝ニ至テ禮樂スヽミ大綱ヤム、豈コレヲ治平ナリ儉德アリト云ンヤ、武帝ノ奢侈窮黷モ、文帝ノ謙讓儉朴モ、共ニ五十歩百歩之間ト云ベシ、ソレ天子人君トシテ財ヲ愛シ利ヲ逞スルコトハ小人ノワザナリ、儉ヲ事トスルトキハ其弊聚レ財富二府庫一ニアリ、有二國家一テ何ゾ祿ヲ貪リ財ヲアツムルコトヲコト、センヤ、禮ニ云、聖人之制二富貴一也、使下民富不レ足二以驕一、貧不レ至二於約一、貴不上レ慊二於上一、故亂益亡也、シカレバ富ルモノハ富ルニ應ジテソノ禮ヲツクス、不レ然バ財一ニアツマリテ天下ノ用不レ足、孟獻子ハ魯ノ大夫タリトイヘドモ、畜二馬乘一不レ察二於雞豚一、伐氷之家不レ畜二牛羊一コトヲイヘリ、臧文仲ガ織レ蒲ハ夫子以テ不仁トス、坊記云、子云、不レ盡レ利以遺レ民、詩云、彼有二遺秉一、此有二不レ斂穧一、伊寡婦之利、故君子仕則不レ稼、田則不レ漁、食レ時不レ力レ珍、大夫不レ坐レ羊、士不レ坐レ犬、詩云、采レ葑采レ菲、無レ以二下體一、德音莫レ違、及レ爾同レ死、以レ此坊レ民、民猶忘レ義而爭レ利、以亡二其身一、マコトニ禮ノ用甚大ナリト可レ云、サレバ天子樹二瓜華一不二斂藏一之種一也ト、後世ニ及デ上儉ヲ事トシテ、財ヲツトメ利ヲ爭ガユヘニ、士大夫各田宅ヲヒロメ子孫ノ酒食ノ費ヲナス、皆是禮ノ不レ行ヨリ人皆民ト利ヲ爭ニ至ナリ、

○問云、古ノ清廟ハ茅屋ニシテ儉ヲ示スニアリ、サレバ天照太神ノ宮殿ハ茅屋ヲ用テ、三杵ツケル粟ヲ以テ御供トスト云ヘルハイカン、

答云、清廟ハ文王ノ廟、明堂ハ天子ノ太廟ナリ、故ニ太古ノ風ヲ存シテ茅屋采椽土階越席ヲ用ユルコト、先王ノ法也、コノ心ハ人初メヨリ貴キモノナシ、太古ノ祖ハ茅屋ヨリ起テ天下ヲシロシメスニ至レバ、末代ノ子孫富貴ニ至ルト云ドモ、太古ヲ忘ルベカラザ

ルトノ戒ヲ存セリ、且廟ハ鬼神安置ノ地ニシテ、コレニ營作ノ結搆ヲ設クルコトハ神ニ交ルノ道ニアラズ、シカレドモ子孫ヤムコトヲ不レ得ノ誠ヲ、シテ、又茅屋ヲイトナムモ不レ快ガ故ニ、天子諸侯ノ廟皆其制ヲ具ニス、本朝宗廟ノ神コレ乃太祖太古ノ遺風ヲ萬世ノ規範タラシムルガユヘニ、是ヲ以テ其制ヲ正シカラシム、淸廟茅屋、大路越席、大羹不レ致、粢食不レ鑿、昭ニ其儉一也ト左傳ニ出タリ、シカレバ本朝ノ宗廟自然ト聖人ノ敎ニ相稱ヘリ、是天子ノ儉ニ過玉ハンコトヲヨシト云ニハアラズ、神ト人トコトニシテ太古ト今ト不レ同、戒ト作法ト不レ一也、夫子曰、奢則不遜也、儉則固、與ニ其不遜一也寧儉ト、聖人儉ヲ稱シ玉フコト可ニ以考一也、後世ニ及デ晏子長孫道生ガ輩親政ノ貴ヲ得テ、三十年來一狐裘一障泥ヲ用ノ類、マコトニ陋ト可レ謂也、

○問云、器用ノ禮如何、

答云、器械用導ノ制禮ヲ以テスルコト、ソノ物々ヲ詳ニシテ其用ヲ制シ、其位ニ相當ヲナサシムルニアリ、一々辨說スベカラズ、禮樂ノ制其位ニアラザレバ下トシテコレヲ計リガタシ、禮曰、子云、夫禮者所ニ以章レ疑別レ微、以爲ニ民坊一者也、故貴賤有レ等、衣服有レ別、朝廷有レ位、則民有レ讓、又左傳云、淸廟茅屋、大路越席、大羹不レ致、粢食不レ鑿、昭ニ其儉一也、袞冕黻珽、帶裳幅舃、衡紞紘綖、昭ニ其度一也、藻率鞞鞛、鞶厲游纓、昭ニ其數一也、火龍黼黻、昭ニ其文一也五色比象、昭ニ其物一也、錫鸞和鈴、昭ニ其聲一也、三辰旂旗、昭ニ其明一也、德儉而有レ度、登降有レ數、文物以紀レ之、聲明以發レ之、以臨ニ昭百官一、百官於レ是乎戒懼、而不ニ敢易ニ紀律一ト出タリ、唐虞ニ五服五章ノ制ヲマフケ、周禮ニ司服アリ、儀禮ニ公食大夫ノ食禮ヲ出シ、周禮ニ掌客ノ職アリテ飲食ヲ禮ニカナユ、賓主有レ事、俎豆有レ數曰レ聖、聖立而持レ之以レ敬曰レ禮ト儀禮ニ出ヅ、子産爲レ政、使ニ都鄙有レ章上下有一レ服ト也、凡ソ君子小人物有ニ服章一、貴有ニ常尊一、賤有ニ等威一、又服以旌レ禮、禮以行レ事ト云ヘル、皆物ノ品ヲ定ムルノ禮也、詩維鵜在レ梁、不レ濡ニ其翼一、彼之子不レ稱ニ其服一トハ、服ソノ服ニアラザルヲ云也、

○問云、人君ハ財寶ヲ不レ用ヤ、

答云、天下ノ財寶ハ天子コレヲキワメテ財寶タラシム、故ニ財寶ノ重最人君ノ位ニシカズ、サレバ天下ノ富貴ヲ司玉フガユヘニ、天下ヲ以テ寶トシテ金銀ヲ

以テ財用トス、天下ヲ寶トスル時ハ天下常ニ天下タリ、財用ヲ以テ寶トスレバ天下タラズ、明王寶ニ天下一重ニ財用一トス可レ知也、天下々々タレバ財用ツ子ニタル、天下々々タラザレバ財用アリト云ドモコレヲ以テ用コトヲ不レ得、コレ天下ヲ寶トスル也、財用ヲ重ズルガユヘニコレヲ不ニ輕用一、ソノ可レ致コトヲナシテ奢侈ノ弊ヲナサヾル也、愚將ハ貪レ之輕ニ天下一而寶ニ財用一、故ニ府庫ヲトマシテ天下ヲ失コトヲ不レ知ト云ベキ也、財用アツマラザレバ救レ民濟レ急コトヲ不レ可レ得、コレ古來理レ財ノ制アルユヘン也、

○問云、近代豐臣秀吉卿、度々金銀ヲ天下ノ大名ニ配リ玉フコト天下以テ美談トス、

答云、國ニハ國ノ貯アリ、天下ニハ天下ノ貯アリ、ソノ貯ユタカナラザレバ、天下ヲ救ノ用タラザルコトコレヲ王制ニ出セリ、凡ソ金銀ヲ諸侯ニ與ヘ、民間ニコレヲ施スコト其節アリ其禮アリ、ソノ節ナク其禮アラザレバ施ニナラズ、禮ニナラザルユヘニ、民喜諸侯コレニナレテ財寶却テ輕クナルモノ也、豐臣秀吉卿ハ知謀大膽ノ名將ナレバ、ソノ作畧時宜ハカリガタシ、今ヲ以テ考フルニ天下ノ諸侯年々干戈ニ苦シミ、諸役ニツカル、處ヲハカツテ、金銀ヲ恩賜セシメ、或ハ名聲ヲ逞クシ、或ハ列侯ノ隨喜ヲ期シ玉フナルベシ、是其時宜ニ取テソノ道アルベケレバ、コレヲ以テ惣テ人ノ例トハ不レ可レ言、昔前漢ノ文帝身ニ儉ヲ行テ民ニ施ヲ盛ニスル事甚シ、民コレヲ悦デ以テ樂シム、後ニ武帝ノ時ニ施コトヲ不レ得シテ、民コトゴトク苦デ武帝ノ政ヲサミス、是與フルモ節ヲ不レ以トキハ、民悦デ家ヲ豐ニストイヘドモ、民又コレニナツラツテ奢ヲコト、シテ儉ニ入ルコトヲ不レ得ニナレル也、故ニ政ハ末々マデツヾイテ行ルベキコトヲ政トシテ、一旦ノ利潤ヲ專トスベカラザルナリ、

○問云、天子ニ三種ノ神寶ト號セルハ、コレ物ヲ寶トスルニ非ヤ、

答云、三種ノ神寶ハコレ乃天下治道ノ神寶ニシテ財寶ニアラズ、此三器天神コレヲ以テ天孫ニ授マイラシテ、天下ヲ治敎マシマサンコト此三器ニアリトノ神勅ナリトカヤ、子細ハ舊紀ニ明也、而シテソノ器ハ神璽也、寶鏡也、寶劍也、神璽ハ仁ト云ベク、寶鏡ハ知ト云ベク、寶劍ハ勇ト可レ云、本神代ニ此名アラザレバ、三德ニ比シ奉ランコトモコレ附會スルニ似タリ

トイヘドモ、其御器ヲ考テ其神慮ヲ推奉ラバ、マコトニ三德ニタグヒ奉レル也、故ニ天孫モロ〳〵ノ不ㇾ順モノヲヲサメ玉フテ、其知物ニアマチクトヾコホル處アラズ、コレヲ悠久ニ施シテ以テ無ㇾ息ノ道ニイタリ玉フ事ハ、乃三寶ノ實ト可ㇾ謂也、若惡ヲ正スコト不ㇾ能、善惡混ジテ不ㇾ正、只一旦ノハカリゴトヲ以テ悠久ニ及ボシ玉ワズンバ、三器イヅレノ所ニカ可ㇾ用乎、此三器今ハ王朝ニ傳テ三器ノ實ハ武家コレヲ執行スル也、次ニ異朝ニ又三器アリ、坐二明堂一執二傳國璽一列二九鼎一三器トス、甚本朝ノ三器ニ不ㇾ似、故ニ唐ノ韓愈作ㇾ論以爲下歸二天下之心一與二太平之基一、是非中三器之能繫上也トイヘリ、スベテ異朝ノ寶トスル處ハ本朝ニヲイテ不ㇾ會コト多シ、玉ノ連城ヲヒカラシメ貝ノ相貝經アルガ如キ、是水土ノタガイヲ以テ人ノ性モ亦タガフナルベシ、

○問云、人君平生日用ノ事如何、

答云、天下ハ萬機ノ事アリ、人君シバラクモ事ニ倦玉ヘバ、天下ノ人情必滯、故ニ夙ニ興玉フテ先政事ヲ執行玉フ、コレヲ人君ノ事ト云也、政ヲキク事朝ヲ用ユ、コレ人ノ氣新ニ進デ不ㇾ怠、朝ニハ將迎ノ心去テ其閑玉イナシ玉フ處ノ氣偏執黨頗スクナキガユヘナリ、サレバ朝廷ヲ朝ト云コト皆朝陽ノ氣ヲ用ユルノ心ナルベシ、政ヲ聞ノ地紛雜ナルベカラズ、近習ノ臣ヲ置ベカラズ、人主居ヲ正シ衣服ヲツクロイ、執政奉行役人次第ヲ守テ、出座シテ各昨日ノ事ヲ奏シ、今日執行スベキ事ヲ以テス、而シテ各其席ヲ退テ人主自見自改玉フベキ事、自勤メ自習ハスベキ事ヲ先後シテ、其ワザヲ盡ス、コレ自ㇾ事ノ道也、事ヲ自ラナシ玉ハザレバ、次第ニ下ノ情違シテ奉行役人始ヲヨクスト云ヘドモ、終ヲ全クスル事不ㇾ能モノナリト可ㇾ知、然レバトテ大細事不ㇾ殘、コレヲ親見聞アルトキハセハセハシクシテ、却テ大事ヲロソカニナリ、後ニハ政ニ倦テ必大細事トモニ其奉行ニマカセテ、親コレヲ盡シ玉フ事不ㇾ能ニナルモノ也、古來ノ人君始ヲヨクストイヘドモ、終ヲツトムルコト不ㇾ能ハコノ心ナルベシ、シカラバ何ナル事ヲ親コレヲ臨ミ正シ玉ハントナラバ、ソノ位ヲ以テ云バ勤二王家一諸侯郡主ノ事有司ノ事、ソノワザニヨッテ云バ、國家ノ事人民ニカヽルベキ事、生死ノ決斷及公事訴訟ノ大義、コレ皆親正ㇾ之ニアルベキ也、コノ外ノ細小事ハ諸役人ノ手前ニ

ヲイテ、毎月六日三日ノ式日ヲ定メ、ソノ事ヲ決斷ヲ可レ爲、ソノ時必近臣ヲ兩人番ニカワッテ是ヲ出座セシメ、各コレヲ評定議論決斷ノ樣ヲ見聞セシムベシ、近臣コレニ入言スベカラズ、是其大法也、而其翌日又ハソノ日ニ御前ニヲイテ樣ヲ言上スルコト、時宜ニヨルベキナリ、既ニソノ日執政奉行退出ノ後ハ、人主燕居アルベシ、夕ニ及ハ古老有功ノ致仕ノ臣、及ビ博聞多識有識ノ輩、番ヲワカッテ伺候シ、時ニ從テ御前ニ進ミ、各席ヲ賜リ居ヲ安ジテ仰ヲ承リ、時宜ヲ言上シ、古戰當世ノ事ヲ詳ニ言上ス、執政ノ老臣奉行役人ト云ドモ、毎日或ハ隔日ニ一人宛伺候仕リ、公事ノ淹滯諸人ノ訴訟時ノ急務ヲ御前ノ時宜ニ由テ言上スルコト可レ有レ之也、是人君毎日ノ御作法タルベシ、而シテ閑暇アラシメ玉バ、本朝ノ舊紀武家ノ次第武ノ法ヲ具ニタヾシ玉イ、異朝聖人ノ道聖代ノ政ヲ考ヘ玉フベキ也、次ニ四時ニ付テ放鷹・川狩・鹿狩等、及月花ノ會遊宴歌舞アルコト定レル事也、

○問云、學ヲ第一トツトメ玉ハン事ナルニヤ、

答云、人君ノ學ト云ハ右ノツトメヲ以テ天下國家ノ事古今ノ制令遊宴ノ禮ヲタヾシ玉フヲ以テ學ト云ヘリ、外ニ學ト云コトアラザル也、文學ノ學問ハ閑暇アラントキ、古今ノ考アラシメ玉イ、聖人ノ道ヲシロシメサレテ、政道ノ大綱ヲ正サセ玉ハントノコト也、政ヲヲイテ文書ヲ弄シ玉ハシコトハ、玩レ器喪レ志ノ戒タリ、匹夫ト云ドモ學ト云ハ行ニ餘力アラントキノワザ也、況ヤ天子人君ノ學、又匹夫ノ學ニ類スベカラザル也、古ノ帝王唐虞并禹湯文武讀書ヲ以テ學トシ玉フコトヲキカズ、唯ソノ事ヲ詳ニキワメ玉フテ、ソノ道ヲシレル輩ニコレヲ正シ玉フヲ以テ、學ノ最上トスベシ、シカレバ萬機ノ大綱ヲ自見聞アッテ、執政大臣ノ意志ヲ詳ニシ、人君自ノ心ニ慮リ玉フテ而シテ古來本朝ノ作法近代御先祖ヨリ執行アリシ例ヲ考玉イ、聖人ノ旨ニアテ、ソノ道ノ達人ニ尋問フテ正シ玉ハンニ、イヅレノ處ニソノ誤リアランヤ、シカレバ文ノ入所ニハ文人作者ヲエラミ書ノ入ラン所ニハ能書ヲ用、コレ乃學ノ至極也、彼文人作者ツイニ天下ノ用タラズ、カレヲ以テ天下ノ政事ヲイワセバ、皆異朝上古ノコトヲ談ジテ以今日ノ時宜通ズベカラザル也、次ニ人君常ニ知タマフベキ事、本朝ノ風俗古今ノタガイ、武家代々ノ治亂中ニモ、百年コノカタノ爲

レ體、本朝土地域會地津邊要大社大寺、幷惣知行高、王家公家封侯郡主ノ族祖、ソノ人ノ好惡風俗陪臣卿大夫ソノ家ノ出頭人、所々ノ四民ノ內豪傑富人雄才英氣ノモノ大臣有司ノ族祖、志勤其出入ノ者心友好惡時ノハヤリ物、出來物器物衣食居具ノ次第、幷御家人ノ先祖先忠常忠代々ノ制法、コトニ當家代々ノ式、異朝聖經コノ分ヲ以テ閑暇ノ時分ノツトメトナシ玉フベシ、コノ外ノ書物ハ皆一覽ノ慰タルベシ、武家權ヲ握テ既ニ數百年ニ及、天下武威ニ化スルコト偏ニ武德ニアレバ、聊モ武ヲワスレ玉ハザランコソ天下ノ急務ト云ベシ、サレバ本朝ハ右レ武左レ文トツテニ心ヲ可レ付也、

○問云、古ヲ學ハ聖人ノ敎ニシテ、夫子モ好レ古トノ玉フ、然バ聖經ニカギラズ、何レノ書ヲモ詳ニ學ビ玉ハンコト人君ノ學タランカ、

答云、右ノ云所コレ好レ古學二古訓一ト云ナルベシ、凡ソ學ト云コトハ商書說命ニ、學二于古訓一乃有レ獲レ事、不レ師レ古以克永レ世、匪二說攸レ聞ト、コレ異朝ノ書ニ學ヲ云ヘルノ始ナリトカヤ、サレバ學ハ古ヲ以テ師トシ、古ノ訓ニシタガフニアルナレバ、人君能本朝ノ古今ノ政道治亂ヲ詳ニシ、當家ノ太祖先公ノ法令格式ヲ知玉フ、コレ古ノ制ヲ學ト云ベキ也、本朝ノ王代ノ事已ニ遠久ニシテ急務ニアラズ、武家トイヘドモ亦鎌倉京家既ニ遠シ、シカレバ百年コノカタ天下ノ一變ナレバ、コレヲ能考ヘテ是非ヲ了簡ス、中ニモ當家草業ノ次第、守文ノ格式ヲ以テノリトナシ玉ハン事、皆師レ古也、異朝ニハ聖賢コモ〴〵起リ、治亂サマザマアリトイヘドモ、イマダ本朝ヲダニ不レ考シテハ、異朝ノコト知テ更ニ益ナシ、知ト云ドモ利口ニワタリテ急務ニ非也、傅說ガ高宗ニ戒ムル處、只ソノ先王先世ノコトヲ學ビ玉ハンコトヲ云テ、異國ノ事ヲ知玉ヘト云ニハアラザル也、周官云、學レ古入レ官議レ事、以制レ政乃不レ迷、無下以二利口一亂上官トイヘリ、其官ニ任ジ職ヲ司ドル者スラ、其道々ノ古例ヲ考ザレバシレルコトモ皆利口ニヲチ入ト戒シメタリ、夫子ハ古今ノ大聖タリトイヘドモ、大廟ニ入テハ毎レ事ニ問玉フ、ソノ問玉フコトハ定テソノ大廟ノ格式タルベシ、異朝ノコトヲシレリトテ、本朝ノ事ヲ準ゼント云ハ、利口ニナリヌベケレバ、古ヲコノムト云ノ道コレ不レ可レ過也、

○問云、異朝ノ聖代堯・舜・禹天下受授ノ間、允執二其中一トノ玉フ、此一言乃聖人ノ學タルベシ、然ラバ本朝ノ天子人君モ、亦コレヲ守リ玉フベキコトニヤ、

答云、允執二厥中一ノ四字コレ三聖ノ受授タレバ、コレヲ唐虞ノ聖代ノ學ナリト云コト、宋朝ノ眞西山ガ云所也、マコトニ異朝ノ聖主コレヲ守リ玉ハンコト學ノ道タルベシ、本朝ニハ神代ノ遺勅アリ、コレ乃代々ノ聖主守リ玉フノ道ニシテ、武家ニ至テ猶宗廟ノ神ヲ崇メマイラセ玉フコト王代不レ異、往古之神勅ト云ハ天照太神手持ニ寶鏡一、授ニ天孫一祝曰、吾兒視レ此當レ猶レ視レ吾ト、是當レ猶レ視レ吾ノ四字、萬々世ニ至ルマデ、人君守リ玉フベキ道也、サレバ厥中ヲトラントナラバ、惟精惟一ニシテ其知ヲキワメズンバ非ズ、宗廟ノ神授ケ玉フ寶鏡ハ、乃是中ノ義知ヲ致ルノイヽニ非ズヤ、子思中庸ヲノブルニ知仁勇ノ三ヲ以テ反復シテ論ズ、コレ中ハ知仁勇ニアレバナリ、神勅又三種ノ神寶ヲ授ケ玉フテ、同レ床シテ坐シ玉フコトノアルハ、是マサシク聖々相合ノ處、如レ合ニ符節一ト云ベキ也、今云處異朝ノ道ヲ本朝ニ附會セシメ論ズルニ非ズ、神代ト申ハ、往古ノ儀ニシテ今ノ詐僞スベキニ非ズ、コヽヲ以テ云トキハ、人君能本朝往古ノ神勅ヲ宗トシ玉フテ、眞知ヲ明ニキワメ玉バ、宗廟ノ太神ツ子ニ對越マシ〳〵テ、寶祚ノ守護疑フ處ナク、天地ト長久ニシテ無究ノ化アルベキ也、

○問云、田獵放鷹ノ御遊ハ民間ノ煩タルベキヤ、

答云、田獵放鷹ノコト人君ノ勤メ玉フ事ノ一ツナリ、コレヲ以テ民間ノ作業、庶人ノ衣食居土地ノ利、其所ノ制法虚實ヲ考ヘ玉フニモ、寒暑ヲ自試霜雪苦ヲ自シロシメシ、御家人外様ノ輩ノハシリメグリコトゴトク心ヲ付玉フトキハ、敎トナリ道トナル事也、故ニ自放鷹ヲナサレ、民ヲアツメテ田獵ヲ催シ、武ヲナラワシ事ヲナレシメテ、君臣同游ノ樂アランコト、優永ノ政ト云フベシ、古來コレヲ戒シムルコトハ過テノリヲ失ガユヘ也、若勤レ學ニ過テ書ヲ弄シ、外ヘ出玉ワザランモ亦不及ノ失アリ、トモニ君子ノ戒ナレバ其道ニ從テ過不及ヲ制シ玉フベシ、次ニタトヘ放鷹狩獵過不及アラズト云ドモ、其心ノ付玉ハザランハノリニ中ルト云ベカラズ、ノリニ中ルト云ハ、土地ノ險易人馬ノ考人民ヲ以テ事ニナラワシ、手足耳目ヲ手ツテ武ノ用トシ、政事ノ善惡法令ノ是非、ソ

ノ日ノ時臨レ事應レ變ノ仕形ヲ詳ニ心ヲ付コヽロミ玉フ、コレヲ則ニアタルト云ベシ、或ハ民ノ田畠ヲフミソコナフハ民間ノ煩也、寒暑ニ士卒ノクルシミナレバ不レ可レ然ナド云、小節小事ヲ以テ大ナリト心得玉フベカラズ、民間ノ毛作田獵ノタメニソコ子バ、ソノ地ノ代官檢察シテ收納ヲユルベ、大ニ損セバ臨時ノタマモノヲ恩賜セラルベシ、寒暑ニヨクツトメン輩ハ、コレヲ考ヘテソノ積累ニヨツテ賞賜アルベシ、如レ此明ニ政アランニハ、民作毛ヲフミソコナワンコトヲ喜、士卒風雨寒暑ニ遊獵アランコトヲ欲スベシ、文王靈臺ハ民マテカザレドモ、來テ不日ノ功ヲナセリト云ヘリ、サレバソノ道ヲタヾシ其制ヲ明ニイタストキハ、人勞スト云ドモ不レ怨也、人クルシミ勞ルヽコトハイタサヾルト云バ、營作不レ致車輿ニモノラズ、城ヲキヅキ堀ヲ堀ルコトモアルマジキヤ、況ヤ戰テ士卒ヲコロシ遠ニ行テ人ヲツカラス、皆是下ノイタムコトナリト云ヘドモ、其道ヲ以テスルトキハ天下コレニ從テイナムモノアラザル也、人君如レ此大義大綱ヲ不レ勤シテ小節小事ヲ以テ姑息ノ仁ヲナサンコトハ、甚聖人ノ戒ムル處也、

○問云、シカラバ古人農ノ暇ヲ考ヘテ、四時ノ田獵ヲナスト云ヘルハ、アヤマリナランコトニヤ、

答云、古人四時ノ田獵ニ農ノイトマヲ考フルコトハ子細アルコト也、古ハ農兵ト號シテ民間ニ兵ヲ養、異朝ノ制皆如レ此、本朝ニモ王代郡縣ヲ行ルヽ時ハ、民ヲアツメテ兵トシテ以テ王城ノ衛士トシ、毎年國々ヨリコレヲ勤ムルコト舊紀ニ出タリ、故ニ四時ニ四タビノ制ヲ定メテ表ヲ立法ヲ示シテ、諸民ヲアツメカケヒキノ作法ヲナラワシメ、金鼓旌旗ノ制ヲシラシム、此時ハ民コト〴〵ク集リテソノ制ヲキク、故ニ民ノイトマヲ考ヘザレバ、此禮ヲ行フコト不レ能也、今ハ民間ニ兵ヲヲカズ、封建ノ諸侯コト〴〵ク士ヲ內ニ養、御家人ノ子弟幕下ニアツマリテ士タリ、故ニ古來ノ制ヲ用ユルニ不レ及也、シカレドモ大ニ山林ニ狩獵シテ、幕下ノ兵士ノ練ヲナシ玉ハンニハ、尤モコレ民ノイトマヲ考ヘ玉ハンコトソノユヘアルベシ、平生ノ田獵ハ必ズコレヲ事トスルニ非ズ、但シ人君ノワザ一ツモミダリナラザルハ古ノ戒ナレバ、コレヲ致シ玉ハンコト、ソノ法ヲ考ヘテ民ニ禮ニイレシメ玉ハンハ、尤明君ノワザ也、其制法詳ニ周禮ニ出

タリトイヘドモ、是上古ノ事異朝ノ禮ナレバ、コレヲ本トシテ本朝今日ノ禮ニ時宜アルベキ也、明君ノ作法ハ一ツモ不レ入ムダゴトヲ以テ民ノツカレヲナス事ナシ、サレバタトヘソノ作法古ニノットリ、舊紀ニアリト云ドモ、今日コレヲ用テ事宜ニアワザルコトヲナスヲバムダゴト、云べキ也、只詳ニ格物致知シテ、其事物ヲ明ニシテ以テソノ道ヲ正シ、禮ヲキワメンコトコレ明君ノ戒也、魯隱公將ニ如レ棠觀レ魚者、臧僖伯諫曰、凡物不レ足ニ以講ニ大事一、其材不レ足ニ以備ニ器用一、則君不レ擧焉、君將レ納ニ民於軌物一者也、故講レ事以度レ軌、量謂ニ之軌一、取レ材以章レ物、采謂ニ之物一、不軌不物謂ニ之亂政一、亂政亟行所ニ以敗一也、故春蒐夏苗秋獮冬狩、皆於ニ農隙一以講レ事也、三年而治レ兵、入而振旅、歸而飮至、以數ニ軍實一、昭ニ文章一、明ニ貴賤一、辨ニ等列一、順ニ少長一、習ニ威儀一也、鳥獸之肉、不レ登ニ於爼一、皮革齒牙骨角毛羽不レ登ニ於器一、則公不レ射ニ古之制一也、

○問云、人君萬機ノ事ヲ學デ政令ヲ出シ玉フ時、自守リ玉フべキ心得如何、

答云、人君天下ノ富貴ニ上テ九重ノフカキニ座シ玉フガユヘニ、自其弊アルコトヲシロシメサレザル也、一ニハ、天下ノ人コレヲ畏レ奉テ近コトヲ不レ得ガユヘニ、人ノ情更ニ不レ通也、コレヲ畏ノ弊ト云、二ニハ、出入ニ警蹕ヲ唱、前驅後乘前後ヲサヽエテソノ出御アラン、道路ハ居ヲツクロイ、道ヲ改人民往來ヲヤメ、窓ヲ立戸ヲヲロス、タトヘ跪座拜禮ノ輩モ、衣服ヲ正シ言行ヲカイツクロフガ故ニ、人君ノ耳目常ニ狹シテ遠ヲシリ、カクレタルヲ察スルコト不レ能、コレヲ遠ノ弊ト云、三ニハ、遠近ノ臣人君ノ喜ヲナサン事ヲ欲シテ、ソノ機嫌ヲ伺ヒ、巧言令色ヲ事トシテ媚ヲ入、故ニ人君常ニ喜ヲ事トシテ、ツイニ宴安ヲ弄ス、是安ノ弊也、此三ノ弊アル事ヲ知テ、今日ノ政事ニ心ヲ付玉フべシ、然レドモ此三ヲ去ントスレバ、又コレニ三失生ズル也、人畏べキ事ヲ知玉フテ人ヲ近ヅケ玉ヘバ、奸人利口ヲ以進ミ、嬖臣權ヲ專トスルニ至テ、上ノ威甚輕ニ至ルべシ、又遠ノ弊ヲ除コトヲ欲シテ、目付ヲ置監ヲ設、細小事マデ見聞ヲ事ト致シ玉ヘバ、察ニ過テ叢脞スルニ至ガ故ニセワ〳〵シクシテ、却テ大綱ヲ失ニ至ル事多シ、是過察ノ失アリ又安ノ弊ヲ去ント致シ、人主怒ヲ事トシ玉ヘバ遠近常ニヲソレテ、マコトノ威却テ行レズタトヘ小家ノ主人

トイヘドモ、其機嫌不ㇾ宜トキハ、其家事調ガタク下臣コト〴〵イタミ、或ハ怒ノ遷ㇾ物コト多、況國家大君一タビ怒玉トキハ、天下ノ遠近コレニヲソレテ政事ノ急速ナルベキコトモ淹滯シテ不ㇾ通、若事ヲ取行コト有テモ、怒ウツルトキハ國家ノイタミタランコト甚重、是又怒ノ失也、是三弊三失也、是常ニ戒守リ玉フテ臨ㇾ事玉ハンコト、人君ノ要ト云ベキ也、

○問云、三弊三失ノ事承知ス、其內察ニ過ルハクラカランヨリ益アルベキコト也、聞テ是ヲ不ㇾ用、見テ是ヲ不ㇾ致コトハヤスカリナンコト也、

答云、過ㇾ察コト人君ノ大失也、見聞ニ付テ不ㇾ惑ト云ヘルコトハ明君ノ事也、常ノ人ノ惑皆見聞ノ間ニ有、故ニ小惡ナリト云ヘドモ、コレヲキクトキハ必ズ大善ヲサユルコト有、人若聖賢アラザレバ必惡ハ多シテ善ハ少シ、シカルニ其惡ヲ規ソノ非ヲ改メントイタストキハ、其政尖ニシテキビシク、多ク罪ヲ行ナハザル時ハ不ㇾ叶、是ニヨッテ、國家ノ困窮アゲテ不ㇾ可ㇾ數也、古ヨリ善ㇾ善而惡ㇾ惡ヲ政ノアヤマリトイヘリ、人ノ善ヲアゲテ人ノ惡ヲカクシアワレミテ不能ヲ敎ヘ、是ヲ罪ニヲトシイレザルゴトクナル政ヲコソ善政ト云ヘル也、天下ノ人民多ハ皆不知無才不義無道ナルモノ也、是コト〴〵ク善ニ致スコトハ聖人不ㇾ可ㇾ叶、只制法ヲ出シテ罪ニ不ㇾ入、咎ニアワザラシムル敎マデナリ、シカレバ下ヲコマカニ聞玉フホド、下々ノ惡高聞ニ達シテ惡ヲニクミ玉フ心出來レバ、善人害ヲ蒙リ小過ヲ以テ賢臣スタランコト甚可ㇾ惜ノ至也、水クラフシテ大魚コレニスミ、山深シテ猛獸コレニカクル、寛仁ニシテ賢德立コト古ヨリ然リ、シカレバトテ又何事ヲモ見聞アラザレバ、下情不ㇾ通シテ大臣有司威ヲ盜ム、コレ遠ノ弊ニ察ニ過ノ失ナクンバアラザルト云ヘル也、

○問云、人君日用ニ守テ戒シメ玉ハンノ道如何、

答云、只去㆓勝心㆒テ勤テ不ㇾ息ニアルベシ、勝心ト云ハ群臣ニ評諚アッテ、是ニ不ㇾ付自立玉フ、コレ慢心我心ト云ベシ、是ヨリ人ノ諫ヲ不ㇾ納、自ノ心ヲ師トナシ玉フ也、日用萬機ノ政必ズ後是ニ倦玉フコトアリ、政ニ倦玉フトキハ、人臣其機ヲ知テ酒色游興ヲスヽメ奉テ、或ハ病者タラシメ、或好ㇾ樂玉フニ陷、是ヨリ人君政ニ怠テ奸臣威ヲヌスミ、下ノ情日ニ遠シ、如ㇾ此ナリユイテ年月積トキハ、天下ノ政事又コレヲ例トス、ソ

レヨリ人君政ヲ親ナシ玉ハザルモノ、如クナリ行、大小事トモニ臣是ヲ執行ノ例トナッテ、御子孫迄コノ例ヲ追ガユヘニ、後々ノ人君日々ニ知クラク、虚威高シテ實ハ權臣私ヲカマフルニナリ、人君ハ虚器ヲ擁スルコト長久ノ治ニ多シ、昔鎌倉右大將家自天下ノ訟ヲタヾシ政ヲ志トナシ玉フ、其後賴家卿實朝卿ニ及デハ天下ノ治ヤウヤク久シキヲ以テ、政務日々ニ怠リ玉フ、奸臣此時利ヲ得テ折ヲ以テ諫メ申シケルハ、君ハスデニ四海ノ主ニテマシ〳〵テ、自刑獄訴人ノ輩ヲ近付玉ハンコト、不レ近ニ刑人ニト云ヘル戒シメニソムキ玉ヘリ、若不意ニ狂亂ノモノ出來テハイカヾナレバ、自大小事ヲコトワリ玉ハンハ、右大將家イマダ天下草業ノ時ナレバナリト云、コヽニヲイテ賴家自決斷ノ事ヲヤメ玉フテ、一切大小事皆北條時政義時父子ノハカライタリ、是迄ハ問注所モ柳營ノ内ナリシヲ、諸人群參ノ地ナレバ營中不レ可レ然トテ、郭外ニ新造セラル、是ニ因テ賴家卿閑暇多シテ日月ノ長コトヲクラシ玉フタヨリニ、山水ヲ弄ビ盃酒ヲ事トス、奸臣又折ヲ得テ蹴鞠ノ游ビハ古法ナリト云ケレバ、乃京都ヨリ其藝術ノモノヲ招テ、コレヨリ日夜此事ヲ弄デ、天下ノ政事悉ク北條ニマカセラル、コノユヘニ賴家卿殃災ニヨッテ、ツイニ實朝ニ天下ヲ與ヘ玉フ、實朝十二歲ニテ天下ノ主トナリ玉ヘバ、政務ハ北條ニマカセラル、コトニ坊門大納言信清ノ息女ヲ娶シ玉フテ公家ノ往來シゲク、專文書ヲ好ミ詠歌ニ長ジ、或ハ陳和卿ニ命ジテ唐船ヲ作ラシメ、宋ニワタランコトヲ求メ、或ハ歌ノ會繪合等ヲ事トシ玉フ、是皆奸臣ソノ氣ニ從テソノ好ヲ長ゼシメテ、以テ政務ヲ己ガ私ニナサンタメ也、コレヨリ鎌倉ノ公方家皆虚位ヲ弄シテ、天下ノ政ハ執權ノ心ニマカス、タマ〳〵コレヲナラッテ政ヲ自ナサントセシ公方アレバ、乃コレヲ改テ別君ヲ立テ、執權ハ北條ノ家ヲ不レ出、コレソノ起ル處大江廣元三善善信ガ輩、皆京家遊藝ノ輩ニシテ、奸佞ヲ事トシテ北條ニテライ、以テ己レガ欲ヲホシイマヽニスル也、京都將軍家ニ及デモ亦如レ此、細川常久身ヲ忘志ヲクルシメテ義滿卿ヲ輔佐シケルガ、常久卒シテ義滿卿政務ニツカレ、ヤガテ義持ニ征夷將軍ヲユヅリマイラセ、其身ハ三十八ニテ落飾玉イ、北山ノ御所ニウツリ玉イ、政務ヲ管領ニマカセラレテケル、コノ例ヨリ代々ノ公方家皆管

領ニ政ヲマカセ玉フガユヘニ、京家ノ執政又三家ニ傳テ以テ他ニユヅラズ、管領ノ威ハ公方ヲ押ニナレリ、是皆近臣ニヘツラツテ媚ヲ奉リ、以テ君ヲ安宴ニヲトシイレテ奸臣ヲリヲ得テ威ヲヌスミ、ツイニコレヲカヘサヾルニ至ル也、秦ノ趙高ガ二世皇帝ニ宴安ヲスヽメシタメシ可㆓并案㆒也、凡ソ人君ハ政務ヲ以テ日夜ノツトメトス、政務ニアヅカリ玉ハザルトキハイツモ閑暇ノミ多シ、閑暇アルガユヘニ蹴鞠詠歌文筆參學ナドイヘル風流ノタノシミ、月ノ夕花ノ朝ヲ弄シ、山水田獵ヲ事トスルノワザニモ至ルベシ、シカレバ訴訟刑獄等ノ政務ハ、君ハ決斷ナキモノト云ゴトクニナリユクコト、ソノ本ハ少ノコトニテ、ソレヲ乃例トシテ次第ニコレヲ古例トスルガユヘニ、人君ハ必游樂ニイラズシテ不ㇾ叶ガゴトクナレル也、甚可㆓嘆息㆒也、古來將軍家ノ例ハ政所始ト云テ、諸事ノ政務ノ始ニモ先ヅ甲冑ヲ帶シテ、乘ㇾ馬射ㇾ弓コトヲ先ズ、コレ乃武ヲ忘レ玉ハザルノ驗也、如ㇾ此義モ後ニハ奸臣ヘツラツテ、大位ノ人甲冑ヲツケ玉ハンコトハアブナキ也、アラキワザナリト云ニナツテ、武ノ職ヲモワスルヽニナレルコト、詳東鑑等ニコレヲ出セリ、左傳ニ子大叔問㆓政於子產㆒、子產曰、政如㆓農功㆒、日夜思ㇾ之、思㆓其始㆒成㆓其終㆒、朝夕而行ト云ヘル、コレ悠久而不ㇾ息ノ心ナルベシ、

○問云、天下ノ事ヲ政ト云心ハイカナル義ゾヤ、

答云、夫子魯襄公秀康子ガ政ヲ問ニ、皆政者正也ト答ヘ玉ヘルハ、政正相通ジテ正ヲ以テ政ト云也、天下ノ道不ㇾ正トキハ、タトヘ國家ニ兵亂災害ナシト云ドモ、政ニアラズ、正トキハ其風俗スナホニシテ其道自立、コレヲ政ト云也、正ト云ハ守ㇾ一以止ノ義也ト云ヘリ、一ハ乃政ノツ子アツテソノ則不ㇾ二ノ心ナリ、止ト云ハ其至善ニ止テ不動ノ貌ナリ、正ノ字ヲ制スルコト古人心ナキニ非ズ、書ニ政ハ貴ㇾ有ㇾ恒ト云モ、數變易スルコトナク一定ノ制ヲ立ルコト也、政ヲ立ルニ前方其思慮キワマラザルガ故ニ、恒ニシテ不ㇾ變、只心ニ浮ミタルニマカセ、人物ノ顯レタルワザニマカセテコレヲ爲トキハ、德ヲ以テ致ノ政ニアラズ、故ニシバ／＼改メザレバ不ㇾ叶也、德ヲ以テ致ト云ハ、我思慮ヲ詳ニイタシ有道ニ就テコレヲ正シ、而シテ身ニ力行シ、コレヲコヽロミテ天下ニ可ㇾ行人民ニ守ラシムベキノ道ヲ本トシ、法令ヲ立ルコレ德也、

如レ斯トキハマコトニ北辰ノ居ニ其所ニテ衆星ノコレニ向フニコトナルベカラズ、是ヲ實トス、サレバ政ハ正也、子帥以レ正、孰敢不レ正トハノ玉ヘル ナルベシ、本朝ノ上古ニハ主ニ祭祀一モノ乃朝政ヲ執行ス、ソノユヘハ往古ノ神勅ニ三種ノ神寶ヲ天子ノ御殿ニ安置マシ／＼テ、神慮ヲ以テ人君ノ御心トナシ玉フガユヘニ、神ヲ祭リ玉フコト天子コレヲ自ナシ玉フ、ソノ役人ニ相代ル者コレ執政ノ大臣タリ、シカレバ神ヲ祭祀イタスヲマツリト云、ソノコトアルヲマツリゴト、云ヘルガユヘニ、政ヲマツリゴト、云也、祭レ神ノ實ハ不レ以レ誠神コレヲウクベカラズ、故ニ政ハ誠也、誠ハ正シクシテ不レ違、誠ト正トコトナルコトナケレバ政者正也ノ心ナリ、凡天下ハ人主ノ一體也、四肢ノ末々マデ氣血ノ循環アラザルトキハ、ソノ身ヲ不仁ト云、天下ノ間四海ノ末ト云ドモ、天子ノ政トヾカザルトキハ、是天子ノ有ニ非ズ、故ニ政ヲナス事ヨク其道ヲツクサヾレバ、其正ヲ不レ得ト可レ知也、ソノ正ヲウルコトハ、本誠ヨリ出ズンバアラザル也、

○問云、政ヲナスノ道如何、

答云、天下ノ事ヲ考ヘテソノ道ヲ正シ、其ワザヲナスヲ政事ト云、其下知ヲ四方ヘフレナガシ、條目ヲアラワスヲ令ト云也、コレヲ政令ト稱ス、政ヲナスノ道夫子ソノ門人ニ示シ玉イ、幷爲レ政ノ道ヲノ玉フ事、論語ニ詳ナリ、尤唐虞三代ノ政ハ、四代ノ書ニアラワレ、歷代ノ政事ハ舊紀ニミエ、學者ノ對策シテ政ヲ論ジ、或治道政道ヲ云コト不レ可レ遑ニ枚擧一也、唐虞三代周公孔子ノ政ヲノベ玉フコトハ、聖々相續ノ大義ナレバ、言ニ不レ及コト也、先本朝ノ往古神代ヨリ人皇ニ至テ、コノ國土ヲ治敎アリシ道ヲ詳ニ考ヘ、中古武家天下ノ成敗ヲ司レル其敎令ヲ委シク可レ知也、コヽニヲイテ三代唐虞ノ時、宜周公孔子ノ敎ヲノリトイタサバ大ナルアヤマチ不レ可レ有レ之也、

○問云、古例ヲ考舊治ヲ知ト云ドモ、コレヲ計ニソノ知アラズ、願ハソノ要トスル處ヲ承ランコトヲ欲ス、

答云、政ノ要ハ在レ得レ人ト可ニ心得一也、ソノユヘハ人君自天下ノ事ヲ試ミ玉フベキヤウナケレバ、宰相政ヲ司、百官有司コト／＼クコレヲ司テ、其役々ヲ規ス、シカレバ其人々ニアラザレバ、ソノ政皆不レ可レ正、コヽヲ以テソノ人ヲエラブニアリ、人ノ要ト云ハ外ニテハ諸侯郡主、内ニヲイテハ大臣執政、四民ノ

司武義ノ役人也、コノ人不レ正トキハ、人君ノ心思耳目不レ明也、人君ハ以二群臣一爲二耳目一、以二大臣一爲二心思一、人臣ノ所レ謀、奏言スル處不レ正バ、人君心思耳目昏シ、奏言ヲ疑玉ヘバ群臣嫌疑ヲ存ス、シカレバ唯ソノ人ヲ得テ其事ヲマカセ玉フニアルベキ也、堯舜皆然リ、舜典ニ云、詢二于四岳一（四岳官名又曰四方之方伯）闢二四門一明二四目一、達二四聰一トハコノ心也、聖人ニ四ノ目四ノ耳アルニアラズ、四方ニ善知聰明ノ臣ヲ立テ、ソレニマカセ玉フトキハ四方明ニ視、四方明ニキコフルガユヘニ、聖人ノ四目四聰ト云ヘル也、四門ト云ハ四方ヲ開テ四方ニソノ賢者ヲ立テ、コレヲ招キコレニマカスルコレヲ四門ト號スル也、唐虞ノ聖代トイヘドモ、二十有二人ヲ撰デ天功ヲ亮ケ玉フハ得レ人ノ道タルベシ、周禮惟王建レ國、辨レ方正レ位、體レ國經レ野、設レ官分レ職、以爲二民極一ト云ヘリ、古本ノ聖賢人ヲ得ルコトヲ要トセザルコトナキ也、

○問云、世ニ聖德ノ賢者ハ不レ可レ有レ之ヤ、

答云、堯舜ノ大聖德、周公ノ才ノ美ト云ヘドモ、野無二遺賢一、三吐レ哺三握レ髮玉フハ、聖德ノモノヲ期シテ尋玉フニアラズ、一言ノ善一行ノ美、一藝ノ才アリト云トモ、必コレヲ用テソレ〳〵ノ用事ヲナサシムルニアリ、天下ハ萬機ノ政多ケレバ、何ノ役人何ノ職ト云テ、サマ〴〵ノ有司奉行更ニツクルコトアラザレバ、其人ヲ擧置テソノ道ニ通ズベキ人ヲ、其職ニ至ラシムルトキハ、コレ人ヲ得ト云也、凡ソ人ノ才主君ノツカイヤウニ因テ、下モ中ニ及ビ中モ上ニ至ルベシ、ソノ人君不レ明バ、上ノ才モ下ニ至リ、中下ノ輩ハ非才下愚ニナルコト古今皆然リ、サレバ人才ヲエランデ是ヲ擧導ニ大道ヲ以テシ、敎ニ禮儀ヲタヾサバ、人才日々ニ長ジテ上代ニ劣ルベカラザル也、後世ニ及デ治平永久ナレバ必ズ人君人ニ倦ガ故ニ、賢才美質アリトイヘドモ大異行アラザレバコレヲ用玉ワズ、次第ノ階級ヲ守テ官ヲ世ニス、是不レ得レ人ノ失也、人君ハ人ヲ養ヲ以テ人君タリ、人ヲ養コトヲ不レ得トキハ人君ト不レ可レ云、易曰、聖人養レ賢以及二萬民一トハコノコトナルベシ、古ノ亂世ニハ其國其所ニ各其才カシコキ者ヲエランデ事ヲマカス、是ソノ人惡トキハソノ國敵ニ侵ル、ガユヘニ、人ヲ不レ養ト云コトナシ、承平日久ケレバ能アルモ不能ナルモ、トモニ人君ノ威ニマカセテ事ヲ執行テ、下ノ情不レ通、ソノ上家

家ノ重代ノ者、子孫多シテコレヲ養ニサヘ倦テケレバ、外ノ養レ賢コトハ沙汰ニ不レ及體也、凡賢ト云ハ人ノ才知能物ニ通ジテ、其言行ニ大ナルアヤマリ無レ之ヲ賢德ノ人ト云ベシ、人ノ氣質不レ同ガユヘニ、ソノ知識聰明不レ同、其得タル處不レ會處アリ、人ハ同ジク人ナリトイヘドモ、一士ヲ以テ千士ニ敵スルアリ、一車ノ兵器一寸ノ鐵ニ不レ及ニ同ジ、コノユヘニ一士ニシテ千鍾萬鍾ノ祿ヲモウケ、匹夫ニシテ千乘ノ國ヲモ治ルハ、皆知ノ物ニアマネク、才ノ事物ニ通ズルガユヘ也、故ニヨク士ヲウルトキハ野ニ遺賢ナクシテ、國家ノ治平上古ニヲトルベカラズ、彼管仲・晏子・子產ガ政イマダ大器ニ不レ及ハ、ヨク人ヲ得テ大道ヲタヾサヾルノイヽ也、其人ニ非シテ其政ヲサヅクルヲ不レ勝二其任一ト云也、子曰、德薄而位尊、知小而謀大、力小而任重、鮮レ不レ及矣、易曰、鼎折レ足覆二公餗一、其形渥、凶言不レ任二其任一也ト出タルハコノ心也、タトヘバ一器ヲ作ルト云ドモ、其器ヲツクリナレタル工人ニ與ユレバ、勞スルコト無テ成功速也、此モノ細工ニ巧ナルコトヲ致スト云テ、其道ニ仕狎ザル者ニイタサセテハ似テ非ナルコトアリ、コレヲワキマヘテソレ〳〵ノ賢才ニ任ズルト云ヘル也、鄭ノ裨諶野ニ謀ルトキハ、ソノ慮アタル、朝廷ニテ評議スレバ不レ中ガユヘニ、子產必ズ裨諶ヲ野ニツレユイテ事ヲ談ゼリト云ハ、ソノサカシキニマカスル也、公子魏牟過レ趙、趙王迎レ之、反至レ坐、前有二尺帛一、且令二工人以爲一レ冠、工見二客來一也、因避、趙王曰、願聞下所二以爲一天下上、魏牟曰、王能重二王之國一、若二此尺帛一則國大治矣、趙王不レ悅曰、寡人豈敢輕レ國若レ此、魏牟曰、請爲レ王說レ之、王有二尺帛一何不レ令二前郎中爲一レ冠、王曰、郎中不二以爲一レ冠、牟曰、爲レ冠而敗レ之、奚虧二於王之國一而王必待レ工而後乃使レ之、今爲二天下一之工或非也、社稷爲二虛器一、先王不二血食一、而王不二以與一レ工、乃與二幼艾一ト、コレ皆ソノ人ヲ得テソノ職ヲ司シメザルノタトヘ也、子產ハ錦ヲ學製ノ戒ヲナシ、柳子厚ハ梓人傳ヲ作レリ、マコトニ政ヲサヅケンニ其人ヲ得ニアルコト可レ知也、

○問云、政ノ品萬機ト云ドモ、其ツヾマル處イヅレニカアルヤ、

答云、工匠家ヲタツルコトハ、必ズ曲尺ヲ以テ本トシテ、竹木ヲ制スルニ器ヲ以テス、天下ノ政事モ亦如

レ此、聖人ノ道ヲ以テ準繩トシテ、禮樂刑賞ノ四ヲ以テ器トス、此四ノ物堯舜モ用タマワザレバ、天下治ルベカラズ、桀紂モコレヲ用テ天下ヲ帥ユ、サレバ萬機ノ政ヲイタス器コレニマサルコトアラズ、古今皆コレニヨラズト云コトナシ、而シテ四ノ物ヲ用ユルニ其道ヲ以テセザルトキハ、其用コト〳〵ク違テ、大木ヲケヅヽテ小木トシ、小木ハコト〳〵クケヅラレテ用ニタヽザルユヘニ、唯榾屑ノミニナリテ用木トナラズ、又ソノマヽニ用ントスレバ、大小厚薄トヽノホラズ、疎密文質タガツテ甚固陋也、シカレバコレヲ用ユルコト其知ヲキワメザレバ其則ニ不レ中也、タトヘバ味ヲ調ルハ鹽ト酢ト酒トヲ用、天下ノ人ノ味ヲ調コト此物ニ不レ過シテ、其味ニ美惡アルゴトシ、又碁盤ニ石ヲ並ブルニ、上手モ下手モ碁盤一杯ニ石ヲナラベテ而シテ碁終ルガゴトシ、天下ノ政道君子小人トモニ、皆禮樂刑賞ヲ用テ一世ヲワルトイヘドモ、其善惡明暗ハ何方ニアルコトゾト尋ヌレバ、前後過不及ノ間ニシテ、唯其知ヲツクサヾルガユヘニアリト可レ知也、次ニ政ヲナス事能時務ヲ可レ知也、勢ト云ハソノ時代ニ當テ、專世俗ニ弄テ此事盛ナルト、又久シク衰テ時ニ不レ合沈淪イタセルコトヽ、是皆時勢也、タトヘバ莨菪ノゴトキ、飲食ノ便ナク醫藥ノ能アラズシテ、皆天下ノ人大小男女コレヲ賞シテ酒食ニ比ス、故ニ天下ノ民農田ヲヤメテ是ヲ作リ、以テ利ヲ逞クス、或酒ノ爲レ物多ハ人ヲシテ狂亂セシメ害ヲナスニ至レリ、或ハ茶ノ爲レ物其費甚多シテ、器ヲ弄シ心ヲ喪ニ至テ、各天下ノ重物トナツテ家々コレヲ賞シ、人々コレヲ貯、其費不レ可二擧云一ト云ドモ、是ヲトヾメヌル事俄ニナリヌベキニ非ズ、是勢ト可レ云也、飲食器物草木ニ不レ限、世間ニ皆勢トナツテ不レ得レ止コトアレバ、コレヲ考ヘテ其始メヲ制シ、ソノ終ヲ禁ズルゴトク心ヲ可レ付也、俗學利口ノ輩、勢ヲ不レ知シテコレハ道理ノナキコト也、道ノ不レ立コト也、然バ急ニトリヒシガバ乃ヤムベキト、一片ニ存ズルヲ以テ政令嚴ニ過、人民悉ク苦デツイニコレヲ留ルコト不レ能ガユヘニ、却テ彼ガ勢彌盛ニナルコトアリ、大火ヲ消ニ小水ヲカクレバ、火彌盛ナルニコトナラザルト可レ知也、次ニ風俗ヲ考フベシ、政ノ是非ハ風俗ノ善惡ニカヽルコト也、故ニ四民ノ風俗ヲタヾスヲ以テ政ノ要トスベシ、風俗ト云ハ遠ヲ追舊ヲ慕テ時

ノ勢ヲ事トセズ、卑シキヲメグミ弱ヲタスケテ不能ヲアワレム、コレヲマコトノ風俗ト云、下コノ風俗アルトキハ遺レ君棄レ親ノアヤマリ不レ可レ有レ焉ナリ、政以レ愛レ人爲レ大トハコノ心ナルベキ也、利ヲ逞シクスルコトヲ專トスルトキハ、巧言令色ノ俗多シテ、不レ奪バ不レ厭ト云ニ至リヌベシ、禮曰、朝廷敬レ老則民作レ孝、脩ニ宗廟一敬ニ祀事一敎ニ民追孝一也、以レ此坊レ民、民猶忘ニ其親一、

○問云、風俗ヲ巧言令色ニ至ラシメザル政アリヤ、

答云、人君能實ヲ正ストキハ、下ニ巧言令色アラズ、凡ソ天下ノ大小人トモニ人欲ノ情皆同ジ、故ニ下皆上ノ好ム處ニ從テ此言行ヲナス、サレバ利口ヲ貴バ下皆口ニ利、默淨ヲ貴バ下皆沈默ス、楚王細腰ヲ好デ宮中ニ餓死多シ、城中好ニ廣眉一四方且半額、城中好ニ高髻一四方高一尺、城中好ニ大袖一四方全ニ匹帛一ト云ヘリ、上ニ好ンデ行玉フ政、乃下ノ俗ナルコト甚速ナリ、凡ソ末世ノ俗人ヲ知ルノ明薄ガユヘニ、必ズ人ノ毀譽ヲ以テ或ハコレヲ擧、或ハコレヲ退ク、コノユヘニ人ニ譽ラル、ゴトクコシラフルニナレリ、人多ク無知ノモノナレバ其目ニヨシトミセ、ソノ耳ニヨシトキカセンコト甚ヤスシ、故ニ奸是ニ利ヲ得テ、上ヘ能近ヅク輩ノ前ニテ巧言令色ヲカマヘ、ソノ譽レヲ上ヘ通ゼシム、或ハ一年二年半年ノ間、行儀ヲ正シ作法ヲ嗜デ人ノ譽ヲ求ム、上ノ奉行人ツイニコレニ詐僞セラレ、コレヲ擧用セシムルニ至ル、如レ此ナリ行トキハ下皆譽ヲ事トス、コレヨリ人才皆輕薄ニ陷テ、風俗日々ニ衰フル也、賢者ハコレヲミテ彌權門ニ遠ザカリ、君子ハ德ヲクラマシテ身ヲ退、コレツイニ國家頽敗ノ基ナリ、コヽヲ以テ云バ人君ノ人ヲ用ルコト其實ヲ詳ニスルニアリ、次ニ當分用ニ立利アルコトヲノミ先トシテ、先忠舊功アリトイヘドモ、當分ソノ身病者ニナレルカ、年老テ隱居逸人トナレルカナドノ輩ヲバ棄テ不レ顧トキハ、人皆コノ風ヲヨシト存ジテ皆利ニ走テ本ヲ棄ル也、古ノ人ハ乘レル馬ツカエル牛ヲモ久シク用ニ立テ、後ハ役ニタヽザレドモ、必ズコレヲ養殺ニシテ以テ棄ルコトヲセザルト云ヘリ、是皆俗ヲ厚クスルノ實也、人君ハ寛仁大度ヲ以テ本トス、御家人ノ輩ハ不能不才ナリト云ドモ、コレヲ棄玉ハンコトハリアラズ、況ヤ先忠先功ノ輩當時用アラズト云ドモ、病者ナリ老人ナリトテ棄置玉ハ

バ、タレカマコトノ實ヲ盡サンヤ、今ノ若キモノ皆フリユキ今ノ無病ナランモノ、ツイニ病ツカザランヤ、昔東坡猫犬之說ヲ作テ云、養レ猫以捕レ鼠、不レ可三以無レ鼠而養二不レ捕之猫一、畜レ犬以防レ姦、不レ可三以無レ姦而畜二不レ吠之犬一ヲアヤマリナリト云ヘリ、コレハ其職ニ居テ其事ヲツトメザルヲ云ナルベシ、若コレヲ公論トセバ其言ニ弊アリ、不レ捕ノ猫不レ吠ノ犬ヲモ不レ棄シテコソ、人君ノ寬仁トハ云ベシ、無用ノ物ヲカワザルト云ハ人君ノ道ニアラズ、唯不レ賞二無能之人一而已、如レ此禮ヲ盡スト云ドモ、人民ヤヽモスレバ利ヲ先トシテ本ヲ忘ルヽニ至ルモノ也、次ニ人君ソノ大綱大義ヲ以テ下ヲ正シ玉フテ、小節小事ヲバコトゴトク其役人ニマカセ、其役儀年月ヨクツトメテ職分アキラカナランヲバ、賞ヲアツクシテ猶ソノ職ヲツクサシム、職分不レ明トキハコレヲ敎テタヾシ、職分ニ私アラバ戒テツヽシマシメ、私ノカサナランニハソノ品ニヨッテ罰スルモアリ、職ヲサケテ別事ヲツトメシメテ其志ヲ考玉ベシ、自諸ノコトニ心ヲ付テコレヲナシ玉ハントアラバ、セワ〱シク勞シテ功スクナキニ至リヌベシ、タトヘバ大工ノ棟梁ヲイタス者ハ、曲尺繩墨バカリヲ所持シテ大工道具一色モモタズ、諸ノ材木コト〲クソノ下ノ大工ノ才ニマカセテ、或ハアラ木トリ或ハ眞ノケヅリヲナサシム、コレ良工ノ群工ヲツカフ道也、天下ノ政事モ如レ此アランニハ、大小ノ綱紀明ニ立テ人君無爲ノ化ヲコナワルベシ、シカルニ事煩シクシテ利口ニワタリ、世間何トナクイソガワシク、ソノ職ニ居ルモノ小善アレバ忽職ヲウツシ、位ヲ高クスルガユヘ、ソノ職ニヲルモノ各コノ職ヲコエテ、上職ニ至ランコトヲ願、ソノ郡ソノ地ヲ治ルモノハ、又加祿ニヨッテ他ノ郡國ニ主タランコトヲ思フゴトク、各利ヲ先ニス、コレヨリ執政奉行ニ媚ヲ求メテ利ヲ逞シクセントス、ココニヲイテ執政奉行ヘノ往來不レ止ガユヘニ、執政モ奉行モ客來ノ出入ニ會釋シテ暇ナク、當用ノ政務ハ次ニナリヌ、是風俗ノ薄ク人々利口ニワタルユヘンニ非ヤ、サレバ風俗ヲ正スルコト能綱紀ヲ正シ、條目ヲ詳ニシテ禮樂賞刑ヲ明ニスルニアル也、

○問云、政ノ寬猛イヅレヲ是ト定メンヤ、

答云、寬猛論、昔鄭子產有レ疾、謂二子太叔一曰、我死子必爲レ政、唯有レ德者、能以レ寬服レ民、其次莫レ如レ猛、夫

火烈、民望而畏レ之、故鮮レ死焉、水懦弱、民狎而翫レ之、則多レ死焉、故寛難、疾數月而卒、大叔爲レ政、不レ忍レ猛而寛、鄭國多レ盜、取ニ人於萑苻之澤一、大叔悔レ之曰、吾早從ニ夫子一不レ及レ此、興ニ從兵一以攻ニ萑苻之盜一、盡殺レ之、盜少止、仲尼曰、善哉、政寛則民慢、慢則糾レ之以レ猛、猛則民殘、殘則施レ之以レ寛、寛以濟レ猛、猛以濟レ寛、政是以和、詩曰、民亦勞止、汔（ホトンド）可ニ小康一、惠ニ此中國一、以綏ニ四方一、施レ之以レ寛也、毋レ從ニ詭隨一、以謹ニ無良一、式過ニ寇虐慘不レ畏レ明一、糾レ之以レ猛也、柔レ遠能レ邇、以定ニ我王一、平レ之以レ和也、又曰、不レ競不レ絿、不レ剛不レ柔、布レ政優々、百祿是遒、和之至也、予嘗爲ニ寛猛之辨一曰、寛有レ所レ施、猛有レ所レ用、一寛一猛必敗、蹇解損益相受是也、凡春善之長、草木甲拆蟄啓レ戸、以萬物向レ陽、然朝市之蒼蠅可ニ以憎一、夕市之蚊虻可ニ以畏一、橘之蠹、草之蟚（ケムシ）、牆壁之蜘、醯醢之、、蝗捕レ蟬、蛐呑レ蛙、其吸レ花食レ葉、傷レ實蠹レ木、以相殘、況食之早饐、魚之病餒、是緩必有レ所レ失、故受レ之以レ損也、易序卦曰、解者緩也、緩必有レ所レ失、故受レ之以レ損也、政之寛亦然、佞姦興而賊レ德、讒諛行而塞レ明、豈如ニ昆蟲之可レ惡、今秋風一起、萬物向レ陰、乃草木堅牢而昆蟲蟄、及ニ履レ霜堅氷至一、夫紛々擾々一不レ見ニ其迹一、損而不レ已必益、故受レ之以レ益也、蓋天地之道寛仁資レ始、利貞以レ次、四德互レ根、終始以環、而萬物遂ニ其生一也、嘗夫子聞ニ子産之寛猛之說一、決レ之以レ和、噫大哉、聖言和、是寛猛之相和而不レ偏也、以布レ政也、優々百祿是遒、

○問云、國家恒例ノ政、ソノ本如何、

答云、政ハ天下ノ事也、天下ノ事ハ天下ノ人民ノ相アツマッテ致スワザコレ也、シカレバ能人情ニ通ジテ其所レ好其所レ嫌ヲ考ヘテ、好ムベキコトヲ立テ嫌フベキコトヲ備ヘ防グベシ、人ノ氣質不レ一ガユヘニ、其好惡不レ同トイヘドモ、考ニ人情一在ニ其恒與レ咸也、其從ニ其衆情一其有ニ知識之情一ニテ此ヲ制ス、コレ以レ人治レ人ノ道也、人ノ事物多トイヘドモ、詳ニ其實ヲキワムルトキハ、人生一期ノ間事物禮用尤明ニシルベシ、コトニ古今相續シ來テ其損益スル所不レ可レ掩、故ニ其因循損益スル處ヲ考ヘテ、ソノ道ヲ出ス、是恒例ノ政務也、人君安ニ居テ其慮ル所不レ詳ガユヘニ、恒例ノ政事不レ明シテ、其政不レ正ニイタルナリ、而シテ民間ニコレヲ命ジフレ流シテシラシムルコレ令也、令ハコレヲ風ニ譬フ、四時ノ轉化必ズソノ時ヲ司ル

處ノ風、四海ヲ渡テ萬物ニアマチシ、人君政事モ四方ヲ考、ソノ急務ヲハカツテ民ノイマダ事ニヲモムカザル以前、乃コレヲ命ジコレヲ示シテ、其志ヲヲコシ、其ツトメヲナサシメ、其災害ヲ除是風ノ萬物ニアマチキニコトナラズ、サレバ周易ノ巽卦ニヲイテ、專申レ命行レ事コトヲ論ゼル也、天子ノ政ハ天地ヲ以テノリトシ、人物ヲ以テ此ヲ試ム、マコトニ疑ベキ處非ザル道也、故ニ其時々ノ時宜ヲ考、其機ニ從テ早ク命ヲ施ニアルコト也、コレヲ恒例ノ政事ト可レ云也、

○問云、人多ハ無レ知、況ヤ農工商ノ三民ハ、中ニモ物ノワキマヘアラザレバ、淫欲游覽ヲ以テ安トシ、コレヲ以テ樂トス、此情ニ從ハン事ハ、政ノ正ニハ不レ可レ有ニ似レリ、

答曰、人ノ情ニ通ズルト云ハ、此ノゴトキコト也、タトヘバ今人ノ云コトヲ考ヘンニ、若輩ノ者ノ云コトハ、皆上氣ニシテ或好ニ闘諍一、或好ニ逸樂一、ソノ內ニ正シキコトヲ云モノアリトテモ、コレヲ恃ニ致シガタシ、又至テ老人ニナリテ、既ニ家ヲ子孫ニワタシ、ソノ身ハ隱遁閑暇ノ者タレバ、是又ソノ云コト信用イタシ難シ、シカレバ家室ヲモチ子孫下人ヲ持テ、身ヲモチテ世ヲワタル、年壯ナラン者ノ云コトヲ以テ、ソノ言ヲ信ズベシ、タトヘバ天下ノ人情ヲ知ト云コトコノ心也、天下ノ博ク人民ノ衆、コト〴〵クコレヲ尋テソノ情ヲ知ランコト更ニ益ナシ、故ニ鄕里其町其所ノ人ノ下知ヲモイタシ、其サシ引ニ人ニ付ベキ者ノ情、コレ人ノ情ト云ナルベシ、此情ヲ能知テソレニ應ゼザレバ、政事通ジガタキ也、而シテ人皆淫亂游宴ヲ事トスルコト、是天下ノ愚民ノ通情ナリ、コレヲ防テ淫亂ナキゴトク、游宴ナキゴトクト云コト更ニ無レ之、歌舞游曲モイタシツベシ、游山翫水ヲモナシツベシ、折ニフレテ女色ヲ弄、風流ヲナス事モ少モ不レ苦事也、政正トキハ民コレガタメニ身ヲ失ヒ、コレガタメニ家ヲヤブリ、コレガタメニ大義ヲ亂ルコトアラザルモノ也、其故ハ國家恒例ノ政正シキガユヘニ、國ニ無レ業ノ民ナシ、有德富有ノ民ノ子弟ハ、其ノ分限ニ從テ藝術ノ師ヲ定メテ、コレニソノ道ナラワシメ、年既ニ可レ爲ニ其業一トキハ速ニ其業ニ入テコレヲナサシム、如レ此トキハ民ニ暇アラズ、或一月二月ニ家業ノイトナミノイトマアルカ、或ハ祝儀喜アルカ、或ハ花ノ時月ノ夕ニ各一種一瓶ヲタヅサヘテ

ソノ樂ヲナシ、其情ヲ安ゼンコト、マコトニ民ノ眞樂コレニコユルコトアラズ、若無作法度カサナリ、女色酒狂家ヲ失ニイタランハ、其親族コレヲ戒メ、其朋友コレヲ規シテ、ツイニ不レ已トキハ身ヲ失ヒ、家ヲ亡スコトアリトテモ、政ノアヤマリニハアラザル也、凡ソ政道如レ此ヲ以テ利二其利一樂二其樂一ト云也、游宴ハアルベカラズ、風流ハ好ムベカラズ、下凡ノ民間幼稚ノ童體マデ道ヲ事トシ、書ヲヨミ文ヲソランジテ高聲小歌ヲモ不レ仕、コレ風俗ノ正シキナリト思フ輩ハ、俗儒ノ意見末代ノ利口ニシテ、甚不レ通二人情一ノユヘ也、コレ宋儒新レ民ノ心ナリ、人ノ情一家ノセバキト云ドモ、コレヲ用イガタシ、不レ用ニハアラズ、其法嚴ナレバ用トイヘドモ永久ノ道ニアラズ、人々欝氣朧蒙シテ若年ノ者ハ氣クジケ、壯年ノ者ハ癆ス、コレ皆人情ニ不レ通ガユヘニ、出ル水ヲ手ヲ以テ防グニ同ジ、當分フセガル、トモツイニハヤブレテ大ナル害トナルベシ、一家スデニ然リ、況ヤ一國ヲヤ、況ヤ天下ヲヤ、次ニ人富有ニシテ暇アルガユヘニ、必業ニヲコタル、業ニヲコタルガユヘニ必游樂ニ過、コレ瘠土ノ民ハ向レ義ノコトワリナレバ、孟子モ民事不レ可レ緩トイヘリ、三民家ヲヤシナフノ制、必ズ詳ナルベシ、富有ノモノハソノ財ヲ散ジ、貧モノハ家ヲ養ニタレルゴトク、政道ノ趣ヲ可レ存也、コレヲ政ノ平ナルト云也、タトヘバ地ヲ平ニスルニハ高ヲ取テ卑ニミテシメテ、始テ平也、民ノ情モ亦然リ、コノワカチヲ不二心得一シテ政ヲナストキハ、高下ノワキマヘナキガユヘニ、高キ處彌タカクナリテ、下處ノウマルコトナキガユヘニ、富ハ益富テ貧ハ益貧也、唯人情ノ實ニ不レ通ガユヘ也、

○問云、事ノ變アラントキノ政如何、

答云、政ハコトノヲコラザル前ニアラカジメ設ガユヘニ、變ニ及テ惑コトアラザル也、サレバ今ノ俗語ニ天下ノ政ヲ仕置ト號ス、是古ノ所レ謂備也、書云、有レ備無レ患トイヘリ、難易有レ備可レ謂レ吉トイヘリ、凡備ト云ハ詳ニ考ヘテ、事物トモニ手ヲツクコトナク、預辨フルコト也、中庸事豫則立、不レ豫則廢、言前定則不レ跲、事前定則不レ困、行前定則不レ疚、道前定則不レ窮ト云ヘルハ、備フベキ道ヲ明ニスル也、次ニ事ノ變ハ難レ計ニ似タリト云ヘドモ、古今ノ間天下ニ有來ル處ノ變化、是又定レルコト也、天變アリ地變アリ人物ノ

變アリ、天變ヲ考地變ヲツモリ、而シテ人事萬物ノ變ヲ考レバソノ變明ニシテ通ズ、但天地ノ道ハ遠シテ定レル故ニ、其變コレヲ計ルニヤスクシテ、變又多カラズ、唯人事ノ變近シテ多シ、シカレドモ情ヲハカツテソノ變ヲ推トキハ無レ不レ明、聖人易ヲ畫シテ天下ノ變ヲ考フルコト、八ニ不レ出、而シテ其末六十四ニ畫セリ、故ニ人君心ヲツクシテコレヲ察シ、其變ノ不レ來ゴトク思慮アツテ、變來ルトキハ是ヲ防是ヲ守テ能正シカラシムル、コレヲ政ト云也、サレバ恒例平生ノ政ニ乃制レ變ノ仕置ヲ含、文武剛柔相備、コレマコトノ政道ト可レ謂也、次臨事ノ政アリ、コレハ定法ニアラズトイヘドモ、時ニ取テ其急ヲ治スルノ道也、コレ聖人ノノ玉フ權也、中知ノ者ハ必ズコレヲ行ガタキガユヘニ、政泥テ民倦事多シ、臨レ機應レ變ノ道其知ヲキワメザレバ難レ通コト也、愚者ハコレヲ不レ知ガユヘニ、イツモ定法ニアラザレバ、難レ叶ノミ存スル也、譬バ病人ニ急病アリ、長病アルガ如シ、良醫ハコレヲ考ヘテ急治ノ病ハ一味二味ノ妙藥灸針ノ治ヲ以テス、下醫ハコレヲ不レ知シテ妙藥ノ事醫經ニコレヲアラワサズ、不レ足レ用ト云ガ如シ、治道モ亦如レ此、時ニ臨デ致ス處ノ政道、其用捨人君ノ作略ニアツテ、尤心ヲツクシ玉フコト也、

○問云、萬民ノ悦ブゴトキ政平生コレヲ用ニハ、如何イタセル政ヲナシテ可乎、

答云、萬民苦トキハコレヲ安ジ、悲トキハコレヲ悦シムル是政ノ道也、常ニ人ヲ悦シムルコトハ堯舜モコレヲ病タリ、若コレヲ悦バシメント欲セバ、必ズ政ニ害出來ルベキ也、凡政ハ民ノ情ヲシテ平ナラシメテ、無レ思無レ爲ヲ以テ治世ノ極トス、カレヲ常ニ悦コバシムルコトハ、或ハ財ヲ與ヘテ利ヲ逞クシ、或ハ酒肉ヲ送テ悦ヲナサシムルノミ也、天下ノ民ツネニ豈可レ如レ此ナランヤ、コレ利ヲ以テ民ヲ治ルノ道ニシテ、マコトノ政ニ非トシルベシ、恒例ノ政ヲ正シ法ヲ明ニシテ悠然タラシメ、ソノ事淹滯スル處アラバ、コレヲ解テトヾコホラザラシム是政也、民ノ悦モ又民ノ苦ミ困(タシナム)モ、共ニ一物ノ出來テ、民ノ情常ニアラザル也ト可レ知也、

○問云、民ノ情ヲ詳ニタヅネサセ、ソノ情ニシタガフ政コレヲ實ト云ベシヤ、

答云、民ニ一々ノ情ヲ問テ政ヲナスハ、民ノ欲ヲ逞シ

テマコトノ政ニ非、凡ソ民ヲ制スルト制ニ于民ニトノ心アリ、專民ニ從ハント云ハ制ニ于民ニ也、サレバ良君ノ政ハ常ニ民ノ情ニ先テ政ヲ立テ、而シテ民ノ情ヲ計ル、コレ民ニ勝所アリ、又負ル所アルナリ、中主ハ常ニ勝コトヲコノム、故ニ民ノ困ヲ不レ詳、昏主ハ常ニ民ニ負ク、コレ制ニ于民ニ也、凡ソ人富トキハ必道ニソムク、況ヤ無知ノ民欲ヲ縱ニシテ利ヲ豐ニスルトキハ、己ガ家ヲ潤コトヲモ不レ得シテ、飲食ヲ事トシ無道ヲ存シ、私ノ奢ヲキワメ、其郡縣ノ俗大ニタガフモノ也、サレバ子產曰、民ヲバ不レ可レ逞トハコノ心ナルベシ、政一タビ民ニ制セラルレバ、民勝テ上ヲ輕、令出トイヘドモソムクモノ多シ、惣テ政道ハアラカジメ其ノリヲ正シテ、其道ヲ不レ盡バ、事物ニ悶ユルコト多シテ、政度々アラタムル事多シ、是事物ニ制セラレテ事物ヲ制スルコト不レ能ト云ノ心也、然レバ民ノ情ヲ一々キイテ正スト云ヲヨシトスルニ非也、

○問云、民ニ問テ政ヲ致バ、民ニ制セラル、ナリト云コト、其旨承知スルニ似タリトイヘドモ、古ヨリ詢ニ於芻蕘ニト云ヘリ、又天下ノ事物千變萬化ナリ、コレ豫知テ政ヲ立ガタカラン、然レバ時ニ取テ事物ニ慣テ致スコトアルベシ、必ズ事物ニ制セラレジト云ハンモ、偏ナルベシヤ、

答云、古人君ハ能問レ民故不レ問、ソノユヘハ民ノ事能心得テ民ヲ制スベキ司ヲ立テ、是ニ民ノ事ヲマカセ民ノコトヲ問、コレ能民ニ問也、民ノ事ヲ不レ知シテ民ニ問トキハ、民ノ詐僞不レ可レ察ナリ、サレバ民ノ情ニ通ズルト云コトヲ心得ソコナヘバ、誰ナリトモ方方ヘ遣シテ、民ノ口ヲキカセ尋ネサスルコト、存ズル也、民コレヲ心得テ問者ニ己ガ實ヲ不レ告、コトニ民ソノ苗ノ碩ナルコトヲ不レ知ガユヘニ、イツモ民ノ困究ノ如ク云モノ也、問者ワケヲ不レ知シテ民ノ身ノクルシク、其食物ノアシク家宅ノ四壁ノミ立テ、マコトニアサマシキ風情ナランヲ見テ、サテハ民飢ニノゾムト心得ル、人君亦コレヲ信ジテ時ヲハカラズシテ惠ヲナス、惠マジキニ物ヲ與フルハ、皆民ヲ害スルナルコトヲ不ニ知玉ハ、コレコト〴〵ク民ニ制セラル、也、ソノ上民亦人也、コノゴロ俄ニ出來レル民ニ非ズ、往古ヨリ今ニアリキタレル民ナレバ、事新シク今人々ニ問ニ不レ及、古ノ人ヨク問テ考キワメテ知レル、ソノ道ニ從テ行ガユヘニ、別ニ尋ヌベキコトアラ

ザル也、詢二于芻蕘一ト云ハ如レ此コトニアラズ、我可レ行道ヲ詳ニ立テ猶自滿リトセズ、人ノ申サンコトヲモ考謀テ、コレヲ不レ棄ト云ヘルコト也、次ニ變ノコト前ニ云ゴトク、天地ノ變ハ定テ遠シ、人ノ變ハカリガタシト云ヘドモ、是又誠ヲツクシテ類ヲ推トキハシレズト云コトナシ、タトヘバ大風・大水・地震・雷落・大旱・火事如レ此コトハ定テ有レ之テ唯暫時ニシテ止モノ也、サレバ廣原ニ居大河ノ邊海邊ニヲルモノハ、大風大水ヲキヅカイ、人多ク家ツマリ事シゲキ地ニハ必ズ火事出來ル也、地震アッテ人ソコヌルコトアリ、春夏ノ雨ニハ雷必ズ震、高原ニシテ川少山遠ケレバ必ズ旱ニアフ、皆定リタルコトナリ、是ヲ防グノ政コレヲ備ルノ仕置アルトキハ、少モヲドロクコトアラズ、人ノ變ハカリガタシトイヘドモ、天ヨリフリ、地ヨリワク事ニ非ズ、政正シキトキハ變アッテヲソル、ニ不レ足、況ヤ時ノ闘諍喧嘩ニヨッテ、當分ノ出入更ニ變ト云ベカラズ、シカラバ何事ノ俄事アリトテモ、聊コレニ制セラルベキ所アラザル也、是又古今天地人物ノ變アッテ、舊紀ニアラワレ人口ニアルコトナレバ、知ガタシト云ベキニ非ズ、或天ニ變

雲變星出、或地サケ山鳴、或ハ人ニ妖人化人出來ルト云ドモ、コレ政事ニサ、ワルコトニアラザレバ、政正トキハ沙汰スルニ不レ及コト也、凡人ノ知惠ノ深重ナルコト天不レ言トイヘドモ、日月星辰ノ運行閏月蝕算タレカコレヲ天ニ問ハンヤ、然レドモ其迹ニヨッテ其道ヲサグルトキハ、千歳ノ日至モイナガラニシテ、可レ知ニイタルコト可二以考一レ之也、是ソノ實ヲ以テハカルガ故ニ、其道明ニシテカクル、處アラザル也、

○問云、天地ノ變政ノ善惡ニヨッテ、アラワレザルト云コトアリヤ、

答云、中和ヲキワムルトキハ天地位シ、萬物育スルノコトワリナレバ、天地ノ變自ヤムベキコト定レルコトワリ也、但シ天地陰陽ノ和、過不及ノコトアリテ、天地ノ變生ズト云ドモ、明主賢君ノ時ハ民ソノ害ヲ蒙ルコトアラザルナリ、ソノユヘハ國ニ蓄多シテ賑恤ノ政ヲコナワレ、不足ヲ補患ルヲ救、故ニ民ソノ害ヲノガルト可レ知也、愚主昏君ノ時ハ天地ノ變アラワレザレドモ、民ニ菜色不レ絶餓莩野ニミチテ、乞食非人道ヲサヘギル、是政ノ是非ニアッテ天變地變ニヨラザルト可レ知也、但シ天ノ變地ノ變ハ、人君ナラズ

シテ是ノ責ヲウクベキユヘナシ、人君ハ天地ヲ父母トスルヲ以テナリ、シカレバ天變地變ニ因テ、彌人君自ノ身ヲ愼デ政ヲナシ玉フハ、コレ戒ノ道也、昔晉昭公四年、大雨レ雹、季武子問二於申豐一曰、雹可レ禦乎、對曰、聖人在レ上無レ雹、雖レ有不レ爲レ災、云々、コノ心ヲ云ヘル也、天地ノ變計ニアラズ、タトヘ人ノ變大ニ起ルト云ドモ、政道正トキハ天下ノ元氣ツ子ニ强シテ、コレヲ事トスルコトナシト可レ知也、凡ソ天地ノ變ハ天地ノ氣ニヨツテ感ズ、コノユヘニ人ニ應ズルコト遠シ、只人ノ變ヲ考フベシ、人ノ變ト云ハ風俗利ニハシリテ本ヲ弃、或ハ儉ニ過或奢ヲ事トシ、世ニフシギノ草木、波佐羅ノ謠歌、非人餓莩公事訴訟等ニツイテソノ變ヲ考、コレヲマコトノ人變ト云、コレ至テ近ク察スルコト人君ノ心ニアルコト也、此變ヲ遠ニ不レ治トキハ、大變來テ可レ治ニ術ナシ、マコトニ木ノ葉ノ落ルガ、下ヨリキザシツワルニ堪ズシテ、落ルガゴトシト云ヘルモコトワリ也、物之漸非レ不レ愼也、

○問云、人君治二天下一玉フニ其則ト定メ玉フ所有ヤ、

答云、群臣ハ天子ヲ以テ則トシ、天下ノ人民ハ群臣ヲ以テ則トス、人君ハ天地ヲ本トシテ先君ノ治ヲ則トス、其ノ則更ニ不レ遠、以レ柯伐レ柯ニ異ナラザル也、故ニ事ノ重大ナル事天下ニ不レ超シテ其則上一人ニ出ヅ、マコトニ廣シテツヾマヤカニ、大ニシテ小ナリト可レ謂也、凡ソ政ハ正也ト聖人此ノリヲ出シ玉レバ、人君ノ言行知識ノ正シカランニハ、其下ノ群臣佞奸自去テ賢知日ニ新ナルベシ、群臣ノ賢知明ナランニハ、天下國家ノ間皆コレヲノツトツテ、其俗自化スベキ也、然ルニ正ト云ハ無欲ニシテイサギヨク、行儀作法ヲタガヘズ、言必信アリ行必果ス、是ヲ正ト云ニハアラズ、古ハ皆是ヲ儀ト云、儀ハ形ノ作法サダマリテ動容周旋ノ見事ニ、其志潔白ニシテ僞所アラズ、實ニ質素ナル類是也、是ヲ正ト云ニハ非ズ、正ト云ハ四方ナル處ハ四方ナルノリニテ正シクナリ、圓キ所ハ圓キノリヲ以テ正シクマガル所ニハマガルノリ有テ、正直ナル處ニハスグナル處ノノリ有テ、正コレヲ正ト云也、天下國家ノ萬機曲直順逆方圓生殺文質サマザマノ事多ガユヘニ、唯一樣ニ存ジテ、或ハ直或ハ方或ハ順或ハ生或ハ質或ハ文ト存ズルハ、皆コレ一著シテ自由ナラザル也、各其時宜ニ隨テ其則ヲ立ル、是乃人君ノノリト可レ謂也、古人云、唯則定レ國、詩云、不

レ識不レ知順二帝之則一、又曰、不レ借不レ賤、鮮レ不レ爲レ則、
○問云、楊子曰、大器其猶二規矩準繩一乎、先自治而後治レ人、コレノリノ本意ナリヤ、
答云、楊雄此論先儒皆謂言得レ好也ト、愚謂、此語似レ通テ未レ審所アリ、人君ハ規矩準繩ノゴトクナリ、先自治而後治レ人トイワンハ、尤其理通ズル也、大器ト云ハ聖人ノ大道治國平天下ニ至ルワザ、コレヲ以テ大器ト云、然レバ治國平天下ニ至ルノ則ハ、事物ニヲイテ各其規矩準繩トナルベキノリヲ立テ政トス、故ニ天下ノ人コレニヨルトキハ、無レ不レ明、コレヲ大器ノノリトス、是乃聖人竭二心力一立ル處ノノリナリ、此則一タビ立テ久シク行ル、トキハ、後末ノ人君德薄知輕トイヘドモ、人々コノ則ニヨルガ故ニ垂二衣裳一テ行ル、タトヘバ規矩準繩アルガ故ニ、其細工人自身ハヲサマラザレドモ、木竹ヲ規シ改ニハコレヲアテ、不レ違ニ同ジ、專自治ト云ハ百ノ有司一々明德ヲ明ニシテ而后ニ事物ヲタヾスニ似タリ、是小器ニシテ大器ニアラズ、一身一家ヲヲサムルト、國郡天下ヲ治ト似テ異ナル處アリ、一劍ヲ以テ一人ヲ敵スルト、三軍ヲヒキイテ萬卒ニアタルト、似テ不レ同ガ如也、

○問云、然バ上古ノ聖人ノ治ヲノリトシテ、コレヲ學ビ似センニハノリト可レ成乎、
答云、ソノ品ニ因テ可ナルモアリ、不可ナルモ可レ有、一樣ニ究メガタシ、其故ハ時宜ニシタガイ、風俗人民ニ應ジテコレヲ用ユ、タトヘバ夫子ノ門人仁ヲ問、政ヲ問ニ、其人ニヨッテ敎タマフガ如シ、サレバ舜ハ堯ヲツイデ天下ヲ治メ玉フトイヘドモ、舜ノ政ハ堯ノ時ニ同カラズ、湯武ハ同ジク征伐ヲ以テ天下ヲ知玉ヘドモ、湯武ノ政不レ同、シカレバイヅカタヲ取テノリトシ、是ヲ似セテ政ヲイタスベキト云コト不二分明一也、天下ハ大器ナレバサテヲキヌ、一人ノ上ニヲイテ聖人ノ言行ヲ似セテイタサバ、皆其法シカルベシ、然バ聖人ノ言行ヲ能ヲボヘタラン輩ハ、皆聖賢ノ用ニ似ベキコトニシテ、一人モ是ニ似ル者アラザル也、況ヤ國家天下ノコトハ不レ及二沙汰一也、昔鄭ノ子產國政ヲヨク執行ケレバ、鄭ノ執政ナリシ子皮吾家ノコトヲモ子產ニ聞テ、執行テント云ケレバ、子產曰、人心之不レ同如二人面一焉、吾豈敢謂三子面如二吾面一乎トイヘリ、コ、ヲ以テ云バ、唯詳ニ其事物ヲ盡シテ而シテ其時宜ニ相應ノコトヲ以テ今日ノ政ニ可レ用

也、ナベテコレヲマナバントハ云ガタキ也、
○問云、孟子曰、欲レ爲レ君盡ニ君道一、欲レ爲レ臣盡ニ臣道一、二者皆法ニ堯舜一而已矣、コノ言ヲ以テセバ、ソレ乃堯舜ヲ以テノリトスルノイヽニアラズヤ、
答云、堯舜ハ聖人ノ治ヲキワムルノ極也、聖人ハ人倫之至ナリ、故ニ堯舜ノ知德アルトキハ堯舜ノ政アリ、堯舜ノ知德ヲバ不レ學シテ其形事ヲ學ントセバ、コトゴトクノリトスル處不レ可レ正也、コレノリニ不レ在、夫子ノ大聖ナルモ堯舜ヲ稱シテ周公ヲ學ンコトヲチガイ玉フ、是唐堯虞舜ハソノワザ遠久ニシテ、周ノ時宜ニ悉カナフベカラザレバ也、サレバ中庸ニ仲尼祖ニ述堯舜一憲ニ章文武一ト出タリ、祖述ト云ハ道德聰明ノ太祖、堯舜ニ出ベカラザレバ、コレヲ始トシテ其事ヲノベテ本トナシ玉フコト也、憲章ト云ハ周ノ政ハ近クシテ可ニ考見一レ之ナレバ、周ニヲイテハ文王武王ノ政事ヲ以テノリトシ、コレヲ明ニ致シテ以テ今日ノ用トイタスノ心也、祖述憲章ノ兩句マコトニ末代ト云ドモ、ソノ本ヅク處ソノノリトスル處、此間ヲ不レ可レ出也、然レバ祖述ハ道德聰明ノ本ニカヽリ、憲章ハ禮樂刑政ノ事ニカヽルベシ、如レ此ノコトワリヲシラズシテ、專聖賢ノ言ヲワキマヘズ、口ニマカセテ談論スルバ皆不レ試不レ省ノイヽ也、サレバ本朝ニテ云バ、遠ク神代ノ聖戒ヲ守リ、近ク武家草業ノ政ヲノリトシ、遠ク異朝聖代ノ道ヲ本トシ、近ク今日本朝ノ政事ヲノリトスルコト、是乃祖述憲章ノイヽナルベシ、否其本トシノリトスル處相違テ道マス／＼暗カルベキ也、今孟子ノ云ヘル處ハ、君臣ノ道ヲツクス、至極ハ堯舜ヲノリトスルノイヽ也、學者章句ノ間ニヲイテ聖賢ノ語意ヲトリチガユベカラザルナリ、
○問云、古ヨリ聖賢ノ政ヲナシ玉フコトモスクナシ、又其則ヲシルモノアラザレドモ、世ノ平ニ治レルコト多シ、然レバ只人君無欲ニシテ慈悲甚重ナランニハ、コノ德ニ天下化スベキ也、
答云、古來唐虞三代ノ事ハサテヲキ、又其後ノ帝王天下ヲ草創アル程ノ人、イヅレモ其器直人ニ非ズ、故ニ或ハソノ武威ニヨリ、或ハソノ制法ニ從テ相續イタシ來ル、其間ニ又中興シテ知賢ノ君アルトキハ、其勢ニマカセテ國家無爲ノ化ヲナス、是後人ノ手柄ニアラザル也、凡善惡トモニ積ザレバ其驗ナシ、一事一行ノ善惡年月相積デ、君子小人治亂顯然タリト可レ知

也、サレバ周ノ明主天下ニノリヲ立、久シク是ヲ天下ニ用イシメタルガユヘニ、周王德衰道昏トイヘドモ、群國其ノリヲ守ルガユヘ、戰國瓜ノゴトクニ分トイヘドモ、猶周ノ王タル事ヲ知ル、群國此ノリヲ嫌テ自是ヲ棄コレヲ失テ而後周亡ブ、コレ周八百七十年ノ天下ヲ保テルガユヘ也、ソノ後天子群臣周ノノリヲ失テ、天下ニノリヲ立ルコトヲ不レ得、ソノ君德薄クソノ臣知アサクシテ、此ノリ不レ立ガ故ニ何レモ周ノ祚ニシク時ナシ、コレノリヲ以テ天下永久ノユヘント可レ謂也、次ニ帝德トハ無欲ニシテ慈悲深カランヲ云ベキコト、是マコトニ殊勝也ト可レ稱シテ、人君ノイ、ニアラズ、其故ハ天下ノ富貴ヲ司テ居玉フヲ無欲トハ云ベカラズ、人民ノ生死ヲ縱ニシ玉ヘバ、慈悲トハ云ベカラズ、或許由ガ讓ヲタテ、或忍辱ノ行ヲナシテ世ヲノガレ、山住ヲイタス人ヲ無欲慈悲ト稱シテ、大倫ヲ亂トイヘドモ、其身ノ潔コトハアラマホシキワザトモ可レ云也、人君ハ是ニコト也、人君ニシテ無欲ヲ事トシ、慈悲ヲ專トシタマワバ、天下ノ治日々ニクラク、ツイニハ敗亡ノ基タリ、遠クハ梁ノ武帝自身ヲ泰同寺ニステ、佛ヲ貴玉フハ無欲ト云ベシ、鳥獸ヲ飲食ノタメニコロサセンコトハ、甚不レ可レ然トテ、殺生ヲ禁斷シ社稷宗廟ヲ祭ニ麪食ヲ用、刑人アレバ淚ヲ流シテコレヲ赦シ玉フ、慈悲甚重ト可レ謂、如レ此シテツイニ天下ヲ人臣ニ奪ワレ、惡名ヲ末代ニノコシ玉フ、コレソノ失ニアラズヤ、サレバ欲ニモノリ有、生殺ニモノリアリ、則ヲコヘテ無欲ナルヲバ木石ニタトヘ、ノリヲコヘテ慈悲アルヲ婦子女子ニ比ス、人君ノ道ニ非ズ、彼梁武帝モ浮屠釋門隱逸遁世ノ輩タラン、人ニコノ行アラバ可レ稱レ之シテ、人君ニヲイテハ國家敗亡ノ基トスル也、

○問云、人君ノノリイヅレヲ本トスルヤ、

答云、則トサス處ハ人君禮ヲ行玉フヲ以テ本トス、禮定テ正シカラザレバ、君臣上下ノ名分シルベカラズ、故ニ禮樂ハ德之則也、德義ハ利之本也トイヘリ、又禮以庇レ身（出二左傳成十三年一）トモイヘリ、然ニ禮ヲ定ムルコト合二於天時一、設二於地財一、順二於鬼神一、合二於人心一、理二萬物一者也、是故天時有レ生也、地理有レ宜也、人官有レ能也、物曲有レ利也ト出タリ、先人君天ノ時ヲハカツテ天下ニ天ノ時ヲ命ズ、コレ毎月ノ朔望晦也、朔ハ日ノ始ル處、望ハ月ノ始ル處、晦ハ日月ノ終ル時也、此三日ヲ

以テ萬物ノ始終ヲタヾシ、君臣ノ道ヲ規ス、故ニ朔望晦ニ必出仕シテ君命ヲ承臣事ヲノブ、君命ノ新ナシトイヘドモ、必群臣朝シテ天顏ヲ拜シ、其初ヲ賀シ其終ヲ祝ス、晦ハ朔ノ前ニシテ人君視レ朝ニ勞アランコトヲ憚テ、今ハ廿八日ヲ以テ晦ノ禮ヲ行、コノ外ニ俗ニ節句ト號シテ、古例ノ嘉儀ヲ以テ其祝ヲ賀ス、コレ元旦・上巳・端午・七夕・重陽・八朔・嘉定・亥子是又武家ニ用所ノ例也、コノ日ニ朝儀ヲ嚴重ニシテ群臣各位ヲ守テ禮ヲ正ス、凡異朝ニ上巳端午等ヲ以テ俗節トス、コレ不レ會ノ儀也、五ノ節ハ一年ノ朝儀ノ大綱ニシテ朔望晦ヲ小目トスベシ、尤正月ニ嘉例之祝儀・謠初・乘初・具足餅祝・出行初等皆コレ武家ニソノ禮アリ、コレ恒例ノ禮更ニ時ヲ不レ可レ違、コレ年中行事ノ制武家ノ大禮也、コヽヲ以テ君臣ノ禮、位次ノ作法、朝廷拜趨之禮ヲ明ニスル也、此外ノ朝儀勅使公家ノ往來、諸侯卿大夫ノ聘禮、參勤ノ交代、寺社ノ僧伺、御家人ノ休暇、任官代替ノ禮、蕃臣來聘アリ、貢物・土產・金・銀・衣服・財寶等ノ獻上、幷恩賜、是又其位ニ隨テソノ禮アリ、或ハ歌舞猿樂ノ御遊、冠昏喪祭ノ大禮、田獵放鷹ヲ以テ土地ヲケミシ、民事ヲ考玉フ、皆年中行事ニツイテ臨事ノ制令行ルヽ、皆是人君ノ禮也、ソノ作法一々ニ記シガタシトイヘドモ、武家ハ事ヲ行ニカリニモ武ヲ不レ忘ヲ以テ本トス、シカレバ年中行事ヲ行ルヽトモ內外警蹕武備ヲイマシメ、ソノ不虞ヲ守リ玉フニアリ、サレバ奉ルモノハ雄劍龍蹄ヲ先ンジ、恩賜セラルヽニハ馬鷹ヲ以テス、如レ此トイヘドモ猶禮不レ立シテ皆見物壯觀ノタグイニナリテ、マコトノ禮ニアラズ、サレバコレヲ儀ト云也、晉叔向云、朝有二著定一、朝內列位常處謂二之表著一會有レ表、野會設レ表以爲レ位衣有レ襘帶有レ結、襘領會結帶結會朝之言必聞二乎表著之位一、所三以昭二事序一也、視不レ過二結襘之中一、所三以道二容貌一也、言以命レ之、容貌以明レ之、失則有レ闕ト、コレ各ソノノリアルコトヲ云ヘリ、又晉趙簡子、問二揖讓周旋之禮一焉、鄭子大叔對曰、是儀也、非レ禮也、聞二諸先大夫子產一曰夫禮天之經也、地之義也、民之行也、天地之經而民實則レ之、又出二昭五年左傳一

○問云、國家ノ禮アリヤ、

答云、禮經ニ國家ヲ定二社稷一、序二民人一、利二後嗣一トイヘリ、禮ヲ以テ國ヲ治メザレバ、國家國家ニアラズ、タトヘバ人トシテ禮ヲ不レ知バ禽獸ニコトナラザルノ

心也、サレバ諸侯郡主ニソノ禮ヲ命ジテ其國其所ニヲイテ、ソノ禮ヲ正シテ上下ノ分、士民ノワカチ、事物ノ禮ヲ明ナラシメテミダルベカラズ、國家之敗失之道則禍亂興トイヘレバ、國ニ禮ヲ不レ立失レ之トキハ、ソノ國必ズ亂ヲ招クノ基トシルベキ也、凡ソ天下ノタメニ國ノアルコトハ、人ノ家ノ四壁アルニヒトシ、四壁ノカコイ宜トキハ吹風モ内ニイラズ、降雨ニ家ニ帆ザル也、況ヤ盜賊惡人内ニ入コトヲ不レ可レ得、コヽヲ以テ諸侯外ニ居テ王城ヲ守ルヲ蕃屏ト號スル也、シカレバ國郡ノ侯伯其位ヲ守テ各其分ヲ正シナバ、國郡災ヲマヌカレテ王都ノ守護尤モ正シカルベシ、昔延陵季子謂二子産一曰、鄭之執政侈、子爲レ政愼レ之以レ禮ト戒タリ、コレ禮ニアラザレバ奢ヲタヾシ儉ヲ節スルコト不レ叶ノユヘナリ、禮立トキハ其過不及ノワザ明ニアラワレテ不レ可レ隱ガユヘニ、國郡ノ主更ニ私スルコトヲ不レ可レ得也、禮曰、禮之於レ正レ國也、猶下衡之於二輕重一也、繩墨之於二曲直一也、規矩之於中方圓上也、故衡誠縣、不レ可レ欺以二輕重一、繩墨誠陳、不レ可レ欺以二曲直一、規矩誠設、不レ可レ欺以二方圓一、君子審レ禮、不レ可レ誣以二姦詐一、昔シ齊ノ景公晏子ヲ招テ國政ヲ論ジテ、國ヲ保ノ道ハ在レ德トイヘリケレバ、晏子對曰、如二君之言一其陳氏乎、陳氏雖レ無二大德一而有レ施二於民一、豆區釜鍾之數其取二之公一也薄、其施二之民一也厚、公厚斂焉、陳氏厚施焉、民歸レ之矣、詩曰、雖レ無三德與二女一、式歌且舞、陳氏之施、民歌二舞之一矣、後世若少惰陳氏而不レ亡、則國其國也已、公曰、善哉、是可二若何一、對曰、唯禮可二以已一レ之、在レ禮家施不レ及レ國、民不レ遷、農不レ移、工賈不レ變、士不レ濫、官不レ滔、大夫不レ收二公利一、公曰、善哉、我不レ能矣、吾今而後知三禮之可二以爲一レ國也、對曰、禮之可二以爲一レ國久矣、與二天地一並、君令臣共、父慈子孝、兄愛弟敬、夫和妻柔、姑慈婦聽禮也、君令而不レ違、臣共而不レ貳、父慈而教、子孝而箴、兄愛而友、弟敬而順、夫和而義、妻柔而正、姑慈而從、婦聽而婉、禮之善物也、公曰、善哉、寡人今而後、聞二此禮之上一也、對曰、先王所下稟二於天地一以爲中其民上也、是以先王上レ之、シカレバ國家ノ亂ルヽトキ、諸侯郡主必ズ自私ノ惠ヲ施シテ民ニ利ヲ與、或法ヲ輕ジテ民ヲ愛シ、或ハ天下ノ政法ノ外ニ法ヲ新ニスル、是皆ツイニ亂ヲ興ノ基也、シカレバ天下ノ政道相定ノ外ニハ善ト云ドモ、コレヲ用イシメズ、尤惡ハ沙汰ニ不レ及、

コレヲ明政ト云也、堯舜ノ聖代トイヘドモ、五年ニ一巡狩シテ協二時月一同二律度量衡一脩二五禮一如二五器一ト云ヘル、是諸侯ノ禮ニタガイアツテ法ヲミダルヲ覘シ、能従テ政ヲタヾスヲ用玉ハンノ政也、然レバ相定所ノノリヨリ善イタスモノリニ非ズ、サレバ如レ此處ヲ詳ニ格致セシムル、是ヲ國家ノ禮ト云ベキ也、

○問云、政事諸物ノ禮如何、

答云、天下ノ事物各禮アラズト云コトナシ、所レ謂有レ物有レ則也、萬ノ事ニ品々ヲ詳ニシテソノ定禮ヲ窮トキハ、人民コレニマドフコトナシ、サレバ禮之敎化也微、其止レ邪也於二未形一ナリト出タリ、人ノ事ヲ行物ヲナスコト、人君定メ玉フノ禮ニヨツテ、ソノ事ヲ行ハ邪義無道ニ入ルニアラザル也、禮曰、子曰、禮者何也、卽事之治也、君子有二其事一必有二其治一治レ國而無レ禮、譬猶二瞽之無一レ相與、倀々乎其何之、譬如三終夜有レ求二於幽室之中一非レ燭何見ト、是禮ニヨラザレバ不レ明也、天下ノ政事諸物多トイヘドモ、五禮五器ニツヾマレリ、五禮ト云ハ吉凶軍賓嘉是也、五器ト云ハ五禮ニ付ケル諸服諸器也、而シテ平生ノ事平生ノ器用コレハソノ位ニ付テ相定レル禮アリ、晴ノ儀ニ至テハ此五禮五器アルナリ、タトヘバ人ニ逢ヲ相見ト云、相見ノトキハ如レ此ト云、禮ノ定リアラザレバ謙ルヲバ譽テ矜レルヲバ毀ル、コレニ因テ人ノ譽コトヲ求メテ人皆謙ス、謙シテ禮ニ不レ中ユヘキ其禮タガフガ如シ、書禮饗應會釋如レ此、コレニヨツテ禮不レ立トキハ各心々ニ事ヲ執行テ明ナルコトナシ、此時禮ヲ守ルモノハ皆無禮ノ如シ、故ニ瞽ノ無レ相、昏夜ニ燭ナクシテ求ルニ不レ異也、次ニ器物ノ事モロ〳〵ノ器物其人ニ因テ其制品カハルベシ、是又五禮ノ器ヲ以テ禮ヲ正ス也、其制ソノ人ノ位其祿ノ大小、土地ノ廣狹有無遠近ニ從テ、五禮ノ器ヲ制ス、尤平生ノ用器定制アツテ制外ノ器用ハ市ニウラシメズ、人ノ貧富ニヨツテ爲二之節文一以爲二民坊一者也ト云ハコレ也、古來ノ制唯五器ヲ正スコトヲイツテ、平生ノ制アラズト云ドモ、五器ニ隨テ平生ノ制ナクンバアラザル也、夫子曰、器以藏レ禮、コレ器ニ尊卑ヲアラワスノイイ也、禮曰、革二制度衣服一者爲レ畔、畔者君討、又曰、天不レ生地不レ養、君子不三以爲二禮、鬼神弗レ享也、居レ山以二魚鼈一爲レ禮、居レ澤以二鹿豕一爲レ禮、君子謂二之不ニ知レ禮、故必擧二其定國之數一以爲二禮之大經一禮之大

倫以二地廣狹一、禮之薄厚與レ年之上下ト出タリ、如レ此義詳ニ其品ヲ考ヘテソノ制ヲ立ベシ、大方ニ存シテハ違アルベキ也、

○問云、三民ノ禮アリヤ、

答云、禮所二以整一レ民也、安レ上治レ民莫レ善二於禮一トモ云ヘリ、三民ハ無レ知別而禮ヲ正サヾレバ必ズ亂、三民ハ定テソノ中ノ組頭・人頭・名主・庄頭・問屋ナド云ノワカチアリ、而シテ多クハ先功貧富ヲ以テソノ上中下ヲ定メテ、ソノ品ニ因テソノ禮ヲ定メ、ソノ分ヲコエシメザルモノ也、タトヘ富有ニシテ其材アリト云ドモ、ソノ藝術弄ニタユト云ドモ、三民各ヲノレガ位ヲ出テ、士ノ中ニマジワリ、同家同座スベカラズ、ソノ俊秀才能可レ用時ハアゲテコレヲ士ノ列タラシム、而シテ士ト列スベシ、不レ然バイカホドノ分限富有材藝アリトモ、必衣食居用具トモニ三民ノ禮ヲ用シムベシ、王制云、凡官二民材一、必先論レ之、論辨然後使レ之、任レ事然後爵レ之、位定然後祿レ之、凡執レ技以事レ上者、祝史射御醫卜及百工、凡執レ技以事レ上者、不レ貳レ事不レ移レ官、出レ郷不二與レ士齒一、仕二於家一者、出レ郷不二與士齒一、コレ皆三民ノ位ハ士ニ列スベカラザルヲ云也、三民ノ禮ハ下ノ下タリ、ソノ中ニソノ人ノ上中下アレバ、コレヲ以テ又禮ノ品ヲナシ、冠昏葬祭ヲ以テ相アツマリ、朔望晦ヲ以テ相賀シ、五節句ヲ以テ互ニ贈答ノコトヲナストモ、其制ヲ堅シテ其位ヲミダラシムベカラザル也、

○問云、三民ヲ制スルコト甚嚴ニシテハ、下ノ情通ゼズ、民ヲニクムニ同ジカランカ、

答云、政ハ以レ愛レ人爲レ本、人ヲ愛スルニハ禮ヲ正シ、各分ヲ明ニイタサヾレバ、人必ズソノ職ヲ忘ル、ソノ當分ニハ別條ナシトイヘドモ、ソノ弊久シキ時ハ上下ノ分ミダレテ名分タヽザルモノ也、四民ノ制ヲ嚴ニスルコトハ愛レ民ノ切ナルヨリ起レリ、孔子曰、古之爲レ政愛レ人爲レ大、所二以治一レ愛レ人、禮爲レ大、又曰、民之所二由生一、禮爲レ大、非レ禮無三以節二事天地之神一也、非レ禮無三以辨二君臣上下長幼之位一也、非レ禮無三以別二男女父子兄弟之親、昏姻疏數之交一也ト出タリ、サレバ上下ノ位シバラクモミダレテハ、國家興亡ノ基也ト可レ知、子貢曰、禮失則昏、名失則愆トイヘリ、凡ソ士大夫富ヲコノミ、財ヲアツメテ寶ヲ專トスルモノ、其身又ハ子孫多ハ士大夫ノ位ヲステ、引込テ、三民ノ列

ニナランコトヲ思フモノ或ハ有レ之、コレ三民ニ禮不レ立シテ、富有ナルモノハ家宅ヲ大ニシ、飲食饗應ヲ豐ニシテ士大夫ト相交、衣服禮容コトナルコトナク、作法儀式以テカワラザルガユヘニ、士大夫ノ富有、皆コレヲ慕テ職ヲノガレ身ヲ退テ民ニナランコトヲ求ニ至ル、尤モ禮ノ不レ明ガ致ス處也、サレバ禮ノ制不レ正不レ嚴トキハ、人皆職ヲ忘レツイニハ刑政ヲ行テ以テ民ヲ罰スルニ至ルベシ、故ニ前方其禮ヲ詳ニイタシテ上下ノ位ヲ正ス也、易ニ乾坤ノ尊卑ヲ定、君子以辨二上下一定二民志一ト云、惟器與レ名不レ可二以假一レ人、（出二成二年左傳仲尼言一）ハ此心ナリト可レ知也、

○問云、庶民ノ禮如何、

答云、庶民ニ品多シ、僧社人醫ト盲目及諸藝ノ者、皆其人ニ從テ、ソノ統宗トスルアルベケレバ、是ヲ詳ニ規シテソノ內ニヲイテ其品ヲ定ムベシ、然レドモ是皆四民五等ノ人ノタメニ助力セラレテ、渡世ヲ營ムモノナレバ、コレヲ以テ民ト云ノ名號アリ、一々ニ今云ガタシ、先規ノ例ヲ以テ斟酌セシムルノミ也、詳ニ令ニ出レ之、

○問云、禮ハ必正ノミヲ立ルコトニヤ、又其品ニヨツテソレ〳〵ノ脩飾アルコトナリヤ、

答云、書曰、民心罔レ中、惟爾之中也、子産云、人之能曲直而赴レ禮、謂二之成人一（出二昭二十五年一左傳）トイヘリ、ソレバ人ノ心ノノリハ人君ノ立玉フ政ヲ以テノリトスレバ、大方ニ詳ナランニハ、必ス人情ニ通ゼザルモノナリ、人情ニ通ゼザルトキハ其法ツイニ不レ立也、故ニソノ中ヲ立テ建二皇極一ト云テ、君コレガ中道ノ規ヲ立テ、天下ノモノヲコレニ由シムル也、シカレバ其禮曲直順逆ノカマイナシ、ソノ人物事變ニヨツテ以テ其ノリヲ定テ七情ヲ制シ、五禮ヲ立、更ニ一方ニカタヨツテ是非スルコトアラザル也、其節ヲコユルトキハ、直モ方モ善モ其ノリニアタラザル也、ノリニ中ルトキハ曲モ圓モ惡モ皆ノリトナル也、唯其道ヲ詳ニスルヲ以テコレヲ究ルノ法トス、子曰、爲レ命裨諶草二創之一、世叔討二論之一、行人子羽脩二飾之一、東里子産潤二色之一トノ玉ヘリ、命令ハ諸侯ノツヽシム處ニシテ、コレヲ定ムルニ草創討論脩飾潤色ノ四等アリ、凡ソ萬ノ禮如レ此ニツブサナラザレバ、ソノ節ニ中テ禮樂文質トヽノフベカラザル也、サレバソノ德ニアラザレバ、其禮タヽザルト云コト尤ナリト可レ知也、

○問云、武ノ禮ヲ定ムルコト如何、
答云、武ノ禮ハ五禮ノ中ニ軍禮ヲ出ストイヘドモ、軍ハ武ノ一事ナリ、武ノ禮ト定メガタシ、凡ソ本朝武家天下ヲ成敗セシムルノ後、代々ノ公方家將軍ニ任ジ玉フテ、其官大臣ヲ以テシ、其位一品ニノボリ玉フ、是文武相兼テ一家ノ任トシ、天下ノ治教ヲ立、四海ノ靜謐ヲ期シテ以テ王家ヲ勤メ玉フガユヘニ、將軍家ノ武ヲ以テ武家ノ禮トス、其法鎌倉右大將家、居レ謙以テ安レ民、守レ武以テ勤レ王、コレ末代ノ規範也、ソノ後京將軍家ニ及デハ、甚文ニ過テ武ニ惰、故王道ヲ崇ノ道不レ正、武ヲ守ルノ制不レ堅、コレ武家ニ居テ武ヲ忘レ、ソノ職ヲ後トスルコト不レ得ニ其實一ガユヘ也、代代ノ損益不レ一トイヘドモ、武家ハソノ職ヲ本トスルガユヘニ、衣服モ武服ヲ用、家宅モ武ノ備ヲタヾシ、飲食饗應歌舞音樂ニ至ルマデ、武ノ一體ヲアラハシ、音物贈答ニモ劒馬ヲ以テソノ志ヲ表ス、皆是不レ忘ニ其職一ノイ、也、凡ソアラカジメ備ヘザレバ其道不レ立、安ニ居テ危ヲ不レ忘、治テ不レ忘レ亂マコトノ武トスル也、帝堯ノ至治トイヘドモ、皐陶ニ士官ヲ命ジテ以テ蠻夷猾レ夏ノ備トシ、成周ノ治教ニ大司馬ヲ置テ武ヲマフク、イヅレノ聖代トイヘドモ武ヲ輕ズルコトアラズ、是不レ可レ輕ノ道ナレバナリ、況本朝ノ今武家以テ勤レ王守ニ護天下一シ玉ハンニハ、武家ノ禮聊モ不レ可レ怠也、武ハ其道正シテ嚴也、コノユヘニ天下承久ナルコト、相續スルニ從テ人々安キヲ事トシ、嚴正ノ道ヲ以テ事アラジト存ジ、衣食居コト〴〵ク柔弱和輭ヲコトヽス、コレヨリ武ノ禮日々ニ衰ニ至ルコト、東鑑等ノ舊紀ニ出タリ、尤草業ノ時ト守文ノ今トハ不レ可レ混トイヘドモ、文質ヲ考テソノ禮ノ時宜アルベキコト也、

○問云、盜賊刑法訟獄ノ禮アリヤ、
答云、禮ヲ立テ節ヲ定メ、上下ノ道尊卑ノ品貧富ノ禮ヲ立ルコトハ、盜賊ヲトヾメ訟獄ヲナカラシメンガタメ也、禮不レ明トキハ必ズ人爭、爭ガユヘニ訟ヲコル、訟ヲコルガユヘニ刑法アリ、國俗不レ正ガユヘニ貧富ノ制不レ立、游民ヲヽク家職ヲツトメザルガユヘニ、博奕好色奢侈ノコトアツテ而シテ盜賊ヲコル、盜賊ヲコルガユヘニ刑法ヲコナワル、然レバ禮立テ民化スレバ訟獄盜賊ヲコルコトナキガユヘニ、刑法マフクト云ドモ不レ可レ施、コレ刑罰ノ朽テ螢トナルタ

メシナルベシ、シカレバ此本ハ禮ニアリト可レ知也、次ニ刑法ノ事コレ又政ノ備ニシテ禮ノ大ナル也、タトヘバ禮立テ民化スト云ドモ、國ノ大ナル天下ノ廣、ソノ氣質ノ變ニヨツテ大惡無道ノ者ナクバアラズ、土地ノ風俗ニヨツテ俠力ヲ事トシ、血氣ヲサカンニスル輩必アルベシ、然レバ盜賊民ノナヤミヲナスコトアルベケレバ、ソノ訟獄ノ制ヲ定、決斷場ノ次第、評定、式日、ソノ日ノ禮義、公事人ノ法、訴訟人ノ作法、論狀訴狀ノ制、勝負ノ成敗、警戒評定決斷人ノ誠、目付按察ノ法、尤罪科輕重ノ科、囚獄拷掠五刑ノ法、ソノ禮ナクンバアラザル也、是舊記ニアラソレ新規ノ制歷代多ケレバ、詳ニキワメテ其節ヲ可レ定也、大概三民ノ罪ハ農ヲ輕ジテ工商コレニ次、士ノ罪ヲ重クス、コレ農ハ至テ無知也、工商ハ奸曲ヲ事トス、士ハ禮ヲ行フハヅノモノナルガユヘニ、三民ヨリソノ罪ヲ重クス、死罪ニ及バン事ハ必ズ人君ニ達シテコレヲ行ル、或ハ死罪ニ行トイヘドモ國家ノ戒ニ不レ可レ及輩ハ、コレヲ相アツメテ人ナキ嶋ニ流シテ、其土地ヲ耕農セシムルコトモ可レ有也、一々說盡スベカラズ、其禮ヲ詳ニスルニアリト可レ知也、易ニ曰、禁レ民爲レ非曰レ義、サレバ禮ハ民ノ非ヲ禁ゼンタメノ制ナリ、コレ則法ト可レ云也、

○問云、古來律令ノ制、コレヲ以テ禮トセンヤ、

答云、律令ハ淡海公不比等ノ撰セラル、所ニシテ、其本相正シ、本朝コレニヨルトイヘドモ、是又古ノ禮ニシテ今日ノ用タラザル也、凡律令ハ漢ヨリ初メテ其制アリ、古ハコレヲ刑法ト云、唐ニ至テ律令格式アリ、律ハ刑法ノ制ヲシルス也、令ハ唐ノ刑法志曰、禁二於未然一曰レ令、尊卑貴賤之等級國家之制度也、格設二於此一而逆二於彼一曰レ格、百官有司之所二常行一者也、式設二於此一而使二彼效一之謂二之式一、諸司常守之法也、唐ノ末宋ノ初ニ及デ勅令格式ト號シテ外ニ律アリ、必竟四ノ者コレ天下之法ニシテ、律ハ刑法ニ付、令格式ハ禮也ト可レ知也、唐宋ニ及デ代々ノ格式甚多シ、コレソノ時ニ名臣スクナクシテ、コレヲ一正スルコトアラズ、甚繁多ニ及ベルナルベシ、本朝ニモ不比等ノ律令已後代々ノ格式多シ、是皆禮ヲシルセル書也、武家ニ至テハ推テコレヲ式ト號ス、貞永式目建武ノ式皆是也、律令格式ノ四ツトモニコノ内ニ相備レリ、古ノ禮中古ニ至テ變ズ、中古ノ禮今ニ至テ變ズ、シカ

レバ其時代ニシタガツテ禮ヲ不レ用トキハ、禮不レ應シテ必災害來ルベシ、禮樂征伐自ニ天子一出ル時アリ、又諸侯大夫ヨリ出ルコトアレバ是皆時宜アリ、唯損益スル處ト損益セザル處トヲ考ヘテ、今日ノ律令ヲ立ルコト明君ノ要也、昔魯ノ哀公古ノ禮ヲ用テ齊ノ責ノウク、左傳三十卷、哀十七年、公會二齊侯一盟二于蒙一、孟武伯相、齊侯稽首、公拜、齊人怒、武伯曰、非二天子一寡君無レ所二稽首一、二十一年、齊人責二稽首一、因歌レ之曰、魯人之皐、數年不レ覺、使二我高蹈一、唯其儒書、以爲二二國憂一、同襄四年、公與二晉悼公一盟、孟獻子相、公稽首、知武子曰、天子在而君辱稽首、寡君懼矣、孟獻子曰、以下敝邑介二在東表一、密邇仇讐一、寡君將二君是望一、敢不二稽首一、衛孔達古ノ禮ヲ用テ難ニ及出二左傳文元年二月一マコトニ聖人ノ戒アリ、サレバソノ時ヲ考テ禮ヲ行テ律令トスベキ也、

○問云、人君日用ノ存養省察アリヤ、

答云、人君ノ身天下ノ富貴ニマシマスガユヘニ、必ズ安ヲコノミ樂ヲ事トシ、食ニアキ衣ニミチ、居ニ安ジテツトメ玉フト云ドモ、ソノ下ニ怠アラズト云コトナシ、故ニ日ニツトメテヤマズ、下ニ諫諍直言ノ臣ヲ置テ以テコレタヾサシメテ終ヲツヽシミ玉フ、コレヲ存養ト云也、ツトメザレバ心ヲ失性ヲ忘ル、ツトムルガユヘニ常ニ存レ心養レ性也、コレ周易ニ出ル處、君子日疆不レ已也、コレヲ存養ト云、省察ト云ハ、ツトメ行玉フコトヲモ時々ニカヘリミテ、ソノタガイアランコトヲ察シテ、速ニアラタメ玉フコトヲ省察ト云也、顧ニ諟天之明命一ト云モ、君子内省ルト云モ皆コノ心也、我心ノ内ニ子ザス處ハ人ノ知ルコトアラザレバ、自カヘリミテ其邪義ニユキ、非道ニ成ン處ヲハカツテコレヲ改タヾス事ハ、自察スルニアラザレバシルベカラズ、コレ聖人審ニ幾微之道一也、周易曰知レ幾其神乎トハコノ心ナルベシ、幾ヲ見テ早ク正サヾレバ道コヽニ不レ行ト可レ知也、

○問云、政事ニモ存養省察ノ用アリヤ、

答云、天下國家ノ政事ハ猶以テ存養省察ノ用ニアラザレバ民化スルコトアラザル也、存養ト云ハ政ヲ立ルコト、アラカジメ定テコレヲ國家ノ人民ニ用シメ、ソノアトヨリ其ツトメヲタヾシテ賞罰ヲ明ニシ、コレヲ用ルコトヲ悠久ナラシム、悠久ナルトキハ民コレニ化ス、コレヲ存養ト云也、省察ト云ハ、度々人ヲマワシ使ヲ以シテ、其安否ノ實ヲ詳ニタヾス、コレヲ省察ト云也、タトヘヨキ政ヨキ法也ト云ドモ、一タビコレヲ出シテ存養スル事アラズ、省察スルコトカクルトキハ、必ズ寸善ニ尺魔相加テ、ソノ事不レ立モノ也、花ヲ養木ヲ植ルガゴトシ、一度ウツシウヘテモ年月

ノ手入養カヘリミアラザレバ、イツシカ根ニ虫ノ付、水ノ入テソコヌルコトアルヲ不レ知ガユヘニ、時分ニナリテ花ノ豊ニ木ノサカエンコトヲ欲シテモ不レ快、シカレバトテ又存養省察ノリヲタガフトキハ、或繁多ニシテ勞シ、或ハ宋人ノ苗ヲ助長スルニ同ジ、

○問云、政ヲ正シクイタシ、禮ヲ明ニセバ、省察ニ不レ可レ及カ、省察ヲ用ハ民煩シクシテ、ツカルベキニ似タリ、

答云、タトヘバ新木ヲ柱ニ用トイヘドモ、ソノ地ニヨリソノ時ニヨツテ早ク朽ルコトアリ、サレバ政正シク禮明ナリト云ドモ、存養省察ヲ不レ用バ、諸侯ノ志人民ノ思入ハカリカダシ、唐堯虞舜ノ政ハ、政ノ正コトソノ至レリト可レ云、禮ノ明ナルコト尤極レリト可レ云、而シテ二十有二人ノ聖賢相並デ政ヲタスク、而シテ兢々業々一日二日萬機ト戒シメ、五載ニ一巡守シテ群后四ニ朝シタルコトハ、皆コレ存養省察也、ココニヲイテ群臣諸民ノ俗ヲ考テ、以テ其可否ヲタヾシ、黜陟ノ政アツテ而シテ天下無爲ノ化ヲナス、コレヲ用ニ其則ヲタガフトキハ甚煩シテ民勞シ、ソノ道不レ正トキハ、有司行人民ノツカレトナツテ、諸侯ハ彌諂イヲ本トシ、民ハ日々ニ風俗タガフモノ也、

○問云、政ノ機ヲ察スルコト如何、

答云、物皆其機アラズト云コトナシ、愚不肖ノ者ハアラワレテ而後ニ知ル、君子賢知ノ人ハ至誠前知ス、事スデニ達行レテ後ニコレヲ謀テハ、勢大ニシテ制シ難ク、久シキトキハ人ソノ初ヲワスレテ、コレヲ以テ俗トス、俗トナツテ後ニハ改ムルコト難叶モノ也、コレ機ヲ以テ大事ナリトスルユヘン也、易曰、夫易聖人之所二以極レ深而研一レ幾也、惟深也、故能通二天下之志一、惟幾也、故能成二天下之務一ト出セリ、サレバ物ノキザシハ早ク通ズルモノ也、孝徳帝都ヲ難波ニ遷シ玉ハントノ御志アリケレバ、鼠知テ難波ニウツリ、豊臣家高麗ニ事アラントノ志ニヨツテ、日本ノ鳥高麗ニワタレリト云、凡ソノ機ヲ知テ、ソノ機ニ從テ政ヲ正スコト明君ノ要也、人ニ姦謀ノ漸アリ、世ニ治亂ノ幾アレバ、ソノ幾ヲ防グコレ政也、禮曰、子曰、上酌二民言一則下天ニ上施一、上不レ酌二民言一則犯也ト出セリ、シカルニ政ノ機ハ禮ヲ詳ニスルニアリ、禮ヲ詳ニシテ其立ルコトノ法ヲ嚴シテ、犯サヾラシムル、コレ機ヲトリヒシグ也、事微ニ長大ニ至ルコトナシ、皆積

累シテコレニヨル、故ニ禮ヲ犯スヲ快クユルシテ、コノモノハ不レ苦、コノ度ハユルス、コノ事ハ小事ナリナド、云ヘルヨリ、相積テコレヲ以テ例トシ、先規如レ此ナルト云ニ至テ、人ツイニ法ヲ亂ルニ至リ、ソレヨリ俗變ジ敎タガフニ至ルナレバ、君子不レ積處ヲ以テソノ戒ヲナセルハコノ心也、

○問云、政ノ善惡ハ、人ノ向背ヲ以テカヘリミルコトナリヤ、

答云、民ハ至テ無知、故ニ人君始終ヲハカツテソノ政ヲ立トイヘドモ、當分ソノ身ニ不レ宜トキハ、或ハソシリ或ハ怨ムルコトアリ、然レバ人ノ向背ヲ以テ必ト定メンコトモ難レ計、又撫レ我則后、虐レ我則讐、獨夫受、洪惟作レ威、乃汝世讐出ニ泰誓一ト云トキ、人ニ知愚ナレバ上民ハ必ズ知アリ、知者ハモノニ慮リアリ、故ニソノ知アリ慮アラン輩ノ是非ヲ以テ向背トスベシ、シカラバ大臣群臣向テコレヲ利トスルハ、衆民ノ背コト用ニタラズ、知者賢者コレニ向フトキハ、群臣ノ背コト不レ足レ用、サレバ衆愚ノ諤々タルハ、一賢ノ唯々ニ不レ如タメシアレバ、一人ソムイテ少トスベカラズ、萬夫向テ多ト云ベカラズ、周ニ二老ヲ養テ天下コレニ歸シ、殷ニ三仁去テ天下遂ニ亡、伯夷一人周ニソムイテ萬世又コレヲ義士トユルスナリ、コレ向背ノ至論ト可ニ心得一也、

○問云、諸民コレヲソシリ、コレヲ背バ、タトヘヨキ道ニテモ、立テ行ニカタカランカ、

答云、其道正シキトキハ、一國ノ民皆ソシルト云ドモ、コレニヨツテ改タムベカラズ、天下ノ人ソシルト云ドモ、コレニ因テ變ズベカザル也、凡人久シク不善ニナレ、不義ヲ事トシ、コレヲ以テ俗トスルコト久シ、故ニ善ヲワスレ、義ヲ不レ知、コノ時善政大道ヲコナワレバ、人皆以テソシリ、以テソムクベシ、コレニ因テ善ヲヤメ道ヲ棄バ、彌ソノ俗正ニ歸スベカラザル也、サレバ孔孟ノ道ソノ時ノ人コレヲソシリテ、或ハ迂トシ或ハ辯ヲ好トス、コレニ因テ聖人ノ道ヲヤメンヤ、昔子產政ヲ鄭ニナセシトキ、國人甚コレヲ謗リケレバ、コレヲ子寬ト云モノ子產ニ告、子產曰、何害、苟利ニ社稷一死生以レ之、且吾聞爲レ善者、不レ改ニ其度一故能有レ濟也、民不レ可レ逞、度不レ可レ改、詩曰、禮義不レ愆、何恤ニ於人言一吾不レ遷矣イヘリ、愚謂、子產ハ鄭ノ賢大夫タリトイヘドモ、時ニトツテノ政、人ノソ

シリヲマヌカレズ、而シテ遂ニ民化セリ、コレ向背ヲミルニソノ心得アラザレバ、必違フト可レ知也、

○問云、凡ソ天下ノ政ヲ省察シ、コレヲ正スノ道、ソノ用イカン、

答云、天下ノ政ハ兼テ其制ヲ詳ニシテ以テ天下ノ國郡ニ示シ、諸侯卿大夫各此ニ因テ其禮ヲ立テ政ヲナス、是恒例ノ制也、而シテ時ニ水旱風火震ノ五有テ、此時必其國郡ヲ省察シテ、民ノツカレ土地ノ損亡ヲ巡察セシメテ、臨時ノ政アリ、或野山ノ堺論、金銀ノ山、或新地ノ出來ル處、如レ此ノ地ニハ必巡察使ヲツカワシテ其事ヲ詳ニ察ス、或ハ其主所替、或卒去ノ時ハ必代替ニ付テ、其省察アリ、或ハ異國ノ船著岸、珍寶財貨ノ出來、或ハ妖物妖事、或ハ闘諍異變、或ハ法ヲ背キ敎ヲナミシ、國俗大ニタガフ處、皆コレ使ヲエラミテ發セシメテ、其事ヲ詳ニシテ、其制ヲ立政ヲナスベキノ時也、タトヘ天下ニコトナル事不レ有ト云ドモ、或十年十五年ヲ經テ、必ズ國々ノ俗ヲ正シ、其敎令ヲ一ニイダサヾレバ、國主私ヲカマヘテ其政不レ正、正トイヘドモ天下ノ政不レ一コト多也、是ヲ改正シ巡察セシメザレバ、天下ノ俗不レ一モノ也、堯舜ノ聖代ト云ヘドモ、巡狩述職ノ事、更ニヲコタルコトアラズ、如レ此シテ天下ノ藩屏維持ヲ詳ニスルコト、尤王道ノ要也、シカレドモ或ハソノ人ヲ不レ選シテコレヲ巡國セシメ、或ハ人ヲエラブトイヘドモ、其制ヲ不レ詳トキハ、廻巡シテ公私ノ弊ヲナシ、民コレニヨツテ奸ヲナシ、政却テヲコナワレザルコト可レ有レ之、コレ人君巡察使ヲ以テ目トシ耳トシテ、而シテ耳目不レ正トキハ勞シテ無レ益也、舜位ニ卽玉フテ、先闢ニ四門一、明ニ四目一、達ニ四聰一玉フト云ハ、コノ心ナルベシ、詳ニ禮記ノ王制ニ其法ヲ出セリ、次ニ政ノ是非ヲ考フルコトソノ心得アリ、第一人ノソシリヲキイテ、其實ヲタヾシ、第二ニ民ノ向背ヲ考テ其實ヲハカリ、第三ニ天時地利ヲ詳ニシテ、コノ是非ヲ可レ知也、シカルニソシリヲキクコト、人ノ毀ル處必コレヲフセグベカラズ、ソノ言ソノ心ヲ考テ、以テコレヲ省察スベキ也、鄭人游ニ于鄉校一以論ニ執政一、然明謂ニ子産一曰、毀ニ鄉學一如何、子産曰、何爲夫人朝夕退而游レ焉、以議ニ執政之善否一、其所レ善者吾則行レ之、其所レ惡者吾則改レ之、是吾師也、若ニ之何一毀レ之、我聞忠善以損レ怨、不レ聞ニ作レ威以防一レ怨、豈不ニ遽止一、然猶レ防レ川、大決所

レ犯傷レ人必多、吾不レ克レ救也、不レ如小決使ニ道不レ如、吾聞而藥レ之也、然明曰、蔑也、今而後知ニ吾子之信可一レ事也、小人實不才、若果行レ此、其鄭國實賴レ之、豈唯二三臣、仲尼聞ニ是語一也、曰、以レ是觀レ之人謂ニ子産不仁一、吾不レ信也、次ニ民ノ向背ヲ考トハ、彼ガ背クユヘン、彼ガ喜ユヘンヲ考テ、背ト云ドモ法ヲタガヘズ、喜ト云ドモ利ヲ逞カラシメザルベシ、但其時宜ニ因テ民ノ氣ニ従テ政ヲナス事アリ、コレヲ臨事ノ制法ト云也、子産云、從レ政有レ所レ反レ之、以取レ媚也、不レ媚不レ信、不レ信民不レ從也、又曰、衆怒難レ犯（子孔爲ニ載レ書、人弗レ順、將レ殺レ之、子産曰、止レ之、人請ニ爲レ之焚レ書、子孔不レ可、子産以爲衆怒難レ犯、專欲レ難レ成、迮レ焚而後定、）然レハ時宜ニヨツテ、不レ論ニ行レ事之是非一、先觀ニ衆心之向背一コトモアルベシ、民不レ信ハ、ソノ政不レ行ガユヘ也、又民ノ政行レテ、路不レ拾レ遺、市價不レ二ト云ドモ、コレヲ以テ政ノ至レリトモ不レ可レ云、秦ノ商鞅法ヲキブクシテ、秦ノ政化セシニ似テ、終ニヤブル、タメシ可レ考也、コノユヘニソノ功ヲ立シルシヲナス處ノ始終ヲハカリ、其ナス人ノ學知ヲヨクシラザレバ評シガタシ、司馬相如曰、世必有ニ非常之人一、然後有ニ非常之事一、有ニ非常之事一、然後有ニ非常之功一、非常ノ政ハ人コレヲ不レ知シテ、ソシリナクンバアラズシテ、政ノナレルトキニ及デ民皆安ズルニ至ル也、次ニ天ノ時ヲ考ト云ハ、人君ハ天地ヲ以テ父母トス、天地ノ運行不レ得レ時トキハ、人君常ニカヘリミテ、身ヲ修メ諫ヲイレ、野ニ伏賢アツテ言路フサガランコトヲ懼ル、是人君事レ天ノ戒也、サレバ日蝕ハ定リタル暦數ナリトイヘドモ、必四月ノ日蝕ニハ天子伐ニ鼓于社一ノ禮アリ、況ヤ天地ノ變災ニヲイテハ、人君各コレヲ戒テ政ヲ省ルコト古ノ禮也、次ニ地ノ利ヲ考ト云ハ、國豐ニシテ土地日ニ沃壤シ、境界日ニヒラクルトキハ、民多聚テ業ヲコタラザルノ效ト可レ云ナリ、若人君コレヲシイテ新田ヲヒラカシメ、或ハ家宅ヲヒロクシテ、其地ヲ大ニ費シテ以テ土地ヲヒラクトセンハ、マコトノ地ノ利ニアラズ、コレヲ利ヲ誣ト云也、山林川澤ノ利モ亦如レ此ノ條々ヲ審ニ考テ、其虚實ヲ盡ストキハ、政ノ成敗無レ不レ明、舜五年ニ一巡狩シテ天下ノ方岳ヲタヾシ玉フニ、明ニ試玉フトハコノコトナルベシ、不レ明バフサガル、不レ試バ不レ實、コレ政ノ是非ヲ省察ノ用也、

○問云、省察シテソノ用ヲタヾス道如何、

答云、是ヲ賞罰ト云、省察スト云ドモ、賞罰ヲ以テタダサヾレバ、能否ヲ取捨ノ實タヽザルモノ也、コノユヘニ明王賢主ト云ヘドモ、賞刑ノ二ヲ無レ不レ用、周禮ノ八則ニ、刑賞以馭二其威一ト云ノ八柄ヲ論ジテ、爵・祿・予・置二之於位一・生・奪・廢・誅ヲ以テスルハ、群臣ヲツカフノ戒ナリ、魯季文子曰、先君周公、制二周禮一曰、則以觀レ德、德以處レ事、事以度レ功、功以食レ民、作二誓命一云、毀レ則爲レ賊云々、蔡聲子曰、善爲レ國者、賞不レ借而刑不レ濫、賞借則懼レ及二淫人一、刑濫則懼レ及二善人一ト、皆コレ賞罰ヲ正スノイヽ也、

○問云、齊レ之以レ刑ハ、聖人不レ用處也、況ヤ上代ニハ刑賞ヲ不レ用民化ストイヘリ、シカレバ賞罰ハ衰世ノ政ナリヤ、

答云、道ヲ以テ政ヲタテ禮ヲ以テ其俗ヲ同スルトキハ、民自耻ヲシツテソノ心ヨリ禮ニイタル、コレヲ道レ之以レ德、齊レ之以レ禮、有レ耻且格トハ云也、只法度ヲキツク立キビシクシテ、コレヲソムクモノハ刑ニアツルトキハ、民皆免トシテ耻テ至ルノコトハリナシ、コレ齊レ之以レ刑コトヲトレリトノ玉ヘル也、法ヲ立ルコトマデヲ事トスルハ、以前ニ云處ノ商鞅ガイヽ也、凡ソ刑賞ハ唐虞ノ聖代ヨリハジマレリ、擧二十六相一、去二四凶一、大功二十爲二天子一トハコノコトナリ、サレバ舜典ニ明試以レ功、車服以レ庸ト云、象以二典刑一ト云ハ、賞罰ニアラズヤ、老莊ノ說ヲコナワレテ而後ニ刑賞ヲ以テ衰世ノ政ト云ヘル、コレソノ過テ不レ正ノ言也、凡ソ賞罰ハ人ヲツカフノ禮也、シカルニ愚者ニハ財ヲ與ヘテ人ヲ喜バシメ、刑シテ人ヲヲドストノミ思フ、コレ賞罰ノ末ニシテ本ニアラズ、賞ハソノ功アリ、ソノ忠アル人ヲ勞シテ、コレヲ禮スルノワザ也、禮ヲナスニソノ物ナクンバアラズ、故ニ官祿財寶文武ノ器用ソノ品ニ從テ、コレヲ命ズル是賞ノ禮也、罰アルモノヲバ罰シテ人ニ示シ、國家ノ戒トス、サレバ罪ノ輕重ニヨッテ其制品々アル、コレ罰ノ禮ナリト心得トキハ、禮ヲ用コト薄シテ、物ヲ以テ禮トスルガユヘ、人ノ風コトゞヽク固陋ニシテ、ツイニハ人君財祿ヲ費シテ群臣不レ勸、人民ヲイタメテ人コレニ懲ザルニ至ルハ、賞罰ノ禮タルコトヲ不レ知也、故ニ政事ノ用省察スルニアッテ、省察ノ用ハ、賞罰ノ二ツニ留マルト可レ知也、

○問云、人ヲスヽムルニ欲ヲ以テシ、人ヲコラスニ死

ヲ以テスルハ、俗ノ自薄ニイタランカ、
答云、人心欲アルガユヘニ知アリ、コノ欲ニヨツテ聖人ノ道行ル、コレヲ察シテ以テコノ賞罰アリ、故ニ君子賢者ハ賞罰ヲ以テ禮トシテ、以勸以懲ル、小人惡人ハ賞罰ヲ以テ利害トシテ、以勸以懲、コヽニヲイテ天下國家ノ政ヲコナワレテ、ソノ俗正シク、其道ツイニ行ルヽ也、凡ソ聖賢ノ治下民ヲ以テ君子トセズ、君子ヲ以テ小人トセズ、各其分ニヨツテソノ政アリ、今人ヲ以テ欲ニイザナフト云ハ、天下ヲ以テコト〴〵ク君子ノ美質ナリト思イヽ也、豈ソレ然ランヤ、賤ハ貴ガタメニツカワレ、小ハ大ニ服シテ、奴婢僕從各ソノ利ヲ利トスルハ、彼皆利ニアソブガユヘニ、利ニ其利一トシテソノ政立ノイヽナリト可ニ心得一也、唯ソノ制スル處禮ニアルトキハ、賞罰ソノ用ヲナスベキ也、
○問云、賞罰ハ省察ノ後ニアルトキハ、先ンズルノ道ニアラズヤ、
答云、禮ヲ立テ民ヲ是ニヨラシムルハ、ソノ未然未發ノ前ニ善惡ヲ示シテ、ソノ道ニヨラシムルノイヽ也、コノ禮政ヲコナワルヽヤ否ト云コトヲ、省察シテ以テ而シテ後ニ賞罰ヲコナフヲ以テ勸ニ懲人機一コレ賞罰也、サレバハジメヨリ立テ終ルマデコレヲ用、サラニ前後ノワカチナシ、コレヲアラワストキハ示ニ其禮一、用レ之防ニ其未然一ト云ベシ、但シコレヲ諸民ニカチテ示スコトハ、叔向ガ子産ニイサメシ處ナリト云ヘドモ、詳ニソノ禮ヲ示シテ、ソノ用捨ニヨツテ賞罰ヲ行レンコトヲ示スコトハ、成周ノ禮ナリト可レ知也、
○問云、天下之治平ト云ハ、イヅレヲ以テ至極トスルヤ、
答云、萬民ノ治ニ品多シトイヘドモ、其至極ノ治ト可レ稱ハ人民ノ心安シテ、ソノワカチ明ニシテ不レ可レ惑、コレヲ以テ至極ト稱スベシ、人安ズル處アラザレバ、心ヲチツクコトアラズ、心不レ安則ツイニ危シテ不レ可ニ長久一、故ニ人ノ安ズルヲ以テ要トス、安ズトイヘドモ不レ明トキハ、鳥獸ノ群ヲナシテ利ニ其利一ニコトナラズ、故ニ其風俗不レ正、コレ明ヲ以テ貴トスル也、古今天下ノ治ソノ極大方安ヲ以テキワマリトシテ、明ニ至ルコトアラズ、安ト明トヲ兼ルコトハ、聖人ノ治ニ非ズシテハ不レ得レ之也、サレバ蛛都ニ于詹一、蜂牖ニ于房一、壚國ニ于蛭一、蒲盧宮ニ于窓一ト云コトアリ、蛛ハクモノ居所、蜂ハハチノ居所アツテ、各其所

ニアラザレバ不レ安、コレヲ取テカレニ用トキハ乃ヨシトイヘドモ、コレヲ安ンズルニ非ズ、鳥獸ヲ檻ニ入テ衣スルニ錦繡ヲ以シ、食ニ人ノ美味トスルヲ以テスルトイヘドモ、鳥獸コレニ安ズルニ非ズ、人ヲ治ルノ道モ亦然リ、人々ノ品位ニ因テ其安ンズル處コトナリ、聖人禮ヲ立道ヲタヾシ、久シクシテ其化ヲ行ガユヘニ、天下ノ人民皆安ジテ其分ヲ知テ不レ犯、コレヲ安ジテ明ナリト云也、是唐堯ノ政平ニ章百姓一ト云ヘル也、平ハ是安ジテ平也、平ナルトキハ上下各守ニ其分一也、章ハ文章アッテ明ナル也、是禮ノ行ル、處也、故ニ百姓昭明協ニ和萬邦一トイヘリ、乃夫子堯ヲ稱シテ巍々乎、其有ニ成功一也、煥乎其有ニ文章一トノ玉ハ、平章ノ心ナラズヤ、是レ道レ之以レ德、齊レ之以レ禮ト云ヘル心也、コヽヲ以テ治敎ノ至極、在ニ安與ニ明ト云ヘル也、

○問云、古來天下ノ治ヲ泰平ト稱スルトキハ、先泰安ナルト平ナルヲ以テ極トスベシヤ、

答云、人安ンゼザルトキハ禮ヲホドコスコトカタシ、故ニ先安ヲ以テ稱ス、倉廩給テ禮節ヲシリ、有ニ恒產一テ恒心アルノタメシナリ、安ズルトキハ必ズ禮ヲ失シテ上下ノ分不レ正、上下ノ分不レ正バ乃危ニ至ル、故ニ禮ヲ立テソノ過不及ヲ節ス、コヽニヲイテ泰平大ニ極テ長久也、人富有ニシテ禮ヲシラザレバ、四民各分ヲワスレ、奢侈ヲ以テ事トス、庶アルトキハ敎ヲ以テセズンバアラザルノユヘ也、凡泰平ト云コト黃帝泰階六符經泰階ノ平ナルヲ泰平ト云ト出タリ、然レドモ此書道家附會ノ說ニシテ信ズルニ不レ足、泰ハ君子之道長小人之道消也ト易ニ出セリ、又泰者通也ト出タリ、サレバ天地交而萬物通也、上下交而其志同也ト云、是泰ノ字義ナレバ、泰ハ安泰ナルト云、內ニ自文明ノ心ヲフクメル也、コレマコトノ泰平也、如レ此シテ而天ノ三階泰平ナルベキ也、聖人ノ治ニアラザレバ平章ノ二字以テ用ガタシト可レ知也、古來天下治平ノ事、舊紀ニ多ク出タリ、唯安ジテ明ニイタラザル多ク、又明ヲ不レ知ノ察ニ過テ、以テ苛政ニ及ビ、安コトヲ不レ得猶多シ、故ニ安而不レ敎、敎而不レ安ハ、共ニ至治ト不レ可レ言、庶アルトキハコレヲ富シメ、富トキハコレニ敎、コレ聖人ノ明戒ト可レ云也、

○問云、既ニコレニ敎テ、其至極ニ至レルトキ、マコトノ太平ナリヤ、

答云、凡ソ聖人ノ道恒久ナラザレバ、其化ヲシクコトヲ不レ得也、只一旦ニ人ノ趣向テ喜タノシムコトヲナス事ハ易シテ、久シテソノ德ニ化スルコトハ難シ、ソノユヘハ當分民ノツカレ苦シムコトヲ知テ、コレヲ救コレニ財ヲ與フルハ皆ナリヤスキコト也、コレ當分民ヲ悅バシメタノマシムルノ道也、人ノ欲ニ限アラズシテ財ニ限アレバ、每度コレヲ施コレヲ濟事、堯舜ノ聖代ニモナリガタシ、故ニ財ヲ出シ倉廩ヲヒライテ民ヲスクイ、ソノ患ヲノガレシムルコトハ、皆節アツテ恒ニ用ユルコトニアラズ、サレバ恒久ニ民化シテ上ノ德ヲヨブ、コレヲマコトノ至治ト云也、必ズ一時ノ悅ヲキワメテコレヲ以テ民化セリト不レ可レ思也、久シテソノ民安ズルトキハマコトノ化ト可レ云ナリ、易云、聖人久ニ於道ニ而天下化成、觀ニ其所レ恒而天地萬物之情可レ見矣ト云ヘルハコノ心也、周ノ政トイヘドモ三紀ニシテ而后ニ民道ニヲモムケリトイヘリ、敎コト久シクシテ其化民ニ及ビ、天下ニ滿ルトキハソノ化又久シク行レテ、天下ノ變アルベカラザル也、天地モ久シテソノ化萬物ニ立ツ也、タトヘバ一陽ハ冬至ニキザシテ夏至ニヲワリ、一陰ハ夏至ニキザシテ冬至ニヲワル、一年三百六十日、只陰陽ノ二氣ニシテ、陽ヲ春夏ニワケテ十二節ヲ立、陰ヲ秋冬ニワケテ十二節ヲ立、春一季ニ九十日ヲ分、夏一季ニ九十日ヲ分、コノ間陽ノ生長收藏アリ、シカルニ春ハアタヽカナルハヅナリトイヘドモ、或ハ寒甚或雪、至夏ハアツキハヅナリトイヘドモ、或ハ涼或陰氣閉ルコトアリ、シカレドモ元來陽ノ根ザシ久シテ不レ變ガユヘニ、當分ノ陰寒ハ無レ程退去シテ、秋冬ノ陰モ亦如レ此、コヽニ於テ天地ノ道立テ四時行ルヽ也、聖人ノ治敎モ亦如レ此、ソノ根下ニ伏スルコト久シクシテ、愚者ハコレヲ不レ知ガユヘニ、其法令政事マデヲ思フテソノ實ヲ不レ察、サレバ聖人ノ世ヲ治ル中ニモ、天下惡人小人ナクンバアラザレバ、一旦利ヲ得コトヲモヨヲシテ、災ヲナスコトアリトイヘドモ、元來根ザシフカキ聖人ノ政ユヘニ、惡人小人ツイニソノ志ヲトグルコトヲ不レ得、ソノ中ニ聖人ノ禮日々ニヲコナワレ、イヅトナク天下ノ萬民コレヲ行ニ至ルガユヘニ、君子ノ道ハ長ジ小人ノ道ハ消シテ、天下コト〳〵ク春ノ臺ニ遊ニコトナラザル、コレヲマコトノ泰平ト可レ稱也、

○問云、聖人ノ至治ハ、甚易簡ナリト云ヘルコトイカン、

答云、聖人ノ政ハ其大綱大義ヲ立テ、ソノ根ヲフカクシ蔕ヲ固クシ、アラカジメコレヲ察シテ、其制ヲ詳ニシソノ禮ヲ明ニシテ、而シテ人君其知ヲ明ニシ、ソノ身ヲツトメ、其家ヲト、ノフ是乃易簡也、如レ此トキハ當分天下國家ノ間ニ何ホドノ變出來ト云ドモ、更ニヲドロクコトアラズ、其可レ歎ヲバスクヒ、其可レ助ヲバタスケ、其可レ罪ハツミシ、其殺スベキヲバコロシテ、別ニ制法ノ變ジカワリタル政ノ可レ立コトアラザル也、是皆聖人其機ヲ知、其變ヲツクシテ其政ヲ出スガユヘニ、時ニノゾンデ思案ノ變ズベキ處アラザレバ、政シバ／＼違ニ法令一日々新シク出ナンコトワリアラザル也、コレヲ易簡ナリト云ヘル也、晉ニ老莊ノ學ヲ事トシ、其政ヲ無事ト稱シ、易簡ト云ハ、皆何事ヲモカマワズアルニマカスルヲ以テ易簡無事トス、コレニ因テ執政大臣モ只清談ヲ事トシ無事ヲ要トス、コ、ニヲイテ清談變テ雜談ニ化シ、無事變ジテ有事トナツテ、晉大ニ亂ル、是易簡ノ實ヲ不レ知ガユヘ也、易ニ云、易簡而天下之理得矣、皐陶云、臨レ下以レ簡、御レ衆以レ寛ト云ヘルハ、如レ此ノコトニアラザル也、

○問云、子曰、無爲而治者、其舜也與、夫何爲哉、恭レ己正南面而已矣、コレ無爲ノ治ト可レ稱乎、

答云、堯スデニ天下ノ法制ヲ立、聖賢ノ臣ヲアゲテ事ヲマカセ玉フテ、治七十年、而シテ舜ヲ用テ攝位セシメ玉フ、コノ間二十八年ニシテ堯崩ジ玉フ、合テ百年ニ向テ天下コト／＼ク聖德ニ化ス、而シテ舜位ニ卽タマフテ雖九宮十二牧ヲ命ジ玉フ、コレ政ノ大體ヲ立テ、而恭レ己正南面シ玉フニアラズヤ、タトヘ道ニ志ウスキ人、政ニ志アラン輩、事ヲナストモ百年ニ滿テバソノ化ニ及ブベシ、コトニ無双ノ大聖人、百年ニ及デ天下ノ治教行レケレバ、其無爲而治玉フコト、マコトニ舜ニ及ブ人アルベカラズ、故ニ其舜也與トノ玉フ、決シテ後世ノ人及ブベカラザルコト明也、コレヲ繫辭ニ、夫子論ジテ曰、神農氏沒、黃帝堯舜氏作、通ニ其變一使ニ民不ニ倦、神而化レ之、使ニ民宜一レ之、易窮則變、變則通、通則久、是以自レ天祐レ之、吉无レ不レ利、黃帝堯舜垂ニ衣裳一而天下治、蓋取ニ諸乾坤一トノ玉ヘリ、サレバ神農氏ヨリ黃帝堯舜マデツヾイテ聖人世

ニヲコル、コノトキイマダ民俗邪悪ナリシヲ、ソノ變ニシタガッテコレヲ通ゼシメ、民ヲ敎テ不レ倦、ヨク神而化レ之コト久シキガユヘ、天地コレヲタスケ、乾坤ニノットッテ優久ナリ、コレ乃無爲ノ治、垂二衣裳一而天下治也、豈魏晋ノ易簡ニ同ジカランヤ、

○問云、シカラバ聖人ノ無爲易簡ハ事ヲツクスノイイニシテ、マコトノ無事易簡ニハ非ヤ、

答云、無事易簡ノ實ヲ不レ知ガユヘニ如レ此ノ惑アル也、一無事ト云ハ天下ノ間ニ邪義無道ノ輩アラズ、訟獄鬪諍ノ事ヤミ、風俗スナホニシテ、政ノ手間ノ入ルコトアラザルガユヘニ、上下安ジテ樂シム、コレ事ノナク無爲ト云ヘルコト也、易簡ト云ハ何篇ノコトモ滯ルコトアラズ、能通ジテ結ラザルコト也、凡ソ聖人ノ政堯舜トイヘドモ戰々兢々トシテ、思ヲフカクナシ玉フ、文王ノ至德周公ノ才美トイヘドモ、或翼々トシテ小レ心、或達レ曉兼思、如レ此格物致知シテ天下ノ制禮ヲ明、以テソノ化久シテ而後ニ國ニ訟スクナク、世ニ究民アラズ、萬民ソノ德ニ化ス、故ニツイニ無レ爲無レ虞ニ至レル、コレ垂二衣裳一テ天下ノ治無爲而天下化スト云ヘル也、コ、ヲ以テ案ズルニ、聖人ノ無事易簡ハ、千錬萬鍛ノ間ヨリ以テ出生ス、タトヘバ天地ソクバクノ陰陽五行、相生相對シテ此形體アラワレ、日月星辰カ、ツテ而シテ天地ツイニ無事易簡ナルガ如シ、コレヲ乾坤ノ易簡トハ云ヘル也、ワヅカノ一草一木ソノ花ヲ生ジソノ葉ヲナスモ、皆四時ノ間イクバクノ模樣ヲ不レ經バ、此花此葉アラワレザル也、故ニ聖人ノ時モ訟ナクンバアラズ、惡人ヲコラズンバアラズ、事變ナクンバアラズシテ、其事皆豫制セルガユヘニ、事來レバ忽ワカッテ不レ滯、タトヘ夜來許多ノ陰氣相コリテ、此霜ヲナシ氷ヲナストイヘドモ、明朝此日光出レバコト〲ク散融シテ、又本ノ水トナルニ不レ異也、若ソノ實ヲ不レ知シテ、聖人ノ治ハ無事易簡ナリト心得ハ、皆事ヲ棄用ヲ不レ辨シテ疎畧ニ至ルベシ、シカレバ訟ハ日々ニカサナリ、人ノ情ハ月々ニツカヘテ天下一黨闇タルベシ、或人カタリケルハ、料理ノ上手樣々ノ美味ヲ考ヘテ、ソノ中ヨリ輕キ味ノ料理ヲナスヲマコトノ輕キ料理ト云也、コレヲ下手ノナマモノシリナル者、似(マネ)テカロキ料理ヲナスハ、皆麁草ニナリテ腹中ノ養ニナラザルト云コト、コレ似合シキ物語也、

○問云、至治ノ民其シルシ如何、

答云、太平無レ象ト云ヘリ、サレバ天下ノ民ツカユル處ハホドキ、苦ム所ハ樂シミ、危所アレバ安カラシム、事ナケレバ事ナシ、帝德ヲシルベキ者ハシリ、不レ可レ知モノハ不レ知、コレヲ無レ象ト云ベキ也、至ラヌ民悅デコノ君ナラデハト云ハンハ、彼ヲ悅バシムルノ政ニシテマコトノコトニアラズ、彼ヲ悅バシメンコトハ、ツヾイテ行ル、ノ政ニ非ズ、父母ノ子ヲ慈愛スルモ、子ノツテニ悅ブゴトクハナリガタキコト也、況ヤ天下ノ人民ヲヤ、唯民ハ民ノ無知ニマカセテ、道德仁義ノ名義ヲサシヲキ、カレガ利ヲ利トシテカレガ樂ヲタノシマシメ、士ハソノ職ヲツトメテ君ヲ貴ビ、父ヲ崇、子弟ヲミチビキ、賢ヲ賢トシテ性心工夫ノ名義ニ不レ及、大臣ハ常ニ政ヲ存シテ民情ニ通ジ、德ヲタヾシ知ヲ明シ、人君ハ政ニウムコトナク、古今ニ通ジ事宜ヲハカル、コレ太平ノ無レ象シテソノ化行ル、ト可レ言也、愚謂、至治者耻三民知二帝德一、中治畏三民不レ知二帝德一、下治欲レ令三民知二帝德一、暴治令三民強頌二其德一也、至知者上知也、暴治者下愚也、中治者不レ久、下治者亡、

○問云、聖人之治、其ノ大體ヲ得ルノ要如何、

答云、人君政ノ大體ハ在レ致レ知、故ニ史官、稱レ堯曰二欽明一、稱レ舜曰二文明一、ソノ知ヲキワムルコトハ、先吾身ヲ明ニスルニアリ、堯克明二俊德一、舜明二四目一、達二四聰一トハコレ也、而シテ政ハ得レ人ヲ以テ要トス、堯舜ノ政ハ在レ得レ人、人得二其職一バ政無レ不レ正、政正則禮立テ民安、夫子ノ所謂明二明德於天下一也、上ニ堯舜ノ政効アリ、下ニ孔子ノ聖戒アリ、學ニヨッテ治ヲ究メントナラバ、コノ間ヲ不レ可レ出也、

戊子三冬之遥夜、童子在レ傍、問レ之難レ之、或再レ之、或三レ之、以續二秋蛼之餘吟一、慰二謫居之寥々一、終草焉、如レ脱レ藁竢二來日之潤色一云、

寛文第八臘大日　山鹿子謡叟

謫居童問下末終

光圀卿教訓

西山様より若殿様江被二仰進一候御傳言之扣

一御讀書之儀前々より度々被二仰進一候、御身之益に罷成候段不レ及レ申、文字御働候得ば、當分御用御足候而、御老年之後甚御慰に相成候事に候、仍レ之御精御出候様思召候事、

一御武藝之儀何も少し御心懸不レ被レ遊候ては不レ叶儀、就レ中槍者長道具にて取扱難レ成物に候、尤大將之御自身之働に不レ及、御馬之先に而諸士の槍を合候事を被レ成二御覧一候事得共、如何様之事にて御自身槍を御取候事有レ之間敷ものにて無レ之候、其節日頃御稽古無レ之あいかふり等、御手に入不二申上一者御用に立不レ申候間、能程に御習候様にと思召候事、

一劍術は、御身之圍に罷成候儀、御心得不レ被レ成候て不レ叶儀、就中居合被レ成御習御尤之事に候、居合拔之上にては或は四寸のつまり屛風水風呂の内にて、四尺の刀を拔などゝ申事有レ之候得共、夫者所作上にて少も御用立不レ申儀、居合者拔口一種の物にて候、拔口を致二吟味一候て拔打の當りつよく候ため、縦へば二打三打にて參候處、拔口能當り強候得ば、一打にて參候物是許多之益に罷成候、御稽古被レ成候様にと思召候事、

一大兵は、三四尺之刀をも自由に振廻し、用を成事に候得ば、大抵之者は大刀は手に餘り甚無益の事也。

大殿様御若年之頃より御試被レ遊候に付、二尺五寸よりうへの御刀は御手に餘り候、若殿様に者以後何程御長成可レ被レ遊も難レ計被二思召一候得共、長刀は必御好に被レ成間敷候、御脇指は壹尺七八寸より一尺迄、御刀は二尺三四寸迄に可レ被レ遊候、だてを被レ成長刀を御指被レ成度被二思召一候はゞ、何程にても空鞘を可レ被二仰付一候、身者必右之寸尺に御心得可レ被レ成事、

一軍法は、大將御存知無レ之候て不レ叶儀、萬一御用御承御出馬之時、士卒之被二召仕一様、備立御存不レ被レ成候ては、不二相成一儀一騎前之御働は、匹夫之勇とて御用に立不レ申儀、今時之軍法者人をたぶらか

し候樣成儀、猶以無用之至、栗田七兵衞御近習に罷在、謙信流之軍法覺へ候て罷在候事に候間、軍法一通りは七兵衞江御聞被レ成可レ然と思召候事、

一軍學之根本は、七書より外は無レ之候、　大殿樣御若年之時分七書を御讀被レ成大要御心得被レ成ニ御座一候、三畧六韜其外何も軍學之道理を說述之書にて候得共、就中孫子吳子を專要と致事に候、然共孫子吳子軍學は巧なりといへども行跡は不レ足レ學、縱ば上州筋夜討强盜之類、それ〴〵の法有レ之、續松のふり樣別而夜討之大切とする事也、强盜の中にも頭立たる老巧之者に續松をふらする事也、ふり樣惡敷時は働き不レ宜、此故に續松の役を肝要として、防者の方よりも續松ふりを目懸討取樣に致事、是等は武士の心得に罷成候事にて、夜討强盜之所爲にも能事は無きにはあらず、然共夜討强盜は大なる惡事也、孫子吳子も如レ此にて可レ取所を取、可レ捨所を捨候樣に御心得可レ被レ成候事、

一常々算盤を御習算勘を御心得候樣にと被ニ仰進一候儀、役人に被ニ相成一候御身にても無レ之、何故と可レ被ニ思召一候得共、算數御存無レ之候ては備立人數之配樣不ニ相成一ものに候、たとへば三百坪一段之場に騎馬之侍何程被レ立申候と申事、御馬上にて御一覽之內にて積り被レ成候樣無レ之候ては、忙敷時節急用之間に合不レ申物に候、尤軍學備立心得之者、御側に可ニ罷在一候得共、いか樣之事にて其者不ニ罷在一時者御用欠申候、依レ之御自身御心得不レ被レ成候て不レ叶儀、　大殿樣には御若年之時より地坪被レ附ニ御心一何段何町之場所卽時に被レ成ニ御覽一候て、常々御心懸被レ成候樣に被レ成度思召候事、

一大將之寶は、堅固なる城郭さねよき甲冑此二ツより外は無レ之候、然共城郭甲冑外にて有レ之物にて無レ之候、常々被ニ召仕一候諸士卽城郭甲冑に御座候、何程さねよき甲冑を著堅固成城郭に籠候ても、士卒之心離れ候ては、用に立不レ申候、士卒合心之時者、何程之城郭甲冑にもまさり申候、縱へば人の身近き寶は刀脇指に過たる物は無レ之、然共鞘はしりて手足を切事も有レ之、士卒も如レ此にて、御身の守に罷成寶に候得共、鞘はしり怪我をする事なき樣

に人を御見立候て被二召仕一候事肝要に候、畢竟之所御恩に感じ申候者、刀脇指の身の守に罷成候ごとく、怨をふくみ候へば、鞘はしり怪我をすることく候間、御恩に感じ怨をふくみ不ㇾ申樣、常々可ㇾ被二召仕一候事、

一御家中諸士の筋目を御存知被ㇾ遊候樣に御心懸可ㇾ被ㇾ成候、縦へば駿河以來　源威公江御附人四拾九人之末は、誰々其外源威公御代　大殿樣以來被二召仕一候、古參新參之差別由緒來歷御存知被ㇾ遊候樣に可ㇾ被ㇾ成候、あまた書記被ㇾ置候物有ㇾ之候、御望に被二思召一候はゞ可ㇾ被ㇾ進候間、被ㇾ成二御覽一又は人の物語を被ㇾ成二御聞一、御存知被ㇾ置候樣にと思召候事、

一常々御身うみ不ㇾ申樣御身持可ㇾ被ㇾ成候、　大殿樣御若年より御身持健に被ㇾ遊候故、御老年之後迄も、萬一いか樣の時と申大寒大暑に野陣を御張被ㇾ成候ても、少も御いたみ被ㇾ成候事は無ㇾ之樣に御身持被ㇾ成候、御身は習しの物に候間、健に被ㇾ為ㇾ成候樣に御心懸可ㇾ被ㇾ成候、　大殿樣は、三木別所屋敷にて御誕生、御五歲迄は柵町に被ㇾ成二御座一、杉と申乳母、らいと申婆々、庄九郎と申御草履取、男女三人より外御召仕不ㇾ被ㇾ成、被二召上一物なども隨分輕く御育被ㇾ遊候處、御家督を御取被ㇾ成、三十年御政務を被ㇾ成、今以御息災に被ㇾ成二御座一候間、此段を能々御考被ㇾ遊候樣にと思召候事、

右十件、江戶交代之御暇に西山江參上之節、大殿樣より若殿樣江被二仰進一候御傳言也、

辰八月六日　　安積覺兵衞謹記

光圀卿教訓終

學問關鍵辯言

立二人之道一、曰仁與レ義、故聖人開レ口便說、載在二方策一、如レ揭二日星一、世級日降、不三唯不二能レ行二仁義一耳、其解二仁義一、不三復遵二古義一、爲三四心全具二於性一、將下窒二其欲一以復中其初上也、殊不レ知聖人之敎、有二克養之方一、而無二復初之說一、彰々甚明矣、我東涯先生、繼レ志述レ事、恢二宏先業一、欲レ使下人同學二古之道一、而以不上レ詭二聖賢立敎之本旨一、故爲二學者一諄々然、詳指二其源委一、闡二明其要指一、著レ書滿レ家、稍公二于世一、亦欲下初學者未レ諳二句讀一者、易上曉二學問大旨一也、爲著二學問關鍵一書一、夫莫下爲二易々常談一而不中講究上焉、言近而指遠、古道可二庶幾一、予侍二絳帳一日淺、東遊多年、歸レ家授レ官、鞅掌之暇、抱レ經就二其家一、先生不二我遐棄一、予也不敏、業文未レ有レ所レ就、去年忽見レ背矣、吁、天實爲レ之、謂二之何一耶、其存日嘗命レ梓二此書一、未レ成而沒、子弟門生輩、校讎告レ成、使三予不佞書二其卷端一、謹而題二數言一、此爲レ序云、

元文二年丁巳之春拾遺菅原家長謹拜書　印印

學問關鍵

先儒ノ說ニオモヘラク、天陰陽五行ヲ以テ萬物ヲ化生ス、人ソノ理ヲ受テ仁義禮智信ノ五性トナル、理ハ一般ナルモノニテ、聖人ヨリ凡人ニ至ルマデスコシモカハルコトナシ、氣ノウケヤウ同カラザルニ因リ、聖人ノ德ハ淸明純粹ニシテ、スコシノマジハリナク、愚不肖ナルモノハ、昏濁遲鈍ニシテ、ソノ理アラハレガタシ、コレヲ氣質ノ偏ト云、タトヘバ天上ノ月ノ光ハ一ツナレドモ、ウツル所ノ水、淸濁同カラザルニ因テ、ソノ影明暗ノ不同アルガゴトシ、又人タルモノ、生出テ形氣ヲ具ルトキハ、耳目口鼻ノ欲アリ、耳ハ聲ヲコノミ、目ハ色ヲコノミ、口ハ味ヲコノミ、鼻ハ香ヲコノム、ソノ欲熾盛ニシテ、本性ヲオホヒクラマスニ因テ、本來ノ天理ヲ取失フ、是ヲ物欲ノ蔽ト云、タトヘバ明鏡ノ本體ハ明ナレドモ、塵埃ニオホハサル、ニヨリテ、ソノ光明アラハレザルガゴトシ、シカルニ因テ、今日學問スル人ハ、氣質ノ偏ヲタメ、物欲ノ蔽ハレヲノゾキテ、虛靈不昧ノ本體ニ立カヘル

トキハ、堯舜一體ノ地位ニイタリ、天理ノ極ヲツクシテ、一毫人欲ノ蔽レナク、コノ心ノ體、明鏡止水ノゴトクニナリテ、仁義禮智ノ理アラハレ、工夫成就スルナリ、所謂明ニ明德一、幷ニ復レ性復レ初ト云ミナコノ事ナリ、サテ又天地萬物ノ道理、コトゴトクワガ方寸ノ中ニ具リテアリ、コレヲ窮ザレバ、ワガ心ノ量ヲオシヒラカザルニ因テ、書ヲヨミ理ヲ究メテ、衆物ノ表裏精粗、ノコルトコロナクアキラカニシテ、一旦豁然ノ所ニイタル、所謂格物窮理ト云ミナコノ事ナリ、コレヲ合テ居敬窮理ト云、此後世學問大綱領、作レ聖ノ手段、成レ德ノ工程、宋明已來ノ諸儒先達サマザマノ說アレドモ、ソノ大旨ハコノ外ニイヅルコトナシ、然ドモ之ヲ聖人ノ辭ニタヾシ、今日人人ノ上ニ引當テミルトキハ、オナジカラザルコトアリ、

○聖人ノ道ハ、專ラ人倫日用應事接物ノ上ニアリ、人ノ所作一方ナラズ、付合人モ又一人ニアラズ、故ニ人ニヨリテ敎ヲマフケ、事ニ付テ法ヲ示シ玉フ、タトヘバ家居衣服器物調度ノソナヘ、大小精粗ノ品品アルガゴトシ、父ニ對シテハ孝ノ道アリ、兄ニ對シテハ弟ノ道アリ、子ニ對シテハ慈ノ道アリ、朋友ニ對シテハ信ノ道アリ、ヒロク衆人ニ對シテハ仁ノ道アリ、コノ外禮義智勇恭敬忠恕ノタグヒ、ソノ品マコトニ一端ナラズ、故ニ之ヲ名ケテ百行ト云、又萬善ト云、コレヲ總括(スベク)リテ道德ト云、畢竟人ニ付合フシカタノ名ナリ、古ヨリコノカタ、聖賢ノヲシヘ、イヅレモソノ身ヲオサメ、行ヲ正シテ、コノスジニタガハザランヤウニトノコトナリ、

○百行ノ中ニ、大小偏全ノ不同アリ、聖賢ノ人ヲ敎ルハ、ソノ中ニ就テ、或ハソノ一ヲ擧ゲ、或ハソノ二ヲ擧ゲ、或ハソノ三四ヲ擧ゲ、或ハ衆事アハセ擧テ、人ニ示シ玉フ、故ニ語孟ノ中ニ、仁一ツヲ擧テノ玉フ所アリ、君子去レ仁惡乎成レ名ノ章ノゴトキ是ナリ、義一ツヲ擧テノ玉フ所アリ、義之與比(トモニシタガフ)章ノゴトキ是ナリ、又ハ仁義ト云、仁禮ト云、仁智ト云テ、二事並擧テノ玉フ所アリ、又ハ智仁勇ト云、禮義信ト云、仁智敬ト云テ、三事兼擧テノ玉フ所アリ、又ハ仁義禮智ト云、孝弟忠信ト云、文行忠信ト云テ、四事兼合テノ玉フ所アリ、コレヨリ以外、一一アグルニイトマアラズ、ダトヘバ醫家ノ藥方ヲ立ツルニ、一味ヲ用ユルヲ單方ト云、二味ヲ用ルヲ偶方ト云、三味以上ヲ複方ト云ガ

ゴトシ、宜ニ隨テ增損シ、症ヲミテ損益シテ、畢竟病ヲ癒スノ益ヲ求ム、聖人ノ敎、衆敎交擧テ、一定ノ名ナキコトカクノゴトシ、シカレバ仁義禮智ノ五ノモノハ、百行中ノ最大ナルモノニシテ、凡人事ノ法則タルコトシルベシ、

○聖人ノヲシヘ如レ此ノ科アルワケハ、何事ニテモ只一事ニカタヨリテ行フトキハ、タトヒヨキ事ニテモソノ弊アルコトナリ、故ニ孟子ニ曰、惡ニ乎執レ一者、爲ニ其賊レ道也、執レ一而廢レ百也ト、タトヘバ仁ホドノ大德ハナケレドモ、只仁愛バカリニテ、義ト云モノナケレバ、墨子ガ兼愛ヲ道トシテ、愛ニ差等ナキガゴトク、ソノ弊父子ノ道ナキニイタル、又義モ仁ニヲシ並ブ大德ナレドモ、義理バカリニテ、仁ト云モノナケレバ、楊朱ガ爲我ヲ道トシテ、一毛ヲ拔テ人ヲ利スルコトヲモセザルガゴトク、ソノ弊君臣ノ道ナキニ至ル、梁武帝罪人ヲ刑スルニ忍ビラレザルハ、仁ニ似タレドモ、一向ニ義ヲ失フ、申韓刑名ノ學ハ義ニ似タレドモ、一向ニ仁ヲ失フ、イヅレモソノ害ヲ免レズ、故ニ聖人ハ仁義並行ヒ、禮樂兼擧ゲテ、一概ナルヲシヘナシ、仁義ノ道ハ、陰陽剛柔ノ象ニテ、彼此持合セタルコト、コトハリナリ、又同ジヤウノコトニテ、二事互ニ相濟スコトアリ、人而不レ仁如レ禮何ト云ハ、人ト云モノ、仁愛ノ實ナケレバ、禮ヲ行フトイヘドモ行レガタシトナリ、コレ禮ノ仁ニ本カズンバアルベカザルワケヲノ玉ヘリ、シカルニ又克レ己復レ禮爲レ仁トノ玉ハ、仁ヲ行フトイヘドモ、禮ト云モノアリテ、ソノ次第等差ヲ分タザレバ、行ハレガタシトナリ、孟子ニイハユル禮之實節ニ文斯二者ニト、中庸ニイハユル親レ親之殺、尊レ賢之等、禮所レ生也ト、イヅレモコノ意ナリ、此仁ノ禮ヲ輔トセザレバカナハザルワケヲノ玉ヘリ、又義ト勇トハトリワケ同ジヤウナルコトナリ、シカルニ夫子曰、見レ義不レ爲無レ勇也ト、義理ヲ辨ヘテモ、勇氣ナケレバ義理ヲ得ヲコナハヌト也、又曰、小人有レ勇而無レ義則爲レ盜トノ玉フハ、勇氣バカリニテ、義理ヲ辨ヘザレバアシキトナリ、此レ勇ト義ト互ニ持合ワケヲノ玉ヘリ、又信近ニ於義ニ言可レ復也トノ玉フハ、信モ義ニヨラザレバアシキトナリ、又曰、義以爲レ質ト、ソノ終リニ云ク、信以成レ之ト、義モ信ナケレバ成就セズトナリ、コレ信ト義ト互ニ持合タルコトミルベシ、聖人ノヲシヘ一偏ニカヽハラ

ズシテ弊ナキコトイヅレモカクノゴトシ、

○堯舜ノ時、人倫ノ道ヲ天下ノ萬民ニ示シテ、君臣有レ義、父子有レ親、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信ト、コノ五ツヲヲシヘトス、天下ノ人アマタアリトイヘドモ、コノ五ツノ外ニイヅルコトナシ、又五典ト云、五品ト云テ、中庸ニコレヲ天下ノ達道ト云、サテ人ト云モノ、智識ナキトキハ、事ノ是非善惡ヲ辨フルコトナシ、仁心ナケレバ眞實ニコレヲ守ルコトナシ、ソノ上ニ勇氣ナケレバ、イサミ進デ道ヲ行フ事ナシ、故ニ夫子常ニコノ三ツノ德ヲ擧テ人ニ示シ、中庸ニコレヲ天下之達德ト云、五倫ノ道モコノ三ツノ德ナケレバ行ハレザルニ因テ、中庸ニ五倫ノ道ヲ列テ、ソノ後ニコレヲ擧ゲ、所ニ以行レ之トイヘリ、シカレバ五倫ノ道ハ天下ニ通ジテ、人ノ品ニヨリテ之ヲ分ツ、三德ハ一人ノ上ニ付テ、コレヲ三ニ分テノ玉フナリ、イヅレモ天下億萬人ノトモドモニ行フコトナルニヨリテ、之ヲ達道達德トイフ、孟子ノ時ニ至テ、專仁義ノ二ツヲ並擧テ、天下ニ倡(イサナヒ)、又禮智ヲ合セテヲシヘトス、コノ四ツノ德ハ、道德中ノ最大ナルモノナリ、シカレバ古ヨリノ聖賢君子、百行ノ中ニツイテ、彼此取合セ、宜ニ隨テヲシヘヲタツルコト、後世ノ憲法式目ニ箇條畫一(ヒトツカキ)ヲ立ルコト、世世ニヨリテ、多少損益一定ナラザルガゴトシ、語孟並文言・系辭・周禮・左傳・禮記ニサマ〴〵取合テヲシヘヲ立ラル、コト、ソノ中ニ得失ハアルベケレドモ、ミナ人ヲヲシフルノ條目ナリ、シカレバ仁禮義貞ト云テモヨク、仁義忠信トイフテモヨク、知仁聖義忠和ト云テモヨク、敬以直レ內、義以方レ外トイフテモヨシ、イヅレモ人人修身ノ法則ナラズト云コトナシ、ソノ內ニテハ堯舜孔孟ノヲシヘ親義別敘信ト云、智仁勇ト云、仁義禮智ト云コト、コレヲ天下ニ通ジテタガフコトナク、之ヲ萬世ニ推シテ、イナト云コトナク、弊ナキコトナレバ、ソノ人ヲ仰デ聖人トシ、ソノ言ヲ尊デ聖訓トシテ、ツ、シミ守テコレヲカユルコトナシ、三代以來、親義別敘信、知仁勇、仁義禮智ノ名ノ立、皆コノワケナリ、

○モシ先儒ノ說ノゴトク、凡人タルモノ、仁義禮智信、五性ノ理ヲ具ルコトナラバ、タトヘバ人身ノ五臟六腑アルガゴトク、手足ニ二十ノ指アルガゴトク、一ツヲ加フルコトモナラズ、一ツヲヘラスコトモナラズ、本ヨリ聖人ノ智慧料簡ヲ以テストイヘドモ、增損

スベキモノニ非ズ、又他ノ事ニ取合テ云ベキコトニモアラズ、シカルニ經書ノ中ヲ考ルニ、五性ノ中ニテ仁一ツ義一ツヲノ玉ヒ、或ハ仁智、或仁禮ナド、二ツヲ合テノ玉フ、或ハ禮義信、或ハ仁義禮ナド三ヲ擧テノ玉フ、又ハ仁智ニ勇ヲ添テ智仁勇トノ玉ヒ、仁智信ニ勇剛直ヲ添テ六言トノ玉ヒ、仁義禮智樂ト云、仁義忠信ト云ノ類アマタナリ、五性ヲ以テイヘバ、イヅレモ不都合ナルコトナリ、又コノ五ツノモノ、人ノ性ニ具リアルナラバ、堯舜三代ヨリモ、ソノ沙汰アルベキコトナリ、シカルニ堯舜ノ時、仁義ノ名サヘ未アラハレズ、孔子專ラ仁ヲノ玉ヒ、仁智トノ玉ヒテ、中庸ニ仁義禮ト合セ序デ、孟子ニ至リテ、仁義禮智ノ四ノ名ハジメテ具レリ、コレニ信ヲ加ヘテ、五性ト云コトハ、ハジメテ漢書董仲舒ノ傳ニイヅ、ソノ事甚ダ晩シ、且又仁義禮智ヲ性トスルトキハ、凡經傳ノ中、コノ四德ニ配ンデ、或ハ仁義禮樂ト云、或ハ仁義忠信ト云、或ハ仁敬孝慈信ト云ガゴトキ、亦ミナ以テ性トスベキヤ、然レバ仁義禮智ノ四ノモノハ、敎法ノ名目ニシテ、代代ノ聖賢、次第ニ詳明シ、ソノ目漸漸ニツナハリテ、性具ノ定數ニ非ルコト是ニテ知ベシ、大要古今ノ學者、所レ見マチ〳〵ナリトイヘドモ、語孟五經ヲ本經トシテ、證ヲトラズト云コトナシ、シカルニ語孟ヨリ以上、仁義禮智信ヲ五性トスルノ說ナキコト、上ニアグル通ナリ、コノ外又ウタガフベキコト左ニアラハス、合セ考フベシ、

○又經書ニ好レ仁好レ義好レ禮等ノ訓アリ、又仁ヲ安宅ニタトヘ、義ヲ正路ニタトヘ、禮ヲ門ニタトフル等ノコト、數多見エタリ、仁義禮智ヲ性ト云トキハ、好トハイハレマジキナリ、又物ニモ比ヘガタキナリ、體用ノ說ヲ以テ言テモ、體トモ用トモイハレマジキナリ、畢竟道ト云モノハ、人身ヲハナレテミルベキモノニ非ズ、又人心ニ具足シテ目ニモミエズ、耳ニモキコエザルノ理ニモアラズ、今日人人ノ行事、平生人ニ付合フシカタノ名ナリ、道トハ本道路ノ名、日本ニテハ東山道東海道、都ノ中ニテハ五條通リ三條通ノゴトキ、大路官道ヲサシテ云、貴賤智愚ヲワカタズ、諸萬人ノトモ〴〵ニ通行スル所ナリ、世ノ人ノ仁義禮智ヲ行フモマタ此ノゴトシ、故ニコレヲ道ト云、シカルニ因テ、人タルモノ平生ノ所作、慈悲憐憫スルコトヲスクヲ、仁ヲ好ト云、義理ニ叶フコトヲスクヲ、義ヲ好

ト云、儀式作法ゴトヲスクヲ、禮ヲ好ト云、所謂國君好レ仁天下無レ敵ト云、上好レ義則民易レ使也ト云、富而好レ禮貧而樂トノ玉フ、ミナコノワケナリ、ソノ餘居レ仁由レ義ト云、履レ禮蹈レ仁ト云等、イヅレモコノ通リナリ、之ヲ安宅正路ニタトヘ、理義ヲ芻豢ニ喩フルモ、コレニテシルベシ、シカレバ語孟五經中ニアラユル道德仁義等ノコトバ、ミナコノワケヲ意得テ勘辨スベシ、此經ノ大括例ナリ、因テオモフニ、道ヲ行フトイフコトハ、道ヲユクト云コトナリ、行ノ字兩音アリ、ユクトヨムトキハ本音平聲ナリ、オコナヒトヨムトキハ、胡孟反ニテ去聲ナリ、德行行義ノゴトキ、皆去聲ト點發ス、字彙ニ人之所レ行謂二之行一注アリ、オコナフトヨムトキモ平聲ニテ、行レ仁行レ義ノゴトキ、古來別ニ音注ナシ、然レバ日本ニテ道路ヲ歩ユクヲ、ユクトヨミ、仁義ヲツトムルヲオコナフトヨミワケタルハ、此邦ノヨミクセニテ、中國ニテハコノ差別ナシ、行レ仁行レ義ト云ハ、仁ヲユキ、義ヲユクトヨム意ナリ、平生ノ業作コノスジニタヨリテ、ツトメユクコトナリ、タトヘバ仁ヲ居宅ニ比シテ、居レ仁ト云、禮ヲ土地ニ比シテ、履レ禮ト云ガゴトシ、道路ヲフミユクヲ借テ、仁ヲユキ義ヲユクト云、コレニテシル道德仁義ハ人人業作ノスジニテ、未發ノ性ト云ベカラザルコト、ソノワケイヨ〳〵判然ナリ、

〇心性ノコト、唐虞三代ノ書ニハ、ソノ沙汰ナシ、偶ソノ說アリトイヘドモ、古文尙書ノ內ニ出テ、當時ノ眞語ニアラズ、論語ノ內ニモ諸弟子仁ヲ問ヒ、孝ヲ問、政ヲ問ノ章ハアマタアレドモ、心性ノ問ナシ、タダ性相近也習相遠也ノ一章、性ノコトヲノ玉フ、然ドモコレモ專敎ヲ貴デ善ヲナラヘトノ玉フコトニテ、性ヲ貴ブノ說ニ非ズ、心ノコト少少アレドモ、從二心所一レ欲不レ踰レ矩、其心三月不レ違レ仁ガゴトキ、イヅレモ道ヲノリトシテノ玉フ、タヾ心ヲ貴ブノ說ニアラズ、タシカニ心ノ正體ヲノ玉フハ、孟子ニノスル夫子ノ語、操則存舍則亡、出入無レ時、莫レ知二其郷一、惟心之謂與トノ玉フ一章ノミ、是モ心ハヨクスレバヨクナリ、アシクスレバアシクナルモノニテ、常ニ善ヲ以テ養ハザレバ叶ハザルコトヲ示シ玉ヒテ、專ラ心ヲ貴ブノ說ニアラズ、ソレユヘ後世ノ儒家ニハ此章ニオヒテ疑多キコトヲマヌカレズ、孟子ノ時ニ至テ、本心ト說キ、良心ト說、性善四端良知良能等ノ名オコリ

テ、專ラ人ノ心性ヲヨキモノト示シ玉フ、

○孔子ノ時ハ春秋ノ末、衰亂ノ世トイヘドモ、先王ノ遺風尚ノコリテ、當時ノ人仁義ノ貴ブベク、人ノ學デ仁義ヲ得ベキコトヲシレリ、ユヘニ論語ノ中ニハ、仁義ヲ行フノ方法バカリヲノ玉ヒテ、ワケテ仁義ノ結構ナルコトヲノ玉ハズ、又人性ノ善ナルコトヲモ示シ玉ハズ、孟子ノ時ニ至テ世道イヨ／＼衰微ニ及デ、世間ノ人タヾ功利計謀ヲツトメテ、仁義ノ大切ナル事ヲシラズ、所謂言非二禮義一謂二之自暴一モノナリ、又仁義ヲヨキ事ト思フモノアレドモ、ワガ一身ヲ見カギリテ、仁義ヲ得行ヌトオモヘリ、所謂吾身不レ能二居レ仁由レ義謂二之自棄一モノナリ、シカルニ因テ、仁義ノ大切ナルコトヲ拈出シテ、仁人之安宅也、義人之大路也、舍二安宅一而弗レ居、舍二正路一而不レ由哀哉トイヘリ、サキニ惠王ニ對シテ曰二仁義一而已矣、何必曰レ利、又人ノ性ノ善ナルコトヲ示シテ、人人有下貴二於己一者上弗レ思耳トイヘリ、コレ性善四端ノ説ノオコルユヘンニシテ、仁義禮智ヲ行フノ本、ワガ身ニソナハレリト告ルナリ、ソレユヘ孔子ノ心性ヲノ玉フハ、言善惡ニワタラズ、孟子ノ心性ヲノ玉フハ、專ラ善ニツイテノ玉フ、シカレドモ心ハヨクスレバヨクナリ、アシクスレバアシクナルモノナレドモ、其正體善ナルモノニアラザレバ、道ニスヽムコトナシ、孔孟ノ言、異ナルヤウナレドモ、其至極ハ一致ニオツルナリ、

○四端ノ説孟子ニハジマル、堯舜ノ時、天下太平人民豐樂ニシテ、戶ザヽヌ御代ト云ハ、仁ノ極功ナリ、ソノ本ハ何ヨリ出ルト尋ルトキハ、上一人ノ身、一片ノ慈悲心ヨリオコル、コレヲ惻隱之心仁之端也ト云、端トハ根本ト云コトナリ、タトヘバ仁ハ扇ヲヒロゲタルゴトシ、惻隱ノ心ハ扇檈ノトコロナリ、孟子ノ中、此ヲ物ニ比喩シテ若二火始然一若二泉始達一ト云、又萠蘖ノ生ニタトフ、コレハ草木ノヒコバエヲソダテテ大木ニナシ、岩間ノシミヅヲ引テ大河トナルガゴトク、イヅレモ生物ニ付テ、ソノ次第ニ生長スルコトヲイヘリ、先儒ノ説ニテハ仁ト云ハ本心未發ノ體ニシテ、此心ノ理思慮意念ノ未オコラザルトコロナリ、意念ノオコルトコロヲ四端ノ心ト云、根アル草木ノ地上ニ芽ヲ出シタルガ如シ、ソレユヘ端ト云ハ、ハシト訓ミテ、ハシロノミユルコトナリ、德澤ノ物ニ及ビ、天下萬民ニ及ブハ、仁ノ施ト云モノニテ、體用ノ

外ニアリ、ソノワケ先子ノ遺書ニツブサナレバコ、ニ贅ズ、

○仁義禮智ノ次第、上ニアグル通ニテ、孟子ノ時ニ至テソノ目全ソナハレリ、其後秦漢以來、五行災異ノ說盛ナルニ因テ、萬事ヲ五ツニワリテ、五行ニ配當ス、此ニ因テ四德ニ信ヲ加ヘ、仁義禮智信トタテ、之ヲ五常ト云、人ニ五常ノ性ヲ具ルト云コトハ、漢書元帝ノ詔書ニ出テ、其目ヲ仁義禮智信ト云コトハ、ハジメテ董仲舒ノ傳ニアリ、揚子法言ニモ其說アリ、禮記中庸篇天命之謂レ性ノ下、後漢鄭玄註ニ、木火土金水ノ神、仁義禮智信ノ性トナルコト、詳ニアラハセリ、班固ガ白虎通ニモ、其理ヲ詳ニセリ、其後唐ノ韓退之ノ原性ニモ、コノ五常ヲ列チテ性ト云ヘリ、然ドモ原道ニハ冒頭ニ仁義道德トアゲテ、凡吾所謂道德云者、合ニ仁與レ義言レ之也、天下之公言也トアレバ、全ク性トモ定メラレズ、宋ノ周子ニ至リテ、五常ハ德ト名ケテ、人ノ性ハ剛善・剛惡・柔善・柔惡・不剛・不柔而中トシ、五ノ品ヲ分ケラル、通書ニ云、德愛曰レ仁、宜曰レ義、理曰レ禮、通曰レ智、守曰レ信ト、太極圖說ニ曰、五性感動而善惡分萬事出矣、聖人定レ之以ニ中正仁義一而主レ靜ト是ナリ、伊川程子ニ至リテ、顏子好學論ヲ述テ曰、天地儲レ精、得ニ五行之秀一者爲レ人、其本也眞而靜、其未レ發也、五性具焉、曰仁義禮智信ト、本然ノ性ヲ云ヘリ、コレヨリコノカタ、凡儒學ヲスル人ハ皆コノ說ヲ遵守リテ、タガフコトナシ、秦漢已來ノ說通ジテ之ヲ考ルニ、周子已前ハコノ五ツノモノヲ性トモ見、德トモ見テ、ソノ說一決セズ、ソノ性ト云モ、專ラ氣質ノ上、已發ニ就テ云、程子已來定リテ本然ノ性、未發ノ體ト云モノニナリテ、ソノ說一定セリ、所謂性卽理也ト、卽コノ義ナリ、

○古今ノ間、通ジテ之ヲ考ルニ、仁義禮智信ヲ五性ト云テ、五行ニ配スルコトハ、其漸漢儒ニ始レリ、之ヲ六經ニ考レバ、ミナ道德ノ名ニシテ、又一定ノ數アルニ非ズ、世ニ交リ人ニ付合フシカタノ名、上ニ具ニアグルトヲリナリ、宋ノ世ノ諸先生、漢儒附會ノ陋ヲ辨ゼラル、コト、其功多トイヘドモ、五性ノコトハソノマ、遵用ラレテ、ソノ說イヨ／＼詳ニ、ソノ理イヨイヨフカシ、又心性ノコト聖賢ノ書ニ其說アリトイヘドモ、兎角道ト云モノヲ目當トシテ、心ノコレニタガハヌヤウニ示シ玉ヒ、タヾ心性ヲ尊ブコトエアラ

ズ、又佛老ノ説モサマ〳〵端オホシトイヘドモ、畢竟至極ノトコロハ、ワガ心ノ妙ヲ観ジテ、専ラワガ心ヲ尊デ萬法唯一心、心外無別法ト説ク、先儒道ヲ論ズルノアイダ、虚無寂滅ノ法ヲ斥テ、辨論尤嚴ナリトイヘドモ、反テ心理高妙ノ説ヲ倡フテ、又一心ヲ主トシテ、聖人ノイワユル仁義禮智モ、卽吾心ノ理ナリトイヘリ、是ニ因テ性情體用ノ説オコレリ、

○人ト云モノハ、ワガ一身ノハタラキ、イヅレモ相手アルモノナリ、耳ニハ物ヲキクヲ職トシテ、相手ハ聲ナリ、目ハ物ヲミルヲ職トシテ相手ハ色ナリ、口ノ味ヲ甘ジ、鼻ノ臭ヲカグモ、亦シカリ、心ト云モノハ、思慮分別スルヲ職トス、ソノ相手ハ道ナリ、故孟子曰、口之於レ味也有ニ同嗜一焉、耳之於レ聲也有ニ同聽一焉、目之於レ色也有ニ同美一焉、至ニ於心一獨無レ所ニ同然一乎、心之所ニ同然一者何也、謂理也、義也、聖人先得ニ我心之所ニ同然一耳、故理義之悦ニ我心一猶ニ芻豢之悦ニ我口一ト、仁義禮智ヲ心ノ德トスルトキハ、耳目口鼻ハ皆相手アリテ、心ニ相手ナシ、自ノ德ヲ相手ニスルナリ、孟子ノ言ヲ考レバ心ノ義理ヲオモシロク思フハ、耳目口鼻ノ聲色臭味ヲ悦ブガゴトシ、コレヲ今日人人ノ上ニ推當テミルニ、亦コノ通ナリ、然レバ仁義禮智ヲ心ニ具リタル理トナシガタシ、又何事ニテモソレゾレノ界尺ト云モノアリ、一ノ道具ヲコシラヘ、一ノ衣服ヲ製ユルニモ、ミナソノノリアリ、コレヲ規矩準繩ト云、人ノ心ハ活物ニシテ、定リガタキモノナリ、界尺ナクンバカナフマジ、心ノ界尺ハ何ゾヤ仁禮ノ類コレヲ界尺トシテ、心ノコレニタガハザルヤウニ修爲シ玉フ、故夫子ノ聖トイヘドモ、ナヲ七十ノ境界ニ及デ、始テ從ニ心所一レ欲不レ踰レ矩トノ玉ヘリ、又詩經大雅蒸民ノ篇曰、天生ニ蒸民一有レ物有レ則、民之秉レ彝好ニ是懿德一ト、人心ノ則ナケレバ不レ叶コト、コノ詩ニテ尤明白ナリ、好ト云ハ、理義之悦ニ我心一ト云、好レ仁好レ義ト云ノ類ニテ、人タルモノ、ヨク生付タルモノユヘニ、コノ懿德ヲスキコノムトナリ、懿德ト云ハ美德ト云コトニテ、仁義禮智ノ屬ヲサシテ云、卽人心ノ則ナリ、モシ仁義禮智ヲ心ノ德トスルトキハ、萬事萬物ミナソレ〳〵ノ則アリテ、心バカリニ則ナシ、自ノ德ヲ則トスルナリ、ソノ説ノゴトクナレバ、道具ヲコシラユルニ規矩準繩ヲカラズシテ、道具ノ上ニ規矩準繩ヲ具ルガゴトシ、コレ理ノアルマジキコト

ナリ、シカルニ因テシル、道ハ天下ノ達道、人心ノ法則ニテ、仁義禮智ハ、ソノ中ノ大スジメナリ、人ハ萬物ノ靈ニシテ、ソノ性善ナルユヘニ、ヨク之ヲ好テ行フナリ、性分ノ中全クコノ理ヲ具足スルニアラズ、

○シカルトキハ今日人タルモノ、何ヲ界尺トシテ身ヲ修ムベキナレバ、畢竟仁義ノ二ツニアリ、人ト云モノハ、上トシテハ下ヲオサメ、下トシテハ上ニ事ヘ、親ハ子ヲハゴクミ、子ハ親ヲイツクシミ、親戚鄕黨朋友ハ、タガヒニモチアヒタスケテ世ヲワタル、天下ニテモ一國ニテモ、一家ニテモ、カクノゴトクアリテ、人間世ヲ成就ス、コレヲ仁ト云、又ハ物ヲ人ニアタヘ、人ヨリ物ヲモラヒ、出處進退生死ノワケ、ソレゾレノスジミチニタガハズ、ノリニ叶フヤウニスル、是ヲ義ト云、コノ二ツノモノ持合テ、人道立ツコトナリ、故ニ孟子梁ノ惠王ノタメニ、王亦曰ニ仁義ニ而已矣トノ玉ヒ、又ヒロク衆人ノタメニ、仁者人之安宅也、義者人之正路也トノ玉ヒ、易ノ說卦ニ立ニ人之道ニ曰仁與レ義トイヘリ、サテ又仁義バカリニテハ、事ノ次第階級ワカレザルユヘニ、禮ト云モノナケレバ守リガタシ、智ト云モノナケレバ仁義ノ大切ナルコトヲワキマヘズ、故ニ孟子ニ禮ハ仁義ヲ節文スルコトヲノ玉ヒ、智ハコレヲ守テ弗レ去コトヲノ玉ヘリ、コレニ因テ仁義禮智ヲ人道ノ要トス、シカルニ人ハ萬物ノ靈ニシテ、天性事ノヨシアシヲ、ワキマヘシルモノナレドモ、タヾ生付ノマヽニシテ學ビザレバ、草木ニ雨露ノ養ヒ培養ノタスケナキガ如ク、ソノ生付ヲ成就スルコトナシ、學問ト云コトハ、古聖賢君子ノヨキ行ヒ、ヨキ言ヲミキヽ、又ハ世間ノ老成篤實ナル人ノシカタヲミナラヒテ、ソレヲテホンニシテ、シナラフコトナリ、シカルニ因テ、自ラ人倫ノ交リヲシリテ、仁義ノ道ニイタルナリ、サテ又人ト云モノ、欲心サカンニシテ制シガタキユヘ、禮義ト云モノヲノリトシテ、コレニタガワヌヤウニト思フトキハ、ソノ身ヨクオサマリテ、人欲ニオボレテ身ヲウシナヒ、家ヲヤブルコトハナシ、コレ修身ノ大略ナリ、コレヨリ上ツカタ、段段ニ長進シテ、聖人君子ノ域ニイタルコトハ、ソノ人ノ志ニアリ、シカレバ、學問ヲシテ、天地萬物ノ理ヲキハメテ、全體大用ヲアキラカニスルト云ハ、ソノ說高遠ニテ、人ノナシガタキコトナリ、身ヲ脩テ一毫人欲ノナキヤウニスルヲ目アテトスルモ

同ジコトナリ、
○先君子性理ノ學ヲ講究スルコト數年、ソノ甚ダ高遠ニ馳スルコトヲ厭ヒテ、語孟ノ二書ニヨリテ、專日用常行ノ上ニアリテ、スコシモ微妙ナル理ハナキコトヲ覺悟セリ、是ニ因テ道ハ天下ノ達道ニテ、性ニ具ルノ理ニアラズ、沖漠無朕、虛靈不昧等ノ説ハ、ミナ佛老ノ眞詮ニシテ、聖人ノ道ヲカタルユヘンニ非ズ、聖賢ノイハユル性ハ、ミナ氣質ノ性ニシテ本然ノ性ナシ、心ハミナ已發ノ心ニシテ、未發ノ心ナシトイヘリ、ソノ説ツブサニ遺書ニアラハル、予因テ思フ、四十年前先子門人弟子ノタメニ、性善ノ説ヲ倡フニ、初學入門ノ徒ハ、ニハカニ領承セズ、兎角人ハ生付アシキモノニテ、性善トハイハレマジト思ヘリ、今ニ至ルマデ世間一通リノ人ハイヅレモソノヤウニ思フモノナリ、皆俗見ナリ、然ドモコレハ世上ノ人ノ模様ヲミテ、料簡ヲ付タルモノナリ、荀子ノ性惡ナド云モ、ソノ類ナリ、書物ヲミ學問スル人ハ、性善ト云コトハヨク合點スレドモ、仁義禮智ハ人ノ性ニ生付タルコト、オモヘリ、コレハ書物ヲミ、先儒ノ成説ヲ習熟シテ、道理ヲ以テカクオモヘリ、シカレドモ、仁義ヲ只生付トバカリ意得テハ、モトヨリ孔孟ノ意ニモ非ズ、又宋學ノ旨ニモ非ズ、漢唐諸儒鄭康成韓退之ナドノ見ニナリテ、半上落下ノドチモツカザルコトナリ、シカルニ先子仁義禮智ハ道德ノ名ニシテ、性ニアラズト倡ヒ、サマ〳〵ニ比喩辨論詳明ナレドモ、初學ノ士ハ人身ヲハナレテ、何事モアルマジト思フテ、ニハカニ領解セズ、畢竟道ト云モノハ、卽事卽道人人行事ノ上ニアリテ、吾身ヲハナレテ、一物ノミルベキモノアランヤ、古モ今モカハルコトナク、和漢ノワカチナク、親アレバ孝ヲツクシ、君アレバ忠ヲツクスコト、自然ノ道ナリ、故ニコレヲ天下ノ達道ト云、古ノ聖人ソノヨキ加減ナルトコロヲ考合テ、法ヲ設ケ言ヲ立テ、萬世ニノコシ玉フ、萬世ノ人之ヲ守リテ、身ヲオサメテ、タガハザルヤウニスルナリ、コレヲ道ヲ守ルト云、常ニソノ通リニシテ、行モテユク、コレヲ道ヲ行フト云、人タルモノ、カクナケレバカナハザルコトヲシル、コレヲ道ヲ知ト云、ソノ大ナルヲ贊美シテコレヲ天地ニ察カナリト云、タトヘバ國家ノ法度アルガゴトシ、通都大邑、所在ニ制札ヲ立玉ヒテ、忠孝ヲハゲマシ、邪術ヲ禁ジ、ソノ外箇條シナ

ジナアリテ、天下ノ人、有智無智ヲワカタズ、ツヽシミ守リテ違背スルコトナシ、コレ人人ノ心ニ具リタル事ニモ非ズ、又人身ヲハナレテアルモノニモアラズ、人ノ業作カクナケレバ不レ叶ワケヲ考ヘテ定玉フ、道ト云モマタシカリ、コノ義ヲワキマヘズシテ、道ト云モノハイヅクニアリヤト尋求ルハ、マドヒノ甚キナリ、

○中庸曰、率レ性之謂レ道、此等ノコトバニテ、道ノ大略シルベシ、凡ソ二時ノ食事ヲシテ、父母ヲ養ヒ、妻子ヲハゴクム、イヅレモ生付タル性ナリ、故云食色性也、又云、父子之親天性也ト、君子ノ道ト云モノハ、ソノ生付タル性ニ相應ジテ、父兄アレバ孝弟ノ道ヲヲシヘ、妻子アレバ慈愛ノ道ヲヲシフ、コレヲ率レ性ノ道ト云、アルヒハ父母ヲ弃、妻子ヲ絶テ、七日斷食スルヤウニトヲシユルトキハ、人ノ性ニ應ゼザルユヘニ、天下ニ通ジテハ行ハレザルナリ、又曰、道不レ遠レ人、人之爲レ道而遠レ人不レ可ニ以爲一レ道ト、此モ同ジコトニテ、道ト云モノ、ワケ彌明ナリ、又曰、君子之道、本ニ諸躬一徵ニ諸庶民一考ニ諸三王一而不レ繆、建ニ諸天地一而不レ悖、質ニ諸鬼神一而無レ疑、百世以俟ニ聖人一而不レ惑ト、コノ章亦同ジ意ニテ尤詳明ナリ、君子ノ道、孝弟ヲヲシヘ玉ヘバ、ソノ身モ孝弟ヲ行ナヒ、是ヲ萬民ノ上ニ推テモ萬民モ亦從ヤスキ、是ヲ本ニ諸躬一徵ニ諸庶民一ト云、又イニシヘノ聖人ノヲシヘ、イカヾト尋レバ、古ノ聖人モ亦孝弟ヲヨシトシ玉フ、是ヲ考ニ諸三王一而不レ繆ト云、又コレヲ天地ニ引合テミレバ、天地モマタ生生ヲ道トシテ、萬物ヲ化育スルトキハ、コレ又孝弟ノ道ニタガハズ、是ヲ建ニ諸天地一而不レ悖ト云、又コレヲ鬼神ニタヾシテ占フトキハ、鬼神モ亦孝弟ノコトヲアシヽトハ告玉ハズ、是ヲ質ニ諸鬼神一而無レ疑ト云、又コレヲ將來ノ世ニコヽロムルニ、却後千百年シテ、タトヒ聖人アリテ出現シ玉フトイフトモ、コノ孝弟ノ道ヲアシヽトセザルコト、決焉トシテシルベシ、是ヲ百世以待ニ聖人一而不レ惑ト云、コレ中庸ノ道ノ正道タルユヘナリト云コトシカリ、仁義ト云モ、コノ二三章ノ言ヲ、何トナク諷誦シテ味フトキハ、强テ議論穿鑿スルコトモナク、道ノワケシルベキコトナリ、因テソノ義ヲ詳ニシテ、篇ノ終リニ著スト云レ爾、

享保十五年庚戌中浣　東　涯　誌

學問關鍵畢

跋

道一而已矣、後世岐曰二體用一、而大義既乖、聖學幾レ熄矣、原下夫所謂所三以然一之理云者上、可二以言一而無レ益二於行一也、夫猶二塵飯土羹一耶、可二以戲一而不レ資二枵腹一也、我紹述先生、夙承二先緒一、善三誘後進一、諄復不レ倦、然而村校祉師、尙狃二舊聞一、疑團不レ釋、因爲著二此書一、命二士亨一校閱上レ梓、業已有レ緒、既而先生歿、人琹之影、曷勝二悵然一、嗚呼、此書最系二晩出一、寔不レ可二忽諸一、苟欲下得二其門一而入上者、不レ由二關鍵一而可乎哉、

元文丁巳歲上巳日

門人　奧田士亨拜書　印　印

本朝學原浪華鈔題辭

曰若稽二太古之世一、當二天闔闢地垠闢而八荒協、萬國諸之運一、瓊瓊杵尊受二命乎天祖一、降二蹕於襲山一、於レ是太詔刀命迎二諸雲衢一、演二卜之五兆一矣、是蓋神代文字之祖而義理之宗也、惜哉其書法之不レ可二得而知一也、其餘之典故事蹟在亡沿革、今不レ可二復委根究一焉、且如下漢王充所レ記贈二鬯草於周室一事上、蓋彼傳我遺之故實、而其詳亦不レ可レ得レ聞也、自レ是其後徐福齎ヨ來尚書一也、阿知岐貢二論語一也、韓儒交ヨ代于吾一焉、國士入ヨ學於唐一焉、由レ是學興敎弘而文獻亦不レ乏焉、近古以降武功是崇而文敎寖廢、間有下涉二于載籍一者上、率熟二乎漢家之事歷一、而於二本邦之典蹟一、則懵然不レ知二其由緒一也、夫生二於其國一而不レ識二其國故舊章之如何一、可レ謂二能學一乎、吾西峰翁少有レ志二于倭學一焉、仁術之餘博ヨ覽乎國記一、而精ヨ究其源委一、實當世之有識也、暇日發三其所二嘗蘊蓄一、以爲二是書一、言簡而義詳、事約而理備、可レ謂二倭學之淵源一哉、予頃年幸邂ヨ逅翁於京師一、而始得レ聞二其緒論一、其後得二此書一、反覆熟讀略獲レ窺二國學之梗槩一、而猶未レ達二其本據原由之所一レ在、適書疏往復之次叩レ之、因得レ聞二其辭意指趣一、然後劄記注錄積至レ成二卷帙一、遂序ヨ次之一名以二浪華一、蓋取二諸王仁倭什之首句一云、然以二其不レ能レ就ヨ正于翁一也、闕疑大抵過レ半、非三敢獻二諸大方一、唯以貽二子愚孫之指導一耳、幸若遭二識者之瀏覽一、而見二斧柄之所一レ運、則實愚耄之素心也、

元祿十一年仲夏某日

眞野時繩操二毫於尾州藤浪里津嶋之幽齋一

㊞ 印

本朝學原浪華鈔一

本朝二字出ニ孟子ヽ淮南子高誘註、本朝者同ニ國朝ヽ學效也、原與ㇾ源通泉源也、此本邦有ニ文字ー以來、漢學傳來ノ本源ヲ明サン爲ニ作バ也、傳神代有ニ文字ヽ而出ニ乎龜卜ヽ其體頗似ニ墨譜ー云、然則不ㇾ可ㇾ言ニ漢字不ㇾ來前無ニ文字ー、齋部卜部共有ㇾ說、不ㇾ無ㇾ所ㇾ傳也、

吾朝神明傳ㇾ統、

是序文也、吾親詞、神明二字本汎指ニ神靈ヽ就ㇾ中專斥ニ言天照太神ー是故實也、此卽指ニ天照太神ー也、異邦ニモ日ヲ指テ神明ト云フコトアリ、史記封禪書曰、東北神明之舍、西方神明之墓也、張晏曰、神明日也、日出ニ東北ー舍謂ニ陽谷ヽ日沒ニ於西ー曰ㇾ墓濛谷也、是天照太神ヲ神明ト云ニ暗ニ符合セリ、猶神明明神等區別、神學類編、神階篇詳ㇾ之、不ニ復贅ニ子此ヽ統ハ皇統ノ謂ヽ訓ニ與都義ヽ世繼之謂也、日本神代紀曰、天照太神之子、正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊、娶ニ高皇產靈尊之女栲幡千千姬ヽ生ニ天津彥彥火瓊瓊杵尊ヽ故皇祖高皇產靈尊、特鍾ニ憐愛ー以崇養焉、遂欲下立ニ皇孫天津彥彥火瓊瓊杵尊ー以爲中葦原中國之主上ヽ又曰、天照太神勅ニ天稚彥ー曰ヽ豐葦原中國是吾兒可ㇾ王之地也ヽ云云、方當ニ降ニ吾兒ー矣、且將ㇾ降間、皇孫已生、號曰ニ天津彥彥火瓊瓊杵尊ー、時有ㇾ奏曰欲下以ニ此皇孫ー代降上ヽ故天照太神乃賜ニ天津彥彥火瓊瓊杵尊、八坂瓊曲玉、及八咫鏡、草薙劒三種寶物ヽ又曰、是時天照太神手持ニ寶鏡ヽ授ニ天忍穗耳尊ー而祝ㇾ之曰、吾兒視ニ此寶鏡ー當ㇾ猶ㇾ視ㇾ吾、可ニ與同ㇾ床共ㇾ殿以爲ニ齋鏡ート、是則神皇正統萬代不易之本基ヽ而三種神器御相傳之道脉亦在ニ乎此ヽ天壤之間絕無ニ比倫ー矣、美聲遂達ニ異邦ー、異邦人抃稱ㇾ之言ニ神國ヽ曰ニ禮義國ー者、不ニ亦宜ー乎、

天險開ㇾ疆、

天險ハ地勢ノ自然ニ險阻ナルヲ云ヽ疆ハ疆場也、易上家傳、天險不ㇾ可ㇾ升、地險山川丘陵也、王公設ㇾ險守ニ其國ヽ險之時用大矣哉、潘安仁西征賦、蹈ニ函谷之重阻ヽ看ニ天險之衿帶ヽ言本邦東溟ノ內ニ在テ四

垂孤絕、是則天險ノ謂、而自然ニ其疆場八洲、而又有二國魂神一、尤地靈人傑也、本朝文粹三善清行意見封事略曰、臣伏案二舊記一、我朝家神明傳レ統、天險開レ疆、土壤膏腴、人民庶富、故東平二肅愼一、北降二高麗一、西虜二新羅一、南臣二吳會一、三韓入朝、百濟內屬、大唐使驛、於レ焉納レ賄、天竺沙門爲レ之歸化、其所三以爾一者何哉、國俗敦龐、民風忠厚、輕二賦稅之科一、疎二徵發之役一、上垂レ仁而牧(ヤシナヒ)レ下、下盡レ誠以戴レ上、一國之政猶如二一身之治一、故范氏謂二之君子國一、唐帝推二其倭皇之尊一云云、本文二句蓋取二于此封事一、

天神授受之道、永ニ千五百秋之運一、

是從二天照太神一皇孫ニ授受ノ國壽(ホギ)ノ事ヲ云リ、神代紀、天照太神敕二皇孫一曰、葦原千五百秋之瑞穗國、是吾子孫可レ王之地也、宜爾皇孫就而治焉、行矣、寶祚之隆當下與二天壤一無上レ窮者矣、千五百秋瑞穗事ハ、本邦名義第一ノ神昔傳來ノ佳稱也、千ハ數ノ極、五百ハ千ノ半、非三徒言二奇偶之數一、不レ極而半ス、是則紹運無窮ノ祝意、生生不息ノ神語ニテ、所レ謂國壽云者也、伊弉諾尊ノ生三千五百頭一トノ玉ヘルモ國壽一般ノ神慮乎、舊事本紀ニハ豐葦原之千秋長五百秋之瑞穗トモ侍リ、元元集神器傳受篇曰、豐葦原千五百秋瑞穗國者、大八洲未レ生以前已有二此名一、雖レ有レ名而無レ形、強字爲二天瓊矛一者也、神皇正統記曰、豐葦原千五百秋瑞穗國ト云號ハ、天神陽神陰神ニ授賜敕ニ聞ヘタリ、天照太神天孫ニ禪(ユヅリ)坐(マシ)ニモ此名アレバ、根本ノ號也ト知ルベシ、東家秘傳序云、天地造化之根元、神皇授受之因起、其理玄妙、其詔明白、凡厥陰陽之理、造化之端、自レ始至レ終無レ離二五運一、五運消息終而又始、當下與二天壤一無上レ窮者、蓋此道也、釋紀千五百秋ノ說ドモ、不レ過レ爲二國壽一、一記曰、豐葦原千五百秋瑞穗國者、非二此國之本號一、其至理唯祝言自然ノ神勅ニ出テ、後以自爲二國號一、其爲二國號一コトハ、深キイワレノアルコト也トゾ、

逮三乎神武天皇繼(アマツヒツギ)レ天啓二鴻基一、國質民淳、異朝之書罕レ至、

神代紀曰、彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊、以二其姨玉依姬一爲レ妃、生二彥五瀨命一、次稻飯命、次三毛入野命、次神日本磐余彥尊、凡生二四男一、又曰、稱二狹野尊一者、是年少時之號也、後撥(ハラヒ)二平天下一奄二有八洲一、故復

加レ號曰二神日本磐余彥尊一、神武天皇ト奉レ稱ハ後代ノ諡號也、淡海三船奉レ勅、神武已下代代ノ諡號ヲ奉レ撰ト出二釋紀一、一說ニ淡海三船ハ養老六年ニ生レテ延曆四年ニ卒ス、總ジテ人王ノ諡號、神代三代ヲ措テ神武帝ヨリ建ル事有ニ秘旨一云、本紀曰、神日本磐余彥天皇、諱彥火火出見、彥波瀲武鸕鷀草葺不合尊第四子也、母曰二玉依姫一海童之小女也、天皇生而明達意確如也、年十五立爲二太子一、長而娶二日向國吾田邑吾平津姫一爲レ妃、生二手研耳命一、及二年四十五歲一謂二諸兄及子等一曰、昔我天神高皇產靈尊大日孁尊、擧二此豐葦原瑞穗國一而授二我天祖彥火瓊瓊杵尊一、闢二天關一披二雲路一、駈二仙蹕一以戾止、是時運屬二鴻荒一、時鍾二草昧一、故蒙以養レ正、治二此西偏一、皇祖皇考乃神乃聖、積レ慶重レ暉、多歷二年所一、自二天祖降跡一以逮二于今一、一百七十九萬二千四百七十餘歲、而遼邈之地、猶未レ霑二於王澤一、遂使二邑有レ君村有レ長、各自分レ疆用相凌礫一、抑又聞二於鹽土翁一、曰、東有二美地一靑山四周、其中亦有下乘二天磐船一飛降者上、余謂彼地必當レ足下以恢二弘天業一光中宅天下上、蓋六合之中心乎、厥飛降者、謂是饒速日歟、何不二就而都一レ之乎、諸皇子對曰、理實灼然、我亦恒以爲レ念、宜二早行一レ之、是年也太歲甲寅、其年冬十月丁巳朔辛酉、天皇親帥二諸皇子舟師一東征、云云、神代紀一書ノ說ニ帝ヲ以二男トシ、或三男トス、扨瓊瓊杵尊ヨリ葺不合尊マデハ、日向ニ都シ玉フ、天皇東征ノ神武ニ依テ、終ニ處處強敵風草ノ靡キ事遂給テ、大和國畝傍山橿原地ニ都ヲ建タマヘリ、日向ヨリ出給テ十年ヲ經テ都定ンヌ、天皇十五ニシテ立太子、五十餘ニシテ騰極シ玉ヒキ、是則繼レ天啓二鴻基一之謂也、啓二鴻基一ノ字義、取二于崇神天皇紀一曰、七年春二月辛卯詔曰、昔我皇祖大啓二鴻基一、其後聖業逾高、王風博盛ト、鴻ハ與レ洪通ズ、神武紀作二天業一、舊事紀作二大業一作二基業一、或天運天業、鴻業繼業、鴻祚騰極、天緒踐祚、皇統之類、皆訓ニ阿末都比都義一、神皇實錄神武天皇條云、天皇草二創天基一之日、日本持統紀曰、奉レ誄二皇祖等之騰極次第一禮、古云二日嗣一也、續日本紀ニハ作二天津日嗣一、是則世繼二日神之靈蹤一、故之和語也、國質民淳トハ神武帝ノ勅ニモ是時運屬二鴻荒一、時鍾二草昧一アリ、崇神帝以往殊ニ質素淳厖ノ風タル事ハ紀中ニ見ユ、異朝之書罕レ至トハ、以二罕字一觀レバ、

問異域ノ書典似レ至、尤可レ怪乎、然ニ今如レ斯傳レ疑テ記スコトハ有レ說、凡本邦異國ニ通ゼシ事、又ハ彼國人始投化ノ前後ヲ考ルニ、舊來ノ傳說ニ懿德天皇ノ御寓ニ當リテ、孔子乘レ桴浮レ海、及居ニ九夷一ノ嘆ハ指ニ我國一也ト云、後漢范曄曰、東夷天性柔順異ニ於三方一、故孔子悼ニ道不レ行、乘レ桴浮ニ於海一、欲レ居ニ九夷一、三善淸行是說ニ因テ我君子國ノ佳稱ニ合フ一證トス、又周ノ世呉ノ太伯入ニ本邦一爲ニ始祖一ノ說、或ハ夏公少康爲ニ我始祖一ノ說アリ、皆粃說ニテ本邦ヲ姬氏國ト云說ニ依テ構タル事也、又秦時徐福託レ求レ仙浮ニ海上一事ヲ、我國ニ來リ富士ニ留リ熊野ニ有レ祠ノ類和漢共稱レ之、此時尙書ヲ齎來ノ說尤舊(フリ)タリ、釋中津絕海見ニ宋帝一、徐福ガ事ヲ唱和ス、此外本邦ノ太古國人入ニ異邦一留レ韓ノ說等、神學類編、神國篇辨レ之、太伯少康來朝ノ事ハ晉書ニ首出シ、徐福ガ事ハ歐陽公日本刀歌、文獻通考、琅琊代醉編、閩書嶋夷志等ニ出ヅ、又通ニ使价一事ハ、後漢光武中元二年爲レ始ノ由西漢書ニ見ヘ、善隣國寶記ニモ取レ之、是垂仁帝八十八年ニ中ルト也、雲笈七籤ニハ黃帝ノ時始通ズトシ、山海經ニハ唐堯ノ時トス、共ニ荒唐ノ言ニ似タリ、王充論衡ニハ周ノ時トス、西峰老人曰、黃帝之時當ニ日本神代之季一、又山海經ハ益ノ書ニテ堯ノ時ノ書也、論衡ニ周ノ時トスルハ成王ノ代ニシテ、此士ハ葺不合尊ノ季、神武帝ノ初ニ當ルニヤト、然レバ徐福尙書ヲ齎來ヲ以本邦書契ノ初トセンヨリハ、日本漢學ノ漸ハ論衡ニ謂ル周ノ成王ノ時自レ我獻ニ暢艸一ノ說ヤ近カラント也、何者本邦祭祀ノ禮固備レリ、非ニ偶然一、且神武紀ノ年月日時ヲ記シタルモ、傳來ノ文字アレバナルベシ、是亦其証也、異邦ノ書ニハ日本文學始ニ徐福一ト謂リ、尤不レ中、上件說ニ依テ此書ニモ神武以降國質民淳、異朝之書罕レ至トハ書ルニヤ、應神帝ノ御寓書ノ至ルコトハ無ニ異論一、サレドモ舊傳叵レ捨又難レ決、故唯云罕レ至ト、然ニ國史所レ載ハ應神帝ノ朝ヲ漢學ノ始トス、是故下文詳ニ其事實一爾、

應神天皇馭寓(アメガシタシロシメス)之年、三韓獻ニ經傳一、

應神天皇ハ第十六代ノ天子ニテ、仲哀天皇第四ノ御子、御母ハ神功皇后也、其靈德協ニ神明一給ニヤ、胎中ニ坐ス時、天照太神・住吉明神・事代主命等ヨ

リ、授ニ三韓一玉フノ瑞アリ、御父仲哀天皇筑紫熊襲ヲ討ントシ給時、有レ神託曰、熊襲吾國中、且強雖レ不レ討、後來自可ニ隷服一、海外西方金銀多眼炎國、又如ニ美女之睩一有ニ向津國一、眼炎之金銀彩色多在ニ其國一、是謂ニ栲衾新羅國一、可レ令レ討レ之ト諭シ給ヘリ、因レ玆登レ高雖レ令ニ窺望一、國不レ見、帝詈レ神テ何虛誕ノ諭アルヤトノ玉ヒ、又終ニ熊襲ニ有レ事、此不信不敬ノ叡慮背ニ神明一給ニヤ俄ニ崩ジ給フ、一云、負ニ賊流矢一崩ズト、未レ審ニ孰是一、於レ是皇后甚悼提給ヒ、且先帝背ニ神慮一給事ヲ悲ミ、怒ニ征レ韓之雄慮一、七日齋給テ武內宿禰ニ令レ彈レ琴、以ニ中臣烏賊津臣命一定ニ審神一、前ニ諭シ給フ神勅ヲ請、且其神號ヲ被レ奉レ尋、又出ニ白水郎一令レ窺ニ海上一、果其國隱隱トシテ相見ユト申ス、於レ是調レ兵遂ニ西征給フ、爾來至レ今世彼國入ニ貢子我一不レ絕、彼時新羅王ノ名ヲ宇流助富利智干ト云リ、皇后ノ船路諸神擁護ノ力ヲ添ヘ玉フ、此時應神帝ハ胎內ニ坐スト云ヘドモ、神明ニ協ヒ給ヘバ、如ニ母后誓一產期モ延給テ凱旋ノ時生レ給ヘリ、生而御臂ノ上ニ有レ宍如レ鞆、依テ奉レ稱ニ譽田天皇一、古語ニ鞆ヲ保牟陀トモ云バ也、又依ニ彼靈異一胎中天皇トモ申キ、御在位久之崩御後、豐前國菱形池邊ニシテ託ニ小童一見ニ神名一給フ事ハ、欽明天皇ノ御宇也、其後淸和天皇ノ朝ニ其神ヲ奉レ遷ニ于山城國鳩峰一、今ノ八幡山太神是也、事ハ見ニ于神記一、馭ハ同レ御、寓ハ猶レ宇、御ニ宇內一之謂也、孝德紀作ニ御寓一、三韓有ニ二說一、一新羅・百濟・高麗謂ニ之三韓一、二辰韓・馬韓・辨韓是也、但後ノ三韓ハ、舊新羅ノ地名也トゾ、都テ今ノ韓朝鮮八道ト成レリ、神代紀ハ、韓地トノミアリ、詳見ニ于後一、獻ニ經傳一ハ應神紀曰、卽位十五年秋八月壬戌朔丁卯、百濟王遣ニ阿直岐一、貢ニ良馬二疋一、又曰、阿直岐亦能讀ニ經典一、卽太子菟道稚郎子師焉、於レ是天皇問ニ阿直岐一曰、如勝レ汝博士亦有耶、對曰、有ニ王仁者一是秀也、時遣ニ上毛野君祖荒田別巫別於百濟一、仍徵ニ王仁一也、其阿直岐者、阿直岐史之祖也、十六年春二月、王仁來レ之、則太子菟道稚郎子師レ之、習ニ諸典籍於王仁一莫レ不ニ通達一、故所レ謂王仁者、是書首等之始祖也、按ズルニ、王仁ハ東西文部等ノ祖也、古事記ニハ應神天皇ノ時、阿智吉師ト云博士來朝シ、又和邇吉師論語十卷千字文一卷齎來ト見ユ、此阿智吉師

ハ日本紀ニ謂ル阿直岐也、和邇吉師ハ日本紀ニ謂ル王仁也、王仁則ワニ也、徐福尙書、王仁論語、其隻字不レ殘尙矣、可レ惜之甚、源親房既此嘆アリ、正統記ニ見ヘタリ、

三韓箕子之舊邦、

戰國策曰、朝鮮屬ニ樂浪一、補曰、朝鮮箕子所レ封、今高麗國、索隱曰、音潮仙、又一名箕子國、東國通鑑、新羅・高勾麗・百濟、三國記曰、新羅始祖八年漢甘露四年、倭來ニ寇邊一、聞ニ王有ニ神德一乃還、西峯老人曰、漢甘露四年當ニ我崇神天皇四十八年一、崇神天皇無下征ニ新羅ニ事上、雖レ然日本紀曰、崇神天皇六十五年秋七月、任那國遣ニ蘇那曷叱知一令ニ朝貢一也、任那者去ニ筑紫ニ二千餘里、北阻レ海以在ニ鷄林西南一、垂仁天皇二年任那人蘇那曷叱知請欲レ歸ニ于國一、蓋先皇指ニ崇神帝一之世來朝未レ還歟、故敦賞ニ蘇那曷叱知一、仍賚ニ赤絹一百疋一賜ニ任那王一、然新羅人遮ニ之於道一而奪焉、其二國之怨始起ニ於是時一也、觀レ此則崇神天皇雖レ不レ征ニ新羅一、新羅得ニ罪于我朝一起ニ於此際一矣、終至ニ神功皇后一得レ征レ之、蓋爲ニ任那一征レ之也、又曰、昔我素盞烏尊、與ニ其子五十猛神一、入ニ於新羅國一不レ欲レ居レ之、堯之時檀君、周武王時箕子主レ之、國號ニ朝鮮一、久レ之大亂、分崩至ニ七十八一、所レ謂三韓者、其强者也、並ニ列疆界一弱吐强吞戰爭不レ息、當ニ斯時一任那來ニ貢我一、厚賜還レ之、新羅遮レ道奪レ之、自招ニ仇レ餉之禍一、我數代先王不レ征レ之、神功皇后靈聖聰明、周ニ行天下一、劬ニ勞群庶一、愛ニ育萬民一、奉ニ天神地祇命一、戎衣一問ニ新羅罪一、已而亦哀ニ新羅所レ窮、全ニ將レ戮之首一、授ニ要害之地一、高麗百濟觀感叩頭、永稱ニ西藩ニ不レ絶ニ朝貢一、諸韓恐レ後レ之無レ不ニ臣服一、於レ是韓地置ニ日本府一、任レ宰以治レ之、新羅當下親ニ戴我一與ニ天地一不上レ變、而時逆レ天背レ盟、違ニ我恩義一數侵ニ任那一、至ニ欽明天皇二十三年一、新羅遂滅ニ任那一、自ニ神功皇后一以來五百九十三年、任那之存如レ此永久也、此非ニ神功皇后之大神餘烈一乎、其後新羅滅ニ百濟一、新羅亦降ニ于高麗一、三韓失ニ鼎峙之勢一、而高麗至レ宋、不レ忘ニ故舊一朝聘無レ絶、云云、一云三韓者三國共韓氏也、佛祖統紀曰、三韓者一馬韓在レ西、五十四國北接ニ樂浪一南接ニ倭國一、二辰韓在レ東、十二國北接ニ濊貊一亦曰ニ秦韓一、言秦人避レ役適ニ韓國一、三辨韓在ニ辰韓之南一、十二國南接レ倭、馬韓尤大、盡王ニ三韓之地一、云云、新羅或

作ニ斯盧一、或作ニ鷄林一、唐龍朔二年詔改ニ朝鮮一云ニ鷄林一、明洪武年間李氏乞下改ニ國號一曰中朝鮮上、許レ之、爲ニ八道一コトハ元末高麗大臣李成桂、遂乘レ勢簒レ國、幷ニ呑新羅百濟一、分ニ國郡一爲ニ八道一也、潛確類書記ニ朝鮮地圖七道一、西曰ニ黃海一是古馬韓舊地也、南曰ニ全羅一是本下韓地、東南曰ニ慶尙一、是則辰韓也、西南曰ニ忠淸一是皆古馬韓域也、東北曰ニ咸境一是本高勾麗地也、西北曰ニ平安一、是本朝鮮故地也、予謂高勾麗俗謂ニ蒙古高勾麗一也、昔胡元闕レ我時高麗與レ之、故本邦惡而幷ニ言之一之俚語也、高勾麗ヲ訓ニ古久利一ハ出ニ康富記一、

住吉大神美ニ彼國一、令ニ神功皇后平定一、以授ニ應神天皇一、當ニ斯之時一三韓文獻都歸ニ本朝一、

住吉大神ハ攝津國住吉郡住吉社四座也、其神ハ底筒男命・中筒男命・表筒男命・神功皇后是也、神代紀曰、伊弉諾尊往至ニ筑紫日向小戸橘之檍原一而祓除焉、遂將レ盪ニ滌身之所一レ汚、沉ニ濯於海底一、因以生神號曰ニ底津少童命一、次底筒男命、又潛ニ濯於潮中一、因以生神號曰ニ中津少童命一、次中筒男命、又浮ニ濯於潮上一、因以生神號曰ニ表津少童命一、次表筒男命、凡有ニ九神一矣、其底筒男命・中筒男命・表筒男命、是住吉大神矣、神功皇后紀、征ニ新羅一明年二月又表筒男中筒男底筒男三神誨レ之曰、吾和魂宜レ居ニ大津渟中倉之長峽一、便因看ニ往來船一、於レ是隨ニ神敎一以鎭座焉、又神宣曰、眞住吉眞住吉之國也、因其地名曰ニ住吉一、或作ニ墨江一、按ズルニ筑前長門ニモ住吉社アリ、延喜神名式曰、長門國豐浦郡住吉坐荒魂神社三座、又曰、筑前國那珂郡住吉坐神社三座、長門ノ神社モ一宮記、底筒男・中筒男・表筒男三神也、是國一宮也、筑前ノ住吉ハ底津少童・中津少童・表津少童三神也、或記ニ糟屋郡住吉是也トアリ、又按ズルニ以ニ此神等一爲ニ船靈一本致アリ、諸書ニ猿田彦ヲ爲ニ船靈一ハ其一名船戸神ト申セバニヤ、岐神船戸共是猿田彥ノ別稱ニテ、機前ヲ導キ給フ神德アル故ニ謂フ乎、於ニ船靈由緒一ハ神功皇后紀ノ趣、住吉ノ神託著ク、且船居ハ我守ンノ神宣アリ、就レ是或ハ云、朝鮮人船路所レ崇天妃宮、又菩薩ト云者モ、上古住吉ノ神ヲ彼地ノ鎭護神ニ神功皇后ノ鎭祠給シ由也、疑クハ件ノ鎭守住吉ニシテ、船靈トスル歟、後世其元ヲ諱テ託ニ佗神一モ亦不レ可レ知、神功皇后紀曰、新羅

國者定ニ御馬甘ハ、百濟國者定ニ渡屯家ハ、爾以ニ其御杖ハ、衝ニ立新羅國王之門ハ、即以ニ墨江大神之荒御魂ハ、爲ニ國守神ト祭鎮還渡也、按ズルニ天妃宮ノ事五雜爼ニモ侍レバ、不レ限ニ朝鮮祭ニ乎、又皇明通記、永樂中封ニ此神京都之儀鳳門ニ祀レ之、剪燈新話註、立ニ此神廟於湄州嶼ニ、元天監中封ニ天妃ハ云云、一説明季吾民、入レ明盗ニ財物ハ破ニ天妃祠ト奪ニ其神像ト而歸、又云、天妃者所レ祀ニ寧波府昌國普陀山ニ海神也、本邦人侵ニ普陀山ト者、見ニ明應賓之普陀山志ハ美ニ彼國トハ前註諭ニ仲哀帝ハ金銀多眼之炎國、又如ニ美女之睩ニナド宣託ノ類是也、令ニ神功皇后平定ハ授ニ應神天皇ニハ皇后蒙ニ神勅ト給フ事前ニ註ス、當ニ斯之時ト三韓文獻都歸ニ本朝ニハ、征レ韓時遂入ニ其國中ハ封ニ重寶府庫ト收ニ圖籍文書ト本紀ニ見ユ、從レ是阿直岐王仁等ノ諸儒論語已下ノ聖經ヲ貢獻シ、依レ番交替セシ事不レ絶、物換世隔テハ、時忘ニ故舊ト忘レ恩テ不庭アリ、又從テ征焉、天正中ヨリ其禮連連タリ、抑神代ノ昔素盞烏尊率ニ御子五十猛命ト到ニ韓地ニノコト學者心ヲ注ル事稀也、豈不ニ疎謬ト耶、

凡諸博士依レ番上下、講ニ明經學ト相代有ニ年月ハ非ニ神功皇后之大神靈ハ不レ能レ致レ之、由レ是儒敎生焉、

三韓諸儒依レ番上下相代トハ、應神帝ノ朝阿直岐始來朝、依レ詔代ニ王仁ハ敏達帝ノ時ハ王辰爾、欽明帝ノ時ハ五經博士王柳貴來仕、後代ニ馬丁安ハ繼體帝ノ時ハ貢ニ段楊爾ハ後又貢ニ五經博士漢高安茂ハ請レ替ニ博士段楊爾ハ依レ請代ト侍ル類是也、欽明紀曰、別勅ニ醫博士易博士暦博士等ハ宜ニ依レ番上下ニト是交替ノ義也、欽明帝ノ時ハ王柳貴ト王辰爾ト相並デ博士タリ、是欽明帝ノ朝十四年自ニ百濟ニ五經博士醫博士暦博士等ヲ貢ゼシ事有テ其名ヲ闕セリ、疑ラクハ此等ノ人ニヤ、又聖武帝ノ時袁晋卿來貢、又弘仁六年渤海使王孝廉來歸、皆列ニ朝廷ト儒臣也、或云、王仁・阿直岐・段楊爾・高安茂・王辰爾ハ、皆百濟ノ人也、然ドモ此數士ノ行跡嘉言ハ不レ傳、史ノ闕漏可レ惜、只王仁ノ和歌ノミ口碑ト成レリ、王柳貴モ亦百濟ノ人也、又學哿ハ推古帝ノ儒臣トシテ、上宮太子ノ師也、是亦百濟ノ人也、袁晋卿ハ唐人也、王孝廉ハ渤海ノ人也、渤海ハ百濟ノ後ノ國號也ト云、右投化ノ儒臣其事悉國史ニ見ユ、非ニ神功皇后之大神靈ニ不レ能レ致レ之、由レ是儒敎生焉トハ、皇后神靈

ハ輿人ノ口實也ト云ヘドモ、切ニ心ヲ注ル事稀也、黠智伶俐ノ婦女ハ間アル事ナレドモ、事理正當ノ大學、若レ斯ノ例ヲ不レ聞、本邦ノ人ニシテ此神靈ヲ不レ思乎、其神齋二于筑前糟屋郡香椎宮一、歷朝御尊崇異二于佗一不二亦宜一乎、皇后ハ開化天皇曾孫氣長宿禰女也、母曰二高額媛一、仲哀帝二年立爲二皇后一、奉レ稱二氣長足媛命一、幼而聰明睿智、貌容壯麗、父王異レ焉、云云、仲哀帝崩ジ玉ヒテ後應神帝幼ク坐ス、故ニ攝政ニ居給フ事僞シ、詳ニ本紀ニ見ユ、

及レ至二天智天皇之受一レ命、恢二開帝業一功光二宇宙一、以爲調レ風化レ俗莫レ尙二於文一、潤レ德敎レ行無レ先二於學一、於レ是建二庠序一徵二茂才一、定二五禮一興二百度一、

此一條四十九字ハ、全寫二取懷風藻序文一テ少ク纂括セリ、曰、及レ至二淡海先帝之受一レ命也、恢二開帝業一弘二闡皇猷一、道格二乾坤一功光二宇宙一、既而以爲調レ風化レ俗、莫レ尙二於文一、潤レ德光レ身孰先二於學一、爰則建二庠序一徵二茂才一、定二五禮一興二百度一云云、天智天皇受レ命トハ、此天皇ハ舒明帝ノ御子、御母ハ齊明天皇也、初ハ號二中大兄皇子一、又葛城皇子トモ開別皇子トモ申ス、儲君ニ立給フべキ前ニ、中臣鎌子ト共ニ南淵先生ト云鉅儒ヲ師トシ給テ、洙泗ノ聖學ヲ學ビ給テ忠烈神武ヲ勵シ、仁義ノ勇ヲ以皇極天皇ノ御宇ニ朝敵蘇我入鹿ヲ誅シ、無窮ノ皇統ヲ全シ給ヘリ、實ニ王道中興ノ砥柱ト成セ給故ニヤ、十陵ノ第一ニシテ、至レ今テ猶御尊崇異レ佗也、齊明帝崩ジ玉フ、後七年春正月淡海滋賀ノ郡ニテ卽レ位給ヘリ、恢二開帝業一功光二宇宙一トハ、此帝ヨリ御學德ノ徵帝業ヲ張皇ニシ給フノミニ非ズ、設二庠序一國民ヲ令レ敎給フ、其餘澤流風今日ニ流傳シテ不レ絕ナリ、宇宙ノ宇ハ天地四方、宙ハ古今ノ謂也、和語ニ訓二阿女突智一、以爲ヨリ已下無レ先二於學一ニ至テハ、天智帝ノ勅言ニ出、風俗二字風トハ地勢風氣ノ令レ然習氣人品ニ係、俗トハ習熟スル人事ヲ云ノ由、令義解ニ見ヘタリ、是故ナラワント訓ス、淸寧天皇紀ニハ巡二看風俗一ト訓セリ、孝經ニ、移レ風易レ俗莫レ善二於樂一トアリ、按ズルニ移二易風俗一經傳大抵皆以二禮樂一言レ之、然今於二文學一言レ之者、是其基源ヲ指シテ云ニ似タリ、以レ文調二化風俗一ハ和漢共ニ通用ノ文章一統ノ理アリ、不レ然則好レ奇甘レ怪風化不レ調、又ハ世ノ盛衰人ノ氣象皆時世ノ文章ヲ

以察スルノ政アリ、學記曰、君子如欲ニ化レ民成レ俗、其必由レ學乎、又曰、玉不レ琢不レ成レ器、人不レ學不レ知レ道、是故古之王者、建レ國君レ民、敎學爲レ先トイヘリ、庠序ハ學文所ノ名也、孟子滕文公上篇曰、設ニ爲庠序學校一以敎レ之、庠者養也、校者敎也、序者射也、夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠、學則三代共レ之、皆所ニ以明ニ人倫一也、人倫明ニ於上一小民親ニ於下一、註庠以レ養レ老爲レ義、校以レ敎レ民爲レ義、序以レ習レ射爲レ義皆鄉學也、學記曰、古之敎者、家有レ塾、黨有レ庠、術有レ序、國有レ學、徵ニ茂才一トハ、及第對策シテ所レ舉ニ甲科一類也、昔ハ大學國學アリテ、得業生又ハ貢士アリテ茂才不レ乏、古記ニ見ヘタリ、五禮者、吉凶賓軍嘉ノ五ツニテ、詳ニ周禮大司徒ノ役ニ見ユ、書皐陶謨ニモ出、大司徒屬保人專五禮布敎ノ事ヲ掌ルト見ヘタリ、是吾國悉周ノ通リノ禮ヲ用ルト云ニハ非ズ、只禮義ノソナワリテ、カクルコトナキヲイハン爲ニ、具ヘテ五禮トハ云也、與ニ百度一ハ、百ハ滿數、度ハ制度也、樂記ニ百度得レ數而有レ常トアリ、

自レ是世聖主奉レ之、傳以爲レ法、

天智帝始テ庠序ヲ興シ道ヲ敎ヘ給フヨリ、世世奉レ之、其隆盛不レ可レ言事ハ末章ニ明ナリ、

其後保元王室始亂、平治武人起レ難、終歷ニ承久建武一、而壞亂極矣、

保元ハ七十七代後白川帝ノ年號、平治ハ七十八代二條帝ノ年號、承久ハ八十四代順德帝ノ年號、建武ハ九十五代後醍醐帝ノ年號也、其間相去事遠而年所尤久矣、夫文道ハ泰平ノ盛事也、和漢共ニ文道ノ陵夷ハ、皆亂世ノ爲ニ拂レ地尤堪レ悲爾、右件歷亂各有ニ野史ニ詳也、其大約ハ、林氏日本書籍考・保元物語下註云、鳥羽院第一ノ御子ヲ崇德院ト云、鳥羽院位ヲ讓玉ヒテ、崇德院卽レ位給、其後鳥羽院寵愛ノ御子近衞院ヲ位ニ卽給、崇德院御心ナラズ位ヲスベリ玉ヒテ新院ト稱ス、其後近衞院早世シ玉ヘリ、此次ニハ崇德院ノ御子ヲ位ニツケ申サレントノ人皆思フ處ニ、鳥羽院御同心ナクシテ、崇德院ノ御弟後白川院ヲ位ニツケ給フ、崇德院御怒ヲ押ヘ玉ヒテ年月ヲ送リ給フ、鳥羽院崩御ノ後禁中ト新院ト御兄弟合戰ニ及ベリ、此時ノ關白忠通ハ禁中ニ伺候ス、其弟左大臣賴長ハ新院ヘ參ル、平清盛源義朝

ハ禁中ヘ參ル、淸盛叔父忠正ト義朝父爲義ハ、其子共ヲ引具シテ新院ヘ參ル、其外公家モ武家モ、思思ニ相分テ兩方ヘ參リ、合戰ノ時新院ノ御方打負テ、新院ハ讃岐國ニ流レサセ給ヒ、賴長流矢ニ中テ死ス、爲義忠正ハ被レ誅、云云、是ヲ王室亂トハ云也、又平治物語下ノ註云、後白川院ノ臣下右衞門督藤原信賴ト、少納言入道信西ト威勢ヲ爭ヒテ不和也、信西ハ淸盛ガ緣者也、信賴ハ義朝ト交ヲ結ブ、淸盛熊野詣ノ時、留守ノ程ニ信賴義朝同心シテ信西ヲ討リ、淸盛歸京ノ後合戰ニ及ビ、信賴義朝打負テ、淸盛終ニ威ヲ逞スト、云云、是則武人起レ難ノ事也、起レ難字ハ賈誼過秦論ニ出タリ、又承久記下ノ注云、北條義時執權ノ時分、後鳥羽院ノ勅ヲ背ク事アリ、逆鱗ノ餘義時ヲ亡サン爲ニ官軍ヲ集メ給フ時ニ、義時ガ子泰時ト義時ガ弟時房ト兩大將ニテ、大軍ヲ率シ鎌倉ヨリ上洛シ、宇治勢多ニテ官軍ヲ打破リ京ヘ亂入ル、義時ガ子時氏院內ヘ參リ、後鳥羽院ヲ隱岐國ニ流シ奉リ、御子土御門院ヲ阿波國ヘ、順德院ヲ佐渡國ヘ流シ奉ル、此事又東鑑ニ詳ニ見ヘタリ、又建武年間ノ事ハ、後醍醐帝北條ヲ亡シ給ヒ、其後尊氏不軌ヲ謀ルニ起リテ、新田義貞楠正成等、討戰年久ク其事尤繁多也、保曆間記・太平記等ニ詳也、壞亂極矣トハ衰運ノ極ルヲ云、大學序字ヲ取レリ、本朝舊記、家乘皆此等ノ兵燹ヲ經テ烏有ト成者不レ可ニ勝計一、今世ハ殘簡或題目耳、尤可ニ嘆惜一、

今也鍾ニ四海無事之化一、吾儕對ニ螢雪一、於レ是欲レ知下學之所ニ由來一、古人之有上レ功ニ於後學一、遂訪ニ於舊史一記ニ其萬一ニ云、

此段ハ天運循環無ニ往不一レ還、今ヤ天下太平ノ化ニ逢テ、學問盛隆ノ事ヲ云ヘリ、四海トハ一天下之謂、爾雅ニ九夷・八狄・七戎・六蠻、謂ニ之四海一、注九夷在レ東、八狄在レ北、七戎在レ西、六蠻在レ南、次ニ四荒ニ者、或曰、四海者東曰ニ滄海一、西曰ニ瀚海一、南曰ニ溟海一、北曰ニ渤海一、予謂四海四荒等ノ説ハ、山海經ニ詳也、此ハ唯是四方海波平ナル御代ノ謂耳、對ニ螢雪一トハ、學問ヲ勵ムコトヲ云、晉書、車胤字武子、南平人、恭勤不レ倦、博覽多通、家貧不ニ常得一レ油、夏月則練囊盛ニ數十螢火一、以照レ書以レ夜繼レ日焉、孫氏世錄曰、孫康家貧無レ油、映レ雪讀レ書、

本朝學原浪華鈔一終

本朝學原浪華鈔二

漢音者、應神天皇之時始矣、

自レ是已下本文也、凡テ六章アリ、是其第一章也、漢音ト云漢語ト云、皆是對ニ倭訓和語一名也、自レ古總ニ稱異邦一シテ云レ漢云レ唐事モ、異域歷代ノ中漢唐ハ歷運久シク、且本邦ト通使多キ故也、倭語ニ異國ノ音韵相雜ル漢音ヲ爲レ先、是則應神帝ノ御宇阿直岐王仁等來朝シテ、文字ノ沙汰セシヨリノ事也、王仁ハ漢高祖ノ子孫也、次デ吳音モ亦隆也、其佗宋音又ハ梵語ノ類、至レ今テ俚語ニ雜唱テ不ニ相知一、本邦舊來ノ和語ノ如ク思フ事尙矣、釋紀竈云ニ加摩度一梵語也ト云リ、シカノミナラズ、魚云ニ摩那一狙云ニ摩那伊太一弓云ニ多羅枝一尼云ニ阿摩一類亦同、或云、加摩度、摩那ハ梵語ニ非ジ、阿摩ハ梵語ニシテ母ノ稱、尤尼事ニ非ズ、又多羅枝ハ神功皇后ノ御名ニシテ、弓ノ號トスルハ秘也、主人ヲ檀那ト云ハ梵語也ト、按ズルニ神功紀ニモ此說アリ、神功皇后御名氣長足姬命ト申ス、此皇后多羅樹ヲ爲レ弓事アリ、異國ノ書ニ

モ多羅ノ木ヲ倭國ノ産トアリ、萬葉集執乃梓ノ弓トアリ、花鳥餘情ニ、李部王記承平四年新嘗會仰云、御手奈良之萬爲禮、書司卽取朽女名倭琴置之御前、云云、此等ノ名目ヲ校レバ貝多羅枝ノ謂ニモ非ズ、唯御執弓ノ略語爾、若斯雜遝遂不可考、

應神天皇之聽監聖異、三韓蹶角受化、稱西蕃、底貢厥方物文獻、

聽監聖異ハ本紀曰、譽田天皇足仲彦天皇第四子也、母曰氣長足姫尊、天皇以皇后討新羅之年歲次庚辰、冬十二月生於筑紫之蚊田、幼而聽達、玄監深遠、動容進止、聖表有異焉ト、是則聽達玄監、聖表有異ヲ約シ取ル也、蹶角受化ハ、文選丘希範與陳伯之書云、朝鮮昌海蹶角受化、註良曰、蹶角謂以頭角叩地也、按ズルニ附地稽首スル也、叩頭ト云モ亦同點頭トモ云リ、歌書ニ額突ト侍ルモ、拜禮シテ首ヲ突地ノ謂也、神功皇后征韓以來、韓人受我國命懍敬肅謹ノ至レルサマ也、事前ニ注ス、稱西蕃底貢厥方物文獻トハ、蕃字或作藩、謂爲藩籬也、此二字出皇后紀、然ドモ其事專係應神帝之靈異、故ニ今此御宇ノ事ニ用タリ、方物訓久爾津毛農、文獻ハ文籍賢人也、論語八佾篇云、文獻不足故也、神功皇后紀曰、冬十月己亥朔辛丑、從和珥津發之時、飛廉起風、陽侯擧浪、海中大魚悉浮挾船、則大風順吹、帆舶隨波、不勞櫓楫便到新羅、時隨船潮浪遠逮國中、卽知天神地祇悉助歟、新羅王於是戰戰栗栗厝身無所、則集諸人曰、新羅之建國以來、未嘗聞海水凌國、若天運盡國爲海乎、是言未訖之間船師滿海、旌旗耀日、鼓吹起聲、山川悉振、新羅王遙望以爲、非常之兵將滅己國、讋焉失志、乃今醒之曰、吾聞東有神國、謂日本、亦有聖王、謂天皇、必其國之神兵也、豈可擧兵以距乎、卽素旆而自服、素組以面縛、封圖籍降於王船之前、因以叩頭之曰、從今以後長與乾坤伏爲飼部、其不乾船柁、而春秋獻馬梳及馬鞭、復不煩海遠、以每年貢男女之調、則重誓之曰、非東日更出西、且除阿利那禮河返以逆流、及河石昇爲星辰、而殊闕春秋之朝、忍廢梳鞭之貢、天神地祇共討焉、時或曰、欲誅新羅王、於是皇后曰、初承神敎將授金銀之國、又號令三軍曰、勿殺自服、今既護財國、亦人自降服、

殺レ之不祥、乃解ニ其縛一爲ニ飼部一、遂入ニ其國中一、封ニ重寶府庫一收ニ圖籍文書一、卽以ニ皇后所レ杖矛一樹ニ於新羅王門一爲ニ後葉之印一、故其矛今猶樹ニ于新羅王之門一也、爰新羅王波沙寐錦、卽以ニ微叱己知波珍干岐一爲レ質、仍賚ニ金銀彩邑及綾羅縑絹一載ニ于八十艘船一令レ從ニ官軍一、是以新羅王常以ニ八十船之調一貢ニ于日本國一其是之緣也、於レ是高麗百濟二國王、聞下新羅收ニ圖籍一降中於日本國上、密令レ伺ニ其軍勢一、則知レ不レ可レ勝、自來ニ于營外一、叩頭而歎曰、從レ今以後永稱ニ西蕃一不レ絕ニ朝貢一、故因以定ニ內官家一、是所レ謂三韓也、所レ謂阿利那禮河ハ鴨綠江也、西峯老人謂、阿利鴨也綠也、那禮者江轉語歟、李太白集齊賢注、高麗有ニ鴨綠水一、唐志安東郡護府、故漢襄平城東南至ニ平壤城一八百里、西南至ニ都里一海口六百里、南至ニ鴨綠江一、其水如ニ鴨頭綠一云云、是三大河ノ其一也、又新羅王波沙寐錦ハ其名也、微叱己知ハ人名也、波珍ハ冠名、干岐ハ官名也、見ニ釋紀一、按ズルニ吾素盞烏尊一韓地ニ到給ヒシヨリ、崇神垂仁兩朝以降、或懷ニ王化一或畏ニ神武一、神功皇后ノ一擧ニ依テ每歲貢不レ絕、然ルニ前ニ謂堯ノ時通ズト云、周ノ世通ズト

云、度會延佳記ニハ開化天皇ノ御宇ニ通ゼシ由、宗廟ノ古記ニ見ユト云、神皇正統記ニハ孝靈天皇ノ御宇ヲ始トセリ、其說ニ云、秦ノ始皇方士ガ言ヲ信ジテ、不死ノ藥ヲ日本ニ求ム、日本ヨリ五帝三王ノ遺書ヲ彼國ニ求メシニ、始皇悉ク是ヲ贈ル、其後三十五年アリテ彼國書ヲ焚キ儒者ヲ埋シカバ、孔子ノ全經ハ日本ニ留ルト也、又云、神功皇后新羅・百濟・高麗ヲ順ヘ給シハ、後漢ノ末ザマニ當レリ、漢地ニモ通ジラレタリト見ヘタレバ、文字モ定テ傳レルカ、一說ニハ秦ノ時ヨリ書籍ヲ傳フト云リ、年代記孝靈天皇十三年、天竺ノ梵字ヲ傳フト云ハ妄說也、彼三韓王ノ盟シヨリ以來、吾國ノ歷代每歲八十艘ノ貢物ヲ不レ絕、神功皇后ノ神靈可レ想、神皇正統記云、二十代允恭天皇迄ハ三韓ノ貢、年年不レ易シニ自レ是後ニハ常ニ怠リヌ、又水鏡ニモ允恭帝ノ時迄、新羅國ヨリ入貢船八十艘ニ積デ、樂人八十人添テ來シニ帝崩ジ給フニ遇テ、其後ハ僅二艘奉リシトアリ、年中行事歌合ニ、大唐商客ノ題ニテ女房歌(實關白良基也)「我國ノ貢ソナエテ年每ニ今モ百濟ノ船ツ絕セヌ」關白良基判云、神功皇后新羅ヲ平ゲ給シヨ

リ、年每ニ貢物ヲ贈シ事、持統文武ノ比迄不レ絕ゾ侍リシ、

十五年秋八月丁卯、百濟阿直岐來朝、十六年春二月依二岐之言一徵二王仁(ワニ)一、時携二論語千字文一來、

十五年十六年ハ應神帝御在位ノ事也、阿直岐王仁來朝ノ事ハ前ニ註ス、此ニ王仁ノ二字ノ左傍ニワニト點スル事ハ、古事記等ニ和爾吉師ト云韓儒ヲ載タリ、是日本紀ニ謂王仁ト同人ナレバ、和邇ハ假名ニシテ王仁ノ略音ワニナレバ、其同人タル明證トスル爲也、論語千字文ノ事ハ此時先齎來ル事明矣、此論語モ百濟人追慕シテ來使ノ時上表シ電覽ヲ願シ事アリ、羅山文集曰、百濟國人來二貢于本朝一、居二之鴻臚舘一、時其使有レ請三望二菅江之門一、其上表云、辨韓信使私致二書日本大學寮曹司一、蓋聞弊國使价王仁持二論語一來二于貴國一、仕二應神天皇一爲二博士一、蓋以レ世而記レ之當二于西晉之初一、其所二齎獻一其論語白文而已乎、魯歟齊歟抑古歟、漢儒訓說乎、何氏集解乎、行二于今世一者文字有二小異一、故願レ見焉、曹司爲二貴國儒宗一、想須二傳受之有一レ在、請其示諭、月日辨韓信使某、致二書日本國大學國子監曹子一、傳聞ニ此論語不レ傳、況徐福持來シ尙書ハ猶以ノコト也、神皇正統記ニモ應神帝ノ世ニ渡シ書ダモ不レ見、聖武帝世ニ吉備公入唐シテ傳ヘタル本而已流布スト、云云、千字文ハ今ニ流布セリ、梁ノ周興嗣ガ所レ韵也、汪四如ト云者、其文字ヲ五體ニシテ爲二五體千字文一、其後又有二萬字文之作一、近世淸人百體千字文ヲ作リ、卷首ニ韃靼ノ國字ヲ載ス、其字體梵字ニ類ス、

仁之先出レ自二漢高帝一、高帝之後曰レ鸞、鸞之後王狗轉至二百濟王仁一、卽狗孫也、

仁ハ王仁也、先ハ祖先也、是王仁ノ系譜ヲ明セリ、本邦ノ古儒多以二王仁一爲レ祖人アリ、此王仁ノ祖先ヲ說シハ、東西文部ノ上奏ヨリ沙汰スル事也、續日本紀延曆十年四月、件文部等家衰廢ヲ歎ジテ上奏、文忌寸元有二二家一、東文稱レ直、西文稱レ首、左右京ニ住シテ大和河內ナレバ東西ト點セリ、彼上奏ノ時本系ヲ尋給フニ、奏シテ云、漢ノ高帝ノ後ヲ曰レ鸞、鸞ノ後王狗至二百濟一、久素王時 聖朝遣レ使徵二召文人一、久素王卽王狗之孫王仁ヲ遣ス、仁則僕等ガ祖也ト、此上奏ノ文部等ハ、左大史正六位文忌寸最弟、播磨少目正八位上武生連眞象(マサキ)等也、同紀左中辨

正五位上兼木工頭百濟王仁貞、治部少輔從五位下百濟王元信、中衞少將從五位下百濟王忠信、圖書頭從五位上兼東宮學士左兵衞佐伊豫守津連眞道等ガ上表中ニ云、應神天皇命ニ上毛野遠祖荒田別ニ遣ニ百濟ニ、有職者ヲ搜聘セシム、國主貴須王恭テ承レ命ヲ宗族ヲ擇採、其孫辰孫王（一名智宗王）ヲ以使ニ添テ令ニ入朝ハ、天皇嘉レ之、特ニ寵命ヲ加ヘテ太子ノ師トス、於レ是始テ書籍ヲ傳ヘ儒風ヲ發クト云リ、辰孫王トモ云王仁ノ別稱乎、又一説ニ王仁ノ事ハ蓮心院ノ聞書、又ハ佐佐木高秀古今序抄ニモ、漢高祖八代末葉也ト見ユ、姓氏錄ニモ王仁漢高祖後鸞王ヨリ出、文忌寸武生宿禰櫻野首栗栖首古志連皆王仁裔ト也、然ドモ三國史記又東國通鑑等ニ王仁ノ事不レ見、韓儒モ其傳ヲ不ニ得考ニト也、按ズルニ辰孫王非ニ王辰爾ハ辰爾ハ王仁ノ仲子也、

應神天皇太子菟道稚郎子師レ之、習ニ諸典籍ニ莫レ不ニ通達ハ此漢音之濫觴也、

此段太子師レ仁通達ノ事ハ應神紀ノ文也、西峯老人曰、百濟王仁來大闡ニ儒風ハ仁其先漢人也、崔豹古今註所レ謂千乘王仁者耶、和泉國百舌鳥野北陵、（反正天皇陵也）陵東池上（池名ニ樋井池ト）號ニ凡人中家ハ（泉姓出ニ姓氏錄ニ）其地有ニ王仁祠ハ應神天皇皇子菟道稚郎子、嘗師レ仁學、其後受禪讓ニ於兄大鷦鷯尊ハ兄弟有ニ夷齊之行ハ皇子薨尊悲哀不レ已、仁乃獻ニ和歌ニ方勸ニ卽位ハ於レ是尊卽レ位、此我朝美談也、必仁之敎導所レ使乎ト、一説ニ云、河內國交野郡津田ノ新田ニ王仁ノ墓アリ、泉州ニモ亦祠アリ、境ノ東蓼ガ池ノ道ニモ亦祠アリト、然ドモ其終レル年月未レ詳、按ズルニ稚郎子ハ應神帝第二ノ御子ニシテ、仁德天皇ノ弟也、初帝稚郎子ノ才德備ルヲヤ愛シ給ヒケン、周ノ大王不レ讓ニ泰伯ニ以禪ニ季歷ニ玉フ蹤ヲ學ビ給リ、故ニ帝崩ジ玉フ後、還テ孤竹ノ君ノ二子相讓ノ操ヲ懷キ給ヒ、兄仁德帝ニ禪テ、菟道ニ退キ給ヌ、仁德帝モ亦受ズシテ奉ニ顧命ニジテ固辭シ、難波ニ遁レ給ヒシ故、國民ノ貢物三載ノ間ハ不レ知レ所レ屆、是故ニ本紀曰、時有ニ海人ニ賫ニ鮮魚之苞苴ハ獻ニ于菟道宮ニ也、太子令ニ海人ニ曰、我非ニ天皇ハ乃返レ之令レ進ニ難波ハ大鷦鷯尊亦返以令レ獻ニ菟道ハ於レ是海人之苞苴餧ニ於往還ハ更返レ之取ニ佗鮮魚ニ而獻焉、讓如ニ前日ニ鮮魚亦餧、海人苦ニ於屢還ハ乃棄ニ鮮魚ニ而哭、故諺曰、有海人耶因ニ

己物一以泣其是緣也、云云、而稚郎子知ニ兄王之志終不レ可レ奪、久生テ煩ニ天下一乎ト宣テ自薨給ヌ、是偏ニ御德學ノ至誠乎、此時也王仁天運曆數難波王ニ及事ヲ曉リ、爲ニ倭歌一テ奉レ諷ニ諭難波王一終ニ請テ奉レ卽レ位其歌ニ難波津爾、咲耶此花、冬籠、今乎春部止、開哉此花、ト此詠本紀ニハ不レ見、雖レ然古來語繼テ記錄ニ筆シ、殊ニ紀氏以ニ此歌一爲ニ歌父一釆女御ガ葛城ノ王ノ憤ヲ和シ、以ニ淺香山歌一爲ニ歌母一二首一雙トシテ其世貴賤老少口實トシ、且手習者ノ手本トセシ由、古今集等ノ歌書ニ見ヘタリ、濫觴トハ泯江入レ楚、成ニ無庭一其源水可レ濫レ觴ト家語ニアリ、故ニ事始ヲ謂ニ濫觴一耳、

桓武天皇延曆十一年令ニ諸生習ニ漢音一十七年定ニ讀書音韻一勿レ用ニ呉音一

桓武帝ハ五十代ノ天子ニテ、光仁帝第一ノ御子也、號ニ山部親王一母高野夫人ト云、高野乙繼娘也、天皇始仕ニ稱德帝一任ニ從五位下大學頭一光仁帝卽位ノ後四位ノ侍從トナリ、任ニ中務卿一給ヒ、寶龜四年立太子、大應元年卽位シ給ヘリ、延曆中ノ漢音ノ沙汰ハ則、延曆十七年格太政官宣曰、諸讀書出身等令レ讀ニ漢音一勿レ用ニ呉音一ト、此時ヨリ音韻ノ事委ク成レリ、音韻トハ四聲也、有レ文云レ音叶レ之云レ韵、事物紀原ニ筆談曰、音韻之學自ニ沉約爲ニ四聲一及ニ天竺梵學入ニ中國一其學漸密也ト、猶歷代讀書音韻等ノ委シク成シ事末章ニ記ス、

初應神天皇遣ニ阿知使主都加使主於呉一仁德天皇雄略天皇時、呉國貢獻、呉音之譯ニ於舌人一亦尙矣、

應神天皇紀曰、二十年秋九月倭漢直祖阿知使主、其子都加使主並率ニ己之黨類十七縣一而來歸焉、古語拾遺曰、漢直祖阿知使主率ニ十七縣民一而來朝焉、三代實錄曰、後漢孝靈皇帝四代孫阿知使主、云云、本朝漢姓出レ自ニ阿知使主一也、是ヲ以觀レ之レバ、件ノ兩使主ハ父子ニシテ、百濟人歟、此御宇百濟人己ガ縣邑ノ人ヲ率テ歸化セシ類多シ、按ズルニ阿知都加トハ其處名ニヤ、使主ハ此ノ尸姓也、又曰、三十七年春二月戊午朔、遣ニ阿知使主都加使主於呉一令レ求ニ縫工女一爰阿知使主等、渡ニ高麗國一欲レ達ニ于呉一則至ニ高麗一更不レ知ニ道路一乞ニ知レ道者高麗一高麗王乃副ニ久禮波久禮志二人一爲ニ導者一由レ是得レ通レ呉、呉王於レ是與ニ工女兄媛弟媛呉織穴織四婦女一

又曰、四十一年春二月甲午朔戊申、天皇崩二于明宮一、時年一百二十歲也是月阿知使主等、自レ呉至二筑紫一時、胸形太神乞二工女等一、故以二兄媛一奉二胸形太神一、是則今在二筑紫國一御使君之祖也、既而率二其三婦一以至二津國一、及二武庫一而天皇崩之不レ及(アヒアハデ)、卽獻二于大鷦鷯尊一、是女人等後今呉衣縫蚊屋衣縫是也、是則本邦衣服ヲ呉服ト稱スル緣也、然ドモ織紝悉異邦ヨリ習傳ルニハ非ズ、神代ニ天照太神又ハ稚日尊孁、木華開耶姬、天棚機姬ノ機織事、又ハ栲機姬ノ名アリ、然シテ倭文綾、明霞錦、麒麟錦等ノ事ハ、異朝ニモ聞ベキ、又仁德紀五十八年冬十月、呉國高麗國並朝貢ストアリ、又雄略紀曰、八年春二月遣二身狹村主青檜隈民使博德一、使二於呉國一、自二天皇卽位一至二于是歲一新羅背誕苞苴不レ入於レ今八年、又曰、十四年春正月丙寅、身狹村主靑等共二呉國使一將二呉所レ獻手(テヒト)末才伎、漢織呉織及衣縫兄媛弟媛等一、泊二於住吉津一、是月爲二呉客道一通二磯齒津(シハツ)路一名二呉坂一、三月命二臣連一迎二呉使一、卽安二置呉人於檜隈野一、因名二呉原一、以二衣縫兄媛一奉二大三輪神一、以二弟媛一爲二漢衣縫部一也、漢織呉織衣縫、是飛鳥衣縫伊勢衣織之先也、是皆此段ニ所レ援ノ証文也、呉音之譯二於舌人一尙矣トハ、舌人ハ通事也、文選東都賦重二舌之人九譯一、令二稽首而來王一、註善曰、國語曰、夫戎狄坐二諸門外一而使二舌人體委與レ之、韋昭曰、舌人能達二異方之志一、象胥之官也、譯ハ方言ヲ翻譯スルノ謂也、古ハ諸ノ國司ノ中ニ邊要ニ宰タル任ニハ、舌人ヲ率ヒタルニヤ、舊事紀國造本紀ニ曰佐(ヲサ)ニ作レリ、曰大隅國造、纏向日代朝御世治二平隼人同祖初小一、仁德帝代者伏布爲二曰佐一賜二國造一、又曰、薩摩國造纏向日代朝、伐二薩摩隼人等一鎭レ之、仁德朝代、曰佐改爲レ直、纏向日代朝ハ景行天皇也、舊事紀頭書曰、姓氏錄云、大角隼人出レ自二火闌降命一、景行紀云、十三年悉平二襲國一、按初小襲也、襲國大隅噌唹郡乎、續日本紀云、隼人噌唹君多理志佐、姓氏錄云、曰佐譯氏也、續日本紀云、諸蕃異レ域風俗不レ同、若無二譯語一難レ通レ事、按古者入二諸蕃一而作二譯語一、以宣レ詔者則爲二其長一乎、故譯、長、並訓二曰佐一、又續日本紀云、唱更國注今薩摩國也、唱更亦與レ譯同意、云云、一義ニ曰佐ハ通事シテ、互ノ言語ヲ助ルノ意、程子曰、人音聲不レ有二異同一、人生處依レ異東方之音在二齒舌一、南方之音在二脣

舌ハ、西方之音在二脣舌一ハ、北方之音在二喉舌一ハ、禮王制曰、五方之民言語不レ通、故置レ官譯通、是達二其志一通二嗜欲一謂、又譯誦ノ事東方曰レ寄、南方曰レ象、西方曰二狄鞮一、北方曰レ譯、云云、譯者釋也、猶レ言レ謄也、以二彼此言語一相謄釋而通レ之、通譯至二於九變一而始達二中國一云云、瑯瑘代醉曰、譯語東方曰レ寄、言傳二記內外言語一、南方曰レ象、言放二象內外之言一、西方曰二狄鞮一、鞮知通二傳夷狄之語一、北方曰レ譯、譯陳也、陳二說內外之言一、按ズルニ吾大八州ノ中ト云ヘドモ、四邊ノ民風土ニ依リ言語今尙不レ通多シ、況ヤ古ヲ乎、

然自二欽明天皇朝佛法入一後、

欽明天皇ハ第三十代ノ天子ニテ、繼體ノ御子、母ヲ手白香皇后ト申キ、仁賢帝ノ御女也、繼體帝卽位以後ノ后也、故ニ安閑宣化ノ二帝トハ別腹也、宣化帝崩ジ玉ヒテ、欽明帝卽位シ給ヒ、都ヲ大和ノ磯城嶋ニ遷シ、金刺ノ宮ニ坐セリ、本紀曰、十三年冬十月、百濟國聖明王更名聖王遣二西部姬氏達率怒唎斯致契(トリシチケイ)等一、獻二釋迦佛金銅像一軀幡蓋若干經論若干卷一、別表讚二流通禮拜功德一云、是法於二諸法中一最爲二殊勝一、難レ解難レ入、周公孔子尙不レ能レ知、此法能生二無量無邊福德果報一、乃至成二辨無上菩提一、譬如下人懷二隨レ意寶一逐レ所レ須用盡依上レ情、此妙法寶亦復然、祈願依レ情無レ所レ乏、且夫遠自二天竺一爰洎二三韓一、依レ敎奉持無レ不二尊敬一、由レ是百濟王臣明謹遣二陪臣怒斯致契一、奉レ傳二帝國一流二通畿內一、果三佛所レ說二吾法東流一、云云、按ズルニ此時ノ使价ノ名ハ西部ハ處ノ名、姬氏ハ其姓、達率ハ其官、怒唎斯致契ハ正使副使ト見ヘタリ、此時天皇甚叡感アリテ、既ニ可レ被レ用レ之ニ定ルト云ヘドモ、廷臣ノ衆議ヲ試ミ給ニ、蘇我稻目一人奉レ背、物部大連尾輿、中臣連鎌子等不レ從レ命、諫諍曰、我國家之王二天下一者、恒以二天地社稷百八十神一、春夏秋冬祭拜爲レ事、方今改拜二蕃神一、恐致二國神怒一、天皇曰、宜付二情願人稻目宿禰一令二禮拜一、大臣跪受而忻悅、安二置小墾田家一、懃脩二出レ世業一爲レ因、淨二捨向原(コスガ)家一爲レ寺、於レ後國行二疫氣一、民致二夭殘一、久而愈多不レ能二治療一、物部大連尾輿、中臣連鎌子同奏曰、昔日不レ須二臣計一致二斯疫一死、今不レ遠而復必當レ有レ慶、宜早投棄懃求二後福一、天皇曰、依レ奏有司乃以二佛像一流二棄難波堀江一、復縱二火於伽藍一燒燼、更無レ餘、云云、其後モ守屋勝海等諫奉ト

云ヘドモ不レ聽、卒ニ墮二其身於非命一、神道ノ陵夷風俗ノ衰廢、實ニ此時ニ起レリ、可レ痛哉、

百濟尼法明來二于對馬島一、以二吳音一誦二維摩一、謂二吳音一、爲二對馬讀一者是也、彼詞如二支遁一終遇二于內大臣鎌足一、由レ是欲二佛書之吳語一也、故亦讀二儒書一者、禁二吳音一須二漢音一正レ始也、

一記云、吳音ハ荊蠻ノ詞ナレバ乖舛多シ、日本效焉、故ニ吳音ニハ、四聲共ニ混雜ノ誤アリ、異國ニモ吳漢等ノ音五品雜ル事ヲ憂ヘテ、梁ノ沈約始テ漢吳兩音ヲ分ツト也、清家ノ說ニハ日本吳ニ近シ、故ニ用二吳音一多シト、唯百濟ノ尼法明齊明天皇ノ時來朝ヨリ吳音盛也、儒書ヲ讀ニ禁二吳音一ハ、桓武帝以來也云、按ズルニ法明來朝ノ事、日本紀ニハ不レ見、水鏡齊明天皇紀、百濟ヨリ法明尼來テ維摩經ヲヨンデ、鎌足ノ病惱ヲ祈リシ事アリ、翌年山階寺ヲ建テ、維摩會ヲ被レ始トアリ、山科寺後ハ淡海公南都ニ被レ移、今興福寺是也、彼尼初對馬島ニ來テ彼經ヲ誦シ、故ニ吳音ヲ對馬讀ト云事、出二維摩會緣起一、元亨釋書曰、法明百濟人也、齊明二年內臣鎌子連、寢レ病百方不レ痊、明奏曰、維摩詰經、因レ問レ病說二大法一、試爲二鎌子連一讀レ之、帝詔讀レ之未レ終レ卷病卽愈、王臣大悅、云云、贊曰、東晉有二尼道馨一、說二維摩經一、聽者如レ市、然者尼之有レ講者、尙而明一讀未レ畢、沈痾早差、爲レ効豈不レ愈哉、爾後淡海公於二植槻場一創二維摩會一移二興福寺一、于レ今轉盛豈明之烈乎、彼詞如二支遁一トハ、杜詩ニ、題二巳上人茅齋一曰、巳公茅屋下、可三以賦二新詩一、枕簟入二林僻一、茶瓜留レ客遲、江蓮搖二白羽一、天棘蔓二青絲一、空忝二許詢輩一、難レ酬二支遁詞一、分類曰、支遁晉僧、字道林、講二維摩經一、許詢常設二問難一、遁不レ能二復通一、公蓋言我空忝二許詢之流一、而難レ酬三對支遁一、所三以美二巳上人一也、又梁高僧傳云、晉支遁字道林、本姓關氏、陳留人、幼有二神理一、聰明秀徹、年二十五出家、每ニ初講肆一善標二宗會一、而章句或有レ所レ遺、云云、至二晉哀帝卽レ位、頻遣二兩使一徵請出レ都、止二東安寺一、講二道行般若一、白黑欽崇、朝野悅服、云云、大臣鎌足ハ天智天皇御宇所二遲遇一、及レ易レ簀帝就二其亭一見レ之、甚哀慟シ給、又以二皇太弟天武帝一贈二鎌足內大臣一、授二大織冠一、賜二藤原姓一、歲五十六、或五十トモ云リ、生涯國功ノ薄キヲ省テ、薄葬ノ顧命アリ、當世以爲二美談一、一說

云、鎌足始葬ニ攝州阿威山一、白鳳七年和州談峯改葬、延喜十四年建レ祠、延長四年勅號ニ談山權現一、由レ是欲ニ佛書之呉音一也、故亦讀ニ儒書一者禁ニ呉音一、須ニ漢音一正レ始也トハ、漢音既ニ應神帝ノ時、菟道稚郎子師ニ王仁一是始也、故ニ今正ニ其始一ト云也、佛書ハ呉音ニ儒書ハ漢音トノ定ハ、桓武帝ノ勅ニ定ル、事前ニ見ユ、今世人此兩音ノ定ハ、皆厩戸皇子ニ起ルト謂ヘルハ誤ナリ、

大内大學寮有ニ音博士二人一、掌レ敎レ音、明經生必先就ニ音博士一、讀ニ五經音一、然後講レ義、

從レ是國朝音儒ノ事ヲ云、大内ハ大内裏、昔宮城ノ經營未ニ全備一、九重ノ大内裏廢レテハ、或里内裏アリ、凡九重ノ帝都ノ制桓武帝ヨリ創ルナレバ、大内全備モ此御宇ニヤ、三善淸行意見ニ仁明帝ノ代、華奢ニ過サセ給フ趣アリ、大内裏全備ノ制、其圖見ニ拾芥抄一、大内裏咸陽宮ノ一殿ヲ摸スト云事、見ニ太平記大内裏造營章一、參考曰、西源院本云、咸陽宮ノ一殿ヲ摸シテ、桓武天皇延曆十二年正月事始アリテ、嵯峨天皇大同四年十一月遷幸アリシ事ナレバト云云、註按ニ日本紀略一、延曆十二年正月遣ニ大納言藤原小黑麿左大辨紀古佐美等一、相ニ山背國葛野郡宇太村之地一、爲レ遷レ都也、十三年十月車駕遷ニ于新京一、云云、據レ是則此云ニ大同四年遷幸一非也、又按日本紀略云、大同四年十一月、遣ニ右兵衞督藤原仲成等一、造ニ平城宮一、云云、是玆歲平城帝讓レ位而爲レ遷ニ幸南都一、再修ニ平城宮一也、西源院本、誤爲ニ大内裏之事一者明矣、予謂大學寮ト云事モ、官制全備ノ一寮ナレバ、今此ニモ大内大學寮トハ書也、且學校モ王官ニ於テハ大學寮ト云ヒ、諸州ニシテハ國學又庠序ノ稱アリ、詳ニ後ニ見ユ、音博士二人トハ、四道博士ノ外ニ、文章博士、音博士等アリ、四道トハ、紀傳・明經・明法・算道也、紀傳博士ハ國史傳記ノ類ヲ掌リ、明經ハ聖經賢傳ノ類ヲ事トシ、明法ハ法曹家トモ稱シテ、律令格式等ノ刑政ノ書ノ事ヲ沙汰シ、算道ハ曆算、或天下租稅ノ算數ヲ掌レリ、文章博士ハ著述ノ類ヲ事トス、扨音博士二人アリテ、相當ハ從七位上也、經書ノ訓點ヲ改、平上去入ノ四聲ヲ正シ、漢呉ノ二音ヲ辨ヘテ白讀ヲ敎ル事ヲ掌ル、故ニ明經道ノ末々ノ儒者、六位ノ時多クハ任レ之、地下六位ノ外記等モ任官ノ例也、唐名ハ音儒ト稱ス、明

經生必先就ニ音博士ニ讀ニ五經ヲ、然後講ㇾ義トハ此謂也、明經生トハ明經道ノ學生ノ事也、先正ニ音韵ヲ極ニ白讀ヲテ然後講ㇾ義ノ次序ハ、學者自然ノ階級ヲ云ノミニ非ズ、學令又ハ大學寮式等ノ制格也、本邦ノ勸學其盛事可ㇾ見、

持統天皇賜ニ音博士大唐續守言薩弘恪銀及水田ヲ、

持統天皇ハ女帝也、天智帝ノ御女ニシテ、天武天皇ノ后也、壬申ノ亂ニ天武帝ニ從テ、伊勢國迄赴給ヒ、桑名ニ坐シテ亂治テ後大和ノ都ニ歸給フ、軍中ニモ卽位ノ後モ、天武帝ヲ輔給テ、政ニ預リ給フ事多シ、天武帝崩ジテ後、持統天皇政ヲ聞召リ、本紀云、賜ニ大學博士上村主(カンツスグリ)百濟大稅一千束ヲ、以勸ニ其學業ヲ也、又云、賜ニ音博士大唐續守言・薩弘恪・書博士百濟末士・善信・銀人二十兩ヲ、又云、賜ニ音博士續守言・薩弘恪・水田人四町ヲ、又云、賜ニ大學博士勤廣貳上村主百濟食封三千戶ヲ、以優ニ儒道ヲ(ニギホヘ玉フハカセノ)云云、續守言薩弘恪ハ共ニ唐人ニヤ、又勤廣貳ハ本邦ノ古爵也、此御宇モ專ラ儒術ヲ好ミ給リ、別腹ノ御子ニ大津皇子アリ、尤博文達識ニ坐シテ大友皇子ト共ニ本邦詩賦ノ祖ナリ、

仁明天皇、能練ニ漢音ヲ辨ニ其清濁ヲ、朝野宿禰鹿取知ニ漢音ヲ、

仁明天皇ハ、嵯峨帝第二ノ御子也、御諱正良、母號ニ檀林皇后橘嘉智子ト、左大臣諸兄公ノ裔清友ノ娘也、淳和帝ノ時立太子、天長十年二月受禪三月ニ卽位シ給ヘリ、此御宇ハ文學ノ盛隆也、御母后ハ尤聞秀ニ坐シテ、學校創立ノ擧アリ、此時嵯峨天皇ヲ前太上皇ト申シ、淳和帝ヲ後太上皇ト申ス、廷臣藤原緒嗣・清原夏野、左右大臣トシテ、共ニ博識鴻才也、此外橘氏公・文屋秋津・藤原常嗣・小野篁等アリテ、遣唐使ノ事アリ、藤原清河・阿部仲麿等ニ贈位アリ、橘逸勢・直道廣公アリ、是唯帝ノ學業ヲ事トシ給フ薰陶也、其漢音ニ練シ四聲清濁ヲ辨ヘ給事ハ、著述巧ニ坐ス故也、事ハ續日本後紀ニ詳也、御歲十七ニシテ閑庭ノ雨雪ニ題シ給フ、御製載テ在ニ經國集ヲ、惜哉玉音不ニ多流ヲ、朝野鹿取知ニ漢音ヲ事モ見ニ續日本後紀ヲ、本朝儒宗傳云、朝野鹿取、葛木襲津彥之裔也、祖出ニ武內ヲ、鹿取父曰ニ忍海鷹取ヲ、桓武帝延曆十年、忍海魚養賜ニ氏朝野ヲ、鹿取通ニ漢音ヲ、桓武朝爲ニ遣唐錄事ヲ、仁明朝爲ニ侍讀ヲ至ニ從三位ヲ、承和十年卒、歲

七十、按ズルニ鹿取ガ遣唐錄事ノ時、大使ハ藤原葛野麿、副使ハ石川道益、判官ハ菅原清公也、

善道朝臣眞貞、以ニ三傳三禮一爲レ業、兼能ニ談論一、但舊來不レ學ニ漢音一、不レ辨ニ字之四聲一、至ニ於教授一、總用ニ世俗譌駁之音一、斯人而有ニ此不能一也、爲ニ遺憾一耳、

眞貞ノ三傳三禮、且談論ノ事モ續日本後紀ニアリ、儒宗傳云、善道善淵共火明命裔也、火明出ニ事代主命一、眞貞之父曰ニ伊豫部連家守一、眞貞仁明朝爲ニ東宮學士一、通ニ公羊傳一、承和十二年卒、歲七十八、又云、伊豫部馬飼學士也、按ズルニ火明出ニ事代主命一ノ文、疑ラクハ誤也、三傳三禮ノ事、三傳ハ春秋左氏・公羊・穀梁傳也、後加ニ胡氏傳一爲ニ四傳一、三禮ハ周禮・儀禮・禮記也、爲レ業者、眞貞ハ是明法家歟、仁明帝ノ朝ニ立テ、然モ東宮學士也、帝已ニ練ニ漢音一辨ニ清濁一、此時此事ニ疏謬ナル者、尤可レ怪也、至ニ其教授一總用ニ世俗譌駁之音一ハ、四聲ハ平上去入是也、譌駁二字共ニ訓ニ末菸和流一、譌ハ說文色雜不レ同也、駁ハ馬色不レ純也、唯是不レ分ニ四聲一ノ謂耳、文選魏都賦、非ニ醇粹之方壯一、謀ニ譌駁於王義一、又新撰姓氏錄序ニ、臣等歷探ニ古記一、博觀ニ舊史一、文駁辭譌音訓紐雜、云云、斯人而有ニ此不能一トハ、惜ニ其才一デ憾ニ其譌駁一也、論語雍也篇、伯牛有レ疾、子問レ之、自レ牖執ニ其手一曰、亡レ之命矣、夫斯人也而有ニ斯疾一也、斯人也而有ニ斯疾一也、トアリ蓋祖ニ此語一爾、

本朝學源浪華鈔二終

本朝學源浪華鈔三

倭訓者自ニ王仁一始、定ニ王辰爾一也、
是ヨリ第二章也、和訓者漢字ニ對スル名也、神代文字ノ事、齋部卜部ノ書ニ見ヘテ、龜トニ始マル本致アリ、今遺字僅ニ殘レリ、往年久我東愚公ノ手書ヲ相傳ス、此外三百六十五字已上ノ說諸抄ニ見ユ、漢字以來件ノ古字不レ行、故世人半信半疑ス、釋紀有レ說悉不レ記、古來ノ諸抄漢字ニ和訓ヲ附テ、譯誦シタル始ヲ厩戸皇子ニ起ルト云、菅家ニ始ルト謂ル者ハ末也、又繼體帝ノ御宇秦ノ徐福尙書ヲ持來ヨリ、倭學ハ祖ニ徐福一由、異國ノ書ニ筆セシハ、妄而尙書ノ事ハ實也、豈此時ヲ始ト言ン乎、其世已ニ齎來ラバ徐福自訓詁譯誦ヲ弘メシモ不レ可レ知、サレドモ代遠運移テ此事慥ナル徵記ナシ、應神帝ノ朝、王仁和語ニ通ジ、和訓ヲ漢字ニ叶ヘシ事明白也、王仁・王辰爾ハ父子也、投化ノ諸儒多キ中ニ、勳功久ク譯誦モ此二子ヨリ弘リヌレバ、始ニ王仁一定ニ王辰爾一トハ云也、此二子和訓ノ大祖タル明證ハ懷風藻

序曰、橿原建レ邦之時、天造草創人文未レ作、至ニ於神后征レ坎品帝乘レ乾、百濟入朝啓ニ龍編於馬厩一、高麗上表圖ニ烏册於烏文一、王仁始導ニ蒙於輕嶋一、辰爾終敷ニ敎於譯田一、遂使下俗漸ニ洙泗之風一人趨中齊魯之學上、逮ニ乎聖德太子一、設レ爵分レ官、肇制ニ禮義一、然而專崇ニ釋敎一、未レ遑ニ篇章一云云、橿原建レ邦之時トハ、神武帝東征シテ畝傍山ノ橿原ニ都シ給フ事也、天造ハ同ニ大造一草創ハ經營也、神后ハ神功皇后也、征レ坎トハ征レ韓也、品帝ハ品多天皇應神帝也、乘レ乾ハ乾ノ九五ノ位ニ乘ジ給フ也、百濟入朝啓ニ龍編於馬厩一トハ、初應神帝御宇十五年秋八月、百濟王遣ニ阿知岐一貢ニ良馬二疋一、卽養ニ於輕坂上厩一、以ニ阿知岐一令ニ掌飼一、故號ニ其養レ馬處一曰ニ厩坂一也、阿知岐亦能讀ニ經典一、卽太子菟道稚郞子師焉トアレバ、龍編ハ圖籍ノ謂而、良馬ト典籍ノ事ヲ影略シ、啓ニ馬厩一トハ良馬ヲ厩坂ニ掌リナガラ、太子ノ師ト成シ事ヲ約シテ書リ、高麗上表圖ニ烏册於烏文一トハ、敏達天皇ノ朝ニ高麗ヨリ上ル表疏ヲ烏羽ニ書タルヲ王辰爾蒙レ命以ニ烏羽一蒸ニ飯氣一、摸ニ寫絹帛一明レ之ノコトヲ云、導ニ蒙於輕嶋一トハ、蒙ハ童蒙也、指ニ稚郞

子ニ輕嶋ハ、應神帝大和ノ宮都也、敷二數於譯田一トハ譯田本紀ニハ作二譯(ヲサ)語(タ)田一則敏達帝ノ都也、遂使下俗漸二洙泗之風一人趨中齊魯之學上ト云ヘバ、則吾邦ノ儒學此二子ヨリ教ヘ弘ムル事分明也、王仁ノ後王辰爾、彌其勤厚キ謂ハ遂ノ字ニ著シ、扨廐戸皇子ノ儒學ハ覺哿ニ承トアレドモ、只其書ヲ讀習タルバカリニテ、佛乘ヲノミ勤メ、聖學ニ於テハ學ビ得ラレザル事明矣、然則聖經ノ訓點已下廐戸ニ起ルト云ハ、國史ニ盲(キ)說也、其後ハ淡海ノ先帝ヨリ國學ト云事モ始メ給ヘル趣、是亦懷風藻ノ序ニ詳ニ記セリ、又菅家ノ訓點ハ實也、今ノ世ニ行フ、文選白氏文集等モ、舊菅家ヨリ訓詁流傳スト也、其外ノ述作家乘後世ニ有レ功事ハ不レ可三逐(コトゴトク)記二也、

倭訓有レ二、一、本訓也、末訓也、轉二和語一爲二漢字一、謂二之本訓一、譯二漢字一爲二和語一、謂二之末訓一、

此一段神代纂疏ニ本ヅキテ書ケリ、猶本末二訓ノ事書末ニ詳述レ之、其訓類譯例一二事ヲ擧ルニ本訓ハ和語ニ云云ノ事ハ、漢字當二某字一ト云事ヲ比ベテ、和語ト漢字ト義理相合タルヲ取テ、物ノ名ニ定タル故ニ、本訓トハ云也、譬バ此ニ阿女突智ト云語、漢ノ天地二字ニ符合ス、是指二著其字一シテ用ヒタルヲ轉二和語一爲二漢字一トハ云也、畢竟萬物一名ノ和語ニ一名ノ漢字ヲ用ル是也、天地・日月・草木・土石・鳥獸・男女等ノ類是也、アメ・ツチ・ヒ・ツキ・クサ・キ・ツチ・イシ・トリ・ケモノ・ヲトコ・ヲンナ、ト云ヘバ、和語ノミニシテ足レリ、是ニ漢字ヲ著テ用ル故ニ、上件ノ數字皆本訓ト云也、末訓トハ和語アリテ符合ノ漢字迂遠ナル時、漢字ノ一字一音ヲ假テ假名書ニスル類也、故ニ譯二漢字一爲二和語一トハ云也、譯ハ飜譯ノ謂也、神代卷ニ瑞此云二彌圖一、硏哉此云二阿那而惠夜一ノ類也、此ト云詞則譯也、又火神ヲカグツチ、木ノ神ヲクヾノチト云、サレドモ無二正字一、故假二迦遇突智四字一、借二句句迺智四字一類ハ則末訓也、轉二和語一ト云モ轉二易和語一シテ爲二漢字一也、是亦神代卷ニ和語マロガレト云ヲ轉易爲二渾沌二字一、則其和語ト漢字ト意義符合セリ、クヾモルト云ヲ爲二溟涬二字一モ亦同、

夫五方之民言語不レ通、故不下以二國語一譯上レ之、則不レ能レ得二其義一矣、

五方殊音異語譯通ノ義ハ前ニ註ス、以二國語一譯レ之

トハ、前ニ註スル研哉此云ニ阿那而惠夜一ノ類是也、予初深ク疑フ、我國ノ異邦ト通ズル時一時ニ其方言物事ノ難レ知コトヲ因テ謂リ、物皆有レ漸而全キ理ナレバ、異邦人投ニ化我一而經ニ年所一、又國人入ニ異方一テ其方言ニ馴知スルコト久シク、經レ世テ終ニ如レ斯全通者也ト、又閲ニ諸疏一、廐戸皇子神ニシテ通ニ異方之言語一、故ニ其方言ヲ知ル事速ニ菅家亦同レ之、終經傳諸子百家ニ點ジテ至ニ于今一ト、服ニ此説一シテ浸其疑解ヌ、頃年讀ニ此書一俄爾不肖ノ物理ニ疎謬ナル、諸疏ノ荒涼ナル事ヲ曉ヌ、尤齊楚互入ニ其國一、馴知久則其國語不レ學シテ可レ知ハサル事ナレド、唯漢音ヲ知ル事速ニシテ不レ漏、和訓ノ本末轉譯ノ分曉ニ至ル事ハ、王仁・王辰爾ノ二子韓人ニシテ、經籍ニ諳練シ、其國語ハ固ヨリノ生得ニシテ、我國ニ入貢勤仕有レ年テ和語和訓ノ入方、漢字符合ノ旨ヲ悟入スル事神速ナルヨリ、一時ニ兩通事足者乎、此事嘗テ國史稗説ニ於テ見レ之トイヘドモ、此理ニ心注コト遲シ、今此書ニ依テ明ニ識得タリ、實ニ西峰翁國學修錬ノ賜也、

仁德天皇之未ニ即位一也、王仁能解ニ國俗之言語一、獻ニ難波津之歌一、和訓之義自レ此起也、仁之於レ學功大哉、

此段ノ事故大概注レ前、此謌ノ意、紀氏古今集ノ序ノ祇注ノ意ヲ按ズルニ、比ニシテ正風體也、難波ニ坐ス大鷦鷯尊ヲ風諭シテ、奉レ即ニ御位一、異國人ニシテ如レ此和歌ニ達セシ事、神妙奇特非ニ筆舌所一レ及、難波ハ神武紀曰、戊午年春二月丁酉朔丁未、皇師遂東、舳艫相接、方到ニ難波之碕一、會下有ニ奔潮一太急上、因以名爲ニ浪速國一、亦曰ニ浪華一、今謂ニ難波一訛、開耶此華ハ梅也、冬籠トハ、仁德帝ノ相讓テ、彼處ニ坐ス潛龍ノ時ニ比シ、今ヲ春部トハ、運至時熟スル也、又開耶此花トハ、飛龍ノ乾乾タルベキヲ奉レ諭也、夫王者ハ、震ノ位ニ當テ見ハル、震ハ東也、春也、然レバ冬籠ハ冬也、北也、以ニ此華一爲ニ木花一者、異説ニシテ非也ト、明疑抄ニモ見ヘタリ、王仁ノ和訓精錬ノ事ハ、此一首ヲ以爲ニ明證一也、

履中天皇四年秋八月戊戌、始於ニ諸國一置ニ國史一、記ニ言事一達ニ四方志一、

履中天皇ハ第十八代ノ天子ニテ、仁德天皇ノ御子母ハ磐之媛ト申キ、武内孫葛城襲津彦ノ娘也、諸州ニ國史ヲ置キ給フ事ハ、本紀ニ見ヘタリ、一記云、

履中天皇毎州ニ置レ史布ニ教化一記ニ是非一學校庠序ノ權輿也、又周禮有ニ史官一掌ニ邦國四方之事一達ニ四方之志一諸侯亦各有ニ國史一大事書ニ之於策一小事簡牘而已、朱子曰、周官所レ謂外史台ニ四方之志一便是四方諸侯皆有レ史、諸侯若無レ史、外官何所ニ稽考一而爲レ史、按ズルニ履中帝ノ御宇ハ應神仁德ノ次ナレバ、儒典未レ可ニ知レ此興隆一、然ルニ有ニ此擧一則我國人物ノ不レ乏、且賢王ノ政道ニ乾乾タルモノ可ニ思想一

雄略天皇置ニ史戸河上舍人部一其所ニ愛寵一史部身狹村主靑、檜隈民使(ツカサ)博德也、爾來稍知レ用ニ文字一然和訓猶有下未ニ盡洒然一者上

雄略天皇ハ第二十二代ノ天子ニテ、安康天皇第五ノ御子也、母ハ中蒂姫也、本紀曰、卽位二年十月置ニ史部河上舍人部一天皇以レ心爲レ師誤殺レ人衆、天下誹謗言ニ大惡天皇一也、唯所ニ愛寵一史部身狹村主靑、檜隈長使博德等也、史部トハ、史官ノ輩(トモガラ)部也、部曲二字ヲ安閑紀ニ、訓ニ宇知乃屋津古一注ニ氏奴一紀中謂ニ藤原部一或齋部卜部祝部等ノ部字亦其意相同ジ、河上ノ舍人部トハ、其居處河上ト云所ナレバ也、舍人ハ家臣也ト、淮南子注ニ見ヘタリ、身狹檜隈ハ大和國處名也、村主民使ハ尸姓也、靑ト云博德ト云ハ二人ノ名也、一記史部ノ部字ハ部類部屬アルノ古語ニシテ、紀中此例佗官佗職ニモ多シト云、未ニ盡洒然一トハ不ニ明潔一之謂也、

敏達天皇之世、王辰爾勤レ學、於レ是奇妙幽玄之理、神而通レ之、

敏達天皇ハ第三十一代ノ天子ニテ、欽明帝ノ太子、母ハ石姫ト申ス、宣化帝ノ御娘也、本紀曰、十四年七月辛酉朔甲子、幸ニ樟勾宮一蘇我大臣稻目宿禰、奉レ勅遣ニ王辰爾一數ニ錄船賦一卽以ニ王辰爾一爲ニ船長一因賜レ姓爲ニ船史一今船連之先也、又曰、天皇執ニ高麗表疏(フミ)一授ニ於大臣一召ニ集諸史一令レ讀ニ解之一是時諸史於ニ三日內一皆不レ能レ讀、爰有ニ船史祖王辰爾一能奉ニ讀釋一由レ是天皇與ニ大臣一爲讀美曰、勤乎辰爾、懿哉辰爾、汝若不レ愛ニ於學一誰能讀解、宜從レ今始近ニ侍殿中一既而詔ニ東西諸史一曰、汝等所レ習之業何故不レ就、汝等雖レ衆不レ及ニ辰爾一又曰、高麗上表疏書ニ于烏羽一字隨レ羽黑、既無ニ識者一辰爾乃蒸ニ羽於飯氣一以レ帛印レ羽、悉寫ニ其字一朝廷悉異レ之、又曰、詔ニ

船史王辰爾弟牛ハ賜レ姓爲ニ津史一按ズルニ後世船史津史ハ皆此裔也、船史惠尺ハ皇極天皇ノ時蘇我蝦夷ガ燒シ國記ヲ燼中ニ探得テ、獻ニ中大兄一人也、中大兄ハ則天智帝也、其書ハ先代舊事本紀也ト云未レ審、一記云、伊豆權現ハ崇ニ王辰爾一是亦未レ知ニ是非一王辰爾ノ事跡、敏達紀鮮レ所レ見、唯懷風藻序ニ敷ニ教於譯田ニトイヘルヲ以思フニ、此間ノ處置推テ被レ量侍ル、王仁王辰爾父子ニ於テハ國學ノ宗タル事分曉也、奇妙幽玄ハ異邦人ニシテ、和語ノ幽微ヲ知コトヲホム、

蓋以ニ萬物化生自色自形有ニ自然之音響一、

此一段ハ據ニ列子ニ書ルニ似タリ、列子天瑞章云、生レ物者不レ生、化レ物者不レ化、自生自化、自形自色、自智自力、自消自息、謂ニ之生化形色智力消息一者非也、注皆以自然不レ知ニ其所ニ以然一、而形者色者人與レ物也、萬物ノ色萬物ノ形象音響トハ物ノ名ヲ定ルニ、其ニ就キ其物ニ附シテ、自然ニ從フ事ヲ明セリ、何者萬物ノ形色音響名義共ニ二氣五行ノ所爲ヲ不レ離者也、化生ハ自然ニ生ズルノ謂也、自色ハ物皆五行ノ氣ノ見レ所レ賦、是色形也、文彩也、自形ハ五行ノ象形ヲ見スニ、東圓形、南三角、西半月、北圓形、中四角ノ說アリ、萬物此五象ヲ不レ出、五行ノ色ヲ見スニハ、靑赤黃白黑ニ不レ過、有レ聲物ハ五行ノ音聲不レ外ニ宮商角徵羽一、陰陽變爲ニ五行一二五精氣化ニ生萬物一聖人其聲色形象ニ就テ、其生化ヲ悟リ、自然ニ其物ヲ喚ブノ聲皆爲ニ物名一然ドモ其初物物事事皆是ヲ察シテ、一時ニ然ルニハ非ズ、一物一名ノ如キハ、皆自然ニ物ノ氣ト所レ呼ノ音響ト相應ジテ、做ニ其名稱一者也、前ニ注スル如ク、日月・星辰・天地・人物・草木・蟲魚・水火・土石ノ類、皆然、就レ中亦倭語ノ中有ニ本訓末訓一、日火曰レ比、水曰ニ美頭一木曰レ幾ノ類ハ、自然ニシテ本訓也、或因レ日比加介、依レ火保乃保、保無良、憑レ水美奈末多、賴レ木古須惠ノ類ハ、皆末訓也、至ニ其無レ窮、逐一難レ辨、以レ一推レ之、則千差萬別皆有ニ元由一テ稱呼セル事明也、神代直指抄ニ、アメ・ツチ・クニ・ツチ・メ・ヲ・ギ・ミ・ノチ・サキノ十六字ヲ以萬物ヲ察識スルノ極秘トシ、源親房モ我國有ニ人民一以來、皆天ヲ阿摩地ヲ毘尼・都智ナド云事、是自然ノ理ヨリ如レ此名目トナル、然レドモ、甚深ノ義ハ漢朝ノ說ニ勝レリト云リ、梵

ニ悉曇アリ、漢ニ音學叶韻アリ、我國モ其習俗ノ入方ナレバ、和語ヨリ探ニ元致ヲ、則識得ノ捷徑也、程子曰、凡物之名字自與ニ音義ー氣相通、除下其佗有ニ體質ー可ニ以指論而得レ名者上之外、如三天之所ニ以爲ーレ天、天未レ名時本亦無レ名、只是蒼蒼然也、何以便有ニ此名ー、蓋出ニ自然之理ー、音聲發ニ於其氣ー、遂有ニ此名此字ー、如下今之聽レ聲之精者必便知ニ人姓ー善レト者知中人之姓名上之理由レ此、朱子曰、倉頡作レ字、此亦非ニ自撰出ー、自是理如レ此、如ニ心性等字ー、未レ有時如何、撰得只是有ニ此理ー、自流出、此兩說ニ因テ命レ名造レ字、皆自然ノ理ナルコトヲ知ルベシ、或云、萬物定レ名始ニ黃帝ー、是使ニ民不レ惑ト、凡仰レ天云ニ天牟ー、伏レ地呼レ知ガ如キ、是人人具ル二氣自然ノ發也、萬物一名ヲ呼初タルモ亦同、一物一名ノ外ハ無數ノ事ニ因テ、無窮ノ音響ニ相應ジテ、自然ニ呼レ之耳、皆出ニ人爲之造作ー、而實天理之自然也、

二神出名ニ萬物ー、高者謂レ何、卑者謂レ何、動者謂レ何、植者謂レ何、凡人事物理莫ニ皆不レ如レ此、然後物名可ニ得而知ー之、

二神者、伊弉諾・伊弉冊二神也、萬物五行ノ禀受色形ニ見ハレ、音響ニ著ハル、聖神從テ名ニ呼之ー、此理非ニ在レ彼而無ニ此、外內顯微無レ間、故其感應ノ發聲如レ此、相得テ萬物ノ名備ハレリ、非情ハ無ニ音響ーシテ以ニ色形ー示レ之、有情ハ殊ニ有ニ音聲ーテ然リ、聖神先知レ之、二神ハ萬物ノ大父母也、二神生ニ萬物ー而萬物ノ性情精氣皆二神ノ德化ヲ固有セリ、二神事物ニ悉ク心ヲ注テ名付給トハ見ヘザレドモ、其理自然ニシテ爾、是故ニ國名等モ二神ヨリ呼初給アリ、又大己貴命・少彥名命、呼初給フモアレド、其元ハ二神ヨリ發スルノ理ニ不レ過也、高卑動植者、天地・山川・草木・鳥魚ノ類ヲ指シテ云、人事亦然也、一理百當ノ神靈尤不レ可レ盡、

其雖レ有レ名、非レ書則無ニ以紀載ー、書契以來假紀ニ其名ー、固已達ニ民用ー、而盡ニ物情ー、

雖レ有名ハ一物一名ニシテ、音聲ノミニ稱呼スル名也、謂ニ之眞名ー、眞名者猶レ言ニ天眞自然之名ー、非レ書則無ニ以紀載ートハ、書ハ文字ニテ物ノ署也、故字訓謂ニ之奈ー云ニ阿佐奈ー、唯是以レ字萬物ノ名ヲ記シ認ル事也、書ハ文書也、契ハ符契也、古ハ結レ繩割レ木、亦文字也、以レ是達ニ民用ー耳、盡ニ物情ートハ、已有ニ

書契ニテ盡ニ天地萬物鬼神之性情一其理炳焉タリ、故傳云、蒼頡制レ字鬼夜哭、如ニ國字一ハ出ニ神代龜卜一、且有ニ新名一也、天武帝ノ十一年ニ命ニ境部連石積等一、更肇新字一部四十卷、或四十四卷令レ作、釋紀ニ引ニ私記一テ師說、此書今在ニ圖書寮一、但字體頗似ニ梵字一、未レ詳ニ其字義所ニ準據一乎、又云、大藏省御書中有ニ肥人之書六七枚計一、先帝於ニ御書所一令レ寫給、其字用ニ假名一、或其字未レ明、或乃川等字明見レ之、若以レ彼可レ為レ始歟ト、肥人書薩人書モ亦和字ノ一體歟、神代文字之外新字トハ、今世粗遺テ凧・畠・榊・杜・杣・峠・俤・梶・雫等ノ類也、又扨・社等ノ字訓アリ、江談云、杣字、誠本朝作字歟如何、被レ命云、杣字本朝山田福吉所レ作也、榊字見ニ日本紀一、和名鈔榊字出據未レ詳由也、江談ノ所レ答ヲ以例スレバ、是亦福吉ガ所レ作ニヤ、或云、續字彙補ニ梶・雫ノ字出タレバ、非ニ倭字一又我邦書體ノ中、葦葉書ナド云事歌書ニ見ヘテ、釋行譽ガ記ニ見ヘ、又僧正行尊ノ歌ニ「夕暮ニ難波邊ヲ見渡セバ唯薄墨ノ葦手成ケリ、」然ドモ酉陽雜俎ニ、百體書ノ事有テ、其中ニ薬書モ亦其一體也、亦云西域ニ、有ニ六十四種一、其中ニ天書龍書

ト云モ見ヘタレバ、葦葉書ノ類、又ハ神代文字天書龍書ノ古說不レ審事也、凡無ニ文字一國ハ何レモ一字一音ニシテ假借ノ如ク用ユト、又云、龜卜ノ字モ境部石積ノ新字ノ初ニ出タル由所聞アリ、不レ知ニ是非ニ云、和名鈔序倭字ノ涉汰アリ可ニ併考一、

既而知ニ此云レ何者漢謂レ何也、

此ハ我也、對レ漢則宜レ言レ倭、又對レ此則當レ作レ彼、是唯影略章法爾、夫萬般交易ノ道理ハ、同國ノ中猶爾リ、況異邦乎、我國無ニ文字一ニ因テ、偏假ニ漢字一以弘レ道ト思ヘルハ、尤無下ノコト也、神代文字ノ沙汰於レ傳有レ之、縱十口相傳ノミ也トモ、應神帝以前ノ儀則一事モ不レ容、見レ史テ可レ察、本邦文字ノ元由ヲ云ヘルハ、日本紀問答云、神代字ニ萬五千三百七十九字有レ之、齋部正通曰、神代文字者象形也、清原國賢曰、聖德太子以ニ漢字一始附ニ神代文字傍一、釋紀曰、漢字傳ニ來我朝一者應神天皇御宇也、於ニ倭字一者其起在ニ神代一歟、龜卜之術起ニ神代一、此紀ニ書天神以ニ太古一卜レ之、無ニ文字一豈可レ成レ卜哉、作者ノ事濫觴可レ在ニ神代一、幽玄而難レ測、兼俱曰、神代文字ハ墨譜ノ始リ、聲ノ上下スルニ從テ、字モ亦上下ス

ル事アリ、灼レ龜五ニ割、上ハ火下ハ水、左ハ木右ハ金、中央ハ土、是南北東西中央ニ配レ之、此灼形ノ曲折ニ從テ、一萬餘ノ文字出來也、神代文字ノ起リ一萬五千三百七十九字、或三百六十字有レ之云、此五說ニ據レバ、神代文字ノコト、有二傳來一而不レ可レ誣也、新撰姓氏錄序曰、蓋聞天孫降レ襲、西化之時神世伊開、書記靡レ傳、云云、齋部廣成亦曰、上古之世未レ有二文字一、貴賤老少口口相傳、前言往行存而不レ忘、書契以來還不レ好レ談レ古、云云、朝野群載、大江匡房筥崎宮記曰、尋二其本體一應神天皇之御靈也、我朝書二文字一、代二結繩一之政、卽創二於此朝一云云、此等ノ說ヲ見レバ、神代文字ノコトハ似レ無レ有、而正通以爲レ有レ之者、與二廣成說一齟齬ス、說者以謂、廣成斥二上古一者非二神代一、唯是謂二應神以前一、匡房唯漢字來朝爲レ本、而立レ言是則應神之緣起者也ト、按ズルニ國字舊出二龜卜一云ハ何疑乎、夫龜卜ノ文ハ本邦專制而異域無二比幷一者也、以レ理言レ之則今現前ニ灼レ龜テ見二其兆一、取二其畫象一不レ論二古今一、自然ニ從フ文ナレバ神代ノ文字也、何者不レ涉二人爲一也、是故一記云、以二龜卜一從ノ兆一謂二文字一者、猶三龜背之文云二洛書一一般歟ト、閩書鴻夷志、南倭北虜皆有二文字一、類二鳥跡古篆一、意其初有二達人一制レ之耶、米元章書史、陳賢之草書帖六七紙、字亦奇逸難レ辨如二日本書一ト、唐書ニモ日本有二文字一ト記シ、北史ニハ無レ之ト云ヘリ、或云、此等ノ諸書ニ載タルハ、伊呂波字ノ事也、未レ知二是否一、又按ズルニ知二此云一レ何者漢謂一レ何也トハ、前注ニ謂ル神代卷ノ訓詁釋注反切ノ類、亦皆是也、

故國俗用二文字一、亦有二眞名一有二假名一、眞對レ假實也、假對レ眞權也、字名之意、卽物名也、

國俗ハ我國習也、眞名ハ元一物一箇自然ノ和名、其於レ物呼二初之一者ハ、自二伊弉諾尊一而其理非二人意之作爲一事ハ註二于前一、眞名ハ云二天眞名義一、神代卷有二天眞名井一、注者皆天眞誠實自然ノ謂トス、如レ言二眞名鶴一モ衆類ノ中ニ一箇ノ眞體ナルヲ指シテ云ヘル古語也、故ニ萬物ノ一名皆是眞名也、非二文字一、此一箇ノ眞名ニ文字ノ義理符合セルヲ假借シテ、爲レ署謂二之假名一、又一義ニハ和名ト與二字義一符合スルヲ定二其物名一ヲモ稱二眞名字一、不レ合シテ唯假二一字一音一、連テ明二和名一謂二之假名字一、假對

レ眞權也トハ、此謂也、字名之意、卽物名也トハ是則眞名字ニシテ、名字ノ二字共ニ訓レ奈謂也、

言天下之物本無二其字一、姑借二近レ之音字一、以認二其辭一乃假字也、

言トハ、カフ云意ト云ノアゲ詞ナリ、天下之物本無二其名一トハ、物皆本無二其名一而各自色自形テ、自其稟性ヲ名乘ガ如シ、以レ故其名ヲ呼モ非二人意之作爲一、自然ニ符合ス、故姑借二近レ之音字一以認二其辭一トハ云也、其辭トハ無レ字シテ呼タル眞名也、近レ之音字トハ則眞名字ノ事也、認二其辭一ノ三字簡約而假名義理ヲ審諦セリ、按ズルニ神代抄假有二二義一、一和名假二漢字一謂二之假字一、二以二和名一附二漢字一明二其義一謂二之假名一、名者眞名而和名者也ト、此說亦通、

飜譯然後知二其正字一謂二之眞名一、

是亦眞名字ノ事ヲ注ス、眞名ト計云ヘバ和名而非レ字、此眞名附二漢字一、謂二之眞名字一、飜譯トハ如二反切知二其正音一、知三此謂レ何彼爲二何字一、而飜二譯之一、今用是也、其事明二下文一、

如二天地一此曰二阿女豆知一、阿女豆知卽是天地假字、天地卽阿女豆知眞字也、

此眞名字假名字ノ符合ヲ說ク、此ハ和語ヲ云、是字義ノ相依本致ヲ明ス、

假字之爲レ字、多一音而眞字二聲三聲合、

是假字ニ一字一音ヲ假テ、和名眞名ヲ明ス類ヲ云ヘリ、和名ニ合正字アレバ如二天地一眞名字トシ、和名ニ符合ノ正字ナケレバ、一字一音ヲ假名書ニ假コト、硏哉此云二阿那而惠夜一類是也、二聲三聲合トハ是拗音ノ事也、拗音者一字ニシテ、天云二天年一、二聲也、光云二久和宇一三聲合スル類也、猶末章ニ詳ナリ、

或雖二一音字一至三於用二其義一、則亦爲二之眞字一、或雖二二聲三聲合之字一、有レ借レ音則云二假字一、都不レ過下於以レ義爲二眞字一音爲中假字上而已、

是假借ノ摠論也、以二義字一明二眞名之實一、以二假字一斷二假名之權一、一音ノ字モ義理正當ナレバ、爲二眞字一事ハ往往如レ演、一字一名ノ眞名也、或日火ヲ云レ比、木云レ幾類也、眞名字ニモ亦此例アリ、二聲三聲拗音字ト云ヘドモ、用二假字一レバ假名也、按ズルニ二聲三聲ノ字モ畢竟反切ニ至テハ一音ニ歸スル

謂アリ、反切ノ助紐ハ二聲ヲ合シテ、爲二一音一ノ妙ニシテ、悉曇或ハ漢字ノ中ニモ自然ニ備レリ、三聲モキヨウハ、ケウニ同ク、シヤウハ、セウニ通ジ、リヤウハ、レウニ通ズ、又二聲ノ音モ、シユハ、スニ通ジ、シヨハ、ソニ通ズ、此類皆約シテ一音ニ至ルヲ思ヘバ、和語ニモ拗音單音共ニ具レリ、其妙不レ可二悉伸一、二聲ノ字ヲ一音ノ假名トスルハ常也、縱、惠(ヱイ)ヲ爲レ惠(ヱ)、騰ヲ爲レ止ノ類也、三聲ノ字ハ、玉・極・凝ノ類ヲ爲レ幾ノ例アリ、サレドモ二聲ノ字ヲ假二一音一ニハ、多ク三聲ノ字ヲ用二一音一ハ稀也、唯以レ義爲二眞字一音ノミヲ爲二假字一事甚的當也、

此日本書紀等史所レ用、假字多皆是也、紀中所レ用假字、其類居多、

六正史之中以二日本紀一爲二全備一、而皆則レ之、故ニ日本紀等ト云、天武天皇第三子舍人親王奉レ勅撰奏ス、紀中ハ日本書紀中也、紀中譯誦飜音ノ事、一章一句ノ下ニ記レ之、本文ノ中ニモ亦假借多シ、故ニ云二居多一今回二悉擧一、非二唯日本紀一、和書大抵此例多シ、

又如二萬葉集假字一、以二音與一レ義相雜書レ之、當時假字之體天下同レ文、

萬葉集ハ和謌勅撰之首、而其時代撰者等異說紛紛、謌人家以爲二互難一、古今集序云、奈良帝ノ事モ文武帝トシ平城帝トシ聖武帝トスルノ區區アリ、サレドモ聖武ノ朝ニ歸著也、抑奈良七代ト申スハ、元明・元正・聖武・孝謙・廢帝・稱德・光仁・是也、拾芥抄ニ萬葉集廿卷、奈良天皇御宇左大臣橘諸公兄撰レ之、私勘右大辨家持同撰レ之聖武天皇勅、藤原定家抄ニ時代事謌仙等、多有二喧嘩相論事等一、又云、世繼物語云、萬葉集高野御時諸兄大臣奉レ之、云云、但仲集橘大臣薨之後、謌多書レ之、似二家持卿之所一レ註、尤以不レ審、云云、今按ズルニ今ノ萬葉集ハ、源順朝臣奉レ命加二訓點一也、吾與レ義相雜トハ萬葉集ノ假名遣ハ一字ノ音ト義訓トヲ雜ヘタリ、義理ヲ以附タル訓也、縱バ十六ノ二字ヲ點二志志一アリ、是算數四四十六ノ義ヲ取レリ、又尙(スラ)・副(サヘ)・乍(ツヽ)・來(ケリ)ノ類アリ、此外ノ義訓ハ文義ト與二和語一相合テ易レ知、當時ハ萬葉ノ時代也、天下同レ文ハ禁二異文異字之惑一レ人也、假字ノ法萬葉時代迄ハ一字一音、又ハ以二義訓一通用、是國史以來ノ流例也、後世母字片假字行レテヨリ、

古風廢、故ニ今世謂二一字一音ノ假字一、俗謂二之萬葉書一者ハ此由也、國史中ノ假字後世意ヲ注者罕也、是漢字ニ馴知スル事久ケレバ也、

及二吉備公ノ取下所レ通二用于世一假字數十字上、省二偏旁點畫一作二片假字一、列爲二假字反切一、其體甚簡易、謂二片假字一者其體不二全具一也、

蕉菴遺藁、從二位賀茂朝臣在貞公肖像序云、其先人王第七代孝靈天皇第三子吉備彦命也、彦命討レ逆有レ績、封二之於備一、降而九世之苗胤曰二下道臣國勝一、勝ノ子曰二眞吉備一、俊才絶レ人、以二元正帝靈龜二年一航レ海入二唐國一、凡於二經史諸子百家之學一無レ所レ不レ通、居二十載而囘矣、聖武帝嘉褒特渥、登爲二右大臣一、孝謙帝賜二姓賀茂一、是世之所レ謂吉備大臣也、本朝文敎之盛行斯人之賜也、至レ今使二人計仰不一レ已、云云、續日本紀ニモ亦詳也、按ズルニ吉備眞備トモ申ス、是其先所レ封國備州ナレバ也、文武・元明・元正・聖武・孝謙・廢帝・稱德・光仁ノ八朝ニ歷仕シ、學博才富位尊齡高名臣也、其片假名作ル事、釋紀ニモ出タリ、一書ニ片假字ハ、爲二蘇我馬子作一者非也、所レ通二用于世一假字數十字トハ、一字一音ノ假字遣ヒ馴タル中ニト云コト也、則五十字ヲ云、省二偏旁點畫一トハ伊ヲ爲レイ、呂ヲ爲レロノ類ニシテ、唯片字書也、故ニ謂二之片假字一、列爲二假字反切一トハ今世ノ片假字五十字竪音横立ニシテ、爲二反切一ノ法備レリ、夫音ハ五十音ニ極レリ、萬物ノ音聲不レ能レ漏二乎此一、且和語ノ中反切ノ道理自然ニ具リテ、人無レ思レ之、以二一事一言レ之、則故ヲ訓二加禮一、幸ヲ訓レ智類也、甚簡易謂二片假字一者、其體不二全具一也トハ字體省略ス、故ニ簡易也、例レ之古文ノ省略・小篆・八分・隷書・行草ニ至ルガ如シ、爾來中世多稱二片字書一、訓點又ハ出テ葉字トシ、謄寫ノ捷徑ニ用ル事アリ、所レ謂片字書亦假字ニシテ、唯吉備公ノ本制ニ摸シテ、字字皆偏旁點畫ヲ省タル者也、或ハ歌ヲ爲レ哥、權ヲ爲レ才、孫ヲ爲レ子、從ヲ爲レイ、又禾・ネ・瓜・匕・刀・才・与ノ類是也、而多ハ用二出葉字一、出葉トハ文字ノ傍每ニ施ス詞ノ助字也、假令高天原仁神留坐須等ノ如キ仁須ノ二字ヲ如レ此用ルヲ出葉ト稱ス、祝詞・宣命・詔勅・祓ノ類皆然リ、今世釋氏ニモ亦此片字書ノ隱字アリ、秘書ニ用ヒ、又ハ捷格ニ用ユト云ヘリ、メ爲二聲聞一、ヨ訓二緣覺一、卄唱二菩薩一類是也、一書云、出葉

ト云意ハ、冬樹無レ葉則曰レ辨、是譬ニ白文ニ、春梢抽レ葉知レ之、是出葉謂也、故以ニ傍字訓點ヲ稱ニ出葉ト、漢字傍附ニ倭語ヲ明レ意、而國語能通曉也、或云、弖仁波、又ハ弖仁乎波ト云ハ、皆倭語ノ助辭也、爲ニ出葉ノ者附會也、譬ヘバ胡文煥助語辭ノ序ニ、諺有レ之云、之・乎・者・也・已・焉・哉、皆助語也ト云ゴトシ、我國ノ助詞弖仁乎波ノ四字ニ不レ限ト云ヘドモ、其所レ詮字ヲ取テ稱レ之耳、萬葉書ノ後漢字ヲ用ル和章ノ一格也、

大抵方音不レ出ニ四十四音ヲ、而四十四音中有ニ單清者ト、有下帶ニ清濁ヲ者上、假字反切以ニ五十字ヲ、盡ニ音中之聲ヲ、方音ハ我國音ニシテ、所レ謂四十四音也、片假字ハ五十音、母字ハ四十七音也、然ヲ有ニ四十四音ト者、以・爲・遠・於・兄・惠ノ六字ヲ省テ也、此三音ニ各又有ニ三音ヲ、俗謂ニ之端伊・中爲・奧比・端保・中遠・奧於・端邊・中兄・奧惠ト、此故今唯存ニ比保邊ノ三字ヲ、含ニ以・爲・遠・於・兄・惠六字ヲ、故ニ云ニ四十四音ト、蓋比ノ字ニ兼ニ伊比ノ二音ヲ、保ノ字ニ具ニ於保ノ二音ヲ、邊ノ字ニ含ニ兄惠ノ二音ヲ、故ニ伊・爲・遠・於・兄・惠ノ六字ハ唯是一音耳、約レバ成ニ四十四音ト、事足レリ、若清濁音響ヲ弘ムレバ自成ニ四十七音ト、就ニ五十音ニ、故ニ四十四ノ中、有ニ單清者ト有下帶ニ清濁ヲ者上ト云、單清ハ四十四音ノ中ニ、イ・ロ・ニ・リ・ヌ・ル・ヲ・ワ等ノ類不レ可レ附レ濁、字半アリ、帶ニ清濁ヲ者トハ、四十四音ノ中ニ、ハ・ホ・ヘ・ト・チ・カ等ノ類、或ハ清、或ハ濁音也、是亦半アリ、單清ハ多ク單濁ハ少シ、義・宜ノ二字ノ如キ是也、但四十四音ノ中ニハ單濁ナシ、故ニ不レ言レ之、假字反切以ニ五十字ヲ盡ニ音中之聲ヲトハ、是則吉備公ノ片假字縱横五十字ニシテ、竪音横音宛轉シテ爲ニ反切ヲ成ニ助紐語ヲ也、音中之聲トハ四十四音ノ中ノ清濁輕重ヲ云也、夫偏ニ出ルヲ云レ聲、有レ文云レ音、又唯通用ス、五音ハ天然之音也、聲ニ有ニ四聲ヲ平上去入是也、此唇舌牙齒喉ノ做レ文者也、音韵叶調ノ微ハ和漢共ニ自然ニ備ルト云ヘドモ、吾人日ニ用テ不レ曉レ之、西域ノ悉曇尤其妙ヲ盡シ、胡僧神珙入ニ漢家ニ以來、其傳ヲ弘ムト也、爾後漢家ノ韻書、汗牛充棟至レ不レ可ニ見盡ス、事物紀原載ニ筆談ヲ曰、切字出ニ於西域ニ、漢人訓レ字止曰ニ讀如ニ某字ト、未レ用ニ反切ヲ、然古語已有ニ二聲合爲ニ一字ヲ、如ニ不可爲レ叵、如是爲レ爾、而已爲レ耳、之乎爲レ諸之類ノ、似ニ西

國二合音ハ、蓋切字之原也、如二奥字一從二而大一、亦切音殆與レ聲俱生莫レ知二往來一也、或曰、許觀東齋記事、魏孫炎始二反切一、其實出二西域梵學一、宋周顒始作二四聲切韻一、按ズルニ西國ノ二合音トハ、則二聲合シテ爲二一音一、助紐ヲ云也、此理倭語ニモ自具レリ、如二韵書反切一、本邦ニモ竺支兩家ヲ流傳シテ今ハ如二全備一ナレド、神代ヨリ相傳ノ和語ノ微妙自然ニ彼國ノ術ニ不レ違、宇宙一理ノ妙ニテ彼此ノ別ナキコト自然ニシテ然リ、又西域記曰、印度ノ文字梵天所レ製、原レ始垂レ則四十七言、遇レ物合成、隨レ事轉用、流二演枝派一、其源浸廣、因レ地隨レ人、微有二改變一、語二其大較一、未レ異二本源一、而中印度爲二詳正一、辭調和雅與レ天同レ音、氣韻清亮爲二人軌則一、鄰境異國習謬成レ訓、競趨二澆俗一、莫レ守二淳風一云云、又國俗ニ依テ字源二十餘字、或二十五言ニシテ、轉ジテ用之類アリト也、抑我上世音韵ノ沙汰モ亦不レ忽故ニヤ、古事記ニハ專音聲ノ事ヲ書シ、殊ニ神名ノ傍注ニ上去等ノ字ヲ附タルモ、昔ヨリ唱傳シ、神名モ僅ノ上聲去聲ノ違ニ依テ、神名以下皆非レ古、故ニ特ニ令レ知ト也、今世ノ學者疎謬ニシテ混稱ス、總テ神代卷ノ開闔第一ノ秘傳ト也、往年久我東愚公モ切ニ耳提面命シ給キ、物語ノ書歌書等ニモ和語ノ開合輕重清濁ニ因テ心ヲ注タル趣、顯昭ガ袖中抄ニモ詳也、神代卷ニモ古本ニハ開合ヲ專トセシ證ニハ、假字ニ悉ク章ヲ附タリ、是則和語ノ四聲ヲ知ント也、假字遣ト云事モ中世廢レテ不レ用、明魏法師ハ以・爲・遠・於・兄・惠ヲ通用セシト也、定家卿ニ至テ精妙也ト云リ、定家ノ假字遣一卷、或稱二二人丸秘抄一、或記ニ云、二人丸秘抄ハ河内前司親行朝臣ノ述作ナリシニ、謗定家卿合體ノ物也トゾ、仍號二二人丸秘抄一ニヤ、然ハアレド世以定家ノ假字遣ト云倣セリト云、又同書ノ凡例ニ以・爲・遠・於・兄・惠等易二紛紛ノミニ非ズ、和與レ波、宇與レ婦ノ紛其外巨細ニ擧グ繁キ故ニ省焉、袖中抄ニ和語ノ開合輕重ノ一證ニ云、同名所ヲ呼ニ唯賀茂ト耳云ヘバ、賀ハ上聲茂ハ去聲也、賀茂川ト云ヘバ、賀茂ノ二字共ニ成二上聲一餘ハ准焉、

此乃天地自然之聲、雖二五方之言語萬象之聲響一、二音三音至二數音一、各以レ韻叶則亦皆可レ譯也、

天地自然ノ音トハ、衍テ爲二五十韵一、則萬物ノ音聲盡二于此一、大衍五十ノ數ト符合ス、妙哉、五方ノ言語

見ニ子前一、萬象之聲響トハ、字書曰、聲之外曰レ響、猶レ悦也、悦悦然浮也、實而精者曰レ聲、朴而浮者曰レ響、響之附レ聲如ニ影之著一レ形、以レ韵叶トハ反切ノ妙助紐ノ所レ出也、皆可レ譯トハ師曠之聞公冶長之聞之類アリ、六律ハ其聞之具也、其理ハ叶韻也、非ニ唯謂一レ聰也、

釋護命空海繼レ之、造ニ四十七字母一、以便ニ子俗一、其體則草書、今世所レ用假字是也、

續日本紀曰、傳燈大法師位護命僧正俗姓秦氏、美濃國各務郡人、年十五以ニ元興寺萬耀大法師一爲ニ依止一、入ニ吉野山一而苦行焉、十七得度就ニ同寺勝虞大僧都一學ニ習法相大乘一、云云、空海ハ讃岐ノ人也、其傳釋書詳也、四十七字ノ母字異國ニ傳テ音韵字海、又ハ書史會要共ニ載タリ、但字體有ニ少異一、今世所レ傳母字トハ大異ニシテ少同、今世ノ母字ハ空海ノ草也、異國ノ書ニ載ルハ古字也ト云ヘリ、一記云、母字ハ閑院左大臣冬嗣奉レ勅作レ之、或蘇我馬子之作也、或橘逸勢爲レ之、此等ハ都テ無レ據粃說也、羅山文集ニモ本朝久用ニ片假名一、其初以ニ五音一通用點ニ漢字一以便ニ譯誦一、蓋吉備公始也、其後石淵寺勤操・延暦寺最澄・高野山空海、四十七字ノ以呂波ヲ唱和ス、元明ノ降、陶南村書史會要ヲ作テ日本ノ字ヲ載タリ、卽今ノ以呂波也、云云、同書源順ガ傳ニモ空海ノ伊呂波アリテ以來、萬葉書古風廢ル、是故ニ國諺ヲ誤ル人アリ、故ニ順和名鈔ヲ作ルト云リ、按ズルニ載ニ伊呂波字一者ハ書史會要・音韵字海・海篇心鏡・日本風土記等ニアリ、日本風土記ニ以ニ漢字一解ニ和歌之意一者數多アリ、一記ニ云自レ伊至レ武二十三言ハ勤操作レ之、自レ宇至レ寸二十四音ハ空海爲レ之、京ノ一字ハ最澄置レ之、而最末ノ數員ノ字ハ後人置レ之ト、西峯老人云、空海直筆ノ母字ニハ、自ニ一二三一至ニ萬億一數字有レ之、在ニ出雲國神門寺一ト、神代卷ノ古鈔ニ母字ノ末ニ置ニ數字一、姑有レ以言、本朝昔父母者敎レ子、父以ニ算數一、母以ニ諸和語一、且此女文字ヲ敎ユ、故ニ父ヲ云ニ加曾一、母曰ニ伊呂波一、加曾ハ數也、伊呂波ハ母字ノ謂也、予謂不レ然、夫氣ハ受レ父、數ハ生レ氣、故ニ父ヲ云ニ加曾一、又身體ハ是受レ母色體也、故ニ母ヲ云レ色、波ハ助語也、又一說自レ伊至ニ千利奴留遠一、護命作レ之、自ニ和加與太禮曾一泊ニ惠比毛世須一、空海作レ之、京ノ字ハ傳敎ノ所レ置

也、是涅槃經ノ四句偈ヲ摸シ、以下悟二無常一而歸中寂心城上之意上爲二京字一云、或記云、陶南村ガ書ニ所レ載ノ母字ハ、日本ノ僧名ハ克全字ハ大用ト云者ヨリ得レ之、僅四十有七能通二議之一、又唯髣二髴蒙古字法一云、按ズルニ蒙古ノ字ハ釋ノ思八奉レ命所レ爲ノ文字ト也、西峯曰、續日本後紀、空海在二於書法一最得二其妙一、與二張芝一齊レ名、見レ稱二草聖一、國史說如レ此、乃書二四十七字一、便二于國人一、不レ知二一丁一者、國語音響無レ通二於此數一矣、字體海草也、出雲神門寺有二海眞蹟ノ字母一云、余嘗見二其臨寫一云云、蘐中抄曰、四十七字本歌詞也、護命空海作レ之、イロハニホヘドチリヌルヲ護命作レ之、ワガヨタレゾツネナラム、ウヰノオクヤマケフコエテ、アサキユメミシヱヒモセズ、空海賡レ之、二僧同時人也ト、又京ノ字慈覺置レ之トモ云ヘリ、按ズルニ空海ノ筆法、其初ハ師二馬養一トモ侍リ、馬養ハ藤宇合也、淡海公不比等ノ子也、又勤操ハ桓武帝時法花八講ヲ始メシ人也、最澄・勤操等傳、在二元亨釋書一、

海師於二書法一最得二其妙一、母字乃師之體也、

海師ハ空海法師也、妙壽院ノ詩ニ、海師筆法筆傳レ神トアリ、本邦ノ三跡ト云ハ、道風・佐理・行成也、獨海師ハ得二皮肉骨三體一、古今獨步トス、清少納言ガ雙紙ニモ此由ヲ評セリ、續日本後紀ニ所レ載ノ優賞前ニ記ス、今母字乃師之體也トハ、古抄ニ傅會多シテ海師草書ノ體ヲ不レ辨、唯異邦ノ書ニ載タル字體ニ惑テ、此草書ノ眞字ヲ易ル人アリ尤非也、

但敘レ語、讃二寂滅一、不下爲二反切一而設上之、故雙二以・爲・遠・於・兄・惠之兩字一、倶同音而非レ別也、

空海母字ハ只以二四十七字一伸二涅槃四句偈一之意マデニテ、反切ノ益ハナキ也、所レ謂四句偈者、諸行無常是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂是也、以呂波片假名ノコト、山崎氏大和小學ニ辨アリ、可二考知一コトナリ、

代降二於今日一靡然沿レ之、今之所レ謂假字者、唯以呂波與二片假字一而已矣、

世澆季ニ至テ、神記國史又ハ萬葉集ノ假字ノ古風共ニ廢レテ、簡易ニノミ靡然沿ヒテ、天下此二樣一同也、是非レ古事ヲ歎テ云リ、

亦以二片假字一爲二大和假字一者、以三其吉備之作而起二於大和國一也、

吉備公大和ノ居處ハ、城上吉備村ニアリ、御厨子山妙法寺ハ吉備公ノ子善覺律師ノ建立也、大和假字トハ舊來ノ俗傳ニ依テ書レ之、
以呂波爲二平假字一者、平易之意乎、後世訓二詩書百家一以二片假字一、書二和歌之類一用二平假字一、率以爲レ常、點二經史諸子百家一、用二大和假字一事ハ、弘仁私記ニハ日本紀ノ假字ニ片假字ヲ被レ用、此書籍ニ用二片假字一始ナルベシ、和歌ノ書ニ用二平假字一、古今集假字序ヲ始ト云ベキニヤ、土佐日記ニハ眞字ヲ謂二男文字一、平假字ヲ謂二女文字一、亦是楷法ト平易ノ字體ニ就テ也、但中世以來婦人ハ專平假字ヲノミ事トスレバ、女文字トハ云ニヤ、又異俗ノ中ニ横書、或ハ左右行ヲ雜テ讀ルハ其風俗モ聞ユ、本邦ノ女書ニ此體アリ、散亂シテ爲二句讀一ノ類、其準據ノ始ヲ不レ知、或有二別致之在一乎、姑記以俟二識者一、

本朝學原浪華鈔三終

本朝學原浪華鈔四

詩賦者由二大津皇子一始也、皇子天武天皇第三子也、容止墻岸（ミカホタカクサカシク）、音辭俊朗、及レ長辨有二才學一、尤愛二文筆一、詩賦之作始興焉、

是ヨリ第三章ナリ、云レ詩云レ賦、一而又六義ノ一體也、賦布也言二其事一テ具ニ演布ノ謂也、詩賦ト云ハ詩章總稱ノ名目也、大津皇子ト云ヨリ已下、持統紀文ヲ取テ辭括ス、紀曰、大津天渟中原瀛眞人天皇第三子也、容止墻岸、音辭俊朗、爲二天命開別天皇一所レ愛、及レ長辨（カド）有二才學一、尤愛二文筆一、詩賦之興自二大津一始也、渟中原瀛眞人天皇ハ、天武帝ニテ大津ノ御父天智帝ノ御弟也、開別天皇ハ天智帝ニテ大津ノ御伯父、懷風藻曰、大津皇子淨御原帝長子也、狀貌魁梧器宇峻建、幼年好レ學博覽而能屬レ文、及レ壯愛レ武多力而能擊レ劍、性頗放蕩不レ拘二法度一、降レ節禮レ士、由レ是人多附託、時有二新羅僧行心一、解二天文卜筮一、詔二皇子一曰、太子骨法不二是人臣之相一、以レ此久在二下位一、恐不レ全レ身因進二逆謀一、迷二此詿誤一、

遂圖ニ不軌ニ嗚呼惜哉、蘊ニ彼良才ニ不下以ニ忠孝ニ保上レ身、近ニ此奸竪ニ卒以ニ戮辱ニ自終、古人愼ニ交遊ニ之意、因以深哉、時年二十四、

舍人親王之所レ記如レ此、紀氏古今集序亦云レ爾、

舍人親王亦天武帝第五御子而廢帝御父也、或第三ト云ヒ第四也ト云、大和論語云、舍人御母ハ新田部皇女也、水鏡云、舍人親王御息所ハ上總守老之女也、此腹ニ淡路廢帝生給、云云、廢帝ノ御父ナレバ薨後贈ニ崇道盡敬皇帝ト大津皇子詩賦ノ祖タル事、不レ出ニ於天武紀ニ而見ニ持統紀ニ紀氏ハ其先出レ自ニ孝元天皇ニ古今集序假字ハ貫之作、眞字ハ淑望書、此事ハ出ニ于眞字序ニ

然懷風藻以ニ大友皇子詩ニ冠ニ於大津皇子首ニ則大津皇子之前爲レ有レ詩矣、

懷風藻卷首ノ詩ハ大友皇子也、五言侍レ宴一絕、五言述レ懷一絕ニ二首也、次河嶋皇子詩五言、山齋一絕一首、此皇子ハ天智帝第二子也、次大津皇子詩五言春苑言宴一首、五言遊獵一首、七言述レ志一首、後人聯句一聯、五言臨終一絕、已上四首一聯ヲ載タリ、本朝一人一首云、大友本朝五言之祖而、大津七言之祖也、河嶋與ニ大津ニ爲ニ從昆弟ニ然其薨在ニ大津之後ニ則作レ詩未レ知下與ニ大津ニ孰爲中先後上也、按ズルニ本邦ニテ十句ノ詩ハ始ニ于紀古麿ニ七言長篇ハ起ニ于紀古麿ニ七言四句自ニ紀男人ニ和韵ニ至テハ大津首和下藤原大政遊ニ吉野川ニ韵上ヲ初トス、故ニ林氏曰、本朝和韵於レ此姑見レ之、且在ニ元白劉酬和之前ニ則可レ謂レ奇也、大江匡衡五言ニ百韵ヲ作ル、藤原敦光亦然、大江匡房作ニ二百韵詩ニ如レ此ノ長篇漢家ニモ亦希也トゾ、雖レ然古代ノ詩人ハ唯慕ニ文選古詩ニ未レ見ニ唐詩格律之正ニ中葉亦不レ離ニ白樣ニト云リ、

懷風藻撰者不レ慥、此事林氏論辨シテ淡海三船之所レ撰乎ト云リ、本朝古書目所レ載ノ詩文集不レ可ニ悉記ニ淳和帝ノ朝ニ滋野貞主奉レ勅經國集ヲ撰ス、嵯峨ノ朝ニ岑守凌雲集ヲ撰シ、其後仲雄王文華秀麗集ヲ撰シ、其後天長四年ニ經國集成レリ、無題詩集ノ撰者未レ詳、藤原忠通之撰歟ト云リ、其他名集家乘猶多シ、

大友皇子天智天皇太子也、惜乎經ニ壬申之年ニ詩篇不ニ多傳ニ自後詩人才子慕レ風繼レ塵、遂與ニ和歌ニ並行矣、

壬申年ハ天武大友鬪構之役是也、天智紀ヲ按ズル

ニ初天皇御弟天武ヲ以爲ニ皇太子ト、天武后持統ハ天智帝ノ御娘也、大友皇子御息所十市皇女ハ天武御女也、骨肉重婚不レ可レ言、然ニ大友皇子生質怜悧而博覽鴻才ナレバ、太子ノ廢立帝ノ睿慮不レ可レ測、天武常ニ疑恐給ヘリ、帝不豫御時顧命ノ爲トテ召ニ天武ニ、于レ時蘇我安麿私言云、宜ニ有レ心勅答ニ、而帝遺詔曰、後事悉任レ汝、天武奏曰、僕多レ病也、不レ堪ニ萬機ニ、願ハ以ニ大友ヲ爲ニ太子ト、吾且將ニ出家ニ、帝不レ拒、於レ是於ニ大內佛殿ニ薙髮爲レ僧、賜ニ袈裟ヲ入ニ芳埜宮ニ修セント請、勅許ニヨリテ赴レ山給フ、或人云、如ニ虎附レ翼而放ニ、從レ是叔父與ニ從子ト如ニ漢楚ノ、是ヲ壬申ノ亂ト云、天武遂擊ニ殺大友皇子ヲシテ自御位ニ卽玉ヘリ、故大友ノ詞章烏有ト成テ、雖ニ多不レ流、詩祖則明也、故後之才子韵人、慕ニ其佳風ヲ繼ニ其芳塵ヲ、自後與ニ和詞ト並行トハ云、慕レ風繼レ塵トハ、紀淑望古今眞字序語也、曰、自ニ大津皇子之初作ニ詩賦ヲ、詞人才子慕レ風繼レ塵、移ニ彼漢家之字ヲ爲ニ我日域之俗ヲ、民業一改和歌漸衰、云云、和詞ハ本邦ノ正風也、其元陰陽二神ノ唱和ニ興リ、素盞嗚ノ三十一文字ニ成レリ、其事古今ノ序ニモ演タリ、爲ニ和漢一雙ト、而謂ニ詩詞ヲ者是也、或云、和詞ハ國風ニシテ最協レ情、此故覺ニ意味深ニ長於詩ニ、不ニ亦宜一乎、

王者作レ詩文武天皇爲レ始也、猶不レ師ニ往古ニ、何救ニ元首望ニ之、玉音徐韶鳴ニ後代ニ、

文武天皇ハ第四十二代ノ天子ニテ、天武帝ノ御孫草壁皇子ノ御子也、祖母持統帝ノ禪ヲ受テ卽位シ給ヘリ、元年藤原宮子媛ヲ立テ爲レ妃、不比等ノ娘也、此天皇ノ睿藻ヲ以王者製作ノ始トスル事ハ、此詩則懷風藻ニアリ、五言三首其一也、其御製曰、年雖レ足レ戴レ冕、智不ニ敢垂レ裳、朕常夙夜念、何以拙心匡、猶不レ師ニ往古ニ、何救ニ元首望ニ、然毋ニ三絕務ニ、且欲レ臨ニ短章ニ、此學作實ニ兢兢業業ノ御氣象ヲ察シ奉ルニ足レリ、故ニ殊ニ抽ニ擧此詩ヲ耳、果シテ大寶元年ニ大學寮釋奠ノ興起アリ、千歲盛擧何事加レ之、爾後國學釋奠ノ禮モ亦並行、師ニ往古ニ之睿念、終被ニ遂行ニ、最可ニ景仰一者、

嵯峨太上皇、嘗得ニ白氏長慶集ヲ珍レ之、樂天所レ謂日本傳寫者、蓋此本也、

嵯峨天皇ハ桓武帝ノ御子、平城帝同母ノ御弟也、大同四年平城帝ノ御禪ヲ受テ卽位シ給ヘリ、奉レ稱ニ

太上皇ハ、御弟淳和帝ノ朝、嵯峨帝ヲ稱二太上皇一、平城帝ヲ稱二前太上皇一也、凡太上ノ號ハ御國禪ノ後尊上シ奉ル事也、長慶集ハ白氏文集也、此集本邦ニ來ハ則嵯峨ノ御宇也、帝深秘レ之玉フ事江談抄ニアリ、又金澤文庫ノ文集ノ奥書ニ、會昌四年五月爲二日本僧惠蕚一寫レ之トアリ、白氏長慶集後序曰、白氏著二長慶集五十卷一元微之爲レ序、後集二十卷自爲レ序、今又續後集五卷自爲レ記、前後七十五卷、詩筆大小凡三千八百四十首、集有二五本一、一本在二廬山東林寺藏一、一本在二蘇州南禪寺經藏内一、一本在二東都勝善寺鉢塔院律庫樓一、一本付二姪龜郎一、一本付二外孫談閣童一各藏二於家一傳二於後一、其日本暹羅諸國及兩京人家傳寫者不レ在二此記一、又有二元白唱和因繼集一共十七卷、劉白唱和集五卷、洛下遊賞宴集十卷、其文盡在二大集内一、錄出別行二於世一、若集内無而假レ名流傳者皆謬爲耳、會昌五年夏五月一日、樂天重記、

于二神泉一于二山院一、製作無二虚日一、或命二文人一賦レ詩、花宴節始二於此一矣、

拾芥抄曰、神泉院天子遊覽所、以二近衞次衞一爲二別當一、乾臨閣謂二之正殿一、金岡疊レ石、二條南大宮西八町三條北壬生東、善女龍王常見二此所一、上代有二公卿別當一者、長保年中道綱補レ之、雍州府志曰、神泉苑在二二條南大宮西一、古所レ謂乾臨閣之跡、而主上遊覽之地也、弘法大師於レ玆祈レ雨、是則世人之所二遍識一、今池水殘、西峰老人云、近年都下ノ一僧志願アリテ、他所ヨリ塔ヲ遷二于此一、又或人ノ祈願ニ依テ、立二辨才天小祠一、今其地如レ寺、大内ノ舊跡如レ此成行ハ雖レ無二本意一、民家田畠ト成ンヨリハ勝レリト、按ズルニ以二神泉苑一比二周靈沼一事尙矣、又請雨ノ沙汰於レ此數也、山院トハ、嵯峨ノ山院也、帝常ニ遊覽ノ地也、或河陽ノ江邊ニ遊給フ事アリト也、製作無二虚日一、或命二文人一賦レ詩トハ、歷朝ノ中當帝尤此擧繁シ、懷風藻以降詩集ノ中ニ、侍レ宴應レ詔ト題スル類大抵皆然リ、本朝一人一首ニ嵯峨天皇御製、春日遊獵、日暮宿二江頭亭子一ト、又淳和帝ノ聖作ニ九月九日侍二燕神泉苑一賦二秋露一ト、題シタルヨリ以下、此御宇此宴遊ノ會席ニ侍リテ、應レ詔奉レ和二聖韵一者許多、又同帝有二河陽十詠一、共以二三字一爲レ題、或觀二新燕一過二古關一ノ類也、河陽ハ山崎ノ事也、此等ノ製作侍和ノ類所レ載二于文華秀麗等一

也、又凌雲集ニモ多シ、此代詩集勅撰ノ事前ニ記ス、花宴節始ニ於此一矣トハ、當帝春櫻ノ佳節神泉苑ニシテ、佳辰令月美景ニ乘ジテ、詩人文人ニ命ジテ其志ヲ觀給シヨリ、對策試科ノ事ヲ花宴トハ云也、櫻花ヲ題シ給フ事ハ、平城天皇ノ聖作是始也、凡本邦賞レ櫻蜀ノ海棠唐ノ牡丹ヨリモ勝レリ、サレバ明ノ宋景濂ガ詩ニモ、愛レ櫻日本盛ニ於唐一、如レ被三牡丹兼ニ海棠一、恐是趙昌所レ難レ盡、春風纔起雪吹レ香、トイヘリ、宋濂集ニ見ヘタリ、江談曰、弘仁四年癸巳之歲、翫ニ櫻花一之序野相公書レ之、翫ニ櫻花一之題善相公進レ之云云、抑此宴會者嵯峨ノ弘仁三年ニ神泉苑ニ幸シ給テ花樹ヲ御覽ジ、文人ヲ召シテ詩ヲ賦セシメ給シヨリ起ル事ハ類聚國史ニアリ、正月廿一日毎ニ仁壽殿ニテ行ハレシト也、內內ノ節會ナレバ內宴トモ云也、一記云、延喜天曆ノ比迄ハ諸州ノ學校モ隆ニシテソレヨリ以降漸衰廢シ、嵯峨淳和ノ兩朝ヨリハ毎歲及第試策ノ政アリテ是ヲ花宴ト稱ス、光孝帝以來和詞ノミ盛ニ翫バレテ、詩賦ノ業亦衰フ、且詩賦ヲ以專採レ士事モ德科ヲ選ニハ降レリ、然ニ此花ノ宴モ後朱雀院ノ比迄盛ニシテ、其後衰ヘ侍リ

シヲ保元ノ比少納言入道信西申シ行ヒシニ、其後亦永絕テ再興ノ事ヲ不レ聞、又云、歷代ノ及第モ皆詩文ノ藝才ニ試ラレテ德行賢才ノ選ビニ不レ與、顯宗帝ノ朝ノ曲水ノ宴モ、公卿大夫ノ賢否ヲ試ラレタル故也トコソ聞侍リツレ、殊ニ男士ノミニ非ズ、女子ノ博士ヲダモ被レ置トナレバ、是彼ノ魏ノ明帝ノ代選ニ女子知レ書可レ付レ信者六人一、以爲ニ女尙書一ニ等キ者乎、凡進士ノ科三百品ナド唐ノ書ニモ見ヘタリ、古今著聞集ニモ內宴ハ弘仁年中ニ始リタリケルガ、長元ヨリ後絕テ不レ行、保元三年五月廿一日ニハ行ルベキ由沙汰アリケルホドニ、其日ハ雨フリテ廿二日ニ行ハレケリ、次第ノ事ドモ古キ蹤ヲ尋テ行レケルトゾ、又續世繼物語內宴卷ニモ、百年バカリ絕タル內宴改メ行ハレケルトアリ、同卷花宴再興少納言道憲入道ノ申行ハレシ時ノ題ハ、春生ニ聖化中一ト云句也トアリ、按ズルニ白氏文集ニ有ニ內宴字一、而唯內殿ノ宴ト云事ニシテ、文會ノ事ニ用ルハ我邦ノ專制也、本朝文粹所レ載、後江相公ノ書ル詩ノ序ニモ、本朝之前蹤早春之內宴、又菅家詩序、夫早春內宴者、不レ關ニ制筵之歲時一、非

レ踵ニ姬漢之遊樂ニ、自レ君作レ故及ニ我聖朝ニ云云、宴字訓ニ宇多介ニ、訓ニ佐加茂利ニ、

承和以來言レ詩者、皆以ニ樂天ニ爲ニ規摹ニ、

承和ハ五十四代仁明帝ノ年號也、本朝一人一首云、承和以來每春賜レ題試ニ群臣之作ニ、遂爲ニ恒例ニ、按ズルニ承和以來トハ、此例江吏部集、本朝麗藻等ニ出タリ、又前注ニ引ル金澤藏書文集ノ奥書、會昌四年ハ仁明帝承和十一年惠蕚在レ唐時ニ當ルトナレバ、此御宇ノ比ヨリ專白集白樣ヲ尊信スルノ意也、白氏文集ヲ古ハ只文集トノミ云リ、源氏ナドニモ然リ、惠蕚傳來ノ寫本ニ文集太原白居易トアリ、此本世ニ弘マル故也、其後唐ヨリ印本モ渡リテ、白氏長慶集ナド云リ、サレバ定家卿詠歌大概ニハ、白氏文集ト侍リ、爲ニ規摹ニハ尊信ノ意、又ハ末章ニ謂ル菅神ノ詩ニ、有ニ白氏風ニ、又勝ニ白樣ニ、又江家爲ニ江家ニ、樂天之恩也ナド云類是也、非ニ唯詩而已ニ、和詞亦規ニ摹白氏幽微之體ニ、規摹ノ字ハ文選何平叔ガ景福殿賦窮ニ巧於規摹ニ、又東京賦以遠期規ニ萬世ニ、而大摹云云、一人一首曰、惺窩藤先生品ニ藻古之人材ニ、至ニ樂天ニ曰、雖レ有ニ朱紫陽之所レ謂口津津地之譜小家數之白俗元輕之異議ニ、好ニ其爲レ人之醞藉ニ、愛ニ其集語意之平易眞率ニ、古今著聞集文學章曰、大方自レ漢至レ魏、文體三段トコソ文選ニハ侍ルナレ、白樂天ノ作ヲバ東坡先生ハ傾キケルトカヤ、サレバ和漢ノ風情時ニ隨テ改マルヤウニ侍レドモ、彼保胤ガ詞古今序ノ如キハ、サマ〴〵ナル體何レモ捨ツマジキニコソ侍レ、一隅ヲ守リテ善惡ヲ定メン事ロ惜カルベキ事也、猶諸道同ジ事ナルベキニヤト、按ズルニ此御宇平城・嵯峨・淳和以來、文苑詞場ノ優致ヲ不レ絶事、續日本後紀明矣、此天皇睿資俊邁、文學ヲ好ミ臨池ニ達シ、琴笛射藝醫術ヲサヘニ勝レ給ヘリ、四海波穩、國富民豐ナルニ因テ、大内裏ノ修造モアリキ、諸事前代ニ超テ華靡ナル事多カリシニヤ、三善淸行封事ニ此御宇ノ奢侈ヲ擧テ諫メシコトアリ、

菅贈大相國得ニ白氏之體ニ、

菅原ハ處ノ名也、後以爲ニ姓氏ニ、其先天穗日命十四代ノ孫、野見宿禰ヨリ出タリ、宿禰垂仁帝ノ朝率ニ土師ニ、取ニ埴土ニ作ニ人馬之形ニ、以代ニ殉死ニ、以レ是賜ニ土師姓ニ、一云、按ニ日本後紀ニ、桓武帝御宇土師姓派(ワカレテ)

為ニ秋篠大江二氏ハ菅神字道眞、按ズルニ光孝帝天應元年ニ、野見宿禰ノ後遠江介土師宿禰古人散位土師宿禰道長奏請、依ニ其所レ居地名ニ為ニ菅原姓ハ桓武帝延暦元年少内記正八位上土師宿禰安人改ニ土師ヲ賜ニ秋篠姓ヲ、四年冬十二月勅以ニ菅原宿禰古人侍讀之勞ヲ賜ニ古人男四人衣糧ヲ、令レ勤ニ學業ヲ、九年冬十二月勅ニ菅原眞仲土師菅麿ニ改ニ其姓ヲ為ニ大枝朝臣ト、枝一作レ江又古人子曰ニ清公ト、清公子曰ニ是善ト、是善子則右大臣道眞字三、在世ノ事博好才調等載テ諸書ニアリ、延喜三年二月廿五日薨ニ配所ニ、葬ニ筑紫安樂寺ニ、享年五十九、延長元年捨ニ左遷宣旨ヲ、復ニ本官ニ贈ニ正二位ヲ、天慶三年七月菅靈託ニ右京七條坊婢子者ニ、欲レ棲ニ右近馬場ニ、天暦元年移ニ立祠於北野ニ、正暦四年五月遣ニ勅使於宰府安樂寺ニ、詔贈ニ太政大臣正一位ヲ云、江談抄ニハ贈ニ太政官ニ、正暦五年トス、上件ノ趣キヲ以曰ニ菅贈大相國ト、相國ハ太政官ノ唐名也、得ニ白氏之體ヲトハ宇多帝寛平六年十二月、渤海聘使裴文籍來、即元慶七年ニ來シ裴頲也、菅家ノ詩ヲ見テ似ニ白樂天ニト稱美セシ事アリ、菅神甚動ニ喜色ヲ給ト也、或勝ニ白樣ハ、後世號ニ詩神ト、

勝ニ白樣ニハ延喜帝ノ勅賞也、菅氏家傳云、昌泰三年右大臣菅公奏ニ進其三代家集二十卷ヲ、所レ謂三代者清公、是善及菅公是也、帝則賜ニ御製律詩ヲ褒レ之、「門風自レ古是儒林、今日文章皆悉金、唯詠ニ一聯ヲ知ニ氣味ヲ、況連ニ三代ヲ飽ニ清吟ヲ、琢磨寒玉聲聲麗、裁制餘霞句句侵、更有ニ菅家勝ニ白樣ヲ、從レ茲抛却匣塵深」、號ニ詩神ヲハ本邦詞人推尊稱ニ詩神ト也、中華若木詩村菴ノ詩ニ、北野曾開菅姓人、風流後世號ニ詩神ト云云、

又江家之為ニ江家ヲ樂天恩也、

是大江匡衡ノ語出ニ江吏部集ニ、江家與ニ菅氏ト土師姓ノ支流也、菅江ト雙事既尚、大學寮ノ南北兩曹ヲ掌リ、世歴仕ノ儒臣也、殊ニ江家追ニ尊白氏ヲ甚シ、史館茗話云、江朝綱愛ニ白樂天文章ヲ、慕ニ其為レ人、一夕夢與ニ樂天ト遇接レ語、從レ此文章日進、又一人一首云、本朝先輩無レ不レ景ニ慕居易ヲ、故以ニ野篁ヲ准レ彼、以ニ菅相ヲ為レ勝レ彼、且菅相長谷雄有ニ元白復生之語ニ、先レ是朝綱既夢ニ居易ニ、至ニ積善ト併ニ元白ヲ夢レ之、蓋其景慕之深、到レ如レ此者乎、可レ謂ニ思夢ト也、

一條院朝以ニ延喜天暦故事ニ、大江朝臣匡衡侍ニ讀文集ヲ、

奉レ命點ニ朱墨一、

一條院ハ六十六代ノ天子ニテ、圓融院第一ノ御子諱懷仁、母梅壺女御藤原詮子、右大臣兼家娘也、花山院卽位時懷仁爲ニ東宮一、花山院遁世ノ時、兼家急參內シ東宮ヲ卽レ位奉ラル、時ニ歲七歲、兼家攝政也、延喜天曆故事ハ匡衡祖維時曰ニ江納言一、以下爲ニ延喜東宮學士一且爲ニ村上帝師一例上、匡衡亦今爲ニ一條院皇子之師一也、侍讀ハ爲レ師ニ於至尊及皇子一之稱也、奉レ命點ニ朱墨一トハ、江吏部集ニアリ、加ニ訓點一事也、時ニ作ニ絕句一曰、「呂望授來文武學、桓榮獨遇漢明時、幸傳ニ延喜明時例一、天子儲皇皇子師、」此詩自負ノ情甚シ、此事出ニ一人一首一、江朝綱曰ニ江相公一、匡衡ヲ曰ニ後江相公一、就ニ維時一學被ニ菅文時試一對策シ、壯年ニ出テ爲ニ尾張守一、不レ幾召爲ニ侍讀一、奉レ授ニ尙書・毛詩・史記・文選・白氏文集等一、歷ニ仕累朝一任ニ式部太輔一兼ニ文章博士一、以ニ韋玄成一自比スト也、文集加ニ訓點一比下紀齊名崇ニ同帝之命一辭上加ニ和訓於元稹集一、其情大淵也、齊名曰、凡庸之才不レ可ニ妄加ニ倭訓一ト、以レ是思ヘバ匡衡誇情可レ見、保元以後內宴不レ行、詩合漸萎苶、

保元ハ七十七代後白川帝ノ年號也、此御宇少納言入道信西再ヒ興內宴一、其後又絕トナレバソレヨリ以降ノ事ニヤ、林氏曰、自ニ保元平治一以下王道陵夷、文才乏レ人、雖レ有ニ侍讀之職博士之官一、無ニ詩文編輯一則何以徵レ之、詩合トハ中世專此事アリ、一人一首云、藤敎家嘗選ニ資實長兼所レ作百聯一、號ニ兩卿百番詩合一、又元久詩合アリ、林氏曰、後鳥羽上皇及東宮院（順德）作レ之、不レ顯ニ其名一乎、當今（土御門）御製在ニ倭歌中一、凡詩歌合者作レ詩者作ニ一聯一、作レ歌者作ニ一首一合レ之是例也、又詩一聯歌一首相對者曰ニ相撲立詩歌合一ト、云云、此會作者多ク見ヘタリ、又定家卿明月記ノ中ニモ詩歌ヲ合セタリ、元久建保兩度ノ詩歌合アリ、然ドモ承久ノ亂後文字日ニ廢ルト也、其後ハ九十七代光明院康永元年五十四番詩歌合アリ、此御宇ハ帝都騷亂也、偶有ニ此會一一奇事也、按ズルニ四條大納言公任朗詠集、藤基俊新撰朗詠集モ詩詞合ノ格也、朗詠者謠レ之、如ニ今樣催馬樂一、其聲朗然タルヲ云ト也、萎苶ノ二字ハ唐李漢昌黎文集序ニ、至ニ後漢曹魏一氣象萎苶トアリ、按ニ韻書一萎ハ邕危切草木枯也、苶ハ諾協切疲ル點トアリ、

及ニ足利諸源之劫略一禪僧多能レ詩者一、
足利ハ尊氏ヲ云、諸源ト云ハ猶レ言ニ源氏末流一、猶ミ
漢書稱ニ諸劉一、日本地理志略云、源尊氏淸和帝之後、
與ニ賴朝一同レ祖、以ニ足利一爲ニ氏號一、而世爲ニ鎌倉甲
族一、北條氏滅後尊氏有レ寵ニ於後醍醐帝一、領ニ關東八
州兵一威强大、遂叛ニ于朝廷一、與ニ源義貞楠正成等一相
戰、數年王師遂潰、尊氏自稱ニ征夷大將軍一、漸復ニ賴
朝舊業一、居ニ山城之京都一、統ニ制諸國一、治世二十五年、
其居處稱ニ室町殿一云ニ花御所一、又謂ニ京將軍十三世一、
尊氏・義詮・義滿・義持・義量・義敎・義勝・義政・義尙・義
植・義高・義晴・義輝是也、凡二百三十一年歟、歷世中
義滿義政爲レ尤、義滿後稱ニ鹿苑院道義一、云ニ北山殿一、
劫ニ略公儀一、官至ニ太政大臣一、行粧准ニ御幸一、稱ニ公方一、
北山別業ニ興ニ金閣一、漢和ノ珍器ヲ集ム、又向レ明稱
レ臣、其多欲奢侈僭竊倔强如レ是、義政モ後閑ニ居東
山東求堂一、古器古畫ヲ弄シ、稱ニ東山殿一、作ニ銀閣一
准ニ北山金閣一、後稱ニ慈照院道成一、其歷世戰國トナリ
テ神社ノ舊記朝家ノ舊章記錄家乘烏有ト成ル事不
レ可ニ勝記一、劫略トハ尊氏初爲ニ勤王一終竊ニ權勢一、爾
後子孫跋扈强梁威焰可レ炙、從レ是王室日ニ微微タ
リ、實ニ千歲ノ悲歎也、劫略二字共ニ訓ニ加須武留一、
或作ニ劫掠一訓ニ加須女武波布一、或作ニ掠略一訓ニ加須
女天一、皆出ニ日本紀等一、禪僧多ニ能レ詩者一トハ、林氏
曰、義滿遣ニ大明書一、使ニ菅原秀長作レ之、則猶非下金
銀誤ニ金根一指ニ蝦蟆一爲中良馬上之類上、秀長之後武將
以ニ詩文一屬ニ禪徒一、從レ茲以降擧レ世皆謂ニ文筆唯在ニ
叢林一、而無下問ニ官家一者上、登時（ソノカミ）信義堂・津絕海有ニ拔
群之才一、嚴惟肖・派江西・秀岐陽・彥村菴・連竺雲之徒
相繼五岳之秀也、官家既衰、叢林亦微、二百年來、闔
國無ニ文章一悲哉、幸有ニ惺窩藤先生余先考一、而斯道
再興、然今無下繼ニ二先生一者上、無ニ如レ之何一、按ズル
ニ世ニ稱スル禪徒蘭坡・横川・桃源・周麟・周全アリ、
林氏五山文編序、虎關濟北集・雪村岷峨集・絕海蕉堅
藁・義堂空華集・夢岩旱霖集・中岩中王子・永源寂室
錄・雲溪臏隱集・岐陽不二稿・惟肖東海瓊華・東沼流
水集・慧鳳竹居淸事・南江鷗巢集・祖溪水拙集・横川
京華集・宜竹翰林葫蘆集・彥龍陶藁・萬里梅花無盡藏・
月舟幻雲藁・常菴角虎集、云云、蔬筍淡味ト云へ
ドモ馳ニ名於緇林一、其著述雖ニ小部一、亦能後世乳口
浅膚ノ非レ所レ跂ト云リ、又羅山雜著云、禪林文則

惟肖、詩則心田、四六則太白、講釋則江西、又云、
慧鳳（翺之）周鳳（瑞溪）二僧同時而、世謂二瑞溪一爲二犬鳳一、以
レ對二翺之一故也、然以レ今見レ之、瑞溪者不レ可レ及也、
其博覽冠二諸輩一、竹居清事未レ見レ之、故未レ詳二慧鳳
文采如何一、又云、南禪寺信義堂・相國寺津絶海・草創
之禪諶乎、少林岩惟肖、建仁派江西・討論之世叔乎、
巖東沼・澤天隱・三横川・脩飾之子羽乎、村菴・雪嶺・
月舟・常菴・潤色之子產乎、於レ是乎禪林之文章集大
成者也、禪者之文章內莫レ難二於疏一、所レ謂四六八六
錦上添レ華者是也、善レ疏者莫レ過二於此諸作一、設使、
訴蒲室再生二不レ能レ絶也、又云、東山僧浚祖溪法二乎
韓文一、崇常菴則二于柳文一、

論レ詩如レ論レ禪、且彼君臣歸二依於禪一、每レ逢二佳辰美
景一、必命二禪徒一賦レ詩、是以禪僧嗜二文字一奔走、

論レ詩如レ論レ禪ハ、騷人詞士ノ常談ニシテ、悟入ヲ
主トスルコトヲイヘリ、コヽニ引ルハ禪僧文字ニ
奔走スル事ヲ云ン爲ニテ、平生嗜ミ弄ブコトニ借
テ云リ、詩人玉屑云、禪家者流、乘有二小大一、宗有二南
北一、道有二邪正一、具二正法眼一者、是謂二第一義一、若二聲
聞辟支果一皆非レ正也、論レ詩如レ論レ禪、漢魏晉等作
與二盛唐之詩一則第一義也、大曆以還之詩則落二第二
義一矣、晚唐之詩則聲聞辟支果也、學二漢魏晉與二盛
唐詩一臨濟下也、學二大曆以還一者曹洞下也、大抵禪
道惟在二妙悟一、詩道亦在二妙悟一、吾評レ之非レ僭也、辨
レ之非レ妄也、天下有二可レ廢之人一無二可レ廢之言一、詩
道如レ是也、若以爲レ不レ然則是見レ詩之不レ廣、參レ詩
之不レ熟耳、又曰、趙章泉學詩闋二復齋閑紀所レ載吳
思道與聖任學詩三首一、因次二其韵一學レ詩似レ學二參
禪一、又曰、滄浪云、論レ詩如レ論レ禪、彼君臣ハ足利ノ
君臣也、佳辰美景ハ謝靈運擬二魏太子鄴中集一八百
五言序、天下良辰・美景・賞心・樂事、四者難レ幷ト云
ニ本ヅク、禪僧嗜二文字一奔走ノ字ハ出二南浦文集一、

夫詩者志之所レ之也、在レ心爲レ志、發レ言爲レ詩、然志之
所レ之有二邪正一、發レ言有二工拙一、

此段ハ詩經大序幷集傳ノ序文等ヲ摘テ書リ、詩大
序曰、詩者志之所レ之也、在レ心爲レ志、發レ言爲レ詩、
又曰、情動二於中一、而形二於言一、言レ之不レ足故嗟二歎
之一、嗟二歎之一不レ足、故永二歌之一、永二歌之一不レ足、故
不レ知二手之舞足之蹈一レ之也、集傳序曰、詩者人心之
感レ物、而形二於言一之餘也、心之所レ感有二邪正一、故言

之所レ形有二是非一、亦嘗三品文時、仲春釋奠毛詩講後賦二詩者志之所一レ之、其略云、夫詩之爲レ言志也、發二於心一、桼二於物一、詩二其所一レ本偏是爲レ志、名二其所一レ之乃是曰レ詩、

本二於識一充二於學一、主二於悟一則當二自得一焉、

此段ハ續文章正宗ノ語也、本二於識一トハ吾ガ心上ノ知トナリテアルノタケヲ云、淵明之南山、謝靈運之芳草、當意卽妙、水中月、水裏鹽、色裏膠、皆詩評ニ見ユ、充二於學一トハ情ヲ飾ヘ、事實ヲ質シ、言語ニ發スル者ハ、非レ學バ不レ可レ得也、主二於悟一トハ情境一致彼此ノ分別ナク自然ノ風致ヲ得ルコトヲ云、和歌者流ノ境ニ入ルトイヘルヤカ、ルコトナルベキ、

本朝學原浪華鈔四終

本朝學原浪華鈔五

古者咎論五經之類、用二漢唐注疏一、正如二令條一也、

是ヨリ第四章也、按ズルニ古者ハ似レ謂二後醍醐帝以往一、何者御宇ノ前後ヨリ、濂洛關閩諸賢ノ註解本邦ニワタリテ、人其書ヲ見ル事ヲ得レバ也、論語來レ我尤尙矣、應神帝ノ朝百濟ノ阿直岐齎二來論語千字文等一由、舊事紀ニ見ユ、尙書ノ事ハ秦ノ徐福來朝ノ時ニアリ、五經ノ事モ應神帝ノ時來也、五經博士依レ番相代段揚爾其魁也、如二令條一トハ學令曰、凡敎二授正業一周易鄭玄王弼注、尙書孔安國鄭玄注、三禮毛詩鄭玄注、左傳服虔杜預注、孝經孔安國鄭玄注、論語鄭玄何晏注、云々、按ズルニ此段所レ謂注疏ハ、何晏集解、皇侃邢昺義疏、孔穎達正義ヲ兼テ見ベキ歟、又異國ノ書ニ倭國忌二孟子一ト云事ノ侍ルモ、意ニ僧奝然我令書ヲ渡セシヨリノ遠聞ナルベシ、學令ニ孟子事不レ見、延喜大學寮式ニモ亦無レ之、今叵レ知二其謂一、武備志曰、日本古書事五經則重二書禮一、而忽二易詩春秋一、四書則重二論語學庸一而

惡ニ孟子一、重ニ佛經一無ニ道經一、若ニ古醫書一毎レ見必買、重レ醫故也、注疏ハ注解也、疏亦注也、說文疏記也、徐曰、疏謂ニ一一分別記レ之、字彙疏條陳也、又記註也、一云何晏王弼之徒、耽ニ好莊老一、故聖經注疏多見ニ其所レ好、本邦先儒皆從レ之、後來尊ニ信宋儒之說ニ云、

吉野先主之時、獨淸軒健叟、始唱ニ程朱之義一、

吉野先主ハ後醍醐帝也、入ニ吉野一以還後村上帝後龜山帝王業ヲ繼玉フ故、後醍醐帝ヲ云ニ先主一也、獨淸軒ハ一人一首云、玄惠者儒家而歸ニ台宗一、而後還俗、然無レ髮而終レ身、以ニ博識一聞ニ于世一、叙ニ法印位一、其所レ作太平記庭訓往來等、今猶存、便ニ于兒童一、玄惠自號ニ洗心子一、又號ニ健叟一、軒號曰ニ獨淸一、或曰、玄惠初讀ニ溫公通鑑ニ云、健叟程朱ノ新註ヲ讀デ可レ爲ニ肝心一ト云シ事ハ、藤兼良公ノ尺素往來ニアリ、サレドモ終ニ佛徒タルコトヲ免レズ、長濟草曰、垂水廣信嘗任レ京、與ニ藤房一論レ學、一日語ニ藤房一曰、宋大儒朱晦菴之書、前レ此六年始入ニ本朝一、世儒未レ有レ知焉、我幸深尊ニ信之一、請今借レ之、宜レ覃ニ思於斯書一、藤房諾、然藤房之學雅混ニ儒佛一、以レ故卒與ニ廣信一不レ合、一記云、垂水廣信守河内ハ勢州垂水人也、後醍醐院ニ事ヘテ省中恩意アリト也、大宮大納言惟通卿ニ依テ諫疏ヲ上ル事有シガ、言報ザリシカバ致仕シテ古里ニ歸リ、嘉文亂記ト云書六十卷ヲ著シ、竟ニ延文元年三月ニ下世ス、歲九十六、朱子ノ書始テ渡シ時廣信尊信セシ事ハ在ニ長濟草一云云、是ゾ今日朱子ノ書ヲ讀テ實ニ尊信セシ始ナルベシ、朝鮮慕齋詩集ニ大內義隆朝鮮ニ簡シテ、朱註經書ヲ請求ム、返牒ニ稱ニ美其志一シテ、五經等程朱ノ註ヲ渡スト云リ、朝鮮ニハ易ハ程子傳、春秋ハ胡氏傳、書ハ蔡氏傳、詩ハ朱子集傳、禮記ハ鄭氏註ヲ用ユ、此年ハ易朱子ノ本義ヲ用ユ、禮記ハ初不レ知レ有ニ陳澔集說一ト是西峰翁ノ說也、

康永太上皇御ニ萩原殿一、召ニ資明隆職行親一、有ニ中庸談義一、

萩原殿中庸談義ノ事、洞院公賢ノ園太曆ニ出タリ、康永ハ九十七代光明代ノ年號也、光明帝ハ後伏見帝第四ノ御子也、此御宇ニ花園帝ヲ本院ト申ス、光嚴帝ヲ新院ト申ス、康永太上皇ハ花園帝ノ御事也、花園帝ハ九十四代ノ天子ニテ伏見帝第二ノ御子、

母ハ顯親門院藤原原子左大臣實雄ノ娘也、金澤越後守實時鎌倉ノ金澤ニ文庫ヲ興立セシモ此御代也、萩原殿ハ院ノ御所ノ名也、萩原ト云所ニアリ、今梅津ノ長福寺ハ其跡也、長福寺所レ置之宸影者法印豪信奉レ命寫レ之者也トゾ、資明ハ日野家柳原祖正二位權大納言、文和二年下世、林氏曰、隆職者鷲尾隆良子也、是四條家貞和三年薨、按ズルニ隆職ノ系譜鷲尾ノ祖ハ、隆良次隆嗣次隆職ト或書ニハ見ヘタリ、行親ハ内府具親ノ子姪歟、談義トハ今ノ講釋ノ事也、古ハ講釋ヲ談義ト云也、又按ズルニ園太暦拾芥抄ナドノ撰者、洞院公賢モ亦光明帝ノ御宇ノ近臣ニシテ、太政大臣ニ任ジ給ヘリ、此御宇南北ノ風塵紛紛タリ、然ルニ上皇經書ノ議論ニ叡慮ヲ被レ寄コト尤可二尊仰一、

彼儒前於二宮中一以レ佛混レ儒而說レ之、上皇不レ是レ之召加二禁戒一、頗庶三乎得二程朱之意一矣、

彼儒ハ資明隆職行親等也、前於二禁中一トハ非二上皇御在位之時一、光明帝ノ御宇ノ事也、此故ニ萩原殿ニテ中庸ノ談義ヲナサレ其上ニテ前日於二禁中一彼三人ノ儒臣佛法ヲ混レ儒ジテ講說セシ事ヲ呵シ給ト也、按ズルニ凡本邦上世ノ諸士陽儒陰佛ノミニシテ、碩學鴻才ト云ヘドモ、皆此風不レ離、意フニ未レ見二濂洛關閩之成說定論一、又ハ爵祿在レ身或ハ有レ所レ養、故和二時俗一陷二隱儒佛兼崇之間一者尤可レ哀コトナリ、大抵皆白居易晩年ノ風ヲ慕フニ似タリ、彼宋ノ尹彥明母ノ所レ好ヲ追戀シテ忌日每ニ金剛經ヲ誦シ、本邦ノ紀夏井爲三亡親一ニ般若ヲ誦セシ例ハ同行異情非二同日譚一也、ソレサヘ究竟ノ論ニハ議スル所也、況身爲二儒官一而雜レ佛以爲レ說乎、獨惟宗孝言有二眞儒之風一、其暮春遊二粟田別業一、有二三韵詩一、「勝地佳名何所レ感、粟田別業在二城東一、花零履蹈三春雪、松老耳傳尙齒風、法水前清波響冷、如何蓮府爲二梵宮一」ト云リ、無題詩集ニ見ヘタリ、粟田別業ハ藤原在衡ノ舊跡也、在衡晩年ニ於二此別業一修二尙齒會一故云レ爾、後爲レ寺、昔蘇我氏捨レ宅爲二向原寺一ヨリ、上皇ノ宮執柄ノ亭皆以二寺院一爲二稱號一、林氏曰、本朝儒家大抵兼二學釋氏一、雖二菅江儒宗一不レ免レ有二此惑一也、獨孝言有二此歎一、可レ謂三其識量卓二越于諸子一、其感レ古諷レ今者乎、程朱ハ河南兩程子新安朱子也、此兩賢以來聖學復世ニ明ニシテ、天地ノ

道異端ト混ゼザルコトヲ得タリ、漢儒ノ訓詁詞章ノ學ニ霄壤ス、康永ノ比此風未レ普二于本邦一、然ルニ此上皇ノ禁誡其聰明卓越、實ニ萬歲ノ賜也、

近至二于惺窩藤先生講學敎授一、興二斯學於既絕一、濂洛關閩之學至レ此始盛、後之學者孰不レ受二其賜一、

惺窩先生ハ妙壽院也、其傳行狀在二羅山集一、本朝儒宗傳曰、藤斂夫名肅號二惺窩一、父曰二藤原爲純一、定家卿十二世之裔、稱二冷泉家一、世食二邑於播州細川一、永祿四年辛酉斂夫生二於此一、左眉傍有二黑黶三寸餘一、眼有二重瞳子一、始學二佛於禪院一、僧徒呼二神童一、後加二冠巾一歸二播州一、見二赤松氏一、天正十八年朝鮮使黃吉等來貢、斂夫交二筆語一、又赴二肥州一見二豐臣金吾一、金吾嘗爲二驕泰戲一、斂夫諫レ之、豐臣秀吉公征二朝鮮一在二肥州一、源君來會斂見焉、文祿二年再見二源君一、乃命講二貞觀政要一、斂赴二筑陽一欲レ適二明國一、船漂著二鬼海島一、朝鮮員外郎姜沆來寓二赤松氏一、斂晤語有レ日、沆歎曰、朝鮮三百年來未レ聞レ如二斯人一、吾不幸雖レ在二他邦一、遇二斯人一不二大幸一乎、本朝只傳二漢唐注疏一、尠下知二程朱之說解一者上、斂與二沆等數輩一勸二赤松氏一、梓二行程朱訓解之四書五經一、天下自レ是貴二宋儒之學一、羅山文集惺窩ノ行狀ニ、相國寺普廣院泉和尙者先生叔父也、又云、先生祝髮薙首座云號二妙壽院一、惺窩號、朝鮮刑部員外郎姜沆、稱二先生所レ居、爲二廣胖窩一、先生自曰二惺窩一、取二諸上蔡所レ謂惺惺法一也、此外稱二北肉山人一、取二艮山之義一、艮二其背一意背背謂者也、斂夫塔在二相國寺林光院一、濂洛關閩ハ周程張朱ノ所レ居也、濂ハ濂溪也、洛ハ洛陽、關ハ關中、閩ハ朱子ノ鄕黨也、閩書有二朱子傳一、四賢ノ行狀伊洛淵源錄、宋史道學傳等ニ詳ナリ、

同時僧文之在二薩摩國一、講二習四書易傳之類一、弘二學於一方一其功亦可レ稱也、

文之ハ薩州龍嶋臨濟下ノ僧也、四書稱二文之點一者則其訓讀也、南浦文集三卷其集也、今モ彼國其門流多シト也、一云文之ガ弟子如竹ト云、僧易ノ傳義ヲ板ニ鏤、時時難波ニ來リ、四書ノ集註易ノ傳義ヲ講ズル事數也、聽衆濟濟景慕甚シト云、南浦文集ノ跋ニ云、南浦戲言前建長文之老師薩州之所レ作也、諱玄昌南禪大明祖九世之遠孫而桂庵翁四世之的孫也、老師生二于日州南鄕外浦一、故自名二南浦一、又東福龍吟庵之門葉也、故其軒號二雲興一、蓋取二于龍吟雲興

之義ニ也、或曰ニ懶雲ト、或曰ニ狂雲ト、皆其義也、一方ハ
文選蘇武詩離別各在ニ天ノ一方ニトアリ、

本朝學原浪華鈔五終

本朝學原浪華鈔六

治レ國之道賢能爲レ源、得レ賢之方學校爲レ本、

是ヨリ第五章也、此條及第二條三條ノ初本朝文粹善相公請レ加ニ給大學生徒食料ニ封事ノ文ヲ取レリ、其略曰、治レ國之道賢能爲レ源、得レ賢之方學校爲レ本、是以古者明王必設ニ庠序ニ以敎ニ德義ヲ習ニ經藝ニ而叙ニ彝倫ヲ周禮卿大夫獻ニ賢能之書于王ニ王拜而受レ之、所ニ以貴レ道而貴ヒ士也、伏見ニ古記ニ朝家之立ニ大學ニ也、始ニ於大寶年中ニ所ニ以尊レ道而勸レ士、皇朝之立ニ學校ニ始ニ於淡海帝ニ矣、云云、本邦庠序ノ設ハ雖レ肇ニ于淡海帝ニ其典制ハ夏殷周三代ノ遺風ヲ慕フ、治レ國ノ要得レ賢ノ方、其基ハ不レ學則不レ能レ成ニ其器ヲ是以上自ニ王畿ニ下至ニ諸州ニ皆置ニ大學國學ヲ校ニ有ニ大學小學ニ雖レ然不レ聞ニ本邦別置ニ小學ヲ其學生在ニ大學ニ者云ニ得業生ト在ニ國學ニ者云ニ學生ト其學業依レ器因レ才登用遷代スルヲ云ニ秀士ト云ニ選士ト云ニ俊士ト云ニ造士ト又有ニ貢士進士之稱ヘ王制曰、命レ鄕論ニ秀士ヲ升ニ之司徒ニ曰ニ選士ト司徒論ニ選士之秀

者一而升二之學一曰二俊士一、升二於司徒一者不レ征二於鄉一、升二於學一者不レ征二於司徒一曰二造士一、樂正崇二四術一立二四教一、順二先王詩書禮樂一以造レ士、春秋教以二禮樂一、冬夏教以二詩書一、王太子群后之太子、卿大夫元士之適子、國之俊選皆造焉、射義曰、古者天子之制諸侯歲獻二貢士於天子一、天子試二之射宮一、事文類聚仕進部云、唐貢士之科有二秀才一、有二明經一、有二進士一、有二明法一、有レ書有レ筭、每歲仲冬郡縣館監課二試其成者一、又云、其不レ在二館學一而得者謂二之鄉士一、又云、進士科始二於隋大中一、盛二貞觀永徽之際一、縉紳雖二位極一人臣一、不レ世二進士一者不二以爲一レ美、其推重謂二之白衣卿相一、以二白衣之士卽卿相之資一也、重レ之如レ此、按ズルニ本邦大學ヲ興シ釋奠ヲ剏給フ事ハ、文武帝ノ大寶中也、此事ハ善相公ノ意見ニモ見ユ、サレドモ大寶ノ以前持統帝ノ御宇大學寮ノ名既ニ日本紀ニハ見ヘタリ、拾芥抄ニ大學寮一町、二條南壬生西三條坊門北坊城東トアリ、或云、縱壬生横二條西南角也、又一記ニ二條南朱雀東神泉苑西ト云リ、此寮ノ東西ハ曹局ト稱シテ、菅江ノ書生ノ所レ居也、南北ハ講堂ニテ講レ書處也、此寮ハ則式部省ノ屬ニテ、文士登用ノ事モ式部省ノ所レ知也、東西二曹ノ事菅原道眞公以來、菅家ノ秀才掌二西局一、安二道眞公像一、東局ハ大江ノ維時以來江家ノ秀才掌レ之置二維時像一也、本朝文粹三善清行封事、伏見二古記一、朝家立二大學一也、始二大寶年中一、至二天平之代一右大臣吉備公奉レ勅恢道藝ヲ弘、親自傳二授學生四百人一、五經三史明法筭術音韻籀篆等六道ヲ講ジ、此外諸葛亮ノ八陳ヲ始メ、軍術迄ヲ弘ムト也、平城ノ大同元年ニハ、詔シテ諸王及五位十歲已上皆入二大學一給ヘリ、東宮ノ學校ハ別ニアリ、或記云、大學寮ノ衰廢ハ鳥羽白河院ノ御宇ヨリ見ヘテ、足利將軍ノ時ハ一向廢シテ五岳ノ諸僧ニ委スト也、諸國ノ學校モ多ハ退轉シ、或ハ佛寺ト成レリ、藤原氏ノ學問所勸學院モ後ニハ寺ト成テ不レ改レ名、今ニ號二勸學院一、通ジテ大學國學ノ事ヲ考ルニ、學令義解云、大學生式部補レ之、國學生國司補、並取二年十三已上十六以下聰令者一爲レ之、大學寮ニハ菅江兩家ノ國子博士アリ助敎アリテ、講レ書教二諸生一、天子御讀書始ニハ御註孝經ヲ被レ用、是ハ唐ノ明皇所レ注也、又諸州學生大國五十人、上國四十人、中國三十人、下國二十人ノ由、職員

令ニアリ、此外學令ニ諸生ヲ敎ルニ、白文素讀ノ熟トスルヲ待テ講レ書次第、又熟讀暗練ヲ試ルニハ、試ニ一帖三言一稱シテ千言毎ニ帖ニ覆一處之三字一令ニ其闇讀一ノ法アリ、從レ其一歳ニ限リテ大義ニ通曉スル事、一條二條三條ナドノ試アリ、延喜式ニハ儒書醫書等講筵ノ日限定リ、依ニ卷帙一其限異也、其講中ニハ賜レ酒給レ食、竟宴ニハ賜レ祿、又講師ノ博士其席ニハ黄端茵、折薦茵ナドアリ、皇子ノ伴讀者アリ、陪從シテ奉レ勵ニコソ、諺ニ云入ニ大學一者菱角入去鷄頭出來ト言ハ圭角尖心變化スル事ヲ云ヘリ、程子曰、古之士自ニ十五一入レ學、至ニ四十一方仕、中間自有ニ二十五年學一、然レバ鷄頭變化ノ效モ自治國ノ要務トナルコト、學ニアルコト可レ知、神皇正統記曰、詩書禮樂ヲ以テ爲ニ治レ國四術一、本朝ハ四術ノ學ヲ被レ立專不レ備、紀傳明經明法ノ三道ニ詩書禮ヲ攝スベキニコソ、筭道ヲ加ヘテ爲ニ四道一、又按ズルニ凡ソ諸州ニ博士ヲ置テ、學校ニシテ書生ヲ講習シ、俊邁成業ノ者アレバ、貢レ之令レ仕例也、文武紀ニ遣ニ明法博士於六道一除西海道講ニ新令一事アリ、律令格式ハ政道ノ大本ナレバ、博士ヲ遣シ天下ニ施行シ令レ講レ之、庶民ニ其法令ヲ知セ給リ、從レ是後ハ其國司ト與ニ博士諸州ニ下向シ、年秩交替セリ、任限ノ間其國ノ書生ニ講習シ、庶民ニ說與シ侍ラン爲ト也、大抵下向ノ博士一人學生五人ト見ユ、皆六經等ヲ敎授シテ成業ノ者アレバ考ニ選之一、其國中ニ於テ翹楚アレバ國師ニモ任ゼシ事アリ、六十餘州多褹島ニ至テモ學校アリ、續日本紀ニ國博士其處ニ無ニ其人一、則大學寮ノ書生ノ中ヲ撰テ可レ下由見ヘタリ、廢帝紀ニハ學生六百七十餘人ニ布絹ヲ賜事アリ、其盛事可レ知、國學博士ノ年限ハ四年五年ノ交替國ノ遠近ニ依テ也、權ノ博士モアリ、光仁紀曰、太宰府言、日向大隅薩摩及壹岐多褹等博士醫師一任之後終レ身不レ替、所ニ以後生之學業不一レ進、乞同ニ朝法一八年遷替以示ニ千祿一、永勸ニ後學一許レ之、延喜式部省式ニ日向大隅薩摩壹岐對馬及多褹島等博士醫師事詳也、文武紀曰、下レ制曰、依レ令國博士於ニ部內及傍國一取用、然温レ故知レ新希レ有ニ其人一、若傍國無レ人ニ採用一則申レ省、然後遷擬更請ニ處分一、又有ニ才堪ニ郡司一、若當郡有ニ三等已上親者一聽レ任ニ比郡一、此說ヲ見レバ學生ノ中ヨリ郡司ニ任ズル事アリ、元

正紀曰、勅按察使所レ治之國、補ニ博士醫師一、自餘國博士並停レ之、由レ是テ按ズレバ此御宇ノ比ヨリ、大學寮ノ博士下向任限ノ政停テ國學生ノ貢士ヲ以國師ニ被レ用ニヤ、又永停リシニヤ、總テ本邦儒宗ノ國師號ハ始ニ於菅原爲長ニ也、後深草帝ノ勅許ト也、續日本後紀曰、太宰府言、謹按去神龜五年八月九日格云、博士總ニ三四國ニ一人、醫師毎レ國一人、又寶龜十年六月七日格云、去閏五月廿七日奏偁、博士醫師兼レ國者、學生勞ニ於齎レ粮、病人困ニ於救レ療、望請每レ國各一人幷以ニ六考一遷替立爲ニ恒式一、此奏言ノ趣ヲ見レバ每州ノ博士ハ停リテ、或ハ一人數國ヲ兼教ヘシ事稍國學ノ廢ル始ニヤ、孝謙紀曰、勅曰如聞頃年諸國博士醫師多非ニ其才一、託請得レ選非ニ唯損一レ政、亦無レ益レ民、自レ今以後不レ得ニ更然一其須レ講、經生者三經、傳生者三史、醫生者大素甲乙脉經本草、針生者素問針經・明堂脉決、天文生者天官書・漢晉天文志・三色薄讚・韓楊要集、陰陽生者周易新撰陰陽書・黃帝金匱・五行大義、曆算生者漢晉律曆議・九章・六章・周髀・定天論並應ニ任用一ト、國學生ノ事業昔ノ盛隆可レ思、又稱德紀曰、太宰府言、此府人物殷繁天

下之一都會也、子弁之徒、學者稍衆而府庫但蓄ニ五經一、未レ有ニ三史正本一、涉獵之人其道不レ廣、伏乞列代諸史各給ニ一本一、傳ニ習管內一以興ニ學業一、詔賜ニ史記漢書後漢書三國志晉書各一部一ト、想フニ國學ハ皆國府ニ在テ國司其事ヲ監セシニヤ、諸州學校ノ衰廢ハ仁明紀ニ其端見ヘテヨリ、何トナク或ハ博士一人ヲ以數國ヲ兼シヨリ、諸生負レ笈擔レ糧勞ヲ哀ミテ、又每州ニ博士ヲ被レ置事モアレド、遂ニハ遺址モ不レ知ニ至レリ、延喜天曆ノ比迄ハ國學存セシ由或記ニハ侍レド、ソレヨリサマデ再興ノ事モ不レ聞、加旃或ハ勸學院・奬學院・學館院・文章院・弘文院ノ盛事皆陵夷シ、又ハ石上宅嗣ノ芸亭、石川氏ノ書舍、菅家ノ書齋、藤賴長ノ文庫、金澤ノ文庫、足利ノ學校、其餘ノ書舍・書倉・書府・書庫・書室・書房・書巢・芸亭・芸閣・綜藝種智院ナドノ類、其草創ノ旨趣其世ノ盛事國記ニ散在ス、然レドモ衰運ニツレテ其遺址僅ニ金澤ノ文庫足利ノ學校ノミ聞ユ、太宰府ノ學校ハ稱ニ學業院一右件諸庫ノ藏書和漢ヲ兼集シテ、歲月ト共ニ爲レ堆一庫ト云フトモ、田偉ガ博古堂ノ藏書七萬五千卷ヲノミ謂乎、故家ノ壁藏、好事

ノ帳中東觀ノ秘、昭陵ノ殉、或傳記ノ裒集、或ハ鈔錄ノ殘謄、今更想像(オモヒヤリ)侍ル、經ニ兵燹ヲ庫絕書亡ノ晤夜ト成レリ、今也有レ漸何不レ思ニ舊復ヲ乎、

是以古者明王必設ニ庠序ヲ以敎ニ德義ヲ習ニ經藝ヲ而叙ニ彝倫ヲ所ニ以尊レ道而勸ヲ士也、

古明王ハ天智帝以降好レ學諸生ヲ惠ミ給フ類ヲ云、經藝ハ經書六藝ヲ云、吉備公ノ文通ニ諸藝ヲ兼敎シ類也、彝倫ハ五倫也、都テ學校ノ設人倫ノ道ヲ明ニシ、行有ニ餘力ヲ則以遊ニ於藝ニモ、是唯明王ノ御身ニ行ヒ、御心ニ得給ノ餘風ニ本ヅケ給フコト也、上行ヒ下效フ君子ノ德風蒼生何ゾ不ニ靡然ヲ乎、此條亦封事ノ文前ニ注ス、

皇朝之立ニ學校ヲ始ニ於天智天皇ニ矣、持統天皇五年賜ニ大學博士上村主百濟大稅一千束ヲ以勸ニ其學業ヲ也、七年賜ニ食封三十戶ヲ以優ニ儒道ヲ、

此條首十三字ハ上ニ所レ引ノ封事ノ文也、天智帝創ニ庠序ヲ事序注ニ記ス、然ドモ此擧不レ見ニ本紀ニ蓋史ノ脫漏ニシテ在ニ懷風藻ニ、本紀賜ニ大學博士上村主百濟大稅一千束ヲ以勸ニ其學業ヲ也、又賜ニ音博士大唐續守言薩弘恪・書博士百濟末士善信銀ヲ人二十兩、又賜ニ音博士續守言薩弘恪水田(ミタ)ヲ人四町、又賜ニ大學博士勤廣貳上村主百濟食封三千戶ヲ以優ニ儒道ヲトアリ、上村主トハ姓尸也、百濟ハ其名也、大稅ハ正稅也、食封ハ釆地也、三十戶ハ釆地ノ民戶也、故ニ食封ノ二字ヲ訓ニ邊比止(ヘビト)ヲ戶字亦訓レ邊也、此人叙ニ勤廣貳ヲ是本邦ノ古爵也、天武十四年正月、改ニ爵位ヲ所レ增ニ加階級ヲ諸臣ノ階級ノ中也、都テ本邦ノ爵位ハ推古帝ノ時、廐戶皇子制ニ十二階ヲ以降、孝德・天智・天武・文武等皆爵品改正ノ事アリ、各本紀ニ見ユ、今世ノ冠位ハ文武帝大寶元年之制、而稱ニ十四階十八位ヲ是也、

至ニ于天平之代ニ右大臣吉備朝臣眞備恢ニ弘ニ道藝ヲ親自傳授、卽令ミ學生四百人習ニ五經三史明法筭術音韻籒篆等六道ヲ

此條ヨリ下充ニ學生ノ口味料ヲト云迄ハ、全用ニ善相公意見文ヲ天平ハ聖武帝ノ年號也、聖武帝ハ文武帝ノ太子、母ハ藤原夫人宮子ト申キ、贈太政大臣不比等ノ娘也、吉備公見ニ于前ニ儒家ニシテ登ニ三公ヲ者吉備與ニ菅神ヲ而已、恢弘ノ字ハ孔安國尙書序、典謨訓誥誓命之文凡百篇、所下以恢ニ弘至道ヲ示ニ人主ヲ

以中軌範上也トアリ、五經ハ易書詩春秋禮記也、三史ハ司馬遷史記・班固前漢書・范曄後漢書也、明法ハ四道博士ノ其一法曹家ニシテ、掌二律令格式等刑書一、是明二法禮一ノ職也、筭術モ亦四道ノ其一ツニシテ筭道ヲ掌レリ、音韻ハ音書ノ類四聲開合等ヲ辨知スル事也、籀篆ハ古文也、黃帝ノ臣蒼頡因二鳥跡一作レルヲ蝌蚪ノ字古文ト云ヒ、周宣王ノ臣史籀ガ作ルヲ稱二大篆一、

其後代代下レ勅給二罪人大伴家持、越前國加賀郡沒官田一百餘町、山城國久世郡公田三十餘町、河內國茨田澁川兩郡田五十五町一、以充二生徒食料一、號曰二勸學田一、

其後代代ハ日本後紀ニ、孝謙帝ノ天平寶字元年大學寮田二十町被レ置、其後生徒稍衆費不レ足、又桓武帝延曆十三年冬十月、越前國水田一百二町ヲ加ヘテ總テ百卄餘町ヲ號二勸學田一、大學寮ノ費ニ所レ供ケル類也、家持ハ拾芥抄云、大納言旅人男從三位中言征夷大將軍、或云正曆四八死、寶龜十一參議延曆二七十九中納言、按ズルニ家持ノ遠祖ハ天忍日命ニシテ、神武帝ノ御宇道臣命ヨリ來レリ、萬葉集二十、緣二淡海眞人三船之讒一出雲守大伴古慈悲宿禰解任、是以大伴家持喩レ族長歌一篇アリ、其全篇大伴祖神天忍日命ノ事ヲ演タリ、後世淳和帝ノ御諱ヲ避テ大伴ヲ訓二止毛一故實也、忍日命ハ天神ノ屬ニシテ、與二久目遠祖大來目命一、爲二皇孫尊一前駈セシ神也、歷史略評註家持父旅人祖大伴安麿也、聖武時以レ詞被レ寵、家持卒後廿餘日、大伴繼人竹良等數人中納言藤種繼ヲ殺ス、是桓武ノ寵臣也、因レ茲家持モ連坐セラレテ官爵ヲ所レ削ト也、罪人トハ連坐ニ遇フノ故ナリ、沒官田トハ家持之舊官田ナレバ也、久世郡公田トハ正稅田ノ事也、勸學田ノ事ハ學生ノ食味料或ハ雜用料也、延喜式等ニ載テ世加增多シ下ノ章ニ見ヘタリ、按ズルニ此沒官田山城河內ノ勸學田ノ事ハ主稅式ニ不レ見、大學寮式ニモ不レ憓、別ニ有二出據一乎、但式文ニハ山城國久世郡ニ七町學生ノ食料アリ、又同郡ニ一町ノ菜圃アリ、而河內國五十町ノ事不レ見、但越中播磨山城墾田准二郷價賃租一以充二學生食一トアリテ、都テ八十町ニ餘レリ、此事後世ノ沿革アルニヤ、賃租ノ事田令義解云、田限二一年賣一春時取レ直者爲レ賃也、與レ人令レ佃、至レ秋輸レ稻爲レ租、即今所レ謂地子者是也、同

令曰、田長三十歩廣十二歩爲レ段、十段爲レ町、段租稻二束二把、町二十二束、義解段地獲レ稻五十束、束稻舂得ニ米五升一、拾芥抄ニ稻十把爲レ束、

亦毎日給ニ大炊寮飯一石五斗一、人別三升五十人料以補ニ照讀之疲一也、

大炊寮ハ宮内省ノ屬ニシテ、舊内裏ノ時大膳職ノ南神祇官ノ北郁芳門ノ大路ニアリ、諸國ヨリ所レ貢ノ雜穀ヲ此寮ニ收テ諸司ヘ配分セリ、此外諸國御稻田トテ、天子東宮中宮ノ供御ニ用ル稻ヲ諸國ヨリ別ニ當寮ニ輸セリ、又神田トテ諸州ニ神供ニ獻ル稻アリ、何州何社ニ稻何束ト定テ、刈收テ是ヲモ當寮ニ貢スルヲ其社ノ祭奠ニ當ル時神供ニ獻ル事也、七十一代後三條帝ノ時七道ニ至テ王城ヲ去ル事遠ケレバ、運送ノ煩アリトテ、五畿内ニ御稻田ヲ被レ定、皆以當寮ノ所レ掌也、頭一人此寮ノ長官也、相當從五位下也、助一人次官也、相當從六位上大允小允ハ判官也、相當從七位上也、大屬小屬各一人此寮ノ主典也、從八位上ト大初位上也、此寮ヨリ學生ノ飯料ヲ繼シニヤ、按ズルニ大炊寮式ニハ、諸得業生二升人別日學生五十人トアリ、大學寮式云、凡官人已下月料米前月廿五日受ニ大炊寮一、其闕官不仕料充ニ寮中雜用一、凡寮家月料米、不ミ更待ニ口宣一而受レ之、

又有レ勅令下常陸國毎年擧稻九萬四千束以ニ其利稻一、充中寮中雜用料上、又擧ニ丹後國稻八百束一以ニ其利稻一、充ニ學生口味料一、

又有レ勅トハ同帝歟、或後朝歟未レ詳、上文有ニ代代一也、擧稻トハ公田正稅ヲ出擧シテ、國司預リ借之一也、擧ニ丹後國稻八百束一ト云ル擧ノ字亦同意也、利稻トハ出擧稻ノ息利也、江次第云、出ヨ擧十束稻一加ニ利稻三束一、春時出擧秋收ヨ納之一ト侍ル類也、雜用料トハ紙筆燈油浴湯等ノ如キ是也、口味料トハ酒肴菜料也、又常陸丹後ノ雜用料ノ事ハ、出ニ主稅式一、又大學寮式凡常陸國稱稻五萬四千束、近江越中備前伊豫等各一萬束、預ニ國司一出擧以ニ其息利一舂米並交ヨ易輕物一、毎年附ニ貢調使一送納充ニ於寮家雜用一、若有ニ未進一移ニ主計寮一拘ニ返抄一、又云丹後國稻八百束、預ニ國司一毎年出擧以ニ其息料一交ヨ易味物一、送レ寮充ニ學生等菜料一、按ズルニ前條常陸近江越中伊豫ノ擧稻ヲ合スレバ九萬四千束歟、

延喜之代、諸國有ニ學校田及勸學田一、

延喜ハ醍醐帝ノ年號也、此帝ハ宇多帝第一ノ皇子、母ハ藤原胤子ト申キ、中納言高藤ノ娘也、世醍醐與二村上一爲二一雙聖主一、而此帝儉約ヲ守リ、民烟ノ豐ナルヲ高楼ニ望給シ事ハ本紀ニアリ、其寒夜ニ脱二御衣一給事ハ不レ見、御衣ノ事ハ古事談ニハ一條院此事坐ス由ヲ記シテ、延喜帝モ如レ此聖慮御坐ケル由相列テ書タリ、學校田ハ庠序雜用田也、勸學田ハ口味燈油等學生ノ雜用歟、已上ハ諸國ノ學校ノ事也、

大學寮料常陸國五萬四千束、越中國一萬束、丹後國八百束、播磨國一萬五千束、備前國一萬一千束、學生料上野國一萬束、陸奥國四千束、播磨國一萬五千束、出羽國學生食料二千束、

常陸丹後學生料ハ前ニアリ、越中ノ一萬束ハ主稅式ニ出タリ、播磨ノ一萬五千束、又ハ備前ノ一萬一千束モ同式ニ見ユ、是迄ハ學生料ニシテ雜用也、上野一萬束、陸奥四千束、播磨一萬五千束、出羽國ノ國學生ノ食料二千束モ亦主稅式ニアリ、此外大學寮式ニ越中礪波郡、播磨印南郡食田段町ノ數山城久世郡ノ菜圃アリ、又備前ニ年中食料鹽ノ事アリ、

按ズルニ善相公ノ意見ニ大伴家持之加賀郡ノ沒官田モ承和年中ニ伴善男訴二家持無一レ罪返給、山城國久世郡ノ三十町ヲモ爲二四分一テ、其三分ハ給二典藥左右馬三寮一、又河内國ノ茨田澁川兩郡ノ田モ遭二洪水一成二大河一、又常陸丹後ノ擧稻減ジテ無二利稻一、唯所レ遺ハ大炊寮ノ飯料ト山城國久世ノ遺田而已ナレバ、緣海國坂東國充ニ給ヒテ、常陸丹後出擧稻ノ九萬八千八百束ノ利稻、二萬八千四百三十束ノ代リヲ充給ヘト侍レバ、大學寮墾田ノ食料ハ此封事以後ノ定ヲ延喜式ニハ載スト見ヘタリ、緣海道トハ西北南海邊ニ近キ國ヲ云也、伴善男ニ返シ給ヘル沒官田モ依レ舊又勸學田ニスベシトモアレバ、是モ其代リヲ今式文ニハ載タルニヤ、此事猶識者ニ可レ質、

諸氏子孫咸下二大學寮一、令レ習二讀經史一、學業足レ用量レ才授レ職、國貢學生准二得業生一、

此條ハ得業生ノ事也、其入學ノ條條注レ前、國貢ノ學生ハ選士貢士也、得業生ハ大學寮四道ノ諸生ニシテ、其家業アリテ初ヨリ得レ業學生ナレバ得業生トハ云也、大學寮式ニモ凡得業生者補了更學七年、

已上不レ計ニ前年一、待ニ本道博士擧一錄下可ニ課試一之狀上申レ省、國貢學生准レ之トアリ、此文ノ意ナレバ得業生ハ先初ニ補レ之シテ學ブ者也、注ニ國貢學生准レ此ト云ハ、諸國ノ貢士モ其學器ニヨリテ授レ職、故ニ准レ此トハ云ニヤ、申レ省トハ式部省ニ申ス也、式部省ハ學生ノ考選ヲ掌ル事前ニ注ス、

本朝學原浪華鈔六終

本朝學原浪華鈔七

釋奠者先王所ニ以奉レ聖欽レ賢崇レ師重レ道之大典也

是ヨリ第六章也、此一條ハ本朝文粹菅三品文時仲春釋奠毛詩講後賦ニ詩者志之所レ之、其發端ノ全文ヲ取レリ、凡此奠ハ春秋二八月奠ニ孔子十哲一之禮、而延喜式・江次第・公事根源等ノ所レ記詳也、釋奠ハ學令義解云、釋レ菜奠レ幣也、是禮王制語也、釋レ菜テ奠ル故釋菜トモ云也、禮文王世子云、凡始立レ學者必釋ニ奠于先聖先師一、及レ行レ事必以レ幣、牖餘錄云、釋奠議斯道肇ニ於堯舜一、衍ニ于禹・湯・文・武・周公一、而折ニ衷于孔子一、然則由ニ堯舜一而下、皆合ニ祀于天子之學一、奉レ聖欽レ賢崇レ師トハ先聖ハ文宣王ヲ奉祀シ、賢ハ十哲ヲ配祀シ、師ハ以ニ顏淵一爲ニ先師一、故先聖十哲ノ稱呼アル也、詳見ニ于下一、

藤原朝臣萬里詩、天蹤神化遠、萬代仰ニ芳猷一、是也、

此詩出ニ懷風藻一、本朝一人一首曰、藤原萬里淡海公四男、其長子武智麿最尊、然其詩不レ傳、房前・宇合・萬里昆弟三人、幷載ニ懷風藻一、可レ謂ニ連珠合璧一也、

又曰萬里自稱二聖代之狂生一也、樂二琴酒一以二隱淪一終レ身、其所レ作幷序文皆不二尋常一、過二神納言墟一、則慕二彼忠諫一侍二釋奠一、則歎二仲尼不一レ用二于時一、遊二吉野川一、則有二俗塵離避之意一、想夫其文才與二宇合一可二伯仲一也、懷風藻從三位兵部卿兼左右京大夫藤原朝臣萬里五首、萬里一本作レ麿云云、其五首中五言仲秋釋奠ノ詩ニ、運冷時窮レ蔡、吾哀久歎レ周、悲哉圖不レ出、逝矣水難レ留、玉俎風蘋薦、金罍月桂浮、天縱神化遠、萬代仰二芳猷一、所レ謂聖代狂生ノ自稱琴酒ノ樂、隱淪ノ風致ハ暮春於二第園地一置酒詩序ニ詳也、過二神納言墟一詩吉野川詩共ニ五首中也、神納言ハ大神高市麿ノ事也、其德行ヨリ得タル令名也

文武天皇大寶元年二月丁巳釋奠、釋奠之禮於レ是始見矣、

大寶ハ本邦年號ノ始也、前レ此孝德帝大化白雉ノ號有、各五年ニテ齊明天智ノ兩朝並ニ無二年號一十七年、天武ノ御宇ニ白鳳十四年アリ、但此大寶ヨリ連綿シテ不レ絕、故爲二年號始一山崎氏改元考可二孜見一、續日本紀曰、三月甲午對馬島貢レ金建レ元爲二大寶元年一、改元ノ例ニ有二三故一、或甲子、或卽位、或祥瑞、凶歲等是也、多ハ嘉瑞吉兆ニ遇毎ニ必取テ其嘉ヲ號レ年、各文字考據アリ、然ルニ諸儒ノ論ヲ訂スレバ、元ハ始ニテ一人二始無レバ一帝一元ニシテ不レ易ヲ至當トハスベキニヤ、又一種歷代記所レ載ノ外ニ俗間唱來ル年號アリ、或善記、或正知敎到、或僧聽明要遺樂等ノ類麗氣記抄ナドニ有レ之、不レ知二其所一レ據、蓋無稽ノ言也、江次第ニ年號ノ文字ヲ定ル法アリ、縱ヘバ天正ハ天一止大業ハ大若未等ノ類也、或雜書ニ年號ノ始ハ武烈帝ノ時善紀アリ、欽明十三年ヲ貴樂元年ト記シ、又ハ廐戶皇子ハ金光三年ニ誕生シ、倭臺四年二月五日ニ薨ズナド記セリ、淸輔奧義抄ニ天平感寶元年此ヲ號二年中改元一、仍不レ載二年代曆一此年號在二萬葉集一ト、由レ是觀レ之、年代曆ノ外間見ヘタル年號ハ、若或ハ年中改元ニシテ天變地妖等ノ厭勝ニ假ニ建タル者乎、サレバコソ天平感寶モ萬葉集ノ外卒ニ歷史正記ニハミヘザル也、

聖武天皇天平二十年八月癸卯、改二定釋奠服器及儀式一、大學寮釋奠十一座二座、先聖文宣王先師顏子從祀九座、閔子騫・冉伯牛・仲弓・冉有・季路・宰我・子貢・子游・子夏凡諸國春秋釋奠、先聖先師二座、

按ズルニ聖武帝已前文武・元明・元正ノ三朝釋奠ノ儀式其全文未レ詳、簡粗ナルヲ以至二聖武帝一吉備公入唐以後改三正之一者乎、元正紀ニモ令三撿挍造器二司造二釋奠器一、充二大膳職大炊寮一トノミ有レ之、延喜式ニ大學寮ノ釋奠式アリテ、先聖先師十哲十一座トシ、雜式ノ諸國釋奠式ニモ先聖先師或ハ太宰府ニハ閔子ト共ニ三座トアレバ、是モ聖武ノ時ノ改正ヲ記セル也、按二續日本紀一、元正天皇靈龜元年勅立二遣唐使一、多治比縣守爲二正使一、藤原宇合爲二副使一、吉備公此時稱二下道眞備一二十三歲也、阿倍仲麿十六歲共爲二學問一入唐ス、養老二年十二月正使副使等歸朝、吉備公仲麿ハ猶留學、而聖武帝天平七年三月多治比廣成歸朝ノ時、眞備モ同船シテ歸國シ、此時書籍名器孔子十哲像ヲモ齎來レリ、在唐二十年ニ及ベリ、其後天平二十年八月釋奠服器及儀式ヲ改正ス、江次第裏書或記曰、吉備大臣入唐持二弘文館之畫像一來朝、安三置太宰府學業院一、（太宰府學校也）又命二百濟畫師一奉レ圖二彼本一置二大學寮一、又云仁平三年八月台記、先聖先師九哲像巨勢金岡、以二唐本一所レ奉レ圖繪一也、而年序久積破損尤多、仍所レ被二修復一也、其用途料依二本寮請奏一可レ召二諸國一云云、仁平ハ近衞院ノ年號也、通鑑綱目集覽曰、古釋奠山川廟社學宮統言レ之、唯宋以レ儒立レ國、獨先聖之祭曰二釋奠一、所三以別二群祀一也、陳祥道云、釋奠日用二上丁一、丁陰火也、火象二文敎宣明一、曲禮曰、內事以二柔日一、故取二陰火一也、江次第曰、寬治五年八月上卿俊實卿稱レ未レ行二神事一以二釋奠一准二神事一行レ之、人不レ爲レ可、云云、由レ是テミレバ昔ハ雖二聖祀一混二神事一則不レ爲レ可ナリ、江次第又曰、釋奠用二上丁一、案二禮意一用二上丁一欲レ令三學問二志丁壯一也、上者事始也、中者盛也、至二下丁一得二衰老氣一似レ不レ可レ用也、上中有レ障不レ可レ享、故上古無二下丁之例一、一云若日蝕國忌故又當レ祭用二中丁一、本朝佳節錄二月條曰、釋奠二月上丁八月上丁祭二孔子顏淵等御影一也、古者京師大學寮諸國學校皆行レ之、（見二延喜式一）祭二孔子一有二祝文一、祭二顏淵等一有二小祝文一、（見二朝野群載一）藤原兼良公曰、明日以二釋奠粢盛一賜二群臣等一、稱曰二聰明一、言食レ之令二人聰明一也、耀天記曰、吉備公在レ唐寫三得孔子顏淵等御影一、會遣二顏淵御影一而歸朝、一日其御影昇レ空飛來、國人大神レ之、世衰道微諸國學校荒廢不レ修、（保延元年七月）

藤原敦光勘文、學天下衰弊所由來、曰依學校廢也、觀此則其廢久矣、大學寮亦顚倒、然金岡所圖之御影不滅、仲於佗所祭之、見園太曆薩戒記等應仁大亂以後寥寥不聞、至於永正年中夫子廟存基址、在神泉苑西北茶園中、見二水記蔗獻策記夫學校者敎道明人倫之地、處處不可無也、於此行釋奠報師恩不可不行之、季世學校之政不復敎化陵夷、人惟見利而不聞義、不知釋奠名者衆矣、哀哉、先聖ノ謚號ハ公事根源云、我國ノ釋奠ハ文武大寶元年二月ニ始ル、又神護景雲二年ニ孔宣父ヲ改テ文宣王ト申ス由、弘仁格ニ見ヘタリ、昔ハ周公ヲ先聖ト云ヒ、孔子ヲ先師ト云、唐太宗貞觀二年ニ改テ孔子ヲ先聖トシ、顏回ヲ先師トスト、通鑑曰、唐太宗貞觀二年、房玄齡議而以孔子爲先聖、以顏回爲先師、愚按ズルニ孔子ニ謚シ文宣王トスルモ、唐玄宗開元二十八年也、本邦從之ハ稱德帝ノ御宇膳臣大丘ガ奏ニヨリテナリ、大丘ハ膳臣六鴈（ムツカリ）ノ裔ニシテ、其先出自孝元帝、大學ノ助敎タル時件ノ奏アリ、學令集解云、開元令云、釋奠爲中祀、州縣釋奠亦準小祀例、神護景雲二年七月卅日官符云、應改孔宣父號爲文宣王事、右得式部省解、偁大學寮解偁助敎正六位上膳臣大丘牒偁、天平勝寶四年大丘隨使入唐、問先聖之遺風膠庠之餘烈、國子監有西門、題曰文宣王廟、時國子學生程覽告大丘曰、今主上大崇儒範、追改爲王、鳳德之徵于今至矣、然准舊典猶稱前號、誠乖崇德之情、失致敬之理、大丘庸闇聞斯行請、敢陳管見以請明斷者、勅號文宣王、今依所牒謹請省裁者、案解狀理須必然、方行其敎合旌厥德、後奉天時蓋謂之乎、仍顯改由請官裁者、官議奏聞奉勅依奏、續日本紀廿九ニモ此事アリ、學令義解云、宣父是孔子謚也、法施不有曰宣也、通鑑綱目孔子爲文宣王、下ノ注ニ先是祀先聖先師、周公南向孔子東向坐、制自今孔子南向坐被王者服、釋奠用宮懸贈弟子爲公侯伯トアリ、歷代贈謚闕里誌ニ詳ナリ、又文宣王ノ號非禮ナルコト明ノ張孚敬ガ疏論之詳矣、是亦闕里誌ニ見ユ、通鑑綱目唐玄宗孔子ヲ爲文宣王下ノ發明ノ說モ可考知コト也、羅山集曰、足利學校ノ聖像ハ木像也又畫像アリ、中ハ孔子左ハ子路右ハ顏子也、又云前亞相源敬公ノ謚ニ左ハ閔子騫

ナルベシ、太宰府聖像孔子ト閔子騫也、愚按ズルニ十哲ノ中闕二曾子一論語ノ四科ニ不レ入故歟、

是日命二君子之儒一講レ書賦レ詩、

是日ハ當日上丁中丁也、奠畢テ講レ書賦レ詩、其古禮ハ大學寮式ニ是日講論式一篇アリ、都堂院ニシテ皇太子ヲ始式部卿已下列座尤嚴重也、而五經・論語・孝經左傳等ヲ巡年ニ講ズル事也、問難者アリ然文章博士隨二上宣一獻レ題、文人賦レ詩、此間明經・明法・筭道等博士率二學生一論義、其後文人獻レ詩改レ座テ讀畢テ群官散去スト也、古ノ二八月釋奠ノ日ノ佳作詩集文粹等ニ多シ、

及二仁明天皇一釋奠翼日召二明經儒士並弟子於紫宸殿一解二釋疑義一累代相傳以爲二流例一、

釋奠翼日講論爲二流例一トハ、續日本紀ニ出タル說也、仁明帝ノ實錄ハ續日本後紀也、紫宸殿ハ拾芥抄曰、紫宸殿俗云二南殿一九間四面庇、天曆御紀云、紫宸殿秦川勝宅所ト、按ズルニ此殿ハ天子御即位其外大禮ヲ被レ行正殿也、或云宸ハ室ノ奥也、象二紫微宮一故號二紫宸殿一左近櫻右近橘モ此殿前ノ東西ニアリ、一記云、紫宸殿板敷也、四方椽也、賢聖障子アリ絹モテ張レ之、御椽ノ杉戸繪アリ、東西十一間南北八間半此外椽也、南面也、元日禮即位等儀式皆以用二此殿一公事根源ニ釋奠ノ翼日先聖等ニ所レ奠ノ胙(ヒモロギ)ヲ班ト云事アリ、藏人勤レ之也、天子ニモ朝餉ノ上ニテ奉レ之、此事後醍醐年中行事記ニ釋奠ノ胙文字ヲ長ク云テトアレバソウト唱フル名目ニヤ、又年中行事歌合、家尹朝臣此事ヲヨメル奠(マツリ)セシ八月ノ御饌(ミケ)ヲトリ別テ君ニソナフル今日ノ胙、同釋奠ヲヨメル二位中將「唐人ノカシコキ影ヲウツシ留テ聖ノ御代ト今日奠ル哉、」此カシコキ影ハ則聖像也、以テ奉レ比二時帝一祝也、

清和天皇貞觀二年、依二播磨國博士和邇部臣宅繼(イヘツギ)申請一新修二釋奠式一頒二下七道諸國一、

清和天皇ハ五十六代ノ天子ニテ、文德帝ノ太子御母染殿后藤原明子ト申キ、太政大臣良房娘也、和邇部臣ハ新撰姓氏錄曰、和(ヤマトノ)安部朝臣同祖彥姥津(ヒコヲヂツ)命四世孫矢田宿禰之後也、續日本紀合、私言和安部朝臣祖大春日朝臣、同祖則出レ自二孝昭天皇皇子天帶彥國押人命一類聚國史曰、類聚三代格云、猨女養田在二近江國和爾村、山城國小野鄉一今小野臣和邇部臣等

旣非ニ其氏一、被レ貢ニ猨女一熟捜ニ事緒一、上件兩氏貪ニ人利田一不レ顧ニ恥辱一、拙吏相容無レ加ニ督察一也、亂ニ神事於先代一穢ニ氏族於後裔一云云、和邇部氏ノ奏請ノ事ハ淸和實錄曰、新修ニ釋奠式一頒ニ下七道諸國一、先レ是播磨國博士正八位上和邇部臣宅繼請云、謹案大唐開元禮大學國學州縣各有ニ釋奠式一、今此間有ニ大學式一、無ニ諸國式一、所レ謂大學式則因ニ順開元禮一、大學國子之式具載ニ奠祭之儀一、明ニ定進退之度一、又云若上丁當ニ國忌及祈年祭一改ニ用中丁一者、一如ニ此等事一、未レ有ニ施行一、凡厥諸國相犯者多、或稱ニ大學例一用ニ風俗樂一、或據ニ州縣式一停ニ止音樂一、唯任ニ人心一遂無ニ一定一、夫尊レ師之道誠須ニ嚴整一、如レ在之禮豈合ニ參差一、望請被レ賜ニ件式一以爲ニ永鑒一、勅依レ之ト、由レ是テ思ヘバ聖武帝ノ御宇大學寮式ノミ定リテ、國學式ハ淸和帝以來歟、延喜式ニ載ル國學式ハ取レ之乎、又按ズルニ頒ニ下釋奠式一七道ノ諸國トナレバ、山和河泉攝ノ國ハ王畿故ニ大學寮式ヲ齊シク用タルニヤ侍ラン、圖書編日本國考ニ、正德六年宋素卿永壽來貢求下祀ニ孔子一儀注上不レ許トアリ、此比ハ後柏原帝ノ御宇ノ事ニシテ、大永三年ニ細川高國商船ヲ明國ニ遣ス、宋素卿ヲ使トス、素卿ハ本明人也、投化シテ細川政元ニ親ミ、法住院殿ヘ謁シ、高國ガ使价トシテ明ニ至リ、歸朝シテ高國ニ屬ス、此時大內介義興モ周防ヨリ商船ヲ明ニ渡ス、其使ヲ宗設ト云リ、寧波府ニシテ兩使先後ヲ爭ヒシ事アリ、此時大內氏書籍珍器ヲ求ムト云ヘリ、高國モ釋奠儀斷絶セルヲ以テ明ニ請求メシニヤ、

凡二月八月上丁進ニ三牲一（大鹿小鹿猪各一頭加ニ五藏一）及兎一、若在ニ祈年春日大原野園韓（ソノカラ）神等祭之前一、及與ニ祭日一相當、停レ供ニ三牲等一代レ之以レ魚、其魚鯉鮒之類鮮潔者、此式條之所レ定也、

此條ハ大學寮釋奠式ノ文ヲ取レリ、式文云、三牲（大鹿小鹿豕各加ニ五藏一）兎（醢料）右六衞府別大鹿小鹿豕各一頭、先レ祭一日進レ之以充レ牲、其兎一頭先レ祭、三月致ニ大膳職一乾曝造レ醢祭日辨貢、其貢進之次以ニ左近一爲ニ一番一、諸衞輪轉終而更始、又云凡諸衞所レ進之牲若致ニ腐臭一、早從ニ返却一、令レ換ニ進之一、又云凡享日在ニ園韓神並春日大原野等祭之前一、及與ニ祭日一相當、停レ用ニ三牲及兎一代レ之以レ魚、其魚每レ府令レ進ニ五寸以上鯉鮒之類五十隻鮮潔者一、又云凡魚醢者大膳職造備

臨レ祭辨ニ貢之一、雜式諸國釋奠式曰、若上丁當ニ國忌及祈年祭一、改用レ中其諒闇之年雖レ從ニ吉服一一從ニ停止一、三牲ハ大牢小牢豕也、是皆異國ノ禮也、祈年祭ハ二月四日也、延喜四時祭式上、祈年祭神三千一百三十二座、國司祭祈年神二千三百九十五座トアリ、此祭ハ於ニ神祇官一豫年穀成熟豐年ヲ式內ノ諸神ニ祈請スル謂也、諸國トテモ此祭アリテ國司ノ任也、祈年ノ二字ハ詩雲漢篇ニ祈レ年孔夙、集傳祈レ年孟春祈ニ穀于上帝一、孟冬祈ニ來年于天宗一是也、月令ニモ天子乃祈ニ來年于天宗一トアリ、八月又祈年穀奉幣ト云事アリ、月令ニ祈年事元日祈ニ穀于上帝一ト見ヘタリ、公事根源祈年祭是ハ太神宮以下三千一百三十二座神ヲ祭也、其所不レ慥モアリ、國國ニ各幣ヲ付ラル諸國ニモ祈年祭ヲ行也、周禮祈年ハ豐年ヲ求ル也ト見ヘタリ、神祇官ニテ被レ行辨預ヨリ諸國ノ召物ヲ催シ調フ、白猪白鷄樣ノ物也、天武帝四年二月ニ始テ此祭アリ、大方祈年祭月次兩度新嘗祭ヲバ四箇ノ祭トテ國ノ大事トスル也、按ズルニ諸社ノ祝モ此祭ニ預リ、其幣物ヲ受テ國ノ社ニ致シテ、亦祈レ年也、此事善相公ノ封事ニモ見ヘタリ、白猪白鷄ノ故事ハ古語拾遺ニ御歳神ヲ祭ニ起リシ由ヲ記セリ、式ニ御歳社加ニ白猪白鷄各一一ト侍ルハ此謂也、西宮勘物ニ云、左右京進ニ白鷄一、近江進ニ白猪一云云、春日祭モ二月上申日也、又十二月ニモ行ル、春日神ハ四座也、第一武甕槌命、第二經津主命、第三天兒屋命、第四姫大神也、是ハ栲幡千千姫命也、爲ニ天照太神一者否也トゾ、抑當社ハ藤氏ノ大祖ノ廟ニシテ其尊崇甚謂レアリ、舊書ヲ按ズルニ春日ノ社ハ元天兒屋命一座ニシテ、孝德帝大化四年戊申十一月戊申日鎭座也、其後百二十一年ヲ經テ稱德帝神護景雲元年六月廿一日ニ、外ノ三神ハ鎭座也、此春日祭ハ淸和帝貞觀元年十一月九日ヨリ始ルト也、大原野祭ハ二月上卯日也、十一月中子日ニモ亦アリ、公事根源云、此神社ハ后宮ノ參セ給ン爲ニ、春日ノ本社遠キニ依テ、都ニ近キ所ニ移シ奉ラル、サレバ大原野ノ行啓ナドヽ申ス事ノ侍ルニヤ、仁壽元年二月ヨリ始メ行ハル、近衞使ハ春日祭ニ同ジ、上卿辨內侍ナド向フト、園韓神祭ハ二月上丑日、或云中丑日也、若有ニ三丑一者用ニ上丑一、公事根源云、此二神ハ宮內省ニ坐ス也、延曆

遷都ノ時造宮使他所ニ遷シ奉ラントセシニ、唯此所ニ在テ御門ヲ守リ奉ントト託宣有キ、延喜式ニ園韓神事、園神一座韓神二座ト載タリ、祭禮ハ年ニ二度二月ト十一月ト也、上卿並内侍向フ、儀式ナドノ委キ事ハ西宮北山江次第等ニ載タリ、古事談曰、園韓神社者本自坐ニ大内跡ニ而遷都之時、造宮之使等可レ移ニ他所ニ云云、于レ時託宣云、猶坐ニ此處ニ奉レ護ニ帝室ヲ、仍坐ニ宮内省内ニ、按ズルニ園韓神ノ事、古來ノ神記ニ不レ載ニ其神號ヲ、此二神諸說僻案、又ハ上件諸ノ祭ノ事、神學類篇、神階篇、諸祭條ニ記レ之、

當ニ後三條院行ニ善政ヲ、夢先聖告曰、釋奠之日天照太神降ニ于廟庭ニ、宜レ禁ニ牲獸ヲ、自レ茲不レ供レ獸云、

後三條院ハ七十一代ノ天子ニテ、後朱雀帝第二ノ御子、諱ハ尊仁後冷泉帝別腹ノ御弟也、御母ハ陽明門院禎子ト申ス、三條帝ノ御娘也、此帝ノ御事末代ノ賢王ニ坐ス、其聖蹟舊典ニ明矣、古今著聞集曰、大學寮ノ廟供ニハ昔猪鹿ヲモ供ケルヲ、或人ノ夢ニ尼父ノ宣ク、本國ニテハカヽル物ヲ薦シカドモ、此朝ニ來シ後ハ太神宮ノ來臨ニ同レ禮、穢食不レ可レ供トアリケルニヨリテ、後ニハ不レ供ナリニケルト、此或人ト記セルハ憚ル所アルニ依テ歟、凡此奠ニ鮮魚ヲ以スル事ハ、此帝ヨリノ定メ也ト舊記ニ侍レバ、此夢ノ神告モ非ニ他人之所ニ蒙歟、

太宰府學業院、先聖先師等像、吉備公自レ唐所ニ將來ニ也、元慶巨勢金岡所レ奉レ圖、先聖十哲像在ニ大學寮ニ、此條ノ全文江次第裏書ノ文ヲ用ヒタリ、其事前ニ注ス、太宰府ハ筑前國府也、筑前筑後肥前肥後日向豐前豐後大隅薩摩ノ九國ニ壹岐對馬ノ二嶋ヲ總テ筑紫ト云、凡九州ノ國司府ニシテ兼職甚多ク、屬官モ亦多シ、是西方緣海ノ邊要ナレバ也、東國ニ鎭守府按察使秋田城介ナトアルニ同ジ、此宰府ヲ被レ置時代ハ古來不ニ分明ナラ、推古紀ニ十七年四月筑紫太宰奏上ト云事アレバ被レ置事已ニ尙矣、太宰二字訓ニ於保美古登茂知ト、此府ニ有ニ國學ト稱ニ學業院ト、吉備公自レ唐將來ル聖像ヲ先此所ニ安ジ、又畫師百濟ニ命ジテ令レ寫テ大學寮ニ置事前ニ注ス、金岡ハ本朝ノ名畫師也、巨勢姓ハ姓氏錄曰、石川同氏巨勢雄柄宿禰之後也、日本紀合、石川朝臣ハ孝元天皇ノ皇子彥太忍信命ノ後也、本朝畫傳云、巨勢金岡中納言巨勢野足之子也、舊難波氏也、仕ニ淸和陽成光孝宇多

醍醐五朝ノ、官至ニ大納言ノ、曾與ニ菅相ニ善、云云、按ズルニ巨勢姓尤舊タリ、多クハ出レ自ニ武內宿禰ニ也、延久四年三月十四日甲午、權中納言源隆俊卿著ニ仗座ニ奏、大學寮先聖先師九哲像令レ修ニ補之ノ、件像元慶四年巨勢金岡以ニ唐畫ニ所レ奉ニ圖繪ニ也ト、元慶ハ陽成帝ノ年號也、

大學寮像康永尙存、此時大學寮官廳共破壞、收置ニ上皇念誦堂ニ

此條ハ園太曆ニテ書ケリ、大學寮ノ像ハ金岡所レ畫也、康永ハ光明帝ノ年號也、此時マデハ猶存スト也、宮廳ハ太政官ノ廳ト稱ス、三公政道ヲ執行ヘル政所也、廳字訓ニ萬年止古呂ノ、惣テ官人ノ集ル所ヲ官府ト云、諸官ニ從テ其稱號不レ同、神祇官太政官ニハ云レ官、此官廳ハ太政官ノ廳ノ事也、八省ニハ云レ省、彈正ニハ云レ臺、中宮又ハ大膳修理左右京ニハ云レ職、春宮ニハ云レ坊、齋宮・舍人・圖書・內藏・縫殿・陰陽・內匠・雅樂・玄蕃・諸陵・主稅・主計・掃部・木工・大炊・主殿・典藥・兵庫・左右馬等ニハ云レ寮・大學亦同・齋院・隼人・囚獄・織部・正親・內膳・造酒・主水・東市・西市・鑄錢ニハ云レ司、主膳ニ監、主殿主馬ニ署、左右近衞・左右衞門・左右兵衞・太宰・鎭守等ニハ云レ府、侍從內記又ハ內舍人、監物ニハ云レ局、皆是官舍ノ號也、上皇ハ萩原院ニシテ、花園帝ノ御事也、念誦堂ハ御持佛堂ヲ云、念レ佛誦レ經ノ佛堂ナレバ也、是聖堂破壞ノ間トイヘドモ、恐クハ不レ得レ所乎、薰蕕一器聖靈豈安然哉、可レ嘆可レ哀、

修レ堂之際、奉レ遷ニ西小御堂ニ、其奉レ遷之夜、上皇問ニ禮於藤原朝臣公賢ニ、御冠直衣拜レ之、到ニ于寬正中ニ釋奠不レ絕、及ニ應仁大兵ニ一時成レ空、

修レ堂ハ破壞重修ノ際ヲ云、西小御堂亦佛殿也、是亦上條念誦堂ト同失也、問レ禮ハ入レ廟每レ事問ノ遺意也、直衣ハ天子モ時時著御ノ物也、褻ノ御服ニハ是ヲモ進ルノ由、裝束ノ書ニ見ヘタリ、其裁制狩衣ニ有レ裏物ノ如シ、其圖式ノ書ニアリ、御冠事モ其品品見ユ、又御卽位三箇重事記・禁秘御抄等ニモ見ヘタリ、藤原公賢ハ洞院公賢ナリ、光明帝ノ御宇ニ任槐ノ貴權也、此故事モ都テ園太曆ニ詳也、寬正ハ後花園帝ノ年號五年アリテ御土御門帝マデ猶一年係レリ、寬正中釋奠アリシ事ハ、環翠軒ノ職原私註ニアリ、應仁ハ後土御門帝ノ年號、此御宇ノ大兵室

町將軍義政ノ弟淨土寺門跡義尋還俗シテ稱二義視一、其執事細川勝元山名宗全兩雄ノ確執ニ因テ也、義政義視モ亦不和ニシテ、上下交糜爛シ、以二帝都一爲二戰場一、其間自二應仁一至二文明中一、十有餘年古今未曾有ノ事、開闢以來ニモカヽル大兵アラジ、當二此時一天降二喪亂一靡二國不一レ亂、因レ茲國故舊事一時成レ空也、事應仁記ニ詳也、今ヤ舊復ノ時運上豐ニ下安ク、文風布二闔國一、家家對二螢雪一、實ニ千載ノ大幸ナレバ、人人可レ不レ致レ思哉、

本朝學原浪華鈔七大尾

荷田大人創學校啓

荷田東麻呂

謹請下蒙二鴻慈一創中造國學校上啓

誠惶誠恐頓首頓首、謹聞、伏惟、 神君勃二興山東一覇功一成、平二章天下一草上之風、孰越二君子之志一、維新之化、始建二弘文之館一、庶矣、且富、又何之加、 明君代代作、文物愈昭、光烈相繼、武事益〻備、濟濟焉、蔚蔚焉、鎌座氏之好レ儉、庸何及二于斯一乎、郁郁乎、斌斌乎、室町氏之尙レ文、豈同日之談哉、應二此昇平之化一、天生二寬仁之 君一、以二其天縱之資一、國見二不嚴之敎一、野無二遺賢一、傚二陶唐之諫鼓一、朝多二直臣一、擬二有周之官箴一、上尊二
天皇一、專二不譎之政一、下懷二諸侯一而來二包茅之貢一、道齊有レ暇、則傾二心於古學一、敎化不レ周、則深二治於先王一、講二奇書於千金一、天下闇達之士嚮レ風、探二遺篇於石室一、四海異能之客結レ軾、臣嘗遊二都下一之日、幸蒙二射策之捷一、忝不レ顧二譾劣之義一、偶有二校書之命一、浴下子忘二布衣一之恩上、誰爲爲レ之、誰令レ聽レ之、子遷氏之言深有レ取焉、雖レ有二智慧一、不レ如レ待レ時、鄒孟子之意、良有レ以也、當時旣有レ意下於 賴二 幕府之威靈一起二此大義一、借二 大樹之庇陰一達中臣素願上、而不レ敢者、私心竊以、趦步不レ止、跛鼈千里、犬馬之年未レ滿二六十一、今日之美、安知レ不レ爲二異日之醜一、後進之知、豈識レ不レ如二先輩之能一、愚而自用、難レ免二蟷斧向レ車之謗一、賤而自專、似レ忘二燕石衒レ人之羞一、有レ志而不レ遂、千里遲遲歸、豈圖卒有二採薪之憂一、騏驥徒伏二槽櫪之閒一、何意爲二造化小兒一苦、鴻鵠長繫二樊籠之中一、口不レ能レ言、同三陳仲子之居二於陵一、脚不レ能レ行、似三卞和氏之在二楚山一、爲二世廢人一、噬レ臍何及、遇二時窮阨一、嚬レ眉獨泣、天之將レ喪二斯文一命也、天之未レ喪二斯文一也時也、時之不レ可レ失、不二敢不レ告也、今也洙泗之學、隨レ處而起、瞿曇之敎逐レ日而盛、家家講二仁義一、步卒廝養解レ言レ詩、戶戶事二誦經一、閭童壺女識レ談レ空、民業一改、我道漸衰、紀土州嘗嘆焉、田園競捨、資產傾盡、菅相公深痛矣、臣竊以、是亦足三以見二 太平日久之象一、唯有下爲可二痛哭長太息一者上、在二我

神皇之敎、陵夷一年甚於一年、

國家之學、廢墜存十一於千百、格律之書泯滅、復古之學誰云問、詠詞之道敗闕、大雅之風何能奮、今之談神道者、 是皆陰陽五行家之說、 世之講詠詞者、大率圓鈍四敎儀之解、非唐宋諸儒之糟粕、則胎金兩部之餘瀝、 非鑿空鑽穴之妄說、則無證不稽之私言、曰祕、曰訣、古賢之眞傳何有、或蘊、或奥、今人之僞造是多、臣自少無寢無食、以排擊異端爲念、以學以思、不興復古道無止、方今設非振臂張膽辨白是非、則後必至塗耳塞心混同邪正、欲退則文已漂已晦、欲進則老且病且憊、猶豫無所決、狼狽失所爲、伏此請望、或京師、伏陽之中、或東山西郊之間、幸賜一頃之閑地、斯開

皇國之學校、然則臣自少所蓄、祕籍奥牒不少、至老所訂、古記實錄亦多、盡皆藏于此、備他日之考索、僻邑之士爲 絕難及者、或有寒鄉之客、有志而未果者間、多、借之讀之才通一書、百王之澆醨此知、洞覽千古、萬民塗炭可拯、幸有命世之才、則 盡敬王之道不委于地、若出啄玉之器、則柿本氏之敎再奮於邦、六國史明則豈翅官家化民之小補乎、三代格起則抑亦國祚悠久之大益哉、萬葉集者國風純粹、學焉則無面牆之譏、古今集者 詞詠精選、不知則有無言之誚、夫

本邦設施學校、權輿于近江

朝廷、主張文道、濫觴於

嵯峨天皇、菅江家有分彰院、源藤橘和繼起、太宰府有學業院、足利金澤延及、然所藏三史九經、陳俎豆於雍宮、其所講四道六藝、薦蘋蘩於孔廟、悲哉先儒之無識、無一及

皇國之學、痛矣後學之鹵莽、誰能歎古道之潰、是故異敎如彼盛矣、街談巷議無所不至、吾道如此衰矣、邪說暴行乘虛入、憐臣愚衷、創業於國學、鑑世倒行、垂統於萬世、首創難成功、非經國大業邪、繼續易用力、眞不朽盛事哉、臣之至愚何之知、所不敢自讓者語釋也、國字之多紕繆、後世猶有知之者、典籍猶存、古語之 少解釋、振古不聞通之者、文獻不足、國學之不講、實六百年矣、言語之有釋、僅三四人耳、其爲巨擘、新奇是競、極無超乘、骨髓何望、古語不通則古義不明

焉、古義不レ明則古學不レ復焉、先王之風拂レ迹、前賢之意近レ荒、一由レ不レ講ニ語學一、是所三以臣終身精力用ニ盡古語一也、伏以斯文之興之興レ廢、固在ニ此學之取之與レ捨、願閤下留レ意幸察、臣東麻呂誠惶誠恐頓首頓首謹言、

荷田大人創學校啓終

和學大概

平春海述

和學といふ事いにしへは別に一家の學ならず、皆儒生のかね通じたりしことなり、弘仁承和のころより、代々禁廷にて日本紀を講ぜられしことありしに、皆其時の宿儒博達の人に任ぜられし事あり、別に和學を專業とせし人ありしといふことも見えず、中世堀河院の御時大江匡房卿の和學得業生問答といへるものあるをみれば、和學といふ名目はさるころよりやいひはじめし事ならむ、此匡房卿のころまでは、猶いにしへをうしなはざる事も有しを、それより後世干戈常に動て、源平の亂うちつゞきたるより此かた、和漢ともに學問の道皆すたれて、これを振興する人もなく、たゞ漸々におとろへきたりしを、近世文明のころに至て、一條禪閤絕倫の才學おはせしかば、古人の誤をもよく考正し、其著述の書數十部に及べり、此公をこそ和學再興の人とはいふべけれ、

されど今よりみれば、其學疎漏の事どもおほく、いまだ全く和學の正しき筋を得給ひしとはいひがたし、しかるにこの百年あまりこなた、治平久しくうちつづき、萬の道日々にひらけ來しまゝに、おのづから英俊の士多く出來て、和學の事大にひらけたり、其研究のいたれるはるかに古人にまされり、今にしては和學の道遺憾有まじくおもはる、吾國の儒生は、必吾國の國史典故に通ぜずしては、かなはざる事なるを、當世は學問の道草莽にのみあれば、儒生皆曲稽の士の如くになりて、儒者の任は只漢土の書に通ずるを己が業とのみこゝろえ、吾國の事は其業の外の事のやうにおもひたるは、學問の本意を失へるものなり、林春齋が諸生を敎ふる五科のうちに、和學科をたてけるは心ある事なり、すべて儒者の業は、經世治國の術なれば、吾國に在ては、いにしへよりの建國の大體、制度の沿革人情世態の變遷し來れるありさま、よろづの事をしらではいかでか其學問をほどこすべきやうあらんや、されば和學をば必要務となすべきなり、今和學をとりたてんとするには先三科ばかりに分つべきにや、先第一に國史實錄の學を一科とし、次に律

令典故の學を一科とし、次に古言を解釋する學を一科とすべし、和學をなすには、この古言にくらくては、餘の二科も通じがたき事多し、そのくはしき事は下にいふべし、さて國史實錄は、古事記・日本書紀・續日本紀・續日本後紀・文德實錄・三代實錄・類聚國史・日本紀略・扶桑略記等を正史とさだめ、姓氏錄、大職冠傳等の家傳の類皆正史に屬すべし、かたはら諸家の家記、（李部王記・九曆・台記・玉海・玉蘂等の類百餘部あり）又水鏡・續世繼・愚管鈔・百錬抄・東鑑・園太曆等の類・又今昔物語・宇治拾遺・平家物語・著聞集・十訓抄・江談・古事談・續古事談の類（此種類の書猶あまたあり）皆史學に屬すべし、さて右の類の書をよみて、古今國郡山川制度名物の變遷、又王臣の興廢貴賤の好尚等、世に隨て異なるを詳にせんことを學ぶべし、しかれども古今典例の詳なる事を知らねば、史を讀んで通じがたき事あり、此故に律令式必よむべきもの也、其律令式は全く唐の制を學びうつしたるものにて、此學をせんには、唐代の制度の書を參挍して、其詳なるよしをしるべし、令をよむには唐六典・杜氏通典・新舊唐書の諸志を以相照すべし（唐の令式は今亡びて傳はらず）扨又彼をうつさずして、吾國の風俗に隨ひて立たる筋の事あり、それは國史につきて、よく吾古のさまを考へしりて後辨べし、令條の今の世に行はるる義解の本は、養老の時の令にて、今は倉庫醫疾の二篇亡びたり、此二篇の闕を補しるべきものは、政事要略・令集解等の書に其事散在せし事多く、又其文をも引用せり、後世に出たる官職秘抄・職原抄・百寮訓要などの類の書も、皆此令をよむ助ともなすべく、且世に隨て官位などの變改ある事をば、これらの書にて考べし、律は古は十二篇有しものなりしを、今はわづかに名例・衞禁・職制・賊盜の四篇のみ殘れり、よりて今其全き事は知がたき事あれど、後世明法家の學者の錄し置る書にあり、法曹至要・裁判至要・金玉掌中抄等の書あり、皆律條全く存したりし時に、其肝要の事を抄錄せしものなれば、其大概を知らるべし、又三代格・政事要略等の書によりて、律條のしらるべき事あり、さて唐律は今全篇存したれば是亦比挍に備ふべし、後世鎌倉にて撰せられし貞永式目も、全く律にもとづきたる書なれば、律學をなすもの丶讀考べきものとす、式は今延喜式全存したれば、古の制度を詳に觀るにたれり、（弘仁貞觀の式は今亡て傳らず、世に弘仁式の闕本とてあれども、疑ふべきものなり、）

格も三代の全書は亡びて、類聚三代格の鈌本のみ今にのこれり、此餘儀式等の委しき事は、貞観儀式・内裏儀式・新儀式・侍中群要等の書存したれば詳に考る事を得べし、さて貞観儀式と延喜式は、事體やゝ異る事もあり、それより後西宮記・北山抄・江家次第等皆其時代にしたがへる沿革あり、又公事節會の時の座席、及び宮殿等の制を考るには、禁秘抄・雲圖抄・禁腋秘抄・大槐秘抄・拾芥抄等あり、地理の書は諸國風土記皆亡びて、只豐後出雲の二書のみ存したれば詳にしがたき事多し、只其郡郷の名は和名類聚抄に擧たれば古名のみは考知るべし、又器物調度の類を考べきは、延喜式・江次第等の書によりても知らるべく、類聚雜要・吉部秘訓等の書には其圖式も多く出たれば詳に考得べし、裝束服飾の類は、衣服令、延喜式を始、雅亮假名裝束抄・飾抄などより以下代々裝束の書甚多し、且世に隨て變改一樣ならず、後世に及びては古の名目を誤り心得たる類も多ければ、是又廣く古今を詳にすべきなり、偖此國史實錄律令典故の學をなすにも、吾國の古言に通ぜざれば叶はざる事あり、先史學の始とすべき古事記の一書は、全和語を以て錄せし物なれば、古言を知らではいかでか通ずべきや、又日本紀は漢文を以て記したる書にはあれど、其本は古事記の如く和語を錄したる書をとりて、强て漢文となせしものなれば、其義理の漢文に改がたき所に至ては、古言のまゝに和語を載たるも多く、漢字を以譯したれど、猶古の語を失ざらん爲に某々の字は、此に何々といふなどの自注も多くあり、且古事記・日本紀の二書に、古の歌を載たる凡二百餘首あり、此類古言を知らでは讀べからず又延喜式に載たる祝詞、歷史に出たる宣命の類、皆吾國の古文也、其他官職名物の瑣碎なるまでも、皆古言の殘りし事多し、よりて吾國の書を學ぶには、古言を知らずして有べからず、此古言を知らんとするには、古事記・日本紀・萬葉・祝詞・宣命等をよく讀にあらずしては知がたし、しかのみならず、後世の歌集・日記・物語の類をも廣くよみて、古今を照らして考べし、古言を解には別の法なし、たゞ例と類とを廣く押て知べし、其義おのづから明らかなるものなり、さて古言に通じたる上には、古の人情世態も格別に明らかに知らるゝ事あり、こゝにくらき時は、いたづらに國史等をよめども誤解して、殊に其事實をとり失ふ事あるべし、されば

是又一科の專業の學となすべきなり、吾國の古書今も傳はれるものいとあまたあれど、和學をこのむ人世に少きまゝに、印行に成たるものいと少し、かくの如くにてとし月を經ば漸々に失ひて、百年の後は多く亡ぬべし、これはいとなげかはしき事なり、有志有力の人これを刊行しおかば、永代國の寶ともいふべし、其印行になき書、今委しく擧るにたへず、只肝要の一二をこゝに擧ぐ、

類聚國史　原は二百卷有しもの也、今僅六十餘卷存、

日本記略　原本卷數未詳、今僅二十餘卷存、

扶桑略記　原は三十卷有しが今は十卷殘れり、或人云、柳尾舊藏に此書三十卷の全本ありと未レ知二其詳一、

本朝世記　原數未詳、今四十餘卷有といふ、未レ見二其書一、

日本後紀　今存したる本は、僞書なりといふ、今其書をみるに後人の僞作ともさだめがたし、古の本にはあらざるべけれども、古人の古書によりて、抄錄せしものならんか、類聚國史などの誤字にて、よみがたき所、此書にて明らかなる事あれば、かならずしも廢すべからざる書なり、

新國史　日本史の引書目に載られたるは、水戸には殘本の存したるものありとしらる、世にたえてなき書なり、未レ詳二其眞僞一、

以上皆正史にてかならず有用の書なり、殊に宇多醍醐の時世は、記載いとまれなるを、この日本記略・扶桑略記等の幸に存するによりて、ほゞその時世を考知らるゝ事あり、此外に諸家の傳雜記の類印行になきものいと多し、又家記の類は李部王記・九暦等の書を始として、百餘部あれども一も印行のものなし、

令集解　律四篇　類聚三代格　貞觀儀式

新儀式　內裡儀式　西宮記　北山抄

政事要略　此書原は百三十卷有しものなり、今四十卷計あり、　侍中群要

裁判至要　金玉掌中抄

以上皆古の典故を考べき書にて、必失ふべからざるものなり、此外必用の書の印行になきものいと多し、正史典故にあづかりて、必闕べからざる書の印行の本なきは、昭代の闕典ともいふべからん、

和學大概終

漢學紀源卷一目次

漢學紀源卷一

麑藩　伊地知季安子靜撰

儒敎第一

夫天之生二斯民一也、使下其出レ類者擧爲二君師一任中之先覺上、布二諸政敎以覺乙後覺甲也、其法禁勸防、以正二乎人一、是之謂レ政、脩レ道明レ倫、以覺二乎人一、是之謂レ敎、未知未能必效二諸先覺一、是之謂レ學、所謂儒其學レ焉而通二三才一、以レ道得レ民者之稱也、道之在二天下一未二嘗亡一也、而傳二其統一者、苟非二其人一則不レ得而與一焉、其大原則出二於天一、具二於人心一著二乎事物一、羲・農・黃帝・能知二其然一、繼レ天立レ極而道統基焉、自レ是厥後堯・舜・禹・湯・文・武・周公・纘承鑒備、郁々乎其文焉哉、至二孔夫子一遭二周衰季一、始不レ得レ位、聖人之道不レ行二于世一、於レ是夫子粹二群聖之法一脩爲二六經一、以垂二標準於萬世一、微言大義天開日揭、其弟子冉・閔・顏・曾之徒、莫下不三聞而守二其道一者上、是以自レ古儒者之業莫レ先三於講二究六經一、孟子曰、聖人百世之師、又曰、舜人也我亦人也、有レ爲者皆若レ是、其孰人而可レ不レ學焉乎、

神誨第二

夫經籍之入二國朝一也、蓋濫二觴乎神功皇后居レ攝之時一、抑我任吉等之惘二後覺一亦可レ謂レ至矣、方二仲哀帝將レ伐二熊襲一、有下託二皇后一而誨上焉、（據下古語拾遺神功紀、及繼體紀六年、物部大連麁鹿火之妻諫二大連一語等上）曰熊襲不レ服何憂レ之、有二彼空國一耳、西有二寶國一謂二之新羅一、彬郁豹變金銀殖焉、若祀二吾儕一則其必自服、帝曰、望レ洋邈遠安得レ有レ國、況皇祖既祀二神祇一、豈有レ遺焉乎、又託二皇后一曰、以レ余望レ國天水渺茫如レ霧橫レ空、汝其王レ之、帝猶不レ服、遂討二熊襲一不レ克而還、明年帝崩、

收籍第三

皇后傷下帝逆二神敎一崩上、（舊事紀中二賊矢一）益欲下徼レ福親將二舟師一征中伐新羅上、新羅乃降、進入二于郛一、封二重寶庫一收二圖籍文書一、高麗百濟亦聞二新羅降一、自來降服、三韓悉平、（據二神功紀一）初先帝之崩也、皇后有二遺腹子一、還レ自二新羅一生二諸筑紫一、是爲二應神帝一、帝之幼也、皇后攝政、聖化德音洋二溢乎中國一、施及二三韓一、百濟王肖古、（古事記作二照古王一、皇后紀作二王肖古一）

或作二背古王一、續紀同レ此、欽明紀作二速古王一、皆應二此人一也、使下久氏等如二卓淳一求上道、欲三以聘二國朝一、暨二皇后四十六年一、遣二斯摩宿禰等一如二卓淳一、宿禰等乃聞二王欲レ聘二遣レ人裝王一、明年肖古王、遂遣二久氏等及新羅行人一始聘二國朝一、據二東國通鑑一肖古王元年、當二我成務帝三十七年一、而此年則爲二八十一年一、時新羅奪二百濟幣一以易二其幣一、四十九年皇后遣二荒田別一帥レ師導二久氐等一、往會三肖古王及王子貴首於二卓淳一、以伐二新羅一、亦神功紀據レ是考レ之、海西書籍之入二國朝一、蓋應下首乎皇后親征新羅一所二收還一本上也、然國人未レ讀レ之者、故詔二貴首王一徵二有識者一、見下可二併觀一焉、一說前レ此孝靈帝七十二年、秦人徐福率二童男女千人一、既齎二三墳五典一歸二化于國朝一云、按宋歐陽脩日本刀歌亦云二是事一、云、「傳聞其國居二大島一、土壤沃饒風俗好、其先徐福詐二秦民一、採レ藥淹留丱童老、百工五種與レ之居、至レ今器玩皆精巧、前朝貢獻屢往來、士人往々工二詞藻一、徐福行時書未レ焚、逸書百篇今尙存、令二嚴不一レ許レ傳二國中一、擧世無三人識二文字一、先王大典藏二夷貊一、蒼波浩蕩無レ通レ津、令二人感激坐流涕一、鏽澀短刀何足レ云」、今按徐福齎二墳典一來說蓋首レ于レ此、然我朝史籍無二確據一矣、則其所謂逸書尙存云、亦應乙誤下皇后所二收還一本等上以言レ之也、

徵賢第四

先レ是國朝自二神代一敎レ人正直、其爲レ治亦無爲自然、則民只鼓腹而遊、含レ哺而嬉、晝動夕息、渴飮饑食、未レ有三人通二書籍一也、於レ是乎　應神帝憫二不便一乎、以施二政敎一、因二荒田別一如師、詔二百濟王一搜二有識者一、應神紀爲二十五年事一、然據二續紀一則似下應神五十年尙爲二太子一時上、詳辨二下注一、欲レ使下其來敎二皇子一讀中諸典籍上、貴首王續紀作二貴須王一、或作二久素王一、東國通鑑作二仇首王一、姓氏錄作二貴首王一、書紀同レ此、乃恭奉レ詔特選二於宗族一、遣二其孫辰孫王一、據二續紀一百濟王仁貞等、援二家牒之語一、但有二原注辰孫一、一名爲二智宗王一、按津連等云、太阿郞王曾孫辰爾、姓氏錄船連傳、則作二太郞王三世孫智仁一、據レ此智宗君辰孫云、蓋皆音轉耳、及阿直岐一書紀舊訓阿止伎、古事記則阿知吉師、倭讀二王字一似レ云二吉師一、而辰字亦讀爲二止伎一、且韓用レ阿、或時加省、蓋非二固名一、據レ此辰孫與二阿直岐一似レ非二二人一、註俟レ考、偕使二來朝一明年二月、荒田別等還レ自レ伐二新羅一、五月千熊長彥以二久氏等一反レ自二百濟一、書紀辰孫王等從レ使來朝應レ在二此時一、辰孫王祖曰二首王一、父曰二辰斯王一而於二枕流王一爲レ姪、按二書紀一以二辰斯王一爲二阿花王叔父一、而阿花王乃枕流王之子也、據レ此辰斯王爲二貴首王叔子一、而枕流王弟明矣、且知宗爲二辰斯王子一、見二姓氏錄岡原連家傳一、故帝特遇レ之、一說阿直岐來則獻二周易・孝經・論語一云、未レ知二其據一也、

初學第五

皇子稚郎子學於辰孫、書紀作阿直岐、今從續紀、國史畧以辰孫爲王仁誤、始讀經典、大闡儒風、因帝問焉曰、猶在百濟有博士賢於汝乎、對曰、有王仁者、祖曰王狗、其先西漢人、出自漢高之後鸞王、至王狗徙居百濟、據文忌寸最弟上書、王仁爲人材秀學博、非臣所及也、其明年百濟復遣久氐・等來聘、皇后及帝說、乃皇后語帝曰、實神所授豈能分乎、復遣千熊遂久氐等、以徵王仁、且詔肖古等曰、遵神所諭始啓海西、永以封汝、克欽鎭撫、肖古王及子貴首再拜稽首曰、何日忘恩、永稱蕃臣無敢貳心、又誡孫枕流曰、汝鎭西蕃、勿怠朝貢、斯天實所使倭皇啓以賜不穀也、乃又明年遣久氐等、偕千來獻刀鏡及重寶若干、蓋王仁來亦應在此時、而其所貢論語・千字文・應在此重寶中也、於是稚郎子更師王仁、遂通典籍、本朝文教于是始矣、而迨帝世二十八年高麗上表曰、高麗王敎日本國皇子、讀表大怒召使於前、責其無禮、面裂棄却、帝甚鍾愛焉、若非汝讀之、國朝孰知失禮如斯乎、文教之重、人材之貴、可以知也、自是國朝爲政於天下、知莫如由乎學、愈以弘文爲時急務、亦其宜哉、而今不詳王仁始授皇子以倭讀否、或註古今序、以難波津歌爲王仁所賦、據此王仁既通倭語、則創倭讀、亦似其時、但倭點法猶未肇焉、橘直幹長門守長盛之子、爲文章博士、事村上帝、爲一世文士云、賦倭歌贊王仁云、「和多津見野、千倍野四羅奈身、古江天沾曾、八嶋乃國爾、布箕波都太不禮、」又其圖贊曰、五彝教化將開、博士自海來、永言於難波梅、日域文華之魁、云可併證也、據書紀・古事記・古語拾遺・續紀・姓氏錄・竟宴歌・大日本史・國史略等爲文、

按書紀　應神帝十五年八月、百濟王遣阿直岐、貢良馬二匹、阿直岐能讀經典、太子菟道稚郎子師焉、天皇問曰、勝汝博士亦有之耶、對曰、有王仁者是秀也、時遣荒田別等於百濟、仍徵王仁、阿直岐乃阿直岐史始祖也、十六年二月、王仁來、則太子菟道稚郎子師之、習諸典籍於王仁、莫不通達、王仁乃書首等始祖也、又古事記云、百濟國主照古王、以牡馬壹疋牝馬壹疋付阿知吉師以貢之、阿知吉師乃阿直岐史等祖、亦貢橫刀及大鏡、又詔百濟若有賢者貢之、故貢和邇吉師、乃以論語十卷・千字文一卷付之貢

進、和邇吉師者文首等祖、又古語拾遺云、至磐余稚櫻朝、住吉大神顯矣、征伐新羅三韓始朝、百濟國王懇致其誠、至輕島豐明朝貢博士王仁、是河內文首始祖也、又續紀延曆九年、百濟王仁貞津連眞道等援國史家牒以有表云、眞道等之先出自百濟國貴須王、而背古王時始聘國朝、乃神功皇后攝政之歲也、後應神帝命荒田別使於百濟搜有識者、國主貴須王恭奉使旨擇採宗族、遣其孫辰孫王、（一名智宗王）隨使入朝、帝特寵之爲皇太子師、始傳書籍大闡儒風、文教之興誠在于此、按古事記、所謂照古王卽肖古王、而據書紀則肖古王卒於皇后五十五年、後三十年爲應神帝十五年、又貴須王乃肖古王子、而亦書紀則卒於皇后六十四年、後二十一年爲應神帝十五年、且王仁之後人文忌寸最弟等陳家所傳、亦曰聖朝遣使徵文人、於是久素王乃貢王仁、按久素王亦貴須王也、而貴須肖古並卒於應神帝未立以前、則紀所謂十五年恐有年誤否、續紀爲貴須王時、却爲誤亦未可知、然文忌寸津連船連百濟王等家所各傳說、並爲貴須王時、惟古事記爲照古王時、雖如異傳、肖古貴須父子也、皆並其時則似不抵牾、本居氏亦辨之曰、書紀年月間或誤繁、如皇后時卽應神時而王仁等來應在於皇后五十五年肖古等未卒前矣、此說得之、據是應神紀所謂遣荒田別召王仁、則應皇后四十九年遣荒田別以貴須王等師伐新羅時之誤也、故今季安參考衆說以註于此、竢博識更有正焉爾、

神性第六

皇后屢贊曰、從神所敎、始獲寶國多貢重寶、愚謂其重寶、則莫善於典籍、（孝德紀載西海使謁唐主、多得文書寶物而歸、帝特褒之觀其言、文書先乎寶物、亦可以證焉、）諸冊二神出入幽顯、日月彰於洗目、浮潛海水神祇生於滌身、孕土產嶋而萬物生成、到今不息、神胤皇胄詵々繁衍乎日域諸州、皇孫降襲立統而降、一姓爲君以傳無窮、率土之濱靡弗臣庶、君臣安分俱保宗廟之至如是久、四海萬國所未有也、惟斯一事性善美俗足可以觀矣、於是乎雖曰未學、東漢范曄遙仰我風稱君子國、唐王維稱海東諸國、日本爲大服聖人之訓有君子之風、宋太宗聞僧奝然、聞一姓傳祚臣下世官、特歎息欲傚之不亦宜乎、夫物生焉則參神、（古事記）既莫物不

賦之性、而各所稟莫靈於人、菅丞相所謂民者神明賚云、此之謂也、洞燭無朕、靡理不具、撿諸其身則非斯文弗能啓迪、是以住吉神等之誨皇后亦惟其意、蓋在欲闡斯文於我國、人以載神理與天地長垂諸無窮、普覺開物成務之道於後覺焉而已、豈徒爲殖金銀貨利夸于三韓也乎、傳所謂楚國無以爲寶、惟善以爲寶、神道亦然、善無常主、每事擇善、協于克一、本然良知俯仰靡愧、神必祐之、國君好善優於天下、士雖窮居以淑其身、於人爲寶、何以易之、而殖金銀貨利不與存焉、由是觀之住吉等之所欲可知已矣、故其重寶吾知其謂典籍也、

貢士第七

自皇子通經後、蓋使王仁等掌東西庠、開弟子員以亦授之、（辰孫之後人津連眞道等云、吾濟先祖委實國朝、年代深遠、家傳文業職掌西庠事、見續紀、又王仁墓在河內州交野郡藤枝村東北御墓谷、今稱於爾墓、見河內志、又天智帝時僧詠自百濟歸化、以文學鳴于河內、爲大學頭、亦見續紀、此類尙）多、於是乎國朝人亦稍至冰釋以記言事、後百餘年履仲帝時置史諸國、可以知也、而繼體帝時百濟王遣文貴等送我行人、且推轂五經博士段楊爾上庠、五年又推轂漢高安茂、以代楊爾、或曰、此時使舶持五經書還自百濟、蓋亦言之、欽明帝世五經博士馬丁安及僧道深等、自百濟來、各教僧俗後又應召遣五經博士王柳貴・易博士王道良・曆博士王保孫・醫博士有㥄陀（本ノマヽ）・採藥師潘量豐、各持其卜曆等書來代丁安等、又遣僧日雲惠等九人同代道深等、又吳人智聰齎儒釋方書明堂圖（凡百六十四卷）及樂器等來、皆爲以覺後覺也、敏達帝立、高麗上疏帝乃聚東西諸史令讀且解、莫獨解之者、惟王辰爾能讀焉而解其意、帝大悅曰、勤乎懿哉、微汝孰解、特詔近侍殿中、蓋當時之俗、神化自然質朴忠厚具君子體、然尙操觚多皆牆面鮮不赧愧、於是高麗又將辱之、書疏烏羽以上、帝令辰爾讀、乃蒸印帛得寫解文、朝野咸服其巧智、辰爾乃辰孫王之玄孫也、由是帝愈誡諸史督之勤惰、令以勵學業、（書紀續紀）是則無佗、豫恐其臨事露恥故也、帝又聞日羅賢而直勇、遣使召諸百濟、百濟乃學日羅、日羅被甲乘馬詣闕下而跪、拜曰、臣本國朝人、父曰阿利斯登、仕于宣化朝爲國造於火葦北（今肥後國在芦北郡）以靫負部隸大伴大連、奉勅使於海外、（帝之二年大伴金村、奉詔遣其子狹手彥、帥兵往救任那此也、）生臣百濟

今辱應召來歸待詔、乃解甲爲贄、於是帝問政於日羅、對曰、要在養民、食足兵足則民信服、外人亦懷、然後不朝或至興兵、盡理獻策、外士談兵蓋首于此、後世尊奉爲勝軍地藏者亦祀之云、而用明帝太子聖德出以聰敏資好讀漢籍、習佛敎於高麗僧惠慈、學外典於博士覺哿、內外通悟、特尊佛敎而點漢文、始注和訓、（卜部氏舊說云）所謂倭點于是始云、又推古帝時僧覺勒、自百濟來貢曆本及天文地理書、乃詔生員各受學之、陽候史玉陳習其曆法、大友村主高聰受天文學、皆各成、明年太子愈好漢土之風、始制冠位、又明年制憲法十七條、改定朝禮、（書紀）則唐王維所謂正朔本乎夏時、衣裳同乎漢制云、亦應言之也、

唐學第八

太子之惘後世亦無所不至、雖使韓人代居博士、設科分業以敎生員、日求其材、三韓人敎之、衆倭人咻之、而鮮所得矣、遂知莫如置之隋留學積年、乃十六年遣學生倭漢直福因、（見後）奈良譯語惠明、（後作惠日、疑此）高向漢人玄理、（後或作黑麿、按續紀後漢靈帝曾孫阿智王之歸化也、請應神帝召男女於其舊里、今諸國漢人此云、據此、如玄理等凡曰漢人者皆應其後也、但加新字蓋言其歸化在近也、）新漢人大國、學問僧新漢人旻、（書紀作日文、或作白文、後多作旻、訛爲二字耳、）南淵漢人請安、（舒明紀書僧清安、又皇極紀書南淵先生、皆應此僧請清有誤、未知孰是、）志賀漢人惠隱、（見後）新漢人廣齊（後有惠齊、疑此）等八人、往學于隋、十八年僧曇徵等自高麗來、亦知五經者也、二十九年太子既薨、三十一年僧惠齊・惠光及醫惠日・福因等、駕新羅船還自唐、（前此六年爲唐高祖武德元年）皆報告曰、留學唐者皆業各成、請必辟還、且修隣好禮儀文物足有取焉、舒明帝立、復遣三田耜及藥師惠日使於唐、唐太宗（名世民、姓李、高祖第二子、）遣高表仁送我行人、時僧靈雲・僧旻及勝鳥養等、歸自學問、（四年八月）是等在唐二十餘年、稟氣伶利不倦于學、富內外書以博物聞、又十一年僧惠隱・惠雲等歸自學問、凡在唐三十餘年、又其明年僧清安（見上）學問生高向漢人玄理等還自學問、亦在唐三十餘年、天智帝潛居時、及鎌子連慨然憤發、倶學周孔之敎於南淵先生、（疑僧清安）情好日密事見帝紀、凡國朝史學周孔云、其有明文、蓋于是始、林氏所著稽古篇、言南淵先生事曰、文而能武、百篇奎章、惜卽今亡云、亦此人也、但國史略以漢人爲先生名誤也、詳見上註、

建學第九

孝德帝立乃以僧旻與玄理爲國博士、先是徵之三韓交承教授、至帝時始任國人、可觀其益達材也、大化五年帝又詔玄理及旻、始置八省百官、而式部省則建大學寮、以玄理旻等有才名、爲大學博士教授生徒、國朝建學蓋于斯始也、繇是益遣僧及生員往學於唐、白雉四年旻卒於阿曇寺、（一說五年七月旻傳則作六月）其疾也、帝親幸問焉、五年玄理使於唐卒、帝惜之、天智帝立、詔鎌子連與時賢人議撰禮儀刊定律令、如鎌子則可謂國朝叔孫通矣、二年僧詠自百濟歸化、而以文學鳴於河內、擢爲大學頭、（見續紀神龜元年）生員愈滋、至如天武皇子大津材學並進、愛文賦詩、國朝詩賦自皇子始、持統帝世猶勸以祿、或以封戶、則四年四月賜大學博士上村主百濟大稅千束、以勸其學業云之類此也、於是乎諸博士學官蓋寖備焉、苟其有材則雖自唐韓歸化焉者、必學充官、或雖浮屠善達科業、詔賜之姓、必授其職、世無闕官、至文武帝大寶元年二月丁巳始行釋奠、（丁巳四日）又元正帝養老二年詔造釋奠器、聖武帝神龜三年玉來〔紀略作玉桒或曰玉英之誤〕生於內裏、勅朝野文人各爲之詩、時應制者百十二人、賜物有差、稍可以觀其多達材也、孝謙帝天平寶字元年、（八月己亥）置大學寮田三十町（或二十町）供生徒用、延曆四年菅原古人以儒知名、侍讀桓武帝有輔弼功、至是勅賜其子清公等四人衣糧、令勵學業、十一年（或十七年）詔令學漢音、十三年十一月（丙子）詔賜大學寮越前水田百二町、號曰勸學田、併故二百二十餘町、平城帝大同元年勅諸王以下子弟十歲已上、皆入大學分業教習、三年二月省直講博士一員、置紀傳博士、嵯峨帝弘仁十二年、先是文章博士爲從七位官、至是二月（甲申）爲從五位官、淳和帝天長元年（辛酉十一月）勅給大學寮山城地五町九段、二年五月（戊辰）勅明法博士爲從七位下官、四年三月（甲戌）給大學寮河內荒閑地五十町、仁明帝承和元年四月停紀傳博士、加置文章博士一員、八月帝釋奠文宣王於紫宸殿、自講尙書、後爲恒例、嘉祥三年五月太皇太后崩、嘗奏請建學舍曰學官院、令橘氏子弟誦習經史、人稱其賢比漢劉氏、光孝帝仁和元年八月釋奠、大臣公卿九拜聖像、先是輪講論孝五經周禮等、是年講周易、醍醐帝延喜五年勅忠平

等、令撰定式、別立篇目、曰大學寮釋奠等式開卷瞭然、又村上帝康保元年詔以學官院爲大學寮別曹、又釋奠講書拾芥抄則輪轉七經云、孝禮詩書論易傳此也、

粟田第十

粟田眞人姓粟田朝臣、歷事文武・元明・元正三朝、大寶元年持節使于唐、風潮暴險不得通船、二年五月參議朝政發船入唐、抵楚州鹽城縣、時會高宗（名治、太宗第五子、）既崩、太后武曌僭竊大位、（廢子中宗爲廬陵王）改號大周、乃賜宴於麟德殿、聘禮既竣、性素好學其留滯也、受儒經於四明敎授趙玄默、能屬文、唐人謂之曰、久聞海東有大倭國、人民豐樂禮義敦行、今觀使人冠進德冠頂有華蘤四披、紫袍帛帶、威儀大淨如神、咸信所聞莫不嘆美焉、（事見唐書）慶雲元年七月至自唐、乃十一月詔賜眞人田二十町於大倭國、又賜穀千斛、皆賞使節功、二年四月爲中納言、八月叙從三位、和銅元年三月遷太宰帥、靈龜六年四月轉正三位、養老三年二月甲子薨、

吉備第十一

本姓上道、名曰眞備、右衞士少尉國勝子也、靈龜二年元正帝時從聘使往學于唐、迨聖武帝時愈勞博士等、勸學勉學業、若敏而劇勵、或窶苦者特給服、天平七年（或爲五年）眞備還自唐、凡留學二十年、（或十八年）研覽經史、該涉衆技、播名於唐、與朝衡（安倍仲麿）無優劣、其歸也、獻孔聖及十哲像・唐禮百三十卷・大衍曆經一卷・樂書要錄十卷・測影鐵尺一枚・銅律管一部・鐵如方響・寫律管聲十二條及諸弓箭若干、皇太子（孝謙帝）尊尚儒範、乃從眞備受禮記及漢書、（一說受十三經、而漢音則于是始云、按式釋奠有注曰、古人云、此式多用漢音、亦應自眞備傳也、）恩寵甚渥、賜姓吉備朝臣、官歷中納言至右大臣、世謂吉備公此也、恢弘道藝親自傳授、乃令學生四百人各從科業、習五經三史明法算術音韻籒篆等之道、（日本儒林傳、則爲四科、紀傳明經明法算術也、）因勅置勸學田、（百九十町、）或給利稻以資費用、先是釋奠其儀未備、至眞備歸細稽禮典器物、始修禮容可觀焉、（式所釋奠、先聖文宣王・先師顏子座及閔子騫・冉伯牛・仲弓・冉有・季路・宰我・子貢・子游・子夏・從祀九座云、）亦應眞備所齎來像也、但觀其所著私敎類聚、則亦學內外敎

者明矣、然匪下徒馳二空文一之屬、討二夫押勝一寘二道鏡一云亦二眞備之力一也、以二寶龜六年十月一薨、年八十三、續紀・文粹・唐書、

崇聖第十二

聖武帝又詔二式部省、蔭子等不レ問二長幼一皆入二大學、加之每レ聘レ唐、則涉レ學者寖益弗レ絕、而其歸必購二所レ無書一獻貯二之庫、莫三以不レ稽二於正名辨物一焉、孝謙帝立勝寶四年膳臣大丘、游二學于唐一入二國子監、覩三其門題二文宣王廟、欽仰而還、實字中詔令三天下民誦二孝經、追二帝重祚、擢二大丘一爲二助敎、遂有三以聞、乃神護景雲二年於二國朝一亦詔題二聖廟、曰二文宣王、傚二唐追封一也、然其享坐諸儒所レ說不レ同、而追二助敎家守還レ自二遣唐、寶龜六年補二遣唐、習二五經大義切韻說文等、旣同補二助敎、講二三傳之義一云、據考二經義及大唐行所具錄、遂定二南面一云、據二類聚國史一

仲滿第十三

仲滿姓安倍氏、本名仲麿、中務大輔正五位上船守之子也、靈龜二年元正帝時、從二遣唐使一西遊二于唐一爲二留學生、性聰敏好二讀書、玄宗愛二其材一而厚遇レ之、於レ是仲麿乃易二姓名一曰二朝衡、朝或作レ晁、遂仕二于唐一累二歷檢校、爲二左補闕一至二秘書監、與二王維・李白・包佶・趙驊等一友善、天平勝寶五年當二唐天寶十二年、一說爲二天寶十五年事、衡駕二我行人藤淸河之舶一將レ還レ自レ唐、王維・包佶之徒、以レ詩送レ之、則王維、積水不レ可レ極、包佶、上才生二下國、趙驊、西掖承休澣、之詩等、應二此時一也、旣抵二明州海岸、而將レ上レ舟惜レ別入レ夜、仰見二海天、乃以二國辭一作二三笠山月歌、譯示二唐人、衆大嘆賞、旣而泛レ海、舶遭二暴颶、漂到二安南、人或傳爲三衡沒二于海、李白作レ詩哭レ之曰、日本晁卿辭二帝都、征帆一片繞二蓬壺、明月不レ歸沈二碧海、白雲秋色滿二蒼梧、是也、未レ幾衡自二安南一復適レ唐、事二肅宗一世乃喜二其無レ恙、授二左散騎常侍、歷二安南都護一至二北海郡開國公、食邑三千戶凡留二于唐一五十五年、或爲二五十年、以二大曆五年正月一死、得レ壽七十九、一本七十三、或爲二七十二、云、代宗悼惜、以二（贈字）潞州大都督、是歲實我朝寶龜元年也、至二十年五月、光仁帝聞下仲麿死二于唐、而家口乏闕上中、其葬禮、勅賜二東絁一百匹白綿三十屯、當時入唐勤二學業一者特爲レ不レ少、而其擅二名海西、則吉備朝衡二人云、今按古之遣レ生學レ唐、蓋不下レ外二於博達二其材一以從中國政上而已矣、然如二仲麿一却失二節操、遂仕二于唐一至レ拜二顯

職ハ、雖下載ニ唐書一耀中名千歳上、不レ可三採列ニ諸國儒傳一、但據下帝追ニ賜賻一葬レ之被レ悼ニ乎唐一至上如レ彼、亦其實出ニ於忠藎ハ、可ニ以知一也、況使四外人永知三國朝不レ乏ニ文人ハ、故採ヲ載之ニ亦愉快哉、

菅江第十四

迨ニ嵯峨帝時ハ、菅原清公・清原眞人・南淵永河・朝野鹿取・小野岑守・菅原清友等以ニ儒學一聞、清公有レ子曰ニ是善ハ、能紹ニ家業一侍ヲ讀清和帝ハ、講ニ孝經・論語・經史等ハ、官至ニ參議一、補ヲ翼政教ハ、又工ニ文藻ハ、帝特寵遇、嘗奉レ詔撰ニ文德實錄十卷ハ、都良香亦與レ焉自撰ニ東宮切韻二十卷・銀牓輸律十卷・集韻律詩十卷・會分類集七十卷・家集十卷一以ニ元慶四年八月晦日一薨當ニ此之時一大江音人亦以ニ博學治聞一振ニ名於世ハ、嘗及ニ是善奉レ勅撰ヲ定貞觀格式ハ、如ニ其序及表文ハ、皆出ニ於音人手ハ、所レ著有ニ郡籍要覽四十卷・弘常範三卷ハ、而與ニ是善一齊ニ名一時ハ、又村上帝時大江朝綱菅原文時、亦以ニ儒學一振ニ名於世ハ、帝使下二人各擇ニ白集壓卷詩一首ハ、別封以上上、帝啓レ緘則同採下送ニ蕭處士一遊ニ點南一之作上、帝特嘆曰、卿等識鑒何乃符合、朝綱退語レ人曰、後來應下必以レ吾與レ菅稱爲中一雙上、到ニ于今一世人往々竝稱ニ菅江一、自レ斯始云、

菅神第十五

醍醐帝時則菅丞相出、乃是善之子、諱曰ニ道眞ハ、以ニ睿知粹朗之資一生ニ於文運勃興之世ハ、就ニ都良香一學、良香奇ニ其聰敏一恥レ爲ニ之師ハ、業日益進、工ニ於辭藻ハ、聲聞超ニ父祖ハ、寬平四年奉レ勅撰ニ類聚國史ハ、昌泰二年陞ニ右大臣ハ、時帝富ニ春秋ハ、十四歲上皇宇多帝勅ニ右大臣及左大臣藤時平ハ、輔ヲ佐帝一攝ヲ行萬機ハ、以レ道得レ君至レ如レ是、則國朝自レ古所レ未ニ之有一也、惜哉未レ幾爲ニ時平所レ讒、四年正月左ヲ遷太宰權帥ハ、法皇聞レ之遽往欲レ救、夜至ニ宮門ハ、時平等令ニ閽勿レ內、故法皇亦不レ得ニ見レ帝解レ寃救一レ之、嘆息而還、初帝踐祚入覲ニ上皇於朱雀院ハ、上皇曰、右府齒德爲ニ海內所ニ景仰ハ、宜レ委ヲ任之ハ、因諭ニ道眞一亦以ニ此旨ハ、道眞因辭而退、時平聞レ之深嫉ニ才能ハ、又仁明皇子源光時、居ニ大納言一亦恥ニ己官在ニ道眞下ハ、時平與レ之計議遂構ヲ成之ハ、道眞赴レ謫未レ幾薨、萬民失レ望、嗚呼功業雖レ未レ及レ成、然到レ今尙忠貫ニ日月ハ、德輝ニ海內ハ、誠國朝之儒道於レ斯爲レ盛、自レ是而後帝王世崇ニ儒術ハ、菅江之族亦世不レ乏レ材、多爲ニ祭酒一掌ニ東西

庠、（在大學寮）學士文人問道於二門、莫不知崇周孔道、而講習五經、然至其所授則皆漢唐古註、而非宋儒新註明矣、凡菅氏所世著書、菅家集六卷（清公著）菅相公集十卷（是善著）菅家文章十二卷（道眞著）通計二十八卷、曰菅家後集、或曰獻家集狀云、

五經第十六

夫五經書據五經博士段楊爾自百濟推轂子繼體帝時則楊爾所齎貢之書云、前此距載六百四十、漢武帝建元五年置五經博士、迨肅宗時詔丁鴻與賈逵、論定五經同異、則於百濟倣置博士、亦應必在其後、而有以齎焉、爾後相繼五經博士馬丁安・王柳貴、易博士王道良等來於欽明朝、皆見帝紀、按初學記所謂五經秦以前、則以易・書・詩・禮・樂・春秋爲六經、至秦燔書樂經則亡、以易・詩・書・禮・春秋爲五經云、暨唐太宗時歎五經傳習寖訛、詔顏師古于秘書省考定、頒於天下、學者賴焉、後百卅年降代宗世、我朝寶龜六年光仁帝遣伊豫郡家守使于唐、家守留唐習五經大義・切韻・說文等、囘任直講尋輔助教、（類聚國史）今按家守所習、則依顏定本可推知也、後餘三百至圓融帝永觀二年、僧奝然浮海至宋、時宋太宗雍熙元年也、書對太宗國中有五經書、得自中國云、亦應顏定本也、而釋日本紀以禮・樂・論・孝・書爲五經云、未知何據、拾芥抄則以詩・書・禮・易・左傳爲五經、京極黃門未來記抄、及僧桂菴家法和點（明應十年著述、至元和十年刊行世）亦如之、易更三聖（伏羲・文王・孔子）成乎周矣、故謂周易、孔門商瞿受之、至漢四分施孟梁京、而其流有馬融・荀爽・鄭玄・劉表・虞翻・陸績・王弼之屬、據易博士王道良來於欽明朝、則道良所齎易亦依漢儒註、可概知也、詩有四詩齊・魯・韓・毛、而齊・魯・韓三詩亡于晉隋間、毛傳獨行孔門子夏、以授申公、申公以授魯國毛亨、至亨爲傳、以授毛萇、故謂毛詩、賈逵・鄭衆・馬融・鄭玄之屬皆受焉、尙書及禮記、漢武帝末魯恭王得之孔壁、皆蝌斗書、人無識焉、孔安國得而獻之、乃從伏生論古文誼（見孝經序、近嘉慶中、浙江督學阮元駁安國傳、古文孝經、爲後人所僞作、詳見下篇）爲尙書傳、賈逵・馬融・鄭玄等爲之訓傳、禮記有三家、戴德・戴聖・慶普、皆受后倉、倉受之孟卿、卿受之蕭、蕭受之魯高堂生、而二戴所傳儀禮也、於其中戴德所傳八十五篇爲大戴禮、戴聖所傳四十九篇爲今禮記、漢末鄭玄好小

戴記、爲之註、通儀禮周官、爲三禮云、春秋魯史孔子所脩、而其傳則左丘明爲演口授、故謂左傳、杜預註焉、按尺素往來（一條兼良所著）於本邦則以周易・尙書・毛詩・周禮・儀禮・禮記・春秋・論語・孝經・孟子・爾雅、爲全經、併之老子・莊子・荀子・楊子・文中子・列子・管子・淮南子等、淸中業儒者、世傳師說入備侍讀、（承和十四年、春澄善繩授仁明帝莊子之類是也、）如其傳及註疏正義、則前後漢晉唐等所注釋、本自古受焉、而於五經左傳依杜預註、禮記依鄭玄註、尙書依孔安國傳、周詩依毛亨傳、周易依王弼註、行于世云、僧桂菴家法和點、所謂五經古註亦皆是也、於其中周易・尙書・毛詩・禮記・春秋・孝經・論語・孟子之古本尙存、藏足利學山井鼎等、校閱諸本詳記異同、曰、七經孟子考文物道觀爲之補遺、物茂卿序焉、稱唐以前王段吉備諸氏所齎來、古博士之書刊行于世、凡二百卷、近皆往淸至嘉慶中、浙江督學阮元等見而信之、略擧所證爲誠、古本可供採擇者、竟刊小板行于彼國云、茂卿所謂王卽王仁、段卽段楊爾、並百濟博士、吉備卽上道眞備皆見前篇、彼嘉慶始則我後桃園帝寬政八九年也、

孝經第十七

桂菴所謂五經亦同拾芥抄學、但併孝經爲六經云、按淸和帝後博士等、授太子書自孝經始、且令國民讀亦必取焉、見孝謙紀、而其註則專依孔傳、卽孔安國所爲訓傳、而孔序有淺學者以當六經之語、又我貞觀二年制有爲六籍根源之文、由是本邦自古併孝經於五經以爲六經、所謂六經不與彼同、蓋首孔序、可併知焉、故明應中桂菴猶筆之書、亦爲所久承說者明矣、按孝經有二本、漢建元初河間王所得而獻、凡十八章者謂之今文、顏芝・顏貞・張禹等相承宗之、劉向亦從顏氏、而鄭玄爲之註云、其一漢武末年魯恭王、所得孔壁二十二章者謂之古文、魯三老孔子惠抱詣京師獻之天子、亦蝌斗書也、乃孔安國等於今文以定古文、遂從隷字寫于竹簡爲之訓傳、自是孔鄭二註皆行于世、而於西土孔註本既亡於梁亂、如世所傳出自劉炫、炫爲隋人、特好孔學、故安國之註劉炫之義、盛行於世、而至唐開元十年玄宗（奝然傳、爲唐越王大宰序、爲唐明皇）愍二註紛薈難平誦習、親註今文、詔元澹作新疏三卷、（司馬貞淺

學阿世、妄黜二閨門章一、由レ是御註本獨行二于世一、孔鄭二註並廢二於彼一久矣、然未レ廢前皆入二本邦一、於二本邦一世博士等敎二授生徒一、亦惟取二二註一、以迨二清和帝時一、貞觀二年十月壬辰下二令學官一以二御註本一授二其生徒一、然若勤レ博猶講二孔註一、亦聽二兼涉一、據レ是觀レ之、本邦自レ古孔鄭御三本、皆並行者明矣、是歲二月大學博士春日雄繼授二帝御註孝經一、故有二此制一、後餘百廿年迨二圓融帝永觀元年一、僧奝然入レ海適レ宋、獻二宋太宗唐越王孝經新義一卷一、事見二僧傳一、又日本僧奝然以二鄭註一來見二元人志一、而後朱子八歲讀二孝經一、題二八字一曰、若不レ如レ此便不レ成レ人、後據二古文一分二定經傳一、僅爲二刊誤一、未レ及二訓解一、爾後歷載餘四五百、明曆二年山崎闇齋、爲二之外傳一、述二朱子之意一云、又信陽太宰德夫名純得二孔傳古文者一、屢勤二校讐一以成二定本一、享保十六年刊二行于世一、其孔傳亦指二貞觀制一、爲二孔註一者、可二併證一也、但德夫序云、古書之亡二於彼一而今存二我邦一者頗多、宋歐陽子嘗作レ詩稱二逸書百篇一、今尚存、昔奝然適レ宋獻二鄭註孝經一一本於太宗一、司馬君實等得レ之大喜云、按唐帝取二孔鄭二註一以註二今文一、且奝然獻二宋本一亦如レ擧レ右、則此云二鄭註一、卽爲二御註本一明矣、又自二享保一降二二十年至二寶曆一、初讚州良野伯耕名芸之號二華陰一得二奝然遺本於南都一校定刊レ之、則亦鄭注今文孝經云、據レ是考レ之鄭康成註二今文一者、爲レ有二確據一矣、雖レ然太宰所二刊行一本既已往、清乾隆四十一年刻二於我國一、後廿二年迨二嘉慶二年一、浙江督學阮元等校訂刊行、日本山井鼎、七經孟子考文物道觀補遺、於二兩浙一皆莫レ不レ信、茂卿等稱、唐以前古籍多存二於今一矣、而惟孝經則據二僞孔安國本一、爲レ無レ足レ取、且駁二僞孔序一曰、其自稱下從二伏生一論中古文尚書上、稽二諸史記一安國早卒、計安國當下生二于文帝末年一、卒中于武帝大初以前上、安能逮レ事二伏生一、又其尚書序及見二巫蠱一云、兩無レ足レ據矣、餘皆爲二古本一云、今季安按若下其果非中史記稱二安國早卒一有上レ誤焉、據二孔傳本一出レ自二隋劉炫一云、則阮元所謂僞孔安國、疑隋劉炫所二僞作以行二于世一也、當二是之時一本邦學生福因玄理等、首學レ隋者七八人、而福因等囘、方二唐武德元年一、則應下必彼等因二盛行本一所二講囘一之古書上也、故自レ唐始行二于本邦一可二以知一也、嘉慶二年當二我朝寛政九年一、實近代說也、書竢二博識一耳、

論孟第十八

論語三本、曰論齊（二十五篇有問王知道二篇）曰魯論（二十篇）曰古論（二十一篇分堯曰、子張問爲二篇）、而古論亦出孔壁中、孔安國爲之訓解、漢張禹受魯論于夏侯建、又從王吉受齊論、擇善而從、曰張侯論、漢末鄭玄以此爲本、參考齊古而爲之注、魏何晏又爲集解、爲世所重、事見皇疏、而王仁之來也、獻論語十卷・千字文一卷、亦見國史、今稽年世、當西晉時、則王仁論語應必集解也、而桂菴所謂論語古註亦此也、又降梁世皇侃所爲義疏亦入國朝、古本尚存、近寬延中𥝱本伯修（名遜志稱八右衛門）得之足利學校、正刊行于世、服南郭序焉、稱海外後世蓋所不傳、近嘉慶中浙江督學阮元見日本板信之、洵爲六朝眞本云、可併證也、千字文晉鍾繇所造、則王仁所貢亦應此也、而於原本中濕雨久不次得、至梁武時得復舊韻、梁李暹註且序云、王仁齎來、非其本明矣、孟子前史列儒家、趙岐陸善經爲之註、張鎰丁公著爲之音釋、而至宋世始列于經、桂菴所謂孟子古註則趙岐註也、亦清人阮元等見日本板、信其章指勝俗本邵武義疏云、皆足證其爲古本焉、學庸二書舊入漢戴聖所輯禮記四十九篇之中、而以鄭注行、迨宋二程氏表章之、特爲所尊云、語在下篇、蓋國朝皇子之好學也、莫如聖德太子、太子聰慧、夙雖習佛敎於僧惠慈、學外典於博士覺哿、時猶當隋則覺哿所授經典皆漢儒古註、而於聖道未造蘊奧、妄穿鑿訓詁也已、於是乎、太子取信亦素外典之則不有如其尊佛之至淫溺焉也、其爲外典稽諸經傳、如明德語多爲聖人之道德光輝發越以施乎物者、因漢儒亦惟說聖人之用、而其外之故也、至朱子說明德、則爲人之所得乎天而虛靈不昧、以具衆理而應萬事者、是說聖人之體而爲內也矣、若其幸而使朱子生於太子前、以先入其說於國朝、則覺哿所授亦應以新註敎太子必闡明斯道、嗚呼不幸而使太子生於朱子前先受古註、故至使太子之靈利惟佛是尊、遂如儒籍妄稱外典、不亦甚遺憾乎、

新註第十九

夫新註者、孔子既沒、三千之徒、曾氏獨得其宗以傳子思、子思筆諸中庸、精微益明傳之孟軻、軻愈擴充述乎七篇、軻之死而其傳泯焉、遺經空存千五百年、迨至于宋天開斯文、濂洛關陝鉅儒輩出、周子爲學

不由師傳、默契道體、建圖著書、發明幽顧、有以接乎孟氏、二程續承、表章學庸經傳、粲然蘊微復彰、以至朱子、朱子之學、居敬七分、窮理三分、博採經史、斂華就實、尙粹、厥淵源闡而大之、道統復續、乃因程子所定、章句學庸、詳爲之序、以弘于世、實宋孝宗淳熙十六年、而於我朝、則後鳥羽帝文治五年、僧榮西遊宋之歲也、朱子又嘗集註論孟、欲次讀焉、併稱四書、迨其門人劉爚居國子司業、遂奏寧宗嘉定四年刊之、大學自是四書大行于世、爲後學所宗尊焉、今季安按、當時本邦有僧名俊芿者、字曰我禪、俗藤氏、肥後飽田郡人、建久十年浮海遊宋、明年至四明、實寧宗慶元六年、而朱子卒之歲也、居十二年嗣法北峯、士庶崇尊至畫其像、乞瑞律師爲之贊辭、以納祖堂、而其歸則多購儒書(二百五十六卷)囘于我朝、乃順德帝建曆元年、而寧宗嘉定四年劉爚刊行四書之歲也、(俊芿之歸也、購律宗經書三百二十七卷・天台章疏七百十六卷・華嚴章疏百七十五卷・雜書四百六十三卷、與上儒書通計二千百三卷、囘于本邦、見其傳、)據是觀之、四書之類入本邦、蓋應始乎俊芿所齎囘之儒書也、書俟博識爾、

宋學第二十

本邦緇徒之學宋也、道元・聖一・大明・大應・月林等、相繼遊宋、道隆・普寧・正念等歸化自宋、逮至元世、祖元・一山・子曇等歸化自元、皆宋儒說盛行于世之後也、而於其中擧概略、則祖元字子元、俗姓許氏、故宋會稽鄞人、七歲入小學、沈鷙寡言、年十三祝髮爲僧、道德益隆、四方傾企慕向者日益衆、而宋亡居天童、我朝弘安二年、北條時宗遣使招高僧、明州太守遣元充之、四年來見時宗、乃拓圓覺寺居焉、年六十一逝、明編修官揭傒斯爲之塔銘、其文、余聞西域諸國去中土至遐遠、然車馬可計日而至、而其人不知有孔氏者、東南諸國邈在海中、而皆言孔子、蓋去中土近、人居巽離文明之方、然尊信佛法與西域同、以海路不能限之耳、佛光(祖元號也)起乎會稽、赴平氏招、日本地近、又適其時、嗚呼佛光亦忠孝人哉、其銘亦云、邈矣、前聖萬化之宗、孔釋雖異、忠孝則同、孰知我元參天配地、孔釋並隆、無遠不至、據此祖元匪啻釋敎、兼精聖道、以唱宋學於本邦、亦足概證焉、一山字一寧、俗姓胡氏、亦故宋台州人、韶

齡就學以英敏稱、後入浮屠、正安元年（或爲三年）遁乎使命來朝于本邦、遂主建長、法規濟々、群衲鑽仰、就中錬虎關等、詢儒釋書通達古今云、朱子門人黃勉齋讀朱子德、海外夷虜亦慕其道、竊問其起居、家蓄其書私淑諸人者不可勝數、或逮沒後亦傳其書、信其道者益多云、按歐陽脩日本刀歌、呼吾本邦爲夷貊、據是觀之、勉齋所謂海外夷虜、亦蓄其書云、後斯所謂東南諸國皆言孔氏、孔釋並隆、無遠不至云之類、蓋皆讚祖元赴日本招、或聞俊芿等、多購儒書歸于日本以言之、可併知焉、

崇信第二十一

一山之來本邦也、錬虎關年二十二、自幼好讀書、穎悟超倫、日記千百言、聖教釋錄、諸史百家、神紀雜編靡不獵記、屢就一山古今儒釋紬繹審詢、妙達性理、（一峰跋句）聲聞寰中、蓋於本邦聞宋以後敎崇程朱者應首乎斯也、一日一山因錬多識、問國朝名僧履歷、錬多弗記、一山乃曰、子涉漢竺博辨章然、而於國故却澁酬對何哉、錬慙矣、於是博稽史籍、著書三十卷、元亨二年表呈帝闕、所謂元亨釋書此也、則其文曰、仲尼沒而千有餘歲、只周濂溪獨擅興繼之美矣、當是之時有伊勢度會人曰家行者、元應二年撰類聚神祇本源、采通書語（濂溪所著）又一條禪閤（兼良公）著尺素往來、述其沿革云、淸中二家世業儒者、所自古受經子註疏皆依前後漢晉唐之說、迨獨淸軒建叟（一名洗心子號玄惠）出、始崇濂洛之風、信程朱說、開講於朝廷、（天和癸亥長尾某所梓行、羅山訓點四書尾、亦本朝釋元江侍講朱註於御筵、爾來四海翕然知祖鑑之云、未詳何帝、按元江疑玄惠之訛、註此竢考、）至若史漢三國晉書十七代史唐書之類、南式菅江皆從古註、亦至健叟則始讀資治通鑑・宋朝通鑑等、以授其徒弟、獨北畠准后親房得其蘊奧云、山崎闇齋駁之曰、朱書之來于本朝凡數百年、玄惠始以爲正、而未免佛、藤太閤亦以謂、程朱新釋爲肝心而猶惑乎佛、遂不聞實尊信之者云、其云玄惠卽健叟、太閤卽禪閤、而時未闡耳、雖然親房特欽朱子之學風、讀四書・五經・宋朝通鑑等、當時博識無比肩者、偕楠正成等事南帝於吉野爲杜石臣、著述尤多、見親房傳（高僧傳・尺素往來・南山巡狩錄・隣交徵書）、而其元元集則引大極圖述神道秘蘊云、凡本邦取宋說之徵乎古書者、大抵此類也、今按、年世則師錬年六十九、逝于貞和二年、健叟化于觀應元年、親房六十七薨于

於正平十四年ニ、皆竝二其時一俱逮二宋僧祖元一山等一時者明矣、據レ此宋書知下彼等所二齎來一之書上也、其講レ之亦應レ在二彼等一、故師鍊健叟等、得レ聞而讀レ之、自レ是漸闢、於二紳縉一則准后親房、於二武辨一楠正成・今川了俊、於二沙門一空華・岐陽・一慶・惟肖之屬、稱至二皆知レ讀二四書五經一、亦可レ觀焉、匪二徒知一レ之、如二楠正成一、偕二親房等一、慷慨奮レ義殺レ身勤レ王、其將レ死也、貽二子訣書一曰、死期迫矣、欲レ視二汝成一、抱二義所レ重更難二亦逝一、戒レ汝勵レ學以察二吾志一、今愚竊謂其知二義所レ重、自レ非二宋學一恐未レ得レ言、以レ是觀レ之、雖レ未レ聞レ世、謂楠氏學吾必謂二之學一焉、盛哉、朱子海外益信、至ミ以有二爾實一、因ミ人性各所二固有一感二其說一理義於二自然一故也、今尋二厥源一、多由二緇徒一往二來西土一、以傳二其書一矣、然則雖レ僧其與レ焉者不レ可レ不レ載、故采錄爾、

義堂第二十二

義堂名周信、號二空華入道一、俗姓平氏、土州長岡人、母藤氏禱二五臺山一、夢二白氣入一レ懷而姙、踰二一朞一生二于正中二年一、天資豪爽、識超二群童一、年十四上二睿峰一、登レ壇受戒、稟二密法於道圓一、魯誥竺墳汎覽無レ遺、師二事夢窓於洛臨川一、遂契二玄旨一、夢窓既滅、依二龍山於建仁靈刹一、眞參聲二聞華夷一、應安四年上杉氏掖二報恩寺於相州鎌倉一、招爲二主僧一、居三十餘年、宗趣鑑博有レ照レ人鑑、四方雲衲爲之所ミ舉主二列刹一者皆得二其人一云、堂又構レ室名曰二空華一、永和二年明僧宗泐爲二之歌一焉、康曆元年源相義滿、召二董建仁一、其入レ之也、台旆飜レ山、冠纓緇衲塡二衍堂廊一、永德元年（康曆三年二月改元）九月源相令ミ儒學徒講二孟子一、書二疑義或異一、二十二日堂謁二源相一、源相語及二前日事一、堂廼對曰、近世儒書有レ註二新舊一、所レ見各異、而其新義則出二於程朱一、凡宋儒皆參二吾禪宗一、發二明心地一、故與二訓詁一逈然別矣、因勸二源相一以二學問一焉、夫學問則聞見日博、每レ臨二政事一、如レ指二諸掌一、世人雖ミ各自具二明德一、未レ有二不レ學而得レ道者一也、二十五日堂詣二二條准后一、准后敢問二於新舊一、若決二擇之一、孰爲レ優乎、對曰、漢唐儒者只拘二章句一也已、至二宗儒一則洞二達性理一、故所レ釋說太高矣、是皆參二吾禪一故也、（見二其所レ著日用工夫集及伊藤長胤所レ著蓋簪餘錄一、合爲レ文、）按其所謂近世蓋指二師鍊・健叟・親房等時一、是歲堂年五十七、而其青年二十二、則師鍊歿二于貞和二年一、又二十六則健叟逝二于觀應元年一、又三十五則親房薨二于正平十四年一、可二併觀一也、故堂亦與焉、至德三年陞二南禪寺一、海內毳衲爭レ先聚臻、前比

（永德三年）岐陽亦飯自相隷名南禪、以講究者四年于茲矣、（見岐陽傳）後至岐陽兼倡宋說、亦蓋與堂首焉已、其夏源相奏後小松帝、特擧南禪列五山第一、秋以疾謝憩于慈氏院、嘉慶二年知疾不可起乃命造龕、四月二日自裁之銘、四日端座示滅年六十四、窆于本院、堂之器識淵偉、道儀古高、而其居常與衆同甘苦、禪座諷誦雖疾不闕、以辛勤斃所素願云、善弱翰墨明僧楚石等、見稱嘆焉、所著述有語錄及空華外集・日用工夫集若干卷、又選宋元偈頌為十卷、曰貞和類聚・祖苑聯芳集、皆行于世、其餘記鈔等尚多云、

漢學紀源卷一終

漢學紀源卷二目次

漢學紀源卷二

岐陽第二十三

岐陽名方秀、號不二道人、岐陽其字也、俗姓佐伯氏、讃岐人其先與大伴同祖、出自天忍日命、十一世孫室屋之男御物宿禰、御物生倭子連、允恭帝時詔倭子連爲讃岐國造、自是子孫繁衍多爲讃岐人、僧空海亦同族、而生於州之多度津、父曰田公、空海贈伴宿禰國通語、有伴佐比季句爲是也、岐陽父曰清泰、蓋其裔胤云、母源氏夢獲珠劔而有娠、生子貞治二年癸卯之歲、生髮未乾遭亂於州、父清泰避奔北越、母懷陽入洛、依外祖源某、源某業儒、見陽英敏曰、孺兒可教矣、授以詩書、諳誦弗倦、及源某卒、從泉石窓于東福、執童役、時應夢巖雲州人方董東福、以博覽能文遐翔名翼、陽學其門、應安七年甲寅夢巖逝矣、勅諡大智圓應禪師陽年十二、乃拜濬靈源於安國、親炙八年、知解益進、開法於道福、永德二年辭往相州掛錫龜谷、明年回洛隸名南禪遊南北講肆、至德三年堂周信陞董南禪、頗信程朱書、初陽少學詩書、後崇宋學亦蓋有資焉、由是大小經論靡不探賾云、明德三年陽年三十而歸東福、乃掌藏鑰由後版尋遷前堂、嘗從及愚中得發樂多後爲偈寄曰、象王行處絕狐蹤、一喝何妨三日聾、即此用兮離此用、虛空突出妙高峰、愚中觀大稱之、應永九年明主惠帝遣僧天倫日彝禪師一菴日如講主來朝本邦前年三月、義滿遣使于明、見年契等、陽欲面識而官禁不許、屢通書問倫菴、咸見稱其博才、幕府義持常召問法、崇敬尤膴、由普門遷董東福慧日山曰、賜之金襴衣、據高僧傳等十年國朝使船載四書及詩經集註等還自明國、八月三日齎致之洛陽、乃講之、見大全鼇頭、但時岐陽居東福之不二院云、按本傳其構不二菴、則爲應永二十七年、專藴頭說疑追書誤、我文之說爲應永中、南渡歸船云々、和漢年契則此年明遣使來云、未知孰是、當時新註未行乎世、足利學校在下野州、天長中小野篁所創、而中古移之城州一乘寺村圓光寺之地、又一說、至文明中、僧快元復修其廢云、按篁岑守子、天資穎敏、善詩文、當時無比、以鴻臚官居宰府、與唐人沈道古唱和、沈氏大奇之、特工艸、聖世爲師楷、其守陸奧也、建學校以教庶生、官終參議、俸祿賑恤、家清貧、以仁壽二年十二月薨、年五十一、自篁薨至應永十年得五百五十二年、致其生徒、猶以古註、而多未知世有新註也、陽特悼之、每講新註、輙有諭焉、曰夫志乎儒

有注之和點以弘於世者、大抵當時南北爭朝、惟競執戟、出奇設伏、士未顓儒、海舶珍書雖手探之、多不能讀、於是乎陽遂加倭點、以授其徒章一慶・巖惟肖等云、（高僧傳・家法和點・恭畏問答等）二十七年（庚子）司天龍席、俄嬰風痺退靖栗棘菴、又起升南禪未幾謝事、構不二菴於慧日山側以憩焉、三十一年（甲辰）宿痾頻發、二月三日奄爾即世年六十二、天性充實、好尚閎思、識董宏深、文藻典麗、名聲藉甚於天下、按祖應傳云、當時據大方、而負時名者、若大岳崇東漸易（遠州人、歷任東福南禪寺）大愚智（山城人、歷任東禪南禪寺）岐陽秀・惟肖巖等、皆出其門云、又道芳傳云、謁性海・椿庭・太淸・春屋・義堂・絕海諸師、皆推重器、惟肖・仲方・太白・岐陽數彥、歛衽服膺云、可觀此等亦證（丙）當時爲（乙）高德（甲）也、多鈔經錄貽惠後學、別所著有琴川錄、（或作岐陽禪師語錄、疑此）不二遺稿同自曆譜多行于叢祉云、

一慶第二十四

一慶字雲章京師人、姓藤氏、家世冠簪、左丞相經嗣之子、至德三年丙寅夏生於桃華坊第、自幼逸群不屑榮祿、明德二年慶年六歲、投童役於山崎成恩寺、應永八年年十六落髮稟具隸名東福、九年明僧天倫（天寧）一菴（上竺）之使于本邦也、慶乃造謁倫見器重、乃賦與之曰、十二年前蚤出家、因緣傳得祖袈裟、黃梅夜半曾分付、把住無容失左車、而適城北、從岐陽於聖壽寺、受程朱學、朝昏辛勤綜究內外、造陽主東福、充典輪藏、分位後堂、秉拂說法、常與岐陽評論碧巖、至其羅紋結角之處、陽抵掌而賞、後小松帝賜慶手詔、入講元亨釋書、嘉吉元年遷董東福、寶德元年夏太上皇寫御昭容、勅慶作讚、上皇亦製和歌、親書其尾、世以爲榮、冬詔陞南禪居任三月、佚老於慧山之寶渚、律身甚嚴脇不沾席者凡十七年、嘗慨正宗日就隱微、而流弊滋、居恒與衆講百丈淸規、因會諸家說撰淸規要綱、又作五燈一覽圖以備後學之檢尋也、又每喜誦程朱說、著理氣性情圖及一性五性例儒圖、寬正四年正月二十三日、坐化年七十八、勅諡弘宗禪師、

惟肖第二十五

惟肖名德巖、號雙桂、備州人、性氣睿敏、年十六上京都、從芳草堂薙染稟具、參祖應於東福、與秀岐陽

等、雖為同門、如程朱學受之岐陽、(家法・和點、但作惟正、疑非)經史子集、無不探抉、以文鳴世、與仲方・太白・岐陽齊名、應永中幕府義持招董相國、寵待隆遇世以為榮、歷住攝州棲賢・洛陽眞如・萬壽・天竜、後陞南禪、永享四年幕府義教(普廣院殿)遣使齎書、贈明宣宗、命肖撰焉、五年明使來聘、六年弟子猷竹居等、建其師石屋禪師塔銘於薩之福昌寺、肖復撰焉、八年六月所遣使舶還自明國、先是明成宗・明儒臣胡廣・楊榮等、纂修四書・五經等大全、既鋟于梓頒行世者二十一年于茲矣、一說四書此時載回云、(據桂菴言、普廣院殿時姑書備考)蓋肖承師說、欲愈讀其詳者、有所購故也、晚年謝事、構一刹於龍山中、(南禪寺山曰瑞龍此也)為燕息所、命曰雙桂院、故世稱雙桂和尚、而義學之徒來叩門者多、則猷竹居・璲器之・樹桂菴・悟了菴之屬、亦皆出於其門、恒示人曰、如人登山、須自努力、又上堂輒曰、天何言哉、四時行焉、地何言哉、萬物生焉、旁好莊子、始講鬳齋口義作鈔十卷、蓋以篇中多用禪語、而世人難曉也、所著有語錄外交若干卷、曰東海瓊華集、

景徐第二十六

僧景徐字周麟、別號宜竹、善屬文博識多通、領袖群衲、嗣法、萬年材用堂、四住相國、一董南禪、文明十五年正月、幕府義尙會近衛氏(政家)等、各暢吟懷、景徐與召皆時名彥也、後構軒於萬年山、命曰宜竹、常投閑焉、齡超古稀逝于軒中、所著有外集若干卷、曰翰林葫蘆集、(出僧傳引書目)慶長十五年十一月僧文之與恭畏書曰、應永年間南渡歸船載四書集註與詩經集傳來而達之洛陽、於是不二岐陽始講此書、為之和訓、于時東山有惟正、東福有景召、二老名衲、而同出於不二之門、匪翅精此二書、以博學多聞籍甚天下、我桂菴後二老受程朱學、遊明七年遂研究之歸、教授西藩傳之月渚、月渚傳之一翁、以至文之、今季安稽諸僧傳、所謂惟正蓋惟肖之誤、既載前篇、景召亦景徐之誤、而字周麟、桂菴與周麟善、永正三年周麟所寄詩云、

桂翁先友是蘭翁　聞昔龍山會坐中
前輩零凋吾老矣　洛得寺々見秋風

按蘭翁即蘭坡、而名景茝號雪樵、八年二月周麟跋巢松集曰、巢松親炙雪樵、雪樵余之師友云、椽此周麟師友蘭坡、則為桂菴友如有證焉、然文之書桂菴學

于景召(即此周麟)文之相後殆剩百載、桂菴・月渚・一翁・文之、四世口授、恐傳聞誤、今季安謂、周麟・蘭坡・桂菴同學于惟肖、後交師友、故致此誤、可以觀也、於是今叙景徐於惟肖下、姑錄所疑以竢來哲、蘭坡稟法軌大摸、而夢窻四世之孫也、聰慧夙發、喜誦坡詩學之蟬闇(名龍惺號瑞巖、一字仲建、別號蟬菴、或作蟬闇、泉州石津人、年十一從麟一菴於東山、操持凜然、深探子史、文安丙寅住建仁、寶德庚午董南禪、長祿四年閏九月五日坐脫年七十七、所著有二會語錄及外集)又質葵齋於諸史籍、靡不該研、文明十五年正月義尚雅會景蕭以詩與召、且土御門帝屢召問法、心宗洞徹外學兼涉、每詣闕庭、朝講經夕留詩、爲王臣所崇重、歷遷諸刹、後陞南禪、既謝懇于正因菴、景蕭與桂菴友善、明應末年桂菴奉釣帖領東山、景蕭贈書賀焉故友也、文龜元年終于菴中、後栢原帝追褒賜謚佛慧圓應禪師、有所著仙館集雪樵獨唱集、京人巢松親炙八年、善詩知名、後來寓于麗府、從桂菴學、詳見下篇、

桂悟第二十七

僧桂悟號了菴、以應永甲辰(三十一年)生、蓋偕桂菴受朱學於雙桂(惟肖院號)之門、而長於桂菴三年、嗣法眞如塔疑信公泛通宗說、應仁二年雙桂門下爲璠・化悟爲大銘、爲璠乃吾薩州甑島人而竹居弟子也、文明中出世勢之安養、遷董東福、後土御門帝、聆悟馳譽召問法要、大愜皇機、特蒸宸翰、大書了菴二字、以賜悟、世以爲榮、永正三年足利義澄使悟聘明、時年八十三、道次泉南、六月聞杏林陳氏寄桂菴詩、固有與之識、荊乃和以贈焉、

日州安國堂上桂菴大和尚、乃瑞龍遺局、南遊東歸以來、道價被于九州、王道向化、以故不屈駕、而學視於名刹東山之冢焉、頃有陳氏外郎、京師所居號杏林、西遊之日謁見于桂菴師、神交道契、雖然東西阻脩鴻鯉鮮音耗、今茲夏末(應是永正三年六月)安國僧徒往來之候、杏林製二絕抒離索之懷、仍請縉下諸名緇令同于韵、老拙任皇明入貢之節留滯泉南、杏林遣書求屬和、顧往日既有識荊之雅、而同好宜減於陳公哉、初應其請、後篇寫區々老懷、解一粲於千里之外、

矍鑠今時一郝翁　名聲籍々播關中
杏林交義辱支許　海外九州曾向風
長安遠近日過翁　梵刹曾遊在眼中
桂子天香我同稱　栴檀薝蔔一家風

大明正使老釋桂悟拜

轉結所謂桂子同稱ニ一家風ハ今按ニ其意ハ桂悟・桂菴皆靑年倶學ニ雙桂之門ハ故分ニ桂子ヲ以各名レ之、於レ是言受ニ一家風ハ同稱レ桂焉已、了菴渡レ唐、九州に滯留中被レ送レ之、既而

法の師のはなの玉藻をくりかへし
かけてあひ見んことをしそおもふ

右出ニ予雲乘卷十八ニ開レ洋舟抵ニ鄞江ハ寓ニ館於駟ハ四年丁卯明正德二年也夏餘姚王陽明、名守仁字伯安赴謫ニ龍場ハ道至ニ錢塘ハ悟之寓ニ於駟ニ也、陽明就見レ悟焉、感ニ其學行ニ云、而入ニ帝都ニ行ニ朝聘禮ハ籌海圖編、正德八年五月、夷船三隻使ニ口僧ニ桂悟貢ニ方物ハ云レ此也、但年月言ニ其歸ニ耳、宴賚如レ例、武宗乃詔レ悟住ニ育王山ハ悟臨レ門曰、育王門戶八萬四千、毘盧樓閣雨華現レ前、又進レ步云、纔動ニ一步ニ東土西天、是日武宗遣ニ中使ニ使レ賜ニ悟金襴ハ僧伽黎乃拜拈レ衣云、

晝錦恩榮北闕天　黃梅夜半不ニ曾傳ニ
育王山頂橫ニ雲務ニ　無相福田擔ニ一肩ニ

每レ有レ上レ堂緇白觀呼、公卿縉紳崇レ德來謁、居レ之八年、諸儒與レ之交者多、九年壬申悟旣解レ印、館ニ于姑蘇ニ居幾半載、四月姚江楊端夫等、贈レ詩者多、

日本了菴禪師膺ニ使命ニ來、我皇明館ニ于姑蘇ニ幾半載、凡士大夫之相與者無レ不ニ敬且重ニ焉、以ニ其齒德旣高ハ口學亦稱レ是故耳、昔王摩詰所謂色空無レ得而不ニ物物ハ語默無レ際而不ニ言言ニ者似ニ今日禪師道ニ也、予接遇日久、因賦ニ二詩ニ以贈、一以詠レ號、一以送レ行云、

撥ニ開雲霧ニ靈臺湛　著盡士夫豈憚レ勞
六鑿已空無ニ箇事ニ　一身天地自逍遙
文采飄然語意眞　聖朝尤重老成人
明朝授レ節歸ニ東國ニ　曾見賢王眷顧頻

正德七年四月望日　姚江　楊端天稿

十年癸酉明正德八年也諸縉紳、聞ニ悟將レ歸咸贈ニ詩章ハ此年五月陽明四十二歲與ニ門人徐愛等ニ遊入ニ四明ニ觀ニ山水ハ而自ニ寧波ニ還ニ餘姚ハ亦聞ニ悟囘ハ十六日爲レ序贈レ焉、

送ニ日東正使了菴和尙歸レ國序

世之惡ニ奔競ニ而厭ニ煩拏ニ者、多遯而之レ釋焉、爲レ釋有レ道不レ曰レ淸乎、撓而不レ濁不レ曰レ潔乎、狎而不レ染、故必息レ慮以浣レ塵、獨行以離レ偶、斯爲レ不レ詭ニ於其道ニ也、苟不レ如ニ是則ハ雖下皓ニ其髮ニ緇ニ其衣ニ梵中其書上亦逃ニ租繇ニ而已耳、樂ニ縱誕ニ而已耳、其於レ道何如耶、今有ニ日本正使堆雲桂悟字了菴者ハ年踰ニ上

壽不倦爲學、領彼國王之命來貢珍於大明、舟抵鄞江之滸、寓館於馹、（或作驛）予嘗過焉、見其法容、潔修律行、堅葷坐一室、左右經書、鉛采（一本自作朱）陶、皆楚々可觀愛、非淸然乎、與之辨空則出、所謂預修諸殿院之文、論敎異同、以竝吾聖人、遂性閑情安、不譁以肆、非淨然乎、且來得名山水而遊賢士大夫、而從靡曼之色不接于目、淫哇之聲不入于耳、而奇邪之行不作于身、故其心日益淸、志日益淨、偶不期離而自異塵、不待浣而已絕矣、玆有歸思、吾國與之文字以交者、若太宰公及諸譜紳輩、皆文儒之擇也、咸惜其去各爲詩章以艷飾迥躅、固非貸而濫者、吾安得不序、

皇明正德八年癸酉五月既望　餘姚　王守仁

贈了菴歸國

明發行囊曉拂塵　豈辭霜鬢苦吟身
調高不是陽關唱　杯泛何妨麴米春
水濶帆飛風力順　華紅葉綠雁聲頻
至家解知詩筒重　爲報賢王謝紫宸

廣平府知府前都給事中九十叟　月湖　盧希玉

既而東還、入內報事、後栢原帝乃勅陞南禪寺、瞰山門丘墟、悉出衣資以再建焉、竟回慧日（東福寺）之大慈院、安庠而化、（年月未考）特賜佛日禪師、有所著語錄二卷、（題曰了菴悟禪師語錄、應必是也、）了菴桂悟佛禪師十三回、一彈指頭十三霜、舊院無人苔滿廊、佛日不知現那界、扶桑國裏早韜光、亦出雪玉集、吾桂菴齒雖少於悟、其於適明前乎、悟者可三十年、而又東歸爲文明五年、陽明王氏生僅二歲之時也、迨悟遊明既踰四十、論格物致知知行合一之義、雖良知學未振于世、專以倡明聖學爲已任矣、天縱明睿超入聖域、悟回十年始揭良知之敎、以鳴天下、明國理學莫精王氏、當時譚學者莫不稟爲摸楷、而悟與之親論學術既見許可、如序所言以是推之至如桂菴、雖與王氏未獲一面、亦爲悟所慕、如上所載則於其學行、亦足以觀有所造焉、故併言爾、

桂菴第二十八

僧桂菴字玄樹、後號島陰、本貫周防山口人、不詳考妣姓字、以應永丁未生、永享七年年甫九矣、乃遊于洛師事惟肖於南禪寺、當此時建仁寺有惟正諱明貞者、東福寺有景召諱端棠者、皆不二岐陽之徒弟、

而講四書以博識稱、故又就二老受內外學、嘉吉二年師年十六年而削髮爲僧、始登戒壇、時惟肖旣老、構居山中曰雙桂院因師、亦取撰名字云、當時譚學者鮮不聚叩而禀於其門、師最苦螢雪、與景徐・桂悟・蘭坡等友善、皆一時名僧也、業成而歸飛錫長州領永福寺、（在赤間關）愈信宋學讀倪士毅四書輯釋及永樂所進大全等、雖以欲究其精微猶未知先師（岐陽）所點四書悉適註意否、於是慨然有求眞學之志、時會國朝撰遣明使於五山僧、而惟肖等知擇才之權、乃徵知名衲子八十餘人、聚諸南禪寺題大梅々子鳴磬一聲、令各爲詩以鬬其材、時師亦就試場、應嚮賦之曰、

大梅々子鐵團團　八十餘人下嚮難

今日當機百雜碎　那邊一核與他看

肖等大感乃擧師（後四十年、永正三年天龍桂嵒八十一叟、和陳外郞、足桂菴詩亦言是事云、誰圖遐裔有茲翁、才譽蚤喧稠廣中、吐出大梅梅子偈、至今玩味墓禪風、吟咏此詩足證當時、故採註焉、）於是應仁元年師使於明入見憲宗、（名見濟明八主）宴賚特篤、明年元旦早朝大明宮、實成化四年而師年四十二、乃爲賀詩一句、及歯後每歲旦爲詩言歯、因此例示不志榮云、聘禮旣竣遊於蘇杭間出入學校、受朱氏學博窺曹端（四明人別號晉、古官監察御史）四書詳說其他註釋粹者、潛心玩理有所不得、輙就鉅儒審詢研究、居七年業大進、內外精蘊莫不通悟、尤邃書經、又長詩騷、其在明也、探禹穴泛西湖、名山大澤鮮不涉觀、而每興懷觸感必暢爲詩、若夫紀夢遇舊諸作、明人亦往々競傳、咸稱爲有唐人之風、其紀夢詩曰、

歸夢飄然落海東　赤城舊院杏花紅

坐迎諸友一樽酒　似慰多年離別中

又遇舊作、

途中適遇四明人　一笑如同骨肉親

可有扶桑新到客　報言東魯送殘春

多如此類云、文明五年歸報使事、初國朝自置博士敎其學從皆以古註（觀拾芥鈔、援論語句註、皆依孔安國・鄭玄・馬融等說、可以知也、）而當時猶未獨有解新註者、於是師雖有所會得、自非博士不得公然倡講以敎京畿人、蓋國典也、（後百卌餘年、至慶長八年、文敏林先生始講論語集註、外史清原秀賢沮之曰、自古無勅許不能講書云、可併知焉、）且其將如京、旣抵長門、聞南禪諸刹悉爲灰燼、不遑譚學、乃還寓於石州、八年游歷豐筑肥諸州、所至一時老師宿儒咸推尊師、就中肥之菊府特崇聖學

置泮宮焉、師往客之、吾藩龍雲・玉洞等、聞師鳴碩德與國老等薦之於圓室、公使人如肥厚聘招藩、師乃欲往亦聞薩隅有事不果、九年正月又欲適且爲詩曰、

肥陽城外薩陽城　聞說今年收甲兵
萬里雲飛鶴言邁　風流太守愛惜情

二月猶在菊府、與釋菜於泮宮、爲詩獻焉曰、

太平奇策至誠中　春奠貴筵陪泮宮
泗水吹添菊潭碧　寒雲染出杏壇紅
一家有政九州化　萬古斯文四海同
絃誦未終花欲暮　香烟挨袂畫簾風

于時菊府有源基盛者、別號朶雲、就師學、尤善書、乃爲其子生德寫四書本文、受師口授、旁如和點、於是十二月遂抵薩藩、始謁公於市來、特被寵遇、明年二月公命創寺於麑府之海涯、號桂樹院、據雜著又名島陰寺、據巢松詩而割帝釋德林兩寺之田產、永爲寺祿、事見師所著村菴藁書跋文、曰、予初來于此鄉、沐於官給一年有餘日焉、有司竟割帝釋德林二處之田產、以充我菴、十口之食云々、據此其給寺產、亦在創寺之年明矣、所謂帝釋蓋在谷山鄉、德林按、福昌纂綠簿、永享十年有德林菴祖仲者、施入米拾石云、皆爲寺名、亦無可疑耳、但此事季安近得之、只恨不得之於未示一齋之前、而得之於其既撰碑之後、故至漏逸、是可惜也、是以今又補此師、傳以竢它日大史氏之采錄爾、且歲賜衣使以居焉、蓋因其地在向島陰、平家語字面以名斯寺、亦自爲號皆其所撰云、於是師亦感公恩遇日厚、而有與所爲、遂委身無復移錫之意、乃與國老伊地知重貞、稱左衛門後改周防守謀刊大學章句於麑府、十三年六月板行于世、實本邦章句印行之嚆矢云、距今天保己亥三百六十年、實當一紀矣、季安有聞近寬政中日州志布志市人赤池金右衛門者、藏此遺本、以傳府士、德田武中、齋武中以傳市人碧田熊助、熊助以獻國老市田盛常、世謂伊地知板大學此也、余嘗因新納伯剛請假覽之、今致仕大夫日、藏書浩繁失所蓄云、故未觀也、余竊謂公室興隆柔若今日、亦惟其本濫觴此擧矣、然則於今可見先公聘師、崇儒以闡道之深意者、獨賴此板之存實、可寶護者也、窮鄕寒陋亦多蓄書、若人注意有以需之、應必有得焉、而師以是入侍讀公側、出聚第日講新註、以弘斯道務爲己任矣、自公族大夫至群士浮屠之屬、朝野靡然莫不嚮慕、受其學業、徒衆益盛名聲鳴世、隣國往々至、歆望以謂薩都新興仲尼之道移東魯之風、據答小野甲克盛詩序是吾藩倡宋學之始也、自文明十年師唱宋學於吾藩、至天保己亥、三百六十二年、公乃受書經、前此本邦皆從古註、而至師獨依蔡傳、公通大旨、亦據明人嚴克正序本邦之尊信書經者可謂自公始矣、是歲秋近衛準三宮、政家公使大醫陳祖田來聘于藩、師與之往來情好最親、十月臨別贈詩文、明年春祖田歸京示南禪蘭坡等、咸

擊節和焉、長享二年移寺城西、初所創地臨海涯、善爲風潮所墮敗、不遑營治、故有是命、院號如故、俗呼泉菴、有清泉故也、（今城北射圖坂邊其故址云、但當時府城在今大興寺之後山、）十二月適日飫肥、董席安國、先是公遷族人島津忠廉於飫肥城、以鎭邊疆、兼知渡唐船事、故遣師備簡牘焉、延德四年（七月改元明應、）自日飫肥飯薩島陰、初重貞所刊於麑府、大學章句盛行于海內、僅歷一紀、板既播矣、於是十月師再刊於桂樹院、（卽島陰寺）復行于世、（距今天保己亥三百四十八年矣、愚嘗求遺本而無獲焉、去歲仲冬男季直偶得之市、卷尾刻跋、則文明龍集辛丑夏六月、左衛門尉平氏伊地知季貞、命工鋟梓於薩州麑島、延德壬子孟冬桂樹禪院再刊云、卽此板也、但點句讀、無有和訓、而大書註如本文字、行下一字耳、蓋其授句讀、敎連本文而悉讀注、吾藩到今敎童子讀大舊音奏之分註、亦其遺俗云、按時皆古註讀、知新古故大書註似有理焉、後餘百年慶長五年博士淸原等之講四書也、唯學庸依朱子章句、而如論孟猶讀古註、見羅山年譜其章句云、亦應吾藩所梓本也、但未覩中庸竣後有得耳、余所今得延德板、楷體古雅筆力雄勁、覩者多鑒爲樹眞蹟、未知果然、本年七月私請府學裝潢加跋以藏于家、故併注焉爾、）明應二年復如飫肥、（係島津忠朝邑）居於安國、時近江人源永春（佐々木氏號東林居士）遊學飫肥、三年、師還島陰、永春亦從、四年辭渡明國、師送之詩、舟次鄞江、八月以際明儒、乃廣東參政劉洪・廣平太守盧瑀等、各賡韻寄頌師德者凡十有二名、而四明進士嚴克正序焉、五年四月師在島陰、永春猶留鄞江、七月乃訪進士洪子經、際所齎島陰集、子經亦序卷端、皆名鄉鉅儒聞於時者、而明孝宗弘治八九年事也、六年二月永春抱飯自明、徑訪島陰、致明詩文、師大驩焉、所謂子經序云、精內典通儒書、旁及莊列、無一之不究心矣、又克正云、精究內典、旁通四書百家子史、於尙書尤究心焉、由是後學莫不得聞朱夫子師弟間所講之奧旨、先是南游播名一時者、於唐則粟田受經於趙玄默、（四明敎授）仲滿慕華不肯去、於宋、奝然善隸書、又能屬文、吾林文敏亦謂、古遺唐使煥發靑史、粟田仲滿其尤著云、而子經評師爲不在於粟田奝然之下、（粟田奝然皆詳前篇）且進士劉洪・盧瑀以下、宗顯・倪光・金亮・雛閭・愈澤・鮑垣・沈暘・方震・張琨・倪鑰之屬、亦莫不各和其詩以頌德者、據此其所造詣亦足可觀焉、七年師奉相府鈞帖遙領建仁席、是年弟子齋師文集詣洛南禪、際天隱叟、九月叟爲之跋、亦從子經評也、九年師復奉鈞帖轉南禪寺、於是南禪蘭坡等、爲文賀焉、既而歸藩、凡當時讀書儒依漢音、佛依吳音、猶延喜制、師之學明問諸明儒、明儒曰曷泥吳漢、從便可也、繇是師以

所會得規岐陽、所嘗點四書、多改乖誤、別註和訓以授子弟、愛甲季定所著書云、吾師如竹聞諸文之云、四書倭訓岐陽雖創造師回自明顚加修正、以至文之、而文之亦間改正、以授如竹等、而如竹時鋟梓弘于世、故世人多傳爲文之點、然非文之所創也、此說得之、按師所著朶雲居士四書跋、師之在菊府也、有朶雲姓源名基盛者、善書著聲既寫本文、受師口授加之倭訓見上、文明九年而又此注倭訓云、猶及註文、余從兄本田親標嘗得論語集注、一本則卷之三而尾記元龜四年四月春永書、新註論語全部一筆既有和點、且採曹端詳記間注旁注、按詳說師在明所讀、而元龜四年則當文之年十八、惺窩十三、如竹三歲之時、而如羅山時未生也、據是觀之寫師所修正本者明矣、然失餘卷、實爲可惜、但天和梓行四書跋亦記、近代南浦創加點羅浮復潤色之、南浦乃文之號、其創加云追考誤也、然於斯文時猶草昧、敎導未開、學士往々不知句讀、且有新註也、於是十年師著小篇、辨四書・五經註有新古、且以國字解朱註例、述倭點法、使世蒙士皆知學必崇宋說、先在能辨其句讀之意、今世所稀傳、桂菴和尚家法和點此也、季安今藏二本、一題曰四書五經古註與新註之作者幷句讀之事、而卷尾書慶長十六年九月八日俊正者於山川寫之、一卽題如本文、而元和十年所刊行也、蓋師著之只爲諭俗、而未遑撰題、後學如竹追其梓之惡題不雅、應所改書、故板本文少於寫本、且刪明應十年、換元和十年、不與題合、亦梓時誤、又山川薩之港名、唐舶多繫、故桂門儒僧世主正龍席此云、山川指之詳下篇、列諸藝文、今將厭觀、然世之讀朱註者、自時往々莫不階焉、而受其賜也、既再梓行朱子章句於文明與延德、又口授倭讀於菊府、而徠於藩猶以國字解朱註例、述和點法以弘于世、師之於朱學其功寔偉矣哉、文龜二年構丈室於伊敷邨、爲歸隱之所、名東歸庵、愛甲季定書師事云、老憩於伊敷小宮地、曰桂樹寺此也、永正元年師所著序書桂樹丈室、又文龜二年詩言、新築一軒於小西湖之赴、所謂小西湖蓋伊敷川、今上伊敷小宮有菴址焉、師墓猶存、刻東歸菴開山云々、俗呼御菴、或稱御石、故參考書云、三年春師舉龍源寺、在日市來亦忠朝邑釣雪上野州緣野人代董安國寺、而自憩菴乃賦詩曰、

丈室修營今一新　老禪七十七青春
寺門興盛檀家力　花下焚香祝大人

永正三年弟子皈自洛、初陳祖田之歸京也、以師所送詩眎五岳、高僧各有和篇、既以寄師爲文明十四年事而往海南皆亡失矣、故師致陳氏書、求其副藁諸老存者少、於是祖田復爲和、告桂悟・景徐等、更求之、和韻以寄頌者十有餘名、是年二月弟子齎回多、皆碩德鳴世之緇流也、或恨吾侯私師於藩、不公諸天下、以莅大方、或述虛席南禪族師回轅之情、莫獨不欽慕其德與材、以勸師起者、然君子不以榮辱易操節、師雖釋氏實精究儒學、而承君恩亦如彼、則不敢回洛、蓋示不事二君之義、可以知焉、四年八月對月詩曰、

人間八十一中秋　明月在天五鳳樓
木上座來吾歸去　海西萬里汝爲舟

五年六月十五日卒於東歸菴、得壽八十二、葬于菴地、曰前建仁後南禪桂菴和尙大禪師、見享祿五年三月門人巢松祭師詩序、而無其墓栽杉爲冢白師歿後百七八十年、至大玄公時府下耆老無能識其塋者、國老島津圖書久竹・島津主計久年等、深慕師德、訪索竭心、聞志布志人愛甲喜春・季定獨有識焉、屢通書問、遂得其處、既而老杉又經歲枯、至享保七年朽根僅存、亦將泯滅、於是十一月大龍寺六世主僧宗玉・一乘院主僧堯周・妙谷寺主僧通岸・及府下志士鎌田醒雲・町田權兵衞・本田與一右衞門・四本正藏・越山茂右衞門・鳥居如見・筱山慶賀・木村探元・田原武右衞門・仁禮正膳五等、相與圖不朽、翕然戮力辨之工料、是月十日就桂樹地斫石建之、則今所在墓此也、今墓題曰、正興三十世前南禪桂菴玄樹大和尙禪師墓、按島陰集末見師居正興寺、但文明十年應聘就藩、八月及玉澗等遊于日隅、明年二月創桂樹院、使師留錫、然是私寺、知正興寺分自建仁寺既列甲刹、故使師帶其序、居新寺以敎授府下耳、師居恒洒落讀書賦詩、雖自以儒爲己任、抑本邦流俗禁非博士建中旗儒門、據慶長八年淸原季賢語故只從舊事佛於寺察時而能安、亦其知矣哉、然至所究必講理學、其誨人敬信四書、必如神明、而又曰、仁吾儒所宗、而我佛之大慈也、或釋門學在敬心、君或人有正心寧愧天、或胸中自有不傳書、或孔孟何人在用情云之類、皆示人詩而璣麗韻朗匪徒盡巧無暢非敎、今擧三四首曰、

終日終宵十二時　讀書講武又論詩
故是賢々誠實意　樽前豈敢醉蛾眉

作在聖人寧及賢　吹燈細讀述而篇
師門輕薄書生僣　誰使斯文如古然

曾子橫身孔聖門　那知一唯涉多言
寥々默座夜堂靜　堦下無人日有痕

如何記得伏羲心　默座寥々至夜深
斂手鑿開混沌見　先天一氣後天今

多如是類、所著有島陰漁唱、明進士洪子經序題島陰集、今三冊島陰漁唱文集、默雲天隱叟跋島陰雜著各一冊家法和點亦一冊等、皆傳于世、其遊明諸作、別有南游集、今不傳、又其眞像藏大龍寺、乃秋月等觀所寫云、秋月薩人學畫於雪舟、而與師唱和故令寫像、亦無可疑焉、元祿四年四月、大龍五世不門裱裝爲掛軸、延享元年三月、正興萬休齋如京師、又新裱裝、寬延二年大龍玄綠改紙易絹半身像也、今著師傳、凡所引書據島陰漁唱・島陰文集・島陰雜著・五岳詩文・高僧傳・恭畏問答・戰國英雄集・相屬系圖・不忘抄・西藩野史・麑藩名勝考等、然於其中若親覩原文以足證當時者、粗採載下、不然恐讀者莫知其聲聞稱實至以知于明國信乎、五岳振譽於九州之德也、但於詩文與時變、則自然之運、雖使今人讀庶乎

古樂生壁、亦使之以知其漸汚隆、如是也耳、（林志有曰、桂菴諱守廣者、以天正十九年歿、又妙高山帝釋寺大般若經今在隅州橫山安頁社、其箱書永享六年桂菴老衲、皆非玄樹桂菴明、但以家法和點、爲守廣所著、則因同號誤也、不足辨爾、）

辛丑八月下澣　　麑藩　伊季安子靜再撰

送大醫陳祖田歸京　　桂菴

古方靈藥舊家傳　赫々皇華碧海天
祇爲上醫元治國　細論太守近安邊（太守吾圓室公）
九夷鬼界三千里　一夢龍山二十年
況是高僧吾故友　屋梁落月曉猶懸

同

洛陽使者到天涯　東算歸程路轉賒
落葉千山五更雨　早梅十月一枝花
客中送客堪爲客　家外尋家未到家
故舊周南若相問　衰殘白首命如紗

附洛諸老之和

薩陽桂菴老人賦四韻二篇、送皇華陳外郎歸京、師拙與老人有平日之雅素、雖阻天涯萬里、而喜暮齡各無恙、漫依元押奉和情見于詞也、

見南禪明掄書

喜見佳篇雄社傳　薩陽猶共沈寥天
雲埋鬼窟黑山暮　地隔鯨波碧海邊
亂後故人成蝶夢　生前再會付驢年
祖翁舊業今休問　磵水松風夜雨懸
海角孤雲天一涯　經年故舊夢魂賒
仲靈書拆歐韓論　覺範筆承遷固家
燈雨三千餘丈髮　春風二十四番花
傳聞華屋陪蓮帥　蘄竹瑠璃映蜀紗

茲春（當文明十四年）薩之桂菴禪師作四韻二章、贈別皇華陳外郎耆英、在洛者皆和之、予亦次其韻、聊述舊懷、轉以傳於薩、則可無交友星殘之嘆乎、

北山雪樵書于等特篇室

新詩偶自九夷傳　也識星河共一天
草嫩塞垣雪消地　花濃野館雨殘邊
我無遠夢堪娛夜　君似故交俱忘年
緬想離亭風笛暮　斜陽西落月東懸
學業傳聞至聖涯　行將相問驛程賒
瘦於詩者鬢光雪　老矣自然心不花
但爲與君住潛邸　幾回和夢宿漁家
衰殘强欲賡高韻　卷舒窓前四景紗

大醫陳外郎上都風流佳士也、文明辛丑（當十三年）之

秋、以レ準二三宮一釣レ旨（當二近衛家政公一）如二薩之地一、淹留者累月、太守（當二吾圓室公一）亦推二奬之一、是故一國之士靡レ弗レ誦二其名一、龍峯（言二南禪寺一）桂菴禪師居二是邦一者、幾二乎二十年一、禪師廼五山名勝、而聰明睿智退出二于流輩之百一、詩亦熟文亦熟者也、陳郎與二禪師一一往一來殆乎無二虛日一、或携レ衣而宿レ花、或開レ樽而醉レ月、其交可レ謂レ不レ瀆焉、壬寅之春（當二文明十四年一）還二于都下舊業一、桂菴餞レ之以二川八句兩篇一、吾山耆宿泉南利步老、西枝謙村翁相繼而見レ和、顧吾老懶衰墮然於二禪師一有レ素者尤篤、故攀二高韻一以索二一笑於千里之外一云、

龍阜瑞要

兩首新詩一日傳　上都不レ隔鬼門天
行々雁渡塞雲外　泛泛鷗眠野水邊
陳氏郎官吟二卜夜一　薩州太守（亦當二吾圓室公一）話二忘年一
以南以北畫二圖境一　三百疊山春雨懸レ
青衫白首破二生涯一　一別心知入レ夢賒
孤角吹殘千里月　疎鐘敲落半巖花
曾陪洛下耆英社　今問安西都護家
秋對二楓林一冬對レ雪　憶レ題聯句倚二窻紗一

薩州桂菴老人贈下別皐華陳外郎之歸上レ京、以二八句二章一、吾山諸彥賡二其韻一、予亦備レ員、聊述二下情一伏希二删潤一、

蘭坡叟景茝

別來書信幾囘傳　望斷孤雲落日天
早得二佳名五峯上一　今橫老氣九州邊
一場法戰已驚レ世　萬里壯懷空歷レ年
舊社秋深歸去晚　也知陳榻爲レ君懸レ
漢使寄レ蹤蠻水涯　過レ君日慰二客途賒一
枯腸攪盡一瓶茗　雙鬢燒殘半盞花
燕足懸レ詩傳二幾處一　蝶翎載レ夢到二誰家一
想看太守論文地　啼鳥晝閑垂二絳紗一（此云二太守一亦與レ上同）

辛丑秋（亦文明十三年）陳外郎承二大相國鈞命一、暫如二九州薩之名邦一、洛東龍嶠之佳衲、桂菴禪師時寓二居其州一、偶然相遇、唱和若干首、足三以慰二羇旅況一焉、今茲之春歸レ船泊二泉州一、步口訪二予於市南小院之次一、持二華軸一而見レ投、披二覽之一專壯國使歸程之詩文也、公告二其來意一在レ督二拙和一而已、顧我垂二八表一衰廢特甚、然吟髭有レ餘、不レ獲二敢默一攀二高韻一者二章、前篇式擬二皇々者

華詞ハ後篇寓ニ意於桂翁ニ文雅之席所謂珠玉在レ側、覺ニ我形穢ヲ者歟、

泉南隱衲㵎齋守湊

數篇唱和遠相傳　莫レ道鬼門關外天
引レ客清香凝レ燕寢　愛レ僧閑暇座鶯邊
使軺萬里東歸日　孤棹幾程西去年
軟脚局前遙想像　洛園春月杏梢懸レ
東洛英豪西海涯　何圖再會歷年賒
別時憶折新亭柳　亂後慵看舊院花
半嶺千尋連ニ祖塔ヲ　鴨川一帶少ニ人家ヲ
交遊回レ首皆星散　誰把ニ君詩ヲ籠ニ碧紗ヲ

薩州桂菴老人送ニ皇華陳外郎ニ尊韻謹和レ之一一削而正レ之不ニ亦幸ニ乎、

西枝叟㡾宥

曾無ニ別後一封傳ヲ　兩地迢々隔ニ海天ヲ
紫禁城中舊遊處　赤間關外苦吟邊
沙鷗爲レ伴消ニ閑日ヲ　塞雁投レ音慰ニ暮年ヲ
雙鬢秋寒灯火底　落梧吹レ雨夜闌懸レ
紫陽萬里浩無レ涯　久寄ニ高蹤ヲ歲月賒
聞說活機要擊竹　也知微笑有ニ枯死ヲ
晨參暮請雲中寺　水宿霜眠海外家
爲報早催歸駕去　秋風影裡岸烏紗

奉レ和ニ薩陽桂菴老人ノ作ニ四韻二章ヲ贈ニ別皇華陳外郎ニ之芳押、慈斤惟求

鷲嶺慶泉

久無ニ別後信書傳ヲ　忽憶秋風過ニ雁天ヲ
鬢帶詩班此員外　夢牽情素只君邊
消魂驛路一千里　落手江湖四十年
何日歸來巖際寺　楓林紅處夕陽懸レ
陽關西望渺無レ涯　唯有ニ交情路不レ賒
想像牀頭詩束レ稿　見來墨跡筆生レ花
飜レ瀾千偈非ニ吾漢ヲ　挐レ竜一歎知ニ孰家ヲ
他夜相逢又相語　上窻月色薄ニ於紗ヲ

島陰集序

賜進士第奉政大夫修正庶尹兵部選清吏司郎中致仕奉詔進階朝列大夫四明洪常子經序

人生覆載間、性同ニ天地之帥ニ形同ニ天地之塞ニ所ニ以有ニ華夷之辯ヲ者、豈以ニ其疆土之遠風氣之殊ニ耶、亦曰徒有ニ是形ヲ而不レ知ニ性爲ニ何物ヲ也、楊雄謂下在ニ門墻ヲ

麗ㇾ之在二夷狄一則進ㇾ之者、蓋有ㇾ以也、日本國在二東海之東一、自二後漢一始入二中國一、由ㇾ是得下覩二墳典之全一、聞中周孔之道上、而周夏變ㇾ夷、是以其國雖ㇾ舊而俗川新矣、若二唐之粟田一授二經於四門一、助教趙玄默仲滿之慕ㇾ華不ㇾ肯ㇾ去、宋之奝然能屬ㇾ文善二隸書一者、要皆與二華人一相後先也、是豈可三得而少二之哉、我朝太祖高帝法ㇾ天爲ㇾ治、聖子神孫繼ㇾ體守ㇾ成、而薄二海內外一無ㇾ不ㇾ被二其敎化一、故凡越裳・肅愼・獫狁・高麗・諸蠻國、遣三使入二貢白雉楛矢之類一者、肩摩踵接無二虛歲一也、今天子改元弘治之八年、日本國復譯而來朝、舟次二吾鄞江上一、一日有ㇾ客持二其國南禪寺僧桂菴島陰集凡千萬言一、詣ㇾ予不ㇾ解二華語一、索二紙筆一以告ㇾ予曰、桂菴吾國緇流中之翹楚也、精二內典一通二儒書一、旁及二莊列一、無三一之不二究心一矣、成化四年覲二光上國一、得下從二華之大夫士一遊上、益二增其所ㇾ未ㇾ能歸、避ㇾ亂居二豐筑肥之三州一、凡其吟二詠性情一、應酬于求之作皆在、於ㇾ是終居二薩州之鹿島一、故名二島陰集一、敢丐二大人先生一一言以序ㇾ之、儻蒙ㇾ不ㇾ拒三其爲二榮幸一曷可ㇾ言哉、予嘗見三其紀夢遇舊之作能曲盡二離索之意一、則固心敬之矣、及ㇾ覩二是集一、則誠不ㇾ在二於華之作者一、及二其國粟田奝然之下一也可ㇾ喜也已、乃不ㇾ辭而爲ㇾ序以歸ㇾ之、弘治九年歲在二丙辰七月旣望一、

東林居士者、江州兩佐々木氏之華譜也、癸丑秋（當二明應二年一也）於二日南之弊廬一倒履出迎、相續而會者再也、三也、我知名下無二虛士一、玆歲春首（明應三年）予還二薩之島陰一、（在二鹿島一卽桂樹院也）雅談之美時時不ㇾ能ㇾ蔑二于懷一也、今也春之仲中澣之盡、飛駕來相留者一旬餘、禪榻茶烟詩筵風月興、寔不ㇾ淺、別來之鬱陶爲ㇾ之廓如也、遂告歸去矣、作二是詩一謝二來儀一、

海東野釋桂菴稿

江國源流兩大家　門々才秀世堪ㇾ誇
此郎胸次虹霓氣　一語雲飛五色花（兩佐々木者世爲二源氏之傑一）
日南一別兩天涯　倒履相迎喜二上眉一
禪榻茶烟落花雨　詩如二小杜一鬢無ㇾ絲

贈二日本桂菴樹禪師一詩序

賜進士出身奉眞大夫南京兵部車駕員外郎四明
嚴端克正序

大明弘治乙卯仲秋旣望、吾鄞吟社方先生、時起携二日東源君永春一過、予載拜而告曰、吾國桂樹院住山桂菴

玄樹禪師、精二究釋典一、旁通二四書百家子史一、於二尙書一尤究レ心焉、吾陋尙書往々皆從二古註一、而禪師獨依二晦菴一朱夫子門人之傳、與二後學一講解如レ指二諸掌一、誠日本緇流中之巨擘也、知二禪師一者、嘗薦下之於薩隅日三國太守君島津公上者、用邀以發二明尙書大旨一、禮遇殊厚、由レ是後學莫レ不レ得レ聞、朱夫子師弟間所レ講之奧旨、古所謂擇二其善者一而從レ之也、愚嘗辱二禪師愛厚一、見レ贈二七言二絕一、今幸納二欵上國一、獲二名卿鉅儒一索レ和二其韻一、將以歸、用復二禪師雅意一、敢子二執事一一言以引二重之一、予惟禪師、曩者納レ貢遊二吾中華一、覽二山川之秀一、挹二賢哲之多一、予嘗叩二其胸中一、所レ蘊非二尋常者比一、可レ嘉也、況源君能二讀書一善二吟咏一、亦在二予所一レ愛、故不レ辭而爲二之序一、俾二持以爲一レ贈云、

弘治　年日長至

贈二日本桂菴樹禪師一詩

賜進士出身廣東參政劉洪

謾道維摩不レ出レ家　也能說法動二人誇一
日東老宿多時別　看到菴前幾度花レ
老禪歸臥海天涯　渭樹江雲想二白眉一
課罷二楞嚴一無二一事一　閑將二金偈一寫二烏絲一

都察院經歷宗顯

苦行淸心是釋家　上人高致縉紳誇
吟窩容レ膝紅塵遠　只種琅玕不レ種レ花
養壽多方未レ有レ涯　童顏兒齒更芝眉
島陰老去成二眞隱一　不レ見二王言出似一レ絲

詠易老翁倪光

上人東住楚天涯　珠玉詩林獨可レ誇
萬里乾坤雙二老眼一　白雲深處看二飛花一
夢中騎レ鶴到二天涯一　西竺東林老白眉
一別石橋雲雨地　春風怨入柳絲絲

賜進士南京兵部郎中金亮

遠播詩名有二幾家一　上人贏得鉅卿誇
珠璣奪レ目龍蛇口　傳到扶桑錦上花
聞說蓬萊接二島涯一　老僧應擬淺黃眉
慚余亦夢尋二眞訣一　塵事紛紛飛若レ絲

穿山居士雜闇

海國多才是故家　名高支遁衆堪レ誇
當年曾拜天王龍　看盡長安寶樹花
東去扶桑天一涯　雲開望斷遠山眉
箇中老衲參二空相一　不レ著鹿几一縷絲

贈進士出身四川按察僉事俞澤

自是縉流第一家　釋名儒行是堪ㇾ誇
獻ㇾ珠曾過中華地　得ㇾ見春風紫陌花」
欲ㇾ向遠公結蓮社　愁聞戒酒使ㇾ攢ㇾ眉
于ㇾ今老去都忘却　日々江頭理釣絲

賜進士廣平太守前都給事中盧璐

老僧到處郎爲ㇾ家　詩律清新豈浪誇
前度入ㇾ朝承二燕賜一　醉來銀海欲ㇾ生ㇾ花」
幾年高臥島陰涯　頭上霜毛映二秀眉一
心靜自無ㇾ流二注想一　任他嬌管雜二清絲一

江郎讀二隱鮑垣一

四海車書混二一家一　昔曾納貢運二人誇一
桂菴高臥應二多趣一　幾向蒲團夢二筆花一」
中華遊遍與無ㇾ涯　詩社子ㇾ今想二白眉一
何日觀光重有ㇾ會　高山流水奏二桐絲一

願心子沈陽

禪學詩才號二一家一　明珠無ㇾ價不ㇾ爲ㇾ誇
菴前老桂天香別　壓倒祇園薝蔔花」
憶昔浮ㇾ盃過二海涯一　儒林爭喜識二長眉一
矍鑠老去知ㇾ無ㇾ恙　自咲昌黎鬓易絲

友梅方震

聞君日域老詩家　出語驚ㇾ人足ㇾ可ㇾ誇
借問禪房幽寂處　優曇幾樹已開ㇾ花」
上人家住海東涯　勘ㇾ破二塵寰一只皺ㇾ眉一
獨有二詩魔降一未ㇾ得　滿頭短髮盡成ㇾ絲

正菴張珮

獨憐之子大方家　辭賦春客不ㇾ待ㇾ誇
爲導正庵曾有ㇾ問　蚤年應ㇾ夢筆生ㇾ花」
大明日本隔二天涯一　翹首空懷馬白眉
獨札新詩再三詠　相逢惟恐鬢垂ㇾ絲

石泉倪鑰

上人少小便離ㇾ家　一入二山門一衆所ㇾ誇
揮塵談ㇾ玄登二法座一　繽紛繞ㇾ膝雨天花」
悟得眞如浩莫ㇾ涯　蒲團長日下修眉
當年曾聞三生事　飛盡爐烟細雨絲

巣松集序

夫山之秀也、水之淸也、豈自鳴二其勝一哉、必竢二詩人文士之播詠一而善鳴者也、巣松以三安老人遠辭ㇾ洛之惠山一、而留二滯薩陽之地一、玆歲孟夏僧侶坐夏之初日作二唐律

一章、鳴玉龍山之勝景、爾來無日不言詩、凡公府四方之山、官城三面之水、入公之品題、則水益清焉、山益秀焉、寧不為榮乎、遂逮夷則初吉一百餘首錄之、袖之、并平生所作之詩文、同持而就予徵序、予素昧乎詩文、實借聽於聾、問道於盲者也耶、然而不得已則如何贊成矣、吁熟顧叢林全盛之昔、碩師耆老、厥德望層聳者、昭々乎、心目之際當是時、天下之緇徒、一登五岳之巔而謁諸老之門、則人咸稱之、蓋以麗水所生無非金之沙、崑山之所出無匪玉之石、特著南禪蘭坡禪師、心宗洞達外學兼全、每詣闕下、朝講經夕留詩、是以王臣之所崇重、恰如達三生之於仁宗、又似蘇八州之於惠林、此翁既逝矣、續者克鮮哉、以安曾親炙于蘭坡十有八年、聞禮聞詩、豈徒乎、家語曰、與善人居如入芝蘭之室、久而□知其芳、公之才、何翅蘭室之薰染、而惠山者玉之崑岡也、洛涯者金之麗水也、予雖不解詩文、竊考其出處之美、則其言非琢金玉耶、其辭非吐芬芳乎、矧亦集中儘有感今思舊者耶、由是觀之予之與公老壯雖異、升沉粗相似焉、語華寺則公飫臥雲橋上月、而撫千松之翠、予醉鎖春亭畔花、（南禪十景之一）而嗽合澗之流、其興不淺、今復共為羈旅之客、彼華下之遊邈然也、行入山林則共鹿豕成群、坐對滄浪則除鷗鷺無友、吾衰矣、不忍其寥闃、公能甘其閑靜而樂以詩文、所樂不亦大乎、所謂不移心、則窮達而克樂天者、君子之性情也、是詩文既本乎性情、則匪敢可議者、仍為序、

時永正元年甲子蜡月初吉、前建仁桂菴玄樹七十八載、書于桂樹丈室、

京五岳諸老詩

愚夫嘗從公事于薩州淹留也、（季安按、其來為文明十三年之秋、而辭去其十月也、）日州安國堂上大和尚、垂慈憐寬旅懷惟夥矣、歸洛之日辱賜佳章、以壯行色、仍求和篇於洛下諸老而奉呈金猊座下、（十四年之春也）承聞昨失海南、今見求其遺藁、（亦按、此云今永正三年、而距文明十三年、凡二十六年矣、）諸公存亡相半矣、雖覓於各所不獲之、愚夫亦連書佳篇於一紙、藏于篋笥日久矣、八人奪而成烏有、彼此可憾矣、今又弗顧醜拙、謹賦短章付于便呈上猊側、式矢區區萬一者焉、來便刪潤尤展老眉、

陳員外郎杏林祖田九拜

會傳雪曲洛翁翁　萬里海山瞻望中
聞說道香難レ掩處　一枝丹桂紫宵風

日州安國堂上桂菴大和尚、乃瑞龍南禪山號遺局南遊東歸以來、道價被二于九州一、王道尙化、以レ故不レ屈レ駕而擧二視於名刹東山之篆一焉、頃有二陳氏外郞京師一、所レ居號二杏林一、西遊之日謁二見于桂菴師一、神交道契、雖レ然東西阻脩鴻鯉鮮音耗、今玆夏末安國僧徒往來之候、杏林製二二絕一抒二離索之情一、仍請二雒下諸名緇一令レ同二于韵一、老拙任二皇明入貢之節一、留二滯泉南一、杏林遣レ書求レ屬レ和、顧往日旣有二識荊之雅一、而同好宜レ減二於陳公一哉、初應二其請一後篇寫、區區老懷解二一粲於千里之外一

大明正使老釋桂悟拜

疊鑠今時一郝翁　名聲籍々播二閩中一
杏林交義辱二支許一　海外九州曾向レ風
長安遠近日過レ翁　輦刹曾遊在二眼中一
桂子天香我同稱　栴檀薝蔔一家風

杏林老人與レ余講二方外交一者年久矣、頃作レ詩投二簡日州安國堂上桂菴大禪師一、仍請二洛社諸老一次韵同賦、兼見二及余辭一、弗レ獲疊和二一章奉レ寄(呈イ)、伏希采納

宜竹竹隱子周麟名也字景徐

陳郞扣レ寂說二禪翁一　置二我諸山一唱和中
世事紛々心在レ彼　葵花向レ日絮因レ風
桂翁先友是蘭翁　聞昔龍山會二坐中一
前輩凋零吾老矣　洛陽寺寺見二秋風一

桂菴和尚大禪師廼吾龍山才望也、丞還二紫陽之閭里一、其齡幾乎越二於古稀一矣、孰無二來慕之歎一也耶、先レ是六七年榮領二於東山玉府之鈞帖一、雪樵蘭坡翁名景茝製二駢儷一抒二賀辭一、寔九峰一疏也、繇レ是吾山故舊相議曰、如二禪師一本是宗匠也、出而董レ席則不二亦盛一哉、然而欲二往勸二之、則鯨浪阻レ海狼燧塡レ山、比年矯レ首而候二視玆航之來歸一而已、今幸依二陳公外郞詩韵一寄二呈一絕一、述二眷々卑臆一云、指敎惟求、

前龍峰松蔭景修稿

壯遊如昨雨衰翁　五十餘年離索中
不レ識此情傳得否　海南萬里鯉魚風

謾同陳外郞寄二桂菴和尙一芳押

鹿苑壽顯

海西珍重桂菴翁　赫赫聲名屬二月中一
莫レ道遺賢今在レ野　德香吹滿九天風

洛下陳氏外郞詩以奉二呈日州安國桂菴禪師一、予久願二識荊一唯事二說頂一、是以擧二於曩時一、梅子佳偈頗爲二拙和一助一焉耳、雹賢幸甚、

前天龍桂喆頓拜耄齡八十一

誰圖遐裔有二茲翁一　才譽丞喧稠廣中
吐出大梅梅子偈　至レ今禪味慕二禪風一

依二陳員外郞韵一奉二簡日州桂菴老禪師一一咲惟需、

雲頂野衲集樹磨滅不レ可レ讀、似二樹字一、以二他本一補

人如二日下豫章翁一　桂隱秋高古寺中
可レ惜鄕山久栖錫　道香郁郁麝當風

陳公杏林主盟作レ詩、寄二日之安國堂上老師一、洛社者宿賡二其韵一者、有二金聲一有二玉振一矣、如レ余難レ措二一辭於其間一、雖レ然逼二于杏主之命一賦二二篇一、呈二上安國堂上一、伏求二一粲一、

惠イ南山無價軒主守擇擇一作レ懌

九州不三啻誦二吾翁一　禪道文章聞二洛中一
心鏡高縣無二隔礙一　看來千里是同風

杏林亭上主人翁　心在二詩歌一吟詠中
遙就二老禪一呈二見解一　天香莫レ隱桂華風

猥依二陳公外郞一嚴韵伏求二一咲於桂庵大和尙一、

寓惠峰令偉拜

支許論交此兩翁　遠傳二餘韵一到二山中一
何時變化五峰上　虎嘯龍吟雲與レ風

日州安國堂頭禪翁、丞辭二龍峰一遠踏二鯨波一而南遊矣、敲二名寺一搜二師家一有レ年于レ玆、歸棹之後、薩州太守欽二其高風一、仰二止法幢一、猶如三玉半山創二保寧一、而延眞淨蘇內翰關二天平一而薦二錄山一、化之被二遐裔一如レ斯而已、談者曰、紫陽一邦私吾善知識甚不レ公也、出蒞二大方一則天下必承二其賜一識矣哉、維之陳公外郞於二禪翁一方外之支許也、適投二一詩一奉レ問二尊安一、維社諸老宿輙有レ和、余亦濆二韻末一、於戲桑漢哇淫豈可レ並二諸老陽白一乎、匪レ不レ知二其非一、然而禪翁之舊、難レ忘二陳郞之需一、難レ拒之謂也、今也、海內叢林凋零秋晚、在者殘月長庚耳、所二以御前龍峰虛レ席以竢一、所レ希二禪翁一回二象轅於熟路一、而興二龍

吟一警（驚イ）二寵寂一、則吾山之光華也、嚮レ之談者論果合矣、諸老云陳郎亦云伏乞二玆削一、

南禪棲院宗勢拜

留滯經レ年霜鬢翁　紫陽萬里海雲中
龍峰舊院少人住　黄葉滿レ廊連夜風

日州安國堂上老師、才識兩大、名實兼全、昨在二龍門一馳二譽於江湖之間一、可レ謂二一時奇衲一也、遂歸二關西一、不レ出殆五十年矣、丙寅秋（永正三年也）員外郎陳公寄レ之以二小律一篇一、余之於二老師一、雖レ無二一日之雅一、而望二道風一尙矣、因依二陳氏詩韻一、作二一絕一呈上侍二机右一、聊寓二慕藺之意一云、

玉府永瑾載拜

洛下聞二人說二阿翁一　名章俊語品題中
九州皆識有二坡老一　出レ壑松聲十里風

次韻陳外郎見レ寄二海南桂菴大禪師一、

琴臺建孝拜

聲名耳稔海南翁　留在龍峰千衆中
夢擲二道香一覺猶郁　簾前一陣木犀風

玆歲仲春之初、予徒自二都下一來、陳大醫下杏齋翁、製二唐律一章一爲レ賜焉、非二特此一也、輦寺東西諸大老屬レ和、合十有五篇錦囊之重也、良有レ以矣、三薰而終日讀レ之、十襲而通夜誦レ之、琳璆、珪璋、珊瑚、琅玕、璨然光華不レ得レ掩焉、使二人不レ移二蛙步一、而遊二目乎玄圃崑岡之際一、不二亦快一乎、剩詩中見二推奬一者甚厚、蓋公之餘論所レ及也、不レ然何以如レ此也、非三翅野翁蒙二寵遇一、寵遇塞レ垣草木有レ光矣哉、於レ是不レ顧二卑拙一承二嚴韵一者、同來篇レ之、數一紙載レ之者、竊具二公餘之一覽一耳、伏希察二區區之意一、賜二恕容一幸之又幸也

諸老屈二尊二賢主翁一　杏花四繞一亭中
聚星高會是何夕　海外光影碧落風レ

皇華妙選釋家翁　奉節朝辭魏闕中
此去二明州一三百里　海無二波浪一一帆風

大慈和尙韵

我門今不レ可レ無レ翁　惠日騰輝天再中
棄二斥神戈一一麾力　禪關主將自威風レ

江海多年簑笠翁　曾遊因記多殘中
君先命レ駕我從レ後　甕路飛落撲レ袂風

琴叔和尙尊韵

濁世曇花堂上翁　不レ居二至貴至尊中一
軒宜修竹故蕭洒　秋晩叢林回二古風一
　　宜竹和尚尊韵
璉三今見再生翁　筆灕水甌雪椀中
只爲二縉紳一親口誦　百篇詩上二御屏風一
　　同
眞如家法點胸翁　訓二錬緇徒一爐鞴中
拙偈見レ稱花衮賜　有レ誰說與耳邊風
　　少林和尚尊韵
萬年山頂獨尊翁　置二我慈量廣博中一
不三是傾レ天爭得レ及　西南極レ地馬牛風
　　鹿苑和尊韻
梅鳴和靖菊陶翁　蓮是春陵遺愛中
儒腐飯レ禪馨者德　贈レ君霽月與二光風一
　　雲頂和尚尊韻
天下當時仰二祖翁一　來參繼レ踵四門中
賢孫今有二家法在一　敎海波瀾鼓動風
　　不二和尚尊韻
白髮爲レ翁鷗亦翁　共閑送レ老海居中
蘆花殘照寫二詩紙一　玉唾天邊洒似レ風

　　同
禪枯文麗巧詩翁　世富奇才名刹中
童子能書纔十成　千鈞筆力坐生レ風
　　天護和尚尊韻
往時輩下未レ成レ翁　君尙童群俊秀中
豈思二炎齋鑠金夏一　新詩落手掬二清風一
　　栖眞和尚尊韻
鷺兒飛去伴二鳧翁一　影並五橋春水中
詩興東山吟叩硯　薔薇滴露曉來風
　　雪嶺和尚尊韵
想像琴臺大雅翁　希聲未三必出二絃中一
傍人若問誰家曲　雲破月來松有レ風（琴臺十境）
　　純和尚尊韵萬壽

享祿五年（六カ）三月十五日、前建仁後南禪桂菴和尙大禪師廿五年之忌辰也、預於二三月斯日一營二辨供佛齋僧之儀一、昔僕侍二和尙之禪室一者歲□矣、以レ故述二一偈一以奉レ報二法恩一云、（東坡游二南禪寺一詩、南禪一藥七千朶云々）
　　巢松以安
五々光陰殘夢頃　靈山久遠刹那辰
花開芍藥七千朶　今見南禪一色春

前南禪桂菴大和尙、昔年當ニ遣唐使之時一列ニ位於副使一、無ニ心而渡ニ海潮一、於ニ此時一也、閩三士毅之輯釋與ニ曾端之詳說一者、再也三也、留而在ニ姑蘇一者久矣、歸朝之日對ニ諸徒一據ニ輯釋與ニ詳說一、講ニ晦菴集註一者、不レ知ニ幾囘一矣、是卽其諱辰也、因賦ニ野詩一以爲ニ報恩之一句一云、（疑元和乙卯六月十五日事也）

末裔玄昌九拜

憶昔吾師泛ニ太湖一　七年聽レ雨在ニ姑蘇一
泗洙流遠道將レ廢　又似ニ扶桑一水到レ枯

桂菴大和尙示寂之日、賦ニ野詩一以奉レ報ニ師恩一云、

同

憶昔吾師挑ニ法燈一　無心渡レ海道能弘
德風凛々百年後　赴者爭レ先六月氷

柳濱水野先生之招魂墓

先生歿距レ今百八十餘年矣、傳稱先生故參河人、姓水野氏、諱重治、柳濱其號也、上祖爵里無ニ傳可レ稽、或云其先世臣ニ上杉氏一、好善ニ居相一、遍ニ歷諸州一、頗臻ニ其妙一、初吾慈眼公稟示ニ現技於東鄕一、重位崇信特篤至レ令ニ封內皆學ニ其技一、故他衆技禁ニ恣學一焉、公薨、暨ニ寬陽公立一、以謂大藩偏ニ脩一技一、却似レ有レ闕、莫レ如下乎使ニ武夫、各隨レ所レ好、倘博綜ニ衆藝於吾封內一、以備ニ不虞中、乃聞下先生以ニ居相一馳中名於諸州上、聘ニ臣于藩一、於レ是先生來寓ニ本府松原山下一、敎ニ授子弟一以ニ此技一焉、正保明曆間、門人益衆、遂推尊稱ニ水野流一、平田監物宗淨、椎原柴右衛門國口、米良隼人重任等、皆受ニ先生一得ニ其蘊奧一云、萬治二年己亥七月十八日歿ニ于伏見一、法諡秋山日孟居士、門人受レ業聞ニ于今一者、有ニ三四哲一、而惟宗淨以ニ高弟一聞、其將レ入レ室也、雖ニ屢往叩ニ其門一、先生謝辭、託レ事不レ遇、牆窺輒敎ニ他諸生一不レ異ニ平素一、宗淨無ニ以挾レ心、猶愈覃精凌レ寒冒レ暑、夙夜就レ焉者殆踰ニ旬月一、先生乃迎而曰、吾（以下闕文）

僧桂菴字玄樹、後號ニ島陰一、周防山口人、不レ詳ニ其姓氏一、以ニ應永丁未一生、永亨七年甫九歲遊ニ于洛一、師ニ事惟肖於南禪寺一、當ニ此時一建仁寺有ニ惟正名明貞者一、東福寺有ニ景召名端棠者一、皆不二岐陽之弟子、以ニ博識一稱、（故又就ニ甘二老一）受ニ內外學一、嘉吉二年年十六祝髮爲レ僧、時

漢學起源卷三

桂門第二十九

桂菴之遊諸州也、無所至而不受教焉、於筑後則源東谷（善隣方）、於筑前僧書中、萬松（山王）、於肥後隈部總州（名忠直、菊府輔佐臣、桂菴贈詩曰、輸汝仁君累世同、塞垣草木識吾翁、朝々講罷國家事、詩律千篇談笑中、其二云、載道元依大器成、人如白璧價連城、一郷好學九州化、能使斯文日月明、可觀知其人也、）白石兵部（阿蘇氏臣）、學臣僧月舟（桐瀨人）、僧玄叢（熊峯人）等、日益衆、迨應聘於藩、亦不獨三州士人受業、雲蹤萍跡之後不遠千里、接踵來聚、而其大者爲公族、若國老諸名刹主、其小者不遑悉擧、於公族則遠州勝久（大岳公第四子）薩州國久匠作忠廉豐州忠朝（並島津氏當時近屬）新納忠親（刑部）國老伊地知季貞（防州刱左衞門尉此）鳥取政秀（播州）等自越後、則長尾某自近江、佐々木永春於薩郡邑市、來龍雲寺、玉洞串木野冠岳寺宗壽、伊集院廣濟寺湖月（大岳公第九子）妙圓寺愚丘、加世田保泉寺舜田、楫宿大圓寺說溪、山川正龍寺郁芳、府下則福昌寺守琮、安養院文傍、桂樹院玄章、於日州飫肥安國寺月渚、櫛間野邊克盛（左衞門尉）於隅州安國寺雲夢、吉田長隆寺耕月、了潭寺（今興化寺）悅翁、從肥後雪溪、從肥前自擇、從筑前大年、自長門曄、自洛巢松及天用、自美濃玄勤、自上野鈞雪之類、皆出於其門、或醉師德而沒齒於藩、或業成而歸其州、各教子弟、亦以此學、由是桂菴名聲籍甚海內、蘭坡詩云、學業傳聞至聖涯、桂悟詩曰、名聲籍々播關中、又其序云、道價被于九州、王道向化、又守擇詩云、九州不啻誦吾翁禪道、文章鬧洛中、此等詩蓋匪徒頌詠、實有以爾、而國朝宋學之弘于世、亦首自桂菴、何者觀其仰慕自遠方來學如擧前、可以證當時也、

儒俗第三十

宋書之入本邦、蓋首乎僧俊芿等、多購儒書回自宋、而其講學據明編修官揭傒斯讚、故宋祖元起日本招、謂海東諸國皆言孔氏、迨祖元行孔釋並隆、無遠不至則始於宋僧等來兼講儒書可概知焉、於是乎、其聽受而稍崇信者、亦虎關・玄惠・空華・岐陽・一慶・惟肖之屬、多皆五岳僧、而孔釋並傳、各教其徒、則山崎闇齋譏玄惠及藤太閤等信程朱說猶惑乎佛、亦爲是故也、惟肖等以傳桂菴、故桂菴亦雖僧

在明精究朱學有功于世、如述前篇、而吾藩世世相繼受其學師、一時者月渚・一翁・文之・如竹等之徒、宋僧以來孔釋並傳者、凡三百餘年矣、由是本邦之稱儒者而崇宋說者、後皆沿襲、陽禿其顱擬驅於僧、陰揭乘彝講道於儒、遂爲故事、其本蓋起乎皆隱釋而避博士家忌諱也、已而迨文敏林先生、以斯學大振名於神祖創業之時、亦猶因循、至賜之僧官始爲法印、及他諸儒亦列制外、暨闇齋出著剃髮辨、始駁世儒、闢世儒言雖曰從俗各飾之辭、實變於夷、而亂吾俗、皆出於無稽云、後稍省悔、迄元祿四年法印孫正獻林先生、（名信篤號鳳岡）新承鈞旨還生其髮、由、法印官爲大學頭、國朝儒者、始革其遺俗矣、且應仁中桂菴使于明、明憲宗成化四年、幸値元旦、早朝大明宮時四十二、爲詩及鹵、自是逝世復四十年、每歲旦輒莫不爲詩必言鹵者、至値歲旦苟得唱和、則桂菴曰、今歲汝學進於前示不忘榮云、匪獨自暢敎、受業徒亦勉傚焉、年、・若不能者反復誘示如試業、然觀夫漁唱可以證焉、而迨其徒分各歸諸州、亦皆以斯敎授其徒、遂爲倭儒法、太宰德夫曰、中華詩人鮮賦歲旦、而倭儒乃每歲旦必作銜名、雖流俗弊諸先生罪也、好古君子勿傚幸甚、彼不知本耳、據此等事以原濫觴、則國朝之弘宋學於世者、多歸乎於桂菴亦足以證也、況如吾藩民到于今皆受其賜、若微桂菴孰揭彝倫闡聖學於文明時乎哉、

舜田第三十一 附舜有

僧舜田字耕翁薩州人、俗姓村田氏左衛門尉經通次子、而國相肥前守經安姪也、天資淳朴自幼爲僧、受學桂菴綜研內外無弗洞徹、爲桂菴所器許矣、大永中董龍盤院、（在今城地、圖室公創焉、以天祐爲開山、舜田蓋二世也、慶長七年移今寺地、改龍爲隆、）享祿元年嗣法天祐、（名宗津、乃大岳公庶子）四年十二月轉谷山皇德寺、（僧文昇代龍盤）天文二年後奈良帝勅賜耕翁號智燈惠照禪師、三年十月川上昌久（大和守）及實久等、謀殺國老末弘忠重（伯耆守）於皇德寺、公如稱寢、府下緇素多離散焉、耕翁乃以弟子舜有遁伊集院隱谷口、（小菴）五年三月梅岳君復伊集院兵勢大振、於是乎君辟耕翁舜有與之砥礪、寵遇日篤、七年十二月君及大中公、陷加世田、先是薩州國久創寺于此、曰保泉寺、招皇德宥仙（名泰翁）爲開山僧、於是耕翁董保泉席（今日新寺）耕

翁常娛吟咏、愛黃山谷詩(山谷名庭堅宋人、嘗謂周子人品胸中洒落如光風霽月云、此人也、)嘗聽桂菴講山谷詩、賦詩求和、桂菴亦和曰、

一宇茆菴四壁疎　君非老伴慰衰餘
唔咿答竹貫珠響　讀盡涪州(山谷謫涪州別駕)內外書
西山納綠一簾疎　詩是緇郎禪緒餘
除却十年燈下讀　胸中自有不傳書

吟此等詩、則耕翁亦知以稱其襟懷有道氣焉、耕翁以授僧舜有、舜有別號三枝、亦薩藩人夙志脫塵、師耕翁學、資稟穎悟綜究內外、從師皐德天文二年桂門巢松見而奇之、名號三枝、爲之頌曰、大樹元來大葉全、條林周遍刹無邊、不知繁茂在何處、根蔕分明空劫先、三年十月奉師奔谷口、五年三月迨梅岳君復伊集院、辟耕翁三枝、參學研究、寵眷特篤、三枝乃以傳之、君乃環其所芟四至廣境、拓刹居之、因摘君號曰梅岳寺、又名其山曰福壽、乃命工彫刻君肖像、寘諸其寺、賜田五町、永供寺產、於是三枝奉師(耕翁)爲開山焉、初耕翁與秋月善、故煩秋月寫己眞像、又畫花鳥於金屛風一雙(六疊)、倂之君馬具傳藏于寺、(寬文十年寬陽公徵秋月畫耕翁像及金屛風、命工更寫其像、裱飾金襴、以賜之寺、於是四月國老島津久通承旨使福昌特峯記其事、亦授系十二月泰淸公更賜金屛風、令易傳寺云、)永祿六年十二月傳法舜芳、七年甲子二月二十六日化、曰當山開山三枝舜有大和尙禪師、

潤公第三十二

潤公姓島津氏、諱忠良、稱相摸守、老號曰日新齋、又曰愚谷軒、至後參禪、曰梅岳常潤、故摘爲潤公、祖諱久逸、乃公室九世大岳公第三子而嗣伊作氏、是爲善勝君、父諱善久蚤卒、是爲越山君、母新納氏諱常盤、是爲梅窓夫人、初桂菴之應辟也、夫人生七歲、迨其梓大學頒行於藩、年稍長性聰敏、而志於儒學、恒讀論語、(承應二年、川上久國所著與西福寺夫人傳、則作讀孔氏之遺書、今從新納譜、)既嚮歸于越山君、君未有男、欲夫人生以爲莫如乎爲仁、乃博救衆又禱金峰、逢白衣神人告生賢子、夫人夜夢金峰變飯入吾懷、而有孕焉、明應元生男、是爲梅岳君、君生三歲、越山君卒、夫人寡居、與祖善勝君議、以爲育君之道莫善乎出就有德、七年二月君稍髫齔、乃遊海藏院、受學賴增、凡九年矣、迄永正三年正月、賴增縕韣善竭其道、又使新納漁隱傳之、漁隱亦匡弼以忠、遂至以使君善研精勤學、覃思勵行、踐履純實、而愈希聖賢之德、由是大翁公乞君之男立爲世子、委君政柄、大永七年公遜位於世

子ハ自營二兎裘於伊作一移、而禿頂焉、世子享レ封是爲二
大中公一、於レ是梅岳君夾二大中公一徙二居麑府一、乃亦削髮
更號二日新一、未レ幾公族寶久作レ亂猜レ邦、語在二舊乘一、君
之號二日新一也、益救如竹嘗聞二諸文之一、以語二其門人愛
甲喜春一曰、君嘗聞三桂菴講二湯盤銘一、乃有レ感曰、湯銘二
諸盤一以戒二其身一、吾近命レ身恒顧爲レ戒、遂號二日新一、其德
隆盛多暢二諸歌一、恢二拓政敎一以垂二萬世一、雖二前聖一而無二
以耻一、則本二乎由レ斯提誨而醒起一、英機云誠其然哉、誠其
然哉、但桂菴則歿二永正五年一、時君年十七、聞二其講說一
非二亦無レ謂、然號二日新一據二舊乘一繫二大永季一、則當下必
在中舜田居二龍盛一、（在二今府城一）時上、而聞二其所レ講以取レ之也、
而如竹曰、爲二桂菴一恐二舜田之誤一爾、天文五年君及大
中公帥レ兵復二伊集院一、所レ向無レ敵、兵勢大振、乃聞三舜
田及其弟子舜有隱二於谷口邨一、乃就二二老一益研レ德焉、
七年君進二取加世田一、遂移二舜田一補二保泉寺一、初舜田
受二學桂菴一、嗣二法天祐一、以傳二舜有一、（六十二世）舜有別號二三
枝一、前レ此（天文二年）君從二俊安一、（田布施常珠寺）旣蹤三參禪受二菩薩戒一、
而至下與二舜有一尙精密窮中其蘊奧上、造養益深、胸懷廓然
一以貫レ之、千酬萬應莫レ不二徹悟一、於レ是乎、舜有以レ是
傳二之君一、君自レ禀レ學寵遇日篤、乃環二其所一茇二四至廣

境一、拓レ刹居レ之、因摘二君號一曰二梅岳寺一、柳君之學術
遡二其淵源一、則雖下出二於達摩一而入中於石屋上、顓務見性
承二其法嗣一、（六十三世）仍事二于佛眞如菩薩一、然自二舜田一下繩
參二桂菴之儒說一、綜二究內外孔釋一、並傳以授二之君一、至
レ君一變至レ道、君之禀生粹美、維錘磨以屯レ難、慨然憤
發奮二乎百世之下一、力學研究潛玩既久、深探二儒佛之
願一、不下徒溺二於徑約一而陷中於曠空之屬上、不下亦騖二於該
洽二而流中於泛駁之歸上、其座右則懸二聖蹟圖一、惟精惟一、
博約純熟、言行踐實、每レ應レ事接レ物、輙莫レ不三必質二
諸聖範一、而養レ民以レ政、肅レ之以レ刑、致二其所レ臻、則仁
德日新常潤、其身睟面盎背、其文章雖レ用二倭辭一、實與二
聖賢一同二其敎誡一、其將レ逝也、正易簀操毫二于永祿戊辰
十二月十三日一、得壽七十七、俊安爲二之頌一曰、富潤二屋
遑一經二壽年一、文經武緯愜二天眞一、心頭性火發明後、三敎
功名屬二一人一、又代レ賢贊二君眞像一曰、儒門君子翁、釋部
窺空々、明達玄々理、三敎成一同、讀者玩吟可以觀三
其通二儒佛神之三敎一也、若二夫天敎及法華眞宗等之弊一、
浸潤至二蔑レ神滅レ彝、則英斷旣慮二後世愚民利己眩惑一、
嚴設二禁令一遏二閉斯徒一、初入二乎藩一、其功業匪三啻以化二
當時人一、永至レ使三三州士民咸趍二正路一、仰爲レ所二矜式一

焉、自君薨後四五十年、如天敎則至台德廟世、遂令於天下、盡驅斯徒、由是藩亦特遵奉之、以併眞宗並禁封內、歲六月則徧督戶口、求匿陷者、每六七年修正版籍、謂之札改、赤崎敎授（貞幹字彥禮稱源助）之游肥藩也、藪孤山語焉曰、貴藩自古世不乏於賢君明相、觀其爲政、先禁眞宗、勿內於國、擧此一事、佗亦可知也已、其徒動遁肥藩、至煽惑愚民以害政、然到于今無術遏絕、又新伯剛之學家田翁、亦猶藪所語曰、中井氏所著草茅危言、亦惡彼等滋蔓塞路、屢辭而闢之、空言無施、且及負版事、如我藩則旣皆行之、以是觀之可謂先君之爲政實與後聖其揆一也矣、是則無佗、其本得非必由乎、桂菴會闡宋學於我三州、如梅窓夫人、亦讀論語以夙敎君、善竭其方、而有然乎、據是考之、斯文寢盛弘于天下、至如今日皆爲其賜、亦豈其虛也哉、至如佛道、則興隆之久旣如彼、而石屋時尤爲盛矣、然猶且使恕翁公至有世子而無世子、亦其高則雖如高、求道滅倫、所以與儒異也、若使桂菴倡宋學前於石屋、則恕公翁縱令欽其德、安能僧一子至無後乎、

月渚第三十三

僧月渚名永乘（或作英乘一名玄得）、齋號宿蘆、薩州牛山人（牛山郎今大口）、俗姓無傳、天性聰悟、幼志脫塵、緇服遊肥、隨侍栖碧於淸源寺（在肥後玉名郡高瀨鄕、正平三年皇子懷良創建于此、以東福一鑒爲之、開山其山號高瀨云）時僧一枝構軒山中、賦詩善書、名滿叢林、月渚乃從學焉、迨業將成一枝歿矣、然猶留遺軒、凡五六年、而一枝嘗與桂菴友善、故桂菴聞月渚端厚超衆、稱歎之曰、昔仲尼沒、子貢六廬於冢上、月渚亦豈減其盡心喪乎、明應三年在洛惠山、司藏鑰、而皈日州、四年春首有作、桂菴次其韻云、去載禪郎位轉機、惠山草木故光輝、摩尼撤向日州域、鄕友相迎薦錦衣、六年初菊府僧雪溪負笈于薩、受學桂菴、文藻宏識馳譽遐邇、九月菊府使月渚來迎雪溪、同董淸源、時月渚介雪溪得見桂菴、桂菴大喜爲詩送焉曰、

孤錫飄然報遠來　開門掃葉小嵐隈
牛山有本古今美　桐瀨禪林用楚材
師門業在壯年時　好寄書巢借一枝
人逝筆亡無限恨　爲君不說又憑誰

按盛香集桂菴學於明、回應辟藩、奇文之材、招爲弟子、時文之年二十三云、計文之生、當桂菴沒後四十九年、而年十三學一翁門、

安達桂菴乎、今觀此結句、似誤月渚爲文之、若果月渚而時二十三、則應生於文明七年、少桂菴亦四十九年也、註竢考稽、旣而未幾月渚辭肥還薩、師事桂菴、嗜學研精、胸襟高潔、雅好吟詠、桂門雖衆咸推月渚爲巨擘矣、凡遣唐船多泊於日州諸港、麗藩自古掌之出入京命也、閒歲福島係公族忠朝（島津豐後）食邑、故擇儒僧備之簡牘、於是薦月渚董龍源寺、（在福島之市來）特加寵眷、後轉安國寺、（在飫肥、時亦忠朝邑）聚徒講學、根據師說、皆依朱註、門人日益衆、大永三年管領細川高國、承幕府旨、遣相國鸞岡（名曰瑞佐）及宋素卿爲正副使、使于明國、兼啓通商、三月泊于山川、（薩州港名）大內義興亦遣月渚及宗設同使于明、而宗設等所駕船先至寧波府、繫船十日、（一本作至四明）素卿等船抵自後、然賂府令、其進謁也、素卿爲先、宗設乃怒刺殺府吏、時明世宗嘉靖二年也、乃捕素卿下獄、故月渚及宗設急發開洋、便信風還、而月渚主安國席如故、此行月渚遭不虞難、以急解纜不觀西湖、爲終身恨矣、且如學術亦雖不至親就明儒以研造詣、迨飯自明、徒衆愈盛、於是乎幕府特賜鈞帖補建仁寺、凡董安國者二十年、後老退隱于西光寺、（飫肥南鄕）天文十年辛丑二月九日歿于隱居、弟子受業者、安國一翁得其宗矣、與巢松等來往唱和其詩、多見巢松集等、至性行詳無傳可見、若爲後學所欽仰者、觀文之歲値諱辰所薦詩文、可概知焉、

二月九日奉呈月渚大和尙眞前（見慶長十二年）　玄昌

惟德惟馨與歲加　名聲身後點無瑕
莫言叢社已凋落　枯木回春二月花

有感作（當慶長十三年）　同

敎化陵夷左衽來　尤悲大道有多岐
叢林零落東西寺　月渚門徒知是誰

慶長庚戌二月初九、伏値前建仁月渚大和尙七十年遠忌之辰、謹綴卑詞以奉呈眞前云、　同

善行嘉言猶未泯　古叢誰敢訪遺塵
宿蘆亭下月沈後　默數年光閱七旬（宿蘆月渚和尙齋名也）

二月初九、卽前建仁月渚大和尙示寂之辰也、謹綴一偈云、　同

敎海禪河兩括囊　更雖閱世德惟香
古傳房下燈將盡　猶了殘經借月光

二月初九、謹裁野詩奉呈月渚大和尙眞前、

（見元和二年）

心月孤圓照太虛　餘光至此更扶疎
羞吾無似傳何物　架上纔遺一束書

天文辛丑二月初九、吾師前建仁月渚大和尚瘞履之辰也、是歲元和丁巳正月初九、摟指則七十七回也、裔孫玄昌不勝追慕之情、謹賦小詩以爲報恩之一句、兼示諸徒之在會裏者云、

人生七十七年忙　幾讀遺編淚淋浪
水月明樓拜眞物　至今猶有煥乎書

桂菴和尚之門人月渚者、詩文共熟之老古錐也、昔時日州安國虛其席者有年矣、征夷將軍賜建仁鈞帖於月渚、月渚主住持之席者二十年矣、予之師一翁者鄂渚之寵弟、而學於月渚之門、門以有一翁爲巨擘矣、天文辛丑二月初九日、不幸而月渚示滅於南陽、西光之寺古籍百卷於今猶在存者、爾來守一翁之塔者覃八年矣、羅國之□□騷屑離群索居、予住正興古刹者十有五年、今也蒙薩州殿下之命、創大龍新寺於麑島、故殿之陣迹居止者七八年矣、丁於戊午二月月渚瘞履之辰、豈可不言詩乎、因賦材詩云、宿廬者月渚和尚之別號也　同

當榜宿蘆存故蹤　斯翁一代稱談宗
密雲不雨南陽寺　可惜終身作臥龍

一翁第三十四

僧一翁或號二州、薩州犬迫人、俗姓鹿屋氏、以永正四年丁卯之歲生、兄曰鄂渚、董龍源席、（以明應元年生、化於永祿十年正月二十日、年七十六歲、）一翁亦幼削髮爲僧、稟賦穎敏、師事月渚、日州安國寺月渚者桂門之高弟也、故一翁綜研內外、最精宋學、遊抵京師掛錫、眞如後奉鈞旨陞建仁席、未幾西歸補安國寺、永祿三年明國福建道連江縣人、姓黃名友賢者、爲賊所捉、而寓於薩川內、其在明也、夙承家學、覃思周易、程傳朱義莫不曉悉、筮驗如神、一翁與之傾蓋、道契日深、西土日東、雖異方言、討論經義、互質迭證、渙然冰釋、多所與輔、遂爲莫逆交云、十年正月目井（日州地名）延命寺天澤會下、玄昌年甫十三矣、賦歲旦詩、辯翰兩勝、天澤奇之以爲英物、非吾所能育、乃使之就受學於一翁之門、世所謂文之和尚此也、時一翁既謝安國退甃龍

源、（並見前篇）專以教授樂暮齡焉、故其導文之等靡一不隨其材、以施之教、猶孔子於七十子、而導之誦經、或教學書、或習國字、以其理之易通其事之易達、欲使之各隨其材賢愚、皆成其德以爲世之用焉、恒誨之曰、人之爲學汝知其要乎、蓋不但爲通文辭、而辨世用、所以切實學其爲人之道也矣、其學焉者、以事父之孝、移之於君、則爲之忠、以事兄之弟、移之於長者與朋友、則爲之順、爲之信矣、皆在省求之於吾心涵養德性而已、若其舍之雖徒求外、豈復何有得哉、故其居常教弟子、亦要進退周旋必中禮、動援聖語曰、行不履閾、其必愼之、（見文之所爲詩序、或勸學文等）善誘後進、叮嚀親切多如是類也、天正元年飛錫隅州、栖居神護（在加治木）三四年、文之從焉九年、先是文之業成遊學京師、至是西歸、二月一翁乃薦文之監龍源寺、（在福島市來時、藩士伊集院下野久治地頭焉）益就閑散、年八十六、歿于文祿元年壬辰十月五日、（一說十二月二十八日化、文之爲初祖忌之日、）弟子受業莫出文之左右者、故終身欽慕師德、見其文集、

奉呈一翁老師眞前

天下有達尊三、曰德・曰齒・曰爵、有其一者世以爲少、況併其三者乎、吾師一翁大和尚、謂其德則詩禪俱熟、謂其爵則始住日州安國、中住京師、眞如後住東山建仁、謂其齒則踰八十者六、豈非併其三者乎、先是壬辰初祖忌之日、唱無聲之典矣、爾來默數一十五年于茲矣、是日虔備澗溪之芼焚婆律之香、以伸供養、因賦狂偈、爲報恩之一句、（當慶長十二年）

末裔玄昌拜

爲報師恩難敷宣　澗溪荇菜水沈烟
自栽墓柏成叢社　晞向秋風十五年

初祖忌之日、伏値我師前建仁一翁大和尚示寂之辰、綴野詩一章、以充報恩之一句云、（當慶長十三年）

憶昔乘雲歸帝鄉　煥乎至此有文章
欲報恩義用何物　一朶梅新一瓣香

謹綴野詩一章、奉呈一翁老師大和尚眞前、（當慶長十八年）

同

白髮殘僧掃影堂　師翁去後幾星霜
信言久遠猶今日　德與梅花一樣香

吾師一翁和尚教授於鄉校者年尚矣、於斯之

時國家兵爭、而書生亦不得習而熟矣、若予之輩久雖侍於絳張、而不得入其室、所學者章句訓詁之末耳、可羞之甚也、今當諱日、誦昔年訓導之言、裁詩一章、奉報恩義之厚云、（當元和元年十月）

同

吾師敎授幾春秋　刮垢磨光恩義淳
訓導遺言如在耳　不通古今不成人

謹綴野詩一章、奉獻前建仁一翁大和尚二十五回諱辰法席、（元和二年十月）

同

五五年光端的移　古叢凋落又憑誰
釜甑不爨脩無物　纔采蘋蘩薦我師

黃友賢第三十五

黃友賢明國福建道連江縣江夏郡人、其先出自顓頊玄孫陸終、終後封黃、因以姓焉、友賢生於明世宗嘉靖十七年戊戌之歲、（本朝天文七年）三十九年（永祿三年）爲賊所捉歸化本邦、時年二十三、初其舶至薩川內、故寓入來、而後漂泊於薩隅日間、其在明自幼愛家學、尤精易筮、少從一翁三十一年、而友賢與一翁善、恒來往講程朱之學、文之幼侍一堂、故亦獲以與有聞、而曉通者多云、天正十年松齡公戍八代城、（在肥後州）十二月召友賢卜筮焉、遂擧祿仕令恒講學、朝鮮之役亦列從兵、慶長元年明神宗遣遊擊沈惟敬使國朝、時友賢從公上伏見邸、惟敬邂逅友賢、異其未死存於日本、特加慇懃、繇是人皆知非庸族、豐太閤亦聞乃將擧任官、而命公且以促之、友賢辭曰、未知國典、於吾明爲臣事一君、所深耻矣、臣雖不敏、既已委質臣於藩公、願守吾道、固執不肯焉、公以報太閤、太閤大感、聽如所願、又神祖之臨公邸也、及諸縉紳開詩歌筵、以賁雅興、友賢與焉、（見侍醫板坂卜齋所筆書）當是之時京師晚生學易若詩者、莫獨不師友賢而承敎焉、名聲籍甚京洛、至升聞天朝、勅賜筮木、加之親王道澄亦賜之號、曰環溪先生、或陪聖護王謁精雲精舍、賦詩王命也、四年在藩三月、慈眼公手誅叛臣幸侃於伏見邸、初其謀事也、使帖佐宗□（彥左衞門）豫還藩陰命友賢筮之吉日、七年冬公築今府城、亦命友賢豫卜其地且經營之、友賢乃齋戒薰沐、告諸天地鬼神、而卜筮焉、曰卜筮皆吉、

宜國家永久公胤昌盛也、但恐火難耳、然鎮火法宜祠靈符以防其難、乃從其言云、（後歷數年、寛陽公令出靈符賜曾山恕心祭諸其家、既而大圭公時、元祿九年府城火、靈驗如神、至淨國公時、碇山道鐵聞靈符、嘗祠於曾山氏、因弟子丸宗武陳其所聞、公乃徵靈符、復祭之府城、如友賢言、而命木村探元、別副寫一幅、賜曾山氏、尙祭之家、亦如故云、事見浦波、但友賢作自閑誤、）十二年松齡公自帖佐徙都杙城復命、友賢豫卜其地而經營之、身亦從遷、食祿三百石家列士班、以江夏爲氏、其在明所居郡名云、十三年正月公賀新正也、十五年庚戌七月二十三日歿于杙城、享年七十三、葬木田邨實窓寺、題黃翁環溪先生江夏氏墓、生子筑前守後稱二閑、夙繼父業、亦精易筮、不墜家聲、嗣祿三百石、（寛永九年籍載三百二十二石）門人愛甲喜春受其學、自有傳、

悼友賢黃先生　　釋玄昌

無不人言失此賢　一朝傳訃涕潺湲
聲名身後潔如玉　遊戲斯文七十年

納環瓊先生著策記

凡物有形天則斯從、民人有思神明斯應、故雖聖人贊幽明前民用之、靈器不免隱顯趨舍之期數也、我祖師友賢黃先生福建道連江縣之人也、避亂所劫倭賊、本朝永祿庚申年來寓隅州加治木久矣、曾從邦君源宰相義弘公、朝覲於山城國伏見營、屢遊洛陽、時當今有憂虞之事、猶豫未決、召賢而筮焉、太有靈驗、上悅命近衞關白左大臣信尹卿、以賜五大聖圖影壹幅・神蓍壹箇・紅錦壹端・黃金若干兩、且照高院道澄受朱子筮傳、復詔拜先生之號、稱環瓊後命義弘公將移賢於洛下、義弘敬諾矣、賢慚敢忘義弘君舊恩、而共立以固辭矣、君力進而不聽、遂適從歸國、君感貞節與采三百石、慈息二閑榮宗續其統、屢筮有應驗、時以爲專徵所移、麑府小臣侗及愛甲喜春等從遊門下拾餘年、臣竊知易道玄遠不可至、不敢慢筮焉、及聞翁沒筮蓍之方漸微也、其玄孫上源氏知家傳寶器、或時香火耳、延寶戊午庚申之際、薩府之南區有火災、當火甚急、自抱一箇逃避、聖影及詔書盡焚失焉、年十一月我邦君左近衞中將光久公、聽新義易傳始自本邦、而今將晦弊命侗及喜春父子纂修、臣不堪重責、謹按傳記、君道必先於立教、立教莫重乎經術、經術以四聖經傳爲首、嗟偉哉邦君知治道之先務也、邦君雅未講易學、聰明稽古、賢才格物、明倫正位乎、家人

箴敬、惕若乎、乾九君臣賡協以交天地之泰耳、目明闢而續日月之離、是於易道可謂善用乎、苟如此而開後生之學、鄉學與起士、將俱効用、達物宜於虛中、兆民皆顒々然、仰蒙邦君右文治、斯臣所以不可固辭也、是年二月臣復從述職、侍薩伊集院、春亦送君駕來焉、相共勘合易傳、語及上原氏所藏寶蓍、余云、吾嘗不忍先師遺寶堙沒於無聞、冒昧當此行、聞兄將送君行、欲相策爲國器、私借上原氏而載來焉、春云可也、廼擬合以聞久胤久輝兩相公、請收納、春既得令還鄉而說上原氏、呈奉本部、既而君駕留伏見邸、飛割遠送、依奉邦君大悅命喜入久、甫載內閣之寶籍還發德音、借臣預知卜筮之事、臣恭奉日焚香敬修、蓋惟先生之知兩君以彰兩君之治、上天以肇其天也者何矣、傳云、天何言哉、叩之卽應於非蓍何也、又云、天道無親常與善人者、其是之謂乎、向賢從義弘君之述職、來伏見共蒙至尊之至澤、今左將君紹明世復來伏見、而納其器開後人之先務、卽可知物有期也、嗚呼其人已歿其器殆危、遂至文獻不足、忽所以有此擧、記其始末使後人足徵、而黃家之青亦不泯者、如史謂伯夷泰伯於孔子、同類相照是也、又以可謂龜從筮從、如臣等亦蒙鈞命謹誌字名乎篇末、卽可謂附驥尾者哉、

延寶九年辛酉三月丙子侍山城國伏見館邸

大原林齋王貞夷侗民謹記

飯野士江夏由緒書

一我等先祖江夏友賢事　惟新樣伏見御詰被遊候時分御供仕罷在候其節帝王樣御不例之事御座候付而友賢を內裏江被召　出周易之占可仕旨依勅　命蓍を取御病元之樣子奏達仕候に付急度御快氣　被遊之由候因玆近衞關白樣江勅諚被遊五聖人之圖　一幅紅錦一端神蓍　一筒黃金等拜受仕候其上環瓊先生之位を被下照高院如雪親王樣周易御相傳被遊候內裏御暇仕候刻從如雪親王　樣餞別之　御歌二首　御自筆に被遊被下候于今頂戴仕候差出申候　如雪樣御書二通御座候一通鹿兒島江夏仲左衞門所江御座候　一通は末吉之上別府市左衞門所江御座候寫一通差出申候

一友賢事　帝都江可被　召移旨　惟新樣江　勅命有之候に付則可差上旨勅答被遊候得共友賢事惟新樣御高恩を奉忘同輩に相立申候儀道に違申候段遮而御訴

申上候得者貞節之志を叡感有而則勅許被遊候其節惟新樣御意被遊候は勅命を相背候段如何に候間必可奉隨勅諚旨御意被遊候得共不承候而終に御供罷下申候依之惟新樣眞實之忠義御感被遊高三百石被下候

一延寶九年之比前之中將樣從內裏拜受之神蓍御所望被遊候砌大原林齋江被仰付右之趣文書に書記神蓍に相添被召上候其節神蓍上原五左衞門江預け置申候彼五左衞門事我等祖父源左衞門弟自得一男にて御座候故易相傳可仕通申に付源左衞門より易書相添借置申之由候依之五左衞門より差上筋々文記相見得申候得共友賢嫡家之儀は私方に而御座候右條々林齋江被仰付候文記に委細相見得申候

一惟新樣飯野江御在城之時分友賢事御供仕飯野江居住仕候我等曾祖父二閑事は友賢嫡子に而御座候其後惟新樣栗野江御移被遊候も御供仕候我等祖父源左衞門事栗野に而生れ候其後帖佐加治木迄御供仕罷移申候友賢事者加治木にて相果申候二閑事者御用に付鹿兒島江被召移候二男自得も同前移申候源左衞門事は二閑嫡子にて御座候故加治木江罷留中納言樣江御奉公仕候我等代迄加治木江罷在候得共逼迫仕加治木御暇仕只今飯野江罷在と申傳候大抵如斯御座候以上

丑四月十九日　　　　江夏慶右衞門印

一上別府市左衞門に向付候處搭護不仕由申出候に付慶右衞門に問付候得者祖父源左衞門より此寫請取申候間江夏仲左衞門方江有之御書之寫共又は市左衞門方江有之御書之寫共然與覺不申候七八年前に市左衞門方へ右御書之儀相尋申候得者見失爲申由申候而無之候通寅四月廿七日飯野愛より被申出候

寫在飯野士江夏慶右衞門

一態用一筆候其地堅固之由珍重に候此邊別儀無之候我等作事如形成就いたし候惟新於上者同船可有哉と待居候處老衰之故無其儀之由萬端落力候猶期後音候不宣

三月十六日　　　　如雪

友賢老人

在飯野士江夏慶右衞門

一友賢老人汧裝之催日已近、祗今泥兩篇之詩以レ予與レ之不レ堪二感激一、牽取二韻末之二字一、聊報二其志一而已、

かり初の別なからも慕はるゝ
袖のなみたやたきのしら糸

別ゆくみやこの名殘わすれすは
春は來てみよはなのさく時　如雪

族譜

吾宗黃氏江夏邵廼顓頊之後裔。陸終之末孫也、早歲因二蒙難之故一、到二于日本一遺二失族譜一、今特誌世有レ名者與二其近者一、以爲二後世子孫之證一云、永祿第三冬至吉日　友賢誌

玉盛明人繼二世人淸一者。玉明同繼二世人豪一者、友賢蒙レ難到二于日本一、號二環溪先生一、榮宗友賢子生二日本一、榮秀繼レ世二男榮春・榮守繼レ世子榮元老號二齋名圃竹一、

南浦第三十六

僧南浦名玄昌字文之、薩藩人軒號雲興齋、名時習南浦其號也、又別有二懶雲狂雲等之號一、俗姓湯佐氏、一說和仁氏、王仁子孫多在レ河、其爲二子孫一亦未レ可レ知也、其先出レ自二源族一、父名無レ傳、故河内人避レ亂漂泊抵二日州福島一娶二里人女一、弘治乙卯生三文之於二州之外浦一、在二飫肥南鄉一〇盛香集云、文之生二于隅州串良大塚一、恐非レ是也、因號二南浦一、少二一翁一四十八年、天資穎敏幼異二群童一、夙有二脫塵之志一、父知三其有二法器一、永祿三年囑二諸日井一日之地名延命寺天澤和尙名崇春又改二不閑一日州飫肥人、從二雲夢於隅州安國一、大永七年遊二足利學肆一、業五六年、後至二越前一請二益一柏一、砥礪十餘年、弘治二年西歸二飫肥一董二西光寺一、後構二菴室於延命寺一、以二卜筮一爲レ業、年六十一、化二于永祿十二年一、雲夢名崇澤薩州伊集院人、公族熙久之第四子、領二隅安國一、亦請二益桂菴一、陞二建長席一云、時生六歲矣、而父囘二河内一後不二復逢一、故文之惟知レ有二其母一、不レ知二其有一レ父云、父死二於正月十一日一、今失二其年一、法號大圓淨智、母死二于文祿元年十一月二十八日一、法名歡中大姉云、按島山諸盛之父、曰二橘隱軒一、本河内巨族、天文八年年三十而出二京師一、遂寓二薩藩一、于レ時河内人遊佐幸雲杉原集、亦從來云、所レ謂湯佐疑此人、天澤授二之法華一、觸レ眼爲レ誦、頗通二其意一、且指レ地畫所レ誦文不レ差二一字一、楷正可レ觀、隣里呼レ之曰二文珠童一、十年正月年十三而爲二歲且詩一、天澤奇レ之以爲實是神童非二吾駑材能所一レ可レ育、乃使三之就二學一翁於市來日州福島龍源寺一、一翁者桂門月渚之巨擘也、於レ是薙髮受二戒名一曰二玄昌一、而所レ爲詩往々兢二傳詞林一膾二炙人口一、竟至二京師一、乃相國寺仁如生二於文明十四年壬寅一等大賞二其材一、

與文之號、且賡韻序以返焉、

文之號

薩州龍源寺一翁老禪、會裡有穎利幼童、今茲十三齡元旦試筆、佳什自書者、遠得落予手、辭翰共有老成典刑也、賞歎餘依芳韻者二首、供老禪一笑、少年其諱玄昌、予雅其號以文之二字稱焉、蓋天上六星以北斗魁取文字也、所冀與眞淨文關西同其稱呼、以爲後來衲子摸楷、或規或祝、前篇爲後信起本、後篇述雅號之字義、

鹿苑老衲八十六歲集堯仁如

傳見少年詩律淸　奇才可畏遠邦生
若通書信比相對　千里同風宜寄聲

錦心繡口織成淸　爲絢皆從機巧生
他日要看公簡冊　持來擲地有金聲

由是一翁字之曰文之、馳名叢林間、受四書及三體詩等於一翁、（盛香集云、桂菴聞文之有材器、自招爲弟子、時年二十三、季安按、桂菴死時一翁僅二歲、而文之猶未生、則疑誤一翁爲桂菴也、然文之時二十三云、亦不合焉、抑一翁之師月渚亦有材器、桂菴賞之、見島陰集、疑是之誤、姑注竢考爾、）一翁之敎文之也、以章句訓詁之學、朝習學論文、暮撿廣玉字、使以知一大爲天、土也爲地之類、前是明人黃友賢（見上）歸化薩藩、以學識聞、尤精易筮、一翁與之善、屢因來往至文之親得承謦欬、誘掖薰陶、以啓愚蒙、友賢亦異文之英材、特加訓導、以學必有孔孟濂洛之道云、十二年文之年十五、負笈遊洛、謁僧灦春於慧山之龍吟菴、春一見其器宇俊爽、甚敬重之、乃許入室、凡每有論難、輙雖微以詰、應對如響、莫秋毫滯、春喟然嘆曰、汝眞英物、佗日能弘吾道、必克勉焉、遂掛錫於本山、服勤者十有餘年、（行狀作十五年、然與還年不合、）文橐孜筌、充棟汗牛、博綜內外、深究蘊奧、既而西歸、元龜二年文之有兄二人、長某爲信長死於河州高屋城、仲某爲僧死于叡山之難、天正元年從一翁移錫隅州、居神護（枕城）者三四年焉、五年伊東侯（義祐）出奔豐後、日州侵地悉歸我、藩侯分遣將卒鎭戍諸城、伊集院久治（下野守號抱節）徙地頭於福島、九年二月一翁聞于地頭、以老謝事、薦文之領龍源寺、（在福島市來郷）於是一翁年七十五矣、後文之轉錫於隅之高山少林寺、日之財部正壽寺等、當此時我貫明公聞文之以儒學振名于世、招而董席於隅州正興安國之兩刹、十二年三月公親帥師次于佐敷、

遣公弟家久帥兵往救有馬侯、二十四日與隆信師戰于島原、大克之、獲其首、四月文之獻書賀之、十九日公賜報翰、既而兼充顧門寵遇日渥、政策敎令多所裨益、十四年正月及鎌田政廣（刑部左衛門尉）使于京洛、因細川幽齋請豐太閤廣藩封疆、語在邦乘、二十年初遣唐船多泊薩山川、故擇儒僧董正龍席、備之簡牘、則桂門郁芳以下、月溪問得之屬皆精儒學、於是太閤使幽齋來巡封内、減寺社田、如正龍寺以簡牘功特給寺田（五町四段）如故、而問得等益勵儒學、敎授子弟、以四書等、昔年四書之入國朝也、東福岐陽首施倭點、而迨桂菴囘自明國、頗加脩正、以至文之、文之亦間改正以授徒弟、故問得等當時吾藩授句讀者、皆以其本、文祿二年妙壽院惺窩、自武飯洛、讀性理書、悼四書新註未有和訓、忽欲學明注之倭點、自筑開洋船遭暴風漂到鬼界島（今硫黄島隷薩河邊郡）冬出自島泊山川港、偶見問得於正龍寺、聞其授新註和訓於徒弟、大異乎心、假而誦玩、無所倭點不稱其義、乃問僧等、皆對曰、吾文之和尚所點本也、於是惺窩歎伏曰、今將渡明亦惟無他求之也已、乃請問得悉寫而歸、世以惺窩

爲儒宗、亦實始乎此矣、慶長四年文之從松齡公上伏見邸、初文祿役有征人齋周易大全二册、囘自朝鮮者、文之乃購又之他邦得一兩册、猶未完備、雇人寫、次手施倭點、至是二月遂竣其功、自又跋焉、（後二十九年寬永四年十一月門人如竹所錄梓本此也）本邦周易大全倭點以此爲原本云、文之在洛、講大學章句於東福寺、聽徒多聚、（見盛香集）於是乎後水尾帝（行狀作慶長帝）亦聞其鳴學識、詔内講新註於禁廷、而愜皇旨、會有廷臣言事者、曰惜哉師雖博識宏才、亦產西陲、詞辨鄙陋、頗文飾少、安得能達天聽乎、文之聞而心懷慙愧乃謝焉、曰宜哉言也、佛其有言云生王都難、詩不亦曰乎、邦畿千里惟民所止、其是之謂也、（行狀無年月、併書此）是歲三月從慈眼公如高雄山、賡賦詩、命也、五月從飯于藩、暫寓隅州住正興寺、八年五月十九日神祖鈞帖補筑前禪光寺、六月十八日復賜鈞帖轉大隅正興寺、（四十一世）開堂拈香爲瀰春嗣、凡所行禪規寺範一則慧山、前此備前侯秀家來奔于藩、至是八月公請赦於神祖使桂忠詮護送、如駿府、文之副焉、六日俱發牛根、二十六日神祖復舉文之爲住職於相州建長寺、二十七日及忠詮以秀家至伏見使事竣、乃拜鈞帖

往董二主席一、升堂提唱、詞海辨河滂湃弗レ竭、不三振二祖
道一殆踰レ古矣、九年二月公召二文之一講二學於府城一、又
召二東鄕一重レ位試二劍技一、乃二十八日文之跋二其書一、命
也、十年八月貫明公命撰二松齡公一唯公小傳一、恩賚特
多爲レ詩拜焉、

奉レ謝二龍伯尊君頒一レ茶

昔日邇英頒二棟梁一　我今何幸侍二官家一
譬二之巨海一海還淺　恩意惟深一碗茶

龍伯尊君賜レ予以二墨與筆一詩以奉レ謝二厚意之
萬乙一云

筆墨由來出處同　古今司レ戒幾成功
文房併見辱二君賜一　十襲珍藏笥篋中

端午賜レ衣郎事

偶逢二蒲節一髮吹レ蓬　幸入二公門一更鞠躬
細葛含レ風君子賜　恩榮何啻杜陵翁

十一年正月及下郭理心等從二慈眼公一朝中于京洛上、三月
舟行值レ雨、

公賜二文之國歌一乃獻レ詩拜レ恩

想像廬山一草菴　昔年聽レ雨更難レ堪
蓬窓今我喜二無寐一　拜誦歌篇至二夜酣一

四月公拜二神祖於伏見一、此月命二文之一跋二射義書一、六月
公猶在レ京、從二詣御簾樂師一、値レ雨賦レ詩、

平日閑談一雨過　洞簫如レ綫又如レ歌
不レ從二尊駕一敲二閑院一　奈二此昏蒙濕暑何一

此月十七日神祖賜二公諱一取改二家久一、文之爲レ詩恭獻
レ駕焉、

莫レ言東洛隔二西州一　同氣同聲程豈脩
自二一交一盟結二金石一　國家久遠幾千秋

九月撰二鐵砲記一、代二種子島久時一也、十二年八月撰二日
州平治記一、亦命也、十三年公及松齡公新蓮金院於二高
野山一定二宿房一焉、初日新君得二聖蹟圖一製爲二屛障一、
恒置二座右一以備二觀戒一矣、乃孔子終身之履歷、而明張
楷所レ贊也、君既物故、傳至二貫明公一憫レ難二遽解一、命二
文之一別爲二謄寫一施二之倭點一、又以二國字一爲二和鈔一、以
惠二後生一、而追二公時一以爲與レ私二一家一孰三若弘二祖業
於永久一、以公二諸世一乃命二畫師日野等林一、摹二寫其圖一、
藏二之高野山一、欲四以使三後裔永仰二聖德一也、亦命二文
之一記二其事一焉、十四年三月公遣二樺山久高一帥レ兵往
伐二琉球一、四月取レ之、七月久高等以二王尚寧一還、八月
貫明公召賜二王宴一、文之陪焉、初桂菴受二四書集註於南

禪惟月等、皆岐陽所和點也、而桂菴渡明留學七年、以其所得、多改乖誤以授月渚等、月渚以傳一翁、一翁以傳文之、文之亦間改正以授徒弟、公及士大夫遊其門者、問禪者少皆受朱註、由是三州靡然嚮風、緇素雲集生徒滿坐至無所容、文之亦循々敎誘、未嘗之拒焉、然於海內清家倭點當時盛行、朱註倭點專行於吾三州、如藤惺窩雖寫而囘乞姜沆跋以敎其徒天下未偏知有此點本也、是歲十二月京僧恭畏法輪院主者客於隅府、疑文之和訓異乎故習、大誹毀之、二日介僧順泉清水寺等、袖集註來、敲正興之門、數而問之文之、雖據朱說以詳答之、深泥舊染猶多乖角、故文之亦舍而不復焉、於是恭畏以清家點爾爲正義、往々趨謁貴戚權門、匪啻駁其異古點、十五年遂著破收義一萬三千六百餘言誹詆集註和訓之多乖字義、十一月文之亦著砭愚論、或寄書牘悉辨駁之、世所稀存古板曰恭畏問答者此也、

與恭畏闍梨書

京城城西有古招提、其名曰法輪虛空藏菩薩、所出現之靈地、而道昌僧都所行道之淨刹也、頃修其香花者、有一闍梨其名曰恭畏、小野仁海之末流也、先是以事流蕩於日隅二州之間者、三霜于玆矣、於是密宗之同流隨以傳其密印者、不爲少矣、去歲己酉秋之仲訪予於正興古寺、卽擁篲迎接、半日閑話、話及文學之事、予聞其言之富偏疑其文學亦有成、我心好之到處逢人說、恭畏闍梨之爲人匪翅傳仁海之密印且解文字者亦無漸今世之士矣、是歲庚戌秋冬之交恭畏留滯於斯地、而投宿於同流之草菴者一兩月矣、於是講蘭盆之經、無貴無賤無長無少、無不陪其講席矣、經乃宗密之所疏、元照之所記、記與疏半、述儒敎之義以釋焉、今恭畏所講說者、宗密之疏而已、然後講日本官職之鈔、數引論語、其中非毀集註之異和訓、其意在離予之敎童蒙之義、有人告之於予、予爲不鬪者一不詰問矣、一日恭畏闍梨携總持院甚堯・清水寺順泉敲予弊廬、予卽出而接之、於此時也、恭畏懷論語集註出之謂予曰、集註和訓背字義者惟夥矣、予問之則曰、五十作卒一字者何哉、和訓直作終卒後世作文者以五十字爲卒字可乎、予卽應之曰、朱子按史記云、孔子晩而喜易、曰、假我數

年若是於易彬々矣、是時孔子年已幾七十矣、五十字誤無疑也、朱子之所註何背其義乎、恭畏如聾而不少解、又曰、雖蔬食羹瓜祭、瓜作必者非也、又曰、沽酒市脯不食、集註以爲沽市、皆買也者朱子之誤也、買作賣可也、又曰、不間父母昆弟之言、間爲間隔之義者是也、間爲別異之義者、非也、又曰、以其子妻之子訓女子者非也、子男子之通稱也、可訓子、而不可訓女子也、使此和訓導後學者、恐是陷於迷冥之中、其色勃然、予緘口語於心云、彼淺議之人、深著故習聞不能解者捨置而不答焉、古之道也、卽下氣柔聲而謂恭畏云、集註者五百年來天下書生所從而學也、名儒碩德無間然矣、恭畏亮察焉、旣而日漸將晡、恭畏告歸予送之華門外一揖而相別矣、爾來恭畏每逢人誇己之長說、予和訓之短非獨告我同流告之於諸士以長傲且遂非矣、予聞之不得已而把筆辨焉、夫論語之爲書也、昔者有齊論魯論古論之三、漢張禹合魯與齊之論、爲一至鄭康成以魯論考之、齊論古論爲之註、三論合以爲一、至於後漢曹魏氣象萎薾之時、南陽有何晏者爲之集解、原夫聖道之行於世有明、蓋自周衰孟子沒斯道晦盲、若夫濂溪周先生生乎千五百歲之後、繼不傳之正統、再興斯文已墜、誠天之所畀也、斯道之晦盲、至於斯時煥然復明於世矣、周子傳之河南二程、二程傳傳至於朱子、而斯文益明、朱子爲四書集註出後何晏集解靡一不泯矣、按翰林故廣進書表云、自王道衰異說蜂起燔烈於秦火、穿鑿於漢儒、一切趨於苟、且奮緣故習鮮克正之、夫否必有泰、晦必有明、繇夫濂洛關閩之學興而後、堯·舜·禹·湯之道著、悉掃蓁蕪之蔽、大開正學之宗云云、此進書表者天下名文也、恭畏未掃蓁蕪之蔽、不赴正學之宗、何下喈於此間乎、大凡四書六經之古書經歲月久、不幸有誤其字者、有脫其簡者、後之賢者患斯文之湮晦也、不改經字、而唯曰其字當作某字、而取義於某字者、不遑枚擧焉、大學曰在親民〔頭注〕季安云、親民下有脫文、可以艮本補程子曰、命當作怠後學之作文、豈以命作怠乎、五十作卒者、亦取義於終卒而已、後之學者製詩與文、何以五十字作卒字乎、且夫瓜作必沽訓買間訓異子訓女子者、詳在集註與大全書、欲一一說其義、則予似好辨、恭畏雖耗於其學請咨詢於識者

矣、夫文字者載レ道之器、而牽二於義一趨二於類一、則雖二一字一含二衆理一矣、其爲レ用也、要レ明二其理一不レ能レ明二其理一、雖レ多亦奚以爲、是故有二釋門之徒一、具正法眼老能明二其理一、則以二文字一爲二古人糟粕一也、我達磨大師不レ立二文字一、不レ立二文字一者、恐三人之不二理會一、斯自己一大事而執二滯於文字一也、所謂得レ兎忘レ蹄、得レ魚忘レ筌者也、雖レ然學者若不レ深二於斯文字一者何以有二傳レ道受レ業解レ惑、而達二其理之蘊奥一乎哉、今恭畏之所レ學僅爲二訓詁之學一而已、學者泥二於訓詁一者、知レ道者之所二以深耻一也、韓吏部曰、小學而大遺、吾未レ見二其明一也、其斯之謂與、嗚呼恭畏拘二於舊聞一、一無二新得一、則何足三以爲二人師一矣、若三夫口二學語一、則三歳童子也、是道得若レ不二自得一、則八十老翁、亦何解二其惑一而知二其至道之妙一乎哉、予平日見下人之不レ分二秦奉一不レ辨二刀刁一者上、非二特告レ之童蒙之在二吾門一者、已亦恐有二此誤一使二其人聞一レ之、欲二其誤之不レ顯二於外一矣、想夫有二庸流者一、使三之告二恭畏一、恭畏不レ攻下之於庸流之不二遷レ善悛レ惡者上而攻二之於予一之欲レ盡レ忠補レ過者、何其惑之甚乎、我今說二集註和訓之權輿一、昔者應永年間南渡歸船載三四書集註與二詩經集傳一、來而達二之洛陽一、於レ是惠山不二岐陽和尙、始講二此書一爲二之和訓一、以正二本國傳習之誤一、當二是之時一、東山有二惟正一、東福有二景召一、二老時之名衲、而同出二於不二之門一、匪三翅精二此二書一、人以二博學多聞一稱焉、我桂菴老師從二二老一而聞レ義殆熟矣、大明成化年中我桂菴老師南遊二大明一、在二蘇杭之間一者七年矣、於二斯時一也、覽二倪士毅四書輯釋·曹端之詳說·其餘註釋粹者數部一、猶有二至理之未レ得者一、咨二決於學校諸先生一、其理彌熟矣、歸朝之後結二草廬於薩州麑島一、緇素之從而學者不レ知二幾多人一矣、其中有三一月渚達二其奥義一、我一翁老師在二月渚之門一聞レ義熟矣、至二於章句訓詁之末一者、予亦久隨二侍於一翁師一、頗解二其義一矣、今也恭畏忘二己量之所一レ稱、欲レ指二集註和訓瑕疵一者、蠡而測レ海蚍而撼レ樹者也、甚矣恭畏之不レ安レ分也、且復未レ理二會文字一而欲レ汲二汲於名一者、非レ貪而何、禦レ人以二口給一、勃然而變二乎色一者、非レ瞋而何、不レ覺二已學之卑陋一而有レ欲レ上二人之意一者、非レ癡而何、闍梨而不レ離二貪瞋癡一者、釋門之一罪人也、爾不レ聞二黔之驢一乎、黔州元無レ驢有二好事者一、船レ載以入放二之山下一、虎見二其形之庬然一也、以爲將レ噬レ己而蔽二林門一窺レ之、旣而聽二其一鳴一甚恐レ之、近出二前後一則僅蹄レ之

而已、虎喜計レ之以爲二技止一此耳、因跳踉大闞而斷二其喉嗑一、形之尨也類レ有レ德、聲之宏也類レ有レ能、向不レ出二其技一虎雖レ猛疑畏卒不二敢取一、恭畏爾其形尨、其聲宏而出二此躁妄之言一人皆知三爾之技止二於此一、若不レ出二其言一人皆恐而畏レ之、自今已往猶未二之思一、而出二此躁妄之言一者、被二虎闞一也不レ難矣、熟觀二彼之行履一、爲二轉法輪一乎、爲二摧法輪一乎、振二錫於東西一、求三一識二於公卿之門一、幸有二得識者一自二負其才一以爲我學、已至下矜二己之能一蔽中人之賢上、匪三翅講二顯密二敎一、雖レ曰二聖經賢傳一强其所レ不レ知以爲レ知矣、其亦謂二國無一レ人乎、往々與レ人商論好二己言之勝一欲レ及二怒於人一者、水中之蟹而不レ啓二蒙於己一者井底之蛙耳、恭畏恭畏吾嗟二爾之不一レ知爾以レ不レ知爲レ知、則爾之所レ說密敎亦以レ不レ知爲レ知、然則酌二仁海之淸流一而掘二其泥一以陷二後生於濁流一之（也カ）矣、爾今以二恭畏一爲レ名、而其行不二恭畏一、我今說二二字之義一、爾傾レ耳聽レ之、和從不レ逆謂二之恭一、懼而心服謂二之畏一、夫名者實之賓也、其言悖而其心不レ服、豈復可レ謂レ當二其實一乎、無二其實一乎、無二其實一者虛名也、恭畏年踰二五十一、惹二虛名於華夷一可レ羞之甚也、戒レ之戒レ之、出二乎爾一者反二乎爾一者也、爾以レ密爲レ宗、若約二其宗一深秘而不レ出、斯不レ知之言、誰敢侮レ爾、古曰、福禍無レ門唯人所レ召、今我卑レ詞使二爾罵且辱一者、爾之所レ召也、書以贈焉、慶長十五年庚戌十一月日、雲興散人書二於正興室內一（府士本田助亟所レ藏古本、書二於之下一作二隅州正興古寺一、今從二古刊本一、題曰二恭畏問答一、而收二其中一、蓋門人如竹所レ刊也、）

文之雖三陽居二釋氏一然其實則自任二朱學一、山﨑闇齋所謂南浦自謂信レ之亦尊レ佛云レ是也、而有レ功二於新註未レ行之時一者、多如レ此類也、今厭二繁冗一亦足レ證二當時一、故載二原文一焉、如レ砭二愚論一可二併讀一、知三時人專依二淸家點一也、十六年正月猶董二正興一、十日朝松齡公於二杙城一公賜二之宴賀一正禮也、凡居二正興一十五年矣、先レ是大中公城二于鹿府一徙而治焉、謂二之御內一、迨二龍伯公一（即是貫明公）徙二富隈一使二慈眼公居一レ之、至三公築二今府城一、姑爲二廢宅一、於レ是公壞二其宅一就創レ寺焉、招二文之一居レ玆、愈崇二其德一恩眷日隆、而命二其寺一因二公所一レ居址遂摘二其字一曰二大龍寺一、二十年神二黃石公素書一、乃王氏直說而昔人所レ寫本也、又得二朝鮮板一宋張商英所レ註本校正補訂別爲二謄寫一施レ之、倭點閏六月跋焉、元和三年正月公詠二歲旦一、文之賦レ詩奉レ和レ之、

山河帶礪約相親　天下一無二遺佚民一

不レ動二干戈一邦內靜　老翁幸遇二太平春一
游レ藝依レ仁和氣新　農工億兆悉稱レ臣
蓋時蓋世年雖レ富　持獻二吾君一不老春

是年三月公如二江戶一文之送レ駕反レ自二京泊一、四年正月公臨二于寺一、文之爲レ詩恭謝曰、

白髮江顏傳二酒盃一　上交不レ諂絕二纖埃一
若非三三顧及二諸葛一　二月晚梅誰問來

二月朔公復臨二觀梅花一、二日晚歸鞍、文之賦二詩十餘首一備二英覽一焉、蓋公之招レ師在レ使三士大夫皆就二受程朱之學一、有三以所二欽式一焉耳、（人物志住二于薩建長寺一云誤也）文之施レ敎各隨二其機一、有下問二禪意一者上則曰、吾宗無二語句一無二一法授一レ人、然不レ以二言語文字一、豈能示レ人也哉、又有下問二儒典一者上則曰、若論二本分一、雖二佛祖一語尚不レ足レ學、況外典乎、於レ是儒生退而謂二文之碩儒雲衲一去、謂二知識高竪法幢大揮祖道一、匪二但三州隣近緇素一、仰二服其德一、若二夫中山王及其大臣一、亦慕二其德風一、至下致二之書一贈中紫伽梨上、凡藩公承二覇府一旨、每レ通二簡牘於西土外國一輒必使二文之起草往復一、諸有レ功二於世一、可レ謂二偉且勤一矣、元和六年庚申九月中旬、示二微疾一晦日聚二門人一囑二之後事一、趺座而歿、得壽六十七、（或六十五）臘四十五

葬二于加治木安國寺一、法號前建長文之玄昌大和尙禪師、所レ著有二南浦文集六卷・聖績圖和鈔・日州平治記・砭愚論・決勝記等一、或梓或寫、尙行二于世一、門人受レ業者不レ遑二擧數一、如竹・學之、平田純正・河野通宣之屬、最聞二于世一、學之名玄碩嗣二董大龍一、學之歿、門人一溪名守榮代嗣、一溪歿、門人日東嗣、日東歿、不門名慈宣代嗣、日東以上世繼祖業講二程朱一、學府下聽徒連綿不レ絕、宣遊二備前一嗣法無聊、（松琴寺主）文之法脈至レ宣異レ流、如二其學術一亦遊二蕃山一、唱二王氏一學二於備藩一之時、則島津久竹憾下非二文子學一亦應上由焉也、自二文之歿一載歷七十、志士協然尙欽二其德一、元祿二年後醍院宗□（半左衛門）竹田益祐（市助）吉富□□（爲左衛門）江川□□（傳右衛門）篠原政□（新左衛門）宮里□□（孫之進）伊地知重英（助右衛門）野村盛豐（勘兵衛）等會二慈宣於大龍一議造二文之肖像一、乃六月命二佛工鳥井□□（稱次郎兵衛宮城臣後曰二如見一疑此）彫二刻之一、既而告成、二十日安二置于寺一、明年六月慈宣撰二之行狀一、亦藏二于寺一如竹學之等各自有レ傳、

漢學紀源卷三終

漢學紀源卷四目次

漢學紀源卷四

正龍第三十七

薩州山川日本極南、而地接西土、匪啻琉球及諸島貢舟輻輳、外國海舶亦所來繫也、於是乎明德元年吾恕翁公新一廢刹、留僧虎森將涉明國、而爲開山焉、所謂正龍寺此也、後擇儒僧世掌簡牘、傳二三世、至僧郁芳名春本山川人、夙入浮屠受戒正龍、緇服雲游遍參名衲於諸州、久寓京師研精禪機競辨之徒與之商量、動摧詞鋒、明應中皈薩府、稟學桂菴、綜究內外、永正元年補正龍寺與桂菴及巢松等唱和娛、門徒日衆、有月溪名崇鏡者、特聞于世、大永三年相國鸞岡（名曰瑞佐）之使於明也、訪郁芳於正龍、一見崇鏡襟懷淸朗、乃字曰月溪、爲偈與之巢松、和其韻曰、

三星圍繞廣寒樓　影印空江玉兎秋
八萬四千翻水偈　夜來依舊聽餘流

而後月溪代郁芳董正龍席、住職于天文永祿間、與

巢松代賢等一唱和、月溪殁、弟子問代董二正龍一、住二持於天正慶長閒一、自二郁芳一下世相繼承二桂菴學一、以二新註和訓家法和點等之書一莫レ不二聚レ徒敎授一、以備二簡牘通事一焉、於レ是天正二十年豐太閤使下細川幽齋來巡二三洲一省中寺社田上、時如二正龍寺一問得具下陳自レ昔儒寺備二海船來一之狀上、乃十二月幽齋特聽賜二寺田五町四段一如レ故、十九日裁レ書諭示、問得大喜、爲構二茶室一、恭招二幽齋一獻レ茗謝レ恩、由レ是問得禪餘愈授二子弟一以二四書新註等一、初新註之入二本邦一也、未レ注二和訓一、東福岐陽首注二和點一以授二徒弟一、而造二桂菴回レ自二明國一以レ所レ會得一規二其乖誤一、頗加二精訂一以至二文之一、文之亦閒改正以弘二藩中一、問得等所レ授亦其本也、是歲洛陽藤惺(名蕣又名肅字斂夫、播州細川人、冷泉爲純第三子、以二永祿四年一生、歲七八歲投二東明長老一、削髮爲レ僧名二蕣首座一、後游二洛陽一領二妙壽院一云)謁二神祖於名護屋一、遊二覲西海一、(是年七月幽齋來レ薩、按二惺窩集一載二代レ人和一幽齋巧二夕詩一、此云西海疑旣同二遊薩一乎)文祿二年夏往謁二台德廟於江戶一、秋皈二于洛一悼二四書新註未一レ有二和訓一、欲下遊二學於明一注中之倭訓上、(本集作レ讀二性理書一、悼二世無二善師一今從二如竹說一)忽到二筑陽一浮レ舟入、洋路遭二暴風一漂二到鬼界島一、(卽今硫黃島此)所レ作詩歌多載二文集一、今收二採左一、

もろこしへわたり侍らんとて、つくしまでくだりし時、しれる人のもとへよみてつかはしける、

なれてうし人の心を月にはなに
　おもひいくへの山のおもかけ

その時船を鬼界がしまにつなぎて

やまと歌のあはれかけゝり月に見えぬ
　鬼の島ねの月の夕浪

おなじき時

薩摩かた八重のしほ風告やらん
　あはれうき身は親たにもなし

けふりたつ澳の小島やいにしへの
　おもひのいろをなほ殘しつゝ

見よいかに雲路の鳥はとひ消えて
　かへるゆふへの山もありけり

欲レ渡二大明國一遇二疾風一而到二鬼界島一

三人此地謫二生涯一、　二士賜レ環一士嗟

若レ是浮遊天外去　　波間鬼界卽神槎、

(今按平語治承元年六月和國淸盛流二成經・康賴・俊寬

於鬼界島一、詩云、三人此地謫是也、明年十一月大赦、成經・康頼得レ赦歸、而俊寛不レ與焉、亦二士賜レ環、一士嗟云レ此也、又東鑑云、正嘉二年九月、幕府宗尊流二平内左衞門尉俊職於硫黄島一、昔治承中祖父康頼流二於此島一、又成經等所レ祠熊野廟亦在二硫黄島一、明應六年桂菴所レ著新祠記據レ此、所謂鬼界爲二硫黄島一明矣、今隷二薩州河邊郡一）既而回棹二冬泊山川一亦作二詩歌一、

山　河

（季安いへらく、こはさつま國山川にもさだかならねど、海路の題のまへにのせ、如竹の翁の惺窩山川に來れるよしいへるにもあひぬれば、かゝる時のうたならしと、こゝに拾ひてからうたに備おきぬ）

世をもすて世にすてらるゝ身なれはや
　さしてはうとき山川の水

海　路

いつしかに行とも見えぬ奥つふね
　あとなき波の末のしら雲
薩摩かた雲にほえけん犬もはや
　梅さく庭の冬の明ほの

其在二山川一也、訪二問得於正龍寺一、聞三其授二新註倭訓於弟子等一、大異二乎心一、假而玩讀無下所二倭點一不上レ稱二其義一、乃問二童子一、皆對曰吾藩文之和尚所レ點本也、於レ是惺窩特歎伏曰、今將レ渡レ明、亦惟無レ他レ求レ之也已、乃請二問得一盡寫二其倭訓本及家法和點一（桂菴所著）等留滯久矣、三年春猶在レ寺而爲レ詩曰、

僧龍蟠處鎖二巖扃一　吟向二東風一地亦靈
雲外欲レ昏鐘色濕　小樓春雨碧溟溟
杏壇春暮事二吟遊一　今日關西有二孔丘一
傾蓋論交非二邂逅一　三生石上舊風流

三月聞二母訃音一、悔二遠遊久不一レ侍、嘗レ欒爲レ詩曰、

歸養計遲情已空　參商千里隔二西東一
吾生不幸虞丘子　慟哭無レ端樹々風

而居未レ幾寫本竣功、去適二筑前一始唱二宋註一、（季安聞レ諸又木加右當客二筑前一視二州之儒醫青木甫意所レ著書一云、惺窩之弘二宋學於世一、擬レ自二筑前一、因貝原篤信等亦私二淑之一云、推二時與一レ事應三必在二此歸途時一、故注備考）既而回レ洛、前レ此播州在二赤松廣通一（左衞門尉）、寵二信惺窩一聞二其講説一、至レ是愈感、于レ時慶長二年朝鮮姜沆來寓二赤松氏一、一見二惺窩一大奇二其識量宏博一、於レ是

惺窩與二廣通一謀新二寫四書五經一、倣二和點例一加二訓字傍一、請二姜沆跋一以證二其事一、則其與二姜沆一書曰、赤松公今予言二於足下一、日本言レ儒者唯傳二漢儒之學一、而未レ知二宋儒之理一、四百年來不レ能レ改レ之、予自レ幼無レ師、而獨讀書自謂二漢唐儒者一、不レ過二記誦詞章一耳、決無二聖學之見識一矣、唯韓子有レ卓亦非レ無レ失也、若無二宋儒一豈後世誰紹二其絕緒一哉、然日本闔國今既如レ此、而一人不レ得レ回二狂瀾於既倒一、故赤松公今新書二四書五經之經文一、使下予以二宋儒之意一加二倭訓于字傍一、以便中後學上、日本唱二宋學之義一者以二此冊一爲二原本一、足下叙二其事一證二其實一跋二諸冊後一、是公之素志、而予至幸也、足下計レ之(見二惺窩集及行狀一) 姜沆未二嘗知一、其得二諸山川一乃爲二之跋一、以弘二于世一、讀者咸稱二惺窩功一無レ比焉、由レ是聲聞大振二都下一、三年遂逃二釋氏一立二儒一家一、廣通乃遣二男女一侍二奉其側一、四年石田三成召二惺窩一、惺窩欲レ往而不レ果、五年三成敗死、廣通亦自殺、是歲林羅山年十八、前レ此淸原博士等、所謂四書唯學庸依二朱子章句一、(按文明十三年、吾桂菴師及伊地知貞重、謀三梓二行章句於薩州麑島一、而迄二慶長五年一凡百二十年、又延德四年、師再板二行於府下一、桂樹院後距二慶長五年一百九十年矣、則博士等所レ講朱子章句亦應二此兩次板本一也)、而如二論孟一猶信二古註一、惺窩尊二信集註一、既雖三如レ是猶避二忌諱一未二敢聚一レ徒、然羅山乃是年始讀二四書新註一、八年遂聚二徒弟一講二論語集註一、外史淸原秀賢聞而娼疾、乃奏レ朝曰、自レ古無レ勅不レ得レ講レ書、廷臣猶然況於二俗士一乎、請必行レ罪、事聞二神祖一、神祖哂曰、講者爲レ奇訴レ之陰矣、九年羅山愈慕二其德一就學、惺窩下レ帷授レ徒、洛陽諸生聚稟者日益衆、時會掖救、如竹學二法華於本能寺一、乃其徒勸三借如竹就學二新注一、如竹對曰、如二新註學一行二於吾藩一者百有餘年矣、今與三其挹二流於レ此、孰三若徑回レ國近溯二其源一、乃辭二洛陽一歸二乎薩藩一、入二文之門一受二程朱學一、研精覃思凡八年矣、按惺窩少二文之一五年、如竹少二文之一十五年、羅山少二文之一二十七年、皆並二其時一而如竹每二往還一掖救必泊二山川一、旣詳聞二惺窩一、嘗寫二新註倭點等於正龍寺一、而歸洛之狀(惺窩來泊二山川一、蓋自二文祿二年冬一迄二三年春一、齡三十三四之時、而時文之年四十許、如竹則二十三四歲也)、故洛諸生雖レ尊二惺窩一不レ肯二從學一、皈受二文之一、以傳二門人愛甲喜春一、喜春名季定日州澁志人、以二慶長十年一生、受二學如竹一、貞享三年壽八十二、而採レ所三嘗

聞ニ如竹說話一以著ニ右傳一皆實錄也、季安稽ニ諸惺窩羅山文集ハ粗敍ニ年序一以載ニ于此ハ抑程朱學自ニ文明中ハ桂菴學レ明而皈、首唱ニ諸吾藩ハ以ニ國字一解ニ朱註ハ例述倭點本多行ニ於藩ハ則元龜寫本之類詳見ニ前篇ハ而未下必如中惺窩與ニ姜沆一書上明矣、然海內儒者既信ニ其說ニ往々尊ニ崇惺窩一爲ニ儒宗一者、二ヨ百一餘一年于レ今也、故近世諸儒如ニ塚田虎等ハ以ニ博識一聞、亦猶皆謂ミ程朱學渡ニ於神祖時ハ惺窩道春學得ニ其敎ニ云之類、不レ遑ニ悉辯ニ焉已、(愛甲喜春以ニ惺窩先生ニ爲ニ甲州信玄儒臣ニ、今按本集播州赤松廣通之誤、無レ可レ疑也、又天和三年長尾某所ニ梓行ハ羅山訓點四書卷尾、亦近代南浦創ニ加訓點ハ羅浮復潤ニ色之ニ云、復六七年至ニ元祿三年ハ大龍寺五世不門著南浦行狀亦言ニ是事ハ而四書倭訓師所ニ背注ハ加ニ羅山點一皆踏ニ師塵ニ云、則喜春說與レ之合矣、又近代得能通昭所レ著西藩野史云、惺窩將レ往ニ與明ハ發ニ舟筑前ハ洋中遭レ風漂ニ到鬼界ハ還入ニ坊津ハ時會桂菴反レ自レ明講ニ朱註於一乘院ハ乃大驩而是我所レ求レ道也、乃從受レ學、悉寫ニ四書五經大全程朱書ハ以歸ニ洛陽ハ首講說云、此等蓋通昭取ニ口碑ニ不レ探ニ載籍ハ故誤傳聞、其云ニ桂菴一則未徒聞得之誤、一乘院亦正龍寺之誤也)

光空謙柔齋安意、豐前小倉人、父曰ニ淳道亦六ハ永祿二庚申十月九日生、三歲喪レ父、四歲過ニ繼父ハ九歲師ニ僧惠海於潮若院一學、十一歲母罹ニ狂亂ハ因起ニ請願一巡ニ東南北西海諸寺諸社ハ二十七歲、二月廿日渡ニ于筑紫一到ニ麗府ハ三月赴ニ飯野ハ三日以ニ大內遺老一始見ニ忠平公ハ舍ニ於迫田壹岐宅ハ二十日舍ニ於松岡院ハ六月二十日從レ公如ニ肥後ハ十月十三日從レ駕回、二十八歲、三月十四日關白西征、四月十七日與ニ京師一戰ニ于根白ハ六月二十四日謁ニ白鳥山一告禱百十日、八月十五日公亦夜謁有ニ詩歌與ハ十六年四月二十六日禱ニ公如レ京、讀ニ大般若六百卷ハ凡六十一日、三十歲、四月十八日復讀ニ大般若ハ六月十八日竣レ功、公乃賜レ書勞レ之、慶長三戊戌正月掛ニ祠諸神於吉田佐多浦私邑ハ侍ニ讀家久公ハ十九甲寅四月十三日死ニ于江戸櫻田口(邸カ)ハ名心巖常意居士、(后改安口口口)

御書物入日記

惣目錄

左傳　三十卷　大平通載　四十三卷(二卷不足)

選詩　六卷　二程全書　十五卷
劉向新序説苑共　六卷　文選　二十五卷
唐詩正音　八卷二卷不足　史略　七卷
楚辭　四卷　東坡　十四卷
近思錄　同　石川集　四卷
通鑑　十三卷　竹齋集　十卷
宋鑑　卅六卷　資治通鑑綱目　卅二卷
御製文集　四卷　唐鑑　六卷
褒樸續集後集共　五卷　剪燈新話　二卷
中庸　一卷　漂海錄二部共　六卷
陸宣公集　五卷　詩人玉屑　同
詩傳　九卷　詩大文　二卷
南華眞經　十卷　昌黎文集　十八卷
禮記淺見錄　廿一卷　杜詩　十四卷
左傳　廿七卷　大明一統志　廿四卷
聯珠詩格　七卷　朱子節要　七卷
書經六文書集　十一卷　性理大全　廿五卷
春秋　五卷　三蘇文集東坡老泉潁濱　十五卷
白氏文集　十六卷　李白集　十四卷
前漢書　二十卷　春秋大全　十五卷

古文眞寶　六卷　朱子節要　八卷
五禮儀　八卷　小學　四卷
柳文　十四卷　詩大文　二卷
右書物藤原少將朝臣忠恒朝鮮國平伏之辰求ニ此本ヲ
送ニ日本國ニ安ニ置此地ニ云々、
唐記新到本　十二卷　翰墨全書　十七卷
琉球新到五經共　廿九卷
　慶長六稔辛丑同月仲冬六日
琉球より到來本
四書共　十一卷　唐詩新到本　三拾卷安意記之
碧巖錄　六卷　漢記　八卷
山谷　十卷　新到五經　廿四卷

右此紀源四卷者誠之草稿に而紀方之使計に如此書綴置引書相成書籍折角借入方手を廻し置折柄去る子秋伊集院子出立に付桂菴碑文之經方佐藤先生へ相願御桂菴傳聞置寫遣筈之處親類に病人有之晝夜不得寸暇無是非も此儘差遣萬一も撰文被受合候はゞ市宗など被仰談見合相成候はゞ書拔候間御遣可給旨に而登せ候處四冊共一齋へ被遣候也然者存外褒詞に而得益事不少候に付寫置致度迚被爲置候得共被召

出後多端に而其義難被及手候に付致成就候上一部は寫遣呉る丶やう被相返候也

如竹翁傳

鳩巢直清著

翁薩摩州人也、不知何姓、又不詳其名、自號爲如竹散人、人亦以此稱之、或曰薩摩州南海上有小嶋、曰役島、翁島中舵工子也、翁自幼削髮爲僧、既長至京居本能寺、學法華之敎、然心不樂、嘗自京師視其親族、時同州人釋玄昌文之以文學有名、先是朱氏四書始傳於東海、猶未盛於世、玄昌首以四書集註授其徒於薩之城下、翁方赴京適城下、一聞玄昌講朱氏之說、大說曰、吾固謂世有之也、果然、於是盡廢其學而從玄昌學焉、遂爲儒、爲人質直少文、不妄笑語、其學不務博、尤精四書、不好詩賦、慶長中翁爲家貧往至東都求仕、故泉州刺史藤堂侯聞翁有學、行遣使聘之、翁始至見侯於邸、乃曰、鄙人不知忌諱、今當備顧問職在盡言、願君侯容之、不然請由是辭焉、藤堂侯曰、君能如是所以吾敬君、若夫佞諛之徒、吾豈乏人哉、翁由之常在侯左右、多所裨益、居無何、藤堂侯卒、嗣君不好學、翁遂行反于薩摩、盡出其餘祿以賑親族鄉黨之貧者、又浮海適琉球師事之、琉球小夷不知禮義、及翁至而敎以人倫、然後其俗稍々嚮正、始知自別於禽獸、翁居琉球久之不樂遠就異國、乃去歸薩、又盡以餘祿與其親族鄉人、如自藤堂氏反、前後賴以全活者爲多、其後來寓居大阪、敎授不數歲而還、以慶安明曆之間卒于薩本邑云、翁在大坂大人與之相識、爲余說翁之事頗詳、翁雖逃佛歸儒、然竟從俗不長髮（當時自稱儒者皆祝髮）又不畜妻子、其來大坂年近八十、猶能強力、講書不以祁寒大暑廢、嘗聞翁自道其事藤堂侯也、嘗講已、因言曰、人所以異於禽獸者、以行此道也、苟不行此道、其何以爲人、譬於禽獸君侯是虎狼也、人實畏之、臣等是狐犬也、人實侮之、畏侮雖異其爲獸一也、公笑曰、君之言得無太過乎、當時聞者莫不驚愕、翁直言多此類也、君子之事君直言極諫亦要合於禮、若翁此言其有激也歟、然於所謂禮者亦或過矣、蓋自中世以來、天下靡然以勢力相勝、不言是非、不論曲直、惟勢力是視、故上之人專以威刑制其下、而人臣奉命、其職之不給其積成約之漸、雖使龍逢比干復生、言不

可出諸其口矣、何者勢不可也、夫桀之於二子、距其言誅其人、然天下之人皆以言爲忠以不言爲諂、自忠義剛直之士不顧距與誅焉、則勢無不可言者、豈與今之時比耶、若藤堂侯以好武之君、蓋世之雄能容强直之臣受盡言如此、嗚呼亦奇、侯可謂善用其勇者耳、翁在琉球國有梁澤民者、蓋中國人流寓其土者也、又知翁而敬之、名翁所居曰顧天庵云、

十二年庚申正月二十日寫之　　伊安

我高虎尊君、詠一首和歌見示親友、親友亦有和歌、道春先生取歌末之一字、爲韻賦唐律、以稱賛之、予也一日候華第、侍尊君之末席、而傍觀之、詩素雖非我之所解豈徒可默乎、叨借險韻以供芳友一笑云爾、伏乞笑擲惟幸、

如竹九拜

歌曲情深更吐奇　　胸襟洒落見情詞
無名野草沾恩露　　赫々風聲誰不知

僧如竹名日章號養善院、又稱顧天庵、自號如竹散人、隅州掖玖島安房村人、姓泊氏、父爲舵工、以元龜元年庚午生、少文之十五年、自少入本佛寺爲僧、既長至京寓本能寺學法華之敎、然心未樂、當此時藤惺窩皈自西海、講四書新註於洛陽、洛陽緇素多受業者、如竹同寮僧勸共學之、如竹以爲此學本出於薩藩、挹流乎遠、則不如皈國近尋其源、乃辭洛陽還、就文之受程朱學、居之八年、（惺窩以下據喜春說）理學大進、爲人質直少文、不妄笑語、學不亦博、不好詩賦、務精四書、慶長中又游諸州浴温泉於攝州有馬、會藤堂侯相亦同浴焉、如竹與之傾蓋、及言朱學勢相大感、其有學行、徑歸勢藩、欲必薦之其主高虎以輔治敎、然而以爲、與輕陳實却失其事、不如且默待問便能薦之、以故隱實泛語人曰、此行何幸得觀天下之至寶、人問其狀、則曰、苟得此則國家善治、何可輕以語汝等哉、不敢語之、專聞高虎、高虎乃召親亦問之、又不敢告、强之再三、乃具告實、因薦厚聘之、高虎乃悅遂遣其相復如有馬、以聘如竹、（温泉以下季安聞諸本田親孚）於是如竹始至勢藩見高虎、而告之曰、鄙人不知忌諱、當備顧問職在盡言、願君侯容之、不然請由是辭焉、高虎曰、君能如是、是所以吾敬君、若夫佞諛之徒、吾豈乏人哉、遂爲創

寺使如竹居之、(創寺事據浦波)由是如竹常侍左右多所禆益、寛永元年上邱江戸梓行家法和點、此明應十年桂菴所著述書也、二年九月初文之倭訓四書、新註而未盛行於世、至是如竹跋其卷尾、命中野道伴鋟諸梓、今世所謂文之點此也、

四書集註和訓、近世其説惟多矣、予之授童蒙者也、傳之於師也、中野道伴翁請鋟諸梓、予也所傳差訛而懼有違師説、以故辭而不許、翁請之不已、於是不得固辭使人謄寫之、應于其請也、世之觀者是處是之非處非之幸也、

寛永乙巳季秋吉旦散人如竹書于武州江城

寛永拾九年壬午年本能寺前藤田庄衞門開板

四年十一月又跋周易程傳本義、亦梓行于世、此卽文之在伏見時所倭訓也、(慶長四年二月)凡和點周易新註以此冊爲原本云、周易程傳本義未有和點、讀者往々苦之、以故吾文之翁旁加和點以示門弟子也、今也雖恐我家醜之顯外、而欲幼學者之易曉、故壽之本以廣其傳云、

寛永第四丁卯仲冬吉旦　散人如竹書

六年九月初文之在世、使如竹謄寫其所著詩文集、於是又命道伴梓行諸世、(或云如竹過山川得之此説非也、可觀跋知、但恠窩過山河得四書點本、恐誤事也耳)

南浦戲言前建長文之之老師(薩州人)之所作也、諱玄昌南禪大明祖九世之遠孫、而桂菴翁四世之的孫也、老師生于日州南鄕外浦、故自名南浦、又東福龍吟菴之門葉也、故其軒號雲興、蓋取于龍吟雲興之義也、或曰懶雲或曰狂雲皆其義也、老師在世之日、以所自著之詩文使予謄寫焉、然詩與文混雜而不分其部類、不定其卷帙、辭世之後予始表章之、又編次之別爲三卷、(文集一卷、詩集一卷、戲言一卷)今壽之於梓以遺愛於後昆云、

寛永己巳季秋下澣末裔

七年十月藤堂侯高虎卒、嗣君高次不好學、如竹遂行(按浦波云、或隱岐侯、或藤堂侯、未的知何侯、有世子凶暴而數殺人者、其父憂之語寛庿曰、寡人聞薩其舊邦不世乏賢、願以傳之、寛庿乃遣如竹行、世子聞其將來、豫語人曰、吾何受敎、却窶之而已、未幾如竹進見世子、世子曰、叟不遠千里而來、亦將何以敎吾乎、吾常好勇惟武是勵、如竹對曰、子之

好レ勇不二間斷一矣、則國中莫レ善焉、願君大レ之、世子大悅、乃從二如竹一講義、如竹每レ講稱レ勇誘導、居レ之三年、遂至下善格二其非一使上レ爲レ善、君云今附レ予レ此以備二異聞一(但寛庵後レ此九年立レ嗣恐傳聞誤)反二予拯救一盡出二其餘祿一、以賑二親族鄕黨之貧者一、又寛永九年年六十(十年六月傳)矣、聞三明人秀才來二于中山一、浮レ海適二琉球國一、乃師二秀才一講二究四書・詩書一、理學精熟、國王師二事之一、先レ是夷俗未レ知二禮義一、及二如竹至一、敎以二人倫一、時西土人梁澤民流二寓中山一、甚敬二如竹一、名二其居一曰二顧天庵一云、然後其俗稍々嚮レ正、始知三自別二於禽獸一、如竹居二琉球一贈二鄕里親族書一誡云、

態一筆に申候各之身持夜白氣遣に存候に付申入候

一御公義方御奉公何事に不寄專一候

一親にこうこふ(孝行)の儀にいしやう(衣裳)を進上申うまき(美)ものをもとめ進上申をこうこふとおもふ(恩)なよ親のはら(腹)を立ざる樣に仕事專一候

一人はわるかれ(惡)かし我壹人よかれ(善)かしとおもふ心あれば其ばちにて我が身もあしくなるものに見候

一人はよかれかしとおもふ心あれば其ごとくにて我身もよくなるものにて候間其心得專一候

一大酒をのみひるねを不レ仕候事專一候

一壹年のはかり事は春にあり春にもの種子をまき不レ申候得者年中の被レ下候ものなく候條たねをまき付候事專一候

一壹日のはかり事といふはよひ(宵)からあんじ(案)候間何のしよく(稼)を仕候とおもひ候間辰の時より出立仕候事專一候

右之條々能々心がけ專一候

六月十三日　本琉球より如竹　印

屋久嶋安房にて

泊與右衞門殿　　泊彌兵衞殿

同太右(左イ)衞門殿　　同善兵衞(左衞門イ)殿

同勘(甚イ)兵衞殿　　同高茂兵衞殿

同八左衞門殿

居レ之三年、如竹不レ樂三遠就二異國一、乃去歸二本島一、又盡捐二餘祿一與二其親族鄕人一、如下自二勢藩一反上、前後賴以全レ活者爲多、其後又往寓二大坂一、從游者衆、敎授未レ幾而還、新二本佛寺一居レ之、十七年正月愛甲廣隆自二志布志一適二掖救島一、師二事如竹一受二程朱學一凡六年、六月初伊勢貞昌贈二島津久慶書一曰、願足下勸三寛庵覃二精乎學一、

爲人君者修身治國不依聖學不能長久、若赫奕鳴世信長秀吉亦猶不保二世、可不愼乎、如日新君伯囿公聞而知之、至貫明公松齡公觀而知之、皆尊聖學毎事尊理、以治邦家國人懷之、誠是爲先務、願足下以時告之、於是國老相議贈如竹書使召侍講、(一說公在江戶會水戶義公、吾欲學儒今世師誰、義公曰莫如如竹、故有此事、)乃此月如竹隨門人廣隆等至麑府、創一寺於上廐地、號本佛寺以授如竹、錫之祿二百石、(淸水盛香說未知其據、)使入侍經筵、且敎授群士焉、十八年四月寬廟反自江戶、如竹常出入帷幄講說四書等、多所匡弼、十九年正月寬廟如江戶、六月請還養痾、五日久之有榮傳命許之、二十年六月公至自江戶、前此如竹赴召、二十一年四月寬廟如江戶、如竹得告之掖救以疾故也、時廣隆亦從、正保二年正月公在江戶、復上麑府、自是如竹在府下侍講於公、且敎授士太夫久矣、三月喜春辭曰、四月十五日自寫朱晦翁所著、不自棄文敎、其徒弟讀以有戒焉、又一日侍寬廟講孟子、至齊宣王曰、寡人之囿方四十里民以爲大何也、乃慨然而告公曰、方今君侯爲囿於吉野谷山等數所、匪啻四十里、豈民不爲大焉乎、寬廟怫然改容、毎講極諫多如此類、(得能通昭說)則河口靜齋所謂活所如竹抗直不撓不愧乎、古人云亦此也、既而如竹功成名遂、乞骸骨還、時時國相島津久通奉旨召如竹、而傳之曰、賜叟年俸以養餘齡、如竹拜命乃辭之曰、嘗所久饒裕既足以保老軀、願無受俸、久通莞爾而哂曰、叟之所言如聖人、然如竹正襟而對曰、自少欲一見稱聖而工夫經傳者久矣、然未嘗寸毫有庶幾焉、今執事苟賜褒言之至如此、則於彼可謂幸也、久通有赧色云、(據盛香說浦波亦載此事爲飯口、然則似去勢藩時之語、未知孰是、)時法華徒多願永置此寺代以居之者、如竹不可、乃請壞沽、曰、城闔置寺、恐不亦便宜、且二百石則兩士祿也、不如以食良士二人、有命許之、(浦波作去勢藩時之事、侯願云)故悉得其口云、又其居敎授也、爲士大夫所敬重、或饋之金、如竹皆無所拒悉持還、鄕人或隸之、初掖救之爲地也、民居近海堀井皆鹹、衆苦之久矣、迨如竹還悉指其所蓄金備工役衆碎

レ巖鑿レ地、引ニ泉於明星山一、以通ニ民間一凡數町、島人至レ今皆受ニ其賜一、謂ニ之用水川一、又遭ニ饑歳一散レ粟救レ衆、門人微レ餘不ニ盡與一レ之、如竹問ニ其故一、門人對曰、復欲レ進レ師、如竹曰、視ニ人餓死一安我獨生、遂盡救、時會寛廣開ニ倉廩一多給ニ島民一、得ニ以不一レ死云、又捄救山宜ニ杉樹一、古來僞言ニ伐レ之爲レ祟、人無ニ敢伐者一、以レ故鬱然焉、如竹以爲、斧斤以レ時入ニ山林一王道之一也、乃登ニ山上一禱レ伐數日、下而諭レ之曰、無レ憂矣、必入ニ斧斤一、神告レ叟云、前宵使ニ斧倚ニ樹下一、明日不レ倒則神所レ赦也、其皆從レ之、於レ是始得レ入ニ斧斤一、遂爲ニ故事一、至レ今材木不レ可ニ勝用一者、實如竹之切云、又敎ニ諸侯產業及洒掃等一、至レ今居民遵ニ守其敎一如ニ律令一焉、如竹晩年得ニ近思錄一曰、假ニ我數年一卒以レ學レ之將ニ亦到ニ至處一、惜哉吾既老矣、明曆元年乙未（或作ニ二年丙申一）五月二十五日（十五日トモ）卒ニ于安房本佛寺一、年八十五、（或云八十六云）葬ニ村鎭一云、下小叢口口繼法號養善院日章大德、

散人如竹

爲レ客多年交ニ世塵一　歸來生レ喜故鄕春
只今天下泰平日　茅屋解レ衣安ニ此身一

起承一本作下
多年爲レ客交ニ世塵一、歸來樂レ生故鄕春上

人暴ニ其德一需ニ之書筆一必書ニ格言一、或其爲ニ詩亦所ニ鑑戒一也、今問所レ存採ニ轉于左一

讀ニ勸學文一有レ感　相良檜齋家藏

如竹九拜

小壯不レ學腹空虛　後悔老來無ニ讀書一
鞭レ背生蛆馬前年　何如是得府中君

義利

利出ニ私情一害ニ萬端一　義循ニ天理一樂而安
是非得失命霄壤　相ニ去其初一一髮間

仲春之吉　如竹書

寶曆三年和田平右衛門秋存之任ニ捄救一有下登ニ久遠山一思ニ如竹一詩上

臨海鄰山樹自榮　老僧住レ此一心淸
釋門何意不レ言レ佛　千歲惟稱儒學名

和ニ如竹翁試筆詩一　「以下九詩一文欄外頭書ニ之掲ク」

卷舒詩語帶レ霞新　不レ覺景光垂ニ暮春一
任官嗟ニ吾汚ニ塵垢一　恰君物外潔ニ其身一

同

有レ客來尋自二遠程一　新來同賞慰二吾情一
風樓修造屬二君手一　羨見文章不レ日成

慶長十四年己酉正月廿一日也

一雨沛然喜二叢林受レ潤招二擁法華抄文一綴二野詩二章一、以呈二如竹翁一

文之

氍毹敷レ空撥不レ披　春來十日密雲彌
叢林卉木皆鮮澤　一雨何因能化レ之」
數日陰雲今已開　令二衆悅一豫暖風催
雨之所レ潤無二人測一　暢茂一切枯槁來

和二如竹翁之芳韻一以求二苑裘之地一云

文之

夕陽江上曬二漁蓑一　蘆葦灣邊點不レ波
早晩隨レ鷗我歸去　扁舟日々飲無何

送二如竹翁歸二枌寺一

文之

把レ卷多年吹二杖黎一　一朝何計告二離騷一
不二唯僮僕歡仰去一　足レ識庭松立指レ西

知二如竹翁詩一

文之

講罷殘經詩格濃　文章自有二一家風一
使二人景慕一是何事　盡是十年辛苦功

慶長十七年壬子也

和二如竹試筆詩一

文之

破衲製麻巾製紗　寒風於レ我更難レ遮
法華會上無二塵事一　一炷兜樓遠辟レ邪

暑往寒來寒風侵レ膚柴火煖レ身、呈二一書一欲レ問二安否一則便難レ逢、企跬一步欲レ扣二高門一、則老脚不レ堪レ見、白雲孤飛徒渴望、咨嗟夕何夕與レ君一相對語而笑、笑而語、思レ之外無二他事一、餘面旣不宣頓首

小春初九　養善院

如竹〔花押〕

拜上

白濱重昌老大人閣下

外ニ一通知覧第ノ本可レ載也其内ニ詩モアリ

元和丙辰
和二如竹翁試筆詩一

自他迎レ歲未レ傳レ觴　先喜誦レ詩滋味長
爲會純圓甚奇妙　不頃刮レ垢又磨レ光

藤堂侯相當レ作二勢侯一、藤堂氏相某不レ然、則下文勢相勢藩等之字無二出處一安頓

愛甲喜春者日州志布志人、名季定一名廣隆、俗稱二諸兵衞一、又稱二平左衞門一、別號玄德後改二喜春一、以二慶長十年乙巳一生、少二如竹一三十五歲、爲レ人質直澹然寡言、寬永二年乙丑年二十一矣、慨然志二于孔氏之道一、師二都城常德寺（今龍泉寺）主（十三世）僧泰岳一、讀書四年（按下南浦文集一呈二常德泰岳翁一、以問二二嚴小疾一詩上云、當年一入髻正儒、未レ遂二拜顏一春已過、乍欠憑レ君委傳レ語、二嚴惱氣頃如何、蓋慶長十四年己酉春也、以レ是考レ之泰岳亦出二於文之門一可二概知一也、泰レ和トアレバ弟子ニ非カ）又學二醫於津田曲桃庵一、十二年乙亥九月悉受二其禁一、十七年庚辰正月渡二益救島一、適二安房村一事二如竹於本佛寺一受二朱氏學一、六日如竹應レ徵至二麑府一、喜春從焉、二十一年甲申（十二月改元正保）春如竹疾請二告還一、喜春又從省レ疾、正保二年乙酉春如竹疾癒、三月往上二麑府一、喜春約復從レ之、暫辭歸省、如竹爲レ詩惜レ別今採二載左一、

愛甲氏廣隆、其號玄德、日州救仁院志林人也、其爲レ人也質直好學澹然寡言、先レ是五六年前遠航レ海訪二予於海島茅庵一、其志在レ欲レ聞二朱夫子四書新註之義一、雖三予不レ解二其義一、感二其志之不一レ淺也、不レ得二杜口胡説亂レ道者一、半年其功未レ畢、予有二官命一至二於麑府一、去歲之春（寬永二十一年甲申）有二采薪之憂一、請レ命歸二海島一、於レ是廣隆欲レ問二病安否一、再見レ訪二茅庵一矣、今玆春之初（正保二年正月）病漸平癒、而企二麑府行一、廣隆亦約二麑府到一、告別棹二歸舟一、感二離別之懷一者不レ少矣、詩非二予之所一レ解、而豈敢默乎、綴二野詩一絕一述二志之所一レ之、奉レ餞二行色一云爾、

分レ袂春風江畔春　天涯萬里布帆新
請君燈下尋二書義一　再會難レ期衰老身

正保乙酉暮春　散人如竹再拜

前後隨侍受レ業六年、四書新註及小學・近思錄・孝經古文・太極圖說・韻鏡等頗皆通焉、又請レ學二易新註一、如竹曰、吾之學レ易也、不レ如二江夏氏一、汝必學焉、因喜春又學二易於江夏二閑一、乃明人黃友賢之子、而受二程朱說於父友賢一、以不レ墜二家聲一者也、慶安四年辛卯十月二日悉受二其傳一、（筮著及擲錢之占法）於レ是喜春年四十七矣、又就二川越重能一受二曆書七卷一、又斷易法受二之井上織部一、洪範六卷得二之島津圖書一、示視劔學二諸東鄉重國一、博綜二衆技一、而常業レ醫、名聲鳴レ世、初其先從二得佛公一就レ封、自二相摸宗邑一（愛甲郡）徙二於本藩一、至二祖織

部ニ世列ニ士班一、屬ニ伊集院一、拖レ節移戍ニ福島一、迨ニ太閤西伐一、封ニ秋月種實於福島一、去歸ニ志林一寓ニ于大慈下一、棲遲逝世、父新兵衞孤貧業レ農、至ニ喜春一憤發好レ學碎礪積レ年、於レ是承應二年癸巳二月十二日、自陳ニ閥閱一請レ復ニ舊班一、地頭島津久茂以聞ニ於寬陽公一、既而未レ幾如竹死矣、門人雖レ多莫下出ニ喜春右一者上、別府助員（式部左衞門）平山久行（久馬）白尾國長（金左衞門老號ニ自安一）長谷場純昭（伊角）等、亦稱ニ其爲レ人、倶皆薦レ之、乃萬治二年己亥正月十七日、遂命爲ニ侍讀一、從如ニ江戸一、十八日又復ニ邑士一、皆久茂承レ旨使ニ邑正命レ之、

預貴翰相届令拜見候先以中將樣益御機嫌克御座被成候次貴老御堅固御勤仕之由珍重に存候然者御訴之儀に付被仰聞候之趣委曲得貴意候別府式部頭殿平山久馬殿よりも書狀相付承候長谷場殿相談爲見合可申候將又其地私宅女更病者共御座候乍御太儀每々御見廻御樂可被下候奉願候私事も無爲に罷出候尙期後日候恐惶謹言

八月廿日　　白尾金左衞門（花押）

愛甲喜春樣貴答

態用飛札候愛甲平左衞門此度江戸へ可被下召列由御意候間其旨可被申聞候定而儒書御讀せ可被成御用に而候はん間其意得仕候樣に可被申渡候太守樣御發足二月四日に而候是又爲心得候恐々謹言

萬治二年己亥

正月十七日　　島中務

久茂（花押）

志布志噯衆御宿所

昨日次飛脚に而申越候通愛甲平左衞門儀此節御赦免被成候由被仰出候旁以忝仕合に候就夫急度參上仕候樣に可被申付候謹言

萬治二年己亥

正月十八日　　島中務

久茂（花押）

平田伴右衞門殿

上村六右衞門殿

床次少左衞門殿

山田七郎左衞門殿

凡學ニ於庶人一者、給ニ一人月俸一、積レ切增レ秩爲レ例、然喜春家本舊勳至レ父零落寓ニ於寺門一、亦今喜春以ニ儒

醫一立二其身一、何功加レ之、久茂以告レ公、公乃嘉レ之特命給二三人月給一、二月四日從レ駕發二本府一、自二阿久根一公駕レ船泊二于軍浦一、凡可二七日一、時公觀二山海獻美揭浦一（在二薩州出水一乃脇本湊也）親賦二一絶一云、

陽光徹二海煙一　花樹護二村邊一
見說揭之浦　晴山不二讓漣一

而使下程菴（姓氏未レ考）召二喜春於前一亦爲上レ詩、卽賦二七絶一、

吟遊春日此他鄉　海島山河多二景彰一
揭浦風敲二漁戸一夕　百花亂落野村杏

於レ是喜春乃因二喜入久甫（五郎兵衞）等一求レ見二于公一、國老伊勢貞昭（兵部）以聞レ公、公曰既召二舟中一助二於顧問一且使レ爲レ詩、更何見レ之、爲二喜春拜レ命因二久甫等一拜レ恩、三月二十八日至二江戸一、恒侍二帷幄一、以レ儒被レ用、暇則來二往淺羽氏等一（三右衞門）友善、屢通二書問一矣、三年庚子四月十三日從レ公發レ邸、五月二十八日、至二本府一、七月十一日地頭久茂命授二宅邑一、其書云、

一筆申候愛甲平左衞門就御赦免に屋敷之儀去年雖被申出候後日可致相談と申候明合之地於有之は可被引渡候、恐々謹言

萬治三年七月十一日　島中務
久　茂（花押）

志布志　噯中

而身寓二府下一、門人益多、乃久茂及島津久竹（圖書）島津（主計後帶刀久元此）等亦出二於其門一、貞享四年丁卯九月次子仲次郎歿矣、喜春哭レ之、慟曰、村學如二彼苗而不一レ秀、噫天喪レ予、自今行後其與レ誰講二斯文一乎、乃乞二骸骨一去還二鄉里一、後府下猶多下慕二其德一時書問者上、

一筆呈申候彌無別條御入候半然者四書新註之一卷慶菴和尙之遷化被成候所又者廟所等究而爲存衆無之候間御覺候趣委細被書付給度候及口傳候儀共卽山院主へ御傳候はゞ追而委曲可承達候返々賴入候此旨爲可申達如斯候恐惶謹言

五月　帶刀忠雄入道睡雲
島津主計
久　年　判
愛甲喜春老

猶々山田殿事願相達昨日御目見首尾能相濟結搆成仕合到于吾等令嬉悅候將又桂菴和尙墓所之儀書付見難相達候はゞ明年頃には山田殿早々可被

差越候間御申達候はヽ可令承達候以上
一筆令啓候寒氣甚敷候彌堅固候哉承度然者當年爰元へ可被差越樣に承待居候得共無其儀候來年江戸へ可御供被仰付罷上候得ば明年迄者致對面間敷候（元祿四年辛未二月）殘念に存候隨而者桂菴和尙墓所入念相尋候へども（「□」朱とあり）爲存人無之候間御報に委細御書付可給候恐々謹言

十二月二日　　島津圖書
久　行「花押」

愛甲喜春老

「朱書」諸家由緒抄

一志布志之住人山田七郎右衛門年頭に罷出御太刀進上之儀は無之御目見迄を被仰付候總貴公御家督追而以後如仰付儀に候事但七郎右衛門自分之願は無之由に候事

「朱書」按總貴公御家督貞享四年七月廿七日にて其後追付と有之候へば元祿三年十二月朔日山田へ御目見被仰付翌四年未正月よりも年頭御座所へ被召出候歟然し此十二月二日は元祿三年ならんか可紀なり

猶々韻鏡傳授之儀久敷約束にて候へども更に無手透延引に打過候以上
一筆令啓候甚寒之節彌堅固に候哉承度候我等儀も無別條罷過候然ば去冬被差越候時分文之和尙四書新註に點御入之儀又桂菴和尙入唐之儀共委細書付可給由約束申候當年中にも被差越候はヽ其節可申談と待居候へども無其儀候我等儀も來春は江戸へ致御供候間其內相伺被遺度候將又大龍寺住持不門頃日大學之講談有之候過分之聽衆にて一段之事に候雖然文之一流之學に而無之殘多存候猶期後音之時候恐々謹言

島津圖書
「疑貞享二年」十二月十三日　　久　行「花押」

愛甲喜春老御宿所

不門名宣領五世住職爲二中興一、以二元祿七年七月十九日一死、按貞享乙丑應二島津久寧等之請一不門講二大學一事、見二竹內助一森羅集一、此云頃日當レ在二其時一、且不門師二備前岡山松琴寺開山無抑參和尙一受二其學一、故此久竹云レ非二文之一流之學一是也、蓋岡山之學專柄二用熊澤了海一世所レ知也、以レ是考レ之、不門

亦信ニ王陽明良知之學一者乎、

猶々何とぞ爰許へ被差越候はゞ相尋申度儀共に老人にて候得者被差越候儀者成間敷候哉と殘多存候以上

一筆令啓候久敷物遠打過候彌堅固に候哉承度候我等儀も去秋病氣以來于今草臥有之時々致登城相勤仕合に候雖然漸々快方に候間可易芳慮候然者先年於江戸に御方へ篋致傳授候其節被遣候書付慥に致所持置候供物等之書付置忘見出不申候間委細書付可給候恐々謹言

三月八日　島津圖書　久　行（花押）

愛甲喜春老御宿所

一筆令啓上候從圖書樣被仰下之御狀再三拜誦奉得其意候先以御父子樣御勇健に被遊御座之由恐悅に奉存候然者先年於江戸篋傳授被遊候書付置忘爲被成之由被仰聞候依是篋幷擲錢傳授之卷物一卷指上申候此方へ者殘置候間其元へ被相留候樣に御申上可被下候拙者事今一度御當地へ致參上奉拜貴顏存候得共老涯不稱意徒送光陰計に候萬端可然樣に御披露奉願候恐惶謹言

五月四日　愛甲喜春

嶋津圖書樣

御與力衆中

一筆令啓候乍時分暑氣甚敷候彌堅固に候哉承度候然者先年於江戸篋致傳授候節之書付置忘候に付先頃申越儀共候故篋幷擲錢傳授之卷物一卷此方へ可爲置候由に而被差越過分に存候得と見申候之處供物之置所瓦器に何々を入候哉旁前見候得共覺不申候間乍御六ケ敷儀委細書付差越賴致候恐々謹言

五月晦日　嶋津圖書　久　行　判

愛甲喜春老御宿所

元祿十年丁巳八月十六日卒年九十三、葬ニ大慈寺一、法號文嶺玄德居士、本寺主僧太極嘗所ㇾ名而爲ㇾ詩以讃ニ其號一曰、

經史花間樂ニ老年一　青山依ㇾ舊屋頭前

平生無ㇾ倦仲尼道　日月高照萬仭巔

所ㇾ著有ニ四書私鈔十二卷・易注私鈔五卷・蒙引本草四卷・諸家脉法拔萃一卷・家訓傷寒論一卷・醫海南針集三

卷・針灸明辨二卷・家傳醫方集要十卷等、皆藏于家、喜春授子玄昌孫季堅・季寛及國老島津久竹等、又針人橋口春盛・大木壽碩・中島三春・安藤隆雲、末吉人白尾桃庵・窪田碩氏、高岡人入田新助親方・入田八兵衞氏方、

入田新助名親方、家世日州高岡士人、父名親普稱用右衞門、貞享二年乙巳五月二十八日生、自少好學業醫、受之於愛甲玄昌玄經與志賀登龍友善、寶曆十一年五月三日死年七十七、法號功學良忠居士、

入田氏方亦高岡士人、幼字八兵衞、自少好學爲醫、號爽中、又號常元、後還俗稱方右衞門、生於正德四年、以安永二年六月二日死、年六十、法名松雲永鶴居士、蓋喜春季里弟子也、

種子島人上妻壽庵、勝岡人田中鐵右衞門、秋月人丸野藤太、久志人原田長庵等、又琉球人亦多出於其門者、而島津久竹等受易筮法、季寛秀才專學其儒他人、蓋多受醫者、未悉攷焉、生子季經、

愛甲季經號玄昌、喜春之子、生于寛永三年丙寅八月、初稱勝兵衞、受學於父紹業醫術、改號玄昌、遊學東都、來往淺羽氏等（稱三右衞門其答喜春書言、玄昌屢來往）不墜家聲、元祿十三年庚辰六月、新建見性庵、十六日落成、乃奠父肖像、託主僧萬安掌香火焉、因損銀二百錢、永資其工料、自記其事於廚子下云、三男二女男長季堅・次季寛、自有傳次季東、女長嫁邑人坂元氏、次適府士家村氏、季堅稱諸兵衞、生于慶安三年庚寅、少祖喜春四十七歲、受業於祖爲醫、元祿五年壬申七月二十九日先父祖歿、年四十三、生男季里、自有傳、季東稱助八、亦受祖業居志林、生子玄貞繼業、

愛甲季寛稱助次郎、玄昌次子以寛文五年乙巳生、少祖喜春六十歲、爲人英敏好學、自少受業於喜春、八九歲自講勸學文、稍長善屬詩文、又善書、喜春奇之以爲英物、必後有所爲、將使之游學於京師、鉅儒之門益成其材、以爲天下之器、貞享四年丁卯九月渡自福山、舟中罹疾、四日蚤死、年二十三、葬松原山、法謚月澗宗吟居士、所著有大學、

愛甲季里號玄碩、後改喜春、初名季澄、小字勝兵衞、乃季堅之子以延寶六年戊午生、少曾祖喜春七十三歲、少受家學、年二十而喪、喜春遊學麑府（寓于

上町ニ)受ニ書於志賀登龍一、以レ醫仕ニ江戸邸一、元文元年丙辰宥邦公擧爲ニ侍醫一、列ニ於府士一、世々勿レ絶、賜ニ宅一區於府下一、後事ニ慈德公一、至ニ寛延三年庚午三月十五日一歿、年七十三、葬ニ松原山一、法號大心正通居士、生ニ子喜碩一、季偉業レ醫蚤死、有ニ一男一曰ニ新右衞門季雄一、見ニ于古註者流下一、

粤我慈父愛甲喜春老者日州志林之產也、從ニ少時一雖レ有ニ欲レ知レ道之志一、門衰家微、思而空渡レ日、已ニ一朝果然弃ニ其作業一、二十有一天而始披レ卷讀レ書、焚ニ膏油一繼レ晷、孜々而無レ倦、稍逍ニ壯歲一乎、周ニ流于四維一而就ニ有道一以窮ニ其道一、略通ニ到易曆醫之三道一、以レ醫而鳴ニ于世一也者數十年也、當ニ此時一乎、何患レ不レ足哉、故其澤流ニ于子孫一以潤ニ家門一、先生之所ニ以有レ功ニ于家一者不レ可ニ勝計一、此非下家之爲ニ中興一者上哉、加之信レ佛重レ法欽ニ前大慈大極和尙之門下一求ニ法名一、故號ニ文嶺玄德居士一、道號之記在ニ嫡子之家一也、壽考九十有三、元祿十一年八月十六日烏終矣、當ニ此時一也、見性禪菴殿堂經ニ歲月一久遠而頗頹廢壞也、於レ是予請ニ往山萬安和尙一曰、新修ニ此寺鄕一、願容ニ移壽像於此寺一、和尙亦感ニ我志一乎、欣然許ニ容之一也、信生前之大幸何如レ之哉、故撰ニ良辰一而經ニ榮(營カ)之一、依ニ舊製一以爲レ之、元祿十三庚辰六月十六日既成矣、即日爲ニ入佛一者也、向後借ニ檀力一不レ加ニ備補一、永難レ保ニ此寺一、雖ニ檀力弱(ツカ)一ニ菴主一亦無レ如ニ之何一、於レ是白銀二百目爲ニ造料一納レ之者也、叨不レ費之非修節已新、雖レ作レ之難矣、欽祝ニ遠太一云爾、

元祿十三年庚辰天

六月十六日　烏　直子

玄昌記之

余八世祖文嶺君之像在ニ日州志布志龍興山中見性庵一、初君之歿也、庵方廢圮、故子玄昌葺而寘焉、襯銀貳佰錢於ニ其主僧永以爲ニ香資一云、爾來久遠、彩飾侈剝、餘欲レ新レ之、乃私ニ於官一求ニ巡察部一當ニ其地一、是歲四月獲往謁レ像時、豐後人來客ニ於邑一幸ニ佛工也、便命新レ之、遂能儼然至レ復ニ其舊一、於レ是五月十五日、請ニ本山主席□□和尙一行ニ供養法一、君乃本邑人、姓愛甲氏諱季定字玄德、自稱ニ季春一文嶺其法諡也、爲レ人聰敏精力超レ倫信ニ朱氏學一、再適ニ掖救一受ニ業於如竹一、先生勉勵講究以ニ高第一聞、又學ニ易於黃自閑一、習ニ醫於伴兼政一、(津曲淡路守入道桃菴)皆通ニ玅理一最博ニ禁方一鮮ニ治レ不レ驗、萬治中寛陽公辟爲ニ儒醫一、特加ニ寵遇一、晚年致

仕歸二老本邑一、以著レ書爲レ樂、如三其治二小兒咳息一方今尙家傳二此行一、邑人會患二此疾一、多求二余療一、余雖レ非レ醫依レ法治レ之、立得レ效者八九十人、各謝二實庭一則工料亦足二以辨一焉、聞者咸曰、嗚呼君逝百二三十餘年于レ茲矣、猶自能新二其遺像一、抑非二良醫一豈如レ此也乎、且時疫二於邑一、又會二佛工至一、如二天府有レ祐レ之、是先德之所レ招乎、將又追孝之所レ致乎、可レ謂レ奇矣、此亦不レ可レ不レ記、乃併書レ板以置二像下一、使二後之復修者以有レ知レ焉

文政十一年戊子五月　本府橫目助愛甲季鳳謹誌

奉レ挽二鳩巢先生四首一　河口子深

魂去二帝鄕一雲路遙　空臺風雨夜蕭々
西階忽設周人奠　南國徒勞楚客招

名託二山川一千載在　身隨二艸木一一朝凋
從來天意稱レ難レ測　忍使二斯文長寂寥一

先生未レ葬是月十五夜風雨

大梁當日訪二鄒枚一　匹馬翩々奉レ檄來
東府衣冠堆上第　西園賓客擢二多材一
三辭繾綣丹心盡　一病支離白髮催
嘆息絃歌今絕レ響　帳前啣レ淚徒徘徊

先生以二辛卯歲一與二三宅深見一三公同徵、乙巳擢二侍西城一、戊申以レ病力請二散秩一、不レ幾卒二于官一

一代龍門歸二九泉一　幾人負レ士共淒然
還憐野祭走二三老一　自恨家廬違二六年一
落日牛羊登二古道一　秋風禾黍對二新阡一
歸家悵望山中夕　腸斷白楊深樹煙

先生之葬、門人在二府下一者畢來執レ紼、葬二先生于大冢之地一者、恩地繼美・伊東貞展力最多、至二于治壙及區畫諸務一、則飯室良卿躬服二其勞一焉、既窆、本村保正・芝崎某約奉二洒掃一、護視甚謹、其人云自レ葬以來、村中男婦相率致レ祭、瞻拜者不レ絕、

講誦不下因二老病一休上　著書豈是爲二窮愁一
高岡鳳逝簫聲歇　空谷玉埋虹氣收
文子垂レ終猶奕々　笑談臨去更悠々
英靈寧逐二西風一散　知口伴三閭遠遊

先生自二丁未一感二支疾一、侵尋不レ愈、及レ今八年、然講レ書率二生徒一不レ異二常時一、至二八月初五日一猶臨レ席講二近思錄一、病中著二太極圖述・駿臺雜話等書一、皆易レ稿再

三、手書楷正、未二嘗告レ憊、屬纊之夕、光遠與二繼美・貞一同撿二遺稿一、有二佐渡國菅廟記一篇一、艸本備具、其淨書乃十月十日所二繕寫一、半篇未レ就、此爲二絶筆一、蓋以二疾作一不レ能レ完也、然文辭典重字畫嚴密不レ類二死期將レ近者一、可レ見二所レ養之深一、又聞二之貞一曰、先生當言吾當レ含レ笑口地易簀之日談笑如レ常、果符二雅言一、唯速召二親姻及諸弟子一、至則已無レ及矣、翌日將レ歛、光遠與二飯室・恩地・集堂・伊藤・兒玉一、五子拜辭永訣、以二是時一竊窺二顏色一不レ變、睟然如レ生、眞所謂金玉也、於レ是始信三先生實爲二異人一、顧二平生親炙之淺一、追悔無レ及、嗚呼悲哉、

登龍翁曰、嘗鳩巢先生を見るに、狀貌顏色甚うるわし笑へる顏童子のごとし、童顏と云ふ、幼にして顏老大のごときは好相にあらず、

又曰、先生宮室を卑し、物の玩好なし、駿臺の宅玄關と見えたる所三帖敷、其次二帖敷の小坐敷あり、其次書院六帖敷あり、又曰、先生を臨むに温和にして詞寡く、笑ふ事まれなり、笑ふ時三歳の童子のごとし、鬢は後下りに剃て身の長中下なり、

先生諱直清字師禮、一字汝玉、幼名順祥稱二新助一號二巢鳩一、又號二滄浪一又號二古愚一、命レ齋曰二靜儉一、萬治元年戊戌二月二十六日生二於武州谷中邑一、享保十九年甲寅八月十二日卒二於北郭駿臺私第一、享年七十有七、

吾黨小錄

吾黨小錄者、錄二鳩巢先生門人一也、先生務レ實而不レ務レ名、天下莫レ不レ聞、而今有二此錄一者、豈門下之士自喜二其盛一耶、曰否、蓋憂二其衰一也、東武之盛百有餘年、宜下學士大夫列レ第相望、左提右挈相與講二先生之道一、而謹守上レ之、而任二斯文之重一以二綱常一爲二已責一者、獨鳩巢先生而已矣、其他雖レ有二二三可レ稱者一、率才弱質凡無三以發二二程夫子之遺學一、曰二之無一可也、先生勃二興於北地一七十之年、竭二其精力一欲レ庶二繼レ往開レ來之旨一者、未二嘗少倦一、宜三群材輩出前唱後和成德達材以廣二先生之化于無窮一、而篤信二其師一不レ汨二異敎一者、獨所レ錄諸人而已矣、其他朝來而暮去、陽附而陰背、雖レ累二千萬一曰三之無二亦可一也、夫以二天下之大一、而唯有二先生一、以二先生樂育之功一且久而唯有レ此、諸人寥々如レ此、豈非二吾道之衰一乎、然先生所三以得二於己一者、不下以二時之用舍一爲中汚隆上、而況又以二人之從違一爲二輕重一哉、固不レ待レ論、而予所レ憂載二名于レ此者、以二今日一觀レ之、則所謂篤二信其師一不レ汨二異敎一無レ可レ疑、而安知二

他日情移志變不レ免ニ下喬入幽之譏一、幸其不レ然、亦偸レ惰委靡無レ所ニ奮起一、使ニ吾道衰之又衰竟幾ニ於泯一、則可レ勝レ嘆哉、故具ニ其名氏一編爲ニ此卷一、使レ得ニ一々指レ名而議レ之以考ニ早晩之異同一、凛々若ニ嚴師之常在ニ其上一、負ニ其初心一者、亦當ニ愀然而悔悟一、此錄レ之爲レ助、豈淺鮮哉、若夫諸人據ニ已成之質一、日就月將ニ高飛一而遠擧爲ニ一世之偉人一、以能踵ニ先生之迹一、則豈獨先生之道盛而已哉、蓋亦天下國家之盛、可ニ由レ是而致一也、其爲ニ吾黨之光一也大矣、而予編レ此亦與有レ榮焉、豈可レ不レ勉哉、享保十六年五月十九日白河河口光遠叙、

吾黨小錄

蘆世輔（蘆孝七郎）名德材奧州人、仕ニ仙臺侯一、爲レ人有ニ大志一、夙游レ京、師ニ尙齋先生一、先生深稱レ之、後見ニ鳩巢先生一、先生常以爲ニ奇才一、當世希レ出ニ其右一者上、其詩文高古絕無ニ俗氣一、亦可ニ以見ニ其所レ養、其居距ニ仙臺一數十里、號ニ東山先生一別號ニ畏齋一、

飯室良卿（飯室內藏助）

集堂大輿（集堂小大）名厚阿州人、仕ニ於本國一、其先爲ニ大姓一、當ニ三好氏領ニ四州一、有ニ集堂伊賀者一、據ニ土地一有ニ勇名一、鬪死、葬ニ於學山一、其家遂衰、大輿其後也、因自號曰ニ學山一、大輿爲レ人溫厚不レ與レ物、忤レ口未ニ嘗言ニ人之過一、稱ニ爲ニ長者一、向レ學最力、

送ニ兒玉圖南歸ニ薩州故里一詩一首

征旆行々去不レ留　涼風蕭颯歲云秋
滄浪雲黑鯨吹レ浪　古渡月殘客喚レ舟
腰下泣龍佩劍鳴　驛邊立レ馬賦ニ登樓一
南中親友如相問　爲道夢思感ニ昔遊一

右送ニ兒玉圖南歸ニ薩州故里一

鳩巢老人援ニ筆于駿臺之草堂一［印］［印］

兒輩各賦レ詩贈ニ兒玉子之別途一亦不レ忍ニ默々一卒賦ニ一律一以寄

匹馬蕭々辭ニ武昌一　陽關三疊斷ニ人腸一
驛樓對レ酒知何夕　驛筆題レ詩復幾章
明月山中星照レ劍　青梅林下雨沾レ裳
早聞君到ニ難浪上一　從ニ此舟一行向ニ故鄕一

鳩人老人漫書

家兒圖南將レ往ニ東都一老父倉卒賦ニ俚言一章一恭奉レ寄ニ室公鳩巢先生一案前伏祈ニ斧政一若倘惠ニ和章一幸莫犬馬（大焉力）

久仰ニ淸風一未レ接レ顏　空嗟千里隔ニ江山一

夢馳二東海一文瀾上　身老二西洋一野岸間
固陋終無レ陪二敎誨一　殘喘祇有レ益二愚頑一
祈君速賜二瓊瑤句一　願荷二仁情一解二苦艱一

麑府野老倪仝金鱗拜具稿

薩州倪老丈因二令胤圖南東行役一以レ詩見レ寄二老夫一年傾材腐不レ料レ辱毎眷之厚遂和二其韻一以謝

知心何必在二知顏一　不レ恨三秦吳隔二海山一
眼下闇投明月贈　病中坐對白雲間
虛名千里誤二君聽一　懶性百年羞二我頑一
麑府故人如相問　爲言眠食幸無レ艱

別賦二一絕一謝二其所レ惠畫扇朱墨一

白扇飛レ霜黑吐レ紅　遠來兩品共席珍
研朱點易知何日　先有二清風一生二掌中一

七十七老翁古愚室直清拜書[印][印]

送二倪圖南君歸一レ鄉二首

其一

江都一別路漫々　分袂匆々淚未レ乾
此日送レ君陽關曲　如逢二驛使一報二平安一

其二

此日整裝芝邸居　相逢清話十年餘
關山長道歸鄉遠　更寄平安天牘書

室洪謨拜[印]

送下倪圖南又自二東關一歸上鄉伏祈二斧正一

江東野草綠萋々　轆馬々風歸二海西一
客館門前相別後　渺茫々水望將レ迷

島間鷗拜草

三月晦日圖南倪君來別翌旦賦レ此送レ之

昨日一盃酒　送レ春又送レ君
倚レ欄悵望々　千里夕陽曛

河　光遠拜艸

昨日忝奉存候分袂之情千斷萬緒難候□別而老母沈痾之病に付以參上不申□□□海奉存候近年之中御出府遂雅盟度至願區々御座候餞作に而も進上仕度奉存候へども侍卷無暇是又精神勞し候何々も不任心底匆々之仕合僅獻一絕□□仰貴評而已御座候以上

閏月初日　光遠頓首

圖南倪老兄榻下

□□胡椒壺一枚家翁より進上仕候俚言□□相添候殊御笑端之至候妻方より旅□□器數件進申度由に

候何事も病床ロ之仕合御免可被下候兩親以下能々
申上度ロロ御歸鄉以書中速に可申上候以上
右表之本書圖南より五代之孫兒玉宗之丞致所持居候
事

丙寅十二月記レ之

兒玉圖南(兒玉宗四郎)名一鳳薩州人、仕二於本國一、其先武州名族也、薩州公遠祖諱忠久、建久年中始封二於薩日隅三州之地一、關東故家多隨レ之、而遷者兒玉氏其一也、自レ是五百餘年世爲二君臣一、未三嘗他從一、圖南父宋岡翁號二金鱗一、有二學行一爲二國人所一レ重、既老而圖南嗣レ業及レ壯辭レ親、東遊二學於鳩巢先生之門一、五歷二寒暑一材大進、爲レ人胸次廓落不レ修二邊幅一、人皆愛二慕之一、其詩文可レ觀、學二書於高玄岱一、傳二其筆法一、至三於敬レ師親レ友懇篤有二古人之風一、蓋亦國俗然云、

伊東知量(伊東貞右衞門)名貞長州人、其伯父恭節先生養レ之爲レ嗣、先生名儀字邦達、爲二一時名儒一、鳩巢先生爲銘二其墓一者也、其家世已具二碑中一此不二復著一、知量夙承二家訓一、克省二厥德厚重一、有二老成之器一再世不レ仕、

多田維則(多田儀八郎)名儀京師人、不レ仕、尙齋先生高弟弟子也、東遊師二事鳩巢先生一、天質端愨動由二規矩一、爲二人所一レ憚、號二蒙齋一、

山宮源允(山宮源之允)名維深生二於江府一、其父在レ庵以レ醫仕二龜田侯一、而嗜レ學耽レ古、一時名士多レ所二交遊一、原允自レ幼聰明詞翰兩妙、未冠名動二縉紳一、稱爲二神童一年甫十五、委二贄於鳩巢先生之門一、踰二三載一而西遊二京師一、從二尙齋先生一、號二翠漪一、

中村子晦(中村玄春)名明遠號二盈進齋一、幕府醫官以レ精二其業一、擢侍二第三城大夫人一、鳩巢先生近患二支疾一、服二其屢効一、爲レ人明爽善著二文章辭理條暢一、經義一本二於先生之說一、

河守國華(河守宗太郎)名季實遠州人、系出二於藤原一姓朝比奈氏、朝比奈者駿河國主今川氏長臣也、今川氏滅二其族一、遂散有下沿二大井河一而居者上、東照廟時以二膂力過一レ人、仕二於覇府一、後屢載二寶器一輸二於東武一、至二豆州三石一舟沈喪二其載一、耻二奉レ命無一レ狀自殺、其子孫沒、不二復顯一、各爲二農家一至二於國華一、累世以レ耕レ田爲レ業、志操過レ人質朴有レ守、享保癸卯春負レ笈遠來、舍二于先生門下一十餘日、躬炊而食、專心講習、既歸レ鄉其志不レ變、屢以レ書相問、

恩地堯弼(恩地善三郎)名繼美姓橘氏其先河州人、生二

於東武一、侍二於先生一有レ年、當三一仕二于越州村松一、未レ幾退而閒居、

住吉弘辰(住吉忠藏)幕府士人、

井戶方懋(井戶平左衞門)幕府先隊騎士、射馭之暇、讀書攻レ文兼嗜二書畫一、實當世武人中難レ得者、號二甘谷一、

愛甲季平(愛甲仲兵衞)薩州人、仕二於本國一、亦上世自二鎌倉一西遷者、季平與二鬪南一同鄉友善、信二先生之敎一、雖二公事不一レ暇屢侍二講席一、薩州諸士猶有二日高爲純・志賀弘毅之徒一、慕二先生之風一者頗多、今不二悉錄一、

薩邸與二知量大輿及光遠一寓居、相趾不レ遠故結爲二一會一、三五日必一相聚期二相與坊磋一、錄中諸人唯此數、

鳩巢文集載下送二愛甲季平歸二薩州故里一詩上

故園南望路漫々　歸與不レ愁海陸難
何日風帆飛二彩鷁一　幾囘明月上二金鞍一
赤關古道荒烟合　丹浦行宮返照寒
別後相思如見レ雁　爲レ書數字報二平安一(自注署此)

塚田亮仙(初名長次善助後又改二今名一)信州人、侍二先生一受レ敎、今歸二鄉里一、能レ文號二旭嶺一、

尙以此廣日高氏御使に御越被成不存寄口口得御意大慶難申盡候早速私宅へ御見廻候而緩々致閑談候來春迄も御滯留可有之かと大慶不少候先可申遣御兩親樣息災に而日夜御侍奉可被成と御大慶察申上候不及申候へ共御孝養專一に奉存候將又當地に御入之時分御申きかせ候孟子千乘之事頃日門弟中に講習之時分致考究候所彌集註之說にては難通有之に付拙者考之趣相伺置申候日高氏迄進候間相成者御心へ置其元へ御達候樣頃日甚兵衞殿へ申談置候委細は甚兵衞殿より可申參候以上

前月三日之貴翰當月上旬日高甚兵衞殿御持參候而急致拜見候先以貴樣御事御無異御勤被成由承之珍重存候只今論孟左傳御講談之由其御地士中御爲一段之事に存候御持疾指出御難義之由去共御快方に相成候由先々致安堵候追而寒氣罷成候間隨分御保養御懈被成まじく候次に老生事兒玉愛甲氏御存知之通今程手足共不叶に罷成日夜臥蓐高口に罷在候最早廢人に罷成死を待罷有ばかりに御座候何とぞ近年之中貴樣御在江戶も候はゞ今一度得御意度候明日も難量候へば再會も難期候故一入御床しく

存候被思召寄御狀被下殊更唐書册子五卷被贈下御深志不淺忝存候先頃も御狀被下候處右之通手不レ叶に候故御報さへ不申入背本意候餘り御無沙汰に罷成候故ふるひ〳〵如此自筆にて草々及御返報候わけも見え申まじく候尙期後音之時候恐惶謹言

十一月十二日　室新助

直清〔花押〕

志賀武兵衞樣參

猶々此間餘寒も退而和暖候花も漸咲申候都下賑は布玉歲霜月朝廷大嘗會御執行久廢事も御再興是分難有恐悅仕候くれ〴〵とみを殿死去可レ惜事母儀之愁傷可申樣無之候其外百家町中歎レ是候去年已來物故被致候衆も多く就中歌所の武者小路實陰卿にも急に御逝去にて御座候惜しき御事に御座候山田四郞右衞門殿より御狀被下返書相認申候乍次手呈一書候其後久敷御便も不承候如何彌御堅固御暮御家內御無事御迎春察入申候都下無異事拙宅皆皆無爲越年仕候老拙も當春七十二歲罷成候衰懶仕候持病之痔疾再發度々致難儀候先は無事に如例開講儒書神書本草可樣督門生中も諸國より參會堂上方に會等逐日內外多事打過申候從此も折々以書中も不申入候御物遠打過申候御令息善藏殿にも御學問御精硏と察入申候去冬は嚴寒倍于常年候例寒にも甚御座候御持病の癥喘も御起り不被成候哉と御噂申出候橋本典膳殿方も定而使へ御聞被成候や富王女の御事去秋產女子產後急症にて被果候扨も可惜事御聞候はゞ御驚可被成候手前むすめ八百琴稽古も好師を失ひ悲歎仕候世變難計事苦御座候倅も無事學問勉め申候娘八百も富王殿より大ゆるし三曲迄被敎候形見に不懈口申候愚妻も宜御心得可申進旨申候心事期不日萬緖可申承候恐惶謹言

三月十一日　松岡玄達

成章

志賀武兵衞樣御下

登廳講談之聞書本田新右衞門口方被成置候本數册孫次郞方へ有之由可借見事

尙以御兩親樣はじめ御方樣方へ能御心得可被下賴存候

伊十院半兵衞殿任御下り一筆致啓達候倍御無事に御懃仕之由珍重に存候私儀無事に相懃申事に候定而御咄も每々可被成と存候於此方も頃日稽古之衆十二三人も有之候最早年寄諸事不罷成に付御斷重

重申入候得共不得達無是非咄申候貴樣御儀も二才衆せつき申候哉一段に候儀候隨分御指南可被成候人を取立不申候へば我德言御座候他之心得を以我心實を能知かく不申候へば工夫も出不申候間左樣に御心得專用に存候於此地は半分は弓半分は柳弓何分一は學文其外は一盃に而ふら〳〵と光陰を送り被申候竹內傳兵衞殿月に六度宛中庸をよみ被申長谷場伊角殿宅に而近思錄よみ申候中々面白御座候貴樣御儀を其時節々々に存出申候御なつかしき御事に候來春高輪御やしき是非々々御懇望にて上洛可被成候、必々待可申候我等も詣越之儀其元迄申越候何とぞ被仰上御上洛待入申候御油斷有間敷候委細は久木田喜左衞門殿へ申談遣候間可被聞召候恐惶謹言

十月二十一日　伊勢松浦

貞〔花押〕

崎元休右衞門樣

貞享三四月早世其已前ならん

追而申入候同氏權次郎へ手拔之御指南賴存候其外諸事思召寄御舟賴存候以上

不拜面者兩三日頗如阻三秋久雨濛々不得開戶憐察本佛寺瘧氣未去比五三日之前減其過半朝粥午飯亦無進日々氣疲體疲何日平復如本乎待公之問病而已伏乞昭察頓首再拜

六月二十三日　玄　昌〔花押〕

〆藤崎公綱公机　大龍寺

玄　昌

口切なし

く此狀詞部躰に候間此わき〔訣〕和尙樣へ狀進上可申候間可然樣に御取合可被下候申までなく候へ共成ほど御心掛萬事御たづね有之事は不殘樣今度御申被成來春御下國可被成候我々いづれものためにて候

一そうとう本そく爰元に而伊藤など前々よりあつかわれ候、かく〔學〕を和尙へ御たづね成ほどひしくづし被成四人へ御狀可被下候新右前々がく〔學〕しき〔識〕なをりかね申候爲御心得に候　本田親貞ナルベシ森有長ト倶共居語ヲ攻學ナリ

一爰元しんせつの衆浦川あたりの衆は今分に而候はばとゝき申事も御座候はんさて源介殿彌しせつに候大特殿彌に而候其外此いな物かと存候左口はすなのものりつ華にたましをとられ候樣大方かいせいかと見得申候前の十分一も咄被申衆なく候了無一人はよ人にかわり彌つとめらるゝと見得申候爰元に而の咄者二を了無へ間もなく出合し重而細

細可申候まづ〳〵申のこし候恐惶謹言

八月二十一日　　有　長〔花押〕

森　嘉右衞門

竹内助市樣上る

輓薦嶋津甲斐居士

生死去來一夢場　心空何處不二家鄕一

敎他掉臂驀歸去　脚下現成寶閣樓

示二諭甲斐居士諸春族一

起念自他論二各域一　空心生死一如レ同

試將心念切推究　悲喜何曾在二此中一

貞享二乙丑仲秋十七日

紫雲鐵牛山僧書二於維摩堂一

竹内助一傳に入べし

州南加世田大浦有二農夫一、兄弟事レ母至孝也、予記レ所二親聞一成二一律一、摠是實語聊非二空文一

可レ憐南畝兩農民　孝友生知不レ問レ人

幸出二同胞一得二同心一　惜留二慈母一少二慈親一

弟兄代寢左兼右　定省何須昏與レ晨

迎送設レ途休息所　往來宜二夏納涼辰一

炎天扇レ枕共二勞力一　冬日溫レ衾自以レ身

行負背間悲二體瘦一　臥爬痒處恐二膚皺一

家將數口雖レ無レ飽　米具長腰如レ不レ貧

二子風流猶有レ語　但從二父訓一未レ爲レ仁

元祿壬申臘月中浣　無名氏謹識

韓公曰木之就二規矩一、在二梓匠輪輿一、人之能爲レ人、由二內有二詩書一、是不レ可レ誣、爰有二浦川適子一、穎利之少年也、平生志レ學孜々焉、今玆題二端午一、風興所レ賦詩一章、詞藻宏麗、而粗有二老成之典一、公者所謂知人之爲レ人、由レ有二詩書一者後生可レ畏レ予也、自二公之幼齡一締二師資之約一、敎雖レ不レ嚴見二勞力之有一レ成、欣々然仍和二其韻末一寄二玉机下一、且以二古人語一、告曰、學譬如レ爲レ山、未レ成二一簣一止吾止也、又如二平地一雖レ覆二一簣一進吾往也、守二此語一夙興夜寐、務以不レ怠、拔俗之君子、豈在レ他乎哉、

軒渠　　大龍寺三代也　一溪叟

後來可レ畏學二芳聲一　始見華篇詞藻淸

努力郊墟燈火讀　爲レ山簣止勿二陵平一

漢學紀源卷四終

漢學紀源卷五（附錄）

桂庵禪師碑銘昌平學教官一齋佐藤先生撰文建方一件

天保辛丑六月寫
去秋、伊集院氏高輪詰出立ニ付、林家用人佐藤一齋方へ桂菴和尙碑銘幷同像之畫讃、且延德板大學之跋文等賴、認方賴含外に拙者相糺書述置、漢學紀源、又は家法和點論語寫本等、爲ニ考證ノ添遣置候、一件成書寫、

伊地知季安題

新春之御佳帖被下辱致拜見候云々扨も佐藤へ逢得候儀大延引去る廿五日罷出候間得と咄いたし候處桂菴は勿論文之方へも不存體に付鹿兒府板之古本家點傳記等細々申候處扨々夫は初而承候どふぞ拜見いたし度被申候間もたせ進せ可申と申候處どふぞ早遣吳候樣被申候其翌日遣筈候處一里計も隔り居候林家不案（●內熟カ）之家來下人遣候儀不相叶御人を遣候考候處御人支今兩日は不相調候いづれ明後日より先き持せ遣可申御秘藏古本手を放候儀如何之至候得共此御邸に而者見被申透無之夫故一通り見被申候はヽ則差返被申候樣取計可申候御人は差かぎり候人數殊更明日は土佐の御世子佐竹樣丹羽樣戶田樣都合御七方之御客樣少將樣にも被爲入筈にて彼是御用多に而誠せわしき事に御座候碑讃等之儀者未申達候先一通り傳記被見候上又近々被罷出候折氣先を伺賴入可申候

外略す

閏三月　　　　　　兼誼　拜

季安先生机下

一筆致啓上候云々　一出立之砌致承知候桂庵和尙一件去月末佐藤罷出候付直話いたし候儀候先便申上候通に而其後取揃遣候處別紙之通返詞參候間入御覽候其後之御式日には手代り之人川田某罷出候夫より公邊御事付右樣之事御取止相成罷出不申故直談不相調候大學幷家點二冊は取返候市來宗之亟來る九日出立いたし候間其便御返し申上考御座候彼是之事にて延延相成嘸々御待遠筈何共御氣之毒奉押計候御宥恕奉仰候

右旁申上度如此御座候恐惶謹言

二月三日　　　伊集院喜左衞門兼誼判

伊地知小十郎樣人々御中

伊集院喜左衞門樣御請　佐藤捨藏

貴簡被投辱奉拜覽候先以雪後春寒甚御座候處益御康寧被成御起居拜賀無量奉存候然ば過日は始得拜範欣幸之至奉存候其節御話之宋學傳來以貴藩爲始之趣是迄承及無之候處桂庵師由來等之品拜見被仰付辱次第奉存候何分篤と拜覽可仕に付暫留置左樣御聽濟被下度候　延德板大學一　論語寫本一　桂庵家點二　漢學紀源四　桂師畫像　右之通慥御預申候相濟次第返完可仕候唯今外出かけ罷在草々却酬のみ申上候尙其內拜範萬奉謝之心得に御坐候以上

閏月七日

尙御服紗には御入用にも可有之直御返し申候以上

一翰呈上宜時候猶更御堅勝可被成御座珍重奉存候先便申上候延德板大學其外取束佐藤方へ遣置候處門人淸水準藏と申二才以而家點二册畫像一幅被相返大學論語紀源は別而珍敷候間大學と紀源は寫置度今暫致借用置度別紙之通以手紙も口達を以も被申遣一幅二册は受取慥擁護いたし置候左候而準藏より大學は誠誠珍敷物に候間寫取其趣を記置度候間貴所樣御身柄等ケ條を以尋候間左之通書付を以答置申候

伊地知小十郎

一家格は小番と申候而騎馬組御坐候尤目見以上

一當分勤方無之

一祿三百石御座候

一伊地知は秩父氏之嫡流に而足利尊氏卿之代島津五代目之時故有て薩藩へ來り仕へ代々家老等も勤支家迄も相勤候ものも有之左衞門と申も小十郞共々支流に而小十郞は左衞門子孫に而は無之候伊地知一統五百年餘罷在候故右之俺流繁茂いたし居候

右之通書付渡置申候左候而私より取傳候間實名聞度尤記候ても不苦哉之旨申候間差支無之旨答實名書付遣置候準藏より宋朝學加樣に御國より始候儀初而承別而珍敷候桂庵學流當分も殘居候哉申候間學文は大道を明らめ得候迄之事故別に口傳類之事もなく當時專修行候學文は則桂庵之道脈に而候紀源之末册には其筋綴立置候段申候又申は貴所樣には何方そ御遊學等御出御稽古等被成候哉當時學校御勤に而も候哉と尋候間士幷之番を相勤學館には不相勤候尤御當地其外遊學等出爲申事もなく國元に而志有て執行いた

し居候段答置申候右外申上程之咄も無之に付桂庵墳墓有之死去年月等は記付候石塔建居候得共宋學傳來候勳功此度相分り又往々草刱之中相成又誰も勳功知人も無之可相成は案中之故先生へ碑石之文御賴申度延德板之大學其證書にて先生も御めづらしがり被寫置候上は其事を御記置可被成との趣に付而は右之一冊にも御文御添置被下候儀は相叶間敷哉當分さへ又なく祕藏いたし居候間當世高名之先生も御賞美被下候段別而忝獨家寶に可致就而は畫像に林家之御讃を先生之御世話を以御賴込御出來被下儀は相叶間敷哉小十郎固より懇願に付以參御賴申上含候得共志程致承達候間咄置可申との事に而候尤準藏咄に捨藏之程咄置候間よき折先生へ申給候樣申候處委曲含之より林家へは珍敷物相見得候段申候へば夫は必見度望被申候得共未遣たるやうには無之と覺候段申候右碑文等之義に付ては是非御賴申上含は是迄草刱之中を拔き此度當世之高名なる先生之御碑文御調被下候はゞ存生之精靈有之物候はゞ桂菴も嘸々うれしがり可被申などゝ無口能受合候やうにとすかし立置候其後諒闇中互往來無之に付程合不相分候當分は遮而之御用等の外は被禁置候間今少先寄候はゞ此方へ可被參無左候はゞ差越相賴考御坐候猶追々成行可申上候當時御停止中云々

二月廿九日　　伊集院喜左衛門

伊地知小十郎樣人々御中

伊集院喜左衛門樣御親覽　　佐藤捨藏

一簡拜啓仕候追日春暖相成候處愈御安寧被成御起居恭賀被存候然ば先達而は延德板大學其外五種御示被下辱仕合早速返完可仕之處珍敷御品に候間大學は其通爲寫置申度漢學紀源も至極詳審なる事に而得益不少奉存候就而は是も爲寫可申哉今暫留置申度候其內桂庵師家點刻本寫本一冊畫像一幅は返上仕候論語寫本は先に拜借置申候左樣御承知被下度候將亦門人清水準藏と申候もの當時手前へ寄宿罷在候此者を指出し候間御逢被下候樣仕度候伊地知氏などの事に付不分明の義同人より爲相伺候樣仕度何卒御逢被下御敎示奉願候右等草牒如是御座候餘其內拜顏萬可申上候不一

二月十五日

尙以此節柄之儀御例會も今暫御見合と奉推察候就

而は拜顏遲く可申に付準藏指上申候何分宜御賴申
上候以上
桂庵和尙畫像　一幅　同　家法點　一册
同　慶長寫本　一册
右返完仕候
延德板大學　一本　論語寫本　一本
漢學紀源　四本
右留置申候　以上丑四月三日相屆四日飛脚に答禮申遣也
間之飛脚立に付寸楮致啓上候薄暑御座候得共彌御
堅勝奉珍重候佐藤此御邸へ參候儀御停止中御停講に
付佐藤參候砌は居り合不申共後川田八之助罷出候
川田は弟子聟に而同居有之樣承候　餘延々罷成候間先日佐藤へ差越候處
幸居合及面談紀源は扨々よくも加樣に御糺得られし
との褒詞に付鄙文不綴之所も有之候半定而御推讀爲
被下筈候御老寄之所も候はゞ直御直し付被下度申
候得ば加樣之物は被糺得候御方之御書面なりに而宜
物と隨分宜御文面之旨被申候延德板之大學誠珍敷希
ば板に彫せ度候得共どふぞ今一本出候はゞ被下度板
彫せ候儀は此方取計可申何卒願候との事に候餘珍數
故惣而寫度候得共不相叶候に付跡先一枚ヅヽ加樣に
手づから寫置候由にて見せ被申候跡先一枚宛は薄や
う紙に字形ウツロに取候墨を込被申やう相見得蟲喰
など迄も細にうつし右に間々異同之所迄を被書拔
候左候而咄に林家も別而珍賞被申寫調聖堂へ納置被
申度との事故當分彼方へ遣置候どふぞ今暫借置くれ
候やう被申候桂悟へ陽明より被贈候詩之直書伊勢
之祠官持合居見候事有之眞僞うたがひ居候處紀源に
て感心いたし候抔と被申候大學跋書碑銘紀源之序文
申入候處大學はもはや認置候是に而如何可有之哉と
出し見せ被申候我々式何共申兼候可宜とおのづから
大學御返し被下候時御添遣可被下候得共御弟子衆之
內へ御寫させ給度左候はゞ嘸々忝獨猶更家寶可致と
則答いたし置候碑銘紀源序之儀も先書見可見との返
詞に而候像讚之儀林家へ賴給度申入候處賴候儀は隨
分可致候得共御用多候故三四ヶ年中相調候儀無覺
束殊に聖賢とか僧か又は義家類之御人は公義へ禪り
讚詞は不調候筋極り居候旨咄に而候自分には何も僧
像迚も六ヶ敷申事は無之旨被申候間是又賴入置候鎌
田家之陽明石刻之御見寫一枚ヶ樣之品國元へ有之と
眞僞之程如何可有之哉と見せ申候處如何樣無疑物に

候半どふぞ一枚御寫被下度分而願申段御申越給度餘程賞美之もやうに而再重申候大形不遠可屆候間則遣可申と申置候夫より少々咄および五代氏都之城之何某が噂など被致四方山之事に而暫時罷在候而立歸候次第に候碑文畫讚序跋出來次第差上可申陽明へ桂悟より之一帖大學之跋文近便寫差上可申候右之一帖之內少々異同有之由之咄も被致候扨御石摺本去る七日被相屆候八日に右之川田罷出候間陽明之板屆候間近日中もたせ遣べき旨咄候處山々いそぎ見度と申居候間渡くれ候やう申候間賴遣申候光跋文御影無之故先比被遣置候御見寫も添遣申候御朱書之御文面之內光久公御號又は鎌田氏名前も御座候間其譯年間等も相認遣申候大形當月末より右之寫等差上可申候御待可被成候御用封も首に掛被返飛脚故誠一筆啓上いたし候

五月十日　伊集院喜左衞門

伊地知小十郎樣

碑文には誰人發志にて興立いたし候人々名前記し付度被申候間右樣之事不及藩中宋學嗜候者は皆殘り不申同志之節御座候間紀源見得候通之學流被相傳德行旁桂庵之事にかゝり候分御記し給候樣にと申置候事

一陽明之石摺さぞ〳〵悅被申候半其後便り未無御座候私にもどふぞ奉希候

一此間蘆谷僧が書拔遣候由之一枚御考之通粗姓名承り居物知がほに綴立候筋相見得しらざるをしらずとする之古句にさぞ心には耻乍申書立候半

一陽明は餘程賞翫のもやう御座候書齋之六枚屛風石摺張付有之筆力不健候眞物か疑敷見およひ居候

一跋序碑等早出來候樣追々程よく催促可致候油斷不仕候

一差遣候書狀私方迄御出御尋候處八右衞門失念之由云々畧す

一公邊何かむつかしきもやう成立御役替御免など有之もやういろ〳〵と實正ふすまと代之代りと氣候之代りは初秋は大風初冬はしけ春は雨いづれ平穩にはなき物かと存申候

右細書五寸半切長さ壹尺にもたらざる寸楮兩面に書込至極之微細にして見分け兼候間寫置丑六

月十三日相屆也

兼　誼　拜

季安君玉机下

一筆致啓上候春中晴雨に續乍然此地格別之降も無之漸々と晴立候へば希世之暑此一七日計皆人大息を突居候其御地嘸々奉推計候雖然彌御淸寧被成御座ます〳〵御稽古いろ〳〵御探得之御事共可有之是則御國家へ御忠精之御事萬々奉祝候佐藤方へ寫之跋文別紙之通之由寫調差上候陽明御石摺便を以遣置先日入來面談別而御芳情忝永秘藏可致厚御禮申上呉候樣被申候陽明之眞筆伊勢之社人持合候を直僞不相分候處貴樣之御蔭を以安心いたし眞書はウツロとやら寫置れ候得共當年輩に而は及手かね手本にして習候儀も有之候間不束ながら字形は其儘自筆相調石摺之御禮進上いたし候間私より厚御禮も申上右成行も申上呉よと被相賴候間差上候畫之讃詞も草稿いだし存寄もやと被遣候間存分無之候間書調給候やうにと賴置申候出來次第便宜差下可申草稿は差上候

一大學之寫候に跋文別紙之通御座候延德板にも跋文賴出來候はゞ表裝いたし盡差下可申候

外二ヶ條不寫于此右六月二日立歟同廿七日達候

喜左衞門樣　　捨　藏

一簡奉拜啓候梅霖愈御淸穆被成御興居奉抃賀候然ば過日は御寵臨被下辱奉存候其節御賴之艸稿共出來指出し申候御國元御便之節御達可被下候桂菴師像讃も艸稿其內に有之候右は先比爲御見被下候畫讃艸稿に御座候先づ御目に掛申候今日幸便に付指上申上候尙拜範萬可申上候以上

五月十四日

題ニ延德板大學鈔本後一

鷹齋有ニ伊地知季安者一、往日寄ニ示其同族先輩左衞門尉重貞所レ刻大學章句一本一、曁ニ其所レ編漢學紀源一、以明其國爲ニ宋學首唱一、受而觀レ之、大學本文章句並大字、板樣古朴可レ敬、卷末記ニ文明辛丑重貞鋟梓一、延德壬子桂樹禪院再刊、案文明係ニ後土御門天皇年號一、實爲ニ東山義政盛時一、距レ今適三百六十餘年、因驚レ爲ニ本邦刻新註之嚆矢一也、及レ讀ニ漢學紀源一、則知ニ薩人寔肇傳ニ宋學一、遞相授受以至ニ於今一、其言皦々足ニ以取レ證矣、此本再刻爲ニ桂樹禪院一、而所謂桂樹卽釋桂菴字玄

樹是也、桂菴嘗航ニ明國ニ居七年、尊ニ信程朱之學ヲ、初其入レ洛也、董ニ席南禪寺ヲ、後去老ニ於薩ニ、時翔ニ桂樹禪院ニ、以教ニ授一方ヲ、詳載ニ於紀源中ニ、可ニ就攷ニ焉、由レ是觀レ之、本邦宋學之維興、雖レ在ニ惺窩羅山兩先生之時ニ、而其入ニ於我ニ之始、則尚夐在ニ於百有餘年前ニ、而薩殊爲ニ先鳴ニ也、但以ニ其僻ニ在南裔ニ、不レ如ニ京畿人文之盛ニ、其學雖ニ存而繼レ之者ニ、或乏ニ乎人ニ、遂亦如レ是之寥々也、獨至ニ於今之伊地知氏ニ、能紬ニ繹舊事ヲ、揭ニ標先賢ヲ、乃撰述以成レ編、不レ使ニ其至ニ於堙沒ニ、則豈可レ謂ニ國無ニ其人ニ哉、聞伊地知氏爲ニ薩之著姓ニ、余未レ識ニ其人ヲ、然其レ爲ニ重貞之同族ニ則顯然也、今遠見レ示ニ此本ヲ、其意豈徒然乎、因別影ニ鈔一通ヲ以存ニ始刻之式ヲ、幷錄ニ略於末ニ云、

天保辛丑春仲中澣十六日　愛日樓主坦識

大學文明初刻在ニ辛丑ニ、今年亦歲在ニ辛丑ニ、余今日作ニ此跋ヲ、偶檢ニ曆本ヲ、此日亦爲ニ辛丑ニ、奇哉復書、

桂菴禪師影贊

吾道一貫　無レ隱ニ乎爾ニ、身披ニ禪衣ヲ　心服ニ闕里ニ、洛派之漸寔自師始、桂樹欝葱剩馥遠被、　坦　草

「津藩齋藤謙有終所レ著、拙堂文話云、山田祠官正住隼人、家藏陽明送ニ日東正使了菴和尙歸ル國序一幅ヲ、余嘗往觀レ之、字畫穩秀、神采奕々、其爲ニ親筆ニ無レ可レ疑也、其文暢達、本集所レ逸、故全錄レ之曰、」

送ニ日東正使了菴和尙歸ル國序

此文長おし付寫薄やう紙二枚半也畧す末に

世之惡ニ奔競ヲ而厭ニ煩拏ヲ者多遯

餘姚王守仁書[印][印]

皇明正德八年歲在ニ癸酉五月既望ニ

今所（二字可疑恐有脫誤）按伊東東涯盍簪錄云、堆雲、五山禪侶、名桂悟、字了菴、嘗充ニ使者ヲ、入レ明、有ニ行程記ニ、邂逅王陽明、陽明作レ序贈レ之、東涯書ニ了菴ニ事如レ此、然唯曰ニ五山ニ、不レ詳レ爲ニ某寺住侶ニ、伴蒿蹊閑田耕筆、爲ニ東福寺僧ニ、異日當ニ更詳ニ」

眞蹟係ニ五瀨祠司正住隼人所ニ藏、往年摹勒、余護ニ其本ヲ、今茲麗藩伊地知氏刻レ文成レ跡、尋樂二大字、遠見レ寄ニ之於余ヲ、且索珍示ニ此序ヲ、余因漫臨摹、唯未レ如ニ拙醜何ニ耳

辛丑榴月中澣　江都藤坦識[印]

呈ニ一齋佐藤先生ニ書

七月三日麑藩騎士伊地知季安東向再拜、呈二書江都一齋佐藤先生足下一、近得二兼誼書一、辱蒙二先生所レ致德音一、且承下示其所レ稿大學鈔本跋幷桂菴影贊及傳、其見二手寫惠一王文成送二了菴一序摸本上、欣躍開緘、拜讀再三、卷舒不レ置、跋之立レ言、實過二鄙懷一、然當下籍二此文一永爲中來世之證據上、於二吾藩一幸孰大レ焉、讃詞高妙、蔽二一世一德、師其有レ靈、應下起二九原一以謝中先生上、至レ如二王蹟一、特所レ難レ獲、謹享二拱璧一、抑季安是遠方野人、雖レ未レ有レ緣、一奉二束修一以謁二門下一、幸既蒙恩之至如レ是、何可レ不下爲二謝書一以吐中露鄙情上、因頓首白、昔聞先生學精文巧、振二名於東都一者有レ年レ于レ此、嚮逍下五代秀堯荒川某等回レ自二東遊一、聞二其所レ語、願知下先生沈默蓄德非丙與二俗儒一可乙比論甲焉、而後又及乙假二愛日樓集一以讀レ之、愈信二其所レ聞皆稱レ實、而徒欽慕亦既久矣、於レ是乎會三知已兼誼如二江都一、幸三其嘗云至則間陪二先生講席一、乃托二諸渠一、使下渠齋中僕所二編輯一漢學紀源及延德板大學、桂菴畫像、或其所レ著家法點、若論語寫本等上、往請二先生一、願賜二覽觀一、證二此數書一以著二撰桂菴碑銘及像贊跋序之類一、自二渠發行一、惟日東向竢二先生諾否一、實如二三秋一、然而今忽蒙恩之至如レ是、則僕之歡喜、其譽二之何一、匪二獨啻僕一、藩中志士往往聞而莫レ不レ喜者一、繇レ是僕乃與二藩之教授市來改正以下二三師員一胥議、自レ今稍首起二其事一、豫將レ募二公族大夫士庶人諸崇信者一、戮力斫石、竢二先生文一、以鐫建二諸其墓側一、夫師之有レ功乎闡二宋學一、如レ彼其勉、而到二于今一、一碑尙闕、實人文之故也、伏請二垂憐一、不朽功德、何既知レ之、且聞、延德板既至由二先生薦一、蒙林公亦特見二珍賞一、將レ令三摸寫以藏二聖廟一、果其然、則藩士之喜、其亦謂二之何一、伏願先生爲レ跋亦惟錄二其實一、以見二還示一、永荷二鴻恩一、供二鄙藩之寶什一、又蒙二示跋一、及下僕與二重貞一事上、因亦粗白、家本秩父、出レ自二重忠兄太郎重光一、迨下曾孫時季徙二越前一據中有井筒城上、易二伊地知氏一、而仕二鎌府一、世爲二右筆一、其曾孫曰二彈正忠季隨一、得二罪尊氏一、藩侯貞久有レ請二寃拯一、故來二臣藩一、抱レ忠懷レ義、無レ路レ報レ恩、從二軍金隈一、戰死誼レ敵、脫二主氏久於鋒鋩中一、義詮賜レ書感二賞死節一、第四子民部季弘嗣、當二此時一同族別猶在二越前一、曰二左近將監一、以二康曆二年一亡二於越前一、見二室町記一、卽季隨從弟曰二親淸一者是也、季弘四男長季豐嗣、仕至二國老一、叔子重眞分族、亦稱二民部一、是爲二僕十三世祖一、而所謂重貞乃國老庶孫、於レ吾別祖實爲二姪

孫、別附系鈔、如賜一覽、幸甚、僕自少獨學、雖淺陋而拙於記述、僻性好古、逢事可稽、細繹研究、動不量力、漫綴蕪辭、至以招君子之誚、亦惟從吾所好、務探確說、未始顧毀譽得失集乎其間、故今欲裁書以謝先生、無如其鄙文何焉已、雖然先生辱覽紀源、旣所能知、曷竢僕言、於戲先生博愛、伏冀不以鄙拙棄却、如夫紀源亦施潤削、而序其事、以見還示、何貺如之、但嚮所致文成石刻、要在請先生承其監裁、故聊所勒、而謝辭懇到、賜以摸本、何以謝之、近又命男季直、摹勒題、亦出乎遠、固雖拙醜、不任清玩、續成前刻、故復拜進、更以賜覽幸甚、秋暑方酷、老體自愛、遂發期追匆々不盡、

彙誼書來、得審先生動履、殊慰傾想、且傳見返其讃、惠桂菴畫像一幅及家法點一本、謹領開緘、捧誦踴躍、如其貴稿、猶辱蒙示、旣感服其高妙、人競傳寫、莫不感吟、況今臨像、觀其所淨寫、一字一珠、龍蛇飛動、猶能使人想見師之沒齒所造精力於其畫像之上、後世當以是知宋學之爲首唱也、喜幸喜幸、世之只侈飼養者、其孰能之、有德者必有言云、誠其然哉、往歲僕聞先生德鳴東都、文振海內、私竊旣雖有所企慕、遠方隔絕、無因一謁候親承顏色、只恨天之不假緣焉已、今幸由彙誼爲之紹介、遂獲蒙讃惠、實似天良緣、以少遂鄙望、僕恒以謂苟得晉聞於時之賢者、以聞其道、則何樂易之、而今蒙幸於先生自讃及文成贊之貺貽、則豈可併不寶之乎、固欲加裝潢永貽諸子孫、先生烱諒幸甚、初僕少時讀藤樹書、始知有王氏、稍追聞有其傳習、若全集之類、假以讀之益覺其學、有少所進、然猶尊崇朱學焉、故著紀源而及桂菴事、師嘗使於明、肇傳宋學、其功雖偉而不彰、其德雖盛而不傳、於是乎僕雖非其人、采韓行實求時之名家、至以請碑文於先生、不然鄙心以爲不足彰傳其功德於天下後世、而彼桂悟則與師善、其航明也、文成與之論學、臨別送序、今申請師碑、偶得其摸本於先生、不亦奇緣乎、且夫先生手鈔、師所刻大學今茲乘仲爲題、其日與年校文明刻、皆値辛丑、爲奇書尾、僕以之語人鮮不嘆異、因按新註倭音同辛丑、若心中而文成桂悟等旣卒於各地、皆在三百餘年前、骨已朽矣、其相距也千有餘里、今僕之距先

生ニ亦四百有餘里、而倶生ニ乎數百歲之後一、亘ニ於數千里之遠一、蹟之與ニ乎隱顯一、彼此如レ是、則有ミ心中所ニ固合ニ而然乎、抑又有レ須而然乎、將有レ數乎可レ謂ニ大奇一矣、高明其爲ニ如何一、餘陳ニ前書一、雖レ然陋拙特臨ニ急使一、不レ知レ所レ裁、計ニ其日程一想當ニ相違一、匪ミ翅杜撰猥譏ニ文體一、恐亦以テミ冒失ニ敬辭一、伏請先生惟察ニ其意一、如ニ辭不レ成、詳賜ニ正敎一、猶レ誨ニ弟子一、何喜喩レ之、於レ今僕亦不レ得レ不レ裁レ書、獻レ贄以謝ニ高德一、乃托ニ黛誼一聊表ニ薄儀一、如レ陳ニ別楮一、只代拜趨耳、伏願ニ先生ニ哂而納レ之幸甚、秋冷將レ催、老體自愛、臨レ便草裁、萬熖諒レ焉、

八月五日　　薩伊季安子靜頓首再拜

謹與　一齋佐藤先生足下

當月三日之御禮去る廿五日届忝致拜見候先以御揃爾御安全珍重奉存候佐藤方より來書取合差上候處別て御啨有之御もやう御書面溢れ御挨拶被仰聞□至り大慶奉存候夫付細々被仰遣趣逐一致承知候御書牘も被遣且御好之儀共御座候付ては早速佐藤方へ差越申度候得共兩日跡林祭酒死去被レ致候付三五日は何事も不穩筈に付時宜見計又差越得と可賴入候先心緒旁申上置候差越候上は

一陽明之書寫被遣候御謝詞　一桂菴畫之讃詞之御禮

一延德板之大學へ序文中に林家寫相成候上聖堂へ被納置候て誠に冥加之事往年家寶にも相成候間其趣にしるし給候やうにとの事

一碑銘被請合候御挨拶夫に付ては薩藩教授市來政正以下師員共始伊地知季安申談公族士庶人に至り致尊信候者共心を合致建立候趣被書記候やうにとの事

一漢學紀源に序文被相調候はおのづから之事其時は册數追々御取立之筈候間其事も委敷可申述候まゝ册數等記不被申やう可申入候

一右桂菴畫讃詞は當月始出立いそぎ便差下候間當分比御請取之筈被存候

一碑銘に御建立に付ては教授も至極同意之由候得共史館之向何樣可有之哉かやう之義は至てやかましく被申出も承居候彼向御談合之上教授より被申出御発しを被得候方御丈夫之事と存候右樣之事はおのづから御手拔は無レ之筈候得共存付候間申上

候
一市來山田之跋書二通は御聞及之通引拔置表裝はいたし替差上口御座候近口佐藤方へ差越候折持參かやうに跋文有之趣にて鳥渡見せ置可申左候而いよいよ序文に調被申樣賴入可申候
一佐藤方へ唐人之書御送り可被成哉之趣至て可宜哉と奉存候間御遣置可被成候惣て出來候上差送可申尤右之外之品は此方へ在合等之內相添時宜相應取計心得御座候尤御謝品之儀は此方取計と存考も付置候其上に眞筆被遣候はゞ日之眞之入たるも同前至極可宜奉存候近日差越候折先貴樣よりと申候て唐扇子詩箋之類送り置央御音物之謝言程よく申述置可申候尤被遣候御書牘は下書を私迄遣相談申入候付不捨置持參候段直記之筋に申述候樣可致候
外三ヶ條略す
右は踈略の御報ながら如此御座候猶追て便細々可申上候恐惶謹言
七月廿九日　　兼　誼拜
季安老兄机下
石碑之石タンタトウ御用ひ被成候哉此石は風に雨に必ず磨滅いたし百年過候得ば字面不分明相成候福昌寺現在之候御國中にては何方之石性保よろしく御座候哉御吟味有御座度加治木石も磨滅も見得候得共タンタトウよりは鮮に切ゐと保候やう存候必石摘を被仰談度被存候差過候得共存付を申上候以上
七月廿九日
尙々寒冷相向申候間無御障樣御防第一奉存候以上
御細翰忝致拜見候御揃彌御安全珍重奉存候畫讃相屆候處御心に合私に至り大慶此事被存候且此度官香石摺唐扇子御煙草類入と紙包一つ無相違相屆申候畫讃御謝品之義は別紙申上通私へ御まかせ可被成候宜取計跡首尾可申上佐藤江之御書牘に別楮にと御認別而之都合存申候右之飛脚一昨々日夕方著候處一昨日は御能に付早天より罷出夜入罷歸漸く昨日右御品も受取申候間近日中御書牘幷御謝品被仕立もたせ遣可申候此間別紙之趣申込候間差越口達に而一通申述候上聞違ひ申違ひ或失念も有之事候間手扣書も渡候處致承知候との返詞有之御書牘は別而賞詞被申候儀共

別紙申上候通御座候折を以催促申入早出來上候樣取計可申いづれ又差越候儀も度々可有之候間碑文等は愛日樓集撰入有之候樣賴入可申儀はおのづから含居申候

外は略す

右は誠荒增ながら外にも無據用答有之候乍薄情御禮之御答迄如此御座候恐惶謹言

九月七日　　　　兼　誼拜

季安雅兄机下

一延德板之大學御寫相成候御跋文幷陽明先生眞跡之御寫御惠投被下候御禮且桂菴畫像御讃詞之御草稿拜見仕候僅之御字數に而一世之功被仰盡候御事感心も仕彼是御禮申上候

但畫像は跡達而差下候間不相屆中御座候最早屆嘸々難有頂戴爲仕筈と考居申候

一延德板之大學林家御寫相成聖堂へ御納に相成候はば外なき冥加之至御座候仍右之趣御序文に而も御書調被下候はゞ猶更後年之證書相成子孫永代珍藏可仕候間願越申候

一漢學紀源御一覽被下難有被存候御禮申上候是又御覽被下候趣御序文御調被下候へば別而難有被存候間奉願候

但漢學紀源册數は是迄之學脉傳紀も綴立候間大部相成申候

一桂菴墳墓之碑文御請合被下候御禮申上候夫付興立之發志は當時敎授相勤居候市來政正以下之師員共伊地知季安申談公族大夫士庶人致尊信候者共申談伊集院兼誼を以御賴申上候旨趣御座候

右之通書付申候而致持參直に相渡申候尤口達迄に而者ヶ條多一々申辨がたく又聞洩されし義も可有之其趣演述之上相渡爲申事候

一佐藤氏被遣候御尺牘相渡候處一通先一覽被致候付拙詞之文章御通じ兼之筈候宜御推讀可給旨申述候處御三昧によく御調有之餘り雅詞過候得ば存分意を遂かね候物と致感心候との事候

一碑文之儀彌相調可申夫に付字數多候得ば字樣小く相成道春之碑石さへ當分相成候へば磨滅勝にてよめ兼候たゞ字數少方調度存居候旨被申候間尤成事候左候て字樣大く深く彫板百年之後迄も磨滅なきやう取計可申旨答置申候夫に付咄に曰林家之此度

之碑文調候樣にとの事に而縫立候處子共方之內此事も入度彼事も入度と被申省候事不相叶三千餘字およひ込り入候との事候橋口彦助殿など此間見被申候由何樣の文章か見申度物候

一貴所樣より陽明之跋文迄も有之御石摺被遣相渡申候御尺牘幷石摺も御遣被下御厚志之至厚謝申上くれ候やう被申候尤大學之跋文幷陽明書之寫畫讃之下書被遣候御一禮之心に而唐扇子一箱唐筆一箱刻烟草御送被成候筋を以演述いたし差送申候厚御禮申呉候樣被申候

一畫讃御請取被成候由此度私へ御惠投被下候御品々等見計差遣可申候其通御心得可被下候延德板之大學序文漢學紀源之序碑文出來候上は御謝品之儀者御まかせ可被成候私方に而取計可申候必御心遣およひ不申候唐人書御持合も如何可被成哉之旨先達而被仰遣目之眞に相成可申必御遣可被成候

一市山之兩士之跋文も致持參加樣に調置候間可相成ば序文御調給度申入彼方へ渡置候蘆谷沙門之書拔事實に合不申候間桂菴傳中に辨申筈候先入一覽候趣申述候處得と見候而彼傳中にはさみ置可申旨被申候

一陽明之御摺本一通は自儘に致拜受候則裏打致秘藏候御禮申上候

先度申上候御贈品之內刻煙草と申行は認損候琉球製印籠一つに而御座候其通御承知可被下候煙草は私よりの贈品いたし申候事候

九月廿六日記

一唐扇子　一箱　一唐石刻書　二枚

一唐墨　一箱　一毛せん　一枚

一大官香　一包

右之通差遣申候御遣品之內唐朱墨彼方可被致重寶候得共朱と云品者當時柄もしやの儀も難計扣置申候御煙草も先御預り同樣格護仕置候事

九月廿六日記之

但毛せん持合候內より品替いたし候

御細書忝致拜見候御揃彌御安靜被成御座奉珍重候桂菴禪師畫之讃詞相屆候由にて細々御謝詞被仰遣且御謝品も被遣兵書銘御尋之儀も被仰遣且御尺牘取揃私よりも貴所樣至て御うれしがりの趣等相込以手紙申遣候然處他出跡其後此御殿へ被召出候折いろ／＼何

よりの御品被贈下殊更御書牘之趣過當之趣有之近比恐入忝存候私より厚御禮申上呉候樣にとの事候且平山行藏は兵書之儀等別紙聞書いたし被遣御品之義も細々申上候

一桂菴禪師傳記御再撰被遣昨日持せ遣候處留主にて請取書持歸候歸宅則見せ被申候半存候陳元贇一枚扣置候而便宜故貴所樣よりと申候而烟草十包遣置申候尤寫本にて舊家之書庫之底よりさがし出候位故追々補正いたし此度差越申候未定之義御賴申上候筋相當恐入候得共右次第に候間御勘辨給候樣にとの趣も申遣置申候

一中將樣初夏より之御違例御長々の事にて御疲勞御増不輕御樣體にて足之踏所も覺不申候間不能細々用答已申上候　右恐惶謹言

十月二日　　彜　誼

季君　玉机下

九月廿九日咄

武 機 提 錄

歷代武機提錄は陽明著述之筋に而三冊程

但往昔之軍之勝敗を記し其註之やうに此條は孫子の何の語に當れりと書付有之常の注解とは相替候

皇朝武機提錄十三冊程有之後人の著述

右公義人長沼流之兵者平山行藏帳中深秘して存生中他に一切不差出仍て平山が兵書を講ずるや文義に不拂說も有之たる事と死後右之悴より借得熟覽いたし候處文章等かねて之體とは相替居候間后人之陽明之名を借著したる物と見及候由咄なり有少書物にて長州萩は御持合かと存候よしも咄被致候五代氏大かた右平山は懇意かと存候其人より咄共聞被申候半との趣に候返々も僞書と見及候由咄なり

一右次第候處

大慈院樣御尊柩御下向に付彜誼老御供之便より左之通被爲贈越候由に而相屆候上封包紙

佐藤捨藏殿より伊地知小十郎殿へ被遣候品

贈物謝詞　大學押付寫先林家口好當時混雜中〔七八字程蟲損〕碑銘は早出來可申候紀源之分は些申分も有之との事

唐紙一束　紬島一反　金子三百疋差送候事

右惣體御書撰被下候上御謝禮差送呉候樣に預り置

候得共此節不時罷下に付前以差上置旨にて遣置被吳候よし兼誼老口述聞置尤彼方持合を爲被遣との事也

文明中、有二桂菴禪師者一、崇二信宋學一、當時薩人伊地知左衛門尉、受二學於禪師一、始栞二大學章句一、寔本邦刻新註之嚆矢也、歷レ年已久、再刻本亦爲罕遘、曩者伊地知季安、偶獲二此本一、介レ人寄二示之余一、余又轉二示司成林公一、公奇レ之命二摹搨收一二於學舘一、今還二原本一、因幷及レ此、俾二之永珍襲一云、

天保辛丑天開月下澣　江都佐藤坦手識〔佐藤坦印〕〔一齋居士〕

包紙
石榻　二種　坦　拜

一種は王文成矯亭說にて陽明王守仁識と有し石摺也
大立物に卽裱裝之
一種は柳葉書法元僧中峯墨蹟は了
　天保十年水藩に而石榻にせしもの也
一筆拜呈仕候御出立後委細御左右承不申候得共中途無御恙御著被遊于今御機嫌能被遊御座候半恐悅至極奉存上候云々
一御出立後何も珍事無御座候得共佐藤一齋先生御旗本に被召出貳百俵被仰付聖堂添役に被相成近日中昌平舘へ引移有之筈御座候
一古賀先生は當月十六日公方樣より御用に付御出有之候處布衣之位幷百俵之御加增被仰付候且先生御嫡子も百俵之御加增有之由御座候誠に門人中大悅之至御座候
一浪人其外諸國之儒者も貳三人御召出し有之由粗其噂にて御座候就而者日に增學問大流行に而末賴母敷御座候古語に士を蓬戶に取り才を岩穴に拔と申事御座候只今の御代をも可申歟先は善政の行る一端に而御座候先此旨御安否爲可奉窺荒々如此御座候猶期來年陽春之時候頓首再拜

丑十二月十九日　河添甚之亟再拜

伊集院喜左衛門樣執事　行先

自二伊兼誼西一備聞二先生道德籍甚一、兼受二其手跋大學古本及所レ惠矯亭說石摺等一、尋觀下河添生寄二兼誼一書上又審、方今大君聖明、禁二抑奢侈一、以革二時弊一、挽二回享寬之治一、乃文乃武、政敎日新、而擇二材於山林一、拔二士於巖穴一、乃我先生亦既擢二朝士一、副二昌平學一、門徒益盛倍二蓰於疇昔一、天下之學士、聞レ風興起、咸欣々然莫下各

不祗彌者、僕雖鄙愚、匪翅聞之、踴躍欣慕遙慰
傾渴、爾來無日不思、裁書以謝恩惠、且賀顯達
也、然不幸而會藩之有大喪、兼誼父子亦西、則不徒
紛擾、無遑裁之無、亦緣乎、是諸先生左右、是僕
所以久失禮於左右也、抑僕之於先生也、得以
奇緣叨蒙不棄恩幸實厚矣、而於今則音問缺、然至
經數月、先生其謂之何、顧念焦胸無辭遁罪、伏
請海恕、今復幸會藩士松山某剃髮祿士號隆阿彌往上芝邸、
渠掌茶事、崇信王氏學、與僕來往、所相與慕先
生之高德、欲親承尊敎、眞悟本然良知於吾胸裏、以
切實進步者也、當必偷閑走謁門下、先生博愛、辱
接引之、渠須實問、得以警發有所著力、若其然、
則不但渠獨喜於其心、野人如僕、以未嘗承顏接
辭爲恨者久、則竊得賴渠聞其德音、亦惟喜之、實
不以異於躬自造謁、伏願先生許容幸甚、跋文石摺既
悉謹領、皆如來敎、就中跋之所言寔適鄙懷、令夫
古本特增聲價、感恩鏤骨、至喜不寐、若夫王蹟所
未嘗覩、乃既裱裝、併爲家寶、永其珍襲、實如貴文、
而於王蹟、時懸壁間、仰以讀之、如文成之爲人亦
可觀於欣慕中、願至以有所提醒焉。何賜如之、

何賜如之、其請所欲謝且賀、皆托松山、在煩渠
舌、烱諒幸甚、秋爽稍催、尊體自愛、臨渠告別、匆卒
把筆、鄙情不盡、

八月八日　西薩伊季安頓首再拜

謹與　一齋佐藤先生執事

附言

一前年所使兼誼請於先生、桂菴碑文、未脫稿否、
聞諸伊氏之子、先生之別渠也有言、曰、徙居前
後、特羈紛擾、未遑搆思、然稍就閑、將以起
艸、僕聞而謂、尋値盛暑、恐當老體復難屬文、
故慮松山到日必在秋冬、又使渠候節以申前
請、僕等自竊辱聞尊諾、東向遙拜、無日不竢、伏
願、先生憐察鄙情、力老起稿幸甚、且如紀源、陋
拙杜撰、雖固不足示先生等、乞之潤色、只願若
得少加補正、以見還賜、何幸如之、伏乞垂憐、

一今也弊藩會中山王遣賀慶使舍於府館、將以
近日從駕發行、念當入貢江都亦不甚遠、聞諸琉
人、正使善書、頗有材學、多蓄奇編、於其從隊
亦有書家數名、而鄭元偉最見稱云、乃嘉訓男也、
故乞其書二通、聊獻左右、姓名別具、若賜覽觀、

以供二清玩一、幸甚、

伊集院喜左衛門様　　佐藤拾藏

用書外に包物一

一簡拜啓爾後御疎音打過候秋冷無程新霜と相成可申候處愈御安裕可被成御起居恭悅奉存候次拙老無異御放意被下度候然ば兼々伊地知君より御頼之桂菴師碑文段々延緩及於今日候拙事も客冬より身分替り望外之仕合扨々老境不堪事悉候不少候右之次第にて精々之御頼も誠に草々之作文尊意に滿申間敷候得共指出申候間伊地知子へ御屆被下度候若し貴意に不應候事は其文御蹟損有之候ても不苦候遠方之事故往復手間取可申候付御都手次第に可被成候行草略書に候間碑面之所貴國能書之仁或琉球能書之人になりとも御認直し碑文御仕立可被成候此方より上げ候は草稿之積に御座候書法等能々巧者之人へ御相談之上具體に御取立可被成候將亦漢學紀源久々留置辱存候寫し可申と去年より含居候處へ前文之身分一變にて誠に事多に相成其所へ及不申候何卒御出來之上にて一部御寫せ御惠被下候事は相成間敷哉先々今便返完仕候間一と先伊地知子へ御返し被下度候扨又琉球國世々之略此節入用之事有之候別冊指出し申候御覧分け被下候へば相分り申候事本文此王之次より今日迄之名字手數等承知致し度候少し急ぎ候間指出し候舊文之例に傚ひ御書續き御頼申候御便之序に少しも早き方尤妙に御座候乍御六ヶ敷御吟味所希に御座候又江戸表迄相屆候ても爰許にて遲滯之事も可有之哉に付沈滯無之樣御頼申候右等草々布字如是御座候餘期後鴻可申整候不能一々

八月廿二日認　　坦　拜

喜左衛門様

桂菴禪師碑銘稿

桂菴禪師碑銘

室町氏之季、文學掃レ地、縉紳博士遞世衰替、而浮屠氏專秉二文柄一、是以二遣明之使一、率在二五山僧徒一、且當時博士家嚴二守漢註一、不レ許三濫用二新說一、則世欲レ講二程朱之學一者、必遁二入緇流一究二其蘊一、而儒二其學一者往々而有レ之、在昔薩摩國有二一禪師一、曰二桂菴一、字玄樹號二島陰一、本貫周防山口郡人、不レ詳二俗族一、童丱往二洛龍山一、從二雙桂和尙一受二內外學一、嘉吉二年師齡十六、削髮登二戒壇一、儒レ學則篤信二宋說一、又能二文詩一、應仁紀元師中

選使明國、入見憲宗、宴賚頗渥、居凡七年、遊蘇杭間、親從鉅儒、攻朱子經學、尤邃書蔡氏傳、其於詩章、則與彼土文士相頡頏、每一詞出、藝林傳誦、稱其有盛唐之風、文明五年歸報使事、當是時京師兵燹騷擾、不能譚學、於是暫避跡石州、亡幾又赴西州、是時東肥菊府新置黌館、崇儒學、師往而客之、既而薩摩國龍雲玉洞禪師、置其國老數輩、薦師於國主公、公乃厚聘請師、師遂來薩摩、始謁公於市來、公一見服其雅量、特加敬禮、乃命捌一寺於麗府、住師於此、因號其寺曰島陰院、曰桂樹、師又與國老伊地知周防守重貞善、因胥議始刊大學章句、實皇國印行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射圃阪地、初寺瀕海岸、善爲風潮所隳所至是更地稱呼如故、十月奉命適日州飫肥、董安國席、先是明商賈船多舶飫肥、公遣族人忠廉鎭其土、使師參掌簡牘、自後數往數還、至明應九年欽奉欽帖主建仁寺、尋轉南禪寺、居週期、辭歸於薩、著一書辨經註漢宋之同異、又以國字解朱註例、定國讀式、既乃築方丈於伊敷郡、名曰東歸菴、薦弟子釣雪使之代董安國席、而自老於菴、以文龜五年六月之望、溘然示寂於東歸菴、壽八十二、掩骸於菴地、曩者薩藩士、伊地知小十郎季安、遠寄其所著禪師傳、且謂桂菴雖浮屠、而於吾藩、則爲儒學之宗矣、星霜已久、人莫能知其由、因與同志者相謀、將勠力樹一碑、以傳其跡、碑記之筆、敢以爲請、顧余不文、固宜辭而詞意懇欵、遠方辱屬、不容峻拒、乃漫撮其一二經緯之、余嘗爲禪師像贊、今復書之、於此以代銘曰、

吾道一貫　無隱乎爾　身披禪衣　心服闕里
洛派東漸　寔自師始　心月千古　桂影遠被

天保十三年歳次壬寅七月下澣

昌平學教官　佐藤坦撰文

八月廿二日先生御認伊集院喜左衛門江爲被下尊翰幷奉願上候桂菴碑文等此節難有御撰稿被成下飛脚著之折柄喜左衛門事城下より西南七里餘伊作と申所之溫泉江差越居都而彼方へ相屆則喜左衛門にも難有拜誦仕塞に宜敷御綴立被下至極感服仕候旨右之旅先より昨廿八日私方へ轉遣私事當月六日より小熱等敷相煩病臥之體罷在候得共飛立計難有直に拜讀仕候先以先

生益御康健被遊御座恐悦御儀奉存候碑文之儀は多年之宿望御座候處誠に簡潔無洩目御精選被成下頓と願心成就仕何共可奉謝辭も無之樣御座候依之今日便より何ぞ輕品右御草稿無相違拜領仕候御禮之印迄進上仕度山々奉存候得共喜左衛門は不罷歸私には病中旁不都合に御座候故重疊乍憚此段先御答禮爲可申上忰共江代筆爲仕御手前樣迄如斯御座候猶細事は喜左衛門申談十月末頃より可奉得尊意候其內可然樣御執成奉願候恐惶謹言

九月廿九日　伊地知小十郎　季安（花押）

捨藏樣御用人中樣

追啓差上置候漢學紀源等御取揃御返却被成下無相違拜掌仕候將亦御草稿之內桂菴遷化文龜五年と被遊候得共是は永正五年にて御座候其御方樣御文集も御改置被下度乍卒爾此段も願上候旨宜敷奉願候已上

別冊之通近代之中山王即位并死去年月等書續き早々爲差登具候樣佐藤先生より伊集院喜左衛門殿方迄被爲賴越當分伊作湯治に付私より可成は相紏書入致進上候樣喜左衛門殿より昨日被頼遣即手を付申候得共今日之飛脚便難逢間に誠に殘多次第に御座候右に付今般王子用達に而被致出座候田原直助殿方へ私彙而書集置候南聘紀考と申を遣置候間右三冊之內へは大概尙穆王已來之事も書置たる樣覺罷在候間此狀相達次第直助殿へ御口合若被持登居候はゝ別冊に直御書込早々先生方へ一刻も早く御屆被下度差急候儀分而賴來候付此旨乍御勞煩宜敷樣御賴申上候已上

九月廿九日　伊地知小十郎

松山隆阿彌殿

右之通被賴越候處紏方間に逢兼殘心考候處新納矢太右衛門殿見舞にて琉館へ手寄有之可紏具と之事に而左之通

尙敬王之子

尙穆王　（寶暦六）乾隆廿一年子冊封同五十九年（寛政六）寅四月八日薨壽五十六年　元文四未生

（先於世薨）尙益王之子

尙溫王　（寛政十二）嘉慶五年申冊封同七年戌（享和二）七月十一日薨十九

尙益王之子

尚灝王 文化五 嘉慶十三年辰册封道光十四年 天保五 午五月廿九日薨壽四十八

尚灝王之子

尚育王 天保九 道光十八年戌册封當歲三十

寅十月六日

右やうに相知候間喜左衞門殿へ近便次第御遣給候やう賴遣也

昌平學教官一齋佐藤先生撰文

桂菴禪師碑銘

付箋

厚聘請師ノ下ニ○十年二月師遂來薩摩云々

特加禮敬ノ下ニ口明年命捌二一寺於麑府一云々

院曰桂樹ノ下ニ入十三年夏師又與ニ國老伊地知周防守重貞ニ胥議始刊ニ大學章句於麑府一實皇國云々

右樣年月地名など明白知居候事は可成御修辭御載せ被置被下度奉願候事

季安題之

「先度被差下候碑文七百五十一字に而候處百七字補入之願亦々賴遣候處先生十字被相增八百三十九字にして被差下候事」道光廿三より鄭元偉書迄八百六十八字

此朱書之通附札を以寅十二月朔日飛脚便より松山隆阿彌殿宛にして一齋先生へ今一往御補入被下候樣賴遣同廿六日江戸松山氏方へ相達候由に而同廿七日早天松山直に昌平之先生宅へ持參相願置被呉候由左候處直に手を付同廿八日先生より芝邸迄以使者爲持給候由

桂菴禪師碑銘

室町氏之季、文學掃地、縉紳博士遞世衰替、而浮屠氏專秉文柄、是以遣明之使、率在五山僧徒、且當時博士家嚴守漢註、不許濫用新說、則世欲講程朱之學者、必遯入緇流、髡其顱而儒其學者、往々而有之、在昔薩摩國有一禪師、曰桂菴、字玄樹、號島陰、本貫周防山口郡人、不詳俗族、童丱往洛龍山、從雙桂和尚受內外學、嘉吉二年師齡十六、削髮登戒壇、「有餘力輒聞東山惟正慧山景召講授四」（儒書則依漢註宋說、時聞東山惟正慧山景召並講四書、綴餘經學得益不尠）「益」信宋說、又能詩文、應仁紀元師中選使明國、入見憲宗、宴賚頗渥、居凡七年、遊蘇杭間、親從鉅儒攻朱氏經學、尤邃書蔡氏傳、其於詩章、則與彼土文士相頡頏、每一詞出、藝林傳誦、稱其有盛唐

之風、文明五年歸報使事、當是時京師兵燹騷擾、不能譚學、於是暫避跡石州、亡幾又赴西州、是時東肥菊府新寘黌館崇儒學、師往而客之、既而薩摩國龍雲玉洞禪師、暨其國老數輩、薦師於國主公、公乃厚聘請師、「十年二月」師遂來薩摩、始謁公於市來、公一見服其雅量、特加禮敬、乃命搬一寺於麑府、住師於此、因號其寺曰島陰院、曰桂樹、「十三年夏」師又與國老伊地知周防守重貞[善]因胥議始刊大學章句「於麑府」、實　皇國印行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射圃阪地、初寺瀕海岸、善爲風潮所墮、至是更地、稱呼如故、十月奉命適日州飫肥、董安國席、先是明商貢船多舶飫肥、公遣族人忠廉鎭其土、使師兼掌簡牘、自後數往數還、弟子益衆、時新刻大學盛行、板亦磨滅(漫漶)、於是至「延德四年」、師復(再)栞諸桂樹禪院、「[至]明應九年」「師如洛」欽奉欽帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、[居][週][期]「未幾」辭職「明年」歸[於]薩、師嘗精訂國讀、以授其徒、[誘][以][和][點]至是別」著一書、辨經註漢宋之同異、「[敎][以]祟依宋說」又以國

「[附箋]儒釋綜究、著編世傳、薩人月渚、受學於師、授同州一翁、相繼董安國席、一翁授日州文之、文之聘於麑府、搬大龍寺、隅州如竹等受焉、皆緇流而傳宋學、如竹授日州愛甲喜春等、自文之侍講黃門公、其徒遞擢侍讀於時之世子、有大裨于國治云」

「〆九十四字別冊ノ九十四ト合セ百八十八字ヲ增セバ原文ノ二十九字ヲ削テ九百十字ト爲リ餘リ字數モ多クナル故是ハ書入不申候如何可仕哉」

字解朱註例、定國讀式、「皆梓行久(之)矣」、既乃築方丈於伊敷邨、名曰東歸菴、[薦][弟][子][釣][雲][使][之][代][董][安][國][席]而自老「焉」、[於][菴]以永正五年六月之望、溘然示寂於東歸菴、壽八十二、掩骸於菴地、「儒釋綜究、凡所著書、有島陰漁唱及文集雜著、和點法等(若干卷)云」、曩者薩藩士伊地知[小][十][郎](此三字不剖)季安、遠寄其所著禪師傳、且謂、桂菴雖浮屠、而於吾藩、則爲儒學之宗矣、星霜已久、人莫能知其由、因與同志者相謀、將勠力樹一碑以傳其跡、碑記之筆、敢以爲請、顧余不文固宜辭而詞意懇款、遠方辱屬、不容

峻拒ス、乃漫撮ニ其一二ヲ、經ニ緯之ヲ、余嘗爲ニ禪師像替ヲ、今復書ニ之於レ此ニ、以代レ銘曰、

吾道一貫　無レ隱ニ乎爾ニ　身披ニ禪衣ニ　心服ニ闕里ニ
洛派東漸　寔自レ師始　心月千古　桂影遠被

天保十三年歳次壬寅七月下澣

昌平學教官　佐藤坦撰文

「凡七百五十一字

右ニ再願ノ字數百七ヲ入レ原文ノ二十九字ヲ削レバ八百二十九字ニ爲ル也」

右之通朱書之分と一往賴遣改補いたし貰度新納伯剛宮内清之進五代直左衞門殿にも致持參篤と及相談其上山田有裕市來教授などにも吟味相賴何ぞ存寄無之旨承知伯剛被申候は右之成に而は大先生之文を此方より相直樣有之に付外に書付遣可然と之事承尤候間此末に册子有之通朱書之條は某々附札を以賴越候事

伊地知小十郎樣　山田十介

彌御佳健奉賀候先日は遠方被懸芳慮御枉駕不淺奉謝候先夕御請取申上置候一册得と拜見教授江も差出同斷熟覽被致候處一々御出入之御趣意御尤千萬猶又全篇たしかに相成申候哉と奉存少も外に存寄候樣無御座候其趣に而江戶江御賴越被成度今日園田生江託し返上いたし教授よりも右之趣申上候樣承申候近日拜眉萬可得御意如此御坐候頓首

十一月廿二日

先生御老體且官暇も不被爲在之由候處如此長篇御撰稿被成下誠以難有何共可奉謝詞無御座殊更昌平學教官之御官名萬人尊敬仕事に而末代迄之御威光桂菴も冥加に被叶候と野拙之欣躍無申計寔に多年之大望に御座候處頓と此節成就仕先便粗御禮申上越通御座候左候處先生御撰爲被下碑文相屆候段最早府下中も追追申觸體承及候間決而石刻いたし建方仕候はゞ藩中之好事家競寫可申は案中左候得ば此度之碑文は千歲不朽之記錄に相成可申全體之御文章は何れも打寄感誦仕一句も容喙申者無御座候得共桂菴之行實に付好古之僻欲に而相考候へば今少御收載奉願度事有之重疊乍恐初而桂菴吾藩へ爲參年月又は寺立候年紀或

は大學章句致印行候年紀且地名或は桂樹院にて致再刊候年紀或は明應十年家法和點著述爲有之大意幷久敷梓行に成居候譯共は野拙多年古本を搜集只今は證據も明白御座候得共兎角私體之綴置候文は一旦之反古にて無程及湮滅儀差知れ是迄盡力糺得候事蹟年月等先生此度之御撰文に被爲洩候而は後人之信用も薄く旁永年之遺憾と奉存誠に乍恐今一往再願之念望有之直に其趣意を貴文之句間へ漫に浮帖を以奉願候此義何共恐惶之至乍存貴樣より先生執事衆迄御口演被下候爲之御手扣計に如此して差上候間不苦向之御都合にも御座候はゞ可成早目御持參被下右之成行を以御再願被仰立可被下候畢竟如此申上も先生爲被下尊翰にも御草稿に候間愚意に不應候事は其文致增損候而も不苦候遠方之事故往復手間取候付勝手次第仕候樣細々御叮嚀被仰下誠に御私もなき御大量之程何れも感服に而爲奉讃仰候事御座候夫迚致再願度事目於此元陋拙之私共自儘に布を錦に織付候事は迚も難及力何れ先生之御裁定を不奉願候而は私共は勿論惣體藩中人氣之落著にも相叶不申事ゆへ再重恐多御座候得共此旨師員之者共にも申談貴樣迄內分御賴申上候間御同意於被下は萬々宜樣御願見可被下候左候而相叶向に御座候はゞ可成は來春正月末二月始方にも御差下し被下候樣御願叶得被下候得ば重疊難有子細は琉人立之列能書之鄭元偉抔來春下著に而出船迄之間に賴合せ認立申度山々賴心御座候間此段も宜被仰願可被下候何も萬々奉願候以上

寅十二月朔日　　伊地知小十郎

松山隆阿彌樣

此通附札迄も磯永周德丈相賴致二淨書一十二月朔日使レ遣レ之

桂菴禪師碑銘

室町氏之季、文學掃レ地、搢紳博士遞世衰替、而浮屠氏專秉二文柄一、是以二遣明之使一、率在二五山僧徒一、且當時博士家嚴二守漢註一、不レ許三濫用二新說一、則世欲レ講二程朱之學一者、必遯二入緇流一、髡二其顱一、而儒二其學一者往々而有レ之、在昔薩摩國有二一禪師一、曰二桂菴一、字玄樹號二島陰一、本貫周防山口郡人、不レ詳二俗族一、童丱往二洛龍山一、從二雙桂和尙一受二內外學一、「依遵」嘉吉二年師齡十六、削髮登二戒壇一、「時間東山惟正慧山景召並講二四書一禪餘經學得レ益不レ尠」儒書則篤信二宋說一〇又能二文詩一、應仁紀元師中レ選使二明國一、入見二憲宗一、宴賚頗渥、居凡七年、遊二蘇杭間一、親從二鉅儒一攻二朱子經學一、尤邃二書蔡氏傳一、其於二詩章一則

與彼士文士相頡頏、每一詞出、藝林傳誦、稱其有盛唐之風、文明五年歸報使事、當是時、京師兵燹騷擾、不能譚學、於是暫避跡石州、亡幾又赴西州、是時東肥菊府新寘黌館、崇儒學、師往而客之、既而薩摩國龍雲玉洞禪師、暨其國老數輩、薦師於國主公、公乃厚聘請師、〇「十年二月」師遂來薩摩、「明年」始謁公於市來、公一見服其雅量、特加禮敬、□乃命剏一寺於鹿府、「十三年夏」往師於此、因號其寺曰島陰院、曰桂樹、〇師又與國老伊地知周防守重貞、善、因胥議始刊大學章句、〇實「於鹿府」皇國印行新註之嚆矢也、長享二年遷寺於城西、爲今城北射圃阪地、初寺瀕海岸、善爲風潮所嚙、至是更地稱呼如故、十月奉命適日州飫肥、董安國席、先是明商賈船多舶飫肥、公遣族人忠廉、鎮其士、使師兼掌簡牘、自後數往數「師」還、〇「弟子益衆、時新刻大學盛行、板亦漫漶、至延德四年再梁諸桂樹禪院」至明應九年「如洛」欽奉釣帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、居週期辭、「未幾辭職明年」歸於薩「嘗精訂國讀以授其徒至是別」著一書、辨經註漢宋之同異「皆依宋說」、又以國字解朱註例、定國讀式、「皆梓行之」既乃築方丈於伊敷邨、名曰東歸庵、「焉」薦第子釣雪使之代董安國席而自老於庵、以永正五年六月之望、溘然示寂於東歸菴、壽八十二、掩骸於菴地、「所著書有島陰漁唱及文集雜著若干卷」曩者薩藩士伊地知小十郎季安、遠寄其所著禪師傳、且謂、桂菴雖浮屠、而於吾藩、則爲儒學之宗矣、星霜已久、人莫能知其由、因與同志者相謀、將戮力樹一碑、以傳其跡、碑記之筆、敢以爲請不容峻拒、乃漫撮其一二經緯之、余嘗爲禪師像贊、今復書之於此、以代銘曰、

吾道一貫　無隱乎爾　身披禪衣　心服闕里
洛派東漸　寔自師始　心月千古　桂影遠被

天保十三年歲次壬寅七月下澣

昌平學教官佐藤坦撰文

【附箋】自後數往數還の下に

弟子益衆、大學盛行、板亦磨滅、於是延德四年師復梁桂樹院、明應九年師如洛、欽奉釣帖、主建仁寺、尋轉南禪寺、未幾辭、明年歸薩、師嘗授徒、誘以和點、「通俗ノ語ナレトモ漢文ニハ當ラズ」至是別著一書、辨經註漢宋之同異、教以依宋說、又以國字解朱註例、定國讀式、皆梓行久矣、既乃築方丈於伊敷邨名東歸菴、而自老焉、以永正五年六月之望云云、

掩骸於菴地の下に

儒釋綜究、凡所レ著書、有二島陰漁唱及文集雜著和「書名ナレバ此マヽナレトモ是雜著中ニコモリアルナレバ削ルモ可也」點法等二云、曩者薩藩士伊地知季安、云々、

右の段と師の行實に付難澁事に御座候間可成御修辭に御載せ被下度左候而釣雪之件または同名周防守幷私俗名等の字數貴文之内より右體仕候而者删申意に相當至極恐多御座候得共餘り再願之字數增候故右之御賢慮を以宜樣御增損被成下度萬々奉願度御座候

八九兩月貴簡追々相達致拜見候先以窮陰凍寒此書達候比は春暖にも可相成哉愈御安裕被成御起居拜賀不少候然ば兼々御賴之桂師碑文大延引に相成過日起稿上候所御喜被下於拙亦欣然不少候其内尊意之條附札被遣則其趣に而改訂致し候御見分被下度候扨又松山子時々被見御噂巨細に致承知候先達は貴恙之由最早此節御全快と奉察候尙御容體致承知度候先達松山へ被托鄭元偉書二枚被惠辱每度見事之儀永藏可致候其後喜左衞門子轉達南海布一反是亦御入念之謝痛入存候將亦琉球王年譜之事御考被下右は交友中著述物に入用有之無據御賴申候所間に合於拙重疊謝入申候先は兩次之却酬迄草略如此御座候尙期永陽萬可申罄候

頓首不一

嘉平月念七書　坦〔花押〕

伊地知小十郎樣

去る朔日八日兩度之御細翰去る廿六日到著忝致拜見候甚寒之節御座候得共愈以御勇猛被成御座候由奉珍重候扨先度より御煩之由致承知候間何樣之御事かと存居候處頓と御本復之由何とも目出度奉存候爰許相變儀も無御座琉人諸首尾無滯相濟先日出立殊に暖氣勝に而都合よく御座候此節之王子殊之外評判よろしく候然は桂菴老師碑文之儀に付被仰下趣承知仕候間則廿七日未明より打立佐藤氏江差越申候御紙面之趣を以相賴候處宜御受合に御座候來正月中旬迄には彌出來給との趣に候左樣御納得可被下候左樣而筆執は先生も鄭元偉と折角被仰候間何卒左樣御取計被成度候尤石刻相濟候上石摺に御調拾枚以上御上せ給度との事に御座候御自分之入用に而も無之林家は勿論諸大家方其外御老中奥江も事に寄り候はゞ可差出との口上に候與と申は將軍江被差出考と私には承居候依

而私申候は小十郎先生樣江御願申上るも桂菴老師證跡天下後世江顯度所存之令に而無和理御願爲申歟と存候間左樣御座候はゞ尙又難有可奉存候に付其段は則可申越と申置候に付乍御面働磯永抔江御摺らせ拾四五枚も御遣被遊度奉存候尊公樣是迄御信實之一義尙更無殘所歟と私にも御歎申上候云々

別啓桂菴老師碑文建立に付而別紙之通日本國へ相廣申儀に御座候に付おのづから上樣方江も相聞へ可申賦御座候付近比御手拔は無之筈御座候得共敎授方抔へ御相談之上御屆沙汰有之度儀と奉存候一齋先生咄に而は諸大名方より御咄に而も有之此御方若も御存知無之而は不都合之筋に被考申候おのづから其御考とは存候得共存付候儘不顧憚此段申上候

十二月廿八日　松山隆阿彌

伊地知小十郎樣

伊集院喜左衞門樣　佐藤捨藏

前月二日御封發貴簡相達拜見仕候先以凍寒時節此書達候頃は剩寒に可相成愈御安裕被成御起居恭賀奉存候然ば先達桂師碑稿出來伊地知生へ御轉慶被下先方喜悅之由於拙亦欣然不少候右爲挨拶南海葛布一反被惠辱仕合尙宜御謝意被下度候且又琉球王年譜之事御吟味被下辱仕合大略相分大慶仕候先般松山隆阿彌出府時々手前へも被參候に付同人よりも伊地知容子傳承仕候何卒碑面書は鄭元偉認候樣仕度候同人之蹟（手跡歟）至極見事に被存候間貴君尙御周旋可被下候先は右等布酬旁如是御座候餘期來陽候恐惶頓首

極月廿七日　坦

伊集院喜左衞門樣

昨廿八日佐藤氏より態々以使介御狀幷碑文修辭相濟爲致被遣候間難有旨申遣置候年明候はゞ差越一禮可申候御受取御安心可被下候右に付別紙申上通り日本國中江相弘り可申候に付石摺不調內に而も先生近付之大名方江咄共有之碑文之草稿杯世間江　此御方樣へ外樣より御咄も可有之其折若も御存じ無之而は旁不都合候半と心配に及申候間今朝平田直之進殿へ差越及相談御國許伊集院氏內々爲被申越筋に而夫々之御方江御廣め置被下候樣賴置候兩日中碑文も寫置候間可差上候に付　御內覽に相成居候はゞ御都合可宜哉と願置候左樣御座候伊集院氏へも其段御

取合之折御申置可被下候喜左衞門殿江も一筆相認候得共封方相濟候間別に不申越候尊公樣より何分御名を侵し候取計御免御受可被下候尤佐藤氏より喜左衞門殿江一封も遣置候今日段々取込亂筆申上候御高免可被下候早々

十二月廿九日　〔花押〕九拜

右通松山より被申越候間則喜左衞門殿にも申達候處隨分宜敷候猶亦近々種子島氏出立に付細々成行傳言可申遣との事也

二月朔日　季安記之

從先生樣被成下舊冬廿七日尊翰去る廿九日相達し難有拜讀仕候新春愈御勇健御超歲可被爲成御起居恐悅御儀存候然ば先般御著撰爲被成下桂菴師碑文事實に付再重乍恐今少奉願度松山迄伺遣趣御座候處御聞受被下殊更速に御改削被成下千萬難有頓と宿望相叶何も心殘無御座其上琉人も未著仕彼是都合能手當方申付置如尊諭鄭元偉下著仕候はゞ滯舘中可成筆取爲仕候筋喜左衞門抔申談計樣可有御座左候而石刻成候上は摺調先生樣へは固より奉備高覽內存御座候處今度松山へ御傳聲御座候由に而拾枚以上も可差上候左候はゞ林家は勿論諸御大名樣方迄も爲備御覽候御心寄之御用も被爲在向に申越誠以心外難有冥加に付而は嘸庵も黃泉より深可被奉謝筈と欣悅乍存何分にも私體賤名無存掛と驥尾に相付汚顏之至彼是御荷恩難報仕合御座候何れ萬端成就之上心事可奉謝先右相達候御禮答迄申上度匆々如斯御座候成合候樣宜御披露奉希候恐惶謹言

二月朔日　伊地知小十郎

捨藏樣　季安〔花押〕

御用人中樣

如此淨書は周德子へ相賴二日飛脚より松山へ賴遣候事

桂菴和尙碑石建方之伺幷關里楷抔之一件

一桂菴和尙は周防山口之產に而幼年より在洛遂出家五山之僧徒にも無雙之學才有之應仁元年使僧に被相撰大明國江渡海七ヶ年滯留於彼地新註學問仕文明五年歸朝同十年御國江御招請翌年麑府江桂樹院御造立に而圓室樣は勿論諸士迄も學問流行に付同十三年大學章句被致板行延德四年右之板摺禿又又再板迄も被致且和點之仕樣等も明應十年叮嚀假

名書にして被爲敎導其比迄大學も古註之通タイ學とよみ在親民之親もシタシムと爲讀來由候得共大は濁てダイとよみ親もアラタニスルと讀候類段々爲被敎弘由然ば程朱學に付而は日本國中の開祖に御座候處慶長以來他國之說には皆惺窩羅山を第一開祖にして書立候物天下に流布仕桂菴事跡次第に消行候事私式乍不入儀多年殘多相考惣體日本に漢字被相行候次第共相糺漢學紀源と名付四册計綴掛置候草稿御座候間右桂菴之延德板大學古本其外同人被書置候和點之法式等板本寫本共に相添遣去る丑年伊集院喜左衞門殿高輪詰之節伊藤捨藏御式日に被罷出候時分入一覽もらひ可成ば末代之證據に碑文等賴書候事は相叶間敷哉賴口せ申候處御國より宋學爲始事共は初日も聞候由に而緩々被留置私書綴候趣彌信服に而至極被及感心大學は老人手自摹寫迄いたし成行委敷跋文被書述其上林大學頭樣江も被差出候處是又珍敷との事に而寫方迄御座候由是も其趣跋書き被致遣其比迄は捨藏殿も林家之學頭に而其後御旗本江貳百俵に而被召出聖堂添役被仰付昌平館江爲被引移由に而旁混雜故碑文被

綴呉候事可相調哉無心元向に承及居候處當正月三四ヶ月目に成就いたし被遣最初私之考は右體名儒に賴書候はゞ往々日本國中にも一統尊信之新註學文根本は薩摩より首唱爲仕證據に可相成との遠見迄を以賴貰候處此度琉人立之鄭元偉に碑面爲書候樣取計石刻に成候上は拾枚以上石摺にして爲登呉候樣左候はゞ林家は勿論兼々御心安出入被仕候諸大名樣方御老中樣依事候はゞ奥江も可被差上含之由存之外成事共松山隆阿彌へ傳言を以被賴遣就夫右段々之草稿等被爲見候御大名方より若哉此御方樣江御壽等之有無も難計儀と隆阿彌心付候而舊冬廿九日平田直之進殿迄成行を以御都合次第には御內聽に被入置被下向之事は相叶間敷哉碑文も寫添極內分爲願置との趣申遣私式何共存外奉恐入事に成立至極心配仕候尤碑石建立之儀は捨藏殿撰文被調次第に市來敎授其外助敎之衆江萬事御世話可給旨最前より委敷相賴置館中其々壹匁宛に而も出合せ其外世間有志衆も右位之心落可然勿論至其期候はゞ御內意を以敎授より御屆は被申出等に承置且大龍寺之儀は桂菴法孫之寺に御座候間當住瑞

邦和尙にも及內談是以至極歡喜に而人數相加度被申置旁々成行寺社奉行衆之內にも內分を以申上置全體此一擧世上之人にも間には御國中之美目と奉存不依貴賤少つゝ合力可致と申方追々御座候得共何分にも響合右次第手廣成立旁以恐多夫迚取止に仕候而は江戶御儒者之方江今更申分無御座其上鄭元偉下著は旣に近寄被受込居候敎授は病氣彼是難默止時宜合に而不得止事私式乍恐手扣を以何卒右之形行被聞召分ヶ御內分に而成共右建方之手當等取付候儀蒙御免度當二月御內意申上置助敎之衆より被奉得御差圖候處同十九日登殿より相良甚大夫殿迄御內分を以右之分は精々致吟味置候而も不苦候間相良氏心入之筋を以夫々江可申達置左候而此一件は高崎五郞右衞門江致示談候樣承知爲有之趣手紙を以私方江承知仕同廿一日又々登殿より猪飼鉚太郞殿を以御取次碑石則より取付建方有之候而不苦然共書高無之樣助敎方江被仰渡其趣宮內淸之進より私方江も承知仕同廿八日御側御用人座より右之碑文又は大學跋文等明廿九日飛脚便より被差越候付取揃可差出旨被仰渡左之通書寫差出申候

一桂菴禪師碑銘　壹通
一延德板大學鈔本跋　壹通
一延德板大學原本跋　壹通
一桂菴禪師像贊　壹通

合四通佐藤捨藏殿著撰被致吳候文章に而壹冊にして差出申候間定而御中途江爲被差上筈と奉存候右外此一件に付捨藏殿より爲被遣俗簡等は數通御座候得共其節迄は略仕候

右通御內分に而御免被仰付折柄碑名之竿石は寄進可仕と申人有之直石工に相賴二月末より切調置三月二日鄭元偉下著いたし無間も緣族を以相賴私直に差越前件之成行等篤と及賴談候處存之外受合宜敷宋學開祖之碑石に付而は誠に格別其上天下之御儒者と千歲致連名事共其身も別而冥加と存分喜悅之挨拶等承り勿論碑石も爲持參り則より餘事差置染筆有之石摺用には石柄十分に無御座候處江戶抔江遣事候はゞ板に認候得ば宜敷との口振も御座候故卽又楠板致用意碑面同樣認もらひ石之儀は直に伊敷墓所江持居させ置板は私宅へ持越愚息喜十郞則より隙々に彫調最早相濟居申候不苦御都合にも

御座候はゞ石摺にして差上度奉存候石碑彫方は四月朔日比より石工罷越大概字數三分貳斗も彫濟爲申與同廿三日主計殿より伊集院平格殿御取次を以碑石建方之儀は追而可被仰渡候間先見合可置旨助敎方江被仰渡當日私方にも宮內淸之進殿より承知仕則伊敷江差越彫方取止爲仕置當分も其通に御座候

一鄭元偉右認方相仕舞候時分佐藤殿方江音物用に仕度行草之大書四五枚認もらひ候處是に而は謝品に不相成迚唐墨貳箱其外石摺等預懇惠且出船前見舞候節珍敷一品態と積殘し有之是は孔子之廟所闕里より出候楷木に而爲作酒杯と承珍器之故於福州相求置必儒者抔之可致珍玩ものと心付殘置候間拙者よりもらひ候趣を以必先生江可差送旨に而預惠投候得共私式謝品には能過其上碑石且板迄過分之字數染筆相賴其一禮さへ難申盡候處猶更如此珍器迄もらひ候儀は何共心外之段再三相斷爲申事候得共此度之事に付而は返々冥加に被存候間成行を以是非差贈候やう强而承り其節闕里と申儀に付而は辛丑之夏捨藏殿被綴遺候桂菴書賛にも心腹闕里と被書置候處闕里より出候珍物を右通被强候事奇緣之儀と存當終相もらひ然上は直に其譯些書記もらひ度俄に桐箱相調蓋之內に左之通認もらひ召置申候

余在ㇾ閩獲ㇾ之、聞說材出㆓於闕里㆒所謂生㆓孔夫子冢上㆒楷木也、

道光辛丑四月吉旦　　球陽鄭元偉識

右通元偉爲求も辛丑四月之事に而御座候由然ば昔文明中於鹿兒島初而新註大學被爲板行候事も辛丑去々年捨藏殿右之古本を書拔候而跋等爲被書年も辛丑且其日迄も辛丑に不思被書合せ候事奇成趣被書置候處又候闕里之文句と闕里之楷杯と右通符合仕候事共旁奇遇に被存せ候間直に三月末便より可差贈哉乍存餘り珍奇之物に而御伺も不申上他國へ遣候事何共恐多奉存先は相控置五雜組等見合申候處左之通御座候

物部二

曲阜孔林有㆓楷木㆒、相傳子貢手植者、其樹十餘圍、今已枯死、其遺種延生甚蕃、其芽香苦可㆓烹以代㆒ㇾ茗、亦可㆓乾而茹㆒ㇾ之、其木可ㇾ爲㆓笏枕及棋枰㆒云、敲ㇾ之聲甚響而不ㇾ裂、故宜ㇾ棋也、枕ㇾ之無㆓惡夢㆒、故宜ㇾ枕也、此木

殊方不レ可レ知、以ニ余所一レ經他處未レ有ニ見レ之者一、亦聖賢之遺蹟也、而守土之官、日逐採伐、製レ器以充ニ餽遺一、今其所レ存寥々反不レ及ニ商丘之木一、以ニ不才一終ニ天年一、不ニ亦可一レ恨之甚一哉、余在ニ嶧山一見ニ禹時孤桐於ニ曲阜一、見ニ孔子手植檜及子貢手植楷木於ニ閩雪峰一、唐時枯木菴而枯木菴、云々、楷木已朽腐斷折獨留ニ根幹一丈餘、云々、按孔林十里中雲木參ニ天上一、無ニ鳥巢一無ニ鴉聲一、下無ニ棘蒺藜刺レ人之草一、聖人生前不レ語レ恠、乃身後著ニ靈異一若レ此、豈亦以ニ神道一設レ敎耶、抑或有ニ地靈一可ニ護之一也、

字彙木部

楷口駭切音、鍇模也、式也、法也、後漢李膺傳ニ後進一模楷、又楷書、又木名、孔子卒弟子各持ニ鄕土之木一來種ニ冢上一惟楷易レ生、

字典木部

楷苦駭切、音鍇、說文木也、孔子冢蓋樹レ之者、淮南子草木訓、楷木生ニ孔子冢上一、其幹枝疎而不レ屈、以レ質得ニ其直一也、云々、

史記評林

括地志云、兗州曲阜縣魯城西南三里有ニ闕里一、中有ニ孔子宅一、宅中有ニ廟伍緝之從征記一云、闕里背洙面泗卽此也、按夫子生在ニ鄒長徙曲阜一、仍號ニ闕里一、皇覽曰、孔子冢去レ城一里、云々、冢塋中樹以レ百數、皆異種、魯人世世無下能名ニ其樹一者上、民傳言、孔子弟子異國人、各持ニ其方樹一來種レ之、云々、

風早家流盆山傳書ノ中

標註 木假山トテフシ木ヲ盆石ニスル事法アリ、琉球人程順則ト云シ者、唐渡ノ節孔子ノ御廟所ニ參リシニ、其時ヨリ有ケルトテイフ、木根土中ニ有シヲ頼テモトメ木ノフシナレバサカヅキニ作ラセ持登リシニ、折節獻上物ノ見合セニ出セバ可レ然トテ、近衞相國樣ヘ獻上ス、聖人ウセ置セ玉フナレバ、是ニテ酒ヲノム事道ナラズトテ、スグニ木假山ニ可レ被レ進トテ、盆ニイケサセ給フト也、

右ノ通、盆山ノ書ニ出タリ、鄭元偉ガ聞傳ト符合セリ、因テ此ニ標注スルナリ、

此楷盃ノ事、弘化四年丁未十月朔日、私ニ御徒目附被仰付候時分、得能彥左衞門ヨリ承旨有之調所家ニ持參、箱共太守樣江獻上之仕候、尤私ヨリハ笑左衞門殿ヘ差直上ル也、

右之楷盃ハ宰相公御手許ニ召置レシヲ得能彦左衞門ニ爲被下由ニテ彼家ニ格護ト聞及ベリヨテ又記之也

右通相見得彌其楷木にて製器爲仕歟は難究知御座候得共鄭元偉於閩中前文通之珍器と承候て相求其身も餘程祕藏仕居候哉昔年此楷木之器物を程順則より近衞關白樣江進上被仕彼御家之寶物に爲相成事共於琉球承傳居候間決而先生も祕藏可被仕依事ては天下之重寶に可相成も難計との咄共有之其上自筆に成由も右通記置爲申に付而は何分にも至後年珍奇之品に御座候間他國之珍寶に出し候事殘多奉存先格護仕置候萬々一上樣御用にも於被召上は音物には外品差贈元偉江は成行申遣筋にも仕度決而彼も難有獨り可申勿論左樣共御座候はゞ私にも冥加至極難有仕合可奉存候然共前件造士館より被奉得御差圖候一條何分共未被仰出上向之御都合毛頭難奉伺御座候得ば其後皆皆至極恐惶仕罷在候然ば捨藏殿にも當七十二歳老先生之由御座候得ば決而成就之程相待可被罷居全體私儀御存通に而面會等未仕人御座候得共段々文章被致著撰呉候上種々珍敷石摺等被差下剰先日之便にも自撰新板之愛日樓文詩四冊・言志錄一冊遠方迄被差贈

外に續錄等も後便より可被差下との事共被申越旁預叮嚀御儀畢竟當公方樣御新政之初に學文を以爲被召出捨藏殿に御座候得ば當時御崇信之新註學文元來薩摩之桂菴師より始候事共日本國中是迄爲存人も無之儀を此度珍敷被致撰文候折柄書家之名を得候鄭元偉今般江戸立に付認方爲仕石摺にして依事而は公方樣又は御老中樣にも被奉備御覽度との內存に而被賴遣候付追々右次第之叮嚀に可有御座夫故私式には過當之音信と推察仕候然共何れ御勤柄之御方に御座候間相應之謝答等不仕候而難叶時宜に成立罷在候付何ぞ御差支不被爲在事にも御座候はゞ何卒建方等成就仕度左候而彼之方望之通元偉墨跡板に認候分は最早內々彫方も仕置候間於御免は石摺にして差登せ是迄段々之謝禮等申遣候はゞ嘸老人安悅被致筈と乍存何共御都合之程難奉窺只急入罷在申候右に付御繁多中如此不急之事共御賴申上も誠に不勘辨至極奉恐入儀御座候得共極內分是迄之形行書付懸御目上置候間御病後御覽被下も御勞煩可成ば御覽被下置若や御都合も於被爲在は御內分を以些御窺被下事は相叶申間敷哉何ぞ急ぎ候事には無御座候得共右之返禮旁行廻罷

在候間被爲叶匆々御都合にも御座候はば萬々宜敷事に成候處を偏に御存成可被下儀奉賴上候此段御賴爲可申上右之楮杯一箱も相添持參仕置候間御序次第成合候樣宜被仰上可給事奉賴候以上

但碑文事實等之儀に付而は諸引書等取揃此內再撰方に御用に付差出彼方桂菴傳も五代直左衛門殿段段被相改極內分私にも預示談候間於御尋は相分り申筈と奉存候此段も宜被仰上置可被下儀奉賴候以上

卯六月　伊地知小十郎

三原藤五郎樣御取次衆

二白是程迄成立事初發より相知候はゞ前以御屆等も不申上候而難叶儀御座候得共伊集院氏子秋出立之砌延德板大學其外引書相成古本等相添差登せ候時分迄は佐藤氏も林家學頭に而御式日に被罷出由候間一先入一覽もらひ時宜次第には碑文等相賴可給旨を以賴遣候處別而珍賞被申跋と贊等は丑年出來碑文も書吳候半と爲被受合由には御座候得共無程大慈院樣御逝去に付伊集院氏には下國佐藤殿は其十二月御旗本江被召出昌平舘江引移旁互之混雜に而彌撰文相調候程合無覺束若出來下り候はゞ市來教授より御屆等は被申上筈に而相待罷在候處三四ヶ月目之當春成就に而被差下左候而直に筆取は鄭元偉と被賴遣夫故何も前文通恐入候事に成立申候然ば此一件に付段々爲被遣書狀等數通御座候間爲御心得兩三通書寫左之通懸御目申候

佐藤捨藏

伊集院喜左衛門樣

用書外に包物

一簡拜啓爾後御疎音打過候秋冷無程新霜と相成可申候處愈御安裕可被成御起居恭悅奉存候次拙老無異御放意被下度候然ば兼々伊地知君より御賴之桂菴師碑文段々延緩及於今日は拙事も客冬より身分替り望外之仕合扨々老境不堪事急疎不少候右之次第に而精々之御賴も夫成に相成此節稍折合候に付起草致し候誠に草々之作文尊意に滿申間敷候得共指出申候間伊地知子へ御屆被下度候若し貴意に不應候事は其文御増損有之候而も不苦候遠方之事故往返手間取可申候に付御勝手次第に可被成候行草略書に候間碑面之所貴國能書之仁或は琉球能書之人になりとも御認直し碑

文御仕立可被成候此方より上候は草稿之積に御座候書法等能々巧者之人へ御相談之上具體に御取立可被成候將又漢學始原久々留置辱存候寫し可申と去年より含居候處前文之身分一變に而誠に事多に相成其所へ及不申候何卒御出來之上に而一部御寫せ御惠被下候事は相成間敷哉先に今便返完仕候間一ト先伊地知子へ御返し被下度候扨又琉球國世々之略此節入用之事有之別册指出申候御覽分ヶ被下候へば相分り申事本人此王之次より今日迄之名字年數等承知致し度候少し急ぎ候間指出し候舊文之例に效ひ御書續き御賴申候御便之序に少しも早き方尤も抄に御座候乍御六ヶ敷御吟味所希に御座候又江戸表迄相届候而も爰元に而遲滯之事も可有之哉に付沈滯無之樣御賴申候右等草々布字如此御座候餘期後鴻可申罄候不能一一

八月廿二日認　　坦　拜

喜左衛門樣

［標註］漢學始原と御座候は私書綴候而漢學紀源と名付候四册之事覺達被申候半至極詳審成事に而得益不少に付寫置度迚久々被留置此節本文之通に而相返被申當分は再方撰へ御用に付五代直左衛門殿へ差出置申候

八九兩月貴簡追々相達致拜見候先以窮陰凍寒此書達候頃は春暖にも可相成哉愈御裕被成御起居抃賀不少候然ば兼々御賴之桂師碑文大延引に相成過日起稿上候處御喜被下於拙亦欣然不少候其内尊意之條附札被遣則其趣に而改訂致し候御見分被下度候扨又松山氏時々被見御噂巨細に致承知候先達而貴恙之由最早此節御全快と奉察候尚御容躰致承知度候先達松山へ被托鄭元偉書二枚被惠辱每度見事之儀永藏可致候其後喜左衛門子轉達南海布一度被惠是亦御入念之謝痛入存候將又琉球王年譜之事御考被下右は交友中著述物に入用有之無據御賴申上所間に合於拙重疊謝入申候先は兩次之却酬迄草略如是御座候尚期永陽萬可申罄候頓首不一

嘉平月念七書　　坦（花押）

伊地知小十郎樣

前月二日御封發貴簡相達拜見仕候先以凍寒時節此書

達候頃は剩寒に可相成愈御安裕被成御起居恭賀奉存候然ば先達桂師碑稿出來伊地知君へ御轉致被下先方喜悅之由於拙亦欣然不少候右爲挨拶南海布一反被惠辱仕合尙宜御謝被下度候且又琉球王年譜之事御吟味被下辱仕合大略相分大慶仕候先般松山隆阿彌出府時時手前へも被參候に付同人よりも伊地知容子傳承仕候何卒碑面書は鄭元偉認候樣仕度候同人之跡至極見事に被存候間貴君尙周旋可被下候先は右等布酬旁如是御座候餘期來陽候恐惶頓首

極月廿七日　　　　　　　　　坦

伊集院喜左衞門樣

右外にも往反之書簡等段々有之私家筋之儀又は何方にも遊學等に出候哉勤方は有無迄爲被尋由彼是一册に相成事長御座候得ば略仕候何も此上は捨藏殿方江之返禮旁貴尾宜敷事之成候所を念願に奉存候

〔標註〕琉球王年譜之事と御座候は中山傳信錄之類を拔書被遣尙敬王以下尙穆王尙溫灝王尙王夫より今日之尙育王迄四代之名を被尋遺存之通申遣候事に御座候

漢學紀源卷五大尾

古點譜

ヲホ　ネ子　｜キ　アマ　セサ

東大寺三論宗用之
俗家點
水尾點圓堂僧正用之
遍照寺點
智澄大師點
順曉和尚點
勸修寺觀眞君
仁都波迦點
池上律師
俗點又樣

喜多院點興福寺所用
俗點
禪林寺點
香隆寺點
淨光房點
廣隆寺
叡山之本
池上阿闍梨
東大寺東南院也
妙法院

諸点圖
心賢阿闍梨点

俗點

水尾点
圓堂僧正用之

禪林寺點次リ

廣隆寺

浄光房点

池上阿闍梨

池上律師

右之諸點圖、高雄寺密經藏東第十六箱本寫レ之、目錄之內所レ用分耳、

寛永十年九月廿三日　作顯證

唯識論点

唯識論之朱點、於二興福寺一筆レ之、

ヲドリヘニト者コノユヘニト云意也

元祿七年甲戌五月廿三日書二寫之一畢、

此一本者、於二城州仁和寺一音房、自筆以二御本一拜二書之一畢、

了空房覺祐

古點譜終

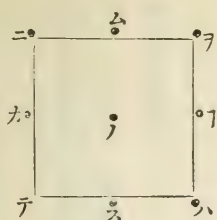
乎古止點譜

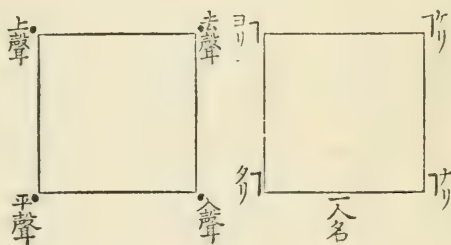
後深草院御記、永仁二年春宮御書始、

永仁二年六月廿五日甲辰元晴風靜、此日皇太子御書始也、

其上置ニ御注孝經一卷一、件書任ニ建治例一可レ被レ渡、天永御書之內申ニ禪林寺殿一、而被レ渡ニ新院一畢、云々、點圖角筆等、此兩物、學士資宗所ニ調進一也、點圖白式紙書之、折紙三張也、一枚在ニ方點圖三置レ之、草紙寸法、高弘各五寸、角筆長六寸、

ニ ム ヲ
カ ノ コ
テ ス ハ

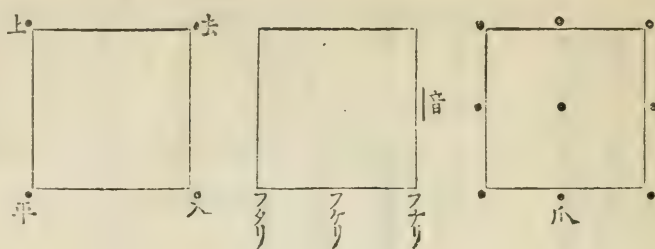
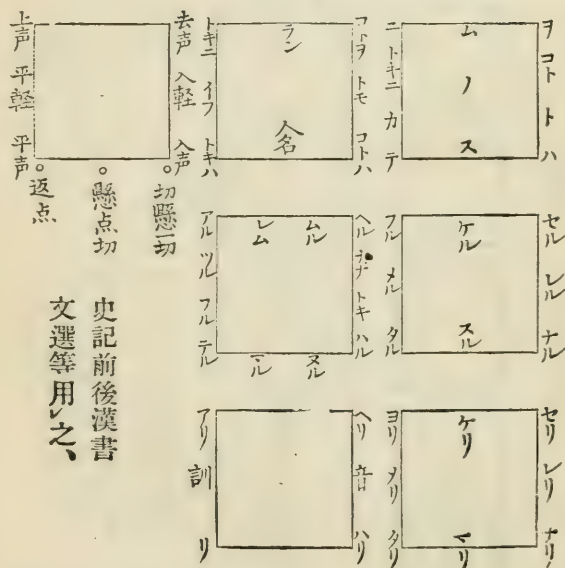
上聲 去聲
平聲 入聲

ヨリ ナリ
タリ ナリ
人名

此寸分各方一寸也

中右記、寛治元年十二月廿四日壬寅、今日未刻許、有ニ御書始事一、以ニ式部權大輔正家朝臣一爲ニ侍讀一、以ニ左少辨敦家一爲ニ尙復一、其儀如レ式、

上 去 平 入

音 フナリ フケリ フタリ

爪

長秋記、天永二年十二月十四日御書始、侍讀文章博士在良、尚復右少辨實光、午時參內殿上方、頭辨實行云、御書外題打金泥不レ儲、仍只今東西相挑也、云々、其右

方置ニ點圖草子一（其體如ニ其第二帖紙ニ田舍色紙也）無ニ表紙一以ニ大亶手帖一也、點幷人名、其次常圖書也、枚書點圖三、其一テニヲハ點、其次タリ於ニ一枚一者、又爲ニ表紙代一前例有ニ於點者一以レ朱付レ之、自余墨也、奥有ニ重紙一、

紀傳

ヲ コト ト ハ　ム ノ ス　ニ トキニ カ テ

セル レル ナル　ケル スル　フル メル タル

セリ レリ ナリ　ケリ マリ　ヨリ メリ タリ

コトヲ トモ コトハ　ラン 名　トキニ イフ トキハ

ヘル ナナ トキ ハル　ムル レム ヌル マル　アル ツル フル テル

ヘリ 音 ハリ　アリ 訓 リ

去声 入軽 入声　上声 平軽 平声

。切懸一切　。懸点切　。返点

史記前後漢書
文選等用レ之、

明經

ヲ コト ト ハ
ム ノ ス
ニ カ テ
ス セ ル
レ シ
ナ ヌ ツ
モ ソ ケ
ヤ ラ
ウ ヨ メ

コトヲセル トモハ
ナリ レリ
コトハ スルヌル スラスル
タリ セリ ケリ
シキ 入 レル
アリ ヘリ
タル イフ ムル
ク
アル ヨル ヘル

ト ・・トキンハ
ナル
ヨリ

呉音引合 尚書・毛詩・周易・春秋・周禮・禮記・論語・孝經・孟子・老子・莊子・楊子・荀子・文中子等用レ之、

漢音引合

訓引合

右二種後水尾天皇所レ書ニ子笏ニ者云、

（青字）
十二聲
去 去輕 上輕 上
去重 入輕 入
上重 平重 平
平重 入重

經

ヲコトトハ
ム ノ ス
ニ カ テ
スセル
レ シ
ナ ヌ ツ
モ ソ ケ
ヤ ラ
フ ヨ メ
コトヲセル トキンハ
ナリ ハ
コトハ スル スル

タリ ケリ
アリ ヘリ
タル ト云 ケル
ク
アル ヘル
ヘ キ リ
ナル リ
ヨリ
音 国名 訓
名

一 王
神
姓
表德字
去切點 小切懸点 返点

書名
年号 處名 官
去聲 入聲軽 重声去
六聲
上声 平声軽 重声上
入 四聲 平
疊音連合 漢音連 訓讀連

京都往來

陽春之慶賀珍重々々、富貴萬福幸甚々々、自他繁昌雖㆓事舊候㆒、猶以不㆑可㆑有㆓盡期㆒候、先以年始之御儀式、元日四方拜、小朝拜、二日三日之御祝、七日者七種御粥、白馬節會、十四日十六日踏歌節會、十七日舞御覧、鶴之庖丁、十八日六十六本之左義長、三月三日鷄合、四月中亥賀茂之祉葵祭、六月十六日嘉祥、七月七日梶之御鞠、飛鳥井難波兩家而有㆑之、同十四日數千之燈籠、八朔者別而之御祝儀、從㆓公方樣㆒御馬御進上、九月十一日伊勢奉幣、吉田於㆓神前㆒行㆑之、十月亥日玄猪、十一月廿八日者春日御祭、時々節々御政嘉齡延年之御儀也、公卿者、攝家、淸花、羽林、名家、新家、神祇伯、和歌、文章、明經、能書、樂、蹴鞠、裝束、陰陽道、外記、史、四品、五位、諸大夫等、日々家業無㆓斷絕㆒、抑禁裏者、人皇五十代桓武天皇、延曆十三甲戌長岡都被㆑移㆓此平安城㆒、延寶二年迄八百九十二年也、人皇之始從㆓神武天皇㆒今上帝迄百十四代也、御築地以㆓金銀砂石㆒築立、御門者、東、陽明門、侍賢門、郁芳門、南、美福門、朱雀門、皇嘉門、西、談天門、藻壁門、殷富門、北、安嘉門、偉鑑門、是四方十二之御門也、奉㆑拜㆓玉殿㆒紫宸殿、淸涼殿、溫明殿、梅壺、梨壺、藤壺、桐壺、雷壺、瀧口戶、萩戶、大極殿、內侍所者、神璽寶劍三種神祇、奉㆑納㆓御寶㆒、金玉鈴之聲澄㆓心耳㆒、響㆓靑雲九天之上㆒、天人影降菩薩疑㆓來臨㆒、無精草木垂㆑枝敷㆑葉、翔㆑空翅下㆑地、走㆑地獸屈㆑膝拋㆑脛、況於㆓人倫㆒無㆑不㆑傾㆓渴抑之首㆒、國富民豐成者、偏潤㆓聖君之德㆒處也、六口之下馬御門之外、武家町屋之體、繼㆓軒端㆒建續可㆑反㆑掌無㆓寸地㆒、蓮臺野、嵯峨野、紫野、大原野、東鴨河原者、名耳殘而、有明月家出而入㆑家廉被㆑奇候、先花洛町横小路者、一條、正親町、土御門、鷹司、近衞、勘解由小路、中御門、春日、大炊、冷泉、二條、押小路、三條坊門、姉小路、三條、六角、四條坊門、錦小路、四條綾小路、五條坊門、高辻、五條樋口、六條坊門、楊梅、六條佐女牛、七條坊門、北小路、七條鹽小路、八條坊門、梅小路、八條針小路、信濃小路、唐橋、九條壁小路者、西朱雀、坊城、壬生、櫛笥、東大宮、猪熊、堀川、油小路、西洞院、新町、室町、烏丸、東洞院、高倉、萬里小路、富小路、京極、東朱雀、南北自㆓一條㆒九條迄、東西兩朱雀限㆑是、

九重云、一條北武者小路、今出川、上立賣、柳原、小山迄上京云、從二堀河一西北安居院、西陣、西京是、東、鴨川限レ岸故、無レ據處也、三條大橋長五十八間、諸國往來人民、都出入之橋是也、川下四條河原、上瑠璃歌舞妓、都遊興所也、同下、五條橋長六十五間、將亦當二王城艮隅一有二高山一號二比叡山一天台傳教大師之御建立、守二王城之鬼門一爲二惡魔降伏之靈場一二六時中之勤行、聊以無二懈怠一元三大師不レ去二居所一願成就之佛也、東坊、西坊、横川麓、修學院御茶屋、白河昔法皇之御住跡也、吉田、山陰中納言奉レ勸二請春日四所一本社茅葺八角也、日本最上日高日宮、額者嵯峨天皇御宸筆、大元宮之額者、後土御門之御筆、四月中子、六月十五日、八月廿四日祭也、銀閣寺者飛彈之内匠建レ之、同山上七月十六日大文字之火燃酉刻也、松明數八十五、一文字之長三十七間ノヽ(ヘツホツ)點八十五間、六十八間也、弘法之筆法也、黑谷者號二金戒光明寺一法然上人自筆之一枚起請、親鸞上人自作之御影有、六月廿五日虫拂、熊谷敦盛石塔有、聖護院之森、熊野權現社有、光雲寺永觀堂者號二禪林寺一禪律淨土之三宗也、瑞龍山南禪寺者、五山之上、規菴國師之開基也、粟田口神明、九月十五日祭有、青蓮院御門跡、伏見院尊圓尊道、御代々能書御家是也、山科天智天皇御廟、諸羽大明神、此額小島宗眞書レ之、上醍醐者、貞觀之末聖寶僧都開基、顯密之二宗、下醍醐三寶院、山伏之司、當山與云、九月九日祭、於二神前一能有、此庭藤戸石有、知恩院號二佛法山大谷寺一承安四年法然上人開基也、祇園牛頭天王、素盞烏尊、少將井、今御前、人皇五十六代清和帝御時勸請、六月七日十四日祭、鉾六本、山三十有レ之、石之鳥居、感神院額、照高院之御筆、双林寺平判官康頼住跡也、長樂寺者、亭子院御建立、下河原七觀音、高臺寺、靈山者國阿上人之庵室、圓山者號二安養寺一時宗慈鎭和尚住給、同所吉水池有、山下眞葛原歌慈鎭和尚「我戀は松をしぐれの染兼てまくつかはらに風さはくなり」八坂塔、號二法觀寺一聖德太子之御草創、三年坂子安塔者、號二泰産寺一觀音并也、額者筆道者賀茂之甲斐書レ之、清水寺、同奥院、何茂千壽觀音、大同二年坂上田村丸御草創、只賴不レ空二御誓願一御利生新御事也、音羽瀧、地主權現者、當寺之鎭守、四月九日祭有、朝倉堂、田村堂車宿馬止有、將軍塚者、桓武天皇之御時、此京爲二守護人一鐵長八尺作二土偶人一持二弓矢一埋二山上一天

皇御歌「めくきあな打おさまれる御代なれはつかはなか〳〵なることもなし」六道者地藏ヰ、七月十日千日參、六波羅愛宕寺、御影堂者、大夫敦盛之母菴室、此尼扇折經營、故至ニ今代ニ此寺中商ㇾ扇則名物也、亦一遍上人御影有、六條川原者、融大臣鹽竈之體、此移ニ河原院ニ有ニ遊興ニ跡、大佛者本尊釋迦如來、御長九間五尺、堂南北四十五間、東西二十八間、棟高貳十五間、柱數九十二本、日本無双之大佛殿也、二王門之外、耳塚者、昔高麗國御切取、彼國數萬人之耳鼻埋ニ此所ニ依ㇾ之耳塚云、三十三間堂者、本尊千手千體長永年初平忠盛奉行、鳥羽院御建立、亦後白河法皇御造營、號ニ蓮花王院ニ此堂弓之名人矢數有、然慶長十一年春淺岡氏以ニ根矢ニ五十一通、是矢數始、眞來二千三千五千七千數通世擧多、近者寛文八年夏星野氏八千通矢今天下一是也、同所鐘高一丈五寸、厚一尺、柱二十本立也、稻荷大明神、和銅年中勸請、四月卯日祭、叛源院泉涌寺者、左大臣緒嗣建立、三月九日開山忌、建仁寺、東福寺者、聖一國師入唐無準弟子、此庭通天紅葉、藤森天王社、五月五日祭、東寺弘法大師、三月廿一日御影講、同所塔有、五重高二十九間五間四方也、羅生門、昔都良香云人、氣霽風梳ニ新柳髮ニ口號此所通給、從ニ虚空ニ氷消浪洗ニ舊苔鬚ニ爲ㇾ繼、云々、西寺者守敏塚、今者無ニ問人ニ、鳥羽戀塚者、源渡妻塚也、石道春作碑銘有、朱雀權現堂尼寺者、號ニ大通寺ニ島原傾城町、北壬生地藏六道能化ヰ也、三月十四日廿四日迄大念佛有、石淸水正八幡宮、正月十九日役神參、八月十五日放生會、山崎寶寺、正一位日向大明神社有、額者道風筆也、松尾大明神、六月廿三日神前能有ㇾ之、虚空藏者、號ニ智福山法輪寺ニ道昌僧都建立、額者大[illegible]山木菴和尚筆、天龍寺、夢窓國師開基、野々宮、小倉山者、定家卿山庄、先達百人歌色紙書被ㇾ置後、一部書而今百人一首是也、二尊院、法然上人足引影有、妓王、妓女、佛御前、淸盛時代白拍子草菴也、大宮口、北山口、市原、二瀨、蓮臺寺、雲ヶ畑迄、愛宕郡五十八村之中也、宇治鄉、槇島、小倉、大久保、平川、久世、枇杷庄迄、久世郡廿二村之中也、平尾、西村、畑河原、中村、北村、菅井、乾谷、小寺、牧、大野、高田迄、相良郡七十村之中也、御陵、日岡、四宮、大塚、花山、小野、五智如來、廣澤池、月名所也、仁和寺、御室御所、妙心寺者、花園院勅願所也、太秦藥師號ニ廣隆寺ニ聖德太子御影、二八月廿二日開帳、北山金閣寺、高

雄、栂尾、槇尾、北野天神宮、人皇六十二代村上帝、天暦元年勸請、一夜松千本生、船宮是也、紅梅殿笑佛者、傅大士、二童子者、普建、普成、南門額勅筆也、經王堂額道風筆、西方寺眞盛尼寺也、平野大明神、閻魔堂者、小野篁建立、千本念佛花開次第始、文永年中如輪上人申初也、大德寺者大灯國師開山、金毛閣三字之額者、松花堂筆、今宮神社、一條院御時祝、五月十五日祭、上賀茂大明神、五月朔日足揃、五日競馬、岩屋不動者、弘法之作、內佛者天神作也、補陀樂寺、四位少將小野小町二人石塔有、貴布禰大明神、鞍馬寺者、毘沙門、正月初寅參、御菩薩池、岩倉之御殿、大原隆禪寺、法然上人諸宗問答節、出現證據阿彌陀如來、寂光院昔女院御菴室、後白河院御幸時、朧淸水御覽御歌「池水に汀のさくら散敷て浪のはなこそさかりなりけれ」長谷御茶屋、下鴨御祖神、六月從二廿日一晦日迄、御手洗會糺諸共云、知恩寺、同釋迦堂、額者後奈良院也、上御靈大明神、萬年山相國寺、尊氏建立、妙顯寺者日像上人、花洛開基也、眞如堂號二極樂寺一本尊慈覺大師作、從二十月五日一十五日迄、十夜大念佛有、一條革堂、號二行願寺一順禮觀音也、淸荒神、額者妙法院御筆也、惣而荒神

者、每月晦日、天上而人善惡云給、云々、唐竈神有、御靈八所大明神、八月十八日祭有、同拜殿最勝殿三字之額者、南禪寺宗演筆也、誓願寺本尊彌陀如來及二千年一春日作、六十萬人決定往生之被レ廣二御札一寺也、中春日之社、神前未開紅梅木有、和泉式部石塔有、六角堂、空也寺、霜月十三日空也忌有、東西本願寺御堂、七月七日數千作花、同十四日灯籠諸人見二物之一、因幡堂藥師如來也、本國寺從二佐渡浦一出現、閻浮檀金釋迦如來座、石神、神泉苑者、昔 天子有二御遊覽一所、名池有、鷺五位被二成下一此所也、國八郡之次第、松ヶ崎、高野、八瀨、上野、小弟子、百井、大見、別所、靜原、北岩倉、長谷、花園、一乘寺、岡崎、田中、淸閑寺、石田、日野、六地藏、木幡、五ヶ庄迄、宇治郡卅七村之中也、松井、薪、田邊、高木、山本、江口、名村、山田迄、綴喜郡四十三村之中也、深草、伏見、竹田、中島、塔森、芹河、石原迄、紀伊郡廿三村之中也、安井、山內、梅津、龍安寺、等持院、常盤、久保、生田、原、越畑、桂、中愛宕山大權現號二白雲寺一、當山太郎坊、柿本木之僧正是也、鳥居之額者、佐理卿筆、麓嵯峨之釋迦堂者、號二淸涼寺一、奝然法師建立、毘首揭摩造赤栴檀御尊容也、三月十五日大念佛、同

十九日御身拭、大覺寺御門跡、大澤池、鳴瀧川、河嶋、牛ヶ瀨、德大寺、御陵、千世原、下村、杉坂、中堂寺、大將軍、木辻、聚樂、大北山迄、葛野郡六十八村之中也、樋爪、寺戶、神足、志水、沓掛、金ヶ原迄、乙訓郡四十五村之中也、村都合三百六十五村有、郡八ヶ所故山城八郡云、二條御城內外、御番之歷々抽二誠精一、晝夜知レ時、太鞁櫓、鳥不レ驚弓入レ袋、釼納レ筥御代者、天守之鯱(シャチホコ)適有レ鰭、千年之鶴御堀龜、猶告二萬歲一、國土安穩民讓レ畔、誠武運長久、于レ時延寶二寅初秋、鈴鹿定親造レ之畢、

京都往來終

自遺往來（一名江戸往來）

陽春之慶賀珍重々々、富貴萬福幸甚々々、日々新而自他繁榮重疊、於レ予レ今者雖ニ事舊候一、猶更不レ可レ有ニ休期一候、先以年始之御規式、元日二日御一門之御方々、國主城主之歷々、三獻之御祝其外諸侯昵近之面々、詣衆番頭物頭諸役人、諸番之健士御流頂ニ戴之一、且又大中納言、參議中將少將侍從四品五位之諸大夫迄者、美服二領宛下ニ賜之一、依ニ家祿之輕重與ニ官位之淺深一或臺或以ニ廣蓋一拜領、三日者諸大名之息子無位無官、并諸家中之證人、及京都大坂奈良堺伏見淀過書銀座朱坐之輩迄、群ニ候落緣一品々進物奉レ捧レ之御禮申上候也、同日入レ夜爲ニ御謠初一酉刻大廣間出御祗候之大小名令レ着ニ長袴一、刷レ裝四坐之猿樂群ニ居板椽一、御囃子三番、所謂老松・東北・高砂是也、折々小謠唄レ之、從ニ諸侯一所獻之御盃臺、銘々披露有レ之間御酒宴也、御作法之結搆言語道斷難レ顯ニ筆端一、門々警固之挑灯者輝ニ櫓多門一、燒レ爭篝火者映ニ堀水一、不レ異ニ白晝一候、五日者寬永寺之僧侶數十許之輩、六日者近里遠境諸寺諸山出

家社八山伏等數百人、充ニ滿于ニ營中一奉レ拜ニ台顏一、七日者七種之御糝獻レ之、十一日者御具足御祝并連歌御興行是依ニ御嘉例一也、十五日者恒例之諸御禮、十七日者東叡山御參宮、廿日同所御參堂、廿四日增上寺御佛詣也、凡此日者別而被レ改ニ御裝束一、被レ同ニ長柄御輿一、供奉之勇士二行列步、其出立或時者衣冠衞府之太刀帶レ之、亦或時者大紋風折烏帽子也、布衣以下平侍類難レ計ニ其員一、辻々門々屋々警固着ニ烏帽子素袍袴一、平ニ伏大路一、敢無レ奉レ拜ニ御轅一、拜殿及ニ入御一者、豫所候之伶倫奏レ樂、繁レ弦急レ管金玉之聲玲瓏而澄ニ心耳一、衆僧者解ニ御經之紐一奉レ讀ニ誦之一、音聲計會而響ニ青雲九天之上一、天人影降菩薩來臨給歟與疑、無情草木垂レ枝歛レ葉、翔レ空翅下レ地、走レ地獸者屈レ膝拋レ脛、況於ニ人倫一乎、無レ不レ傾ニ渴仰首一、御先祖之御崇敬、佛神之御信仰、理世安民之御政、云レ彼云レ此前代未聞之名君、舉レ世所レ知レ之也、猶追レ日時々節々御祝儀其外臨時之御祝等、連綿而無ニ斷絕一候、誠目出度御粧嘉辰令月歡無レ極、千秋萬歲不易之御代、誰不レ奉レ仰レ之哉、因レ玆國國土產所々珍奇、日々進物菓肴衣服器財以下雖レ令ニ混亂一、任ニ思出一粗馳ニ禿筆一訖、是併大海之一滴九牛一

毛也、先御菓子者、吉野樝子非ニ異朝一大和柿、小澁柿、西條柿、八代蜜柑、白輪柑子、上條瓜、眞桑瓜、河越瓜、舳瓜、當所之新田鳴子瓜、淺草鯉、芝肴、品川海苔、馬刀蛤、岩堀菱子、醒井餅、仙臺糒、氷餅、甲州之楊梅、林檎、丹波大栗、朝倉山椒、鎭西之薏以仁、博多練酒、白芋莖、菊池海苔、相良和布、雅海藻、十六島海苔、日光山岩茸、富士苔、松本漬蕨、川茸、海蕈、入野鮒、岩附鮒、竹島鮑、海部之熨斗、紀伊國忍冬酒、興津鯛、丹後鰤、能登鯖、岩城浮鰌、海丹之鹽辛、松前昆布、膃肭臍、小豆島之串海鼠、五島鯣、宇和鰯、黑漬、疋田鮎鮓、鈎瓶鮨、志筑鹽辛、奥州鮭、披子籠、鹽引、楷漬海月、同漬菜、味噌漬、鰹節、麴漬、飯蛸糟漬、鮎子籠、同深山巢米、糠漬鰷、寒水漬鶴鴈鴨、南部薯蕷、同雉子、鷹、雲雀、梅首雞、水札、鶉、川鳥、潮煮之菓子鮑、生乾膾殘魚、近干鱵、取交切之鰇、鯖背腸、鰤腸、三州串蜊、鯨百尋、蕪骨、鮊、目刺、石蜐、鱲子、鮭甘子筋子鳴子、女冠者白干鯣、七島鰹節、松山鱧鱲、瀨田鰻鮓、醍醐之蒸蕈、朝比奈粽、伊豫素麵、川俣芋莖、福智山蕨粉、横須賀卜治、稻荷山松茸、東條烏頭、勢州糸和布、松尾梨子、小布施栗、道明寺寒糒、濱名納豆、善德寺酢、麻地酒、會津蠟

蠲、炭斗瓢、筑後燒、半田土鍋風爐、前土器、高山面桶、片口、光瀧細炭、一倉炭、御室燒茶碗、伊萬里燒皿、備前燒德利、信樂燒之水翻、薩摩燒茶入、膳所燒鉢、唐津燒之香爐、琉球之芭蕉布、同泡盛酒、古筆新筆之繪讃、異國本朝墨跡、陸奥、甲斐、伊豫、松前、朝鮮之大鷹、鷂、兄鷂、鷂、雀鷂、雀戴、刺羽、逸物、仙臺、南部、甲府、信州、土佐、薩摩之駿馬、亦武具者、鐙、甲冑、太刀、長刀、弓箭、鐵炮、玉藥、箙、靭穗、調度掛、異國船入津之節者、紗綾縮緬、北絹繻子、繻珍、綸子、純子、奥島錦、金襴、天鵞絨、毛氈、羅紗、羅背板、猩々緋、蘇木、紫檀、白檀、檳榔子、沈香、伽羅、肉桂、丁子、大楓子、大服皮、附子、紅花、丁香皮、小黃連、麒麟、血山歸來、阿仙藥、茴香、甘草、干竹子、天門冬、白荳蔻、赤土、青黛、木梨花、明礬、礪砂、綠礬、胡椒、蘆薈、辰砂、椰子、油牛黃、犀角、鹿角、草茶、合油、茶碗藥、膽礬、牛角、水牛角、蠟、漆、紙、墨、筆、卓、机、香爐、香合、香盃、花入、壺茶、藤、蘭、竹、櫛、赤熊、白熊、黑熊、象牙、水銀、鮫錫、廣南鍋、龍腦、麝香、菩提樹、瑠璃、硨磲、碼碯、珊瑚、琥珀、瑇瑁、鼈甲、鹿皮、小人島皮、烏蛇皮、山馬皮、山人驢馬、玲瓏犬、麝香猫、孔雀、口赤烏、黃頭烏、砂糖烏、

藤鳥、海鳩、長生鳥、錦鷄鳥、田鷄鳥、白頭鳥、鷓鴣、音呼鳥、翡翠鳥、東埔塞鳩、金鳩鳥、巣密砂糖、龍眼肉、三國米、蒲萄酒、此外濟々無際限、雖營內廣、餘置席上作山、于庭中、抑大廈之御搆方廿餘町也、從郭外東方者至于八町堀、木挽町、鐵炮洲、女木、三谷、靈巖島而僅不足十町、是海岸無據故也、西者至于市谷、四谷、中野、牛込、小日向、小石川、高田、雜司谷、千駄木村而二里餘、南者至于赤坂、青山宿、一本村、櫻田、愛宕下、西久保、麻布、澁谷、白金、目黑、池上、芝、品川、神奈川而七里、東海道順路是也、北者淺草、淺茅原、隅田川、千住、板橋、越谷、平柳迄四里、都而東西三四里、南北十餘里、大小名之家々、思々之榮作、以金銀為築地、以珠玉為砂石、泉水築山搆眺望、催日夜佳遊之宴、此外所々神社佛閣逼々也、民家小屋、繼軒端建續、可立錐無餘地、草累之武藏野者、名耳殘而有明之月茂、從家出而入家與被奇候于程、繁昌者豐饒之體、可令想像也、此所東西土地下而濕深、水甚鹹故、不忍渴、不肖者自馳于東西走南北、求水不得寸暇、家業空費時碎魂云々、然而貴大君辱遙被聞召之、行程十餘里、當于

西有玉川、水淸冷而味又尋常也、曳彼於于爰而可令安之條被仰出、依之堀山穿岩數月勵成功、遂明曆年中聊無障、來城下、長流之水、幸成藥治病除患去渴、里民快樂何事如之乎、次當于北而有隅田川、至下而云深川、元來大河而從往昔無橋、深事應名千尋水走如矢、以舟船雖渡之風波之災不任雅意、或被押流漫々漂大海、或逆卷水被覆船、底之滓成果者、不知幾千萬人、此儀叉及高聽之處、如何而掛橋可令為往還之通路之由有嚴命、深慮智化之良臣、股肱耳目之頭人、衆儀評定一決畢而課工經營之、萬治年中是又令成就、殆可謂魯般雲梯乎、此方者武藏向者下總也、故呼俗稱兩國橋、往來之旅人老若男女、畏悅抃躍難有無言計、從彼橋見渡者、則安房上總筑波山、日光山、淺間嶽、富士高根等、眼前候、適懸御目度候、速有御下向而可令歷覽給也、將又、當于艮角有景地、摸坂西比叡山、被號東叡山是也、是則東照宮之御鎭座也、慈眼大師被仰合、去寛永年中之御草創、當城守鬼門為惡魔降伏之靈場、二六時中之勤行、聊以無懈怠奉抽誠精、境內及十町四

方平ハ、宮社僧坊雙ニ玉甍一諸木連レ枝森々、前湖水稱ニ不レ忍池ハ、中築ニ一嶋一被レ安ニ置辨才天ハ、參詣之諸人者、解ニ錦纜一桂棹(サオ)、蘭檝(カヂ)、敲レ舷謠ニ今様ニ亘レ岩松風、岸打波頻添ニ颯々聲ハ、詩人者題ニ池邊之月ハ、歌人者詠ニ山頭之花ハ、樹下敷レ莚或芝之上設レ席、林間煖レ酒、紅葉燒物、蘭麝匂芬々、恰殊艶(ハナヤカニ)花童男童女、簪ニ羅綾袂ハ、飾ニ錦繡裔ハ、小歌、三味線、琵琶、琴、笛、皷、太鼓、 生レ苔鳥不レ驚今此御代也、誠以兔傳多久(メデタク)穴賢、

自遣往來終

源平往來卷上目錄

源平往來卷上

(一)白山神輿本山延暦寺奉二振上一時從二留主所一
遣二衆徒一牒狀

欲三早被レ停二止衆徒之參洛一事

牒衆徒戴二神輿一企二參洛一擬レ致二訴詔一之條、非レ無二不
審一依レ之差二遣在廳忠俊一尋二申子細一之處、就二石井法
橋之訴詔一令二參洛一之由、返答之趣、理豈可レ然、爭依二
小事一可レ奉レ動二大神一哉、若爲二國司之御沙汰一可レ被二
裁許一者、速賜二解狀一可二申上一也、仍察レ狀以牒、

安元三年二月九日　散位　財　朝　臣
散位　大　江　朝　臣
散位　源　朝　臣
各　在　判

(二)衆徒返牒

白山中宮大衆政所、牒二留主所衙一來牒一紙被二載送一
神輿御上洛事牒、今月九日牒狀、同日到來、依レ狀案二
事情一人成レ恨神起レ嗔、神明與二衆徒一鬱憤和合而既
點二定吉日一早進二發旅宿一人力不レ可二成敗一冥慮輙不
レ可レ測矣、仍返牒之狀如レ件、

安元三年二月九日　中　宮　大　衆　等

(三)依二院宣一白山神輿奉二逗留一狀

延暦寺政所下二加賀馬場先達神人等一可下早止二上
洛儀一待中御裁下上事

右近日住僧神官等、捧二神輿一企二上道一之旨、在二其聞一
甚以不レ可レ然、相二當仙洞熊野參詣之折節一訴詔奏聞
無レ便、就レ中件之訴貫首、度々雖レ有二沙汰一其後成敗
自然遲引重可レ有二御沙汰一也、此間無二左右一而企二上
洛一者、雖レ有二猥戾勘發一更無二訴詔裁判一歟、忽任二自
由一者、定及二後悔一歟、云二先達一云二神人一閑廻二隨分之
思案一可レ存二向後之安堵一宜二承知一止二參洛一之狀以下、

安元三年二月日

小寺主法師琳海
都維那　大法師
寺主　大法師
上座　大法師

(四)中宮衆徒返牒

請ニ讓　延暦寺御寺牒一

被ニ載下ニ可レ止ニ白山神輿上洛一事

右當山權現者、掛忝天神元初之國常立尊之爲レ守ニ寶祚一垂ニ迹于我朝一爲レ弘ニ佛法一濫ニ觴于此砌一也、依レ之代々聖主、歸ニ妙理大菩薩之効驗一世々臣公仰ニ神融小禪師之德行一爰爲ニ目代師經一燒ニ拂涌泉一寺一沒ニ倒寺社料所一之間、以去年十月之比、欲下企ニ推參一蒙中裁許上之處、被レ下ニ宣命幷御下文一云、且待ニ聖斷一仰ニ上裁於鬱訴一相殘者可レ言ニ上子細一云々、仍以同十一月、雖下差ニ專使一致中訴訟上子レ今無ニ御裁報一而空送ニ年月一畢、倩案ニ事情一白山妙理權現者、雖レ有ニ敷地一併山門三千之聖供也、雖レ有ニ兎田一又當レ任ニ沒倒一非ニ神物一故、只有レ名更無レ實、是以恒例之神事佛事既斷絶、以往之八講三十講、今正及ニ闕退一隨而近來無レ有ニ參詣一再拜之輩不レ見ニ歸敬奉幣之顯一大悲和光之素意難レ測、三所垂迹之玄應失レ憲歟、云ニ寺僧一云ニ氏人一歎ニ冥威之陵怠一悲ニ權迹之衰微一而奉レ戴ニ神輿一所レ企ニ推參一也、痛哉、神明閉レ扉不レ見ニ星宿之光一哀哉、住侶迷レ道永忘ニ後榮之思一五尺之洪鐘徒待ニ響於松栢之風一六時之行法、空任ニ聲於紫蘭之嵐一矣、但慮ニ神明之冥覽一定不レ可レ失レ德、人倫之迷情爭可レ知ニ靈應一早示ニ現將來之吉凶一託ニ宣當時之眉目一給、江登社僧一心合レ掌、神女之三業、低レ頭而致ニ祈誓一之處、人恨融ニ于神一神之瞋通ニ于人一依レ有ニ夢想告託宣示一憑ニ神託一驚ニ示現一暫不レ顧ニ本寺之嚴制一既奉レ動ニ末社神輿一畢、雖レ然任ニ御寺牒之趣一相ニ待裁報之左右一所也、抑留ニ神明之上洛一也、仍返牒言上如レ件、

安元三年二月廿日　　中宮衆徒等請文

(五)師高解官配流之宣旨

今月十三日、叡山之衆徒、舁ニ日吉社感神院等之神輿一不レ憚ニ勅制一亂ニ入陣中一爰警固之輩、相ニ禦凶黨一之間、其矢誤中ニ神輿一事、雖レ不レ圖何不レ行ニ其科一宜下仰ニ撿非違使一召ニ平利家同家兼藤原通久同成直同光景田使俊行等一給中獄所上者也、從五位上加賀守藤原師高、解官流ニ罪尾張國一目代師經流ニ罪備後國一奉レ射ニ神輿一官兵七八、禁獄之事者、今日宣下訖、以ニ此旨一可下令レ披ニ露山上一給上之由、所レ候也、上々謹言、

四月二十日　　權中納言藤原光能

執當法眼御房

（六八）康頼熊野祝言

謹請再拜々々、維當歲次治承二年戊戌、月並十二月日數三百五十四箇日、八月二十八日神巳來撰ニ吉日良辰ヲ、掛忝日本第一、大靈驗熊野三所權現、幷飛龍大薩埵交量宇津之弘前信心之大施主、一羽林藤原成經沙彌性照、致ニ淸淨之誠ヲ、抽ニ懇念之志ヲ、謹以敬白、

夫證誠大菩薩者、濟度苦海之敎主、三身圓滿之覺王也、兩所權現者、又或南方補陀落能化之主入重玄門之大士、或東方淨瑠璃醫王之尊、衆病悉除之如來也、若一王子者娑婆世界之本主、施無畏者之大士、現ニ頂上佛面ヲ、滿ニ衆生之諸願ヲ給、云ν彼云ν此同出ニ法性眞如之都ヲ、從ν入ニ和光同塵之道ニ以來、神道自在而誘ニ難化之衆生ヲ、善巧方便而成ニ無邊之利益ヲ、依ν之自ニ上一人ニ至ニ下萬民ヲ、朝結ニ淨水ニ係ν肩洗ニ煩惱之垢ヲ、夕向ニ深山ニ運ν歩、近ニ常樂之地ヲ、峨々峯高准ニ是於信德之高ヲ、分ν雲登嶮々谷深准ニ是於弘誓之深ヲ、凌ν露下旻不ν憑ニ利益之地ニ者、誰運ニ步於嶮難之道ヲ、不ν仰ニ權現之德ニ者、何盡ニ志於遼遠之境ヲ、然則證誠大權現飛龍大薩埵慈悲之御眼、並牡鹿之御耳振立、知ニ見無二丹誠ヲ、納ニ受專一懇志ヲ、現止ニ成經性照遠流之苦ヲ、早返ニ付舊城之故鄕ヲ、當改ニ人間有爲妄執之迷ヲ、速令ν證ニ新成之妙理ニ而已、抑又十二所權現者隨類應現之願、本迹濟度之誓、爲ν導ニ有緣之衆生ヲ、救ニ無垢之群情ヲ、捨ニ七寶莊嚴之栖ニ、卜ニ居於三山十二之籬ヲ、和ニ八萬四千之光ヲ、同ニ形於六道三有之塵ヲ、故現定業能轉、衆病悉除之誓約有ν憑、當來迎引接必得往生之本願無ν疑、是以貴賤列ニ禮拜之袖ヲ、男女運ニ歸敬之步ヲ、漫々深海洗ニ罪障之垢ヲ、重重高峰仰ニ懺悔之風ヲ、調ニ戒律乘急之心ヲ、重ニ柔和忍辱之衣ヲ、捧ニ覺道之花ヲ、動ニ神殿之床ヲ、澄ニ信心之水ヲ、湛ニ利生之池ヲ、神明垂ニ納受ヲ、我等成ニ所願ニ乎、仰願十二所權現、伏乞三所垂跡、早並ニ利生之翅ヲ、凌ニ左遷海中之波ヲ、施ニ和光之惠ヲ、照ニ歸洛故鄕窓ヲ、弟子不ν堪ニ愁歎ヲ、神明知見證明敬白、

（七）從ニ太政入道ニ硫黃嶋流人赦免狀

依ニ中宮御産御祈禱ヲ、被ν行ニ非常大赦ニ之內、薩摩方硫黃嶋流人丹波少將成經、並平判官康賴法師可ニ歸洛ニ之由御氣色所ν候也、仍執達如ν件、

七月三日

（八）高倉宮廻宣

下二東山東海北陸三道諸國軍兵等一所、早可レ追二討
清盛法師並從類叛逆輩一事、

右前伊豆守上五位下行源朝臣仲綱、宣二奉最勝親王
勅ハ爾清盛法師並宗盛等、職(ツカサドリ)二威勢一蔑二帝王ハ起二凶徒一
亡二國家ハ惱二亂百官萬民ハ掠二領五畿七道ハ閉三籠皇院一
流三罪臣公ハ斷レ命流レ身沈レ淵、入レ樓盜レ財領レ國、奪
レ官授レ職、無レ功忩許レ賞、非レ罪猥配レ過、依レ之巫女不
レ留二宮室ハ忠臣不レ仕二仙洞ハ 或召三誡諸寺之高僧ハ禁三
獄修學之淨侶ハ或賜三下於叡岳之絹米ハ相三具謀叛之粮
食ハ斷二百王之跡ハ抑二一人之頂ハ違三逆帝皇一破三滅沸
法ハ見二其振舞一誠絕二古代一者也、于レ時天地悉悲臣民
皆愁矣、仍一院第二之皇子、尋二天武皇帝之舊儀ハ追三
討王位推取之輩ハ訪二上宮太子古跡ハ打三亡佛法破滅之
類一也、唯非レ憑二人力之搆ハ偏所レ仰二天照之理一矣、因
レ之如レ有二三寶佛神之威ハ何無二四岳合力之忠一哉、然
則源家々人藤氏々人兼三道諸國之內堪二勇士一者、同
令二與力一可レ追三討清盛法師并從類ハ若於レ不二同一心ハ
可レ行二配流追禁罪過ハ若於レ有二勝功一者、先預二諸國之
使ハ兼御即位之後必隨レ乞可レ賜二勤賞一也、諸國宜二承
知一依レ宣行レ之、

治承四年四月九日　伊豆守源朝臣仲綱

（九）伊豆國流人前兵衞佐源賴朝者源家之嫡々故
別被レ下二令旨一下二東國源氏并官兵等一所應下
早旦任二廻宣狀一且以二前右兵衞佐源賴朝一
爲二大將軍一令中參洛上事

右　宣旨之意趣者、我爲二百王孫ハ雖レ期(ゴスト)二寶祚ハ猶依二
聖運遲々ハ未レ至二卽位ハ而淸盛入道以二一旦冥怪ハ令レ
治二天下一誇二非分權威ハ欲レ絕二皇法一之處、依レ有二佛神
之守護ハ不レ遂二梟敵之姦望ハ未レ及二王法失亡一之條明
矣、謹仰二嚴旨一可レ責二淸盛一也、速致二同心一勵二微力ハ
果二其意趣ハ必進二帝位一者、朝恩爭(イカデカ)可レ空哉、然者依二淸盛
武勢ハ下知旣致二都洛空役ハ我與(クミシ)二皇恩一以二東北武勢ハ
何不レ治二天下一哉、旁各可レ仰二景跡一也、若於レ背二宣
命ハ早可レ致二伐責一之狀、如レ件以宣、

治承四年四月九日　前右少史小槻宿禰

（十）賴朝高倉之令旨國々之源氏等被二施行一狀
被二最勝親王勅命ハ併召下具東山東海北陸道堪二武勇一
之輩上ハ可レ追三討淸盛入道并從類叛逆輩一之由、廻宣二一

通如此、早守令旨、可有用意、美濃尾張兩國源氏等者、勸催東山東海便宜之軍兵、可相待、北陸道勇士者、參向勢田邊相待上洛、可被供奉洛陽也、御即位無相違者、誰不執行國務哉、依廻宣之狀、執達如件、

治承四年五月日　　前右兵衛佐源朝臣在判

(十一)高倉宮依入寺從三井寺之衆徒南都江牒狀

園城寺牒興福寺衙請殊蒙合力被助當寺佛法破滅狀

右佛法之殊勝爲護王法也、王法之長久則依佛法也、而自頃年以來、入道前太政大臣平清盛恣竊國威、濫亂朝政、付內付外成恨成歎之間、今月十四日夜、一院第二皇子忽爲免不慮之難、俄所令入寺給也、而重號院宣、有可奉出之責、衆徒不能欲罷而奉惜之處、彼禪門欲入武士於當寺云云、然者云王法云佛法、一時將破滅、諸衆盍愁歎乎、昔唐之會昌天子以軍兵、令破滅佛法之時、清涼山衆徒合戰禦之、王憲猶如此、何況於謀叛八虐之輩、誰人可諛順乎、就中南京者被配流無罪之長者、意念動胸中非今度者、何日遂會稽願、衆徒內助佛法之破滅、外退惡逆之伴類、同心至本懷可足、衆徒僉儀如此、仍牒送如件、

治承四年五月廿日

小寺主法師成賀
都維那大法師定算
勾當法師忍慶
上座法橋大法師忠成

(十二)同從三井寺山門江牒狀

園城寺牒延曆寺衙

欲殊致合力被助當寺佛法破滅狀

右入道淨海恣失王法、又滅佛法、愁歎無極之間、去十四日之夜一院第二皇子不慮之外所令入寺給也、爰號院宣雖有可奉出之責、皇子須令固辭、衆徒專奉守護之處、可放遣官軍旨有其聞、當寺破滅將當此時歟、而延曆園城之兩寺者、門跡雖分慈覺智證之遺訓、所學是同圓實頓悟之敎文、喩如鳥之翅不闕又似車之輪相備、於一方闕者爭無其歎哉、特致合力被助佛法破滅者、早忘年來之遺恨、必復住山之往昔、衆徒之僉議如此、仍

牒送如レ件、

治承四年五月廿一日

小寺主　法　師　成　賀

都維那　大法師定算

寺　主　大法師忍慶

上座法橋上人位忠成

(十三)南都返牒

興福寺牒ニ園城寺衙一

被レ載乙可レ相下禦爲ニ清盛入道一欲レ破中滅貴寺佛法上由甲事　來牒一紙

牒今月廿日牒狀今日到來披閲之處、悲喜相交、如何者玉泉玉花雖レ立ニ兩箇之宗儀一、金章金句同出ニ一代之敎文一、南京北京俱以爲ニ如來之弟子一、貴寺他寺互可レ防ニ調達之魔障一、就レ中貴寺者我等本師彌勒慈尊常住之精舍也、何況或公家、或姑山、或諸宮、或相門講席之時、令ニ戰智淨儀ニ事、是則天台法相三論花嚴等而已、若一宗相闘者、豈不レ恨乎、然者天台學徒被ニ魔滅一者、法相獨留如何爲哉、凡緇林之詮ニ乙甲一者、則是兄弟之諍也、白衣之蔑ニ佛法一者、寧非ニ魔軍之企一哉、所レ及ニ最負一最可ニ相救一也、抑異域本朝弓馬之道、勞レ力苦レ身雖レ平ニ王敵一、抽レ賞以不レ過ニ千金萬戶一、官位未ニ必及ニ子孫兄弟一、其中我朝自レ古賞レ武之道、無レ授ニ高位一、旣異ニ唐家一、天平之御宇、大野東人雖レ斬ニ魁首一、僅預ニ八座次一、弘仁之御宇、坂上將軍遠攘ニ奥州之狡猾一、近鎭ニ平城之煙塵一、雖レ加ニ九卿一無レ昇ニ三公一、爰清盛入道者、平氏之糟糠武家之塵芥也、祖父正盛仕ニ藏人五位之家一、把ニ諸國受領之鞭一、大藏卿爲房爲ニ加州刺史一之古、補ニ撿非違所一、修理太夫顯季爲ニ播磨大守一之昔、任ニ馬厩別當職一、曁ニ于親父忠盛一被レ聽ニ昇殿一之時、都鄙老少皆惜ニ蓬壺之瑕瑾一、內外英豪各依ニ馬臺之讖文一、忠盛雖レ刷ニ青雲之翅一、世人猶輕ニ白屋之種一、惜レ名靑侍無レ臨ニ其家一、然間、去平治元年、右金吾信頼謀叛之時、太上天皇感ニ一戰之功一、被レ行ニ不次之賞一以來、高昇ニ相國一兼賜ニ兵杖一、男子或忝ニ台階一、或列ニ羽林一、女子或備ニ中宮職一、或蒙ニ准后宣一、兄弟庶子皆步ニ棘路一、其孫彼甥悉剖ニ竹符一、加レ之統ニ領九州一、不レ辭ニ封家一、細官進退百司皆爲ニ奴婢僕從一、一毛違レ心縱雖ニ皇侯一禽レ之、一言背レ命不レ嫌ニ公卿一醢レ之、是以爲レ延ニ一旦之身命一、爲レ遁ニ片時之陵辱一、萬乘聖主尙成ニ面展之媚一、重代之家君還致ニ膝行之

禮ハ、雖レ奪ニ代々相傳之家領ハ、上裁恐レ命卷レ舌、雖レ押ニ宮々相承之庄園ハ、天子憚レ威無レ言、乘レ勝之餘其驕倍一增、去年十一月追ニ捕太上天皇之棲抄ハ、掠ニ種々財貨ハ、押ニ流博陸輔佐之身ハ、奪ニ取國々之庄園ハ、叛逆之甚誠絕ニ古今ハ、其時我等須下行ニ向賊徒一以問中其罪上也、然而或相ニ量神慮ハ、或依レ稱ニ皇憲ハ、抑鬱陶送ニ光陰一之間、淸盛入道重發ニ軍兵ハ、打ニ園一院第二親王宮一之處、八幡三所春日大明神、嚮垂ニ影向(ヤウガウ)一奉レ擎ニ錢弼一送ヨ附貴寺ハ、奉レ預ニ新羅權現一之間、押ヨ開金樞一奉レ守ニ玉體ハ、王法不レ可レ盡之旨明矣、隨又貴寺捨レ命奉ニ守護一之條、含識之類誰不ニ隨喜一哉、我等在ニ遠域一感ニ其情一之處、淸盛入道猶起ニ凶器ハ、欲レ打ヨ入貴寺一之由、測(ヒソカニ)以承及兼致ニ用意ハ、爲レ成ニ合力ハ、廿二日晨旦發ニ大衆ハ、廿三日牒ヨ送諸寺ニ下ヨ知末寺ハ、調ヨ得軍士一之後、欲レ達ニ案內ニ之刻、靑鳥飛來投ニ一芳紙ハ、數日之鬱念一時解散、彼唐家淸涼一山之苾芻(クタ)、尙返ニ武宗之官兵ハ、況和國南北兩門之衆徒、盍レ攘ニ謀臣之群類ハ、能固ニ梁園左右之陣ハ、宜レ待ニ我等進發之告一者、勤ニ衆議一牒送如レ件、察レ狀勿ニ疑殆(コトサラニ)一故牒、

治承四年五月廿三日

權都維那　法師善勝
都維那　大法師有實
上座法橋上人位俊慶

(十四)從ニ興福寺大衆一諸事牒送之狀

興福寺大衆牒ニ東大寺衙一
欲下早駈ニ末寺庄園一被中供奉上今明中發ヨ向洛陽一
可レ助ニ園城寺佛法破滅一狀

牒諸宗雖レ異皆十二代之聖敎、諸寺雖レ區(マチマチ)同安ニ三世之佛像ハ、就レ中園城寺者、彌勒如來常住靈崛也、我等受ニ阿僧之流ハ、慣ニ慈氏之敎ハ、又貴寺八宗敎法相幷學レ之、豈不レ憶ニ彼寺之破滅一乎、而花洛之間有ニ一臣猜(ネタミ)ハ、平治元年以來押ヨ領於四海八埏(セン)ハ、如ニ奴婢一進ヨ退於百司六官ニ任ニ我意ハ、一毛違レ心則雖レ云ニ王侯一禽レ之、片言乖レ思雖レ爲ニ公卿一臨レ之、是以累代相傳之家君還成ニ膝行之禮ハ、萬乘尊重之國主殆致ニ面展之矯(イツハリ)ハ、遂廻ニ趙高指レ鹿之謀ハ、滅ニ王室一剩追ニ弗沙飛レ象之跡ハ、失ニ佛家ハ、卽今明之間、欲レ殘ニ害園城寺ハ、以未レ發以前不ニ相救一者、我等獨全有ニ何益一乎、然則不日調レ兵欲レ向ニ京洛ハ、佛法興廢只有ニ此綷(コトニ)ハ、且祈ヨ誓佛神ハ、可レ降ヨ伏魔軍ハ、且

驅催末寺庄園、被供奉者、冥叶天地之神慮、願保南北之佛法而已、仍粗勤由緒牒送如件、密狀勿令遲引故牒、

治承四年五月廿三日　　興福寺大衆等

(十五)山門園城寺與力之由六波羅上皇天台座主

江宥被下院宣

園城寺者元是謀叛之地也、誠乎箇事非寺之訴非法之欝同意八虐之輩、忽失皇法、欲滅佛法、早今日中企登山、勅定之趣具可被仰衆徒、內祈善神外降惡黨耳、抑深懸叡念於叡山、蓋誡一寺於一門、其上凶徒等忽被責兵甲者、定遁隱山上歟、兼得此意慥可令守護者、宜守院宣之趣之狀如件、仍言上如件、

治承四年五月廿四日　　左少辨行隆奉

謹上　天台座主御房

(十六)猶重被下院宣

園城寺之衆徒等、尙背勅命、於今者可被遣追討使也、一寺之滅亡雖歎思召、萬民之煩不可默歟、誠是魔緣之結構、盍仰佛界之冥助哉、滿山衆徒異口同音、可令祈申、又大威德供可被始行之由、依院宣言上如件、

五月廿四日　　左少辨行隆奉

(十七)文覺勸進帳

勸進僧文覺敬白

請殊蒙貴賤道俗助成高雄山靈地建立一院令勸修二世安樂大利勸進狀

夫以、眞如廣太雖斷生佛之假名、法性隨妄之雲厚覆、自聳十二因緣之峯以來、本有心蓮之月光幽而未顯三毒四慢之太虛、悲哉、佛日早沒生死流轉之衢冥々兮、唯耽色耽酒、未謝狂象跳猿之迷、徒謗人謗法、豈免琰羅獄卒之責哉、爰文覺適拂俗塵、雖餝法衣、惡業猶意逞而造于日夜、善苗又逆耳而廢于朝暮、痛哉、再歸三途之火坑、重永廻四生之苦輪、所以牟尼之憲法千萬軸、軸々明佛種之因、隨緣至誠之法一無不屆菩提之彼岸、故文覺無常觀門落淚、催上下親族之結緣、上品蓮臺運心建等妙覺王之靈場也、抑高雄者、山堆而顯鷲峰山之梢、洞禪而

鋪ニ商山洞之苔一、岩泉咽而曳レ布、嶺猿叫而遊レ枝、人里境遠而無ニ囂塵一、師蹤棲好而有ニ信心一、地形勝ニ尤可レ崇ニ佛法一、奉加微分、誰不ニ助成一乎、夙聞聚レ砂爲ニ佛塔一之功德、忽感ニ佛因一、何況於ニ一紙半錢寶財一乎、願建立成就而禁闕鳳曆御願圓滿、乃至都鄙遠近親踈黎民緇素、歌ニ堯舜無爲之化一、披ニ椿葉再改之咲一、況聖靈幽儀前後大小速至ニ一佛菩提之臺一、必跻ニ三身滿德之月一、仍勸進修行之趣、蓋以如レ件、

治承三年三月日　　文覺敬白

(十八)文覺平家追討之院宣申賜與ニ流人賴朝一事

早可レ追ニ討淸盛法師幷一類一事

右君子不レ直人者、令ニ民成レ愁、姦臣在ニ于朝一者、賢者不レ進、彼一類者曾非レ忽ニ諸朝家一、失ニ神威與ニ佛法一、旣爲ニ佛神之怨敵一、亦爲ニ王法朝敵一、仍仰ニ前右兵衞權佐源賴朝朝臣一、宜レ令レ追ニ討彼輩一早退ニ怨敵一奉レ安ニ震襟上矣、依ニ院宣一執達如レ件、

治承四年七月五日　　散位　光能奉

謹上　前右兵衞權佐殿

(十九)又依ニ淸盛入道申條一賴朝追討宣

左辨官下ニ東海東山道諸國一可ニ早追ニ討伊豆國流人右兵衞佐源朝臣賴朝幷與力輩一事

右大納言藤原實定、宣奉レ勅、伊豆國流人前右兵衞權佐源賴朝忽相ニ語凶惡徒黨一、欲レ虜ニ掠當國隣國一、叛逆之甚旣絕ニ常篇一、宜レ令下右近衞權少將平維盛朝臣、薩摩守同忠度朝臣、三河守同知盛朝臣等、追ニ討彼賴朝及與力之輩上、兼又東海東山道堪ニ武勇一者、同可レ令レ備ニ追討一、其中有下拔ニ殊功一輩上可レ加ニ不次賞一、仍宜行レ之、

治承四年九月六日　　藏人左中辨藤原朝臣經房奉

(二十)新院嚴島御幸御願文

蓋聞法性山靜、十四十五之月高晴、權化地深一陰一陽之風芳扇、方便力用不レ可ニ測量一者歟、夫嚴島者、名稱普聞之場効驗無雙之砌也、遙嶺之廻ニ社壇一也、自顯ニ大悲之高峙一、巨海之及ニ祠宇一也、暗表ニ弘誓之深湛一、仰レ之明德在レ頂、現當之望必滿歸レ之、容貌隨心鏡善之應

惟新也、凡率土之濱靡然向(ナンナントス)レ風、伏惟初以ニ庸昧之身ハ、忝蹈ミ皇王之位ハ、握ニ乾符一兮顧ニ徽分ハ、鎭迷ニ南面之理ハ、政望ニ四海一兮、耻ミ薄德更無ニ萬民之威仁ハ、猶守ニ謙遜於厲卿之訓ハ、樂ニ閑放於射山之屬ハ、而後偸抽ニ一心之精誠ハ、先詣ニ孤嶋之幽ハ、遂ニ機感純熟ハ、欽仰彌切者也、是宿善之所レ致也、豈非ニ深信介ロ然乎、況瑞籬之下仰ニ冥恩ハ、凝ニ懇念ニ而流ニ汗寶宮之裏ハ、垂ニ靈詫ニ有ニ其告之銘レ肝、就レ中殊指ニ怖畏謹愼之期ハ、專當ニ季夏初秋之候ハ、而問病痾忽侵彌思ニ神威之不ロ空、萍桂頻轉猶レ無ニ醫術之施ロ驗、雖レ求ニ祈禱一難レ散ニ霧霞ハ、不レ如乙抽ニ心符之志一重欲モ企ニ斗藪之行ハ、因レ茲白藏已闌之律、玄英漸近之天、殊專ニ齋肅ハ、遂以豫參、漠々寒風之底、臥ニ旅泊ニ而破レ夢、凄々徽陽之前望ニ遠路一而極レ眼、遂就ニ枌楡之砌ハ、敬展ニ淸淨之筵ハ、奉レ書コ寫色紙墨字妙法蓮華經一部八卷ハ、開結般若心阿彌陀等經各一卷、手自奉レ書コ寫金泥提婆品一卷ハ、文々之盡ニ懇精ハ、正施ニ紫磨於瑠璃之上ハ、字々之隔ニ妙跡ハ、未レ疊ニ漂波於張池之中ハ、冲襟之至世垂ニ憐愍ハ、于レ時蒼松蒼栢之陰共添ニ善利(ナランヂ)之種ハ、潮去潮來之響暗和ニ梵唄之聲ハ、法會得處隨喜双催、抑弟子辭ニ北闕之雲一八箇日矣、雖レ無ニ涼燠之多ハ、廻コ凌西海之波ニ一箇度焉、誠知ニ機緣之不ロ淺ニ歸依之思ハ、此故增進竭仰之志、因レ茲堅固、加レ之今度忝至ニ苔庭ハ、奉レ添ニ松府神一而有レ知レ莫レ棄ニ我願ハ、殊以ニ白業一奉レ祈ニ紫宮ハ、一日萬機之化廣披ニ龍圖鳳展之運一惟久、弟子病患忽散傳ニ淮南道士之方ハ、壽算無レ疆、論ニ山中射若之命ハ、抑當社者混ニ俗塵一而濟ニ利生人界一而振レ德、或三公九卿之臣、或芻蕘臺廝之輩、朝祈之客匪レ一、暮賽之者且千、但尊貴之歸敬雖レ多、院宮之往來未レ有レ之、禪定法皇初貽ニ其儀ハ、弟子眇身徐運ニ其志ハ、彼嵩高山之月前、漢武未レ拜ニ和光影ハ、蓬萊洞之雲底、天仙空隔ニ垂迹之塵ハ、如ニ當社一者、曾無ニ比類一仰願大明神、伏乞一乘經新照ニ丹祈ハ、忽彰(アラハシタマヘ)ニ玄應ハ、敬白、

治承四年九月二十一日　　太上天皇御諱

(廿一)山門都返奏狀

延曆寺衆徒等誠惶誠恐謹言

請レ被下特蒙ニ天恩一停中止遷都上子細狀

古釋尊以ニ遺敎一付コ屬國王一者、佛法皇法之德互護持故也、就レ中延曆年中桓武天皇傳敎大師深結ニ契約聖

主一、則興三此都一親崇二一乘圓宗一、大師亦開二當山一、忽備二百王御願一、其後歲及二四百廻一、佛日久耀二四明峰一、世過二三十八代一、天朝各保二十善之德一、上代宮城無二如レ此者一歟、蓋山洛古レ隣彼是相助故也、而今朝議忽變俄有二遷幸一、是惣(スベテ)四海之愁別一山之歎也、　先山僧等峯嵐雖レ閑恃二花洛一以送レ日、谷雪雖レ烈瞻二王城一以繼レ夜、若洛陽隔二遠路一、往還不二容易一者、豈不レ辭三姑山之月交二邊鄙之雲一哉是一、門徒上綱等、各從二公請一遠地二舊居之後一、德音難レ通恩凶易レ絕之時、一門小學等寧留二山門一哉是二、住山之者爲レ體也、遙去二故鄉之輩一、出二帝京一而蒙二撫育一、家在二王都一之類、以二近隣一而爲二便宜一、麓若變二荒野一者、峰豈留二人跡一乎、悲哉、　數百歲之法燈今時忽消、歎哉、千萬輩之禪林此時將レ滅是三、但當寺是鎮護國家之道場、特爲二一天之固一、靈驗殊勝之伽藍獨秀二万山之中一、所之魔滅何無二衆徒之愁歎一矣、　法之倫亡、豈非二朝家之怖畏一哉是四、況七社權現之寶前是万人拜觀之靈場也、　若王宮遠隔二神社一、不レ近二瑞籬之月前一者、鳳輦勿レ臨二叢祠之露下一、鳩巢永絕、若參詣疎禮奠違レ例者、啻非レ無二冥應一、恐又殘二神恨一乎是五、凡當都者、是輙不レ可レ捨之勝地也、昔聖德太子相二此地一

云、所有二王氣一必建二都城一云云、大聖遠鑒誰忽二諸之一、況青龍白虎悉備朱雀玄武無レ闕、天然吉處不レ可レ不レ執是六、彼月氏靈山則攀二王城東北一大聖之明崛也、日域叡岳又峙二帝都丑寅一、護國之靈地也、忝同二天竺一之勝境一、久拂二鬼門之凶害一、地形奇特誰不レ惜乎是七、　況賀茂・八幡・比叡・春日・平野・大原・松尾・稻荷・祇園・北野・鞍馬・淸水・廣隆・仁和寺、如レ此神社佛寺等者、或大聖鑒二機緣垂迹一、或權者相二勝地一占レ砌、則是護國護山之崇廟也、將又勝敵勝軍之靈像也、　遶二王城之八方一、利二洛中萬人貴賤一、參詣歸依成レ市、佛神利生感應如レ在、何避二靈應之砌一、忽趣二無佛之境(ゴン)一乎、設新建二精舍一、縱奉レ請二神明一、世及二濁亂一、人非二大權大聖一、感降不二必有レ之是八、況是等神社佛寺之中、　或有二諸家氏寺一修二不退勤行一、子胤相續自興二佛法一所也、如レ此之倫(トモガラ)恣(ホシイマヽニ)從二公務一、强別二私宅一者、　豈非レ抑二人之善心一、是天下愁歎不レ可レ不レ痛是九、　南都北山之僧徒忝從二公請一之時、朝出二蓬壺一暮歸二練若一、宮城遠隔二往還一云　何若捨二本尊一者多レ痛、若背二王命一者有レ怖、進退惟谷、東西既暗是十、憶レ昔國豐民厚興レ都無レ傷、　今國之民窮遷幸有レ煩、是以或有下忽別二親屬一企二旅宿一者上、或有下纔破二私

宅ニ不レ堪ニ運載一者上、愁歎之聲已動ニ天地一、仁恩之至豈不レ顧レ之、七道諸國之調貢、萬物運上之便宜、西河東津有ニ便無レ煩、若移ニ餘處一定有ニ後悔一歟、又太將軍至ニ酉方角一已塞、何背ニ陰陽一、忽遠ニ東西一、山門禪徒專思ニ玉體安穩一、愚意所レ及爭(イカデカ)不レ鳴ニ諫鼓一、但俄有ニ遷都一、是仍ニ何事一、若由ニ凶徒亂逆一者、兵革既靜朝廷何勤、若由ニ鬼物怪異一者、可下歸ニ三寶一以謝中天災上、可下撫ニ萬民一以資中皇德上、何動ニ本宮一、故奇(アヤシミ)ニ佛神圍繞之砌一、剩企ニ遠行態一犯ニ人民惱亂之咎一、抑退ニ國之怨敵一拂ニ朝之天危一、從レ昔以來偏山門之營也、或本師祖師誓護ニ百王一、或醫王山王擁ニ護一天一、所レ謂惠亮摧レ腦尊意振レ劍、凡捨レ身事レ君無レ如ニ吾山一、古今勝驗載在ニ人口一、今何有ニ遷都一、欲レ滅ニ此所一哉、況堯雲舜星之耀ニ一朝一、天枝帝葉之傳ニ万代一、則是九條右亟相願力也、豈非ニ慈惠大僧正之加持一哉、聖朝詔云、朕是右亟相之末葉也、何背ニ慈覺大師之門跡一、今云何(イカンソ)忘ニ前蹤一、不レ顧ニ本山滅亡一哉、山僧之訴詔雖レ不ニ必當一レ理、且以ニ所功勞一久蒙ニ裁許一來矣、況於ニ此欝望一者、非ニ獨衆徒之愁一、且奉レ爲ニ聖朝一、兼又爲ニ兆民一哉、加レ之於ニ今度事一、殊抽ニ愚忠一、一門園城雖ニ相招一仰ニ勅宣一、萬人之誹謗難三宛闇巷伏祈ニ御願一、何固ニ勤勞一、還欲レ滅ニ一處一、運レ功蒙レ罸、豈可レ然哉、縱雖レ無ニ別天感一、欲レ蒙ニ此裁許一、當山之存亡只在ニ此左右一故也、望請天恩再廻ニ叡慮一、被レ止ニ件遷都一者、三千人胸火忽滅、百萬衆德水不レ乏、衆徒等不レ耐ニ悲歎之至一、誠惶誠恐謹言、

治承四年十一月日

(廿二)坂東落書

早爲ニ一天泰平萬人安穩一可レ追ヲ討平家一族一事

右倩案治承四年歳次庚子者、相下當藤子平將門被ニ追討一之時代上、何當ニ此時一而令ニ默止一哉、謹見ニ此淨海法師之亂惡一、殆過ニ彼將軍將門之謀叛百千萬億一也、昔將門者於ニ都城之外一而企ニ濫行一、今淨海者於ニ洛陽之內一發ニ謀叛一、所レ謂捕ニ納言宰相一而其身繋縛、搦ニ關白大臣一而配ヲ流遠域一、加レ之或追ヲ籠當今聖主一、奪レ位而讓ニ于子孫一、或責ヲ出新本天皇一、入レ樓而留ニ於理政一矣、此叛逆絕ニ古今一、前代未聞之處、若稱ニ院宣一、若號ニ令旨一、恣下ヲ行之一、何王之治天、何院之宣旨哉、皆是自由之濫宣也、抑自ニ平治元年一以來、數ニ平氏持レ世既二十一年也、是則改ニ一昔之代一而相ヲ當源氏可レ持世之時ニ乎、而

今思ニ事情一、平氏捧ニ赤色一、持レ世是火之性也、今既果報之薪盡而敢無ニ可レ令レ放レ光之據一、又平氏謂下以ニ平治之年號一而持上レ世、治承者上下之文字具レ水、以ニ黑色之水一、可レ滅ニ赤色之火一表也、昔承平今治承以ニ三水之字一、作ニ年號之品一、本末以レ水失レ火事不レ可レ有ニ相違一者也、兼又今年之支干金與レ水也、取レ色白與レ黑也、爰尋ニ其先蹤一者、八幡殿之家捧ニ白色一、白者則金之性也、刑部殿之家捧ニ黑色一、黑者則水之性也、水與レ金和合持ニ長生一之相也、兼又淨海者生年戊戌六十三支干共是土也、土冬季死水冬季生、然者當ニ冬季一而平氏可ニ滅亡一之時節也、被レ討ニ平氏一之條更不レ可レ有レ疑者哉、就レ中八幡大菩薩百王守護八十一代也、今其誓不レ可ニ誤給一、此時不ニ思立一何日散ニ愁恐一乎、嗚呼當ニ冬季一水爲ニ王相一、滅レ火有ニ其德一、敢不レ可レ盡ニ思慮一、更不レ可レ延ニ時日一、七道諸國之人神社佛閣之族、擧唱ニ源氏勝軍一、機感相應入洛時至、早進ニ發于王宮一靜ニ天下一、可下奉レ改ニ國主一全中世上上也、凡如ニ風聞一者平氏與ニ財產一而相ニ語山僧一、抛ニ賄賂一而招ニ集國賊一、可下成ニ與力一責中東國上之由、有ニ議定一云云、是則王城發向及ニ遲々一故也、今年不レ遂ニ其志一者、敵軍振ニ珍寶一而成ニ多勢一、諸人耽ニ貪欲一而有ニ變改一者、後悔屢出來歟、仍爲レ佛爲レ神爲レ朝爲レ民、可レ被レ討ニ平家一族之謀臣一矣、以送ニ此狀一而已、

治承四年十一月日

（廿三）兼遠起請文

謹請再拜々々

早依レ有ニ謀叛企一可レ搦ニ進木曾冠者義仲一由起請文事

右上奉レ始ニ梵天帝釋四大天皇日月三光七耀九星二十八宿一、下內海外海龍神八部堅牢地神冥官冥衆日本國中七道諸國大小諸神鎭守王城諸大明神驚申而白、木曾冠者義仲者、爲ニ六孫王之苗裔一繼ニ八幡殿後胤弓馬之家一也、武藝之器也、依レ之被レ引ニ源家之執心一、爲レ謝ニ宿祖之怨念一、相ニ語北陸諸國之凶黨一、擬レ滅ニ平家一族之忠臣一之由、有ニ其聞一甚以濫吹也、早仰ニ養父中三權頭兼遠一、而可レ搦ニ取彼義仲一云云、謹蒙ニ嚴命一畢、任下被ニ仰下一之旨上、速可レ搦ニ進義仲一、若僞申者上件之神祇冥衆之罸於ニ兼遠之八萬四千之毛孔ニ蒙レ天、現世當來永神明佛陀之利益仁可レ奉レ漏之起請之狀、仍天

以天如レ件、

治承五年正月日

中原兼遠

源平往來卷上終

源平往來卷下目錄

源平往來卷下

（一）平家賴朝追討申ニ賜廳宣ニ而奧州之秀衡遣

狀

左辨官下ニ　奧州之住人等一

應下早令レ追中討流人前右兵衛權佐源賴朝上事

右奉レ仰併件賴朝、去永曆元年坐罪配ニ流伊豆國一、須レ悔ニ身過一、宜レ從ニ朝憲一、而猶懷ニ梟惡之心一、旁企ニ狼戾之謀一、或宛ニ凌國宰之使一、或侵ニ奪土民之財一、於ニ東山東海道國々一、除ニ伊賀・伊勢・飛驒・出羽・陸奧外一、皆趣ニ其勸誘之詞一、悉隨ニ彼布略之語一、因レ茲差ニ遣官軍一、殊可レ令ニ防禦一之處、近江美濃兩國之反者、卽敗ニ績尾張三河一、以ニ東之賊衆一、尙固守、抑源氏等皆悉可レ被ニ誅戮一之由、依レ有ニ風聞一、一姓之輩共發ニ惡心一云云、此事尤虛誕也、於ニ賴政法師一者、依レ爲ニ顯然之罪科一、忽所レ被レ加ニ刑罰一也、其外源氏無ニ指過怠一、何故被レ誅、各守ニ帝猷一抽ニ臣忠一、自今以後莫レ信ニ浮讒一、兼存ニ此子細一、早可レ歸ニ皇化一者也、奉レ仰下知如レ件、諸國宜ニ承知一、仍レ宣行レ之、敢不レ可ニ違失一之故下、

治承五年四月廿八日　左大史小槻宿禰奉

（二）木曾三箇馬場願書

敬白　立申大願事

一可レ奉ニ勤仕一加賀馬場白山本宮三十講頭之事

一可レ奉ニ勤仕一越前馬場平泉寺三十講頭之事

一可レ奉ニ勤仕一美濃馬場長瀧寺三十講頭之事

右白山妙理權現者、觀音薩埵之垂跡、自在吉祥之化現也、卜ニ三州高岩之靈崛一、利ニ四海率土之尊卑一、參詣合掌輩、滿ニ二世悉地一、歸依低頭之類、誇ニ一生之榮耀一、惣鎭護國家之寶社、天下無双之靈神者歟、而自ニ近年一以降、平家忽昇ニ不當之高位一、飽跨ニ非順之榮爵一、忝蔑ニ如十善萬乘之聖主一、恣凌ニ辱二台九棘之臣下一、或追ニ捕太上法皇之陬一、或押ニ取博陸殿下之身一、或打ニ圍親王之仙居一、或奪ニ取諸宮之權勢一、五畿七道何處不レ愁レ之、百官萬民誰人不レ歎レ之、已欲レ斷ニ王孫一、豈非ニ朝家怨敵一哉、是一　次燒ニ南京七寺之佛閣一、斷ニ東漸八宗之惠命一、盡ニ園城三井之法水一、滅ニ智證一門之學侶一、其逆勝ニ調達一、其過越ニ波旬一、月氏之大天再誕歟、日域守屋重來歟、已魔ニ滅佛像經卷一、忽燒ニ拂堂舍僧坊一、寧非ニ法家之怨敵一

哉、是二次源氏平氏之兩家、自レ昔至二于今一、如二牛角一天子左右之守護、朝家前後之將軍也、而觸レ事決二雌雄一、伺レ隙致二鉾楯一、仍代々企二合戰一、度々諍二勝負一、既有二宿世之怨心一、是非二當時之大敵一歟、是三因レ茲忝蒙二神明神道之冥助一、爲レ降二佛法王法之怨敵一、立二大願於三州之馬場一、仰二感應於三所權現一耳、就レ中先代伏二王敵一、皆由二佛神之贔負一、此時降二謀叛一、尋無二權現之勝利一哉、加レ之白山之本地觀音大士、於二怖畏急難之中一、能施二無畏一、縱雖二平家之軍兵如レ雲集如レ霞下一、衆怨悉退散之金言有レ憑、縱雖下謀臣之凶徒、加二咒咀一致中怨念上、還著於本人之誓約無レ疑、然者還念二權現本誓一、感應不レ可レ廻レ踵、何況武家自二先祖一、仰二八幡大菩薩之加護一、振レ威施レ德而八幡之本地者、觀音本師阿彌陀也、白山御體者、彌陀脇士觀世音也、師弟合レ力感應潜通者歟、況彌陀有二無量壽之號一、不レ授二千秋萬歳之算一哉、觀音現二藥樹王之身一、寧不レ令二不老不死之藥一乎、云二本地一云二垂跡一、勝利揭焉、付二公家一付二私宅一、欲レ遂二素懷一、所レ志無レ私、奉公在頂偏爲レ降二王敵一、專爲レ接二天下一、忽爲レ興二佛法一、鎭爲レ仰二神明一也、傳聞天神無レ怒、但嫌二不善一地祇無レ祟、但厭二過患一、所三以平家奪二王位一、是不善之至哉、謀臣滅二佛法一、忽過患之甚也、日月未レ墜レ地、星宿猶懸レ天、神明之爲二神明一者、此境不レ施レ驗、三寶之爲二三寶一者、此刻不レ振レ威、然則權現照二我等懇誠一、宜レ令レ罰二平家逆族一、我等蒙二權現之加力一、願欲レ討二謀叛之輩一、若酬二丹祈一感應速通者、上件大願無二懈怠一可二果遂一也者、彌施二源家之面目一、新副二社壇之莊嚴一、鎭誇二神道之冥加一、倍致二佛法之興隆一、仍所二立申一如レ件、

壽永二年五月九日　源義仲敬白

(三)同埴生之八幡宮願書

歸命頂禮八幡大菩薩、日域朝廷之本主累世明君之曩祖、爲レ守二寶祚一、爲レ利二蒼生一、改二三身金容一、開二三所之權扉一、爰累年之間有二平相國一、恣管二領四海一、惱二亂萬民一、猥蔑二萬乘一焚二燒諸寺一、已是佛法之讎、王法之敵也、義仲苟生二弓馬之家一、僅繼二箕裘之塵一、見二聞彼暴惡一不レ能レ顧二思慮一、任二運於天道一、投二身於國家一、試起二義兵一欲レ退二凶器一、鬪戰雖レ合二兩家之陣一、士卒未レ得二一塵之勇一處、今於二一陣一上二旗戰場一、忽拜二三所和光之社壇一、機感之純熟已明、凶徒之誅戮無レ疑矣、降二歡喜之淚一、

銘二渇仰於肝一、就レ中曾祖父前陸奥守義家朝臣、寄二附身於宗廟氏族一、自レ號二名於八幡太郎一以降、爲二其門葉一者、無レ不二歸敬一矣、義仲爲二其後胤一傾レ頭年久、今起二此大功一、喩如下嬰兒以レ蠡量二巨海一、蟷螂取レ斧向中奔車上、然間爲レ君爲レ國起レ之、爲レ身爲レ私不レ起レ志之至、神鑒在レ暗、憑哉、悅哉、伏願冥慮加レ威、靈神合レ力、勝決二一時一、怨退二四方一、然則丹祈相二叶冥慮一、幽賢可レ成二加護一者、先令レ見二一之瑞相一給、仍祈誓如レ件、

壽永二年五月十一日　　源義仲敬白

(四)平家一門延曆寺願書

敬白

可下以二延曆寺一歸依准二氏寺一、以二日吉社一尊崇如二氏社一、一向仰中天台佛法上事、

右當家一族之輩、殊有二祈誓旨趣一、何者叡山者桓武天皇御宇、傳敎大師入唐歸朝之後、弘二圓頓敎法於斯處一、傳二舍那大戒於其中一以來、專爲二佛法繁昌之靈崛一、久備二鎭護國家之道場一、方今伊豆國流人前右兵衞權佐源頼朝、不レ悔二身過一、還嘲二朝憲一、加レ之與二姦謀叛一、致二同心一之源氏等、義仲行家以下結レ黨有レ數、隣境遠境抄二掠數國一、年貢土貢押二領萬物一、因レ茲且追二累代勳功之跡一、且任二當時弓馬之藝一、速追二討賊徒一、可レ降二伏凶黨一之由、苟銜二勅命一頻企二征伐一、爰魚鱗鶴翼之陣、官軍不レ得レ利、星旗電戟之威、逆類似レ乘レ勝、若非二佛神之加被一、爭鎭二叛逆之凶亂一、是以一向歸二天台之佛法一、不退仰二日吉之神恩一而已、何況忝憶二臣等之曩祖一、可レ謂二本願餘裔一、彌可二崇重一、彌可二恭敬一、自今以後山門有レ慶、爲二一門之慶一、社家有レ鬱、爲二一家之鬱一、付レ善付レ惡、成レ喜成レ憂、各傳二子孫一、永不二失墜一、藤氏者以二春日社興福寺一爲二氏社氏寺一、久歸二依法相大乘之宗一、平家者以二日吉社延曆寺一、如二氏社氏寺一、新値二遇圓實頓悟之敎一、彼者昔遺跡也、爲レ家思二榮幸一、是者今祈誓也、爲レ君請二追罰一、仰願山王七社王子眷屬、東西滿山護法聖衆十二大願、醫王善逝日光月光十二神將、照二無二之丹誠一、垂二唯一之玄應一、然則邪謀逆心之賊、速平二黨於軍門一、暴惡殘害之徒必傳二首於京都一、我等之苦請二佛神其捨諸一、依當家公卿等異口同音、作レ禮而請所如レ件、

壽永二年七月日

従三位行右近衞權中將平朝臣　資盛
従三位平朝臣　通盛
従三位行右近衞權中將平朝臣　維盛
正三位行左近衞權中將兼但馬守平朝臣重衡
正三位行右衞門督兼侍從平朝臣　淸宗
參議正三位皇太后宮權大夫兼修理大夫備前權大夫平朝臣　經盛
従二位行權中納言平朝臣　知盛
従二位行中納言平朝臣　敎盛
正二位行權大納言兼陸奥出羽按察使平朝臣　賴盛
前内大臣從一位平朝臣　宗盛

又近江國佐々木庄領家預所得分等、且爲ニ朝家安穩一、且爲レ資ニ故入道菩提一、併所レ廻ニ向千僧供養料一候也、件庄早爲ニ沙汰一、可下令ニ知行一給上候、恐々謹言、

七月十九日　平　宗盛

謹上　座主御坊

(五)木曾山門牒狀

源義仲謹言

奉ニ 親王宣一欲レ令レ停ニ止平家逆亂一事

右平治以來、平家跨張之間、貴賤擎レ手、緇素戴レ足、恣進ニ止帝位一、恣虜ニ掠諸國一、或追ニ捕權門勢家一、悉令レ及ニ恥辱一、或搦ニ捕月卿雲客一、無レ令レ知ニ行方一、就レ中治承三年十一月、移ニ法皇之仙居於鳥羽南宮一、遷ニ博陸之配所於夷夏鎭西一、加レ之不レ侵蒙レ咎、無レ罪失レ命、積レ功奪レ國、抽レ忠解レ官之輩、不レ可ニ勝計一者歟、然而衆人不レ言、道路以レ目之所、去治承四年五月中旬、打ニ圍親王家一、欲レ斷ニ刹利種一之日、百王治天之御運未レ盡、其時本朝守護之神冥尙在ニ本宮一、故奉レ保ニ仙駕於園城寺一、其時義仲兄源仲家、依レ難レ忘ニ芳恩一、同以奉ニ扈從一、翌日靑鳥飛來、令旨密通、有下可ニ參篤一之催上、忝奉ニ嚴命一、欲レ企ニ豫參一之處、平家聞ニ此事一、前右大將喚ニ籠義仲之乳人中原兼遠之身一、其上怨敵滿ニ國中一、郞從無ニ相順一、心身迷ニ山野一、東西不覺之間、未レ致ニ參洛一之時、有ニ御詮議一云、園城寺之爲レ體、地形平均不レ能レ禦レ敵、仍欲下奉レ進ニ仙蹕於南都之故城一、令上遂ニ合戰於宇治橋之

邊ニ之刻、賴政卿父子三人仲綱兼綱以下率爾而打立事、與レ心相違之間、東國之郎從一人而雖レ無ニ相顧者一、依レ惜ニ家名一捨レ命、禦戰之庭被レ討者多、相遁者少、骸埋ニ龍門原上之土一、名施ニ鳳凰城都之宮ニ畢、哀哉、令旨數度之約、一時難ニ參會一、悲哉、同門親昵之契一旦絕ニ面謁一、然者、於ニ平家ニ者、公私欲レ散ニ會稽之耻ニ者也、幸被レ下ニ令旨一、於ニ東山東海之武士一、令レ決ニ雌雄於越後越前之凶黨一、平家之軍兵等、刎レ首終レ命之者、不レ知ニ幾千萬一、前右兵衞佐源賴朝同義仲等、自レ奉ニ親王之宣一、以後尾張・三河・遠江・伊豆・駿河・安房・上總・下總・上野・下野・武藏・相摸・常陸・出羽・陸奧・甲斐・信濃・越後・越中・能登・加賀・越前等、惣廿三箇國、既打從畢、於ニ東山道先陣一者、令レ打ニ立尾張墨俣河邊一、北陸道先陣者、已著ニ于越前國府一、責ニ討平家黨ニ計也、抑貴山被レ同ニ心親王之善政ニ否、令レ與ニ力平家惡逆ニ否、若令レ與ニ力彼黨ニ者、定相ニ禦親王御使ニ歟、我等不レ慮對ニ天台之衆徒ニ、不レ期企ニ非分之合戰ニ事、至無レ益哉、忍辱之衣上鎮著ニ甲冑一、慈悲之心中猥巧ニ鬪戰ニ者、僧侶之行儀不レ可レ然、速飜ニ平家値遇之僉議一、被レ修ニ當家安穩之祈禱一、是則仰ニ叡山之佛法一、優淨行苾蒭之思切故也、若猶無ニ承引ニ者、自滅ニ慈覺之門徒一、定有ニ衆徒之後悔ニ者歟、如レ此觸中事、全非レ畏ニ衆徒之武勇一、偏只尊ニ常住之三寶ニ故也、傳聞佛法護ニ皇法一、皇法崇ニ佛法一、依レ之興福園城寺之大衆奉ニ親王之御方ニ之故、爲ニ平家惡行一、始レ自ニ園城寺之坊舍一、南都七大諸寺之堂社僧坊等、併被ニ燒拂一、云云、其中東大寺者、聖武天皇之御願也、我朝第一之奇特也、金銅盧舍那佛之像、烏瑟忽歸ニ花王之本土一、堂閣空沂ニ蒼海之波濤一、八萬四千之相好、秋月隱ニ四重雲一、四十一地之瓔珞、夜星漂ニ十惡風ニ矣、每レ聞ニ此事一、不覺之淚洗レ面、隨分之歎焦レ胸、專雖レ在ニ俗武士之心一、盡レ思ニ佛法魔滅之悲ニ哉、縱不ニ佛法破滅ニ者、唯貴山之計也、但台嶺四明之洞孤靜、園城三井之流半竭、根本中堂之燈獨耀、七大諸寺之光忽消、三千之僧侶豈不レ懷ニ此愁ニ哉、一山之衆徒寧不レ歎ニ此事ニ乎、存ニ此道理ニ被レ隨ニ令旨ニ者、彌恭ニ敬十二願王一、共歸ニ依三千淨行一、夫八幡大菩薩者三代聖朝之權化、加茂平野明神者、二世皇帝之應跡哉、守ニ其子孫一、神慮有ニ何疑一、況叡山衆徒、殊護ニ持國家ニ先蹤也、彼惠亮摧レ惱、尊意振レ劍捨ニ身命一、奉レ祈ニ聖朝安穩之旨一、勝利在ニ人口ニ者哉、或詔書云、朕是右丞相之末葉也、何背ニ

慈覺大師之門跡、是則慈惠大僧正修驗所レ致也、早遂二彼先規、上祈二請百王無爲之由、下被レ廻二萬民豐饒之計一者、七社權現之威光益盛、三塔衆徒之願力彌新歟、爰義仲以二不肖之身、誤打二廻廿餘箇國、涇渭之間云二神社佛寺之御領、云二權門勢家之庄薗、不レ遂二乃貢之運上、誠是自然之恐戰也、申而有レ餘、謝而難レ遁、側聞自二諸國七道一所濟年貢併號二兵粮米、自二平家一默取レ之云云、縱雖レ有二辨濟之深志、全不レ爲二領主依怙、仍密歎二路頭之難、斷二平家之兵粮米、努々莫レ處二將門純友之類、神不レ禀レ非者、恭令レ知三見心中之精勤二耳、宜以二此等趣、内令レ達二三千之衆徒、外被レ聞二九重之貴賤一者、生前之所望也、一期之懇志也、義仲恐惶謹言、

壽永二年七月十日　源　義仲

進上　惠光坊律師御房

(六)山門僉議返牒狀

七月十日之御書狀、同十六日到來披閱之處、數日鬱念一時解散、夫源家者自レ古携二武弓一奉二朝廷、振二威勢一禦二王敵、抑平氏背二朝章一起二兵亂、輕二皇威一好二謀叛、不レ被レ征二伐平家一者、爭保二佛法一哉、爰二源家一被レ制二伏彼類二之間、追二捕一取本寺千僧供物、依レ侵二損末社之神輿、衆徒等深懷二訴訟、欲レ達二案内一之處、青鳥飛來幸投二書札、於レ今者永飜二平家安穩之祈精、速可レ隨二源家合力之僉議一也、是則歎二朝威之陵遲、悲二佛法之破滅一故也、夫漢家貞元之曆、圓宗興隆、本朝延曆之天、一乘弘宣之後、桓武天皇興三平安城、親崇敬一代五時之佛法、傳敎大師開二天台山、遠奉レ祈二百王無爲之御願、以來守二金輪一守二玉體、偏在二三千之丹心、飜二天變一拂二地夭、唯是一山之効驗也、因レ茲代々賢王皆仰二蘿洞之精誠、世々重臣悉恃二台岳之信心、所謂一條院御宇、偏恃二慈覺大師門徒一之綸言明白也、九條右丞相幷御堂入道大相國發願文曰、雖レ居二黄閣之重臣、願レ爲二白衣之門弟、子々孫々久固二帝王皇后之基、代々世々永傳二大師遺弟之道、同施二賢王無爲之德、加レ之永治二年、鳥羽法皇參二叡山、御願文曰、昔踐二九五之尊位、今列二三千之禪徒、倩思レ之感涙難レ押、靜案レ之隨喜尤深、星霜四百廻、皇德三十代、天朝久保二十善之位、德化普施二四海之民、守レ國守レ家之道場也、爲レ公爲レ臣之聖跡也、運二上本寺千僧供物、改二作末社神輿、

末寺庄園併如レ舊被ニ安堵一者、三千合掌而祈ニ玉體於東海之光一、一山揚レ聲而令レ傾ニ平家於南山之宮一、凶徒傾レ首來詣、怨敵束レ手乞レ降、十乘床上鎮扇ニ五日之風一、三密壇前遙濯ニ十旬之雨一者、依ニ衆徒僉議一、執達如レ件、

壽永二年七月十七日　　大衆等

（七）賴朝征夷將軍宣

左辨官下ニ　五畿內　東海　東山　北陸　山陰　山陽　南海　西海　已上諸國一

早賴朝朝臣可レ令レ爲ニ征夷大將軍一事

右左大臣藤原朝臣兼實宣奉レ勅、從四位下行前右兵衞權佐源賴朝朝臣、可レ令レ爲ニ征夷大將軍一者、宜レ令ニ承知一、依レ宣行レ之、

壽永三年八月日　　左大史小槻宿禰奉

左大辨藤原朝臣在判

（八）同院宣請文

去八月七日之院宣、今月二日到來、被ニ仰下一之旨、跪以所レ請如レ件、

抑就ニ院宣之旨趣一、倩思ニ姦臣之滅亡一、是偏明神之冥罰也、更非ニ賴朝功力一、勸賞之間事、只叡念之趣可レ足、

壽永二年九月日　　源　賴朝

奉　左大辨藤原兼實公

（九）木曾山門怠狀

山上貴所義仲謹解

叡山大衆忝振ニ神輿於山上一、猥搆ニ城郭於東西一、更不レ開ニ修學之窓一、偏專ニ兵仗之營一、尋ニ其根源一者、義仲住ニ梟惡之心一、可レ追ニ捕山上坂本一之由、有ニ風聞一云云、此條極僻事也、且滿山三寶護法聖衆、可下令レ垂ニ知見一給上、自企ニ參洛一之日、宜レ仰ニ醫王山王之加護一、顯憑ニ三塔三千之與力一、今何始可レ致ニ忽諸一哉、雖レ有ニ歸依之志一、全無ニ違背之思一者也、但於ニ京中一搦ニ捕山僧一之由、有ニ其聞一云云、此條深恐怖、號ニ山僧一、好ニ狼藉一之輩在レ之、仍爲レ糺ニ眞僞一、粗尋承間、自然狼藉出來歟、更不レ滿レ避レ儀、惣如ニ山上風聞一者、義仲卒ニ軍兵一可レ令ニ登山一云云、如ニ洛中浮說一者、衆徒企ニ蜂起一可レ被ニ下洛一、是偏天魔所爲歟、不レ可レ及ニ自他信用一、且以ニ此旨一可下令レ披ニ露山上一給上狀如レ件、

十一月十三日　　伊豫守源義仲上

進上　天台座主御房

(十)頼朝爲追討木曾山門牒狀

牒　延暦寺衙

欲被且告七社神明祈三塔佛法追討謀叛賊徒義仲幷與力輩

牒、遠尋往昔近思今來、天地開闢以來世途之間、依佛神之鎭護、天子治政、依天子之敬禮、佛神增光、云佛神云天子、互奉守之故也、于茲云源氏云平氏、以兩家之奉公者、爲鎭海內之夷敵、爲討國土之姦士也、而當家親父之時、依不慮之勸誘、蒙叛逆之勅罪、其刻頼朝被宥幼稚、預于配流、然而平氏獨步洛陽之棲、恣究爵官之位、家之繁昌身之富貴、誇兩箇之朝恩、執一天之權威、忽蔑如法皇、剩奉誅親王、因茲頼朝爲君爲世爲追討凶徒、仰年來之郞徒、起東國之武士、去治承以後忝蒙勅命、欲勵勳功之間、先以山道北陸之餘勢、令襲雲霞群集之逆黨之處、平氏早退散洛、向西海之浪、爰義仲等稱朝敵追討而先申賜勸賞、次押領所帶、無程逐平氏之跡、專逆意之企、去十一月十九日、奉襲一院、燒拂仙洞、追討重臣、剝奪衣裳、就中當山座主幷御弟子宮、令入其烈、云云、叛逆之甚古今無比類者也、仍催上東國之兵、可追討彼逆徒也、獲其首雖無疑、且祈誓佛神之冥助、且爲乞衆徒之與力、殊欲被引率矣、仍牒送如件、以牒、

壽永二年　　前右兵衛佐源朝臣

(十一)熊谷送狀

直實謹言上、不慮奉參會此君之間、挿吳王得勾踐、秦皇遇燕丹之嘉、直欲決勝負之刻、依拜容儀、俄忘怨敵之思、忽抛武威之勇、剩加守護奉供奉之處、大勢襲來之間、始雖辭源氏參平家、彼多勢此無勢也、樊噲之威還縮、養由之藝速約、爰直實適稟生於弓馬之家幸、眩武勇於日域、廻謀落城、靡旗虛敵、雖天下無双之得名、如蟷螂合力而覆車、螻蟻一心而穿岸、恐挽弓放箭、空被奪忠命於同軍之戟塵、覃子憂名於傍輩之後代、自他背身之本望非家之面目、然間奉仰此君御素意之處、早賜御命、可訪菩提之由、依被仰下、乍抑落淚、

不レ謀而賜二御頸一畢、恨哉、此君與二直實一奉レ結二緣於惡世一、悲哉、宿運久萠至レ今成二怨讎之害一、雖レ然飜二此逆緣一者、爭互蒙二生死之紲一、不レ成二一蓮之實一哉、然則偏卜二閑居之地形一、懇可レ奉レ祈二御菩提一、直實所レ申眞僞定後聞無二其隱一候歟、以二此趣一可レ有レ洩二御披露一候、恐惶謹言、

壽永三年二月十三日　　　丹治直實

進上　平內左衞門尉殿

(十二)經盛返狀

今月七日於二攝州一谷一被レ討二敦盛一、死骸并遺物等送賜候畢、此事自下出二花洛之古鄕一、漂中西海之波上上以來、兼所レ存也、今非レ可レ驚、故望二戰場之上一者、何有二再歸之思一哉、盛者必衰者無常之理也、老少前後者穢土之習也、然共爲レ親爲レ子、先世之契不レ淺、釋尊愛二羅睺之存一、樂天悲二一子之別一、應身權化猶以如レ此、況凡夫爭不レ歎哉、而去七日自下討二立于戰場一之朝上、迄二于後旅船之幕一、其面影未レ放レ身、來燕之聲幽、歸雁之翅空、死生無二告者一而迷二行方存亡一、聞二音信一而知二由緖一、仰レ天伏レ地訴レ之、碎レ心焦レ肝祈レ之、偏仰二神明之納受一、併待二佛陀之感應一之處、於二七日之內一今見二此貌一、佛神之効驗有レ誠而不レ空、內哀傷徹レ骨外感淚灑レ袖、生而不レ劣二再來一、蘇而相同重見、抑非二貴邊芳恩一者、爭今得二相見一哉、一門凰塵猶捨退、況於二軍徒怨敵之人一乎、訪二和漢兩國之儀一、顧二古今數代之法一、未レ聞二其例一、此恩深厚須彌頂下、蒼海還淺、進酬自過去、遠々退難レ報、未來永々者歟、萬端雖レ多、難レ盡二筆紙一、謹言、

二月十四日　　　左衞門尉平公朝

進上　熊谷次郎殿

御返事

(十三)三種神器可レ歸二上帝都一院宣

一人聖帝出二北闕九重之臺一而幸二于九洲一、三種神器移二南海四國之境一而經二數年一、尤朝家之御歎亡國之爲レ基也、彼重衡卿者、東大寺燒失之逆臣也、賴朝任二申請之旨一、雖レ須レ被レ行二死罪一、獨別二親類一已爲二生虜一、籠鳥戀レ雲之思遙浮二千里之南海一、歸雁失レ友之情定通二九重之中途一歟、然則於レ奉レ返二入三種祇器一者、速可レ被レ寬二宥彼卿一也者、院宣如レ此、仍執達如レ件、

元曆元年二月十四日　　　大膳大夫業忠奉

平大納言殿

(十四)內大臣宗盛院宣之請文

今月十四日之院宣、同二十四日讚岐國屋島浦到來、謹所レ承如レ件、就レ之案レ之、通盛以下當家數輩、於二攝津國一谷一已被レ誅畢、何重衡一人可レ悅二寬宥之院宣一哉、抑我君者、受二故高倉院之御讓一御在位既四箇年、雖レ無二其御恙一東夷結レ黨責上、北狄成レ群亂入之間、且任二幼帝母后之御歎尤深一、且依二外戚外舅之愚志不一レ淺、固二辭北闕之花臺一遷二于西海之藪屋一、但再於レ無二舊都之還御一者、三種神器爭可レ放レ於二玉體一哉、夫臣者以レ君爲レ體、君者以レ臣爲レ體、君安則臣不レ苦、君憂則臣不レ樂、謹思二臣等之先祖一、平將軍貞盛追二討相馬小次郎將門一、而自レ鎭二東八ヶ國一、以降傳二子々孫々一、誅二戮朝敵之謀臣一、及二代々世々一、奉レ守二禁闕之朝家一、就レ中亡父太政大臣、保元平治兩度合戰之時、重二勅威一輕二愚命一、是偏奉レ爲レ君非レ爲レ身、而彼賴朝者、父左馬頭義朝謀叛之時、頻可レ誅罰二之由、雖レ被レ仰二下于故入道大相國一、慈悲之餘被レ申二宥流罪一也、玆賴朝已忘二昔之高恩一、今不レ顧二芳志一、忽以二流人之身一、濫列二凶徒之類一、愚意之至思慮之謄也、尤招二神兵天罰一速期二廢蹟沈滅一者歟、日月爲二一物一不レ暗二其明一、明王爲二一人一不レ枉二其法一、何以二一情一不レ覺二大德文一、但君不三思二召一忘亡父之數度之奉公一者、早可レ有レ御二幸于西國一歟、于レ時臣等奉二院宣一、忽出二蓬屋之新館一、再歸二花亭之舊都一、然者四國九國如レ雲集靡二異賊一、西海南海如レ霞隨誅二逆夷一、其時主上帶二三種神器一、幸二九重之鳳闕一、若不レ雪二會稽之耻一者、相二當于人王八十一代之御宇一、我朝之御寶、引レ波隨レ風赴二新羅百濟契丹一、雖レ成二異朝之財一、終無二歸洛之期一歟、以二是旨一可レ然之樣、可二不レ洩奏聞給一、宗盛頓首謹言、

元曆元年二月廿八日　　內大臣宗盛請文

(十五)賴朝奏聞條々

一朝務以下除目等事

右守二先規一、殊可レ被レ施二德政一、但諸國受領等、尤可レ有レ計御沙汰候歟、東國北國兩道之國々、追討謀叛輩之間、土民不レ安堵一、於レ于レ今者、牢人如レ元可レ令レ歸二住舊里一候、然者來秋之時、被レ仰二舍國司一、被レ行二吏務一者可レ宜候、

一平家追討之事

右畿內近國、號源氏平氏携弓箭之輩并住人等、早任義經之下知、可引率之由、可被仰下候、海路雖不幾、急可追討之旨、可被仰付義經候也、

一諸社之事

我朝者神國也、往古之神領不可有相違候、其外今度又始於諸社神明、可被新加所領候歟、就中去比鹿島大明神御上洛之由、風聞出來之後、賊徒追討神戮不空者歟、兼又諸社若有破壞顛倒之事者、隨破損之分限、可被召付受領之功候、其後可被裁許候、

一恒例神事

守式目無懈怠可勤行之由、可被尋沙汰候、

一佛寺事

諸山御領如舊例、勤行不可退轉、如近年者、僧家皆存武勇、忘佛法之間、堅閉修學之樞、併失行德之譽、尤可被禁制候、兼又於濫行不信之僧者、不可用公請、至僧家之武具者、自今以後爲賴朝之沙汰、任法奪取可與賜朝敵追討之官兵等之由、所思召候也、

以前條々言上如件

元暦元年十一月日　　從四位下賴朝

(十六)義經西國合戰之次第注進狀

去三月廿四日午刻於長門國壇浦、平氏悉討取、大將軍前內大臣以下虜、神璽內侍所無爲歸入御座、寶劒者嚴島神主景弘仰探求海底、虜人建禮門院・若宮冷泉局・大納言典侍・帥典侍・前內大臣・前平中納言時忠卿・前右衞門督淸宗卿・前內藏頭信基朝臣・前左中將時實朝臣・前兵部少輔尹明・藏人大夫親房・全眞僧都・能圓法師・自害人前中納言敎盛卿・同知盛卿・前修理大夫經盛、登山自害堀埋、前能登守敎經、戰死者前左馬頭行盛朝臣・前左少將有盛朝臣、入海中人先帝准后八條局侍、虜美濃守則淸・左衞門尉信康・阿波民部大輔成良、降人前安藝守景弘・嚴島神社民部大輔景信・雅樂助貞經・貞能男傳內左衞門尉則長・矢野右馬允家村・同舍弟高村・相摸國住人熊代三郎家直等以上、

元暦二年四月四日　　源九郎義經

（十七）義經腰越狀

源義經乍恐申上意趣者、被撰御代官其一、為勅宣御使傾朝敵、顯累代弓箭藝、雪會稽之耻辱、可被行忠賞之處、思之外依虎口讒言、被默止莫大勳功、義經無犯而蒙咎、雖有功無誤、蒙御勘氣之間、空沈紅涙、倩案事意、良藥苦口忠言逆耳先言也、因茲不被糺讒者之實否、不被入鎌倉中之間、不能述素意、徒送數日、當此時永不奉拜恩顏、骨肉同胞之義已絶、宿運極所歟、將又先世業因所感歟、悲哉、此條古亡父尊靈非再誕緣者、誰人申披愚意悲歎、何輩垂哀憐哉、事新申狀雖似述懷、義經受身體髮膚於父母、不經幾時節、古頭殿御他界之際成孤、被抱母懷中、自趣大和國宇多郡龍門郡以來、一日片時不住安堵之思、無甲斐雖存命、京都之經廻難治之間、諸國令流行、在々所々隱身、栖邊土遠國、被服仕土民百姓等、然而幸慶忽純熟、而為追討平家一族、令上洛、手合先誅戮木曾義仲、後為責傾平氏、或時者峨々巖石策駿馬、為敵不顧亡命、或時者漫々大海凌風波難、不痛沈身於海底、懸骸於鯨鯢腮、加之為枕甲冑、弓箭為業本意、併欲奉休亡魂欝憤之外無他事、剩義經被補任五位尉之條、當家之面目希代之重職、何事如之、雖然今悲深歎切也、因茲以諸事諸社之牛王寶印裡、不挿野心之旨、奉請驚日本國中六十餘州大小之神祇冥道、雖書進數通起請文、尚以無御宥免、夫我國者神國也、神不稟非禮、所賴非他、偏仰貴殿廣大之御慈悲、伺便宜令達高聞、被廻秘計、優無誤旨、預芳免者、積善餘慶及家門、傳榮花於永子孫、仍開年來愁眉、得一期安寧、不盡書紙、併令省略畢、諸事仰御賢察、恐惶謹言、

元暦二年六月日　　源　義經

進上　因幡守殿

源平往來卷下終

商賣往來

凡商賣持扱文字、員數取遣之日記、證文、注文、請取、質入、算用帳、目錄仕切之覺也、兩替之金子、大判、小判、壹步、貳朱、金者位品多、所謂南鐐上、銀子丁、豆板、灰吹等、考ニ贋與本手ニ、貫目分厘毛拂迄、以ニ天秤分銅ニ無ニ相違ニ割符可レ令ニ賣買ニ也、雜穀、粳、糯、早稻、晩稻、古米、新米、麥、大豆、小豆、大角豆、蕎麥、粟、黍、稷、胡麻、荏菜種、廻船數艘、積登問屋之藏入置、聞ニ合直段相場ニ、不レ殘於ニ賣拂ニ者、運賃水上口錢差引相究、都合勘ニ利潤之程ニ、出入之有ニ損失ニ者、可レ辨レ之、譬者味噌、酒、酢、醬油、麴、油、蠟燭、紙、墨、筆等、此外絹布之類、金襴、繻子、純子、紗綾、縮緬、綸子、羽二重、北絹、生絹、天鵞絨、羅紗、猩々緋、羅背板、毛氈、兜羅綿、端物、麁物、仕立物、古手、眞綿、摘綿、木綿、麻苧、紬、肩衣、袴、羽織、同紐、袷、單物、帷子、夜著、蒲團、蚊帳、浴衣、風呂敷、手拭、帛紗、帶、頭巾、足袋、并染色、紺、花色、淺黃、檜皮、紫、鬱金、木賊、茶、萠黃、蘇枋、茜、紅粉、所々染入、縫散、立浪、雛之菊、雪折笹、御所車、澤瀉、水車、地扇、菱、輪違、九曜、四目結、巴、菊、桐、柏、藤、蔦、唐草、女童之好摸樣、恰好可ニ心得ニ武士之用具、其品雖レ多、有增之分、弓、矢、鐵炮、鎗、薙刀、鉾、鎧、兜、鞍、鐙、泥障、切付、轡、手綱、腹帶、鞦、鞍、鞭、差繩、扨又刀、脇差之拵、目貫、鮫緣、柄頭、鐺、鞘、鍔、切羽、鵐目、鎺隨ニ其好ニ赤銅、眞鍮、滅金、素銅、鐵、象眼、居紋、彫物、細工者、猶可レ應ニ國所時之風俗ニ也、唐物和物之家財、珊瑚、瑠璃、硨磲、馬瑙、琥珀、瑇瑁、水晶、靑貝、卓、靑磁、香爐、堆朱、香合、香盆、蒔繪、梨子地、硯箱、文庫、文臺、筆架、硯屛、文鎭、磁石、南京石目鏡、印籠、巾著、次雜具、葛籠、狹箱、櫃、長持、戸棚、屛風、簞笥、衝立、襖、戸障子、簾、縵幕、椀、折敷、湯桶、切立、辨當、食籠、重箱、提重、行器、皿、鉢、盃、燗鍋、陶錫、庖丁、生鱠箸、燭臺、行燈、挑燈、短檠、藥鑵、茶碗、茶柄杓、鑵子、盥、楾、搔器、飯銅、碓、礶、箕、編笠、傘、木履、高直、下直、時所見合可レ爲ニ賣買ニ也、藥種香具之事、檳榔子、大黃、細辛、阿仙藥、石斛、阿膠、貝母、獨活、甘草、肉桂、黃蓍、川芎、當歸、藿香、黃蓮、三稜、白芷、茴香、陳皮、羌活、桂枝、半夏、莪述、枳殼、巴豆、桃仁、蓮肉、杏仁、伽羅、龍腦、麝香、樟腦、沈香、白檀、丁子、人參、硫

黃、焰硝、綠青、明礬、辰砂、練藥、粉藥、散藥、膏藥、全以ニ贋藥稱一不レ用、量入無レ之樣正直第一也、其外山海之魚鳥、鶴、雉子、雁、鴨、雲雀、白鳥、鶉、鷺、鶫、鳩、鷗、鯛、鯉、鮒、王餘魚、鱸、鱠殘魚、鱧、鯵、魴、鮑、鱒、鯖、烏賊、辛螺、榮螺、蛸、海月、海老、牡蠣、蛤、馬刀、蜆、鮎、鰈鱝、鮭鹽引、干鱈、鹽鰤、煎海鼠、鯨百尋、鯣、松魚節、鰯、鯷等也、諸國之名物依レ無ニ際限一令レ略レ之訖、右品品前後雖レ爲ニ混亂一唯初學之童平生可ニ取扱一文字迄、任ニ思出一粗馳レ筆也、抑生ニ商賣之家輩一從ニ幼稚之時一先手跡算術執行可レ爲ニ肝要一也、然而歌、連歌、俳諧、立花、蹴鞠、茶湯、謠、舞、皷、太鼓、笛、琵琶、琴抔、稽古之儀者、家業有ニ餘力一者、折々心掛可ニ相嗜一或碁、將棊、双六、小唄、三弦、長ニ酒宴遊興一或不レ應ニ分限一餝ニ衣服家宅一泉水、築山、樹木、草花之樂而已、費ニ金錢一事、無益之至、衰微破滅之基歟、惣而見世棚奇麗而、挨拶應荅變應可レ爲ニ柔和一大貪ニ高利一掠ニ人之目一蒙ニ天罰一重而問來人可レ稀、恐ニ天道之働一輩者、終富貴繁昌、子孫榮花之瑞相也、倍々利潤無レ疑、仍如レ件、

商賣往來終

名産諸色往來

目　録

惣而諸色諸職人一切悉不レ殘一冊書印者也

右一册者、職人商賣人品々集而名二往來一、松葉軒龍水遊二雨中一暫思戲二禿筆一書捨畢、而柏屋與市拾レ之、雅兒童愚爲二助學一令二開板一者也

陽春之慶賀如二恒例一、上下賑鋪規式珍重々々、猶以不レ可レ有二際限一候、抑國家安全、理民長久之瑞相、自國他國繁昌此時候、日本六十餘州者不レ及レ申、至二于支那四百餘州・奇麗・高麗・新羅・百濟・契丹・琉球・阿蘭陀・南蠻・北狄・東夷・西戎一迄、今此御代之奉レ感二慕御政道一、每歲商賣船長崎江令二着岸一、依レ之異國之美物、奇物、金襴、羅綾、新古器財、凡天竺、漢土之重寶迄、悉吾朝江運送、不二而已一、禪律悟道、隱元禪師茂渡朝而垂レ跡留レ名、其外儒典醫術之明辨碩德茂、惟慕二來日本一、四大日々盛事難二言語盡一、就レ中大樹公依レ爲二御在城一、所レ集者武府也、尤江戸爲レ體、南北從二品川一千壽迄、人家軒連而續二四里餘一、西者亦往昔爲二廣廣一、雖レ爲二武藏野一、殘二名之耳一、無二寸地一、板橋、高井土、府中邊迄、五里六里間者、不レ殘大名小名之搆二下屋敷一、或者諸物頭等組屋鋪也、東者爲二漫々一埋二海中一隣二下總一、船之往返自由成事、亦難二勝計一、市谷、牛込、小日向迄茂内川堀續、或麻布、長坂、雜色之方迄、潰二

田畑一堀ニ新川一、其間々者橋也、而人馬之通路自在也、小路々々之辻番者、往還之咎ニ狼藉者一、嚴密勤ニ其役場一、因レ玆闇夜之無ニ氣遣一、幼兒獨女茂無ニ何障一、頻町小路、竪横新道、裏棚至迄、可ニ錐立一無ニ空地一、先商民者、金座、銀座、兩替中間、本町室町之呉服屋中間、金襴、緞子、繻子、繻珍、綸子、縮緬、紗綾、羽ニ重、東京北絹、南京織、汎織、盌巾嶋、生八丈、朦朧織、茶苧、天鵞絨、羅紗、羅脊板、羅亦、羅齊、毛兜羅綿、其外女中衣服者、鹿子、染分、惣之縫、際箔、地紅粉、濃淺黄、鬱金、黑赫粉、御所鹿子、夜着、布團、隨レ好盡レ美、加賀絹、越前之薄絹、丹後、丹波、日野、郡內、福島、仙臺、國々絹紬、奈良晒、近江縣、越後布、同緲、明石縮、高宮嶋、同蚊帳、唐布、芭蕉布、流球布、地布、木綿、繰綿、眞綿、肱綿、岩付嶋、伊勢、大坂、河內、日向、常陸、上野、國々之木綿問屋、長崎、堺、京、大坂之藥種問屋、脩治制法之擣藥、人參、川芎、香白芷、莪朮、三陵、麥門冬、陳皮、香附子、黃芩、黃連、黃芪、黃蘗、麻黃、桂心、柴胡、細辛、白朮、荊芥、羌活、獨活、青皮、葛根、桔梗、山梔子、防風、乾姜、前胡、麥芽、薏苡仁、桃仁、大黃、苦參、狼毒、木通、升麻、枳實、檳榔子、枳殼、葱苓、五倍子、續隨

子、乳香、藿香、木香、石香、茴香、良香、知母、益知、紅花、厚朴、牡丹、芍藥、熟地黃、麝香、沈香、龍腦、龍膽、巴豆、肉桂、白檀、丁子、甘松、貝母、杏仁、大黃等、都而千貳百餘種、或亦家々秘方、紫雪、紫金錠、烏犀圓、蘇香圓、萬金丹、金粒丸、太補湯、地黃丸、麻積圓、脾積圓、反魂丹、延齡丹、鳳髓丹、赤龍丹、丁子圓、田代解毒丸、久志本神仙丸、耆婆不老丸、赤坂堀端山城屋之金命丸、小關橋本之五痔保童丸、疱瘡除藥大曲丸、天下無双之疝氣寸白之療治、月水流、藤丸見林腫物切疵之膏藥、甲斐國之狸膏、稻荷夢想之油膏、烏丸柳膏、阿蘭陀太一膏、天下一伽羅油黑髮美淸香、天下三人齒醫師、辻々荷賣妙藥圖、法師胴人形五臟之論、野田玄勝錦袋圓、長崎三官肉桂湯、求肥飴、本大坂糸切櫻餳、其辨舌利口振賣、越中國自現法印箭除之守、近江備後流球之疊表、伊勢熊野之簾、高野色川阿部、遠州江戸崎、下間、關宿之煎茶、加賀奉書、越前奉書、美濃紙、小菊、備中糊入、岩城紙、那須半紙、甲州信濃杉原同鼻紙、秩父紙、淺草漉返、湊紙、檀紙、播磨椙原、渡唐紙等之問屋、吉野、會津、越後漆屋中間、奈良、鴻池、伊丹、富田、池田、小濱、淸水幷江川菊酒、練酒、葱

茅酒、淺茅酒、霰酒、霙酒、美醂酒、白酒等之國々名酒、富田守口漬之香物、大坂、堺、酢、醬油、溜、大廻之油、魚燈、淸燈、且亦木實油、榧、椿、胡桃、胡麻等之油也、米者美濃、尾張、桑名之御前米、其外備前、備中、播磨、美作、出雲、伯耆、因幡、伊勢、河內、攝津、遠州、駿河、伊豆、相摸、常陸、上野、下野、安房、上總、下總、或仙臺、岩城、棚倉、二本松、白川、米澤、福島、會津、松前、惣而六十餘州之米、幷大豆、小豆、大麥、小麥、秬、稗、粟、胡麻、芥子、辛實、蕎麥等之類、俵物、於伊勢町、堀留、堀江町、立相場為賣之、薪者樫、小檜為上木、其外者雜木也、伊勢、伊豆、亦熊野、沼田、諸國之廻船、於深川鐵炮洲沖商賣、材木、阿波、土佐、紀伊、尾張、飛彈、信濃、上野、日光也、松、栂、樅、椹、檜、杉、槻、樫、桑、桐、保太、榑、楢、栗、椎之雜丸太、杭木、月役三寸角、葭簀、樋竹、小辛竹、內竹、苦竹、木舞竹等也、各材木町、三十間堀、西川岸、深川為賣買、次椀盤、折鋪、坪皿、平皿、引盃、蓋盞、大盃、小盃、七鉢、食籠、行器、茶菓子盃、湯次、食次、重箱、藥罐、藥鍋、煎鳥鍋、銕輪、鑵、火燈、燭臺、火鉢、佛具、華皿、鈴、獨鈷、磬、華鬘、半鐘、天蓋、金燈籠、經箱、經机、文挾、文筥、

塗長持、都而女中手道具、葛籠、挾箱、硯箱、莨菪盆、其外所帶之具、無不足、是新町沼棚寺町物、云々、伊豆、相摸、安房、上總、下總、常陸、伊豆、駿河、江島、鎌倉之生肴、押送、小早艀、或陸着也、毎日朝晚日本橋之河岸者、不輙往還、鯛、鱸、平目、鰍、鰆、鰤、鯔、鮬、魳、鱵、石首魚、鱧、鰣、鮑、鰧魚、鰶、鱏、鱰、鮪、鰹、鯒、鮫、鮍、鰺、鱚殘魚、鯖、鰯、鰊、王餘魚、文鰩魚、鯷、品川鰒、蝟皮、江豚、鱒、鮭、鮟鱇、白魚、白鱚、馬蛤、榮螺、辛螺、蠣、石決明、鮹、生海鼠、海老、海松喰、烏賊、赤貝、芝蝦、蜊、鯏、蛤、鮩、蜆、鯉、鮒、鰻、鮎、鰌、鹽煮、煎物、雜喉等也、其外諸魚難筆記盡、是小船町之問屋、芝之問屋著、江戶中棚賣振賣之本也、鹽物者不及記、併國々名物者、越後鹽引、丹後鰤、仙臺子籠、同鯽、南部鮭、夷之乾鮭、松前昆布、松浦鰯、備前海月、熊野鰹節、四國之學鰹、北國之干鱈、同干蛸、薩摩之煎海老、五嶋鰑、串海鼠、串鮑、干鯛、干魳、干鰯、鱓鰶、疊鰯、目刺、串蜊、鯡、岩城浮亀、鰊鯑、參河奇居虫、堺之鯷漬、松百蛇鮨、備前海鼠腸、近江鮒鮨、阜澤蟹味噌、岐阜鮎鮨、房州鯖之背腸、小田原鰹扣、新井之煮取糟漬鮑、伊勢熨斗、伊豆榮螺

熨斗、和歌布、緖良布、靑海苔、甘海苔、葛西苔、品川苔、搗和歌布、堅海苔、鷄冠、草薢店、禾海苔、海蘿、此外萬萬雖レ有レ品、有増也、豫大船町之問屋著、瀨戸物町之鳥座中間、雁、鴨、鶴、白鳥、蒼鷺、五位鷺、大鷺、鴻、雉子、山鳥、山鴨、姥鴨、眉黑鴨、鶉、水鷄、水札、鶲、梅首鷄、川烏、鳩、鵯、百舌鳥、鶍、尾長鳥、此外野殺小鳥、生鳥之商賣、且亦麴町之獸者、猪、獅子、鹿、狐、狼、熊、狸、獺、鼬、猫、山犬、鳶、烏、鵜、其外小鳥、搗鳥、不レ違レ計、四屋内町之飼養鳥者、島野鷄、島鶫、白鷳鸞、四十雀、日鵲、小鵲、鵯、鶯、燕、郭公、鳩、鶸、鶺、名吉鷦鷯、啄木鳥、山柄、鵐、鷚、鷽、䳒、連雀、鶍、頰白、豆甘鳥、鶉、雲雀、越前兎、白鼠、家鴨、此外品々野菜、精進物、菓、菌之類、午房、大根、人參、蕪、冬菜、獨活、天花菜、苣、蕨、韮、蒜、葱、分葱、淺葱、山當草、芹、菘菜、薺、箒蓼、藜、莖立、水蕗、莧、山葵、天蓼、生姜、英蓉葉、蘘荷、笋子、芋、野老、根蓮、澤瀉、薯蕷、枸杞、五加、茄子、大角豆、胡瓜、越瓜、眞桑瓜、府中鳴子、新田島、美濃河越等之熟瓜、梅、桃、杏子、梨子、葡萄、木練、御所柿、木淡、枇杷、楊梅、椎、栗、棗、林檎、雲州橘、橘柑、柚子、柑子、蜜柑、

榛、九年母、覆盆子、梔、團栗、銀杏、芋實、山茨菰、常山、防風、茅、紫蘇葉、蒟蒻玉、裡白、楪、藪柑子、代々、草薢、栢、搗栗、鯑子、零餘子、薊、芋莖、干菜、懸菜、干瓢、干蕨、松茸、初茸、箒茸、獅子茸、卜治、火烟茸、苦茸、椎茸、榎茸、雄大豆、小豆、豌豆、八重實胡麻、辛實、芥子、山椒、胡桃、唐辛子、大麥、麰、蕎麥、糯米、粟、稗、唐黍、串柿、枝柿、釣熟柿、其外品々、小刀、剃刀、鑷子、鋏、包丁、剉箸、出及、薄及、髮鑷、瓜打、菜刀等者、京、大坂、堺、名古屋、岐阜、鳴海、宮、桑名より打下、馬草、糠、藁、苅、大豆等之入口也、將亦貢簪者、甲州小松、萩原、高崎、舘、水戸赤土、信濃玄古、同井上、前ケ崎、丹波秋山、備前石火箭、阿波鹽竈、吉野花香、宇都宮眞刻、仙臺之上粉、幾世流者、肥後張、崎之蠟燭流、京大佛之誂張、江州四十九院之毛堀、東叡山黑門前之地張、張分之丹前、炭者池田香瀧白炭、上總新山、熊野天神山、八王寺中次俵炭也、植木坪草者、四谷、澁谷、百人町、椿、躑躅、梅、櫻、柳、南天、庭櫻、樅、搗木、鷄冠木、桃、栗、杏子、若楓、松、杉、檜、柘榴、銀杏、山櫧、木瓜、長春、牡丹、芍藥、鳳仙花、雁緋、瞿子、女郎花、菊、海棠、杜若、百合草、桔梗、石菖、水仙

花、酴醿、鷄頭花、澤瀉、菖蒲、沈丁花、萩、桂花、萱草、薄花、紅葉、此外不レ及ニ筆記一略レ之、職人鍛冶屋、屋根葺、大工始、先大工之道具、釿、斤、斧、大鋸、壺、曲尺、鉋、錐、鋸、鑿、鐵鎚、裁槌、鎖子、鑿、斗曳等、自餘者任ニ思出一壁塗、木舞、搔、差物屋、櫃、文庫、硯箱、卓、机、上家、外家、簟笥、桶屋、大桶、小桶、樽、半切、棙、手盥、洗足手洗、傘、挑燈張、龍田合羽、懐中桐油、或簑作編笠、菅笠、薦編莚織、花席也、革屋具、革布團、切付韀、靳、馬氈、鞍覆、馬被、泥障、皺皮、縢、蹈皮、行纏、脚半、革羽織、同頭巾、立付、股引、袴上下、幔幕、巾着、鼻紙袋等也、籠屋之具者、鳥籠、網代、葛籠、皮籠、簁、笊籬、味噌漉、水漉嚢、此外品々、檜物屋、紺搔、張付師、疊刺、翠簾屋、簾編櫛引、蓋引、印判屋、板木、彫額、彫入、齒目、金玉細工、組屋、扇子、拆經師、表具屋、唐紙師、筆結墨屋、硯堀、万町棒熊手、鳶口、鋤、鍬之柄、下槌、絹張杵、砧、木履、足駄、數寄屋屐、猿屋楊枝、懸物、張物、絹練、數珠引、幡縫、縫箔師、袈裟、衣仕立、繪師、佛師、蒔繪師、花作、乘物屋、木地引、鈴曳、彫物師、目貫、笄、小柄、人形作、雛作、張子、香合、犬、猫、鶏、白鼠、布袋、唐子、其外異形異物類、小間物屋、

櫛、針、笄、糸卷、糸入、疊紙、香爐、香著、香匙、火著、茶酌、茶柄酌、茶筅、茶匙、繪双紙、源氏并家々集、武具者、鎧、腹卷、胴丸、小具足、卯花縅、小櫻縅、唐綾綴、萠黄糸、黑革縅、延甲者、小田原六十二間、星兜、[illegible]頭生鯰尾、鎖帷子、著籠、鑓、寸鎗、大身、十文字、笹葉、或袋鎗、鑰、鎗并長刀、弓者、重籐、塗籠、鷲羽鶴元、白鴻、鵠、鷹羽雁股、蟇目、誕生鏑、越前之櫻根、丹波口人、北野鑑筒、的箭衡鏑、尻籠半弓、作打鞍者、金覆輪、塵梨、金貝、置上紋、日野朴之責、鞍加賀掛之象眼、鐙、京、大坂之名物、明珍一口之轡、箙、空穂、胡簶、弓、鞢、馬訣掛、或刀腋差之鞘師、塗師、白金師、切羽、鎺、鵐目、緣、柄頭、小尻、裏鋲、七子琢、繪顈、正阿彌、埋忠、象眼、鍔飾、金物屋、藥鑵屋、銅、瓦、土瓦、土器作、同瓦燈、風爐、草履、草鞋、箏笠、虫籠、鳥籠、篩作、淘子細工、菓子者、餅、饅頭、樂羹、藤實、綠膓羹、羊羹、水蟾、搔餅、蕨餅、素麵、碁子麪、鯨餅、鶉燒、砂糖大豆、同椎煎餅、麩燒、仙臺糒、道明寺、木曾之氷餅、此外不レ遑ニ書記一、溫飩、蕎麥斬、佐々餅、或豆腐、蒟蒻、麩、草薢店、馬方、船頭、牛車、地車引、背負、駕搔、安行、日用、米擣搆ニ搗杵一、橋々出、尤道路望、巾著切之晒也、堺町、木挽町、上瑠璃、說

經、狂言盡、神祇、釋教、戀、無常、專時花、轆轤首、播磨守、時計操之十界之圖、連飛、籠拔、大女長崎水右衞門、獸盡、見物之貴賤列レ袖、芝屋木戸口群集、于レ時例之曲者、小刀下緒、鼻紙袋、巾著心懸、見物人之腰廻、有歟無歟之目利而、跡哉先哉與配レ氣、言語同斷成有レ職、相續而辨舌利口之運在組、煮賣古金買、三谷吉原之傾城、本在横堀之賣駄、目黑玉輪大佛、天神、白山、淺草之茶屋、如レ斯依二繁昌一、毎日從二未明一及二深更一迄、晝夜之無二差別一往還也、恐者邊土遠國之爲レ十二倍市町一、尤二藏三藏、大工童、鍛冶屋丁稚迄、剽二風情一、袋踏皮、寸百切之關駄也、誠富貴萬福前代未聞候、是偏御德政之御本意歟、殊更佛神之御崇敬、神社佛閣之御建立、奉レ始二日光一、上野、東叡山、增上寺、其外新古之無二御吟味一、至二于遠國端島一迄、依二其由來一御造營、或寺領社領被レ遊二寄附一之條、積善之家有二餘慶一、依二神者人敬一增レ威、依二人者神德一添レ運申事、尤以金言也、萬代不易之御仕置、天下泰平、目出度々々々、恐惶謹言、

名產諸色往來終

諸職往來

夫士農工商者、國家之至寶、日用萬物調達之本源也、就レ中武門者首レ於二庶民一、能守二仁義禮智信之五常一、以二文武一治レ國、以二忠孝一齊レ家、以二系圖一彰二先祖一、以二感狀一傳二功名一、是武家之所三以尙貴一也、勤役座列之次第、家老、用人、城代、目付、奉行、物頭、旗本、近習、扈從、代官、與力、同心、祐筆、步徒、足輕、若黨、中間等迄、應二職分高下一、知行扶持方切米等、可レ被レ宛二行之一、生二其家一而可レ學事、第一弓馬、劍術、兵法、軍學、書筆、算勘、無二怠慢一相勵、則以二其功一、加增立身、父祖裔孫之面目、何事乎過レ之哉、次農夫者、春耕、種蒔、苗代、鳥追、田植、草取、秋者、苅田、稻扱、籾磨、掛二藁壘一、俵拵盡二情力一而年貢、收納、未進無レ之樣、可二心懸一事專要也、旱魃水損於レ有レ之、以二庄屋年寄組中一、訴二代官所一、願二撿見一、田畑何町、某反、幾畝、何步、慶竿改二民圖帳一、吟味之上可レ請二免許一、雖レ在二滿作豐年之所一、或風雨不順之障、聊以二私欲一掠レ上事、可レ恐二天道一、農具者、鋤、鍬、犂、鎌、連枷、水擔桶、龍骨車等、肥者、應二其土地作物之品一宜レ計レ之、寔農業者、生民之大本也、扨又工匠之輩、先巧工、釿初、以二南蠻曲一、水盛以レ準爲二䂓矩一、柱立棟上撰二吉日良辰一、御殿、神社、堂塔、伽藍、見世店、座敷圍之物數寄、萱葺、藁葺、土藏、穴藏、任二其所レ望而造營修覆等、可レ加二勘辨一、持扱道具、釿、鉋、鑿、揆揆、錐、小刀、鋸、挽廻、鐵鋌、鐁、曲尺、墨斗、総、釘貫等也、葢屋匠者、檜皮、扮板、竹釘、臺切、片庖丁、谷之取合、軒口、恰好揃レ之、壁朽者、以二鏝、壁壘板、定木一、全用二意之一、手輕可レ盡二上手一、其外諸職隨二其地一、考二方角利潤一、以レ類集所、鍛冶者、搆レ鞴以二鐵床、合挺、鉸刀一打レ之、太刀屋、柄卷、研屋、鎗工、鞘匠、塗師、漆刷毛、筆結、硯屋、紺搔、袈裟、衣、繡、仕立物、小袖、帷子、袴、股引、脚半、鍼目、絲筋、隨分可レ顯二手際一皷、革羽織、冑頭巾、踏皮屋、蹴鞠之具、垂干、沓、葛袴等、手寄好人而賈レ之、烏帽子折、扇屋、末廣、中啓、舞扇之地紙、骨、要之工合第一也、經師、表具師、屛風、襖匠、翠簾屋、畫簾、繪筵、花毛氈、疊刺、珠數挽、牽讃之細工、七寶、四天飾、水晶之陀妻、珊瑚珠之百八檟特、金剛樹、誕生木、菩提樹、依二宗門一、繫差別可レ在レ之、佛師者、運慶、湛慶之學レ於二古作一、而須彌座、唐座、岩座、

五重座、船御光、輪御光、細金、彩色、箔佛、泥像、厨子、隨ニ注文一彫ニ刻之一、板木屋、額彫、宮大工者、鎭守之禿倉、神輿、御前屋、金佛壇、彫物、總應レ價而結搆無ニ其限一、造華者、寔四季目前之詠、行人駐レ足、次碁局屋、局子、碁奩、象戯坪、駒等也、琴師、三絃、胡弓、以ニ金銀鍍金一飾レ之、組糸者、胸紐、練糸、縫糸、以ニ篗撥樹一、五色巻分、天蠶糸者、漁者之所レ用、捲綱、打綱、簎以ニ捻苧一合レ絲、透ニ立之一、櫛挽、挿梳、梹子、笄、櫛拂、鏡磨、當世風流管笠、綿帽子、引綿、繕塗桶、績桶、是女童之手業也、傘張、轆轤挽、木履屋、草履、下駄、籠筲、箕作、弓箭師、楊弓、雀小弓、矢筒、矢箱者、指物細工、檜物師者、島臺、柄杓、匙筒、三方、榧之類、檜或杉、桐、細工物、好奇麗專一也、鑄物師、錫道具、鍋、釜、鑵子、飯銅、藥研、硫黄突、燈心引、油絞、秤屋者、於ニ東國一守隨、於ニ西國一神善四郎、此兩家之外堅御制禁也、釐等、杜秤、衡、錘、天秤、針口、分銅、後藤今極、是皆權ニ糺物之輕重一之具、廉直可ニ製作一所也、凡諸職之人、受領之官名申賜、顯ニ名譽一事、其身之手柄、旦暮無ニ油斷一可ニ勵勤一者也、扨商人者、以ニ帳算盤一爲ニ左右之臣一、每日考ニ相場一、賣買駈引、可レ廻ニ氣轉一、諸國客方不レ致ニ疎略一、諸物直段之高下、以ニ書通一達レ之、直賣俵物、駄賣搗米、現銀無ニ懸直一之呉服、製藥名方之大看板、紙店、書舗者、神書、儒書、佛書、軍談、眞名、假名之諸書、僧俗、童蒙、應ニ好所一而商レ之、小間物擔賣等迄、誠ニ邪欲一無ニ欺犯一偏本ニ正路一而自他相對、和順之賣買、則永災難不レ來、繁榮傳ニ子孫一事、天道照ニ正直之誠一陰德陽報顯然無レ疑者也、仍而如レ件、

諸職往來 終

消息往來

高井蘭山述

凡消息者通ニ音信ヿ近所遠國不レ限ニ何事ヿ達ニ萬用ニ之元也、先書狀手紙取扱文字、

一筆啓上仕、致ニ啓達ニ令レ啓以ニ手紙ニ申入、尊書尊翰貴書貴札御狀芳墨芳簡、御紙面御剪紙、拜見拜誦披見披閱各一覽、時候者任ニ四季ニ、春者餘寒 春寒 餘寒 未レ退、追レ日春暖、暖氣長閑麗暮能、夏者薄暑より向暑土用入而、甚暑嚴暑極暑難レ凌、入梅中不勝之天氣欝陶敷、秋者殘暑秋暑秋冷相催、冷氣相募、冬者寒冷向寒甚寒嚴寒候得共、上々樣御前樣益御機嫌能、被レ成ニ御座ニ被レ爲レ在、彌御勇健、御安泰、安全安寧壯健堅勝堅固、無事息災、無ニ別條ヿ無ニ御障ニ無ニ御替ヿ尊前貴公御手前樣、貴樣御自分其元貴殿也、扨又公家武家大小名御旗本、自國他國在番在勤御勤仕、御務御暮御凌御厭御揃、恐悅目出度珍重大慶大悅、恐賀祝著滿足過量欣然也、一段重疊仕合御禮、祗候御目見、無レ滯無レ恙都合能首尾好、結構御意仰被ニ仰付ニ被レ蒙、御深志御懇意御厚情、冥加至極、難レ有恐入忝仕合辱次第、今般今度此度者、先年去年先月去月先頃先達而、日外昨夜今朝今晚、疇昔昨今此間其後其以後其以來爾來、明日明後日翌朝每事前廉前廣也、行幸御成還幸還御出御、光臨入御入來御出來駕枉駕御尋御訪、殊更別而將又且又、然者隨而乍レ憚乍レ去併右之趣此段也、得ニ貴意ニ度可レ得ニ御意ヿ如レ仰如ニ貴命ニ如ニ來意ヿ當地爰元其表、江戶京大坂奈良堺伏見、長崎甲府駿府山田日光浦賀蝦夷、靜謐太平無異無難罷在、貴意易ニ御心安ニ思召、御安堵可レ被レ下候、久々打絕良暫、互取紛何角兎角取亂、無レ據難レ去不レ得ニ已事ニ繁多に而、彼是混雜御樣體御安否窺、不レ承約束約諾延引後悔、失禮御免御用捨御宥恕所レ仰也、自然勿論聊決而曾而、毛頭麁略麁忽麁末不埒不束、念比入魂心底睦敷、如在外聞無レ僞、或敢强旣況剩急忽、早速俄即席即刻差急、相談對談挨拶會釋、柔和奔走振舞招請請待御招、月待日待寄合參會、御馳走緩々遊山樂、歸宅歸宿在宅私宅拙宅、留守逗留泊退屈、窮屈疲勞御草臥也、尊宅貴宅御別莊、御家作普請造作修復造營建立上棟、移徙賑敷賙

敷、繁昌繁榮幾久鋪、家督相續隱居、遺跡婚姻聟入、懐胎姙娠著帶誕生、御降誕御出生安產平產、幼少成長成人、若冠若年老年老後、器用發明才智利口、家業家職稼骨折勵、無ニ懈怠一無ニ油斷一儉約勘略、始末勘定算用費、失墜徒事穿鑿僉議吟味、裁許公事訴訟一件、損德奢商現金掛直賣買、拂底不景氣不都合、貸借取遣日記證文注文入札、送狀手形質物兩替仕入金銀、再應再三每度折節、度々催促律義正直遲速、締縊取締、年貢皆濟、田畑金納、大判小判、壹分判貳朱壹朱永文鐚錢也、旅宿發足發行發駕、支度用意之荷物、運送持運船運漕、遠路遙々日雇人足人夫、傳馬宿繼駄賃輕尻鐙付、酒代往還往來途中、不圖不レ計不ニ存寄一、適邂逅差障無ニ貪着一無ニ差別一、喧嘩口論物言事等、平生急度嚴敷可ニ愼嗜一、分別了簡堪忍格別格外不ニ思寄一、天氣能故步行我儘、一國勝手白晝夕陽黄昏薄暮、入相宵深更夜更夜陰曉迄、放埓我授無用也、學問武藝素讀物讀手習、諸禮行儀作法稽古修行、無ニ失念一支離病身世話厄介、家內親類・家一門、親族緣者從類由緒眷屬家來、召仕僕婢朋友傍輩、主君臣下師範師匠、遠々鋪御物遠踈遠、御無沙汰御無音、背ニ本意一氣毒笑止迷惑、御尤

預レ示御見舞飛脚到著、飛札到來御使札御使者、名代口上口演辭儀口儀、尊顏貴顏拜顏、貴面面謁面上態々內々兼々也、請取落手落掌、受納拜受此砌其節御太儀、苦勞難澁難儀難題艱難、立腹所勞違例氣色、病氣煩御痛所腫物、日增御驗氣御快方御全快、養生專一御藥相應本腹加持祈禱、以レ參罷越參上伺公推參、懇望所望拙者私、妻倅實子惣領次男娘兄弟姉妹、男女之息二親双親伯叔父母、甥姪從弟孫曾孫玄孫、胤替別腹舅姑聟養子、娵入夫後妻孀婦後家後室、推察推量察入驚入、嘸々御噂近々頓而其內是耳夫而已、就レ夫不調法就中慮外憚緩怠也、人品人柄如法奇特、委細具承知慇懃丁寧入ニ御念一、及レ承及レ聞聞屆聞濟、却而近頃痛入手透無レ之無ニ寸暇一、甚取込閙敷無ニ心置一無ニ遠慮一、御物語御噺他行外出殘念無念、同伴同道御誘引御供也、新春年始改年改曆、御慶吉慶吉兆申納申籠、不レ可レ有ニ盡期際限休期御座一御佳例御嘉儀祝詞嘉詞、上巳端午嘉祥七夕八朔重陽、玄猪歲暮年尾節會規式、七種之羹雛幟星合魂棚精靈會、靈膳供物初穗燒香看經囘向執行、月見後名月菊合淨家十夜、日蓮宗會式、一向宗御取越、御講參臨時不時之珍客饗應、魚鳥野菜之料

理獻立、鹽梅風雅之賓人、亭主取持之藝人、給仕配膳世話役、賄下働手傳、種々物數寄、好物厚味珍羞美味、賞翫拜味、酒宴酩酊沈醉失敬尾籠、前後忘却面目流石愧敷、萬事萬端穩便隱密、內證賴願希合點、得心領掌許容違背違犯、何卒何分偏一入幾重にも、呉々是非々々遮而、序之刻、披露御執成思召寄不レ淺、被レ掛ニ貴意芳慮芳意一懸ニ御目一、御惠投被ニ贈下一送給、獻上進上進覽申受、馴々敷如何敷、輕少輕微些少寸志、印計御餞別御贐、入部行列、貴賤群集、祭禮法事、鷹野鹿狩、御慰不ニ相替一、不ニ取敢一奧方內室內儀、妾、娣、調市奉公、出精緣組結納、能囃子管絃、登城御加增御役替、御褒美立身出世、家屋鋪讓渡、沽劵狀、系圖家柄爲ニ御祝儀一爲ニ御歡一、御太刀一腰御馬一匹、頂戴拜領、樽肴二種一荷、後音之時後喜後信也、後慶永日永陽來陽奉レ期、申述申演申上、恐惶謹言頓首敬白、不備不宣不具以上、脇付參人々御中、人々御中御宿所、尊酬貴答御報御返事返報返答返書、其品々多故、先大槪有增書記畢、

消息往來 終

續々群書類從第十終

黑川眞道
小瀧淳
中山速男
校

明治四十年二月二十日印刷
明治四十年二月廿五日發行

非賣品

東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地
國書刊行會代表者
編輯兼發行者　市島謙吉

東京市京橋區新榮町五丁目三番地
印刷者　本間季男

東京市京橋區新榮町五丁目三番地
印刷所　內外印刷株式會社分工場